堺市史

第六巻　資料編　深良用水

題字　裾野市長　市川　武



1　深良水門



2　箱根神社



3　箱根湖水組合寄進常夜燈（寛政３年）



4　寄進世話人（部分）



5　惣ヶ原水神社



6　箱根湖水掘抜元締水仁碑（正徳元年）



7　水神元締名



8　大庭源之丞墓碑
（元禄16年）

歓白三願状之事

箱根大権現御本地供

東照大権現御本地供

一 文殊秘法　毎日可修行者也

一 弥勒秘法　毎日可修行者也

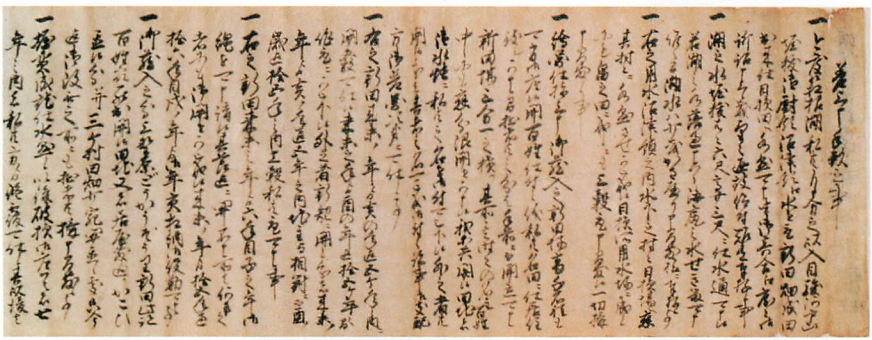
一 観音秘法　毎日可勤之者也

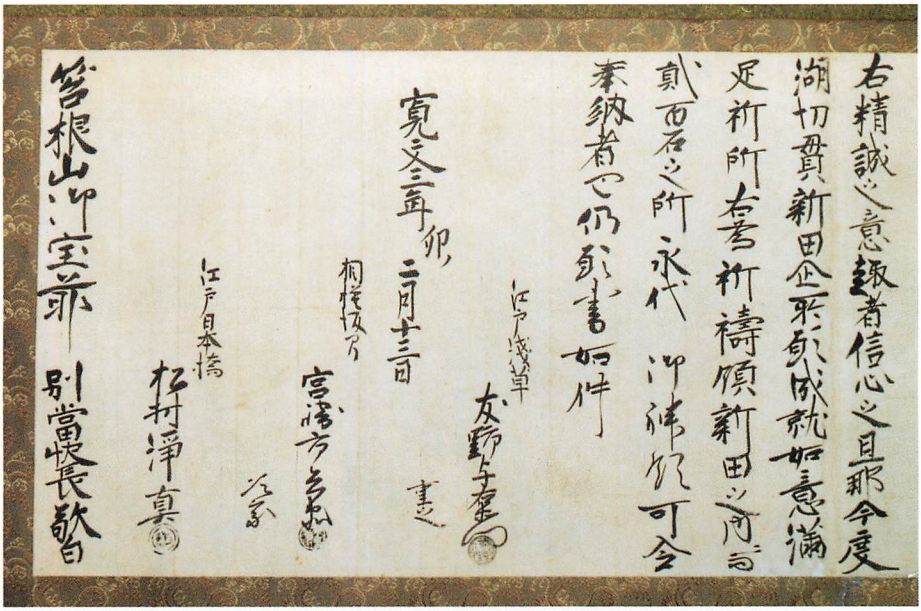
一 薬師秘法　毎日可修之者也

一 五所王子　毎日心経可読誦也

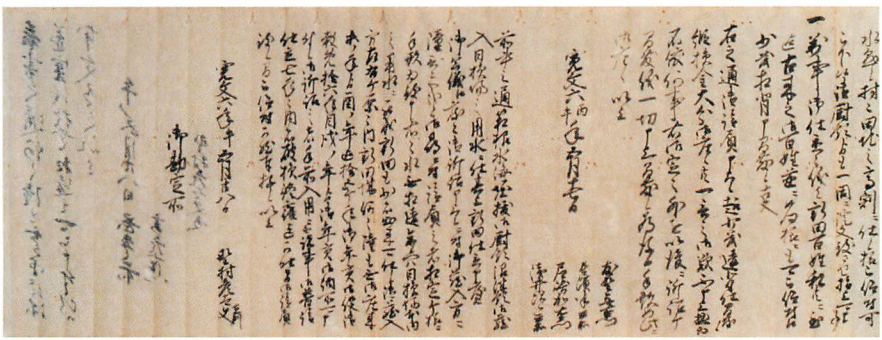
一 不動護摩　毎月可修行者也

一 諸神法楽　毎日可勤者也





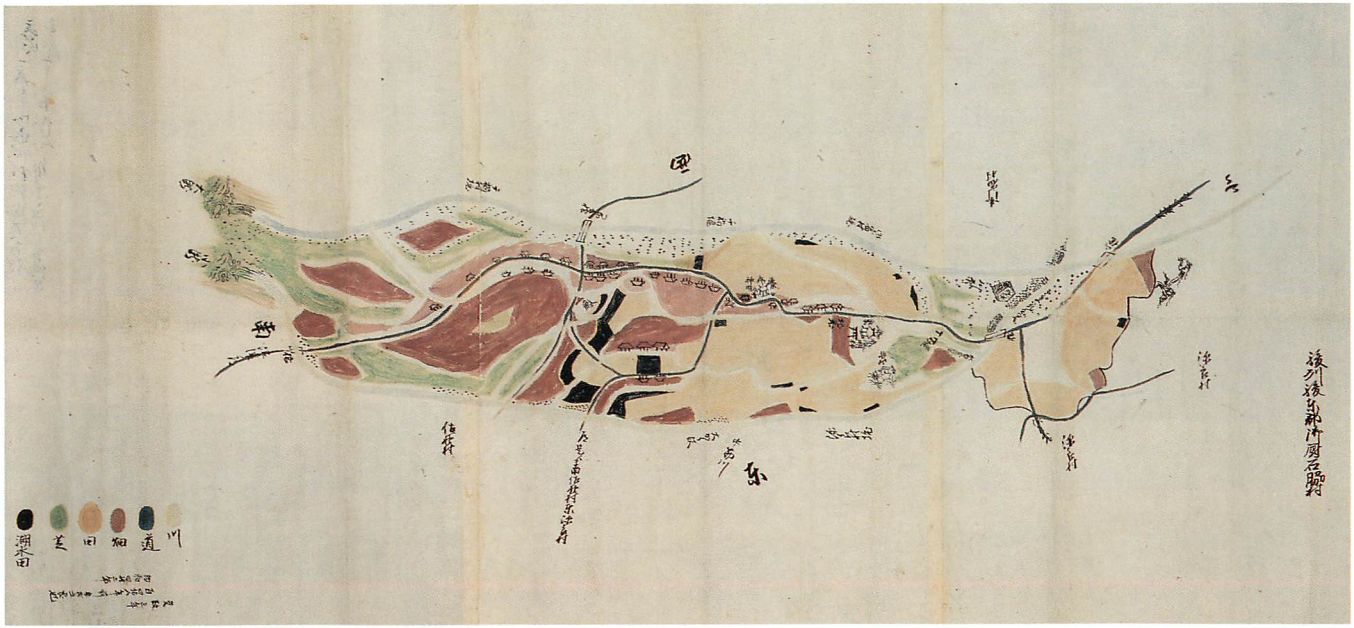
9　箱根湖切貫の友野与右衛門他立願状(寛文３年)



10　箱根湖水掘抜の友野与右衛門他手形(寛文６年)



11　井組廿八ヶ村箱根湖水路村々堰々図（天保２年）



12　駿州駿東郡石脇村湖水掛絵図（文政３年）



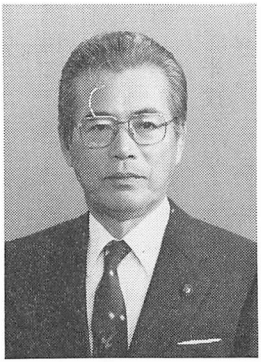
13　深良用水三百年記念碑(昭和39年)



13　現在の新川

序

裾野市長　市川　武



裾野市は雄大な富士山を背に、豊かな自然と生活環境に恵まれ、二十一世紀を展望して、一歩一歩着実に前進しています。

しかしながら最近の社会情勢の変化は急激で、とかく昔のことを忘れがちになる昨今でありますが、現代あるすがたは何によるものかを深く考察することが大切であります。

今日の繁栄は、郷土の先人たちが永い間かかって、その時代、その時期にご苦労されながら、日々努力を惜しまず築き上げてきた生活文化の上に成り立っています。こうした人々の生きた証しを、歴史として記録にとどめ、後世に伝えていくことは、私たちに課せられた責務であります。

昭和六十三年度から市史編さん事業に本格的に着手してまいりましたが、市制二十周年にあたり記念

事業の一つとして、ここに『市史』の第一冊目を発刊する運びとなりました。

『市史』が多くの方々に親しまれ、活用されるとともに、郷土への理解と愛着をより深められて、豊かなまちづくりの一助となることを念願してやみません。

『裾野市史』は資料編七巻、通史編二巻、図説編一巻の全十巻を予定し、以後継続して事業を進めていきますが、皆様方の深いご理解とご協力を今後共よろしくお願い申し上げます。

発刊にあたり、貴重な資料の提供をしていただいた所蔵者をはじめ、ご協力をいただいた多くの方々や関係諸機関及び調査、執筆、編集にあたられた委員各位に深甚の感謝とお礼を申し上げる次第であります。

平成三年三月

発刊のことば

裾野市史編さん委員長　久保　文和

裾野市史編さん事業が発足して以来、まる三年を経て、裾野市がいよいよ『市史』第一冊目を刊行することとなりましたことは誠によろこびにたえないところであります。

これから向う十年間に資料編七、通史編二、図説編一、計十冊の市史が年次刊行されます。市史編さん事業の基本姿勢は第一に裾野市の歴史の発展を広い視野にたって理解し、系統的に明らかにする。第二は市史の叙述は、正確で学問的に高い水準を保つとともに、市民にわかりやすく親しみやすいものにする。第三は古文書、古記録をはじめ、周辺地域との交流や郷土の歴史を広い視野から明らかにし、遺跡や遺物、民俗資料など広く調査収集し、永く後世に伝えるよう努める。第四は、市史編さん事業の経過を重視し、地域文化の向上に寄与し、市民参加と協力を促し、郷土への理解をふかめることについて推進することであります。

かえりみますと、昭和四十九年市史編さんの開始と専任準備員の任命により、古文書を整理分類して

文書目録を作成、昭和五十五年より、市史編さんのための古文書解読が始められ、今日まで続いております。先生方の日夜を分かたず、資料の発掘、整理、解読が裾野市史編さんの基となることは言うまでもありません。また資料を秘蔵せられた個人団体など多くの貴重な古文書を快よく提供していただきましたことを衷心より感謝申し上げる次第であります。

裾野市の過去を知ることにより、現在があり、また将来を見通すこともできるでしょう。過去、現在、未来の三者は決して無関係ではない。郷土愛は深くその歴史を知ることにより生れるものと確信するものであります。

市民の皆さんも、発刊を機会に一層のご鞭撻、ご支援をくださるようお願いし、ご挨拶といたします。

平成三年三月

『裾野市史』刊行にあたって

裾野市史編さん専門委員代表　有光　友學

一九八八年四月、裾野市史編さん事業が本格的に開始されて以来、丁度三年が経過して、ここに『市史』第一冊目を刊行するはこびとなりました。

裾野市は、西に富士山を遠望し、愛鷹山をいだき、東に箱根の連山を擁しながら、中央に黄瀬川を挟む、まさに風光明媚、気候温暖な田園都市です。しかし、歴史的には、駿河国の東、駿東郡のほぼ中央に位置することから、国境（くにざかい）の地としてかなり厳しい歴史を歩んできました。こうした裾野市の歴史を編むにあたって、わたくしたちは、次のような三点の基本方針をたてました。

第一点は、なにより確かな事実に裏づけられた正確で客観的な歴史を明らかにする。そのために、市の内外に残る古文書・記録などの文献史料はいうまでもなく、遺物、遺構、民俗、習慣、伝承などあらゆる資・史料の調査・収集に全力をあげる。「考古」「古代・中世」「近世」各一巻、「近現代」二巻、「深良用水」「民俗」各一巻、計七巻という充実した資料編の刊行を計画したのもそれがためであります。

第二点は、地域に根ざした歴史、すなわち、有史以来この地域に生活し、活動した人々の営みや息吹を可能なかぎり掘り起こし跡づける。そのためには、聞き取り調査を重視し、資・史料の調査や収集に

も積極的に市民の参加を呼びかけ、実現させる。図説編一巻をもうけたことは、そうした成果を結実させ、誰にでも親しめる『市史』を考えたがためであります。

第三点は、その上で、裾野市を中心としたこの地域の歴史を、日本の全体の歴史のなかで位置づけかかわりを明らかにする。通史編二巻は、その面で広く学問的検証に耐えうるような内容のものとする。

以上の方針は、専門委員・調査委員・編さん室職員、さらには地区協力員が一丸となって取り組むことによって、はじめてなしうることで、そのための体制づくりに心がけ、努力してきました。とくに、わたくしたちの場合、専門委員・調査委員がそれぞれの専門分野に立脚し責任を持ちながらも、お互いに意見を述べ合い協力し合うという〝相互乗り入れ〟の体制をとったことであります。幸いに、市当局も、こうした方針を了とされ、物心両面にわたる多大の援助を惜しまれず、楽しく仕事を続けております。

こうして、『市史』第一冊目を世に送り出すことができました。もとより、このように順調に成果を世に問うことができたのも、市民をはじめ多くの方々の協力があってのことであり、とりわけ、編さん事業が始まる以前から、裾野の歴史を愛する人々によって続けられてきた古文書の整理・解読・保存の献身的努力を忘れることができません。ここに、関係者各位に深甚なる感謝の意を表します。

この上は、本『市史』が多くの市民に永く親しまれ、広く全国の関心ある人々に活用され検証されることを念願し、また、引き続いてのご協力を切望してご挨拶といたします。

一九九一年三月

凡　例

一　本資料編は、深良用水を対象に開削前から現在に至るまでの関係資料を収録した。

一　本書は六章から構成され、資料には検索上の便宜をはかるため通し番号を付した。

一　本書は古文書のほか墓碑等関連金石文を取り上げたが、深良用水の理解を深かめるため多くの図像資料をも収集し、第六章に収録した。

一　字体は常用漢字にあるものはこれを使用し、異体字、変体仮名は正字に改めた。但し、者、江、而、茂、ゟ、〆等は例外として残した。また、人名、地名等の固有名詞については、原文書通りとした。

一　本文には読みやすさを考え、読点(、)および並列点(・)を付した。

一　本文中の敬語のための欠字には一字、平出、台頭は二字あけとした。

一　本文の文字については原則として誤字、文意不明の個所については(ママ)、敷衍の個所には(衍)、脱字とおもわれる個所には(脱カ)を付した。

一　本文中の欠損・汚損・虫喰・判読不能等による不明の個所については字数の明かな部分は字数により□□であらわし、字数不明の場合には「　」等で示した。

一　本文中の抹消部分はゝゝで示し、訂正の部分についてはその文字を傍記した。

一　本文中に端裏書・奥書・裏書・朱筆・朱印・付箋等のある場合は「　」で記し、（　）で肩書に注記した。

一　冊子の表紙は□で囲み、右肩に（表紙）と注記した。

一　繰り返し記号として漢字一字は「々」、二字は「〳〵」、平仮名は「ゝ」、片仮名は「ヽ」を用いた。

一　印記の記載は、印が捺印されているものは㊞とし、捺印なく印と記したものは印とのみ記した。また花押についても花押の署記あるものは（花押）とし、ただ花押とのみ記したものは花押とした。

一　収録資料には各資料の末尾に所蔵者名、出典等を明記した。

一　そのほか編者が注記したものは「注」として記載した。

深良用水　総目次

口　絵
序　裾野市長　市川　武　一
発刊のことば　裾野市史編さん委員長　久保文和　三
『裾野市史』刊行にあたって　裾野市史編さん専門委員代表　有光友學　五
凡　例……七
資料目次……一三
口絵図版目次……四〇
本文図版目次……四一
第一章　用水の開削
第一節　開削前の村々……四七
第二節　開削の発願……五五

第三節　開削工事の施行……六四
第四節　元締衆と発企人……一〇三
第五節　開削の記録……一一四
第六節　開削後の村々……一三九

第二章　用水争論と井組の変遷
第一節　井組三郷の成立……一五七
第二節　水論と井組の拡充……一八四
第三節　三郷の定着と水下下郷……二七八

第三章　用水維持と普請
第一節　開削後の用水確保と御普請……四二七
第二節　国役普請の要求……四三三
第三節　国役普請の拡大……四三九

第四章　用水と村々の生活

第一節　井組三郷の村々……五五
第二節　水配人・水番……六四
第三節　用水の施設（水門・掘抜・堰・堀）……六八
第四節　用水と信仰……七三

第五章　近代の用水

第一節　明治初年の井組三郷……七三
第二節　逆川事件……七八一
第三節　生活と産業……八四八
第四節　地域の変貌と用水……九五〇

第六章　図像にみる用水

第一節　芦ノ湖と水門……九八九
第二節　堰と用水……九九八
第三節　用水と生活……一〇一三

解　　説……一〇一五
掲載資料所蔵者別一覧……一〇八一
あ と が き……一一〇一
裾野市史編さん関係者……一一〇五

口絵写真　堤　勝雄
扉　絵　鈴木芳子

深良用水　資料目次

第一章　用水の開削

第一節　開削前の村々

一　慶長　五年（一六〇〇）　正月　九日　御宿村検地外の荒地開発横田村詮手形 …… 四七
二　（慶長六年（一六〇一））　八月　五日　御宿村検地外の荒地開発某対馬守手形 …… 四八
三　元和　五年（一六一九）　九月二六日　本宿新田開発今宮惣左衛門達書 …… 四八
四　正保　四年（一六四七）　一一月二三日　御宿村上野原荒地開発願書、野村彦太夫代裏書 …… 四八
五　慶安　三年（一六五〇）　八月二八日　大畑村他五ヶ村山林・古跡・用水等書上 …… 五〇
六　万治　三年（一六六〇）～寛文六年（一六六六）　御宿村年貢米金皆済目録、野村彦太夫裏書 …… 五一
七　寛文　二年（一六六二）　九月　本宿村日損場開作年貢納入につき訴書 …… 五四

第二節　開削の発願

八　寛文　三年（一六六三）　二月一三日　箱根湖切貫新田開発につき友野与右衛門他立願状 …… 五五
九　寛文　六年（一六六六）　四月一三日　箱根湖水掘抜願書幕府記録 …… 五六
一〇　寛文　六年（一六六六）　四月一三日　箱根湖水掘貫につき友野与右衛門他三名手形 …… 五六

一一　寛文　六年（一六六六）　五月一七日　箱根湖水掘抜につき友野与右衛門他三名手形、野村彦太夫奥書……五八
一二　寛文　六年（一六六六）　五月一七日　箱根湖水掘抜につき、友野与右衛門他三名手形、野村彦太夫奥書……六〇
一三　寛文　六年（一六六六）　七月一八日　箱根湖水掘抜につき発企人大庭源之丞への指入証文……六二

第三節　開削工事の施行

一四　寛文　九年（一六六九）　一〇月　下せき普請場目録……六四
一五　寛文一一年（一六七一）　三月一七日　茶畑村新堀間数書上……六四
一六　寛文一一年（一六七一）　三月一九日　亥ノ年新川普請人足帳……六五
一七　寛文一一年（一六七一）　三月一九日　亥ノ年新川普請人足帳……八一
一八　寛文一一年（一六七一）　四月二五日　茶畑村新川間数人足高之帳……九八
一九　（寛文一一年（一六七一））　大堰等間数書上……一〇一

第四節　元締衆と発企人

二〇　寛文　二年（一六六二）　二月　一日　宮崎市兵衛武蔵国吉田新田内新田地小作手形……一〇三
二一　寛文一〇年（一六七〇）　長濱半兵衛江戸浅草田町屋敷買取記録……一〇三
二二　延宝　二年（一六七四）　八月　一日　友野与右衛門武蔵国吉田新田内田地永代売渡証文……一〇三
二三　（延宝　三年（一六七五））　七月　一日　本宿村箱根掘抜上穀米手形……一〇三

二四　延宝　四年（一六七六）　五月一八日　本宿村箱根掘抜上穀米手形……一〇四
二五　延宝　五年（一六七七）　四月二三日　本宿村箱根掘抜上穀米手形……一〇四
二六　延宝　五年（一六七七）　四月　「上土狩村惣ヶ原検地帳」箱根掘抜元締名請地書上……一〇四
二七　延宝　六年（一六七八）　七月一一日　本宿村箱根掘貫上穀米手形……一〇五
二八　延宝　七年（一六七九）　八月二〇日　本宿村箱根掘抜上穀米手形……一〇五
二九　延宝　七年（一六七九）　八月　江戸町人橋本山友他三名請負金返済約束証文……一〇六
三〇　延宝　八年（一六八〇）　九月二六日　本宿村箱根掘抜上穀米手形……一〇七
三一　延宝　八年（一六八〇）　一二月　晦日　深良村名主源之丞等証人田畑地替証文……一〇七
三二　天和　三年（一六八三）　四月二二日　江戸町人浅井佐次右衛門等金子預り証文……一〇八
三三　天和　三年（一六八三）　四月二二日　江戸町人浅井佐次右衛門等金子借用につき起請文……一〇九
三四　天和　三年（一六八三）　一二月一四日　江戸町人浅井佐次右衛門等金子返済起請文……一一〇
三五　元禄　二年（一六八九）　江戸町人浅井佐次右衛門等沼津領年貢代金不正使用につき富沢村勘兵衛訴状……一一一
三六　元禄一六年（一七〇三）　三月　八日　大庭源之丞墓碑銘……一一三

第五節　開削の記録

三七　寛文　三年（一六六三）　快長僧正・友野与右衛門江戸出願記録……一一四
三八　寛文　五年（一六六五）～　深良村箱根湖水掘抜諸色覚……一一四

寛文　六年（一六六六）　七月二一日　御宿村安右衛門箱根湖水掘抜元締の覚……二六
四〇　寛文　六年（一六六六）　御宿村箱根湖水掘抜元締名前書上……二八
四一　寛文　六年（一六六六）　御宿村箱根湖水掘抜水門等記録……二八
四二　寛文　六年（一六六六）　佐野村作平箱根湖水掘抜通水記録……二九
四三　寛文　六年（一六六六）　茶畑村甚右衛門箱根湖水掘貫覚……二九
四四　寛文　六年（一六六六）　上ヶ田村箱根掘抜記録……三〇
四五　寛文　六年（一六六六）　竹原村箱根湖水掘抜記録……三六
四六　寛文　七年（一六六七）　八月　朔日　茶畑村甚右衛門箱根掘貫記録……三七
四七　寛文一〇年（一六七〇）　富沢村箱根湖水掘抜記録……三七
四八　（寛文年中（一六六一～一六七三））　小田原藩箱根湖水掘抜規模・元締等書上……三七
四九　（寛文年中（一六六一～一六七三））　久根村箱根山湖水掘貫元締名前書上……三八

第六節　開削後の村々

五〇　寛文一一年（一六七一）　一〇月一四日　御宿村田畑指出状……二九
五一　寛文一一年（一六七一）　一一月二一日　富沢村年貢割付状……三三
五二　寛文一二年（一六七二）　六月　五日　箱根掘貫畑成田出精褒美銀子請取状……三四
五三　寛文一二年（一六七二）　一一月二三日　富沢村年貢割付状……三五
五四　延宝　二年（一六七四）　正月一九日　小田原藩箱根掘貫穴浚奉行任命記録……三七

三五　延宝　五年（一六七七）　一一月　「茶畑村明細帳」畑成田・堰すじ書上……一三八
三六　延宝　七年（一六七九）　一一月　富沢村年貢割付状……一四一
三七　延宝　八年（一六八〇）　正月　「茶畑村明細帳」畑成田・堰すじ書上……一四四
三八　延宝　八年（一六八〇）　一〇月　富沢村年貢割付状……一四七
三九　天和　三年（一六八三）　茶畑村上穀等記録……一四九
四〇　貞享　三年（一六八六）　四月一六日　「佐野村明細帳」用水普請・堰書上……一五〇
四一　貞享　三年（一六八六）　四月一六日　「茶畑村明細帳」用水普請・水掛り書上……一五〇
四二　貞享　三年（一六八六）　四月一七日　「公文名村・稲荷村明細帳」堰人足等書上……一五一
四三　貞享　五年（一六八八）　四月二〇日　富沢村他二ヵ村畑成田につき下筋五ヶ村に対し口上書…一五三
四四　貞享　五年（一六八八）　六月　箱根掘抜水不足に関する下郷訴状……一五三
四五　天保　三年（一八三二）　正月　富沢村寛永以降畑成田高入書上ヶ覚……一五三

第二章　用水争論と井組の変遷

第一節　井組三郷の成立

六六　元禄　二年（一六八九）　水支配人の創置につき書上……一五七
六七　元禄　三年（一六九〇）　四月一六日　小柄沢堰口争論につき水下村々訴状……一五七
六八　元禄　三年（一六九〇）　四月二八日　小柄沢堰口争論につき申渡書……一五九

六九　元禄一〇年（一六九七）　三月　五日　茶畑村新左衛門ら新堰一件につき口上書……一六一
七〇　元禄一三年（一七〇〇）　七月一七日　箱根掘抜水につき水配人口上書……一六二
七一　宝永　元年（一七〇四）　一二月　深良用水沿革につき水配人口上書……一六三
七二　宝永　二年（一七〇五）　正月　箱根湖水掘抜につき堰役人口上書……一六六
七三　宝永　三年（一七〇六）　正月　五日　茶畑村砂入田地開発のため出人足赦免願……一六八
七四　宝永　三年（一七〇六）　正月　砂入田地開発のため茶畑村扶持米入用拝借願……一六九
七五　宝永　三年（一七〇六）　正月　新川堤復旧に伴う争論につき深良村訴状……一六九
七六　宝永　三年（一七〇六）　二月一四日　新川堤復旧に伴う争論につき深良村訴状……一七三
七七　宝永　三年（一七〇六）　三月二五日　新川堤復旧に伴う争論につき井組二十八ヵ村返答書……一七七
七八　宝永　三年（一七〇六）　六月二六日　新川堤復旧争論裁許深良村・二十八か村請書……一八〇
七九　宝永　四年（一七〇七）　二月二六日　新川堤復旧に伴う争論裁許状……一八一
八〇　宝永　四年（一七〇七）　三月一八日　砂取人足難儀につき富沢村米拝借願……一八三
八一　宝永　四年（一七〇七）　本宿村箱根湖水掛り組合離脱願……一八三

第二節　水論と井組の拡充

八三　宝永　二年（一七〇五）　四月　水掛り村々水論につき書上……一八四
八三　宝永　三年（一七〇六）　七月　水掛り村々争論につき下郷訴状……一八四
八四　宝永　四年（一七〇七）　一二月　亥ノ年箱根水水論共ニ入用帳……一八六

八五　宝永　四年（一七〇七）　水掛り村々争論につき上郷返答書……一九〇
八六　宝永　五年（一七〇八）　正月　評定所詮議につき茶畑村甚右衛門口上書……一九二
八七　宝永　五年（一七〇八）　五月　六日　水掛り村々争論につき裁許状……一九四
八八　宝永　五年（一七〇八）　六月一三日　水配役人仰付けらるにつき水掛り村々請書……一九五
八九　宝永　六年（一七〇九）　七月　用水引方につき水下村々願書……一九六
九〇　享保一五年（一七三〇）　五月二九日　佐野堰分水につき公文名村他二ヶ村願書……一九八
九一　元文　二年（一七三七）　三月　支配替につき水掛り村々願書……二〇〇
九二　元文　二年（一七三七）　七月　用水引方につき水末村々願書……二〇〇
九三　元文　二年（一七三七）　七月　支配替につき水掛り村々願書……二〇三
九四　元文　二年（一七三七）　八月　湖水支配の定につき水掛り村々請書……二〇五
九五　元文　二年（一七三七）　一二月　三日　湖水支配につき役人廻状……二〇六
九六　元文　二年（一七三七）　一二月　湖水支配役人宛請書につき深良村役人日延願書……二〇七
九七　元文　三年（一七三八）　正月　湖水支配方につき深良村役人願書……二〇七
九八　延享　三年（一七四六）　七月　水配役人申合せ定書……二〇九
九九　延享　四年（一七四七）　八月　用水引方につき水上村々願書……二一〇
一〇〇　延享　五年（一七四八）　七月　水配役人申合せ定書……二一一
一〇一　宝暦一一年（一七六一）　五月一八日　用水不足につき石脇村願書……二一三

一〇三　明和　七年（一七七〇）　七月　水配役人申合せ定書……二二四
一〇三　明和　七年（一七七〇）　九月　水配人宛拾給役人申し渡し……二二五
一〇四　明和　九年（一七七二）　三月　二ツ屋新田と水上村々争論につき願書・水配人取調書…二二六
一〇五　明和　九年（一七七二）　四月　水掛り争論につき水上村々返答書……二三四
一〇六　安永　二年（一七七三）　閏三月　用水争論につき地頭役人宛小田原藩役人返書……二三八
一〇七　安永　二年（一七七三）　六月　水掛り村々争論につき石脇村役人請書……二四四
一〇八　安永　二年（一七七三）　八月　江戸表詮議につき拾給役人宛石脇村上申書……二四六
一〇九　安永　二年（一七七三）　九月　用水争論につき江戸表水配人取調書……二四八
一一〇　安永　二年（一七七三）　一一月　湖水出入江戸路用並雑用割帳……二五六
一一一　安永　三年（一七七四）　三月二六日　拾給役人内済仰渡につき村々申立……二五八
一一三　安永　三年（一七七四）　三月　水掛り村々争論につき久根村訴状……二五八
一一三　安永　三年（一七七四）　四月　用水争論離脱につき富沢村名主宛一色村願書……二五九
一一四　安永　三年（一七七四）　四月　用水争論離脱につき訴訟方村々宛神山村・麦塚村願書…二六〇
一一五　安永　三年（一七七四）　四月　用水争論離脱につき訴訟方村々宛一色村願書……二六一
一一六　安永　三年（一七七四）　五月　水掛り村々争論につき水下村々訴状……二六三
一一七　安永　三年（一七七四）　八月　水掛り村々争論につき上郷返答書……二六八
一一八　安永　三年（一七七四）　八月　水論江戸表公儀日記帳……二七三

一一九　安永　三年（一七七四）　一一月　水掛り村々争論につき水上村々返答書……二七六
一二〇　安永　三年（一七七四）　一一月　水掛り村々争論につき検使日記覚書……二七九
一二一　安永　五年（一七七六）　三月　二日　評定所申渡につき水掛り村々請書……二八五
一二二　安永　五年（一七七六）　七月　水配人勤方定書……二九〇
一二三　安永　五年（一七七六）　七月　争論裁許につき水掛り村々申合せ……二九三
一二四　安永　五年（一七七六）　七月　井組二九ケ村宛拾給役人申合せ定書……二九七
一二五　安永　六年（一七七七）　五月二一日　富沢村との用水争論につき一色村訴状……三〇一
一二六　安永　六年（一七七七）　五月二八日　田成畑開発につき一色村注進書……三〇五
一二七　安永　六年（一七七七）　七月二六日　富沢村と一色村水論につき水配人口上書……三〇六
一二八　安永　六年（一七七七）　七月　晦日　一色村との用水争論につき富沢村請書一札……三〇九
一二九　安永　六年（一七七七）　七月　一色村との用水争論につき富沢村返答書……三一〇
一三〇　安永　六年（一七七七）　九月　一色村と富沢村との用水争論につき済口証文……三一三
一三一　安永　六年（一七七七）　九月　用水争論内済につき一色村請書……三一五
一三二　安永　七年（一七七八）　六月　用水掛り年番役人賄方につき村々願書……三一六
一三三　安永　九年（一七八〇）　四月　田畑成起返し差留につき願書……三一七
一三四　安永　九年（一七八〇）　七月　田畑成起返し差留につき井組村々請書……三一八
一三五　安永　九年（一七八〇）　九月　深良村と水配人争論につき済口証文……三二一

一三六　安永　九年（一七八〇）　九月　水配人より深良村宛内済金受取一札……三三
一三七　安永一〇年（一七八一）　四月　富沢村と一色村の用水争論につき取曖証文……三三
一三八　天明　二年（一七八二）　七月　富沢村と一色村の用水争論につき内済証文……三三五
一三九　天明　五年（一七八五）　三月　用水役人賄入用につき井組村々定書……三三六
一四〇　天明　五年（一七八五）　六月　用水引方につき深良村願書……三三〇
一四一　天明　五年（一七八五）　七月　争論内済につき水配人より深良村宛詫状……三三一
一四三　天明　八年（一七八八）　一一月二八日　水掛り村々争論につき沼津役所宛水下村々訴状……三三三
一四二　天明　八年（一七八八）　一一月　水掛り村々争論につき深良村他三ヶ村返答書……三三四
一四四　天明　八年（一七八八）　一二月　水掛り村々争論につき水下村々返答書……三三八
一四五　天明　八年（一七八八）　一二月　水掛り村々争論につき深良村他三ヶ村内済願書……三四〇
一四六　天明　八年（一七八八）　一二月　水掛り村々争論につき深良村他三ヶ村内済請書……三四一
一四七　寛政　元年（一七八九）　六月　出府員数につき水下村々願書……三四四
一四八　寛政　元年（一七八九）　七月　晦日　争論詮議日延につき水下村々願書……三四五
一四九　寛政　二年（一七九〇）　三月二一日　水掛り村々争論につき済口証文……三四七
一五〇　寛政　二年（一七九〇）　四月　深良村救済をめぐる争論につき小田原藩宛下郷村々注進書……三四九
一五一　寛政　二年（一七九〇）　六月　深良村の救済をめぐる争論につき深良村等訴状……三五〇

一五二　寛政　二年（一七九〇）　九月　深良村救済をめぐる争論次第につき一札……三六四
一五三　寛政　三年（一七九一）　四月　深良村救済をめぐる争論につき済口証文……三六五
一五四　寛政　三年（一七九一）　八月　深良村救済をめぐる争論につき内済証文……三七三
一五五　文政　元年（一八一八）　一二月　九日　深良村助合金受取覚……三七五

第三節　三郷の定着と水下下郷

一五六　文化　四年（一八〇七）　三月　裁許書年番預り等につき下郷五ヶ村定書……三七八
一五七　文化一一年（一八一四）　六月　大堰下の用水争論につき内済証文……三七九
一五八　文政一二年（一八二九）　八月　三俣堰分水一件につき納米里村他二ヶ村……三八八
一五九　嘉永　五年（一八五二）　五月　詫書堰切下げにつき南堀中宛へ詫書……三九〇
一六〇　嘉永　五年（一八五二）　六月　二日　下郷四ヶ村水不足につき通水願書……三九一
一六一　嘉永　五年（一八五二）　六月　下郷九ヶ村分水につき規定書……三九一
一六二　嘉永　五年（一八五二）　六月　分水につき下筋五ヶ村取調願……三九三
一六三　嘉永　五年（一八五二）　六月　干損につき下郷村々通水願書……三九四
一六四　嘉永　五年（一八五二）　六月　分水につき茶畑村等七ヶ村役人引取延日願……三九五
一六五　嘉永　五年（一八五二）　七月一二日　三俣堰取払一件処分につき請書……三九六
一六六　嘉永　五年（一八五二）　七月　三俣堰取払一件、手鎖村預ヶ御免願……三九九
一六七　安政　二年（一八五五）　六月　三俣堰分水等用水争論につき立会番差出内済証文……四〇〇

一六　安政　二年（一八五五）　六月　三俣堰分水等用水争論内熟により手鎖赦免願書……四〇三
一六九　安政　四年（一八五七）　四月　三俣堰・穴堰立会番につき水下五ヶ村願書……四〇四
一七〇　安政　四年（一八五七）　五月　三俣堰・穴堰立会番出入につき水下五ヶ村内済証文……四〇七
一七一　万延　元年（一八六〇）　閏三月　三俣堰・穴堰立会番出入に関する規定書……四〇八
一七二　万延　元年（一八六〇）　閏三月　三俣堰・穴堰立会番出入につき、井組村々より願……四一一
一七三　万延　元年（一八六〇）　四月一〇日　三俣堰・穴堰永久立会番設置の願書……四一三
一七四　万延　元年（一八六〇）　四月　下郷水配人より三俣堰・穴堰永久立会番任命願……四一四
一七五　万延　元年（一八六〇）　五月　一日　三俣堰・穴堰立会番一件願書取下願……四一五
一七六　万延　六年（一八六〇）　五月　三俣堰・穴堰をめぐる争論につき水下五ヶ村願書……四一五
一七七　万延　六年（一八六〇）　五月　三俣堰・穴堰出入内済取替規定書……四一八
一七八　慶応　三年（一八六七）　八月二三日　下郷二ヶ村土用明分水につき小田原藩より沼津藩宛返書……四二〇
一七九　慶応　三年（一八六七）　八月　土用明分水につき下郷五ヶ村願書……四二一

第三章　用水維持と普請

第一節　開削後の用水確保と御普請

一八〇　元禄　六年（一六九三）　四月　六日　富沢村定輪寺前堀貫浚人足賃他書上……四二七

一八一　元禄　九年（一六九六）　一一月　箱根堀抜水年々不足につき掘下げ御宿村他一〇ヶ村願書……四一八

一八二　元禄一一年（一六九八）　七月　定輪寺村前堰御普請につき富沢村願書……四三〇

一八三　元禄一二年（一六九九）　二月　地震・大風雨につき水門修覆御普請三〇ヶ村願書……四三一

一八四　元禄一三年（一七〇〇）　四月一一日　定輪寺前堰御普請につき富沢村扶持米請取状……四三二

一八五　元禄一四年（一七〇一）　七月　掘抜水門口掘下げ御普請三〇ヶ村願書……四三三

一八六　宝永　二年（一七〇五）　三月　富沢村人足積り書上……四三五

一八七　元文　六年（一七四一）　二月　下郷拾五ヶ村井堰川除人足積り帳……四三五

一八八　宝暦　七年（一七五七）　七月　湖水門修築入用高割覚……四四一

一八九　明和　四年（一七六七）　九月　湖水門口大普請につき入用扶持米給付富沢村願書……四四二

一九〇　安永　九年（一七八〇）　五月　四日　水不足につき水門手入れ掛合留書……四四三

一九一　安永　九年（一七八〇）　七月　水不足につき水門・土手普請三一ヶ村願書……四四五

一九二　安永一〇年（一七八一）　正月　水門掘下げ御普請につき箱根山神領役人宛願書……四四七

一九三　天明　元年（一七八一）　四月二六日　海尻水門御普請留書……四五〇

一九四　年　未　詳　御宿村人足扶持米切手……四五二

第二節　国役普請の要求

一九五　天明　元年（一七八一）　五月　国役御普請出来形帳……四五三

一九六　天明　二年（一七八二）　四月一五日　国役御普請につき普請役宛書付写 …… 四六五
一九七　天明　二年（一七八二）　四月　新川土手御普請につき潰地村割二九ヶ村定書 …… 四六八
一九八　天明　三年（一七八三）　一〇月　湖水御普請願惣代出府につき神山村他九ヶ村伺書 …… 四七三
一九九　寛政　五年（一七九三）　九月　箱根湖水門堰樋大破につき二九ヶ村見分願書 …… 四七四
二〇〇　寛政　五年（一七九三）　一〇月　神山村他九ヶ村箱根湖水門普請拝借金返済につき一札 … 四七六
二〇一　寛政　六年（一七九四）　四月　箱根湖水門普請用木請負手形 …… 四七九
二〇三　寛政　九年（一七九七）　三月　かろうと堰五ヶ村自普請書付 …… 四七九
二〇三　文政　二年（一八一九）　八月　井組二九ヶ村新川国役御普請願書 …… 四八〇
二〇四　文政　三年（一八二〇）　二月　井組二九ヶ村新川国役御普請願書 …… 四八二
二〇五　文政　三年（一八二〇）　二月　箱根湖水新川通御普請内目論見帳 …… 四八五
二〇六　文政　三年（一八二〇）　二月　須釜新川通御普請箇所附内目論見帳 …… 四九二
二〇七　文政　三年（一八二〇）　六月　井組二九ヶ村新川国役御普請願書 …… 五〇一
二〇八　文政　三年（一八二〇）　八月　箱根湖水新川通国役御普請書上帳 …… 五〇三
二〇九　文政　三年（一八二〇）　八月　国役御普請見分につき伝馬手形 …… 五〇九
二一〇　文政　三年（一八二〇）　九月　二九ヶ村国役御普請取懸願書 …… 五一〇
二一一　文政　三年（一八二〇）　九月　国役御普請地頭出金につき書付 …… 五一一
二一二　文政　三年（一八二〇）　九月　国役御普請土取場見分費用につき一札 …… 五一三

二三　文政　三年（一八二〇）　九月　水懸り村々私領出金高覚 …… 五一四
二四　文政　三年（一八二〇）　九月　国役御普請につき私領出金村高書上帳写 …… 五一五
二五　文政　四年（一八二一）　六月　国役御普請につき不足金御助成二九ヶ村願書 …… 五一〇
二六　文政一三年（一八三〇）　一〇月　用水路大破につき国役御普請二九ヶ村願書 …… 五二三
二七　天保　二年（一八三一）　一一月　国役御普請御見分につき一札 …… 五二四
二八　天保　二年（一八三一）　閏一一月　国役御普請下ヶ金前借願書 …… 五二五
二九　天保　三年（一八三二）　三月　二九ヶ村組合御普請入用金内借証文下書写 …… 五二六
三〇　天保　三年（一八三二）　五月　二日　箱根山湖水掛用水路御普請仕立取掛申渡請印帳写 …… 五三〇
三一　天保　三年（一八三二）　国役御普請木品代・人足賃・普請役人等書上 …… 五三三
三三　天保一一年（一八四〇）　八月　富沢・一色両村掛り用水路新規掘替覚帳 …… 五三三
三三　天保一一年（一八四〇）　八月　富沢村他二ヶ村用水堀新規掘替助合金請取証 …… 五三八

第三節　国役普請の拡大

二四　天保一四年（一八四三）　二月二三日　新堰用水路御普請負一札及び普請所仕方覚 …… 五三九
二五　天保一四年（一八四三）　三月　御普請願諸入用定書 …… 五四〇
二六　天保一四年（一八四三）　一〇月　国役御普請井組村々願書 …… 五四二
二七　天保一五年（一八四四）　七月二二日　御宿村新堰大破につき普請所見分願書 …… 五四四
二八　天保一五年（一八四四）　七月二七日　御宿村用水路御普請見分届 …… 五四五

二二九　天保一五年（一八四四）　七月　かろうと堰国役御普請につき御宿村願書……五四六
二三〇　天保一五年（一八四四）　八月　小田原・沼津藩見分中諸入用等取調勘定帳……五四六
二三一　弘化　二年（一八四五）　三月　天保地震による大破につき地頭所宛国役御普請願書……五五五
二三三　弘化　三年（一八四六）　五月　天保地震による大破につき奉行所宛国役御普請願書……五五七
二三三　弘化　三年（一八四六）　閏五月　七日　湖水御普請願につき惣代江戸出勤覚書……五六〇
二三四　弘化　三年（一八四六）　閏五月　天保地震による大破につき勘定奉行所宛国役御普請願書……五六三
二三五　弘化　三年（一八四六）　一一月　湖水御普請につき江戸出府・雑用入用帳……五六六
二三六　弘化　三年（一八四六）　一一月　国役御普請につき私領出金高書上帳……五七三
二三七　嘉永　二年（一八四九）　七月二七日　国役御普請かなわずにつき松長役所宛御普請願書……五七五
二三八　嘉永　三年（一八五〇）　正月二八日　かろうと堰御普請につき御宿村願書……五七六
二三九　安政　元年（一八五四）　一二月　地震崩箇所見分につき上郷水配人願書……五七七
二四〇　安政　二年（一八五五）　三月二八日　湖水表木品入札控帳……五七八
二四一　安政　二年（一八五五）　三月　湖水御普請諸入用木品請負証文……五八〇
二四二　安政　六年（一八五九）　五月　千福村用水引入口改修につき水配衆宛一札……五八〇
二四三　明治　元年（一八六八）　一〇月　村方用水路御尋につき富沢村他二ヶ村返答書……五八一

第四章　用水と村々の生活

第一節　井組三郷の村々

二四　元禄　元年（一六八八）　一二月　箱根掘抜水掛り高反別覚……五五五
二四五　元禄　八年（一六九五）　一二月　富沢村・定輪寺村箱根水掛反別帳……五六〇
二四六　元禄一二年（一六九九）　一二月　富沢村役米銭・箱根水入用帳……五六六
二四七　宝永　四年（一七〇七）　六月二四日　箱根水懸り村々高帳……五九九
二四八　宝永　四年（一七〇七）　一二月　箱根水村々用水諸入用割帳……六〇三
二四九　明和　八年（一七七一）　八月　深良村湖高反別并土手通地水高反別帳……六〇六
二五〇　天明　六年（一七八六）　五月　佐野村請免につき水引方等百姓連印口上書……六一一
二五一　文政　三年（一八二〇）　九月　井組二九ヶ村高反別控……六一四
二五三　文政　三年（一八二〇）　一二月　御宿村諸役銭割附帳……六二五
二五三　文政一三年（一八三〇）　二月　吉日　井組二九ヶ村高反別等書上……六三一
二五四　弘化　三年（一八四六）　一一月　井組二九ヶ村高明細帳……六三六

第二節　水配人・水番

二五五　元文　三年（一七三八）　五月一〇日　湖水水配役につき申達……六六四
二五六　天明　五年（一七八五）　六月一四日　中郷水配人助役宥免の願書……六六四

二五七　文政　九年（一八二六）　三月　中郷水配人交替につき願書……六六五
二五八　文政一〇年（一八二七）　五月　水配上役交替一件……六六六
二五九　文政一一年（一八二八）　一二月　井組三郷水配人給取立帳……六七二
二六〇　安政　三年（一八五六）　七月　七日　三郷水配人より用水潤沢につき注進書……六七六

第三節　用水の施設（水門・掘抜・堰・堀）

二六一　元禄　七年（一六九四）　五月　水門の開扉の記録……六七八
二六三　元禄一一年（一六九八）　七月　平松新田新堀方角覚……六七八
二六三　元禄一一年（一六九八）　七月　茶畑村新堀方角覚……六七八
二六四　元禄一一年（一六九八）　国絵図作成のため箱根湖水新川取調……六七九
二六五　元禄一二年（一六九九）　正月二八日　国絵図作成につき茶畑村畑成田等書上……六八〇
二六六　宝永　五年（一七〇八）　正月一二日　新川・木瀬川諸堰書上覚……六八一
二六七　明和　三年（一七六六）　四月　佐野村宿堀口一件済口証文……六八九
二六八　文化　六年（一八〇九）　二月　茶畑村用水樋掛替につき伺書……六九〇
二六九　文政　二年（一八一九）　八月一三日　新川土手破損所并湖水門伏替見積下帳……六九一
二七〇　文政　五年（一八二二）　一〇月　中郷六ヶ村と佐野村、佐野堰口石居につき取替証文……六九六
二七一　文政　六年（一八二三）　七月　二本松新田嘉左衛門湖水懸用水路取調目録……六九七
二七二　文政　七年（一八二四）　五月　上・中郷水配人、佐野堰眉木につき下郷水配人と取替

一札……七〇七
二七三　文政一〇年（一八二七）　四月一五日　湖水掛堰々水配帳……七〇八
二七四　文政一三年（一八三〇）　二月　吉日　富沢堰用水掛合・掘抜間数組覚……七一七
二七五　文政一三年（一八三〇）　二月　吉日　富沢村堰・穴堰芝打、浚扶持人足、手当米金覚……七一九
二七六　文政一三年（一八三〇）　二月　吉日　湖水門書上覚……七二一
二七七　天保　二年（一八三一）　一一月　井組組合村請普請につき諸色値段書上写……七三一
二七八　天保　三年（一八三二）　三月　湖水門木口控……七三五
二七九　天保　三年（一八三二）　五月　御普請諸道具損料并払物類諸色控帳……七三六
二八〇　万延　元年（一八六〇）　三月　上土狩村と水窪村、富沢村用水堀通路新橋につき取替規定書……七三〇

第四節　用水と信仰

二八一　寛文一〇年（一六七〇）　九月　六日　深良村町田庚申供養塔……七三二
二八二　寛文一〇年（一六七〇）　九月　六日　深良村切久保庚申供養塔……七三三
二八三　正徳　元年（一七一一）　惣ヶ原箱根湖水掘板元〆水仁碑……七三四
二八四　正徳　元年（一七一一）　納米里村地蔵尊……七三五
二八五　（元文　五年（一七四〇））　正月二五日　御供米上納につき箱根山金剛王院大岡越前守宛願書……七三五
二八六　寛政　三年（一七九一）　五月　井組二九カ村奉納箱根神社常夜燈……七三六

二六七　弘化　四年（一八四七）　法喜庵賀歌……七三九
二六八　明治一二年（一八七九）　七月　惣ヶ原水分神社創立願書……七四〇
二六九　明治四三年（一九一〇）　四月　芦湖四留水門碑……七四二
二七〇　大正一三年（一九二四）　一月二六日　惣ヶ原芦湖水神社棟札……七四四
二七一　昭和五〇年（一九七五）　一二月一五日　芦ノ湖水神社建設資金決算報告について……七四五
二七二　午　一〇月　箱根大権現御神水御初穂取集役僧廻村につき廻状……七四七
二七三　年未詳　惣ヶ原芦湖水神社念仏供養塔……七四八

第五章　近代の用水

第一節　明治初年の井組三郷

二七四　明治　七年（一八七四）　五月　箱根湖水向後取扱規定書……七五三
二七五　明治一二年（一八七九）　一一月　芦ノ湖用水堀堰分水掛反別調表……七七二
二七六　明治二〇年（一八八七）　函根湖用水組合深良村外弐拾七ヶ村水利土工協議会議案……七七七

第二節　逆川事件

二七七　明治一四年（一八八一）　九月　三日　湖水逆川口確証保護方規定……七八一
二七八　明治二二年（一八八九）　四月一五日　箱根湖水門修繕御願……七八四

二九九　明治二六年（一八九三）　四月　六日　芦之湖用水新規使用差留につき深良村他願書……七八五
二〇〇　明治二六年（一八九三）　一〇月二〇日　仙石原村長河水引用及川敷切下之義御認願……七八九
二〇一　明治二九年（一八九六）　四月一四日　逆川事件につき小泉村書記実地検分復命書……七九一
二〇二　明治二九年（一八九六）　四月　箱根湖用水逆川其他事件諸筆記……七九二
二〇三　明治二九年（一八九六）　五月　一日　逆川事件につき箱根湖水利組合告訴状……七九五
二〇四　明治二九年（一八九六）　五月二二日～七月一五日　逆川事件に関する新聞報道……七九八
二〇五　明治二九年（一八九六）　五月　湖水逆川破壊事件ニ付呈出セシ証拠書類目録……八〇三
二〇六　明治二九年（一八九六）　一二月一六日　逆川事件横浜地方裁判所判決……八〇四
二〇七　明治三〇年（一八九七）　四月　六日　逆川事件東京控訴院上告棄却判決書……八〇六
二〇八　明治三〇年（一八九七）　四月二四日　逆川事件上告趣意書……八〇九
二〇九　明治三〇年（一八九七）　七月　八日　逆川事件訴訟を名古屋控訴院へ移送判決書……八一〇
二一〇　明治三〇年（一八九七）　七月　八日　逆川事件訴訟を名古屋控訴院へ移送通知の電報……八一六
二一一　明治三〇年（一八九七）　一〇月二〇日　逆川事件名古屋控訴院判決書……八一七
二一二　明治三〇年（一八九七）　一〇月二六日　逆川事件大審院上告答弁書……八二一
二一三　明治三一年（一八九八）　一月二一日　逆川事件大審院判決書……八二二
二一四　明治三一年（一八九八）　三月　逆川事件顛末記録……八二三
二一五　明治三一年（一八九八）　九月二四日　逆川事件調停案……八三三

二一六　明治三六年（一九〇三）　九月　九日　芦湖紛議調停につきて……八三七
二一七　（明治三六年（一九〇三）　九月）　逆川事件和解式次第書……八四七

第三節　生活と産業

二一八　明治二一年（一八八八）　八月　三日　御宿村湯山半七郎水車建設願……八四八
二一九　明治二四年（一八九一）　一月　上郷水配取扱人函根湖用水分水日誌……八四九
二二〇　明治二六年（一八九三）　一一月一五日　平松與市郎芦之湖用水使用契約書……八五三
二二一　明治二八年（一八九五）　一月　上郷水配取扱人函根湖用水掛につき諸用留……八七三
二二三　明治三一年（一八九八）　七月二三日　東京水力電気株式会社芦之湖用水使用契約書……八七四
二二三　明治四四年（一九一一）　一月一七日　電気会社と契約につき失効意見書……八七七
二二四　大正　元年（一九一二）　一二月一一日　深良用水使用ニ関スル契約ノ件……八七八
二二五　大正　二年（一九一三）　一月二七日　芦之湖水力電気株式会社との電気事業契約書……八八一
二二六　大正　二年（一九一三）　四月二一日　箱根湖用水掛新田開鑿差止申請書……八九〇
二二七　大正　四年（一九一五）　一月二五日　芦湖水利組合の成立経過……八九三
二二八　大正　四年（一九一五）　静岡県駿東郡芦之湖普通水利組合規約……八九四
二二九　大正　七年（一九一八）　六月一四日　深良製材製函工場との契約書……九〇二
二三〇　大正　七年（一九一八）　八月二一日　国家功労者贈位詮議の通牒により完成者内申……九〇三
二三一　大正　八年（一九一九）　用水使用各社との契約書……九〇四

二三三　大正　九年（一九二〇）　八月　九日　東京電燈株式会社との電気事業契約書……九二三
二三三　大正一三年（一九二四）　七月二一日　芦湖々水敷地占用並ニ工作物設置許可ノ申請……九二六
二三四　大正一四年（一九二五）　四月一七日　湖水水位維持につき東京電燈保証書……九三〇
二三五　大正一四年（一九二五）　九月　二日　芦之湖水利組合東京電燈会社へ田面旱魃損害賠償請求書……九三一
二三六　大正一四年（一九二五）　大正一四年度旱害東京電燈会社ニ対スル交渉関係記録…九三三
二三七　大正一五年（一九二六）　五月　一日　用水路より共同消火につき表彰状……九四四
二三八　昭和　三年（一九二八）　二月二五日　昭和二年芦ノ湖水位減少のため大旱魃報告……九四五
二三九　昭和　四年（一九二九）　二月一九日　大正一四年から昭和三年までの旱害報告……九四六
二四〇　昭和　七年（一九三二）　一月二〇日　東京電燈灌漑用水貯水保証書……九四七
二四一　昭和一二年（一九三七）　二月二二日　芦之湖水利組合水配人服務内規……九四七

第四節　地域の変貌と用水

二四三　昭和二〇年（一九四五）　七月一八日　芦湖水利組合事務引継書……九五〇
二四三　昭和三〇年（一九五五）　二月一一日　駿東郡深良村外五ヶ市町村芦湖水利組合規約……九五四
二四四　昭和四二年（一九六七）　三月二〇日　河川法に基づく慣行水利権の届出書……九五六
二四五　昭和四八年（一九七三）　五月一一日　芦ノ湖の水利用について箱根町長お願い……九六三
二四六　昭和四八年（一九七三）　六月二九日　芦ノ湖の水利用について裾野市長回答……九六四

二四七　昭和五三年（一九七八）　二月　芦湖水利組合財産目録……九六六
二四八　昭和五六年（一九八一）　九月二五日　東京電力株式会社及び姫川電力株式会社との契約書……九六八
二四九　昭和五九年（一九八四）　八月　四日　静岡県芦湖水利組合規約……九六九
二五〇　昭和五九年（一九八四）　一一月一九日　芦ノ湖取水抑制について神奈川県知事要請……九七二
二五一　昭和六〇年（一九八五）　一月一六日　深良用水断水のお知らせ……九七四
二五二　昭和六二年（一九八七）　五月一六日　神奈川県との深良水門及び湖尻水門につき「覚書」……九七四
二五三　昭和六二年（一九八七）　五月一六日　芦ノ湖に関する申合せ事項……九七五
二五四　昭和六二年（一九八七）　一〇月一九日　「覚書」及び「芦の湖に関する申合せ事項」に関する確認事項……九七六
二五五　昭和六三年（一九八八）　七月　三日　芦ノ湖水神社祭典について通知……九七七
二五六　昭和六三年（一九八八）　七月一〇日　御裁許虫干会のお知らせ……九七七
二五七　平成　元年（一九八九）　一〇月　深良用水水門改修記念碑・沿革碑銘文……九七八
二五八　平成　二年（一九九〇）　一一月　神奈川県湖尻水門の由来の碑……九八一
二五九　平成　二年（一九九〇）　九月一七日　芦の湖湖尻水門操作規則……九八一

第六章　図像にみる用水

第一節　芦ノ湖と水門

二六〇　明治　六年（一八七三）
二六一　年　未　詳
二六二　年　未　詳
二六三　年　未　詳
二六四　天保　二年（一八三一）
二六五　明治三二年（一八九九）写
二六六　年　未　詳
二六七　年　未　詳
二六八　年　未　詳
二六九　年　未　詳
二七〇　天保　二年（一八三一）
二七一　年　未　詳
二七二　年　未　詳
二七三　明治三二年（一八九九）写
二七四　年　未　詳
二七五　昭和二五年（一九五〇）
二七六　年　未　詳

芦ノ湖と水門(1)……九八五
芦ノ湖と水門(2)……九九〇
水門と逆川(1)……九九〇
水門と逆川(2)……九九一
水門(1)……九九一
水門(2)……九九一
水門(3)……九九二
水門(4)……九九二
水門(5)……九九三
水門見張小屋……九九三
逆川甲羅伏せ(1)……九九四
逆川甲羅伏せ(2)……九九四
逆川甲羅伏せ(3)……九九四
上穴口と下穴口(1)……九九五
上穴口と下穴口(2)……九九五
隧道内断面実測図……九九六
下穴口……九九七

第二節　堰と用水

二七七　明治三二年（一八九九）写
二七八　年未詳
二七九　年未詳
二八〇　年未詳
二八一　年未詳
二八二　年未詳
二八三　文久　元年（一八六一）
二八四　年未詳
二八五　延享　元年（一七四四）
二八六　年未詳
二八七　延享　元年（一七四四）
二八八　文政　三年（一八二〇）
二八九　年未詳
二九〇　年未詳
二九一　明治三二年（一八九九）写
二九二　年未詳

古川と新川……九九八
発電所の位置と堰……九九八
新川(1)……九九九
新川(2)……一〇〇〇
大洞堰・かろうと堰……一〇〇〇
古堰(1)……一〇〇一
古堰(2)……一〇〇一
古堰(3)……一〇〇二
佐野堰とその水系図……一〇〇三
佐野堰(1)……一〇〇三
佐野堰(2)……一〇〇三
佐野堰(3)……一〇〇四
佐野堰(4)……一〇〇四
佐野堰(5)……一〇〇四
佐野堰と千福堰……一〇〇五
千福堰……一〇〇五

三九三　天保　二年（一八三一）
三九四　明治三二年（一八九九）写
三九五　年　未　詳
三九六　年　未　詳
三九七　年　未　詳
三九八　明治三二年（一八九九）写
三九九　年　未　詳
四〇〇　年　未　詳
四〇一　年　未　詳
四〇二　天保　二年（一八三一）
四〇三　年　未　詳
四〇四　年　未　詳

第三節　用水と生活

四〇五　延享　元年（一七四四）
四〇六　年　未　詳
四〇七　年　未　詳

瀬名沢と黄瀬川合流地点(1)……一〇〇六
瀬名沢と黄瀬川合流地点(2)……一〇〇六
富沢堰(1)……一〇〇七
富沢堰(2)……一〇〇七
富沢堰(3)……一〇〇八
大堰と三俣……一〇〇八
大堰(1)……一〇〇九
大堰(2)……一〇〇九
三俣……一〇一〇
大堰筋と境川……一〇一〇
高堰……一〇一一
惣ヶ原……一〇一一
集落と用水(1)……一〇一三
集落と用水(2)……一〇一三
深良村の消火栓配置……一〇一四

口絵図版目次

一　深良水門
二　箱根神社
三　箱根湖水組合寄進常夜燈
四　寄進世話人
五　惣ヶ原芦湖水神社
六　箱根湖水掘抜元締水仁碑（惣ヶ原芦湖水神社）
七　水神元締名（惣ヶ原芦湖水神社）
八　大庭源之丞墓碑（大庭重一氏墓地）
九　箱根湖切貫の友野与右衛門他立願状（箱根神社所蔵）
一〇　箱根湖水掘抜の友野与右衛門他手形（湯山　博氏所蔵）
一一　井組廿八ヶ村箱根湖水路村々堰々図（大庭重一氏所蔵）
一二　駿州駿東郡石脇村湖水掛絵図（石脇区有文書）
一三　深良用水三百年記念碑・現在の新川

本文図版目次

御宿村検地外の荒地開発横田村詮手形（慶長五年正月九日　湯山　博氏所蔵）……四七
大堰等間書上（寛文一一年）　柏木正男氏所蔵）……一〇〇
大庭源之丞墓碑（元禄一六年三月八日　大庭重一家墓地）……一三

本文図版目次

柏木甚右衛門覚書（表紙　天和三年正月　柏木正男氏所蔵）……一一〇
箱根掘抜畑成田出精褒美銀子請取状（寛文一二年六月五日　市川逸朗氏所蔵）……一一五
柏木甚右衛門覚書（部分　天和三年正月　柏木正男氏所蔵）……一一七
二ツ屋新田と水上村々争論につき願書・水配人取調書（明和九年三月　渡辺武彦氏所蔵）……一二六
水掛り村々争論につき検使日記覚書（安永三年一一月　大庭和彦氏所蔵）……一七九
深良村助合金反取覚（文政元年一二月九日　柏木正男氏所蔵）……一七六
御宿村人足扶持米切手（年不詳　湯山　博氏所蔵）……一五二
国役御普請出来形帳（天明元年五月　湯山匡秀氏所蔵）……一五三
箱根湖水新川通御普請内目論見帳（文政三年二月　湯山匡秀氏所蔵）……一五五
箱根湖水新川通御国役普請書上帳（文政三年八月　湯山匡秀氏所蔵）……一〇三
湖水御普請につき江戸出府・雑用入用帳（弘化三年一一月　湯山匡秀氏所蔵）……一六六
井組三郷水配人給取立帳（文政一一年一二月　市川逸朗氏所蔵）……一七二
深良町田庚申塔（寛文一〇年九月六日）……一三二
深良切久保庚申供養塔（寛文一〇年）……一三三
惣ヶ原芦湖水仁碑（正徳元年　惣ヶ原芦湖水神社）……一三四
納米里村地蔵尊（正徳元年　柏木千畝宅内）……一三五
井組二九ヶ村奉納箱根神社常夜燈（寛政三年五月　箱根賽ノ河原）……一三六
惣ヶ原芦湖水神社棟札（大正一三年一月二六日　惣ヶ原芦湖水神社）……一四四
惣ヶ原芦湖水神碑銘（年不詳　惣ヶ原芦湖水神社）……一四八

逆川事件訴訟を名古屋控訴院へ移送通知の電報（明治三〇年七月八日　静岡県芦湖水利組合所蔵）……八一六
深良用水水門改修記念碑・沿革碑銘文（平成二年一〇月　静岡県芦湖水利組合所蔵）……九七八
芦ノ湖と水門(1)（明治六年「元箱根村絵図」部分　川井　清氏所蔵）……九九一
芦ノ湖と水門(2)（年未詳「助郷関役村絵図」部分　柏木正男氏所蔵）……九九二
水門と逆川(1)（年未詳「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分　勝又重俊氏所蔵）……九九二
水門と逆川(2)（年未詳「芦ノ湖水門及逆川絵図」部分　静岡県芦湖水利組合所蔵）……九九三
水門(1)（天保二年「井組廿八ヶ村箱根湖水路村々堰々図」部分　大庭重一氏所蔵）……九九三
水門(2)（明治三二年写「深良用水御普請所絵図」部分　静岡県芦湖水利組合所蔵）……九九三
水門(3)（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分　佐野区有文書）……九九四
水門(4)（年未詳「芦ノ湖水門図」　静岡県芦湖水利組合所蔵）……九九四
水門(5)（年未詳「四ツ留水門新設設計図」　静岡県芦湖水利組合所蔵）……九九五
水門見張小屋（年未詳「四ツ留水門見張小屋附近見取図」　静岡県芦湖水利組合所蔵）……九九五
逆川甲羅伏せ(1)（天保二年「井組廿八ヶ村箱根湖水路村々堰々図」部分・大庭重一氏所蔵）……九九六
逆川甲羅伏せ(2)（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分　佐野区有文書）……九九六
逆川甲羅伏せ(3)（年未詳「芦ノ湖水門及逆川絵図」部分　静岡県芦湖水利組合所蔵）……九九六
上穴口と下穴口(1)（明治三二年写「深良用水御普請所絵図」部分　静岡県芦湖水利組合所蔵）……九九七
上穴口と下穴口(2)（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分　佐野区有文書）……九九七
隧道内断面実測図（昭和二五年一二月　志賀富士男「箱根用水の謎を解く」『科学朝日』一〇巻一二号）……九九八
下穴口（年未詳「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分　勝又重俊氏所蔵）……九九九

古川と新川（明治三二年写　「深良用水御普請所絵図」部分　静岡県芹湖水利組合所蔵）……一〇〇
発電所の位置と堰（年未詳　「放水路変更地点平面図」部分　静岡県芹湖水利組合所蔵）……一〇〇
新川(1)（年未詳　「箱根湖水井組全域絵図」部分　佐野区有文書）……一〇一
新川(2)（年未詳　「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分　勝又重俊氏所蔵）……一〇一
大洞堰とかろうと堰（年未詳　「箱根用水水論絵図」部分　柏木正男氏所蔵）……一〇二
古堰(1)（年未詳　「箱根用水水論絵図」部分　柏木正男氏所蔵）……一〇二
古堰(2)（文久元年　「御宿村絵図」部分　湯山匡秀氏所蔵）……一〇三
古堰(3)（年未詳　「箱根湖水井組全域絵図」部分　佐野区有文書）……一〇三
佐野堰とその水系図（延享元年　「佐野堰水路絵図」部分　佐野区有文書）……一〇四
佐野堰(1)（年未詳　「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分　勝又重俊氏所蔵）……一〇五
佐野堰(2)（延享元年　「佐野村堰水路絵図」部分　佐野区有文書）……一〇五
佐野堰(3)（文政三年　「石脇村湖水掛絵図」部分　石脇区有文書）……一〇六
佐野堰(4)（年未詳　「箱根用水水論絵図」部分　柏木正男氏所蔵）……一〇六
佐野堰(5)（年未詳　「箱根湖水井組全域絵図」部分　佐野区有文書）……一〇六
佐野堰と千福堰（明治三二年写　「深良用水御普請所絵図」部分　静岡県芹湖水利組合所蔵）……一〇七
千福堰（年未詳・「箱根用水水論絵図」部分　柏木正男氏所蔵）……一〇七
瀬名沢と黄瀬川合流地点(1)（天保二年　「井組廿八ヶ村箱根湖水路村々堰々図」部分・大庭重一氏所蔵）……一〇八
瀬名沢と黄瀬川合流地点(2)（明治三二年写　「深良用水御普請所絵図」部分　静岡県芹湖水利組合所蔵）……一〇八
富沢堰(1)（年未詳　「箱根用水水論絵図」部分　柏木正男氏所蔵）……一〇九

富沢堰(2)(年未詳　「富沢堰用水絵図」部分　渡辺武彦氏所蔵)……一〇九
富沢堰(3)(年未詳　「富沢村堰絵図」部分　渡辺武彦氏所蔵)……一〇九
大堰と三俣(明治三二年写　「深良用水御普請所絵図」部分　静岡県芦湖水利組合所蔵)……一一〇
大堰(1)(年未詳　「箱根用水水論絵図」部分　柏木正男氏所蔵)……一一一
大堰(2)(年未詳　「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分　勝又重俊氏所蔵)……一一一
三俣(年未詳　「箱根用水水論絵図」部分　柏木正男氏所蔵)……一一二
大堰筋と境川(天保二年　「井組廿八ヶ村箱根湖水路村々堰々図」部分　大庭重一氏所蔵)……一一二
高堰(年未詳　「箱根用水水論絵図」部分　柏木正男氏所蔵)……一一三
惣ヶ原(年未詳　「箱根湖水井組全域絵図」部分　佐野区有文書)……一一三
集落と用水(1)(延享元年　「佐野村堰水論絵図」部分　佐野区有文書)……一一四
集落と用水(2)(年未詳　「富沢村堰絵図」部分　渡辺武彦氏所蔵)……一一五
深良村の消火栓配置(年未詳　「深良村消火栓位置図」裾野市役所深良支所所蔵)……一一六
深良用水水系図……巻末折込

付図

箱根湖用水水論大絵図(安永五年　市川逸朗氏所蔵)
深良用水御普請所絵図(明治三二年写　静岡県芦湖水利組合所蔵)
蘆湖用水掛堀分反別図(年未詳　静岡県芦湖水利組合所蔵)

第一章　用水の開削



第一節　開削前の村々

一　慶長五年（一六〇〇）正月九日　御宿村検地外の荒地開発横田村詮手形

以上

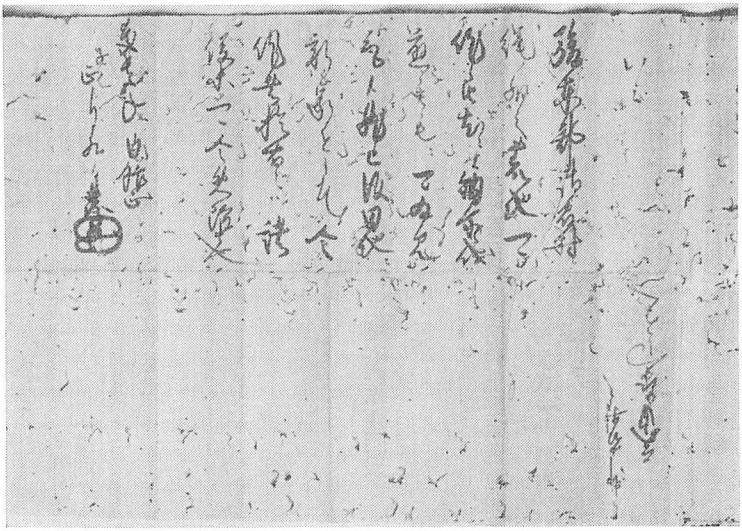
駿東郡御宿村縄ノ外之荒地可作候由尤ニ候、納所之儀応其毛ニ可為見取候、然上彼田地ニ新家をたて令作者於有之ハ、諸役等可令免除者也

慶長五年
子正月九日

内膳正
村詮（花押）

御宿村之
宮内左衛門とのへ

（裾野市御宿　湯山　博氏所蔵）



二　（一六〇一）（慶長六年）八月五日　御宿村検地外の荒地開発某対馬守手形

已上

駿東郡御宿村縄之外之荒地可作候由尤ニ候、納所之儀応其毛ニ可為見取候、然上彼田地ニ新家をたて令作者於有之ハ、諸役等可令免除者也

丑八月五日　　対馬守（花押）印

御宿村之宮内左衛門

（裾野市御宿　湯山　博氏所蔵）

三　（一六一九）元和五年九月二六日　本宿新田開発今宮惣左衛門達書

本宿新田之儀、其方ニ申付候間、三年者作取ニさせ可申候、口用之儀者無利ニ借シ并役等屋別之儀者永ク可令免許候、其上きも（肝煎）入免ニ屋敷壱間出し可申候間、才覚候而為開可被申候、仍如件

元和五年　　未九月廿六日　　今　惣左㊞

本宿

久左衛門殿

（長泉町　高田悦子氏所蔵）

四　（一六四七）正保四年一一月二三日　御宿村上野原荒地開発願書、野村彦太夫代裏書

御訴訟申上候事

一御宿村之内上野原・かミあらい・とうかうそうり三ケ所ニ而三拾九石余之永荒、先年ゟ之御割付ニも荒ニ立申候ニ付、此跡今宮惣左衛門殿御代ニ、我等親六郎右

以上

衛門御訴訟申上、彼地を切発御　公方へ御納所可致之
由申上候ニ付、則惣左衛門殿ゟ御証文を被下、彼地之
内弐ヶ所ハ人居近所之義ニ御座候ニ付而、先弐ヶ所ヲ
切発候へ由御証文被下候ニ付而、我等親彼地ヲ切発
御　公方へ御納所仕、其上三拾九石之荒地之御役をも
勤申候所ニ　大納言様御代ニ御宿村小給人ニ渡り候所
ニ、彼地をも本田同事ニ御取ヶ被仰付候ニ付、荒発之
場ニ御座候得ハ、本田なミニ御納所不罷成、彼地を捨
我等親六郎右衛門牢人仕候、只今我等兄弟とも数多御
座候へハ、先々ゟ之名田ハ持不申候、何共身上すき可
申様も無御座候間、今宮惣左衛門殿被下候御証文之通
り只今御訴訟申上候、此上ハ拙者共勢力次第彼地切発、
御宿村永荒三拾九石余を只今ゟ御役を勤、以来ハ御見
立次第ニ御年貢御納所可申上候間、右弐ヶ所拙者共ニ
被仰付可被下候、為其御訴訟申上候、以上

正保四年亥十一月廿三日

金沢村
七左衛門　印
同
八左衛門　印

御代官様

右表書之通、御宿村高之内上野原・かミあらい本田荒地
之内、此跡今宮惣左衛門殿御代ニ六郎右衛門開可申由ニ
て、惣左衛門殿ゟ証文を取令開発候所ニ、大納言様御代
ニ彼地を捨置、其時分ゟ于今荒候所ニ御宿村之もの荒地
ニ諸役仕候義迷惑之由兼々申候、幸此度其方両人親之見
立之場ニ候間、荒高三拾九石余之諸役ヲ致、彼地ヲ開可
申由訴訟状上候間、右弐ヶ所之荒地早々開可申候、御物
成之儀ハ以来見分之上可申付候、為後日うら書、仍如件

正保四年亥十一月廿三日

野村彦太夫代
小藤善兵衛　印
藤田長右衛門　印
玉井庄左衛門　印

（裾野市御宿　湯山　博氏所蔵）

五　慶安三年（一六五〇）八月二八日　大畑村他五ヶ村山林・古跡・用水等書上

大畑村　　金左衛門

一居村ゟ愛鷹山下野草苅場へ壱里、薪取場へ弐里拾五町御座候

一同村田地之用水ハ山出水かゝりニ而御座候

一百姓林長八拾間・横五拾間かまかりニて御座候

千福村　　太兵衛

一居村ゟ愛鷹山下野草苅場へ壱里、薪取場へ弐里拾町御座候、田地之用水ハ木瀬川井かゝり御座候

一同村古城東西百八拾間、南北へ百弐拾間、東西南三方ハ川、北ハからほり、大手の口ハ南からほり壱重御座候、是ハ小田原氏猶直様之衆松田入道の御取たてニ而御座候、其後七拾年以前ニ普明寺屋敷ニ罷成候者、子ノ年ゟ御当代御　朱印御座候寺領拾三石弐斗五升御座候

一同村拾弐社権現ノ宮、是ハ富士峯山伏衆五日之護摩之場、田方壱石弐斗　前々ゟ山伏免有

一百姓林たて弐町横五拾間かまかりニて御座候

葛山村　　伝右衛門

一居村ゟ愛鷹山下野草苅場へ三拾町御座候、薪取場へ弐里ニ而御座候、田地之用水ハ出水ニて御座候

一同村仙年寺ニ御当代之御　朱印御座候、寺領拾三石弐斗七升者丑ノ年ゟ御座候

一同村古城ハ鎌倉之御代より甲州之しんけん様御代迄葛山殿と申御城代御座候、其後九拾年以前ニ落居致候、西北ハからほり壱重、東ハからほり二重、大手ハ南水ほりニて御座候

一同村百姓林立（経）五町横壱町拾間御座候

御宿村　　次左衛門

一居村ゟ大野草苅場へ壱里御座候、愛鷹山薪取場へ弐里拾五町御座候、田地之用水木瀬川井かゝりニ而御座候

一御林長百間横五拾間、但大和竹御座候、たゝし二ヶ所

一同村百姓林長八拾間よこ五拾間かまかりニて御座候
上ケ田村　五兵衛
一居村ゟ大野草苅場へ弐拾町、愛鷹山薪取場へ弐里拾町
御座候、田地之用水ハ出水ニて御座候
一同村百姓林長壱町よこ弐拾間かまかりニ而御座候
金沢村　半兵衛
一居村ゟ大野草苅場へ拾五町、愛鷹山薪取場へ弐里八町
御座候、田地之用水ハ出水ニ而御座候
一同村浅間之宮、是ハ富士峯山伏衆二夜三日之護摩之場、
田方壱石弐斗前々山伏免御座候
一同村百姓林長三町よこ五拾間かまかりニて御座候
慶安三年
寅ノ八月廿八日
（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

六　万治三年（一六六〇）～寛文六年（一六六六）　御宿村年貢米金皆済目録、野村彦太夫裏書

亥ノ御年貢米金皆済目録
一米七拾三石弐升四合　本途
内
五石七升八合　上野原
一米五石六斗弐升弐合　亥ノ改出シ
一米五斗九升者　山手役
米合七拾九石弐斗三升六合
右者亥ノ年御年貢米金浮役御割付之通并口米共ニ無未進
相納、払札を以御手代衆へ致勘定皆済申所紛無御座候、
此外壱合壱銭相納不申候、出入無御座候、以上
万治三年
子ノ極月　御宿村
庄屋　半右衛門㊞
同　権兵衛㊞

同　治左衛門㊞
組頭　甚右衛門㊞
上野原　七左衛門㊞

野村彦太夫様

（裏書）
表書之米割付之辻并口米無未進相納目録、手代改之上、
皆済状如此候、以上

野彦太夫㊞

寅之年御年貢米金皆済目録

一米六拾九石四斗弐升七合　本途
内
四石七斗八升者　上野原
一米五石五斗六升六合　亥ノ改出シ
一米五斗九升者　山手役
米合七拾五石五斗八升三合

右者寅之年御年貢米金浮役御割付之通并口米共ニ無未進相納、払札を以御手代衆へ致勘定皆済申所紛無御座候、此外壱合壱銭相納不申候、出入無御座候、以上

寛文三年
卯ノ極月　御宿村

庄屋　半右衛門㊞
同　権兵衛㊞
同　治左衛門㊞
組頭　甚右衛門㊞
上野原　七左衛門㊞

野村彦太夫様

（裏書）
表書之米割付之辻并口米無未進相納、目録手代改之上、
皆済状如此ニ候、以上

野彦太夫㊞

卯ノ御年貢米金皆済目録

一米七拾三石七斗八升者　本途

内

四石壱斗八升三合　上野原

一米四石五斗七升七合　亥ノ改出シ

一米五斗九升者　山手役

米合七拾八石九斗四升七合

右者卯之年御年貢米金浮役御割付之通并口米共ニ無未進相納、払札を以御手代衆へ致勘定皆済申所紛無御座候、此外壱合壱銭相納不申候、出入無御座候、以上

寛文四年

辰ノ極月　御宿村

庄屋　半右衛門㊞

同　権兵衛㊞

同　治左右衛門㊞

組頭　甚右衛門㊞

上野原　七左衛門㊞

野村彦太夫様

（裏書）表書之米割付之辻并口米無未進相納、目録手代改之上、皆済状如此ニ候、以上

野彦太夫㊞

巳ノ御年貢米金皆済目録

一米七拾五石九斗七升六合　本途

内

五石九斗七升五合　上野原

一米六石壱斗五升七合　亥ノ改出シ

一米五斗九升ハ　山手役

米合八拾弐石七斗弐升三合

右者巳之年御年貢米金浮役御割付之通并口米共ニ無未進相納、払札を以御手代衆へ致勘定皆済申所紛無御座候、此外壱合壱銭相納不申候、出入無御座候、以上

寛文六年

午ノ極月　御宿村

庄屋　半右衛門㊞

同　権兵衛㊞
同　治左衛門㊞
組頭　甚右衛門㊞
上野原　七左衛門㊞

野村彦太夫様

（裏書）
表書之米割付之辻并口米無未進相納、目録手代改之上、皆済状如此ニ候、以上

野彦太夫㊞

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

七　寛文二年（一六六二）九月　本宿村日損場開作年貢納入につき訴書

御訴訟申上候事

一本宿村日損場ニ而御座候ニ付、六拾年以前之卯之年天野三兵衛（三郎兵衛）様御知行所之時、穴せき御普請之儀被仰付被下候様ニと御訴訟申上候得者、御普請場御見分之上人足被仰付被下候へ共、他所之人足穴せきへはいり堀申儀不罷成候、殊ニ油たいまつ入用ニ御座候ニ付、所之人足ニ而堀候へと被仰付、則せき免として水帳之内之荒間拾石御引　御証文被下候得共、悪地之場ニ而御座候得者近年まて作毛仕付不申候ニ付、穴せき破損致御普請仕候時ハ、御見分之上人足御扶持方申請候、然共五六年以前ゟ右之荒間大方開作も仕付申候間、少つゝハ年貢をも被仰付可被下候、為其御訴訟申上候、以上

寛文弐年
寅ノ九月

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

第二節　開削の発願

一諸神法楽　　毎日可勤者也

右精誠之意趣者、信心之旦那今度湖切貫新田企所願成就如意満足祈所、右為祈禱領新田之内ニ而弐百石之所、永代　御神領可令奉納者也、仍願書如件

寛文三年卯ノ二月十三日　　江戸浅草　友野与右衛門㊞　重之

相模坂間　宮崎市兵衛㊞　次宗

江戸日本橋　松村浄真㊞

箕根山御宝前　　別当快長敬白

（神奈川県箱根町　箱根神社所蔵）

八　寛文三年（一六六三）二月一三日　箱根湖切貫新田開発につき友野与右衛門他立願状

欽白立願状之事

箱根大権現御本地供

東照大権現御本地供

一文殊秘法　　毎日可修行者也

一弥勒秘法　　毎日可修行者也

一観音秘法　　毎日可勤之者也

一薬師秘法　　毎日可修之者也

一五所王子　　毎日心経可読誦也

一不動護摩　　毎月可修行者也

九　寛文六年（一六六六）四月一三日　箱根湖水堀抜願書幕府記録

寛文六丙午年四月十三日　裏書有之

箱根湖水堀抜願

御厨領新田請負之手形写

稲葉美濃守殿領分

新田成就之上拾五分一、未之分可被下候事

江戸浅草

友野与右衛門

江戸四ツ谷塩丁

長濱半　兵衛

江戸本船町

尼崎加右衛門

江戸霊岸島

浅井次郎兵衛

（太田南畝「竹橋余筆」）

一〇　寛文六年（一六六六）四月一三日　箱根湖水掘貫につき友野与右衛門他三名手形

差上申手形之事

一　今度箱根湖私共自分ノ以入目駿河戸山堀抜、御厨并ニ沼津御領所へ水取新田・畑成田出来仕、日損田へ水掛リ可申由、御訴訟申上候処、望ノ通リ被仰付難有奉存候事

一　水海ノ水堀貫、巾六尺高サ三尺堀抜水通リ可申候、若湖ノ水落通候ハヽ、海尻ノ水関留可申候間、湖ノ水ハ少シモガサ減申間敷様奉存候事

一　絵図面ニ仕差上申候新田場、高七千石程モ有之ニ御座候間、百姓仕付ノ儀其所其村ノ地主ニ為作可申候、尤相談ノ上其掛リ分限ニ為開可申候間、余リ候分ハ私共手作又ハ外ヨリ百姓呼仕付可申事

一　万事御仕置ノ儀ハ新田百姓・私共ニ至ル迄、古来ノ御百姓並ニ如何様ニモ可被仰付候、少モ相背申間敷候事

一私共開申候田地ハ、御水帳ニ私共名ヲ御附ケ可被下候、外ノ者共開候分ハ、其者ノ名ニ可被成御付候事

一湖ノ水掛ケ出来仕候新田、私共開候分ハ七年ノ内作リ取ニ可被成候、外ノ者共開候新田モ、地主相対ニテ七年ノ内上穀私共取可申候ニ付、五年ノ内開候分ハ其開発ノ年ヨリ七年、右ノ通リ作リ取ノ仰付可被下候、勿論五年過開候分ハ少モ構申間敷候事

一下土狩村・竹原村・岩波村三ケ所ノ日損田七十町余可有之御座候由、此分ハ水掛リ日損不仕候ハヽ、一ケ年上田一反ニ米一斗九升・中田一反ニ米一斗五升・下田一反ニ米一斗一升ツヽ七年可被下候、但シ其年ハ出来ニ応シ右ノ通リ可被下候事

一畑ノ田ニ成候分ハ、上田一反ニ米二斗・中田一反ニ米一斗七升・下田一反ニ米一斗四升ツヽ、是又七年可被下候、尤日損仕一切御取上無之候ハヽ、私共取申間敷候事

一畑ノ田ニ成候所、村々ヨリ下所ニテ出来悪敷候場ハ、御立合被成御取付被仰付、右上地ノ畑ニ成田前積リ入割ニ上穀可被下候事

一御水帳ニ無之所ハ新田高ニ御入可被下候、尤モ御水帳ニ付申候野畑新畑迄モ、畑成田ニ御入可被下候事

一新田成就仕候ハヽ、十五分ノ一、末々迄御領地ノ内ハ可被下候事

一堀抜入用ノ雑木入次第可被下候、商売木ニハ少シモ伐申間敷候、場所ノ儀ハ御差図次第何方ヨリモ伐可申候事

一堀抜成就仕水掛リ候以後破損御座候ハヽ、七年ノ内私共方ヨリ修覆可仕候、其後ハ水掛リ中村ノ高割ニ仕候様ニ被仰付可被下候、沼津御領所ヨリノ一同証文為仕差上可申事

右ノ通リ少シモ違背仕間敷候、損金大分ニ御座候共一言ノ御歎不申上候、総テ何事ニ不依右定メノ外、以後訴訟ケ間敷儀一切仕間敷候、為後日手形差上申候、依テ如件

寛文六丙午年四月十三日

友野与右衛門
長濱半兵衛
尼崎嘉右衛門
浅井次郎兵衛

井上権兵衛殿
柳　吉左衛門殿
川北長左衛門殿

駿州御厨御代官中

右、駿河戸山堀貫箱根湖ノ水、御厨領へ取リ新田於出来ハ、相定表書ノ通リ相違有之間敷者也

寛文六丙午年四月十三日

真鍋伊兵衛
稲葉酒之丞
稲　葉　伊　織
田辺権太夫

江戸浅草　友野与右衛門
江戸四ツ谷　長濱半兵衛

江戸本舟町　尼崎嘉右衛門
同　浅井次郎兵衛

（『箱根湖逆川訴訟事件ニ関スル書類』
静岡県芦湖水利組合所蔵）

二　寛文六年（一六六六）五月一七日　箱根湖水掘抜につき友野与右衛門他三名手形、野村彦太夫奥書

（端裏書）「沼津御領新田場書付被仰付候　名主　宮内左衛門」

差上申手形之事

一今度箱根湖、私共自分之以入目駿河戸山堀抜、御厨領・沼津領江水を取、新田・畑成田出来仕、日損田へ水懸可申由、御寄合江度々御訴訟申上候処、望之通被仰付難有奉存候事

一湖之水堀抜、はゝ（幅）六尺・高サ三尺ニ仕水通可申候、若湖之水落過申候ハヽ、海尻之水せき留可申候之間、湖水ハ少茂かさへり申間敷様ニ奉存候事

一　右之用水、沼津領之内水下之村々日損場へ、応其村々ニ水懸させ可被成候、日損所用水場ニ成候にも、畠之田ニ成候ニも上穀取申間敷候、一切構申間敷候事

一　絵図仕指上申御蔵入之新田場、高千石程も可有御座候、開百姓仕付候儀、私共名田ニ仕、居住致シ可申候間、拙者共之分者手前ニ而開立可申候、新田場三分一之積り、其所其時々の名主・百姓中にも、応分限開せ可申候、我等共開候田地者、御水帳ニ私共之名を御付可被下候、外之者共開候分者、其者之名可被成御付候、諸事御支配方御差図次第ニ可仕候事

一　右之新田、来未ノ年ゟ亥の年迄五ヶ年之内ニ開発可仕候、来未之年ゟ酉の年迄拾五ヶ年之間、作取ニ可被下候、外之者新規ニ開候分者、来未ノ年ゟ亥ノ年迄五年之内、地主与相対ニ而、酉ノ歳迄拾五年之内、上穀私共取可申候事

一　右之新田、来未之年ゟ六年目子之年、御縄を可申請候、其節迄ニ開不申候所者、何方之者にも御開せ可被成候、来未ノ年ゟ拾五年過拾六年目、戌ノ年ゟ御年貢相納御役勤可申候事

一　御蔵入之分、上野原・どうかうぞうり新田、此跡百姓衆罷出開候田地、又者居屋敷廻りかこひ置候分并三ヶ村田畑少宛開置候処ニ、只今迄御改無之所ニも拙者共構申間敷候事

一　堀貫成就仕水懸候以後破損御座候者、七年之内者私共方ゟ修覆可仕候、其以後者水懸候村々田地之高割ニ仕候様被仰付可被下候、御厨領ゟも一同ニ証文致させ指上可申候事

一　万事御仕置之儀者、新田百姓・私共ニ至迄、古来之御百姓並ニ如何様ニも可被仰付候、少茂相背申間敷候事

右之通、御請負申上候趣、少茂違背仕間敷候、縦損金大分御座候共、一言之御歎不申上、惣而不依何事、右御定之外を以後ニ訴訟ヶ間敷儀、一切申上間敷候、為後日手形如此ニ御座候、以上

友野与右衛門

寛文六丙午年五月十七日　　長濱半兵衛
尼崎加右衛門
浅井次郎兵衛

前書之通箱根水海堀抜、御厨領・沼津領御蔵入日損場之用水ニ仕、其上新田仕立申度由、御公儀江度々御訴訟申上候ニ付、御蔵入方ニ障無之哉と御尋ニ付、請負之者相定ヶ様ニ手形為致申候、右之水無相違参候へハ、日損場本田之用水ニ罷成、新田も少者出来可仕候、御蔵入方左右ヶ原之内新田場何之障も無御座、来未ノ年ゟ酉ノ年迄拾五ヶ年、御年貢御役御赦免、拾六年目戌ノ年ゟ御年貢御納所可申付候、御訴訟之者手前入用ニ而諸事御普請仕立、七年之内者破損修覆迄可仕旨御請負致候間、被仰付可然奉存候、以上

寛文六年午五月廿八日　　野村彦太夫　在判

御勘定所

（裏書）
表書之通何之障も無之由ニ候、弥遂穿儀於無相違者可被申付候、断ハ本文有之、以上

午ノ五月廿八日　　岡豊前
妻彦右衛門

野村彦太夫殿

（裾野市御宿　湯山　博氏所蔵）

三　寛文六年（一六六六）五月一七日　箱根湖水掘抜につき、友野与右衛門他三名手形、野村彦太夫奥書

差上申手形之事

一今般箱根湖、私共自分ノ以入目ヲ駿河戸山堀抜、御厨領・沼津領へ水ヲ取、新田・畑成田出来仕、日損田へ水掛ケ可申由、御寄合へ御訴訟申上候処、望ノ通リ被仰付難有奉存候事

一湖水ノ堀抜、幅六尺・高サ三尺ニ仕水通シ可申候、若湖ノ水落通申候ハヽ、海尻ノ水セキ留可申候間湖水ハ少モカサヘリ申間敷様ニ奉存候事

一右之用水、沼津領之内水下之村々日損場へ、応其村々ニ水かけさせ可被成候、日損所用水場ニ成候にも、畑之田ニ成候にも、上穀取申間敷候、一切構申間敷候事

一絵図仕指上申候御蔵人之新田場、高千石程も可有御座候、開百姓仕付候義私共名田ニ仕、居住いたし可申候間、拙者共之分者手前ニ而開立可申候、新田場三分一之積り、其所其村々名主・百姓中にも応分限開かせ可申候、我等共□(開候)田地者、御水帳ニ私共之名を御付可被下候、外之者共開候分者、其者之名御付可被成候、諸事御支配方御指図次第ニ可仕候事

一右之新田、来未ノ年ゟ亥ノ年迄五ヶ年之内開発可仕候、未ノ年ゟ酉ノ年迄拾五ヶ年之間作取ニ可被下候、外之者新規ニ来未年ゟ亥ノ年迄五ヶ年之内開候分、地主と相対ニ而酉ノ年迄拾五ヶ年之内、上穀私共取可申候事

一右之新田、来未ノ年ゟ六年目子ノ年御縄を可申請候、其節迄ニ開不申候所ハ、何方之者ニも御開かせ可被成候、来未ノ年ゟ拾五年過拾六年目、戌ノ年ゟ御年貢相納御役勤可申候事

一御蔵入之分上野原とうかうそうり新田、此跡百姓衆罷出開候田地、又ハ居屋敷廻りかこい置候分并三ヶ村ゟ田畑少宛開置候所、唯今迄御改無之所ニも拙者共構申間敷候事

一堀抜成就仕水かけ候以後破損御座候ハヽ、七年之内ハ私共方ゟ修覆可仕候、其以後者水かけ申候村々田地之高割ニ仕候様ニ被仰付可被下候、三くり(御厨)屋領ゟも一同ニ証文いたさせ指上ケ可申候事

一万事御仕置之義者、新田百姓・私共ニ至迄、古来之御百性並ニ如何様ニも可被仰付候、少も相背申間敷候事

右之通、御請負申上候趣少も違背仕間敷候、縦損金大分御座候共、一言之御歎不申上、惣而不依何事ニ、右御定之外を以後ニ訴訟ケ間敷義、一切申上間敷候、為後日手形如此ニ御座候、以上

寛文六丙午五月十七日

浅草町
友野与右衛門㊞

四谷塩町　長濱半兵衛　判
本船町　尼崎加右衛門　判
霊岸嶋　浅井次郎兵衛　判

野村彦太夫様

前書之通箱根湖堀抜、御厨領・沼津領御蔵入日損場之用水ニ仕り、其上新田仕立申度由、御公儀へ度々御訴訟申上候ニ付、御蔵入方ニ障無之哉と御尋ニ付、請負之者相定ケ様ニ手形為致申候、右之水無相違参候得者、日損場本田之用水ニ罷成、新田も少ハ出来可仕候、御蔵入之方そうか原之内新田場何之障も無御座候、来未之年ゟ酉之年迄拾五ヶ年御年貢御役御赦免、拾六年目戌之年ゟ御年貢御納所可申付候、御訴訟之者手前入用ニ而諸事御普請仕立、七年之内者破損修覆迄可仕旨御請負致候間、被仰付可然奉存候、以上

寛文六年　　野村彦太夫　判
午五月廿八日
御勘定所

表書之通何之障も無之由ニ候、弥被遂僉議於無相違者可被申付候、断者本文有之、已上

午五月廿八日　　岡豊前　判
妻彦右衛門　判

野村彦太夫殿

（神奈川県箱根町　川井　清氏所蔵）

注、冒頭二カ条は前欠のため『箱根湖逆川訴訟ニ関スル書類』により補足

一三　寛文六年（一六六六）七月一八日　箱根湖水掘抜につき発企人大庭源之丞への指入証文

指入証文

一今度箱根湖水ノ水駿河戸峠ヲ堀抜、深良村山中堀割御厨領へ水引、新田相開キ可申事、貴殿草分ケ御手引ニ付、私共自費ヲ以テ普請仕度、御公儀様始メ御代官様方へ願立、再度御見分ノ上、弥々今度御聞済ニ相成、

水掛リ村々儀モ相談行届、然ル上ハ来ル八月二十五日
ヨリ相始申度、就テハ是迄貴殿百端(ママ)御苦労相掛ケ、地
方不弁私共御差図相随ヒ御厚実ノ段、何共忝、此普請
出来候上ハ、村々ヨリ私共へ上リ米ヲ以テ、年限中御
恩謝トシテ、年々上米五石宛貴殿方へ相納申度候間御
聞済被下度、元〆四名連印ヲ以テ証文差上置候、依テ
如件

寛文六年七月十八日

江戸浅草
元〆　友野与右衛門　印
江戸四ツ谷
同　長濱半兵衛　印
江戸本舟町
同　尼崎嘉右衛門　印
同　所
同　浅井治郎兵衛　印

駿河国御厨深良村

御発起　大庭源之丞殿

（『箱根湖逆川訴訟事件ニ関スル書類』
静岡県芦湖水利組合所蔵）

第三節　開削工事の施行

一四　寛文九年（一六六九）一〇月　下せき普請場目録

戌之春下せき御普請場之目録

一長三拾間（横四尺 高三尺）　せき石取付芝
一長拾五間　溝芝土手
一長弐百五拾間　溝さらい付芝
一芝百駄　溝付芝

寛文九年
酉十月

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

一五　寛文一一年（一六七一）三月一七日　茶畑村新堀間数書上

指上申新堀間数之事

一七百三拾間　うち堀
　内
四拾七間　やふ之内
百三拾間　古川
五百五拾三間　畑之内
右ハ麦塚境ゟ瀧頭まて横壱間半可仕候
一千百六間　中堀
　内
百六拾三間　やふ之内
六百拾壱間　畑之内
三百三拾弐間　公文名村之内
内三拾間　いなり森之内
三百弐間　畑之内
右ハ麦塚境ゟ公文名村之内迄横弐間可仕候
一九百八間　大堀
　内
三拾間　やふ之内

七拾六間　　岩有之
八百弐間　　畑之内
右ハ伊豆嶋田上ゟ公文名村境迄横三間可仕候
寛文十一年　　茶畑村
亥三月十七日
小山源兵衛様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一六　寛文一一年三月一九日　亥ノ年新川普請人足帳（一六七一）

（表紙）
寛文十一年　　公文名村
亥ノ年新川普請人足帳
三月十九日　茶畑□　□

一三月廿□瀧頭半兵衛出申候
一四月朔日中尾助左衛門出申候
一四月三日同組父左衛門出申候
一四月六日同組与右衛門出申候
一四月七日同組文右衛門出申候

亥ノ三月十九日川尻ゟ堰原まて横三間之川

一拾六人　神山○
一弐人壱人　岩波○
一弐拾六人　深良○
後六人
一拾人□　□人　久根○
一拾人壱人　公文名○
一弐拾壱人四人　茶畑○
一七人　麦塚○
一拾□　□　伊豆嶋田○

□
□　出申候

□　□
□　□
一三□　□
一七人壱人
一拾七人
一九人
一□人
〆百六拾九人

三月廿日
一拾四人
一三人
一弐拾七人五人
一拾弐人
一拾人
一拾六人五人
一六人壱人
一拾人

□(右)脇○
□(佐)野○
水窪○
上土狩○
下土狩○
竹原○

同筋
神山
岩波
深良
久根
公文名
茶畑
麦塚
いつ嶋田

□　□
□　□
□　□
□　□
□　□
□　□
一五人
一六人
一四人
一三人
一弐人
一弐人
一四人
〆百九拾七人

三月廿一日

水窪
上土狩
下土狩
竹原
佐野
石脇
萩原
くミ沢
中山
沼田
二子
杉名沢
下和田
今里
川嶋田

同筋

一人足拾五人
内壱人名主
一人足弐人
一人足三拾人
一人足拾壱人
内壱人名主
一人足拾人
一人足弐拾壱人
壱人
一人足七人
内壱人名主
一人足拾弐人
□名主
□□□□
□□□□
□□人
一人足□人

神山
岩波
深良
久根
公文名
茶畑
麦塚
い□(つ)嶋田
中山
大坂

一人足六人
一人足□人
一人足三人
一人足拾人
一人足弐人
一人足弐人
一人足弐人
一人足三人
一人足五人
一人足五人
一人足拾三人
一人足三人
一人足壱人
一人足拾人
〆弐百四十九人
三月廿二日者雨ふり
三月廿三日

新橋
印野
西田中
くミ沢
長塚
下和田
今里
中清水
陣場
川嶋田
萩原
沼田
杉名沢
中畑

一人足拾四人
内壱人名主
一人足弐人
一人足四拾壱人
一人足拾壱人
内壱人名主
一人足三人
一人足七人
一人足四人
弐拾三人
一人足八人
一人足四人
一人足六人
一人足九人
一人足弐人
一人足四人
一人足弐人

神山
岩波
深良
久根
水窪
上土狩
下土狩
竹原
石脇
佐野
茶畑
公文名
川島田
くミ沢

一人足三人
一人足三人
一人足六人
一人足壱人
一人足弐人
一人足弐人
一人足三人
一九人
百六十九人
〆百六拾三人（七十弐人 九十五人）
三月廿四日
一拾三人
内壱人名主
一弐人
一三拾弐人
一拾壱人
一七人
内壱人名主

西田中
萩原
中山
新橋
下和田
今里
くミ沢
いつ嶋田

岩波
深良
久根
麦塚

一七人　上土狩
一弐人弐人　水窪
一弐拾九人　下土狩
一九人　竹原
内壱人名主
一拾四人　佐野
一四人　石脇
一四人弐拾三人〃〃〃　茶畑
一拾人　伊豆嶋田
一弐人九人〃〃　公文名
一弐人　下和田
一六人　くミ沢
一五人　中畑
一四人　板妻
一五人　駒門
一弐人　今里
一四人　萩蕪

一三人　沼田
一三人　中清水
一四人　中山
一五人　長塚
一弐人　杉名沢
一三人　西田中
一五人　川嶋田
一五人　新橋
一拾壱人　萩原
〆弐百四拾三人十七人〃〃〃
三月廿五日
一四人　石脇
一拾壱人　佐野
内壱人名主
一九人　竹原
内壱人名主
一弐拾七人　下土狩

一七人　上土狩
一拾壱人　久根
一三十八人　深良
一三人　岩波

内壱人名主

一拾弐人　神山
一三人　茶畑
一弐拾人　公文名
一弐人　いつ嶋田
一九人　麦塚
一五人　新橋
一拾人　沼田
一三人　今里
一弐人　中畑
一五人　川嶋田
一五人　くミ沢
一八人　西田中
一三人　印野
一拾壱人　萩原
一六人　中山

内壱人名主

〆弐百拾人
百八十四人
三月廿六日
一拾三人　神山

内壱人名主

一弐人　岩波
一三拾三人　深良
一拾壱人　久根
一九人　いつ嶋田
一七人　上土狩
一弐拾七人　下土狩
一拾弐人　佐野

内壱人名主

一四人	石脇	一弐人		
一九人	竹原	〃九人		
内壱人名主		一壱人	公文名	
一三人	駒門	百八十三人	水窪	
一弐人	今里	〃九人		
一五人	中畑	弐百拾五人		
一八人	くミ沢	三月廿七日		
一六人	川嶋田	一拾三人	神山	
一四人	西田中	内壱人名主		
一三人	萩原	一壱人	岩波	
一弐人	下和田	一三拾弐人	深良	
一七人	中山	一拾壱人	久根	
一弐人	萩薗	内壱人名主		
一四人	大坂	一九人	いつ嶋田	
一四人	茶畑	一拾三人	佐野	
一弐拾壱人 三人	麦塚	一四人	石脇	
〃〃〃		一弐拾七人	下土狩	
一六人		一七人	上土狩	
〃		一七人	中山	

内壱人名主

一五人　川嶋田
一四人　西田中
一弐人　今里
一壱人　萩蕪
一八人　くミ沢
一四人　萩原
一五人　中畑
一弐人　中清水
一三人　沼田
一弐人　下和田
一三人　陣場
一三人　印野
一三人　杉名沢
一六人　〃　〃　麦塚
一弐拾弐人　三人　〃　〃　〃　〃　茶畑
一九人　弐人　〃　〃　〃　〃　公文名

一九人　竹原
〆　百八十三人　九人　〃　〃　弐百拾五人　〃　〃　〃　〃　〃
三月廿八日
一拾壱人　久根
一四人　石脇
一拾壱人　佐野

内壱人名主

一三拾人壱人　深良
一弐拾七人　下土狩
一九人　竹原
一弐人　岩波
一拾三人四人　神山
一七人　上土狩
一九人　いつ嶋田
一六人　〃　〃　麦塚
一弐人　弐拾壱人　〃　〃　〃　〃　茶畑

一弐人	公文名	一拾壱人	佐野
一六人	中山	内壱人名主	
一弐人	西田中	一四人	石脇
一三人	くミ沢	一三人	水窪
一三人	沼田	一三拾人	深良
一弐人	駒門	一弐人	岩波
一三人	陣場	一八人	神山
一五人	中畑	内壱人名主	
一拾人	萩原	一拾壱人	久根
一弐人	川嶋田	内壱人名主	
一弐人	下和田	一弐拾七人	下土狩
一弐人	萩原	一九人	竹原
一壱人	今里	内壱人名主	
一壱人	印野	一八人	茶畑
一壱人	板妻	一六人	麦塚
〆百七十弐人		一弐人	公文名
弐百四人		一九人	伊豆嶋田
百九十八人			
三月廿九日			
一七人	上土狩		

一六人　中山　四月朔日
一五人　中畑　一人足三人　岩波
一六人　くミ沢　一人足九人　竹原
一五人　川嶋田　一人足六人　上土狩
一三人　西田中　一人足三拾六人　深良
一拾弐人　萩原　一人足拾人　佐野
一弐人　今里　内壱人名主
一弐人　下和田　一人足四人　石脇
一弐人　萩蕪　一人足拾弐人　神山
一壱人　駒門　内壱人名主
一壱人　沼田　一人足拾壱人　久根
一壱人　印野　一人足弐人　水窪
一壱人　杉名沢　一人足弐拾八人　下土狩
一壱人　陣場　四月朔日
一壱人　板妻　一八人　中山
〆　百八十人　六人　弐百十弐人　一四人　川嶋田
一壱人　杉名沢

一九人　くミ沢　一三人　石脇
一三人　大坂　一拾人　久根
一四人　沼田　一弐拾三人四人　下土狩
一弐人　今里　一拾人壱人名主〃〃〃〃〃〃　久根
一五人　中畑　一七人　上土狩
一四人　西田中　一九人　竹原
一弐人　下和田　一九人弐人　公文名
一拾三人　萩原　一弐人　水窪
一四人　長塚　一六人〃〃　麦塚〃〃
一九人　いつ嶋田　一六人弐拾五人〃〃〃〃　茶畑
一弐人九人〃〃　公文名　一七人　中山
一五人弐拾四人〃〃〃〃　茶畑　一四人　川嶋田
一六人〃〃　麦塚〃〃　一四人　西田中
〆百九十六人弐百十弐人〃〃〃〃〃　一弐人　今里
四月二日　一弐人　中清水
一三拾壱人　深良　一三人　駒門
一拾人壱人　佐野　一弐人　下和田

一弐人	板妻	一拾人	佐野	
一四人	くミ沢	一五人 弐拾四人 〃〃〃	茶畑	
一七人	沼田	一九人	伊豆嶋田	
一拾人	萩原	一九人	公文名	
一弐人	萩蕪	一壱人	水窪	
一拾人	中畑	一六人 〃	麦塚 〃	
百六十七人		一七人	沼田	
三人 〃 百九十九人 〃〃〃〃		一五人	中山	
〆弐百拾人 〃〃〃〃		一五人	西田中	
百九拾三人 〃〃〃〃		一五人	中畑	
四月三日		一四人	川嶋田	
一弐拾七人	下土狩	一六人	くミ沢	
一九人	竹原	一弐人	程沢	
一七人	上土狩	一九人	萩原	
一三拾人	深良	一弐人	杉名沢	
一拾壱人	久根	一人足三拾八人	御厨やとい	
一五人	石脇	弐百六人		

〆五人
〃弐百三拾壱人
〃〃〃〃〃
百九十九人
〃〃〃〃〃

四月四日

一拾壱人　佐野

内壱人名主

一三人　茶畑

一九人　公文名

一四人　石脇

内壱人名主

一九人　竹原

一弐拾七人　下土狩

一八人　上土狩

一弐人　水窪

一拾人壱人　久根

一弐人　杉名沢

一四人　川嶋田

一四人　西田中

一六人　くミ沢

一三人　中清水

一三人　駒門

一弐人　板妻

一五人　中畑

一弐人　今里

一六人　中山

一弐人　下和田

一拾五人　萩原

〆百五拾三人

四月五日

一七人　上土狩

一弐人　水窪

一九人　公文名

一八人　竹原

一三人　茶畑

一弐拾七人　下土狩
一八人三人　久根
一六人　中山
一四人　川嶋田
一弐人　杉名沢
一四人　西田中
一六人　萩原
一弐人　下和田
一五人　くミ沢
一五人　中畑
〆百壱人
是迄堰原前也
四月六日
是ゟゆるき橋古川也
一三人　公文名
一拾人　久根
一弐拾七文　下土狩

一九人　竹原
一八人　石脇
一五拾弐人　御厨
一弐人　水窪
一五人　上土狩
一弐人　茶畑
四月七日
一九人　竹原
一拾人　久根
一四人　石脇
一四人三人　上土狩
一五人四人　いつ嶋田
一弐人　水窪
一弐拾壱人六人　下土狩
一三人　沼田
一四人　大坂
一五人　中畑

一拾壱人　萩原　一同弐人　水窪
一六人　川嶋田　一同四人　石脇
一弐人　杉名沢　一同九人　公文名
一五人　陣場　一同拾壱人　久根
一三人　西田中　一同弐拾七人　下土狩
一弐人　下和田　一同三人　萩原
一弐人　今里　一同三人　中清水
一四人　中山　一同五人　川嶋田
一五人　長塚　一同弐人　杉名沢
一七人　くミ沢　一同三人　西田中
一弐人　同村　一同弐人　今里
一九人　公文名　一同四人　沼田
一三人　茶畑　一同五人　中畑
〆百四十壱人　一同弐人　板妻
一四月八日　くミ沢
一人足九人　竹原　一拾人　駒門
一同九人　いつ嶋田　一三人　中山
一八人

一九人　萩原　一六人　くミ沢
一弐人　茶畑　一壱人　中山
一七人　上土狩　一弐人　茶畑
百三十九人　〆五十七人
四月九日
一八人　いつ嶋田　〆弐千三百四拾三人四月朔日まて
内壱人名主　一四拾八間　三月十九日
一六人　上土狩　此人足百七拾人
一九人　公文名　一百三拾八間　三月廿日
内壱人名主　此人足百九十七人
一拾壱人　久根　一三百八拾壱間　三月廿一日
弐人
ミ
内壱人名主　此人足弐百四十九人
一五人　石脇　一弐百七十壱間　廿三日
一弐人　水窪　此人足百七拾人
一弐人　川嶋田　一百六拾五間　廿四日
一三人　萩原　此人足弐百十八人
一弐人　今里　一百九十四間　廿五日

此人足百八十八人 九十弐人〃〃〃
一三百七十弐間　廿六日
此百八十五人
一（マヽ）
此人足百八十五人
一（マヽ）　廿七日
此人足百七十三人
一（マヽ）　廿八日
此百八十壱人　廿九日
此百九十七人〃〃〃〃〃
〆五百三十九人　廿七日ゟ九日まて
此間数弐百十間
〆千七百七十九間
一百九十七人　四月朔日
一弐百拾人〃〃〃〃　四月二日〃〃〃〃
一百六拾九人　四月二日
一弐百廿五人 三拾壱人〃〃〃〃　四月三日

一百五十人　四月四日
一百廿七人　四月五日
〆八百七十四人
一百四十七間　五日分
（一丁アキ）　堰原口
〆千九百弐拾六間
（裏表紙）
一□拾九人御厨　四月五日
（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一七　寛文一一年三月一九日　亥ノ年新川普請人足帳（一六七一）

（表紙）
寛文十一年　いつ嶋田　伊右衛門
亥ノ年新川普請人足帳　公文名　茶畑平左衛門
三月十九日　□右衛門　甚右衛門事

亥ノ三月十九日ゟ
一人足拾六人　神山

内壱人名主
一人足三人
内壱人名主
一人足三拾弐人
一人足拾壱人
内壱人名主
一人足拾弐人
一人足弐拾五人
一人足七人
内壱人名主
一人足拾人
一人足四人
内壱人名主
一人足拾弐人
一人足四人
内壱人名主
一人足八人

岩波
深良
久根
公文名
茶畑
麦塚
いつ嶋田
石脇
佐野
水窪
上土狩

内壱人名主
一人足拾七人
内壱人名主
一人足九人
内壱人名主
〆百七拾人
三月廿日
一人足拾四人
内壱人名主
一人足三人
一人足三拾弐人
一人足拾弐人
一人足拾人
一人足弐拾壱人
一人足七人
内壱人名主
一人足拾人

下土狩
竹原
神山
岩波
深良
久根
公文名
茶畑
麦塚
いつ嶋田

一人足弐人　水窪　一人足弐人　下和田
一人足七人　上土狩　一人足弐人　今里
内壱人名主　一人足四人　川嶋田
一人足弐拾七人　下土狩　〆百九拾七人
内壱人名主
一人足九人　竹原　三月廿一日
内壱人名主　一人足拾五人　神山
一人足六人　佐野　内壱人名主
内壱人名主　一人足弐人　岩波
一人足四人　石脇　一人足三拾人　深良
一人足五人　萩原　一人足拾壱人　久根
一人足六人　くミ沢　内壱人名主　公文名
内壱人名主　中山　一人足拾人　茶畑
一人足四人　沼田　一人足七人　麦塚
一人足三人　二子　内壱人名主　いつ嶋田
一人足弐人　杉名沢　一人足拾弐人

一人足壱人　水　窪　一人足弐人　長　塚
一人足七人　上土狩　一人足弐人　下和田
一人足弐拾七人　下土狩　一人足弐人　今　里
内壱人名主　一人足三人　中清水
一人足九人　竹　原　一人足五人　陣　場
内壱人名主　一人足五人　川嶋田
一人足四人　石　脇　一人足拾三人　萩　原
内壱人名主　一人足三人　沼　田
一人足拾五人　佐　野　一人足壱人　杉名沢
内壱人名主　一人足拾人　中　畑
一人足六人　中　山　〆弐百四拾九人
内壱人名主
一人足三人　大　坂　三月廿二日　雨ふり
一人足六人　新　橋
一人足三人　印　野　三月廿三日
一人足三人　西田中　一人足拾四人　神　山
一人足拾人　くミ沢　内壱人名主

一人足弐人　岩波
一人足四拾壱人　深良
一人足拾壱人　久根
内壱人名主
一人足三人　水窪
一人足七人　上土狩
一人足弐拾七人　下土狩
一人足八人　竹原
一人足四人　石脇
一人足六人　佐野
一人足九人 四拾八人 〃〃〃〃　茶畑
一人足弐人 〃〃 九人 〃〃　公文名
一人足四人　川嶋田
一人足五人　くミ沢
一人足三人　西田中
一人足三人　萩原
一人足六人　中山

一人足壱人　新橋
一人足弐人　下和田
一人足弐人　今里
一人足九人　伊豆嶋田
一人足七人
〆百九十五人
百七十六人
百六十九人 〃〃〃〃〃
三月廿四日
一人足拾三人　神山
内壱人名主
一人足弐人　岩波
一人足三拾弐人　深良
一人足拾壱人　久根
一人足七人　麦塚
内壱人名主

一人足七人
一人足四人
一人足弐拾九人
一人足九人
内壱人名主
一人足拾四人
一人足四人
一人足四人弐拾三人〃〃
一人足壱人
一人足弐人九人〃
一人足弐人
一人足六人
一人足五人
一人足四人
一人足五人
一人足弐人
一人足壱人
内壱人名主

上土狩
水窪
下土狩
竹原
佐野
石脇
茶畑
いつ嶋田
公文名
下和田
くミ沢
中畑
板妻
駒門
今里
萩蕪

一人足三人
一人足三人
一人足四人
一人足五人
一人足弐人
一人足三人
一人足五人
一人足五人
一人足拾壱人
〆二百拾七人弐百四拾三人〃〃
三月廿五日
一人足四人
一人足拾壱人
内壱人名主
一人足九人
内壱人名主

沼田
中清水
中山
長塚
杉名沢
西田中
川嶋田
新橋
萩原
石脇
佐野
竹原

一人足弐拾七人　下土狩　一人足三人　印野
一人足七人　上土狩　一人足拾壱人　萩原
一人足三拾人　深良　一人足六人　中山
一人足三人　岩波　〃百七拾九人 弐百拾人　久根
内壱人名主
一人足拾弐人　神山　神山
一人足三人 弐拾弐人 〃 〃 〃　茶畑　三月廿六日　岩波
一人足弐人 〃 九人 〃 〃　公文名　一人足拾三人　深良
一人足九人　いつ嶋田　内壱人名主　久根
一人足五人 〃 〃 〃 〃　麦塚　一人足弐人
一人足五人　新橋　一人足三拾三人
一人足三人　沼田　一人足拾壱人　いつ嶋田
一人足弐人　今里　内壱人名主　上土狩
一人足五人　中畑　一人足九人　下土狩
一人足五人　川嶋田　一人足七人　佐野
一人足八人　くミ沢　一人足弐拾七人
一人足三人　西田中　一人足拾弐人

一人足四人　石脇　一人足壱人　水窪
一人足九人　竹原　〆百八十三人 弐百九人〃〃〃〃
内壱人名主
一人足三人　駒門　三月廿七日
一人足弐人　今里　一人足拾三人　神山
一人足五人　中畑　内壱人名主
一人足八人　くミ沢　一人足壱人　岩波
一人足六人　川嶋田　一人足三拾弐人　深良
一人足四人　西田中　一人足拾壱人　久根
一人足三人　萩原　内壱人名主
一人足弐人　下和田　一人足九人　いつ嶋田
一人足七人　□　一人足拾三人　佐野
一人足弐人　萩原　一人足四人　石脇
一人足四人　板妻　一人足弐拾七人　下土狩
一人足四人　大坂　一人足七人　上土狩
一人足　三人 弐拾弐人〃〃〃〃　茶畑　一人足七人　中山
一人足　弐人 九人〃〃　公文名　内壱人名主

一人足五人
一人足四人
一人足弐人
一人足壱人
一人足八人
一人足四人
一人足五人
一人足弐人
一人足三人
一人足弐人
一人足三人
一人足三人
一人足三人
一人足　三人　弐拾弐人　〃
一人足　弐人　九人　〃
一人足九人
〆百八十三人　弐百九人　〃

川嶋田
西田中
□□（水　窪カ）
□□（萩　無カ）
くミ沢
萩原
中畑
中清水
沼田
下和田
陣場
印野
杉名沢
茶畑
公文名
竹原

三月廿八日
一人足拾壱人
一人足四人
一人足拾壱人
内壱人名主
一人足三拾壱人
一人足弐拾七人
一人足九人
一人足拾七人
一人足七人
一人足九人
一人足　弐人　弐拾壱人　〃
一人足　弐人　九人　〃
一人足六人
内壱人名主
一人足弐人

久根
石脇
佐野
深良
下土狩
竹原
□□（神山カ）
□
いつ嶋田
茶畑
公文名
中山
西田中

一人足三人
一人足三人
一人足弐人
一人足三人
一人足五人
一人足拾人
一人足弐人
一人足弐人
一人足壱人
一人足壱人
〆百七拾弐人
百九拾八人

三月廿九日
一人足七人
一人足拾壱人
内壱人名主
一人足四人

くミ沢
沼田
駒門
陣場
中畑
萩原
下和田
今里
印野
板妻

一人足三人
一人足三拾人
一人足弐人
一人足八人
内壱人名主
一人足拾壱人
内壱人名主
一人足弐拾七人
一人足九人
内壱人名主
一人足　八人
弐拾七人
一人足　弐人
九人

上土狩
佐野
石脇

一人足六人
一人足五人
一人足六人
一人足五人

水窪
□
岩波
神山
久根
下土狩
竹原
茶畑
公文名
中山
中畑
くミ沢
川嶋田

一人足三人　西田中　一人足三拾六人　深良
一人足拾弐人　萩原　一人足拾人　佐野
一人足弐人　今里　一人足四人　石脇
一人足弐人　下和田　一人足拾弐人　神山
一人足弐人　萩薮　内壱人名主
一人足弐人　駒門　一人足拾壱人　久根
一人足壱人　沼田　一人足弐人　水窪
一人足壱人　印野　一人足弐拾八人　下土狩
一人足壱人　杉名沢　一人足八人　中山
一人足壱人　陣場　一人足四人　川嶋田
一人足壱人　□　一人足壱人　杉名沢
メ百八十人弐百六人　一人足三人　大坂
四月朔日　一人足三人　岩波　一人足五人　中畑
一人足三人　竹原　一人足四人　西田中
一人足九人　上土狩　一人足弐人　下和田
一人足六人

一人足拾三人　萩原
一人足四人　長塚
一人足九人　いつ嶋田
一人足弐人 九人〃　公文名
一人足五人 弐拾四人〃　茶畑
〆百九十六人 弐百弐拾弐人〃〃〃〃〃〃

四月二日

一人足三拾壱人　深良
一人足拾壱人　佐野
一人足三人　石脇
一人足拾人　久根
一人足弐拾七人　下土狩
一人足七人　上土狩
一人足九人　竹原
一人足弐人 九人〃　公文名
一人足弐人　水窪

一人足六人 弐拾五人〃〃〃　茶畑
一人足七人　中山
一人足四人　川嶋田
一人足四人　西田中
一人足弐人　今里
一人足弐人　中清水
一人足三人　駒門
一人足弐人　下和田
一人足弐人　板妻
一人足四人　くミ沢
一人足七人　沼田
一人足拾人　萩原
一人足弐人　萩蕪
一人足拾人　中畑
〆百六十七人 百九拾三人〃〃〃〃〃

四月三日

一人足弐拾七人　下土狩　一人足弐人　程沢
一人足九人　竹原　一人足九人　萩原
一人足七人　上土狩　一人足弐人　杉名沢
一人足三拾人　深良　一人足三拾八人　御厨分やとい人足
一人足拾壱人　久根　〃弐百六人〃弐百弐拾五人
一人足五人　石脇
一人足拾人　佐野　四月四日
一人足　五人〃弐拾四人〃　茶畑　一人足拾壱人　佐野
一人足九人　いつ嶋田　内壱人名主
一人足九人　公文名　一人足三人　茶畑
一人足壱人　水窪　一人足九人　公文名
一人足七人　沼田　一人足四人　石脇
一人足五人　中山　内壱人名主
一人足五人　西田中　一人足九人　竹原
一人足五人　中畑　一人足弐拾七人　下土狩
一人足四人　川嶋田　一人足八人　上土狩
一人足六人　くミ沢　一人足弐人　水窪

一人足拾壱人　久根　一人足七人　上土狩
一人足弐人　杉名沢　一人足弐人　水窪
一人足四人　川嶋田　一人足九人　公文名
一人足四人　西田中　一人足八人　竹原
一人足六人　くミ沢　一人足三人　茶畑
一人足三人　中清水　一人足弐拾七人　下土狩
一人足三人　駒門　一人足拾壱人　久根
一人足弐人　板妻　一人足六人　中山
一人足五人　中畑　内壱人名主　川嶋田
一人足弐人　今里　一人足四人　杉名沢
一人足六人　中山　一人足弐人　西田中
一人足弐人　下和田　一人足四人　萩原
一人足拾五人　萩原　一人足六人　下和田
一人足拾五人　御厨分やとい　一人足弐人　くミ沢
〆百五拾三人　一人足五人　中畑
四月五日　〆百壱人
一人足五人

四月六日

一人足三人　公文名　一人足弐人　杉名沢
一人足拾人　久根　一人足四人　下和田
一人足弐拾七人　下土狩　一人足壱人　今里
一人足九人　竹原　□□拾八人　中清水
一人足八人　石脇
一人足弐人　水窪　四月七日
一人足五人　上土狩　一人足九人　竹原
一人足弐人　茶畑　一人足拾人　久根
一人足六人　川嶋田　一人足四人　石脇
一人足五人　中畑　一人足七人　上土狩
一人足拾弐人　萩原　一人足九人　いつ嶋田
一人足弐人　萩蕪　一人足弐人　水窪
一人足弐人　板妻　一人足弐拾七人　下土狩
一人足五人　陣場　一人足三人　沼田
一人足弐人　駒門　一人足四人　大坂
一人足九人　くミ沢　一人足五人　中畑

一人足拾壱人　　萩　原　　一人足九人　　いつ嶋田
一人足六人　　川嶋田　　一人足弐人　　水　窪
一人足弐人　　杉名沢　　一人足四人　　石　脇
一人足五人　　陣　場　　一人足九人　　公文名
一人足三人　　西田中　　一人足拾壱人　　久　根
一人足弐人　　下和田　　一人足弐拾七人　　下土狩
一人足弐人　　今　里　　一人足三人　　萩　原
一人足四人　　中　山　　一人足三人　　中清水
一人足五人　　長　塚　　一人足三人　　西田中
一人足七人　　くミ沢　　一人足五人　　川嶋田
一人足弐人　　同　村　　一人足弐人　　杉名沢
一人足九人　　公文名　　一人足弐人　　今　里
一人足三人　　茶　畑　　一人足四人　　沼　田
〆百四拾壱人　　一人足五人　　中　畑
一人足弐人　　板　妻
四月八日　　一人足拾人　　くミ沢
一人足九人　　竹　原　　一人足三人　　駒　門

一人足八人　中山
一人足九人　萩原
一人足弐人　茶畑
一人足七人　上土狩
〆百三拾九人

四月九日
一人足　五十三人（八人〃）　いつ嶋田
一人足六人　上土狩
一人足九人　公文名
一人足拾壱人　久根
一人足五人　石脇
一人足弐人　水窪
一人足弐人　川嶋田
一人足三人　萩原
一人足弐人　今里
一人足六人　くミ沢

一人足壱人　中山
一人足弐人　茶畑
〆（百弐人 五拾七人 〃〃）
惣〆三千四百三拾四人

内
弐百弐拾八人　茶畑村内堰
残三千弐百六人　本川筋

寛文十一年
亥ノ四月十一日

茶畑村
甚右衛門事
甚右衛門
公文名村
平左衛門
いつ嶋田村
伊右衛門

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一八　寛文一一（一六七一）年四月二五日　茶畑村新川間数人足高之帳

（表紙）

新川間数人足高之帳　茶畑村　仁右衛門

箱根堀貫水通シ申新川間数ゆるき（震）橋ゟ堰原まて川筋之事

一間数弐千弐百五拾弐間　但シ横三間

此分

三百弐拾七間　緩木橋ゟ川尻迄之古川　深サ五尺

内　弐拾五間　深サ三尺

　三百弐間

残テ千九百弐拾五間　川尻ゟ堰原まて新川　深サ弐尺

内

百拾弐間　深サ三尺

千六百拾五間　深サ弐尺

五拾八間　土手敷弐間高三尺五寸

八間　土手敷四間高五尺五寸

百三拾弐間　深サ四尺

右ハ横三間ノ川

此分ケ

三月十九日

一五十間　ふかさ三尺
四拾八間

此人足百七拾人

三月廿日

一百三拾六間　深サ弐尺

此人足百九拾七人

三月廿一日

一三百八拾壱間　深サ弐尺

此人足弐百四拾九人

三月廿三日

一弐百七拾壱間　深サ弐尺
此人足百七拾六人
三月廿四日
一百六拾五間　深サ弐尺
此人足弐百拾七人
三月廿五日
一百九拾四間　深サ弐尺
此人足百七拾□（六カ）人
三月廿六日
一三百七拾弐間　深サ弐尺
此人足百八十三人
三月廿七日
一九拾六間　深サ弐尺
此人足百八十三人
三月廿八日
一五十八間　三十間　土手　敷弐間　高□尺
此人足百七拾弐人
三月廿九日
一弐十八間　三拾七間　〃　〃　深サ三尺
此人足百八十人
四月朔日
一八間　土手　敷四間　高五尺五寸
此人足百九十六人
四月二日
一六十五間　五拾五間　〃　七十間　〃　深サ四尺
此人足百六十七人
四月三日
一三十五間　三拾五間　〃　五十間　〃　深サ四尺
此人足弐百六人
四月四日
一三拾弐間　深サ四尺

此人足百五十三人

四月五日

一六十弐間　深サ□尺

此人足百壱人六十〃〃

四月六日

一弐十五間五十間〃〃〃　深サ五尺

此人足百十八人

四月七日

一百弐間　深サ三尺

此人足百四十壱人

四月八日

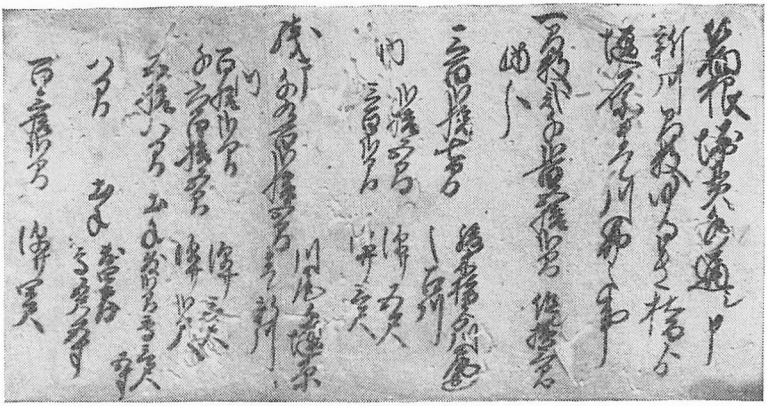
一百間　深サ三尺

此人足百三十九人

四月九日

一百間　深サ三尺

此人足五十七人



新川間数人足高之帳（部分）

〆間数弐千弐百五十弐間
此人足三千八十四人

寛文十一年
亥ノ四月廿五日

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一九　（一六七一）（寛文十一年）大堰等間数書上

（端裏書）「岩波堰之覚」

堀間数之覚

一大堰ほり間数　百拾八間
一中沢堰ほり間数　四拾五間
一大せき　壱せき　一中沢せき　壱せき
一大中ぜせき　壱せき　一中せせき　壱せき
一といたせき　壱せき　一下ノ田せき　壱せき
一こにめせき　壱せき　一のみ水せき　壱せき
〆ほり百六拾三間
〆せき十せき
一道作り申間数九拾間　岩波村分
〆

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

第四節　元締衆と発企人

二〇　寛文二年二月一日（一六六二）　宮崎市兵衛武蔵国吉田新田内新田地小作手形

預申新田地小作手形之事

一名々新田之内、高合弐拾町六反六セ也、此内五町壱反壱セハ北四つ目、六町弐反ハ南四つめ、九町六反ハ南五つめ也、当寅年ゟ預り小作仕候、随分精出し作仕付可申候、作得之儀ハ年毎ニ検見ヲ以御取可被成候、急度可遣申候、若作徳遅々致候ハヽ、何ニ而成共相当候程御押へ取可被成候、其上作仕付他所参候か、欠落致候ハヾ、名々新田之儀ニ候間、作付之者不残御取可被成候、少も異儀申間敷候、若又田地無調法仕不作仕候ハヾ、重而作場御かい候共、又ハ御取上ケ候共、少毛違乱申間敷候、田地用水之儀万事ニ付論仕間敷候、万事各之御指図之上ハ異儀申間敷候、但シ幾年小作仕候共此証文之趣相違仕間敷候、為後日仍如件

寛文弐年壬寅二月一日

相模国大住郡公所村
宮崎市兵衛㊞
根御屋村住人　次兵衛㊞
野毛村
証人　伊兵衛㊞

（石野瑛『武相叢書　横浜吉田新田の研究』「吉田新田関係文書記録」）

三　寛文一〇年（一六七〇）　長濱半兵衛江戸浅草田町屋敷買取記録

田町

一同（屋敷）表間口廿三間裏五拾間　都筑又兵衛

（貼紙）「長濱半兵衛与申町人戌年（寛文一〇年カ）求置候、卯ノ閏（延宝三年）四月御老中江申上、御帳張紙被成相済」

（国立国会図書館旧幕引継文書・

「浅草観音領門前町武士屋敷之覚」）

三　延宝二年（一六七四）八月一日　友野与右衛門武蔵国吉田新田内田地永代売渡証文

永代売渡シ申新田地之事

一武州久良岐郡金沢領吉田新田之内ニ、我等持分之新田壱町弐反御座候、此田地代金弐拾五両ニ永代売渡シ申所実正也、此田地ニ付諸親類者不及申横合ゟ少もかまい無御座候、若違乱申者有之候ハヽ、我等罷出急度埒明可遣候、為後日沽券状、仍如件

売主　友野与右衛門㊞

証人　同　佐兵衛㊞

延宝弐年　寅八月朔日　同　母

吉田勘兵衛殿

（石野瑛『武相叢書　横浜吉田新田の研究』）

「吉田新田関係文書記録」）

三　（延宝三年）（一六七五）七月一日　本宿村箱根掘抜上穀米手形

相渡可被申上穀米之事

米合四拾六㊞表壱斗七合　但三斗七升入

右是ハ箱根堀抜上穀米寅之年分也、今日中堀抜衆へ相渡可被申候、遅々申間敷候、此手形を以重而勘定可有之候、念を入相渡可申候、以上

卯七月朔日　柳下源八㊞

藤田長右衛門㊞

本宿村　庄屋　百姓中

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

二四　延宝四年（一六七六）五月一八日　本宿村箱根堀抜上穀米手形

相渡可申箱根堀抜上穀米之事

一米四拾六表壱斗七合（割印）　但三斗七升入

右ハ去卯年分箱根堀抜日損田上穀米、堀抜本〆衆へ明十九日ニ相渡し可被申候、上穀米定之通り年々出し仕舞候者、重而此手形此方へ返し可被申候、以上

延宝四年　　藤田八郎右衛門㊞

辰ノ五月十八日　　柳下源八郎㊞

本宿村

名主中

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

二五　延宝五年（一六七七）四月二三日　本宿村箱根堀抜上穀米手形

覚

一米四拾六表壱升九合（割印）　本宿村

但三斗七升入

右者辰之年分箱根堀抜上穀米、本〆衆へ明廿四日ニ相渡し可被申候、不及申ニ候得共升目等、不同無之様ニ念ヲ入相渡し、請取手形取置可被申候、上穀米定之通り年々出し仕廻候ハヽ、此手形重而此方へ返し可被申候、以上

延宝五年　　柳源八㊞

巳四月廿三日

右名主中

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

二六　延宝五年（一六七七）四月　「上土狩村惣ケ原検地帳」箱根掘抜元締名請地書上

（表紙）

延宝五丁巳年四月

駿河国　駿河郡　小泉庄　上土狩之内惣ケ原田畑検地帳

（中略）

三嶋辻　拾四間　弐畝拾歩　六右衛門
下畑　五間
道向　拾三間　三畝拾四歩　弥右衛門
下畑　八間
同所　拾四間　四畝弐拾歩　三郎兵衛
下畑
同所　五間　壱畝歩　次郎兵衛
下畑　六間
同所　八間　三畝六歩　掘貫元〆作
下畑　拾弐間
同所　拾弐間　弐畝歩　次郎兵衛
下畑　五間
同所　四間　弐畝拾弐歩　掘貫元〆作
下畑　拾八間
屋敷そへ　拾壱間　弐畝拾七歩　甚五兵衛
中畑　七間
同所　八間　弐畝拾弐歩　善兵衛
中畑　九間
同所　五間　壱畝歩　徳兵衛
中畑　六間

（長泉町　米山家文書）

二七　延宝六年（一六七八）七月一一日　本宿村箱根掘貫上穀米手形

覚

一米四拾六表壱升九合（割印）　本宿村

但三斗七升入

右者巳之年分箱根堀抜上穀米、元〆方へ明十二日相渡し可被申候、不及申ニ候得共升目不同無之、縄俵こしらへ念を入相渡し、請取手形取置可被申候、上穀米定之通り年々出し仕廻候ハヽ、此手形重而此方へ返し可被申候、右書付之米盆前ニ候間、早々無油断急度出し可被申候、以上

延宝六年　柳源八㊞
午七月十一日　右庄屋中

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

二八　延宝七年（一六七九）八月二〇日　本宿村箱根掘抜上穀米手形

覚

一米四拾六表壱斗七合（割印）　本宿村

但三斗七升入

右者午之年分箱根堀抜上穀米、元〆方へ明日相渡し可被申候、不及申ニ候得共升目不同無之、縄俵こしらへ念を入相渡、請取手形取置可被申候、上穀米定之通年々出し

仕廻候ハヽ、此手形重而此方へ返し可被申候、只今米直段能時分柄申候間、少しも無遅々日限之通、急度出し可被申候、以上

延宝七年
未八月廿日

柳　源　八㊞

右庄屋中

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

二九　延宝七年（一六七九）八月　江戸町人橋本山友他三名請負金返済約束証文

相渡シ申証文之事

一森田町之棚、此度相改申帳面之通、元金九拾両無秩御座候、山友遣度と申候共、本金之内遣せ申間敷候、来二月廿日以前ニ九拾両之金子、彦太夫様江指上ケ可申候、少も滞申間敷候

一借し金手形相改候、金五拾両かし方御座候、銘々小帳ニ付ケ出し渡し申候、当極月廿日以前ニ四拾八両取立、　彦太夫様へ指上ケ可申候、尤極月前ニ相済候ハヽ、早々指上ケ可申候、山友手前ニ金子弁々と預ケ置申間敷候、金子都合百三拾八両年内ゟ来二月廿日以前ニ指上ケ可申候

一三文字屋借し申金子取次第、　彦太夫様御手代衆へ御披露仕、御下知次第ニ可致候、無左候而金子我かまゝニ仕間敷候

右之通百三拾八両之金子、我等共請負申候上ハ、年内ゟ来二月廿日以前迄ニ指上ケ可申候、其内之証文ニ貴殿証人之判形被成候、縦滞儀御座候而も、壱文も其方へ掛ケ申間敷候、我等共身体引つふし弁可申候、借方并棚昨今相改申候へハ、右之金子慥ニ御座候間、少も御如在申間敷候、自然相違之儀於申ニハ、此証文　御公儀様江被仰上、我等共越度ニ可被成、何様之為曲事共一言之申分申間敷候、為其以上

延宝七年
未八月

橋本山　　友㊞
同　三郎右衛門㊞

同　嘉右衛門㊞
須崎源右衛門㊞

冨沢村
勘兵衛殿

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

三〇　延宝八年九月二六日　本宿村箱根掘抜上穀米手形

（一六八〇）

覚

一米四拾六表壱斗七合（割印）　本宿村

但三斗七升入

右者未之年分箱根堀抜上穀米、元〻方へ明日相渡シ可被申候、不及申ニ候得共升目不同無之、縄俵拵念を入相渡シ、請取手形取置可被申候、年々遣シ候小手形重而本手形ニ引替可申候、只今直段能時分米払申度由、元〻之者申候間、無遅々日限之通り急度出し可被申候、已上

延宝八年
申ノ九月廿六日

柳　源　八㊞

右庄屋中

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

三一　延宝八年一二月晦日　深良村名主源之丞等証人田畑地替証文

（一六八〇）

田畑地替手形□□（証文）之□（事）

一上原清右衛門屋敷上畑五畝拾歩・中畑壱反三畝壱歩・下畑壱反弐畝弐拾壱歩・屋敷弐拾四歩、四口合三反壱畝弐拾六歩之所地付藪共不残、其上金子壱両壱分為上金と相添、西福寺分西原ニ而中田壱反八畝弐拾三歩・下田弐畝拾八歩・下々田壱畝拾歩、三口合弐反弐畝弐拾壱歩之所請取、永代ニ地替仕所実正ニ御座候、此田畑之儀西福寺ニ借金御座候ニ付、西安寺様並旦那中惣（相）談ニ而地替仕申上ハ、我等儀ハ不及申ニたれ人成共、横合ゟ違乱申者御座有間敷候、たとへ御国替又ハ何様新御法度入来候共、此田畑之儀者少も其引負申間敷候、為後日以証人手形、仍如件

延宝八年
庚申ノ十二月晦日　深良村

主　助左衛門㊞
証人　太兵衛㊞
同　理兵衛㊞
同　上原太左衛門㊞
同　同村藤右衛門㊞
同　同村伊右衛門㊞
西安寺㊞
名主　源之丞㊞

西福寺様

（裾野市深良　志村守雄氏所蔵）

三　天和三年四月二二日　江戸町人浅井佐次右衛門等金子預り証文

（一六八三）

預り申金子之事

金合百拾両者

江戸判也

六拾四両者　駿州惣ケ原ニ而巳之御年貢金預り遣申候
内
四拾六両者　沼津領辰之御年貢浅草御蔵御撰米金

一（割印）右之金子之義、沼津領辰之御年貢御撰米出申候、其代米午之十二月浅草御蔵納申所ニ又候哉御撰米出申候、納才料入札ニ而売申金子、納宿山友預り居申候間、才料ニも無断理不尽ニ我等共分ケ取申候、未之正月十五日過ニ其方詮義被成候間、箱根本〆共四人ニ而不沙汰ニ分ケ取遣申候由申候へハ、其方立腹被申御訴訟可被成候と被仰候間、達而詫申候、只今被仰上候得者我等共子共迄（供）御仕置ニ罷成候間、近比非分仕候御助置可被下候、御上納之時少も滞不申、金子相返シ可申段色々歎申候故、御披露御延シ候ニ付命助罷有候、殊ニ此金子其方大分損金立申候間、以御慈悲御延金ニ罷成候間、御上納之年数迄御待可被下候と、様々申□偽り申候

一（割印）去戌之年御上納之年数ニ候間、金子相返シ候へ由被仰候間、百拾両相返シ可申段、浅井佐次右衛門請負、中

間ゟ神文手形佐次右衛門方へ取、須崎源右衛門証人ニ
而其方江手形仕候処ニ、佐次右衛門又々偽り金子相返
シ不申、亥之春中可相返段、誓言状ニ而申候間、今度
其方御下り候金子又々調兼偽り申候間、御訴訟可被成
由被仰候、左候へハ我等共御仕置請迷惑仕候間色々歎
申候
一(割印)余り我等共難儀ニ存、佐次右衛門憐高田慶琢老頼入申
候間、色々御肝煎被遊、当九月迄慶琢老御影ニ而御延
被下候、当九月廿日以前ニ急度相返シ可申候、慶琢老
堅御究被成候間、少も滞申間敷候、若滞申候ハ、我等
共親類・縁者・子共(供)ニ御掛可被成候、大切之御年貢金
非分仕誤申候百拾両九月早束(速)相返し可申候、若偽ニ申
候ハヽ、越度ニ罷成可申候、証人并多賀井長左衛門立
合相調出可申候、早々埒明金子調出可申候、跡々色々
語偽り申、路金も大分ニ入させ申候、慶琢老御究候上
ハ偽り申間敷候、若難渋申候ハヽ、盗賊ニ可被仰候、
一言申分ヶ無御座候、為後日証人を立手形仍如件

(割印)
天和三年癸亥四月廿二日　預り主　佐次右衛門　印
同　伝三郎　印
証人　源右衛門　印
同　又右衛門　印
同　与右衛門　印
勘兵衛殿
同　山友　印
同　三郎右衛門
(裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵)

三三　天和三年四月二二日（一六八三）　江戸町人浅井佐次右衛門等金子借用につき起請文

起請文

一両御訴訟拝借無油断精出し可申候、於相調申ニハ金子
調申、翌日証文之通駿州冨沢迄源右衛門持参可申候、
少も如在申間敷候、此外何金子ニ而も中間之内誰成共
金子調申候ハヽ、早々源右衛門持参可申候、少も相違
申間敷候、若金子之儀八・九月迄も相延申候ハヽ、証

文之通一家子共(供)まてニ御掛り金子御取可被成候、少も
一家子共異儀申させ間敷候
一刀之儀能候而金子取申候ハヽ、翌日其方へ差越可申候、
少も相違申間敷候、於此金子此上ニハ御訴訟抔ニハ仕
間敷候
右之條々証文之通違背申候ハヽ、
梵天大釈四大天王、別而伊豆・箱根・三嶋之大明神并妙
祇(義)山、其外日本之大小之以神祇、右之段々相背申間鋪候、
若於相背者自分之儀ハ不及申妻子迄、神罰名罰蒙永しつ
ミ可申候、仍起請文如件

天和三年亥ノ四月廿二日　　佐次右衛門　書判
源右衛門　書判
与右衛門　書判
山　友　書判

勘兵衛殿

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

三四　天和三年（一六八三）一二月一四日　江戸町人浅井佐次右衛門等　金子返済起請文

起請文之事
一梵天帝釈四天王、日本国大小之神儀(祇)、別而伊豆・箱
根・三嶋大明神・明儀(妙義)山諸神おろし申候
一百弐拾七両弐分金子此度之延々御訴訟相叶申候か、又
郡内御訴訟相叶申候か、若不罷成候ハヽ来ル正月相調
急度済シ可申候、我々自分之借金も証文之通ニ急度相
済シ可申候、此度偽り申候ハヽ、右之起請文之御罰当
子共子祖迄、此世ハ不及申未来迄永しつみ可申候、是
非金子済可申候、正月まてニ相済可申候
一来ル廿二・三日ニハ何之道ニも御左(さこ)書可申候、
以上

天和三年　　須崎源右衛門　印判
亥ノ極月十四日　　浅井佐次右衛門　印判

渡辺勘兵衛殿

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

三五　元禄二年（一六八九）　江戸町人浅井佐次右衛門等沼津領年貢代金不正使用につき富沢村勘兵衛訴状

乍恐書付を以奉願候

小長谷勘左衛門御代官所
駿河国富沢村
上納金出入
訴訟人　勘　兵　衛
武州江戸霊岸嶋町
相手　佐次右衛門
伝　三　郎
山　友

一　先年野村彦太夫様御支配之節、駿州沼津領辰之御年貢撰出シ不納米、私御請負仕相納候、不足代金百四拾七両壱分未進仕候、依之去冬急度上納仕候様ニ被　仰付、右之内七拾両旧冬返納、残七拾両余ハ、来ル五月中ニ上納仕筈ニ御請負申上候事

一　右撰出シ米、買納ニ仕筈ニ而、去ル午之年私江戸江罷下り、方々代米承立候処ニ、其節上米払底ニ而、御蔵納ニ仕相応之米無御座候ニ付、上方船参次第御米調、御蔵江相納くれ候様ニと浅草納宿橋本山友と申者ニ金子百拾両預ケ置、在所へ罷帰候、然所ニ其後否之儀不申越候ニ付、無心元存、又翌年未ノ正月江戸江罷下り様子承候処ニ、右之金子納宿山友并佐次右衛門・伝三郎と申者、自分入用ニ遣候由申ニ付驚入、早速御訴訟可申上旨申候所ニ、御　公儀様江申上候儀延引仕くれ候様ニと、右之者共達而詫言仕、金子之儀ハ急度返弁可申旨申ニ付、証文仕らせ度々内証ニ而催促仕候得共、未返し不申迷惑仕候、去冬右不納米御詮儀之節、此段御訴訟可申上と奉存候得共、辰之年撰出米私御請仕、其上段々年数相延候ニ付、御吟味之趣至極仕、拙者持来候田地・居屋敷等、悉質物ニ入又ハ年季売ニ仕、右之通金子七拾両旧冬上納仕候、相残七拾両余之金子、

来ル五月上納可仕手立無御座候間、右佐次右衛門・伝三郎・山友被召出御詮儀之上、預り置候金子相返し候様ニ被　仰付被下候様ニ奉願候、委細之儀ハ御尋之上、口上ニ可申上候、以上

元禄弐巳年

駿州富沢村

勘兵衛

御奉行様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

三六　元禄一六年（一七〇三）三月八日　大庭源之丞墓碑銘

（正面）

任王一運　上坐

○

一性円通一切性

月林妙珂　大姉

覚霊

（右側面）

一切水月一月摂

（左側面）

一法徧含一切法



（裏面）
元禄十六年　未ノ三月八日
一普現一切水　孝子施主
元禄十五年　午ノ二月九日

（裾野市深良　大庭重一家墓地）

第五節　開削の記録

三七　寛文三年（一六六三）　快長僧正・友野与右衛門江戸出願記録

快長僧上自ら願書を持参奉呈の手続を成す、茲に友野與右衛門を引連れ江戸表ニ三年間滞留之事。当時御老中若年寄其外御役方を伺ひ懇願之困苦ニいたり候事筆記に及ハすとあり。当時友野與右衛門は江戸浅草にありて僧上の指揮に随ひ夫々願之趣きを運び、此間友野與右衛門之困苦艱難一と方ならず。快長も倶に共に尽す事筆記に為す能ハず。翌年十月に至り一度箕根に帰へりし所（ママ）而箕根にては申伝へる、又僧上及友野與右衛門は、御公儀之手に掛り、今ハ獄屋に在りとの評判とり〳〵なり。

（「駿河国駿東郡疎水工事咄控」
神奈川県箱根町　箱根神社所蔵）

三八　寛文五年（一六六五）～深良村箱根湖水掘抜諸色覚

一寛文五年巳年ゟ箱根湖水堀抜、御厨并沼津御領所へ水取、新田・畑成田・日損田へ水欠ヶ可申由、江戸町人友野与右衛門・長浜半兵衛・尼崎賀右衛門・浅井次郎兵衛御願申上候処御取上、翌年丙午年四月十三日御証文井上権兵衛殿・柳吉左衛門殿・川北長左衛門殿・駿州御厨御代官□　□当所ニ而指上申候、□　□駿河□　□御厨領取之新田於出来相定表書之通相違有間敷者也

寛文六丙午年四月十三日　　真鍋伊兵衛
　　稲葉酒之允
　　稲葉伊織
　　田辺権太夫

江戸浅草
友野与右衛門殿

江戸四谷
　長浜半兵衛殿
江戸本舟町
　尼崎加右衛門殿
同所
　浅井次郎兵衛殿
　大庭源之丞殿

右之通り御証文指上、御書付御載仕、御願相済申候、
御証文ハ別紙ニ有之候

一寛文六丙午年五月十七日、湖水堀抜請負之者共ゟ野村彦太夫様右御証文之通指上申候、彦太夫様御添書被遊、
同月廿八日御勘定所指上申候

表書之通り何之障も無之候、弥遂吟味、於相違者可被申付候、断ハ本文有之候、以上

午五月廿八日　　岡豊前
　　妻彦右衛門

野村彦太夫殿

一寛文六年午ノ八月、箱根堀抜西ノ口堀初メ、東ハ十一月堀初、抜申候ハ寛文拾年戌ノ二月廿五日、水出候ハ同四月廿五日
一穴口六尺四方、水門ゟ海端へ拾間
一水門ゟ四ツ留迄四十六間
一あなの内七百三拾八間
一水門、但シ三間水出分八尺八寸
一海端ゟ新川落合迄壱里廿弐丁十六間
一新川落合ゟ古川迄拾弐丁
　内百拾弐間　神山村分
　　六百八間　ふから村分
一海尻堰留拾弐間半
一間数七百三拾八間堀貫
　内百八拾四間ハ　箱根分
　　五百五拾四間ハ　深良村分

右ハ元録(緑)拾壱歳寅ノ八月十九日、江戸御屋敷指上申候、
但シ御国絵図ニ付合印仕候、亥年上ル

御奉行様ハ　大(太)田摂津守様
　　井井(伊)兵部少輔様
一北南千六百四拾九間　深良村
　丁直シ弐拾七丁廿九間
一西東七百拾間
　丁直シ拾四丁四拾四間
一弐千三百五拾三間　久根村境ゟ新川土手長四郎屋敷境
　迄
一弐百七拾弐間　久根村之内さいの神戸ゟ深良村境迄
一千四百五拾弐間　新川落合ゟ久根村境迄
　三百四拾四間　石脇村分
　内
　千百八間　深良村分
一弐千四百拾五間、西四つ留ゟ須釜新川口迄
此法壱里四丁拾五間、元禄拾壱戊寅ノ年九月廿一日改、
御国絵図御用ニ付新田伊左衛門与四右衛門両人ニ而
一寛文拾壱年亥年満水仕、須釜向田ニ而新土手押切田畑
砂入川掛ケ仕候処、元〻方ニ而砂取川掛修覆土手普請
仕候
一湖水之儀、毎年苗代水ゟ段々ニ出し、水留時分ハ八月
彼岸前後海面ニくい木しからヲかき、其下ニ土俵ニ而
水もり不申候様ニ、元〻支配之内ゟ卯年迄ハ仕候
一延宝七年未ノ年ゟ元〻支配放、御地頭様ゟ被仰付、深
良村源之丞・富沢村勘兵衛水配仕、海面ゟ木瀬川落合
迄諸色普請触役仕候ニ付、翌年堰下村々ノ反別守(ママ)付書
付、両人方へ受取、惣高六千三拾石合御座候事

（元文五年「箱根湖水諸色覚」
裾野市深良　志村守雄氏所蔵）

三元　寛(一六六六)文六年七月二一日　御宿村安右衛門箱根湖水掘抜元締の覚

（宝永五年四月）
四日　庚戌　雨天　半右衛門殿前地ニ居申候箱根湖水番
仕候甚左衛門、是ハ箱根湖水掘抜之時分かせぎニ入込罷
有候間、様体能存候ニ付、物語り承り書付申候、

湖掘抜元〆ノ覚

江戸浅草駒方横町
友野与右衛門　是ハ御公儀様を相済候者也

大伝馬三丁目
橋本源右衛門　右同断

〆弐人元〆頭
金元（カネモト）

れいがん嶋
浅井佐次右衛門　是ハ掘抜諸入用まかない致し、惣堰々仕廻し候而金子九千七百余両入申候由

小中間
橋本（ハシモト）三入
天が崎（アマガサキ）加右衛門
伏見（フシミ）仁左衛門
長浜（ナガハマ）半兵衛

〆四人、是も少々宛金子出合申候而、山ニ居申候、諸事指図仕候

御公儀様御請負人
須川（スカワ）八郎兵衛
かざりや四郎五郎　弐人大人

右元〆之後（ウシロ）見くらい仕候

箱根掘抜初ハ寛文六年丙午ノ七月廿一日か二日ゟ掘初メニ而、寛文拾年庚戌之三月廿五日ニ始テ掘明ケ申候、五年之間昼夜共ニ掘候而其年之内ニ土狩村日損地へ水引渡し懸ケ申候、同年元〆方へ下郷ゟ上穀百九拾六俵余出し申候、元〆ハ請取り申間敷と申候得共、公儀ゟ先目出度事ニ候間取候様ニと被仰請取候、七年目迄ニ漸々さらい堰々共ニ仕舞申候、六年めゟ段々畑成田致出来候、其比下郷村々西ノ根村々沼津御代官野村彦太夫様御支配、下郷ニ而竹原と同領之御知行と一領御殿場村ニ御地頭様御座候

右之通り甚左衛門物語有之候

（宝永五年「湯山安右衛門日記」
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

四〇　寛文六年（一六六六）　御宿村箱根湖水掘抜元締名前書上

寛文六丙午年

箱根掘抜元〆

請負人　浅井治郎兵衛
尼崎加右衛門
長浜半兵衛
友野与右衛門

右四人ニ而願出し、同年七月より堀始メ、五年目戌年ゟ村々用水ニ取申候

須崎源右衛門

後ニ入、〆五人

駿河戸山之内堀抜七百弐拾間堀割五拾七間、深良村之内須釜土手通り木瀬河落合迄七百弐拾間

（宝永五年「湖水新河木瀬河通り堰々方角改帳」
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

四一　寛文六年（一六六六）　御宿村箱根湖水掘抜水門等記録

覚

一箱根堀抜、寛文六午年御訴訟相叶、掘抜被　仰付、寛文十戌年堀抜成就仕候

戌年ゟ明和八卯年迄百二年ニ成ル

掘抜水門口

一幅二間之所江水門を立、高サ五尺、幅三尺五寸宛ノ戸三本立、右水門口ゟ堀割五十二間、穴口六尺四方、右穴口かうばい、高さ廿四丈四尺、穴口より山之内堀抜、長七百三十八間

一堀抜穴地行ゟ嶺迄高サ五十四丈二尺四寸、

箱根湖水堀抜始り

寛文六午年湖水堀抜キ願書元〆四人ゟ御代官野村彦太夫様へ差上ケ、御裏書相済申候

（明和八年伏見村鳥居九郎兵衛「諸書入手帳」
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

四三　寛文六年（一六六六）　佐野村作平箱根湖水掘抜通水記録

一箱根湖水堀抜寛文六年午年堀始メ、同十戌年迄五ヶ年ニ成就シ、同十一年亥年ヨリ用水引、天保十二丑年迄百七十一年ニ成ル

一箱根湖水ヨリ割堀五拾七間、堀貫七百弐拾間、水門高サ五尺、横弐間

一新川　長サ七百弐拾間　横三間ナリ

川筋深良村分佐の村境迄

右堀抜元〆

稲葉美濃守様御代

源崎（須）源　右衛門

浅井佐次右衛門

友野与右衛門

園　伊右衛門

（天保一二年「万覚書」　裾野市佐野　古谷善和氏所蔵）

四四　寛文六年（一六六六）　茶畑村甚右衛門箱根湖水掘貫覚

覚

一箱根湖水堀抜之儀、寛文六年午ノ七月堀初、戌年迄五年ニ成就仕候

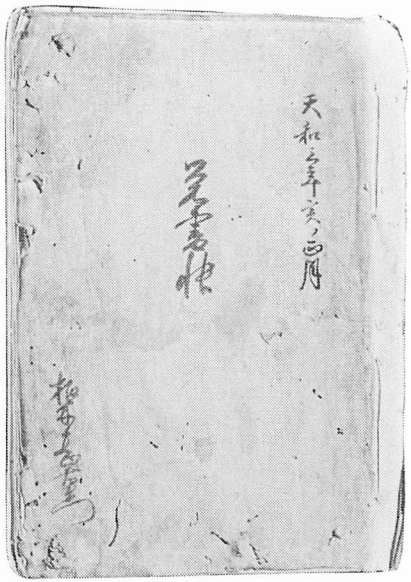
一堀抜長七百七拾八間、但六尺四方也

一箱根水三拾六年程以前寛文十一亥ノ年ゟ村々用水ニ罷成候

一箱根堀抜致候者江戸町人五人罷越目論見致、小田原稲葉美濃守様御代ニ小田原へも御願申上、江戸御勘定所へ御願申上、則御法書を以堀貫仕候

一堀貫致候入用ニハ、古田之内日損田へ足水ニかけ并畑成田大分出来致候ニ付、水掛り御田地より上石米七年可被遣御定ニ御座候

一上石米之儀、上田壱反付壱斗九升、中田壱反ニ壱斗七升、下田壱反壱斗四升ツヽ之勘定を以、小田原領ハ下土狩御蔵ニ而米六百俵程ツヽ七年御渡被成候



一水掛り村三拾ヶ村之内、一両日てり候へハ一円水届不申、自分と植付申儀不罷成候村々御座候ニ付、先年稲葉美濃守様丹後守様御代ニハ、五月田作仕付時分ニハ御注進申上、御代官衆御越被成候、并御足軽衆五七人ツヽ御越被申候、水差引被成候へ共、他領村々埒明不申、堰々水論御座候而年々日損大分御座候

（天和三年「柏木甚右衛門覚書帳」
沼津市　柏木正男氏所蔵）

四　寛文六年（一六六六）　上ヶ田村箱根掘抜記録

寛文六丙午箱根堀抜元〆

請負人

浅井次郎兵衛
尼崎加右衛門
長浜半兵衛
友野与右衛門
須崎源右衛門

右之四人ニ而願下シ、同七月ゟ堀始メ、五年メ戊ノ年ゟ村ニ用水ニ取申候

後ニ入〆五人

駿河戸山之内堀抜七百廿間、ほりわり五十七間

深良村之内すかま土手通り木瀬川落合迄七百廿間

覚

正月十二日

一岩波せき水上ケ口卯辰へ上ル、木瀬川通り水之流ハ戌亥ゟ辰巳ノ方へ也

同所せき口東川落合迄弐百七十間、東川落合ゟ箱根水落合迄三百四十間
一箱根水卯ゟ酉に落合申候、同所ニ而木瀬川丑ゟ未へ流、同所ゟ深良本せき迄百五十四間
一深良本堰水上ケ口巳ノ方へ上ル、木瀬川水子ゟ午ノ方へ流、同所堰ゟ御宿上ケせき迄五十四間
一御宿上ケ堰水申ノ方へ上ル、同所ニ而木瀬川丑ゟ未ノ方へ落行申候、新堰口ゟ二瀬おまた目水分ケ迄弐百八十間二瀬西川申酉へ流申候、御宿自水也、同所東又巳午ノ方へわかり申候

石わき・さの・久根・千福の自水

同所自水分ケ口ゟ御宿本せき迄百五十弐間
一御宿本堰水上ケ口午ノ方へ上ル、同所ニ而木瀬川水酉戌ゟ卯へ流、本せきゟ左(佐)野せき迄三百五十間、岩波堰ゟ左野堰迄弐拾六丁四十間有
一左野堰水上ケ口巳ノ方へ上ル
同所ニ而木瀬川水子丑ゟ未ノ方へ流、左野堰ゟ千福せき迄三百四十間
一千福堰水上ケ口申ノ方へ上ル、同所ニ而木瀬川水子ノ方ゟ午ノ方へ流（同十三日）
千福堰ゟつなきはし迄弐百六十間
一つなきはしゟ大瀧迄三百廿間
大瀧子ゟ午ノ方へ流
大瀧ゟめたき落合迄弐十間
一め瀧落合ゟ瀬名沢落合迄十四間
せな沢戌亥ゟ辰へ流
一瀬名沢落合ゟ定りン寺富沢せき迄弐百八十間
一富沢堰水上ケ口未申ノ方上ル
同所ニ而木瀬川子ゟ午へ流申候
富沢せきゟ堰原堰迄千六十間
木瀬川通り間数是迄也
一堰原せき水上ケ口子ゟ午へ上ル
同所ニ而木瀬川丑寅ゟ未申へ流
せき原せきゟ三間堀水末落合迄三十六間

一三間堀同落合丑寅ゟ未申ノ方へ、三間堀同落合ゟ堰原
橋場迄九十六間
同橋場ニ而水ノ流亥ゟ巳へ流也
橋場ゟ三又迄弐十弐間
三又ゟ水窪共言いぬまセき迄六十六間
水窪セきゟたかセき迄百十弐間
高堰ゟ五反田セき迄八十六間
五反田セきゟ惣ケ原穴セき迄九十四間
穴セきゟ冨岡迄三十六間
とミおかゟきぬた迄弐百六間
きぬ田セき水上ケ口子ゟ午ノ方へ上ル
本川通り卯へ流、東山ノ川是ト落合
きぬ田セきゟ二又迄五十間
ふたまた東川卯ノ方へ流
西川辰ノ方へ流
弐また西川口ゟたつちうセき迄百七十八間
たつ中堰ゟあきつぎ迄百四十四間

中土狩セき共言
あきつぎ水上ケ未申へ上ル
本川通り辰巳へ流
秋つきゟふた松田迄廿五間
ふた松田ゟはさま迄三十弐間
はさまゟ女来寺前也池田セきまテ五百十間

十四日
中土狩村

一池田堰ゟ高柳セき迄百廿間
下土かり村
高柳水上ケ口巳ノ方へ上ル
高柳ゟおまいセき迄百六十六間
おまいセきゟふたいセき迄七十八間
水上ケ亥ノ方
ふたいセき水上ケ口巳午ノ間へ上ル
ふたいゟミたけ堂迄百四十弐間
ミたケ堂ゟたいわりセき迄三十八間
たいわりゟねくらセき迄五十八間
ねくらゟひらきセき迄百三間

ひらきゟ是ゟ竹原之内西がいとセき迄七十弐間
西がいとゟ八反田セき迄七十六間
　むくの木セき共言
八反田ゟ富ふか川セき迄八十六間
本川申へ流し水上ケ丑ノ方ゟ伏見竹原かケ合セき迄
富ふか川セき水上ケ口辰巳ノ方へ上ル
とミふか川セきゟ
むくの木ゟ橋場迄四十間
同所ゟ中セき迄六十間
中セきゟ竹原御の川橋迄六十間
御の川橋ゟ下深田セき迄四十四間
下深田ゟ殿田セき迄三十四間
殿田ゟ塚田セき迄十弐間
塚田ゟ上野坪セき迄四拾壱間
上ノ坪ゟ谷口セき迄五十間
谷口ゟセき富迄弐百四十間
セき富ゟ木瀬川落合迄十六間
堰原堰ゟ木瀬川落合迄
三千百廿九間
　壱り十六丁九間
岩波堰ゟ瀬名沢落合迄
弐千五百五十四間
　但壱り六丁三十四間有
瀬名沢落合ゟ堰原セき迄
千三百四十間
　但廿二丁弐十間
岩波セきゟ堰原セき迄
壱り廿八丁五十四間
岩波セきゟ木瀬川落合申候小関之下迄
三り九丁三間有
御宿新堰みけん木長サ
一セき口ゟ　三間四尺余
　分石迄十間
一分石ゟ　あらい迄廿間
一あらいゟ　かうしん前穴迄百四間

一穴ノ口ゟ　大川添田尻迄七十間
　四口〆弐百七間之内大川添也
一田尻ゟうばが沢橋場迄六十間
　是迄之内年々捨水有、ふしんニ可入念所也
一橋場ゟ上堀口迄へ弐間
　上ケ田之内ゟ上、是ゟ金沢・葛山へ水引申候、上ケ田分モ有ル
一上堀口ゟまちやセき迄廿間
　上ケ田分
一まちやセきゟ横道橋迄百六十間
　同断
一橋ゟ御宿まちやセき迄弐間
　御宿分
一まちやセきゟ御宿久保屋敷堰迄五十弐間
　同断
一久保屋敷セきゟかなやセき迄八間
　上ケ田分
一かなやセきゟ村境迄八十八間
　御宿分
一村境ゟ水窪セき迄七十一間
　同
一水窪セきゟ横道迄六十八間
　同
一横道ゟ駒方堰迄五十弐間
　同
一駒方堰ゟ同屋敷セき迄七十八間
　同
一月屋敷口ゟカリ又横道迄百十八間
　同
一横道ゟ横堀落合寺ノ上橋迄六拾弐間
　同
一寺ノ上橋ゟ寺中南境迄四十二間
　同
一境めゟかす森道迄五拾間
　同
一道ゟ村境橋場用水尻落合迄六十八間
　同
一水尻橋場ゟ千福堰之上落合迄九十間
　御宿村之内
一新堰口ゟ千福堰上落合へ千二百九十八間
一〆金六千両拝借金右元〆五人ニ而
　内　四千両七年之内上こくを以返納弐千両江戸ニ可納
右請負方へ水代米
日損田ハ壱反ニ付米壱斗五升ツヽ、畑田ニ成ハ壱反ニ付米一斗七升ツヽ七ケ年之内上穀出シ申候定メ
元禄元年迄十八年之間右元〆五人ニ而湖水懸り堰支配致候、此内段々水不足有之候
元禄二年巳年ゟ水配役人四人ふち、御宿村平二郎・同断茶畑村甚左(右)衛門両人へ被仰付候
是ゟ御代官小長谷勘左衛門様御支配被遊候、働之者二人

壱人ニ付給金弐両正月七日迄
一高三千五百四十六石四斗八合　沼津領
内
千三百四十九石八升九合　まきセきかゝり
一弐千五百三拾九石八斗九升八合　小田原領
二口合六千八十六石三斗六合　三十ヶ村高辻
十五ヶ村まきセき懸り引
残り四千三百廿四石七斗壱升壱合
惣高壱万千三百四拾三石七升八合
一御宿うばが沢上ヶ田境ゟ上ヶ田村之内
かなや境め迄三百五間之内、上ヶ田村ゟ書出し申候
同所上堀口ゟ金沢葛山ゟ御宿かなや尼ヶ窪境迄千五百
壱間
候のよし上ヶ田ゟ書出し申候
新堰懸り六ヶ村
一高千五百十石五斗五升弐合　高辻
内弐百五石四升弐合　湖水懸り

下田四町九反四畝五歩
箱根水門口江弐里弐拾三丁
同所海尻江三里
一苗代溝ハ地山也　只今ノ水門口ツき出しとぶ也
かねほり甚左衛門口上聞書
一堀割水門口ゟ四ツとめ迄四十七間
一東四ツとめ口ゟはらミ石迄百間
一壱番かたかり迄百廿間　長弐間之
かたかり也
此間百三十間程長ろうか
一弐番かたかり迄弐百五十間　長四尺程
かたかり迄
一三番かたかり迄弐百七十間
長弐尺かたかり也
是ハ右組ノ所ゟセまく御座候
一堀合迄三百三十間余

一堀合ゟ西ノ長ろうか弐百間程
　此内ニ廿七八間程ハ弐尺ひく
一分上り八十六間此所四尺高し（長ろうかノ跡）
一大石長九尺ほと
一たうぢか岩屋長十弐間程ノ岩や
一三枚棚長三間あり
一西けむり迄六百廿六間此間六十間余とめ
一四つとめ迄七百廿六間（西方）
　堀板間数七百廿六間内
　　三百三十間余　東
　　三百九十間余　西
東ゟ西迄かうはい四丈四尺也
（宝永五年「木瀬川間数堰々方角覚」
裾野市上ケ田　柏木新吾氏所蔵）

罡　寛文六年（一六六六）　竹原村箱根湖水掘抜記録

一湖水堀抜願始之事

寛文六丙午六月、同七月願之通相叶申候、右入用金六千両与申事ニ候、午年ゟ戌年迄五ケ年相掛り、寛文十一年亥五月四日少々水出ル、同十二年五月廿八日水多分出ル、畑田ニ成始り稲葉様御内御奉行小山源兵衛殿茶畑村名主甚右衛門方江御座被成、用水新堀等被　仰付候、其節中郷江掛り候堀　当時九尺堀与申候、右堀抜仕候者江戸ゟ参り候由

　友野與右衛門
　友嶋（須崎）源右衛門
　浅井佐右衛門（次欠ヵ）
　稲（橋）本　山　八（入）

　是者小割者　深谷八郎兵衛

一寛文十一年ゟ辰年迄拾八年、右之者共水差引仕候、先年ゟ黄瀬河瀬名沢引来り水不足ニ付堀抜仕、今三水一川江流入候得者惣名湖水掛り与唱申候
其後右四人之者、湖水掛り村々拾七年之内上穀ヲ取申候由

（慶応四年「湖水掛弐拾九ヶ村用水堰々反別控帳」
長泉町　高橋久雄氏所蔵）

四六　（一六六七）寛文七年八月朔日　茶畑村甚右衛門箱根掘貫記録

一箱根堀貫未八月朔日ゟ初、亥ノ四月廿日ニ出来候、水通り候事廿二日ゟ通り候

堀抜仕候者江戸町人
友野与右衛門　浅井佐次右衛門
橋本山入　須崎源右衛門

（天和三年「柏木甚右衛門覚書帳」
沼津市　柏木正男氏所蔵）

四七　（一六七〇）寛文一〇年　富沢村箱根湖水掘抜記録

一箱根湖水堀抜御普請被仰付候者、寛文十年戌ゟ亥迄、御入用六千両与申伝

御普請役
浅井佐治右衛門
洌崎源右衛門
山友（ママ）山友

其節当村御料所御代官野村彦太夫様

（中略）

一右湖水ハ寛文六丙午年六月ゟ同十戌年迄五ヶ年相懸り、其後四人之内湖水掛りゟ拾七年之内上穀ヲ取申候、寛文十一亥年五月四日ニ堀抜水少々出ル、同十二年五月廿八日水大分下り、畑成田始り

（文政一三年「地方諸事控」
裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

四八　（一六六一～七三）（寛文年中）　小田原藩箱根湖水掘抜規模・元締等書上

一箱根湖水、東西壱里拾壱町、南北二里五町御座候

一同湖水乾方駿河戸山堀貫有之、駿州御厨領・沼津領田地之用水ニ仕候、堀貫之口高八尺横六尺、奥行七百拾五軒（間）、右堀貫請負之元〆江戸町人浅井佐次右衛門・同

橋本山入・同須崎源右衛門・同友野与右衛門・須賀屋
八郎兵衛・大坂屋太郎右衛門
一駿河戸山堀貫江元箱根より船参候者改候義、権現領元
箱根名主共ニ手形度々申付有之
（貞享三年「稲葉家引送書」神奈川県小田原市
岩瀬正直氏所蔵『神奈川県史資料編』より引用）

四九（一六六一～七三）（寛文年中）久根村箱根山湖水掘貫元締名前書上

寛文年中箱根山湖水堀貫元〆方

友野與右衛門
浅井佐次右衛門
須崎源右衛門
長浜半兵衛
天崎嘉右衛門

右手代山本市左衛門与申者病死いたし、下土狩村清体寺
ニ取置申候
（弘化三年「箱根山湖水御普請願立銘細控帳」

裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

第六節　開削後の村々

五〇　寛文一一年一〇月一四日　御宿村田畑指出状

亥ノ年御宿村田畑御指出シ之事

一田方百石七斗弐合

此分ヶ

上田五町弐拾歩半

分米七拾五石壱斗三合

内

三セ拾五歩　亥ノ畑ニ成

分米五斗弐升五合

残四町九反七畝五歩半　残毛

分米七拾四石五斗七升八合

中田壱町三反九畝四歩

分米拾六石六斗九升六合

内

壱畝九歩　当水押

分米壱斗五升六合

残壱町三反七畝廿五歩

分米拾六石五斗四升

下田八反九畝壱歩

分米八石九斗三合

田合七町弐反八畝廿五歩半

分米百石七斗弐合

内

壱斗五升六合　当水押

五斗弐升五合　亥ノ畑ニ成

残百石弐升壱合　残石

一畑方百廿三石壱斗七升八合

此分ヶ

上畑四町八反八畝八歩

分米三十九石六升壱合
内
壱反八畝四歩　亥午田ニ成
分米壱石四斗五升壱合
残四町七反四歩　畑残毛
分米三十七石六斗弐升壱合
中畑弐町九反七畝歩
分米廿石七斗九升
壱畝歩　分米七升　亥午田ニ成水押
内弐反四畝拾七歩　亥午田ニ成〃〃〃
分米壱石七斗壱升九合　同残毛
残弐町七反壱畝十三歩　畑残毛
分米拾九石壱斗
下畑四町三反拾四歩半
分米弐十壱石五斗壱升四合
内
三反七畝拾歩　亥午田ニ成
分米壱石八斗六升七合
残三町九反三畝四歩半　畑残毛
分米拾九石六斗五升八合
一下畑七町六反四畝九歩半　上ノ原新田
分米三十八石弐斗壱升六合
内
壱町六反六畝廿四歩半　未ノ起間
分米八石三斗四升壱合
残五町九反七畝拾五歩　残毛
分米弐十九石八斗七升五合
屋鋪三反五畝廿六歩
分米三石五斗八升七合
内
三ヶ八歩　午ノ田ニ成
分米三斗弐升七合
残三反弐畝拾八歩　屋敷残毛
分米三石弐斗六升

畑屋敷合百廿町壱反五畝廿八歩
分米百廿三石壱斗七升八合
内
七升　亥午田ニ成水押
五石三斗六升四合　同残石
三石弐斗六升　屋敷残石
百拾四石四斗八升四合　畑残石
田畑合弐拾七町四反四畝廿三歩半
分米弐百廿三石八斗八升
外
一田方壱石五斗七升七合　亥ノ改出シ
此分ヶ
下田壱反五畝廿三歩
分米壱石五斗七升七合
内
壱畝七歩　当川成
分米壱斗弐升三合
拾五歩　当水押
分米五升
残壱反四畝壱歩　残毛
分米壱石四斗四合
外
一畑方弐十五石四斗七升八合　右同断
此分ヶ
下畑五町九畝拾七歩
分米廿五石四斗七升八合
内
壱畝歩　田ニ成当水押
分米五升
下り壱反壱畝拾四歩　同残毛
分米五斗七升三合
残四町九反七畝三歩　畑残毛
分米廿四石八斗五升五合
田畑合五町弐反五畝拾歩

分米廿七石五升五合

一米五斗九升　　山手役

右当亥ノ歳田畑御指出シ、壱畝壱歩之所も無隠并ニ永不・川成之場所銘々相改、当川成水押帳請取水帳を以致吟味、如此御指出し仕上ケ申候、若偽致悪敷致御座候ハヽ、拙者とも越度ニ可被仰付候、諸事出入無御座候、以上

寛文拾壱年　　御宿村

亥ノ十月十四日　　庄や　半右衛門

同　忠左衛門

同　権兵衛

組頭　甚右衛門

野村彦大夫(太)様

御手代衆

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三　寛文一一年(一六七一)一一月二一日　富沢村年貢割付状

富沢村亥之御年貢可納割付之事

一田方百四石弐斗五升壱合

此わけ

上田五町五反八畝弐拾壱歩

内弐町四畝拾七歩色違入

内

四反八畝弐拾六歩　竿違

四畝五歩　当付荒

壱町弐反三畝歩　同検見捨

内五反五畝弐拾弐歩色違入

壱町四反四畝弐拾歩　色違残毛

此取七石三斗七升八合　但五斗壱升代

弐町三反八畝歩　残毛

此取拾三石八斗四合　但五斗八升代

中田壱町八反弐畝七歩

内六反壱畝弐拾三歩色違入

内

壱反六畝拾五歩　竿違
六畝弐拾六歩　当付荒

内四せ歩色違入

四反五畝六歩　同検見捨

内壱反六畝弐歩竿違入

四反壱畝弐拾壱歩　色違残毛
此取壱石九斗壱升八合　但四斗六升代
七反壱畝弐拾九歩　残毛
此取三石八斗壱升四合　但五斗三升代

下田四反壱畝弐拾歩

内

八畝弐拾八歩　当検見捨
三反弐畝弐拾弐歩　残毛
此取壱石五斗三升八合　但四斗七升代

一畑方三拾四石三斗四升四合

此わけ

上畑壱町九反七畝弐拾四歩
此取五石三斗四升壱合　但弐斗七升代
中畑壱町壱反四畝壱歩
此取弐石五斗九合　但弐斗弐升代
下畑壱町八反七畝拾九歩
此取三石壱斗九升　但壱斗七升代
屋敷弐反弐畝弐拾九歩
此取壱石壱斗四升八合　但五斗代
高合百三拾八石五斗九升五合
此取四拾石六斗四升

一田方壱石四斗三升三合　戌之改新田

此分ヶ

下田壱反四畝拾歩
此取四斗三升　但三斗代

一畑方四石八斗八升

此分ヶ

下畑九反七畝拾八歩
　此取九斗七升六合　　但壱斗代
高合六石三斗壱升三合
　此取壱石四斗六合
　　外
一米弐斗　　山手役

右之通大小之百姓立合無高下致内割、来ル極月五日以前可有皆済、若其過令油断者譴責を以急度可申付者也

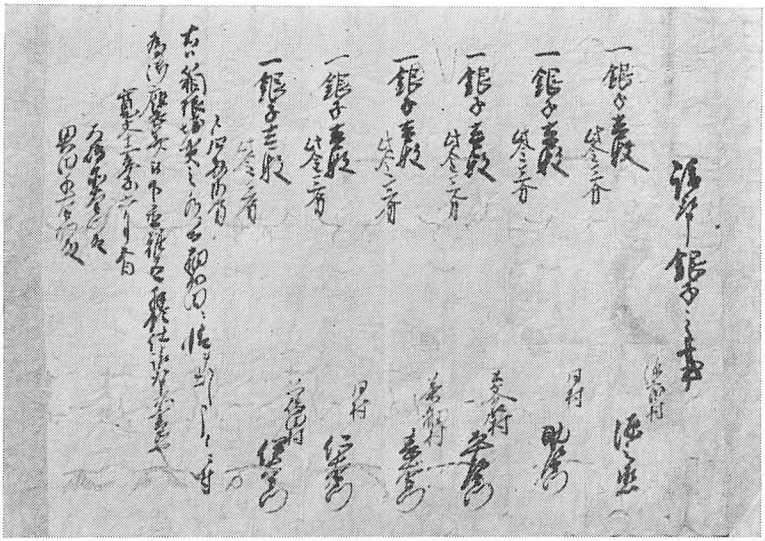
寛文拾壱年
亥霜月廿一日　　野彦太夫㊞

右名主
百姓　中

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

三　寛文一二年（一六七二）六月五日　箱根掘貫畑成田出精褒美銀子請取状

請取申銀子之事
一銀子壱枚　　深良村　源之丞
　此金三分
一銀子壱枚　　同村　助左衛門
　此金三分
一銀子壱枚　　公文名村　平左衛門
　此金三分
一銀子壱枚　　茶畑村　甚右衛門
　此金三分
一銀子壱枚　　同村　仁右衛門
　此金三分
一銀子壱枚　　いつ嶋田村　伊右衛門
　此金三分
〆四両二分



右ハ箱根堀貫之水ニ而、畑成田ニ情(精)ヲ出し申候ニ付、為御褒美被下置難有拝領仕、請取申所実正也

寛文十二年子六月五日

大嶋所右衛門殿

奥田千右衛門殿

（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

三　寛文一二(一六七二)年一一月二三日　富沢村年貢割付状

富沢村子之御年貢可納割付之事

一田方百拾六石七斗壱升弐合

内　拾壱石弐升八合　当子改出石

壱石四斗三升三合　同子改戌新田本途入

此わけ

上田四町四反四畝弐歩

内

六反壱畝拾七歩　当検見捨

三町八反弐畝拾五歩　残毛

此取弐拾石六斗五升五合　但五斗四升代

中田弐町八反七歩

内

四反弐畝拾六歩　当検見捨

弐町三反七畝弐拾壱歩　残毛

此取拾壱石六斗四升七合　但四斗九升代

下田弐町弐反八畝七歩

内九反五畝拾三歩　山田入

内

弐反六畝弐拾六歩　当付荒

四反八畝弐拾九歩　同検見捨

内壱反壱七八歩　山田入

八反四畝五歩　山田残毛

此取壱石六斗八升三合　但弐斗代

六反八畝七歩　残毛

此取弐石九斗三升四合　但四斗三升代

一畑方五□(拾五)□石三斗七升九合

内弐拾壱石三升五合　当子改出石

此わけ

上畑弐町壱反四畝弐拾壱歩

此取五石三斗六升八合　但弐斗五升代

中畑弐町五反壱畝弐拾六歩

此取五石三升七合　但弐斗代

下畑弐町九反壱畝弐拾壱歩

此取四石八升四合　但壱斗四升代

屋敷五反九畝弐拾六歩

此取弐石九斗九升三合　但五斗代

高合百七拾弐石九升壱合

内　三拾弐石六升三合　当子改出石

壱石四斗三升三合　同子改戌新田本途入

此取五拾四石四斗壱合

同所新田

一畑方四石三斗八升三合

外四斗九升七合不足

此わけ

下畑六反五畝拾九歩　　但八升代
此取五斗弐升五合
下々畑五反八畝拾八歩　　但六升代
此取三斗五升弐合
取米合八斗七升七合
外同所見取
一田方四石三斗五升七合
此わけ
下田五反四畝拾四歩　　当付荒
一米弐斗　　山手役
右之通　大小之百姓立合無高下致内割、来ル極月廿日以前可有皆済、若其過令油断者譴責を以急度可申付者也
寛文拾弐年　　野彦大夫㊞
子十一月廿三日
右名主
百姓中

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

五四　延宝二年（一六七四）正月一九日　小田原藩箱根掘貫穴浚奉行任命記録

正月九日　曇　時々晴
一布施与惣左衛門・小俣長右衛門、箱根堀貫之儀共目論見、今晩小田原ゟ罷越也

正月十四日　曇　晩方雨
一小俣長右衛門・布施与惣左衛門、今宵被召出、堀貫見分之様子御聞被遊

正月十九日　雨天
一箱根堀抜之儀ニ付御用有之、小俣長右衛門・布施与惣左衛門、先日被召寄候処、御用相済、今日小田原江罷立候、就夫両人ニ銀子二枚宛被下置、但シ堀貫穴之内湖之方ゟ百七十間之間、深二尺・幅三尺ニ御浚被下ニ

依而、両人共ニ奉行被仰付

（延宝二年『小田原藩永代日記』
京都市　田辺陸夫氏所蔵）

三三　延宝五年（一六七七）一一月「茶畑村明細帳」畑成田・堰すじ書上

（表紙）
延宝五年
御厨下筋茶畑村
巳十一月

（前略）

一田畑反別百拾町六反拾歩
　内　田畑四反七畝拾壱歩　寺社免
田方五拾壱町九反壱畝歩
　内拾五町八反余箱根堀貫水掛り畑成田
わけ
九畝廿三歩　亥年川成并丑年溝代
壱畝廿六歩　寅年屋敷ニ成
拾九町六反五畝拾弐歩　水田ニ而麦作不仕候
拾町九反八畝廿八歩　麦作仕候分
畑方三拾八町三反五畝廿壱歩
わけ
拾三町八反壱畝廿歩　箱根堀貫水ニ而亥子両年畑成田
四畝廿三歩　子年地水ニ而畑成田
壱反弐畝五歩　亥子両年堰溝代
残弐拾四町三反七畝三歩
一畑反別弐拾五町八反五畝廿四歩　平松分
わけ
壱反弐畝廿歩　亥年ゟ年々堰代
拾三町九反四畝三歩　箱根堀貫水ニ而年々畑成田
残拾壱町七反九畝壱歩

一高五百弐拾九石四斗弐升七合　先高
　内五拾弐石三斗　平松新田分
一高七百拾四石七斗弐升八合　今高
　内百六石八斗七升七合　平松新田分

〆

一野畑三町壱反九畝廿八歩　本村分
一野畑九反壱畝拾七歩　子年見出し
一下々田八畝廿九歩　子年見出し
一野畑三反廿七歩　平松新田分
一下畑九反三畝拾六歩　子年見出し
一馬数合百弐疋　内弐疋牛
一当村用水　此水本公文名村境瀧頭堰ゟ取申候
　但瀧頭・中丸・茶畑・中尾ニ而遣申候、此道法弐三町又者七八町程も御座候、則本田壱町弐反余□(并ニ)□畑成田三町余へかけ申候、右之本川段々公文名村□(ゟ)参、茶畑村田地中を通り、伊豆境之川へ落合申候、此川筋ニ高サ五丈余之滝壱ヶ所御座候、但箱根堀貫水も少落合通り申川ニ而御座候
一当村本田仕付申水、東山大谷川其外谷々水落合申候
　此水わけ
一高堰　壱町四反余へかけ申候
　長五間半かこ五間付芝
一すゝあら(はカ)堰　山入并向田川東本田八町余へかけ申候
　長九間かこ堰
一宮下堰　向田川西本田五町余へかけ申候
　長五間半かこ堰
一柿木田堰　樋前つめゟかませき迄百五間、樋ゟむかい五間　前ノ田本田六町四反歩程へかけ申候
　まち長九間
　但せき道法中程ニ長五間余之樋壱ヶ所御座候、右之樋木先年御公儀様ゟ被下候、并山出人足村々へ被仰付、尤御奉行被仰付候
一山入三町余へかけ申井堰、かにか窪并菅沢・あふミ沢・かね引場と申ニ自分之小せき共御座候
右五ヶ所之井堰、此水本東山大谷并此川筋ニ毎年川除

場御座候

一伊豆境峯下ニ而之用水、伊豆・駿河境之川ゟ峯下せきニ而取申候、則本田弐町余へかけ申候

一同市之瀬ニ而之用水、伊豆境大沢ゟ市之瀬せきニて取□□(申候)、則本田九反余へかけ申候

一伊豆・駿河境川、此水本東山大沢そぶと申ゟ茶畑村之内市之瀬峯下本村名主甚右衛門前ゟ麦塚村・伊豆嶋田村脇へ通り申候、但そぶより麦塚村境迄此道法弐里拾弐三丁御座候、此川筋ニ毎年川除場御座候

右之井堰川除普請仕人足、弐百四五拾人程宛毎年入申候、年ニゟ人足多少御座候

一畑成田仕付申水三間新川ゟ取申候、此水箱根堀貫水深良村之内かろう戸ニ而木瀬川へ落合参候川、石脇村之上佐野せきゟ取申候、則ゆるき橋久根村・公文名村・茶畑村通り、伊豆嶋田村之内堰原せきへ落申候、此道法佐野堰ゟ堰原迄壱里四五丁程御座候、此水茶畑村畑成田拾町余へかけ申候、佐野堰ゟ道法弐拾二三町程参茶□□(畑村)之内八幡脇ニて三間川之水取申候、八幡脇ゟ段々道法□□三町又ハ六七町程参、茶畑村分畑成田へかけ、茶畑村之内平松新田畑成田拾三町余へかけ申水、佐野堰ゟ道法弐拾四五町又ハ三拾丁も参、三間堀よりかけ申候、則平松新田用水ニも遣申候

一佐野堰場所長五拾六間皆石岩之上ニ而籠せきニ仕候、水節々遣申度籠押なかし、日数五十日之内五度も(も)三度□人足出し仕直し申候、右何茂井堰普請之儀、御公儀様より御奉行人被仰付御配符次第、村々ゟ人足出普請仕候、但人足壱人ニ付一日ニ御扶持米弐合五夕宛被下候

一平松新田居村ゟ西之方三間川通り申候、則川ゟ西ニ座頭之供養塚石塔壱つ御座候、并川ゟ東之方平松と申九尺廻り之松壱本御座候

（中略）

一井堰川除人足御割付次第毎年出し申候、但人足壱人ニ付一日ニ御扶持米弐合五夕宛被下候

（中略）

延宝五年
巳十一月

安田勘左衛門様

茶畑村

名主　甚右衛門
同　三之丞
組頭　留兵衛
同　惣左衛門
同　伝左衛門
組頭　新兵衛
同　文左衛門
同　佐右衛門

平松新田

組頭　徳右衛門

三六　延宝七年（一六七九）一一月　富沢村年貢割付状

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

富沢村未之御年貢可納割付之事

一田方百拾六石七斗壱升弐合

此分ヶ

上田四町四反四畝弐歩

内

壱町壱反拾六歩　当検見捨
三町三反三畝拾六歩　残毛
此取拾九石六斗七升八合　但五斗九升代

中田弐町八反七歩

内

八反拾歩　当検見捨
壱町九反九畝弐拾七歩　残毛
此取拾石七斗九升五合　但五斗四升代

下田弐町弐反八畝七歩

内九反五畝拾三歩　山田入

内

弐畝弐拾七歩　当付荒
内弐畝弐拾四歩　山田入
四反拾四歩　同検見捨

内壱反五畝壱歩　山田入

七反七畝拾八歩　山田残毛

此取弐石壱升八合　但弐斗六升代

壱町七畝八歩　残毛

此取五石壱斗四升九合　但四斗八升代

一畑方五拾五石三斗七升九合

此分ヶ

上畑弐町壱反四畝弐拾壱歩

内弐反五畝四歩　田ニ成入

内

弐畝弐拾歩　用水溝代

三畝拾五歩　田ニ成当付荒

壱反弐畝九歩　田ニ成検見捨

九畝拾歩　同残毛

此取三斗七升三合　但四斗代

壱町八反六畝弐拾七歩　残毛

此取五石弐斗三升三合　但弐斗八升代

中畑弐町五反壱畝弐拾六歩

内壱町壱反七畝拾六歩　田ニ成入
内八畝三歩　当未ノ田ニ成入

内

四反歩　田ニ成当付荒

五反弐拾九歩　同検見捨

弐反六畝拾七歩　同残毛

此取九斗三升　但三斗五升代

壱町三反四畝拾歩　残毛

此取三石九升　但弐斗三升代

下畑弐町九反壱畝弐拾壱歩

内六反七畝拾三歩　田ニ成入
内八畝八歩　当未田ニ成入

内

弐反弐拾九歩　田ニ成当付荒

弐反八畝弐拾八歩　同検見捨

壱反七畝拾六歩　同残毛

此取四斗三升八合　但弐斗五升代

弐町弐反四畝八歩　残毛

此取三石八斗壱升三合　但壱斗七升代
屋敷五反九畝弐拾六歩
此取弐石九斗九升三合　但五斗代
高合百七拾弐石九升壱合
此取五拾四石五斗壱升
同所新田
一畑方四石三斗八升三合
此わけ
下畑六反五畝拾九歩
内六畝拾四歩　田ニ成入
内五畝弐拾八歩当未ノ田ニ成入
内
四畝拾弐歩　田ニ成当検見捨
弐畝弐歩　同残毛
此取五升弐合　但弐斗五升代
五反九畝五歩　残毛
此取四斗壱升四合　但七升代
下々畑五反八畝拾八歩
内拾六歩　当未ノ田ニ成入
内
拾六歩　田ニ成当付荒
五反八畝弐歩　残毛
此取弐斗九升　但五升代
取米合七斗五升六合
同所見取
一田方四石三斗五升七合
此わけ
下田五反四畝拾四歩
内
壱反九畝拾五歩　当付荒
九畝九歩　同検見捨
弐反五畝弐拾歩　残毛
此取四斗三升六合　但壱斗七升代
外
一米弐斗　山手役

右之通大小之百姓立合無高下致内割、来ル極月十五日以前可有皆済、若其過令油断者譴責を以急度可申付者也

延宝七年
未十一月晦日　　野彦太夫㊞

右名主
百姓　中

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

毛　延宝八年（一六八〇）正月「茶畑村明細帳」畑成田・堰すじ書

上

（表紙）

延宝八年
駿州駿河郡小泉庄茶畑村鏡之帳
申ノ正月

（前略）

一田畑反別百拾町六反拾歩

内
田畑四反七畝拾壱歩　寺社免
田方五拾壱町九反壱畝歩
拾五町八反余　箱根堀貫水ニて畑成田
内
三拾六町余　本田
内廿六町余　ふけ田ニて麦作不申分
畑方廿七町八反八畝拾六歩
平松分
田方拾四町壱反八畝廿壱歩　箱根堀貫水ニて畑成田
同断
畑方拾六町九反八畝廿八歩
外ニ
野畑三町五反壱畝拾八歩
一高四百六拾石三升六合　先高
一高九百七拾弐石七斗七升四合　今高
内三石八斗八升八合　寺社免

百九拾七石六斗七升七合　平松新田分

一馬数合百壱疋

一牛　壱疋

一当村用水、此水本公文名村境瀧頭境ゟ取申候、堰場所長サ拾八間かご堰ニ仕候、此道法二三丁又者七八丁余も御座候、則本田弐町余并ニ畑成田三町余かけ申候、右之本川段々公文名村ゟ参、茶畑村田地之中を通り、伊豆境之川江落合申候、此川筋ニ高サ五丈余ノ滝壱ケ所御座候、但シ箱根堀貫水も少落合通り申候、右之田江かけ申水不足仕候得者、公文名村之内みかどせき与申堰を切水引申候、居村ニ寄外之水を遣申者も御座候

一当村本田仕付申水、大谷川其外谷々ゟ落合申水ニ而御座候

此わけ

一山入本田四町七反余かけ申堰かにが窪・藤沢(ママ)鐙沢・かね引場と申ニ、自分之小堰ニて有之水かけ申候

一高堰ゟ取申水、堰口ゟ段々宮上本田壱町六反余かけ申候、但堰場所長五間半ニてかご堰并五間ハ付芝ニ仕候

一すゝ原堰ゟ取申水、堰口ゟ段々山入并ニ向田川東本田拾町余江かけ申候、但シ堰場所長サ九間かご堰ニ御座候

一宮下堰ゟ取申水、道法弐三丁程参、向田川西本田五町五反余かけ申候、但堰場所長サ五間かご堰ニ仕候

一柿木田堰ゟ申水(取欠カ)、道法五六丁程参、前田ニて本田六町五反余かけ申候、但堰場所長サ九間芝土手ニせぎ申候、并ニ百拾間程付芝之処有之候、則堰道法中程ニ長五間余之樋壱ケ所御座候、右之樋木先年ゟ取替候節ハ、御公義(儀)様へ申上候得者被下候、并ニ山ゟ引入足御奉行人共被　仰付被下候

右五ケ所之堰、此水本大谷川筋ニて御座候、此川筋ニ毎年川除場御座候

一伊豆境市之瀬ニ而用申水、伊豆・駿河境川ゟ壱之瀬堰ニ而取申候、則本田九反余江かけ申候

一伊豆境峯下堰ゟ取申水、堰口ゟ段々峯下本田弐町余江

かけ申候

一伊豆・駿河境之川、此水本そぶと申より大沢壱之瀬通、則麦塚村脇江通り申候、当村境之分道法弐里弐丁余、此川筋ニ毎年川除御座候

一当村井堰川除人足、年ニ三百弐三十人程つゝ毎年入申候、年ニ寄大水出申候へ者、人足大分ニ入申候

一畑成田拾弐町余へかけ申水、茶畑村之内八まん脇ニ而三間川之水取申候、本堰ゟ道法三十弐三丁参、田地ニかゝり申候

一野添堀、此水本公文名村之内ニて堰仕取申候、并久根・公文名村畑成田へ掛候水、大雨之節払堀ニて御座候

一茶畑村之内平松新田畑成田拾四町余へ掛申水、三間堀り筋本堰ゟ道法三拾四五丁又ハ壱里余も参りかけ申候、則平松新田之者用水茂遣申候

一畑成田植附申時分、てりつよく候て水不足仕候得者、堰扱人足并ニかろう戸ゟ段々堰落ニ人足出シ、一日ニ七八度十度も落申候、人足大分ニ入申候

（中略）

一井堰川除人足、御割付次第、毎年出し申候

（中略）

延宝八年　　茶畑村

申正月　　名主　甚右衛門

同　三之丞

組頭　新兵衛

同　伝左衛門

同　惣左衛門

同　文右衛門

平松新田

徳右衛門

梅元佐次右衛門様

大嶋伝右衛門様

（延宝八年「茶畑村鏡之帳」

沼津市　柏木正男氏所蔵）

弐　延宝八年（一六八〇）一〇月　富沢村年貢割付状

申年駿河領富沢村御物成可納割付之事

一高百八拾石八斗三升壱合

内

田高百拾六石七斗壱升弐合

此分

上田四町四反四畝弐歩

内五反弐畝弐拾七歩　申年検見引

残三町九反壱畝五歩

取米拾八石七斗七升六合　反四斗八升取

中田弐町八反七歩

内三反七畝拾九歩　申年検見引

残弐町四反弐畝拾八歩

取米拾石四斗三升弐合　反四斗三升取

下田壱町三反弐畝弐拾四歩

内

一弐反五畝拾四歩　申年検見引

一七反七畝弐歩　畑成田壱町七反弐畝八歩之上石申年元〆江遣分ニ引

残三反八歩

取米壱石壱斗五升　反三斗八升取

下田九反五畝拾三歩　山田

内三畝歩　申年検見引

残九反弐畝拾三歩

取米壱石五斗七升壱合　反壱斗七升取

畑高五拾五石三斗七升九合

此分

上畑弐町壱反四畝弐拾壱歩

内

一弐畝弐拾歩　用水溝代

一四反拾八歩　田ニ成

内弐畝歩　申年検見引

残三反八畝拾八歩

取米壱石三斗九升　反三斗六升取

一壱町七反壱畝拾三歩　　残畑
　取米四石弐斗八升六合　反弐斗五升取
中畑弐町五反壱畝弐拾六歩
　　内
一壱町弐反拾六歩　　田ニ成
　内壱反四畝四歩　申年検見引
残壱町六畝拾弐歩
　取米三石壱斗九升弐合　反三斗取
一壱町三反壱畝拾歩　　残畑
　取米弐石六斗弐升七合　反弐斗取
下畑弐町九反壱畝弐拾壱歩
　　内
一七反壱歩　　田ニ成
　内六畝壱歩　申年検見引
残六反四畝歩
　取米壱石壱斗五升弐合　反壱斗八升取
一弐町弐反壱畝弐拾歩　　残畑
　取米三石三斗弐升五合　反壱斗五升取
屋敷五反九畝弐拾六歩
　取米弐石九斗九升三合　反五斗取
畑高四石三斗八升三合　　新畑
　　此分
下畑六反五畝拾九歩
　　内
一六畝拾四歩　　田ニ成
　取米壱斗壱升六合　反壱斗八升取
一五反九畝五歩　　残畑
　取米四斗壱升四合　反七升取
下々畑五反八畝拾八歩
　　内
一拾六歩　　田ニ成
　取米七合　反壱斗三升取
一五反八畝弐歩　　残畑
　取米弐斗九升　反五升取

田高四石三斗五升七合　　新田
　　此分
下田五反四畝拾四歩
　　内四畝弐拾壱歩　申年検見引
残四反九畝弐拾三歩
　　取米六斗四升七合　反壱斗三升取
一米弐斗　　山手役
米〆五拾弐石五斗六升八合
右之通霜月廿日以前急度皆済可仕者也
　延宝八年十月日
　　小山源兵衛㊞
　　柳吉左衛門㊞
　　劔持助兵衛㊞
　右之村
　　名主百姓中
（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

元　天和三年（一六八三）　茶畑村上穀等記録

四月二日
一当年ゟ畑成田七年畑年貢上穀ハ堀貫ノもの方へ遣候筈ニ候、上田壱反ニ弐斗、中田壱反ニ壱斗七升、下田壱反ニ壱斗ニ四升つゝ
同　日
一水帳ニ無之新田堀貫之者と立合書付相渡、其上ニ而堀抜之手前可相極事
同　日
一駿河戸堀口之番人付置候儀、水掛り之村々より向後扶持米出可申事、則沼津領も一同ニ定り候
（天和三年「柏木甚右衛門覚書帳」
　沼津市　柏木正男氏所蔵）

六〇　貞享三年（一六八六）四月一六日「佐野村明細帳」用水普請・堰書上

（表紙）
貞享三丙寅年
駿州駿河郡小泉庄御厨領佐野村二本松新田共
四月十六日

一田地囲用水普請、下筋拾弐ヶ村組合ニ而仕候、当村普請人足壱年ニ大分入申候得ハ、昼御扶持米被下候儀も御座候
（中略）
一村ニ而田地囲用水人足、三拾人余も入申候
一佐野堰地水先年ハ石脇村・佐野村・稲葉主水様御領分久根村三ヶ村ニ而堰仕水取申候、前々ゟ堰杭槻被下候、但シ長三間四尺丸木五六尺廻、但箱根堀貫之水拾六年以前亥年ゟ木瀬川江落参候ニ付、村々畑成田仕、堰之儀公文明村・茶畑（名）村・麦塚村・伊豆嶋田村右之村共ニ七ヶ村ニ而堰仕候、御奉行様願申候得者被仰付被下候一下筋拾弐ヶ村之内ニ而堰川除其村々ニ而成兼申時分者御指図次第人足出申候

（裾野市佐野　古谷善和氏所蔵）

六一　貞享三年（一六八六）四月一六日「茶畑村明細帳」用水普請・水掛り書上

（表紙）
貞享三年
駿州駿東郡御厨領茶畑村指出シ帳
寅四月十六日

（前略）
一田地囲用水普請ニ下筋拾弐ヶ村御つもりを以、近年ハ村限ニ被　仰付候、当村普請人足壱年ニ三百人程ツヽ遣申候、昼御扶持被下候儀も御座候

（中略）

一下土狩御蔵添番弐人、下筋拾ヶ村ニ而抱置申候

（中略）

一当村御田地六拾六町余之内、三拾五六町ハ沢水掛り山入ふけ田多ク御座候、残三拾町余ハ箱根堀貫水かゝり、堰本石脇村之上ゟ上ヶ石脇・佐野・久根・公文名四ヶ村ヲ通り、道法壱里余も参候ニ付、内々ニ而ハ水届キ兼申候、其節ハ御奉行衆御越、水御指引被遊被下候

（中略）

一当村槻樋四本内　壱本ハ長五間半ニ而はゞ三尺　三本ハ長三間ニ而小橋ニ御座候
右橋木樋木槻ニ而取替候節、何方之山ニ而も被下、山ゟ引入足御奉行人も被　仰付被下候

（中略）

貞享三丙寅年四月十六日　　茶畑村

名主　甚右衛門
組頭　伝左衛門
同　佐右衛門
同　新左衛門
同　文左衛門
平松新田　甚四郎

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

六三　貞享三年四月一七日「公文名村・稲荷村明細帳」堰人足等書上

（表紙）

貞享三年
寅四月十七日
駿州駿東郡御厨公文名村稲荷村御差出帳
宝永五年
子ノ二月伊奈半左衛門様へ差上ヶ申候

（前略）

一村ニ而井堰人足百五拾人余、村ニ而人足出シ申候
一村之内堤三ヶ所、毎年砂入さらい人足三百人余使申候、

右ハ下郷拾三ヶ村ゟ人足被仰付、御奉行様心付被遊普請被　仰付候、自然大水ニ而破損御見分之上、何百人ニ而茂御遣被遊候

一堤槻樋木八本　長弐間幅壱尺四寸厚サ壱尺

右之木神山村之山ニ而御役人足ニ而引届ケ申候、拾年程ニ而取替申候、是茂御奉行様御附被遊候

一下筋拾三ヶ村之内ニ而堰川除ケ其村ニ而成兼申時分ハ、御差図次第ニ人足出シ申候、人足ニ御夫持米被下候儀も御座候

（中略）

一下土狩村御蔵添番弐人、下筋拾三ヶ村ニ而抱置申候

（中略）

貞享三年　　公文名村

寅四月十七日　　名主　弥　七

組頭　助右衛門

同　権右衛門

惣百姓代　喜　兵衛

同　与左衛門

（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

六三　貞享五年（一六八八）四月二〇日　富沢村他二カ村畑成田につき下筋五ケ村に対し口上書

口上書之覚

一村々畑成田之儀ハ、箱根堀抜水を以拾六年以前丑ノ年ゟ年々畑成田仕、則御公儀様へ帳面差上ケ、本〻方へも上穀七年宛相渡シ水掛ケ来申候、丑ノ年ゟ卯ノ年迄拾五年之内、何之申分も無御座候所ニ、今年ニ至而下筋五ケ村ゟ企新規、我々三ケ村之分御検地以後之畑成田禿申度段御訴申上候由、迷惑ニ奉存候、右畑成田之儀ハ何分ニも御了簡次第ニ奉存候、以上

貞享五年　　富沢村

辰ノ四月廿日　　名主　仁右衛門

一色村

名主　伊左衛門

納米里村
名主　市郎右衛門

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

六四　貞享五年（一六八八）六月　箱根掘抜水不足に関する下郷訴状

（端裏書）「貞享五年辰ノ六月訴状写シ　御宿村主（名脱カ）安右衛門」

乍恐口上書を以申上候事

一箱根掘抜水七年已前迄ハ下郷迄沢山ニ有之、六年以来水不足故年々旱損仕候、畢竟元〆掘抜普請存分ニ不仕故、連々水不足ニ罷成候哉と思召し候ニ付、百姓普請ニ致候ハヽ、末々迄も水可有之候間、水下村々御領・私領共ニ一同ニ願申事ニ候ハヽ、御公儀へ被仰立可被下旨被仰渡難有奉存候

一箱根掘抜水近年不足仕候ニ付、水懸り村々下郷及渇水ニ迷惑仕候、掘抜湖普請仕候義、拾八年以前本〆水堤（ママ）候分石ゟ水三尺も高溜候様ニ不仕候ハヽ、下郷迄水存分ニ下り申間舗候様に奉存候、是ハ村々畑成田大分出来、其上本〆普請丈夫ニ不仕候故、如此ニ奉存候、然上ハ御領・私領水懸（後欠）

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

六五　天保三年（一八三二）正月　富沢村寛永以降畑成田高入書上ケ覚

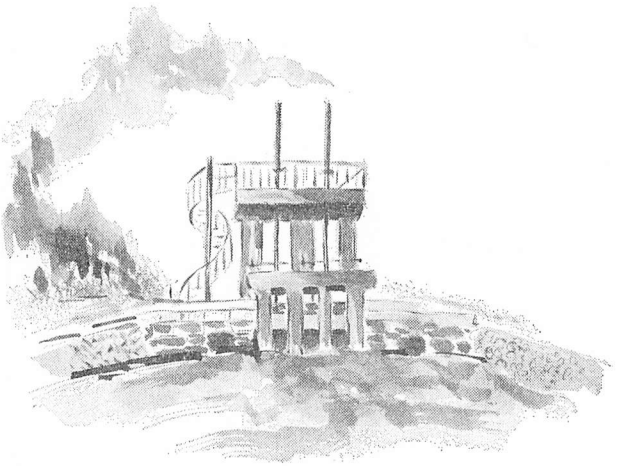
覚

寛永年中ゟ
一高五石五斗七升　見取場
　下田壱反拾七歩
　下畑九反八歩
寛文十戌年御改見取新田
一高六石三斗壱升三合
　内
一高壱石四斗三升三合
　下田壱反四畝拾歩
是ハ寛文十二子年御検地本田ニ入

一高四石八斗八升
下畑九反七畝拾八歩
是ハ寛文十二子年御検地新田高ニ入
〆
寛文十二子年御改新田御高入
一高四石三斗八升三合
下畑六反五畝拾九歩
下々畑五反八畝拾八歩
内
下畑六畝拾四歩　延宝七未年ゟ畑田成ニ成ル
下々畑拾六歩　同年ゟ畑田成ニ成ル
右奉書上候通少茂相違無御座候、以上
天保三辰年正月
富沢村
名主　祐　蔵㊞
組頭　文　助㊞
百姓代　儀左衛門㊞
沼津
御役所

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

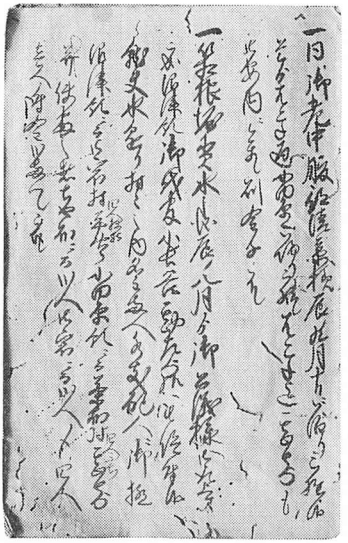
第二章　用水争論と井組の変遷



第一節　井組三郷の成立

六六　元禄二年（一六八九）　水支配人の創置につき書上

一箱根堀貫水之儀、辰ノ八月ゟ御公儀様へ御取上ケ被成、沼津領御代官小長谷勘左衛門様へ被仰付候、就夫水懸リ村々之内名主両人水支配人ニ御極、沼津領ニ而御宿



柏木甚右衛門覚書帳（部分）

村四人扶持平次郎、小田原領ニ而茶畑村四人ふち甚右衛門并使番之者ちゃ畑ニ而二人、御宿ニ而弐人〆四人、壱人ニ付金弐両ツヽ、被下候

（天和三年「柏木甚右衛門覚書帳」
沼津市　柏木正男氏所蔵）

六七　元禄三年四月一六日（一六九〇）　小柄沢堰口争論につき水下村村訴状

乍恐書付を以申上候事

一当二月廿九日ニ三間堀り井掛り久根村・公文名村・茶畑村・麦塚村・伊豆嶋田村、此五ケ村人足ニ而小から沢堰前々之通はな石古籠ヲ用堰仕候所ニ、其以後佐野村之者入口はな石籠共ニ取破申候事

一三月廿七日ニ井掛り之村々寄合、何れ之分ケニ而破申候哉と佐野村名主方へ人遣シ申候得者、名主次郎兵衛申候ハ、去年ハ水沢山ニ御座候故其通りニ致置申候、当年ハ右之通りニ而ハ不罷成候ニ付、破り申候と返事

仕候、然共苗代時分ニ御座候故、前々之通り又堰仕候へハ、其日ニさの村名主次郎兵衛人足召つれ右之入口きり破申候事

一　佐野村より我儘ニ堰破申候ニ付早々可申上候へ共、井掛りニ他領も御座候ニ付如何ニ奉存、御領分井懸り相談ニ而当月二日ニ佐野村名主方へ申越候ハヽ、堰之儀先年之通り致候所ニ度々切破被申候段合点不参候と申越候へハ、名主留守ニ而組頭惣右衛門方へ申置使之者罷帰り申候、何れニも一左右可有之と存候へ共何とも返事不仕候、然所ニ苗代水はし〳〵不足ニ付前々之通り又堰仕候処ニ右之返事茂なく又々堰切り破申候事

一　当月七日私共佐野村へ罷越名主方へ申候ハ、小から沢入口前々之通堰致候処ニ、はな石籠取はなし入口三度迄破被申候ハ、いか様之わけニ候と申候へハ、名主次郎兵衛申様ニ入口せばまり申ニ付ひろけ候と申候、私共申様ニ其方寸尺何程と被存候と申候へハ、次郎兵衛申様寸尺之儀ハ各々へハ申間敷と申候ニ付、私共申様ニ非ハ其方破被置候通りハ当分之寸尺ニ候哉と申候へハ、次郎兵衛申様先其通りと申、只今致置候通り少も違候而ハいく度も破可申と理不尽ニ申埒明不申ニ付、又々場所へ立会入口見申候へハ、先年より有之候うしろ石ノはな石ニ仕、只今入口ひろさ五尺ニ破置我儘仕候事

一　本川筋之儀ハ反別百町ニ及大分之儀ニ御座候、小から沢筋ハ反別拾町程ニ而前々より入口三尺ニ仕来り申候、殊ニ落口ニ御座候へハ、前々之入口ニ而も石しでニ而せき置申場所ニ御座候処ニ、さの村之者入口破置候ニ付、本川筋大分之御田地ニ迷惑仕候、佐の村名主御召出シ前々之通り被為仰付可被下候事

右之通り御詮議之上御下知奉仰候、以上

元禄三年午ノ四月十三日

公文名村　名主　弥　七
組頭　権右衛門
同　助右衛門

茶畑村　名主　甚右衛門
組頭　伝左衛門
同　佐右衛門
同　新左衛門
同　儀左衛門
麦塚村　名主　与右衛門
組頭　権右衛門
伊豆島田村　名主　半　七
組頭　四郎兵衛
同　久左衛門
同　□右衛門

酒井田八郎兵衛様
丹羽与次右衛門様

（裏書）
如此目安差上候間、三間堀川絵図并井掛り反別迄致相絵図、返答書相添今月廿四日可対決、於令遅滞者可為曲事者也

元禄三年
午ノ四月十六日

河村新助
戸田与兵衛
郡八郎右衛門

佐野村
名主
組頭

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

六　元禄三年四月二八日（一六九〇）　小柄沢堰口争論につき申渡書

申渡口上之覚

一駿州駿河郡佐野村小から沢堰之儀、前々ゟ口三尺ニ究候由ニ而、水下三間堀謂掛（井）り公文名村・茶畑村・麦塚村・伊豆島田村、并他領久根村五ヶ村ニ而堰築立候所、佐野村二本松新田・二ツ屋新田之者共、前々之定小から沢堰口四尺八寸ニ相究之由ニて、右之堰三度迄切破候付、水下御領分四ヶ村ゟ訴状出之、佐野村ニ返答書

申付、去ル廿四日双方召出遂吟味候所、水下村々申分前々ゟ堰口三尺ニ仕来候得共、証拠とてハ無之由申之事

一佐野村・二ツ屋新田名主共申分、堰口四尺八寸之定廿年已前先代役人相究、両方ニ鼻石居置候、此段証拠之由申候得共、自然石ニ而も無之、人力ニ而居替成安キ石ニ候得ハ、廿年以前居り候所少も不替候共難見候、然共石ハうこき候而も鼻石と申立候証拠有之候哉と遂吟味候得共、此申分曾而不立、其上水下村々掛り候田反別八拾町余、又佐野村・二本松新田・二ツ屋新田小から沢水用之田反別拾壱町余ニ究候得ハ、水上ニ而大分之堰口明ケ田数少ク、小から沢地下り候方へ引落候儀、先代役人ケ様之不積り有之間敷候、此段令了簡候得ハ、堰口四尺八寸と申立候儀、佐野村・二本松新田・二ツ屋新田偽之申分と令察候、雖然双方論所為見分酒井田八郎兵衛・丹羽与次右衛門、同廿六日彼地江罷越候所、佐野村・二本松新田・二ツ屋新田弥無理之申分ニ相見候事

一水上ニ而地下り之方江水大分引落候而ハ、下郷可及渇水之間、自今以後小から沢堰口弐尺八寸ニ相定之候、尤水配之儀ハ茶畑村甚右衛門可任差図、甚右衛門儀も少も依怙贔屓仕間敷事

一佐野村名主次郎兵衛儀、累年堰場之儀ニ付無理之申分仕、村中百姓迄次郎兵衛心入同前ニ罷有、取分ケ当年及数度堰場切破之候儀、代官江一往之届も無之我儘之仕形不届至極候、依之名主役召上神山村名主新右衛門ニ預之候、妻子親類壱人ニ而も通路仕らせ候者、本人ハ不及申新右衛門儀急度曲事可申付、次郎兵衛妻子之儀者居家へ押込、組頭共ニ預之事

一相名主源七儀、次郎兵衛同前ニ可申付候得共、若輩者之儀、其上只今迄悪心之族不相見候付令宥免之候、自今以後公儀大切ニ可相勤事

一組頭共義、次郎兵衛同前ニ可申付候得共、此度者令宥免候、水上水下御領分一統之儀候間、水掛り引不任我

意様ニ可仕事
一二ツ屋新田名主四郎左衛門儀、水下地窪之所ニ罷有候故、近年他村日損之時分も少も日損無之候段此方与存候所、今度佐野村次郎兵衛と一同仕小から沢堰口峡(狭)罷成候得バ、二ツ屋新田取分ケ迷惑仕候由、嗷義之申分不届至極候、依之名主役召上、居家へ召込百姓共ニ預之、此已後二ツ屋新田ニ名主立候儀、可為無用伊豆嶋田本村並之組頭持ニ可仕事
一二本松新田組頭加左衛門儀、次郎兵衛同前ニ可申付候得共、諸事佐野村ニ相随此度之儀も令一同候と相見へ候付令宥免之事
一二ツ屋新田・平松新田之者共近年ニ罷成本村を相背心入及数度之由、粗相聞へ候得共押立たる儀無之、村用捨を加へ差置候、此已後本村を背悪儀之企於有之者急度不届可申付事
右之通令裁許之畢、村々名主組頭御領分一統之存念不令忘却諸事可相嗜者也

元禄三年　午四月廿八日

河村新助御判
戸田与兵衛御判
郡八郎右衛門御判

茶畑村
公文名村
麦塚村
伊豆嶋田村
右村

名主
組頭百姓　中

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

六九　元禄一〇年(一六九七)三月五日　茶畑村新左衛門ら新堰一件につき口上書

請合口上書之事
一滝之上と申所ニ新左衛門相談も不仕新堰仕候、水筋之

者共迷惑ニ奉存候事
一小丸田と申所ニ相談も不仕新左衛門川を堀替申候、川筋悪敷罷成水すたり申候ニ付水筋之者迷惑ニ奉存候事
一宮内と申所山神前ニ而仁左衛門芝間をかこい入申心得ニ川を堀替、先規有来ニ道壱筋禿申ニ付、通路之者迷惑ニ奉存候事
右三ケ所之儀名主惣百姓衆御指図次第先規之通早々直し可申候、左様ニ被遊可被下候、以上

元禄十年　　茶畑村
丑ノ三月五日　　庄左衛門㊞
　　太郎兵衛㊞
　　佐右衛門㊞
　　久左衛門㊞

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

七　元禄一三年（一七〇〇）七月一七日　箱根掘抜水につき水配人口上書

茶畑村甚右衛門
御宿村半右衛門　口書

一箱根堀抜水引取之村々、先年堀抜出来之時分ハ四拾五ケ村ニて御座候所ニ、拾三年以前辰ノ年ゟ牧堰組拾五ケ村ハ、江筋悪ク水のりかね、渇水之時分ハ牧堰上江水届不申候由ニて、用水組除申候而、只今は御料私領三拾ケ村ニて御座候、本宿村之儀箱根用水取来申候事
一拙者共儀、拾弐年以前巳ノ年ゟ水支配人ニ被仰付候、箱根用水村々へ引為取候致方、箱根堀貫水を木瀬川上かろうとせき場之上落シ廻申候、夫ゟ段々堰々へ水配り申候、渇水之時分うへ付水・やしなひ水共ニ届かね申村々ハ、拙者共方へ申届候故、昼夜共ニ所々之田地ヲ見廻り、堰をはつし、水在之田地之水口へ番人を付為置随分甲乙無之様ニ水くはり流し申、それゆへ村々

只今迄一言之申分も無御座、然ハ水末之村ハ届かね番人にも当り付置、殊外骨を折水取候ニ付、耕作之障ニ罷成ほとの儀ニ御座候、本宿村之儀水窪堰組へ入堀貫水取候得共、就中水末之村ニて渇水之時分ハ水上下土狩・中土狩・上土狩・納米里・水窪五ヶ村之水口共ニ番人為付候、少高之村々共ハ人数も多ク入申候、併何ほと渇水之節も植付水無之と申儀ハ無御座候、植付水養水共ニ拙者共指図仕候程、人足さへ出シ候へハ番水割水共ニ本宿村へ当り水ほとハいつとても取申儀ニ御座候へ共、少之御人数も続キかね候哉、去年なとも人足出し不申候、四五年以前迄ハ人足も随分多ク出し水も精を出し引申候事

右之通少も偽り不申上候、以上

元禄十三年

辰ノ七月十七日　　駿東郡御宿村
箱根堀抜用水役人
半右衛門

同断　茶畑村
甚右衛門

吉田小野右衛門殿

山岡忠四郎殿

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

七一　宝永元年（一七〇四）一二月　深良用水沿革につき水配人口上書

指上ケ申口上書之事

一箱根湖水堀抜之儀、三十九年以前午ノ七月堀初戌年まて五ケ年ニ堀抜成就仕候、三十五年以前亥ノ年ゟ村々用水ニ罷成り申候事

一十七年以前辰年迄堀抜請負元〆方ニて水支配仕候所ニ、其節村掛り村数四十五ケ村水引足不申、年々旱損仕候ニ付、私領御料ニ而水論御座候而村々難儀仕候、同年沼津領御代官小長谷勘左衛門様ゟ右之趣御公儀様へ被仰上、堀抜請負人方御召上、御料私領共ニ小長谷勘左衛門様御支配ニ罷成、同年八月勘左衛門様堀抜所御見分被遊堀割さらい水門并湖尻あらいセき等御目論見被

遊、此入用水掛村々高割入札被仰付、右請負人元〆方へ六十三両余荷札御目論見之通御普請出来仕候、右四十五ヶ村之内十五ヶ村まきセき掛りハ箱根水望不申、口上書指上ケ除之申候、残三十ヶ村書面之通箱根水掛井組ニ相究申候事

一十六年以前巳ノ年春、沼津御役所へ御料私領三十ヶ村名主御召寄被仰付候ハ、堀抜水役人御料ニ而壱人、小田原領ニ而壱人、両人水役人御仕立被遊候ニ付、三十ヶ村名主之内ニ而功者成者村々相談を以人指仕候様ニと被仰渡候ニ付、名主寄合相談仕候得共、誰ニ究可然共も人指不罷成候故、沼津御役所へ罷出右之趣申上、此上ハ誰ニても御見立を以被仰付被下候様ニと口上書指上ケ申候事

一御料所ニ而御宿村平二郎ニ被仰付、小田原之儀ハ御支配御指図之者ニ可被仰付と沼津御手代衆ゟ小田原御役人衆へ御状被遣候事

一小田原領水役人ニ茶畑村名主甚右衛門被仰付、其旨沼津御役所へ被仰遣、其以来平二郎・甚右衛門両人ニ而相勤申候

一水役人両人御扶持米被下候、壱人ニ四人扶持宛

一水門番人四人給金被下候、壱人ニ金弐両ツヽ

一水門修覆堀割さらい、湖尻洗堰須釜新川古川口セキ右之入用水掛り村々高割ニ被仰付、是又沼津御役所おゐて御吟味被遊、則御取立被下候事

一去年十一月大地震ニ付、堀抜口并堀割新川筋ニ山崩落所々ニ破損御座候、当正月平二郎・甚右衛門立合見分仕、人足入用とめ木入用書付を以沼津御役所へ指上ケ申候所ニ、村々名主連判取指上ケ申候由被仰渡、則御宿村平二郎所へ村々名主寄合連判仕指上ケ申候、其節平二郎申候ハ、葛山村と山論ニ而江戸御評定所へ被召寄候間、二月十二日ニ罷立申候、右之破損所御普請苗代前ニ出来候様ニ可仕候、平二郎儀ハ江戸へ罷出候間、名代ニ悴半右衛門出シ甚右衛門立合双方水門番人四人出シ人足召仕御普請出来仕候、五月節ニ入水門戸明御

田地仕付申候、水門戸明節も平二郎名代悴半右衛門罷出水門番人四人甚右衛門立合此外手伝人足召連水門戸明段々水引渡申候、六月廿三日ゟ大雨ふり弥水沢山ニ罷成り、御田地旱損少も無御座候事

一平二郎儀、山論埒明候へ共、江戸ニ御用御座候而御代官様御留置暮及候へ共不罷帰候、就夫当年分諸入用割付平二郎留守ニて半右衛門若輩ニ候間、甚右衛門方ニ而右之割帳仕立、半右衛門相判仕沼津御役所へ如例年指上ケ申候、御役所ゟ御添状被遊極月十八日ニ右割付之通出之候様ニと御触被成候所ニ、小田原領村々ゟ訴訟申上候ハ、平二郎儀当年私用ニ而在江戸仕此方ニ居不申候間、平二郎分扶持米出候儀罷成間敷候間、御除被下候様ニと御訴訟申上候ニ付、甚右衛門方へ御尋被成候ハ、当年平二郎在江戸其方壱人ニ而勤堰下村々水届かね旱損仕候哉、又跡々壱人ニ而相勤壱人分御扶持米計割合ニ仕候例も候哉と御尋ニ御座候、甚右衛門申上候ハ、右書面之通当年水沢山御座候而旱損少も無御座候、又跡々壱人ニ而勤壱人分之御扶持米割仕候例も無御座候、当平二郎江戸御用相勤干今不帰候得共、此方御用向悴半右衛門ニ被仰付乍若輩名代ニ罷出候、拙者一同ニ相勤申候、尤当春破損普請之節半右衛門相煩不参仕候得共、其節も水門番人ハ無懈怠罷出候、少も手支申候儀ニ無御座候所ニ、平二郎分扶持米村々ゟ出申間敷と申儀、難心得奉存候事、右之通少も相違不申上候、以上

宝永元年申十二月

茶畑村
甚右衛門

守屋助次郎様御手代
天川茂右衛門殿
山本七郎右衛門殿

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

七三　宝永二年(一七〇五)正月　箱根湖水掘抜につき堰役人口上書

指上ケ申口上書之事

一　箱根湖水掘抜之儀、四拾年以前午七月堀初戌年迄五年ニ堀抜成就仕候、三拾五年以前亥之年ゟ村々用水ニ罷成候事

一　拾八年以前辰之年迄、堀抜仕候元〆方ニ而水支配仕候、年々大日損仕候ニ付御料御私領ニ而水論も御座候而村々難儀仕候ニ付、同年沼津領御代官小長谷勘左衛門様右之趣御　公儀様へ被為　仰上、堀抜之者方御召上ケ御料御私領共ニ箱根水御支配勘左衛門様被成候、同年八月堀抜場所御見分被遊候、堀割さらひ水門并水海尻あらい堰御目論見被成、此入用水懸り村々高割ニ而入札被仰付、右堀抜之者方へ金六拾三両余ニ而落札、御目論見之通御普請出来仕候

一　拾六年以前巳之年春、沼津御役所ニ御料私領三拾ケ村名主御召寄被仰渡候ハ、箱根水役人御仕立被成候ニ付、三拾ケ村ニ而両人村々相談を以人指仕候様ニと被仰渡候、水掛り惣村名主寄合相談仕候得共、誰ニ相究可然共、人指不罷成候故、沼津御役所へ村々罷出右之趣申上候而、此上ハ誰ニ而も御見立を以被仰付被下候様ニと口上書御料ハ沼津へ指上、小田原領ハ小田原御役人様へ指上ケ申候事

一　右之通小長谷勘左衛門様御吟味之上、御料所ハ御宿村平次郎、小田原領ハ小田原御役人様ゟ拙者ニ被仰付候、其節堰役人扶持方之義も勘左衛門様御吟味被成、壱人ニ四人扶持ツヽ、并平次郎方ニ而水役之者弐人、拙者方ニ而弐人、都合四人之水役給金弐両ツヽ、御定、右扶持方給金共ニ堰下村々割金を以出候筈ニ被仰渡、年々堰入用并扶持方給金共ニ一所ニ割合帳面仕立、沼津御役所へ指上ケ、右入用堰下村々ゟ御役所江御取立、拙者共方御渡被成候事

一　去々年十一月大地震ニ付堀抜口堀割さらひ并新川筋山崩落所々ニ破損御座候付、去正月平次郎拙者立合見分

仕、人足并とめ木入用書付を以沼津御役所へ指上ケ候所ニ、村々名主連判取指出候様ニと被仰付、則御宿村平次郎所へ村々名主寄合連判仕候、其節平次郎申候ハ、葛山村と山論ニ付我等儀江戸御評定所江被召寄候間二月十二日罷立申候、右堀抜口普請之儀甚右衛門罷有候間、申合村々精を出苗代前ニ出来候様ニ可被致候、平次郎義ハ世悴半右衛門名代ニ出可申候、甚右衛門立合双方水役之者四人并名主番置人足遣普請致候様ニと村々ゟ参候者申候、拙者方へも申候得共、普請之節世悴半右衛門義相願不罷出候、尤水門戸明立之節ハ半右衛門も随分精を出申候事

一平次郎義、山論三月埒明候由承候、早々可罷帰と存候処、御用御座候由ニ而御留置被成候、其内沼津ゟ御用之儀世悴半右衛門ニ被　仰付候、平次郎両度申候ハ、山論埒明候ハヽ、早々可罷帰由申候ニ付、三月中ハ今月可罷帰と存罷有候、其後四五月ニ罷成世悴半右衛門ニ承候而も、追付帰り可申由申ニ付、一日〳〵と相待六七月迄も右之通ニ存罷有候処ニ、漸旧冬押詰ニ罷帰り申候事

一例年之通堰役人扶持方給金諸入用帳面指上、例之通村々ゟ御取立被下候様ニと奉願候ニ付、御廻り状を以、右帳面御廻シ去極月十八日割合之通不残持参仕候様ニと被仰触候所ニ、堰役人之内平次郎義、去春ゟ江戸ニ罷有候ニ付、平次郎去年分扶持方出候義成間敷由堰下村々ゟ御訴訟仕候ニ付、拙者方江御意被成候ハ、右堰役人両人ニ而年々相勤候処、平次郎相勤不申候ニ付、水届兼水下日損ニ及候村も有之候哉、跡々堰役人両人之内壱人ニ而相勤、扶持方壱人分之割合ニ而出シ来候例も有之哉と御尋御座候、尤跡々壱人ニ而相勤、壱人分扶持方割合申儀無御座候、其内平次郎義罷帰り可申と存、拙者も随分無油断欠廻相勤申候、去春中ゟ湖水溜りも能御座候得ハ、堰水無不足引渡堰下村々日損仕候所も無御座、田作十分仕付申候事

右之通少も相違無御座候、以上

宝永二年　　駿東郡茶畑村
酉ノ正月　　堰役人　甚右衛門印
守屋助次郎様御手代
山本七郎右衛門殿
天川茂左衛門殿
（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

七三　宝永三年正月五日　茶畑村砂入田地開発のため出人足赦免願

（一七〇六）

乍恐書付を以奉願候事

一田反別六町歩　　去ル六月砂入之分
此人足弐千四百人
一道百四拾六間　　去ル六月川成り
此人足五百八拾四人　但シ壱間ニ付人足四人ツヽ
一井堰川除　　去ル六月水損仕無御座候
此人足千八百人
人足〆四千七百八拾四人

右之通大分之人足入用ニ而迷惑仕候ニ付、今年之儀私共村ゟ脇村江出人足御赦免被為遊被下候ハヽ、惣百姓相談を以砂入田地之儀開発仕、地主相続候様ニ奉願候、御了簡之上井堰川除并堤人足割合ニ而出人足之儀、一村切りに御慈悲を以被為　仰付被下候ハヽ、難有可奉存候、以上

宝永三年
戌正月五日

茶畑村
名主　又四郎㊞
組頭　佐右衛門㊞
同　太郎兵衛㊞
同　畑右衛門㊞
同　新兵衛㊞
同　長左衛門㊞

早川甚助様
小川定右衛門様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

七四　宝永三年正月（一七〇六）　砂入田地開発のため茶畑村扶持米入用拝借願

（端裏書）「砂入水押願書」

乍恐書付を以奉願候事

一米九拾俵　但シ去酉ノ六月砂入田地六町歩砂取人足弐千四百人ならし壱反ニ四拾人積り壱人ニ付扶持米入用壱升五合積り

右之通扶持米拝借仕、日用人足を以当春中ニ砂取払、御田地開発仕候様ニ奉願候、右之御米御返済之儀ハ、壱ケ年ニ拾八表つゝ当戌暮ゟ来ル寅ノ年迄五年ニ米数九拾表御上納可仕候、願之通被仰付被下候ハヽ、砂入田地当春中ニ急度開発可仕候、去ル酉ノ年水損日損、殊ニ田畑不作ニ而村中困窮仕候所ニ、井堰川除大分之普請所有之、方々以迷惑仕候、其上砂入田地開発仕候儀、地主力ニ不罷成迷惑ニ奉存候、御慈悲を以扶持米入用拝借被為　仰付被下候ハヽ、難有可奉存候、以上

宝永三年戌正月

茶畑村
名主　又四郎㊞
組頭　佐右衛門㊞
同　太郎兵衛㊞
同　畑右衛門㊞
同　新兵衛㊞
同　長左衛門㊞

早川甚助様
小川定右衛門様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

七五　宝永三年正月（一七〇六）　新川堤復旧に伴う争論につき深良村訴状

（前欠）小山源兵衛様深良村江被仰付□□水□
□村之内須釜山ノ神戸東迄ハ、山沢ヲ□夫ゟ西江新土手ヲ築、山沢ニ水もり不申様ニ留メ、須釜・向井田・高田此三ヶ所之畑くろヲ堀、夫ゟおうくわん道ヲ堀切、

古来木瀬川江水引通可申由元〆共願候間、元〆願之通
新川拾弐町為堀可申之旨被仰付候、深良村ゟ申上候ハ、
深良村之儀南北江弐拾七町余、東西江拾四町余殊ニ地
下り之在所ニ而御座候、然ニ村上ニ東西江拾弐町之新
土手ヲ築水引通し候ハヽ、向後村之難儀ニ罷成可申由
御訴申上候ヘバ、申段尤ニハ候へ共、第一為御深良村
ニ茂少々ハ畑成田出来可申候、万一満水ニ而破損有之
節ハ、深良一村ノ難儀不仕様ニ元〆方江可被　仰付之
由御意御座候故、新土手為築申候事

一三拾六年以前亥ノ年ゟ段々畑成田出来仕候、同年八月
満水ニ而深良村之内向井田申所ノ新土手ヲ押切、田畑
砂置川掛ケ御座候、則元〆入用ニ而田畑砂置川掛ケ起
シ返シ、土手普請共ニ仕候事

一堀抜水出シ候時分ハ、毎年春苗代水ゟ段々ニ出シ申候、
水留〆候時分ハ、毎年八月彼岸前後ニ海面ニくい木打、
しからヲかき、其ノ下ニ土表(俵)ニ而水もり不申様ニ元〆
支配ノ内ゟ弐拾年以前卯年迄ハ水留来候、拾九年前辰
ノ年ゟ土表ニ而ハ水留不申故水もり申ニ付、深良村之
難儀罷成候、水留〆候以後箱根ゟ参、堀抜しめ切節々
水切落シ候由、水役茶畑村甚右衛門申候事

一弐拾八年以前未年右元〆水支配放申以後、前御地頭様
御役人中ゟ富沢村勘兵衛・深良村源之丞両人ニ堀抜海
面ゟ木瀬川落合迄諸色普請ふれ役被　仰付、其節ゟ水
掛り村々江何普請ニ不依惣高割ニ被仰付候故、翌年申
ノ春堰下村々ゟ反別守付、書付村々ゟ私共両人方江差
出申候、其節之惣高六千三拾石余御座候事

一御宿村・上ケ田村・金沢村・葛山村・千福村此五ケ村
江古来木瀬川ゟ新堰揚ゲ申候

一石脇村・佐野村・久根村此ノ三ケ村江古来木瀬川より
地水せき御座候、此ノせきヲ用右三ケ村共ニ畑成田仕、
其ノ水下ニ公文名村・茶畑村・平松村・麦塚村・伊豆
島田村此ノ五ケ村江右三ケ村之水末ニ新堀仕水引廻、
畑成田仕候

一富沢村・定輪寺村・一色村此ノ三ケ村江古来木瀬川ゟ

新堰仕、水揚申候

一伊豆島田村ニ古来木瀬川ゟ地水揚来候堰御座候、其ノ水末ニ水窪村分ニ新セキ揚申候

一岩波村江用水ニ仕候新堰、古来木瀬川ゟ揚申候、是ハ水掛り岩波少村ニ而堰成不申候故、前御地頭様ゟ御厨惣人足ニ而堰普請仕候

右五ケ所之堰何れ古来木瀬川ゟ揚申新セき故、満水ノ節ハ木瀬川江水落申故、さして水損無御座候、年々セき普請も其水掛りニ而普請仕候

一拾九年以前辰年ゟ堀抜水役人堰下村々ゟ沼津御代官小長谷勘左衛門様御手代三科沖右衛門殿江御願申上候へハ、御宿村平次郎・茶畑村甚右衛門被仰付候、両人給米八人扶持、外ニ水門番四人被仰付候、此給金八両右扶持米共ニ堰下村々高割ニ而出シ可申由被仰付候故、去酉ノ暮迄扶持米給金割付之通出シ申候事

一六年以前巳年七月満水ニ而、深良村之内須釜新土手太右衛門と申小百性(姓)田地江押切申ニ付、近所ノ者共寄合水留メ申候、都合人足弐拾八人ニ而右之土手普請仕、水役人御宿村平次郎方江人足并諸入用書付右之分ケ申届ケ候へハ、則巳暮惣高割ニ仕候、太右衛門田地砂置之儀ハ水田ニ而御座候故、翌年午春水役人茶畑村甚右衛門・御宿村平次郎・深良村助四郎・庄左衛門寄合見分之上、人足積堰下村々江申ふれ人足出し砂取候へ共、小砂残置申故地主太右衛門迷惑ニ申ニ付、御宿村平次郎方江地主太右衛門迷惑之由申越候へハ、同年五月節句前後ニ小砂不残取払申候、其節之証拠深良村ニ所持仕候

一去酉ノ六月廿六日之夜満水ニ而須釜山神戸東山沢しめ切向井田新土手押切、三郎左衛門・半四郎・三右衛門と申小百姓屋敷田畑家財押流、山沢しめ切押切申水と一所ニ落合、石脇村さかいさいかち渡と申所ニ而、古来木瀬川ゟ揚り申セき江落入申候、さいかち渡しゟ須釜山・神戸東新セき揚口迄ハ弐拾町余御座候、此川筋ニ而田畑五町六反五畝拾七歩水押砂入川掛ケ御座候、

本家弐軒流候、家財計流申小百性三軒御座候、向井田新土手ハ同廿七日ニ近所之者共六拾人余くい木・そた・ミけん木ニ而あら水ふせき申、早速水役人甚右衛門方江右之分ケ申越候へ共不参、又廿八日之水ニ而右之せき脇押切申ニ付、又甚右衛門方江申越候へ共、水門番ニ而も遣不申候故、同廿九日ニハ組頭両人遣候へハ、漸々晩方罷越其場致見分、甚右衛門申候ハ、加様之節ハ村人足ニ而水あらとめ御尤ニ候、堰下村々江申ふれ候而ハ延引仕候、甚右衛門申候、深良村源之丞申候ハ、末水とまり不申候、堀抜水増候而兼ふせき候間、明早朝ニ堀抜江人足弐参拾人遣、水御留メ可被成候、土手之儀ハ又々村人足ニ而ふせき可申と申候、甚右衛門被申候ハ、明早朝ニ人足二三拾人ニ水門番相添、堀抜江遣水留メ可申候、土手へも堰下村々江申ふれ可致見分之由申帰被申候へ共、翌日両所江壱人遣不申捨置候故、七月迄ニ村人足都合百九拾弐人ニ而向井田土手築留メ申候、其内も段々水役人甚右衛門方江申越候へ共捨置申ニ付、沼津御役所　守屋助次郎様御手代天川茂左衛門殿江去酉ノ九月ゟ度々御訴申上候へ共、埒明不申故砂置之田畑麦作仕付不申候、水損百性之内弐拾八人飢申ニ付、御地頭様御役人江御訴申上候へハ、以御慈悲右之弐拾八人ニハ御扶持米被下置候

右之通深良村堀抜水筋ハ水元故、箱根海面ゟ木瀬川落合迄ハ諸色普請前御地頭様御役人ゟ弐拾七年以前申ノ年ゟ堰下村々高割ニ被仰付、年々普請仕候所ニ、去酉之満水之節ゟ堰下村々我まゝ申深良村及大破ニ申ニ付御訴訟申上候、以御慈悲堰下村々御召出シ御詮儀之故前々之通被為　仰付被下候ハヽ、難有可奉存候

深良村

源　之　丞

宝永三年戌正月

一堀抜間数七百三拾八間　　内百八拾四間仙石原村分　五百五拾四間深良村分

一水間ゟ海まで拾間一海尻せき留拾弐間半

此川ハ古来仙石原へ落申川也

一海端ゟ新川落合迄壱里弐拾弐町拾六間
一西四ツ留ゟ須釜新川口迄壱里四拾八町拾五間
一古川口ゟ新川落合迄拾弐町
一水門三間但シ水出る分高八尺八寸
　是ハ元〆仕立候水門
一千四百五拾弐間　新川落合ゟ久根村さかい迄木瀬川筋
　内三百四拾四間石脇村分
一弐百七拾弐間　久根村ノ内さいの神戸ゟ深良村さかい迄
一水門高壱丈壱尺内水通申候分高五尺はゝ壱丈八寸
　但シはこ水門長六間はゝ弐間高五尺

（裾野市深良　志村守雄氏所蔵）

七六　宝永三年（一七〇六）二月一四日　新川堤復旧に伴う争論につき深良村訴状

（前欠）

松平数馬様御領　神山村　金沢村
松平数馬様御領　上田村
安藤次三郎様御領
松平数馬様御領　葛山村
守屋助次郎様御代官所　御宿村
内藤筑後守様御領　千福村
同断　定輪寺村
秋山十右衛門様御領　富沢村
坂部安次郎様御領　一色村
同断　納米里村
同断　中土狩村
丹羽金十郎様御領　本宿村
後美源五郎様御領（湯）
松平数馬様御領
坂部安次郎様御領
守屋助次郎様代官所　伏見村
〃〃〃〃〃　新宿村
安藤治三郎様御領　茶畑村
堰役人

甚右衛門

同役　　御宿村　　平次郎

一去酉ノ六月大雨之節、相州箱根湖水堀抜水大分増シ、水門上之土手押切、此水筋深良村之内須釜新川築土手両所押切、水下之田畑百姓家屋敷家財夫食迄不残押流シ、其上田畑へ砂押入レ、或ハ川欠ニ罷成り、一村及亡所ニ何共迷惑仕候、右堀抜之義ヒき下村々為用水、小田原領前御地頭稲葉美濃守御代ニ、江戸町人為元〆御請仕、四十壱年以前ニ午ノ年堀初〆三拾六年以前亥ノ年駿東郡深良村之内堀抜成就仕候節、御地頭様御役人中ゟ深良村へ被仰付候ハ、此度元〆堀抜成就ニ付、深良村之内須釜ニ新川為堀候様ニと被仰付候ニ付、其節百性共御訴訟申上候ハ、深良村之義段々地下り之在所ニ御座候所、村頭ニ新川新土手為築大水通シ之義、若如何様之破損も御座候節、深良村難儀不仕候様被仰付可申義と御訴訟申上候得ハ、右之用水ニ而大分畑成田地出来、御料御私領共ニ御為之義、且又元〆儀者上石之徳分有之候間、若自今以後破損水損在之節ハ、元〆方ニ而為致普請、深良村難儀無之様ニ被遊可被下候段被仰付候ニ付任御意ニ候、就夫元〆御請負之内ゟ古来之木瀬川落合迄、深良村之内ハ堀抜水ニ付、破損水損之普請何ニよらす元〆入用ニて急度普請仕来候御事

一元〆義御請負之年数明ケ候以後、小田原先御地頭様御役人中ゟ堰下六千石余之高割ニ御定、人足諸色入用堰下村々ニ而出し、堰役人深良村源之丞・冨沢村勘兵衛両人ニ被仰付、毎々元〆仕来様ニ所々之普請仕候、稲葉丹後守様御所替へ以後、沼津御料小長谷勘左衛門様堀抜御支配被遊、十九年以前辰ノ年ゟ御宿村平二郎・茶畑村甚右衛門両人ニ堰役被仰付、則扶持米御定、壱人ニ付二両つゝ、（四人扶持つゝ并水門番人四人此給金壱人ニ付）堰下高割ニて其普請入用一所ニ堰下村々ニて余荷申候

其節ハ惣高減シ四千三百石余ニて諸色割合仕候、此外新堰数ケ所御座候得共、惣高四千三百石余ニて高割

合仕、堰壱ケ所も無御座候、依之深良村之儀ハ各別之分ケ御座候故、前々ゟ元〆仕来ル任例記、去春まて無相違高割を以仕来候処、去酉ノ六月満水之節及亡所ニ候ニ付、セき役人方江早々申越候得ハ、遅参仕候ニ付、深良村小人数ニて漸荒水防置、其以後水損田地砂取払可給とセき役人方へ申越候へ共、セき下廿八ケ村一同仕、深良村を申掠普請仕間敷と無法成儀申、指当り深良村難義仕候、殊ニ水押之百姓其節ゟ及飢ニ候ニ付、御地頭様ゟ御扶持被下置候得共、当作仕付前ニ砂入之田畑普請不仕候而ハ、猶以迷惑仕候御事

一右申上候通リ堀抜水筋深良村之内ハ古来ゟ之セき筋無御座候所、田畑之内ニ新川堀セき下四千三百石余之調法ニ罷成候義、深良村纔ニ二百石余ニ而一分之難儀可仕候、殊ニ水押百姓其節ゟ飢候付、御地頭様ゟ御扶持被下置候得共、当作仕付前ニ砂入之田畑普請不法ニ而ハ永ク亡所仕、猶以迷惑仕候御事

（謂無御座候上堀抜同前之普請）

（同前之前例之）

証拠委細御尋ニて可申上候御事

右之条々少も傍無御座候、御慈悲ヲ以セき役人并堰下村々被為召出御詮議之上、前々之通り被為仰付被下置候ハ、難有可奉存候、以上

宝永三年戊二月

御奉行様

如此訴状指上候間、致返答書来月廿五日評定所江罷出可対決、若於不参ハ可為曲事者也

戊二月十四日

播磨

弾正

左京

備前

阿波

出雲

日向

近江

能登

壱岐
遠江

駿州駿東郡
公文名村
稲荷新田
茶畑村
平松村
麦塚村
いつ嶋田村
二ツ家新田
上土狩村
下土狩村
竹原村
水久保村
佐野村
石脇村
岩波村

神山村
金沢村
上ヶ田村
葛山村
御宿村
千福村
定輪寺村
冨沢村
一色村
納米里村
中土狩村
本宿村
伏見村
新宿村

堰役人　甚右衛門
同　平次郎

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

七　宝永三年（一七〇六）三月二五日　新川堤復旧に伴う争論につき井組二十八カ村返答書

乍恐返答書を以申上候

駿州駿東郡弐拾八ヶ村
返答人　名主
百性

稲葉紀伊守様御知行所
同国同郡深良村
相手　源之丞
助四郎

一去酉之六月大雨ニ而、相手深良村山洞々ゟ沢水押出し剰山崩落、新川土手壱ヶ所押切申候所ニ、箱根湖水大分増田畑砂入壱村及亡所ニ候間、砂取払候様ニと工成ル新法之企ヲ構、拙者共へ御裏判相付申候、右湖水堀抜之義者江戸町人見立ニ而奉願被仰付候、其砌箱根町御関所、尤往還迄障り無之様ニ御吟味御積りを以、湖面ニ分石御定先規ゟ有来り候、湖尻ニ巾拾四間余ニて古川有之、増水者湯本川筋江落下り、堀抜用水ハ湖面ニ巾弐間之水門を立、高サ五尺巾三尺五寸宛之戸三本立、長五拾七間之割堀、夫ゟ六尺四方ニ長七百弐拾間山之中を堀抜仕立、干魃荒雨共ニ分量極メ候水ニ御座候、又新川之義ハ、広サ三間敷六間馬踏弐間、高サ所ニゟ五六尺ゟ壱尺（弐）壱弐尺迄ノ土手有来り申候、依之去年大雨之節ハ、水門戸弐本立置申候得ハ、強キ落水も無御座候ニ付、堀抜水ニ而水損仕儀曾而無御座候、其上深良村ハ千四百石余之大高村、畑成田茂大分出来仕候勝手を以水掛り弐拾八ヶ村ニ勝レ、古堰を茂引替、山口ゟ山岸江新川を仕立、悪水ハ新川入口ゟ古川江落申候得者、今更兎角可申謂レ無御座候、殊ニ堀抜堰下通り水損砂入之節村々（発返し）割合開発可仕御定無御座、拙者共村々茂砂入川欠流家等大分之損毛御座候得共、不時之水難無是非仕合、村方銘々之御地頭方へ奉願、御救ニ而百性相立申候、其上御拝借申請運々（発返シ）開発可仕と奉存候、然に深良村之者共、先規ゟ割合来り候抔と偽り

我まゝ成ル願申上候御事

一湖水堀抜堰筋役、小田原先御地頭之砌、深良村源之丞・富沢村勘兵衛両人被仰付候得共、砂入田地水懸り高割ニ可仕御定無御座候、丹後守様御所替以後、沼津御代官小長谷勘左衛門様ゟ此水懸三拾ケ村之内ニ而御料所御宿村平次郎・小田原領茶畑村甚右衛門、水配り役被仰付候得共、砂入田地高割之御定猶以無御座候、惣而堰筋用之義ハ、両人并惣村名主立合吟味仕願書指上ケ、御下知ヲ請ケ致来り申候、去酉之六月新川土手押切候砌、深良村之者共、荒水防申候抔と事かましく申立候得共、其節之儀ハ村々共ニ堰々江人足大分罷出水防申候段、一同之御事ニ御座候

一六年以前新川土手少々破損之砌、深良村ゟ砂取候と申上候得共、田地開発返シ之儀ニ而無御座候、又其節平次郎ゟ之手紙所持仕候抔と申候、此儀者相役甚右衛門其外水掛り村々之者存知候もの、壱人茂無御座候事

右之通り少茂偽り不申上候、新川土手七百弐拾間之内深良村水損田地計りニ無御座、同所ニ小田原領神山村分土手百五拾四間田畑百性家居も御座候得共、水損田地砂取払開発返シ仕候御定無御座候ニ付、此度砂入御座候得共、其村ニ而運々開発返シ仕覚悟ニ罷在候、然所ニ深良村ニ限り砂取払開発可仕様無御座候間、右之段被為　聞召分被下候ハヽ、難有可奉存候、委細御尋之上口上ニ可申上候、以上

宝永三年戊ノ三月廿五日

大久保加賀守知行所

公文名村
稲荷村
名主　弥　七
茶畑村
名主　又　四　郎
平松新田
名主　徳右衛門
伊豆嶋田村
二ツ屋新田

名主　半　七
上土狩村
名主　藤　三　郎
下土狩村
名主　林右衛門
水窪村
名主　祖　八　郎
佐野村
名主　源　五　郎
石脇村
名主　五右衛門
岩波村
名主　彦右衛門
神山村
名主　八左衛門
葛山村
名主　加左衛門

金沢村
名主　源　七　郎
上ヶ田村
名主　伊左衛門
御宿村
名主　平　次　郎
千福村
名主　宇右衛門
定輪寺村
名主　弥右衛門
冨沢村
名主　仁右衛門
一色村
名主　次　兵　衛
納米里村
名主　市右衛門
中土狩村

名主　七　兵　衛
伏見村
名主　利　左　衛　門
本宿村
名主　久　右　衛　門
新宿村
名主　理　兵　衛
茶畑村
堰役人　甚　右　衛　門
御宿村
同役　平　次　郎

御奉行様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

六　宝永三年（一七〇六）六月二六日　新川堤復旧争論裁許深良村・二十八か村請書

駿州深良村之内田地、七百廿間三拾六年以前同国公文名村・稲荷村之外弐拾八ヶ村為用水堀割土手築置候所ニ去六月満水之節、右土手水口払切深良村田畑砂押ニ成候ニ付、右三十ヶ村之者共土取払如元之ニ土手築候様申候得共、去年満水所々山水ニ而土手押切、土手計築立残土ハ構申間敷由申之争論ニ罷成、今日御詮儀之上右場所へ御検使被遣、御見分之上御裁許被仰付候得共、農業之時分故、先当分三十ヶ村ゟ深良村砂押之土砂を以土手築立、残土ハ深良村入用を以取払、追而御裁許相済、三十ヶ村ゟ土取申筈ニ相究り候ハヽ、深良村入用金三十ヶ村割合指出し候筈ニ可被仰付候、又深良村非分ニ成候ハヽ、此度之入用金其通りニ可仕旨被仰渡候奉畏候、然上ハ早々在所罷帰り、双方異論なく被仰渡候通り相守可申候、若相背申候ハヽ、何様之曲事ニも可被仰候、依而如件

宝永三年戌六月廿六日

駿州深良

指上申一札之事

助　四　郎
源　之　丞
庄左衛門
惣左衛門
弐拾八ヶ村

御奉行様

□　判

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

七九　宝永四年（一七〇七）二月二六日　新川堤復旧に伴う争論裁許状

駿州駿東郡深良村与同郡公文名村・稲荷村・茶畑村・平松新田村・麦塚村・伊豆嶋田村・二ツ屋新田村・上土狩村・下土狩村・竹原村・水窪村・佐野村・石脇村・岩波村・神山村・葛山村・金沢村・上ヶ田村・千福村・定輪寺村・冨沢村・一色村・納米里村・中土狩村・伏見村・本宿村・新宿村・御宿村以上弐拾八ヶ村争論之事、深良村百姓訴候者堰役両人定置入用高割ニ出シ来候、去々年洪水ニ而須釜新川土手弐ヶ所破田畑江砂押入候故、砂浚候、堰役人江申達候処、堰下村々不致承引由申候、弐拾八ヶ村百姓答候者、堰普請者高割ニ勤候得共、砂浚候例無之由申之、為検使野田三郎左衛門手代青木園右衛門・馬場源兵衛手代前波半蔵差遣遂検分処、湖之際水門之上土手新ニ築候跡有之、然則水越ニ紛無候、新川土手普請前々之通深良村・久根村与弐拾八ヶ村ニ而高割之積を以可致之、砂浚候儀令詮議処、六年以前堰役人御宿村平次郎砂取上候書状深良村令所持候、右書状親平次郎自筆之由半右衛門口上書差出候、其上深良村山之内并田地弐拾八ヶ村用水郷筋ニ堀抜候上者、深良村田畑砂押候節、弐拾八ヶ村与久根村浚候段歴然ニ候、然共深良村之山水茂押入条、浚人夫入用者深良村三分壱、弐拾八ヶ村久根村ニ而三分弐、田地水掛候帳面之高を以相定候、且又古川口ニ古石有之築留候ニ無紛相見条、土手同前ニ築之、満水之節堰役人深良村立合、水分量ニ応シ切開悪水可落之、

湖水門口土俵ニ而築留候所、用水無用之時分者可為如
先規、仍為後証裁許之趣双方江書下間、永可相守者也
宝永四丁亥年二月廿六日　　石　阿　波㊞　　堀　左　京㊞
　　中　出　雲㊞　　三　備　前㊞
　　戸　日　向㊞　　鳥　播　磨㊞
　　荻　近　江㊞　　（箱根用水下郷古文書）
　　坪　能　登㊞
　　松　壱　岐㊞
　　丹　遠　江㊞
　　本　弾　正㊞

八　宝永四年三月一八日（一七〇七）　砂取人足難儀につき富沢村米拝借願

（端裏書）「亥ノ三月十八日御陣屋へ上ケ申候下書」

乍恐願書を以申上候事

一三年以前酉ノ六月満□付、箱根堀貫水筋稲葉紀伊守様御知行所深良村新川土手押切り、大分ニ右之村砂入御座候ニ付、御　公儀様ゟ深良村井水掛り村々砂入取候様と亥ノ春被為仰付候、富沢村之儀、水掛り高廿九

石余御座候、江戸路金其外諸入用共ニ只今迄四両弐分
余掛り迷惑仕候所ニ、其上砂入取入足何程掛り可申も
不存、箱根水掛り高持難儀仕候、御慈悲ニ御米拾五俵
五年賦ニ御拝借被為仰奉願上候事

年号　　富沢村
月日　　仁右衛門
　　加兵衛
　　小左衛門

八角貞右衛門様
岡本久太夫様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

八一　宝永四年（一七〇七）　本宿村箱根水掛り組合離脱願

書付を以奉願候

一箱根掘抜水前々ゟ本宿村用水足シ水ニ致候得共、水末之村ニ御座候得ハ、一円水届不申候ニ付、自今以後箱根水望無御座候間、箱根水掛り組合御除可被下候、為其書付を以奉願候、以上

宝永四年　　本宿村
　　渥美源五郎　名主　久左衛門
　　丹羽金十郎　名主　重兵衛
　　松平数馬　組頭　角左衛門
　　同　清兵衛
　　同　善三郎

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

第二節　水論と井組の拡充

八三　宝永二年（一七〇五）四月　水掛り村々水論につき書上

一水掛り村三拾ケ村之内、一両日てり候へハ、一円水届不申、自分と植付申儀不罷成候村々御座候ニ付、先年稲葉美濃守様・丹後守様御代ニハ、五月田作仕付時分ニハ御注進申上、御代官衆御越被成候、并御足軽衆五七人つゝ御越被申候、水差引被成候へ共、他領村々埒明不申、堰々水論御座候而、年々日損大分御座候

（天和三年『柏木甚右衛門覚書』　沼津市　柏木正男氏所蔵）

八四　宝永三年（一七〇六）七月　水掛り村々争論につき下郷訴状

（端裏書）「平次郎死後

水論初り之節、野瀬権兵衛様沼津御役所江上ケ申候得共、御取上ケ無之相成り申候」

乍恐書付を以申上候御事

一箱根湖水堀抜用之儀、水掛三十ケ村前々ゟ一同之儀ニ被為仰付、水元ゟ水末之村迄高下無之、水配役両人並水門番四人指添、堰役被　仰付相勤、諸色年々高割ヲ以出シ、用水右役人引廻シ村々田作仕来当用水前々ゟ御定メ之通湖水堤置、用水出シ候所ニ深良村ヲ初メ水上之村々我カ侭仕用水通シ不申、殊ニ当年日照りニ而三間堀通り公文名村ゟ段々七ケ村田地七百三拾石余大日損仕、植付申田地皆荒ニ罷成、其上田作植付不申所大分有之、堀抜用水水上計之調法ニ罷成、迷惑仕候ニ付、右之用水致方奉願候御事

一田作時分ニ罷成、前々之通湖水口水門之戸明ケ用水出シ候ハヽ、其節ゟ三拾ケ村江用水引渡シ、村々堰口之田地高積りを以、右役人用水指引仕、田作時分ニ水元水末村共ニ一同ニ植付仕、尤堰々ニ而用水盗ミ申候ハヽ、役人指図を以昼夜之番人附置、右役人相廻り改、

其上我カ侭仕候者ハ、相応ニ御支置被為□(遊カ)、三十ケ村之内右之用水猥りニ無之儀ニ堅被為仰付、番人之儀水配役手伝ニ御座候間、及暮ニ諸入用一同之高割ニ被仰付可被下候御事

一田作仕付水三拾ケ村不足ニ候ハヽ、溝切又ハ広地切之内ニ而番水ニ仕□植付養水不足ニ候ハヽ、用水之分量ニ応シ昼夜之高積り村分ケ仕、水上之村ゟ水末之村迄役人付添番水ニ掛廻シ、三拾ケ村高下無之用水引廻シ、尤堰々番人附置候ハヽ、右同前ニ割合ニ仕候、其外堰落人足之儀ハ水引取候村ゟ可出候御事

右之通御吟味之上、三拾ケ村高四千三百弐拾四石余之用水一同之儀ニ被仰付可被下候、無左候而ハ水末之村々田作時分ニ仕付可申様無御座、田地皆荒ニ罷成、其上堰番並堰落人足大分指出シ、外之田畑耕作等迄不罷成、方々以難儀仕候間、三拾ケ村一同之儀ニ御慈悲を以被為仰付被下置候ハヽ、難有可奉存候、以上

宝永三年
戌ノ七月

公文名村
稲荷村　名主　弥　七㊞〃
茶畑村　名主　又　四　郎㊞〃
平松新田　名主　徳右衛門㊞〃
麦塚村　名主　源　之　助㊞〃
伊豆嶋田村
二ツ屋新田　名主　半　七㊞

能勢権兵衛様御手代
天川茂兵衛殿

右天川茂兵衛様御代り和田幸右衛門様沼津御役所ニ被成御座候

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

四　宝永四年（一七〇七）一二月　亥ノ年箱根水水論共ニ入用帳

（表紙）
宝永四年
亥ノ年箱根水　入用
水論共ニ
十二月

一八百七拾文　定輪寺村ゟ可出分
　是ハ伊兵衛夫之内
一壱貫百七拾弐文　定輪寺村江かし
　是ハ仁左衛門夫之内
一六百文　源七
　路金残
一四貫七百文　小左衛門
　路金残
〆七貫三百四拾六文

一金弐両弐分　忠兵衛
　此銭拾壱貫七百五拾文
一米五俵　同人
　此永弐貫三百廿五文五分八りん
　鐚拾貫九百三拾文
一百廿壱文　茶畑村江出る　忠兵衛
一三百八拾壱文　深良村砂取ニ出る　同人
一四人砂取人足　同人
　代四百文
〆弐拾三貫五百八拾七文
一金壱両三分　源七
　鐚八貫三百廿六文
一米三俵　同人
　永壱貫三百九拾五文
　鐚六貫四百七拾七文
一五人　深良村砂取江出る

一　五百文　源七　三百文　源右衛門
〆拾五貫三百七文　〆六貫拾四文
一　金壱両　庄右衛門　一　金三分
鐚四貫七百文　鐚三貫五百廿四文
一　米壱俵　同人　一　米壱斗五升　同人
永四百六拾五文　永百七拾壱文
此鐚弐貫百八拾六文　鐚八百四文
一　弐人　深良村砂取ニ出る　同人　一　壱人　右同断　同人
弐百文　百文
〆七貫八拾六文　〆四貫四百廿八文
一　金三分　助左衛門　一　米壱俵　小左衛門
鐚三貫五百廿四文　永四百六拾五文
鐚弐貫百八拾六文
一　米壱俵　助左衛門　一　壱人　右同断　同人
永四百六拾五文　百文
鐚弐貫百八拾六文　〆弐貫弐百八拾六文
一　三人　右同断　同人　一　金弐分　与平次

鐚弐貫三百五拾文
一壱人　右同断　同人
百文
〆弐貫四百五拾文
一金壱分　市郎兵衛
鐚壱貫百七拾弐文
一壱人　右同断　同人
百文
〆壱貫弐百七拾弐文
一金弐分　伊兵衛
鐚弐貫三百五拾文
〆
一壱分　源七内　彦四郎
此利弐百五拾文
〆壱貫四百廿弐文
惣〆六拾六貫弐百廿弐文
内七貫三百四拾六文

路金残ニ□
残五拾八貫八百七拾弐文
此割
高壱石ニ付壱貫九百七拾三文
一弐拾四貫弐百七拾四文　忠兵衛
弐拾三貫五百八拾七文　仕役ニ引
残六百八拾三文　未進
一拾四貫弐百四拾三文　源七
拾五貫三百七文　仕役ニ引
残壱貫六拾文　過　済申候
一六貫四百廿弐文　彦右衛門
七貫八拾六文　仕役ニ引有ヽ
残六百六拾四文　過
一五貫六文　助左衛門
六貫拾四文　仕役ニ引有ヽ
残壱貫八文　過
一弐貫百九拾文　源右衛門

四貫四百廿八文　仕役有
残弐貫弐百三拾四文　過
一壱貫弐百七拾三文　小左衛門
弐貫弐百八拾六文　仕役有
残壱貫拾三文　過
一壱貫百拾三文　与平次
弐貫四百五拾文　仕役有
残壱貫三百三拾七文　過
一弐貫百九拾文　市郎兵衛
壱貫弐百七拾弐文　仕役有
残九百拾八文　未進
〃〃〃〃〃〃
内四百六拾三文
残四百五拾三文　未進済
〃〃
一壱貫百五文　伊兵衛
弐貫三百五拾文　仕役有
残壱貫弐百四拾三文　過
一百四拾六文　未進　平左衛門

一四百弐拾文　未進　養光
一五百五拾弐文　未進　勝之丞
〆壱貫百七拾弐文
此割
高壱石ニ付三拾八文
一四百八拾四文　忠兵衛
一百文　助左衛門
一弐百八拾弐文　源　七
一百弐拾八文　庄右衛門
一四拾弐文　彦右衛門
一四拾弐文　一郎兵衛
一拾壱文　勝之丞
一廿壱文　与平次
一廿五文　小左衛門
一三文　平左衛門
一廿壱文　伊兵衛
一八文　養光

〆

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

八五　宝永四年（一七〇七）　水掛り村々争論につき上郷返答書

乍恐返答書を以御訴訟申上候

駿州駿東郡拾ヶ村
返答人　名主　百姓
能勢権兵衛様御代官所同国同郡
中土狩村
相手　甚四郎
同御代官所同国同郡伏見村
同　理左衛門
安藤次三郎様御知行所同国同郡
新宿村
同　理兵衛
大久保加賀守様御知行所同国同郡
下土狩村
同　林右衛門
同御知行所同国同郡竹原村
同　理左衛門

一相手五ヶ村之者共堀抜水之儀、先年江戸町人下郷為五ヶ村之堀抜候趣ニ申上、各別相違之申事ニ御座候、右町人御　公儀様江奉願候ハ、新田・畑成田并古田日損之場所、養水惣而六千石余之用水ニ仕、就中新田開立自分之調法ニ仕望ニ而御請負申上、三拾八年以前普請成就、翌亥ノ年ゟ上郷水欠之村々段々畑成田仕、上穀請負人方へ壱反歩ニ付米壱斗七升ツヽ七年之内出シ申候、古田日損場茂此水用候村ハ壱反歩ニ付米壱斗五升つゝ出し申候ニ付、元来新田・畑成田次ニ日損之場所養申水ニ御座候、又瀬名沢下弐ヶ所堀抜堰、定輪寺・冨沢・一色・納米里四ヶ村之もの自分ニ新堀仕、瀬名沢地水迄引取候様ニ相手村々申上候、右弐ヶ所之堰箱根堀抜成就之砌、子ノ年同町人野村彦太夫様御願申上御吟味之上、則箱根水・瀬名沢水落合下ニ町人入用を

以普請仕、当年迄三拾六年ニ罷成候、地水之障りニ罷成候ハヽ、先年町人堀初候節、堰下村ゟ構候而為堀申間敷義ニ御座候所ニ、当年俄ニ可構謂レ御座有間敷と奉存候、且又弐十年以前、小長谷勘左衛門様江下郷五ケ村御訴訟申上、水配役人被仰付、夫ニ而茂日損仕候ハヽ、其節願可申段御意被成候と申上候義偽りニ御座候、廿年以前堰役人定メ候義ハ先年堀抜仕候町人上土狩村之内ニ其節まて住所仕、水掛り村々江色々望之義申候而村々六ケ敷奉存、堰下三拾ケ村相談之上百姓方ニ而相勤申度段小長谷勘左衛門様へ奉願候ニ付、御聞届ケ被遊、則御料ハ御宿村平次郎・小田原御領ハ茶畑村甚右衛門ニ被仰付、両人共ニ只今迄相勤水門引廻シ申候上高下無御座候、然所ニ五ケ村年々日損仕、及退転ニ候と偽り申上候、左候ハヽ前々日損之内疾御訴訟可申上候所ニ、終ニ何之御訴訟も不申上候、剰酉・戌両年弐千石余余(衍)之田地皆無、当年も皆無仕、及餓命ニ候と眼前之偽り申上候、尤堰々水末ニハ五ケ村ニ不限何れ之筋ニも日損仕候所、少々宛御座候得共、渇水之年ハ不及是非候御事

一　廿年以前辰之秋、湖海口水門普請入用并水番人給扶持堰下高割ニ可仕旨、小長谷勘左衛門様ゟ御料ハ御手代衆、御私領ハ御地頭様江御書付を以被仰渡候、其節水引方之儀も高割を以番水ニ可仕旨被仰付候義ニ御座候、堀抜水之儀三拾七年以来堰々例記御座候所ニ、別而廿年以前堰役人定り候而、堰々其場所相応ニ見積り、小長谷勘左衛門様ゟ被仰付候高割同前ニ六拾ケ村相談之上堰役両人水引廻シ申候故高下無御座候所ニ、相手申上候ハ、上郷六ケ村御廻状相背、我かまゝ仕候と偽り申上候、殊ニ私共村上ニ神山・岩波と申弐ケ村、堀抜水引方私共一同ニ御座候、右弐ケ村を除私共六ケ村へ難題申掛ケ候段、難心得奉存候、却而下郷我か侭成義申立、当六月沼津御役所へ御訴詔申上候ニ付、神山・岩波・深良・御宿・上ケ田・金沢・葛山・千福八ケ村被召寄御詮儀被遊候ニ付、先規水引候様子委細申上候

得ハ、其以後堰下廿九ヶ村被召寄御全義(ママ)ニ付、前々ゟ
渇水之年ハ堰役人水引廻し候、例記之通御廻状御日限
ゟ番水ニ仕候段、廿九ヶ村之内上郷中筋廿四ヶ村一同
ニ申上候故、御聞届被遊、先規之通堰役両人申合水引
可申と堰役半右衛門方へ被仰付、則両人相談ニ而先規
之通水引申候御事

一堰役人之儀百姓方ゟ仕立候故、上郷指図を用不申趣ニ
申立、箱根水一通之御支配御役人様下郷五ヶ村ゟ奉願
候、右之水御支配ハ沼津御料御代官様被遊、堰役両人
并堰下三拾ヶ村へ御廻状を以諸事御差図被遊候、私共
我か侭ニ仕候ハヽ、堰役人方ゟ沼津御役所へ申上、急
度可被仰付義ニ奉存候、畢竟当六月下郷五ヶ村ゟ先規
を背御願申上候所ニ、堰下廿九ヶ村被召寄御詮儀之上、
前々之通水引可申と被仰付候義、下郷勝手ニ悪敷御座
候而新ニ御支配御役人様奉願候哉、難心得奉存候御事

一箱根堀抜水堰筋三拾ヶ村、畑成田・古田水掛り高四千
三百石余と究、三十六年以前畑成田出来仕、用水引来
候所ニ、此度拙者共拾ヶ村堰筋畑成田御免シ可被下候
と相手五ヶ村之者共新法企奉願候、右三拾ヶ村一同之
義ニ御座候所ニ、私共拾ヶ村畑成田免可申筋目無御座
候間、乍恐堰下不残被為御召出御詮儀之上拾ヶ村百姓
相続仕候様奉御慈悲ニ願上候

右之通少茂偽り不申上候、委細先例之証拠御尋之上口上
ニ可申上候

宝永四年亥ノ(ママ)

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

六六　宝永五年(一七〇八)正月　評定所詮議につき茶畑村甚右衛門口上書

□□□□書を以申上候御事

□　□江戸御上屋敷ニ而賀納郷助様へ中通村□

□申上候ハ、此度箱根水掛り下郷・上郷と□

□へ明六日ニ罷出候、箱根水掛り之内□　□領

一ヶ村と拾ヶ村水掛り一同□　□別而日損仕、難

儀之所ニ御座候、箱根水掛御詮儀御座候所ニ、中通村
不罷出、重而申上候儀難成儀ニ奉存候、何とそ一同ニ
罷出委細申上度奉存候段申上候、郷助様・作大夫様御
意被遊候ハ、□郷下郷書付ニ入り不申候へハ、御詮儀
之場へ罷出候儀□□候甚右衛門儀ハ□□
候へハ様子見合□　□様ニ申上□　□御意被
遊候、中通之者も□　□事
一□　□私儀も罷出候所ニ、□　□之内中通拾
ケ村□　□度一同之□　□ニ罷有候と□
□屋ニ居候哉と□　□候弥々中通□　□三
宅備前守様へ御願申上度儀申上候へハ、郷助様御意ニ、
此度箱根水掛ケ様御定可被下候へハ、随分願候而一同
之御了簡請候様ニと御意被遊候、則同日中通村之者共
備前守様へ罷出候へハ、御取次ニ而段々御尋之上毎度
も承候、然者口上書差出候様ニと御意被遊候ニ付、則
口上書差上申候へハ、重而一□被遊候間宿へ□
様ニと被仰付候事

一同十三日晩方、御検使衆ゟ被□　□之者、明後十
五日ニ駿河台ニ而町野惣右衛門様御屋□　□被
仰渡候ニ付、十五日ニ罷出委細申上候、□□ニ
而小左衛門様御屋敷へ中通之者罷出様子申上候事
一毎度下郷・上郷立合ニ而絵図仕差出候様ニと被仰付候
絵図出来仕、九月廿日ニ三筋一同ニ駿河台ニ而惣右衛
門様御屋敷へ罷出候、則絵図御らん被成、是ハ三筋合
点ニ而候哉と被仰候、上郷・下郷ハ畏候と申上候、中
通之者(ママ)いて共不申上候付、中通之者御差図無之所へ出
合候ハ、憚多ク奉存罷出不□□申上候、中通之者も合
点無之由申上候へハ、然者三筋立合徳と認出候様ニと
被仰付候、其後同廿五日迄絵図出来仕候而御注進申上
候へハ、段々御差合御座候事
一十月八日ニ牛込ニ而小左衛門様御屋敷へ三組之者罷出
候へハ、壱通御詮儀被成候而被仰候ハ、三組之宿出合
取扱□□□と被仰□□宿之者請仕罷帰り申候、四五日
彼是と仕候へ共埒明不申候、同十六日ニ三宿ゟ吸埒(扱カ)明

不申旨申上候事
一同十八日牛込ニ而小左衛門様御屋敷へ双方罷出候而御詮儀被成、其次ニ私并半右衛門様子御尋被成候所ニ、半右衛門申様□□不届ニ御□□被成候、甚右衛門申様尤ニ存候、其方三宿差添今一通吸(扱カ)埒明候様ニと被仰付候ニ付、双方宿へ罷帰り候、同廿二日迄取吸(扱カ)申候へ共、埒明不申候付吸(扱カ)ニ而相済不申候付、其段申上候事
一同廿三日駿河台へ双方罷出候、下郷・上郷御詮儀被成、中通ハ不罷出其日ハかへり申候、翌廿四日牛込ニ而小左衛門様御屋敷へ中通罷出御詮儀被成申事
一同廿七日駿河台ニ而下郷御詮儀被成候、上郷・中通御詮儀無御座罷帰り申候事
一十一月三日駿河台へ罷出候、下郷・上郷御詮儀被成候而、来ル六日ニ御評定所かかへり候時分壱人ツヽ詞(同)ニ参候様ニと被仰付候事
一同六日ニ壱人ツヽ罷出候へハ、来ル十一日ニ双方罷出候様ニと被仰付候事
一同十□日駿河台へ双方罷出候へハ御検使之様子段々被仰付、其節御馳走ヶ間敷儀不仕候様ニと証文御取被成候而、勝手次第在所へ罷帰り候様ニと被仰付候事
右之段々不残御上屋敷江申上候事
宝永五年子ノ正月
茶畑村
甚右衛門㊞
早川甚助様
小川定右衛門様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

八七　宝永五年五月六日（一七〇八）　水掛り村々争論につき裁許状

駿河国駿東郡下郷下土狩村・竹原村・新宿村・中土狩村・伏見村与同郡上郷金沢村・葛山村・上ヶ田村・深良村・御宿村・千福村・定輪寺村・一色村・納米里村・富沢村、追訴上郷神山村・岩波村・中郷伊豆嶋田村・二ツ屋新田村・麦塚村・平松新田・茶畑村・公文

名村・稲荷村・佐野村・石脇村・久根村用水論之事、
下郷五ヶ村百姓訴候者、瀬名沢用水ニ而令不足故、四
拾弐年以前湖水ヲ五ヶ村定水ニ引候由申之、上郷百姓
答候ハ、先年湖より用水ニ引候節、人夫入用等上郷・
中郷・下郷高割ニ出之、上郷・中郷一日一夜番水ニ引
之、下郷江ハ佐野堰ニ而十分弐之積り為引候旨申之、
為検使町野惣右衛門手代酒巻磯右衛門・前嶋小左衛門
手代太田唯右衛門差遣遂糾明処、双方申所不分明ニ候、
中郷江向後二日二夜可引旨追訴村々雖申之、中郷江二
日二夜引候ハヽ上郷・下郷用水可為不足候、畢竟木瀬
川・瀬名沢・湖水引候分量不同有之及異論与相聞候、
只今迄勤来水配候役人取放、上郷・中郷・下郷ニ而水
配候役六人御代官より吟味之上可申付間、水上水下無
甲乙用水可引之、尤堀筋修理入用浚人足高割ニ可出之、
仍為後証三方江書下間永可相守者也

宝永五戊子年五月六日　　平若狭㊞
　　石阿波㊞

中出雲㊞
荻近江㊞
坪能登㊞
松壱岐㊞
丹遠江㊞
本弾正㊞
堀丹後㊞

在所江御暇付無加印

三備前
鳥播磨㊞

（裾野市佐野　佐野区有文書）

八八　宝永五年六月一三日（一七〇八）　水配役人仰付けらるにつき水掛り村々請書

差上申一札之事

助四郎　　稲葉紀伊守知行所上郷
一治兵衛　　深良村

伊奈半左衛門御代官所中郷

一　平左衛門　公文名村
　　源之助　麦塚村
　　甚四郎　能勢権兵衛御代官所下郷
一　七郎右衛門　中土狩村

右ハ箱根湖水配役人上郷・中郷・下郷廿九ヶ村之内三十三人、惣村中吟味を以申上候所ニ、猶又再御吟味之上聞(ママ)取を以六人被仰付奉畏候、此上江戸表へ御窺之上可被仰渡旨奉得其意、右六人之者共、水下廿九ヶ村共水配役人御極メ得心仕申分無御座候、為其私共一札差上申候、以上

宝永五年
子ノ六月十三日

水下廿九ヶ村惣代
同　岩波村　太右衛門
同　茶畑村　又四郎
同　竹原村　□(幸)左衛門

能勢権兵衛様

此本下書ハ御宿村ニ有之候、尤□同村彦十殿所持
（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

八九　宝永六年(一七〇九)七月　用水引方につき水下村々願書

乍恐書付を以奉願候事

伊奈半左衛門御代官所
駿東郡竹原村
幸左衛門
下土狩村
権左衛門
いつ嶋田村
二つ屋新田
半七
平松新田
仲右衛門

茶畑村
又四郎
公文名村
稲荷村
理兵衛

一箱根湖水引方之儀ニ付水論仕、去子ノ五月御裁許書被下置、上郷・中郷・下郷ニ而水配役仕立候、木瀬川・瀬名沢・湖水無甲乙水引可申旨被為仰付奉畏候、然所ニ今年水配り甲乙在之、拙者共村々ニ限り田反別百五拾町歩余之所植付申儀難成候処ニ、五月十日・六月四日両度之雨水ニ而漸百三拾町歩余植付申候得共、植旱仕付荒ニ罷成り、拾九町歩余田作仕付不申、水配り之者共水引方不同有之、拙者共村々惣百姓及退転迷惑仕候御事

一水引方之儀、木瀬川・瀬名沢・湖水無甲乙可引之旨、去子ノ五月御裁許中私方へ被下置候所ニ、三拾九年以前之地水分跡ヲ用水堰留メ申ニ付、拙者共村々田作荒地ニ罷成り、迷惑至極ニ奉存候、湖水之儀者毎年堤候分量増減無御座候、然所ニ照り続候年茂右分跡ヲ用水引取申候故、私共村々別而難儀至極仕候事

一水配役人御裁許書ヲ相守、水配り仕候て、私共村々計片付、荒地ニ茂罷成り申間敷候処ニ、拙者共村々大分田作荒地ニ罷成り難儀仕候故、以御慈悲乍恐当分御見分被為仰付被下候様ニ奉願上候

右之条々少茂偽り不申上候、御見分之上委細口上ニ而可申上候、殊ニ殊(衍)ニ私共村々之儀ハ三嶋・箱根両宿之定助大助御伝馬并人足役等相勤申候村々ニ御座候故、今年之通荒地ニ罷成り候而ハ村方諸役等も相勤メ不申難儀仕候間、御見分奉願上候、以上

宝永六年丑七月

喜左衛門
権左衛門
林右衛門
半七

又四郎
里兵衛

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

29　享保一五年（一七三〇）五月二九日　佐野堰分水につき公文名村他二ケ村願書

乍恐書付を以申上候

箱根湖水掛り中通り佐野堰掛り拾ケ村之内水末平松・伊豆嶋田両村、植付水ニ昼之内遣シ、夜水者石脇村・佐野村・久根村三ケ村養水ニ為引、此方村々江者養水相除、昼夜共水遣シ不申ニ付、水配佐野村藤右衛門方江相尋候得者、平松・伊豆嶋田仕付之内者不罷成由、石脇・佐野・久根三ケ村江者毎晩養水為掛ケ、私共村々片付永干ニ罷成り、一堰之内格別成依怙贔屓仕、迷惑至極仕候、拙者共村々右三ケ村ニ順シ水引候様ニ、御慈悲を以被仰付被下置候様ニ奉願上候、以上

享保十五戌ノ五月廿九日

大久保加賀守知行所
公文名村
稲荷村
名主　理兵衛
組頭　半右衛門
同　徳兵衛
茶畑村
名主　又四郎
組頭　弥七
同　庄兵衛

斉藤喜六郎様
三嶋御役所

右之通三嶋御役所へ御願申上候得ハ、番水仕候夜水ハ水口三ケ村、昼水ハ公文名ゟ下へ遣、昼水計り押へ、平松・伊豆嶋田仕付水ニ為引、少々宛仕付日数相延候、公文名・茶畑片付永干之所、御聞届ケ夜水共ニ押、右仕付水ニ遣、早速植仕舞可然思召、其分ケ藤右衛門得心不仕候ハヽ、此方村々と申合三嶋御役所へ罷出候筈ニ御差紙藤右衛門方へ被遣候ニ付罷帰り、公文名曾七・茶畑仁左

衛門ニ持せ相渡申候、藤右衛門挨拶ニ、夜水共ニ平松・いつ嶋田仕付水ニ遣シ候儀、終ニ無之、夜水ハ佐野ゟ段々公文名・茶畑迄有次第分水ニ仕候、御役所へ参候儀同役共と相談仕可申候と、三嶋へ参候儀極メ不申候ニ付、晦日之朝公文名半右衛門・茶畑半蔵（以下ナシ）

乍恐口上書を以申上候

一箱根堀貫堰下渇水ニ付、上郷村々一日一夜宛番水ニ下ケ、平松・伊豆嶋田両村植付仕候所ニ、拙者共三ケ村ニ三ケ村相限、御田地養水一向遣不申ニ付申ニ付委細願書差上申所ニ、水配佐野村藤右衛門方へ御差紙被下置、去ル廿八日相渡申候、水配之者申分ケ無御座、昼水ハ右両村植付之所江遣、藤右衛門并上郷同役立合、夜水分水ニ仕、拙者共村々へ引渡可申旨ニ水配之者共得心仕候、尤不埒之水配仕方ニ而、拙者共村々江水届不申候得共、御差紙被下置候ニ付、水配之者我侭不申、難有ニ付御注進申上候、勿論水引方別紙ニ書付差上申候、以上

享保十五年
戌六月

公文名村
稲荷村
名主　理兵衛
組頭　半右衛門
同　徳兵衛
茶畑村
名主　又四郎
組頭　弥七
同　庄兵衛

斎藤喜六郎様
三嶋御役所

是ハ上ケ不申候

用水引方之覚

一五月廿九日御差紙水配方へ相渡シ申候、同晦日八つ時、茶畑村百姓新兵衛所へ水配藤右衛門并上郷水配下役武右衛門同道仕参候ニ付、茶畑村・公文名名主組頭立合御差紙之趣相尋候へハ、平松・いつ嶋田植付早速埒明

候共、昼夜仕付水遣申儀難成候、今晩ゟ夜水公文名・稲荷迄有次第分水ニ可仕候、茶畑村へハ昼水水(衍)迄詰候而昼水之内ニ而了簡可仕旨申付、任差図ニ公文名村・稲荷村堰筋ゟ人足召つれ、川筋へ立合申所ニ、上郷堰被破夜水大分減シ早速上郷堰改水下ケ申儀茂夜中間ニ合不申、分水不仕候

一六月朔日之晩公文名・稲荷堰筋人足名主組頭立合、水配之者ニ分水仕候へ共、久根村・石脇村差置、佐野村計分水ニ仕、公文名村・稲荷村堰筋迄分水仕候ニ付、少し之水ニ而公文名ゟ下同場へ届不申候、久根村・石脇村昼夜定水ニ為引申儀難心得奉存候

一六月二日晩、公文名村・稲荷筋人足名主組頭罷出候へ共、上郷之堰被破、夜水大分減シ分水不仕候

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

九一　元文二年（一七三七）三月　支配替につき水掛り村々願書

乍恐書付を以奉願上候御事

訴訟人駿州駿東郡弐拾九ヶ村

一箱根湖水掛り御支配之儀、五拾年以前辰年、御勘定所様ゟ駿州沼津小長谷勘左衛門様へ被仰付、段々御支配相替り当春迄豆州三嶋御代官斎藤喜六郎様御支配被遊候所ニ、此度三嶋御役所弐拾九ヶ村被召寄、湖水掛り村方当春迄不残御給領ニ相渡り候ニ付、御窺之上右湖水御支配御離し被遊候由被仰渡候、右井懸り之儀前々ゟ御支配様御座候而御下知被遊、用水引来り候所ニ、今更御支配無御座候而ハ湖水掛り用水不埒罷成り、御田地荒所可仕と惣百姓難儀至極仕候、御慈悲を以前々之通御代官様御支配ニ被為仰付被下置候ハヽ、難有可奉存候、委細御尋之上乍恐口上ニ而可申上候、以上

元文二年巳三月

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

九二　元文二年（一七三七）七月　用水引方につき水末村々願書

乍恐口上書を以奉願上候御事

一　相州箱根湖水堀抜、江戸町人見立　御公儀様江奉願上、本〆仕上穀米水掛り御田地ゟ七年可被下御定ニ而御請負仕、寛文年中小田原稲葉美濃守様御知行所駿州深良村山之内七百弐拾間六尺四方ニ堀抜、山洞之古川を用山口ゟ幅三間之新川七百弐拾間仕立、古来之木瀬川江落入、湖表ニ而五拾七間幅弐間之割堀仕、幅弐間ニ高サ五尺余之水門八九寸角四本立戸前三本ニ仕、弐間ニ五間高サ五尺余之埋樋を附ケ、六拾七年以前亥年普請成就仕、右木瀬川筋ニ而御料御私領村数四拾ケ村余之用水ニ取候処、水不足ニ而村数減シ弐拾九ケ村用水ニ罷成、高四千百九拾石余之御田地組合ニ而湖水堀筋人足諸色相勤申候、右弐拾九ケ村之内拾七ケ村小田原領稲葉美濃守様御知行所、拾弐ケ村者御料駿州沼津御代官野村彦太夫様御支配所ニ而、右用水小田原御役人様方御見分ニ而御下知被遊、御威光を以、水末迄田作仕来候所、稲葉丹後守様御所替ニ而、弐拾九ケ村之内弐ケ村者御分知、十五ケ村ハ小田原領、拾弐ケ村者御料沼津御代官小長谷勘左衛門様御支配被遊候、右弐拾九ケ村、道法三里余、堰数三百ケ所余ニ而、用水筋惣御支配無御座候而ハ難成、勘左衛門様ゟ御窺之上者、拾年以前辰ノ年従　御公儀様小長谷勘左衛門様江御支配被　仰付、御料ニ而御宿村平次郎、小田原領ニ而茶畑村甚右衛門両人水配堰役被　仰付、下役四人ニ而相勤、勘左衛門様御窺之趣被　仰付候、御威光を以、水分量ニ応シ高反別積り分水又ハ番水ニ水末迄廻シ掛ケ仕、惣村一同之積ニ相働候故、御代官様御代り被遊候得共、無恙拾八年相務申候所、平次郎病死仕悴半右衛門跡役相勤、上郷・下郷・中郷水論御訴訟仕、御評定様ニ而宝永五子年御裁許被下置、上郷・中郷・下郷ニ而水配役六人相立、水上水下無甲乙用水一同之旨被仰付難有奉承知候、水配役六人御代官様ゟ被　仰付相働候得共、水上之方江ハ多ク水引ケ、此吟味之筋水配百姓役人ニ而働兼、水末村方段々日損荒茂仕、百姓及困窮難儀至極仕候、此度別紙書付を以向後之御支配様

奉願候ニ付、難儀之村方委細御訴江申上候
右湖水堰筋普請水門入用水配給分等迄高割ニ相務来候得共、用水ハ不同罷成水末難儀仕候ニ付、向後用水時分御支配御役人様御見分ニ而、水配之者相働堰々高反別ニ応シ分水ニ田作仕、渇水之節ハ水末迄番水ニ廻掛ケ仕、御威光を以惣村一同之水掛り仕候様ニ、御慈悲を以被為仰付被下置候様奉願上候、日損荒之百姓相続仕、御年貢御役相勤候ハヽ、難有可奉存候、以上

元文弐年巳七月

駿東郡公文名村
稲荷村
名主　利　兵　衛㊞
茶畑村
平松新田
名主　又　四　郎㊞
麦塚村
名主　重　五　郎㊞
伊豆嶋田村
二ツ屋新田
名主　半　七㊞
下土狩村
名主　権　左　衛　門㊞
同　平　左　衛　門㊞
竹原村
名主　伝　左　衛　門㊞
同　用　蔵㊞
新宿村
名主　甚　五　兵　衛
伏見村
名主　善　左　衛　門
同村
名主　五　郎　兵　衛

右之通委細口上ニ成り兼如此相認御上屋敷江上申候、尤口上之代り故、村付名付不仕上ケ申所ニ何れ共御沙汰無

之候

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

29　元文二年（一七三七）七月　支配替につき水掛り村々願書

乍恐書付を以奉願候事

一箱根湖水御支配之儀、先達而申上候通、三嶋御役所ニ而御構被遊間敷旨被　仰渡候ニ付、井掛り弐拾九ヶ村寄合相談仕候得者、前々之通御代官様御支配ニ願上申筈ニ書附相認候処ニ、中郷・下郷者御代官様御支配願不申候、御私領方私共拾壱ヶ村者連判相除、江戸表江御願ニ罷下不申候

一御私領方拾壱ヶ村者前々之通斉藤喜六郎様三嶋御役所御支配ニ奉願候、心庭（底）ニ御座候処、面々御地頭様方より大久保出羽守様御方江用水指掛候ニ付、当年計御支配御頼被遊被下候段、御面々御地頭様ゟ御廻状を以被仰聞承知仕候、依之拾壱ヶ村則時ニ面々御屋敷様へ御願ニ罷下可申候処ニ、用水当用水中者指控罷在候

一私領方拾壱ヶ村寄合相談仕候者、湖水御支配之儀、前々之通三嶋御役所様ニ而御支配被遊被下候様ニ、御面々御地頭様ゟ斉藤喜六郎様御方江御願被遊被下候様ニ奉願上候、若乍（ママ）此上井掛御地頭様方ニ而御支配被遊候ハヽ、御壱人ニ片付不申様ニ乍恐御相談奉願上候

右申上候通、御地頭様御役人中様乍恐御会合被遊被下、御一同御相談ニ而前々之通斉藤喜六郎様御支配ニ御願被遊被下候様ニ御慈悲を以奉願上候

元文二年巳七月

稲葉主水様御知行所
駿東郡深良村
名主　源　蔵
同　助左衛門

同御知行所
同郡久根村
名主　権左衛門

同御知行所

同郡納米里村
名主　文右衛門
大久保筑後守様御知行所
同郡御宿村
名主　半右衛門
松平数馬様御知行所
同郡葛山村
名主　久右衛門
同御知行所
同郡金沢村
組頭名主　次兵衛
同御知行所
同郡上ヶ田村
名主　善兵衛
安藤伝吉様御知行所
同郡同村
名主　五左衛門

内藤越前守様御知行所
同郡千福村
名主　太兵衛
同知行所
同郡定輪寺村
組頭　弥兵衛
秋山重右衛門様御知行所
同郡冨沢村
名主　半蔵
酒井越中守様御知行所
同郡納米里村
名主　半右衛門
曾我主水様御知行所
同郡同村
名主　弥四郎

（元文三年「源蔵覚書」　裾野市深良　志村守雄氏所蔵）

九四　元文二年八月（一七三七）　湖水支配の定につき水掛り村々請書

駿州駿東郡箱根湖水掛り弐拾九ヶ村一同ニ私領ニ罷成候ニ付、向後湖水支配之御地頭之儀依願ニ御相給方拾人一同ニ申談遂吟味候上、向後水支配之儀相定右廿九ヶ村江銘々地頭ニゟ申渡之覚

一向後湖水掛り役人、大久保出羽守ゟ家来壱人毎年差出シ、大久保筑後守・内藤越前守・酒井越中守・山岡但馬守・曾我主水・秋山主殿・稲葉主水・松平数馬・安藤伝吉右九人申合、年番ニ役人壱人ツヽ差出シ可申事

一右出羽守ゟ指出シ候役人并右九人ゟ差出シ候役人申合、両人ニ而諸事遂相談水配之名主役人共江申付候事

一唯今迄斎藤喜六郎様御代官所ゟ御差図有之候趣を以、先年水論之節御裁許状之表ニ随ひ諸事取計致差図候事

右之趣、向後上郷・中郷・下郷弐拾九ヶ村之者共、急度相守可請□候事

元文二丁巳年八月

右箱根湖水掛り之御支配様御立被遊御下知被成下候様ニ奉願候処ニ、御一同御相談之上向後之儀御定被遊、右之条々被仰渡奉畏難有仕合奉存候、以上

元文二丁巳年八月

駿州駿東郡

新宿村・伏見村・中土狩村・竹原村・下土狩村・上土狩村・水窪村・伊豆島田村・二ツ屋新田・麦塚村・茶畑村・平松新田・公文名村・稲荷村・佐野村・石脇村・岩波村・神山村都合拾八ヶ村惣代

安藤伝吉知行所新宿村　名主　甚五兵衛

大久保出羽守知行所下土狩村　名主　権左衛門

同断　茶畑村　名主　又四郎

大久保出羽守様

御役人中様
酒井越中守様
御役人中様
曾我主水様
御役人中様
山岡但馬守様
御役人中様
安藤伝吉様
御役人中様

持主　又四郎
（沼津市　柏木正男氏所蔵）

259　元文二年（一七三七）一二月三日　湖水支配につき役人廻状

以廻状致啓上候、各々様弥御堅固ニ御務被成珍重ニ奉存候、然者駿州箱根湖水御支配之義ニ付、当八月申談候趣、各々様御知行所名主御呼寄被仰渡相済申候哉、来正月廿一日曾我主水様此方ニ而年番相勤申義ニ付、年内ニ三嶋御役所斉藤喜六郎様御手代江、唯今迄之趣主水様衆申合、此方役人義罷越、得と承合置度旨先日在所ゟ申越候、先頃申談候節被仰渡相済次第可被仰下旨被仰聞候処ニ、未タ有無之御沙汰茂無御座候、最早年内余日無御座候ニ付、右被仰渡相済候段致承知度如此ニ御座候、早々順廻被下御留り様ゟ御返シ被遣可被下候、以上

十二月三日

大久保出羽守内
井沢佐左衛門
目治銀右衛門

内藤越前守様御内
井上小右衛門様

御廻状之趣承知致候、此方名主義久々病気罷有候ニ付、陣屋へ不罷出候、乍然多分ニ付可申旨申聞候

山岡五郎作様御内
夏目治部右衛門様

御廻状之趣致承知候、箱根湖水御支配之義当秋御相談之通名主共へ申候処ニ奉畏候之段証文指出申候

秋山主水御内
高橋伝右衛門様

御廻状之趣致承知候、先達而被仰下候通名主呼寄申渡候処、湖水請之義ハ三流ニ候、内藤越前守様・稲葉主水様両名主申合、印形可仕旨申聞、廻状之趣又々可申聞候

松平数馬様御内　　被御念入御廻状之趣委細致承知候、自是有無之義御答可得御意候
久保弥右衛門様

稲葉主水様御内　　被入御念被仰越候趣致承知候、知行所へ申遣自是可得御意候
舟岡友右衛門様

追而會我主水様・安藤伝吉様・酒井越中守様方者、最早被仰渡相済候段、先頃為知申来候、以上

（元文三年「源蔵覚書」　裾野市深良　志村守雄氏所蔵）

九六　元文二年（一七三七）一二月　湖水支配役人宛請書につき深良村役人日延願書

乍恐書付を以御願申上候事

一箱根湖水御支配様御請書被為仰付候処ニ、御日延願罷在候ニ付、又候被為仰下候趣御申渡被遊承知仕候、乍併未タ村組相談茂相調不申、殊ニ余日無御座候得者、来春迄御延被遊被下候様ニ奉願候、請判之儀者外村々並茂可有御座候間、外村並ニ御願申上候、以上

元文二巳年十二月

深良村
名主　助左衛門
同　源　蔵
組頭　平左衛門
同　源五郎
同　佐五右衛門
同　六郎右衛門
同　弥平次
弥十郎
平左衛門

綾部伝右衛門様

（元文三年「源蔵覚書」　裾野市深良　志村守雄氏所蔵）

九七　元文三年（一七三八）正月　湖水支配方につき深良村役人願書

乍恐書付を以御願申上候事

一箱根湖水御支配之儀、前々之通御代官様御支配ニ難被成御儀ニ御座候ハヽ、湖水掛村々御地頭様御年番ニ、

御支配被遊被下候様ニ銘々御地頭様江奉願上候処ニ、御給領御地頭様方之内御年番ニ御勤難被成御方様御座候趣ニ付、大久保出羽守様御定役之御相談被為遊、勿論外御給領御地頭様ゟ御壱人宛御出被遊候趣被仰付候御事

一　私共拾壱ヶ村之者共、又候奉願上候者、大久保出羽守様・稲葉主水様御両所御役人様ニ而御定御支配ニ被遊被下候様ニ奉願上候事

一　御定書を以被仰渡候者、年々御役人様方御両人宛御出被遊由、左様御座候而ハ先格ニ相違仕、御賄等并人夫共困窮之百姓難儀ニ奉存候者、前々ゟ唯今迄水配役之扶持給其外惣村方普請諸入用等、水懸り村々出来申候、然上ニ又候年々御両人之御役人様方御賄諸色入用出シ申候儀者、重々難義ニ奉存候、尤大渇水又ハ大水之節ニ而川筋破損等御座候節者、水配役之者御注進可申上候間、其節右御両方御役人様御出被遊候様ニ、御定被為遊被下候様ニ奉願上候

右申上候通先格を以御支配被遊被下様ニ奉願上候、以上

元文三年午正月

深良村
名主
組頭
不残

稲葉主水様
御役人中様

右年番之趣、猶又御相給方拾人一同ニ申談、巳ノ八月申談候ヶ条之通弥一同ニ決定仕事

元文三戊午年二月三日

目治銀右衛門
井沢佐左衛門
其外九給御役人

村方請判者此節ハ不仕候

（元文三年「源蔵覚書」　裾野市深良　志村守雄氏所蔵）

六　延享三年（一七四六）七月　水配役人申合せ定書

辰年番　秋山十右衛門
巳年番　内藤越前守
午年番　松平数馬
未年番　安藤監物
申年番　大久保直之丞
酉年番　稲葉紀伊守
戌年番　山岡五郎作

右元文二巳年相定候通之順を以、以来共ニ弥役人申合猶亦左之通ヶ条相定候

一湖水之儀ニ付水配之者共万端定年番其年之年番役人方江相窺、差図次第相勤候様ニ申付候、若於村方湖水之儀ニ付難渋仕候歟、又者不届を以用水ニ障り候者有之候ハヽ、定年番・当年番相談之上何分ニ茂申付候筈ニ申合候事

一先年御裁許ニ茂水無甲乙様ニ可仕旨被仰出候事ニ候得者、弥以此上我侭成村方在之、任勝手自分村方江計水引込候儀在之におゐてハ、定年番其年之年番之役人方江其段申達、たとへは水一日引込候ハヽ一日皆留いたし、二日引込候ハヽ二日皆留に可申付候、尤其節我侭之趣ニ随ひ、急度仕置申付候筋茂可在之事

一堰普請大破無之以前、村々申合堰致普請候様に申付候、若違背之村方在之候ハヽ、急度申付候筈ニ申合候事

一水配上役下役給扶持・給金小田原役人方より取立、水配共江相渡可申候、右割合帳面相廻し候ハヽ、村々前格之通致請印、早々相廻し触候、定日小田原役人方江右給金致持参候様ニ申付候事

一惣而湖水井懸之儀ニ付、相障候不届者在之候ハヽ、以後しまりニ相成候程之仕置申付候様ニ可致事

右之通此度申合候上ハ、右ヶ条之趣地頭〳〵より村々江急度可申渡候、然上ハ猶又御互ニ存寄候儀ハ無覆蔵可申談候、為後日致連印相定置候、以上

延享三寅年七月

大久保出羽守内　横井平助
大久保直之丞内　吉田喜太夫
曾我伊賀守内　嶋田権太夫
酒井越中守内　早川庄左衛門
内藤越前守内　金坂軍右衛門
秋山十右衛門内　伏屋忠蔵
松平数馬内　植松庄太夫
稲葉紀伊守内　舟岡茂七
安藤監物内　前田形左衛門
山岡五郎作内　夏目次部左衛門

右之通此度申合、自今之儀相定候付、村々写取可相守候、以上

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

九　延享四年（一七四七）八月　用水引方につき水上村々願書

乍恐書付を以申上候御事

一此度□□用水引方之義、前々之致方ニ相違仕惑（ママ）迷之由、中土狩村ゟ御支配様江御注進申上候ニ付、右御支配御役人中様当七月十三日ニ下土狩村へ御立会被遊、段々御吟味被遊候ニ付、中土狩村申上候ハ今年渇水ニ付片川掛ニ仕候処、水配人ゟ六月卅日夜中ニ手紙相廻シ翌七月朔日ゟ片川掛ニ仕候、此義重仕ニ御座ニ付、前々ゟ井組不残寄合相談相究、御支配様へも申上片川掛ニ仕候、今年ハ相談御座候□□片川かけニ仕候ニ付御注進申上候、下郷□（水）配伏見村五郎兵衛并下土狩・竹原・伏見・新宿四ケ村申上候ハ、前々ゟ村方江相談致候義無之、水配人存寄ニ用水引趣ニ申上候、依之納米里村御三拾名と富沢村名主被召出御吟味被成候ニ付、前々井組相談仕候由申上候へハ、証拠可差出被仰付候、且亦中筋水配人茶畑村□（文治郎カ）□方へ御尋被遊候へハ申上候ハ、番水ニ相成候節手紙相廻シ候趣ニ申上候、并三筋□□（水配カ）人深良村源蔵へ御尋被遊候間前々之由申候得ハ、書付差上□申由被仰付有躰申上候写此度差上ケ申候

一下四ケ村申上候通無相違水配人御任ニ仕候ハヽ、□(水カ)上村々至極難義可仕訳ハ、片川掛番水之義ハ重キ義ニ御座候ニ付、稀成□□御座候故、前々ゟ水配人名主立会□水分量定御座候処、去御定書ニも前格相用可申義無御座、亦候□相談申候ハヽ、此以後ハ水分量ニも不構□(旨カ)番水ニ年□成様ニ相□□、然者上郷者水末ゟ先へ日損可仕難義千万ニ奉存候間、以御慈悲御立会之節御考弁被成下前格相潰不□□様ニ奉願上候、以上

延享四卯年八月

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

100　延享五年七月　水配役人申合せ定書

（一七四八）

（表紙）
延享五年
駿州駿東郡
御厨湖水懸り再申合定書
戊辰七月

一七月朔日石澄藤兵衛罷越十給役人中相談之上相極メ候申付書左之通

一去七月中中土狩村名主組頭以書面ヲ致注進候ハヽ、伏見村・新宿村江水届キ不申候ニ付、七月朔日ゟ片懸ケ番水ニ仕候、此儀古来ゟ番水之義者村方寄合相談之上番水ニ仕来り申候所、相談曾而無之由旁致注進候、依之三筋水配人并下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村・納米里村・富沢村令吟味候処、双方無証拠ニ候、水配之儀者先年御裁許ニも水無甲乙可仕旨被仰付候ニ付相守

罷在候得共、自今猶亦水甲乙無之様ニ相勤可申候
一水不足之節は別而下筋村々及渇水ニ付、上中下水配役人下役共ニ下筋江罷下り致見分相談之上、片川番水ニ成共甲乙無之様ニ引渡シ可申候
一下筋水不足之節は下筋水配人ゟ上筋中筋水配同役人方江早速申遣及相談、宛行水ニ成共片川番水ニ成共水配人仲間無覆蔵相談之上、分量ニ応シ水甲乙無之様ニ引渡シ可申候
一水配仲間相談を以片川番水ニ致候節者、廻状を以村々江為相知可申候、以上

延享五戊辰年七月

山岡五郎作内
夏目治部左衛門　印
安藤監物内
前田形左衛門　印
稲葉紀伊守内
箕輪茂左衛門　印

上郷

松平数馬内
増田源右衛門　印
秋山十右衛門内
石澄藤兵衛　印
内藤民部内
金坂軍右衛門　印
酒井越中守内
早川庄左衛門　印
曾我伊賀守内
大高条左衛門　印
大久保直之丞内
吉田喜大夫　印
大久保出羽守内
横井平助　印

中郷

下郷
水配役人中

右紙面披見之上請書銘々致名印可差戻候、以上

（裏表紙）
別紙

右御書付を以被　仰渡候趣奉畏候、水配下役人共江茂為申聞水甲乙無之様引渡シ可申候、右為御請如此御座候、以上

上郷水配役人
深良村名主　源　蔵　印
中郷水配役人
茶畑村名主　文　次　郎　印
下郷水配役人
中土狩村名主　平　七　郎　印
（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

101　宝暦一一年（一七六一）五月一八日　用水不足につき石脇村願書

乍恐書付を以奉願上候御事

一私共村此度用水之儀不足ニ罷成難儀仕候而引廻シ罷在候へ共、此間ニ至り候へハ猶又私共計之引廻シニ而ハ不足仕候ニ付、私共村一村切ニ御小奉行様御願申上候、何とそ御慈悲以御小奉行様被仰付被下置候ハヽ難有奉存候、定水ニ而前格有之候へハ取計来り候間前格之通御願申上候、前格とハ相違御座候ニ付小奉行様御願申上候、格別之不作仕候へハ百姓共至極難儀罷成候、尤先年ゟ小奉行様御願申上候儀者無御座候、殊ニ地水之村ニ而定水ニ懸り来り湖水懸りハ少々之儀ニ而御座候ニ付、水不足仕候事去年迄ハ無御座候、右之訳ケ故無是非御願申上候、委細ハ御尋之上口上以可申上候、以上

宝暦十一午年五月十八日

石脇村
組頭　半右衛門
同　甚右衛門

中山七郎兵衛様
木野村仙治様

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

一〇三　明和七年（一七七〇）七月　水配役人申合せ定書

覚

一御田地荒廃之儀者一統大切之儀ニ付、湖水出口砂浚并水門下箱柱木其外土手堰々普請等迄、常々入念水配人者勿論井組村々無争論様ニ遂熟談、大披（破カ）無之已前修理可致候、捨置及大披候者急度申付之事

一井組村々畑を田ニ致候義向後御停止之趣先年被　仰付有之候得者、右筋有之間敷候得共、弥堅ク可相守候、以来右躰之趣相聞候者、急度相糺候事

一湖水川通堰所猥ニ不相成候様ニ可致候事

一先年御裁許書并定書之趣ニ随ひ、水上水下無甲乙様ニ弥堅可相守候事

右者当寅年何年ニ茂無之旱魃ニ付、水全不足村々旱損多ク有之候ニ付、給々役人立会堰々田場遂見分申付候条村々写取急度可相守候、以上

明和七年寅九月

大久保七郎右衛門内
中山郷右衛門　印

大久保長門守内
竹下武右衛門　印

曾我若狭守内
深川善蔵　印

酒井左門（ママ）守内
星屋善左衛門　印

内藤越前守内
形（刑）部小左衛門　印

秋山伝之助内

日吉彦兵衛　印
稲葉紀伊守内
佐藤久米右衛門　印
松平数馬内
小野縫右衛門　印
安藤八五郎内
渡辺為右衛門　印
山岡五郎作内
夏目又左衛門　印

廿九ヶ村

追而披見之上致請印小田原役所へ可差戻候、以上

別紙ニ請書之文候

御定書之趣奉畏、村々写取可相守可申候、以上

廿九ヶ村

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一〇三　明和七年（一七七〇）九月　水配人宛拾給役人申し渡し

覚

名主
組頭　印

一先年御裁許書并定書之趣ニ随ひ、水配人水懸引前例を以是迄取計候得共、猶又御田地荒廃之儀ハ大切之儀ニ付、水上水下無甲乙水配り候様弥堅ク可相守候事

一水配人水懸引之儀者、受前之場所ハ不及申、入念上郷水配下郷堰所田場迄も相廻り、下郷水配者上郷堰場田場迄も相廻、中郷水配同断ニ度々相廻り、三筋水配人無甲乙様ニ遂熟談、水懸引可致候事

一湖水水門下箱并ニ柱木砂浚其外土手堰々迄入念不及大披（破）以前井組村々遂熟談常々無油断修理可被申談候、若捨置及大破候ハヽ、水配役可為不念候事

右者当年何年ニ茂無之旱魃ニ付、水全不足村々旱損多有之候ニ付、給々役人立会堰々田場遂見分申付候条写取急度可相守候、以上

明和七年寅九月

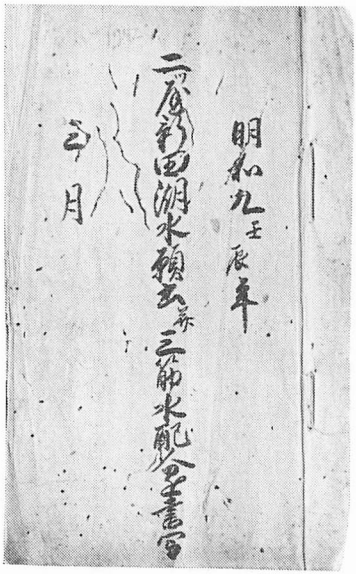
誰内
拾給役人
上郷
中郷　水配人中
下郷

追而披見之上致請印小田原役所へ(衍)江可差戻候、以上

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一四　明和九年三月（一七七二）　二ツ屋新田と水上村々争論につき願書・水配人取調書

（表紙）
明和九壬辰年
二ツ屋新田湖水願書并三筋水配人懸書写
三　月



乍恐以書付奉願上候御事

一二ツ屋新田之儀、近年度々打続旱損仕難義仕候、殊去

寅年当卯年之儀ハ至而旱損多、大小之御百姓至困窮仕候、去寅年之儀ハ植付之砌ゟ雨継無御座候得共、大体通水等ニ而植附申候処、養水之儀引下不申、無是悲(非)植干ニ罷成申候、当年之儀ハ、春以来ゟ湖水溜方茂宜御座候間、何分植附可仕与日々支度仕罷有候処、四月廿八日壱番戸抜申候得共、水一向引下不申候ニ付、五月十日弐番戸抜水配人分水仕初申候テ、少々宛水引下候ニ付、少ハ植附申候得共、其後水引下ケ不申候間、植附不相成、又候三番戸抜払申候処、水引下不申候ニ付切替番水ニ仕候得共、湖水之儀溜水之儀ニ付追日減少仕水勢弱、弥水引下不申候、たま〳〵少々植附候分茂植干ニ罷成、且仕附残町歩夥敷義ニ御座候、右之通両年旱損仕候得ハ、一向実取不申種を失ひ候仕合ニ而、大小之御百姓至而困窮仕候、例年湖水壱番戸抜候而乱水与申、十二三日之間ハ水配人分水不仕、水上村々勝手ニ堰入申候を水末村々ニ而人足差出堰々切下申候而、是迄植附申候儀ニ御座候間、当年も右之通ニ而植附可申与奉存候得共、旱魃之儀殊堰々切下候跡より水上村々直ニ人足附置堰留申候得ハ、何分水引下不申、水末村々之手跡ニ届兼難義仕候、併雨継相応ニ御座候得者、右之通ニ仕候而も植附可相成候得共、是以旬後レニ相成候得者、植附後ゟ之旱魃之年抔ハ遅植之方ハ格別ニ痛強く御座候、旱魃無之迚も植後之程ハ、始終生長実成共旱植ゟハ相劣候義ニ御座候、殊更当年之様成旱魃ニも平年之通水上村々之勝手堰入乱水ニ而、十二三日之間植附候而者、水末村々自与旬遅ニ相成候而、水不届植附出来かね候てハ、自然与田面甲乙に茂相成候様ニ奉存候、只今迄之通ニ乱水之内雨続相待植附候様ニ相成候而ハ天水場同前ニ而迷惑仕候、何卒来年より湖水壱番戸抜候日ゟ直ニ水配人分水仕候様ニ奉願上候、

宝永年中　御公儀様ゟ御裁許之面并ニ御十給様方御定書之趣随ひ水無甲乙引下ケ、且夜水間之水相止、水配人宛行置候通相守候様ニ奉願上候

一中郷之内田作仕候場所近年水行届キ不申、旱損度々に

御座候而迷惑仕、無拠御願申上、当分田成畑ニ仕候分、公文名村・稲荷村・茶畑村・平松新田・麦塚村・伊豆嶋田・二ツ屋新田、右之村々ニ而町歩弐拾八町程田成畑相成居申候、右夥敷キ町歩江水一面ニ可行届を畑ニ仕候得ハ、相残候御田地へ水引届キ可申処、如斯年々之様ニ水引下不申旱損仕候而者、自ラ此上又田成畑ニも御願申上候様ニも成行可申哉与、乍恐歎敷奉存候、右田成畑ニ相成而も、水配人給米其上水門諸懸り物普請入用等之儀ハ差出申候而迷惑難義ニ奉存候、併又候水引届元之田面ニ立帰り可申哉与是迄ハ御願不申、諸入用差出来申候、何卒此已後水引下元之田面ニ立帰候様ニ仕度奉存候

一　右乱水夜水間之水之儀水配人共之差図に茂難及、且水末村々ゟ差留候而も相止可申義無御座候、依之私共村々右体之仕癖ニ被支候而、年来水不足仕旱損無之迚茂水不足丈ケ植附も延引仕、養水等も十分ニ無之候得者、生立実成共ニ地水懸之引競候得ハ、年々劣申事故、毎年歎ケ敷奉存候、小前者共毎々ゟ右之趣以　御威光御差留被下置候様　御支配様へ御願申上呉候様ニ度々申出候得共、水上村々勝手之取計とハ乍申、年来致来候義御差留被下候得ハ、夫たけ水上迷惑も可仕筋ニ相見へ候得ハ、乍恐　御上様ニ而も容易ニも難被遊御儀与奉恐察罷有候而、只今迄小前百姓共へも右之趣申含差押置候へ共、去年当年旱損与申内ニも、当年之儀ハ現在も湖水溜も宜御座候、水上村々乱水ヲ以十分植附候処、水末村々ニ而ハ一向植附水下不申、難儀至極仕候、畢竟水引下不申打続旱損仕候故、浚葉(渫)茂相離候様ニ罷成候、且、当年之儀ハ御小奉行様追々御越御詰被遊、水引方之義も御差図被成下、其上定御年番様并添御年番様御役人中様御見分被成下置、水配人之者へも種々被仰付被下置候へ共、何分に茂水引下不申候得ハ、此上自然と立潰ニ相成可申哉、左候へハ御地頭様方御厄害ニ相懸候所も乍恐難儀至極奉存候、三嶋宿定助郷御役等も難相勤奉存候、依之何卒来年ゟハ、湖水戸抜候

其日ゟ、水配人定宛行乱水相止、夜水間之水等不仕候様ニ被為　仰付被下置候様奉願上候

右之趣、此度小前御百姓之者共達而御願申上呉候様ニ与申出候処、誠ニ余儀無之次第ニ付御願申上候、右奉願上候通り被為　仰付被下置候ハヽ、二ツ屋新田相助り難有仕合可奉存候、委細之義ハ御尋之上、尚又、口上ニ而可奉申上候、以上

明和八辛卯年　　二つ屋新田
七月　　名主　次郎八
　　組頭　彦次郎
　　同　長左衛門
　　百姓代　八左衛門
　　役人代　左五兵衛

湖水御支配
御役人衆中様

御厨上郷水配人
深良村
　　上役　甚兵衛
　　同村
　　下役　伊六

当卯年旱魃ニ付、水下り不申植附不同有之、且、旱損村方より願出候筋も有之候間、三水配人呼出相尋候処、右両人之者共申出候趣、左之通

一　其方共水配役相勤候処、何分之心得ニ而罷有候哉、相尋候処

其方共申聞候ハヽ、水配役之儀ハ、宝永五子年公儀御裁許状并御相給様方御立合之御定書を相守、且前格之通致水配候由、申聞候

一　右御裁許状御文談之内、木瀬川、瀬名沢、湖水引候分量不同有之異論相聞候、只今迄勤来候水配役人取放、上郷・中郷・下郷ニ而水配候役人、御代官ゟ吟味上可申付候、水上水下無甲乙用水可引之与有之処、何分に相心得候哉と相尋候得ハ、

甚兵衛申聞候者、右御挨拶之儀、即席ニ難致候間、

日延致度段申聞候

右御裁許状之儀者、役前ニ而相守居候段申聞候上ハ、只今迄相心得相守候趣以申聞候様ニ可致之段申聞候処、甚兵衛申聞候ハ、成程只今迄相守候趣茂有之候得共、右只今迄相心得候処、万一心得違ニ茂可有之哉否哉之義難計ニ付、一先致帰村、御裁許状之御本書拝見之上可致挨拶之由相願候ニ付、

猶又此方より申聞候ハ、其方共役前之儀常々相心得罷有候儀ニ候得ハ、御本書迚も写とても御文談ニおゐて相違茂無之事ニ候、其方共只今迄之心得万一了簡違有之迚も、其儘にて過来候義ニ候得ハ、今更致方も無之事ニ候、其上了簡違不違之処身分ニ而可相分様無之、此方ニ而相分り候得者、其処貧着無之事ニ候、其上同役茂不残詰合候事ニ候得者、申談之上ニ而なり共即刻可申聞候、御本書拝見ニ致帰村度願之筋者理外之訳ニ候得者難ヶ承届候間、何分即答ニおよひ候様申聞候、

両人申聞候ハ、何分に茂御本書拝見不仕候而ハ、御裁許状之通之儀ハ一向挨拶難致段、申聞候

此方ゟ申聞候ハ、右申出候通其方共即答不相成ニ付、致帰村御裁許状御本書拝見之上ニ而可申出旨、水配之義ニ付相尋候儀有之段、先達申遣候得ハ、得与取調罷越可及即答之処、帰村之上可申聞段、難得其意挨拶ニ候、併一通之尋之事故其分ニ差置、此度ハ御裁許状之義者不及沙汰候

一平年植附方も当年之植附方其方共分水之次第具ニ可申聞旨相尋候処、

両人共申聞候ハ、例年五月節ニ入三日目ヲ定日ニ相定、湖水壱番戸抜、上郷・中郷・下郷共ニ乱水与申候て相互ニ致出情、堰々〆切水引込候而植付いたし候処、水上之儀ハ大概植仕廻候時分水配人水請取、夫ゟ致分水ニ候由

此方ゟ相尋候ハ、出情次第堰入候てハ、下筋村々へハ乱水之間ハ水一向下り申間敷哉と相尋候処、

両人申出候ハ、成程水上ニ而随分堰込候得ハ、下筋

ゟ茂堰切人足差出、上下相互ニ堰切留切下いたし、下筋ゟハ夜中迄茂堰切人足差出候程致候故、下筋へも水下り不申儀ハ無之候、例年上郷之大概植仕廻候時分、水末村々之義ハ三分通も植付、下郷村々ゟ下郷水配人江分水之義申談候間、下筋水配人ゟ上郷水配人江申談之上、三水配人請取分水いたし、夫ゟ下筋江茂分量之水日々下申候間、水末村々一統追々植附相仕廻之由

此方ゟ相尋候者、当年之義ハ何分之趣ニ而水末植附残申候哉

両人申聞候ハ、前書之通如例年乱水ニ而致植附候処、殊之外之旱魃ニ而、中郷・下郷水下り不申候間、弐番戸抜候得共、水下り不申候故、上郷植附漸七分通ニ御座候得共、水末村々ゟ談ニ付、水配人申談シ、上郷村方江も申談候而、例年ゟ早分水ニ致候得共、水下り兼候間、切替番水通水等色々取計候得共、下筋迄ハ何分に茂水下不申、上筋切下ケ候水茂中途ニ而地中江染込水先届兼候間、三番戸迄抜候得共、最早湖水溜も減候間、日々ニ水勢衰候間、何分不相届候得者、水末村方植附相残申候由

右之通湖水出方日々ニ減、殊更上郷辺者切替番水通水等致候得者、夫たけ別而水分量不足可致筈之処、旱損も無之条、何故水引届候哉と相尋候処

両人申出候ハ、上郷も当年旱魃之儀故植附ハ漸致候得共、養水相届兼弥照続候へハ、仕付荒ニも相成可申と相見候処、当六月中天水ニ而養水相増可申処、土台植附不申儀ニ候得ハ、致方も無之段申聞候

一地水計引候堰々分水不致候間、当年茂水不足無之旱損も無之由相聞候、地水とても当年不足可有儀、且地水懸之内ニも湖水打込之分ハ両水共水末之分ハ旱損シ有之候、地水計之堰々限例年之通水引取候而者地水之内にも湖水交候分ハ引届不申候、既当年田面之上相見候、右引方之儀不相分候、何分之訳ニ而候哉、且、湖水地水之上ニ而甲乙相見候段相尋候処

両人申出候ハ、地水堰之儀ハ堰口分石ニ有之、分石無之も大概年々之分量有之候而引取申候水配人茂分水不致候得共、村方ニ而も分量ゟ余分之水ハ入不申候、前々ゟ右之通地水堰之儀ハ村方取扱イ来申候由此方ゟ申聞候者、当年湖水溜方宜候処水末江引届キ兼候間、上筋通水切替番水等いたし候得共、右引下リ候水下筋迄不相届趣不相分候、其上地水堰之分ハ当年之様成旱魃ニ而も平年之通水引込候而者下筋地水懸迄者地水も不足可致之処、例年之通行届候由是以不相分候、全湖水を加水ニ引入候筋ニ者有間敷哉と相尋候処

両人申聞候ハ左様ニ而ハ無之、地水堰へ引入候程ハ地水ニ而随分有之候、湖水迚も始者多溜候得共、段々戸板抜候而日数経候程水勢減候間、自然与湖水分水いたし候而者下筋迄ハ引届不申儀かと存候由

一間之水夜水抔与申習シ候而、其方共宛行置候分水ヲ堰々取破、過分之水取入候由相聞候、此儀何分之わけニ而候哉与相尋候処、

両人申聞候ハ、夜水之儀ハ水配人毎朝上手堰々ゟ段々宛行下り候処、水下村方ゟ罷出直ニ水番居置候処、暮頃ゟ右之番人罷帰候ニ付、其跡江居村ゟ罷出堰取破、翌朝水配人罷出致分水候迄ハ余分之水引取候、間之水之儀ハ前書之通日々水宛行いたし、水下ゟ堰番人附候而夜中迄も罷有候処、翌朝夜明比ニ番人引取候ニ付、其跡へ居村ゟ罷越(イテ)、水配人参候迄之間朝之内余分之水引取申候由

夜水引候堰々

豊後堰　五反田堰　新田橋端堰

岩波堰　新堰　五ヶ村懸合

間之水引候堰々

富沢村穴堰　納米里村堰　中土狩村堰　右之村々ニ而致来候由

一右段々相尋候処、乱水間之水夜水等之義、地水堰者分水不致候趣者何レ茂水甲乙之義ハ当然ニ相見候、御裁許状御定書等ニも右名目之水引方ハ無之候、何分村々

申合等有之、以前ゟ之証拠等も有之候哉与相尋候処両人申出候ハ、右之趣村方前格ニ而有之共、何年相立候哉、水配人方江者証拠物等茂無之候得共、前々致来候儀ニ有之候由

一村方前格とハ乍申平年ニ而も水引方甲乙有之、当年抔之旱魃之砌者別而仕附荒茂有之、水下村々難義眼前に有之候、仮令以前ゟ致来候仕癖ニ候共、当年抔者植附以前ゟも旱魃ニ相見へ候得ハ、湖水戸抜以前ニ同役共村組へも申談候而、植附ゟ甲乙無之様ニ水引下り候様ニ与心懸茂可有之処、左様之趣無之由役前ニとり候而ハ等閑之筋にハ無之哉与相尋候処

両人申出候ハ、村方前格之儀ニ有之候得ハ、水配人持前ニ而容易ニ相改候儀難相成、併当年抔旱魃之儀候得ハ、兼申談方も可有之処、無其義処ハ一向心附不申候由

一乱水夜水間之水等之儀、且地水計之堰分不致候趣ハ、御裁許状御定書等ニ茂不相見、全ク水上村々勝手ニ宜、水末村々不勝手ニ而用水引候分量不同ニ相成、上下甲乙之筋与被存候、其方共何分ニ存罷有候哉と相尋候処

両人申出候ハ、右引方之儀ハ前々ゟ之習シニ有之候得者、水配人之口上ニ而宜筋共悪敷筋共相究難申候由

此方ゟ申聞候ハ、不懸構者ゟ致批判儀ニ候ハヽ、善悪ヲ難申筋ニ候得共、水配役へ定年番ゟ相尋候義ニ候得ハ、役前ニ対シ候而存念ヲ不申出筋ハ有之間敷儀ニ候、水引方之是非善悪之義相訳り居不申候得ハ、其通申出候様ニ申聞候処

両人申出候ハ、成心底ニハ相分居候得共、只今迄数年来致来候前格対村方何是悲(非)相分申達候義迷惑ニ存候間、差免呉候様ニ致度由

此方ゟ申聞候者、役前(マヘ)ゟ相尋候処を村方対シ候而難申出与申儀ハ全私与相聞へ候、自分之勝手ヲ申立候儀ニ付、承届ケ候訳ハ無之候得共、何分ニ申聞候而も不申出上ハ致方茂無之候間、先其分ニ差置旨申聞候得バ、

両人申出候ハ、委細申聞候趣致承知候由
右御厨上郷水配人上役下役相尋候ニ付、申出趣、如此ニ候
明和八辛卯年八月

御厨中郷水配人

茶畑村
上役　伝右衛門
同村　病気ニ付不参
下役　専　八

当卯年旱魃ニ付水下り不申、植附不同有之、且旱損村方ゟ願出候筋も有之候間、三水配人呼出シ相尋候処、右両人之者共申出候趣左之通

一此方ゟ申聞候者、水配役筋相勤方之義承可申出候、第一番ニ相尋候儀ハ、宝永五年御裁許之面ニ畢竟木瀬川瀬名沢湖水引候分量不同有之、異論与相聞へ候、只今迄勤来候水配役取放、上郷・中郷・下郷ニ而水配候役人御代官ゟ吟味之上可申付、水上水下無甲乙用水可引之与有之候、右御裁許状之御文言之趣ハ、地水湖水二ツ水与相心得、地水之方ハ水配役人者共ニ差構不申候、湖水のミの水配役人と相心得居候哉、又ハ地水茂湖水も打込候而壱ツ水与相心得地水も湖水茂其方共存分ニ水配いたし候哉相尋候処

伝右衛門申出候ハ、地水湖水与名目ハ二ツニ分り候得共、水配人致分水候処ハ、地水ニ而も不差構筋ニ而ハ無之、随分差構候心得ニ而、地水も湖水も一躰与相心得居候旨、尤上郷筋村方ニ而心得居候処ハ、地水之儀ハ強而水配人不差構旨ニ而、地水(ゞ)地水(こ)懸之田場へ者水引入候たけハ一体湖水も壱ツ川筋を流、夫ゟ堰々引分候(衍)ニ付、水之分りハ無之故、水配役方ニ而度々村々相制候へ共、地水之義ハ水之多少ニ不構、分石通迄ハ十分ニ取入候前格之旨ニ而取入候間、右之前格相止させ候義、水配役之力にハ不相叶、其上右申出之通水配役前ニ而者地水湖水之差別ハ無

之、両水共ニ一水与相心得罷有候得共、村方前格難心得有之候得共、右之通ニ候得者、不及力ニ事ニ有之旨申出候

一此方ゟ申聞候ハ、村々前格之旨ニ而地水之堰江ハ存分ニ取入候義前格申上ハ、其方共相止させ候義茂相叶す候趣ニ候得共、宝永五年御裁許状之面且御拾給御定書之内ニも水甲乙なき様ニ可引之旨被　仰出候、且御定書ニ茂我儘成村方有之、任勝手自分村方江計水引入候義於有之ハ、定年番其年之年番役人方へ其段申達、縦水一日引込候ハヽ一日皆留ニいたし、二日引込候ハヽ二日之皆留に可申付候、尤其節我儘之趣に随ひ急度仕置申付候筋も可有之与有之候上ハ、水配人之申付相背候村方者有之候ハヽ早束(速)可申出筈之処、如何相心得不申出候哉、且又当年之早損其方共書出候趣にてハ、地水懸之田場ハ出来方宜有之由、植附不相届或ハ旱損之分ハ多者湖水懸而已ニ相見候、当年之義ハ、地水ハ旱魃ニ付土台水甚致不足、湖水之義ハ、例年与違当年ハ溜方宜有之候旨、其方共申聞候、左候得ハ、地水懸ハ不植附或ハ致旱損、湖水懸りハ当年相応ニ茂可有之筈ニ候処、却而地水懸ハ旱損無之湖水懸ハ植附茂不相成儀ハ、全湖水ハ地水之加水ニ相成候故之儀与相見候、右之趣如何相心得候哉と相尋候処

伝右衛門申出候ハ、御裁許状并御定書之面ニ致相違候義、并湖水ハ地水之加水ニ相成候義、一々此方ゟ申聞候趣尤旨申出候

一此方ゟ申聞候ハ、村方之者共地水引入候儀ハ前格より候而、水配人之差図ヲ不請之趣、右体之村々ニ者前々ゟ地水十分ニ引入候与申証拠物ニ而も有之候哉と相尋候処

伝右衛門申出候者、地水ヲ交候村方証拠物等御座候哉、又者無御座候哉、聢と不奉存候、尤水配人方江何之証拠物等御(無欠カ)座分石以取扱申候

一右証拠物茂無之前格与而已申聞候ハヽ、其筋通ヲ茂不申聞、当年之様ニ中郷・下郷植附茂難致、大勢大難儀

いたし候義ハ如何相心得候哉与相尋候処

伝右衛門申出候ハ、右之趣ハ行届不申段申出候

一此方ゟ申聞候者、村方者共水引候儀都而前格与申、水配人力ニ不及趣候得共、前格ハいつ之前格ニ候哉其方共相覚候処、去年当年之旱魃ハ百年以来に茂可有哉と申候得ハ、当年之儀ハ百年以来之初事ニ而、ケ様之旱魃無之上ハ地水之分者水之多少ニ茂不構、地水懸ハ十分ニ引入候前格ハ有之間敷事与被存候、左候得ハ縦前格有之候共、当年ニ可取用前格者無之筈与被存候、然処当年も前格取用候由此儀不相分候段相尋候処

伝右衛門申出候ハ、察答之上ハ挨拶可致様も無之、

此方ゟ申聞候趣尤之旨申出候

一此方ゟ相尋候ハ水配人共給扶持之儀ハ、地水懸ゟハ不差出、湖水掛りゟ差出候得ハ、湖水以地水之加水ニ為致、湖水懸田面ハ植附茂不相成候様ニ有之候而茂給分出シ候甲斐有之与相心得候哉と相尋候得者

伝右衛門申出候ハ、当年之儀大旱魃ニ付、何分水無甲乙分水いたし候様ニ致出情(精)、上郷辺植附七分通ニ而植附差押江、此方共請取致水配、下辺へ水下候様ニ与通水致番水等候得共、何分地所かわき強有之故、水不下存之外ニ甲乙出来致候上ハ一言之申わけ茂無之由

一此方ゟ申聞候ハ、水配之儀ハさのミ旱損も無之、平水節者水も相応ニ有之故、水配役致出情候ニも不及程(ホト)之義、去年当年之様成時節抔こそ別而水配人之力以水無甲乙引候儀肝要之主役ニ而有之へき義、夫故扶持給茂相渡、尤役義之一ツに茂被立置候処、当年旱損之上右体ニ田面甲乙有之、其上得与相尋候得ハ、湖水以地水之加水ニ相成候義一ツとして難相分候、是等趣如何相心得候哉相尋候処

伝右衛門申出候ハ、察答之上ハ、申開キ無之旨申聞候

一此方ゟ申聞候ハ、村方ニ而夜水間之水抔とて我儘成水引候由、夜水之義ハ上郷辺ニ而水配人宛行置候堰口暮

時分ゟはつし候而、手前々之村内ニ水被入候由、間之水ハ宛行置候堰口へ夜中番人居置、右番人明六ツ時ゟ引取候跡江直居村ゟ堰口はつし、手前〳〵之村方ニ水引取、其日水配人罷越候迄水引入置候由、是等之義今度相尋候得ハ、是以水上村方前格ニ而、其方共茂兼々存居候由、水分量ニ応シ日々水配致置候堰々翌日相廻迄ハ其通ニ而可差置所、夜水被引取又ハ間之水被引取候而ハ、下手村々者昼夜宛行分量之内致減少候故、弥水不足可致事与被存候、仮令右体之義前格ニ有之候共、去年当年様成時節右体之義ハ決而為致間敷事与被存候、右趣ハ其方共之目ヲ忍致候事故、兼而不存候事ニ而茂有之哉と存候処、皆共兼存罷有候得ハ、前格ニ有之故相改候儀難致候段申出候、右之通水配人共相心得居候而ハ、御裁許状茂御定番も一向不取用、兎角前格のミヲ以水配人共相勤候様ニ相聞候、此等之趣如何相心得候哉与相尋候処

伝右衛門申出候者前条ニ茂申出候通、皆共相勤候処ハ専御裁許状之御文言を相守、御定書之御旨意を以相勤来候得共、又前々ゟ村々ニ而仕来之儀ニ有之候得ハ、何分力ニ不及義ニ有之候而、自然と役前欠ケ候而当時ニ当リ察答之上ハ挨拶可致様無之由

一此方ゟ相尋候ハ、湖水戸いつ頃ニ明ケ候哉与相尋候得ハ、五月節ニ入三日目ニ明候由、夫ゟ乱水名付上郷辺植附十分ニ致候由、当年之儀ハ湖水戸不明以前ゟ上下郷共至而旱損ニ相成故、上郷筋植附七分通相済候上、水配人談之上通水番水等ニ致候得共、下村々水不足故五月十日又々弐番戸明ケ候而漸少々宛水下候故、中郷・下郷少々宛植附致候由、尤水元之事故其内に茂上郷筋ハ三分通残植附茂追々植附仕廻候由、乱水之内ハ水配人之義ハ水之差図者一向不致候前格之由、通水番水相成候而ハ、水配人請取候而水之差図致候由ニ付、右之儀相尋候得ハ、通水番水之義初候義茂下筋水配人ゟ上郷水配人相談致候処、上郷村方江相談之上、漸通水番水ニ致候故、水末植附延引致候由申出候、此義弥

右之通有之候哉与相尋候処

伝右衛門申出候ハ、右之通相違無之由、前々乱水ニ致候内、上郷筋植附相仕廻、夫ゟ水配人請取候而分水致候ニ付、水下村々江茂追々水下シ候由、且当年之義ハ七分通上郷者植付候時分、中郷・下郷ゟ乱水相止候而水引下ケ候様談有之候得共、上郷水配人之儀も即席ニ一己之了簡ニ而相止、下手江水引下可申共容易ニ挨拶難致故、村方之者共へも相談致候而得心之上水下ケ候由

一此方ゟ相尋候ハ、乱水之義御裁許状に茂御定書に茂不相見候、ケ様之旱魃之節も致乱水、上郷辺ハ十分ニ植附可致与之証物等ニ而も有之哉、且延享五年之御定書之内ニ水配仲間以相談片川番水致候節ハ、廻状以村々江為相知可申与有之、右趣にてハ上郷村方之者共へ水配人相談ニ茂不及水配人仲間相談相決候ハヽ、其上ニ而村々へも廻状以可申遣筈之処、如何之了簡ニ而上郷水配人ゟ上村方へ相談致候迚、両三日茂通水番水等之義延引致候哉、大旱魃之時節一日争候植附之義、如何相心得候哉与相尋候処

伝右衛門申出候ハ、御裁許状ニも乱水之義無之、村方ニ証拠物茂無之、前々ゟ之前格ニ而有之、且上郷水配人義乱水相止通水番水等致候儀、上村方へ談候迚両三日致延引候義察答之上ハ、申開キ無之由

右御厨中郷水配人上役相尋候ニ付、申出趣如是ニ候

明和八辛卯年八月

御厨下郷水配人
下土狩村
上役　九左衛門
中土狩村
下役　五右衛門

水配取扱相尋候ニ付申聞候趣左之通

当卯年大旱魃ニ付、御厨下郷筋廿九ケ村水不足ニ付、番水通水等いたし中郷・下郷江水下ケ候得共下り不申候、中郷・下郷夥敷旱損有之趣相聞候、併其方共先達

申出候通分水取扱致出情候趣有之候得共、上郷・中郷三筋田面之上甚甲乙相成候子細不相分候、其上中郷・下郷村方ゟ願筋茂有之候間、此度其方共呼出水配取扱并当年水下り不申候訳具ニ可申聞候、先以其方共役前之儀ハ何分之心得ニ而相勤候哉与相尋候処

両人申出候ハ、宝永五子年御裁許并前々ゟ之御定書之通以先役共ゟ之取扱ニしたかひ相勤申候由

御裁許状御文談之内ニ、畢竟木瀬川瀬名沢湖水引候分量不同有之異論与相聞候、只今迄勤来候水配役人取放、上郷・中郷・下郷ニ而水配役人御代官ゟ吟味之上可申付、水上・水下無甲乙用水可引之与有之候、此御文談何分ニ致承知罷有候哉与相尋候処

両人申出候ハ、御裁許状之義、其方共致承知罷有候湖水未開以前ゟ木瀬川瀬名沢其之外地水懸之古田も有之、湖水堀抜以後之湖水懸之新田茂有之候処、右御裁許状御文言ニ有之候通、上郷・中郷・下郷水引方不分明ニ付而之御裁許ニ而有之候得共、地水湖水之差別無之、上郷・中郷・下郷地水川筋相分候茂有之候得共、其年之様子ニ而地水湖水共ニ水出方多少有之候義故、右不足之水筋江ハ多分之水筋ゟ致融通引渡候而、水上水下地水湖水共ニ用水引方夥無之、仕附為致候上、養水も不同ニ不相成様ニ水配致、水多分之節ハ勿論不足節茂其分量ニしたかひ、大概堰々水懸町歩高ニ応シ候而致分水、夫迚も中郷・下郷筋相届不申候得ハ、切替番水通水ニもいたし候而水不足之田場江引渡、成たけ甲乙無之様ニ取計候義与相心得罷有候由

縦ハ今堰水瀬名沢水之義ハ、下郷計り相懸、上郷・中郷江ハ一向相懸り不申川ニ有之、右下郷之地水上郷・中郷ゟ多有之候得共、夫たけ上郷・中郷へ水余分ニ引渡申候、又下郷地水分量不足之年者、上郷・中郷水減シ候而、夫たけ之水下郷引下シ申候、ケ様之義水分量ニ随ひ不同無之、水上水下無甲乙用水可引之与申候御裁許之趣与存罷有候由

一例年其方共水配取扱并三筋仕付致方具ニ可申聞候旨相尋候処

其方共申出候ハ、御厨下郷筋之義ハ例年五月節ゟ三日めニ湖水壱番戸抜候而、夫ゟ乱水と申候而上筋ゟ堰々可成たけハ水引込候而手廻次第植附申候、尤下手ゟ茂上手堰ニ参候而、右引入置候堰ニ取破候而水引下候得共、上手ニ而茂其儀存罷有候間、右下手ゟ取破候堰又々早速元之如くニ〆切水引込申候、右乱水之間ハ水配人一切相構不申、村方出情かちに水引取申候義ニ有之候、併上手程水元故水引方宜候間、格別に手廻早く植附致、右之通上筋ニ而水〆切候間、中筋下筋水末ニ者水届兼候間、乱水之間ニ者水余分之年ニ而茂中々植仕廻不申候、然処上郷辺大概植附相済候比、三水配人并村方へ茂申談之上水配人方へ請取、夫ゟ日々分水致候故、其砌中筋下筋ニ而ハ大概五六分通茂植附申候、至而水末村方ニ而者二、三分通植附申候由

一当年植附分水之次第委細可申聞旨相尋候処

両人申出候ハ、当年之義ハ去年以来土地乾強照続候故、下筋村々四月廿日比ゟ少々宛植初申候処、当年地水之儀者例年ゟ余程少ク相見候得共、湖水之溜ハ拾分ニ有之候処、四月廿八日ゟ湖水壱番戸抜候而、上筋一統乱水ニ而植懸候処、中筋下筋江ハ水下り不申候ニ付、又々申談湖水弐番戸抜候而五月十日ゟ取計候得共、水末村々江ハ水何分ニも下り不申候故、同月十七日ゟ十八日迄通水致候得共、水末村々江ハ水引届不申植附相成不申候、猶又廿日ゟ同廿一日迄通水ニ致下ケ候へ共、水下り不申候村々有之候ニ付、同月廿八日切替番水致候得共水下り不申候由、然処例年ハ上筋植附仕廻候間ハ乱水ニ而差置候得共、当年水下り不申候而下郷辺難義之趣ニ付、其方共三筋申談之上上郷村方植附七分通ニ候得者、乱水相止候而水配人致分水ニ候得共、水下り不申候内日々照続植旬後候故、無是悲水末村々仕付残相成候由

一右乱水之義ハ御裁許状并御定書之通ニ茂無之義ニ候、何分之わけニ而何年以前ゟ始候哉と相尋候処
両人申出候ハ、急度いたし候訳も無之以前ゟ証拠等茂無之候得共、前々ゟ致来候義ニ而、先役共ゟ茂別ニ申送候子細も無之候

一乱水致植附候得ハ、水上水下用水引方不同有之植旬之甲乙有之、殊当年抔ハ乱水之内ニ湖水戸枚茂抜候而水勢多有之内、上筋計之用水ニ相成水末ニ而ハ一向水下不申候得ハ、植附不相成甚甲乙之儀ニ候、数年来水末村々ニ而ハ水行届兼、乱水之内ハ植後分水ニ相成候ハヽ漸植懸候而ハ至而迷惑可致事と被存候、右迷惑村方兼々其方共江何之申分茂無之、前々ゟ和熟之上事ニ而当年等も無申分差懸罷有候哉と相尋候処
両人申聞候ハ、段々為申聞候通水末村々致難義、何分当年等ハ乱水之内ニ植後レ一向植附不申村方茂有之候得者、甚迷惑之村方共右乱水之儀ハ相止申度段申聞候得共、前々ゟ之仕癖ニ相成居候得ハ、今更水配人之了簡ニ而改メ申儀も相成不申候

一乱水之儀ハ其方共役前ニ而ハ甲乙無之、御裁許状御定書之趣相承知取扱与相心得罷有候哉与相尋候処
両人申出候者、皆々存寄ニ茂水上水下甲乙之水引方と存罷有候由

一乱水之儀甲乙之水引方与存罷有候ハヽ、其段水上村々江茂申達候上取扱茂可有之候処、何分存寄罷有候哉与相尋候処
両人申出候者、上郷水配人江申談候者水引下呉候様に談候得共、時節不至時分故水配人并上村方者共不致承知、殊ニ前々致来候義ニ付、乱水相止呉候様之申談ハ難致候由

一其方共了簡ニ茂御裁許状御定書ニ茂違候而甲乙三筋与乍存、前々仕癖ニ付水上村方ニ而承知不致候故外ニ致方茂無之段申聞候、併水配通之義前格仕癖与申候而其分ニ差置候テ茂相障筋ニ茂無之儀ニ候ハヽ其通候得共、右乱水之義ハ第一御定法ニ相背、其上水末村々平年迚

も其甲乙之筋有之、殊更当年之上ニ而者水上村々不残仕付仕廻養水等茂間ニ合候ニ、水末村々ハ仕付水茂下リ不申程之義、右之外ニ甲乙之子細茂可有之候得共、第一湖水溜多水勢盛成内、水上計之用水ニ致置戸枚抜払、其方共請取致分水候時節ゟ者次第ニ湖水減少いたし候段、兼々水配人立置旱魃年者別而其方共取扱甲乙無之様ニ為取扱候詮茂無之、其方共役前相立候哉、何故只今迄其方共右之次第其筋へ不申出候哉与相尋候処

両人申出候趣前々之仕癖ニ御座候、一向心附不申察答之上申分茂無之候

一三筋請前之堰々水懸合帳面并ニ井組仕付帳差出候間取調候処、右町歩之内湖水懸地水湖水打懸之分夥敷旱損有之、地水懸田場植附無別条相見江候、然処当年之儀者去年已来之旱魃打続、地中乾強候故欤地水分量例年より減少ニ有之、湖水溜方ハ拾分ニ有之段前条ニ茂申出候得者、地水懸之分ニ茂専旱損有之湖水懸之内へも地水打交候田面者地水分量程旱損有之、湖水懸之分外打交ニ而茂湖水たけ之分ハ魃損有之迚も地水懸之分ハ少分ニ可有之処、仕附残仕附荒之次第□道理与者致表裏候条不相分候、其訳具ニ可申聞旨相尋候処

両人申出候ハ、地水懸之儀ハ湖水不開以前ゟ之堰懸ニ付、例年水多少ニ不依堰々引込候程之分量ハ宛行遣申候、尤地水堰々之内ニも町歩之多少ニ随ひ堰口大小有之、水引方夫ニ応シ候而年々引取申候儀ニ而、湖水何分水引届不申候而茂地水懸之義者右之次第ニ付、何分水減少いたし候儀ハ無之候得者、以前ゟ地水懸ニ旱損之儀ハ無之由

一湖水打交候地水懸之義ハ致何分ニ候哉、当年旱損多候儀不相分候段相尋候処

両人申出候者、地水湖水打交之堰者湖水懸茂同様ニ致、分水地水懸之堰計例年之通水之多少ニ不限水引渡シ申候

一左候得者右引足不申候分ハ湖水を加水ニ引入候哉、外ニ漏出候水茂有之候哉与相尋候処

両人申出候者、察答之通地水ニ而不行届分ハ外ニ湧出候水茂無之候得ハ、自与湖水を湖水(行)ヲ引入候ゟ外無之候

一地水之義ハ分水不致候条其方共役前ニ而甲乙無之取計与相心得罷有候哉、且御裁許状御定書与者違有之候処、何分之訳ニ而何年以前ゟ右躰之取扱ニいたし罷在候哉与相尋候処

両人申出候ハ、役前ニ而茂甲乙之儀御裁許状御定書之趣与致相違候得共、何之前格与申義茂無之、前々ゟ之仕癖ニて今更相改候義茂難相成、役前ニおゐて何分迷惑ニ存候由

一右之趣心得罷有候上者、当年抔ハ別而湖水懸計旱損ニ候得ハ、地水計懸候村々致相談候而湖水懸村々江引下ケ不申候哉与相尋候処

両人申聞候者、前書申聞候通之儀故、地水村方申談候而茂中々不致承知候間、不及是悲候由

一間之水并夜水抔と申習シ候而其方共宛行置候堰々取破、毎朝毎夜理外成水引取候村方茂有之由相聞、何ヶ様之義ニ候哉与相尋候処

此儀前格等且表立候義ニ而も無之候得共、堰上村々ニ而引取候義有之候由

一右趣候ハヽ井組之内水末村々ハ、上手江宛行之外ニ水被引取水減可申候、土台水末之村々ハ水下り兼候上ニ又候理外之水を被堰取候而ハ弥難義之上之難義ニ候得ハ、決而右躰之義有之間敷義不束之至ニ候、水上村々法外之水引候故水下村々難義眼前ニ在之、委細存知罷在今日迄差黙罷有候者何分之所存ニ候哉与相尋候処

此儀段々申聞候趣一々申談無之候、併前条申出候通乱水夜水間之水并ニ地水堰ハ分水不致候得共、水末湖水懸田場ニ而者平年ニ而も植附、毛上ニ而自然と甲乙在之候由

一其方共当年水配勤前無油断取計候得共、田面甲乙在之旨、其上地水ハ減少いたし湖水ハ溜方宜候処、旱損者統而湖水懸而已ニ有之、旁不分明ニ付相尋候処、段々

前条申出候趣ニ而ハ上郷植附之内乱水之義分水之節ツ地水計之堰ハ水配不致趣、且間之水夜水等之法外之水引方之儀共水引方甲乙之筋与相見江候、殊更御裁許状御定書等に茂一々違背いたし候取扱相聞候、水上村方勝手之筋ニ而取計来候儀、前格仕癖抔と申候迚其分ニ差置候条、水配役前等閑之筋与相聞候、然上ハ数年来水下村々者年来種々之仕癖ニ被障候而、数多之難義甲乙之次第顕然ニ候、先役ゟ之前格与者乍申、其方共何分ニ相心得候哉与相尋候処

両人申聞候者尋之趣何分申訳茂無之候由

右御厨下郷水配人上役下役相尋候ニ付申出候趣如此候以上

明和八辛卯年八月

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一〇五　明和九年（一七七二）四月　水掛り争論につき水上村々返答書

中郷下郷願書返答書

乍恐以返答書申上候事

一此度下郷下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村、中郷佐野村・二本松新田・茶畑村・平松新田・公文名村・稲荷村・二ツ屋新田、右村々湖水引方之義御願申上候ニ付左ニ御答申上候

下土狩村竹原村へ返答

一当年之義ハ四月廿二三日之頃ゟ植始候所、水引下り不申植附不相成と申上候、此儀四月廿八日湖水壱番戸抜候、湖水戸抜不申以前植附不相成義ハ不及申上候、且又戸抜ニ而も水下り不申候義者、去卯年照強下郷村々之義ハ井道三里も有之、猶又去々寅年大旱魃ニ付乾強、例年とは格別ニ水入不申候而者仕附かたく彼是致候内湖水溜り水候得ハ、一日々と減し申候間、上下一時仕付仕候様ニハ何分難成儀ニ奉存候、去卯年ニ限り仕附最中人足無之時節、人足附置堰留可申謂無御座候、且又前例無之近年事ニ而迷惑ニ者御座候得共、五月十七日ゟ十八日迄通シ水仕候得共、水届キ不申候由ニ而、

又々水配甚兵衛殿談候間、度々之義難義至極ニ奉存候得共、無拠廿日廿一日遣申候、ケ様水配取計イ候上ニ而水届キ不申候者為用ニ不申候、此段御察奉願候、去年之儀ハ下郷如何致候哉、不聞□　□有之不情之様ニも相見へ申候、此義左ニ申□□

一二番戸五月十日ニ抜申候間、上郷堰々ゟ宛行始申候得共、何分ニ茂水引不申植附不相成と申上候、此義表裏之偽りニ御座候、下筋へ水下り不申由申越候ニ付、五月六日戸抜キ申候処、如何様存寄ニ候哉翌七日下郷ゟ人足為登戸を指シ申候、中郷・上郷仕附最中無相談戸（我儘ニ）を指シ候儀、右下郷工ミと相見へ此度之書面右躰之偽り事申上候、其節中郷上郷相糺候ニ付、下郷水配九左衛門義□之筋申候ニ付、其分ニ差置、同□ゟ下郷共人足差遣戸為抜申候、翌十日ゟ宛行ニ罷成候、同十七日三番戸抜□ゟ通水□□、又々水引人足為登候不参候故水配□以才覚賃銭ニ而雇立堰々引下申候様□未熟之致方御座候、乍去水下り不申候段申越候ニ付水配甚兵衛通シ水之義申談候ニ付右申上候通度々迷惑至極ニ候得共遣申候、廿日廿一日之水ハ下り申候様ニ承候、右未熟之事共見□通□出精不仕候哉奉存候□　□其節出精仕植附候ハヽ六月四日ゟ雨□　□而は相応ニ□成り可申候、私共村方之義ハ（後欠）

一寛文十一亥年箱根湖水を加水ニ引候砌り十二三年者定水仕候得共、夫ゟ以後富沢村納米里村穴堰出来仕、下郷江水届キ不申と申上候、此義私共村方堰之儀者寛文十二子年堀抜被仰付、翌年延宝元丑年ニハ古田加水并畑成田出来仕、右亥年ゟ者三年目ニ者用水引入申候、二三年以後ニ堀抜堰出来申候と偽り申上候、御吟味奉願候、富沢村堰懸り三ケ村ニ而高七拾六石余之内一色村分高三拾石水懸り不申候ニ付、年来田成畑ニ相成り罷在候得共、湖水諸掛り割合何ニ而も指出来申候、然共何れの村ニも水末ニは有之候義ニ候得共、無是非是迄御願も不申上候、此以後水沢山ニも相成候ハヽ水引下ケ申度奉存候、只今迄放シ水ニ而仕附、間之水引入

候而も如此水届キ不申候、且富沢村堰之儀長堀り殊ニ
川通りを堀抜尻高成ル堰ニ御座候、水洩り出申候、尤
前々ゟ年々井堰通御普請人足御扶持米籠竹代等被下置
候得共、窓数多如何様ニ仕候而も洩り出申候、一躰田
面共皆川通ニ而高キ所ニ御座候得者、所々洩出申候得
共堰原大堰上へ洩出候得者、少々も捨水者無御座候、
是等者水配人抔存罷在候事ニ御座候、

明和九辰年四月

稲葉紀伊守知行所
深良村
名主　新　七
同　甚　兵　衛
組頭　四郎右衛門
同　伝　兵　衛

大久保長門守知行所
御宿村
名主　半右衛門
組頭　善　七

松平数馬知行所
上ケ田村
名主　甚右衛門
組頭　太左衛門

安藤八五郎知行所
同村
名主　善右衛門
組頭　与右衛門

松平数馬知行所
金沢村
名主　源　蔵
同　六左衛門

同　知行所
葛山村
名主　加左衛門
同　安次郎

内藤越前守知行所
千福村
名主　太兵衛
組頭　六郎左衛門
同　知行所
定輪寺村
名主　太兵衛
組頭　半右衛門
秋山十右衛門知行所
富沢村
名主　賀六
組頭　久蔵
稲葉紀伊守知行所
一色村
名主　治兵衛
組頭　吉右衛門
同　知行所
納米里村
名主　善六
組頭　久蔵
曾我若狭守知行所
同村
名主　嘉六
組頭　平七
酒井左門知行所
同村
名主　利兵衛
組頭　弥兵衛

（裾野市富沢　渡武彦氏所蔵）

一〇六　安永二年（一七七三）閏三月　用水争論につき地頭役人宛小田原藩役人返書

（表紙）
安永二年
湖水出入之儀ニ付小田原役人中ゟ返書写
巳閏三月

一筆致啓上候、余寒御座候得共各様弥御堅勝ニ御勤仕被成珍重奉存候、然者箱根湖水之儀ニ付江戸屋敷江廻状ニ被仰聞候通、去春村方江御一同ニ申付置候村絵図并請書等、当正月上旬迄ニ小田原御領分村方ハ相揃候間、給々ゟ茂申付候様ニ被仰聞致承知則申渡候処、村々絵図請書共ニ出来致置候間、御立会之節可差上段申出候、左様ニ思召可被下候、然ル所拙者共支配村之者共相願候ハヽ、此上御立会御吟味ニ付村方之者も江戸表へ詰合候様ニ相成候而ハ甚難義仕候間、何卒村方へ御立会御吟味被仰付候様ニ致度段、銘々書付を以相願申候、依而別紙ニ右写御覧ニ入申候、尤先達而江戸表御立会ニ相決有之候得共、去年大変ニ付別而難義之段彼是申之村々至而無拠相願申候、外ニ思召も無御座候ハヽ、双方村方為ニも宜可有御座候間、右之積り可被仰付候哉、此段御相談可得貴意如斯ニ御座候、恐惶謹言

二月朔日

小野縫右衛門判
日吉彦兵衛
深川善蔵
林直左衛門
関川新左衛門
和田代右衛門

篠崎儀左衛門様
石原伴右衛門様
岩崎甚介様
星屋善左衛門様

追啓、右一件何方ニ而御立会御吟味御座候共、双方共容易ニ可相済義とも不相見御同前ニ気之毒奉存候、何卒御出会御内談申上候而、双方村方最寄之者共へ申上候ニ付取扱内済為致度物ニ御座候、乍序得貴意候、以上

小田原御役人中ゟ御返書写

貴札致拝見候、各様弥御堅固御勤役被成珍重奉存候、然者駿州御厨湖水懸り村々旱損ニ付去々卯年訴状差出し候ニ付、去春彼地ニおゐて御出会之節遂御約諾之通、当春於江戸可致御出会之趣先達而得御意候之処、右御挨拶として各様御連名之御印状星屋善左衛門殿此間小田原駅御止宿之節、御順達ニ而相達致拝見候、各様被仰聞候趣ニ而ハ、当春江戸表ニ而御立会之上ハ村々をも呼出し可申事故、左候而ハ去年大風雨ニて村々致困迫罷有候事故、当年出府之義難儀致候間、村方江御立会有之候様致度趣御領下村々相願候由、右願書写をも被差遣、右ニ付村方之申出候之処も無拠御義ニ被思召候間、願之通村方ニ而御立会被成度旨委細御紙面之趣致承知候、且御返事之趣ニ而者何方ニ而御立会被成候共、村々吟味も有之候而ハ急ニ可相済事共不被思召候間、御対談之上双方村方最寄之者共へ被仰付候而内済ニも御申付被成度と思召候由、被仰聞候趣御尤ニ致承知候、如仰村数多之事故双方相糾候而ハ容易ニ可相片付事共不存事故、七郎右衛門領分とても去年不作ニ付、難義之趣御同様之事故、御立会吟味沙汰ニも不及村方相対ニ而内済相整、自今水引方筋合相立双方申分無是趣ニ相成可申事ニ可有之候義在之間敷と奉存候、然ル処去々而年水未村々願出候趣者、御披覧之通寅卯両年之旱魃ニ付湖水掛り田方旱損夥敷、村々難義之趣相違も無之候所、右願書面ニ逐一訴出候趣ニ而ハ、水上村々我侭之水引方共在之候故、水下村々ニ水下り不申候故、旱損も水上ニハ無之水下村方計不同ニ在之候、先年及　公訴候節井組村々御裁許状被成下候趣ニ違候而ハ、水上村々ニ而理外之水引方致候条難心得候間、自今者水上村々在躰之水引方相止、公辺御下知之通、水上水

下無甲乙水引申候様ニ致度趣を以願出申候、去春も粗及御対談候通右願書之趣相違も無之事に候て、水上村々之者共御裁許状とも相背、甲乙成水引方致候事と被存候、併其所ハ相手村々ゟ訴状返答書も差出不申候事故、水下村々訴状而已ニ而ハ先片言共可申哉ニ候得共、乍去水下村々訴出候趣多分ハ上手村々返答書ニも年来仕癖之由、何そ相応之申訳ケも可在之哉ニ候得共、元来宝永年中之　公裁ニ違候而地水湖水共甲乙在之、不同之水引方在之候而ハ申分相立兼可申哉、只今迄之水引方仮令何々之仕癖在之水上村々水引入方相成候共、且又乱水間之水等之噂兼而御互ニ承及候共、毎度彼地御立会之砌、定書等も相認村々江茂申聞置候処、村方ゟ水引方不同之趣をも不申出候上ハ、湖水支配方ニ而ハ御裁許状次ニハ度々之定書等之趣を相守、水上水下無甲乙水引渡候事と存罷在候之処、此度願書面ニ而ハ水上村々年久敷我侭之水引方致候趣ニ相聞候、願村々ニ而不同之水引方在之候上ハ、元来其我侭之水引方之発起致候、最初より可願出候処、年来差懸り罷在今般至り候而者、年来油断之事之様ニも被存候得共、拙者共相察候処、此度之願通ハケ条多之儀ニ而一々水上村々を相手取候事故、兼々も願出候ハヽ支配方へ世話をも恐入、且吟味等ニも相成候而ハ双方村方困窮之筋ニも可相成事故、此処を存候而多年用水不足を致候而差控罷在候儀と被存候、元来湖水開起之時分ゟ水下り方不足致候故、下村々ニ而ハ御存之通夥敷湖水懸り田方畑作ニ致置候得共、表向ハ高役者勿論水配諸入用をも差出シ、右躰ハ年来致迷惑罷在候故、残り湖水懸り田方へハ田成畑之方へ水引不申候分ニ而も水上同様ニ水懸り可申之処、寅卯両年ニ至り候而ハ甚々旱魃ニ而、木瀬川瀬名沢之地水も致不足候処、水上村々者地水湖水懸り共ニ水行届水下ニ者総而致旱損候趣ニ付、年貢通りハ不及申村方相続も相成かね、殊ニ三嶋宿助郷人馬等も不相勤候之間、至而難義之趣願書ニも相見へ候得とも、此度之訴筋不容易儀湖水支配方取扱之向ニゟ候而者、助郷筋等を以公訴等ニ可罷出哉難計被存候得共、此品願村々之意

内御勘察も可被成候、右之次第ニも在之候得ハ、願書之表ニ而者年来御裁許状之趣を相背、不同之水引方致来候義者水上水下一同与ハ乍申、水下村々ハ不得心義水上村ニ而ハ求候而致候様成物ニ御座候得ハ、村々勝手之処より第一村々大切ニ可奉相守御裁許之御趣ニ相背、不同之水引方致候筋相糺、以来之水引方些少之儀たりとも、御裁許状之御趣意ニ相違不同之水引方在之候而ハ、奉対公辺江候而も御地頭様ニおゐても、乍恐不被相届候之様ニも相聞可申哉与奉存候、右之趣ニ付去春御参会之砌上下村々相糺候上、以来水引方　公裁之御趣意ニ相叶候様ニ水引渡候様申付、且水上村々年来私曲之水引候村々ハ、吟味之上兼而定書ニも御座候通り以後之〆りニ茂在之候間、御相談之上急度申付筋ニも可有之哉と奉存罷在候処、去春関川氏御退散ニ付其儀ニも不及候事故、当春ハ其御地ニ而前条之通御相談可申と奉存候而、先達而得御意候義ニ御座候、然ル処各様御相談之上今般内済御申付可被成下候趣、何程ニ御相談被成候御義ニ御座候哉、御趣意之程ハ不致推察候へ共、私共存寄者前書ニ得貴意候通内済ニ相成候共、兎角　御裁許状ニ無相違様ニ上下村々水引渡可申候義ニ御座候ハヽ、御同意之御義ニ御座候、何分之御意内ニ被成御座候哉思召之程致承知候上、御来意之趣御同意可致候、且又申迄無之候得共年来御存之通定書等をも相渡置候義、右躰之願筋致発起候上ハ、御互ニ後々奉対　公辺候而如何ニ御座候、其上水下村々訴状差出候而も年数も相重り候事故、旁々以兎角差急候而致決着度事ニ御座候間、万々御報相待罷在候、以上

二月廿八日

石原伴右衛門書判
真名子要右衛門同
篠崎儀左衛門同
横井甚五右衛門同

大久保長門守様御内
和田代右衛門様
稲葉紀伊守様御内

関川新左衛門様
内藤越前守様御内
林直左衛門様
酒井左門様御内
御役人中様
曾我若狭守様御内
深川善蔵様
秋山十右衛門様御内
日吉彦兵衛様
松平内蔵丞様御内
小野縫右衛門様

追而右紙面之趣、安藤八五郎様御内前田形左衛門殿・山岡五郎作様御内夏目又左衛門殿江も御相談可被下候、星屋善左衛門殿御義御他行被成候由致承知候ニ付、御名相除キ申候、御帰府次第右紙面之趣御役人中ゟ善左衛門殿へ具ニ御達し可被下候、以上

以廻状致啓上候、各様弥御堅固ニ被成御勤珍重奉存候、然者小田原御役人衆ゟ御連名之書状致至来候間順達致候、御給々御役人中様御立会之節被仰渡候ハ、村々絵図面相認返答書相添、御当地御立会之砌差出候様ニ被仰渡置候処、寅卯両年旱魃辰年風損故一統村々困窮ニ付、御当地御立会ニ而ハ御吟味之間相詰候義難義ニ存、村方御立会ニ相願候得共、村方御立会之義急ニ御相談も難究可有御座哉と奉存候故、取扱ニ而相済候ハヽ村方為ニも相成可申哉と奉存候処、小田原衆書状之趣ニ而ハ、宝永年中公辺御裁許状之趣ニ相違致候而ハ、御給々御地頭様御無念ニ茂可相成哉之趣ニ御座候扱ニ而ハ、御裁許通ニハ参間敷、左候得ハ御当地御立会宜可有御座哉、併当春一統之困窮御慈悲を以、村方御立会相願候得者是も無拠事ニ奉存候、何れ思召之処御名下ニ可被仰下候、其趣を以小田原衆江之返事相認又々御相談可及候、乍御世話御順達留り従御方様御返し可被下候、以上

三月廿一日

酒井左門内

今井兵作
須永郡右衛門

大久保長門守様　御役人中様
稲葉紀伊守様　御役人中様
内(藤)越前守様　御役人中様
秋山十右衛門様　御役人中様
松山内蔵丞様　御役人中様

猶以拙者共儀江戸表ニ而国元住居相隔り罷在候間御再報延引罷能成候、左様思召可被下候

二月廿八日出乍御報之貴札三月下旬ニ相達致拝見候、各様弥御堅勝御勤役被成珍重奉存候、然者湖水懸り村々旱損ニ付、去々卯年差出候訴状吟味之義村方へ御立会ニ相成候ハヽ、双方村方為ニも可相成哉と存候間、先達而以書面御相談得御意候処、此度御報ニ委細被仰聞候趣致承知候、如来容意不成義者勿論後々ゟ(より)ニも相成候様御同意致度存候、乍御苦労御出郷被成御相談之上吟味仕度物ニ御座候、依之村方へ御出会之儀日限等乍御世話被仰触候様被成可被下候、将又扱之趣意御尋被仰聞候得共、於拙者共存寄無御座候、扱之者存寄次第為取扱可申与存、先達而得御意候儀ニ御座候間、左様ニ思召可被下候、尤御出会之義酒井左門様衆ゟも御挨拶被致候義与察候得共、右御再報御待入被成候段も被仰聞候間、如斯ニ御座候、以上

閏三月廿三日

松平内蔵允内
小野縫右衛門書判
秋山十右衛門内
日吉彦兵衛
内藤越前守内
林直左衛門
曾我若狭守内
深川善蔵
稲葉紀伊守内
関川新左衛門

大久保長門守内
和田代右衛門

大久保七郎右衛門様御内
横井甚五左衛門様
篠崎儀左衛門様
真名子要右衛門様
石原伴右衛門様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一〇七　安永二年（一七七三）六月　水掛り村々争論につき石脇村役人請書

乍恐以請書申上候御事

一下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村ゟ申上候ハ、乱水与申其内者水配人分水不仕候而勝手次第ニ水取入、湖水を地水江加水ニ被引取候哉、猶亦旱損仕候与申上候得共、当村之儀者往古ゟ地水御田地ニ而、堀抜企候以前ゟ前格ニ而定水ニ仕附養水迄取計仕来申候得共、何方ゟ何之差障茂無之、唯今迄前格相守罷在候湖水とハ格別相分り候様ニ御座候、湖水掛ニ而者水配人相立給金諸入用等迄相懸候、地水御田地ニ而者水配人給金諸入用等相懸不申候、御年貢御定免ニ御上納仕来候、然ル処両年旱魃ニ付、湖水を加水ニ被引取難儀之段申上候儀相違之様ニ奉存候、先書ニ申上候通湖水以前ゟ定水場ニ而、水不足仕候儀者地水掛ニ而者無御座候、当村之儀者佐野堰ニ而堰引分水上り中筋一同之堰ニ而、水引上ケ候川筋ニ而御座候、下筋下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村右四ケ村之儀者相分、佐野堰与申者中筋之堰ニ御座候而、是ゟ中筋村々石脇村・公文名村・佐野村・久根村・茶畑村・麦塚村・伊豆嶋田・二ツ家新田迄中筋与申一口ニ引上ケ申候而、村々段々ニ水入口御座候、佐野堰ニ而此井組之内ニ御座候得者、下筋四ケ村之儀者相分り佐野堰一口ニ堰上申候ニ付、私共一村ニ而者難申上御座候、然共当村之儀者湖水之方ニ者出入等出来仕候得共、地水之方者出入等出来仕候儀

無御座候、往古ゟ定水ニ引来候御田地ニ而御座候、然を近年癖悪鋪罷成候抔与申上候得共、前格之通定水ニ引仕附養水等迄外ニ新キニ取計候儀者、少ニ而茂不仕急度前格相守罷在候、此度新法成御願之儀村方ニおゐて甚以迷惑仕候

一佐野村・公文名村・稲荷村・茶畑村・二ツ家新田右村ゟ上手村ニ而仕附之内、乱水与申其内者水配人分水不仕勝手ニ水取候儀、近年之仕癖悪敷罷成猶亦旱損仕候旨申上候得共、別ニ仕癖抔与申儀曾而無御座候、当村之儀者湖水以前ゟ有来之村ニ而、地水御田地之儀者往古ゟ之地水ニ而定水ニ仕附養水迄ニ引来、往古ゟ地水懸御田地ニ御座候、湖水企候以前ゟ有来御田地村ニ御座候得者、湖水以前ゟ之前格唯今迄相守罷在候定水ニ前格通引来候得者、外ニ只今迄差障茂無御座出入等仕候儀茂無御座候、湖水方ニ者水配人相立諸入用等迄相懸り候得共、地水方ニ者水配人茂無之、諸入用等茂相掛不申候、格別ニ相分り候儀与奉存候、只今迄御定免ニ御年貢御上納差上来申候儀ニ付、前格相守罷在候、然ルを旱魃ニ付、湖水を加水ニ被引取候与申上候得共、旱魃致し候迚湖水を加水ニ取候儀者無御座候、往古ゟ定水揚ニ御座候得者、水不足仕候而御年貢ニ相障候様成、水不足等仕候儀者無御座候故、加水ニ引取候儀無御座候

右申上候乱水夜水相止、定宛行ニ地水湖水無差別仕候、近年之仕癖相止、勝手次第水取入候様ニ不仕候様ニ御願申上候得共、地水之儀者先格ニ而仕附仕来候処、差別無之様ニ罷成候而者新法之儀ニ而難儀至極奉存候、地水之儀者往古ゟ之御田地ニ付、湖水堀抜企候以前ゟ之地水御田地ニ而、何方ゟ茂唯今迄何之構無御座候、湖水方ニ者水配人を相立有之候得共、地水之方ハ水配人等茂無御座候、両年之旱魃ニ付新キニ格替り候御願差上、甚以迷惑至極奉存候、仕附之節定宛行無差別様ニ罷成候而者、年来仕附候与相違仕候而、前格之通仕附不罷成難儀至極仕候

一夜水乱水之儀地水堰之水配分水不仕趣共、村方何之前格旧記差定候儀無御座候、仕癖猥ニ罷成候故与申上候得共、当村之儀者地水掛之分者往古ゟ之前格ニ而勝手ニ取計候儀者無御座候、地水之儀者前条ニ茂申上候通、地水御田地者定水ニ引来往古ゟ之定水ニ而御座候、前格之通仕来湖水以前ゟ之格ニ而唯今迄相守罷在候、湖水懸御田地少々御座候ニ付前々ゟ夜水引来申候、湖水之儀者水配人宛行仕候故、昼水多遣シ候故不足仕候ニ付、尤湖水を打込候故分水仕候ニ付、夜水入来申候間之水与申儀者無御座候、私共村方之儀堀抜企以前之前格ニ而、只今迄相守候通ゟ外取計不仕候、仕癖と申儀者嘗而無御座候

一当村之儀者宝永年中湖水懸り出入之節相加り候儀、湖水掛無御座候ニ付私共相加り申候、湖水御田地弐拾七石余御座候ニ付、水配人分水仕候而養水引来申候、夜水之儀昼水宛行仕候ニ付不足相立候得者、其丈ケ夜水引来り申候、寅卯両年ハ濁水仕候ニ付引届不申難儀仕候

右之通被為　聞召分前格之通、定水場御田地無滞只今迄仕来申候通、以　御慈悲被為　仰付被下置候ハヽ、惣御百姓共一同難有仕合可奉存候、以上

安永二癸巳年六月

石脇村
名主　甚右衛門㊞
組頭　半右衛門㊞
同　利右衛門㊞
百姓代　甚左衛門㊞

湖水御支配
御役人衆中様

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

一〇八　安永二年八月（一七七三）　江戸表詮議につき拾給役人宛石脇村上申書

安永二年巳七月湖水論江戸表芝御屋敷御用筋

一九月廿二日帰村被仰付罷帰り申候義、双方御召出シ而帰村被仰付分ヶ仰被渡候趣者、双方一道ニ御召出シ被遊候而、詔訴村者願之筋尤之様ニも被存候ニ付、願書取上之上ニ而合手村方吟味致候趣口書よミ聞せ、如此ニ吟味仕候と御意被成詔訴方へ御聞せ被遊候、相手方江も詔訴方之吟味之上之口書御聞せ被遊候而、其上双方へ被仰聞候者如此双方吟味者とげ候得共、御拾給様御役人中じゆくたん調兼申ニ付、双方へ願書返答書差返し申候間、双方勝手次第帰村申付候間、左様ニ相心得帰村可致段仰被渡候、相手村方者廿三日立ニ御添状願罷帰り申候

訴詔方村々者跡ニ残被申候

絵図致差上置候所、絵図面者御返シ不被成候

石脇村

水下村々ゟ訴状差出候間、此度私共村方返答書被仰付候上、右返答書之上分明之場所御拾給御役人中様御立合之上、此度御吟味被遊候ニ付、尚又御答左ニ申上候

一右村方御尋被遊候者、木瀬川地水之義往古ゟ相備候地水之儀ニ付、年来右地水之儀者存分ニ引入候而、御年貢御定免ニ無滞上納仕候儀者相聞候様ニ有之候得共、右村方湖水懸も有之候村方ニ而、湖水懸りハ田面之ニ而ハ相分居可申候得共、其村方江引入候堰口ニ地水湖水之分テ無之、元ゟ水ニ分テハ無之一堰ゟ引入候水之事ニ候得者、是程ハ地水是程ハ湖水と申訳ハ何を以分量相分り候哉、右之通湖水茂交り候事故、既ニ乱水夜水を引入申候、往古ゟ之地水を定水ニ引入候ハヽ、旱魃年等ハ下郷江対候而茂、別而急度湖水地水之相分候旨段を以引入疑を不受様ニ取計候而社、全ク正敷先年ゟ定之水場とも可申を、たとへハ堺川等之地水を以定水候ハヽ、人ニ疑ヲ受候縁茂無之義夫程ニ社無之候共、疑を受迷惑ニ存候事ニ候ハヽ、湖水を急度地水之加水ニ引入不申候と申筋を、明白ニ申聞キ候様ニ御尋被遊候

此義地水之儀者、往古ゟ之儀湖水堀抜企以前ゟ之儀

年来之間旱魃年も有之候処、無滞御定免御上納仕定水ニ引候事故、湖水出候而も是ヲ前格ニ取計来候ニ付、湖水を加水ニ引入不申と乍恐奉存罷在候

一尚又御尋被遊候者、右申分ヶ共ハ先達而上郷九ヶ村申聞候義ニ而、一々同様之申分ヶ有之候、其節細ニ九ヶ村へ為申聞候得者、改而不申聞左候得者、其村湖水懸之儀ハ小高と申迄、ヶ条毎ニ引合相手村方同様ニ而強而格別之申分ヶ茂相聞不申候間、口書之儀もヶ条毎ニも不申付候、且夜水分石等之儀ニ付証拠書物等外村方へも相尋候得者、書物等之証拠者一向無御座旨申聞候、其村方之儀も右同様ニ候哉と御尋被遊候、此儀何之証拠書物等一切所持不仕候

右御尋ニ付御答奉申上候通少茂相違無御座候、以上

安永二癸巳年八月

大久保七郎右衛門領分
駿州駿東郡石脇村
名主　甚右衛門

御拾給御役人
名前宛

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

一〇九　安永二年（一七七三）九月　用水争論につき江戸表水配人取調書

（表紙）
安永二年
於江戸表三筋水配人尋書写シ
癸巳八月

深良村水配下役
伊　六

一寅卯両年旱損ニ付、田面甲乙先達而定年番小田原表ニおゐて三筋水配人共相尋候故、其節之申口趣委細致書付、此度於江戸表ニ拾給御役人立合之上、三筋水配人共呼出シ一々先達而之書付読聞（為）候処、弥小田原表ニ

而申口之通相違無之旨何れも及挨拶候、其内上郷水配人之儀者吟味不相決ヶ条共有之候所、此度御立合之上御尋被遊候

一宝永年中御裁許状通如何相心得相勤候哉、得と申聞候様ニ小田原表ニ而申聞候所、帰村之上御裁許状御本書致拝見可申上旨申聞候、其節彼是与為申聞候得共、何分帰村之上可申上旨強而申聞、其節不及挨拶候、勿論其節ハ小田原役人計ニ而一通相尋候事ニ付其分ニ差置候、此度ハ江戸表江罷出候儀、湖水一件取扱之次第其外吟味之上、少シ茂差支ヶ間敷義無之様ニ取調可被成段兼而申渡置候、依之段々可相尋筋共一々可申聞候、先以右挨拶委細可申聞候

此義水上水下無甲乙用水可引之御裁許状ニ有之候儀ニ付、寅卯両年之儀者百年以来之旱魃ニ付、地所乾強ク有之候、然共何分下筋江水行届候様ニ随分出情仕水配仕、甲乙無之様ニ仕候得共、行届キ候儀大旱魃ゆへ之儀天性と奉存候

一大旱魃ニ付何程其方共致出情水無甲乙様ニ取計候得共、天性之道理ニ而不行届旨申聞候、大旱魃ニ而地所も乾強ク有之、四千弐石余之田面ニ可引取水千石余之場所ニ而遣イ仕廻候事ニ候ハヽ、何程水本ニ有之候而も上村方も旱損有之、右ニ准シ中下村々も旱損可致事ニ候、天性之道利(ママ)ニも有之候得者一向ニ水下り不申、呑水さへ不届村方茂有之候程之儀ニ付、下筋ニ而者苗壱本も植不申候村多ク、委細其方共ゟ書付差出候通ニ候、此儀甲乙ニ而者無之哉、且是ニ而も天性之道理叶候哉、水配役前之処行届候哉と存候哉と御尋被遊候

此義何分出情仕候而茂、水行届候義何れニも天性之外不奉存候

一其方義何分天性と申募候而も天性之道理ニ不当、其方役儀不行届不束之取扱と存候

一例年五月節ニ入三日めを定日ニ致、湖水壱番戸抜上中下郷共ニ乱水と申候而、村々相互ニ致出情、堰々〆切水引込植附致候処、水上村方大概植仕廻候節、水配人

水請取分水仕候、尤上筋植仕廻候節、下筋之儀も二三分通りも致植附候旨、夫〻分量之水日々下シ申候間、水末村々一統追々植付相仕廻候段申聞候、此儀ハ先達而も相尋候通、去卯年之儀者湖水溜り方も宜敷、其上地水之義も沢山ニ有之候由申聞候、左候へハ平年〻も水ハ沢山ニ有之候、何程大旱魃ニ而地所乾強ク候とても四千弐石余之用水ニ可相成、水千石余之所江遣イ仕廻セ候得者、上村方ハ存分之水取候事と被存候、其上地水湖水と隔り候義ニ者有之候得共、木瀬川江落込候湖水之儀ニ付、一水と相成地水堰江も入込候様ニ可相成候、縦者一水と相心得取扱候哉、又者二水と相心得候哉、二水と心得候ハヽ全ク湖水ヲ以乾強、地水之加水ニ被取候得者、水者至而致不足、下筋迄ハ不行届筈と被存候段御察答(当)被遊候

此義乱水之義も前格ニ而致来候儀、私共了簡ニ而相止メ候義不相成候、且又地水之加水ニ湖水を取候様ニ御尋被遊候得共、地水堰者別段ニ有之候得者、曾而一水とハ相心得不申、御裁許状ニも木瀬川・瀬名沢・湖水引候分量不同有之、異論と相聞候と有之候得者、木瀬川・瀬名沢ハ川之名ニ附御書載せ被成候事と奉存候、湖水引候分量不同有之異論と相聞候と御裁許状ニ有之候事ニ付、湖水計水配仕来り候地水堰之義者曾而差構不申、御裁許通りと奉存候

一左候得者地水・湖水と分量ハ何ヲ以一水之水を計り分ケ候哉、と御察答被遊候

此義百年来之証拠分石を以取扱申候儀ニ候得者、少も湖水之義者地水江者入込候義無御座候

一右分石之儀者いつ之頃何之証拠書物等ニ而も有之候哉、且分石之印シハ年々水之増減ニ随ひ違候哉と御察答被遊候

此義御代官野村彦太夫様御代官〻之分石ニ而、証拠書物等者所持不仕候得共、申伝江御座候分石印之儀者、年来〻之印を以地水湖水と印を以取扱申候

一年来〻之印を以取扱候而者、証拠書物等も無之儀ニ候

得者、甚不同甲乙之様ニ被存候、水ハ第一其年月之増減ニ在之候、然所年来之定規満水ニ而も立申間敷候、旱魃ニ而も立申間敷、平水を以定規ニ定候事ゟ外有之間敷候哉、平水を以建候定規ニ候得者、上下申合之上増減之差別一水ニ取扱候事と被存候、然ルニ年来之定規を以大旱魃ニ而水不足之節ニ、右定規通之水取入候事甲乙ハ眼前之事と被存候、尤湖水地水共ニ、水ハ沢山有之候とハ申候得共、百年已来之大旱魃一統水不足ゟ起り候旱損と被存候上者、水沢山と申候儀も甚難心得候段御察答被遊候

此義年来前格を以致来候義ニ候得者、何分難及了簡ニ儀ニ御座候

一乱水・夜水・間之水之儀者、右百年来之旱魃之節何之証拠書物も無御座候、何方ゟも申付茂無之、年来之私曲を以余分之水引取候儀宜敷儀と奉存候哉、又ハ不宜候儀と存候哉、其方存念之程如何相心得罷有候哉と御尋被遊候

此義何分善悪之ニも儀ハ、上村方へ対シ難申上候

一其方役前ヲ以相尋候処、上村方江対シ難申上等と申候儀、上村方之荷担を致申聞候哉不束至極候、何分其方存寄可申聞候段御察答被遊候

此義何分ニも宜敷哉又ハ不宜候哉、前格致来候事ニ付、此義不被申上候と申上候

一寅年旱魃故卯年之儀も前年ニたり候事故、水配役前ニ而水下り候様ニ成心掛ケも可有之所、無其儀等閑之取扱之段小田原表ニ而相尋候処、其節申聞候者当年抔旱魃之儀ニも候ハヽ、兼而申談方も有之候処、無其儀所者一向心得不申候と申聞候書付之面ニ候、然所此度相尋候得者、天性抔と申切候儀不束千万成挨拶ニ被思召候由

此義天性と申上候義、御聞届無御座候段不及是悲(ママ)候

中郷水配上役

茶畑村

名主　伝右衛門

前文上郷之通ニ准シ略之

一其方先達而尋候節も申聞候通、湖水者満り方宜敷地水ハ致不足候と申聞候ニ付、其節も為申聞候通、左候得者湖水田面ハ相応ニもミのり、地水懸り之場所こそ旱損多も可有之候と申聞候得者、申訳ヶ無之旨申聞候、第一水配人之義者上中下共一躰ニ有之候筈之処、先達而伊六相尋候得共、地水之儀者多分有之趣申聞候、ヶ様ニ取扱まち〳〵有之候而者甲乙有り、内之儀と存候如何挨拶有之候哉

此義何分出情仕候得共、水行届不申田面甲乙、其上仲間一躰不仕候儀御察答之上、不調法至極ニ奉存候

一地水引入候儀ハ前格と申水配人之差図不請候由、地水拾分ニ引入候と申書物証拠等此度持参致候哉、村方ニ茂無之候哉可申聞候

此義右証拠書物等者一向無御座候、尤村方ニも左様之証拠物何分承及不申候

一証拠書物ハ無御座候得共、年来之分石ヲ以取扱候由申聞候、年来之分石と申候ハ、伊六ニも相尋候通満水ニも建申間敷、旱魃渇水ニ之節も相建申間敷候、左候得者平水之節相立候ゟ外ハ有之間敷事ニ候哉、右平水之節相建候定規ヲ以、此度之様成大旱魃ニ而水不足之節、右定規通之水為引取候儀、是湖水を地水之加水ニ取候様ニ被存候、尤此義小田原表ニ而相尋候節も申訳ヶ無之趣ニハ候得共、至而等閑之取扱ゟ甲乙も出来候事と不束至極ニ候、其上其方申聞候処者、地水湖水と一つ水ニ而水配致候事と相心得候由、上郷水配人伊六申聞候者、湖水ハ湖水地水ハ地水と二つニ相心得、既ニ御裁許状ニ茂木瀬川・瀬名沢・湖水引候分量不同有之異論と相聞候と申義、木瀬川・瀬名沢ハ湖水一つニ落候川名ニ付御裁許書被成候事、湖水引候分量不同有之間、無甲乙湖水を可引事と存候由、御裁許通ニ有之旨申聞候、左様ニ水配人別れ〳〵之心得大切之勤前如何相心得候哉、其方共義一つ之水と相心得候ハヽ、地水堰ニ者其方共差図ニしたかい、分量を請候哉と御尋被遊候

此義小田原ニ而申上候通、私共行届キ不申候義と奉存候

一地水・湖水之義私相心得候者、異(畢)竟木瀬川・瀬名沢・湖水引候分量不同有之、異論と相聞候と有之候得者、右川筋別々ニ茂有之候得者二つ共奉存候得共、一つ川江落入候義何れも用水ニ有之候間、水上水下無甲乙用水可引之と御裁許状有之候ニ付、一水と相心得罷有候、地水堰々取扱之儀ハ前々ゟ為指構不申候故、一水とハ相心得罷有候得共、堰之義ニ地水堰江者差構不申候

一左候へ者地水湖水一水と相心得罷有、堰ニ附候而者地水湖水と訳ヶ取扱候儀、是以不相分儀ニ被存候段御察答被遊候

此義其村々之私曲セニ御座候得者、難及了簡奉存候

一上村方ニ而宛行、乱水・夜水、中郷ゟ下ニ而ハ間之水昼水抔と申候水引取候事、右躰之大魃年ニも前格抔と申被引取、下郷至而致旱損前格私曲せ抔と申候共、何証拠書物等茂無之勿論何方ゟ申附も無之、あまさ(つ脱カ)へ何年ゟ初メ候と申儀茂無之、只年来前格私曲と申立取扱候儀、大旱魃之年ニ取用候而者無甲乙事ニと存候哉、又者下郷旱損致候而も、前格を以致候得者宜敷と心得候哉、右之邪水共宜敷事と存候哉、如何相心得罷有候

此義御察答之上申分ヶも無之候得共、前々ゟ致来候事不宜義とハ奉存候得共、了簡ニ難及奉存候

一不宜儀と存百年已来之旱魃と存候ハヽ、前々ゟ仮令致来候事ニ而簡(了欠カ)ニも難及存候ハヽ、其段早速及注進可申事ニ候、其上寅年も致旱損候事、乍存卯年茂右躰之取扱不束至極申訳有之候哉

此義御察答之上、一言之申訳ヶ無御座候

下郷水配上役
下土狩村上役
名主　九左衛門
中土狩村下役
組頭　五右衛門

上郷中郷前文ニ准シ

一其方共申聞候者、先達而相尋候節も宝永年中御裁許状
并御定書之趣ニ随ひ、先役ゟ之取扱を以相勤メ申候由、
御裁許状御定書之趣ニ随ひ相勤候と申聞候が、御裁許
状之義者如何相心得罷有候哉
　此義水上水下無甲乙用水可引之と相心得罷有候、御
　定書之趣も右ニ准シ相心得罷有候
一然者寅卯両年之旱損田面之甲乙ハ如何相心得申候哉、
御裁許通ニ相叶候と奉存候
　此義御裁許通とハ奉存候得共、大旱魃之義ニ付、甲
　乙不同有之候儀と奉存候
一然者甲乙不同之儀旱魃之年ニハ有之候哉、旱魃之年こ
　そ水配人別而役前と被存候、如何相心得申候哉
　此義水行届キ不申候儀気之毒ニハ奉存候得共、致方
　も無之儀ニ御座候
一其方共下郷水配役之身分として、下郷江水一向ニ不行
届候儀、致出情候とハ乍申右躰之取扱如何取扱候得者、
右之通旱損ハ致候哉、是取扱之不行届不束千万、役前
難相立被存候
　此義御察答之上可申上様無御座候
一小田原ニ而一々相尋候処、ケ条毎ニ申開キ無之旨申聞
候、此度御拾給御役人中様御立合之儀ニ付、申訳も有
之候ハヽ可申聞候、一々申訳無之と計り申候而も不相
済候儀、役前何と相心得罷有候哉、不束至極ニ被遊候、
畢竟其方共取扱不行届候故、右之通致旱損及難儀候、
其方共難及了簡儀ニ候ハヽ、其段早速定年番迄可申達
筈之所、等閑之致方不束至極と存候、如何申訳ケ有之
候哉
　此義御察答之上、一言之申訳ケ無御座候
一三筋水配人之者共江相尋候ハヽ、其方共江も段々勤前之
儀相尋候得者、古例前格を以相勤来候と者申候得共、
御裁許之時分水配人六人被　仰付候節、水配人共ゟ書
出置候勤前之儀存知罷有候哉、此方ニハ勤前書附差出
シ候証拠有之候、此義委細可申聞候
　此儀

一水配九左衛門義、五月七日ニ湖水戸指候儀不埒之事ニ
附、九左衛門江其旨水上ゟ申聞候得者、九左衛門不調
法之旨断申聞候間、其分ニ差置下郷江人足申付差遣戸
為抜申候段、水上御答申上候ニ付私共御尋被遊候
此義曾而断等申候儀無御座候、何ヲ以右躰之偽り申
上候哉難心得奉存候
安永二癸巳年九月

深良村下役
水配　伊　六
茶畑村上役
名主　伝右衛門
下土狩村上役
名主　九左衛門
中土狩村下役
組頭　五右衛門

大久保七郎右衛門様御内
篠崎儀左衛門様

小嶋郡左衛門様
大久保金蔵様御内
加藤喜惣次様
曾我若狭守様御内
山田七郎兵衛様
酒井左門様御内
須永郡左衛門様
内藤越前守様御内
山本千右衛門様
秋山十右衛門様御内
矢野新左衛門様
松平内蔵丞様御内
勝俣和七様
稲葉紀伊守様御内
関川新左衛門様
安藤図書様御内
前田形左衛門様

山岡五郎作様御内
夏目又左衛門様

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

二〇　安永二年（一七七三）一一月　湖水出入江戸路用並雑用割帳

（表紙）
安永二年
湖水出入江戸路用並雑用割帳
巳十一月

一金弐両弐分
是ハ当六月廿九日出立ニ而、名主出府路用諸雑並供歩壱人上下其外水配伊六殿方へ取かへ等惣〆日数四拾八日分
一銭六百文
是ハ供歩当村太兵衛賃銭遣ス
此日数十一日分、但シ八月六日ゟ同十六日迄
一金壱両三分ト銭四貫五百三拾弐文
是ハ当村小左衛門名主代ニ出府、当八月六日出立ニて同九月廿七日迄路用雑用等〆高
一金壱分
是ハ
せに相場五貫四百文ワリ
〆金四両弐分ト
銭五貫百三拾弐文
此銭弐拾九貫四百三拾弐文
丁銭弐拾八貫弐百五拾五文
此割
高壱石ニ付　丁銭百八拾九文
一三拾五文　源右衛門
一四拾文　太兵衛
一拾六文　二郎右衛門
一弐拾七文　九右衛門
一百拾七文　仁兵衛

一拾八文　伝兵衛
一壱貫七拾七文　助左衛門
内壱貫文取去月廿六日使佐七
一百文　惣左衛門
一四拾四文　清右衛門
一弐百八拾弐文　養光
一八拾五文　五右衛門
一百壱文　源右衛門
一五百八拾弐文　孫兵衛
一八百弐拾弐文　儀左衛門
一四拾文　清七
一弐百四拾七文　藤右衛門
内百八文取
一弐貫三百七拾六文　定輪寺
内金弐分取　指引三百廿文過
一百拾壱文　孫右衛門
一壱貫九百八拾弐文　庄右衛門

一三百六拾九文　幸伯
一五百九文　小兵衛
一五百拾七文　文蔵
内弐百文　竹廿本代引
指引残四百十七文取
一五百壱文　要蔵
去月六日請取済
一三貫七百拾五文　甚兵衛
一九貫七百八拾八文　嘉六
一弐百五拾弐文　林蔵
一六拾文　儀兵衛
一三百六拾六文　源兵衛
一九百弐拾文　定八
一百拾文　安右衛門
一弐百三拾七文　半兵衛
一五百拾八文　久蔵
内三百五拾文取

百六拾八文可出分

一三百六拾八文　浅右衛門
一弐百五拾六文　嘉兵衛
一壱貫九拾弐文　善六
一壱貫八拾五文　善七
一三百八拾文　嘉七母
一八拾文　重蔵

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一一　安永三年（一七七四）三月二六日　拾給役人内済仰渡につき村々申立

乍恐嗳人方へ挨拶仕候段申上候御事

一此度出入之儀御拾給様御出郷之上、内済致候様ニと被仰渡候所、湖水水配人方ゟ取嗳人相頼右嗳人村方へ申聞候所、私共村方定水場御田地江相障り候義ニ付、此段得心不仕及挨拶ニ、尤私共村方湖水懸り之分者廿九ヶ村一統之義ニ付、内済熟談ニ洩候儀者無御座候、右之段嗳人方江挨拶仕候所相違無御座候、依之及挨拶候、以上

安永三甲午年三月廿六日

四ヶ村宛

小嶋郡左衛門様

（奥書）「如此ニ書付仕候而嗳を離レ申候ニ付、御代官郡左衛門様江差上置申候」

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

一二　安永三年（一七七四）三月　水掛り村々争論につき久根村訴状

一湖水之儀上郷村々近年我侭ニ用水引取、堰々ヲ切払水引下ケ不申与下郷之者共申上ケ候者、甚之偽りニ御座候、箱根湖水之儀者前格を以用水中堰々毎朝水配人并ニ小奉行様村役人立合分水仕、番人を付置キ候処ニ、手前勝手ニ可仕様者無御座候、入水夜水之義者宝永年中湖水以前より唯今迄前格を以入来り申候、用水中水配人日々ニ相廻り前格を以取計申候得ハ、甲乙可有之

様無御座候、拙者共村方之儀者往古ゟ木瀬川地水懸り
ニ而、古田拾七町余佐野堰ゟ掛来り申候、然ル所ニ寛
文年中湖水抜ケ候節ゟ畑成り田七町余出来仕、是又右
佐野堰より掛ケ来り申候井組ハ中筋ニ而御座候処、寅
卯両年之旱魃ニ付拙者共村方ニ而も夥敷旱損仕付荒有
之候義、水配人者不□　□御役人中様御存シ被遊候
義ニ御座候、寅卯両年之儀も我侭ニ仕候ハヽ、仕付荒
旱損有之間敷哉与奉存候、下郷ニ而申上候者上郷村々
ニ而地水・湖水之差別なく満作仕候与申上候得共、拙
者共村方之儀者別寅卯而両年夥敷旱損仕候事、下郷村
々ニ而満作抔与申立候者、下郷村之心得違ニ奉存上候、
拙者共村方地水掛合之儀者石脇村・佐野村・久根村三
ケ村ニ而掛来り候得ハ、入水夜水ちらし水同様ニ仕来
り候処、此度佐野村之義者訴訟方与一同仕候而、拙者
共村方ヲ差相手とり候儀者難心得ヶ義奉存候

扨又

次ニ拙者共村之義ハ下郷同前ニ御道中御役場之義ニ御
座候ハヽ、是又下郷村同前与申ス中ニ茂当久根村之義ハ
小村ニ而至極困窮ニ奉存候、何とぞ御慈悲(悲)を以御勘弁
之故、此度水論之儀前格之通被仰付被下置候様偏ニ奉
願上候

安永三年
午三月

久根村
名　主印
組　頭印
百姓代印

（裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

二三　安永三年（一七七四）四月　用水争論離脱につき富沢村名主宛一色村願書

口上書之事

一湖水出入之義内済ニ不相調、又候願村方出訴被致候ニ

付、私共村方之義ハ年来水届兼難義仕候、少々ハ懸リ候共此上之出入物入等難義ニ存候故、右訴訟村方へ申談、御差紙相除候様ニ仕度奉存候、其御村之義ハ一堰内之事ニ候得ハ、先達而御申届候処如此ニ御座候、以上

安永三年午ノ四月

稲葉紀伊守知行所
一色村
名主　藤　蔵㊞
与頭　吉右衛門㊞

秋山十右衛門様御知行所
富沢村
御名主中

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二四　安永三年（一七七四）四月　用水争論離脱につき訴訟方村々宛　神山村・麦塚村願書

一札

一用水引方之儀ニ付、其御村方ゟ去ル巳年　御公義様江御訴被成候ニ付、致熟談候様被仰付御拾給御役人中様ゟ厚熟談之儀被　仰付候得共、井組之内得心不仕候村方茂有之候故破談罷成候、右ニ付又々御村方　御公義様江御訴詔可被成与奉存候、此上神山村之儀者右論内須釜堰懸り高拾五石三斗之儀、并麦塚村論内之儀者八幡堀懸り之儀ハ何れニ成共、水配人ゟ差図次第急度相守可申候、依之私共村々之儀者此以後指村御除キ被下候様頼入存候、右ニ付一札相渡申候、此已後違変申間鋪候、為後日仍如件

安永三甲午年四月

神山村
名主　半右衛門㊞

同　与左衛門㊞
組頭　平左衛門㊞
同　久右衛門㊞
同　佐次右衛門㊞
同　丈右衛門㊞
百姓代　十左衛門㊞

麦塚村
名主　与惣治㊞
組頭　善左衛門㊞
同　源次兵衛㊞
百姓代　忠蔵㊞

佐野村
公文名村
稲荷村
茶畑村
平松新田
二ツ屋新田
中土狩村
下土狩村
竹原村
伏見村
新宿村
名主
組頭　衆中
百姓代

（箱根用水下郷古文書）

一二五　安永三年（一七七四）四月　用水争論離脱につき訴訟方村々宛一色村願書

一札

一用水引方之儀ニ付、其御村方ゟ去巳年　御公義様江御訴訟被成候処、致熟談候様ニ被為　仰付、御拾給御役人中様ゟ厚ク熟談之儀被　仰付候得共、井組之内得心不仕候村方も有之候故破談ニ罷成候、右ニ付又々御

村方　御公義様江御訴訟可被成与奉存候、此上当村之儀者右論内富沢堰掛り之儀ハ孰レニ成共、水配人差図次第急度相守可申候、依之私共村々之儀者此已後差村御除キ被下候様頼入存候、右ニ付一札相渡申候、此已後違変申間敷候、為後日仍如件

安永三甲午年四月

一色村　名主　藤　蔵㊞
与頭　吉右衛門㊞
同　七郎兵衛
百姓代　甚　兵　衛㊞

佐野村
公文名村
稲荷村
茶畑村
平松新田
二ツ屋新田
中土狩村
下土狩村
竹原村
伏見村
新宿村

名主
組頭　中
百姓代

（箱根用水下郷古文書）

二六　安永三年（一七七四）五月　水掛り村々争論につき水下村々訴状

（前欠）

伏見村　名主　九郎兵衛
〃　久右衛門
〃
中土狩村　名主　善左衛門

訴訟人

下土狩村
名主　平左衛門
茶畑村
名主　仁左衛門
佐野村
名主　平左衛門
用水出入　此所間五寸有り
稲葉紀伊守様御知行所
同国同郡久根村
組頭　徳右衛門
相手　与頭　久兵衛
　　組頭
　　百姓代　弥右衛門
同御知行所
同国同郡深良村
名主　新七
同　組頭　四郎右衛門
百姓代　勇右衛門

同御知行所
同国同郡納米里村
組頭　善六
百姓代　久蔵
酒井左門様御知行所
同国同郡同村
同　名主　利兵衛
組頭　弥兵衛
曾我若狭守様御知行所
同国同郡同村
同　名主　嘉六
組頭　平七
大久保金蔵様御知行所　御領分
同国同郡御宿村
名主　半右衛門
同　組頭　善七
百姓代　利兵衛

内藤越前守様御知行所
同国同郡千福寺(ママ)村
名主　太　兵　衛
同　組頭　六郎左衛門
百姓代　文　左　衛　門

同御知行所
同国同郡定輪寺村
右千福村兼帯
名主　太　兵　衛

松平内蔵允様御知行所
同国同郡葛山村
同　名主　嘉左衛門
組頭　太郎右衛門

同御知行所
同国同郡金沢村
同　名主　六左衛門
組頭　新左衛門

同御知行所
同国同郡上ケ田村
同　名主　甚右衛門
組頭　太左衛門

安藤図書様御知行所
同国同郡同村
名主　善左衛門
同　組頭　与右衛門
百姓代　義右衛門

秋山十右衛門様御知行所
同国同郡冨沢村
名主　嘉　六
同　組頭　久　蔵
百姓代　孫　兵　衛

大久保七郎右衛門様御領分
同国同郡岩波村
組頭　忠右衛門

同　百姓代　忠左衛門

同御領分
同国同郡石脇村
名主　甚右衛門
同　組頭　半右衛門
甚左衛門
百姓代　惣八
〃　〃

同御領分
同国同郡水窪村
名主　甚兵衛
同　組頭　治兵衛
百姓代　惣八

同御領分
同国同郡伊豆嶋田
名主　次郎八
同　組頭　彦太郎
百姓代　八左衛門

同御領分
同国同郡上土狩村
名主　藤三郎
同　組頭　定右衛門
百姓代　直右衛門

乍恐訴訟人九郎兵衛・善左衛門・平左衛門・仁左衛門・平左衛門申上候、訴訟方相手方都合廿九ヶ村之義ハ水上を上郷と申、其次を中郷と申、水末を下郷と申、木瀬川・瀬名沢・箱根湖水右三水を一ツニ流、御領主并御地頭所ニ而御年番定御年番御極メ置御世話被成下、水配人御定置三郷ニ而廿九ヶ村無甲乙用水引来候処、近年水上村々手前勝手用水操り引取候故、水末村々用水不足仕自然と稲作出来方悪敷度々之旱損ニ御座候処、去ル寅卯両年之義ハ大旱損ニ付、別而上郷村々堰々堰留申候故、水下ノ村々江ハ水下り不申甚渇水仕、定水之場所夥敷仕付荒仕付残罷成、少々植付候処も植附候而已旱枯罷成候ニ付、水下ノ水配人相廻り堰々切水下

ケ候様ニ仕候得共、上郷村々之者共直ニ堰留、剰ちらし水・夜水・間之水抔と名付我儘ニ水引取候故、水末之村々呑水等も無御座候程ニ而誠ニ天水場同前之義ニ御座候而、種籾を失イ候仕合ニ御座候処、水上村々ニ而ハ水十分ニ引取候故、湖水地水之無差別満作仕候様ニ奉存候、殊更卯年之義ハ定御年番ニ而御出情御世話被成下、湖水尻ニ而御堰留被成候故、湖水溜り方例年ゟも格別宜敷御座候得共、下郷水末村々江ハ一向水下ケ不申候、湖水掛御田地高四千弐百石程へ懸ケ候水を上郷湖水掛千石程之場所へ引取候得ハ、一ツ川へ流候水故、湖水ハ地水之加水ニ引取候義と奉存候、右之通水下村々近年用水不足仕候故、当分田畑成ニ相願候場所大分ニ御座候処、湖水懸り入用并ニ水配人給米等ハ前々之通指出シ、彼是ニ而甚困窮難義至極仕候義ニ御座候、既宝永五子年水論有之其節之御裁許ニハ、木瀬川・瀬名沢・湖水共ニ無甲乙用水引取候様ニ被為仰付、上郷・中郷・下郷へ御書下三通頂戴仕候難有奉存候、其後度々水論有之候処、御拾給御役人中御立会之上熟談被申付、御定書等出来仕、村々役人共御請印形被申付、水不足無之処、前書之通水上村々我侭ニ水引、先年之御裁許不相守候ニ付、此已後御裁許通無甲乙水引取申候様去ル卯年御拾給御役人中迄相願候処、御取上被下、去辰年駿州於御厨御拾給御役人中御出郷御相談被成候処、上郷御地頭様御役人中之内無拠御用筋御座候由ニ而、江戸表へ御帰り被成候故夫而已ニ相成、尚又去巳七月上旬御当地へ被呼出、御拾給御役人中御立会双方御尋被成候処、水上村方色々之邪水を引取、甲乙ハ眼前之義ニ御座候事を、甲乙無之与上郷村方之者共我意を申募熟談不仕候ニ付、私共願書御下ケ被成候、私共村々先年ゟ豆州三嶋宿・駿州沼津宿右両宿へ定助郷ニ而年々大分ニ人馬差出御役相勤段々困窮仕候故、前書之通り度々旱損、其上用水無御座仕付荒植枯ニ而種籾を失ひ候程之義故、大困窮仕定助郷人馬御役難相勤、此分ニ差置候而ハ水下村々退転仕候外無御座、大

勢之百姓露命つなき候義も不相成候間無是(非)悲御訴訟奉
申上候、何卒御慈悲を以前書相手之者共并ニ水配人共
被召出御吟味之上、先年御裁許之通相守、上郷・中郷・
下郷無甲乙用水引取、御田地相続仕候様ニ被　仰付被
下置候様、去ル巳十一月中当　御奉行所様へ奉願候処、
同十二月十九日御拾給御役人中并ニ私共　御評定所
へ被召出御定例を以熟談被仰付、御拾給御役人中国元
へ御越被成、彼之地ニおゐて双方御呼出シ御利害等被
申聞候ニ付、一色村・神山村・麦塚村右三ヶ村之義ハ
勝手次第用水引取候筈、右ニ付差障り無之旨一札取之
為熟談、則済口証文当月十一日　御評定所へ差上、相
残而久根村外拾四ヶ村御吟味之上用水無差障引取候様
被仰付度奉願上候、左候得ハ上郷・中郷・下郷無甲乙
用水引取御田地相続仕候、且御伝馬役相勤御領主御地
頭所御年貢無相違相納、大勢百姓相助り難有仕合奉存
候、尚又御尋之上乍恐委細口上可奉申上候、以上

安永三午五月

伏見村　九郎兵衛判
中土狩村　善左衛門印
訴訟人　下土狩村　平左衛門印
茶畑村　仁左衛門印
佐野村　平左衛門印

御奉行所様

如此訴状差上候間、双方致誓詞論所へ立会場所無相違
様一枚絵図仕立返答書相添、来ル七月十□日評定所へ
罷出可対決、若於不参者可為曲事、但シ双方并ニ絵師
誓詞案文ハ伏見村名主九郎兵衛・中土狩村名主善左衛
門・茶畑村名主仁左衛門へ相渡遣之者也

午五月十七日

伊賀　御判
美濃　御判
越中　御判
能登　御判

播磨　御判
御用方無加判
越前
弾正　御判
御用方無加判
備後
甲斐　御判
大隅　御判

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二七　安永三年（一七七四）八月　水掛り村々争論につき上郷返答書

乍恐以返答書奉申上候

一稲葉紀伊守知行所駿州駿東郡深良村・同知行所同州同郡久根村・大久保金蔵領分同州同郡御宿村・内藤越前守知行所同州同郡千福村・同知行所同州同郡定輪寺村・松平内蔵允知行所同州同郡葛山村・同州同郡金沢村・松平内蔵允安藤図書知行所同州同郡上ヶ田村・秋山十右衛門知行所同州同郡富沢村・大久保七郎右衛門領分同州同郡岩波村・同領分同州同郡石脇村、右拾壱ヶ村惣代之者共申上候、此度大久保七郎右衛門様御領分同州同郡佐野村、外拾ヶ村ゟ用水之儀ニ付相違出訴仕、　御尊判頂戴相附候ニ付、乍恐以返答書委細左ニ申上候

一私共拾一ヶ村之内久根村・深良村・御宿村・石脇村・千福村右五ヶ村者、木瀬川通り地水・箱根湖水共ニ引取御田地相養申候、岩波村・上ヶ田村・金沢村・葛山村・定輪寺村・富沢村右六ヶ村者、湖水を以御田地相続仕来候、訴訟方拾壱ヶ村之内佐野村之儀ハ、石脇村地先木セ川ニ佐野堰と申場所ゟ地水・湖水共ニ引取来り候、残拾ヶ村者地水引取不申湖水を以御田地相養申候、尤箱根湖水茂木セ川へ一ツニ流候得共、右湖水掘抜出来之節、寛文年中地水分量分石相極右分量を以地水・湖水之差別相別、湖水計を引取候村方ハ、右分量ゟ余分之水を相下ヶ為引取来候、既私共拾壱ヶ村之内に茂右之通湖水計を引候村方六ヶ村有之、是迄無故障地水・湖水分量相分引取来候、右仕合ニ付千福村地先

木セ川へ地水分量分石限堰〆切致此場所限り地水引取、右堰下へハ地水相下ケ不申候、且又佐野堰下ハ久根村限り地水引取、久根村下へハ是又湖水計引取来候、右湖水引取方無甲乙村々へ行渡候為メニ、御領主、御地頭様ゟ年番御役人御付添并水配人上郷・中郷・下郷ゟ罷出、日々世話仕地水・湖水之分量相互私儀不仕候様取計来候、右千福堰下ニハ定輪寺村・富沢村・伊豆嶋田村・水窪村・納米里村・上土狩村・中土狩村・下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村右村有之候得共、右村々へ木セ川地水ハ為引取不申候、尤右之内中土狩・下土狩・竹原・伏見・新宿此五ケ村者此度之訴訟方ニ候得とも、右五ケ村与千福堰との間ニ定輪寺村・富沢村・いつ嶋田村・水窪村・納米里村・上土狩村と申六ケ村有之、右六ケ村を通不申候得ハ五ケ村之方ニハ水筋通不申候、如此下郷五ケ村ゟハ六ケ村之方水上ニ候得共、水上之六ケ村へさへ前々ゟ地水引取不申候義、然ハ六ケ村ゟハ猶水下之五ケ村へ地水可引取筋無御座候、右地水引取不申候得共、中郷茶畑・公文名両村ニハ東川ゟ用水引取、下郷五ケ村ニハ駿州豆州境大沢之水溜敷落込、字ナ今堰と申所ゟ引取、其外村毎ニ右湖水引取候故用水差支ハ無御座候

一訴訟方申上候散シ水と申候者、水配人未分水不仕候節、上中下三郷村々同様ニ仕附水ニ引取候ヲ散与申候、夜水と申候者、下郷江計昼之間過分ニ水引取候故、上郷千上相続難成候ニ付、夜分ニ水引取候ヲ夜水と申候、且昼之水と申者水配人宛改不足故、千上御田地江夜八ツ時頃ゟ翌朝水配人参候迄水引入候ヲ間之水と申候、右何茂近年初候儀ニ而者無御座候、此段宝永年中水論御裁許之節無甲乙用水可引取旨被　仰付、水配人相改村々江水引渡候様取計候ニ付、夜水・間之水と申義其節之水配人共御代官様奉伺引取来候儀ニ而、宝永ゟ数十年来故障無御座候処ニ、此度訴訟方ゟ巧を以私共新規ニ相始候事之様相違出訴仕候、且又去ル寅年下郷之者共用水不足ニ付旱損いたし候旨御地頭江申立候ニ付、

双方御給々御役人中御立会上郷・中郷・下郷村々御田地御改被成候処、上郷ニも旱損有之用水引方ニ甲乙者無之、類年希之旱魃故之儀ニ思召、右下郷願之儀者不被及　御沙汰、已来之引取方ヲ前々御定書ニ准シ尚又御定書被仰付村々請印御取被成、少ニ而も別段之被仰付無御座候、扨又訴訟方之者共宝永年中御裁許を以、木瀬川・瀬名沢・湖水共ニ村々無甲乙引取候様被仰付候旨出訴仕候得共、右出入者湖水出入ニ而木瀬川地水之出入ニ者無御座候、既ニ彼等其節之訴状ニ、瀬名沢と申所之地水ヲ用又ハ天水ヲ請候場所故旱損地ニ御座候と書上、木瀬川と申儀ハ一向無御座候、畢竟　御裁許御証文ニ、木瀬川・瀬名沢・湖水引候分量不同有之及異論と相聞候旨御認有之候故、右御文言読続ケを便ニ右躰之儀ヲ存付相違申立候、唯右御文言ニハ右湖水木瀬川瀬名沢ヲ通り候故、湖水(引欠カ)候川之名目御書載被遊候証拠者湖水共ニとハ御認無御座候、其上木瀬川水江相抱り儀無之段、其右裁許御文言ニ堀筋修理入用浚人足高割ニ可出旨御認有之候、此人足入用等ハ湖水普請之儀ニ而木瀬川相抱候儀ニ者無御座候条、湖水一条ニ相限り候証拠明白仕候、右之通り湖水引取方之儀ハ双方水配人日々相廻り村々御田地江用水行渡り候様取計、天災ニ而之旱損ハ格別何れ之村方ニ而も水配甲乙有之候而之旱損ハ無御座候、然共水末村も水末丈ニ少々ツヽ之損毛有之哉相知不申候得共、其代ニ者水末訴訟方村々ハ当村とハ違格別御取箇下免故、少々之損毛有之候とも、当村々之損毛無之節ニ引くらへ候而も、却而下郷村々者難義薄く御座候、此差別も不相弁相違出訴仕困窮之当村々ヲ相手取候段難儀至極奉存候

一　深良村申上候、寛文年中箱根湖水之儀、湖水引取候村々之ためニ右堀抜出来之節、深良村御田地之内巾八間余長五百間余之所相潰シ江筋ニいたし深良村永久難義仕候、如此湖水村々江対候而ハ深良村甚く功規有之候故、水配人共只今迄深良村地水堰江者少も差綺不申年来相済来候、然ハ外村とハ違湖水掛り之村々ハ猶以其

心得茂いたし呉可申所、此度外村々一同ニ相違之儀を以相手取候段重々難義俄仕候、前書申上候通り少も相違無御座候、然所訴訟方之者共巧を以、私共宝永之御裁許相背候之新規我侭仕候抔と品々謀計申掛ケ候得共、右箇条ヲ以申上候通り、私共御裁許相背候儀者勿論新規我侭之義者決而不仕候、却而訴訟方村々新規相企右御裁許を申紛し此度出入ニ及候処、右一件於　御評定所双方熟談可仕旨被為仰付候由ニ而、御給々御役人中於場所熟談御取計被成下候得共、訴訟方ニ而強而木瀬川水新規ニ可引取と我意申募り内済相調不申、右偽之義以　御尊判頂戴相付候ニ付、乍恐以返答書奉申上候、畢竟私共極貧村故彼等見掠相手取為及難儀候儀ニ奉存候、以御慈悲右之段御聞済被成下已来前々仕来之通相守、新規巧之儀不申掛候様被為　仰付被下置候ハヽ、難有仕合奉存候、以上

稲葉紀伊守知行所
駿州駿東郡深良村
名主新七煩ニ付代
与頭　伝　蔵
百姓代　平　内

安永三年甲午八月

同知行所
同州同郡久根村
与頭　徳右衛門

大久保金蔵領分
同州同郡御宿村
松平内蔵知行所
同州同郡金沢村
同知行所
同州同郡葛山村

右三ヶ村惣代
大久保金蔵領分
御宿村
名主　半右衛門

松平内蔵允知行所

安藤図書知行所
同州同郡上田村(ケ欠カ)惣代
安藤図書知行所
名主　善右衛門
内藤越前守知行所
同州同郡千福村
同知行所
同州同郡定輪寺村
右両村惣代
千福村兼帯
名主　太兵衛
秋山十右衛門知行所
同州同郡富沢村惣代
与頭　久蔵
大久保七郎右衛門領分
同州同郡岩波村
与頭　忠右衛門
同領分
同州同郡石脇村
名主　甚右衛門

御評定所

（裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

二八　安永三年(一七七四)八月　水論江戸表公儀日記帳

（表紙）
安永三年
水論江戸表公儀日記帳
午八月

午恐以書付ヲ奉願上候

一大久保七郎右衛門領分駿州駿東郡岩波村組頭忠右衛門・百姓代忠左衛門、同領分同州同郡石脇村名主甚右衛門・組頭半右衛門・百姓代甚左衛門、同領分同州同郡水窪村名主甚兵衛・組頭次兵衛・百姓代惣八、同領

分同郡いつ嶋田名主次郎八・組頭彦次郎・百姓代八左衛門、同領分同州同郡上土狩村名主藤三郎・組頭定右衛門・百姓代直右衛門、右五ヶ村惣代之者共奉申上候、此度同領分佐野村外拾ヶ村ゟ用水之儀ニ付、右村々名前之者共相手取先月廿五日御着日　御尊判頂戴相付候処、論所立合絵図出来兼双方一道(同)ニ来ル廿五日迄御日延奉願上候処、願之通御聞済成シ被下、今廿一日迄双方一道江戸着仕御届ヶ可申上旨被　仰渡難有奉存候、依之名前之者共不残出府可仕候処、当村々之儀(熱カ)熱病ニ而名前之内取臥り罷有候者共有之候ニ付、為惣代私共出府仕候、右件御吟味之儀者、何様之儀ニ而茂私共引請少茂御差支無御座候様ニ御請答可申上候間、　御慈悲ヲ以惣代ニ而罷出候段、御聞済成被下候ハヽ、難有仕合奉存候、以上

安永三午年
八月廿一日

大久保七郎右衛門領分
駿州駿東郡岩波村
組頭　忠右衛門

石脇村
名主　甚右衛門

水窪村
名主　甚　兵　衛

いつ嶋田
組頭　彦　次　郎

上土狩村
名主　藤　三　郎

寺社御奉行様

乍恐奉申上候

一昨廿五日御評定所江罷出候処、絵図御覧被為遊候、追而御糺成可被下旨被為　仰付候ニ付、此段御訴奉申上候、以上

午ノ八月廿六日

五ヶ村
名主
組頭

御目付所様

如此芝御屋しき江差上申候

乍恐書付ヲ以奉申上候御事

一昨三日松平伊賀守様江御召出、御留役横目源太夫様私共村々絵図面ヲ以御尋被遊候ニ付、御答申上候趣定水・湖水之訳ケ申上、左ニ申上候

一水窪村・上土狩村・伊豆嶋田三ケ村申上候者、私共村方之義者往古ゟ瀬名沢用水定水ニ引来り申候ニ付、是迄旱損仕候義無御座候、尤湖水懸り之田地三ケ村共ニ少々宛所持仕候ニ付、右湖水掛り計高割ヲ以水配人給分諸入用差出シ、定水懸り之分ハ差出シ不申候、依之宝永年中出入之節も私共ハ論外ニ罷有候段申上候

一岩波村・石脇村・申上候者、私共村方之義者木瀬川地水定水ニ引来、尤湖水懸り之田地も所持仕候ニ付、右湖水懸り之分ハ水配人給分諸入用差出シ候得共、地水懸り之義者分量分石御座候段申上候

右之通昨日御吟味之節申上候儀前書之通御訴申上候、以上

九月四日

水窪村
名主　甚兵衛
伊豆嶋田
組頭　彦次郎
上土狩村
名主　藤三郎
石脇村
名主　甚右衛門
岩波村
組頭　忠右衛門

御目附所様

乍恐書付ヲ以奉願上候御事

一私共村々水論之儀ニ付御当地へ出府仕候、宿屋弁慶橋常陸屋幸助方江罷有候処、中間大勢ニ而御座候外村々之者共馬喰町弐丁目幸手屋次郎兵衛方罷有候、宿屋分

居候へ者出入之儀ニ付相談等仕候ニ、勝手悪敷事等多ク御座候而迷惑ニ奉存候、何とそ私共右幸手屋次郎兵衛方宿替仕度奉存候ニ付御願申上候、御慈悲ヲ以奉願上候通被仰付被下置候ハヽ、難有仕合ニ奉存候、以上

安永三年午九月五日　　岩波村
　　組頭　忠右衛門
御目附所様　　石脇村
　　名主　甚右衛門
　　水窪村
　　名主　甚兵衛
　　いつ嶋田
　　組頭　彦次郎
　　上土狩村
　　名主　藤三郎

芝御屋敷江差上申候

乍恐書付ヲ以奉申上候

一昨廿一日　御評定所様江御召出、松平伊賀守様江私共村方江被　仰付候趣之儀追而御見分成被下候と被仰付、勝手次第帰村被　仰付候、依之乍恐書付を以奉申上候、以上

五ケ村
名主
組頭

御目附所様

乍恐書付ヲ以奉願上候御事

一私共村方御用相仕廻申候ニ付、帰村被　仰付候、依之明廿四日御当地出立仕度奉存候、御添簡奉願上候、尤病気之者御座候ニ付二夜泊りニ而廿六日小田原着仕度奉存候
奉願上候通被　仰付被下置候ハヽ、難有仕合奉存候、以上

安永三午年九月廿三日　　五ケ村
　　名主

御目附所様　　組頭　内藤越前守知行所定輪寺村

右之通御公儀様江差上候、御答申上候分ヶ芝御屋敷様江差上申候写書乍恐書付以申上候、以上

午九月日　　名主　五ヶ村

組頭

小田原表江も如此写差上申候

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

二九　安永三年（一七七四）一一月　水掛り村々争論につき水上村々返答書

乍恐以書付奉申上候御事

返答方拾五ヶ村之内

秋山十右衛門知行所富沢村　　名主

組頭

一駿州駿東郡佐野村外拾ヶ村用水引方之儀御訴訟申上候而、去ル五月　御尊判奉頂戴、同国同郡久根村外私共拾四ヶ村へ相附則　御裏書之趣奉畏、立会絵図仕立返答書相添御評定所江奉差上候処、御見分ニ被為　仰付、御見分方御奉行様江ちらし水・間之水之義奉申上候、尤先達而拾壱ヶ村一統之返答書ニ奉申上候得共、右書面ニ相分リ兼候御事左ニ奉申上候

一富沢堰之儀、本川木瀬川ゟ引取候得共、湖水・瀬名沢共ニ右木瀬川ゟ引取候得共、湖水・瀬名沢引入候共難申上候、然共寛文年中湖水開発之砌同年御普請被為仰付、延宝元丑年ゟ定輪寺村・富沢村・一色村右三ヶ村ニ而高七拾六石余懸合堰ニ而、水配給米并湖水堀浚其外諸入用割合之通差出来り申候、然共稲葉紀伊守様御知行所一色村之義ハ三ヶ村之水末ニ而、高三拾石余

ハ年来水行届キ不申候故、此度訴訟方へ熟談仕候旨申聞候、依之私共二村計りニ而奉申上候、右高懸差出来候得ハ湖水懸りと相心得罷在候御事

一ちらし水と申上候者、仕付ニ差懸用水引取候節ゟ五月中之比迄ハ上郷・中郷・下郷共村々入用次第ニ水引取仕付申候処、下堰々ニ而水不足候得者上堰々を切下ケ、又上堰々ニ而ハ堰揚ケ、如此何度ニ而も昼夜共ニ互ニ致出情仕付候をちらし水と申候、右之通りニ而水来仕付相成不申程之渇水ニ候得者、通シ水与申候而二日一夜又ハ一日二夜抔与申間、湖水堰々皆留致水引下ケ為仕付申候

一間之水と申上候ハ、右ちらし水通水等ニ而致仕付養ニ相成候得ハ、三郷之水配熟談之上廻状を以村々江致案内、刻限之通堰所へ罷出堰ニ宛行分水仕候、此節私共堰所之儀ハ明六ツ時頃懸り之水配人罷越候得者、村役之者共立会分水仕、則堰下村方より番人付置双方ゟ手入堅不仕候、然ル所夜ニ入八ツ時頃居村ゟ人足罷出、堰揚ケ水引入申候得ハ、御定メ之事番之者引退申候、如此五日七日も水配仕候而も雨継無御座候得ハ、切替リ番水と申一日一夜皆留メニ仕遣シ申候、又翌一日一夜も宛行水ニ而引取候得ハ、間之水引入不申候而ハ何分相立不申候、宝永年中水論之砌御裁許状之御趣を以、其節御代官様御吟味之上被　仰付候格を以、如此水配人取計私共一同相守来申候、殊私共堰所之義地水定水抔与申義無御座、水配人取計違背仕候義無御座候得ハ、私共村方へ出入有御座間敷儀、万一我侭致候ハヽ水配役之者江相懸可申儀ニ奉存候

一私共堰所之義ハ、定輪寺村定輪寺御朱印山之内を堀抜キ又割堀等ニ仕候堰ニ御座候而、堀抜弐百五拾間余之内土出シ窓多、水洩り出、平年迚茂田面江水届キ兼申程之義ニ御座候、堰草等之義、右御朱印山之内ニ而下草木を用、殊例年御入用を以普請仕候得ハ、別而念入候得共洩出不申様ニハ難相成、其上私共村方御田地之儀ハ、砂地地高之御田地ニ而下郷とハ格別違水持悪敷、

引入候内計りニ而水留メ候得ハ即時ニ乾申候場所故、
如此御定被為　仰付候御義と奉存候、然ル所ニ私共近
年我侭ニ水引取候様ニ水末之者とも申上候ハ、甚難心
得奉存候、私共新規我侭之儀ニ候ハヽ、去ル寅年大旱
魃ニ付、御拾給御役人中廿九ケ村田面立毛御立会御見
分有之、其上御連印之御定書被　御付、井組村一紙連
判之御請書差上申候、此節害ニ不相成候共、御吟味御
願可申筈御義ニ奉存候、則私共我侭ニ親水引取不申証
拠と御座候、

一湖水御支配之義、元文元年迄御代官様御支配ニ而御座
候処、同二巳年大久保七郎右衛門様御定年番九給御地
頭様方添御年番ニ而御支配被遊、度々御定書等被仰付、
尚又旱魃年ハ両御支配様御役人中御出郷被遊、水配人
江御差図有之御義ニ御座候、既ニ当春御定例を以熟談
被為　仰付候旨、御給々御役人中此地へ御越熟談内済
被　仰付、取噯人御入被下、困窮之我共難有奉承知、
後難ニも不相成義ニ御座候ハヽ、内済可仕段御支配様
御役人中江書付を以申上候得共、村組一同熟談相調不
申候而ハ相済不申事と取噯人中申之、無是非御公訴ニ
相成、小村困窮之私共至而難義奉存候、依之少しも我
意を以申上候義無御座候、乍恐先年御裁許之御趣一統
奉守、御田地相続仕度奉願上候、以上

安永三甲午年十一月

富沢村
名主　嘉　六
組頭　久　蔵

定輪寺村

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一三〇　安永三年（一七七四）一一月　水掛り村々争論につき検使日記

覚書



（表紙）
安永三午年
水論御検使中日記覚帳
十一月ゟ

水論十一月六日ゟ
安永三年午十一月六日御検使様御着被遊候、御旅宿者大畑村庄蔵宅ヲかり御宿仕候、御見分被遊候者湖水ゟ始メ御見分可一通之御覧被成候、又歩間御始メ右湖水ゟ御始メ被成候而、十二月廿六日迄水窪村迄歩間置被遊候
布施弥一郎（ママ）様御手代
北川宇右衛門
前沢藤十郎様御手代
青山和吉
一湖水以前拾年分御割付、湖水後弐拾年分割付写差上候様被仰付候、当巳ゟ弐拾年分御割付写書御検地帳古田新田共仕分ケ写書差上候様ニと被仰付候、村絵図・村差出シ帳共認差出シ候様ニ被仰付候、則湖水以前拾年分割付写・湖水後割付、弐拾年分延宝五巳年田畑御検地帳・湖水懸り仕分帳面写差上申候
安永四年未ノ正月ゟ

深良村申上候義者

一正月三日御検使様双方水配人共御召出シ被遊候而被仰聞候ハ、其方共かけこみニ松平伊賀守様江罷出候と、江戸表ゟ沙汰有之候、如何之訳ケニ而左様之窺致し候哉と御尋被遊候、此義小田原役人ゟ度々書状之文通やり取御座候ニ付疑敷奉存候故、右之通リ御窺申上候かやう之義御座有間敷筈之所と存候ニ付御申上仕候

○此儀ニ付窺状御検使様江戸表窺被遊候と及承候

一安永四年未ノ正月廿六日、双方御召出し被遊候而被仰聞候者、只今迄検使御用之義相勤候得共、是ゟハ相勤メ申間敷哉と存候ニ付、江戸表窺状遣シ候所、弥々相勤候様ニと被仰付候ニ付、当月廿九日ゟ歩間致候間、双方罷出候様ニと被仰付候ニ付罷出候所、弥々御用相勤候間其旨相心得可申候段被仰聞候、同月廿九日ニ双方罷出候へ共、御不快之様ニ而御出無之候、七月十二日迄段々御延引ニ而御出不被成候而、七月十二日ニ申談シ候用事有之と御召ニ付双方罷出候所、江戸表へ申遣候所ニ又々相勤候様ニと被仰越候ニ付是ゟ水窪村迄去年歩間致候間、双方立合候哉、又ハ双方立合絵図可致哉と被仰、御尤御請仕候

一御検使様三月十日、伊豆佐野村名主源右衛門所江大畑村ゟ御移り被遊候、宿替被成候

一水懸り高仕訳水帳ニ而不相分候間、案文之通り相認早々可被差出候

如此ニ御触書相廻り申候

〃〃〃〃〃〃

右之通り銘々得与承知書付早々可被差出候、此廻状致請印、早々順達留り村ゟ可被相返候、以上

未ノ四月廿四日

青山和吉

北川宇右衛門

如此之廻状相廻り申候

木瀬川懸り水掛り帳
古田水掛り之分

石脇村

一当時自水掛り高百弐石壱斗三升九合三夕

此反別八町六反三畝三歩

当時仕付荒無御座候
内　外高無御座候
当時田畑成無御座候
外畑成田無御座候
湖水掛り高弐拾七石八斗三升弐合壱夕之内
一当時水掛り弐拾六石五斗弐升五合九夕
此反別弐町四反八畝拾五歩
当時仕付荒無御座候
内　外高前々荒地無御座候
畑田成高弐石七斗九升壱夕天和三亥年畑田成
此反別四反五畝廿七歩
田畑成高壱石三斗三升六合弐夕
宝永五子年ゟ当時畑作仕付
此反別壱反弐畝拾五歩
古田荒地無御座候水懸り宜敷場所間取等之場田成ニ相成候分無御座候
湖水懸り之内亥ノ年畑田成
当時畑作仕付候分御座候
右者当時当村古田新田水懸り高之分、書面之通ニ帳面差上申候、以上
安永四乙未年

石脇村
名主　甚右衛門　印
組頭　半右衛門　印

青山和吉様
北川宇右衛門様

如此帳面ニ認五月三日ニ差上申候
水論之儀諸入用御旅宿代割合之儀、納米里村去六月割合いたし候時、地水高茂湖水高も同断ニ割可申と申ニ付、地水懸り村々深良・御宿・久根・石脇此村方ハ地水高五分高ニ而割合可致と申候得共、納米里右之段申ニ付、了簡ヲ以弐分五厘引割ニ仕候所、当未ノ七月割合仕ル筈ニ村々出合候所、去六月ハ立会絵図出来迄之約束ニ候間、是ゟ同高ニ而割可申候と申、村々左様之約束不仕候間、

右之弐分五厘引割合ゟ外成間敷段、当村七月宅江寄合申候而挨拶仕候、右之弐分五厘引割申筈ニ相□(虫損)申候去七月極メ候ニ者、地水高ハ弐分五厘引割申筈外ニ湖水地水共村並割ヲ取再割懸り割合仕候

廻状　布施弥市郎手代
北川宇右衛門
前沢藤十郎手代
青山和吉

平松新田村

先達而申渡候絵図致出来候ニ付、双方惣代印形持参一同相揃、来ル十三日朝四つ時以前我等旅宿江可被罷出候

一湖水三間堀割間数、其外湖水新堀都而湖水引候村々、右堀筋地面江相掛り候分、一村限り村内間数何十間と申儀古来ゟ申伝、古キ書物も可有之ニ付相糺、右書付村限り銘々可被差(出欠カ)候尤右堀之内古川敷も入交り有之候ハヽ、何十間ハ古川敷之段認訳可被差候、且右堀続論外村内通り候場所ハ、其村役人江懸合間数是又同様損認訳可被差出候

一其村々用水路堰数并堰名目有之分、堰名肩書ニ相記、村内堰数何十ヶ所と申儀、ヶ所限り書付可被差候

右弐ヶ条書付一紙ニ能分り候様半紙帳面ニ認、認印形ニ而右同様持参可被差候、其外申談候儀有之候間、例刻ゟ早々四時已前相揃、一同可被差候

一深良村水掛り高帳、今以不差出候如何之訳ヶニ而延引候哉、何れニも右同様一同可差出候

一訴訟方立会、絵図付札之内二十二番・四十番之札相糺、書付早々差出候様申渡置候処、今以延引不埒ニ候、是又右同様持参可差出候、

右之趣被得其意、此廻状村下ニ致印形、急達順達留村ゟ其節可相返候

八月十日

青山和吉
北川宇右衛門

御検使様御仕立被成候絵図、双方御見セ被遊候而、双方印形被仰付絵図面江印形仕候

水森始メ候ニ付、上三間堀ゟ致候間、村々八月十六日ニ罷出候所ニ、深良村印形絵図惣代人之内名主新七・助左衛門十三日ニ持参不仕候ニ付、明日中ニ持参仕候様ニ御意被成候得共、延引いたし、同月十六日朝罷出、当正月廿六日ニ分間御決定被遊候ハヽ、村方御吟味奉願候と申上候所、成程左様ニ可致旨仰被聞候而絵図御決定被成、分間も御決定被成候而之上、水森被遊候と、仰付被聞候義者前度御願申上候と者相違仕候と申上候、相延江戸表江飛脚ヲ御立、窺状御差被遣候と深良村ゟ飛脚喜助と申者罷越申候、十九日ニ飛脚之者出立仕候よし

一御掛リ様御替り被遊候、牧野越中守様御懸り罷成候、此度之御懸り様ゟ深良村御召出被遊候よし、首尾能被帰申候

一九月廿七日御検使様御替り、青山和吉様御引被成跡御役人様関川庄五郎様手代矢沢祖源次様御越被遊候

一九月廿九日御召出シ双方罷出候所、深良村ゟ当立毛上下坪苅之御ためし願申候所、下ニ而ハ下五ケ村ヲ御ためし被下候様ニと願申候、下郷難儀由御訴詔(ママ)仕候へ共御聞済無之、坪切十月一日深良村ヲ御ためし被遊候十月三日合(ママ)手村拾四ケ村一統仕候而連印ニ而願書差上申候

一北川宇右衛門様御病気ニ付、布施弥市郎様手代柴田右吉様御替り御越被遊候十一月九日ニ被成候

一小川宇平右衛門様江戸表へ十一月十日ニ御帰り被成候後ニ御検使様御見分御始メ被成候

十一月十四日ニ湖水文(豊)後堰ゟ御見分始メ湖水落合迄御覧ニ奉入候間、夫ゟ岩波堰迄御見分被成候

是帳之上書也

駿州駿東郡何村高反別仕訳ケ帳

覚

一高何ほと、百五十七石弐斗壱升九合、駿州(駿欠)東郡何村此反別何ほと、拾五丁七反五畝五分

但　本田
　　新田共

此訳

田高何ほと、百弐拾七石弐斗壱升壱合弐夕
　此反別何ほと、拾丁七反八セ六歩
高何ほと、弐十七石八斗六升四合　前々ゟ湖水掛り高
　此反別何ほど、弐丁四反八セ十五歩
田高何ほと、壱石三斗三升六合弐夕

田畑成古水入用高へ懸り申候
右湖水懸り之内

此反別何ほと、壱反弐セ十五分
畑高何ほと、三拾石七合七夕
　此反別何ほと、四丁九反六セ廿九歩
田高何ほと、弐石七斗九升壱夕

畑田成右湖水懸り之内
此反別何ほと、四反五セ廿七歩

安永四未年十二月

右村
　名主　誰　印
　組頭　誰　印
　百姓代　誰　印

布施弥市郎御手代
　柴田右吉殿
関川庄五郎御手代
　矢沢祖源次殿

右案紙之通り堅帳ニ相認、村役人印形致し、且本文之内湖水掛り并田畑成等無之村方者、但何ハ無之と申訳相認、追々我等旅宿江可差出候、此廻状案紙写取、早々順達留り村ゟ可被相返候、以上

未十一月廿九日

右村々
　名主
　組頭
　百姓代

関川庄五郎手代
　矢沢祖源次
布施弥市郎手代
　柴田右吉

一地水御ためし可被遊旨被仰付双方得心ニ而御請仕候、十二月三日御ためし被遊候、湖水海尻ニ而留切り木瀬川通り之水ハ、余水ニ有之段訴訟方ゟ申立候ニ付、岩波堰ニ而留メ、岩波用水引込候而深良村五反田水門江引落、木瀬川地水江者入込不申候、深良堰分石極印通水引上、新堰留切湖水一水も不入、御宿村古堰江分石極印通引上、佐野堰分石極印通引上、千福堰分石極印通引上、余水御宿村用水尻少々落入候を訴訟方ゟ申ニ付、此分切落地水分計ニ而石印通ニ致、御覧ニ入申候

一十二月五日ゟ御吟味始り

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

一三　安永五年三月二日（一七七六）　評定所申渡につき水掛り村々請書

差上申一札之事

駿州駿東郡佐野村外拾ケ村訴上候者、村方用水之儀字木瀬川・瀬名沢・箱根湖水掘抜右三水一川江流レ入、上中下三郷村々用水無甲乙引来候処、近来上郷村々我侭ニ水引取、中郷下郷村々及渇水候旨申上之候

一同国同郡久根村外拾四ケ村答上候者、字木瀬川・瀬名沢を地水と唱当村々用水に引候処、湖水堀抜出来後ハ、地水湖水相分無異論引来候処、訴訟方ニ而三水共可引取段申条難心得旨申上之候

右出入立会絵図面を以御吟味之処難御決ニ付、為地改布施弥市郎様・関川庄五郎様両御手代中被差遣被懸御吟味候処、訴訟方申立候者、木瀬川・瀬名沢・箱根湖水右三水一川江流レ入村々用水に引来、御領主御地頭拾給之内大久保加賀守様より用水懸り定年番役壱人、

外九給より添年番壱人立会時々差図有之、其上組合村方三郷より弐人宛都合六人水配人極置、右六人之もの共三郷江行渡堰々致差略無甲乙引来候処、近年上郷相手方村々勝手を以散し水・夜水・間之水抔と名附、水配人差略之外我侭ニ引取候故、下郷之水配人上郷堰所江相廻り堰切払水下ヶ候得共、上郷之もの共直ニ堰留水下し不申度々及旱損、殊ニ去寅卯両年者下郷村々呑水も無之程之儀、其上上郷之もの共木瀬川を地水と唱、字かろうと堰・御宿古堰・さの堰・せんぶく堰にて〆切、湖水計下江下し候得共、湖水引口ニも相手深良村地内字ぶんこ堰を初外堰々江多分引之湖水を地水之加水ニいたし、上郷湖水懸り高千石程之場所江引取、中郷・下郷湖水懸り高四千弐百石程之場所用水引足り不申、近年多分田成畑ニ相成候得共、湖水懸り入用并水配人給米等ハ前々之通り差出し旁及困窮、且宝永五年水論之節木瀬川・瀬名沢・湖水無甲乙可引取旨御裁許御書下し三郷江被下置候処、相手方之もの共我侭ニ用水引取候間、以来先御裁許通三水を以三郷村々無甲乙用水引取候様仕度旨申之、相手拾五ヶ村之内拾壱ヶ村申立候者、訴訟方之内佐野村ハ相手石脇村地先字さの堰より地水湖水共ニ引取候処、外拾ヶ村同様地水為引取不申抔申立候段難心得、公文名村外九ヶ村ハ地水引取不申湖水を以田地養ひ来り、且湖水之儀木瀬川江流れ入候得共、寛文年中右湖水掘抜出来之節、地水之分字かろうと・御宿古堰・佐野・千福等之堰々四ヶ所ニ地水之分量分石相極、地水湖水之懸り高相分り、訴訟方湖水計可引取村方江ハ右分量之余水を下し、分量迄之水ハ上郷中郷計リ引取来り、尤拾壱ヶ村之内ニも岩波・上ヶ田・金沢・葛山・定輪寺・富沢六ヶ村ハ湖水計引来候得共前々より無故障、字千福堰〆切り堰下江者地水相下ケ不申、佐野堰之分ハ久根村限り下江ハ地水相下ケ不申、湖水計リ為引来、尤訴訟方申立候通御領主御地頭〻年番役人附添并水配人差略いたし候得共、右者湖水之分量差略ニ而地水ニハ拘り不申、下郷

訴訟方五ヶ村より上ニ相手方定輪寺外五ヶ村有之候得とも、千福堰ニ而〆切、地水ハ為引取不申候得者、右六ヶ村より水末五ヶ村江地水可引取様無御座、殊中郷之内訴訟方公文名・茶畑両村江ハ湖水之外東山水を引取、下郷五ヶ村江ハ駿豆之境大沢之水を字いま堰より引取候故、訴訟方用水不足ハ無之、水配人分水不致節上郷村々仕附水ニ引候を散し水と唱、昼之間下郷江過分水相下ヶ上郷田方旱上り候節、暮比より夜分上郷江引候水を夜水と申、水配人不参以前夜八ツ時頃ゟ翌朝迄引入候を間之水と唱、右何も宝永五年水配人相改り候節夜水・間之水等之取計ひ、其節御支配御代官所江伺之上引取来、近年始り候儀ニ者無御座去ル寅年旱魃之儀者一統之儀ニ而、既ニ下郷村々より御地頭所江願出候得共不被及御沙汰、前々之定書ニ准し猶又定書申付村々受印差出候儀ニ而、宝永五年之水論ハ湖水之出入ニ而、其節訴状ニも瀬名沢之地水を用ひ又者天水場等ニ而旱損地之由書上、木瀬川と申儀ハ書載無之、御書下しニも堀筋修理入用浚人足高割ニ可出旨御記有之、右者湖水普請之儀ニ而木瀬川江拘り候儀ニハ無之候処、御書下シ之内ニ木瀬川・瀬名沢・湖水引候分量不同有之及異論と相聞候と申御文言、読続キを便りに三水共引取来候抔訴訟方より相違之儀申立候、右ハ湖水通候川々之名目御書載候儀と奉存候、勿論下郷ハ流末故旱損も可有之候得共、去未年平年之田方双方刈坪候様之処、平均籾弐合余訴訟方多、殊ニ下免ニ而上郷村々ニ引競候而者却而下郷難儀薄ク、且又湖水堀抜之節深良村地内長五百間余幅八間江郷筋潰地ニ相成、其節野村彦太夫様御手代中地水之分量分石御極有之候故、水配人共今以字かろうと堰者差綺不申候処、湖水を地水之加水ニ用ひ候抔訴訟方申立候段難心得、相手方之内納米里・水窪・上土狩・伊豆嶋田四ヶ村申立候者、納米里村ハ瀬名沢地水を引取并千福堰下木瀬川之水を以古田之用水ニ引来候、其後湖水掘抜出来加水ニ引、間之水引候儀も年番役人見届有之、其外余水者無御座、水

不足之村方水窪・上土狩・伊豆嶋田村ハ、瀬名沢水元之村方ニ而、宝永年中水論之節も瀬名沢之出入ニ無之間相加り不申、伊豆嶋田村之内湖水懸り之田地少々有之候故其節追訴仕候迄ニ而、尤上土狩村湖水懸り之分ハ間之水取来、惣而相手方村々之地水川筋江湖水落込候故、訴訟方之もの共地水を可奪取巧と存候旨申候得共、御吟味之上双方之田成畑畑成田并去ル寅卯旱損減米御改之処、訴訟方田成畑平均六分七厘余多、畑成田者相手方平均壱割弐歩(分)八厘余多、旱損減米も平均六歩五厘余訴訟方多候得者、訴訟方水不足無相違、相手方村々地水之分量分石并地水湖水之引取方品々申立候得共無証拠難御取用、既ニ相手方之内水末納米里村者、千福堰下木瀬川通り之水を以古田用水ニ引来旨申之、下郷五ヶ村并中郷訴訟方之内ニ者慶長慶安之検地有之、寛文年中湖水掘抜以前より木瀬川・瀬名沢之水引取候段無相違、字千福堰ニ而木瀬川之水〆切、同川佐野堰之方ハ久根村限り下郷江地水不相下との相手方申分難御取用、既宝永年中水論御裁許御書下ニも木瀬川・瀬名沢・湖水引候分量不同有之と相聞候、水配人改可申付間、水上水下無甲乙用水可引取旨有之、旁三水一ツ川江流入候用水路ニ地水湖水之差別ハ無之候、依之被仰渡候者、是迄之水配不宜候間、水配人取替領主地頭役人中之糺を請、三郷ゟ弐人宛六人新に水配人を極、有来分量分石ニ不拘地水湖水之無差別、木瀬川通り字岩波・からうと・さの・御宿・千福堰・瀬名沢下字大堰・湖水掘抜通り字ふんご堰者不及申其外堰々埋樋穴堰等迄領主地頭年番役人并水配人之外不差綺、三水一同水配人之差略を請、三郷之水配人共申合、木瀬川・湖水・瀬名沢其外共元水之多少ニ随ひ堰々懸引いたし、水上堰々江者水下村々ゟ番人附置、水配人差略之分量時刻等無相違相守り、堰々修理入用浚人足水配人給等之儀者、用水組合一同高割を以差出之、水上水下村々用水無甲乙引取、以来双方和融いたし及再論間敷旨被仰渡一同承知奉畏候、若相背候ハヽ御科可被仰付候、

仍而為後証連判一札差上申所如件

大久保加賀守領分
駿州駿東郡佐野村
訴訟方　組頭　九　兵　衛
同国同郡茶畑村
水配人　伝左衛門
同国同郡二家（ママ）新田
名主　佐五兵衛
同国同郡下土狩村
名主　権左衛門
水配人　九左衛門
曾我若狭守
山岡五郎作　知行
同国同郡中土狩村
名主　善左衛門
安藤図書知行
同国同郡新宿村

安永五申年三月二日

組頭　甚　兵　衛
稲葉紀伊守知行
同国同郡深良村
相手方　名主　新　七
百姓代　助左衛門
水配人　伊　六
同国同郡久根村
組頭　太左衛門
大久保加賀守領分
同国同郡岩波村
組頭　孫右衛門
同国同郡石脇村
組頭　利右衛門
同国同郡水窪村
名主　甚　兵　衛
同国同郡上土狩村

名主　藤　三　郎
同国同郡伊豆嶋田村
名主　次　郎　八
大久保金蔵領分
同国同郡御宿村
名主　半右衛門
内藤越前守知行
同国同郡千福村
名主　太　兵　衛
秋山十右衛門知行
同国同郡富沢村
組頭　久　蔵
稲葉紀伊守
曾我若狭守知行
酒井沖五郎
同国同郡納米里村
名主　嘉　六

御評定所

（箱根用水下郷古文書）

一三　安永五年（一七七六）七月　水配人勤方定書

駿州駿東郡御厨拾給所弐拾九ヶ村用水年来及出入候処、当三月　御裁許在之、是迄相勤候水配人被召放候ニ付、拾給役人共三嶋宿江会合之上井組一統江水配役見立候様申付候処、三郷ゟ其方共相願候間申付候上、給々役人遂熟談、前々ゟ給々役人共相渡置候申合定書不拘、此度新に向後水配人勤方相極候定書

一公儀御裁許之趣弥堅可相守事

一用水路堰之浚水門埋樋等年々水配人并村々ゟ遂見分、大破無之以前無油断可致修理事

一水配人共者、井組一統自他之無差別用水取扱候事故、諸事遂熟談無腹臓申合可致候、若依姑（こ）贔屓者不及申不届之儀於在之者、急度吟味之上押込手鎖過料銭者勿論其罪相当之咎申付候事

附、過料銭者水配給之内ニ而取立置、堰入用等之節

可相渡事

一定年番ゟ役人并小奉行罷出、当年番ゟも役人毎年五月節ニ入候日御厨江着、用水之儀可及差図候、万一両役人難及了簡儀在之候者、給々役人江申達候上者早々致出郷候事

附、耕作之儀者一日を争ひ候事故、当年番役人着之日限若遅参ニ候ハヽ、定年番役人万端及差図置、着之上猶又可申談候事

一植附之儀者不限水々多少、井組一統に手廻し専一ニ取計可致候、若用水不足之旨村々ゟ相届候ハヽ、外村々江不及掛合、上中下郷水配人共相談之上、早々分水いたすへく候、尤前日両年番出役人方江相届可申事

一右分水及注進候ハヽ、井組一統江両役人ゟ申触、分水之節堰口〳〵江其堰掛之村役人并堰番人出向候様ニ可申付候事

附、分水之節者水配人并村役人堰番之外其場江罷出間鋪旨申付置候、若村役人・堰番人ゟ異論之儀申掛候欤、又者百姓共其場江罷出彼是申候共、不差構致分水置候而、難渋之筋早々両役人方江可相届事

一分水之初日者、水配人上役下役六人之者相揃相談之上木瀬川通致見分、水不足ニ相見江候ハヽ、湖水壱番戸抜、夫より豊後堰を初め岩波堰ゟ大川通り向前共ニ堰々致分水、并内堰〳〵をも夫々ニ可致水配事

一堰々番人之儀者定め之通り水下〳〵之村々ゟ差出、堰所昼夜不明様相守筈ニ付、尤右番人之儀者大切之儀ニ付、召仕・日雇等ハ不宜、成たけ自身に罷出、高持之百姓共者猶更了簡可在之旨申付置候間、其旨可相心得事

一上郷水配人上役・下役両人下郷江下り、田面水々多少を相改、其日ハ下郷之水配専可相勤候、中郷水配番人者上郷江上り右同断、下郷水配両人者中郷江上り右同断、各人足召連水之多少にしたかひ候而、早々堰口可相直事

附、本文之通繰合せを以上中下郷水配之場所不片付様ニ毎日くり上ケ繰下ケ可相勤事

一水配人日々に繰上ヶ繰下ヶ相勤候得者、仲間之者出合候儀不自由ニ可在之哉、兼而刻限等を定置、上中下郷廻り合之積を以其日何方になりとも落合候而、相互ニ上中下郷之様子可申合事

一旱損年柄により多分之田面ニ付、水配不同無之様に取計相届かたく助水配人相願候ハヽ、両年番役人相糺、其筋により申付候事茂可在之候事

附、右助水配人勤方之儀者本役に応し可相勤候、尤其時節ニよりて勤かた申付候儀も可在之事

一用水路におひて魚猟等いたし、堰々水門埋樋等江相障候者於在之者、吟味之上押込手鎖過料銭可申付旨申渡置候事

一分水之節障に相成候用水路在之候ハヽ、堰浚等水配人共了簡を以早速修理可致、兼而村々江者申付置候小分之儀者、小田原江不及注進候事

附、水配候節堰口等悪敷場在之差急候節者、其近辺江在合候芝草等無遠慮取候而取繕可申事

一分水等之儀ニ付、水配人者勿論諸役人共其節者差急候事故、いつれ之村方ニ而も居屋鋪囲等其外通抜ヶ相成候場所者、一通相断候而致通路候旨申付置候事

一是迄双方申分相立却而用水之障に相成、上中下郷共等田成畑出来在之内、別而下郷筋江者多分田成畑出来在之候、上中下郷共に本田之儀ニ付、連々右田成畑元之田作に開発可致候、左候得者猶更下郷江多分之水無之候而者相成間敷候、右ニ付水不足之年柄ニ者、旱損甲乙者上中下郷之田面を以掛合、不同無之様随分入念勘弁を以水配可致事

一出水之節者、不限昼夜三郷之水配人早速須金土手江相集り、土手之様子致見分、危く相見江候ハヽ早々水門戸下ヶ可申事

附、川向江居合候節者別而心得可在之事

右之条々此度拾給役人立会遂熟談水配役勤方相定候上者、井組一統自他之無差別取扱、諸事仲間無腹臓可申談候、若相背候ハヽ、急度越度に可申付候、為後証定書仍如件

安永五丙申年七月

山岡五郎作内　　大久保金蔵内
加瀬與右衛門　　和田喜惣太
安藤図書内　　大久保加賀守内
前田形左衛門　　森田才右衛門
秋山十右衛門内　　篠崎茂左衛門
日吉彦兵衛
酒井沖五郎内　　上郷　上役
星屋善左衛門　　中郷　水配　中
内藤越前守内　　下郷　下役
(刑カ)形部小左衛門
松平内蔵丞内
小野縫右衛門
曾我若狭守内
深川善蔵
稲葉紀伊守内
鈴木藤右衛門

追而右紙面披見之上写取、請書銘々致名印、小田原役所江可差戻候

以上

(裾野市久根　勝又重俊氏所蔵)

二三　(一七七六)安永五年七月　争論裁許につき水掛り村々申合せ

為取替証文之事

一当地用水之義ニ付去ル卯年ゟ水論及出入、御拾給於御役人様御吟味茂御座候得共難相済、無程下郷ゟ被及

御公訴ニ候所、度々御吟味御見分之上当三月御裁許被
仰付、相手訴訟都合弐拾九ヶ村ゟ御請書奉差上候
ニ付、此上者弥以　御裁許之次第少シも無違犯急度
相守可申事
一両御年番御役人中様ゟ用水之義ニ付井組一統江被　仰
渡之義者、御自他之無御差別御一図ニ被思召被　仰付
候事故、諸事之儀早速奉畏毛頭御違背仕間敷候、万一
御百姓中之内心得違を以少茂難渋ケ間敷儀有之候ハヽ、
御互ニ御知ラセ合、早速御役人様方御世話ニ不相成様
に取計イ可申候事
一此度御裁許之後、御拾給様御役人様方三嶋宿江御逗留
御熟談之上被　仰合、御定書を以後々取〆り之義御定
メ被置、右御書付弐拾九ヶ村拝見之上村々江写取、委
細御百姓中江茂申聞置候上者、一々御ケ条之次第毛頭
無違犯、御互ニ急度相守可申候事
一水配役人中分水被致義者、　御裁許書并御拾給御役
人中様ゟ之御旨意ニ而重キ義ニ付、村役人はじめ百姓
中水配人中へ対し毛頭存寄ケ間敷義申間鋪候事
一当地井組之義者水不足之土地柄ニ付、畑成田開キ候義
者先年ゟ急度御停止ニ有之候、是迄水不相届無拠田成
畑に相成候場所者、此後元之田作ニ開発可致候、万一
心得違之者有之此以後少も畑成田開キ候者有之候ハヽ、
御互ニ無遠慮早々御しらセ合急度相止メ可申候、其節
難渋申聞もの有之候ハヽ、早速小田原へ御注進申上候
様ニ可致候事
一井組廿九ヶ村之者共、御拾給御役人中様方に対し過言
無礼者不及申、用水之義ニ付井組村々之者共不調法有
之候上者、御定書之通何分之御仕置ニ被　仰付候共奉
畏、一言之義御互ニ申上間敷候事
右者此度御裁許相済候間、向後取堅（カタメ）候義数ケ条を以証
文為取替置可申候得共、御拾給御役人様被　仰合之上御
定書ニ弐拾九ヶ村御請印仕差上、右之趣急度相守候上者
此証文数ケ条書載候に不及候、此上者不依何事ニ御互ニ
致和熟、たとへ旱損年ニ有之候共弐拾九ヶ村和熟之上助

合、少しも異論ヶ間敷義致間敷候、為後証為取替証文仍
而如件
安永五丙申年七月

相手方
岩波村
組頭　佐　七印
同　孫右衛門同
百姓代　伊　兵　衛同
石脇村
名主　甚右衛門印
組頭　半右衛門同
同　利右衛門同
百姓代　甚左衛門同
金沢村
名主　六左衛門印
与頭　義左衛門同
百姓代　伴右衛門同
葛山村
名主　嘉左衛門印
与頭　喜右衛門同
百姓代　太　兵　衛同
千福村
名主　太　兵　衛
地頭御用ニ付村役印なし
与頭　六郎左衛門
百姓代　文左衛門
定輪寺村
名主　太　兵　衛
同断
与頭　半右衛門
富沢村
名主　嘉　六
与頭　久　蔵
百姓代　孫　兵　衛

納米里村
名主　嘉　六
与頭　平　七
同村
名主　利兵衛
与頭　弥兵衛
百姓代　吉兵衛
同村
与頭　久　蔵
百姓代　藤兵衛
水窪村
名主　甚兵衛
与頭　五兵衛
同　宗　八
百姓代　弥兵衛
上土狩村
名主　藤三郎
与頭　林右衛門
同　定右衛門
百姓代　惣右衛門
深良村
久根村
御宿村
上ヶ田村
名主　伊左衛門印
名主　甚右衛門同
与頭　太左衛門同
百姓代　九右衛門同
同村
名主　善右衛門
地頭御用無印
百姓代　安右衛門
熟談村方
神山村

名主　半右衛門印
同　勇　介同
組頭　丈右衛門同
同　佐次右衛門同
同　利　兵　衛同
百姓代　太左衛門同
麦塚村
名主　与　惣　次
組頭　源次兵衛
同　庄左衛門
百姓代　茂左衛門
一色村
名主　藤　蔵
与頭　吉右衛門
同　利右衛門
同　五郎右衛門
百姓代　甚　兵　衛
中土狩村
同　村
茶畑村
平松新田
二ツ屋新田
公文名村
稲荷村
佐野村
御役人中

訴訟方
竹原村
下土狩村
同　新田
伏見村
同　村
新宿村

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二四　安永五年（一七七六）七月　井組二九ケ村宛拾給役人申合せ定書

安永五丙申年
御拾給御役人中様立会
御定書写

井組弐拾九ヶ村定書

安永五申七月駿州駿東郡御厨拾給所弐拾九ヶ村用水年来及出入候処、当三月御裁許有之候ニ付、拾給役人共三嶋宿へ致出会遂熟談、是迄給々役人共ゟ相渡置候申合定書江不拘、此度新ニ自今之儀申合候定書

一公儀御裁許之趣弥堅相守少茂異論致間敷事

一用水路堰々浚水門埋樋等年々水配人并村々ゟ遂見分、大破無之已前無油断可致修理事

一御公儀御定之水配上役下役六人申付候間、給々役人共ゟ勤方定書相渡置候、若用水之儀ニ付定年番役人并水配人共之差図ニ相背候ハヽ、押込手鎖過料銭者勿論之義其罪相当ニ可申付事

附、追払已上之仕置ハ押込手鎖申付置故ニ而、給々役人方へ可致懸ケ合候、村役人共儀平百姓取扱可為同前、且過料銭之儀定年番方へ取置可申候、堰普請入用等之節相渡可申事

一定年番ゟ役人並小奉行罷出添年番ゟ茂役人毎年五月節ニ入候日御厨着用水之儀差図可致候、万一両役人難及了簡義可有之候ハヽ、給々役人江申達候故ハ早々致出郷候事

附、耕作之義ハ一日争候事故、当年番役人着之日限等遅参ニ候ハヽ、定年番役人方万端及差図置着之上猶又可申談事

一水配人給是迄之通定年番方へ取置候間相渡候事

一植附之儀者不限水之多少井組一同ニ手廻シ専一候、若用水不足ニ候ハヽ、其村ゟ早束(速)水配人方へ申達候、然ル上者三郷水配人共分水初め候事

附、分水初り候而茂若水足之村方茂有之相断候ハヽ、外村之不及掛ケ合ニ右水不足ノ村方へ早束水引下ケ可申事

一右分水ニ至り候ハヽ、堰番之者ハ其堰々之水下ゟ可差出候、水配人共分水ニ至候節者其堰掛り之村役人江右堰番之者召連堰々へ出向候而無異論分水ヲ受堰番人附置可申、且堰々ニゟ番人多少可差出事

附、堰番之者勤方等閑之筋相聞候ハヽ押込手鎖即時ニ申付、仮令堰払以上たり共吟味之故其罪相当之仕置申付へく、並堰番人大切之義ニ付召仕日雇等ハ不宜候間、成丈自身ニ可罷出候、尤高持之百姓共ハ別而了簡可有之候、且分水受候節其堰掛り之村役人ハ格別其外之者共一切可罷出申間敷事

一水配人分水ニ至り障ニ相成候用水路有之候ハヽ堰浚等可致候間、水配人随了簡ニ早速可致修理事

附、分水之節堰口悪敷場所ハ、水下村方ゟ相応之堰品ヲ持出し候与いへ共、其節間ニ合不申候ハヽ、差急之事故、其近辺江有合之芝草等を以取詰可申事

一用水路ニ致魚猟等堰々水門埋樋等へ相障候者有之候ハヽ、吟味之上押込手鎖過料銭可申付事

附、過料銭之儀ハ定年番方へ取置堰入用之節可相渡事

一用水之儀ニ付定年番江井組一統自他之百姓共訴度義有之候ハヽ、自今支配役人不及添翰可申出事

一万一水配人依怙贔屓之水引方有之候ハヽ、其段早速両年番役人方へ可訴出候、急度吟味之上押込手鎖過料者勿論其罪相当ニ可申付事

一旱損之年柄ニより水配六人ニ而ハ多少之田面水配甲乙不同無之様ニ取計難相届、助水配人若相願候上者、両役人相糺其筋ニ候而ハ助水配人申付候而茂可有之事

附、右勤方之儀ハ本役ニ応シ可相勤候、尤時節より申付方可有之事

一水配給之儀是迄ハ湖水掛之高割を以差出候処、地水湖水之無差別一同之水ニ相成候上ハ、堰々修理入用浚人足水配給等之儀、井組一同惣高を以御裁許之通可差出候事

附、旱損之節助水配人給右様之高割ニて勤日数を以可差出候、且堰諸入用等世話人ゟ相触次第早速可差出事

一分水之儀ニ付水配人者勿論諸役人迚も差急候事故、何れ茂村方ニ而も居屋敷囲等其外通抜ニ相成候場所ハヽ、

一通相断り候而通路可致候間其旨可相心得事
一前書之通年々定年番ゟ小奉行差出用水不足之様子等ゟ増而小奉行差出堰々田面甲乙抔並村役人・水配人・堰番人・其外井組百姓共不届之筋有之候ハヽ、小奉行之者其場所ニおゐて相糺候得共、却而難渋召捕縄懸ヶ候儀も可有之事
一是迄双方申分相立却而用水障ニ相成、上中下郷共田成畑出来有之内、別而下郷筋ハ多分之田成畑出来有之候、上中下郷共ニ本田之儀ニ付追々右之田畑元之田作ニ開発可致、左候得者猶更下郷多分之水無之候而者相成間敷、右ニ付水不足之年柄ニ者旱損之甲乙ハ上中下郷田面を懸ヶ合セて、不同無之様相互ニ可致和融事
一用水不足之節分水ニ至り候而ハ、不依何事ニ両年番役人並水配人之外差紛申間敷事
一自今ハ井組一統自他之差別なく用向有之節ハ、定年番ゟ配府を以可相触候間、承知之上無遅滞相廻し留村ゟ小田原役所江可相納候事
附、万一不承知之儀有之候ハヽ、其段早々小田原役所へ訴可申出候、且当年番役人居合候節ハ連名可致事

右之通此度拾給役人立合右ヶ条之趣遂熟談ヲ申合候間、井組一統江今般急度申渡候、此上共ニ取締相成候儀ハ無服臓可申談候、為後証致連印相渡し置候、以上

安永五丙申年　七月

大久保加賀守内　篠崎儀左衛門
森田才右衛門
大久保金蔵内　和田喜惣太
稲葉紀伊守内　鈴木藤右衛門
曾我若狭守内　深川善蔵
松平内蔵允内　小野縫右衛門
内藤越前守内

形部小左衛門
酒井沖五郎内
星野善右衛門
秋山重左衛門内
日吉彦兵衛
山岡五郎作内
加瀬与右衛門
安藤図書内
前田形左衛門

前文之通自今之儀申合井組一統申渡候上ハ、是迄給々役人共ゟ申渡置候定書ニ不拘、此度新ニ相定候間、村々江致披見堅相守へく候、若相背ニおゐてハ本文之通其罪相当之仕置可申付候、以上

追而右紙面惣百姓共へ申渡、全承知村々写取村役人共請書銘々致名印相廻し、小田原役所江可差戻候、以上

久根村　名主兼帯
勝又重房
所持之ス

（裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

二五　安永六年（一七七七）五月二一日　富沢村との用水争論につき一色村訴状

乍恐以書付奉願上候事

一駿東郡一色村用水之儀者、田方百九拾五石九斗弐合内百六拾壱石七斗五升七合ハ村内山沢地水を以仕附養水ニ仕、残三拾四石壱斗四升五合ハ井組穴堰懸り用水ニ而仕附、養水ニ古来ゟ仕来申候、然ル所近年右井組用水富沢村江奪被取、年々干損仕難儀仕罷有候、然ル所井組村々一統用水及出入、去申春、右出入御裁許有之、上郷・中郷・下郷廿九ケ村一統無甲乙用水引取候様可仕旨御書下し被遊、偏ニ御恵ミと難有奉存候、数年干損之場所元田面ニ相成可申と奉存罷有候処、去申年も

用水一向下り不申候ニ付、空畑作ヲ仕附差置候、同年七月中井組村々御地頭様御役人中、豆州三嶋宿江御出会被成、御内談之上御裁許御書面之通り廿九ケ村一統無甲乙用水引取、再論ニ及間敷旨之御定書出来、右御請印被　仰付奉畏難有御請印形仕差上申候、且鈴木藤右衛門様被　為仰聞候者向後用水之儀違変無之候間、井組用水懸り田成畑開発仕来、酉年ゟ田作仕付候様被　仰付、重々難有御義奉存候、殊ニ用水懸堀筋浚等迄御拾給御役人様御相談之上被　仰付候趣、御同人様被為仰聞、御一同様御恵ミ之程難有奉存、当酉ノ春堀浚可仕段、富沢村名主嘉六江申談候処、同人申聞候者一存ニ而答も難相成候間、御地頭所御陣屋御伺之上返答可致間、一両日相待呉候様申聞候ニ付、数日相待罷有候得共、一向否不申越候ニ付、又々嘉六方相尋候得者富沢村組頭小左衛門ヲ以申越候者、御地頭様御陣屋御役人様迄相伺候処、内分ニ而ハ堀浚之儀相成間敷趣被　仰聞候間、内分ニ而者堀為浚候事不相成候由申聞罷帰候、右故恐多ク御儀ニ者御座候得共、無是悲(非)定御年番小田原御役人様江右之趣以書付御願申上候得者、以御慈悲願之通被仰付、早速堀浚取懸候処、富沢村名主嘉六申候者数年堀浚等も無之候間、年々埋田畑仕出候処ニ者作毛有之、来ル戌年ゟ者堀幅先例之通可為致候得とも、当年之儀者作毛潰し候事難儀ニ候間、用捨致呉候様相願候、尤其節水配人御宿村半右衛門居合申聞候者、明年春ニ相成り候者自分請合先例之通堀幅三尺ニ可為浚　候間、当年之処者嘉六申候通用捨致呉候様申候間、難儀ニ者奉存候得共、近村之儀ニ御座候間、彼是及変論ニ候も如何敷、任其意下浚計仕差置候、其後田面仕附時ニ相成候得者用水一向ニ下り不申候ニ付、富沢村嘉六江水下呉候様申聞候得者承知之旨申聞、其後一向水下り不申候ニ付、又々嘉六方江罷越候処同人外出仕候由ニ而、富沢村組頭庄右衛門罷出、双方熟談之上分水致罷帰候跡ニ而、其侭堰留メ水下不申候、右故致方なく当月十日水配人御宿村半右衛門方へ前書之

趣懸合可申与存罷越候処、半右衛門母申候者、悴事今日者定年番御役人様、御旅宿水窪村へ罷越候由ニ御座候間、直ニ水窪村御旅宿江罷越、半右衛門江私申聞候者、富沢村ニ而用水〆切水下シ不申候間、恐多ハ御座候得共、御定年番御役人様迄御願可申上存寄ニ御座候由、申候得者、半右衛門申候者手前事廿九ヶ村平均之水配仕候由只今御役人様迄申上候、然ル所右之願被差出候而者水配人役前も相立不申、若御尋ニ預り一言申訳無之候、明日ハ早朝分水致可遣間、今日ハ罷帰呉候様申聞候間、承知之旨申之、罷帰り候、右故翌十一日未明ニ穴堰江罷越相待罷有候得共、及暮候迄右之半右衛門参不申候間、又々半右衛門宅江罷越相尋候得者、今日者小奉行様御用ニ付罷出候、罷帰次第穴堰口江罷越可申旨申置候段相答候間、穴堀口罷帰夜中迄相待候処、不参候間、無拠私共も罷帰候、其翌日も穴堰口へ罷越、半右衛門参候事与存及暮候迄相待罷有候得共、此日も不罷越候ニ付、半右衛門宅江参、明朝私参御直談申度候間、半右衛門殿御帰りニ御座候ハヽ、其趣御申聞可被下段申置罷帰、翌十三日未明ニ同人宅江罷越対面仕、私申候者、右躰日々其元堰口江御出可有哉与右之場所江罷出相待隙を潰し、田方植付之時節甚難義候、今日者是〻直ニ穴堰口へ御出給り分水頼入候由申聞候、半右衛門申候者、今日も上郷〻段々分水致、石脇村迄参り、夫〻定御番御役人様御案内申候間、今日も分水ニ参候事相成不申趣申之候、私申候者左様ニ候得者御下役惣七殿成り共分水ニ被遣被下候様申候得者、半右衛門申候者、下役惣七事も手透無之候間、遣候事相成不申候由申之候、私申候者右躰日々御申延シ被成、限も無御座候儀何共難渋ニ存候、尤今日ハ定御年番様御廻村ニ御座候得者、出向御機嫌も相伺、用水方之儀も御頼可申上候之由申候得者、半右衛門申候者、如何様とも存寄次第可致由申聞候、前書之通御座候間、無是悲(非)定御年番御役人様御旅宿水窪村名主甚兵衛方へ罷越候処、幸水配人二ツ屋新田佐五兵衛居合候間、此者

江段々之訳申聞、右故無是悲御役人様へ御願可申上旨申候得者、佐五兵衛申候者、半右衛門計水配人ニ而者無之候間、手前方江先達而御申被成候得者、分水致可遣事ニ候、併近村之義御座候間、今日富沢村へ懸合熟談之上、水引候様ニ可致旨申候間、尤之様ニ存候而富沢村へ罷越、嘉六宅へ夫遣候処、他行仕候由ニ御座候間、左候ハヽ組頭中ニ而も分水致給候様又々申遣候、夫ゟ人足を連レ定輪寺村へ罷越相待罷有候処、右嘉六参候間、一色村ハ堀筋もぬれ不申候儀ニ御座候間、分水致呉候様申聞候得者、嘉六申候者、手前儀ハ一色村之水配人ニ而者無之候水配役之者呼寄分水之義被頼可申候、一色村ニ水無之候而も、有之候而も、自分存候事ニ無之候、併是悲用水引下可申存寄有之候ハヽ、堰所打破り候而成共、存寄り次第ニ可致候様申聞候、私共申候者堰所取披(破)り水下ヶ候而も先達而之通、手前共罷帰候跡ニ而其侭ゟ切候得者水下べき様無之候、貴殿得心之上水下給候様致度旨申候得共、右嘉六我侭計申、分水致候義不相成候間、水配人取計次第可致由申候、私共申候者、水配人江申候得者富沢村へ熟談之上水引取候様申候、其元江懸合候得ハ、水配人差略次第之積被申、右躰ニ而者一色村水引入候時節ハ有之間敷候、無是悲次第ニ御座候間、村方へ罷帰候、且又名主代八郎次事ハ此日定御年番御役人様石脇村江御泊被成候間、彼地江参、御機嫌相伺罷帰候節、佐五兵衛同道仕、段々同人申聞候ハ、今晩茶畑村御旅宿へ富沢村嘉六も呼寄候間、私共ニも罷出候様申聞候間、日暮より茶畑江罷越、前書之趣申候得者、三郷水配人六人口揃申候者、当年ニ至三拾四石余之水可引取段ハ甚タ無利(理)ニ候、近年仕附候田面之外弐三反歩水下可申旨、嘉六申候由申聞候、私共申候ハ、近年過半田成畑ニ相成、漸々弐三反程仕附来候得共、右水懸水配人給金並諸入用等無滞差出申候、然ニ三反歩之水可遣、五反歩ノ水可遣之与申筋ハ有間敷候由申之候、水配人とも申候者、左様ニ而ハ自分とも取計ニ者不相納候間、何方江被願候共、

御勝手次第ニ可被成候旨申候間、依之罷帰、翌十四日下土狩村名主権左衛門宅江罷越、森田才右衛門様・伊藤牧左衛門様御旅宿江罷出、前書之趣以書付御願申上候処、何様之思召ニ御座候哉、且私共悲(非)分之御願ニ御座候哉、御取上無御座候、依之乍恐御奉行所様へ御願申上、何分御定書通三ヶ村無甲乙水引候様仕度存候、何卒以御慈悲御添簡被成下候様、偏ニ奉願上候

右之通被　仰付被下置候ハヽ、難有仕合奉存候、以上

駿州一色村

名主代　八　郎　次
組頭　源　左　衛　門
同　五郎右衛門
同　伝　七
百姓代　甚　兵　衛

安永六年酉五月廿一日

御陣屋
御役人中様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一三六　安永六年（一七七七）五月二八日　田成畑開発につき一色村注進書

乍恐書付を以御注進申上候御事

一当廿三日ニ小奉行様御三人、水配人御宿半右衛門・二ツ屋佐五兵衛、富沢村・一色村見分ニ参申候、組頭伝七御案内罷出申候得者、富沢村御見分相済一色村地内江御越被成候而小奉行様御尋被遊候者、一色村三拾四石之養水何程ニ与可有之由、杖を御持被遊此寸ニ而可有之哉、又者此寸ニ而可有之哉御尋被遊候由、伝七申上候者、三拾四石之水ハさておき、先程迄者堀筋も湿り不申候得者何程ニ而可有之や相知不申候、只今ニ而者各様御出被遊候故、やら水相下り申候と御答申上候儀ニ御座候、又被抑候者仕付いまた可宜候間畑成田開発之可仕由被仰付候、伝七申候者村役人江戸御屋敷様へ罷越申候間、残り候役人百姓共とも相談可仕候段申上候、それより田成畑御見分被遊候而御わかれ申候、

村役人百姓共相談仕候処、最早半夏も近(チカク)殊更常体之田とハ相違いたし開発地之事ニ御座候得者、此上手間とり候而者殊之外おくれ可申候与申候而、小奉行様方佐野村ニ御逗留有之候得者、右之段百姓代甚兵衛・七郎兵衛指遣遅(送)り申候ニ付、仕付出来不申候段御答申上候、先達而申上候通り定御年番御役人様御取上ヶ無之、此末水配人分水無之候而者右田成畑開発いたし候とても干損可仕候与奉存候而、右之通小奉行様迄御答申上候由伝七其外之者共も申候、依之乍恐以書付御注進申上候、先達而御願申上候通何分　御公訴ニ被成下候様ニ御願申上候以上

安永六年酉五月廿八日

駿州一色村
名主　八　郎　次
組頭　源　左　衛　門
同　五郎右衛門
同　伝　七

百姓代　甚　兵　衛

御屋敷御役人中様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二七　安永六年(一七七七)七月二六日　富沢村と一色村水論につき水配人口上書

（前欠）

候得ハ、一色村之水入レ申候者知レたる事ニ候、田面見分いたし申候所、随分沢山ニ水行届候事故、申候分ハ有間敷候由申候、又々八郎治申候者、田面江沢山ニかけ候共、此方も水配人給扶持差出し申候ニ付、入り不申候而捨申候共、三拾四石分々水□水可為致抔と難渋之筋を申掛ヶ難儀仕候、右ニ付茶畑村ニ而水配六人相談之上、富沢村名主嘉六・一色村名主八郎治、右両人呼出シ申聞候得者、是迄仕附候田面江者、水随分沢山ニ相懸り申候ニ付、尤田成畑之義者当年五反歩も仕付、来年も五反歩も仕附候様ニ蓮(連)々開発可被致候、左

候へ者それたケ之水ハ随分差略いたし可遣候と申聞候所、一切承知不仕候、且又畑作仕附水入不申候而捨申候共、水配給扶持差出し候上者、三拾四石分之水可引抔と難渋之儀申之候旨心得かたく奉存候ニ付、私共右申談候所承知無之候ハヽ不及是非候ニ付其村方存寄次第ニ可被致候と申候、私共分水致方之義ハ、日々田面水行見合候而、水掛ケ引仕候ゟ外ハ無御座候、殊ニ堰口分水之義ハ日々水之分量ニ応シ分水仕、番人附置申候、一色村之義者田面得と相分り不申、是迄植附候田面計見分仕候、右一色村之者共申候様ニ而者、田面不存所へ分水可為致旨、水配人江たひし難渋之筋申掛ケ候、尤日々御小奉行様御一同ニ而田面見分仕候所、一色村ハ勿論弐拾八ケ村水行届キ申候、取分ケ十七日ニ者御小奉行様並ニ水配上役勘兵衛・佐五兵衛、定輪寺村・富沢村・一色村迄見分仕候処、一色村田面江者水沢山ニ掛り罷有候、然所ニ佐五兵衛・勘兵衛義者名主八郎治宅迄罷越、右之一件相済度奉存候ニ付、八郎治対面仕へく旨八郎治父吉右衛門江種々申候得共、吉右衛門申候ハ悴八郎治事何方へ参り候哉村内ニ者見へ不申由申候ニ付、無是悲(非)罷帰り申候、翌十八日佐五兵衛壱人一色村与頭伝七方へ参り申聞候者、当村役人中江戸表江御出立之由承り申候、右ニ付名主八郎治殿并組頭中江得御意度候と申候ニ付、名主八郎治・伝七方江罷越候ニ付面談之上申聞候者、用水之義ニ付定輪寺村・富沢村と一色村与出入之筋ニ相見申候、隣村ニ而出入気毒ニ存候得与思召之程可被申聞段申候得者、八郎治答候者、此方共存寄者富沢村・一色村当(等)分ニ用水引取度存候、外ニ者望も無御座候段申聞候ニ付、佐五兵衛申聞候者、其義計り御座候ハヽ用水一件之義者三ケ村一村之取扱ニ仕、壱村ニ而野廻り番壱人ツヽ、三ケ村ニ而三人日々差出シ、富沢村・一色村相名主同前ニ仕、替り〳〵差図被致候とも又者日々相談ニ而差図被致候ハヽ右両様ニ致候ハヽ随分当分ニ行渡り可申と存候、殊ニ水配人日々見分有之候得者、無甲乙相済可

申段申候所、八郎次申候者何分承知不相成候、殊ニ御地頭御役人様被仰付ニ茂、三十四石之水者引取申候而可被下段被仰聞候得者、何分承知難成旨申相済不申候、又候廿三日ニ者御小奉行様方御三人并ニ水配人御宿村半右衛門・二ツ屋新田佐五兵衛、右一道仕罷越、一色村組頭伝七案内ニ而見分仕候所、是迄仕附候田面者不及申ニ、当春浚申候川筋江茂相応ニ水流申ニ付、与頭伝七江申聞候者、田面江者相応ニ行渡り、殊ニ浚候堀筋江茂水随分

（中欠）

流申候ニ付、田成畑之義も明日ゟ取懸り、植附可被申と申候得者、伝七申候者、被仰聞之趣忝存候得共、村内相談之上挨拶可仕与申候ニ付罷帰り申候、翌廿四日一色村甚兵衛・七郎兵衛両人之もの、佐野村御小奉行様御旅宿并水配人半右衛門方へ挨拶仕候趣者、当年者苗代も不仕、植附支度茂出来不仕候、殊旬遅レ御座候間、当年者植附申間敷と挨拶ニ及申候、然共旬遅レと申候義、得其意不申候、既ニ中郷麦塚村・平松新田者五月廿五日ニ横堀浚仕、夫ゟ植附始メ六月三四日時分迄植附仕候、近村井掛り之内ニ而一色村計り植附旬遅レ申候義有御座有間敷と奉存候、井組之内麦塚村之義不残田成畑ニ相成、尤当年ハ少々植附申候所、水十分ニも無御座候得共、流末之義故水配人差略之通り相守申候、其外村々ニ田成畑御座候間、難義仕候村方も数々御座候得共、水配人差図相守申候、一色村壱村水配人差図ヲ請不申、剰水配役人対し種々難渋申掛ケ候、甚段水配人難相勤程ニ奉存候ニ付、何卒此度以御慈悲、御拾給様御立会御役人中様御見分之上、御吟味被成シ下候而、以来田面御糺之上糺被成下相分り水配役筋相立候様乍恐奉願上候、以上

右書面之趣少茂相違無御座候、御尋之上委細口上ニ而可申上候、以上

安永六年酉ノ七月廿六日

御宿村

水配上役　半右衛門
二ツ屋新田
同　佐五兵衛
中土狩村
同　勘兵衛
千福村
下役　惣七
茶畑村
同　三郎兵衛
下土狩村
同　三右衛門

御拾給御立会
御役人中様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二八　安永六年（一七七七）七月晦日　一色村との用水争論につき富沢村請書一札

乍恐御請書を以奉申上候御事

一先達而一色村ゟ用水之儀ニ付江戸御屋敷へ奉願上候処、懸り御役人様御越被成候ニ付、外御給々様御役人様御立会ニ而、右一色村願書へ返答書被　仰付、昨今御吟味被成候ニ付、私共申上候へ者、最初ゟ内願ニ而熟談いたし度段一色村へ懸合候旨申上候、依之御察向被成候者、右躰熟談致度存寄、一色村へ申聞候ハヽ、右村迚も江戸御屋敷迄罷下り御願可申上義有之間敷旨被仰聞、然ハ右申上候通熟談いたし度と申候者、相違之儀ニ罷成御吟味ニ付、一言申訳無御座候、尚又近日御吟味之上御糺被下候段奉畏候、仍而一札差上申候、仍而如件

安永六酉年七月晦日

富沢村
名主　加　六
組頭　小左衛門
同　源　七

御十給様
御役人中様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二九　安永六年（一七七七）七月　一色村との用水争論につき富沢村返答書

一当用水引方之儀ニ付一色村ゟ御地頭様御役人中様へ願書差上候ニ付、此度御拾給様御役人中様方御出郷被為遊御吟味ニ付、答書被為　仰付奉畏、左ニ申上候

一駿東郡一色村用水之儀者田方百九拾五石九斗弐合、内百六拾壱石七斗五升七合ハ村内山沢地水を以仕附養水ニ仕、残三拾四石壱斗四升五合ハ井組穴堰懸り用水ニ而仕附養水古来ゟ仕来候、然ル所ニ近年右井組用水富沢村へ奪取、年々千損仕難儀仕罷在候与申上候、

此儀、右高三拾四石余之内弐拾七石九斗七升九合ハ右山沢水掛古田之加水ニ引請、残而六石壱斗七升九合ハ畑成田ニ御座候、右之内三石余ハ当時田作仕来、残而高三石余ハ流末ニ而年来水届兼申候故か、如何様之筋ニ御座候哉、年来畑作仕来申候、尤古田山沢水懸りハ用水無不足仕付養水共ニ引来申候、此度開発地と申候而も高三石余之義ニ御座候様ニ奉存候、右本田加水場所之義ハ近年格別之足し水も御座候ニ付、山沢水懸りニ不足ハ有之間敷義ニ候奉存、若私共村方へ奪取候ハヽ、其節御支配様へ御訴可申上候義、尚又去ル卯年出入差発り候節御訴訟可申上筈之処、今更何を証拠ニ奪取候抔と申上候哉、甚難心得奉存候、却而其節ハ年来水届キ兼候故、物入も難儀ニ付相除キ候旨、一札取置キ申候

一去申春、右出入御裁許有之、上郷・中郷・下郷廿九ケ村一統無甲乙用水引取候様可仕旨御書下し被遊、偏ニ偽ニ御恵ミと難有奉存候、数年旱損之場所元田面ニ相成可申与奉存罷有候と申上候

此義乍恐去申年村方頂戴之御裁許御書面ニハ、右一色村ハ内済村方ゆへ御載不被遊候、左候得ハ右訴訟方へ内済仕候趣意を以用水引取可申筈之義と奉存候、且宝永年中御書下シ迚も、三郷無甲乙用水可引取様被仰出候処、如何之筋ニ候哉、数年来引取不申候用水当年俄ニ開発仕候様ニ御願申上候而、其上私共村方ニ而水奪取候故、為難義候段申上候ハ甚難心得奉存候、一色村之義ハ大堰下之洩り水引取、村下田面加水ニ引取候故、聊も用水不足無之、所詮御給々様御役人中様此節両村井懸田面御見分被成下候様奉願上候

一当酉ノ春堀浚可仕段富沢村名主嘉六へ申談候処、同人申聞候ハ一存ニ而答も難相成候間、御地頭所御陣屋伺之上返答可致候間、一両日相待呉候様ニ申聞候ニ付、数日相待罷在候得共一向否不申越候ニ付、又々嘉六方相尋候得者、富沢村組頭小左衛門を以申越候者、御地頭様御陣屋御役人様迄相伺候処、内分ニ而ハ堀為浚候事不相成候由申聞罷帰候と申上候

此儀四月十日右村名主八郎治罷越此度御地頭御役人様ゟ開発被仰付、埋り居候堀筋掘り申候、右ニ付其村地内埋り申候堀筋浚度候間、立合申候様ニ申聞候ニ付、百姓共江も為申聞、此方ゟ挨拶可致旨申、二三日過組頭を以当時俄ニ開発被成候義、私共村計り ニ而何れニも挨拶難致候間、大切之用水之義得と相糺被申候上ニ而之義ニ致度段申遣候所、翌日右村組頭伝七を以申越候者、内分ニ而ハ堀浚不相成候哉、否急度承度段申聞候ニ付、私申候ハ、左様ニハ無之、当年ゟ開発も被成候義、一躰不足之用水堰入口ニ而多分之水入不申候而ハ相成間敷義ニ可有之哉左候得ハ、水配役中江御達シ被成候上ニ而之義与存、為念申入候と答申候処、御支配様へ御窺之上、両村立合堀浚無滞可仕旨被仰付、奉畏水配役中立会之上堀浚仕候、其砌私共村方堀筋ニ諸作仕出申候場所、来戌春迄相待呉候様、水配役御宿村半右衛門証人ニ相立候段、右村名主八郎次何為ニか甚キ偽り申上候

一其後仕附時ニ相成候得者用水一向ニ下リ不申候ニ付、富沢村嘉六江水下呉候様申聞候得者承知之旨申聞、其後一向水下り不申候ニ付、又々嘉六方へ罷越候所、同

人外出仕候由ニ而、富沢村組頭庄右衛門罷出、双方熟談之上分水致、罷帰候跡ニ而其侭堰留水下ヶ不申候与申上候

此儀先達而申参候節ハ今日名主八郎次田植致候処、水不足ニ(候脱)間水下ヶ候様申聞候ニ付、組頭共罷出水遣候、是迄之田面仕附養水引入候義、何れ之水を以致候哉、堰留申候抔とハ甚偽り申上候御義ニ御座候

一富沢村へ罷越嘉六宅江夫遣候所、他行仕候由ニ御座候間、左候得ハ組頭中ニ而も分水致給候様又々申遣候、夫ゟ人足を連レ定輪寺村へ罷越、相待罷有候処、右嘉六参候間、一色村ハ堀筋もぬれ不申候義ニ御座候間、分水致呉候様申聞候得ハ、嘉六申候ハ、手前義ハ一色村之水配人ニ而ハ無之候、水配役之者を呼寄、分水之義被頼可申候、一色村ニ水無之候而も有之候而も、自分存候事ニハ無之候、乍併是悪(非)用水引下可申存寄ニ有之候ハヽ、堰所打破り候而成共存寄次第ニ可致様申聞、私共申候者堰所取破り水下候而も先達之通り手前共罷帰候跡ニ而其侭〆切候得者水下へき様無之候、貴殿得心之上、水下給候様ニ致度旨申候得共、右嘉六我侭計申、分水致候義不相成候間、水配人取計次第可致由申候と申上候

此義我侭之筋ニハ不奉存候、一色村組頭源左衛門・同五郎右衛門・百姓代甚兵衛、其外百姓中大勢人足を連、私村方へ分水致候様ニ申参候処、此日定御年番様御役人中様堰々御見分被為遊候ニ付、堰所へ御出向申罷帰候処、定輪寺門前ニ而右村源左衛門初〆申聞候ハ、我等村方水不足ニ付三拾四石分之水下ヶ遣候様ニと申候、私申候者手前村方迚も水不足ニ有之、殊ニ何拾石分之水抔と吃致候挨拶及かたく候、先つ今日ハ少々つゝも引下ケ、三村田面ヲも見競可被申段申入候処、大勢口を揃、高声ニ申聞候ハ、此方三拾四石分水配給并諸入用割合無滞差出来候故ハ、何分三拾四石之水、下ヶ候様ニと申候、左様ならハ水配役中へ被申達候様ニと相答申候、水配役人差略次第ニ可致と申義、私我侭之義とハ不奉存候、却而右村之者堰所取破り揚ヶ落ニ可致、法外之義申聞候、私答候

ハ、如何ニも可致其趣を以、御支配様御訴可申上与相答罷帰候処、水配役中ゟ茶畑村へ罷出候様申参候付、即刻罷越申候処、三郷水配役中被相揃被申聞候ハ、熟談ニ而三ヶ村無不同用水引取可申旨、私共何分貴殿方御取計違背無御座候と相答申候、一色村之者共熟談ハ承知不致候由、其後右村ゟ何之沙汰も無御座候、私共我侭ニ用水引取不申候義ハ御小奉行様方并水配衆中用水中度々田面御見廻り被遊候所、明白之義ニ奉存候、三郷御一同之御取計違背申上候義、毛頭無御座候

右之通少しも相違不申上候、一色村ゟ願之義、御拾給様御役人中様へ御苦労奉掛候段、恐入奉存候、右村方之者共御奉行所様へ御願可申上候、心底甚奉恐入候、何卒御慈悲を以御糺之上和熟仕、用水無甲乙引入相治り申候様奉願上候、以上

安永六酉年七月

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一三〇　安永六年九月　一色村と富沢村との用水争論につき済口証文

（一七七七）

為取替申済口証文之事

一此度当用水之儀ニ付一色・富沢両村及異論候ニ付、御給々様御役人中様於三嶋宿御立会、御吟味被為遊候、然所困窮之時節ニ御座候得者、別而気之毒奉存候ニ付、千福村名主儀七・納米里村名主嘉六・茶畑村名主伝左衛門・下土狩村名主権左衛門、右四人之者取噯、内済仕度段奉願上候所、願之通被仰付御下ヶ被下置候ニ付、双方江異見差加熟談内済仕候訳左ニ記

一定輪寺・富沢・一色三ヶ村之儀者、富沢穴堰井筋ニ付水不足之年者右穴堰ニ而分水を請、夫ゟ内堰々之儀者三ヶ村役人立会分水可致候、尤三ヶ村申合、日々田面見廻り之上甲乙無之様ニ熟談可致候、若熟談調兼候節者、即刻最寄之水配人へ申達、水配人之了簡ニ随ひ可申候、勿論水配人三ヶ村田面見廻り、乍恐　御裁許

状并ニ御定書通、無甲乙取計ひ可有之候事

一一色村井懸高三拾四石余之内廿七石余者山沢地水之加水ニ田地ニ御座候得者、其年之山沢水出方多少ニ随ひ加水之差略可致候事

一富沢村井懸高廿九石余之内拾石余者山沢地水之加水田地ニ御座候得者、其年之山沢水出方多少ニ随ひ加水之差略可致候事

一田畑成之儀者御定書通連々開発可致候事

一定輪寺村之儀者此度論外村ニ御座候得とも、井組之儀ニ御座得(候脱)者一同印形仕候

右之通双方得心内済仕候上者向後相互ニ和融専一ニ致、万事厚申合仕、及再論申間敷候、依之双方済口為取替証文、仍如件

一色村
名主　八　郎　次㊞
組頭　源　左衛門㊞
同　伝　七㊞

百姓代　甚　兵　衛㊞
定輪寺村
兼帯名主　儀　七㊞
組頭　半　右衛門㊞
富沢村
御役人中

右者当用水引方之儀ニ付一色村、富沢村与及出入、一色村私共へも相懸候ニ付、先達御給々様御役人中様御立会御吟味之所、千福村・茶畑村・納米里村・下土狩村名主中右出入御願下ケ内済取噯被致事相済候ニ付、双方為取替証文私共も奥印仕候、為後日仍如件

安永六酉年九月
御宿村
水配上役　半　右衛門㊞
二ツ屋新田
同　佐　五　兵衛㊞
中土狩村
同　勘　兵　衛㊞

安永六酉年九月

千福村
水配下役　惣　七㊞
茶畑村
同　三郎兵衛㊞
下土狩村
同　三右衛門㊞
富沢村
御役人中

右者当用水引方之儀、一色村、富沢村与及出入候ニ付、御給々様御役人中様御吟味被為遊候所、時分柄之儀故、私共四人御願下ヶ取曖仕候、双方承知之上内済致候ニ付、為取替証文奥印、為後日仍如件

千福村
名主取扱人　儀　七㊞
安永六酉年九月
茶畑村
名主同　伝左衛門㊞

三　安永六年（一七七七）九月　用水争論内済につき一色村請書

差上申証文之事

一当用水引方之儀ニ付、私共両村及争論、一色村ゟ訴状を以奉願上候ニ付、御十給様ゟ御役人中様三嶋宿へ御立会ニ而双方御吟味被為遊候処、御定書并為取替証文ニも右用水引方之儀御裁許（評）之次第少も無違犯相互ニ致和熟水引取可申旨被仰付置候処ニ、御裁許無間右躰之儀奉願上候、依之隣村ニ而納米里村名主嘉六並上郷ニ而千福村名主義助、中郷ニ而茶畑村名主伝左衛

納米里村
名主同　嘉　六㊞
下土狩村
名主同　権左衛門㊞
富沢村
御役人中

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

門、下郷ニ而下土狩村名主権左衛門、御上様を奉恐入取扱為致内済度旨奉願上候処、以御慈悲被御聞届、願之通被為仰付候ニ付、右四人之名主共取扱、於私共も不調法至極奉恐入候故、早速内済難有仕合奉存候、此上者穴堰井組和熟仕申談、用水引取可申候、右御受証文奉差上候、為後日仍而如件

安永六丁酉年九月

一色村役人
富沢村役人

用水懸
御役人中様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一三　安永七年（一七七八）六月　用水掛り年番役人賄方につき村々願書

乍恐書付を以奉願上候事

一用水懸り両御年番様御役人中様方用水中御出郷御賄之儀、是迄者御年番様御方ハ小田原御領分限りニ御賄仕、外御給々様御年番之節者御知行所限りニ御賄仕来申候、然処此度両御年番御役人中様并小奉行中様御賄入用之儀、用水懸り惣高割ニ差出シ可申旨被　仰付奉畏候得共、前々ゟ差出シ不申儀、今更俄ニ差出候儀者難儀至極奉存候、是迄前格之通御年番御役人中様御賄之儀者、御銘々御領分御知行所限りニ而御座候得者、少々御高ニ過不足ハ可有之候得共、格別之儀者御座有間敷奉存候、左候得者、小奉行中様御賄而已ニ御座候得者、此上之儀者定御年番様御小奉行御壱人添、御年番様御小奉行御壱人宛御出役被遊被下候様奉願上候、ケ様被遊被下置候ハヽ、小田原御領分村方共難儀も御座有間敷奉存候、右奉願上候通御聞済被下置候ハヽ、困窮之百姓相助り候様御慈悲奉願上候、以上

安永七戌年六月

村方
名主

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一三　安永九年（一七八〇）四月　田畑成起返し差留につき願書

乍恐以書付奉願上候

当井組弐拾九ヶ村之儀者、用水不足之場所ニ御座候而、度々旱損仕候ニ付、前々ゟ村々ニ田畑成御座候処、此度中郷佐野堰掛り村々ニ而当年専田畑成起返り仕候様承及候、然ル所是迄村々ニ田畑成致置候而も度々旱損仕候場所を、中郷村方ニ而起返り地出来仕候而者猶々水不足仕、是迄之御田地相続之程も難計、井組一同之難儀ニ奉存候、依之右中郷村々起返之義、差扣候様ニ被　仰付被下置候様ニ奉願上候、尤申年出入御裁許以後ハ用水引方無甲乙相直り申候義ニ付、御給々御役人中様御立会被遊、村々田畑成之義も連々開発仕候様被　仰付御尤ニ奉承知候得共、右申上候通り水不足之土地ニ御座候而其後も度々旱損仕候得者、何卒是迄之御田地相続仕度奉存候ニ付、起返之義村々差扣罷在候、依之当分起返之義井組一同差扣候様被仰付被下置候様奉願上候、以上

安永九子年四月

稲葉紀伊守知行所
　深良村　四郎右衛門
同知行所
　久根村　太左衛門
松平内蔵允
安藤図書知行所
　上ヶ田村　伊左衛門
松平内蔵允知行所
　金沢村　六左衛門
同知行所
　葛山村　嘉左衛門
大久保金蔵領分
　御宿村　半右衛門
内藤越前知行所
　千福村　太兵衛
同知行
　定輪寺村　太兵衛

水野出羽守領分
　富沢村　嘉　六
同領分
　一色村　八　郎　次
同領分
　納米里村　嘉　六
同領分
　上土狩村　嘉左衛門
　安　兵　衛
同領分
　中土狩村　善左衛門
　甚　兵　衛
同領分
　下土狩村　権左衛門
　九左衛門

酒井沖五郎
山岡五郎作　知行所

伏見村　甚　八
　久右衛門

安藤図書知行所
　新宿村　利　兵　衛

用水御支配
御役人中様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一三四　安永九年（一七八〇）七月　田畑成起返し差留につき井組村々請書

（表紙）
安永九年
御請書之事
七月日

私共村々井組弐拾九ケ村之内、去寅卯両年水末之村々甚旱損在之、畢竟水上年来我侭之水引取来候故、流末之村

々水不行届旱損仕候間、田成畑在之難儀至極之段申立及出入候処、去申年三月　御裁許在之、木瀬川・湖水・瀬名沢其外共元水之多少ニ随ひ堰々懸引致候様ニ被仰付上者、古来之通水引下可申儀ニ付、訴訟方申口之通村々田成畑之儀茂元之田作ニ立返り可申儀与被思召候間、同年七月御給々御役人中様御一同御熟談之上、御定メ被遊候御ケ条ニ茂村々在之候田成畑連々元之田作ニ開発可仕由、井組一同奉承知罷有候上者、廿九ケ村一同連々田成畑開発可仕儀与被思召上候、然上者私共村々之儀者田成畑町分(歩)茂多ク御座候得者、連々開発之様子茂可有御座儀与被思召上候処、畢竟私共村々耕作不出精之場合ゟ等閑ニ仕打過候儀与御察被遊、去秋私共村々ハ田成畑無油断出精可仕旨被為　仰付奉畏罷有候処、当春御他領深良村外拾五ケ村ゟ御願申上候趣ハ、井組廿九ケ村之儀用水不足之場所ニ而度々旱損仕候ニ付、前々ゟ村々ニ田成畑多ク御座候処、当年中郷佐野堰懸り村々者田成畑起返仕候趣ニ及承り、是迄村々ニ田成畑致置候而も度々旱損致候処、中郷村々ニ而右躰起返致候ハヽ、夫たけ井組一同之水不足ニ可相成与挙而難義之旨申立、私共村々起返之義差扣候様ニ被仰付被下置度奉願上候、尤去申年　御裁許以来、用水引方無甲乙相改候ニ付ハ、村々田成畑之儀も連々開発致候様与御給々様方御役人中様御立会之上御定メ被遊候御趣御尤ニ者奉承知罷有候得共、前書之通り水不足之土地ニ而、其後も度々旱損在之候仕合ニ御座候故、(何脱カ)卒是迄之御田地相続致度奉存候間、起返之儀村々差扣罷在候由、依之当分起返シ之義、井組一統差扣候様ニ被　仰付被下置候様右村方ゟ奉願上趣一通り御尤ニ被思召上候、依之先達而私共村々当年田成畑起返之儀御差留差置候処、弥以此上外並之通差扣可申候、追而御給々様御役人中様御一同御相談之上、以来之義御沙汰ニ可被為及候旨被仰渡奉畏候、右之趣小前末々迄可申付候、為後日之仍如件

安永九庚子七月日

佐野村ゟ公文名村
伊豆嶋田迄六ケ村

塚部須摩右衛門様上ル

七月中御逗留

安永九三嶋宿江沼津役人稲垣一覚殿・小田原より石原伴右衛門様・塚部須摩右衛門様御出之上、田成畑見合候様ニと被仰付候趣写置候

此度被　仰渡之趣

其村々ゟ廿九ケ村之内、去寅卯両年水末之村々甚之旱損在之、畢竟水上ニ而年来我侭之水引取来候故、流末之村々水不行届度々致旱損候間、田成畑在之難儀至極之段申立及出入候処、去ル申年三月御裁許有之、木瀬川・湖水・瀬名沢其外共元水之多少ニ随ひ堰々掛引致候様ニ被　仰付候上ハ、古来之通水引下可申儀ニ付、訴訟方申出候通、村々田成畑之儀も元之田作ニ立返り可申義与存候間、同年七月御給々御役人中一同熟談之上相定メ候ケ条ニも村々ニ罷有候田成畑連々元之田作ニ開発可致旨、井組一同致承知罷在候上ハ、廿九ケ村一同連々田成畑開発可致儀与存罷有候処、然ル上ハ其村々之儀者田成畑町歩も多く在之候得者、連々開発之様子も可在之処、無其儀畢竟其村之儀者耕作不精之場合より等閑ニ致打過候儀与相察候間、去秋其村ニ田成畑無油断出精可致旨申付置候、然所当春御他領深良村外拾五ケ村ゟ願出候趣、当井組廿九ケ村之儀用水不足之場所ニ而度々旱損致候ニ付、前々ゟ村々ニ田成畑在之候処、当年中郷佐野堰掛り村々ニ而専ら田成畑起返致候様ニ承及候由、是迄村々ニ田成畑致置候而も度々致旱損候処、中郷村々ニ而右躰起返致候ハヽ、夫たけ井組一同之水不足ニ可相成与挙而難儀致候由、依之其村々起返之儀差扣候様申付在之度、尤去申年御裁許以来ハ用水引方無甲乙相改申候儀ニ付、村々田成畑之儀も連々開発致候様ニ御給々御役人中立合之上相定メ候趣尤ニハ承知致罷有候得共、前書之通水不足之土地、其後度々旱損も在之仕合上、(何脱カ)卒是迄之田地相続致度存候間、起返候義村々差扣罷有候、依之当分起返之儀井組一同差

扣候様ニ申付在之度旨願置候、右願出候趣一通相聞候間、先達而其村々田成畑発返之儀差留置申候、弥以此上外並之通り差扣可申候、追而御給々御役人中一同申談上以来之儀可及沙汰候

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

二三五　安永九年（一七八〇）九月　深良村と水配人争論につき済口証文

差上申済口証文之事

一此度駿州駿東郡深良村ゟ箱根湖水門入用之儀ニ付、普請世話仕候水配人相手取　定御年番様江出訴仕候処、水配人方江返答書被為　仰付、則返答書差上ケ候ニ付、御給々御役人衆中様御立会之上、御吟味被為　仰付候、然所双方心違も御座候儀、此上若　御奉行所様江御差出しニも相成候而者、双方入用等も相懸り候義ニ付、扱人共利解申聞内済為致度、双方江異見申入候処、和談内済仕候訳ケ左ニ奉書上候

一去亥年水配人世話仕水門普請相仕立候処、諸色入用先年ゟ少々余慶ニ相懸り、疑敷段、深良村より奉申上候処、御吟味之上ニ而水配人申訳ケも可相立申哉ニ者奉存候得共、一旦疑敷義仕候者、水配人并世話人共不調法ニ御座候、以来右躰之義急度相慎ミ可申候事

一深良村ニ而茂其村名主四郎右衛門江相懸り可申儀差越、用水御支配様江出訴仕、御世話相掛ケ候段、甚心得違、殊ニ御給々様ニ而御定被置候水配人之差図を請不申、仮役御願申上候段、是又心得違奉恐入候、已来右躰之我侭不仕急度相慎可申候、若以来我意を以不埒之義仕候ハヽ、何分之御咎ニも可被　仰付候事

右之通双方和談内済仕候上者、以来右一件ニ付御願ケ間敷義相互ニ申上間鋪候、御威光を以内済仕候段、難有仕合ニ奉存候、為其済口証文差上申候所、仍而如件

安永九子年九月

稲葉紀伊守知行所
駿東郡深良村役人惣代

訴訟方　　組頭　甚　七㊞
　　百姓惣代　伊　六㊞
小田原領
同郡二ツ谷新田
相手方　　水配人　左五兵衛㊞
同郡竹原村
相手方　　水配人　伝左衛門㊞
大久保金蔵領分
同郡御宿村
相手方　　水配人　半右衛門㊞
小田原領
同郡茶畑村
相手方　　水配人　三郎兵衛㊞
内藤越前守知行所
同郡千福村
相手方　　水配人　惣　七㊞
沼津領
同郡中士狩村
相手方　　水配人　勘右衛門㊞
稲葉紀伊守知行所
同郡深良村
普請世話人　名主　四郎右衛門㊞
小田原領
同郡伊豆嶋田村
普請世話人　名主　次　郎　八㊞
沼津領
同郡下土狩村
普請世話人　名主　九左衛門㊞
沼津領
同郡下小林村
噯人　名主　太　兵　衛㊞
同郡東熊堂村
噯人　名主　甚右衛門㊞
同郡岡宮村

曖人　　名主　源　助㊞

用水御組合
御役人衆中様

右者、去亥十二月深良村ゟ出訴仕候一件、返答書之趣熟談之上内済致候ニ付、右之通済口差上以来願書・返答書一件、双方少シも申分無御座候、為後日連印取替セ証文、仍而如件

（裾野市役所深良支所所蔵）

一三六　安永九年（一七八〇）九月　水配人より深良村宛内済金受取一札

一札之事

一此度其御村百姓中より、水配人中相手取及出訴申候処、私共三人取曖ニ而双方和談被成、依之内済金弐両其御村江相渡シ申候所少シ茂相違無御座候、一札仍而如件

安永九子年九月

下小林村　　曖人　太　兵　衛㊞
岡宮村
曖人　源　助㊞
東熊堂村
曖人　甚右衛門㊞
深良村
御役人中惣代
甚　七殿
御百姓中惣代
伊　六殿

（裾野市役所深良支所所蔵）

一三七　安永一〇年（一七八一）四月　富沢村と一色村の用水争論につき取曖証文

取曖証文之事

一五年已前酉年、用水引方之儀ニ付一色村ゟ富沢村を相手取及争論、用水御懸り御役人様迄御訴訟被申上候ニ

付、御給々御役人中様於三嶋宿御立会被為成、双方御吟味被遊候所、千福村名主茂七・茶畑村名主伝左衛門・納米里村名主嘉六・下土狩村名主権左衛門、右四人之者共取曖、双方得心之上為取替証文を以内済致候、右曖書面之通三ヶ村役人立合無甲乙分水致候処、富沢村小前百姓中了簡違にて、右分水口差綺候ニ付一色村へ水下り不申候由、依之一色村ゟ富沢村へ相断り候ニ付、及再論可申儀与気之毒ニ存候ニ付、下土狩村名主権左衛門・納米里村名主嘉六双方江異見差加へ内済致候事

一□曖書之通、水不足之年者三ヶ村役人日々立会無甲乙致分水、翌日分水致候節迄双方共堰々水口等少茂差綺申間敷候、勿論□曖書之通、双方急度相守未熟無之様可致候

一水不足之年者右之通日々三ヶ村役人分水ニ罷出候刻限定置、少茂遅参申間敷候

一用水之儀者双方共大切之儀ニ有之候間、随分及熟談無甲乙分水可致候、若我意を申もの有之、分水熟談調兼候節ハ、先曖書ニ茂相定候通り最寄之水配人江相達し、甲乙無之様取計ひ可申候

右之通双方得心致し内済仕候上者、自今遂熟談及再論申間敷候、書外之儀ハ先曖書ニ委細有之事ニ候間、不及書記候条、仍而曖書如件

安永十丑年四月

一色村
名主　八　郎　次㊞
与頭　源　左衛門㊞
同　長　蔵㊞
百姓代　半右衛門㊞

富沢村
名主　嘉　六㊞
与頭　源　七㊞
同　小左衛門㊞
百姓代　文　蔵㊞

下土狩村
噯人　名主　権左衛門㊞
納米里村
同断　名主　嘉　六㊞
（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一三八　天明二年（一七八二）七月　富沢村と一色村の用水争論につき内済証文

為取替申熟談証文之事

一此度駿東郡一色村ゟ御願申上候同郡富沢村与一同ニ引取来候御田地用水路、箱根湖水之分水字呑水用水堀之儀、堀一筋ニ而者用水引下ケ兼候ニ付、別段ニ堀筋御分ケ被下置候様御願申上候処、右用水之儀者前以再応富沢村与及争論候所、取噯を以和談内済仕罷在候、尤此度者富沢村江相掛り出入ケ間鋪申懸候義ニ而者無之、堀分ケ御願一通之儀ニ御座候得共、無甲乙可引取、用水堀一筋ニ而者用水引下ケ兼候段、両村御召出御糺被為　仰付候ハヽ、前以及争論候場所之事故、双方我意等申募候ハヽ又々及争論、乍恐　御上様江茂御厄介相掛候段恐多候間、一色村堀分ケ御願差止り、猶又（衍カ）与得富沢村与致熟談、用水無甲乙為引取候様ニ可為致候段、下土狩村名主権左衛門殿・納米里村名主嘉六殿・沼津郷宿孝七殿、右三人之衆利解被申聞候ニ付、双方納得承知熟談致候趣意者左ニ記ス

一富沢村地内字呑水用水堀并小水口弐三ケ所之儀者、前々之通内藤越前守様御知行所定輪寺村与富沢・一色、右三ケ村役人立会熟談分水仕、夫ゟ引下り字窪田堀上ニ而堀巾を定メ敷石を居、其節之有水を以富沢・一色両村江五分宛之分水いたし、右五分之分量を以富沢村所々御田地江引入レ、残五分之儀者一色村上ニ而右窪田堀上分水場同様ニ堀巾を定メ鋪石を居、右五分之分量を以一色村御田地用水ニ引キ下ケ候積り、尤日々分水刻限相定メ置、遅刻無之様ニ仕り、猶又一色村ゟ昼夜番人附ケ置双方急度相守候様ニ可致候

一両村湖水掛り御田地仕附滞者熟談之上両村仕附ニ応し水引取、仕附滞無之様専一ニ可仕候、且又養水たりとも甲乙相見候ハヽ、猶又熟談之上分水差略可有之候、大切之用水之義ニ御座候得者、随分致和融甲乙無之様ニ取計可申候

右之通取曖を以熟談致和融候上者、相互ニ不致忘却、右定メ通を以用水引取、以来争論ヶ間鋪義決而申間鋪候、為後証連印一札為取替置候所、仍而如件

天明弐寅年七月

駿州駿東郡
一色村
名主　八　郎　次㊞
組頭　源　左　衛　門㊞
同　長　蔵㊞
百姓代　半　右　衛　門㊞
富沢村
名主　嘉　六㊞
組頭　源　七㊞
同　小　左　衛　門㊞
百姓代　文　蔵㊞
下土狩村
取曖人　□□　権　左　衛　門㊞
納米里村
名主　嘉　六㊞
沼津上ヶ土町
□□　孝　七㊞

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一三九　天明五年（一七八五）三月　用水役人賄入用につき井組村々定書

相定申一札之事

一井組弐拾九ヶ村用水御用定御年番様・添御年番様御役人中様御出郷被遊候節、御休泊御賄諸入用之儀、多少之訳合も不相分候ニ付、是迄御領分限ニ御賄仕来候処、

此度村々相談を以御賄諸入用高取究、井組村々一同高割を以差出候熟談之趣、左ニ箇条相定候

一御賄之儀、所在合之品を以一汁一菜ニ而差上可申候

一御逗留中御賄諸入用之儀者、御上下共ニ御壱人前銭三百四拾八文ニ相定申候、但木銭・米代被下置候ハヽ、御壱人前銭三百文宛ニ勘定可致候

一水配御小奉行様方御賄入用之儀、御壱人前銭弐百文宛ニ相定申候、尤御代官様御一所ニ御逗留被遊候ハヽ、右御賄ニ相准シ可申候

一御賄諸入用割致候節者、日限通急度差出可申候、万一執之村方ニ而も差滞候ハヽ、組合立会其筋相糺、御賄村方江少も世話相掛不申様出精可致候

右箇条之通村々熟談之上相定候ニ付、相互ニ無違変急度相守可申候、右取究候諸入用高之外、いか程臨時入用相懸候とも、曾而相懸申間敷候、為後日一同連印仍如件

天明五巳年三月

伏見村

名主　九郎兵衛㊞
同　又右衛門㊞
同　久右衛門㊞
与頭　与惣次㊞
百姓代　五郎左衛門㊞

新宿村

名主　伊右衛門㊞
与頭　甚兵衛㊞
百姓代　仁左衛門㊞

竹原村

名主　伝左衛門㊞
組頭　七左衛門㊞
百姓代　忠右衛門㊞

下土狩村

名主　権左衛門
与頭　弥五兵衛㊞
百姓代　兵右衛門㊞

中土狩村
名主　善左衛門㊞
同　勘兵衛㊞
与頭　喜右衛門㊞
百姓代　宗次郎㊞

上土狩村
名主　五郎左衛門㊞
同　弁蔵
与頭　重左衛門㊞
百姓代　直右衛門㊞

伊豆嶋田
名主　幸八㊞
与頭　久左衛門㊞
百姓代　弥七㊞

水窪村
名主　甚兵衛
（貼紙）「御用ニ付江戸へ罷越無印」
与頭　五兵衛㊞
百姓代　次右衛門㊞

納米里村
名主　嘉六
与頭　平右衛門㊞
百姓代　幸助㊞

一色村
与頭　源左衛門㊞
百姓代　五右衛門㊞

富沢村
名主　嘉六㊞
与頭　源七㊞
百姓代　久蔵㊞

千福村
定輪寺村
名主　太兵衛㊞
組頭　弥右衛門㊞

百姓代　文左衛門㊞

御宿村
名主　彦三郎㊞
与頭　彦九郎㊞
百姓代　庄兵衛㊞

葛山村
名主　安次郎㊞
組頭　定七㊞
百姓代　喜十郎㊞

上田村
名主　伊左衛門㊞
組頭　儀右衛門㊞
百姓代　九左衛門㊞

金沢村
名主　六左衛門
与頭　又四郎
百姓代

「（貼紙）
金沢村
当名主　儀左衛門㊞
組頭　源七㊞
百姓代　由右衛門㊞」

深良村
名主　四郎右衛門㊞
与頭　伝兵衛㊞
同　庄左衛門㊞

久根村
与頭　甚七㊞
百姓代　勝右衛門㊞

神山村
名主　半右衛門㊞
同　権左衛門㊞
与頭　丈右衛門㊞
百姓代　太左衛門㊞

岩波村
名主　半蔵㊞
与頭　八郎右衛門㊞
百姓代　久左衛門㊞

石脇村

名主　弥　四　郎㊞
与頭　源　　七㊞
百姓代　甚　左　衛　門㊞

佐野村
名主　源　右　衛　門㊞
同　九　兵　衛㊞
与頭　文　　蔵㊞
百姓代　宇　兵　衛㊞

公文名村
稲荷村
名主　重　左　衛　門㊞
与頭　権　左　衛　門㊞
百姓代　兵　左　衛　門㊞

茶畑村
平松新田
名主　伝　左　衛　門㊞
同　林　　蔵㊞
与頭　次　兵　衛㊞
百姓代　安　兵　衛㊞

麦塚村
名主　源　次　兵　衛
組頭　庄　左　衛　門
百姓代　茂　左　衛　門

二ツ屋新田
名主　左　五　兵　衛㊞
百姓代　庄　右　衛　門㊞

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一四〇　天明五年（一七八五）六月　用水引方につき深良村願書

乍恐以書附奉願上候御事

一井組弐拾九ヶ村用水之義、乍恐私共村方ハ水論以来年々仕附養水共難義仕候所、別而当年ハ仕附最中ゟ度々堰被切下、漸々植附候得共、直々干上甚難義仕候、然共一流旱魃年ニ御座候間、江筋一同御定書通之分水方

と奉存、無是悲私共差略ヲ以養候得共、格別之水不足ニ御座候ニ付、内々ニ而一両度村々見廻候得者、水引方甚甲乙之取計ニ奉存候、別而当十三日并十五日厳敷切下、皆留同前千上申候ニ付水配人中江相願、小奉行様御見分被成下候所、甲乙之筋眼前ニ相分り申候由ニ而、水御入被下候、深良村之義者元来高免之場所、殊ニ両水一之口故洪水之節ハ悪水を請、渇水年ハ旱損仕何分難相立村ニ御座候所、前書奉申上候通水配人格別成甲乙之取計請候而者何分ニ茂相立不申候、依之右水配人御呼出御吟味被成下候様奉願上候、何卒右願之通被成下置候ハヽ、難有仕合奉存候、猶又乍恐委細ハ口上ヲ以可奉申上候、以上

天明五巳年六月

深良村

組頭　庄左衛門㊞

同　喜惣治㊞

同　久左衛門㊞

同　平内㊞

百姓代　勇右衛門㊞

同　伊六㊞

用水御支配
定御年番
御役人中様

当御年番
御役人中様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一四一　天明五年（一七八五）七月　争論内済につき水配人より深良村宛詫状

差出申書附之事

一　其御村方当用水之儀、拙者共心得違ニ而不同有之候由、御支配様江御訴被成候処、廿八ヶ村惣代として六人之衆中御世話ヲ以内済之趣被申入候処、御聞届ヶ被下候上者　自今其御村方ニ不限、上中下郷共無甲乙分水致、

水配役持前之儀不相欠様ニ可致候、依之一札差出申候、
以上
天明五乙巳年七月

深良村
水配上役　四郎右衛門㊞
公文名村
同　重左衛門㊞
中土狩村
同　善左衛門㊞
深良村
同　下役　伝兵衛㊞
佐野村
同　丈八㊞
下土狩村
同　弥五兵衛㊞

深良村
御役人中

御百姓中

前書之通内済之上者、水配人中以来心得違無之様ニ廿九ヶ村一同可申談候、為其加印仍而如件
天明五乙巳年七月

下土狩村
名主　権左衛門㊞
納米里村
名主　嘉六㊞
伏見村
名主　九郎兵衛㊞
御宿村
名主　彦三郎㊞
佐野村
名主　源右衛門㊞
茶畑村
名主　林蔵㊞

□村
御役人中

（裾野市役所深良支所所蔵）

一四三　天明八年（一七八八）一一月二八日　水掛り村々争論につき沼津役所宛水下村々訴状

乍恐書付を以奉申上候御事

一此度用水之儀ニ付、深良村ゟ御訴訟申上候ニ付、此節御給々様御立会被遊候、依之私共村方存寄可申上旨被仰渡承知仕、乍恐左ニ奉申上候

一当用水引方之儀、先々ゟ定水之村方も有之、夜水・間水之村方も有之、私共村方之儀ハ間水取来り候村方ニ御座候

一右間水と申候ハ、水配人日々上郷ゟあてかひ下り候処、其夜八ツ時ゟ明朝水配人あてかひ下り候時迄水引入レ申候事ニ而、先々ゟ如此御座候

一上郷ニ而仕附相済不申候内ハ、水配人分水初メ不申候、上郷仕附仕廻候上、水配人分水初メ申候事ニ而、先々ゟ如是御座候

右之通致来候処、拾五年以前安永三午年水末村方ゟ御訴訟申上候ニ付、及争論候処、於　御公儀様定水・夜水・間水其外御取用ニ不相成、同五年申年御裁許被成下、廿九ヶ村同様之水ニ被仰付、是迄奉相守罷在候、此上と而も右裁許可奉相守存寄罷在、乍併此度深良村依御願、定水計先年之通ニ立帰り、間水ハ相立不申候様ニも相成候而者村方難儀之筋ニ可相成様ニ奉存候、此段乍恐御賢察被成下度奉存候、右尋ニ付乍恐書付を以奉申上候、以上

天明八申年十一月廿八日出ス

富沢村名主
一色村名主
納米里村名主

沼津御役所

一十二月二日三嶋宿於きり屋ニ御給々様御立会被遊候而廿九ヶ村御呼出被成、深良村訴状読被聞せ、其上村々存寄之程（後欠）

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一四三　天明八年（一七八八）一一月　水掛り村々争論につき深良村他三ケ村返答書

（表紙）

天明八年
深良村
御訴状写
申十一月

用水出入

大久保長門守領分
同州同郡御宿村
同　名主　彦三郎

内藤豊後守知行所
同州同郡　千福村
同　名主代　定右衛門

大久保加賀守様御領分
同州同郡　佐野村
名主　九兵衛
相手　同　源右衛門
与頭　伊右衛門

同御領分
同州同郡公文名村
稲荷村
相手　名主　新左衛門
与頭　伝兵衛

乍恐以書付御訴訟奉申上候

稲葉主水知行所
駿州駿東郡深良村
訴訟人　名主　庄左衛門
同州
同郡久根村
同　組頭　八右衛門

同御領分
同州同郡　茶畑村
名主　林　蔵
相手　同　伝左衛門
組頭　与曾右衛門
同　治兵衛

同御領分
同州同郡　二ツ屋新田村
相手　名主　佐五兵衛
百姓代　庄右衛門

水野出羽守様御領分
同州同郡　中土狩村
同　名主　清　助
与頭　五右衛門

同御領分
同州同郡　下土狩村
名主　権左衛門

同　与頭　三右衛門
名主　与惣兵衛
百姓代　兵右衛門

同御領分
同州同郡　竹原村
同　名主　伝左衛門
与頭　七左衛門

酒井大内記様
山岡五郎作様　御知行所
同州同郡　伏見村
名主　又右衛門
同　百姓代　八右衛門
名主　九郎兵衛
与頭　与惣次

安藤図書様御知行所
同州同郡　新宿村
相手　名主　伊右衛門

与頭　甚兵衛

右訴訟人深良村名主庄左衛門外三人之者共奉申上候、右四ヶ村用水之儀ハ往古より木瀬川通地水場江用水引取、私共村々古田江引取御田地相続仕来候、然ル処寛文年中箱根湖水堀抜普請出来之節、深良村山内并田畑之場処、幅八間余・長五百間余相潰シ堀抜井筋ニ致、右湖水木瀬川江落合候ニ付、其砌御代官野邑(村)彦大夫様被遊御見分御例之上、古田江古来之通木瀬川地水を引取候様分量分石を御定、湖水之儀者堀抜出来新開之場江中郷下郷之天水場江引取候様所々江堰を御仕立被成下候、依之村々無故障御田地相続仕候、然ル処宝永年中下郷中土狩村外四ヶ村ゟ用水不足之由申立及水論ニ候得共、其節ハ湖水引方一件之出入ニ付、木瀬川地水ニ不拘御裁許被　仰付、安永年中迄村々故障無之古来之通用水引取相治り候処、安永三午ノ年佐野村外拾ヶ村ゟ用水不足之由申立、御訴訟奉申上候ニ付、与(組)合村々被召出、宝永年中御裁許書迄も御糺之上、湖水地水引方有来分量分石ニ不拘、湖水地水無差別村々甲乙なく水配人之差略を請、用水引取湖水井筋修理入用浚人足水配人給之儀ハ用水与合一同高割を以差出候様、同五年申三月中御裁許被　仰付候ニ付、御請証文奉差上、是迄相守罷在候得共、私共四ヶ村之内深良村之儀ハ外村々与違、湖水井筋字名新川を村上ニ載罷在候間、用水沢山之節ハ堤通より洩水等いたし、自然与水腐仕、殊ニ洪水之節者湖水井筋新河通水溢(コホレ)、堰保兼候ニ付、所々小堰等不残取払候間、村中一麺ニ水追込残す水腐仕、其外河并道橋押払流失仕候ニ付、年々田畑砂入亡所等出来仕候、尚又旱魃之節ハ水下同様旱損仕、其故御裁許以前ハ湖水浚普請諸入用并水配人給至迄湖水ニ而新開仕候御田地高計り諸出銭相懸り候得共、安永五年御裁許後ハ湖水地水之無差別水配給迄、古来諸入用不相懸古田地水高迄へも一同相懸、難儀至極仕候、尤洪水ニ而深良村ハ田畑水腐仕候儀ハ、湖水井筋地元村ニ御座候間、是悲(非)茂無御座候得共、御裁許以前ハ譬旱魃ニ而も木瀬川

地水分量分石限り用水引取候ニ付、旱損等一切無之致皆
納、百姓相続仕候処、御裁許後水難(スイ)無之下郷村々同様ニ
旱損仕、水旱両様毛ニ而惣百姓必至与幾詰(イキツマリか)古来深良村百
姓家数弐百四拾軒余之処、安永五年以来漸拾弐三年之間
七拾三軒相潰レ、残り候百性段々困窮仕候儀ハ、外三ヶ
村迚も水元難ハ遁候計り、困窮之儀ハ深良村同様之儀ニ
御座候得ハ、自然与退転仕るより外無御座候、此段歎敷
奉存候得ハ、畢竟湖水堀抜用水引取組合村方ニ而、高四
千弐百石程之新田開発并ニ中郷下郷天水場之ため深良
村地元村ニ罷成、水難を請難儀仕候間、外三ヶ村も困窮
難儀之段相手方村々江欠(掛)合候得共、岩波村外九ヶ村ハ承
知仕、相手方拾壱ヶ村ハ不承知ニ付、熟談調兼難儀至極
仕候、石脇村村之儀ハ四ヶ村供々御願申上度奉存候得共、
領主ゟ差留候間相扣罷在候、瀬名沢地水引方水窪村・伊
豆嶋田村・上土狩村右三ヶ村儀ハ私共四ヶ村同意ニ者御
座候得共、同御領分を相手取候事故暫見合、追訴を以可
願出旨領主ゟ申付候故、差扣罷在候由ニ御座候、相手方
之内、佐の村之儀ハ往古地水引取候六ヶ村之内ニ御座候
得共、安永年中訴訟方ニ罷出候得ハ、何れ共片付不申候、
右前文之趣、用水井筋麁絵図差添奉願上候間、何卒右始
末被為聞召訳、格別之御是悲(慈)を以相手名前之村方役人共
銘々被召出御吟味之上、安永年中迄之通、地水湖水差別
仕引取、此上百姓相続相成候様ニ被為仰付被下置候得ハ、
莫大之御是悲与大勢之百姓挙而難有仕合ニ奉存候、以上

駿州駿東郡深良村
　名主　庄左衛門
同州同郡久根村
　名主　八右衛門
同州同郡御宿村
　名主　彦三郎
同州同郡千ふく村
　名主代　定右衛門

寺社御奉行所様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一四　天明八年（一七八八）一二月　水掛り村々争論につき水下村々返答書

乍恐以書付奉申上候御事

一此度用水之儀ニ付深良村外三ヶ村ゟ　御奉行所様江御訴訟奉申上候ニ付、御給々様御立会被遊、御訴伏御読為聞被遊、私共村々存寄有之候ハヽ、可申上段被仰渡承知奉畏候、依之左ニ奉申上候

一右深良村ゟ当八月下旬組頭両人を以申越候ハヽ、右村之儀去ル安永五申年　御裁許被成下置候以後、旱損年者流末同様致旱損、水沢山成年柄ニ者致水腐、甚タ難儀仕候、此段先年出入訴訟方拾壱ヶ村江及相談逐熟談可申存寄ニ候得共、万一致破談不相調節ハ、是悲（非）御訴訟可奉申上存候、依之私共村々存寄茂有之哉之段申之ニ付、村内相談之上挨拶仕候者、去ル安永五申年　御裁許被成下置候以後、両度迄御普請等被　仰付、用水引方之儀者勿論、何ニ而茂毛頭申分無御座候、裁許奉守罷在候間、其村方御願之儀ニ付、故障之儀少茂無之段挨拶仕候、且千福村・御宿村・久根村よりハ右之儀ニ付何ニ而茂申参候儀、曾而無御座様

一富沢村・一色村・納米里村・定輪寺村・岩波村用水引方之儀、安永五申年　御裁許被　仰付候通、是迄相守罷在候、此上迚茂右　御裁許可奉相守奉存候、尤深良村外三ヶ村ゟ奉申上候ニ付、定水計り先年之通立帰り申候ニ付而者、私共村々ハ先年間之水与申引来候間、間之水相潰相引不申候得者、私共村々甚タ難儀至極ニ奉存候、此段乍恐御賢察被成下置候様奉願上候、右御尋ニ付奉申上候

一上ヶ田村・金沢村・葛山村右三ヶ村之儀者、何れニ相済候而茂指而申分無御座候、奉答上候趣如右之御座候

一神山村之儀ハ、須釜高拾五石九斗弐升計りニ御座候ニ付、先年安永年中出入節茂熟談仕、出入ニハ不相加村方故、是迄茂御定年番様水配人御差図次第相守居申候ニ付、此度迚も安永年中之通何れニ相成候共、須釜計

りニ御座候ニ付、出入ニ者不相加様ニ、此上迚茂御定
年番様水配人御差図次第相守申度候、依之右之段奉願
上候
一麦塚村之儀者、先達而安永年中ニ茂内済熟談仕候村之
儀ニ付、此度迚茂右之通之存寄ニ御座候間、乍恐右之
段奉申上候
右拾ケ村奉申上候通相違無御座候、以上
天明八申年十二月　富沢村
名主　嘉　六㊞
組頭　文右衛門㊞
百姓代　文　蔵㊞
一色村
名主　藤　蔵㊞
与頭　五右衛門㊞
百姓代　長右衛門㊞
納米里村
名主　伴　吉㊞
組頭　平右衛門㊞
百姓代　幸　助㊞
定輪寺村
与頭　半右衛門㊞
岩波村
名主　半　蔵㊞
組頭　八郎右衛門㊞
同　要右衛門㊞
百姓代　久左衛門㊞
上ケ田村
名主　助左衛門㊞
組頭　儀　兵　衛㊞
同　平　八㊞
百姓代　九右衛門㊞
金沢村
名主　六左衛門㊞
組頭　伴右衛門㊞

百姓代　好右衛門㊞

葛山村

名主　喜右衛門㊞
組頭　市右衛門
百姓代　平右衛門

神山村

名主　権左衛門㊞
組頭　久右衛門㊞
同　丈右衛門㊞
同　利兵衛㊞
同　佐次右衛門㊞
同　要右衛門㊞
百姓代　太左衛門㊞

麦塚村

名主　源次兵衛㊞
組頭　与右衛門㊞
同　甚左衛門㊞

百姓代　藤右衛門㊞

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一豎　天明八年（一七八八）一二月　水掛り村々争論につき深良村他三ケ村内済願書

乍恐書付を以御願申上候

一深良村外三ケ村より用水一件之儀ニ付、御公義様江御訴申上候処、双方熟談為致候様ニ与之儀ニ付、此度御給々様御役人様方御出郷之上、双方致熟談候様被仰渡候由、依之内済熟談取噯之儀、水配人方ゟ私共江相頼候故、噯之儀千万無心元奉存候得共、近郷之儀至而気之毒ニ奉存候ニ付、何分及候丈ケ私共取噯申度奉存候、此段取噯被仰付候ハヽ、難有仕合奉存候、以上

天明八年申十二月

大久保加賀守様御領分
駿州駿東郡沼田村

取噯人　茂左衛門
大河内彦四郎様御知行所
同州同郡大平村
同断　忠左衛門
江川太郎左衛門様御知行所（代官）
豆州君沢郡三嶋宿
同断　茂兵衛

御九給様
御役人衆中様

右之通、此度出入噯之儀相頼候ニ付相違無御座候、右願之通取噯被仰付被下置候ハヽ、難有奉存候、以上

年号月日
深良村　太次右衛門
水配人　治兵衛
石脇村　弥四郎
同　文蔵
伏見村　久右衛門
同　平右衛門

御九給様
御役人衆中様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一四　天明八年（一七八八）一二月　水掛り村々争論につき深良村他三ケ村内済請書

差上申御請書之事

一深良村外三ケ村出訴仕候ニ付、此度訴訟方相手方其外双方井組村々□□□召出御給々様御役人中様御利害被為　仰聞、其上御裁許ニ茂不相障、双方差障り無之熟談仕候様被　仰渡奉畏候、追而熟談之儀可申上候、依之御請書奉差上候、仍如件

天明八申年十二月

稲葉主水様御知行所
駿州駿東郡深良村
訴訟方　名主　庄左衛門㊞
組頭　次兵衛

百姓代　次郎右衛門

同御知行所
同州同郡久根村
同　組頭　甚　七
百姓代　久右衛門㊞、

大久保長門守様御領分
同州同郡御宿村
同　名主　彦　三　郎㊞、
組頭　善　七㊞、
百姓代　源右衛門

内藤豊後守様御知行所
同州同郡千福村
同　名主代　定右衛門㊞、
組頭　庄　兵　衛
百姓代　六郎左衛門㊞、

大久保加賀守様御領分
同州同郡佐野村

相手方　名主　源右衛門㊞、
同　九　兵　衛㊞、
組頭　伊右衛門㊞、
百姓代　宇　兵　衛㊞、

同御領分
同州同郡公文名村
稲　荷　村
同　名主　新左衛門㊞、
組頭　伝　兵　衛㊞、
百姓代　兵左衛門㊞、

同御領分
同州同郡茶畑村
平松新田
同　名主　伝左衛門㊞、
同　林　蔵㊞、
組頭　与祖右衛門㊞、
同　次　兵　衛㊞、

百姓代　安　兵　衛㊞

同御領分
同州同郡二ツ屋新田
同　名主　左五兵衛㊞
百姓代　庄右衛門㊞

水野出羽守様御領分
同州同郡中土狩村
同　名主　清　助㊞
組頭　五右衛門㊞
百姓代　長左衛門㊞

同御領分
同州同郡下土狩村
同　名主　権左衛門㊞
組頭　三右衛門㊞
百姓代　兵右衛門㊞

同御領分
同州同郡竹原村
同　名主　伝左衛門㊞
組頭　七左衛門㊞
百姓代　半　蔵㊞

酒井大内記様御知行所
同州同郡伏見村
同　名主　又右衛門㊞
百姓代　八右衛門㊞

山岡五郎作様御知行所
同州同郡同村
同　名主　九郎兵衛㊞
組頭　与　惣　次㊞
百姓代　五郎左衛門㊞

安藤図書様御知行所
同州同郡新宿村
同　名主　伊右衛門㊞
組頭　甚　兵　衛㊞

御九給様
御役人衆中様

百姓代　喜惣次㊞

奉願上候、以上

寛政元酉年六月

佐野村　名主　九兵衛㊞
同　源右衛門㊞
公文名村
稲荷村　名主　新左衛門㊞
茶畑村
平松新田　名主　伝衛門㊞
同　林蔵㊞
二ツ屋新田　名主　左五兵衛㊞

森田才右衛門様
塚部伊津右衛門様

（裾野市佐野　佐野区有文書）

一四七　寛政元年（一七八九）六月　出府員数につき水下村々願書

乍恐以書付奉願上候御事

此度深良村外三ヶ村ゟ私共十一ヶ村江相懸候用水出入之儀、今月廿五日於　御評定所ニ対決可仕旨　三御奉行所様御尊判頂戴仕候、右ニ付村々銘々出府可仕処、先年出入之節之儀等得与相糺候処、差村者銘々ニ御座候而も　御奉行所様之儀者惣代ニ而相済候事ニ付、今般も何卒中郷ゟ両人・下郷ゟ両人都合四人、先年ゟ之儀共随分承知仕候もの相撰遣申度奉願上候、左候ハヽ困窮之砌り村方諸入用懸り方も少ク、殊ニ　御奉行所様之儀者村方相揃罷出候得者却而困窮薄キ様ニ被思召候儀ニ奉存候、此段被為聞召訳、右奉願上候通被　仰付被下置候様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一四　寛政元年（一七八九）七月晦日　争論詮議日延につき水下村々願書

乍恐書付を以奉申上候

一駿州駿東郡中土狩村清助・茶畑村伝左衛門・公文名村新左衛門・伏見村又右衛門申上候者、同郡深良村外三ケ村ゟ相掛り候用水出入ニ付、竹原村伝左衛門・二ツ屋新田佐五兵衛・茶畑村林蔵・伏見村又衛門右四人罷出御吟味奉請候処、盆前帰村被　仰付難有奉存候、然ル処深良村ゟ差出候書付之義ニ付、論外村々へも抱り候義ニ御座候間、論外村々へ懸合熟談仕候様被　仰聞奉畏候、盆後ゟ段々懸合候得共村数多御座候間、区々ニ而取〆兼、右伝左衛門・佐五兵衛、林蔵者論外村々へ懸合否承り糺し罷出候積り御座候得共、当廿九日迄罷出候様被　仰渡奉恐入候ニ付、御吟味御日延奉願上度私シ共罷出申候、御慈悲を以論外村々否相分り候上、茶畑村伝左衛門外弐人罷有候内、来る六日迄御吟味御日延奉願上候、願の通り被　仰付被下置候ハヽ、難有奉存候、以上

寛政元年酉七月晦日

駿東郡茶畑村　伝左衛門
公文名村　新左衛門
中土狩村　清助
伏見村　又右衛門

寺社
御奉行所様

乍恐以書付を以奉申上候

一駿州駿東郡佐野村外拾ケ村惣代茶畑村名主伝左衛門・公文名村名主新左衛門・伏見村名主又右衛門・中土狩

村名主清助一同奉申上候、同郡深良村外三ヶ村ゟ相懸り候水論出入一件、盆前一先帰村被　仰付、尤七月廿九日迄銘々可罷出旨御請書奉差上候間、当日銘々罷出御届ケ可奉申上候所、茶畑村林蔵・二ツ屋新田佐五兵衛・竹原村伝左衛門右三人之者共儀出入懸合取掛り居候間、私共出府仕右之趣申上、時六日迄御日延奉願上候所、内添掛合も行届不申由申越シ、依而者右三人之者共罷出御吟味可奉請所、当人病気母病気等之者茂有之候ニ付、私共代り合として罷出申候、尤御早ゑ趣何ニ而茂無滞御答可奉申上候間、此段御聞添被成下、私共代り合ニ被　仰付被下置候様願上候、以上

寛政元酉年八月七日

駿州駿東郡佐野村外拾ケ村惣代
茶畑村
名主　伝左衛門
公文名村
同　新左衛門
伏見村
同　又右衛門
中土狩村
清　助

寺社
御奉行所様

一札之事

一井組弐拾九ケ村一同近年用水不足仕、依之箱根湖水渇り方宣敷致度数年心掛ケ候得共、御手ニ困窮故是迄相調不申候ニ付、此度御公儀様江御願申上度遂熟談候処、其御村方ニテ被申候者、井組一統水不足之場所ニ御座候得ハ、御尤至極之御願ニ御座候、私共村方迚茂水不足ニ而甚難儀仕候得共、深良村之義ハ井組御村方ニ而茂御存之通り両損受、誠ニ難在所ニ御座候間、只今之通りニ而も大雨の節ハ須釜土手通り水越仕、并古川通りニ茂水損等出来候故、村中大難儀仕罷有候故、此度

之御願者届ニ茂無御座候段被申達、御尤至極ニ御座候、乍去宝永年中御裁許書ハ勿論年々修復仕来候得共、猶又須釜土手通り之儀ニ付候而ハ、幾々深良村一村之御難儀ニ者仕間敷、井組廿九ヶ村一統ニ難儀可請候間、右之御願一同可被成候、右之段井組廿八ヶ村一統承知之上、連印書付遣シ申所相違無御座候、為後日仍而如件

安永九年
子七月

弐拾八ヶ村
名主
組頭㊞

深良村
御役人中

佐野堰弐間木　元口五尺五寸廻り　末口四尺三寸五分　長壱丈七尺
湖水門口ゟ割堀之内間数五拾弐間
堀抜之内間数百廿共六間
須釜新川通間数幅四間

（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

一四九　寛政二年（一七九〇）三月二一日　水掛り村々争論につき済口証文

差上申済口証文之事

駿州駿東郡深良村外三ヶ村ゟ同郡佐野村外拾ヶ村相手取、用水出入、去々申年十月中当　御奉行所様江御訴訟奉申上候者、村方用水之儀往古ゟ木瀬川通地水与唱、古田之用水ニ引取候処、寛文年中箱根湖水堀抜普請出来之節、深良村山内并田畑之場所幅八間余長五百間相潰、堀割井筋ニいたし、右湖水木瀬川江落合候ニ付、其砌野村彦太夫様御見分被遊、古田江者古来之通木瀬川地水を引取候様分量分石御定、湖水之義者堀抜出来新開之場并中郷・下郷天水場江引取候様被成下、依之村々無故障古来之通用水引取御田地相続仕候、然ル処宝永年中下郷村々ゟ用水不足之段申立、及水論候得共、其節者湖水一件之出入

ニ付、木瀬川地水ニ不拘　御裁許被仰付、安永年中迄古来之通用水引取相治り候処、安永三午年相手方佐野村外拾ヶ村ゟ用水不足之由申立、御訴訟奉申上候ニ付、組合村々被召出御吟味之上、有来分量分石ニ不拘地水湖水之無差別用水引取、湖水普請諸入用之儀者、用水組合一同高割を以差出候様ニ同五年申三月中　御裁許被仰付候ニ付、御請証文奉差上、是迄相守罷在候得共、訴訟方四ヶ村之内深良村之儀者湖水井筋字新川を村上ニ戴キ罷在候故、用水沢山之節者堤通りゟ洩水致、殊ニ洪水之節者新川通水溢村中一面ニ水腐仕、猶又旱魃之節者下郷村々同様ニ旱損仕、年々水旱両損毛ニ而必至与行詰り、近年多分之潰百姓出来仕、殊ニ御裁許以前者湖水普請諸入用之儀茂湖水高計ニ而出銭仕候得共、安永五年御裁許後者古田地水高迄江茂一同相懸り、品々難儀之段申立、安永年中迄之通湖水地水差別仕引取候様仕度旨御訴訟申上候ニ付、去酉六月廿五日御差日之御裏御判頂戴相附候ニ付、相手方ゟ右用水之儀者地水湖水之無差別、用水組合一同無甲乙可引取旨安永五申年中御裁許有之候間、其通相守罷在候旨返答書を以申上候ニ付、段々御吟味御座候内、須釜土手通之儀ニ付深良一村之難儀ニ者仕間敷旨、組合村々ゟ之書付訴訟方江取置候段申上候処、一躰右用水之儀ハ地水湖水之無差別組合村々無甲乙可引取旨安永五申年中　御裁許相済候儀を、右　御裁許以前之通仕度由之儀者難相成、組合村々ゟ取置候右書付者先　御裁許ニ不拘間追而願出候者格別、此節御取用難被遊旨御利害之趣奉承知、相手方江茂懸合、安永五申年　御裁許之通相守可申筈ニ相極、双方無申分熟談内済仕、偏ニ　御威光与難有奉存候、然上者右安永年中御裁許之儀ニ付双方ゟ重而御願ヶ間敷儀申上間敷候、為後日双方連印之証文差上申処、仍如件

寛政二戌年三月廿一日

稲葉亀之助知行所
駿州駿東郡深良村
訴訟人　名主　庄左衛門

御評定所

同州同郡御宿村
千福村
久根村
右三ヶ村惣代
大久保長門守領分
同　御宿村
組頭　善　七
同州同郡佐野村外
拾ヶ村惣代
大久保加賀守領分
茶畑村
相手　名主　伝左衛門
水野出羽守領分
下土狩村
同　名主　権左衛門
同領分　竹原村
同　名主　伝左衛門

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一五〇　寛政二年（一七九〇）四月　深良村救済をめぐる争論につき小田原藩宛下郷村々注進書

（端裏書）「深良須釜土手出入始、戌四月九日ゟ同廿三日迄小田原御貸物□付一件ニ参居候節此書付も出ス」

乍恐以書付御注進奉申上候御事

一此度深良村ゟ井組村々へ申聞候ハ天明二寅年箱根湖水御普請願目論見之節、井組廿八ヶ村ゟ取置候証文之儀ニ付御願之儀有之由ニ而、村々役人名前承度趣申参候、右ニ付早速廿八ヶ村出会之上相談仕候処、右書付之儀ハ井組一同入置候義ニ付、何ヶ様之儀ニ而茂井組一同相談之上挨拶可仕筈ニ申談仕候、然共久根村之儀ハ深良村と同御知行所之義故、井組と一同難致由、外廿七ヶ村之儀者此上及出入ニ候而茂廿七ヶ村一同可仕筈ニ申合、定書連印仕候ニ付、深良村江も廿七ヶ村一同之趣申達置候、尤深良村之儀ハ未タ江戸表ニ罷在候義故、

品々ゟ出入ニ茂相成可申哉と奉存候ニ付、此段乍恐以書付御注進奉申上候、以上

寛政二戌年四月

下郷拾ヶ村惣代
茶畑村
名主　林　蔵

森田才右衛門様
塚部伊津右衛門様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一五一　寛政二年六月（一七九〇）　深良村の救済をめぐる争論につき深良村等訴状

（表紙）
（朱書）「寛政二戌六月」
規定違変之以出入一件控
（朱書）「△印」
二ツ屋新田
佐五兵衛
岩波村
半　蔵

（朱書）「深良村」
乍恐以書付御訴訟奉申上候
「訴状の写」
稲葉亀之助知行所
駿州駿東郡深良村
訴訟人　名主　庄左衛門
同　太次右衛門
規定違変出入

大久保加賀守様御領分
駿州駿東郡佐野村
名主　九　兵　衛
相手　同　源右衛門
組頭　久　蔵
同州同郡公文名村
稲荷村
名主　新左衛門
組頭　伝　兵　衛
同州同郡茶畑村
平松新田
名主　伝左衛門
同　林　蔵
組頭　太郎兵衛
同州同郡二ツ屋新田
名主　左五兵衛
与頭　庄右衛門

同州同郡麦塚村
名主　源次兵衛
与頭　太右衛門
同州同郡石脇村
名主　弥　四　郎
与頭　九左衛門
同州同郡岩波村
名主　半　蔵
与頭　用左衛門
同州同郡神山村
名主　権左衛門
与頭　銀右衛門
与頭　利　兵　衛
水野出羽守様御領分
同州同郡上土狩村
名主　五郎左衛門
与頭　丈左衛門

同州同郡中土狩村
名主　清　助
与頭　五右衛門
同州同郡下上狩村
名主　権左衛門
与頭　平右衛門
同州同郡竹原村
名主　伝左衛門
組頭　七左衛門
同州同郡伊豆嶋田村
名主　幸　八
与頭　彦次郎
同州同郡水窪村
名主　甚兵衛
与頭　五兵衛
同州同郡富沢村
名主　斧右衛門
与頭　文右衛門
同州同郡納米里村
名主　伴　吉
与頭　甚　蔵
同州同郡一色村
名主　半右衛門
与頭　五右衛門
大久保長門守様御領分
同州同郡御宿村
名主　彦　三　郎
与頭　善　七
酒井大内記様
山岡五郎作様御知行所
同州同郡伏見村
名主　九郎兵衛
同　又右衛門
同　久右衛門

安藤図書様御知行所
同州同郡新宿村
名主　伊右衛門
与頭　甚兵衛

安藤図書様
松平内蔵亮様　御知行所
同州同郡上ヶ田村
名主　助左衛門
与頭　清八

松平内蔵亮様御知行所
同州同郡金沢村
名主　源七
与頭　伴右衛門

同州同郡葛山村
名主　喜十郎
与頭　勝左衛門

内藤豊後守様御知行所
同州同郡千福村
定輪寺村
名主　太兵衛
与頭　半左衛門

右訴訟人深良村名主庄左衛門同太次右衛門奉申上候、当村用水之儀組合六ヶ村有之往古ゟ字木瀬川地水を以古田之用水ニ仕、旱損等無之百姓相続仕候処、寛文年中組合六ヶ村外弐拾二ヶ村新開御田地、并下郷古来ゟ有来り候旱損場加水ニ為可引取、箱根湖水掘抜普請出来之節、当村山内ニ付田畑之場所幅八間余・長五百間村上地高之場所堀割字新川と唱、夫ゟ木瀬川江落合候ニ付、其砌組合弐拾九ヶ村ニ罷成候ニ付、木瀬川地水之分量分石御定被成下、地水湖水と相分用水引取来候処、安永三午年佐野村外拾ヶ村ゟ用水不足之由申立御訴訟奉申上候ニ付、組合村々被召出御糺之上、有来候分量分石ニ不拘地水湖水無差別組合村々一同無甲乙用水引取、湖水井筋普請諸入

用並ニ水配人給米之儀者用水組合一同高割を以差出し候様、同五年申三月中　御裁許被　仰付候ニ付、旱魃之節水配人時々刻々相廻り水引下ケ候ニ付、下郷村も同様旱損仕、且又雨年ニ而用水沢山之節者土手通り之御田地水損仕、右両損毛之上諸掛り等往古ゟ多分相掛り難儀至極仕候処、安永九子年井組弐拾八ケ村より当村方へ掛合候者、近年用水不足いたし一同難儀ニ付御公儀様江御願申上、箱根湖水門口床下ケ普請いたし度候間、深良村も一同御願申上呉様申立候ニ付、当村ゟ及挨拶候ハヽ、用水不足之難儀者一同之事ニ候得共、井組村々ニ而も兼而知之通両様難儀之村方ニ而、只今之通ニ而も水腐水難ニ逢、村中大難儀ニ有之間、此上湖水出方相増候得者弥々難儀相重り候儀者眼前ニ候間、此度之御願者不承知之旨及挨拶候処、弐拾八ケ村之もの共申候ハヽ、深良村両損難儀之段者組合村々一同承知罷在候間、須釜土手通り之儀ニ付候而之難儀者井組弐拾九ケ村一同難儀可請間、是非此度之御願一同いたし呉候様達而申立ニ付、其節無拠承知仕、規定証文取置之湖水御普請一同奉願上候処、御慈悲を以湖水門口幅壱丈弐尺深三尺床下ケ御普請被成下候ニ付、湖水余分ニ引取潤沢出方相嵩平水ニ而も須釜土手通洩水等仕大雨之節者水溢洩水ハ不及申、越水有之水難相増皆無同前ニ罷成、尚又旱魃之節下郷同様旱損仕近年雨損打続且亡所等も有之村方惣百姓必至と行詰、潰百姓多分出来極困窮ニおよひ百姓相続も相成兼候ニ付、右規定之通極難之所組合村々ニ而助合いたし呉候様度々掛合仕候得共、水腐損毛之助合規定ニ者無之、須釜土手破候歟、又ハ御田地砂入等有之候ハヽ、一同ニ可致之規定等と申紛し、一向取敢不申難儀至極仕候、尤弐拾八ケ村之内久根村之儀者故障申間敷旨申立候ニ付相手取不申候、右土手修覆候共砂取除之儀者宝永二酉年土手弐ケ所破、田畑砂入ニ罷成候ニ付、砂取除ケ之儀、組合村々江掛合候処、村々致難渋候故、其節当村方ゟ右之段御訴訟奉申上候処、御見分之上砂取除土手修覆之儀組合村々ニ而可致旨御裁許被　仰付、則右之趣御書下し双方江被下置、右御

裁許相守土手修覆砂取除キ仕来り候儀ニ御座候ハヽ、右弐ケ条之儀ニ付其節彼等方ゟ規定証文可取置筋決而無御座候、全ク深良村両損之内水損難儀ハ一同可引請之規定証文ニ相違無之処、只今ニ至り彼是申紛し、一村難儀為致候儀ハ、必竟私共極困窮愚昧之村方ニ御座候故、村々申合巧を以申掠メ候儀と乍恐奉存候、縦右規定証文無之候とも、湖水床下ケ御普請、以来当村方ハ弥カ上之水難を請、此躰ニ而者、既ニ退転仕候程之儀も御座候得者、何れ相応之助合いたし可呉候処、無其儀剰規定証文迄も申紛し相掠メ候段、難心得奉存候、右躰ニ而者年々潰百姓出来候故、一村退転仕候より外無御座、此段難ケ敷奉存、無是非今般御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を以相手村々被召出、御吟味之上、当村難儀之処組合村々ニ而一統引請、深良村百姓相続相成候様被為仰付被下置候ハヽ、大勢相助り難有仕合奉存候、以上

寛政弐戌年四月

稲葉亀之助知行所
駿州駿東郡深良村
庄左衛門
太次右衛門

寺社
御奉行所様

三御奉行御連印之御裏書被下置候間、早々相手之もの共江相渡し、返答書為致写、訴状相添来ル五月廿四日迄ニ双方一同罷出可相届ケもの也

四月廿五日

板倉周防守
役人

乍恐以書付奉願上候

一駿州駿東郡竹原村名主伝左衛門、二つ屋新田名主佐五兵衛、岩波村半蔵奉申上候、同州同郡深良村名主庄左

衛門、同太次右衛門方ゟ規定違変出入ニ付私共外弐拾四ヶ村四拾九人相手取来月二日御差日之御尊判頂戴相附候ニ付相手銘々可罷出筈ニ御座候処、此節農業専一之時分ニ有之、殊ニ右之内ニ者病等之ものも御座候故、無拠惣代ニ可罷出候、尤右之もの共江御吟味之儀者、私共無滞御済可奉申上候間、御慈悲(非)を以此段聞済被成下置候様、一同奉願上候、以上

駿州駿東郡佐野村
外廿六ヶ村
五拾弐人惣代
水野出羽守領分
同州同郡竹原村
名主　伝左衛門
大久保加賀守領分
同州同郡二ツ屋新田
佐五兵衛
同州同郡岩波村
半　蔵
寺社
御奉行所様

(朱書)「返答書控」

乍恐以返答書奉申上候

一駿州駿東郡佐野村・同郡公文名村・稲荷村・同郡茶畑村・平松新田・同郡二つ屋新田・同郡麦塚村・同郡石脇村・同郡岩波村・同郡神山村・同郡上土狩村・同郡中土狩村・同郡下土狩村・同郡竹原村・同郡伊豆嶋田・同郡水窪村・同郡富沢村・納米里村・同郡一色村・同郡御宿村・同郡伏見村・同郡新宿村・同郡上ヶ田村・同郡金沢村・同郡葛山村・同郡千福村・定輪寺村右弐拾七ヶ村名主・組頭五拾弐人惣代二つ屋新田名主佐五兵衛・岩波村名主半蔵・竹原村名主伝左衛門奉申上候、今般同郡深良村名主庄左衛門・同郡太次右衛

門両人より規定違変出入申立、私共を相手取、当　御
奉行所様江御訴訟奉申上、六月二日御評定所江可罷出
旨御尊判頂戴被相付恐入、左ニ以返答書奉申上候

一訴訟方申立、安永九子年箱根湖水御普請御願之節組合
弐拾八ヶ村ゟ深良村江遣し候証文之儀ハ、右村困窮助
合之ため遣し候ニ付、助合之儀度々私共村方江掛合候
得共、彼是申紛候難儀之段奉申上候得共、右証文全困
窮助合之儀ニ者無御座、須釜新川堤腹付潰地御年貢御
役組合一同ニ而差出し、万一大水之節堤破損等有之御
田地砂入御座候ハヽ、組合村々ニ而砂取除堤修覆可仕、
相対を以証文入置申候、殊ニ村方自普請之場所御普請
御願申上候儀故、後年ニ至り組合自普請相遁候抔と心
得違等閑ニも可相成哉と深良村心懸仕候間、任望ニ証
文入置候儀ニ御座候

一宝永弐酉年須釜土手破損田畑砂入仕、其節及出入候処、
砂取除土手修覆之儀組合村々ニ而可致旨御裁許被仰付、
今以相守罷在候得者、右両様ニ付私共証文可取置筋無
御座由深良村申上候得共、右村困窮助合之ためニ無御
座、破損砂入等難儀可引請証文ニ相違無御座、訳ハ右
証文文言之内、宝永年中御裁許書ハ勿論年々土手修覆
仕候得共、猶又須釜土手通り之儀ニ付候而ハ幾々深良
村一村之難儀ニ者相掛ヶ間敷と認有之候、猶又と申文
言御座候ニ而明白ニ相分り候儀と乍恐奉存候、其上右
続之文言ニも弐拾九ヶ村一同難儀可請と御座候、是又
深良村申上候通りニ候而弐拾八ヶ村ニ而難儀可引請筈、
弐拾九村と有之候ハ全以新川普請等之儀ニ而廿九ヶ村
高割ニ相掛り候儀ニ御座候

一天明弐寅年湖水門口幅壱丈弐尺深三尺床下ヶ御普請被
成下候ニ付、深良村弥ヵ上水難相増候様奉申上候得と
も、私共村方之内ニ者前々より多分之田畑成有之、御
領主御地頭所御物成相減し夫丈ヶ百姓徳分薄、其上湖
水諸入用水配人給分等之儀者右田畑成江も相掛り難儀
至極仕候ニ付、何卒用水潤沢ニ仕度右御普請御願申上
候趣意者、湖水縁通り箱根権現領并箱根宿裏地窪之場

所数ヶ所石垣築立、只今迄猶又三尺通湛方宜敷いたし、水仕方之儀も新規床下ヶ三尺仕度段奉願上候処、御見分之上差障り有之湛方之儀者堅止メ被仰付、仕方之儀新規床下ヶ壱尺被仰付、御普請出来仕難有仕合奉存候、然ル処深良村之者共床下ヶ三尺被成下候段申立、難心得奉存候、則其節御普請出来形帳控所持仕罷在候、御慈悲を以御普請被成下湖水出方宜敷相成候得共、当村々之儀一躰乾地故、右田畑成之場所起返り候程之余水者無之候、田畑成起返り不申候上ハ、深良村水難無之儀乍恐御堅(賢)察奉願上候、須釜土手通り之儀ハ大切之場所故、御普請之節堤上置腹付格別手厚被仰付、其上組合村々ニ而年々手入仕候得共、洩水越水曾而無御座候前書之通相違不申上候、右証文深良村為困窮助合遣し置候ハヽ、天明以来別而雨年打続諸国水難も御座候得ハ、其節規定通り掛合私共難渋仕候ハヽ、御訴訟可奉申上候処、是迄無沙汰ニ差置候而も水難之困窮助合証文ニ無御座候段、乍恐御堅察奉願上候、然ル処去々申年安永年中水論御裁許以後困窮仕候ニ付、御裁許以前之通地水分量分石相立候様仕度段、私共村々之内中郷・下郷拾壱ヶ村、去々申十月中相手取　牧野備前守様江御訴訟奉申上候、段々御吟味被成下右証文も奉差上候処、深良村御願之義ハ先御裁許差障候間御下ヶ願可仕段御利害被仰聞、右証文之儀ハ其節之御願ニ不拘筋違之由被仰聞候ニ付、無致方去ル三月中御下ヶ願仕候処、又候今般助合規定違変仕候旨申立候者、畢竟先出入難相立ニ付、御吟味中俄ニ存付、私共江助合之儀度々掛合候得共、承知不仕抔と申掠メ再応出入被掛致困窮之村方甚難儀至極奉存候、乍恐此段被為聞召訳、御吟味之上以来右躰無筋之出入不申掛様可被仰付被下置候様奉願上候、猶又委細御吟味之節口上ニ而可奉申上候、以上

駿州駿東郡佐野村
外廿六ヶ村五拾弐人
惣代
水野出羽守領分

同州同郡竹原村
名主　伝左衛門
寛政弐戌年六月
大久保加賀守領分
同州同郡二ツ屋新田
名主　佐五兵衛
岩波村
名主　半　蔵
寺社
御奉行所様

差出シ申一札之事

井組廿九ヶ村一同近年水不足仕、依之箱根湖水溜方宜敷致度数年心掛ケ候得共、御互ニ困窮故是迄相調不申候ニ付、此度　御公儀様江御願申上度遂熟談候所、其御村方ニ而被申候ハ、井組一統水不足之場所ニ御座候得者御尤至極之御願ニ御座候、私共とても水不足ニ而甚難儀仕候得共、深良村之義ハ井組御村ニ而も御存之通両損を請、誠ニ難在所ニ御座候而、只今迄之通りニ而も大雨之節ハ須釜土手通水越シ并ニ古川通水損等出来候故村中大難儀仕罷在候故、此度之御願ハ望ニ茂無御座段被申達御尤至極、乍去宝永年中御裁許書ハ勿論、年々土手修覆仕来り候得ハ、猶又須釜土手通り之義ニ付候而ハ幾々深良村一村之御難儀ニハ仕間敷、井組廿九ヶ村一統難儀可請間、右御願一同被成廿八ヶ村一統承知之上連印書付遣シ申所相違無御座候、為後日仍而如件

安永九子年七月

廿八ヶ村
名主
組頭　印
百姓代

深良村へ

乍恐以書付奉申上候

一御領分駿州駿東郡二ツ屋新田名主佐五兵衛・岩波村名主半蔵奉申上候、同郡深良村名主庄左衛門外壱人より井組廿七ヶ村江相掛り候規定違変出入之儀、是迄之始末御尋ニ付、乍恐左ニ奉申上候

一御尊判御添紙ニ五月迄ニ訴状返答書持参着御届可仕旨御文言ニ付、廿七ヶ村惣代として私共両人竹原村名主伝左衛門都合三人訴状返答書持参江戸着、一同御掛り板倉周防守様江当日罷出候得者、来ル朔日ニ御窺ニ罷出候様被仰渡候間、当日引取当月朔日罷出候得ハ明二日明六ツ時御評定所江罷出候様被仰付、則御請書奉差上、同日引取翌二日御評定所江罷出候処、於御白洲ニ御掛り様御尋被遊候者、双方共訴状返答之趣猶又可申聞旨被仰付候間、訴訟方訴状之趣申上規定証文差上候ニ付、私共返答書之趣有増申上候得ハ、右証文ハ如何相心得入置候哉之旨御尋御座候ニ付、右証文ハ深良村難儀之節助合可申ため二者無之、安永九子年湖水門口床下ヶ御普請願仕候間、須釜土手通修覆可仕由、猶又申合候之由証文之旨申上候得ハ、訴訟方申上候ハ須釜土手修覆之儀ハ、宝永年中御裁許ニ而御定被下候得共、証文可取置筋無之、全当村困窮之砌助合可申ため証文之由申上候得ハ、左候ハヽ普請出来候方廿七ヶ村江早々掛合可申処、無其儀是迄差置候始末難心得之旨追々御吟味可被仰付条先今日ハ引取候様被仰渡候間引取申候、然ル処当月五日御呼出し有之、御掛り様江罷出候得者於御白洲ニ御直御吟味有之候ゆへ、御評定所ニ而申上候通猶又申上候得ハ、須釜土手修覆之儀ニ候ハヽ土手修覆と認可有之筈、且訴訟方ニ而も困窮之砌助合可申議定ニ候ハヽ、文言難行届、双方難心得之旨ニ而御退席被遊、夫ゟ御留役本多常次郎様御掛り御糺之処、土手修覆之義ハ宝永年中御裁許ニ而相済有之上ハ、別証文可入筋無之、全床下ヶ御願一同可被致手段ニ廿七ヶ村之もの共深良村を見掠メ取計候と相聞候間、有躰申上候様御叱(呵)りニ御座候間、土手通り之儀ニ付深良村困窮可仕筋曾而無之旨御答申上候得ハ、然者何故ニ右

証文之内ニ深良村大難儀之由御尤至極と認メ遣し候哉、御吟味ニ御座候而已ニ而、当日引取翌六日猶又御呼出し有之、本多常次郎様御吟味ニ而銘々年等御書記し御吟味ニ付私共申上候ハ、右証文ハ安永九子年湖水湛方縁通り築立湖水門口床下ケ三尺仕度御願申上候処、湛方之儀ハ暫止メ床下ケハ壱尺願之通被為仰付、須釜新川堤腹付上置等ハ丈夫ニ出来申候、依之御見分として西原彦左衛門様・和田栄助様御出村被成候処、深良村之もの共不承知之由ニ而及難渋候間、直御願之上御見分御出村被成候望之時節ニ至、右躰故障有之候而ハ御上様江奉対奉恐入候間、無是非廿八ヶ村にて深良村任望ニ証文相渡し候儀にて、右湖水路ニ付深良村何ニ而も難儀無之儀者土手入用者勿論、其外割合等も差出し置、殊ニ去々年中　牧野備前守様江御願申上候一件之儀用水沢山ニ深良村江引請度心底ニ而、分量分石之御願を仕、誠之水難場ニ候ハヽ、是迄等閑ニいたし置候筋も無之、其上右躰分量分石之御願可仕様御座有間敷と奉存候段申上候事

右御尋ニ付奉申上候処、少茂相違之儀不申上候、以上

寛政弐戌年六月八日

御領分
二ツ屋新田
名主　佐五兵衛
岩波村
名主　半　蔵

郡
御奉行所様

乍恐以書付奉申上候

一御領分駿州駿東郡二ツ屋新田名主佐五兵衛・岩波村名主半蔵奉申上候、同郡深良村名主庄左衛門・太次右衛門ゟ井組廿七ヶ村江相掛り候出入ニ付、先達而ゟ惣代ニ竹原村伝左衛門一同罷出、右伝左衛門儀者馬喰町山城屋弥市方ニ止宿罷在、私共儀ハ浜松町上総屋吉兵衛

方ニ止宿罷在候、然ル処惣代ニ罷出候伝左衛門と私共引分罷在候而者万事相談等難行届ニ付、伝左衛門宿江同宿仕候か勝手之趣沼津表御役所ゟ御達し有之候ニ付而ハ、何方ゟ右躰之儀申遣し候哉、猶又吉兵衛取計方不埒之筋も有之候ハヽ、当於御役所ニ被仰付方も有之且不埒之儀も候ハヽ、山城屋弥市方江宿替可仕之旨段々始末御尋ニ御座候、此段前書之始末沼津表江私共ゟ申上候儀曾以無御座候、勿論山城屋弥市方江宿替可仕之旨被仰渡奉恐入候、此度之出入ニ付而ハ宿吉兵衛殊之外心添いたし弥市取計とハ格別出情仕候儀ニ御座候間、此上如何様被仰渡候而も私共ハ勿論之儀、向後替合ニ罷出候ものも吉兵衛方ニ止宿為仕度奉存候、畢竟先出入之節ゟ引続弥市方ハ馴染之儀、吉兵衛ハ昨今之事ニ而心底不存故、取計方如何と存相残り候村方之内ニ而如何様申上候哉、私共ハ一向不奉存候、今更ニ相成候而ハ伝左衛門初却而吉兵衛を力ニ存、諸相談いたし候仕合ニ御座候間、前書申上候通弥市方江宿替いたし候存寄無御座候条、此段御堅察奉願上候、以上

戌六月

御領分
二ツ屋新田
名主　佐五兵衛
岩波村
名主　半　蔵

郡
御奉行所様

乍恐以書付奉申上候

一御領分駿州駿東郡二ツ屋新田名主佐五兵衛・岩波村名主半蔵奉申上候、同郡深良村ゟ相掛り候出入一件ニ付、昨二日御掛り板倉周防守様江被為召出候御差紙頂戴仕候処、半蔵儀病気ニ付不参、佐五兵衛一人罷出候処、御訴所江申上候へハ直ニ被為召出、最早盆前ニも相成候事故、一同一先帰村仕、来ル廿日後迄ニ又々罷出相

届ケへく旨被　仰渡、則御請書奉差上引取申候間、此段御訴奉申上候、以上

戌七月三日

御領分
駿州駿東郡
二ツ屋新田
名主　佐五兵衛
岩波村
名主　半　蔵

郡
御奉行所様

前書被　仰渡之趣私一同罷出奉承知候間、奥書印形奉差上候、以上

上総屋
吉　兵　衛

郡
御奉行様

乍恐以書付奉願上候

一駿州駿東郡二ツ屋新田名主佐五兵衛・岩波村名主半蔵・茶畑名主村林蔵奉申上候、同郡深良村ゟ出入一件之儀昨二日御懸り様ニて別紙之通帰村被　仰付候間、明四日出立道中二夜泊り帰村仕度奉存候ニ付、小田原表江之御添簡被成下置候様奉願上候、以上

戌七月三日

御領分
駿州駿東郡
二ツ屋新田
名主　佐五兵衛
岩波村
名主　半　蔵
茶畑村
名主　林　蔵

前書之通相違無御座ニ付奥書印形奉願上候、以上

上総屋　吉　兵　衛

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一三　寛政二年（一七九〇）九月　深良村救済をめぐる争論次第につき一札

（表紙―白紙）

深良村ゟ廿七ヶ村江相掛り候出入一件、七月十七日ゟ於国元取噯種々懸合候得共相済不申、同十七日夜八ツ時頃破談ニ及候、然ル所　御奉行所様御日延日限廿日迄ニ有之間、直ニ十八日昼国元出立ニ而罷越候処、藤沢宿泊り廿日朝ゟ大風雨道中通路も留り候程之処、急御用故罷出候、然ル所六郷川支候故、無是悲（非）川崎宿ニ逗留致、廿二日夕漸江戸表着廿三日朝双方一同ニ御掛り様江破談御届并着御届書付差上候処、暫差扣へ候様訴所ニ而被仰付候間、双方控居候、七ツ時ゟ御掛り本田様御出被遊、夫ゟ御吟味有之候、双方御呼出被成候而先ツ相手方へ御尋被遊候ハ、先達而国元ニ而取噯候内済熟談有之候処、破談致候段相届ケ候いかゝ之訳ニ而、内済相届不申哉と御尋被遊候、私共答上候ハ、是又　御上様江御苦労奉掛候も奉恐入、殊ニ村方入用相掛り候も難儀奉存候ニ付、取噯人共相頼種々かけ合候得共相済不申段申上候、又御尋被遊候ハ、取噯いかゝ扱候哉、其方共何程差出候様相頼候哉と御尋被遊候、私共金四拾両差出シ可申段申候得者、取扱人申聞ハ深良村余程之望ニ候得共、中々四十金ニ而ハ承知有之間敷間八十金ニ致、尤右ノ内半金ハ御給々様江御願申上、拝借候而も御願可申段申聞候、私共申聞候ハ、是迄御地頭所拝借之儀、村々困窮故年々拝借もの夥敷有之候得ハ、村方ゟ御願申上候儀ハ、何分相成不申段申聞候得ハ、噯人共其儀ハ村方願ニ者無御座、取噯人ゟ御願申上候儀ニ付、少シも御気遣被成間敷候、我等共何れとも取計可申段申聞、先ツ訴訟方へ懸合可申由、夫ゟ又々私共へかけ合候者、中々八十金ニ而ハ何分承知無之候、訴訟方望ニハ、年々四百俵ツヽ、損毛有之候間、其心

得ニ而取扱くれ候様ニと申候間大双成儀申居候ニ付、何分相届キ不申間、又五十金余相増、其内地頭拝借願都合可致段取噯人とも申聞候得共、大金之儀故よふ意ニハ調達難仕、彼是と取慥龍在候内、もはや御日延日限廿日迄ニ候得ハ、又々御日延願ニ而も不仕候而ハ何分内済調申間敷段申聞候得共、此上ハ深良村御日延、何分不承知之由取噯人共ゟ申聞候間、迚も相談調申間敷と奉存候間、無是悲破談仕候段申上候

九月七日御吟味之上追訴差上候、并村々割付も差上候処ハ、天明元丑ゟ同八申迄八ヶ年分差上候、又々被仰付候者、去酉年分村々割付差出候様ニ被仰付候間、又国元へ取ニ遣ス、幸八、九月九日江戸出立ニ而国へ帰ル

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一三三　寛政三年（一七九一）四月　深良村救済をめぐる争論につき済口証文

（表紙）

寛政三亥年
深良村と廿七ケ村　出入済口証文并ニ預り証文控
四月

茶畑村
名主　林蔵㊞

差上㊞申済口証文之事

駿州駿東郡深良村ゟ同郡佐野村外廿六ケ村へ相掛り訴上候者、村方用水之儀、往古ゟ字木瀬川地水を以古田之用水ニ仕、旱損無之百姓相続仕候処、寛文年中廿九ケ村用水為可引取、箱根湖水堀抜普請出来之節、当村山内并ニ田畑之場所、幅八間長五百間村上地高之場所堀割字須釜新川と唱江、夫ゟ木瀬川江落合候ニ付、其砌より組合廿九ケ村ニ罷成り候ニ付、木瀬川地水之分量・分石御定被成下、地水・湖水と相分用水引来り候

処、安永三午年佐野村外十ヶ村ゟ、用水不足之由申立、御訴訟奉申上候ニ付、組合村々被召出御糺之上、有来り候分量・分石ニ不抱、地水・湖水之無差別組合村々一同無甲乙引取、湖水諸掛り組合一同高割ヲ以差出候様、同五年申ノ三月中御裁許被仰付候ニ付、旱損之節者水配人相廻り水下ヶ候故、下郷村々同様旱損仕、且又雨年ニ而用水沢山之節者、土手通り御田地水損有之、両損難儀至極仕罷在候処、安永九子年井組廿八ヶ村ゟ深良村江掛合候者、近年用水不足いたし一同難儀ニ付、此度　御公儀様江御願申上箱根湖水床下ヶ普請仕度間、深良村も一同御願申上呉候様申之ニ付、相答候者用水不足之難儀者一同ニ候得共、井組村々存之通、当村方之義者水旱両損ニて、是迄之通りニ而も水損難凌大難渋ニ有之間、此上湖水出方相増候時者、弥難儀相増候ニ付、一同御願者難相成段申入候得者、須釜土手通之儀ニ付候而之難儀者、井組廿九ヶ村ニ而一同難儀可引受間、是非此度之御願ニ一同いたし呉候様、達而申之ニ付無拠承知仕、右趣之規定証文請取之御普請一同御願申上候処、湖水門口幅壱丈弐尺深三尺床下ヶ御普請被仰付、其後井組村々ハ是迄之旱損地も潤沢仕極上田ニ相成、村々豊作を請候得共、深良村之儀者湖水潤沢ニ随ひ、年々水損相増潰百姓出来難儀ニ候間、規定約速(束)通助合いたし呉候様、度々掛合候処、久根村之儀者故障無之旨申之候得共、相手方廿七ヶ村之儀者、須釜土手破損ゟ、又ハ御田地へ砂入等茂出来いたし候節、一同普請可致規定証文抔と申紛し取敢不申、右土手修覆砂取除之儀者、宝永年中御裁許ニ有之故者、右弐ヶ条之儀ニ付、彼等方より規定証文可取置筋決而無御座、全水難助合可致之規定証文入置、今更違変いたし難儀仕候段申立、去戌四月中　板倉周防守様へ御訴訟奉申上、同六月二日御差日之御裏御判奉頂戴、相手方へ相附候ニ付、当日双方罷出相手方ゟ返答書を以答上候者、右証文者深良村困窮為助合之入置候証文ニ而者無御座、須釜新川堤腹付潰地御年貢御役、組合一

統差出シ、万一大雨之節、堤破損有之御田地砂入御座候ハヽ、組合村々砂取除ケ、堤修覆可仕相対を以入置、殊ニ自普請之場所御普請御願申上候儀故、後年ニ至り組合自普請相遁候趣心得違等閑ニ茂可相成哉と、深良村心遣仕候間、任望入置候証文ニ御座候ニ付、既ニ右文言之内ニ、宝永年中御裁許書者勿論、年々土手修覆仕候得共、猶又須釜土手通之儀者、深良村一村之難儀ニ者相掛間敷、弐拾九ケ村一統難儀可引請旨認有之、深良村申立候通候ハヽ猶又と申文言有之間敷、殊ニ廿八ケ村ニ而難儀可引請記し可有之候処、廿九ケ村一統と認メ有之候ニ付而者、全須釜土手普請相掛り候儀ニ御座候、且私共村方之内ニ前々ゟ田畑成多分出来、御領主御地頭御物成等も相減し、其上湖水諸入用水配給分等者、右田畑成迄茂相掛り、百姓徳分薄ク難儀仕候間、何卒用水潤沢仕度、湖水縁通権現領同宿裏地窪之場所、三尺通築立湛方宜敷仕、吐方茂三尺床下ケ仕度奉願上候処、御見分之上湛方之趣者皆止メニ相成、吐方之儀漸々壱尺床下ケ被仰付候処、深良村ニ而床下ケ三尺被成下候段申上候ハヽ、何共難心得奉存候、則其砌御普請出来形帳所持仕罷在候、尤田畑成之場所起返り候程之余水無之候ニ付而者、深良村水難無之段御堅(賢)察奉願上候、其上須釜土手通之儀ハ、大切之場所故御普請之節、堤上置腹付等手厚ニ被仰付、組合村々ニ而も年々手入仕候得ハ、洩水・越水等可仕様曾而無之、猶又天明以来別而雨降勝ニ而諸国水難も御座候得者、其砌規定通及掛合、私共難渋仕候ハヽ可奉出訴之処、無其儀差置今更申立候者難心得、安永年中水論御裁許以後困窮仕候ニ付、御裁許以前之通ニ地水分量・分石相立度由ニ而、中郷・下郷拾壱ケ村を相手取、去ル申十月中、牧野備前守様□奉出訴御吟味之上、先御裁許ニ差障り候間御下ケ願可仕段御利解被仰聞、右証文者其節御願ニ不抱筋違之由被仰聞候ニ付、去戌三月中一件御下ク願仕候処、又候今般助合規定違変仕候様申立、奉出訴候者、先出入難相立ニ付俄ニ存付、私共助合承

知不仕抔と申掠メ、再応被及出入ニ、困窮之村々甚難儀仕候間、以来右体無筋之義不申掛候様被仰付被下置度旨申上候ニ付、当時御吟味中ニ御座候処、江戸宿とも取扱ニ立入御日延奉願上、双方へ異見差加へ出入内済仕候趣意左ニ奉申上候

一扱人共立入双方得と承糺候処、廿八ヶ村より深良村へ入置候証文之儀者、須釜土手修覆并御田地砂取除之規定証文之由、相手方御答申上候得共、須釜土手修覆其外之儀ハ、宝永年中御裁許ニ有之上者、全深良村水難之節助合為可致之証文ニ相当り、旦深良村ニ而も難儀ニ相成候儀を、縦廿八ヶ村より如何様之証文相渡候迚、其砌一同御願仕候者、訴訟方不念、殊ニ何程助合可致共際限も無之儀、乍去相手ニ而右体之証文入置候上者、今更彼是申争候筋有之間敷義ニ付、今般取扱之上廿八ヶ村ゟ金四拾両と米百五拾俵為助合と為差出、右之内米百五拾俵者、此節深良村へ請取之残而金四拾両之儀者規定証文ニも深良村難儀之処、井組ニ而往々一同可引請之趣ニも有之間、右差出候金四拾両ハ、廿八ヶ村ニ而永代預り置、往々之助合ニ相成候様、年々壱割半之利足勘定を以、一ヶ年金六両ツヽ、毎年深良村へ相渡候筈相極、尤以来違乱無之様右預り金之儀者、廿八ヶ村連印之別紙証文、深良村へ請取之、左候得者訴訟方ニ而も申分無之、依之廿八ヶ村ゟ安永年中ニ入置候右証文為相返、以来相互ニ異論無之様相極メ申候、右之通双方至極納得之上、熟談内済仕、偏御威光と難有仕合奉存候、然ル上者右一件ニ付、重而双方ゟ御願ケ間敷儀申上間敷候、為後証連印済口証文差上申処、仍而如件

寛政三亥年四月

稲葉亀之助知行所
駿州駿東郡深良村
名主太次右衛門煩ニ付
兼帯名主
訴訟人　庄左衛門

同州同郡佐野村外廿六ヶ村惣代
大久保加賀守領分
同州同郡佐野村
相手　名主　源右衛門
酒井大内記知行所
同州同郡伏見村
同　名主　又右衛門
水野出羽守領分
同州同郡納米里村
同　組頭　甚　蔵　後
松平内蔵之丞知行所
同州同郡金沢村
同　名主　六左衛門　前
馬喰町弐丁目
大塚屋
訴訟方宿　武左衛門
山城屋

相手方宿　弥　市
芝浜松町弐丁目
上総屋
同　吉兵衛

御評定所

前書之通済口証文　御奉行所様江奉差上出入内済仕候処相違無之、然上者右本文之趣後年ニ至り相互ニ違変無之様可仕候、依之廿八ヶ村并ニ取噯人連印為取替証文、仍而如件

寛政三亥年

廿八ヶ村
名主
組頭　連印
百姓代

井組深良村
役人中

深良村へ遣候別紙証文之控へ

永代預り申金子之事

一金四拾両也

右者安永九子年箱根湖水門口床下ヶ普請組合村々ゟ御

願仕度其村方へ及相談ニ候処、其村方迄(衍カ)之通りニ而茂両損難儀之処、此上床下ヶ普請出来候而者弥水損相増難儀ニ付不承知之段被申聞候処、尤之儀ニ付、左候ハヽ須釜土手通難儀之儀者廿八ヶ村ニ而一同引請可申規定証文差出、達而一同御願申呉候様申之相頼、右普請出来仕候処、湖水潤沢ニ随ひ其村方年々水損相増難儀之趣ニ而右規定証文ヲ以助合いたし呉候様被懸合候処、村々不承知之挨拶仕ニ付此度村々相手取出訴被成、則御吟味中ニ御座候処、双方江戸宿立入取扱之上井組ゟ金四拾両米百五拾俵(俵欠カ)為差出、右之内米百五拾ハ当時其村へ相渡し、残り金四拾両廿八ヶ村へ永代預り置、年壱割半之利足ニ相定右利金壱ヶ年ニ金六両ツヽ為助合差出可申筈ニ相極出入内済仕候ニ付、則　御奉行所様へ差上御済口証文本文之通書之金子廿八ヶ村へ永代預り置申処実正也、然ル上ハ当年ゟ右利金六両ツヽ毎年十一月限ニ無遅滞村々急度割合差出可申候、尤渡方之儀者上郷ニ而御宿村・千福村、中郷ニ而佐野村・茶畑村、下郷ニ而中土狩村・下土狩村、右六ヶ村ニ而年番ニ取立相渡シ可申候、右之通致対談候上者縦風旱損毛之年柄ニ而も右を申立、少茂相滞申間敷候、万一向後廿八ヶ村之内相滞候村方出来仕候ハヽ、外村方ハ其御村方と致一同御願申上、少シも遅滞無之様可仕候、依之為後日村々連印一札相渡し申所、如件

寛政三亥年四月十四日

駿州駿東郡
佐野村
名主　九兵衛
同　源右衛門
組頭　文蔵
百姓代　宇兵衛

公文名村
稲荷村
名主　新左衛門
組頭　義右衛門

茶畑村
平松新田
名主　伝左衛門
同　林　蔵
組頭　太郎兵衛
百姓代　伝　蔵
石脇村
名主　弥　四　郎
組頭　九左衛門
百姓代　甚左衛門
神山村
名主　権左衛門
同　銀右衛門
組頭　利　兵　衛
百姓代　太左衛門
百姓代　兵左衛門
二ッ屋新田
名主　佐五兵衛
百姓代　庄右衛門
麦塚村
名主　源治兵衛
組頭　与右衛門
百姓代　藤右衛門
岩波村
名主　半　蔵
組頭　要左衛門
百姓代　久左衛門
富沢村
名主　斧右衛門
組頭　義左衛門
百姓代　文　蔵
水窪村
納米里村
名主　伴　吉
組頭　甚　蔵
百姓代　幸　助
一色村
名主　藤　蔵
同　半右衛門
組頭　五右衛門
百姓代　長右衛門
中土狩村
名主　清　助
組頭　五右衛門
百姓代　治郎右衛門
竹原村
名主　伝左衛門
組頭　七左衛門
百姓代　忠左衛門
名主　甚　兵　衛
組頭　理右衛門
百姓代　与右衛門
伊豆嶋田村
名主　幸　八
組頭　彦　次　郎
百姓代　七左衛門
上土狩村
名主　五郎左衛門
組頭　重左衛門
百姓代　安　兵　衛
下土狩村
名主　権左衛門
組頭　平右衛門
百姓代　兵右衛門
御宿村
名主　彦　三　郎

伏見村
名主　又右衛門
同　九郎兵衛
同　久右衛門
組頭　与惣治
百姓代　八右衛門

金沢村
名主　源七
組頭　伴右衛門
百姓代　由右衛門

葛山村
名主　喜重郎
組頭　勝左衛門
百姓代　権左衛門

久根村
組頭　八右衛門
同　甚七
組頭　善七
百姓代　庄兵衛

新宿村
名主　伊右衛門
組頭　甚兵衛
百姓代　喜惣次

上ヶ田村
名主　安左衛門
同　義兵衛
組頭　文右衛門
百姓代　庄左衛門

千福村
定輪寺村
名主　太兵衛
組頭　半左衛門
百姓代　六郎左衛門
同　弥右衛門
百姓代　勝右衛門

深良村
役人中

右之証文寛政三亥年四月十四日井組役人立会之上深良村へ渡ス、但し深良太次右衛門・治兵衛両人参候会所いつ嶋田西光寺其節百五十俵分代金ニ而五十三両弐分余渡ス、尤受取書付取下土狩ニ預り置、米相場廿八俵かへ銭五貫四百文かへ、右ノ金子も同日渡シ済也、夫ゟ四月十五日立ニ而済口ニ江戸行公文名村新左衛門・金沢村六左衛門・納米里村甚蔵三人惣代四月廿一日　御評定所ニ而済口差上双方相済四月下旬帰村、右文言ニ而ハ上中下六ヶ村ニ限永々取集メ深良村へ遣候様ニ相成候、左候而者六ヶ村末々難儀いたし候事故、又々井組へかけ合廿八ヶ村順番以年番ニ取集メ候筈ニ申合定書別段取極申候、依之右定書文言控左ニ印ス

井廿八ヶ村申合定書写左ニ印

永代預り申金子之事

一金四拾両也

右者安永九子年此文言前書之文言印ニ不及年号同様

村々
名主
組頭
百姓代

同様

深良村
役人中

右之通金子預り連印一札深良村へ相渡候得ハ、別紙元金割合仕置利金六両割合帳面仕立、毎年十一月廿日限り取立当番村方へ遣シ可申候、右書面ニ上郷・中郷・下郷ニ而六ヶ村取立村ニ相顕シ候得共、右六ヶ村年番相済候上ハ以来村々順番ニ取立候様可仕候、以来六ヶ村計へ御世話ニ掛ケ申間敷候、廿八ヶ村ニ而取立順番可仕候、為其取立料金壱分廿八ヶ村相談之上右利金ニ加へ割合致置候間、当番之節ハ取立世話可仕候、則別紙利金割合帳村順継送り右日限通取立、六ヶ村之内へ年々無間違急度相渡可申候、依之相渡候一札控へ添書連印取極申処仍而如件

寛政三亥四月

廿八ヶ村
名主
組頭
百姓代　連印

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一五四　寛政三年（一七九一）八月　深良村救済をめぐる争論につき内済証文

奉差上内済証文之事

一駿州駿東郡深良村ゟ外箱根湖水井組弐十八ヶ村江相懸り候出入ニ付、出訴村方ゟ申立候者、去ル安永三午年下郷拾壱ヶ村ゟ申立候用水引方出入御裁許以後、引続安永九子年右井筋水乗り方無少、井組之村々潤沢届兼候趣を以、樋口ニ而三尺余切下ケ之御普請今般之相手方弐拾八ヶ村より御願申度段申之、深良村江茂一同致相願候様かけ合有之候処、深良村之儀全躰右堀抜出来候已後往古ゟ無之村上高ミ江流れを戴キ候ニ付、自然ニ地面冷一躰作毛不宜、尚又大雨之節者村内押水砂入

等出来難儀致候上ニ、前午年出入御裁許後者地水湖水之無差別用水引方被為仰付候得ハ、於深良村ニ者前々ニ無之照年ニ者時々旱損ニ出会、当時之振合ニ而者全水旱両損毛之難在所ニ御座候処、此上井筋江水嵩増候而ハ弥上水難相増候道理ニ而一村ニ拘り候難義相扣候形ニ御座候得ハ、右御普請等之儀者却而当村方ゟハ差拒ミ候筋ニも可有御座候哉、併惣郷格別ニ御田地養ニ茂拘り候義一村之損益ニ引合、彼是差綺候儀者　御上江之恐れ与存候ニ付、右御願之儀者村方之勝手ニ可被為任、深良村之儀者曾而不承知之旨挨拶之仕候所、強而廿八ヶ村ゟ申聞候者深良村難在所之儀者顕然察居候得ハ、此節之御願井元之村方を背キ申立候而者我等共願趣意ハ薄ニも可相成哉迷惑ニ候間、是非一同致し願呉候様、勿論右御願相叶候上者、水旱両損毛之よなひ合助合等者井組村方ゟ致方も可有之、深良村一村之難義ニ者相懸ケ間敷旨申之候ニ付、無拠荷胆(担)致し則右後候而之助合規定として組合廿八ヶ村ゟ連印之証文取之、漸御願一同申上候義ニ御座候処、果而其後水難相増雨天之節ハ押水等致、当井筋乗水殖候上者惣田面差水いたし、連年地頭所御割附も格別ニ減米相立、村方潰百姓等多出来、何分難立行候ニ付、右規定証文ニ縋り連印之村方江助合無心申懸ケ候義ニ御座候処、彼是右規定証文を難し、助合承知不仕候

一右連印証文之表、今般出入相手弐拾八ヶ村ゟ一同申立候者、右証文ニ湖水井筋須釜土手通り之儀ニ付候而之難義者、深良村一村之難義ニ者相掛ケ間敷と申文言ニ泥ミ、深良村与品々申立候得とも、右井組之村方一同難儀可請と申文言ハ、全土手修覆或者出水之節砂浚等之儀ニ而、別ニ大想成ル村方之困窮を助合可申抔と申筋ニ者決而無之条申之、右規定異変出入と相成、当時寺社　御奉行板倉周防守様御吟味中ニ御座候

右出入今般取噯人共双方江手段申替候者、訴答ゟ申立候文言論書之儀者何れ之筋与申訳、可取噯手段無之候得とも、畢竟訴訟方者寛文以来往古ニ無之村内高ミ内新小出

来候得者、村方之内潰地も出来、其上雨年ニ者田面冷、尚又出水之節ハ砂押等致一村限り之難在所ニ者相違も無之哉ニ候処、外廿八ケ村之義者旱損之難儀者井組平均之難ニ可有御座候得共、右様水腐押水等之難儀ハ相遁れ候儀ニ御座候得ハ、譬ハ右規定之書面ニ不相拘候共、少之助合ハ井組村方ゟ致候而も、井組之村々遂和融、御田地養村方相続仕、永用水引方等之儀ニ付御上御厄害ニ不相成様仕候得ハ、自方双方無難之姿ニ候処、殊ニハ此度御吟味中御利害之御内々も互ニ我意等申募、長ク及異論候内ニ者夫々入用も相掛り、其上出入之儀者御吟味之上如何可被為仰付哉も難計様義ニ御座候得ハ、是非双方共ニ存寄をよなひ助合致候而も内済仕候様厚キ御憐愍之御利解も難有奉承知候ニ付、今般相手方弐拾八ケ村より格別之了簡を差加、助合として合金百三拾三両壱分余出金之致し、右金子乍恐御公儀様江奉願上候而、東海道筋宿方助成金之振合を以御貸附金奉願、年壱割半之御利永年々頂戴之仕、此利永壱ケ年当り金弐拾両ツヽ、年々深良村江右井組廿八ケ村ゟ助成金与仕相渡候筈ニ而、双方熟談相調内済仕、偏ニ御威光と難有奉存候、然上者安永之規定証文御差戻し此節之規定新ニ為取替証文仕、永井組村双方之者共ゟ御願ケ間敷儀決而奉申上間敷候、依之内済取噯証文双方連印奉差上候所仍而如件

戊八月

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一三五　文政元年（一八一八）一二月九日　深良村助合金受取覚

（割印）覚

一金六両㊞也

右ハ井組廿八ケ村ゟ当村江助合金、書面之通慥ニ受取申候、為念如件

文政元寅年十二月九日

深良村

名主　小林治兵衛㊞

廿八ヶ村御惣代
　御宿村
　千福村
　佐野村
　茶畑村
　中土狩村
　下土狩村
　右村々
御名主中

覚

一金六両㊞㊞也

右ハ井組廿八ヶ村ゟ当村江助合金㊞、例年之通慥ニ請取申候、為念如此ニ御座候、以上

文政七申年十二月七日

深良村
名主　仲　蔵㊞



御宿村
千福村
佐野村
茶畑村
中土狩村
下土狩村

右御村々
御名主衆中

同　四郎右衛門㊞

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

第三節　三郷の定着と水下下郷

一三六　文化四年（一八〇七）三月　裁許書年番預り等につき下郷五ヶ村定書

定

一用水御裁許書之儀、下郷五ヶ村相談之上壱ヶ年宛年番ニ相預り候ニ付、年之当番村方江相渡候節、前年番村方江五ヶ村名主立会御裁許書相改、其上右御文言亡却無之ため逐々熟談いたし候積、組合村々銀三匁ツヽ懸銭致年々壱割之利足を加御裁許書ニ相添、先番村方江相渡可申候、右懸銭年を積金高ニも相成候ハヽ、用水入用ニ割合可申候

右申合之趣定書仍如件

文化四卯三月

中土狩村
　名主　勘兵衛㊞
　同　清助㊞
下土狩村
　名主　平右衛門㊞
　同　礼治郎㊞
竹原村
　同　与兵衛㊞
伏見村
　同　又右衛門㊞
　同　与惣治㊞
新宿村
　同　与惣左衛門㊞

（箱根用水下郷古文書）

一三七　文化一一年（一八一四）六月　大堰下の用水争論につき内済証文

（表紙）
文化十一戌年
大堰下水論取噯内済写
六月

午恐以書付奉申上候

一当用水至而渇水ニ付、下郷四ヶ村植附相残り之分、三郷水配人中ゟ申越候者、三俣堰ゟ四ヶ村堰々不残皆留ニいたし、下郷江水引下ケ右四ヶ村植附為致可申段、去月廿三日より掛合有之候、然ル処三郷一統之儀ニ候ハ、水配人中懸合之趣承知之旨相答申候得共、三俣ゟ皆留之儀者只今迄無之儀、殊ニ格別難儀之儀ニ付、私共四ヶ村相談之上堰留不承知之段挨拶仕候処、猶又廿五日前日之通り皆留ニ可致段申来り、夜明ケ迄懸合ニおよび翌廿六日朝ニ至り漸熟談相調、其迄通之分水ニ相決し、下郷村々役人大勢水配人中同様ニ前日ゟ相詰居り堰所江立会、分水ニ相懸り申候処、如何之所存ニ有之候哉、莚菰ニ而厳敷規定違変いたし候ニ付、其段掛合候処、右村役人之内竹原村要右衛門重々世話仕、并ニ下土狩村幸右衛門申候者、堰相済候迄彼是不申差扣可申段申之差押候而、愈厳敷堰留申候間、私共存寄ニ取計ひ申候ハ、何ケ様之儀出来可申哉も難計、御上様をも奉恐入、私共不承知之段相断引取申候而、四ヶ村相談仕、右堰留之侭差置候而者、御太切之御田地不残旱上り大難渋至極仕候ニ付、下郷役人共世話仕候堰ニ付、前日之通り相直し置、直ニ四ヶ村役人　小田原様江罷出御訴江奉申上候処、右之始末御尋之上被為仰聞候者、双方熟談行届キ兼候哉ニも有之、右様之儀出来候ニ付、又々小奉行方出役為致可申間、熟談ニ而分水請候様被為　仰聞、難有御請申上帰村仕候、然ル処早速小奉行様御出役被遊、日々御分水被下置御請奉

申上候、依之乍恐書付を以奉申上候、尚又御尋之儀者
口上ニ而可奉申上候、以上
文化十一戌年六月十日

水窪村
名主　茂　兵　衛
与頭　与左衛門
同　茂　八
百姓代　徳左衛門
納米里村
名主　弥　四　郎
与頭　源　八
同　平右衛門
百姓代　吉左衛門
伊豆嶋田村
与頭　七左衛門
同　与　兵　衛
百姓代　善右衛門

上土狩村
名主　林　蔵
与頭　五郎右衛門
同　政右衛門
百姓代　藤右衛門

用水御支配
御役人中様

乍恐以書付奉申上候事

一中土狩・下土狩・竹原・伏見・新宿右五ヶ村役人共乍恐奉申上候者、当用水之儀五月中旬頃ゟ照続愈不足仕、植附候田面も多分旱上り植附残りに相成、難儀至極奉存候ニ付、三郷水配人中江五月廿三日掛合候処、同廿四日三俣堰ゟ厳敷分水いたし、猶又廿五日上郷・中郷堰々水切下ケ、下郷相残り候田面植附可為致由ニ御座候処、廿四日分水ニ相成、下郷水配人中三俣堰ゟ分水可致、水窪村江掛合被申候由之処、分水熟談不仕由ニ

而、分水延引ニ罷成申候間、五ヶ村仕附残り植附候儀者勿論、夫迄植付候田面も多分旱上り候得者甚難儀ニ付、翌廿五日下郷四ヶ村役人共三郷水配人衆中方江罷越シ、猶又分水之儀相頼候処承知仕、廿六日朝水配人衆中二タ手ニ相分り、上郷堰々切下ケニ儀兵衛・林右衛門罷越、三俣堰ゟ平右衛門・政右衛門分水ニ相掛り候処、水窪村名主茂兵衛并ニ納米里村役人共申候者、常躰之分水ニ御座候ハヽ、格別厳敷分水決而不承知之由申之、引退キ候得共、流末之村方仕附残多分御座候得者、三郷水配人中申合候通分水致し、犬間堰迄罷下り候処、水窪村名主茂兵衛百姓大勢召連罷出、右三俣堰分水相破り申候、右躰不法之村方御座候而者往々難渋ニ相成候儀ニ御座候得者、此段乍恐御堅(賢)察被成下、何卒向後不埒之儀無之様、御支配様御威光ヲ以右村方御吟味被成下、以来御定書之趣急度相守候様被為仰付被下置候ハヽ、難有仕合ニ奉存候、尚又御尋之上口上ヲ以可奉申上候、以上

文化十一戌年六月

駿東郡中土狩村
　組頭　善　蔵
　同　庄兵衛
　同　甚兵衛
　百姓代　利兵衛
下土狩村
　名主　権左衛門
　組頭　幸右衛門
　百姓代　要右衛門
竹原村
　組頭　茂兵衛
　同　要右衛門
　百姓代　杢右衛門
伏見村
　名主　治兵衛
　同　与惣治

組頭　常右衛門
同　平　六
新宿村
名主　喜惣治
組頭　伊兵衛
百姓代　源右衛門

用水御支配
御役人中様

乍恐以口上書奉申上候

一当用水之儀大渇水ニ付、先達而御出在被成下置難有奉存候、然ル処上中郷之儀者植付相滞申候得共、下郷之儀者相残候村方も御座候得共、雨継キ御座候ニ付水配人差略ヲ以仕附之儀相済可申哉与奉存候ニ付、両御定年番様御出在御引取奉願上候処、先月廿日御引取ニ相成、同廿二日湖水戸不残抜払ニ相成、下郷植付可仕与湖水戸抜水、同廿三日上中郷堰々切(下脱カ)ケ仕、又々翌日水窪三俣堰ゟ堰々厳敷分水仕、一両日之内植付相仕廻申度奉存候ニ付、私共六人ニ而申談之上、水久保三俣堰ゟ厳敷分水相始メ可申処、水窪村・納米里村・伊豆嶋田・上土狩村右四ケ村不承知ニ而、分水を請不申、上郷ゟ切(下脱カ)ケ候様右四ケ村申候得者、廿三日湖水戸抜水、上郷・中郷切下ケ候儀ニ付、水窪三俣ゟ厳敷分水仕、田植畦ぬり初メ候様申談之上、同廿五日水配人六人ニ而申合、翌廿六日手分ニ而上郷江者深良村平八・同村林右衛門・中土狩村儀兵衛・佐野村嘉六上郷江相登り、下郷之儀者下土狩村平右衛門・佐野村政右衛門右両人ニ而水窪村三亦(俣)西川水窪村・納米里村・上土狩村右三ヶ村掛合堰井ニ三俣東川伊豆嶋田堰右弐ケ所分水仕候処、夫ゟ犬間堰江罷下り候処、跡ニ而右堰所差破候ニ付、分水之儀一同差支ニ相成候ニ付、分水之儀差扣、依之植附出来難く、右ニ付御定年番様御出在被成下置候様奉願上候処、早速御小奉行様御出在被成下候、植付之儀も当月二日迄ニ井組廿九ケ村一同相済、難有仕

合奉存候、何卒前書申上候通り堰所相破り候之儀、御糺し被成下置候様奉願上候、此段乍恐以口上書奉申上候、以上

文化十一戌年六月

深良村
水配　平　八
佐野村
同　政右衛門
下土狩村
同　平右衛門
深良村
下役　林右衛門
佐野村
同　嘉　六
中土狩村
同　儀兵衛

用水御支配
御役人中様

済口一札之事

一当用水之儀何年ニ茂無之大渇水ニ付、井組一統大難渋仕、下郷五ヶ村之儀者植附残有之、向後ニも相成可申処、五月廿六日大堰下ゟ四ヶ村別而厳敷分水仕、下郷植付残為仕附可申候三郷水配人ゟ相掛合候処、水窪村・納米里村・伊豆嶋田・上土狩村南四ヶ村一同答候者、前々分水之儀者格別至而厳敷御座候ハヽ、上筋中筋ゟ引下ヶ候ハヽ可受候得共、大堰下計り之儀ニ御座候ハヽ難相請旨□（有カ）之候ニ付、水配人之内四人者上郷・中郷切下ケニ参候、残弐人者大堰ゟ分水相始メ、三俣両川分水字井之間堰迄罷下り候処、水窪・納米里・いつ嶋田・上土狩右四ヶ村三俣両川堰押破り我侭ニ水引入候ニ付、番之者見付、直様水配人方江相届候ニ付、分水相止立帰り相改メ候処、押破候ニ付、其分ニ而者難捨置故、水配人共相談之上直ニ小田原表江御注進奉申上候ニ付、則御定年番様・沼津御役人中様御出在被

成下、逸々御吟味被成下候処、深良村治兵衛・千福村
太兵衛・公文名村宇平次・富沢村勇蔵右四人立入願下
ケ仕、水配人中江御詫申内済仕候趣意者、重キ御裁許
御定書等も有之候処、猥りに堰押破候段心得違之筋ニ
而申訳無之候、以来者水配人中如何様之厳敷分水ニ御
座候共、三郷一統之儀ニ御座候ハヽ決而違背仕間敷候、
且又堰所差綺申間敷候、若差綺候ハヽ、御定書之通り
之御仕置被　仰付候共、少茂故障申間敷候、御裁許御
定書之通急度相守、不埒成儀無之様相慎可申候、為後
証連印之一札差上申所相違無御座候、以上

文化十一戌年六月

水窪村
名主　茂　兵　衛
与頭　与左衛門
百姓代　徳左衛門
納米里村
名主　弥　四　郎
組頭　平右衛門
百姓代　吉左衛門
伊豆嶋田
組頭　七左衛門
同　与　兵　衛
百姓代　善右衛門
上土狩村
名主　林　　蔵
組頭　政右衛門
百姓代　藤右衛門

三郷水配
御役人衆中

前書之通り私共立入願下仕、内済和融仕候処少茂相違無
御座候、以上

深良村
名主　治　兵　衛
千福村
名主　太　兵　衛

公文名村
名主　宇平治
富沢村
名主　勇蔵

済口一札之事

一当用水之儀五月中旬ヨリ照続弥不足仕、植田も旱上り仕附残之儀植付難成候ニ付、去月廿三日三郷水配人衆江掛合候処、翌廿三日三俣堰ゟ厳敷分水仕、猶又上郷堰々切下ケ候而下郷植附可為致由ニ而御座候処、廿四日下郷水配人中三俣堰ゟ分水可有之処、水窪村ニ而分水之儀故障申、其日茂延引ニ相成、五ケ村仕附残植付難成難渋仕候間、翌廿五日下郷五ケ村之内四ケ村役人共三郷水配人衆江尚又分水之儀相願候処、承知之由ニ而廿六日水配衆二タ手ニ御分被成、上郷江者義兵衛殿・林右衛門殿被相登、水窪村・納米里村・上土狩村・伊豆嶋田役人衆被申候者、常躰之分水ニ御座候ハヽ、格別厳敷分水不承知之旨被申候而被引退候得共、流末之村方仕附残多分御座候而者時季も相後レ候事故、三郷水配衆申談之上、三俣堰分水いたし、井沼堰江罷越候処、水窪村名主茂兵衛殿人足召連三俣西川堰所分水相破候段、然ル上ハ私共流末之儀ニ付甚難渋仕、殊ニ御大切之御田地仕附出来兼候而者如何可仕哉与奉存候処、早速　御定年番様ゟ御小奉行様御差出之上、植附之儀者不残出来候得共、右躰水上之御定書等も不弁、不埒之旨御座候而ハ後年及難渋、既ニ当年之所眼前日数も相後レ、格別稲草も相痛難渋仕候、殊ニ私共相守居候御定書ニ茂相逃候事故、其段御定年番様御出在沼津御役人中様御立会之上、一同御吟味之儀奉願上候処御取上被遊、双方御糺し御座候而、水上村々江厳敷御察同被遊、既ニ御吟味相詰候上者相当之御□□被仰付候処、為曖人深良村・千福村・公文名村・富沢村、右四ケ村名主中□立入、双方江利解等も有之、其上私共儀も御役人中様御立会之上重ヶ御利解御座候上ハ恐入奉

存候ニ付、噯人共趣意ニまかせ内済熟談仕度奉存候、然ル上者私共四ヶ村之者共去ル廿六日水貰ニ罷越、水配衆江相願候処、前書申上候通分水ニも取掛被申候上者、銘々掛り堰所江引取相待、分水請可申処、何心なく其場江居合候段、此度逸々御利解御察同之上者、他之堰所近辺たり共居合申間敷候所、其所ニ而心付不申段御察同之上ハ恐入奉存候、右ニ付何卒御両所様江差上候願書御下ケ被成下候様仕度奉存候、然ル上者以来右躰他之堰所等ニ居合候儀相慎可申候、為後証済口一札差出候処、仍而如件

文化十一戌年六月

中土狩村
組頭　善　蔵
同　庄兵衛
百姓代　利兵衛

下土狩村
名主　権左衛門
組頭　幸右衛門
百姓代　要右衛門

竹原村
組頭　茂兵衛
同　要右衛門
百姓代　杢右衛門

伏見村
名主　治兵衛
与頭　常右衛門
名主　与惣次
組頭　平　六

新宿村
名主　喜惣次
組頭　伊右衛門
百姓代　源右衛門

三郷水配御役人衆中

前書之通り私共立入取噯内済仕候処相違無御座候、以上

取噯人

四ヶ村名主　印

差出申一札之事

一当用水渇水ニ而下郷五ヶ村之内仕附残り多分有之候ニ付、水配人中御相談之上去ル五月廿六日大堰下タ三俣堰ゟ厳敷致分水、猶又上郷堰々ヲ茂切下ケ仕付水相下シ可申水配人中二手ニ相分り、上郷江両人罷越、平右衛門殿・政右衛門殿両人右三俣堰致分水候所、私共以心得違致故障、分水差留候ニ付、下郷仕付延引ニ罷成候間、御支配御役人中様御出在之上水配人并双方村方御吟味之上既ニ御咎ニも可被仰付候処、深良村・千福村・公文名村・富沢村右四ヶ村名主中御預ケ被成下忝奉存候、然ル上者前文之通り仕付水者不及申養水迄ニも差支ニ相成、下郷御村方江対し申訳も無之、不調法之段御聞届之上内済被成下忝奉存候、依之以来之儀者、御裁許御定書之趣急度相守可申候、為後証取噯人中奥印一札差出申所、仍而如件

文化十一戌年六月

水窪村
名主　茂兵衛
与頭　与左衛門
百姓代　徳左衛門

納米里村
名主　弥四郎
組頭　平右衛門
百姓代　吉左衛門

中土狩村
下土狩村
竹原村
新宿村
伏見村

右村御役人中

前書之通り私共立入、取噯内済仕候処少茂相違無御座候、

以上

深良村
　名主　治兵衛
千福村
　名主　太兵衛
公文名村
　名主　宇平治
富沢村
　名主　勇蔵

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一三八　文政一二年（一八二九）八月　三俣堰分水一件につき納米里村他二ケ村詫書

乍恐以書付奉願上候御事

一去六月廿二日、水窪村地内字三俣堰下郷水配人中分水先ニ而私共三ケ村ゟ分水難受旨申掛候ニ付、水配人中ゟ御小奉行様御出役先江御訴申上候間、御旅宿江私共被　御召出、御糺被遊候処、其節ハ外村々田面見競も不仕、只々村方田面旱揚候ニ、御利解之趣をも不弁、分水難受段申上候得者、其後外村々田面を茂見競候処、多分旱揚り申候儀ニ御座候得者、水配人中江対し右様申候儀、全心得違之筋を申募候段、重々不調法至極、一言之申訳も無御座奉恐入候、依之茶畑村名主甚蔵・二ツ屋新田名主佐兵衛・富沢村名主勇蔵相頼、再応御歎キ奉申上候者、已来之儀相慎、左様心得違之儀、決而仕間敷候、猶又御定書之御趣、弥急度相守可申候間、何卒格別之御憐愍を以御用捨被成下置候様奉願上候、右奉願上候通被仰付被下置候ハヽ、難有仕合奉存候、以上

文政十二己丑年八月

納米里村
水窪村
上土狩村
　名主

用水御支配　　組頭
御役人中様　　百姓代

右三ヶ村奉申上候通、私共村々相頼御詫奉申上呉候様申候ニ付種々相尋候処、全心得違ニ而一言之申訳無御座奉恐入候、今更後悔仕罷在候条相違無御座候、猶又已来右様心得違之儀決而為仕間敷、私共御引受可奉申上候ニ付、何卒此度之儀者格別之御慈悲を以御用捨被成下置候様奉願上候、右願上奉候通被　仰付被下置候ハヽ、私共迄一同難有仕合可奉存候、以上

茶畑村
二ツ屋新田
富沢村
名主　印

奉差上御請書之事

一水窪村地内三俣堰分水之儀ニ付、私共三ヶ村役人共心得違仕、御糺も可相成候処、種々御詫申上候儀ニ付格別之思召ヲ以御吟味御用捨被成下置、以後心得違無之様相慎、御裁許御定書之趣ヲ相守、諸事分水差障不相成様可仕趣被仰渡、一統承知奉畏候、依之御請証文奉差上候所、仍如件

月日

ナメリ
名主　又右衛門
組頭　弥　三　次
百姓代　平　八
長クホ
名主　茂　兵　衛
組頭　安　兵　衛
百姓代　甚　助
上土狩村
名主　林　蔵
組頭　治左衛門

百姓代　佐右衛門

為後日仲人加判仍而如件

嘉永五子五月日

深良村当人

定兵衛㊞

同　忠蔵㊞

同　徳右衛門㊞

同　甚右衛門㊞

前書之通り相違無御座候、以上

仲人　平助㊞

同　良助㊞

同　清二郎㊞

同　由左衛門㊞

南堀中

（裾野市深良　大庭重一氏所蔵）

用水御支配
御役人中様

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一五九　嘉永五年（一八五二）五月　堰切下げにつき南堀中宛へ詫書

差入申一札之事

一此度私共儀かり又筋養水不足ニ付、南堀岩田せき切下ケ候処、南堀ニ而御咎メ不成候ニ而、如何相心得如斯堰々切崩シ、不法之儀候哉、少々地水ト言、古昔よりかり又筋江水切下ケ候事無之、水不足せき堀流末伝右衛門屋敷ニ而〆切致し候場所、何様之心得ニ而右様相働き候哉、追々御尋預り候処、一言之申訳ケ無御座候、既ニ御役方何法ニ茂相及之所、各々様方御頼申種々御詫仕候所、格別之御思召ヲ以内済熟談致成下、難有仕合ニ奉存候、右様厚き御慈悲相預り候上者、向後何様之水不足之年柄ニ而茂右之堰々決而手を掛申間敷候、

一六〇　嘉永五年（一八五二）六月二日　下郷四ヶ村水不足につき通水願書

乍恐以書附奉願上候

一湖水掛下郷駿州駿東郡下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村右四ヶ村奉願上候者、当田方之義水不足ニ而必至与難渋仕候ニ付、御見分之義奉願上候処、早速　御見分被成下、一同難有仕合ニ奉存候、然処日々水配人御分水ニ致候得共、御分水先計ニ而其後者水下り不申、其侭差置候ハヽ立枯ニも相成一同歎ヶ敷奉存候間、何卒　御上様之御慈悲を以、壱度通水を以稲草不枯様致し度奉存候間、乍恐一同以書附奉願上候、右願之通御聞済被成下候ハヽ難有仕合ニ奉存候、以上

嘉永五子六月二日

下土狩村
名主　重左衛門㊞
竹原村
名主　茂兵衛㊞
伏見村
名主　八右衛門㊞
同　五平㊞
新宿村
名主　源左衛門㊞

用水御掛
御出役様

（箱根用水下郷古文書）

一六一　嘉永五年（一八五二）六月　下郷九ヶ村分水につき規定書

「（端裏書）
嘉永五子年
下郷九ヶ村規定書
」

当子年限規定之事

当年者前代未聞之稀成旱魃ニ付、湖水掛り村々一同難儀

至極いたし、最早稲草□掛時節ニ茂相成候得共、下郷村々ニ者未た壱番耕作茂出来兼、皆枯ニ及ひ候場所茂多分有之、此上捨置候而者可也生立候稲草迄茂枯ニ及ひ候様成行候而者人気ニ茂相拘リ、自然不法之儀等出来致し候而者干損難儀之時節困窮弥増可申哉ニ付、当節場所ニ寄候而ハ堅田ニ茂相成候場所茂有之候得者、問ひ水養水可也行届候ハヽ当時可也生立候稲之分実法可申哉ニ付、水窪大堰下九ヶ村之内、水元村方格別之慈愛を以一同相談之上左之通取極候

一九ヶ村養水村々田毎順々ニ水引入、壱枚毎可也引渡候ハヽ、直ニ次之田江成丈手廻しいたし、村順田毎ニ順々ニ引入、水元水下無甲乙養水引入可申事

一村々之内皆枯同様ニ而、迚茂此節水引入候共水余分ニ入、格別実法申間鋪場所、并ニ地高ニ而前同断田江水引入候而者余分之水を費、却而当時可也生立候稲草ニ障リ可申候間、右等之田江者雨水相満候歟、又者余分之水有之候節引入当時決而引入申間敷候事

一右水配り方者、下郷水配差図請、九ヶ村役人壱両人ツヽ、自他共田面江罷出、尤居村之内者只村役人水配いたし、他村役人者甲乙見届等相心得可申候

一右ニ付而者沼津様御出役御取締として御出郷相願可申事

右之通り規定者九ヶ村当年限取極メ候上者、一同和融いたし実意之取計専一ニ相心得場所ニ而異論ヶ間鋪儀急度相慎可申候、依之一同連印書付上筋四ヶ村・下筋五ヶ村江為取替致し候処、仍而如件

嘉永五子年六月

駿東郡水窪村
役人惣代百姓代　吉兵衛㊞
伊豆島田
名主　伝兵衛㊞
納米里村
名主　辰次郎㊞
上土狩村

中土狩村
下土狩村
竹原村
伏見村
新宿村
右村
御役人衆中

名主　源　吉㊞

（箱根用水下郷古文書）

一六三　嘉永五年六月　分水につき下筋五ケ村取調願

（一八五二）

乍恐以書付奉願上候

一駿州駿東郡中土狩村・下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村奉願上候者　御定年番様御引払ニ相成、并小奉行様方御引払ニ可相成趣、左候得者御分水之義御年内ニ罷成可申段水配人中ゟ断有之候、右様御座候而者下筋五ヶ村之義者水一切下り申間敷と奉存候間、無拠水久保村・伊豆嶋田村・納米里村・上土狩村右四ヶ村江熟談相掛合申候処、去廿日夜小奉行様へ被召出、格別之以御憐愍ヲ五日之間御分水可被成下段被仰渡、五ヶ村一同難有御請仕候、然処右四ヶ村之義如何相心得候哉、下村江掛合一切無御座、御上様之御下知を相背不法之義仕、殊ニ御大切之御裁許書へ相障り一同奉恐入候間、何卒御慈悲之御取計を以御取調被成下置候様奉願上候、此侭捨置候ハヽ以来何様之心得違之義も難計奉存候間、御出役之上不法心得違之段御取調可被下候様奉願上候、弥御取調ニも相成兼候ハヽ御伺之上、　御定年番様江願出、御取調奉願上度候、此段御聞届ケ可被下候様下村役人一同奉願上候、以上

嘉永五子六月日

中土狩村
名主　儀左衛門㊞
下土狩村
名主　重左衛門㊞

竹原村
　名主　要右衛門㊞
伏見村
　名主　八右衛門㊞
　同　五　平㊞
新宿村
　名主　源左衛門㊞

沼津
御出役様

（箱根用水下郷古文書）

一六三　嘉永五年（一八五二）六月　干損につき下郷村々通水願書

乍恐以書付奉願上候

駿州駿東郡湖水掛村々当田方用水不足仕候ニ付、先達而中井組一同ゟ御出郷之儀奉願上候処、早速御聞済被成下置、三郷御見分之上御分水被成下千万難有仕合ニ奉存候、猶又別而下郷筋田面干方多分ニ付、御見分之上上郷・中郷筋堰々両度皆留被成下、通水多分ニ御下ケ被下一同難有田面養仕候、然ル所日々減水相成一同難渋仕、不顧恐奉願上候儀者先年之通上郷・中郷筋堰々眉間木下水御通被下候様偏ニ奉願上候、此侭御見捨ニも相成候而者先規之振合相失、一同歎ケ敷奉存候間、何卒格別之以御慈悲右願之通被仰付被下置候ハヽ、難有仕合ニ奉存候、依之九ケ村一同御願奉申上候、以上

嘉永五子年
六月

新宿村
　名主　源左衛門㊞
伏見村
　名主　八右衛門㊞
同村
　名主　五　平㊞
竹原村
　名主　茂　兵　衛㊞

下土狩村
　名主　重左衛門㊞
中土狩村
　名主　儀左衛門㊞
上土狩村
　名主　源　吉㊞
伊豆嶋田村
　名主　伝　兵　衛㊞
水窪村
　名主　治　三　郎㊞
納米里村
　名主　辰　治　郎㊞

用水御掛御出在
御役人中様

（箱根用水下郷古文書）

一六四　嘉永五年（一八五二）六月　分水役人につき茶畑村等七ヶ村引取延日願

乍恐以書附奉願上候

一湖水掛駿州駿東郡中土狩村・下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村・茶畑村・平松新田右七ヶ村奉願上候者、先達而中より格別之御憐愍を以度々通し水多分ニ御下ケ被成下置、猶又御相当之御分水被成下、村々田面養方仕一同難有仕合ニ奉存候、右ニ付而者長々御心痛被下候ニ付、早々御引取可奉願上候之処、御仁恵ニ甘而不顧恐奉願上候者、近々御引取ニも相成候ハヽ、村々勝手我侭ニも可相成与奉存、右七ヶ村へ者水下り申間敷与奉存、只今迄御憐愍を以相助り居候稲草之分も難場同様立枯ニも相成、歎ケ敷奉存候間、何卒暫之間御引取之義御延日被成下置、是迄之通御分水被下候様奉願上候、

右願之通御聞済被成下置候ハヽ、右七ヶ村一同難有仕合

ニ奉存候、以上
嘉永五子六月日

中土狩村
名主　儀左衛門㊞
下土狩村
名主　政　蔵㊞
竹原村
名主　茂　兵　衛㊞
伏見村
名主　八右衛門㊞
同　五　平㊞
新宿村
名主　源左衛門㊞
茶畑村
名主　甚　太　郎㊞
平松新田
名主　大　助㊞

用水御掛御出在
御役人中様

（箱根用水下郷古文書）

一六五　嘉永五年（一八五二）七月一二日　三俣堰取払一件処分につき請書

差上申一札之事

箱根湖水掛リ井組駿州駿東郡廿九ヶ村江、土用明廿一日ゟ同廿五日迄五日之間、是迄之通分水可致旨湖水御定年番小田原　御出役中ゟ被　仰渡有之候処、水窪大堰下九ヶ村之内水元水窪村・伊豆嶋田・納米里村・上土狩村右四ヶ村分水迷惑之筋有之、分水　御免相願度旨下郷水配人出役先迄廿一日朝申出、同刻右四ヶ村之もの共、字三俣堰西堀東堀中筋字穴堰并番小屋等取潰し、乱妨相働候ニ付、小田原御出役中ゟ其段御掛合有之、并下郷五ヶ村之内　御領分中土狩村・下土狩村・竹原村ゟ茂御訴申上候ニ付、水窪外三ヶ村御出役先江御呼出被成御吟味候処、

水窪村名主次三郎義堰番之者江申付方不行届候故、堰番仁三郎義宇西堀堰取払、伊豆島田堰番清蔵義廿五日迄者堰取払間敷旨村役人ゟ申付候処、廿一日朝堰番ニ罷出候途中、今日ゟ堰取払候趣他村之もの任申堰取払、納米里村堰番伊兵衛義前同様村役人より申付を亡却いたし、廿一日朝堰取払候始末并水窪村百性甚兵衛義水元四ヶ村惣代ニ被相頼、去月廿一日夕分水御免願として小田原御出役中御止宿二ツ(屋)家新田江罷越、右願之筋ハ不申上下郷五ヶ村分水御請いたし候段如何之旨、酒狂之上与者乍申高声ニ五ヶ村江掛合、其外吟味之節不都合之義申立候ニ付、四ヶ村役人共ニおゐても廿一日朝ニ至リ、水配人迄分水御免之義願出候始末如何之義ニ付、右甚兵衛・次三郎・清蔵・伊兵衛右四人之者御吟味中手鎖村預ケ被　仰付置候処、此上沼津於　御役所御厳重御吟味詰之上者、何様之御咎可被　仰付義難計、先非後悔仕一同奉恐入相慎罷在、近村富沢村・一色村・下長窪村役人共江取縋、向後右躰之義無之様急度相慎可申候間、御慈悲願呉候之様一向相願候ニ付、右三ヶ村ゟ不法之始末相糺候処、当年者稀成旱魃ニ而湖水掛り水不足致し、水窪大堰下九ヶ村大高流末ニて別而難渋いたし、田方養水日々当惑いたし、御大切御田地仕付荒ニ成丈不相成様一図ニ心配致し、村役人者不及申上、小前末々ニ至迄昼夜心痛之余り下郷村々江差障候義も不心付、堰番之もの共堰々取払、甚兵衛義も村々治り方専一ニ取計候処、去ル廿日暑気凌ニ少々酒給候処、先達病後よりハ禁酒いたし居故か存之外酔出、下郷村役人江高声ニ掛合いたし候段者前後不相弁次第、其外村役人共義も旱魃ニ付田方昼夜之見廻り等之労れニ而小前末々江申付方不行届、右躰之始末ニ及ひ、今更可申上様無御座一同奉恐入候段申之候ニ付、右三ヶ村ゟ御吟味是迄ニ而手鎖村預ケ御免被成下候様奉歎願、下郷五ヶ村ニおゐても右躰御厳重御吟味ニ相成、此上何様之御咎可被　仰付も難計奉恐入、此上右一件ニ付申分願筋等毛頭無御座候間、富村沢村外弐ヶ村願之通被　仰付被下置候様中土狩村・下土狩村・竹原村ゟ茂奉歎願、御他領

伏見村・新宿村ニおゐても中土狩村外弐ケ村ゟ及掛合候処、聊申分無之趣ニ付、急度御吟味可被成候様右六ケ村ゟ歎願いたし候ニ付、此度之義ハ格別之　御慈悲を以、一同願之通御吟味是迄ニて手鎖村預ケ御免被成下候段被仰渡、一同難有仕合ニ奉存候、然ル上ハ下郷五ケ村与和熟いたし、無甲乙分水いたし、小田原御出役中者不及申上水配人共申付を相守、不法之義ハ勿論聊勝手我侭成義ハ不致様急度相慎、堰石者不及申上矢木与唱江堰石江当テ候草葉芝等ニ至迄水配人共差図之通致置、縦令御出役御見廻り無御座、又者夜中たりとも聊手入ケ間鋪義不致様堰番并小前末々迄急度申付置、向後聊たり共不奉掛御厄介候様相慎、万一被　仰渡之趣相背候ハヽ、何様之御科ニも可被仰付旨被　仰渡是又逸々承知奉畏候、依之連印御請証文差上申処、如件

嘉永五子年七月十二日

駿州駿東郡
水窪村
名主　次　三　郎
百性　甚　兵　衛
同人組合　五　兵　衛
百姓代兼右代兼　吉兵衛
組頭　元　左　衛　門

同州同郡
伊豆島田
百性　清　蔵
同人組合　文　左　衛　門
組頭善六
百姓代伊八
右代兼組頭　喜　久　八
名主　伝　兵　衛

同州同郡
納米里村
百姓　伊　兵　衛
同人組合　幸　七
名主辰次郎

組頭吉左衛門
百姓代源右衛門
右代兼組頭　民　蔵
同州同郡
上土狩村
組頭林右衛門
同利左衛門
百姓代真右衛門
右代兼名主　源　吉

沼津
御役所

前書被　仰渡之趣一同罷出難有承知奉畏候依之奥書印形差上申候、以上

駿州駿東郡
竹原村
帳元組頭　茂　兵　衛
下土狩村
組頭　政　蔵

中土狩村
帳元組頭　儀　左　衛　門
富沢村
一色村
下長窪村
惣代
富沢村
組頭　文　助
一色村
組頭　八　左　衛　門

（箱根用水下郷古文書）

一六六　嘉永五年（一八五二）七月　三俣堰取払一件、手鎖村預ケ御免願

乍恐以書付奉願上候

駿州駿東郡竹原村・下土狩村・中土狩村奉願上候、水窪村・納米里村・伊豆嶋田村・上土狩村右四ケ村之もの共

去月廿一日心得違ニ而三俣堰取払候ニ付、其段御訴申上候処、御出役先ニ而御吟味中水窪村名主次三郎・同村百姓甚兵衛・伊豆嶋田村清蔵・納米里村伊兵衛江手鎖邑預ケ被　仰付置候処、全以心得違ニ而先非後悔仕、此上御吟味御座候ハヽ何儀之御咎メ可被　仰付哉茂難計奉恐入、一色村・富沢村・下長窪村江取縋御慈悲奉願上候、然ル処私共三ケ村御他領伏見村・新宿村右五ケ村におゐても右様御厳重御吟味御座候而は奉恐入、殊ニ此節水元四ケ村慈愛を以下郷五ケ村都合九ケ村之義一同廻り分水熟談相調、下郷迄も水引渡旁以此上之義申分願筋毛頭無御座候間、四ケ村之儀御吟味是迄ニ而手鎖村預ケ　御免被成下候様偏奉願上候、右願之通り被　仰付被下置候ハヽ、水元四ケ村は不及申上私共ニおひても一同難有仕合奉存候、此段乍恐連印書付を以奉願上候、以上

嘉永五年子七月

駿州駿東郡
竹原村
名主　茂兵衛
下土狩村
名主　重左衛門
中土狩村
名主　清次郎

沼津
御出役様

（箱根用水下郷古文書）

一六七　安政二年（一八五五）六月　三俣堰分水等用水争論につき立会番差出内済証文

済口為取替証文之事

一箱根湖水掛井組之内、下郷大堰下九ケ村之内水上四ケ村ゟ水下五ケ村、字穴堰三俣堰両所ニおゐて差縺及異論候ニ付、水下五ケ村之内御領分村ゟ沼津　御役所御了簡分御手近之儀ニ付奉願上候処、早速御出役被成下置御吟味中、納米里村・上土狩村之者共手鎖村預ケ　被

仰付追々御吟味可被遊候処、富沢村名主太七・一色村名主戸平・佐野村名主源右衛門・深良村名主源兵衛右四人立入御吟味御猶予奉願上、取噯を以内済熟談仕度、双方とも異論之廉も承糺候処

一下モ五ヶ村申立候ハ、右両堰之義ハ先々ゟ堰番上土狩村相勤候処、右堰掛り村方故勝手侭致し流末村方難儀仕候ニ付、先例定番之外見廻りとして水下ゟ両三人差出申候処、定例堰番之外堰見廻り人等之儀決而不承知之儀申上候節、殊ニ無断見廻り人等可差出筋無之抔と申、勝手我儘ニ被致候而ハ流末之村々難義仕候段申之

一上四ヶ村申立候ハ、水配人中日々分水被致堰番附置候上ハ、聊以勝手儘之義仕候訳柄ニ者無之候、定例番之外ニ相談も無之見廻り人抔と申、却而水配人中分水之口江増野木ヲ差加へ候趣ニ而厳重之分水ニ相成、夫故両堰とも水末之場所多分ニ旱上り、難儀仕候段申之

右双方共承糺候処、兎角疑念ゟ差起り異論ニ相成候次第与被存候間、取噯之趣意として訴答申立之廉を以、壱ケ年を右両所堰口ニ限り定例番之外納米里村ゟ壱両人、水下五ヶ村ゟ弐人差出し立会番ニ相守可申候、猶又右様相守候上、善悪之依趣意何れ善道之義ヲ向後示談可致候、其節相互無謂相拒申聞敷候、尤両堰ニ限り候儀ニ付、余者後来三郷とも堰口ニ不限万端井筋古例ニ差障申間敷旨を以訴答共及掛合候処、双方共承知納得熟談仕候上ハ、已来急度相慎、御定書之趣堅相守　御上様江御苦労奉相掛間鋪候、依之双方為和融一札為取替置候、仍如件

安政二卯年六月

駿東郡竹原村
訴訟方　組頭　丈右衛門㊞
下土狩村
組頭　政　蔵㊞
中土狩村
後見組頭　儀左衛門㊞
新宿村
名主　源左衛門㊞

伏見村
　名主　五　兵　衛㊞
同村
　名主　八右衛門㊞
同郡納米里村
相手方　組頭　政　兵　衛㊞
　水窪村
　名主　茂　兵　衛㊞
伊豆嶋田
　名主　伝　兵　衛㊞
上土狩村
　与頭　林右衛門㊞
富沢村
　名主　太　七㊞
取噯人
一色村
　名主　戸　平㊞
佐野村
　名主　源右衛門㊞
深良村
　名主　源　兵　衛㊞
　郷宿　　治　作㊞

（貼紙）「本取為替書ニヨリ一ケ年間立会番トシテ実施候処、成績良好ナリシヲ以テ万延元年ヨリ添番トシテ更ニ契約書取リ為替タルヲ以テ、本証書調印納米里以北ノ分切リ取リタルモノナル事、室伏平右衛門殿ノ証言ニヨリ判明セルヲ以テ茲ニ記シ置キ申候

昭和七年八月七日

曝書立寄人一同」

（箱根用水下郷古文書）

一六　安政二年（一八五五）六月　三俣堰分水等用水争論内熟により手鎖赦免願書

乍恐書付を以奉□　□

駿州駿東郡富沢村名主太七・一色村名主□□奉願上候者、同郡納米里村之者共、用水路字□□穴堰、於両所不法之儀有之段、同郡□□村・下土狩村・竹原村ゟ御出役御調之儀奉願上候ニ付、早速御出役之上夫々御吟味之上、納米里村組頭吉左衛門・上土狩村組頭利右衛門、納米里村田方水引之者半蔵・平助、両所堰番上土狩村勘右衛門・甚右衛門右六人之もの、御吟味中手鎖村預ケ被　仰付、且又伏見村定八三俣堰見廻りとして罷越候処、納米里村水引前書半蔵・平助是又同所堰掛ノもの等と（ママ）無之哉と見廻りニ罷越、定八と及口論ニ候段も、御吟味之儀御領分三ケ村ゟ奉願候処、御他領之者之儀御手限り御吟味も難相成、何れニも内熟可致旨被仰聞、尤強而御吟味之儀相願候ハヽ、伏見村御地頭所江御掛合之上吟味可被遊段被仰渡、一同恐入罷在候、然ル処右一件之儀者去寅年地震故、田方植付水多分入用ニ而難儀致候処、先達而之雨水ニ而漸植付相済候得とも、水下村々者不及申、水上村々共養ひ水不足植村後水届兼、一同当惑至極ニ付、堰見届として双方ゟ落合、素ゟ意趣意恨（遺）を含候儀ニ者無御座候得とも、及争論、水配人当置候堰水をも差略致し候段者、只今ニ至り先非後悔仕候趣ニ付、私共両人ゟ双方江利解申聞、猶又隣村度々立合、私共得と双方承糺候処、訴訟方ニ而事柄相分り候上者、別段存意者無之候得とも跡々之儀心配、向後之取植付候者別ニ存意無之趣ニ付、後向（ママ）之儀者双方熟談ヲ以水配掛中仮規定書仕、右之趣ニ而双方とも申分無之ニ付、右御吟味之儀者是迄ニ而、手鎖村預ケ之者共一同御免被成下候様奉願上、然ル上者向後之儀先之御定書之趣者不及申、此度取極候趣ヲ以双方堅く相守、後日不奉掛御苦労筋候様可仕候間、格別之以　御慈悲、願之通被　仰付被下置候様偏ニ奉願上候、依之此段乍恐書付ヲ以奉願上候、以上

安政二卯年六月

駿州駿東富沢村
名主　太　七
一色村
名主　戸　平
（原川直）
□□□左衛門殿

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一六九　安政四年（一八五七）四月　三俣堰・穴堰立会番につき水下五ヶ村願書

乍恐書付を以奉願上候

一箱根山湖水掛井組之内字大堰下九ヶ村之内水下中土狩村・下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村右五ヶ村一同奉申上候、私共村々　御田地用水路字三俣西堰之儀水窪村・上土狩村・納米里村三ヶ村掛合堰并穴堰之儀者納米里村・上土狩村弐ヶ村掛合堰ニ御座候所、右両堰共上土狩村ニ而定例番致し候故、水配人日々分水仕候後、水上村三ヶ村之者共堰番人与馴合、勝手之取計ヲ以乱堰ニ致し、却而定例番水下五ヶ村之害ニ相成候儀者、全　御裁許之御文言忘却仕候故与奉存候、此次第ニ而私共村々年々用水不足仕既旱損仕付荒等多分ニ相成、無拠領主地頭江検見入願上、漸相凌罷在候所、水上納米里村・水窪村・上土狩村・伊豆島田村右四ヶ村ニ而者存分ニ水ヲ引末者捨水ニ相成候次第故、甚歎ヶ敷、旁以異論相発、別而去々卯年数度之乱堰無法之取計ニ而水下村々殆難儀当惑相迫り、依之水配人江掛合之上ニ而私共五ヶ村ゟ見廻り人差出候所、納米里村・水窪村・上土狩村右三ヶ村大勢党ヲ催罷越、見廻り之者を捕江致打擲、一命ニ可拘程之理不尽不法之致方、急場之儀ニ付竹原村・下土狩村・中土狩村右三ヶ村近辺故、不敢取沼津　御役所江御訴申上候所、御出役之上不法働候御領分之者共御取調之上夫々被　仰付置、其御筋江御掛合之上追々御吟味ニも可相成哉之所、井組村之内上郷深良村名主源兵衛・富沢村名主太七・一

色村名主戸平・中郷佐野村名主源右衛門右四人之者共取噯ニ立入、御吟味御猶予願済之上双方申立之廉々篤与聞糺、取噯之趣意とし而字三俣堰并穴堰右弐堰ニ限り定例番之外ニ水番壱両人納米里村ゟ差出、水下五ヶ村ゟ水番弐人宛差出し立会番ニ相守可申旨、尤壱ヶ年相掛善なる道ニ向後示談可致、其節ニ至り相互ニ無謂相拒ミ申間敷、尤両堰ニ限り候儀ニ付、後来三郷とも堰口ニ不限万端井組古例ニ差障り申間敷旨、取噯之趣意双方共承知納得之上内済熟談行届、依之去辰年水払底ニ付、右規定通立会水番仕候所、水之多少ニ随ひ平水ニ下り至極取締ニ罷成、異論等一切無御座穏ニ相成、依而者向後済口証文規定之通善道ニ遂示談、往々異論等無之様ニ仕度存、水上納米里村外三ヶ村江以来立会番可致旨申入候所、如何相心得候哉、取噯内済之規定ニ背キ一円不承知申之、何分熟談不行届御懸案仕候得者、定例番計ニ而者下郷五ヶ村不為ニ罷成、殊ニ内済規定前書ニ納米里村外三ヶ村申分ニ分水口江見廻り人増、野木を差加江候等と無謂虚言を書入、存外と存候得共、彼是綺候而者内済之害与成、　御上様江奉掛御苦労候儀与恐入、且村々衰微之基与差扣居候、聊立会番仕候得者、少茂勝手之働不相成故、水上四ヶ村欲水引候事不相成、旁以極取締罷成候立会番を相拒ミ善道ヲ捨横道ニ入候姿眼前ニ相顕れ、迚も熟談相成兼、無拠水下五ヶ村之内沼津　御領分村々ゟ同所　御役所江奉願候故、水上四ヶ村之者　御呼出し之上、双方和熟之御利解御座候所、右惣代申上候者、水配人江掛合之上ニ而御答可申上段申之、其後水配人方江及掛合候得者、御掛り様江御伺之上挨拶可致段申之ニ付、其段沼津　御役所江申上候由ニ而、同　御役所ゟ当　御役所御掛り様江御掛合之後、私共村々御呼出シ被　仰聞候者、湖水掛井筋之儀者沼津　御役所限ニ而取極候訳ニ者難相成、御給々水配人も有之新規之義相開候而者往々水配人差配届兼候様成行可申間、数拾年済来候儀ニ付是迄之通致シ置可申、取締之儀者如何様ニも心配

可致旨、精々御利解御座候得共、去ル寅震難ニ而変地高低も出来、自然水下り方不宜候所、勝手我侭成致シ方有之候を差置候而者堰所不取締者勿論、水下　御田地相続方ニ相拘り必至と難渋当惑仕、別而去々卯年争論之節者多人数ニ而取巻打擲人命無覚束存候所、取締而内済之上規定之通去辰年立会番ニ仕候故、異論等更ニ無御座、互ニ平和ニ水を引安堵仕候義者御法ニ不背、御裁許并御定書相用分水相守、至極取締ニ罷成候義者全立会番仕候故与奉存候、何卒格別以　御慈悲用水方取締ニ相成候義ニも御座候得者、年々立会水番仕候様被　仰付被下置度偏ニ奉願上候、右願之通被　仰付被下置候ハヽ水下五ヶ村　御田地永続仕、莫太之御仁恵と難有仕合奉存候、猶　御尋之義者口上を以委細奉申上候、以上

安政四巳年四月

安藤伝右衛門知行所
駿州駿東郡
新宿村
名主　源左衛門㊞

酒井永次郎知行所
同州同郡
伏見村
惣代名主　治兵衛㊞

山岡五郎作知行所
同州同郡同村
名主　又左衛門㊞

水野出羽守領分
同州同郡
中土狩村
名主　儀左衛門㊞

同領分
同州同郡
下土狩村
名主　重左衛門㊞

惣代組頭　政　蔵㊞

同領分
同州同郡
竹原村
惣代名主　茂　兵　衛㊞

用水御掛り
御役人中様

（箱根用水下郷古文書）

一七〇　安政四年（一八五七）五月　三俣堰・穴堰立会番出入につき水下五ケ村内済証文

為取替申一札之事

一箱根湖水井組用水路之内大堰下字三俣堰西口并ニ穴堰水番之儀ニ付、中土狩村・下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村右五ケ村ゟ納米里村・水窪村・伊豆嶋田村・上土狩村四ケ村江相掛り、去ル卯年中及異論候処、曖人立入両堰江壱ケ年定例番之外納米里村ゟ壱両人下五ケ村ゟ弐人宛立合番致候、然ル処、当年ニ至り両堰江立合番仕度趣、下五ケ村ゟ上四ケ村江懸合ニおよひ候得共、示談行届兼、依之　御支配御役所様江下五ケ村ゟ奉歎願候処、格別之　御仁恵を以訴答村々御呼出之上、厚御利解被　仰聞候ニ付、両宿主立入取曖ヲ以、当巳年ゟ来ル未年限三ケ年之間弐ケ所堰口ニ限、定例番之外納米里村ゟ壱両人、下五ケ村之内ゟ壱ケ所江弐人宛立合番相添、昼夜堅為相守可申筈取曖人ゟ掛合ニおよひ、双方無申分納得熟談内済仕候、然ル上者、已来右両堰水番之儀ニ付、決而異論不仕　御定書御文面堅相守可申候、為後日為取替定書、依而如件

安政四丁巳年五月

中土狩村
下土狩村
竹原村
伏見村
新宿村

右五ヶ村惣代
竹原村
名主　茂兵衛㊞
伏見村
名主　源左衛門㊞

納米里村
水窪村
上土狩村
伊豆嶋田村
右四ヶ村御惣代
伊豆嶋田村
名主　伝兵衛殿
水窪村
名主後見　甚兵衛殿

前書之通我等立入内済熟談仕候上者、双方共右様之儀向後決而異論致間鋪段、相違無御座候、仍而奥印いたし候、以上

安政四丁巳年五月

小田原宿高梨町
嘆人　大和屋藤八㊞〻
同宿本町
同　三笠屋半左衛門㊞〻
同　山村屋直右衛門㊞〻

右四ヶ村御惣代
伊豆嶋田村
御名主　伝兵衛殿
水窪村
御名主後見　甚兵衛殿

（箱根用水下郷古文書）

一七一　万延元年閏三月　三俣堰・穴堰立会番出入に関する規定書

（一八六〇）

規定書之事

一井組用水路之内大堰下三俣西口并ニ穴堰両所水番之儀

ニ付、先般争論ニ相成、下土狩村始メ五ヶ村ゟ御支配　御役所様江願出、御吟味中扱人立入内済熟談いたし候処、猶又当年至り右両堰口立合番永続いたし度旨下五ヶ村ゟ納米里村始四ヶ村江掛ケ合ニおよひ候へ共、右者先年取継内済之趣意与して、去未年限ニ候故、不承知之旨申断候処、下五ヶ村之内沼津　御役所江内済いたし候ニ付、御役場之御内慮ヲ以、曖人立入心配いたし呉候得共、内済行届不申破談ニ相成候、就而者下五ヶ村ゟ定而御支配　御役所江出訴いたし可申候、其故右立合番添番等新規之儀取用ニ相成候節者、向後外堰々江類例押移り、却而井組争論ケ間敷儀繁多ニ相成可申基与心痛致候ニ付、村々相談之上各様江御頼申、新例之儀　御支配御役所様江おゐても御取用ニ相成不申様頼上候処実正ニ御座候、然ル上者、万一　御公儀様御奉行所沙汰ニも相成可申哉も難計、左候得者、入用等も多分ニ相掛り可申旨承知仕候得共、各様方江御頼申上候上者、御出勤中御入用者勿論、臨時諸掛り等迄、相当之儀者無滞、急度出金可仕候

右之通り規定仕候上者、不抱事之良是非ニ御差支無之様、急度出金可仕候、為後日村々連印一札差入申候処、仍而如件

万延元庚申年

閏三月

納米里村
名主　吉左衛門　印
水久保村
同　茂惣治　印
上土狩村
同　治左衛門　印
伊豆嶋田村
同　伝兵衛　印
一色村
同　戸平　印
富沢村

同　助治郎印
定輪寺村
同　弥右衛門印
千福村
同　助左衛門印
御宿村
同　吟平印
葛山村
同　勢五郎印
上ケ田村
同　忠左衛門印
金沢村
同　（人名なし）
神山村
同　源右衛門印
岩波村
同兼帯　源右衛門印

深良村
同　治兵衛印
石脇村
同　善平印
佐野村
同　作兵衛印
久根村
同　弥兵衛印
公文名村
いなり村
同　新左衛門印
茶畑村
同　庄左衛門印
平松新田
同　得右衛門印
麦塚村
同　藤蔵印
二ツ屋新田

同　佐平治印

水配
御役人中

（裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

一七三　万延元年（一八六〇）閏三月　三俣堰・穴堰立会番出入につき、井組村々より願書

乍恐以書付御届奉申上候

一井組弐拾九ヶ村用水路之内、大堰下三俣西口并穴堰水番之儀ニ付、去ル巳年取縺ニおよひ、御支配　御支配様江奉訴訟、御吟味中曖人立入御願下ケ仕、種々掛合之上内済趣意与して去未年限り三ヶ年之間、右両口限り立合番いたし、以来水番之儀ニ付異論致間敷旨を以熟談行届候処、猶又当年ニいたり、先般訴訟方下土狩村始メ四ヶ村ゟ右立合番永続致度旨納米里村外三ヶ村へ掛合有之候得共、右者三ヶ年限り之事故不承知之旨相断申、示談不行届、下手五ヶ村之内より沼津御役所江内訴致候ニ依而、早速　沼津御役所へ上手四ヶ村御呼出之上厚御利解被　仰聞候ニ付、四ヶ村役人御答申上兼、私共へ掛合有之候、依之私共一同相談仕内存之趣、別紙之通り下案之侭沼津御役人中様江入御内見ニ候処、御内慮ヲ以曖人立入為取替書ヲ仕立、御役所江内伺之上、訴答者勿論、私共迄種々及掛合、文意数度増減致、別紙迄ニ掛合運び候処、私共愚案ニ而者右立合番添番等外村等ゟ差出し候之儀、善（是）非難決候ニ付、

御支配御役所様江御内伺仕、其上挨拶可致趣曖人江申答候、然ル処、下五ヶ村役人被申候ニ者、右為取替趣意無相違相定り候様、水配人引受之上ニ而御内伺いたし呉候ハヽ、格別左も無之候而ハ承知難致旨、不都合申居候ニ付、無余儀破談ニ相成候、然ル上者下五ヶ村ゟ　御支配様江可奉訴訟儀与奉存候之間、乍恐此段御届奉申上候、就而者水配人共愚案仕見候所、是迄用水路取締之儀、御給々様御定之掟而ニて相納来り候得者、今般右新法之立合番并添番御取用ニ相成候而者、

以来外堰々ニおゐても類例申出シ、争論多端ニ相成可申旨、甚心痛仕候間、不奉顧恐ヲも、以書付奉申上候、何卒右之段御聞召被為訳、御賢慮被成下置、数年来納来候御掟ニ而取締相立候様御利解被　仰付、双方和熟納得仕候様、御威光之程奉願上候、右奉願上候通り被　仰付被下置候ハヽ、難有仕合ニ奉存候、以上

万延元庚申年閏三月

井組弐十九ヶ村

上郷深良村

水配上役代　新　七

同　下役　祐右衛門

中郷佐の村

水配上役　佐　十　郎

石脇村

同　下役　弥　四　郎

下郷中土狩村

水配上役　儀　平

下土狩村

同　下役　弥　七

用水御支配

御役人中様

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

一三　万延元年四月一〇日（一八六〇）　三俣堰・穴堰永久立会番設置の願書

乍恐以書附奉願上候

駿東郡下郷中土狩・下土狩・竹原・伏見・新宿右五ヶ村村役人奉申上候、箱根湖水掛り字大堰下字三俣西堰之儀、水窪・納米里・上土狩右三ヶ村掛合堰并穴堰之義者納米里・上土狩弐ヶ村懸合堰ニ御座候処、右両堰共上土狩村ニ而先前ゟ堰番いたし候ニ付、堰番人与右三ヶ村馴合水配人分水之後乱堰ニいたし、度々異論差起り候次第ニ而、下郷五ヶ村御田地旱上り必至与難渋仕候ニ付、去ル卯年差縺候所、曖人立入定例番之外下五ヶ村ゟ壱堰ニ付弐人

納米里村ニ而壱両人差出シ立会番ニ而壱ケ年試候処、元水之多少ニ随ひ平水ニ相下り候ニ付、去ル巳年下五ケ村より上四ケ村江立会番之儀懸合ニおよひ候処熟談行届兼候間、無余義当　御役所江奉願上候処双方御利解中立入人有之、去ル巳年ゟ去未年迄三ケ年之間立会番ニ而熟談方取噯呉候得共、右ニ而者年限明又々御厄介筋相懸候茂奉恐入候間、永久立会番いたし度旨再応掛合候得共、相手方ニ而何分不承知ニ付既ニ破談ニも可相成哉之処、尚亦厚御利解ニ付奉承伏、三ケ年之間試立会番之儀双方無申分熟談行届、水下り方宜敷異論之義者勿論上下村方差支之筋無御座取締ニ茂相成難有仕合ニ奉存候、然ル処去未年年限明ニ付異論無之様猶亦立会番ニ仕度段納米里・上土狩・水窪・伊豆嶋田四ケ村江再応掛合候共、一切不承知之段申之、無拠奉願上候、何卒格別之　御慈悲を以右四ケ村并水配人共江　御利解被　仰聞、永久立会番ニ相成候様偏ニ奉願上候、然ル上者水配人共分水堅相守、仮令水不足之年柄ニ而旱損仕候共私共村々小前ニ至迄疑惑も無之、上四ケ村与下五ケ村異論之儀も出来不申安心可仕候、尤三郷大堰者勿論外堰々之類例ニ者決而相成間敷ニ御座候間、右願之通被　仰付被下置候ハヽ、下五ケ村御田地永続仕、莫大之　御仁恵与難有仕合奉存候、依之乍恐以書付奉願上候、以上

万延元申年四月十日

駿州駿東郡
中土狩村
　名主　善左衛門㊞
下土狩村
　名主　瀬　平㊞
竹原村
　名主　伊右衛門㊞
伏見村
　名主　次　兵　衛㊞
　同　又左衛門㊞
新宿村

名主　源左衛門㊞

用水御支配
御役人中様

（箱根用水下郷古文書）

一七四　万延元年四月　下郷水配人より三俣堰・穴堰永久立会番任命願（一八六〇）

乍恐以書付奉願上候

一水野出羽守領分駿州駿東郡中土狩村水配人儀兵衛奉申上候、箱根湖水掛り字大堰下三俣并穴堰弐ヶ所堰番之儀ニ付、去ル巳年中土狩村・下土狩村・竹原村・伏見村・新宿右五ヶ村ゟ納米里村・水窪村・伊豆嶋田村・上土狩村右四ヶ村江相懸り　御支配御役人中様江奉出訴候処ニ付、訴答共御呼出シ之上御利解被仰聞御吟味中噯人立入勘弁申之処、御願下ヶ仕、内済熟談仕候趣意者、去ル巳年ゟ去未年迄三ヶ年之間、定例番之外一堰ニ付、納米里村ゟ壱両人、下五ヶ村ゟ弐人も差出シ立会番致シ異論規（疑カ）惑茂無之、元水之多少ニ随ひ平水ニ相下り無甲乙潤沢仕候、難有奉存候、然ル所去未年ニ而年明候ニ付、猶又水下五ヶ村ゟ上四ヶ村江如前年立会番仕度趣懸合ニおよひ候処、新法之儀抔与申立、不承知之由申付候間、噯人共数度立入候得共熟談行届兼、依而破談ニ相成申候、就而者先達而水配人共ゟ新法之儀故御差留之願書奉差上候砌、右願書江私義調印不仕候趣意者前三ヶ年之通、立会番不仕候而者年々異論差起水配人始村方一同及難渋ニ候間、依之調印不仕候、且新法之儀与者乍申、堰所取締ニ相成候義ニ御座候間、已後異論為無御座、乍恐何卒出格之思召を以異論為無之、乍恐永々立会番被為仰付被下置度奉願上候、左茂無御座候而者上下九ヶ村年々水論難止与奉存候、厚以　御仁恵ヲ右奉願上候通御聞済被成下置候ハヽ、莫太之御慈悲難有仕合奉存候、以上

万延元庚申年四月

下郷　中土狩村

水配人　儀　兵　衛

用水御支配掛り
御役人衆中様

（箱根用水下郷古文書）

一七五　万延元年五月一日　三俣堰・穴堰立会番一件願書取下願

乍恐以書付奉願上候

一箱根湖水掛り大堰下字三俣西堰穴堰両堰之儀、去ル巳年上四ヶ村・下五ヶ村異論差起、下五ヶ村ニおいて難渋仕候ニ付、右両堰ニ立会番致度旨御願奉申上候処、御利解被為仰聞候之処、曖人立入心見之ため去ル巳年ゟ未年迄三ヶ年之間上四ヶ村・下五ヶ村ニ而内熟仕、立会番致来、平水ニ相下り至極穏ニ而難有奉存候、然ル処当申年ゟ右立会番両堰ニ限下五ヶ村江被　仰付被下置候ハヽ、異論茂無御座、殊ニ取締ニ茂相成候儀与奉存候ニ付、此度永々立会番仕度旨願書を以御願奉申上候処、新儀之儀故不相成候趣御利解被　仰聞、内熟可致趣御申聞被成下候ニ付、宿々ゟ曖呉候得共熟談不行届候ニ付、難被遊御聞届候ハヽ乍恐無拠義ニ御座候間、右願書御下ヶ被下置候様奉願上候、以上

万延元年庚申年五月朔日

下郷五ヶ村惣代
下土狩村
名主　瀬　平㊞
新宿村
名主　源左衛門㊞

用水御支配
御役人中様

（箱根用水下郷古文書）

一七六　万延六年五月　三俣堰・穴堰をめぐる争論につき水下五ヶ村願書

乍恐書附を以奉申上候

一箱根湖水掛大堰下九ヶ村之内水下中土狩村・下土狩村・竹原村・伏見村・新宿村右五ヶ村惣代奉申上候者字三俣堰之儀納米里村・水窪村・上土狩村掛合堰、并ニ穴堰之儀、納米里村・上土狩村右弐ヶ村掛合堰ニ御座候処、右両堰共上土狩村ニて定例番致し候処、水配人分水之後、堰番人与右三ヶ村与馴合乱堰ニ致し、定例番却而水下五ヶ村之害ニ相成候者全　御裁許并ニ御定書御文言忘却仕、数度異論差起、水下五ヶ村殆難渋仕、別而去ル卯年数度乱堰ニ致候ニ付、下五ヶ村ゟ水配人江相届見廻人差出し候処、納米里村・上土狩村・水久保村右三ヶ村之者共存外之不法乱妨取働候ニ付、彼是差縺、既ニ御支配御役所江可願立之処、噯人立入取噯呉候者、両所堰口ニ限り向後異論無之ため、定例番之外納米里村ゟ壱堰ニ付壱両人、下五ヶ村ゟ壱堰ニ付弐人宛差出し、立会番ニ而壱ヶ年試、往々善成道ニ可致規定ニ而内済熟談仕候間、立会番ニて辰年壱ヶ年試候処、至極取締ニ相成、元水之多少ニ随ひ平水ニ相下り、双方差支者勿論異論等一切無御座、穏ニ相成候間、依而者済口規定之通立会番ニ可致段、納米里村外三ヶ村江掛合ニおよひ候処、不承知之段申之、無余儀、去ル巳年　御支配御役所江奉願上候処、双方御呼出し御利解中噯人立入、巳年ゟ未年迄三ヶ年之間立会番ニ而熟談方取噯呉候得共、右ニ而者年限明、又々御苦労相掛候茂奉恐入候間、永久立会番致し度再応掛合候得共、相手方何分不承知ニ付、既ニ破談ニも可相成哉之処、尚又厚御利解ニ付、三ヶ年試立会番ニ而双方無申分熟談行届、水下り方宜鋪、異論之儀者勿論上下村方差支候筋茂無御座、至極取締ニ相成、難有仕合ニ奉存候ニ付、猶又当申年ゟ永久立会番致し度、納米里村・水久保村・上土狩村・伊豆嶋田村江掛合ニおよひ候得共、一切不承知之段申之無拠　御支配御役所江奉願上候処、安永年中ゟ納来候ニ付、新議之儀開候而者、外々類例ニ茂相成、水配人差略も出来兼可申候間、御差留被下候様上中郷水配人可願出旨、下郷水

配人江談事有之候得共、大堰下之義者下郷水配人日々見知候事故、迚茂立会番ニ無之候而者、分水之後乱堰ニ相成、不取締ニ付調印難出来、下郷水配人相断候処、上中両郷水配人了簡を以数年来納来候ニ付新規之儀与申唱、御差止メ奉願上候ニ付　御役所ニおゐても数年納り来る新規之儀者不相成趣御利解被仰聞候処、縦令新規之儀ニ御座候共水配人分水之後乱堰ニ相成候而者、下五ヶ村御田地旱上り難渋仕候間、堰取締ニ相成候儀ニ付、再応奉歎願候処、曖人立入呉候ニ付、種々勘弁仕、下五ヶ村申立候者、両所堰口ニ限異論無之ため、下五ヶ村ゟ壱堰ニ付弐人宛年々差出し候処、尤外□相守可申、尤外堰々類例ニ者不相成儀ニて、上四ヶ村与下五ヶ村与熟談規定致し、　御役所并ニ水配人江者済口証文奉差上度趣を以熟談致し度、下五ヶ村申立候処　上四ヶ村并ニ中郷水配人佐十郎　上郷水配人勇左衛門申立候者、水不足之節下五ヶ村ゟ水配人中江申出、御承知之上異論無之ため、堰下村々ゟ壱堰ニ付壱両人宛添番差出し可申旨ニ而熟談可仕申立候、曖人共取扱呉候者、水不足之節下五ヶ村ゟ水配人中江御届申上、異論無之ため、堰下村々ゟ壱堰ニ付壱両人宛添番差出し可申旨ニ而取扱度段申之候ニ付、右ニ而者下五ヶ村も熟談可致存意之処、中郷水配人佐十郎相拒ミ候ニ付、上中郷水配人相泥ミ不承知之段申之、熟談行届不申破談ニおよひ候ニ付、曖人ゟ其段御届奉申上候処、□(下)五ヶ村惣代之もの御呼出し御利解被仰聞候者、上四ヶ村并ニ上中郷水配人申立候通り、御承知之上者致し熟談可致、尤堰御取締之儀者如何様ニ茂被成下候趣被仰聞、御利解之義者御尤与者奉存候へ共、後年ニ至、村役人相替り候歟、又者水配人心得違ニ而承知之有無延日ニも相成候へ者、下郷田方日増多分ニ旱上り、殊ニ耕作之義者一日を争ひ候事故、下五ヶ村難渋仕候間、惣代之者承伏難出来、水配人江御届申上、添番差出し候規定ニて熟談仕度、再応奉願上候得共、尚又御利解被仰聞候者、若又水配人後年ニ至、心得違ニて承

知之有無延引ニ相成候得者、其時々　御支配　御役所
江可願出、左候得者如何様ニも水配人共江御利解可申
聞段精々御利解被仰聞候得共、其時々御願申上候儀者、
遠路之儀、殊ニ田方植付差支、并ニ耕作之義ニ付野方
見廻り方何分手抜も難出来、且者度々　御上様江御
苦労相掛候儀者、尚以奉恐入候間、依之承伏難出来、
依て其段御届奉申上候処、取締ニ相成候儀ニて、新法
之儀者難被遊御聞届儀ニ御座候得者無詮事ニ私共数日
罷出、雑費相掛候も、旱損村方ニ而難渋仕候間、無拠
儀ニ付、何卒乍恐願書御下ケ被成下置候様奉願上候、
以上

万延元申五月日

下郷五ケ村
　惣　代
新宿村
　名主　源左衛門
伏見村
同　次兵衛
下土狩村
　名主　瀬　平

用水御支配
御役人中様

（箱根用水下郷古文書）

一七七　万延六年五月　三俣堰・穴堰出入内済取替規定書

（一八六〇）

為取替規定書之事

一箱根湖水掛大堰下字三俣西堰之儀者、水窪村・納米里村・上土狩村三ケ村懸合堰并穴堰之儀者、納米里村・上土狩村両村掛合堰ニ而両堰㊞共上土狩村ゟ堰番差出来り候処、水配人分水口江手入乱堰いたし下郷難渋仕、数度及争論候ニ付、定例番之外立会水番致し度下五ケ村ゟ上四ケ村江及掛合候処、熟談不行届無余儀去ル巳年御支配御役所様江願出候処、双方御呼出し御吟味中願下ケ仕、曖人立入去ル巳年ゟ昨未年限三ケ年之間定

例番之外、納米里村ゟ一両人下五ヶ村ゟ壱ヶ所ニ付弐人宛差出立会番ニ而熟談行届、右三ヶ年之間至極取締ニ相成、穏ニ而元水之多少ニ随ひ単水ニ相下り、異論茂無御座候ニ付、猶又立会番続年いたし度旨、下五ヶ村ゟ上四ヶ村江及懸合ニ候得共熟談行届兼、今般御支配御役所様江御訴訟奉申上候処、御利解中暖人立入取扱候趣意者、三俣穴堰両口ニ限り、水不足之節者下五ヶ村ゟ水配人中江申出御承知之上異論無之ため堰下村々ゟ一ト堰ニ付一両人添番差出し、双方実意ニ基御田地相続方専一ニ心掛、我察ヶ間敷儀無之御分水堅く相守可申、尤三郷大堰者勿論外堰之類例ニ者決而致間鋪候、右規定之通聊無申分内済熟談仕候段、全　御威光与難有仕合奉存候、然ル上者　御裁許并御定書之趣双方急度相守、向後異論ヶ間鋪儀仕間敷候、依之為取替一札、仍而如件

万延元庚申年五月

水窪村
納米里村
伊豆嶋田村
上土狩村

相手方
右四ヶ村
惣代
納米里村
名主　吉左衛門㊞

伊豆嶋田村
組頭　善　六　郎㊞

同州同郡
中土狩村
下土狩村
竹原村
伏見村
新宿村

駿州駿東郡

右五ヶ村御惣代
新宿村　名主　源左衛門殿

伏見村　名主　治　兵　衛殿
下土狩村　名主　瀬　平殿

前書之通り我等立入双方無申分内済熟談仕候上者、永々堅相守決而異論致鋪旨実正ニ御座候、仍之奥印致し候、依而如件

万延元庚申年五月

扱人　小田原宿
本町　半左衛門㊞
高梨町　藤　八㊞
本町　兵右衛門㊞
壱丁田町　治郎兵衛㊞

右五ヶ村御惣代
新宿村　名主　源左衛門殿
伏見村　名主　治　兵　衛殿
下土狩村　名主　瀬　平殿

（箱根用水下郷古文書）

一七　慶応三年（一八六七）八月二三日　下郷二ヶ村土用明分水につき小田原藩より沼津藩宛返書

小田原御役場ゟ元沼津御役場江之御返翰写

然者其御領分中土狩村・竹原村外御給々弐ヶ村田地用水之儀者、箱根湖水井組之内ニ而、右分水ヲ以田地養ひ来候処、当年之儀者稀成旱魃、追々田地及干損候ニ付、先般当役場江出役願出早速其筋出郷之上、夫々分水致心配ケ成用水行届候得共、一躰右村々之儀者流末之事故、年々水不足有之、是迄之通り土用中計之分水ニ而者、何分田地養出来兼候間、土用明候而茂分水有之候様致度、当役場江出願致し候ニ付而者、其御領分下土狩村名主平右衛門・安藤左京様御知行所新宿村名主源右衛門右村々為惣代罷出候ニ付、御添翰之儀願出御領分村役人共御糺御座候処、水不足之儀者相違無之、殊ニ御給々外村々ニ而も同様之儀、旁以右願之趣御聞済御差出被成、可然取計

候様御書中之趣委細致承知、惣代両人ゟ願書差出候之処、
尤之事ニ有之、分水之儀土用中計与申儀者根基不相分、
是迄ハ先格ヲ以為引取候得共、以後年柄ニ寄土用明ヶ後
も差出置可申候、右貴答如是御座候、以上

八月廿三日　　近藤吉右衛門
　　関石縫殿助
　　三幣弾正
　　山本修理

根井早太様
竹田申吾様
小林勇助様

（箱根用水下郷古文書）

一七九　慶応三年（一八六七）八月　土用明分水につき下郷五ヶ村願書

乍恐以書付奉歎願候

水野出羽守領分
駿州駿東郡
　中土狩村
　下土狩村
　竹原村
安藤左京知行所
　同州同郡
　新宿村
酒井六三郎知行所
山岡五郎作知行所
伏見村

右歎願人一同奉申上候、私共組合下郷村々五ヶ村之儀者、
箱根湖水掛り井組之内ニ而、右湖水ゟ年々分水を以御田
地養ひ仕来候処、当年之儀者稀成旱損水不足ニ付、先般
御出役様奉願上候処、早速御聞済被成下置、御出郷之上
日々御厳重之御分水被成下、漸之事ニ而細くも可成水行
渡、誠ニ以　御威光之御蔭与一同難有仕合奉存候、然ル
処去月八日土用明ヶニも相成候間、　御出役様御引取
ニも可相成哉之趣、右御引払ニ相成候而ハ下郷村々江者
迚も水下り申間敷哉も難計、左候而ハ折角是迄全　御

威光之御蔭を以水行渡、御田地相続も出来可仕哉之処も空敷可相成歟共一同歎息罷在候間、何卒格別之　御慈悲を以、御田地養水相続方行届候迄、是迄之通日々御分水被成下置候様奉願上候処、　御出役様被　仰聞候ニ者、従　御役所被　仰付も無御座、殊ニ土用明分水之義者是迄先例も御承知無御座哉にて、御出役先限り御取計被成兼候段被　仰渡、誠以歎ヶ敷儀ニハ奉存候得共、最早追々出穂之時節ニも差掛り、旁以当　御役所様江奉歎願候間合も無之儀ニ付、無余儀御利解与承伏仕候得共、御出役様御引取之後者兼而私共下案之通、下郷村々江者水下り不申、是迄可成生立候稲草も其侭差置候而ハ、早損仕候者眼前之義ニ而、実以歎ヶ敷儀ニ付、上郷村々江両度迄無心申入貰水致し、漸之事ニ而田面一旦ハ水行渡候得共、其後雨水も無之、直ク元形ニ干上り、実ニ以水配手段も尽果、一同必至与当惑罷在候折柄、当月上旬ニ相成雨水等も有之、先当年之儀者可成用水行届可申与奉存候得共、元来流末之村々水不足仕、土用限り之分水ニ而後日之分水無之候而者、御大切之御田地難相養、下郷村々百姓相続相成兼、追々潰レ百姓出来可申候、何共歎ヶ敷次第奉存候間、此上之義者是非共土用中限りニ而御見捨無之、土用明ニ而も御田地用水行渡り候之様ニ日々御分水被成下置候様ニ、何卒格別之以　御慈悲前書歎願之次第、乍恐被為　聞召訳(ママ)、水不足之節土用後ニ而も年々御分水被成下置候様幾重ニ茂奉願上候、右願之通被　仰付被下置候ハヽ、莫太之　御慈悲与大小之百姓共一同難有仕合奉存候、依之乍恐以書付奉歎願候、以上

慶応三丁卯年八月

水野出羽守領分
駿州駿東郡
中土狩村
名主　儀左衛門㊞

同　領分
同州同郡
下土狩村
同　平右衛門㊞

同　領分
同州同郡
竹原村
同　要右衛門㊞

安藤左京知行所
同州同郡
新宿村
同　源右衛門㊞

酒井六郎知行所
同州同郡
伏見村
組頭　只　平㊞

山岡五郎作知行所
同州同郡
同村
名主　平　六㊞

用水御掛
小田原
御役所

（箱根用水下郷古文書）

第三章　用水維持と普請



第一節　開削後の用水確保と御普請

一八〇　元禄六年（一六九三）四月六日　富沢村定輪寺前堀貫浚人足賃

他書上

申九月七日　富沢村

一金三両㊞　三分一金之内請取

同九日

一米拾四表㊞　請取江戸廻し

同十一日

一米拾六表㊞　請取江戸廻し

同廿日

一金三両㊞　三分一金之内請取

十月八日

一米三拾六表㊞　請取江戸廻し

同十五日

一金五両㊞三分　三分一金之内請取

同廿七日

一金壱両弐分㊞　三分一金之内請取

十一月七日

一米三拾六表㊞　請取江戸廻し

十四日

一金拾両三分㊞　三分一金之内請取

一米壱斗弐升㊞　検見之時被下、拾弐人廿二日ゟ廿四日迄扶持方引取

十一月廿七日

一金五両弐分㊞　三分一金之内請取

十二月十七日

一金六両弐分銀八分㊞　三分一金之内請取

同日

一金壱分銀拾弐匁弐分㊞　小揚代請取

同日
一米四表㊞
同日
一米四表㊞
酉二月十九日
一米拾九表弐斗㊞
一米壱表三斗七升㊞
一米六升㊞
一米弐俵㊞壱斗

太郎右衛門酉ノ給分引候
郷平酉ノ給分引候
金納代拾両ニ而請取
壱両ニ付七斗八升かへ
定輪寺前堀貫普請さらい人足
高弐百拾六人内八十八人当
村人足、外ニ右村普請人足八
十五人、二口〆百七十三人内
四十五人ハ高百石ニ付廿五人
宛引、百廿八人外ニ籠代壱斗
三升三合分ニ引候
高人足拾弐人、内八人ハ一色
村〻赤松二本取申候、人足四
人ハ陣やニ長屋立申候、人足
御扶持方ニ引候
金納代壱両銀九匁九分五厘、
壱両ニ付七斗七升弐合かへ
米百三拾四俵弐斗五升
右合㊞金三拾六両壱分銀拾三匁
右之通申御年貢相究申候、以上
（元禄六年）
酉閏四月五日
橋詰三郎左衛門㊞
（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一八　元禄九年（一六九六）一一月　箱根堀抜水年々不足につき堀下げ御宿村他一〇ケ村願書

（端裏書）「箱根堀抜堀下ケ訴状　元禄九年　」

乍恐書付を奉願候事
一箱根堀抜水年々不足ニ而、毎年御田地日損仕、百姓困窮仕候所、当夏永旱故大分日損、別而迷惑ニ奉存候、北上水沢山ニ罷成候ハヽ村々日損不仕、困窮仕候百姓相続御年貢御役無滞御納所□（可相カ）□成と奉存候間、箱根堀

抜敷三尺堀下ケ、水門仕直シ、水多参候様ニ仕度奉願候、困窮之百姓自力ニ不罷成候間、御　公儀様御入用を以御普□(請)被為遊可被下候、堀下ケ間数堀抜之内三拾間程と堀割五十七間合八拾七間堀下ケ、并ニ水門仕直シ可被下候、場所御見分之上被為仰付被下候様ニ□(奉)□(願カ)候事

一堀抜水支配人水門番之者扶持切米、只今まで高割を以百姓出シ申候、困窮百姓年々出シ申義□□(迷惑)ニ奉存候、殊ニ往還御伝馬定助・大助、山方筋猪鹿大分出、作毛荒シ旁以困窮仕候、右扶持切米御　公儀様ゟ被為下候様ニ奉願候事

一水門戸明立并水門前後年々あらいセき、此外新川浚土手条(修)覆、村々堰々人足入用之義ハ、高割を以百姓手前ニて如例年之可仕候、水門条(修)覆入用之義ハ、御　公儀様ゟ被為遊被下候様ニ奉願候事

右之通御慈悲ニ被為仰付被下候ハヽ、難有可奉存候、以上

元禄九子年十一月

御宿村
　名主　平　二　郎
上ヶ田村
　名主　□
金沢村
　名主　新左衛門
葛山村
　名主　安左衛門
千福村
　名主　太　兵　衛
富沢村
　名主　仁右衛門
一色村
　名主　六□
納米里村
　名主　市右衛門

中土狩村
名主　七右衛門
本宿村
名主　久左衛門
伏見村
名主　八郎兵衛

市野惣太夫様

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

一八二　元禄一一年（一六九八）七月　定輪寺村前堰御普請につき富沢村願書

覚

一箱根湖堀貫、弐拾九年以前戌年普請出来仕水引入申候、弐拾七年以前子年野村彦太夫様御代官之節、定輪寺村前堰普請仕畑成田仕候、小長谷勘左衛門様御代官之節、右之堰村々之人足を以普請被仰付、人足壱人ニ御扶持米五合宛被下候、市野惣太夫様、内山七兵衛様、野田三郎左衛門様、大草太郎左衛門様御代官支配之節も人足被仰、人足壱人ニ米五合宛ツヽ、五間籠壱ツニ米五升宛被下候、人足壱年ニ弐百人程毎年入申候、尤年ニよ多少御座候、高百石ニ人足五拾人之積村高之人足御引、残分ニ御扶持米被下候御事

右之通年々御普請被仰付被下候、自今以後も如前々之被仰付被下候様ニ奉願候、以上

元禄十一年
寅七月

富沢村
名主　仁右衛門
組頭　文右衛門
同　小左衛門

古屋杢之助様
高橋伝左衛門様
橋詰三郎左衛門様

右者□兵衛殿西国へ被参候節□目録相尋申候ニ付、ほく中ゟ出申候ニ付□可有□写置、早刻相廻申候
寛延三年午二月写之申候

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一八三　元禄一二年二月（一六九九）　地震・大風雨につき水門修覆御普請三〇ケ村願書

（端裏書）「長谷川藤兵衛様へ差出願書」

乍恐口上書を以申上候事

一相州箱根湖駿東郡之内、御料御私領村数三拾ケ村水取来申候、拾壱年以前巳ノ年ゟ無高下水割渡役人ニ御料所ニ而者御宿村名主半右衛門、御私領ニ而ハ小田原領茶畑村名主甚右衛門、両人水役人ニ御料所御代官小長谷勘左衛門様ゟ被仰付、去寅之年迄拾ケ年、右両人無恙相勤申候所ニ此度役目御赦免之御訴訟申上候ニ付、替り役人村々相談ニ而仕立候様ニと半右衛門申渡候へ共、致なれ候役人引替候而ハ、水懸り村々為ニ不成候間、前々之通右両人被仰付可被下候事

一堀抜修覆水門修覆堀割さらいは江口石垣御普請　御公儀様御入用を以被仰付被下候様ニ、去丑年村々連判仕訴状指上ケ申候、大分之入用困窮仕百姓自力ニ難成候間、御慈悲ニ御入用御普請奉願候事

一当月十四日ぢしんニ而堀抜口天上地山共、大分崩落水通路無御座様ニ罷成候、然共十七日之夜大雨風ニ而湖ニ水多溜り、水門戸破損仕、水押入、崩落申候土ハ皆洗流申候、石大分埋り、水つかへ用水取候義不罷成、此分ニ而ハ御田地仕付水御座有間敷与迷惑ニ奉存候、急御普請被仰付被下候様ニ奉願候事

右之通りニ御座候場所、御見分之上被仰付可被下候、以上

元禄十二年
卯二月

箱根水懸村々連判

長谷川藤兵衛様

（長泉町　高田家旧蔵　東京大学文学部現蔵）

一八四　元禄一三年四月一一日　定輪寺前堰御普請につき富沢村扶持米請取状

（一七〇〇）

請取申扶持米之事

一定輪寺村前富沢村分、堰御普請以立人足を高百石ニ付廿五人ツヽ、被引、残之分ニ御扶持方被下候、則銘々割渡シ被成候、并竹付ケ人馬ニも御扶持方被下候慥ニ請取申候、為其連判如此ニ御座候、以上

元禄十三年辰ノ四月十一日

一米壱升九合	仁右衛門㊞	
一米弐升六合	源右衛門㊞	但竹付共
一米二升二合三勺	加　兵　衛㊞	右同断
一米壱升五合	九左衛門㊞	
一米壱升九合	曾右衛門㊞	
一米壱升五合	長　兵　衛㊞	
一米壱升九合	左　兵　次㊞	
一米壱升五合	弥左衛門㊞	
一米七合六勺	勘　兵　衛㊞	
一米壱升五合	文　四　郎㊞	
一米七合六勺	角　　助㊞	
一米壱升壱合	左　兵　衛	
一米弐升六合	小左衛門㊞	但し竹付共
一米壱升壱合	源　兵　衛㊞	
一米七合六勺	庄　兵　衛㊞	
一米壱升五合	伊　兵　衛㊞	
一米弐升二合八勺	平左衛門㊞	
一米弐升二合三勺	八郎兵衛㊞	但し竹付共
一米二升六合	茂　兵　衛㊞	右同断
一米壱升九合	庄右衛門㊞	
一米弐升二合三勺	市郎兵衛㊞	
一米壱升九合	四郎兵衛㊞	
一米壱升五合	喜　兵　衛㊞	
一米弐升二合八勺	与　平　次㊞	
一米壱升五合	九　兵　衛㊞	

一米壱升壱合　吉　太　夫㊞
一米壱升壱合　清　兵　衛㊞

〆米壱俵四升五合人足御扶持方米
米弐升当村ゟ竹沼津へ出シ申候馬四疋分
御扶持方
加　兵　衛殿
小左衛門殿
伊　兵　衛殿

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一八五　元禄一四年（一七〇一）七月　掘抜水門口堀下げ御普請三〇ケ村願書

乍恐口上書を以申上候事

一箱根湖水堀抜堀下ケ御普請御訴訟、御料私領村数三十ケ村惣代ニ御宿村名主平次郎・茶畑村名主甚右衛門去辰三月江戸へ罷下り、同十九日内御寄合所戸川備前守様へ罷出、五番目御帳ニ付御召被出訴状指上候処、先口上ニ而申上候へ由被仰候付申上候ハ、相州箱根湖水堀抜、駿州駿東郡御料私領三十ケ村用水ニ取来申候堀口浅年々水不足仕、大分旱損ニ而惣百姓迷惑仕候、三尺堀下ケ御入用御普請奉願候、其時御奉行様御意被遊候ハ、御地頭御代官へ申候哉と御尋被遊候、度々申上去年外山五郎右衛門様御見分被遊候と申上候へハ、五郎右衛門殿御覧候哉と御意被成候、其節五郎右衛門様被仰上候ハ、あれらか申通ニ御座候、水通ハ有之候得共、堀口浅三尺堀下ケ不申候而ハ旱損可仕候、御普請致候テ能候へ共、大分御入用懸り、殊拙者支配所三百石内ニ候へハ不被申立候と被仰上候、其時御奉行様被仰候者、夫ハ私領へ割合、隠岐守殿へ手紙遣可被申候、殊隠岐殿大身之事、ケ様之儀何方も割合御作法ニ候と可被申遣と御意被遊候、拙者共申上候ハ、御少身様大勢御座候と申上候得者、少身へハ少々懸り、おのれらか苦ニ成事ニ無之と御意被遊候、難有奉存罷立候事

一外山五郎右衛門様ゟ沼津御手代衆へ被仰付、私領御役

人方へ御状被遣候、何茂(ママ)様ゟ御返事ニハ被仰付候ハヽ、相背間敷由御座候、五郎右衛門様旧冬御参府被遊、当春御替り、右之御普請延引ニ罷成候事

一御普請被仰付候共、用水引取候時分不罷成候、八月ゟ三月迄ニ被遊可被下候様奉願候事

一拾弐年已前午ノ年大旱損仕候、其節小長谷勘左衛門様へ御普請御訴訟申上候、未ノ年御目論見被遊候処ニ申ノ年春御代り、市野惣大夫様御支配罷成御訴訟仕候、五ケ年ニ而御代り、内山七兵衛様・野田三郎左衛門様・大草太郎左衛門様へ御訴訟仕候、壱年御支配寅年御替り、其已後長谷川藤兵衛様・外山五郎右衛門様へ申上、度々御代り御普請延引ニ罷成、当年永旱ニ而大分旱損、三十ケ村惣百姓難儀仕候、御慈悲ニ御普請被仰付被下候ハヽ、難有可奉存候、湖水溜り水ニ而御座候故、水門戸明用水引取候へハ追日水へり申候、水門天井上ニ水深弐尺御座候、此弐尺水日数廿日取候得者不残引取、一日一夜壱寸へりニ御座候処ニ、当年ハ日数十六日ニ天井上水弐尺へり申候、此時節五月十九日、天井上水有之内者惣高用水御座候、夫ゟ段々へり六月二日ニ湖水四尺五寸へり申候、割付水ニ不罷成番水ニ仕候、六月十五日ニハ湖水五尺三寸へり申候、此節番水仕候而も水末村江ハ五日ニ壱通り懸り申候、十九日ゟ雨降水沢山罷成候事

一堀抜水門口ゟ弐百間之内深三尺堀下ケ候ハヽ、此用水日数廿日分可有御座候、只今迄天井上弐尺之水日数廿日、都合四十日之内惣高之用水存分可有御座奉存候事

右之通少も偽り不申上候、前々書物五郎右衛門様へ指上置申候、拙者共方ニ扣御座候間写指上申候、御慈悲村々惣百姓願之通御普請被仰付被下候ハヽ、難有可奉存候、以上

元禄十四年已七月

沼津御料分水役人御宿村

名主　平　次　郎　印

小田原御領分水役人茶畑村

名主　甚右衛門　印

御代官様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一八六　宝永二年三月　富沢村人足積り書上

（一七〇五）

酉ノ年富沢村堰人足積り

一長三百六間　上堰
　内
百六拾六間　芝打
百四拾間　さらい
　此人足三拾三人、但芝打さらい共ニ
一長弐百五拾四間　下堰
　内
七拾四間　芝打
百八拾間　さらい
　此人足三拾弐人
一堰壱ヶ所此人足廿人

三口〆八拾五人

宝永二年酉三月　富沢村

仁右衛門
加兵衛
小左衛門

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一八七　元文六年二月　下郷拾五ヶ村井堰川除人足積り帳

（一七四一）

（表紙）

元文六年
酉年下郷拾五ヶ村井堰川除人足積り帳
二月　会所　公文名村

覚

一人足百四拾三人　神山村
一籠竹五百四拾本　同村
一人足三百三拾人　岩波村

一籠竹千三百廿本　同　村
一人足六拾六人　石脇村
一籠竹百三拾四本　同　村
一人足百七拾八人　佐野村
一籠竹四百拾本　同　村
一人足弐百八拾六人　公文名村
一籠竹五百拾四本　同　村
一人足四百拾六人　茶畑村
一籠竹弐千六百九拾六本　平松新田
一人足百五人　同　村
一籠竹廿八本　麦塚村
一人足弐百拾六人　同　村
一籠竹三百廿三本　伊豆嶋田村
一人足五拾四人　同　村
一籠竹七拾九本　水久保村
一人足七拾八人　同　村
一籠竹百四拾本　上土狩村
一人足弐百四拾弐人　下土狩村
一籠竹八百三拾六本　同　村
一人足百五拾四人　竹原村
一籠竹四百十本　同　村
〆人足弐千弐百六拾八人
〆籠竹（ママ）

右者当酉年井堰川除堀さらい、村組相談を以、人足積り仕候、御小奉行様御見分之上、御普請仕度奉存候得共、百姓困窮ニ付村方寄合普請ニ連々と仕立申度候、尤岩波村之義、御小奉行様岩波村ゟ例年之通り御願可申候、願之通り被仰付被下置候上ハ難有可奉存候、以上

元文六年酉ノ（ママ）　下郷村々名主

小倉七右衛門様
横井平助様

一高四百八拾五石八斗六升五合　神山

一高七拾八石五斗三合　　岩　波　　内
一高百拾七石弐斗壱升九合　　石　脇　　弐百四拾弐人下土狩分引
一高四百九拾三石弐斗五升弐合　　佐　野　　残弐千弐拾五人
一高七百弐拾七石六斗三合　　茶　畑　　外ニ
一高百九拾七石六斗九升七合　　平　松　　弐拾五人　是ハ当年切り、村組相談ノ上、茶畑村川除手伝人足入
一高百八拾三石四升六合　　麦　塚　　四拾八人　是ハ公文名村引高ノ義ニ付、去申年割除相談ノ上入
一高三百拾七石弐斗八升六合　　伊豆嶋田　　〆弐千九拾八人
一高六拾弐石三斗三升三合　　水　窪　　高三千七百八拾八石壱斗八升三合
一高三百弐石六升四合　　上　土　狩　　此割
一高九百九石四斗五合　　下　土　狩　　高百石ニ付五拾五人三分八厘掛り
一高三百五拾八石九斗七升四合　　竹　原　　一人足弐百六拾九人
一高四百六拾四石三斗四升壱合　　公文名　　内
〆高四千六百九拾七石五斗八升八合　　百四拾三人　　村入用
内　　残百弐拾六人
九百九石四斗五合下土狩高引　　此分岩波村へ可遣分
残三千七百八拾八石壱斗八升三合　　〆
惣人足弐千弐百六拾七人　　一人足四拾四人　　岩　波　村

但し
三百三拾人
指引残
弐百八拾六人
内
百廿六人　村入用
九拾四人　可取分
十八人　神山ゟ可取分
十五人　佐野村ゟ可取分
三十三人　竹原ゟ可取分
〆　上土狩ゟ可取分
一人足六拾五人　下土狩ゟ可取分
但六拾六人　石脇村
指引残壱人　村入用
此分佐野村より　可取分
〆　可取分
一人足弐百七拾三人　佐野村

内
百七拾八人　村入用
残九拾五人　可渡
〃　可取分
内
壱人石脇へ可遣分
九拾四人岩波へ可遣分
〆　神山ゟ佐野迄
〆六百五拾壱人　茶畑ゟ竹原迄
残千四百四拾七人　下土狩分入
一人足弐百四拾弐人
〆千六百八拾九人
高三千五百廿弐石七斗四升九合
此割
百石ニ付四拾七人九分五厘
一人足弐百廿三人　公文名村
但三百三十三人　村入用
指引百拾人　可取分

内
三人　茶畑ゟ可取分
百弐人　下土狩ゟ可取分
五人　上土狩ゟ可取分
外ニ
四拾七人　是ハ去人足分相談之上、半分ハ当暮仕役ニ仕筈ニ御座候、尤賃銭壱人ニ付、四拾八文つゝニ相定申候
一人足四百四拾四人　茶畑・平松共
内
四百四拾壱人　村入用
指引残三人岩波へ可遣分　公文名へ可遣分
〃〃〃〃
一人足八拾八人　麦塚
但百五人　村入用
指引十七人　可取分
此分下土狩ゟ可取分
一人足百五拾人　伊豆嶋田
但　村入用
弐百拾六人

指引六拾六人　可取分
内
廿三人　上土狩ゟ可取分
四拾三人　下土狩ゟ可取分
水久保
一人足三拾人
但　村入用
五十四人　可取分
指引廿四人
此分上土狩ゟ可取分
〃
一人足百四拾五人　上土狩村
但　村入用
七拾八人　可出ス分
残六拾七人
内
拾五人　岩波へ可遣分
廿四人　水窪へ可遣分

廿三人
五人
一人足四百三十七人
内
弐百四拾弐人
残百九拾五人
内
三拾三人
百弐人
十七人
四拾三人
一人足百七拾弐人
内
百五拾四人
残拾八人
此分岩波へ可遣分
此帳御披見之以後、御写し被成候ハヽ、村組ニ早々御廻し、

いつ嶋田へ可遣分
公文名へ可遣分
下土狩
村入用
可出分
岩波へ可遣分
公文名へ可遣分
麦塚へ可遣分
いつ嶋田へ可遣分
竹原
村入用
可出分

尤廻り仕廻より茶畑へお返し可被成候、以上
酉二月十四日
公文名村
茶畑村
名主

竹原村〆
神山村迄
右御名主中

覚

一人足五人七分　神山村
一同壱人五分七厘　岩波村
一同弐人三分四厘　石脇村
一同九人八分六厘　さの村
〆人足廿五人
一人足六人四分　公文名村
一同拾人弐分五厘　ちや畑村
一同弐人八分　平松新田
一同弐人六分　麦塚村

一同四人五分　伊豆嶋田
一同八分　水窪村
一同四人弐分三厘　上土狩村
一同十三人弐分　下土狩村
一同五人壱分　竹原村
〆人足五十人
右者岩波村堰未出来不申候ニ付、増触人足申遣候間、割合之通差出シ可被申候、尤此段当村〻先達而御役所江御願申上ヶ候段、御役所〻我等共江被仰付候、右人足明朔日二日両日ニ罷出候様に御申付可有之候、以上
酉三月廿九日　川上友左衛門
神山村〻竹原村迄先々名主中
（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一八　宝暦七年（一七五七）七月　湖水門修築入用高割覚

一水門脇土手　此人足四百□□　此銭三拾六貫六百六拾四文
長サ　拾間余　但シ六尺四方
横　四間余　四人　積り
深サ　七尺　七持　一信
湖水石垣割堀石垣土手築人足湖水門上置水留〻此人足弐百五拾人内百人茶畑村出ス、袖はめ堀割築立板代大工ちや畑村出ス
代金弐両弐分
此銭拾七〻四拾八文
惣〻七拾貫三百三拾弐文
此丁銭六拾七貫五百廿文
高四千百九拾三石三斗七升弐合
高壱石ニ付銭十六文壱分
宝暦七年　水配　源蔵
丑ノ七月　文治郎
平七
覚
右之割賦五百壱文　富沢村ひかへ

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一八九　明和四年（一七六七）九月　湖水門口大普請につき入用扶持米給付富沢村願書

乍恐以書付奉願上候御事

一先達而御注進申上候通り去年ゟ両年打続キ湖水大渇水ニ而村々難義仕候、別而下郷旱損移（歩）敷御座候、然ル所近年湖水門口埋申候故水出方不足仕候由、水配人方ゟ村方打寄セ相談之上、大久保加賀守様御役人中様御見分之上、人足凡千五百人余之積りニ而普請被　仰付候、尤例年湖水門口深良村須釜土手繕等仕候得共、当年普請之義ハ格別之儀湖水開発以来之普請ニ御座候、則小田原ゟ御役人中様御両人様并ニ水配上役・下役六人、右普請之場所江相詰居被申候、其外人足小家器物金挺諸道具御繕被成候入用夥敷相懸申候、尤人足之義ハ地立ニ仕候得共、普請所迄道法り山中三里私共村方ゟハ都合四里余之所ニ御座候得者、一日相勤申候ニハ前日ニ参翌日相勤ニ夜泊りニ相成、前後三日相懸り申候、両年旱損之上又候ケ様成入用難義至極ニ奉存候得者、湖水掛り四千百九拾三石三斗七升弐合村数廿九ケ村一統之義除キ難申儀ニ奉存候、先年湖水堀抜候節者　御公儀様御入用并ニ請負人七年之間上穀取申候而御普請成就仕候、其後年々水配役人給米割、右ニ申上候土手繕諸入用等百姓高掛りニ仕候得共、此度之義ハ九拾年余以来之義ニ御座候得者、右入用御扶持米等御慈悲を以被下候様ニ名主組頭惣百姓奉願上候、先達而御窺可申上候得共、急成義ニ御座候得者御窺不申上候、普請砂浚成就仕候ハヽ、諸入用割合等書付差上可申候、何卒右願之通り被為　仰付被下置候ハヽ、名主組頭惣百姓難有奉存候、以上

明和四年　　富沢村
亥九月　　名主　加　六
　　組頭　久　蔵

百姓代　孫兵衛

下小林村
御陣屋

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

一九　安永九年五月四日　水不足につき水門手入れ掛合留書

（一七八〇）

湖水尻水門御手入ニ付、小田原ゟ掛合有之候事

安永九年五月四日

一時屋十太夫・角田数馬江被申聞候者、箱根湖水ニ有来候水門穴切下り、とふこ淵セぎ留候積りニ致度候、左候ハヽ水門ニ水多水貫ヶ候節者地水ゟ少々早方ニも可相成哉、又ハ水入用ニ無之候節ハ、水たゝへ可申候、右両様之儀有之候而ハ、御関所御要害ニ相障候儀有之間敷候、此段右へ承り合申度存候、委細之儀者郡奉行方江委敷承り候様ニ可致段被申聞候間、昨五日仲ま（間）大方地方役所江罷越、郡奉行篠崎義左衛門江欠合（掛）候処、同人申聞候者、御厨御領分江とり水少く有之、植附も相成不申候ニ付、　此方様御領分ニ不限他領迄も植附ヶ相成不申候ニ付、水野出羽守様初掛候之御方様被仰合、湖水門切下ヶ水余分御厨御領分江落シ申度旨、公義（義）江御願有之候様御内談有之候、右ニ付而ハとふこ淵ヲ堰留メ、水入用無之節ハ只今ゟ水多ク相成可申候、水入用之節者只今ゟ水格別ニ少ク相成可申間、水多少之儀ニ付御関所御要害ニ相障り候筋も出来可申哉、右御願之儀郡奉行罷越、水野様江御挨拶有之候筈ニ御座候へ共、右御要害江相障候筋出来候而ハ、御得心之御関所之儀故右之通御聞合、其上水野様江御挨拶ニ可及旨郡奉行申候間、年寄中江も申達候者、御関所御番人江も存寄候儀承、其上各御挨拶可仕段申達置一同寄談致候処、差而御要害相障候儀も有之間敷と申談、尚又御関所江心得承り申遣候処、委許御関所ゟ之挨拶左之通

一御紙面之儀ゟ承知候皆共、御定番共迄存寄申談候処、

其許ニ而御談之通水掛少致候へハ、格別御要害ニ相障り候と申儀も只今之上申張候趣意も無之、其上先年旱魃致候節も湖水殊之外減少ニ付、海柵結足之候儀有之候間、湖水減少致候而も御要害ニ相障候と申筋只今之上相見不申候、且又とふこ淵堰候儀も、是以御要害ニ障り之申筋も存当り無之候、皆共色々申談候へ共、只今之上両様共ニ御要害ニ相障りと申儀急度致候申立有之間敷と存候、此趣御同意候哉、年寄中江御達御挨拶被成候様ニ奉存候、以上

六月七日　五人

角田数馬様
星見作大夫様
平田仲五郎様

右ニ付御要害御障候筋無之候ニ付、其趣ヲ以年寄中江達　但御関所江も申来候

六月十二日

一湖水時(地)水と申候而ハ何程是迄いか程減候事有之候哉、取調申越候ニ申越候様ニ付、取調候処左之通

一湖水平生之地水と申候者、御番所裏石垣之土台木江水附候ヲ、地水と存居申候当時ハ右土台木水上江大概弐尺程出申候、依之弐尺程之水減少と相見申候、例年植附之時分ゟ段々暑サニ向候へハ、大概御番所裏三間程も水減申候、然る処明和七・八年旱魃之節ハ、右三間程減少之上ニ又三間程も減少致、其節ハ御柵結足致見分候処、上方口海手柵大概三間程結足候様ニ相見申候、江戸口之方ハ一体湖水深く候故、弐間程も結足し候様ニ相見へ申候、然レ共御存之通船中ゟ遂見分候事故、急度間数打候事も無之、大体見積り候趣ニ御座候、町裏之儀三嶋町平左衛門裏石垣湖上ニ張出居申、地水ニ而ハ此石垣際干潟ニ成事無御座候、旱魃之節ハ右石垣際弐間程も干潟ニ相成候由役人共申聞候、尤水中之深浅場所ニ寄候而ハ違候事故、町裏ニ而も一同ニも難申、先平左衛門石垣湖上ニ多出居申候事ゆへ、人之此裏之様子ハ相覚居申候、且又御矢場向通馬出口平生ハ見へ

不申候処、旱魃之年ハ能見へ申候由定番共も申候、堂ヶ嶋出崎岩躰之物も、旱魃之節ハ右馬之背ニ准し見江候由ニ候、併是ハ水増或ハ波立候節抔ハ、打崩候事も有之、聢与ハ難申由ニ候、旱魃之節湖水減少之様子、御柵結足之間数之儀明和七・八之留帳ニも不相見候、然共結足有之候儀者存罷在候事ニ御座候、皆共申談之上遂見分、定番共并役人共相守候趣左之通ニ御座候、以上

六月十二日　五人

星見作太夫様

平田仲五郎様

追而申遂候、明和七・八之旱魃ハ、一体少しツヽ次第ニ湖水減少之事故、水門江者尚更水落候、不足之儀被存候、然る処此度ハ水道堀下ヶ候事故、植附候節ハ尚更不絶水落可申候間、其節水減少之様子何程之儀ニ可有候哉、此間も及欠合候通、只今之上ニ而ハ難計候

一明和八年水門水道堀候儀ニ付、年寄中ゟ欠合有之及返報候趣、先月留帳ニ而見出申候、勿論右年寄中江欠合之節諸水道堀候儀ニ相成候哉、其趣者見当不申候、先年も右水道堀候儀ニ付欠合有之候事故、是ハ誠ニ御心得之為ニ一(右一)右件書抜遣し申候、以上

一当時有水平左衛門石垣際、水深サ金尺ニ而三尺余も可有之候、右石垣金尺ニ而五尺余有之

一馬瀬浅キ処金尺ニ而五尺程、右之通年寄中江達候

(『箱根御関所日記書抜　上』箱根町立箱根関所資料館所蔵)

一九一　安永九年(一七八〇)七月　水不足につき水門・土手普請三ヶ村願書

乍恐以書付奉願上候

水野出羽守領分駿州駿東郡六ヶ村、大久保加賀守領分同国同郡拾三ヶ村、大久保金蔵領分同国同郡壱ヶ村、稲葉紀伊守知行所同国同郡弐ヶ村、内藤越前守知行所同国同郡弐ヶ村、松平内蔵允知行所同国同郡三ヶ村、酒井沖五郎知行所同国同郡壱ヶ村、安藤図書知行所同国同郡弐ヶ

村、山岡五郎作知行所同国同郡壱ヶ村〆三拾壱ヶ村惣百姓一同奉願上候者、私共村方之儀往古ゟ用水不足之場所ニ御座候処、寛文年中箱根山西之方ニ而七百弐拾間深良村地内ニ懸り、土中堀貫湖水を落し用水ニ仕候故、有来ル田畑者勿論畑方も多分ニ田ニ成潤沢ニ用水懸引仕候処、如何之訳ニ御座候哉、近年連々水不足仕田面江行届不申不作打続田方ハ畑作仕付候様ニ相成、領主地頭所物成相減百姓茂困窮仕難儀至極奉存候、寛文年中之普請ニ而元来乾地之村々相助り候処、当時水不足仕候段歎ヶ敷奉存候間、何分御慈悲ヲ以御見分之上右湖水縁通所々江土手築立水門筋堀下ヶ等被　仰付、其外右井筋之内古来ゟ有之土手危ク相見候場所茂御座候間、是又御見分被成下、湖水湛方水吐方等共乍恐御勘弁之上御普請被　仰付、秋ゟ春迄之内湖水余慶(註)湛置、用水沢山ニ引取候様ニ被為　仰付被下置度奉願上候、右願之場所者重々箱根権現領内并東海道往還江も相懸り、其上湖水者　御関所後之儀ニ付、領主地頭江普請相願候儀難仕奉存候間乍恐御普請之儀奉願上候、何分御聞済被成下願之通被為仰付被下置候ハヽ、大勢之百姓永々相助広大之御慈悲与難有仕合ニ奉存候、御尋之儀茂御座候ハヽ、以口上可奉申上候、以上

安永九子年七月

井組三拾壱ヶ村惣代

竹原村
名主　伝左衛門

下土狩村
名主　九左衛門

伏見村
名主　又右衛門

深良村
名主　五　郎　次

御奉行所様

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

一九三　安永一〇年（一七八一）正月　水門掘下げ御普請につき箱根山神領役人宛願書

乍恐以書付奉願上候

一駿州駿東郡下御厨井組廿九ヶ村之義ハ、御当山湖水ヲ以用水之加水年来引来候処、近年水不足仕度々及旱損難儀仕候ニ付、右湖水縁通并水門口堀下ヶ逆川迄御普請　御公義様へ奉願上、水湛方吐方宜敷仕度奉存候、右湖水湛方之儀ハ御当山□□ゆへ御障ニ相成不申候様御普請御願申上候、前書之通廿九ヶ村御田地相続之義ニ御座候間、以御慈悲御用捨被成下御普請成就仕候様奉願上候、愈村方願之通従　御公義様所々御普請被成下候ハヽ、水為御運上是迄神納仕候御初穂ニ差加都合米三十俵宛年々可奉差上候、右上納三十俵之義ハ箱根山ハ霜月ニ至候後者雪氷深、御知行所人馬運歩難成旨被仰聞奉承知候間、十月晦日迄例年急度御領地沢地村年番役人中迄相届ケ候上、御山内御役人中ゟ上納皆済

一札申請聊以御運上米難渋不埒成義申間敷候、万一上納米相滞候ハヽ、前々之通湖水御切流被遊候共、一言之儀申上間敷候、且湖水縁通り後来修覆之儀ハ小破之節者村方ゟ修覆仕、若及大破候ハヽ、御公義様へ可奉願上候、尤村方ニ而小破繕仕候節ハ御神領内ニ而最寄土石取用候様被仰付被下置候様奉願上候、勿論土石取場所之儀ハ其節御願申上御差図請運送可仕候、右願之通被仰付被下置候様奉願上候、以上

安永十丑年正月

伏見村
名主　又左衛門
同　久右衛門
同　甚　八
与頭　与惣次

新宿村
名主　理兵衛
与頭　甚兵衛

竹原村
名主　伝左衛門
与頭　茂兵衛
下土狩村
名主　権右衛門
同　九左衛門
与頭　六右衛門
中土狩村
名主　勘兵衛
同　善左衛門
与頭　五右衛門
上土狩村
名主　嘉左衛門
同　安兵衛
与頭　定右衛門
納米里村
名主　嘉　六
与頭　平　七
一色村
名主　八郎治
与頭　源左衛門
富沢村
名主　嘉　六
与頭　源　七
定輪寺村
名主　太兵衛
与頭　半右衛門
千福村
名主　太兵衛
与頭　弥右衛門
葛山村
名主　嘉左衛門
与頭　勝左衛門

御宿村
名主　半右衛門
与頭　彦九郎
上ヶ田村
名主　伊左衛門
与頭　太左衛門
金沢村
名主　六左衛門
与頭　兵左衛門
神山村
名主　半右衛門
同　勇助
与頭　丈右衛門
岩波村
名主　半右衛門
同　勇助
与頭　八郎右衛門
深良村
与頭　五郎治
与頭　伝兵衛
久根村
与頭　太左衛門
与頭　弥兵衛
石脇村
名主　弥四郎
与頭　半右衛門
佐野村
名主　平左衛門
与頭　源右衛門
公文名村
稲荷村
名主　重左衛門
与頭　四郎左衛門
茶畑村
名主　林蔵

同　伝左衛門
与頭　与祖右衛門
平松新田
与頭　治兵衛
麦塚村
名主　源次兵衛
与頭　庄左衛門
伊豆嶋田村
名主　治郎八
与頭　彦次郎
二ツ屋新田
名主　佐五兵衛
水窪村
名主　甚兵衛
与頭　宗八

箱根山御神領
御役人中様

（弘化四年六月「箱根山別当所へ井組弐拾九ヶ村ゟ差入置候書付写」裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

一九三　天明元年（一七八一）四月二六日　海尻水門御普請留書

海尻水門御普請
天明元年四月廿六日

一今廿六日御普請役西原彦左衛門殿・和田栄助殿為見分被差越、元箱根より湖水之縁通り芦川町迄被至見分候ニ付、杉崎平作定番人召連罷出、御見分無滞相済申候、但、是ハ海尻水門御普請ニ付、罷越候事

同五月十五日

一御普請役より参候別紙左之通

覚

駿州駿東郡弐拾九ヶ村、箱根山湖水より引取候用水路御普請願ニ付、先達而湖水縁見分之節、於場所委細御談申候通、湖水縁地低く場所箱根権現前より箱根宿表

通迄、湖水縁石垣地形等築キ上、湖水湛方三尺程相増候様御普請被仰付候而も、御差障之儀無御座候哉

附紙

此儀、湖水縁地低く場所箱根権現前より箱根宿裏通迄、湖水縁石垣地形等築上、湖水湛方三尺程相増候様ニ御普請被仰付候而も、差当御要害ニ御差障も有（ママ）

御座

一湖水引入方宜敷相成候様、湖水より用水路江引入口水門、并堀貫穴共三尺程床下御普請被仰付候而も、御差障之儀無御座候哉

附紙

此儀、湖水より用水路江引合之水門、并堀貫穴共三尺程床下御普請被仰付候而も、差当御要害之御差障も有御座間敷候儀と奉存候

右者御関所最寄之儀ニ御座候哉、及欠合申候、御差障有無之儀、御附札ヲ以被仰聞候様ニ致度候、以上

丑五月

御普請役　西原彦左衛門

和田栄助

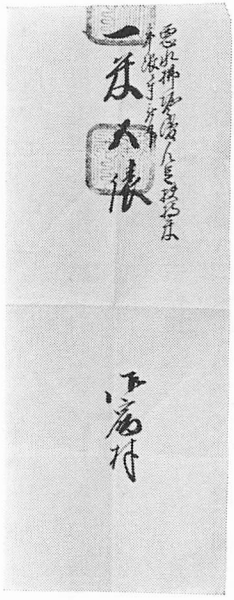
右之通別紙参候ニ付、則致附札返報相認メ、今日差遣申候

同二年正月廿八日

一御普請役倉橋定之丞殿・和田栄助殿右両人其許泊りニ而今朝御番士江逢致由ニ付、挨拶平作罷出候処、今度湖水水門御普請、并床下堀下ヶ被仰付候ニ付、此段一と通御達申度由被申聞候ニ付、平作相応之挨拶致罷帰候

（『箱根御関所日記書抜　上』箱根町立箱根関所資料館所蔵）

一九四　年未詳　御宿村人足扶持米切手



悪水払堀浚人足扶持米

年限ニ付被下

（割印）

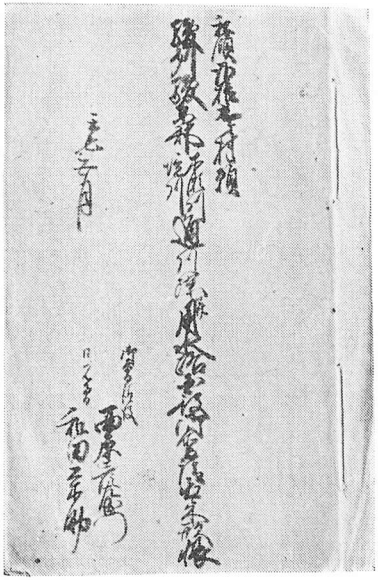
一米　五　俵（印）

御　宿　村

（裾野市御宿　湯山　博氏所蔵）

第二節　国役普請の要求

一　天明元年（一七八一）五月　国役御普請出来形帳



（表紙）

私領弐拾九ヶ村願
駿州駿東郡 木瀬川 境川 通川除并用水路国役御普請
出来形帳

閏丑五月　御普請役　西原彦左衛門
同　見習　和田栄助

水野出羽守
大久保加賀守　領分
大久保金蔵

稲葉紀伊守
内藤越前守
松平内蔵允　知行
酒井仲五郎
安藤図書
山岡五郎　作

駿州駿東郡弐拾九ヶ村

用水掛り高六千七拾壱石九斗九升九合

箱根権現領
字四ツ留メ
一水門長五間　内法　横弐間　高七尺　伏替壱ヶ所

此板坪三拾九坪三合三勺四才

内　三拾弐坪六合六夕七才　新板坪
　　六坪六合六夕七才　古板坪

内
拾坪五合　長五間　横壱丈弐尺六寸　敷板坪　新板
拾坪五合　長五間　横壱丈弐尺六寸　甲蓋板坪新板
拾壱坪六合六夕七才　高七尺　横五間　宛弐ヶ所西側板坪新板
六坪六合六夕七才　高壱丈　横弐間　宛弐ヶ所
水門前　上抱板坪古板

右入用

尺〆壱本八分壱厘五毛　削立壱尺角
槻木壱本　長壱丈八尺　壱尺壱寸角　椛土台
尺〆六本五厘　削立壱尺用
同木四本　長壱丈五尺　壱尺壱寸角　男柱
尺〆壱本壱分五厘五毛　削立　幅壱尺　厚八寸
同木壱挺　長壱丈四尺　幅壱尺壱寸　厚九寸　笠木
古木拾本　長弐間　五六寸角　竪土台
尺〆弐十八本弐分弐厘四毛　削立七尺角
槻木四拾弐本　長壱丈弐尺六寸　八寸角　敷木
尺〆九本六分
杉木四拾本　長八尺　六寸角　短木

此通挽拾六通り　但十文字挽
尺〆三本九分
同木拾本　長壱丈三尺　六寸角　新桁木
此通挽六通五分　但十文字挽
尺〆壱本九分五厘
同木拾挺　長壱丈三尺　幅六寸　厚三寸　地覆木
此通挽四通り八分七厘
尺〆弐本壱分六厘七毛
同木弐拾挺　長壱丈三尺　幅五寸　厚弐寸　貫木
此通挽七通り五分八厘　但十文字挽
是者壱通上下ニ而五挺ツヽ中短共ニ四通分
尺〆拾九本八分　削立幅壱尺
松板百枚　長七尺弐寸　幅壱尺弐寸　両側板
厚三寸
此通挽四拾四通り　但三枚割弐通挽
是者敷甲蓋溝付両側板為持候積り
尺〆拾七本三分弐厘五毛
同板五拾枚　長壱丈弐尺六寸　幅壱尺壱寸　甲蓋板
厚三寸
此通挽三拾八通五分　但三枚割弐通挽
尺〆壱本九分六厘　削立ア幅壱尺
ア弐寸五分
同板弐拾壱枚　長三尺三寸　幅壱尺壱寸　戸板
ア三寸
此通挽四通弐分五厘　但三枚割弐通挽

尺〆三分壱厘五毛
同四拾弐本　長三尺　三寸角　戸桟
此通挽壱通五厘　但十文字挽
是者戸板壱枚ニ弐本ツヽ蟻〆ニ而戸明建致候積り

古木八本　長壱丈壱尺　四寸角　戸前土抱板
同木四挺　長壱丈弐尺　幅三寸　同貫木
ア三寸
同木拾六本　長九尺　三四寸角　戸前土抱杭　扣木
是者上扣胴扣共八本両袖分

同木弐拾四本　長　三尺ゟ弐尺迄　弐三寸角　かせ留木
同板弐拾四枚　長壱丈　幅壱尺ア弐寸　戸前左右　土抱板
同木三本　長三尺三寸　ろく路木
是者戸明候節相用候積り

合尺〆九拾四本弐分七厘
内
槻尺〆三拾七本弐分四厘四毛　但尺〆壱本ニ付永壱貫文
代永三拾七貫弐百四拾四文
松尺〆三拾九本三分四厘六毛　但尺〆壱本ニ付永四百文

代永拾五貫七百三拾八文四分
杉尺〆拾七本六分壱厘七毛　但尺〆壱本ニ付永五百文
代永八貫八百八文五分
大工弐百九人三分　但壱人ニ付永四拾文
賃永八貫三百七拾弐文
百九拾六人　新板壱坪六人
内　拾三人三分　古板壱坪弐人
是者水門一式蟻帯〆仕立ニ付懸り多し
木挽百弐拾弐通七分三厘　但壱通ニ付永拾五文
賃永壱貫八百四拾文九分
右伏方
一堀割長五間　平均　上口九間　深壱丈壱尺　床三間　壱ヶ所
此堀埋坪百弐拾坪
内弐拾八坪三合　坂五間　高八尺壱寸　横壱丈弐尺六寸　外法信坪引
残九拾七坪七合
一仮〆切打廻シ長三拾間　平均　高六尺　横三間　壱ヶ所

此砂利九拾坪
　右入用
明俵四千三百弐拾俵　四斗入桟俵共
代永拾弐貫九百六拾文　但拾俵ニ付永三十文
是者表弐通裏弐通壱間ニ六表並六重分
縄千百四拾房　弐拾尋曲
代永壱貫百弐拾三文弐分　但拾房ニ付永七文八分
是者七表三表ニ壱房
人足弐千六百六拾六人七分　但壱人ニ付壱升七合
代永三拾五貫弐百三拾三文五分

但駿州駿東郡御殿場村当丑四月十五日上中下米平均直段壱両ニ付米壱石弐斗八升六合六夕七才替

五百五拾人弐分　堀割築堅足土共壱坪六人
千百三拾人五分　材木引取深良村新田石橋ゟ凡道二里半余往返五里余尺〆壱本拾弐人持、但山坂難場ニ付人足懸り多し
弐百拾六人　土俵壱人弐拾俵拵
四百五拾人　〆切仕立取払共壱坪五人
三百弐拾人　水替桶四挺手代り壱挺昼夜八人ツヽ、日数十日分

小以永百弐拾壱貫三百弐拾文五分

一　水門表側五間宛
　石垣延長拾間　平均高壱丈横三尺　弐ヶ所
　此石八坪三合
　同所続　南側拾壱間　北側拾六間
一　同延長弐拾七間　平均高七尺横三尺　弐ヶ所
　此石拾五坪七合
　弐口坪弐拾四坪
　石切百四拾四人　但壱坪六人
　是者石摺合石垣築立一式
　人足千四百四拾人　但石持運平均弐拾丁壱坪六拾人
水門表　南側長拾壱間　北側長拾六間
一　石垣裏埋立延長弐拾七間　平均高七尺横二間　弐ヶ所
　此土六拾三坪　但土取七丁半壱坪拾六人
　人足八人

是者側浚砂利五分通り取受築立候積りニ付、土取拾五丁之処、半減ニ成

水門表片側五拾間ツヽ両側分
一　石垣築直シ延長百間　平均高八尺横四尺　弐ヶ所

此石八拾八坪
　内五拾九坪弐合
残弐拾九坪七合
石切四百七拾四人四分
　弐百三拾六人八分
　内
　弐百三拾七人六分
人足弐千七拾八人
　弐百九拾六人
　内
　千七百八拾弐人

有石
足シ石

有石ニ而築立壱坪四人
新石ニ而築立候分石摺
合築立共壱坪六人

一　水門表
用水堀浚長五拾間
此砂利三拾三坪三合
人足百六拾六人五分

有石取崩壱坪五人
新石取運弐拾丁
壱坪六拾人懸り

平均　深弐尺
横弐間　壱ヶ所

一　湖水門
水門表
浚長拾五間
此砂利七拾坪
人足五百六拾人

但浚壱坪五人

平均　深四尺
横七間　壱ヶ所

但浚壱坪八人

右之寄
石切六百拾八人四分
　賃永三拾貫九百弐拾文
人足五千弐百五拾弐人五分
賃米八拾九石弐斗九升弐合五夕
代永六拾九貫三百九拾八文壱分
　但金壱両ニ付　壱石弐斗八升六合八夕七才替
小以永百貫三百拾八文壱分

但壱人ニ付永五拾文
但壱人ニ付米壱升七合

一　字四ツ留堀貫穴
長七百弐拾間之内
床下長五百五拾間
　是者連々押埋り候砂利石浚立深壱尺新規堀立深壱尺都合弐尺床下ヶ積り
　此訳
浚長五百五拾間
此砂利百六拾坪九合
人足千六拾九人
堀立長五百五拾間
此坪百六拾坪九合

平均　深弐尺
横七尺

平均　横七尺
深壱尺

但壱坪六人
平均　横七尺
深壱尺

是ハ石岩まさ之場所ニ付、人足石切相懸り堀立候積り

石切千九百弐拾四人弐分　　但壱坪拾八人
人足千九百弐拾四人弐分　　但壱坪拾八人
人足五千五百五拾八人
是者浚堀立石砂利合弐百拾三坪八合持出し取捨道法平均九丁之内壱坪弐拾六人
燈油九石
是ハ穴之内ニ而燈候分普請日数六拾日　但一日壱斗五升ツヽ

一　堀貫穴下まぶ入口左者八間ツヽ、石垣延長拾六間　平均高四尺横三尺　弐ヶ所
此石五坪三合
石切四拾弐人四分　　但壱坪八人
是者石摺合築立候共一式
人足六拾三人六分　　但石取三丁壱坪拾弐人
右之寄
燈油九石　　但壱升ニ付永五拾七文弐分
代永五拾壱貫四百八拾文
石切千九百六拾六人六分　　但壱人ニ付永五拾文

賃永九拾八貫三百三拾文
人足八千六百拾五人六分　　但壱人ニ付米壱升七合
賃米百四拾六石四斗四升五合弐夕
代永百拾三貫八百三拾弐文八分　　但米壱石弐斗八升金壱両ニ付六合六夕七才替
小以永弐百六拾三貫六百四拾弐文八分

一　堀貫穴前後七間半ツヽ、土留枠延長拾五間　　但高九尺横九尺
右入用
尺〆八本六分三厘九毛
栗丸太三拾弐本　　長九尺末口六寸　　枠柱
代永弐貫八百拾六文　　但壱本ニ付永八十八文
是者間ニ送リ弐本建両側分
尺〆五本六分九厘四毛
同木拾六本　　長九尺末口七寸　　梁木
代永壱貫九百五拾弐文　　但壱本ニ付永百弐十弐文
是者間ニ送リ弐本建
尺〆九本三分四厘八毛
同木弐拾四本

内　　行桁

尺〆七本五分四厘八毛
拾八本　長壱丈三尺　末口六寸
代永弐貫弐百八拾弐文
尺〆壱本八分
六本　長壱丈　末口六寸
代永五百八拾六文弐分
是者壱通八本ツヽ
尺〆廿九本三分八厘四毛
同木百五拾本　長九尺　末口五寸
代永九貫百五拾文
尺〆壱本九分六厘
同木三拾弐挺　蒜木
代永九貫百五拾文　貫木

内

尺〆壱本五分六厘
弐拾八挺　長壱丈三尺　幅五寸　厚壱寸弐分
代永九百三拾六文　但壱挺ニ付永三十九文
八挺　長壱文　幅厚同断
代永弐百四拾文　但壱丁ニ付永三十文
六寸鉄九拾六挺
此鉄目五貫七百六拾目　但壱挺鉄目六拾目
代永八百拾七文九分　但鉄目壱貫目ニ付永百四十弐文

但壱本ニ付永百廿七文
但壱本ニ付永九十七文七分
但壱本ニ付永六十壱文

是者行桁磐鉄梁壱本三ヶ所ツヽ、壱ヶ所弐丁打
大工拾五人　但壱人ニ付永四十文
是者枠切組仕立共壱間壱人ツヽ、
人足六百九拾人三分
賃米拾壱石七斗三升五升壱夕　但壱人ニ付米壱升七合
代永九貫百弐拾文五分　但金壱両ニ付、米壱石弐斗八升六合六夕七才替
是者内三十人者枠柱堀込大工手伝共、壱間弐人宛六間六十人三分栗丸太持運、尺〆五拾五本弐厘五毛道法五里余之所、壱本十弐人持山坂難場ニ付、人足懸リ多し

小以弐拾八貫五百四文六分

新川通

長拾弐間　槻木ゟ古川口迄　三
長四拾間　古川口ゟ太郎右衛門堰迄　四
長弐拾七間　太郎右衛門堰ゟ石橋迄　五
長弐拾六間　茂助後ゟ深良堰迄　十
長七拾五間　神山境ゟ尾崎迄　十一
長弐拾七間　岩波村境ゟ大手曲迄　十六
長拾壱間　新田橋下橋台共南側　二十四

長拾壱間　右同断北側　二十四
長三拾弐間　深良村境ゟ権十郎前迄　八
長弐拾弐間　七蔵前　十二
一石垣延長弐百八拾三間　平均　高七尺　横弐尺五寸
此石百三拾七坪六合
長四拾五間　深良村境ゟ用水堀迄　十四
長五拾四間　用水堀分　十五
長百拾弐間　岩波村境ゟ石橋迄　二十一
一石垣延長弐百拾壱間　平均　高六尺　横弐尺五寸
此石八拾七坪九合
一石土長弐拾五間　太郎右衛門堰付六　平均　高四尺　横六尺
此石拾六坪七合
三口合弐百四拾弐坪弐合
内拾弐坪壱合　有石
残り弐百三拾坪壱合
石切千八百四拾人八分
是者石垣摺合壱坪八人懸り

人足五千三百八拾九人壱分
内　千九百三拾七人六分（石垣築立石垣裏地形平均土取共壱坪八人
三千四百五拾壱人五分　石取五拾壱坪拾五人
長四拾間　古川口ゟ太郎右衛門堰迄　四
長弐拾七間　太郎右衛門堰ゟ石橋迄　五
一土手上置延長六拾七間　平均　高壱尺五寸　横九尺
此土弐拾五坪壱合
長百壱間　太郎右衛門堰ゟ神山村境迄　七
長百拾七間　深良村境ゟ茂助後迄　七
一土手上置延長弐百拾八間　平均　横壱丈　厚弐尺
此土百弐拾壱坪壱合
長弐拾六間　茂助後ゟ深良村境迄　十
長七拾五間　神山村境ゟ尾崎迄　十一
一土手上置延長百壱間　平均　高弐尺　馬踏弐間　敷壱丈五尺
此土七拾五坪壱合
同所
一土手外腹付延長百壱間　平均　高七尺　横五尺
此土九拾八坪弐合

一　岩波村境ゟ十六
五反田水門迄十七
土手上置長五拾四間　平均　高弐尺
馬踏弐間
敷壱丈六尺

此土四拾弐坪

一　同所
土手内腹付長五拾四間　平均　高五尺
横六尺

此土四拾五坪

長弐拾間　岩波村地内
長四拾九間　字五反田堰下
長拾七間　同所下深良村地内

一　土手上置
腹付延長八拾六間　平均　法越壱丈八尺
厚壱尺五寸

此土六拾四坪五合

一　同上置長七拾九間　平均　横壱丈
高弐尺

此土四拾三坪九合

八口合土五百拾五坪五合
人足六千八拾六人　但　土取平均五丁半
壱坪拾弐人

一　深良村地内
用水路浚長三百五拾七間　平均　横弐間
深サ五寸

此砂利五拾九坪五合
人足百七拾八人五分　但壱坪三人

一　深良村地内新田
石橋長弐間半　巾五尺　壱ヶ所

是者有石用橋台共取繕ひ

石切六人

是者橋台石垣取繕摺合一式

人足九人

是者石垣取崩仕立共一式

同村地内
豊後堰分
一　投渡橋長五間　巾三尺　壱ヶ所
右入用

尺〆弐本七分五厘　長弐間半
松板六枚　幅壱尺　橋板
厚五寸

同木拾弐本　長五尺　押木
末口三四寸　留杭

是者壱ヶ所三本ツヽ四ヶ所

大工壱人

是者留杭帯穴畝橋懸渡一式

人足六人七分
是者橋板尺〆三本七分五厘壱本拾弐人持杭木四本
壱人持往返三拾丁余一日六里歩行山道ニ付人足懸り多し

一　両脇三間宛水中長弐間
橋台石積延長八間　　平均　高六尺　横六尺
此石八坪
石切七人
是者石台水中長弐間之所積立摺合一式
人足三拾弐人　　但石取近所積立共壱坪四人

木瀬川通石脇村地先長弐間
御宿村地先長弐間半
一　投渡橋延長六間半　　巾四尺　　弐ヶ所
右入用
尺〆七本八分
松板八枚　　幅壱尺　厚六寸　　橋板
四枚　長弐間
内
四枚　長四間半
松木拾五本　　長五尺　末口三四寸　　押木
留杭

是者壱ヶ所三本ツヽ五ヶ所分
大工壱人
是者留杭帯穴畝橋懸渡一式
石工弐人
是者橋台岩石江杭穴畝立候分
人足四人
是者橋懸渡大工手伝一式分

両脇長三間ツヽ
水中長弐間
一　橋台石積築上延長八間　　平均　高弐尺五寸　横七尺
此石坪三坪九合
石切七人
是者橋台水中長弐間之所積立摺合一式
人足拾五人六分　　但石取近所積立共壱坪四人
右之寄
松木尺〆拾壱本五分五厘　　但尺〆壱本ニ付永四百文
代永壱貫六百弐拾文
松木拾弐本　　長五尺　末口五寸　　但壱本ニ付永七文壱分七厘

代永八拾六文
同木拾五本　長五尺　末口三四寸　但壱本ニ付永七文
代永百五文
大工弐人　但壱人ニ付永四十文
代永八十文
石切千八百六拾弐人八分　但壱人ニ付永五十文
賃永九拾三貫百四拾文
人足壱万千八百弐拾人九分　但壱人ニ付米壱升七合
賃米弐百石九斗五升五合三夕
代永百五拾六貫百八拾弐文五分
但金壱両ニ付米壱石弐斗八升六合六夕七才替
小以永弐百五拾四貫弐百拾三文五分

一　境川通　中土狩村　壱丁田
欠所長三拾三間　平均　高壱丈三尺　横三尺
此土三拾五坪七合
人弐百拾四人弐分　但土取二丁半　平坪六人

一　同所根通り
石積長三拾三間　平均　高九尺　横八尺
一　同所　上置長弐拾四間　平均　高弐尺　横六尺
此土八坪
人足四拾八人　但土取平均弐丁半　壱坪六人
人足弐百五拾人八分　但石取七丁　壱坪弐十弐人
是者五間籠三拾三本ハ欠所腹付長三拾三間之所、壱通六継六分宛六とも五間籠十三本ハ石垣下地形ニ遣候
蛇籠四拾六本　長五間　差渡シ壱尺五寸
代永三貫弐百弐拾文　但壱本ニ付永七十文ツヽ
人足千九百六拾五人
賃米三拾三石四斗五合　但壱人ニ付米壱升七合
代永弐拾五貫九百六拾弐文五分
但金壱両ニ付壱石弐斗八升六合六夕七才かへ
小以永弐拾九貫百八拾弐文四分

木瀬川通　深良村地内　新川落口ゟ下
一　石腹付長拾間　平均　高七尺　横三尺

此石五坪八合
人足弐拾三人弐分　　但石取壱丁壱坪四人
右寄
人足弐拾三人弐分
賃米三斗四升四合四夕　　但壱人ニ付米壱升七合
代永三百六文五分　但金壱両ニ付米壱石弐斗八升六合六夕七才替
合金七百九拾七両壱歩永弐百三拾八文四分
内金百四拾三両弐歩永百弐拾五文　私領出金之分

右者駿州駿東郡弐拾九ヶ村、箱根山湖水ゟ引取候用水路并ニ木瀬川・境川通御普請願場所巨細ニ見分仕、諸色直段等吟味之上、国役御普請積を以目論見方差略等仕、御入用積書面之通ニ御座候、以上

閏丑五月

御普請役　西原彦左衛門
同　見習　和田栄助

右者私共組合先達而奉願候木瀬川・境川通川除并箱根山湖水ゟ引取候用水路浚床下ケ、水門伏替、其外土手上置腹付石垣等之御普請、願之通今般国役御普請被　仰付、右御入用諸色御吟味直段を以組合村請ニ差出木品寸間等逸々御改を請、人足之儀も廿九ヶ村割合を以無甲乙差出、右御普請仕立中私共日々御場所江罷出御差図を請、先達而奉願候御普請御目論見之ケ所々不残書面之通、御普請丈夫ニ皆出来仕組合村々一同難有仕合ニ奉存候、勿論御場所仕立方人足諸色御遣方等ニ至迄、少茂御非分之儀無御座候、尤人足賃米代永御内借奉請取候度々小前銘々割渡申候、猶又残金等追而奉請取候ハヽ、早速割渡可仕候、右御普請一件之儀ニ付、組合村々何ニ而も御願ケ間敷儀毛頭無御座候、依之出来方帳面奥書印形差上申候所、仍而如件

天明二寅四月

弐拾九ヶ村
名　主　印
組　頭　印
百　姓　代　印

右者駿州駿東郡廿九ヶ村木瀬川・境川通国役御普請、右入用諸色之儀者先達而吟味之通直段相用、人足賃米之儀者最初御殿場村市相場上中下平均直段を以代付仕、国役御普請出来方御入用書面之通ニ御座候、以上

寅四月

御普請役　倉橋定之丞
同　見習　和田栄助

御宿村
湯山半七写之

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

一九六　天明二年（一七八二）四月一五日　国役御普請につき普請役宛書付写

（表紙）

御普請役様へ差上候書付写
茶林

乍恐口上之覚

先達而奉願候木瀬川・境川通川除并用水路之儀、今般国役御普請被仰付、右仕立方一件組合村請ニ仕、出来形帳面奉差上候通丈夫ニ皆出来仕難有仕合ニ奉存候、尤人足等之儀未明ゟ極晩迄出情為相働候ニ付、存之外御場所捗取仕候ニ付、御積通之人足遣払少々ハ相残候ニ付、自然と私領出金之分相減候様ニ罷成、凡出金割合三拾七八両程も差出候積ニ罷成、其外諸失脚等茂相懸り不申、何にて茂村方難儀之筋無御座願之通御普請丈夫ニ出来仕、用水等潤沢罷成組合村々重々難有仕合ニ奉存候、右者一通御尋ニ付、書付ヲ以奉申上候、以上

寅四月

弐拾九ヶ村惣代

書付ヲ以申上候

此度湖水表水門御伏替御普請被仰付、右古板木用立候分ハ不残御遣払ニ相成、残木品之分朽損用立候木品一切無

御座候、依之書付ヲ以申上候、以上

寅四月十五日

差上申一札之事

駿州駿東郡木瀬川・境川通川除并用水路御普請之儀、先達而奉願候処、願之通今般国役御普請被仰付、右御入用諸色之儀、御吟味直段ヲ以組合村請ニ差出、木品寸間等逸々御改請人足之儀茂弐拾九ヶ村江割合無甲乙差出、右御普請中組合村々日々御場所江罷出仕立方等御差図を請、私共願之ヶ所々御目論見通、無残所御普請丈夫ニ皆出来仕、村々一同難有仕合奉存候、尤諸色代永人足賃等御内借奉請取候、度々私共立合之上夫々無甲乙割渡請取印形取置申候、猶又残金等追而奉請取候ハヽ、早速割渡可申候、尤此度御普請ニ付組合村方諸入用等別段相掛不申難儀之筋少茂無御座、勿論御場所仕立方人足諸色御遣方等ニ至迄御非分之儀無御座、右御普請一件之儀ニ付、何にて茂此上御願ヶ間敷儀聊無御座候

一右御用中深良村江御旅宿之儀申上、右村ニ御止宿被成御逗留中、御定之木銭米代等御払被成慥奉請取候、尤先達而御着之節委細請書差出候通、何ニ而茂御馳走ヶ間敷儀一切不仕候ニ付、右御払之外御旅宿御賄等之儀ニ付組合村入用等相掛不申、且又御用中御調物等其度々代銭御払奉請取候、勿論御家来中至迄御買懸り等少茂無御座、御逗留中何ニ而茂御非分等之儀毛頭無御座候、右御普請御用相済御引払被成候ニ付為後日組合村々連印一札差上申所、仍如件

天明二年寅四月

一
下土狩村
名主　権左衛門
組頭　三右衛門
百姓代　兵右衛門

二
中土狩村
名主　勘兵衛
同　善左衛門

三
上土狩村
名主　嘉左衛門
同　五郎左衛門

組頭　五右衛門
百姓代　惣次郎

四
納米里村
名主　嘉六
与頭　平七
百姓代　幸助

六
富沢村
名主　嘉六
与頭　源七
百姓代　文蔵

七
竹原村
名主　伝左衛門
与頭　茂兵衛
百姓代　忠右衛門

二ツ屋新田
名主　佐五兵衛
百姓代　勘右衛門

組頭　丈左衛門
百姓代　直右衛門

五
一色村
名主　八郎次
与頭　源左衛門
百姓代　半右衛門

八
水窪村
名主　甚兵衛
組頭　五兵衛
百姓代　庄兵衛

伊豆嶋田
名主　治郎八
与頭　彦次郎
百姓代　八左衛門

麦塚村
名主　源次兵衛
組頭　庄左衛門

茶畑村
名主　林蔵
与頭　与祖右衛門

平松新田
組頭　治兵衛
百姓代　平左衛門

佐の村
名主　恒右衛門
組頭　九左衛門
百姓代　宇兵衛

岩波村
組頭　佐七
百姓代　茂右衛門

御宿村
名主　半右衛門

百姓代　茂左衛門

公文名村
稲荷村
名主　重左衛門
与頭　四郎左衛門
百姓代　伝兵衛

石脇村
名主　弥四郎
組頭　半右衛門
百姓代　甚左衛門

神山村
名主　半右衛門
同　勇助
組頭　丈右衛門
百姓代　太左衛門

深良村
名主　五郎次

組頭　彦右衛門
百姓代　庄兵衛
久根村
組頭　八右衛門
百姓代　利兵衛
定輪寺村
名主　太兵衛
組頭　弥右衛門
新宿村
名主　利兵衛
組頭　甚兵衛
百姓代　善七

同　四郎左衛門
組頭　伝兵衛
百姓代　伊六
千福村
名主　太兵衛
与頭　弥右衛門
百姓代　六郎左衛門
伏見村
名主　又右衛門
同　久右衛門
同　甚八
組頭　与惣次
百姓代　弥右衛門
上ケ田村
名主　伊左衛門
組頭　儀右衛門
百姓代　太左衛門

葛山村
名主　安次郎
組頭　平内
組頭　喜右衛門
百姓代　平内
倉橋定之丞様
和田栄助様

金沢村
名主　六右衛門
組頭　兵左衛門
百姓代　伴右衛門

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一九七　天明二年（一七八二）四月　新川土手御普請につき潰地村割二九ケ村定書

一札

深良村地内字ひハくひ
中畑壱畝五歩
分米八升弐合
同所
下田九歩
分米三升

持主　勇右衛門
（貼紙）「新　渡辺勝次郎」
同　人

同所
下田拾歩
分米三升三合

字高田
下畑拾九歩
分米三升弐合

同所
下田拾歩
分米三升三合

下地中田拾四歩
分米五升六合

屋敷添
上畑拾壱歩
分米三升三合

岩波村地内字尾崎
中畑拾七歩
分米四升

同村内
中畑拾壱歩
分米弐升六合

持主　徳右衛門
（貼紙）「茶吉左衛門分
季明新勝右衛門持」

持主　勇右衛門
（貼紙）「藤森半三郎」

持主　定　七
（貼紙）「上丹」

同　人

持主　定七後家
（貼紙）「是ハ
新　金平分」

持主　忠左衛門
（貼紙）「是ゟ二株岩波分」

持主　嘉右衛門

反別合四畝拾六歩
分米合三斗六升五合

右者此度新川通御普請所土手上置腹付仕候ニ付、右田地相潰シ土手敷仕、腹付相仕立申候処相違無御座候、然上ハ右潰地之分御年貢諸役井組弐拾九ヶ村高割を以差出御上納可仕候、為後日井組廿九ヶ村連印之定書仍如件

天明二寅年四月

下土狩村
名主　権左衛門㊞
組頭　三右衛門㊞
百姓代　兵右衛門㊞

中土狩村
名主　勘　兵　衛㊞
同　善左衛門㊞
組頭　五右衛門㊞
百姓代　宗　次　郎㊞

上土狩村
名主　嘉左衛門㊞
同　五郎左衛門㊞
組頭　丈左衛門㊞
百姓代　直右衛門㊞

納米里村
名主　嘉　六㊞
組頭　平　七㊞
百姓代　幸　助㊞

一色村
名主　八　郎　次㊞
組頭　源左衛門㊞
百姓代　半右衛門㊞

富沢村
名主　嘉　六㊞
組頭　源　七㊞
百姓代　文　蔵㊞

竹原村
名主　伝左衛門㊞
組頭　茂　兵　衛㊞
百姓代　忠右衛門㊞

水窪村
名主　甚　兵　衛㊞
組頭　五　兵　衛㊞
百姓代　庄　兵　衛㊞

伊豆嶋田
名主　次　郎　八㊞
組頭　彦　次　郎㊞
百姓代　八左衛門㊞

二ッ屋新田
名主　左五兵衛㊞
百姓代　勘右衛門㊞

麦塚村
名主　源次兵衛㊞

組頭　庄左衛門㊞
百姓代　茂左衛門㊞

茶畑村
平松新田
名主　伝左衛門㊞
同　林　蔵㊞
組頭　与祖右衛門㊞
百姓代　安　兵　衛㊞

公文名村
稲荷村
名主　十左衛門㊞
組頭　四郎左衛門㊞
百姓代　伝　兵　衛㊞

佐野村
名主　源右衛門㊞
組頭　九左衛門㊞
百姓代　宇　兵　衛㊞

石脇村
名主　弥　四　郎㊞
組頭　半右衛門㊞
百姓代　甚左衛門㊞

岩波村
組頭　佐　七㊞
百姓代　茂右衛門㊞

神山村
名主　半右衛門㊞
同　勇　助㊞
組頭　丈右衛門㊞
百姓代　太左衛門㊞

御宿村
名主　半右衛門㊞
組頭　彦右衛門㊞
百姓代　庄　兵　衛㊞

深良村

名主　四郎右衛門㊞
同　五　郎　次㊞
組頭　伝　兵　衛㊞
同　庄左衛門㊞
百姓代　伊　六
久根村
組頭　八右衛門㊞
百姓代　理　兵　衛㊞
千福村
定輪寺村
名主　太　兵　衛㊞
組頭　孫右衛門㊞
百姓代　六郎左衛門㊞
伏見村
名主　又右衛門㊞
同　久右衛門㊞
同　甚　八㊞

組頭　与　惣　次㊞
百姓代　弥右衛門㊞
新宿村
名主　理　兵　衛㊞
組頭　甚　兵　衛㊞
百姓代　善　七㊞
上田村
名主　伊左衛門㊞
組頭　儀右衛門㊞
百姓代　太左衛門㊞
葛山村
名主　安　次　郎㊞
組頭　喜右衛門㊞
百姓代　平　内㊞
金沢村
名主　六左衛門㊞
組頭　兵左衛門㊞

百姓代　伴右衛門㊞

（裾野市役所深良支所所蔵）

一九　天明三年（一七八三）一〇月　湖水御普請願惣代出府につき神山村他九ケ村伺書

乍恐書付を以奉伺候御事

一湖水御普請御願申度旨、先達而井組一統書付ヲ以奉伺候処、三嶋宿御出会之上被仰渡候者願書相認惣代取極出府仕候様被仰付難有仕合奉存候、然ル所村々相談之上沼津御領分ニ而壱人、小田原御領分ニ而壱人、外ニ御給所ニ而壱人出府可仕と申談候処、沼津御領分之者共申聞候者当領分之内ニ而参り候事無用ニ致、小田原御領分ニ而壱人、外御給所村々之内ニ而壱人罷越くれ候様ニ申聞候、右之儀者沼津御表ゟ村方へ御内意有之間、小田原御領分と外御給所村方ゟ出府仕くれ候様ニ右村方ゟ私共江申聞候ニ付、其節三嶋宿御出駅先ニ而御内意奉申上候処、被為仰聞候者得と村々申談之上申出候様ニ被仰渡候ニ付、其後又々井組出会相談仕候者此節所詮両御領分者相止メ、御給所村々之内ゟ惣代ニ而出府可申旨申談其積りニ而寄合退散仕候処、又候出立之砌りニ罷成御給所村々ゟ申聞候者、両御領分之内ゟ参り不申候処、当村々ニ而出府仕候儀何とも如何敷迷惑ニ付両御領分之内ゟいづれ罷出くれ候様ニ申聞候間、其後出会之上又候申聞候者、沼津御領分・小田原御領分ニ而罷越くれ候様ニ申聞候ニ付、沼津御領分ゟ者沼津御城内江又々其段御伺申候処、此節御役中之儀故最初之願ニ沼津領分ゟ罷出候義者遠慮致可申候、外御領分ゟ惣代ニ而出府致候儀者格別又々右之願ニ付永々逗留等仕候而交代仕度旨申候ハヽ、其節者罷越候而も可然、先当時右ニ付候而者小田原御領分より罷越くれ候様ニと村々ゟ申聞候、且又沼津御表ニ而御噂被仰聞候者、用水願之儀者十月限りニ而十月過候得者御取揚ケ無之事ニ付何分ニ致候哉、右願之儀相止候哉、又者外ニ村方ゟ出府致候哉、相止候事ニ候ハヽ、願下ケ之書

付差出可申候、何れ差急キ取究候様可仕旨、被仰候由ニ而又々沼津御領分ゟ申聞候、右ニ付御普請願出府惣代之儀者何分ニ可仕候哉、此段以書付ヲ乍恐奉伺候、以上

天明三卯年十月

神山村　名主　半右衛門
同　権左衛門
岩波村　組頭　半　蔵
石脇村　名主　弥四郎
佐野村　名主　源右衛門
同　九兵衛
公文名村　名主　重左衛門
稲荷村　茶畑村
平松新田　名主　伝左衛門
同　林　蔵
麦塚村　名主　源次兵衛
二ツ屋新田　名主　佐五兵衛

森田才右衛門様
中嶋太次兵衛様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

一九九　寛政五年（一七九三）九月　箱根湖水門堰樋大破につき二九ケ村見分願書

乍恐書付を以奉申上候

一箱根用水懸駿東郡廿九ケ村役人共奉申上候、私共用水

路箱根湖水門并圦樋大破仕候ニ付組合村々談之上、今般井組村々入用を以普請取掛り此節ハ九分通出来仕候、然ル所右(ママ)右用水一両年以来ゟ水門戸開候節咄方甚不宜候ニ付、堀抜穴之内故障可有之相糺申度存候処、水多平生ハ容易ニ入兼候ニ付難見届ケ罷在候、今般右普請ニ付湖表仮〆切り仕候而水少ク候間とくと見分仕候処、下まぶ之内口ゟ七拾六間程之所両側石垣崩落砂利連々ニ押埋、天明年中国役御普請以前之形ニ罷成候、捨置候ハヽ来夏用水不足者眼前ニ御座候間、何卒　御支配様御見分之義奉願上候、尤此節右普請ニ而〆切取崩シ不申、以前何分御慈悲を以差急御見分偏奉願上候、右始末井組村々惣代之者共連印を以御注進奉申上候、以上

寛政五寅年九月

井組廿九ケ村惣代
伏見村
名主　又右衛門
竹原村
名主　伝左衛門
中土狩村
名主　善左衛門
組頭　治兵衛
茶畑村
名主　林　蔵
公文名村
名主　新左衛門
佐野村
組頭　文左衛門
石脇村
名主　弥四郎
御宿村
名主　彦三郎
深良村
名主　太次右衛門

同　庄左衛門
組頭　治　兵　衛

用水御支配
御役人中様

寛政六卯正月廿二日小田原ゟ浅見兵左衛門様沼津ゟ角田太左衛門様御見分之上、御割合普請都合金三拾六両永百九拾三文被下置候

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

二〇〇　寛政五年一〇月（一七九三）　神山村他九ケ村箱根湖水門普請拝借金返済につき一札

奉拝借御金之事

明和五子十月拝借子ゟ酉迄拾年賦
元金拾六両内八両追々御上納仕残金
一金八両也
　此訳
金壱歩永拾八文六分　丑年暮
金壱歩永拾六文六分　寅年暮
金壱歩永拾六文六分　卯年暮
金壱歩永拾八文六分　辰年暮
金壱歩永拾八文六分　巳年暮
金壱歩永拾八文六分　午年暮
金壱歩永拾八文六分　未年暮
金壱歩永拾八文六分　申年暮
金壱歩永拾八文六分　酉年暮
金壱歩永拾八文六分　戌年暮
金壱歩永拾八文六分　亥年暮
金壱歩永拾八文六分　子年暮
金壱歩永拾八文六分　丑年暮
金壱歩永拾八文六分　寅年暮
金壱両永拾八文六分　卯年暮
金壱歩永拾八文六分　辰年暮
金壱歩永拾八文六分　巳年暮
金壱歩永拾八文六分　午年暮

金壱歩永拾八文六分　未年暮
金壱歩永拾八文六分　申年暮
金壱歩永拾八文六分　酉年暮
金壱歩永拾八文六分　戌年暮
金壱歩永拾八文六分　亥年暮
金壱歩永拾八文六分　子年暮
金壱歩永拾八文六分　丑年暮
金壱歩永拾八文六分　寅年暮
金壱歩永拾八文六分　卯年暮
金壱歩永拾八文六分　辰年暮
金壱歩永拾八文六分　巳年暮
金壱歩永拾八文六分　午年暮

右者先年箱根湖水門普請之節組合一同奉拝借候処、御年割之通御上納不仕不納仕候処、此度御慈悲ヲ以当丑年ゟ来ル午年迄三拾年賦御上納仕候様被　仰付難有仕合奉存候、右御年割之通急度御上納可仕候、万一不納仕候ハヽ為村中弁上納可仕候、小前証文之儀者村々名主方江取置申候、為後日仍如件

寛政五丑年十月

神山村
名主　半右衛門㊞
同　権左衛門㊞
組頭　九兵衛㊞
同　丈右衛門㊞
同　□（虫損）兵衛㊞
同　要右衛門㊞
百姓代　久右衛門㊞

岩波村
名主　伴吉㊞
組頭　佐右衛門㊞
百姓代　久左衛門㊞

石脇村
名主　弥四郎㊞
組頭　九左衛門㊞
同　清七㊞

百姓代　源左衛門㊞
佐野村
名主　八　三　郎㊞
同　源右衛門㊞
組頭　文　蔵㊞
同　嘉　六㊞
同　伊　兵　衛㊞
同　伊右衛門㊞
百姓代　市右衛門㊞
公文名村
稲荷村
名主　新左衛門㊞
組頭　儀右衛門㊞
同　兵左衛門㊞
役人代　彦左衛門㊞
百姓代　平右衛門㊞
茶畑村
名主　林　蔵㊞
組頭　与祖右衛門㊞
同　新左衛門㊞
同　儀右衛門㊞
組頭　伝　蔵㊞
百姓代　太郎左衛門㊞
平松新田
名主　林　蔵㊞
組頭　源　之　助㊞
百姓代　平左衛門㊞
麦塚村
名主　源次兵衛㊞
組頭　与右衛門㊞
百姓代　藤右衛門㊞
二ツ屋新田
名主　藤　蔵㊞
百姓代　庄右衛門㊞

筑間何右衛門様
保田孫兵衛様
青木坂右衛門様

茶畑村
請負人　五右衛門㊞

用水組合
御惣代御役人中様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

二〇一　寛政六年（一七九四）四月　箱根湖水門普請用木請負手形

請負一札之事

一此度箱根湖水門普請御入用木品別紙帳面之通入札ニ被成候処、金弐拾四両弐分弐朱ニ而落札ニ付御請負申処実正ニ御座候、然ル上ハ御注文之木品相改来ル六月土用後ニ者右場所江急度差出可申候、若又木品御改之上不足之品も御座候ハヽ、御差図次第取替差出可申候、右代金之儀ハ当時金拾弐両慥ニ受取申候、残金之儀者木品不残差出候節御渡可被成旨承知仕候、尤御請負申候上者縦令損金御座候共聊御無心ケ間敷儀申上間敷候、為後日請負一札仍而如件

寛政六寅年四月

茶畑村
名主　林　蔵㊞
組頭　新右衛門㊞

井組
御惣代御役人中

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

二〇二　寛政九年（一七九七）三月　かろうと堰五ケ村自普請書付

一当村田方用水木瀬川定水ニ用来り申候処、水論ニ及弐

前書之通、湖水普請入用木品当村五右衛門請負申候処相違無御座候、万一損金等御座候テ相滞不埒之儀も御座候ハヽ、急度申付聊も相滞不申候様ニ可仕候、依之奥印仍而如件

寅ノ四月

拾年以前申年御裁許被　仰付、箱根水同様ニ相成申候
一同新堰、是ハ百弐拾七年以前子年箱根水取申候木瀬川
之内、かろうと堰普請人足ハ御宿村・上ケ田村・金沢
村・葛山村・千福村五ケ村用水掛合ニ而自普請ニ仕候

（寛政九年『駿河国駿東郡御宿村明細村差出帳』
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二〇三　文政二年（一八一九）八月　井組二九ケ村新川国役御普請願書

乍恐以書付奉願上候

一駿州駿東郡井組弐拾九ケ村水配人惣代人一同奉申上候、
先規ゟ度々御普請被成下置候箱根湖水門堀割石垣堀抜
穴砂浚并須釜新川土手石垣等、度々之大雨地震等ニ而
年々破損仕候ニ付、井組村方ニ而繕ひ普請仕候へ共、
別而近年大破ニおよひ、漸当用水迄者引来候得共、
此上大雨供（洪カ）水等仕候ハヽ、何分保兼可申与奉存候ニ付、
私共立会内見分仕候所、中々以井組百姓自力之普請ニ
者難及奉存候、殊ニ近年堀抜穴水出方悪敷相成、用水
引足不申難儀仕候ニ付、評義仕候ハ砂溜り又ハ大石等
崩落候哉、穴中難計奉存候、勿論当用水之儀ハ至而雨
継宜敷地水之多キ事何年ニも無之、湖水之儀ハ不足仕
候而も沢山ニ引取申候得共、此以後地水不足之年柄も
御座候ハヽ三郷共旱損可仕哉と乍恐歎ケ敷奉存候、然
ル所去ル酉年ゟ旱損打続井組一統大困窮仕候ニ付、何
分自力ニ難相叶奉存候、依之今般奉願上候者何卒御憐
愍之以　御慈悲御見分被成下置候上ニ而御国役御普請
ニ奉願上度奉存候、右奉願上候通御見分被成下置候ハ
ヽ井組一同難有仕合ニ奉存候、猶又乍恐以口上可奉申
上候、以上

文政二己卯年八月

大久保出雲守領分
駿州駿東郡御宿村
弐拾九ケ村惣代
与頭　半　七

内藤駒之丞知行所
同州同郡千福村
同断
名主　文左衛門

水野出羽守領分
同州同郡中土狩村
同断
与頭　善蔵

同　領分
同州同郡上土狩村
同断
与頭　五郎右衛門

御領分
佐野村
同断
名主　政右衛門

平松新田
同断
与頭　幸蔵

深良村
水配人　平八

佐野村
同断　恒蔵

下土狩村
同断　幸右衛門

深良村
同断下役　林右衛門

茶畑村
同断下役　又四郎

竹原村
同断下役　與兵衛

用水御支配
御役人中様

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二〇四　文政三年（一八二〇）二月　井組二九ケ村新川国役御普請願書

乍恐書附ヲ以奉願上候

大久保加賀守領分
駿州駿東郡平松新田
与頭　孝（幸）蔵

水野出羽守領分
同郡下土狩村
名主　孝（幸）右衛門

稲葉遠江守知行所
同郡深良村
名主　平　八

右廿九ケ村惣代深良村名主平八・平松新田与頭孝蔵・下土狩村名主幸右衛門奉申上候、私共村々往古用水不足之場所ニ御座候処、凡百五拾年已前寛文年中箱根山湖西ノ方深良村山内ニ掛り長七百弐十間土中を堀抜キ、字須釜ニ而田畑之場所幅八間長七百五十間堀割堤築立、新川与唱春用水引取候ニ付水沢山ニ相成有来候、御田地ハ不及申上畑田成茂多分ニ出来用水潤沢仕候処、寛文年中之度〻数十年来相済候処所々大破ニおよひ、堀抜穴押埋安永年中ニ至り用水出方不足仕年々旱損打続領主地頭江御年貢納り兼、百姓大困窮仕難儀仕候ニ付、去ル安永年中御国役御普請奉願上候処、天明二年寅年御見分之上、湖表水門并ニ割堀床下ケ、堀抜穴砂浚、新川通堤上置腹付石垣且用水路、木瀬川・境川通りニ至迄御手厚御普請被成下置候ニ付、用水潤沢仕難有仕合ニ奉存候処、同年七月大地震ニ而御普請所不残震崩、又候用水差支ニ相成候ニ付其段奉願上候処、御見分之上再御普請被成下置、右両度之御普請ニ而潤沢仕用水引取候処、近年湖水表水門堀抜穴并ニ新川通堤追々破損仕、殊ニ堀抜穴七百廿間之内ニ者所々大石崩落土砂押埋水出方甚悪敷相成、又用水不足ニ相成難義至極ニ奉存候、是迄小破之分者村方ニ而年々手入修覆仕、余計之破損之節ハ、領主地頭江相願、其度々給々割合御出金ヲ以普請被成下候ニ付、漸相浚候得

とも追々大破ニおよひ用水出方不足仕御田地度々旱損仕、既ニ安永年中御普請已前之躰ニ可相成与何共歎ケ敷奉存候、然ル迚困窮之百姓自力及難ク領主地頭所ニ而も数度之御出金御座候得者不取届殊ニ十方ニ暮罷在候、依之無拠不顧恐茂今般奉願上候、何卒御慈悲ヲ以御見分之上御国役御普請被成下置度奉願上候、格別之御慈悲ヲ以右願之通、御国役御普請被仰付被下置候ハヽ、大勢之百姓相助り難有仕合奉存候、以上

文政三辰年二月

平松新田
与頭　幸　蔵
下土狩村
名主　幸右衛門
深良村
名主　平　八

御奉行所様

前書之通、御奉行所様江奉願上度、則一同相談之上井組弐拾九ケ村書面之通之者共出府仕度奉存候間、何卒御慈悲ヲ以御添状被下置候様奉願上候、以上

用水御支配
御役人中様

文政三辰年六月九日出

箱根湖水大破ニ付、御国役御願立被成下置候様御領主様江差出候願書入并用水掛り田高書付入

地方御役所

文政三辰年五月十八日

湖水掛り弐拾九ケ村、此度御国役御普請奉願度願書案文下書為御内見与小田原江差出候願書写入

下土狩村　一色村
水　幸右衛門　名主　藤　蔵
上土狩村　与頭　半　兵　衛
惣　五郎右衛門　同　五右衛門
中土狩村　百姓代　利右衛門

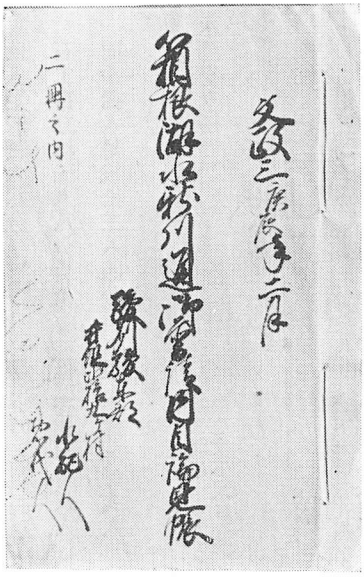
惣　善　蔵
竹原村
水与兵衛
竹原村
与頭　惣右衛門
同　茂兵衛
同　伝左衛門
百姓代　丈　八
下土狩村
名主　権左衛門
同　平右衛門
与頭　幸右衛門
同　惣　七
同　丈　介
同　忠　助
百姓代　与左衛門
中土狩村

富沢村
名主　房　蔵
与頭　平左衛門
同　文　介
百姓代　儀左衛門
水窪村
名主　茂兵衛
与頭　金右衛門
同　茂　八
百姓代　利右衛門
伊豆嶋田
与頭　七左衛門
同　与兵衛
同　弘　八

与頭　善　蔵
同　庄兵衛
同　甚兵衛
同　安兵衛
同　儀兵衛
百姓代　治左衛門
（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

百姓代　善右衛門
上土狩村
名主　林　蔵
与頭　五郎右衛門
同　次左衛門
百姓代　長兵衛

二〇五　文政三年二月（一八二〇）　箱根湖水新川通御普請内目論見帳



（表紙）

文政三庚辰年二月

箱根湖水新川通御普請内目論見帳

駿州駿東郡

井組弐拾九ヶ村　水配人

二冊之内　惣代人

壱番　箱根山字四ツ留　十六間
一水門際湖水表砂浚　平均　八間　深五尺　壱ヶ所
此坪百六坪六合七夕
此人足千弐百八拾人　但壱坪ニ付十弐人

弐番　同所水門両脇　長六間宛
一両側石垣長拾弐間　高壱丈五尺　弐ヶ所
但石垣後小石詰
此石坪拾五坪
内　七坪五合　有石
　七坪五合　足し石
此人足六百人　但壱坪ニ付八十人
石工百弐拾人　石取運人足共
同手伝人足三拾人　但壱坪ニ付八人
　但壱坪ニ付弐人

三番　水門際石垣先南側　高壱丈
一湖水縁石垣長拾三間　横三尺　壱ヶ所
但石垣後小石詰メ
此石坪拾坪八合五夕
内　七坪五合九夕　有石
　三坪弐合六夕　足し石
此人足弐百六拾人八分　但壱坪ニ付八十人
石取持運人足とも

石工八拾六人九分　　但　壱坪ニ付八人
同手伝人足弐拾壱人七分　　但　壱坪ニ付弐人

四番　同所北側
一湖水縁石垣長弐拾間　高壱丈　横三尺　　壱ヶ所
但　石垣後小石詰メ

此石坪拾六坪七合
内　拾壱坪六合九夕　有石
　五坪壱夕　足し石
此人足四百人八分　　但　壱坪ニ付八拾人　石取運人足とも
石工百三拾三人八分　　但　壱坪ニ付八人
同手伝人足三拾三人四分　　但　壱坪ニ付弐人

五番　字四ツ留
一水門壱ヶ所　　但　幅弐間半　高壱丈五尺

右入用

槻柱　壱尺弐寸角　長壱丈五尺　笠木共　　五本
　此代金弐拾五両　　但　壱本ニ付巻五両ツヽ　湖面迄届人足賃共
槻土台　壱尺弐寸角　長壱丈八尺　　壱本
　此代金六両弐分　　但　湖面迄届人足賃共

槻敷木　壱尺角　長壱丈五尺　　三拾本
　此代金百弐拾壱両三分二朱　　但　尺〆壱本ニ付永三貫弐百五文　湖面迄届人足賃共
松戸板六本分　巾壱尺　厚三寸　長四尺　　弐拾壱枚
　此代永壱貫四百七文　　但　板壱枚ニ付永六拾七文ツヽ　湖面迄届人足賃共
松戸ぶち　四寸ニ三寸五分角　　拾弐本
　此代永弐百文　　但　壱本ニ付永十六文七分　湖面迄届人足賃共
松天井松板　長弐間半　幅壱尺　厚三寸　　三拾枚
　此代金弐拾五両　　但　壱枚ニ付永八百三拾三文　湖面迄届人足賃共
樋木　長壱丈五尺　幅五寸　厚壱寸弐分　　弐拾四挺
　此代永壱貫六百文

但　壱挺ニ付永六十六文六分
湖面迄届人足賃共

杉柱　六寸角　長八尺　四拾本

此代永四貫三百三拾三文三分四厘

但　壱本ニ付永百八文三分四厘
湖面迄届人足賃共

杉桁木　長弐間半　六寸角　八挺

此代金四両

但　壱本ニ付金弐分宛
湖面迄届人足賃共

松両はめ板　長八尺　幅壱尺　厚三寸　六拾枚

此代金弐拾両

但　壱枚ニ付永三百三拾
三文湖面迄届人足共

杉両袖柱　長壱丈弐尺　六寸角　拾四本

此代金七両

但　壱本ニ付金弐分ツヽ

同両袖はめ板　長壱丈弐尺　幅壱尺　厚三寸　弐拾四枚

但　壱枚ニ付金弐分宛
湖面届ケ人足賃共

樫しやち木　長三尺五寸　六寸ノ八角　三本

此代永弐百文

但　壱本永六拾文六分

杉丸太ころ木　長二尺ゟ弐尺迄　四拾本

此代永六百六拾文六分

但　壱本永拾六文
七分五厘宛

大工三百人　右水門伏替一式掛り

同手伝人足百五拾人　右同断

六番　同所割堀り
一両側石垣百弐拾八間　長六拾四間ツヽ　高九尺　弐ケ所

但　石垣後三尺通小石詰メ

此坪九拾六坪
内　六拾七坪弐合　有石
弐拾八坪八合　足し石

此人足弐千三百四人

但　壱坪八拾人ツヽ

石工七百六拾八人

但　壱坪八人ツヽ

同手伝人足百九拾弐人

但　壱坪弐人ツヽ

七番　同所　長六拾四間　壱ケ所
一割堀砂浚　幅弐間半　深三尺堀下ケ

此砂利八拾坪

此取捨人足四百人

但　壱坪五人ツヽ

八番　堀抜七百弐拾間之内
一上穴砂浚床下ケ弐百八拾間　幅弐間　深三尺　壱ケ所

此坪弐百八拾坪
此人足弐千弐百四拾人　　但　壱坪八拾人ツヽ
燈油拾壱石弐斗弐升
但　壱間半ニ壱燈之積り日数凡廿日壱燈ニ付油三合宛
此代永七拾貫百廿五文　　但　壱升代永六拾弐文五分
油皿弐百五拾組　　但　いたみ見込ミ共
此代永八百九拾弐文八分六厘　　但　壱ツ代永三文五分七厘積り
燈しん
此代永弐百五拾文　　但　油壱升ニ付永五厘七毛ツヽ

九番　逆川堰所橋台幅三間　壱ヶ所
一土手長六間半　四方石垣高八尺　地形同断
此坪拾弐坪六合六夕
内　八坪八合六夕　有石
　三坪八合　足し石
此人足三百四人　　但　壱坪八十人ツヽ
石工百壱人三分　　但　壱坪八人ツヽ
同手伝人足弐拾五人三分　　但　壱坪弐人ツヽ

九番ノ内　同所東ノ方　壱ヶ所
一石垣長拾三間　両側六間半ツヽ　高八尺
石垣後小石詰メ
此坪拾弐坪六合六夕
内　八坪八合六夕　有石
　三坪八合　足し石
此人足三百四人　　但　壱坪八拾人
石工百壱人三分　　但　壱坪八人ツヽ
同手伝人足弐拾五人三分　　但　壱坪弐人ツヽ

九番之内　橋西ノ方　壱ヶ所
一石垣三方打廻し拾三間高八尺
石垣後小石詰メ
此坪七坪三合三夕
内　五坪壱合三夕　有石
　弐坪弐合　足し石
此人足百七拾六人　　但　壱坪ニ付八拾人
石工五拾八人六分　　但　壱坪ニ付八人ツヽ
同手伝人足拾四人七分　　但　壱坪弐人ツヽ

九番之内　同所
一橋木長弐間半　幅三尺　厚八寸　　但　壱尺板三枚
　此代永九貫六百文　　但　壱挺ニ付永壱貫六百文ツヽ
駒寄木長弐間丸太末口五寸弐本ヅヽ四本
　此代永五百文　　但　壱本ニ付永百弐十五文ツヽ

拾番　堀抜七百弐拾間之内　幅九尺　砂浚弐尺　堀下ケ三尺　　壱ヶ所
一下穴床下ケ長七拾五間
　此坪三拾七坪五合　　但　弐尺通り砂浚
　此人足三千人　　但　壱坪ニ付八拾人
床下ケ石岩　　但　長五拾間程　深三尺
　此坪三拾七坪五合
　此石工八千百人　　但　壱坪ニ付弐百拾六人ツヽ
　取捨人足三千人　　但　壱坪ニ付八拾人ツヽ
床下之内砂利まさ弐拾五間程
　此坪拾八坪七合五勺
　此人足千五百人　　但　壱坪ニ付八拾人ツヽ
燈油拾三石五斗　　但　壱間之間ニ壱燈ツヽ之積り日数六十日壱燈ニ付油三合ツヽ
　此代永八拾四貫三百七拾五文　　但　壱升ニ付永六十弐文五分

拾壱番　下穴口ゟ川下之内　川上五尺　川下壱尺　平均三尺　　壱ヶ所
一堀下ケ長五拾間
　此坪三拾七坪五合
　此取捨人足千五百人　　壱坪ニ付四拾人
　石工凡百人

堀抜穴前後拾間宛　凡長拾間程　高九尺　横九尺
一土石留枠長弐拾間　〃〃　　但　弐組
　右入用
栗丸太柱　長九尺　末口六寸　　八拾六本
　此代永弐貫八百六拾六文七分　　但　壱本ニ付永三十三文三分三厘
同梁木　長九尺　末口七寸　　四拾三本
　此代永壱貫七百九拾壱文七分　　但　壱本ニ付永四拾壱文六分六厘

同行桁　長壱丈三尺　末口六寸
　此代永壱貫五百文
同ならへ木　長九尺　末口五寸
　此代永五貫文
横木　長壱丈三尺　幅五寸厚壱寸弐分
　此代永壱貫文
一錄長六寸百弐拾九挺　三拾本
　但壱本ニ付永五拾文ヅツ
　此代永四貫三百文
一枠切組仕立大工八拾人　弐百本
　但壱本ニ付永廿五文ツヽ
一枠木運人足千七拾七人　六拾挺
　但壱丁ニ付永十六文六分六厘
一横木運人足六拾人
　但梁壱挺ニ付三ケツヽ
一大工手伝堀込取崩人足六拾人
　但錄壱挺ニ付永三十三文三分三厘
一仮〆切打廻し長三拾間　平均高六尺横三間
　但壱間ニ付弐人ツヽ
　右入用
明俵四千三百弐拾俵
　但壱俵ニ付永三文四分弐厘
　但四斗入桟たわら共
　此代永拾五貫四百廿八文四分
　但壱坪ニ付弐人積り
　但壱挺ニ付壱人ツヽ
　但壱本ニ付三人懸り

縄千四百四拾房程
　此代永壱貫七百拾三文弐分九厘
人足弐千六百六拾六人七分
　此代永七拾六貫百九拾壱文四分
人足七百七拾人
　是ハ〆切洩水替捨人足共
　此賃永弐拾弐貫文
水替桶弐拾挺
　是者〆切洩水昼夜八人ツヽ水替捨入用
　此代永弐百八拾五文弐分
川倉木杉丸太長壱丈弐尺　百本
　此代永三貫三百三拾三文
一古水門取片付人足弐百人

　但壱房弐拾尋曲
　但壱房ニ付永壱文壱分四厘
　但土俵ニ詰立臥運〆切人足
　但壱人ニ付永廿八文五分七厘
　但壱人ニ付水廿八文五分七厘
　但壱挺ニ付永十四文弐分六厘
　但丸太壱本ニ付永三十三文三分三厘
　但一日五拾人ツヽ四日勤メ

一甲蓋伏人足八拾人　但　壱日四拾人ツヽ二日勤メ積り

一上穴口枠木　長六間　横弐間　壱ケ所

右　木品入用ミミ

栗土台　長弐間　尺角　六本

此代永拾八貫文　但　壱本ニ付永三貫文

栗柱　長弐間　八寸角　弐拾四本

此代永四拾八貫文　但　壱本ニ付永弐貫文

同桁木　長弐間　八寸角　六本

此代永拾弐貫文　但　壱本ニ付永弐貫文

同天井木　長弐間　八寸角　四拾八本

此代永九拾六貫文　但　右同断

大工八拾四人　右仕立

同手伝人足百六拾八人

右之寄

石工九千四百六拾九人九分　但　壱人ニ付永六拾弐文五分

此賃永五百九拾壱貫八百六拾八文七分五厘

大工四百六拾四人　但　壱人ニ付永五拾五文六分

此賃永弐拾五貫七百九拾八文四分

人足弐万弐千八百四拾三人七分　但　壱人ニ付永三十六文

此賃永八百弐拾弐貫三百七拾三文三分

石工
大工
人足　合三万弐千七百七拾七人六分

賃合金弐百弐拾壱両壱分弐朱ト

永千八百五拾三貫四百六拾八文三分四厘

此金弐千七拾四両三分ト永九拾三文三分四厘

（裏表紙）「御宿村　湯山半七」

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二〇六　文政三年二月　須釜新川通御普請箇所附内目論見

帳

（表紙）

文政三庚辰年二月

須釜新川通御普請箇所附内目論見帳

駿州駿東郡

井組弐拾九ヶ村

水配人

惣代人

二冊之内

壱番　深良村地内豊後堰下

一橋台両側石垣　長三間ツヽ、横三尺　高八尺　抜　壱ヶ所

石垣後小石詰メ

此石坪六坪六合七夕

内　四坪六合七夕　有石　弐坪　足し石

此人足七拾人　但　壱坪三拾五人

石工四拾人　但　壱坪六人

同手伝人足弐拾人　但　壱坪弐人

同所

一橋木杉　長五間元口弐尺　末口壱尺弐寸角　但　橋幅三尺　弐本

此代金六両弐分

同所　弐番

一両側石垣長拾弐間　壱ヶ所

外ニ六間東側

合拾八間　高五尺　横弐尺

此石坪五坪

内　三坪五合　有石　壱坪五合　足し石

人足五拾弐人　但　壱坪ニ付三十五人

石工三拾人　但　壱坪ニ付六人

同手伝人足拾五人　但　壱坪ニ付三人

三番　榎ゟ古川口迄

一新川石垣　但シ　長拾三間　横弐尺　高八尺　壱ヶ所

此石坪五坪七合八夕

内　四坪五夕　有石　壱坪七合三夕　足し石

此人足六拾九人弐分　但　壱坪四拾人
石工三拾四人七分　但　壱坪六人
同手伝人足拾七人三分　但　壱坪三人

三番之内　古川口ゟ川下迄
一石垣長拾五間　高五尺　横弐尺　地形平均足しぢ
此石坪五坪
内　三坪五合　有石　壱坪五合　足し石
此人足六拾人　但　壱坪ニ付四拾人
足し扒　長拾五間　平均弐尺幅三尺
此土坪弐坪五合
此人足弐拾人　但　壱坪ニ付八人
石工三拾人　土取場凡七八丁
同手伝人足弐拾人　但　壱坪ニ付六人
但　壱坪ニ付四人

壱ヶ所

三番之内　古川口ゟ川下迄
一石垣長弐拾五間
此石坪九坪七合弐夕
内　六坪八合　弐坪九合弐石　有名　足し石

此人足百拾六人八分　但　壱坪ニ付四拾人
石工五十八人三分　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足弐拾九人弐分　但　壱坪ニ付三人

四番　同所古川口ゟ太郎右衛門堰入口迄
一新川土手長五拾壱間四尺　但　川面石垣　高八尺　地形平均
此石坪弐拾弐坪七合九夕
内　拾五坪九合五夕　有石　六坪八合五夕　足し石
此人足弐百七拾三人六分　但　壱坪ニ付四十人
石工百三拾六人七分　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足六拾八人四分　但　壱坪ニ付三人

壱ヶ所

五番　太郎右衛門堰ゟ橋場迄
一新川土手弐拾八間四尺　但　川面石垣　高八尺　上置平均
此石坪拾弐坪七合三夕
内　八坪九合壱夕　有石　三坪三合弐夕　足し石
此人足五百拾壱人弐分　但　壱坪四十人　石取場凡七八丁

石工七拾六人四分　　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足三十八人弐分　　但　壱坪ニ付三人

六番　同所太右衛門堰附
一土手石垣弐拾七間　　但　両側石垣高五尺　幅三尺地形平均　　壱ヶ所
此石坪拾六坪六合七夕
内　拾壱坪六合七夕　有石　足し石　五坪
此人足弐百人　　但　壱坪ニ付四拾人
石工百人　　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足五拾人　　但　壱坪ニ付三人
足し扒上置　長弐十七間　幅三尺厚弐尺
此土坪四坪五合
此人足五拾四人　　但　壱坪ニ付十弐人　堀起運人足とも

七番　太郎右衛門堰ゟ神山村分境迄
一新川土手百七間　高八尺　　壱ヶ所
内三拾九間新石垣
此石坪拾七坪三合四夕
此人足八百六拾七人　　但　壱坪ニ付五拾人　石取場凡八丁ゟ十壱弐丁迄

残石垣六拾八間
此石坪三拾坪弐合弐夕
内　廿壱坪壱合五夕　有石　足し石　九坪七夕
此人足四百五拾三人五分　　但　壱坪ニ付四拾人
石工百四人　　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足合百四拾弐人七分但　壱坪ニ付三人

八番　神山村地内深良村境ゟ権十郎屋敷迄
一新川西側石垣三拾弐間　石垣高八尺　地形平均　　壱ヶ所
此石坪拾四坪弐合七夕
内　九坪九合九夕　有石　四坪弐合八夕　足し石
此人足弐百拾四人　　但　壱坪ニ付四十人
石工八拾五人六分　　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足四拾弐人八分　　但　壱坪ニ付三人

九番　深良村境ゟ茂助屋敷迄
一新川土手百弐拾四間　　但　石垣高八尺　埋桶壱ヶ所　　壱ヶ所
此石坪五拾五坪壱合
内　三拾八坪壱合　有石　拾六坪五合　足し石

此人足八百弐拾五人　　但　壱坪ニ付五拾人
石工三百三拾人六分　　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足弐百弐拾人四分　　但　壱坪ニ付四人

拾番　茂助屋敷後ゟ深良村境迄
一　新川（石垣）土手三拾壱間弐尺　　但　石垣高八尺　　壱ヶ所
此石坪拾三坪九合弐夕
内　九坪七合四夕　有石
　四坪壱合八夕　足し石
此人足八百三拾五人弐分　　但　壱坪六拾人
石工八拾三人五分　　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足五拾五人七分　　但　壱坪ニ付四人

拾壱番　深良村地内神山村境ゟ尾崎迄
一　新川（石垣）土手百拾九間　　但　石垣高八尺
　埋桶弐ヶ所　　壱ヶ所
此石坪五拾弐坪四合四夕
内　三拾六坪七合壱夕　有石
　拾五坪七合三夕　足し石
此人足九百四拾三人八分　　但　壱坪六拾人石取
　場道法凡十五六丁
石工弐百弐拾人三分　　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足百四拾六人八分　　但　壱坪ニ付六人

拾弐番　七蔵屋敷前
一　新川西側石垣弐拾間高八尺　　壱ヶ所
此石坪八坪八合九夕
内　六坪弐合弐夕　有石
　弐坪六合七夕　足し石
此人足百六拾人弐分　　但　壱坪ニ付六拾人
石工五拾三人三分　　但　壱坪ニ付六人
手伝三拾五人六分　　但　壱坪ニ付四人

拾三番　岩波村地内
　尾崎ゟ深良村境迄
一　新川（石垣）土手長弐拾間　　但　石垣高八尺壱ヶ所
此石坪八坪八合九夕
内　六坪弐合弐夕　有石
　弐坪六合七夕　足し石
此人足百六拾人弐分　　但　壱坪ニ付六拾人
石工五拾三人三分　　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足三拾五人六分　　但　壱坪ニ付四人

拾四番　深良村境ゟ岩波村用水堀迄
一　新川北側石垣長五拾間、但し高八尺壱ヶ所
此石坪弐拾弐坪弐合弐夕

内　拾五坪五合五夕　有石
　　六坪六合七夕　足し石
此人足四百人弐分
石工百三拾三人三分
同手伝人足百拾壱人壱分

拾五番　岩波村用水堀ゟ深良村境迄
一新川北側石垣六拾間　高六尺
此石坪弐拾六坪六合七夕
内　拾八坪六合七夕　有石
　　八坪　足し石
此人足四百八拾人
石工百六拾人
同手伝人足百六拾人

拾六番　深良村地内
岩波村境ゟ土手曲り目迄
一新川土手石垣弐拾八間半
此石坪拾弐坪弐合弐夕
内　八坪五合五夕　有石
　　三坪六合七夕　足し石
此人足弐百弐拾人弐分
石工七拾三人三分

但　壱坪ニ付六人
但　壱坪ニ付六人
但　壱坪ニ付五人

但　壱坪ニ付六拾人
但　壱坪ニ付六人
但　壱坪ニ付六人

但　壱坪ニ付六拾人
但　壱坪ニ付六人
但　壱坪ニ付六人

但　壱坪ニ付六拾人
但　壱坪ニ付六人
但　壱坪ニ付六人

石取場凡十六五丁
壱ヶ所

但　高八尺壱ヶ所

同手伝七拾三人三分

拾七番　土手曲り目ゟ五反田水門迄
一新川石垣弐拾八間半
此石坪拾弐坪弐合弐夕
内　八坪五合五夕　有石
　　三坪六合七夕　足し石
此人足弐百弐拾人弐分
石工七拾三人三分
同手伝人足七拾三人三分

拾八番　岩波村地内
一新川石垣弐拾八間半
此石坪拾弐坪弐合弐夕
内　八坪五合五夕　有石
　　三坪六合七夕　足し石
此人足弐百弐拾人弐分
石工七拾三人三分
同手伝人足七拾三人三分

拾九番　深良村地内
岩波村境ゟ耳石大門迄
一新川石垣長八拾弐間半

但　壱坪ニ付六人
但　高八尺　壱ヶ所

但　壱坪ニ付七拾人
但　壱坪六人
但　壱坪ニ付六人

但　壱坪ニ付六拾人
但　壱坪ニ付六人
但　壱坪ニ付六人

但　高八尺壱ヶ所

此石坪三拾六坪六合七夕
　内　廿五坪六合七夕　有石
　　拾壱坪　足し石
此人足六百六拾人　但　壱坪ニ付六拾人
石工弐百弐拾人　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足弐百弐拾人　但　壱坪ニ付六人

廿番　耳石大門ゟ橋迄　但高八尺
一新川石垣四拾五間半　埋桶壱ヶ所　壱ヶ所
此石坪三拾六坪六合七夕
　内　廿五坪六合六夕　有石
　　拾壱坪　足し石
此人足六百六拾人　但　壱坪ニ付六拾人
石工弐百弐拾人　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足弐百弐拾人　但　壱坪ニ付六人

廿壱番　岩波村境ゟ新田橋迄
一新川北側石垣百壱間　但　高六尺　壱ヶ所
此石坪三拾六坪六合七夕
　内　廿五坪六合七夕　有石
　　拾壱坪　足し石
此人足六百六拾人　但　壱坪ニ付六拾人

石工弐百弐拾人　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足弐百弐拾人　但　壱坪ニ付六人

廿弐番
一新川橋下拾壱貫四尺　但　両側石垣高八尺　壱ヶ所
此石坪拾坪三合七夕
　内　七坪弐合六夕　有石
　　三坪壱合壱夕　足し石
此人足百八拾六人六分　但　壱坪ニ付六拾人
石工六拾弐人弐分　但　壱坪ニ付六人
同手伝人足六拾弐人弐分　但　壱坪ニ付六人

権十郎前ゟ新田橋迄川筋
一新川筋大岩切取り所々除　此石工百八拾人
此石取除人足三百八拾人
一新川土手上置　但　延長六百四拾壱間　平均高弐尺幅弐間
此土坪四百弐拾七坪三合三夕
此人足五千五百弐拾八人　但　堀起運ひ人足共　壱坪ニ付拾弐人積り

此土代永三貫五拾弐文四分弐厘

一縁芝五千七百六拾枚　但壱坪ニ付永七拾三文四分三厘
此芝伐人足四拾人　但壱人ニ付三拾六間ツヽ　土手延長七百弐拾間両面合千四百四拾間
此運人足百拾五人弐分　但壱人ニ付芝八間持

一新川砂浚延長六百四拾壱間　但平均深壱尺幅弐間半
此坪弐百六拾弐坪九合弐夕
此人足弐千六百弐拾九人弐分　但壱坪ニ付拾人

字五反田堰
一水門壱ヶ所　但幅四尺高九尺
右入用

栗角柱　六寸ニ七寸角　長九尺　弐本
此代永弐百五拾文

同笠木土台　六寸ニ七寸角　長六尺　弐本
此代永百五拾文

松戸板　長四尺　厚弐寸　幅壱尺　五枚
此代永弐百五拾文

同戸ぶち　長六尺　弐寸五分角　弐本
此代永五拾文

大工五人
此賃永弐百八文三分

一藤持籠千五百数　湖水御普請入用
此代永拾貫七百弐拾五文　但壱数ニ付永七文壱分五厘

一荷棒弐百本
此代永四百文　但壱本ニ付永弐文

一竹簀五百数
此代永弐貫三百七拾壱文　但壱数ニ付永四文七分四厘

一鉄平木拾本
此代永拾五貫文　但人壱本ニ付永六貫五百文

一竈はす(し)拾挺
此代永弐貫五百文　但壱挺代永弐百五文

一唐鍬拾挺
此代永壱貫五百文　但壱挺代永百五文

新川通下腹付箇所

一下腹付　一番　但長六間　駒形前
一同断　二番　但長五間　橋上
一同断　三番　但長拾弐間　同所
一同断　四番　但長拾三間　五助上
一同断　五番　但長五間　同所
一同断　六番　但長拾間　五助後
一同断　七番　但長八間　甚左衛門後
一同断　八番　但長六間　同所
一同断　九番　但長拾間　新左衛門上
一同断　十番　但長四間　同人下
一同断　十一番　但長四間　耳石上

〆八拾三間　但高八尺　厚横四尺

此土坪七拾三坪六合八夕
此人足八百八拾四人弐分　但壱坪ニ付十弐人　堀起運ひ人足共
右坎代永壱貫百文
一埋樋四本　但長三間余　代永四貫文
右之寄
石工弐千八百五拾弐人壱分
此賃永百四拾弐貫六百五文　但壱人ニ付永五拾六文ツヽ
大工五人
此賃永弐百八文三分　但壱人ニ付永四十壱文六分弐厘
平人足弐万八百五拾人六分
此賃永六百弐拾五貫八百十八文　但壱人ニ付永三十文ツヽ
石工
大工　合弐万三千七百弐人七分
人足
賃金永合六両弐分ト　永八百九貫九百七拾九文七分弐厘
此金八百拾六両壱分ト　永弐百廿九文七分弐厘
弐口合金弐千八百九拾壱両壱分ト　永七十三文六厘

外ニ

木瀬川通
深良村地内新川落口下
一石出シ　壱ヶ所

御宿村字古堰
一土手長三拾九間　壱ヶ所

同所
一石出し　壱ヶ所

御宿村地内字佐野堰
一石出し　壱ヶ所

富沢村地内
木瀬川通り字長とろ
一石出し　壱ヶ所

木瀬川通　御宿村地先
石わき村地先
一橋　壱ヶ所

中土狩村地内字一町田
境川通欠所
一石積長三拾三間　壱ヶ所

同村地内同所
一石出し　壱ヶ所

〆八箇所

井組弐拾九ヶ村惣代
深良村　水配人　平　八
佐野村　同断　常　蔵
下土狩村　同断　幸右衛門
深良村　同下役　林右衛門
茶畑村　同下役　又　四　郎
竹原村　同下役　与　兵　衛
御宿村　惣代人　半　七
千福村　同断　文左衛門

公文名村
　同断　宇　平　次
平松新田
　同断　幸　蔵
上土狩村
　同断　五郎右衛門
中土狩村
　同断　善　蔵

用水御支配
御役人中様

（裏表紙）
「御宿村
　湯山半七」

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二〇七　文政三年（一八二〇）六月　井組二九ケ村新川国役御普請願書

乍恐以書付奉願上候

一私共村々之義、往古ゟ用水不足之場所ニ御座候而、度々干損仕、村々一統難義仕候処、寛文年中箱根湖水西之方深良村山中ニ掛り長七百弐十間土中を堀抜、夫ゟ同村之内字須釜与申候田畑之場所巾八間長七百五十間堀割堤築立、新川与唱申候、右之堰ゟ村々へ分水仕、用水引取申候ニ付水沢山ニ相成、在来之御田地者不及申上畑田成等多分ニ出来仕、用水潤沢仕、村々一同難有奉存候、然ル処右堀抜穴数拾年相立候上歟、自然与所々大破仕、堀抜穴押埋り用水不足仕、干損打続、井組村々一同難渋仕候、依之安永五子年御国役御普請被成下置候様奉願上候処、天明元丑年御見分之上湖水表水門并堀割床下ケ堀抜穴砂浚、新川通り堤土置、脇付石垣其外用水路、木瀬川・堺川通りニ至迄御手厚ニ御普請被成下置、翌寅年まてニ出来仕、用水以前之通沢山ニ相成、莫大之御慈悲与井組一同難有仕合ニ奉存候処、同年七月大地震ニて御普請被成下候場所不残震崩し、又候水不足仕候ニ付、不奉顧恐ヲ茂其段奉願上候処、御憐愍を以再御普請被成下置、用水沢山ニ相成、

御田地仕付等差支無之、重々難有仕合ニ奉存候処、近年湖水表水門并堀抜穴新川通追年破損仕水出方悪敷、分水届兼候場所ハ度々干損仕、既ニ其度々以　御慈悲多分之御引方等被成下置候程之義ニ而、村々一同難義仕候、依之不奉顧恐御願奉申上候者、何卒以御慈悲御国役御普請ニ被成下置候様御願被下置候様奉願上候、併天明之度御普請被成下候節、已後ハ御国役御普請被仰付候義ハ不相成候間、自普請ニ仕候様被仰渡、村々一同奉畏候、其後小破之分ハ井組一同ニ而取繕仕、且修覆手重之節ハ御給々村々申談之上、御領主様御地頭様へ奉願、御高割を以御出金之上、是迄度々御普請被成下置候得共、此度之義ハ年数相立大破ニ相成候義ニ御座候得者、村方自力ハ勿論、御高割御普請も難申上、依之不得止事不奉顧恐ヲ茂御給々村々一同申談之上、御国役御普請御願立被成下置候様、御領主様御地頭様江右之趣奉願上候積りニ付、天明二寅年被仰渡之義者御座候得共、何卒格別之御賢慮ヲ以、先年両度御国役御普請被成下置候振合ヲ以、右奉願上候通被仰付被下置候ハハ、大勢之百姓一同相助り難有仕合可奉存候、御給々御名前并村高等之義ハ、別紙ニ奉差上候間、何分御勘弁被成下置候様偏ニ奉願上候、以上

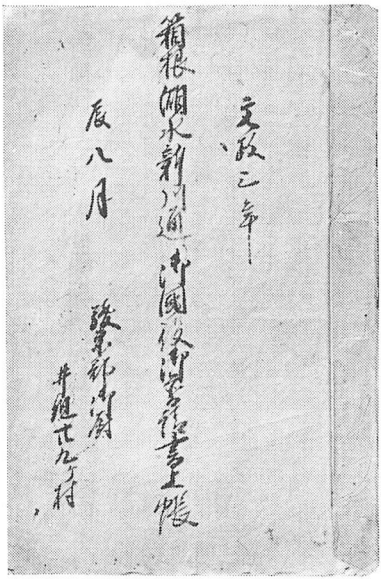
文政三庚辰年六月

駿河国駿東郡御厨下郷
小田原御領分
井組拾ケ村
名主
組頭
百姓代　印

保田貞左衛門様
深水程右衛門様

（文政三年「小田原江書上控」
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三〇八　文政三年八月　箱根湖水新川通国役御普請書上帳



（表紙）

文政三年
箱根湖水新川通り御国役御普請書上帳
辰八月
駿東郡御厨
井組廿九ケ村

相州箱根山字四ツ留
壱番
一水門際湖水表砂浚　凡十六間ニ八間　壱ケ所

弐番水門両袖
一同所両側石垣長拾弐間　但シ長六間ツヽ、高壱丈五尺　壱ケ所

水門際石垣先南側
三番
一湖水縁り石垣長拾三間　但壱丈　壱ケ所

同所北側
四番
一湖水縁り石垣長弐拾間　但シ高壱丈　壱ケ所

字四ツ留
五番
一水門壱ケ所　但シ幅弐間半高壱丈五尺

右入用

槻柱壱尺弐寸角長壱丈五尺　五本　但笠木共
槻土台壱尺弐寸角長壱丈八尺　壱本
槻敷木壱尺角長壱丈五尺　三拾本
松戸板　但シ長四尺巾壱尺厚三寸　弐拾壱数
松戸ぶち　但シ四寸ニ三寸五分内六本長四尺五寸六本長三尺五寸　拾弐本

天井松板	但シ	長弐間半 巾壱尺 厚壱寸五分	三拾枚
樌木	但シ	長六丈五尺 巾五寸 厚壱寸五分	弐拾四挺
杉柱六寸角	但シ	長八尺四拾本	
杉桁木	但シ	長弐間半 六寸角	八挺
松両はめ板	但シ	長八尺 巾壱尺 厚三寸	六拾数
杉両袖柱	但シ	長壱丈弐尺 六寸角	拾四本
同両袖はめ板	但シ	長壱丈弐尺 巾壱尺 厚三寸	弐拾四枚
樫しやち木	但シ	長三尺五寸 六寸八角	三本
杉丸太ころ木	但シ	長三尺より 弐尺迄	四拾本
同所 六番 一割堀石垣両側長百弐拾八間	但シ	長六拾四間ツヽ 高九尺	弐ケ所
同所 七番 一割堀砂浚	但シ	長六拾四間 幅弐間半	壱ケ所
堀抜七百弐拾間ノ内 八番 一上穴砂浚床下ケ	但シ	凡弐百八拾間 幅弐間	壱ケ所
同所 九番 一逆川堰弐ケ所	但シ	川幅九尺	
同 但シ川中土手橋台		長六間半 幅三間 四方石垣高八尺 地形	
同所 九番ノ内 一橋東石垣長拾三間	但シ	両側六間半ツヽ 高八尺	壱ケ所
九番ノ内 一橋西石垣	但シ	三方打廻シ拾三間 高八尺	壱ケ所
九番之内 一逆川橋木	但シ	長弐間半 巾壱尺 厚八寸	六挺
外ニ 駒寄木弐間半丸太四本			但シ末口五寸

堀抜穴七百廿間之内
拾番
一下穴床下ヶ長七拾五間　但シ　幅九尺　砂浚共　壱ヶ所
拾壱番
一下穴口ゟ川下江　凡　長五拾間余　堀下ヶ　壱ヶ所
堀抜上穴下穴
一御普請中土石留メ枠　但シ　高九尺　横九尺
右入用
一仮〆切り打廻し　凡　長三拾間余
右入用
川倉木杉丸太　但シ　百本　長壱丈弐尺
明俵凡四千三百程　但シ　桟たわら共
縄凡千四百四拾房程　但シ　壱房廿尋曲ミ
水替桶
一古水門取片付
一上穴口枠木　但シ　長六間　横弐間　壱ヶ所
右入用
一土台栗木　長弐間壱尺角　六本
栗柱長弐間　但シ　八寸角　弐拾四本
栗木桁長弐間　但シ　八寸角　六本
天井木栗木　但シ　長弐間　八寸角　四拾八本
深良村地内豊後堰下
壱番
一橋台両側石垣　但シ　長合六間　高八尺　壱ヶ所
同所
一橋木杉　但シ　長五間元口弐尺　末口壱尺弐寸角　弐本
同所
弐番
一両側石垣長拾弐間
外ニ六間東側打廻し
合拾八間　但シ　高五尺　壱ヶ所
榎ゟ古川口迄
三番
一新川石垣　但シ　長拾三間　高八尺　壱ヶ所
古川古ゟ川下迄
三番之内
一石垣長拾五間　但シ　高五尺　地形足丸　壱ヶ所

三番之内
一石垣長弐拾五間　但高七尺　壱ケ所
同所古川口ゟ太郎右衛門堰入口迄
四番
一新川石垣長五拾間四尺　但シ川面八尺地形足坂　壱ケ所
太郎右衛門堰ゟ橋場迄
五番
一新川石垣長弐拾八間四尺　但シ川西八尺上置　壱ケ所
同所
六番
一太郎右衛門堰附土手長弐拾七間　但シ両側石垣高□(五カ)尺地形足坂　壱ケ所
六番之内
一同所北側石出し　壱ケ所
太郎右衛門堰橋ゟ神山村分境迄
七番
一新川石垣長百七間　但シ高八尺　壱ケ所
神山村地内深良村境ゟ権十郎屋敷迄
八番
一新川西側石垣長三拾弐間　但シ高八尺地形　壱ケ所
深良村境ゟ茂助屋敷迄
九番
一同石垣長百弐拾四間　但シ高八尺埋樋壱ケ所　壱ケ所
茂助屋敷後ゟ深良村境迄
拾番
一新川石垣長三拾間壱間(マヽ)弐尺　但シ高八尺　壱ケ所
深良村地内神山村境ゟ尾崎迄
拾壱番
一同石垣長百拾九間　但シ高八尺埋樋弐ケ所　壱ケ所
七蔵屋敷前
拾弐番
一同西側石垣長弐拾間　但シ高八尺　壱ケ所
岩波村地内尾崎ゟ深良村境迄
拾三番
一同石垣長弐拾間　但し高八尺　壱ケ所
深良村境ゟ岩波村用水堀迄
拾四番
一新川北側石垣長五拾間　但シ高八尺　壱ケ所
岩波村用水堀ゟ深良村境迄
拾五番
一同北側石垣長六拾間　但シ高六尺　壱ケ所
深良村地内岩波村境ゟ土手曲りメ迄
拾六番
一同石垣長弐拾八間半　但シ高八尺　壱ケ所
土手曲メゟ五反田水門迄
拾七番
一同石垣長弐拾八間半　但シ高八尺　壱ケ所
岩波地内水門ゟ深良村境迄
拾八番
一新川石垣長弐拾八間半　但シ高八尺　壱ケ所

深良村地内岩波村境ゟ耳石大門迄
拾九番
一同石垣長八拾弐間半　但シ 高八尺　壱ヶ所
耳石大門ゟ橋まで
弐拾番
一同石垣長四拾五間半　但シ 高八尺 埋樋壱ヶ所　壱ヶ所
岩波村境ゟ新田橋迄
弐拾壱番
一同北側石垣長百壱間　但シ 高六尺　壱ヶ所
弐拾弐番
一新川橋下石垣長拾壱間四尺　但シ 両側 高八尺　壱ヶ所
権十郎前ゟ新田橋迄
一同川筋大岩切取除
一新川土手上置　但シ 延長六百四拾壱間
一　縁り芝　但シ 延長七百弐拾間 土手両方合千四百四拾間分
一新川砂浚延長六百四拾壱間　但シ幅弐間半
字五反田堰
一水門　但シ 巾四尺 高九尺　壱ヶ所
右入用
栗角柱　但シ 長九尺 六寸ニ七寸角　弐本

同笠木土台　但シ 長六尺 六寸ニ七寸角　弐本
一松戸板　但シ 長四尺 巾壱尺 厚弐寸　五数
同戸ぶら　但シ 長六尺 弐寸五分角　弐本
下腹附箇所
壱番
一下腹付　但シ長六間　駒形前
弐番
一同断　但シ長拾弐間　橋上
三番
一同断　但シ長拾三間　同所
四番
一同断　但シ長拾三間　五助上
五番
一同断　但シ長五間　同所

一　六番　　但シ長拾間　　五助後
同断

一　七番　　但シ長八間　　甚左衛門後
同断

一　八番　　但シ長六間　　同　所
同断

一　九番　　但シ長拾間　　新左衛門上
同断

一　拾番　　但シ長四間　　同人下タ
同断

一　拾壱番　　但シ長拾六間　　耳石上
同断

一　木瀬川通り深良村地内新川落口下橋渡場　　壱ヶ所
石出

一　御宿村字古堰　　壱ヶ所
土手長三拾九間

一　同所　　壱ヶ所
石出

一　御宿村地内字佐野堰
石出

一　冨沢村地内木瀬川通り字長とろ
石出

一　木瀬川通り石脇村地先御宿村地先
橋

一　中土狩村地内字壱丁目境川通り欠ケ所
石積長三十三間

一　同村地内同所
石出

〆八箇所

右者此度御国役御普請所御見分被成下置候ニ付、銘々箇所相改、奉書上候処、相違無御座候、以上

文政三庚辰年八月

駿河国駿東郡井組廿九ヶ村
惣代人御宿村
組頭　半　七
千福村
名主　文左衛門
佐野村
名主　政右衛門
平松新田
組頭　幸　蔵
上土狩村
組頭　五郎右衛門
中土狩村
組頭　善　蔵
深良村
水配人　平　八
同村
下役　林右衛門
佐野村
水配人　常　蔵
茶畑村
下役　又四郎
下土狩村
水配人　幸右衛門
竹原村
下役　与兵衛

御普請御見分
御役人中様

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二〇九　文政三年（一八二〇）八月　国役御普請見分につき伝馬手形

馬弐疋、従江戸駿河国迄上下并彼地おゐて御用中幾度茂可出之、是者国役普請見分御用ニ付、御普請役米倉武助・有坂勝三郎罷越付而相渡之者也

文政三辰
八月　出羽印

右宿中

（文政三年「湖水御普請御見分ニ付書上扣」
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三〇　文政三年（一八二〇）九月　二九ヶ村国役御普請取懸願書

乍恐以書付奉申上候

駿州駿東郡竹原村外弐拾八ヶ村組合、箱根湖水ゟ新川・木瀬川・境川通江相掛候川筋御国役御普請被仰付度、先達而銘々領主・地頭江奉願上候処、今般御見分為御目論見与被成御越箇所〳〵御見分之上、御目論見被成下候ニ付、追而御普請被　仰付被下置候儀与乍恐奉存候、然ル処、箱根山中湖水表之儀者北請ニ而殊之外氷強く、追々雪中ニ相成候而者御普請仕立方難相成場所ニ御座候間、何卒来巳春二月ニ至御普請取懸被　仰付被下置候様仕度、此段奉願上候、以上

（文政三）辰九月

駿州駿東郡
弐拾九ヶ村組合
惣代
稲葉金之丞知行
同州同郡深良村
名主　平　八

内藤駒之丞知行
同州同郡千福村
同　文左衛門

大久保出雲守領分
同州同郡御宿村
半　七

大久保加賀守領分
同州同郡佐野村
政右衛門

同州同郡平松新田
幸　蔵

同州同郡茶畑村　　又四郎
水野出羽守領分
同州同郡下土狩村　　幸右衛門
同州同郡中土狩村　　善蔵
同州同郡上土狩村　　五郎右衛門
同州同郡竹原村　　与兵衛

御普請
御役人中様

（文政三年九月「湖水御普請御見分ニ付書上扣」
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三一　（一八二〇）文政三年九月　国役御普請地頭出金につき書付

乍恐以書付奉申上候

稲葉金之丞・内藤駒之丞・松平内蔵允・酒井采女・山岡五郎作・安藤伝右衛門知行所私共村々之儀者、水野出羽守様・大久保加賀守様・大久保出雲守様御領分駿州駿東郡村々共都合弐拾九ヶ村前々組合ニ而箱根湖水ゟ用水引取、新川・木瀬川・境川通江相掛候川筋、天明年中奉願上候御国役御普請被仰付被下置候処、大破ニ相成、猶又此度従　加賀守様　出羽守様御国役御普請御願被成下、今般各様為御見分被成御越、仕来等御糺之上被　仰聞候者、此度銘々地頭ゟ之願者無之、地頭出金之儀者如何相心得候哉之段御尋ニ御座候、然ル処此度銘々地頭ゟ別段御願不申上候共、前々組合之儀ニ御座候間、出金之儀者先年之通差出候積ニ御座候、依之此段以書付奉申上候、

以上

（文政三）
辰九月

稲葉金之丞知行
駿州駿東郡深良村
名主　平　八
与頭　林右衛門
百姓代　四郎右衛門

同州同郡久根村
名主　源　蔵
与頭　弥四郎
百姓代　忠兵衛

内藤駒之丞知行
同州同郡千福村
名主　文左衛門
与頭　定右衛門
百姓代　幸　蔵

松平内蔵允知行
同州同郡葛山村
名主　勝左衛門
与頭　彦十郎
百姓代　源右衛門

同州同郡上ヶ田村
名主　伊左衛門
与頭
百姓代

同州同郡金沢村
名主　九右衛門
与頭　林右衛門
百姓代　音　八

安藤伝右衛門知行
同州同郡上ヶ田村
与頭　庄左衛門
百姓代

酒井采女知行
同州同郡伏見村
名主　治兵衛

与頭
百姓代
山岡五郎作知行
同州同郡同村
右同断

（文政三年九月「湖水御普請御見分ニ付書上扣」
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二三　文政三年（一八二〇）九月　国役御普請土取場見分費用につき一札

差上申一札之事

一駿州駿東郡竹原村外弐拾八ヶ村組合箱根湖水表并新川・木瀬川・境川通御国役御普請之儀、先達而銘々領主地頭江奉願候処、今般各様為御見分被成御越候ニ付、組合村々惣代村役人罷出、願ヶ所〳〵巨細ニ御案内仕、御見分奉請、堤通洩所・欠崩・減所等築立之節、土取場之儀御尋御座候ニ付、場所ニおひて申上候通、田畑障ニ不相成、前々土取場有之候間、御仕立之節巨障者勿論御願ヶ間敷義無御座候、且此度御見分中御旅宿之儀者組合深良村ニ而御取調有之、尤御着之砌被　仰渡候通、有合之品を以御賄仕御馳走ヶ間敷儀不仕、御逗留中御定之木銭米代者所相場を以御払被下、其外御買物等者其時々代銭御払被成下候ニ付、御買懸ヶ等聊無御座候、依之連印書付印形奉差上候処、仍如件

右者大久保加賀守領分駿州駿東郡之内拾ヶ村、外御他領拾九ヶ村都合弐拾九ヶ村組合ニ御座候処、天明年中国役御普請被仰付候節、銘々私領ゟ出金差出候村高之義、前書村々書上候高附之通相違無御座候、以上

（文政三）辰九月

大久保加賀守内
保田貞左衛門　印

（文政三年九月「湖水御普請御見分ニ付書上扣」
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二三　文政三年（一八二〇）九月　水懸り村々私領出金高覚

箱根湖水掛井組弐拾九ヶ村高

一高六千八拾九石七斗四升五合弐夕

此訳

大久保加賀守様御領分	
高拾五石九斗五升九合弐夕	神山村
同高五拾六石三斗九升壱合	岩波村
同高百弐拾九石八斗四升五夕	石脇村
同高四百三拾石五斗四升四合	佐野村
同高百五拾壱石八斗四升六合	公文名村
同高百拾四石六斗壱升三合	稲荷村
同高百八拾石六合五夕	茶畑村
同高百五拾石弐斗七升八合	平松新田
同高三拾六石三斗九升三合	麦塚村
同高三拾六石弐斗八合	二ツ屋新田
小以高	
水野出羽守様御領分	
高弐百三拾八石壱升三合	伊豆嶋田村
同高百七拾弐石壱斗一升三合	水窪村
同高三百五拾七石八斗弐升三合	竹原村
同高弐拾九石八斗五升三合	富沢村
同高三拾四石三斗四升八合	一色村
同高弐百五拾弐石弐斗四升壱合	納米里村
同高五百八拾弐石六斗五升五合	中土狩村
同高七百三十三石五合	下土狩村
同高弐百七拾弐石四斗壱升六合	上土狩村
小以高	
稲葉金之丞様御知行所	
高八百八拾石五斗壱升六合	深良村
同高弐百四十七石五斗三升弐合	久根村
大久保出雲守様御領分	
高弐百五拾三石壱斗八升七合	御宿村
内藤駒之丞様御知行所	
高弐百弐拾弐石四斗三升弐合	千福村
同高拾弐石弐斗六升弐合	定輪寺村
安藤伝右衛門様御知行所	
高三拾七石五斗七升	上ヶ田村

松平斧太郎様御知行所　同　村
高三拾五石三升六合
同　金沢村
高四石九斗五合
同　葛山村
高五石七斗三升八合
安藤伝右衛門様御知行所　新宿村
高七拾八石三斗九升四合
山岡五郎作様御知行所　伏見村
高百四拾壱石弐斗三升九合
酒井采女守様御知行所　同　村
高百五拾六石四斗四升三合

〆

湖水私領出金高

一高千四百三拾六石弐斗五升　弐拾九ケ村

此私領出金之義ハ、湖水ニ而開ケ候田地之高江掛り、当井組之義者享保年中之頃ゟ水不足ニ相成、右開候田地之内、元之畑ニ相成村方有之ニ付、其畑ニ相成候分之高ヲ右開ケ候高之内ニて引取、千四百三拾六石弐斗五升ニ相成候

是ハ天明年中之私領出金高也

是ニ合候様ニ仕可差上旨被仰付候ニ付、所々ゆすらい合、右之高ニ抜差上申候、尤国役御普請之節計り取用申候高故、後年ニ至り何之差構無御座候よし被仰付候、後学のため書残し置もの也

文政三辰年九月

（文政三年「小田原江書上控」
裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二四　文政三年（一八二〇）九月　国役御普請につき私領出金村高書上帳写

（表紙）

文政三年
国役御普請ニ付
私領出金村高書上帳写
辰九月　佐野村
植松常蔵

私領出金高

水野出羽守領分
駿州駿東郡

一高弐拾四石六斗九升壱合　竹原村
一高四拾九石壱斗三升弐合五夕　同　下土狩村
一高八拾弐石四升三合　同　中土狩村
一高三拾弐石八升七合　同　上土狩村
一高弐拾五石八斗三升九合　同　納米里村
一高弐石六升弐合　同　一色村
一高拾五石壱斗八升七合　同　富沢村
一高四石三斗六升六合　同　伊豆嶋田村

一高壱石壱斗弐升八合　水窪村
小以高弐百三拾六石五斗三升五合五夕　九ヶ村分

大久保加賀守領分
同州同郡

一高拾五石九斗五升九合　神山村
一高弐拾三石八斗弐升八合　同　岩波村
一高弐拾七石三斗九升七合　同　石脇村
一高弐百四拾石六斗六升弐合　同　佐野村
一高百四拾石弐斗六升九合　同　公文名村
一高五拾壱石五斗弐升　同　稲荷村
一高百九石弐斗五合五夕　茶畑村

一高九拾五石弐斗八升壱合　同　平松新田
一高三石五斗七合　同　麦塚村
一高弐拾八石九升八合　同　二ツ屋新田
小以高七百三拾五石七斗弐升六合五夕　拾ケ村分

一高九斗五升弐合　定輪寺村
一高拾三石壱斗八升四合　同　千福村
一高弐石弐斗　山岡五郎作知行所
酒井采女知行　伏見村

大久保出雲守領分
同州同郡　御宿村
一高百三石壱斗四升六合
稲葉金之丞知行所
同州同郡　深良村
一高弐百五石弐斗五升弐合
一高七拾弐石四升四合　久根村
内藤駒之丞知行所
同州同郡

一高弐拾石六斗弐升八合　安藤伝左衛門知行
同州同郡　新宿村
一高三拾五石九斗三升九合　松平斧太郎知行所
安藤伝右衛門知行所　上ケ田村
一高五石七斗三升八合　松平斧太郎知行　葛山村
同
一高四石九斗五合　金沢村

給々

小以高四百六拾三石九斗八升八合　　拾ヶ村
合高千四百三拾六石弐斗五升　弐拾九ヶ村

右者駿州駿東郡竹原村外弐拾八ヶ村之儀、箱根湖水ゟ用水相掛り并境川・新川・木瀬川通り組合ニ而先年国役御普請被仰付、其節銘々私領出金差出シ候村高取調可差出ス旨被　仰渡候ニ付、先年之振合ヲ以村高取調候処、書面之通り相違無御座候、依之連印書付差上申候処、如件

文政三辰年九月

水野出羽守領分
駿州駿東郡
竹原村
組頭　[虫損]

同　下土狩村
名主　幸右衛門

同　中土狩村
与頭　善　蔵

同　上土狩村
同　五郎右衛門

同　納米里村
同　源　蔵

同　一色村
名主　藤　蔵

同　富沢村
与頭　勇　蔵

伊豆嶋田村
与頭　弘　八

同　水窪村
名主　茂　兵　衛

大久保加賀守領分
神山村
名主　源　次　郎

同　岩波村

同

名主　伴　吉
石脇村
名主　甚右衛門
佐野村
名主　政右衛門
同　常　蔵
公文名村
稲荷村
名主　宇平治
茶畑村
名主　甚　蔵
平松新田
与頭　幸　蔵
麦塚村
名主　与祖右衛門
二ツ屋新田
名主　佐兵衛

大久保出雲守領分
御宿村
与頭　半　七
稲葉金之丞知行所
深良村
名主　平　八
同　治兵衛
同知行所
久根村
名主　源　蔵
内藤駒之丞知行所
千福村
定輪寺村
名主　文左衛門
酒井采女知行所
山岡五郎作知行所
伏見村
名主　治兵衛

安藤伝右衛門知行所
新宿村
名主　善　□

安藤伝右衛門知行所
松平斧太郎知行所
上ケ田村
名主　伊左衛門

松平斧太郎知行所
葛山村
名主　□(勝カ)左衛門

金沢村
名主　九左衛門

御普請御役
米倉武助様
有坂勝三郎様

（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

二五　文政四年(一八二一)六月　国役御普請につき不足金御助成ニ九ケ村願書

乍恐以書付奉願上候

一駿州駿東郡井組弐拾九ケ村水配人惣代人奉申上候、去々卯八月国役御普請奉願上候処、以　御慈非去辰年御両家様御進達被　為成下置、同年八月為御見分御普請役様御郷(出)郷被遊、御目論見被成下、尚又当巳二月御普請為御仕立御出郷被遊、惣代之者共被召出被　仰付候者、此度御普請仕立被　仰付候間、諸事正路ニ取計、麁末之儀無之様仕、御普請丈夫ニ相仕立可申上候段被　仰渡候ニ付、逐一承知奉畏、御普請箇所之御仕様帳之通、無相違皆出来仕、殊ニ当年之儀者水不足之年柄ニ御座候得共、水流格別宜敷相成、井組一統難有仕合ニ奉存候、乍併愚案之私共不事馴義ニ付、天明年中両度被仰付候御普請之節、諸賄方振合を以、万事費之儀無之様出情取計仕候へ共、山中難場之義ニ御座候へ

者、存外之人足諸入用抔茂相掛り、猶又雨天之節者無拠御普請相休、旁費之儀茂多分有之、御普請皆出来之上取調候所、以之外諸雑用等相掛り、金百五拾八両三分永弐百三拾八文引足不申候故、誠ニ水配人惣代人一同当惑仕罷在候、尤天明年中両度御普請之義者御手厚之御積方ニ而別而天明二寅年被　仰付候御普請御手厚之御積方被成下置、殊ニ其砌者米値段茂至而高直ニ而、御積り金高相登り候得者、村々ゟ出人足賃米代永茂右ニ準シ宜敷相渡申候間、井組村々一統助成ニも相成候程之儀ニ御座候、且天明四辰年地震崩ニ而再御普請被仰付候節も、年来不相立候義ニ御座候得者、水門木品等者古木相用候義も有之、殊ニ村役人共茂先御普請ニ而万端事馴居、費之儀茂無之様取計候哉、是又天明二寅年御普請同様村々助成ニも相成候ゆへ哉両度御普請共ニ　御給々様御出金之儀者御願不奉申上候様奉存候、併此度被仰付候御普請之儀も相当之御積り方ニ而、聊御非分之義無御座候得共、時節柄米直段も下直ニ而御積り金高先年ゟ格別相減し、其上去々卯八月御願立以来ゟ御普請皆出来迄前文奉申上候通、存外之人足諸失脚等茂相掛り候故、諸勘定仕候所全ク金百五拾八両三分永弐百三拾八文引足不申候得共、此度御国役御普請被仰付候儀者、乍恐　御上様奉蒙御尊恩ヲ候故之儀ニ御座候へ者、何ケ度も取賄可仕与井組村方一同再三相談ニおよひ候得共、元来困窮之百姓其上去辰春夏作違之儀、皆無同様ニ而村々一同難義仕候所、秋作之儀も風当りニ而不作仕夫食ニも差支、難渋至極仕、何分不及自力ニ無余儀不奉願恐を茂奉願上候者、右不足金百五拾八両三分永弐百三拾八文之内金三拾両井組村方割合出金可仕候間、残金百弐拾八両三分永弐百三拾八文　御給々様格別之以　御慈非井組村方為助成与御下ケ金被成下置度偏ニ奉願上候、乍恐此段御賢察被成下、右願之通被　為仰付被下置候ハヽ、井組村々大小之百姓水配人惣代人一同難有仕合ニ可奉存候、以上

文政四巳年六月

湖水井組弐拾九ヶ村惣代
御宿村　与頭　半　七
千福村　名主　文左衛門
佐野村　名主　政右衛門
平松新田　与頭　幸　蔵
上土狩村　与頭　五郎右衛門
中土狩村　組頭　善　蔵
深良村　水配人　平　八
同　下役　林右衛門
佐野村　水配人　常　蔵
茶畑村　下役　又四郎
下土狩村　水配人　幸右衛門
竹原村　同下役　与兵衛

用水御支配
御役人中様

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二六　文政一三年（一八三〇）一〇月　用水路大破につき国役御普請二九ヶ村願書

乍恐以書附奉申上候

一駿州駿東郡井組弐拾九ヶ村水配人惣代人一同奉申上者、

木瀬川通箱根湖水川堀り割石垣堀抜穴砂浚井須釜新川

石垣等、先規ゟ度々御普請被成下置、尚亦去文政四年巳年当御支配様・水野出羽守様御両家様格別之御憐愍ヲ以御進達被成下置、御国役御普請被仰付難有仕合ニ奉存候、然ル所其後大雨地震等ニ而年々破損仕候場所者、井組村方ニ而繕ひ普請仕候得共、年来相立候事故、先年御普請被仰付候場所、惣而大破ニ相成り、別而上間歩・下間歩共大石崩落、穴中之義茂難計、水行相滞り候得共、当年之儀者雨継宜敷水潤沢ニ而相凌候得共、此以後地水不足之年柄茂御座候間、三郷共旱損可仕哉与歎敷奉存候、然ル所度々之旱損等ニ而井組一同百姓困窮ニ付難自力ニ相叶奉存候間、何卒御憐愍之御慈悲ヲ以御見分被成下置、御国役御普請奉願上度奉存候、右奉願上候通御見分被成下置候ハヽ、井組一同難有仕合ニ奉存候、尚又御尋之儀者乍恐口上ヲ以可奉申上候、以上

文政十三庚寅年十月

井組弐拾九ヶ村惣代
水野出羽守領分
駿東郡下土狩村
組頭　忠助
大久保出雲守領分
同郡御宿村
名主　平次郎
御領分
佐野村
名主　源五郎
下土狩村
水配上役　幸右衛門
公文名村
同　宇平治
深良村
同　仲蔵

中土狩村
　同下役　善　蔵
茶畑村
　下役又四郎代　甚　蔵
深良村
　同下役　林右衛門

用水御支配
御役人中様

差上申一札之事

一駿州駿東郡竹原村外弐拾八ヶ村組合箱根湖水表并ニ新川・木瀬川・境川通り御国役御普請之儀、先達而銘々領主地頭江奉願候処、今般各様為御見分被成御越候ニ付、組合村々惣代村役人罷出、願箇所之巨細御案内仕、御見分奉請堤通洩所・欠所・崩所・減所等築立之節、土取場之義御尋御座候ニ付、於場所申上候通り田畑障ニ不相成、前々土取場有之候間、御仕立之節故障者勿論御願ヶ間敷義無御座候、且此度御見分中御旅宿之義ハ、組合石脇村ニ而御取調有之、尤御着之砌被仰渡候通、所有合之品ヲ以壱汁壱菜御賄仕、御馳走ヶ間敷義不仕、御逗留中御定之木銭米代者所之相場ヲ以御払被下、其外御買物等者其時々代銭御払被成下候ニ付、御買懸ヶ等聊無御座候、御家来中ニ至迄御非分之義毛頭無御座候、依之連印書付奉差上候処、仍而如件

天保二卯年十一月

二七　天保二年一一月　国役御普請御見分につき一札

（一八三一）

（表紙）
天保二年
御請書写
卯十一月

（神奈川県箱根町立郷土資料館所蔵）

駿州駿東郡廿九ヶ村惣代
稲葉金之丞知行
同州同郡深良村
名主　仲　蔵
林右衛門
大久保出雲守領分
同州同郡御宿村
名主　仙　蔵
大久保加賀守領分
同州同郡公文名村
名主　宇平治
同領分茶畑村
名主　甚　蔵
同領分石脇村
名主　良　蔵
水野出羽守領分
同州同郡下土狩村
名主　幸右衛門
同領分中土狩村
組頭　善　蔵
同領分下土狩村
組頭　忠　助

（神奈川県箱根町立郷土資料館所蔵）

二八　天保二年（一八三一）閏一一月　国役御普請下ヶ金前借願書

乍恐以書付奉願上候御事

一　湖水表新川并木瀬川・境川通御国役御普請奉願上候処、御両家様〻御進達被成下置、此度為御見分米倉武助様梶山鉄六様御越被遊御見分被成下置、全御両家様之偏ニ御慈悲与難有仕合ニ奉存候、右ニ付水門其外木品之儀、来春再御見分之節、俄ニ注文仕候而者間ニ合兼、殊ニ木性茂不宜奉存候間、当冬之内木品調置申度奉存候、其外諸入用等困窮之村々故、取替出来不申当惑仕候ニ付、何卒以御慈悲来春御普請被　仰付御下ヶ金御

座候迄、金三拾両御拝借被　仰付被下置候様奉願上候、尤御返上納之儀者来春弥御普請被　仰付御下ヶ金被成下置候節、右金ヲ以無相違御返上納可仕候、右奉願上候通、被　仰付被下置候ハヽ難有仕合ニ可奉存候、以上

天保弐卯閏十一月

惣代人
公文名村
名主　宇　平　治㊞
茶畑村
名主　甚　蔵㊞
石脇村
名主　良　蔵㊞

松井恭助様
森為右衛門様
入江万五郎様
川口漉右衛門様
村田沖右衛門様

（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

二九　天保三年三月（一八三二）　二九ケ村組合御普請入用金内借証文下書写

（表紙）
天保三辰年
御金証文下書写
三月　日

請取申金子之事
合金百六拾両也
右者駿州駿東郡之内弐拾九ヶ村組合、箱根山湖水ゟ引取候用水路御普請諸色代・人足賃之内、為御内借書面之通請取申処、仍如件
天保三辰年三月

駿州駿東郡
　弐拾九ヶ村惣代
水野出羽守領分
　同州同郡
　下土狩村
　名主　幸右衛門　印

大久保加賀守領分
　同州同郡
　公文名村
　名主　宇　平　治　印

稲葉金之丞知行所
　同州同郡
　深良村
　名主　仲　　蔵　印

江川太郎左衛門様
　御役所

以書付申上候

駿州駿東郡之内弐拾九ヶ村組合、箱根山湖水ゟ引取候用水路御普請被　仰付候ニ付、私共為惣代罷出申候、然ル所右御普請御金請取手形之儀ハ、下土狩村名主幸右衛門・公文名村名主宇平治・深良村名主仲蔵名前ニ而御渡被下候様仕度、此段奉願上候、依之申上候、以上

天保三辰年三月

駿州駿東郡
　弐拾九ヶ村惣代
大久保出雲守領分
　同州同郡御宿村
　名主　仙　　蔵

稲葉金之丞知行深良村
　名主　仲　　蔵

同村
　組頭　林　右　衛　門

大久保加賀守領分
　同州同郡公文名村

名主　宇　平　治

右同断　茶畑村
名主　甚　蔵

右同断　石脇村
名主　良　蔵

水野出羽守領分
同州同郡中土狩村
組合（ママ）　義　左衛門

右同断　下土狩村
名主　幸右衛門

右同断　同村
組頭　忠　助

御普請御掛
御役人中様

請取申金子之事
一合金百九拾四両者
外百六拾両者　当三月廿五日奉請取候
右者駿州駿東郡之内弐拾九ヶ村組合、箱根山湖水ゟ引取候用水路御普請諸色代・人足賃之内、為御内借書面之通受取申所、仍而如件

天保三辰年

駿州駿東郡
弐拾九ヶ村惣代
水野出羽守領分
同州同郡下土狩村
名主　幸右衛門

大久保加賀守領分
同州同郡公文名村
名主　宇　平　治

稲葉金之丞知行所
同州同郡深良村
名主　仲　蔵

江川太郎左衛門様

御　役　所

右之通相違無御座候、以上

御普請役元〆格　藤井円四郎　印
御普請役　曾根慎之丞　印

右手形御奥印相済御渡被成、慥奉請取候、以上

辰四月廿一日

請取申金子之事

高金三百九拾三両三分永百九拾壱文弐分

合金三拾九両三分永百九拾壱文弐分

外

金百六拾両者　当三月廿七日奉受ヶ取候
金百九拾四両者　同四月廿五日奉受取候

右者駿州駿東郡之内弐拾九ヶ村組合、箱根山湖水ゟ引取候用水路御普請諸色代・人足賃残金、書面之通請取申所、仍如件

駿州駿東郡
弐拾九ヶ村惣代
水野出羽守領分
同州同郡下土狩村
名主　幸右衛門
大久保加賀守領分
同州同郡公文名村
名主　宇平治
稲葉金之丞知行
深良村
名主　仲蔵

江川太郎左衛門様

御　役　所

右之通り相違無御候、以上

御普請役元〆格　藤井円四郎　印
御普請役　曾根慎之丞　印

（神奈川県箱根町立郷土資料館所蔵）

三〇　天保三年五月二日　箱根山湖水掛用水路御普請仕立取掛申渡請印帳写

（表紙）
箱根山湖水掛用水路
御普請仕立取掛申渡
請印帳写

差上申御請書之事

一駿州駿東郡弐拾九ヶ村組合、箱根山湖水ゟ引取候用水路御普請之儀、先達而領主ゟ相願候処、御見分御目論見之上今般御下知相済、為御仕立各様被成御越、村々為惣代私共御案内仕、願箇所々御見分御丁張被成下、則仕様帳御渡被下、右組合村々之者共迄不洩様拝見為仕写取、難有仕合奉存候、右入用諸色之儀者寸間目通等少茂相違無之品差出、御差支不相成様仕、若不宜品之分者何ヶ度も引替差出、御改ヲ請遣方可仕候、且人足之儀ハ早朝ゟ御場所江為相詰、私共付居出精為仕、諸事麁末之儀無之様仕、尤請負ヶ間敷もの決而差加申間敷候、右御普請仕立中若出水等ニ而破損手戻等有之共、御渡被成下候、仕様帳之通、無相違何ヶ度も仕立、直増御入用等之儀決而相願申間敷事

一右御普請諸色代・人足賃等渡方之儀、御内借金被下置候、度々無甲乙割渡請取印形取置候様可仕、且亦於御場所無益之入用等不相懸様、惣代村役人共一同申合諸事正路ニ取計可仕候事

一此度御普請ニ付被成御越、御逗留中御賄方之儀ハ御定メ之木銭米代ハ所相場ヲ以御払被成候ニ付被　仰渡候通、所有合之野菜ヲ以、一汁一菜御賄仕、所入用一切不相掛、何ニ而茂御地（馳）走ヶ間敷儀不仕、且又御旅宿御勝手等江村役人寄合無益之入用相懸、右等之分追而村入用ニ割合候様成義決而不仕、一同厳敷申合相慎候様可仕候事

右代趣逐一被仰渡一同承知奉畏候、小前之もの共江も不

洩様申聞、諸事念入大切ニ相勤可申候、依之御請印形差
上申所、仍而如件

水野出羽守
大久保加賀守
大久保出雲守
山岡五郎作
安藤佐兵衛
内藤重左衛門
酒井采女
稲葉金之丞
松平時三郎

駿州駿東郡
弐拾九ヶ村組合
右惣代
水野出羽守領分
駿州駿東郡下土狩村
組頭　忠助

大久保出雲守領分
同州同郡御宿村
名主　仙蔵

大久保加賀守領分
同州同郡石脇村
名主　良蔵

右同人領分
同州同郡茶畑村
名主　甚蔵

稲葉金之丞知行
同州同郡深良村
水配下役組頭　林右衛門

右同人知行所
同州同郡右同村
同上役名主　仲蔵

大久保加賀守領分
同州同郡茶畑村

同下役
組頭　又　四　郎

右同人領分
同州同郡公文名村
同上役
名主　宇　平　治

水野出羽守領分
同州同郡中土狩村
同下役
組頭　義　左　衛　門

右同人領分
同州同郡下土狩村
水配上役
名主　幸　右　衛　門

御普請御掛
御役人中様

前書御請連印奉差上候通、諸事正路ニ取計、右御普請一件ニ付、後日御願ヶ間敷儀聊無御座候、且今般御引払ニ付、御逗留中御音物ヶ間敷義、又ハ御買掛等有之哉、有躰ニ可申上旨、被仰渡承知奉畏候、右者御音物ヶ間敷儀者勿論、御買上物等其時之代金被成御渡し、奉売上候儀ニ付、何ニ而も一切村入用相掛不申、御家来中ニ至迄御非分成儀毛頭無御座候、後日如何様之儀申出候もの御座候共、私共何方迄も罷出急度申披可仕候、依之奥書連印奉差上候処相違御座候、以上

天保三辰年五月二日　　右

幸右衛門
義左衛門
宇平治
又四郎
仲蔵
林右衛門
甚蔵
良蔵
仙蔵
忠助

（神奈川県箱根町立郷土資料館所蔵）

三一　天保三年（一八三二）　国役御普請木品代・人足賃・普請役人等書上

一天保三辰年湖水御普請有之、其節当村堰御国役御普請有之候□（虫損）積、別帳有
木品代永弐貫九百拾七文四分
　但シ大工手間共
一人足弐百三十人
此賃三石九斗五升
此永四千弐百五拾弐文四分
　〃　〃　〃　〃　〃　〃
　三貫七百
　両ニ石三斗分替
右被下金之内、三割諸入用ニ付、引残請取之
　御普請役様
前年御見分
　梶山鉄六様　　藤井円四郎様
米倉武助様　翌年辰小普請　曾根新之丞様
出来之上、御見分為御礼当村方川魚献上致シ申候
惣代水配中江ハ酒壱升遣候

（文政一三年二月『駿州富沢村地方諸事控』裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

三二　天保一一年（一八四〇）八月　富沢・一色両村掛り用水路新規掘替覚帳

（表紙）
天保十一子年
富沢一色両村掛り用水路新規堀替覚帳
八月
富沢村
渡辺嘉六

乍恐以書附奉願上候
穴普請願書
駿州駿東郡富沢村・一色村役人共奉申上候、私共村方用水堀抜長百弐拾之処、木瀬川筋出水候節ニ荒水打込、普

請所石出シ流失仕用水路ニ付難捨置候ニ付、去六ヶ年以
前未申両御普請御願申候処、御見分之上枠出御普請被
仰付、難有仕合ニ奉存候、然ル処右御普請之儀茂入御念
丈夫出来仕候得共、大水之節者荒水突掛強場所ニて、平
日之見受と違ひ、存外之水勢ニ候得者持方甚悪敷、前書
両度之御普請之後追々欠崩、堀抜百弐拾間之内長拾四間
壱ヶ所、同所下之三間之処自然崩込壱ヶ所都合弐ヶ所及
大破、多分之満水、或者滞此節苗代ニも引足不申難儀至
極仕候、依之ヶ段奉願上候、右弐ヶ所場所在堀ゟ山手之
方ニ振寄拾四間之堀替場見積り凡弐拾間程并ニ自然崩場
所長三間、此堀替見込凡長六間右弐ヶ所、新規堀替候得
者、永久右躰之損所出来不仕候様相成り、困□躰之村方
一同之助益ニ御座候間、何卒御慈悲ヲ以御見分之上、右
普請被仰付被下置候様偏ニ奉願上候、以上

天保十一子年
三月十九日

駿東郡富沢村
願人
百姓代　勇　治　郎　印
組頭　文　助　印

同　庄　蔵　印
名主　太　七　印

一色村
百姓代　丈右衛門　印
組頭　勘　蔵　印
同　文　蔵　印
名主　伴左衛門　印

沼津
御役所

右之通り御願立申候処御見之上普請被仰付候

一金弐拾五両　御手当被下　五分通

御見分御役人
御代官　鈴木勘左衛門様
御手代　小高与八郎様
御方　浅岡弥助様
供廻り　弐人

御請申証文之事

一堀抜用水堀長弐拾五間

此堀抜代金弐拾弐両也

右者此度御村方用水堀御普請被成候ニ付、書面之金高ニて私共ニ被仰付、難有御請負仕候処、実正ニ御座候、然ル上者御仕様帳之通り少も相違なく皆出来可仕候、尤右金高ニて何様之儀御座候共、増金等一切御願申間敷候、為後日御請負証文差上申処、仍如件

天保十一子年

七月

上香貫村

請負人　伴　兵　衛　印

同断　利　兵　衛　印

沼津上土町

証人　喜　　平　印

富沢村

御役人衆中

七月十八日八月廿八日迄相掛り申候

此人夫

一　豆州田方郡韮山村　黒鍬　平　七

駿州富士郡天棒(伝法)村　同　忠　助

一　駿州駿東郡上徳倉村　同(スギサハ)常　蔵

駿州駿東郡上番貫村　同請元　利　兵　衛

一　駿州駿東郡上番貫村　同　伴　兵　衛

此節御地頭様ゟ被下候金ニて、少々金子不全ニ付、高割ヲ以定輪寺村ゟ金壱両弐分請取申候

一色村之儀者同領ニ付、御上様願砌りより世話ニも相成申候ニ付、金子請取不申候

字大口之下杭四間之枠相崩、此節水皆むり候ニ付、親(新)規
堀替同下元口与申水門ニ御座候処、此節水門ニ潰石出シ
致し申候
九月三日
出来見分御役人中御出役

江戸表ゟ御勘定御奉行兼　御手代　原田様
原田孫兵衛様　小高与八郎様　御若党壱人

御代官　御同心　鑓　弐人
鈴木勘左衛門様　加藤清次郎様　供　三人
上下拾人也

御礼覚

一鰹節五連酒札弐枚　御代官　鈴木勘左衛門様へ
一鰹節四連酒札弐枚　御手代　小高与八郎様へ
一鰹節弐連酒札弐枚　御代官　小林要造様へ
一鰹節壱連酒札壱枚　成岡弥助様へ
一鰹節壱連酒札壱枚　加藤清治郎様へ
一金百五拾疋　郷宿江戸や　類平様へ

一同百疋　郷宿下代　三右衛門様へ
一銭弐百文　郷宿　下女中方へ
一酒札弐枚　御手代　天野彦(ヒコ)四郎様へ
一鰹節壱連　一色村　役人中へ

〆以上金弐両弐分弐朱也

奉中借御金之事

一金拾五両也

右者私共村方用水路自普請所之内、書面之通り中借被仰付、難有ニ仕合奉存候

天保十一子年
七月十日

富沢村
百姓代　祐治郎
組頭　文助
同　庄蔵
名主　太七

沼津

御役所

七月十八日八月廿八日相掛り申候黒鍬人夫凡弐百五十人程、但シ取口五人当り

于時天保十一子年八月吉日写之、若年之時御座候故、落写候、又ハ字あやまり等可有之候間、乍後々御賢慮之読御願ひ申度候

渡辺嘉六　十九才

乍恐以書附奉申上候

今般在町共門玄関脇之補理并なけし杉戸其外過分之家作致候者は、仕直し可申旨御触之趣奉承知居候、然ル処□□之儀門玄関者古来ゟ有来　殿様御廻村之節ハ被為在御入、冥加至極難有仕合奉存候、右ニ付而者御座所ニ相成候分并門玄関脇之場所者平日〆切置向後御通抜も被下置候□□□用候様仕度奉存候、且対先祖候而茂欲ケ敷奉存候間、右ケ所之門古来之儘御差被置候様仕度奉願上候、

勿論平日通路之儀者外場所補理并御座所一間之儀者早速相改候様可仕候、何卒可相成義ニ御座候ハヽ右之通り被仰付被下置候様仕度奉存候、依之乍恐此段御内意奉窺候、

以上

天保十四卯年　　御領分

六月四日　　駿州駿東郡

富沢村　太　七

水久保村　甚　兵　衛

納米里村　又右衛門

一色村　良　八

岡一色　利　兵　衛

義　郎

上石田　庄右衛門

下小林　彦　二　郎

竹　原　伝左衛門

御城下　三枚橋　与　兵　衛

上土町　喜　平

沼津

御役所

為後日仍而如件

天保十一子年

八月

堰元
富沢村

名主　太　七㊞

組頭　礼　蔵㊞

同　文　助㊞

（裏表紙）
「于時天保十一子年菊月吉日写之
駿州駿東郡富沢村住人
此主
渡辺嘉六郎㊞
十九才」

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

定輪寺村
御役人衆中

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

三三　天保一一年（一八四〇）八月　富沢村他二ヶ村用水堀新規掘替助合金請取証

書付之事

一金壱両弐分也　安政四巳年十二月十二日金三分差出し貰受置候もの也

右者富沢・定輪寺・一色三ヶ村掛り用水堀抜、長弐拾五間之場所大破仕候ニ付、此度新規堀替仕候ニ付、為助合金書面之通り慥ニ受取申候処、実証ニ御座候、然ル上者後年ニ至り如何様之儀御座候共、御願ヶ間敷儀仕間敷候、

第三節　国役普請の拡大

二二四　天保一四年二月二三日（一八四三）　新堰用水路御普請請負一札及び普請所仕方覚

（包紙）「　　佐野村
上　　半　治
　　伊左衛門」

請負申一札之事

一金拾両也（印）（印）

右者此度新堰用水路御普請ヶ所、都合十三ヶ所修覆普請所御請負申上候処実正（印）ニ御座候、則扶持作料金与して書面之金高ニ而別紙之通り明細仕方御差図之通、念入仕上ヶ可申候、尤出来形日限之義ハ、来三月十五日（印）限り無相違仕上ヶ可申候、右金子之内、其時々出来次第を以、日限までニ不残御渡し可被下候、万一仕方相違仕候歟、又ハ日限迄ニ出来兼候ハヽ、引受人方ニて急度引受、御差支ニ相成不申様仕上（印）ヶ可申候、其節少茂御厄介御無心ヶ間敷義申上間敷候、為後日請負加判一札、仍如件

天保十四癸卯年
二月廿三日

佐野村
九六鍬　半　治（印）
同断　伊左衛門（印）
引受証人　市右衛門（印）

五ヶ村
御役人衆中様

御普請所仕方覚

一二はん三十三間　但石垣高三尺表三尺通堀割鋼〆
一三はん三十間　但右同断
一四はん三十間　但右同断
一五はん十五間　但右同断
一六はん十間　但腹付石垣表鋼〆
一七はん十九間　但はめ表右同断
一八はん十間　但石垣高三尺表右同断橋下埋置
一九はん八間　但腹付石垣高三尺表右同断
一十はん七間半　但羽口石垣高弐尺表右同断
一十一はん十間　但右同断
一十二はん四間　但両羽口高弐尺中鋼〆
一十三はん四十五間　但芝詰〆
一十四はん弐十七間　但表羽口高三尺前七尺表積芝

〆拾三ヶ所㊞

右之通仕方無相違仕上ヶ可申候、以上㊞

天保十四癸卯年
二月廿三日

佐野村
半　治㊞
伊左衛門㊞
引受証人　市右衛門㊞

五ヶ村
御役人衆中様

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三五　天保一四年三月（一八四三）　御普請願諸入用定書

取極〆申定書之事

一此度湖水表水門并割堀石垣逆川新川土手通り其外御普請所天保三辰年御公儀様ゟ御普請被成下置候処、年来相立候哉、水門両袖上間歩枠大破ニ相成、石垣土手其外御普請所欠崩候得者難捨置、此度茂先例之通、御国役御普請奉願上度、先達中度々出立仕取究候通、御願

惣代一郷ニて弐人ツヽ水配人□(虫損)六人、都合拾弐人ニて取切世話御頼申上度候□何様ニ御取計被成下候共、御普請御願向之儀ニ付而ハ御任セ申置候、若亦格別之義御座候而難御取計候ハヽ、早々出会御廻状御出シ可被下候、其節ハ早速出席仕、御相談可申上候、尤小田原行雑用、江戸御願雑用、沼津行韮山行雑用等、是又取究置、余分之失塗(ママ)相掛ケ不申候様、相互ニ実意を以御取計可被下候様仕度奉存候、則雑用左之通り

一江戸往返一日銀七匁五分ツヽ
同断逼留中一日銀六匁五分ツヽ
小田原行一日銭五百文ツヽ
韮山行一日　同四百文ツヽ
沼津行一日　同四百文ツヽ

右之通り一同相談仕取定メ申候上ハ、相違無御座候、仍而井組一統連印仕差上申候、為後日如件

天保十四卯年三月

稲葉金之丞様
御知行所
深良村
名主　治三郎
久根村
名主　弥右衛門
松平内蔵允様
御知行所
葛山村
名主　儀右衛門
金沢村
上ケ田村
名主　忠左衛門
安藤左兵衛様
御知行所
上ケ田村
名主　庄兵衛
新宿村
名主　源蔵
大久保出雲守
御領分
御宿村
名主　吟右衛門
内藤鄽之丞様
知行所
千福村
定輪寺村
名主　瑞平
酒井采女
御知行所
伏見村
名主　八右衛門
山岡対馬守
御知行所
伏見村
名主　五平
〆
小田原御領分
神山村
名主　源次郎
〆
岩波村
名主　伴右衛門
石脇村
名主　善吉
佐野村
名主　儀右衛門
公文名村
名主　宇平次
茶畑村
名主　甚蔵
平松新田
名主　大助
麦塚
名主　与祖右衛門
二ツ屋
名主　佐兵衛

沼津御領分　　嶋田村
富沢村　　名主　弘　八
名主　嘉　六　　上土狩村
一色村　　名主　要兵衛
名主　永　八　　中土狩村
納米里村　　名主　治次郎
名主　幸右衛門　　下土狩村
水窪村　　名主　瀬　平
名主　甚兵衛　　竹原村
名主　要右衛門

御水配人中様
御惣代人中様

（天保年中～弘化三年『箱根山湖水御普請諸願立銘細控帳』裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

三六　天保一四年一〇月（一八四三）　国役御普請井組村々願書

乍恐以書付奉願上候

私共村々用水之義、寛文年中箱根湖水西之方深良村山内長七百弐拾間堀抜、同村字須釜与申処田畑之場所、幅八間長サ七百五拾間堀割堤築立、新川与唱用水引取候ニ付先年与引替り用水沢山ニ相成、御田地多分ニ開発いたし用水潤沢仕候処、寛文年中ゟ年来相立候故哉、自然与所々大破仕、堀抜穴押埋り用水不足仕、干損等打続、井組一同難渋仕、依之安永九子年御国役御普請奉願上候処、天明元丑年御見分之上、湖水表水門并堀抜床下穴浚、新川堤上置、腹付石垣其外用水路、木瀬川・境川ニ至迄御手厚御普請被成下、翌年寅年迄ニ出来仕、用水以前之通沢山ニ相成、莫大之御慈悲与井組村々一同難有仕合ニ奉存候、然ル処同年七月大地震ニ而、御普請被成下置候場所不残震崩シ、又候用水不足仕候ニ付、不奉顧恐其段御注進申上、再御普請奉願上候処、願之通再御普請被成下

置、重々難有仕合ニ奉存候、御普請役様御引払之節被仰聞候ニ者、以後御国役御普請相願候儀不相成、自普請ニ仕候様被　仰渡、無拠一同承知奉畏候、御請申上其後小破之分ハ、井組村々ニ而普請取繕ひ仕候、井組村々ニ而届キ兼候大破之節ハ、御領主様御地頭様江奉願上、御高割を以御出金被下、度々御普請被成下置候処、文政度ニ相成候処、格別之大破ニ而中々容易之義ニ無御座、井組村々自力ニ者勿論、御高割御普請御願茂難申上程之義ニ御座候間、井組村々一同申談之上、御領主様御地頭様へ御国役御普請之義奉願上候処、右願之通御国役御普請被仰付候、天保三辰年之義茂右同様御普請被成下置、難有仕合ニ奉存候、然ル処年来相立候故ニ哉、右御普請被成下置候場所大破ニ相成、其上当卯二月九日大地震ニ而水門并堤石垣等震崩シ、猶又大破ニ罷成、用水差支申候間、井組村々申談之上取繕ひ仕、当年之義ハ用水可成ニ行渡候得共、来ル辰年迄ハ相保申間敷与奉存候、右用水差支候而者、井組村々一同難渋仕候義ニ付、依之奉願上候者、何卒御憐愍之御慈悲を以、右大破之場所御見分被成下置、先年之通御国役御普請御願被成下置候様奉願上候、右奉願上候通被　仰付被下置候ハヽ、井組村々一統難有仕合ニ可奉存候、以上

天保十四癸卯年

十月日

駿州下御厨
深良村
水配上役　仲　蔵　印
同　下役　久左衛門　印
公文名村
同　上役　宇　平　治　印
茶畑村
同　下役　林右衛門　印
下土狩村
同　上役　幸　助　印
中土狩村

同　下役　義左衛門印

稲葉金之丞知行所
深良村
上郷惣代
名主　治　三　郎印

大久保出雲守領分
御宿村
同断
名主　吟右衛門印

御領分
佐野村
中郷惣代
名主　義右衛門印

稲葉金之丞知行所
久根村
同断
名主　弥右衛門印

水野出羽守領分
上土狩村
下郷惣代
名主　安　兵　衛印

同断
下土狩村
同
名主　瀬　兵　衛印

用水御支配
御役人中様

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三七　天保一五年（一八四四）七月二二日　御宿村新堰大破につき普請所見分願書

乍恐以書付御届奉申上候

一御厨下郷湖水井組弐拾九ヶ村組合用水□（虫損）御普請所破損数ヶ所□　□普請御見分願、水配人其外惣代を以御支

配小田原表江願書差出し置候処、来月朔日頃御出在之趣御沙汰御座候間、此段御届奉申上候、右ニ付御宿村新堰大破ニ付、此度御見分ニ入、御普請一同奉願度奉□□義奉申上候、以上

天保十五辰年七月廿二日

御宿村
組頭　五郎右衛門㊞

松長
御役所

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三八　天保一五年（一八四四）七月二七日　御宿村用水路御普請見分届

乍恐書付を以御□（虫損）□申上候

一御厨下郷井組弐拾九ヶ村組合用水路御普請所数ヶ所及大破、用水差支候ニ付、水配人惣代人を以用水御掛り小田原表江願書差出し置処、弥来月朔日頃御出立之趣御沙汰御座候ニ付、去ル廿二日与頭五郎右衛門右之趣御届ケ奉申上候処、右五郎右衛門ニ而ハ相訳り兼候ニ付、吟右衛門御呼出しニ而御尋御座候処、来る御出役日限御先触茂無御座候間、様子相訳り次第早速御□可奉申上候、其外御□□見分之趣□一々御届ケ可奉申上候□□

天保拾五辰年七月廿七日

駿東郡御宿村
百姓代　仁右衛門
組頭　五郎右衛門
□代　彦兵衛
名主　吟右衛門

松長
御役所

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三元　天保一五年七月　かろうと堰国役御普請につき御宿村願書

（一八四四）

乍恐書付を以奉願上候

一御領分駿州駿東郡御宿村外御知行所四ヶ村、都合五ヶ村掛り字かろうと堰用水引取口ゟ姥ヶ沢与申洗水門場まで年々修復仕来候処、近年土手大破ニ相成洩所及数ヶ所ニ、中々困窮之五ヶ村自力難及当惑仕罷在候処、今般湖水表ゟ新川筋木瀬通用水路、先年之通国役御普請願立仕候ニ付、右かろうと堰之義茂国役御普請奉願上度奉存候間、御立合御見分ニ相成候ハヽ国役御普請所ニ相成候様偏ニ奉願上候、右願之通被仰付被下置候ハヽ困窮之村々一同相助難有仕合ニ奉存候、以上

天保十五年辰七月

駿東郡御宿村

百姓代　仁右衛門

組頭　五郎右衛門

名主代　彦兵衛

名主　吟右衛門

松長

御役所

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三〇　天保一五年八月　小田原・沼津藩見分中諸入用等取調勘定帳

（一八四四）

（表紙）

天保拾五年

湖水御普請所

小田原様

水野　様

辰八月

御見分中御賄并諸入用　取調勘定帳

上郷惣代御宿村

名主　吟右衛門控

人足

三郷水配人惣代人　立合

覚

一金拾六両壱分弐朱ト

銭百十(ママ)五十文
右ハ小田原様御賄諸入用并ニ諸人足賃銭共　公文名村
一金拾七両弐分弐朱ト
銭六百三十七文
右者沼津様御賄入用諸人足賃銭とも　水窪村
一銭拾七貫八百拾四文
震橋庄兵衛方勘定之節惣代飯料、御代官
様御立会入用共
一金弐朱也　右同人方へ茶代
一銭三貫八百五十四文
大森新田常七方下見之節惣代人飯料并御
両様御休入用
一同五百文　右同人方へ茶代
一金二朱也　佐野村万やへ御両様御立会之節茶代
一銭拾三貫八百六十八文
湖水新川苅払人足其外小遣人足ちん
一金弐朱也　惣代人下見之節御宿村吟右衛門方入用
一金弐朱也　水久保村源助方払
一金壱分也　書上帳面筆墨代
一銭四拾四貫八百文
惣代人給料
一同六貫七百十六文
佐野村三好方出会飯料〆
一金弐朱也　勘定之節ろうそく代〆
一銭七十弐文
御宿村吟右衛門取かへ小遣ちん
一同百文　大蠟燭壱ヶ
一同壱貫五百文
宇平次小田原雑用
一同壱貫五百文
儀右衛門小田原雑用
一銭四百五十文
右之節音物入用
一同四貫文　林右衛門・幸助小田原行雑用

一金弐朱ト銭六百文　　此替銭
　右之節御礼入用　　三百四拾弐貫五百四十七文
一銭壱貫文　瀬平沼津行入用　　此丁銭
一同六百三十弐文　　三百弐十八貫八百四十七文
　同人同行御礼入用　　此割高
一同壱貫弐百文　　六千八拾九石七斗四升五合弐夕
　幸助沼津行三度分　　高拾石ニ付
一同八百文　安兵衛沼津行両度分　　銭五百三十九文九分五厘
一同五百文　吟右衛門沼津行一日待合申候ニ付百文ま　　此処江
し　　銭五百四十文掛ル
一同壱貫四百四十文割場入用　　竹原村
一同九百文　三郷取集ちん　　高三百五十七石八斗弐升三合
一同五百文　儀右衛門・弥右衛門小田原行雑用、文　　一銭弐拾貫百弐十六文
政・天保両度御普請書類御尋ニ付并ニ此　　此金三両ト三百弐十六文出分
度願書持参　　下土狩村
惣〆　　高七百三十三石五合
金三拾五両ト銭百八貫四十七文　　一銭四十壱貫弐百三十文

内

壱貫弐百三十弐文
　新川人足四人分壱人三百文つゝ
壱貫弐百文
　沼津行人足六人分壱人分弐百文
弐百文　瀬平弁当代
弐百文　幸助弁当代
八貫文　瀬平・幸助給料弐人分
壱貫文　瀬兵衛沼津行雑用
六百三十弐文
　同人臨時入用分
壱貫弐百文
　幸助沼津行三度分
壱貫百六十弐文
　同人小田原行雑用分
金弐朱　水窪村源助方払分
〆十五貫七百六十四文

差引弐十五貫五百六十四文出分

中土狩村

高五百八十弐石六斗五升五合
一銭三拾弐貫七百七十壱文

内

壱貫弐百三十弐文
　新川人足四人分壱人ニ付三百八文ツゝ
三百文　義左衛門弁当代
百八十四文
　納米里酒代義左衛門取かへ
四貫文　同人給料
　小以〆五貫七百弐十文
差引弐十七貫五十七文出分

上土狩村

金弐百七十弐石四斗八升六合
一銭拾五貫三百弐十弐文

内

六百十六文　新川人足弐人壱人三百八文つゝ
弐百文　安兵衛弁当代
壱貫弐百文　沼津行人足六人
八百文　安兵衛沼津行雑用
四貫文　同人給料
小以六貫八百十六文
差引八貫五百六文出分

高弐百五十弐石弐斗四升壱合　納米里村
一同拾四貫百八十五文出分

高三十□石壱斗四升八合　一色村
一同壱貫九百弐拾文出分

高弐十九石八斗五升三合　富沢村

一同壱貫六百七十六文出分

高拾弐石弐斗六升弐合　定輪寺村
一同六百八十六文出分

高弐百弐十弐石　千福村
一同拾弐貫五百拾壱文出分

酒井様高百五十六石四斗四升三合　伏見村
一同八貫八百文出分

山岡様高百四十壱石　同村
一同七貫九百三十文出分

高七十八石三斗九升四合　新宿村
一同四貫四百九文出分

伊豆嶋田

高弐百三十八石壱升三合
一同拾三貫三百八十五文出分
　水窪村
高百七拾弐石壱斗一升三合
一同九貫六百七十八文
　内
　三百壱文
　　湖水人足壱人
　引残金壱両ト三百八十九文
　　二ツ屋新田
　右之取
金拾七両壱分ト七百十三文御賄入用
差引
〆金拾五両三分弐朱ト百七文過ス
高百廿九石八斗八升三合
一同七貫三百四文
　内
　三百壱文
　　湖水人足壱人
　引残金壱両ト三百八十九文
　　二ツ屋新田

高三拾六石弐升八合
一同弐貫廿六文
　内
　三百拾壱文
　　湖水仕□
　残而金壱分ト六十三文
　　佐野村
高四百三拾石□斗四升四合
一同弐拾四貫弐百十七文
　内
　六百廿弐文
　　左太郎
　　文平
　　湖水人足弐人
　百四拾八文
　　惣助
　　国太郎

庄五郎小遣

残銭廿三貫四百四十三文

此金三両弐分三百四十三文　可出分

内

金壱両弐分

御使触要蔵ゟ受取

銭四貫五百□□受取

差引金壱両壱分九百廿六文　可出分

公文名村

稲荷村

高弐百六十六石四斗九升九合

一同拾四貫九百八十七文

内

金拾六両壱分弐朱百十五拾文(ママ)御賄仕役

同弐朱　幸助小田原行雑用取かへ

六百廿二文　湖水人足弐人

三拾四文　□掛取かへ

三百文　弁当代

四貫文　給料

百文　味淋代

小以〆金拾六両弐分

五貫弐百拾文

差引

〆金拾五両百廿三文　過ス

茶畑村

高百八十石六合五夕

一同拾貫百廿四文

内

六百廿二文湖水人足弐人

三百文　藤右衛門弁当代

四百文　林右衛門弁当代

四貫文　同人給料

弐百文　同人小田原行雑用

金弐朱ト六百文　同人臨時取かへ

三百三拾六文　同人酒代取かへ
小以〆九貫八拾弐文
差引
金弐朱ト弐百十四文　可出分

高百五拾石弐斗七升八合　平松新田
一同八貫四百五拾壱文
此金壱両壱分弐百三文

高三拾六石壱斗九升三合　麦塚村
一同弐貫三拾四文
此金壱分ト三百八十弐文

高弐百四拾七石九斗三升四合　久根村
一同拾三貫九百四十四文
内
四百文　弁当代

四貫文　料(給)料
六百廿二文　湖水苅払仕役
一同銭八貫八百廿弐□
此金壱両壱分六百七拾文　可出分

高八百八拾石五斗壱升六合　深良村
一同四拾九貫五百三拾三文
内
九百三拾三文　湖水苅払人足佐左衛門・太右衛門・助右衛門
弐百廿六文　新川苅払、勇右衛門
百六十文　新川建札向田差木
弐百四十八文　辰右衛門仙石行
三百文　由右衛門弁当代
四百文　治三郎弁当代
八百文　同人給料
〆三貫七拾壱文

差引
銭四拾六貫四百五拾八文
此金七両ト弐百五十八文　可出分

神山村
高拾五石九斗五升九合五夕
一同八百九拾四文
此金弐朱ト七拾文　可出分

岩波村
高九拾六石三斗九升壱合
一同五貫四百廿一文
此金弐分弐朱ト四百六十九文

御宿村
高弐百五拾三石壱斗八升七合
一同拾四貫弐百四拾文
内
壱貫五百五拾五文
湖水人足六人分壱人三百十一文
七拾弐文　休右衛門小遣
金弐朱也　銀右衛門方茶代
三百文　弁当代
四貫文　同人給料
五百文　同人沼津行
小以〆七貫弐百五拾五文
銭六貫九百八十一文
此金壱両ト三百八十一文

安藤
高三十七石八斗九升四合
一同弐貫百三拾文
此金壱分ト四百七拾八文

上ケ田村
松平
高三十五石三升六合
一同壱貫九百六十八文
此金壱分ト三百廿文

同村

金沢村

高四石九斗五合
一同弐百七拾八文

葛山村

高五石七斗三升八合
一同三百廿二文

右者御普請ニ付小田原様・沼津様御見分中御賄諸入用并諸人足賃銭共、書面之通割合仕候間、疾与御披見之上、取集者江御出金可被下候、以上

辰九月

上郷　仲蔵　久左衛門　治三郎　吟右衛門

宇兵次　林右衛門　弥右衛門　儀右衛門

下郷　幸助　儀左衛門　瀬平　安兵衛

中郷

井組廿九ヶ村
御名主中

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三三　弘化二年三月（一八四五）　天保地震による大破につき地頭所宛国役御普請願書

（端裏書）「弘化二巳年湖水御普請願地頭所様へ井組願書」

乍恐以書付奉願上候

一私共村々之義、往古ゟ用水不足之場所ニ御座候而度々旱損仕、村々一統難義仕候処、寛文年中箱根湖水西之方、深良村・上ケ田与申所ニ掛り、長七百廿間土中ヲ堀抜、夫ゟ同村之内字須釜与申候田畑之場所、巾八間長七百五拾間堀割堤築立、新川与唱申候、右之堰ゟ村々江分水仕用水引取申候ニ付、水沢山ニ相成、在来之御田地ハ不及申上、畑成田等多分ニ出来仕、用水潤沢致し、村々一同難有奉存候、然ル処右堀抜穴数年来相立候故哉、自然与大破仕、堀抜穴押埋用水不足仕、旱損打続井組村々一同難義仕候、仍之安永九子年　御国役御普請被成下置候様奉願上候処、天明元丑年御見分ノ上、湖水表水門并堀割床下ケ堀抜穴砂浚新川通堤上置腹附石垣其外用水路木瀬川・境川通ニ至迄御手厚ニ御普請被成下、翌寅年迄ニ出来仕、用水以前之通り水沢山ニ相成、莫太之御慈悲ニ井組一同難有仕合ニ奉存候処、同年七月大地震ニ而御普請被成下置候場所不残震崩し、又候水不足仕候ニ付、不奉顧恐ヲ茂其段奉願上候処、御憐愍を以再御普請被成下置用水沢山ニ相成、御田地仕附等差支無御座、重々難有仕合ニ奉存候、然ル処近年湖水表水門并堀抜穴、新川・木瀬川・境川通り堤石垣等、追年破損仕、水出方悪敷分水相届キ兼ニ付、不奉顧恐ヲ茂、文政三辰年御国役御普請被成下置候様奉願上候処、同四巳年御普請御手厚ニ被成下置、村々一同難有奉存候、然ル処年数相立大破ニ相成候付、天保二卯年御国役御普請奉願上処、同三辰年御普請被成下難有仕合奉存候、然ル処年来相立候義ニ付、湖水表水門堀抜穴砂埋堤崩シ石垣等相損し、其外新川・木瀬川通り堤洩所石垣堰水水(ママ)等所々大破ニ相成、其上去ル卯二月大地震ニ而猶以大破ニ罷成、用水不足仕ニ付、井組村々申談取繕置候得共、兎角水不足仕一同難義至極仕候、依之奉願上候者、何卒御憐愍之御慈悲を以、右大破之場所御見分被成下候、先年之通り御国役御普請御願被成下置候様奉願上候、右奉願上之通り被仰付被下置候ハヽ、一同相助り難有仕合ニ可奉存候、以上

弘化二巳年三月

駿州駿東郡深良村
百姓代　源　蔵
同　駿　蔵
組頭　要右衛門
同　重左衛門
同　清左衛門
同　勇　助
同　専左衛門
同　久左衛門
松井庄左衛門
小林治三郎
土屋仲蔵

同州同郡久根村
名主　勝亦弥右衛門
組頭　忠　蔵
同　嘉　助

相田作兵衛様
桑原紋右衛門様
高木久兵衛様
児玉承蔵様

（裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

三三　弘化三年（一八四六）五月　天保地震による大破につき奉行所宛国役御普請願書

乍恐以書付奉願上候

大久保加賀守領分
駿州駿東郡
神山村
岩波村
石脇村
佐野村
公文名村
稲荷村

茶畑村
平松新田
麦塚村
二ツ屋新田

水野惣兵衛領分
同州同郡
富沢村
一色村
納米里村
水窪村
嶋田村
土土狩村
中土狩村
下土狩村
竹原村

大久保長門守領分
同州同郡
御宿村

稲葉金之丞知行所
同州同郡
深良村
久根村

内藤鉦之丞知行所
同州同郡
千福村
定輪寺村

安藤左兵衛知行所
同州同郡
上ヶ田村
新宿村

松平内蔵允知行所
同州同郡
金沢村
葛山村

酒井采女知行所
山岡対馬守知行所

伏見村

右弐拾九ヶ村一同奉願上候、私共村方之義ハ往古ゟ用水不足之場所ニ御座候処、寛文年中箱根山湖水西之方山中、長七百弐拾間土中ヲ堀貫水引取用水ニ仕候処、有来之田面ハ勿論、畑方も多分ニ御田地ニ相成、用水潤沢仕候所、年来相立水出方悪敷、村々一同干損仕候ニ付、安永年中御普請御願奉申上候処、以御慈悲ヲ湖表水門割堀、床下ヶ堀貫穴砂浚并須釜土手通り木瀬川・境川通り御国役御普請被　仰付、用水潤沢仕、難有仕合奉存候、然ル処翌年ニ至り何年ニも無之大地震ニて、御普請所不残震崩シ大難渋仕候ニ付、亦候其節不奉顧恐此段御願奉申上候処、猶又御見分被為成下置、御普請御手厚ニ被為成下置、両度之御普請ニて用水潤沢仕、村々一同難有仕合奉存候、然ル処年来相立候ニ付、猶又天明度之姿ニて大破ニ相成、文政三辰年御国役御普請御願奉申上候処、御見分之上同四巳年御普請丈夫ニ被成下置、其後天保二卯年猶又御普請奉願上候処、御見分之上同三辰年御手掛り御普請被仰付、難有仕合奉存候、然ル処年来相立右御普請之場所大破仕、村々一同用水引足り不申、年々干損仕候処、猶又去ル天保十四卯年二月九日大地震ニて御普請ヶ所震崩シ、用水差支井組村々必至与難渋仕候ニ付、不奉顧恐奉御願上、何卒格別之御慈悲を以、先年之御振合ニ而、御国役御普請被仰付被為成下置候ハヽ、一同相助莫太之御慈悲与難有仕合ニ奉存候、且御給々御名前村高帳并御普請ヶ所内目論見帳別紙奉差上候間、右場所御見分被成下置候様奉御願上候、猶亦御尋之義ハ乍恐口上を以可奉申上候間、右奉願上候通り被　仰付被為成下置候様、偏ニ奉願上候、以上

弘化三丙午年五月

右弐拾九ヶ村惣代
駿州駿東郡久根村
名主　弥右衛門

同州同郡千福村
名主　太　兵　衛

御奉行所様

（神奈川県箱根町立郷土資料館所蔵）

三三　弘化三年閏五月七日（一八四六）　湖水御普請願につき惣代江戸出勤覚書

（表紙）
弘化三丙午年
湖水御普請願惣代江戸出勤務書
久根村
名主　弥右衛門
閏五月七日　公文名村
新太郎

御老中　寺社御奉行様　御勘定奉行
戸田山城守様　脇坂淡路守様　石阿土佐守（ママ）御勝手方
阿部伊勢守様　久世出雲守様　牧野大和守公事方
牧野備前守様　内藤紀伊守様　松平河内守御勝手方
青山下野守様　青山大膳亮　久須美佐渡守公事方
御若年寄　町奉行
大岡主膳守様　遠山左衛門尉　道中御奉行
本多越中守様　鍋嶋内匠頭　深谷遠江守様大目附兼役
遠藤但馬守様　久須美佐渡守様御勘定ゟ兼役
本庄安芸守様

覚

一閏五月七日出立、小田原郷宿江着、直様御手代様江源治郎・弥右衛門両人ニ而御届ヶ申上候処、翌八日差扣候様被仰聞候、八日ニ源次郎御役所江罷出候処、村高帳持参有之哉与御尋御座候処、小田原御役所江者持参無之、源次郎帰村之上早々認差出し候様被仰付候、九日朝六ツ半時出立、此日小雨ふる、戸塚宿中村屋治兵衛方へ泊申候、十日朝六ツ半時ニ出立、此日雨天ニ而難渋仕候、夕七ツ半時江戸橋本町四丁目東屋吉兵衛方

へ着、十一日雨ふる、四頃ゟ大雨ニ成候、昼ゟ稲葉様江出役、夕方宿江居る、十二日曇天、内藤様江新太郎御目見、六郎左衛門差添罷出申候、十三日弥右衛門稲葉様御家敷(屋敷)江罷出候、此日昼ゟ開(快)晴なり、十四日開晴、夕方弥右衛門郷宿へ帰り申候、稲葉様御用人より八給江御相談被下候様被仰聞候、十五日雨天ニて翌十六日天気、弥右衛門・新太郎・六郎左衛門三人にて内藤鄒之丞様へ参り候得共、御用人御多用ニ付、御本家寺社奉行内藤紀伊守様御内小野定右衛門様、此人ハ鄒之丞様へ御附添ニて御座候ニ付、弥右衛門・六郎左衛門弐人ニて参上仕委細奉願上候処、何れ各々様御相談之上取計可申様被仰聞候ニ付、其日ハ酒井采女様へ御届ヶ来り申候、夫ゟ宿へ立帰り申候、十七日雨天、十八日昼ゟ開晴、六郎左衛門帰村出立、弥右衛門・新太郎、稲葉様罷出候処、此日稲葉金之丞様御目付御出□(役カ)ニ而松平内蔵允様江御相談ニ御出路被下□弥右衛門・新太郎夕方宿江罷帰る、十九日曇天無事、廿日昼ゟ開晴無事、廿一日開晴ニて無用、廿一日稲葉様御用人御勘定奉行様御用人様へ能キ手続御座候而御内意御窺ニ御越被下候処、御用ニて御他行被遊御目ニ懸り不申立帰り申候、翌廿二日同御用人桑原紋右衛門様又々御伺ニ御越被下、御目懸り委細申入候処、何れ御給々願書一手ニて絵図面共相添差出被成、御年寄様へ御目ニ懸ケ、其上御取上ニ相成候ハヽ、御勘定奉行様へ御下ケニ相成候様被仰聞候ニ付、絵図面新ニ仕立候様私共へ被仰付候、弥右衛門・新太郎稲葉様へ参上仕候、翌廿三日稲□(葉様)□御用人松平内蔵允様へ御相談ニ御越□其日弥右衛門・新太郎山岡様・安藤様御両方へ右□御届ケニ参上仕候、夕方稲葉様ゟ弥右衛門召状至来有之候、廿四日弥右衛門稲葉様□絵図面認参上仕、則絵図面弐枚認、御年寄□御勘定様へ一枚、普請ヶ所之分大道り下□願書絵図面共、直様御勘定様御内石川長□(蔵)様与申御方へ其日内見ニ差出し申候、則絵図認人、稲葉様御用人・弥右衛門に糀丁辺り絵師相頼認申候、

猶又廿五日稲葉様御用人内蔵允様へ御肝煎之事故、右絵図願書之趣御談事ニ御越被下候、同其日弥右衛門稲葉様へ願書絵図面御内見之趣承りニ参上いたし候、願書絵図面之趣、石川長蔵様委細承知仕候様被仰聞、其筋へ御披見可申上様被申聞候趣承り、其日弥右衛門夜ニ入候而宿へ帰り申候、廿六日開晴、稲葉様ゟ弥右衛門可罷出段御状ニ付罷出候処、御用人様被仰聞候義ハ、内蔵允様へ又々御掛合申入候処、何れ惣代ゟ願書村高帳□可差出様被仰候ニ付、翌廿七日願書村高□其日御給々様へ御一手之願書相認候、村方ゟ□願書之義ハ一円取扱ニ相成不申候、其日弥右衛門□内蔵允様へ参上仕候、願書差上申候、并稲葉□同様願書相納申候、廿八日安藤・山岡内□右四人家へ願書村高帳持参、新太郎□無滞相納申候、廿九日稲葉様へ弥右衛門参上仕□御勘定様内石川長蔵様ゟ六月二日三日両日之内、稲葉様御用人御出被成候様書面至来いたし候、右石川様ゟ書面ニ付、六月二日児玉辰蔵様御出被下、委細承り申候処、右願之義夫々へ御窺申上候処、願面之向至極宜敷御座候故、委細承知仕候間、御給々様御相談之上、早願書御進達可被成候様被仰聞候、翌三日松平内蔵允様へ稲葉様御用人桑原様御懸合ニ御越被下候処、内蔵允様御用人被仰候ハ、此義ハ大久保家へ御相談申上其上委細承り聢与相定り□□申上候而ハ如何御座候哉与被仰候ニ付弥右衛門□□参上いたし、右様被仰候ニ付、翌四日内□弥右衛門参上いたし、右大久保様へ御相談□御懸ケ合無之而も宜敷様哉様□□申上候処、其上御聞済ニ而左様□候ハヽ願人惣代之義も江戸長逗留いたし□急ノ事ニハ相成不申候故、何れ一末帰村いたし候様被申候ニ付、翌五日御給々様夫々江帰村御願ニ参上仕候、其日弥右衛門虚無僧寺へ止宿料一件願ニ罷出申候処、折悪敷下総一月寺へ役僧罷出、用弁不仕立帰申候、其日稲葉様御用人桑原紋右衛門殿、御勘定様御内石川長蔵様へ御越被下、暑中御見舞与して手掛

り之右三人御座候ハヽて金百疋ツヽ、石川長蔵様へ金弐百疋入用ニ御座候、同其日児玉辰蔵様・大久保様御屋敷御年寄様ゟ最初御勘定様江御願立之向承り御越被下、大久保様ゟ茂委細御頼ニ相成、夫□御給々様不残稲葉様御頼ニ相成申候、翌六日稲葉様へ新太郎御礼ニ罷出申候□ゟ橋本町東屋吉兵衛方出立、木挽下五町目松川屋長兵衛方へ旅宿いたし候、此宿之義ハ稲葉様へ手近御座候用弁宜敷御座候、同五日深良村治三郎殿・上土狩村安兵衛殿右両人替合与して御出被下候、其日ハ橋本町東屋吉兵衛方へ御着被成、翌六日木挽町松川屋長兵衛方へ御出被下候、其日弥右衛門稲葉様ゟ願書差出候文言ニ、心得違之義御座候而御尋ニ預り、右小田原様ゟ御手掛り御普請与御下書被下候処、何ノ心得もなく、御給々様へ右案文を以一統差出候処、手掛り与申上候ハ、手普請之文言ニ御座候故、天保度之御普請与ても御国役普請ニハ相違無之候へ共、為念申聞置与被申候、則小田原様へ稲葉様ゟ御懸ケ合申上候処、天保度計小田原様ニて御取計被成候与被申候、文政度之義ハ水野様ニ□御扱取計被成候様被仰候、是迄御普請与ても御両家御役中之時節故、御進達も手軽相済、此度ニ至り候而、能キ手続証古ケ間敷書類之義ハ一切無之様被仰候

（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

三四　弘化三年閏五月　天保地震による大破につき勘定奉行所宛国役御普請願書

（一八四六）

乍恐以書附奉願上候

駿州駿東郡御厨下郷箱根湖水掛組合弐拾九ケ村之内、九ケ村惣代稲葉金之丞知行所同州同郡久根村名主弥右衛門、内藤鄒之丞知行所同州同郡千福村名主太兵衛奉申上候、私共組合村方之儀者往古ゟ用水不足之場所ニ御座候処、寛文年中箱根山湖水西之方山中、長七百弐拾間土中ヲ堀貫用水引取候ニ付、在来之御田地者勿論畑方茂多分ニ御田地ニ相成、用水潤沢仕候処、安永年中ニ至、年来相立

堀貫穴押埋り、水門堤石垣等破損仕、用水引足り不申候ニ付、御国役御普請奉願上候処、天明元丑年堀貫穴浚水門堀割床下ケ、須釜土手木瀬川・境川通御国役御普請御手厚ニ被成下、用水潤沢仕候処、翌寅年大地震ニ而右御普請所震崩シ大破ニ相成、用水不足ニ罷成難儀仕候ニ付、乍恐猶又御普請奉願上候処、同四辰年前書同様御国役御普請御手厚ニ被成下置、用水潤沢一同難有奉存候、猶又文政年中ニ至、年数相立堀貫穴押埋り、表水門穴口枠其外堤石垣須釜木瀬川・境川通り御普請所及大破候ニ付、御普請之儀奉願上候処、同四巳年以前之通御国役御普請御手厚ニ被成下、然ル処天保年中猶又大破ニ相成候間、御普請奉願上候処、同三辰年御手掛御普請被成下難有奉存候処、其後年来相立候ニ付、表水門穴口枠其外堤石垣須釜木瀬川・境川通り堤石垣水門等大破ニ相成、其上去ル天保十四卯年二月九日、大地震ニ而右御普請所震崩シ候場所も有之、堀貫穴之儀者数年押埋り候上、右地震ニ而震崩レ、大埋りニ相成、用水不足仕候ニ付、組合村々申談、不取敢仮繕致置候得共、前書之通数ヶ所之大破ニ付、迚も自力ニ者相叶不申、斯仮繕ニ而差置候儀ニ付、兎角用水不足仕、井組一同難渋仕候、殊ニ湖水表水門穴口枠石垣堀貫穴砂埋等之儀者別而大破ニ罷成、其上手重之場所柄、此上大雨等御座候而者迚茂難保、一同甚心痛仕候、何卒先年之御振合ニ而御国役御普請被成下置候様奉願上候、依之地頭名前書村高帳奉差上候、格別之御憐愍ヲ以、願之通被　仰付被下置候ハヽ、御百姓一同相助莫太之御慈悲と難有可奉存候、以上

弘化三丙午年閏五月

稲葉金之丞知行所
駿州駿東郡
深良村
名主　源　兵　衛㊞
同　治　兵　衛㊞

同州同郡
久根村

名主　弥右衛門

内藤鄒之丞知行所
同州同郡
千福村
名主　太　兵　衛

同州同郡
定輪寺村
与頭　弥右衛門㊞

安藤左兵衛知行所
同州同郡
上ヶ田村
名主　庄　兵　衛㊞〻

同州同郡
新宿村
名主　源左衛門㊞〻

松平内蔵允知行所
同州同郡
上ヶ田村
名主　忠左衛門㊞〻

同州同郡
金沢村
与頭　新　太　郎㊞〻

同州同郡
葛山村
名主　儀右衛門㊞〻

酒井采女知行所
同州同郡
伏見村
名主　八右衛門㊞〻

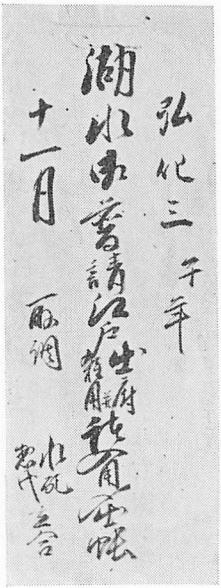
山岡対馬守知行所
同州同郡
伏見村
名主　五　兵　衛㊞〻

右九ヶ村惣代
久根村
名主　弥右衛門
千福村
名主　太兵衛

御勘定
御奉行所様

（裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

三三　弘化三年（一八四六）一一月　湖水御普請につき江戸出府・雑用入用帳



（表紙）
弘化三午年
湖水御普請江戸出府雑用并諸入用ノ出帳
十一月　取調　水配惣代　立合

金三分也　林右衛門出府、往返六日、一日七匁五分ツヽ、
銀百拾七匁　同人江戸勤中十八日、一日六

比永壱貫九百五拾文　匁五分ツヽ　同三拾六文　右進物包入用取かへ
此銭拾三貫六十三文　仲蔵出府往返、同断　同四百文　林右衛門
金三分也　同人江戸勤中、同断之事　仲蔵・林右衛門小田原ニ而御
銀百拾七匁也　此永壱貫九百五拾文　同壱貫五百文　代官手代中へ音物
銭十三貫六十三文　石川様へ御菓子料、林右衛門　取かへ林右衛門
金百疋　取かへ　八月七日、小田原表へ御内意
永弐百五拾文　同三貫六百九拾文　被仰渡ニ付御窺ニ出し
銭壱貫六百七十拾文　稲葉様内児玉辰蔵様同道ニ而　林右衛門
同弐朱ト　石川氏へ参り往返雑用　御見分様急之御先触ニ付、小
三百四拾文　林右衛門取かへ　田原表へ御届申上、御役人様
金弐朱ト　稲葉様内桑原紋右衛門様御同　小田原御泊りニ付、窺旁々入
三百八十四文　道ニ而右石川氏へ参り候節往　用
返雑用林右衛門取かへ　百拾六文　林右衛門取かへ
銭三百文　御見分様御引払ニ付小夫ちん、
江戸宿へ茶代　金壱両也　林右衛門取かへ
林右衛門取かへ　稲葉様へ御進達旁々御礼、林
右衛門・仲蔵

同壱両也　仲蔵取かへ　同八百文　右衛門取かへ

同弐朱也　桑原紋右衛門様・児玉辰蔵様　同三分也　治三郎・儀右衛門両人箱根迄
右御礼として遣　仕立馬ちん

同弐分也　仲蔵取かへ　同三分也　江戸往返、治三郎雑用

同壱分弐朱也　仲蔵・林右衛門江戸帰村節、　銀廿六匁也　儀右衛門江戸往返雑用
小田原御代官様へ新のり代　此金壱分弐朱ト　治三郎江戸勤中、四日雑用
仲蔵取かへ　三百八十弐文

弐朱ト　仲蔵江戸ニ而急之煩ニ付、臨　同弐拾六匁也　儀右衛門江戸勤中、同断入用
弐百卅六文　時薬代料取かへ　此金壱分弐朱ト
桑原様・川越様御両人へ菓子　三百八十四文　石川長蔵様へ献上いたし、惣
料、治三郎取かへ　金五両也　代治三郎・儀右衛門両人出府
桑原様御同道ニ而石川様へ参　いたし候
り、途中ニ而臨時入用、治三
郎取かへ

銭弐百文　江戸宿松川屋茶代、治三郎取　金弐拾両也　佐藤様江内献上仕候
かへ　同壱両也　佐藤様小者方へ遣ス

同八百文　小田原御代官様へ臨時遣物儀　同壱両弐分　升屋方へ飯料諸払

金弐分ト　かへ　松村屋方へ飯料払
七百廿四文
同壱分也　かへ　魚屋茂兵衛方へ払
同弐朱　かへ　枡屋方へ茶代遣ス
同弐百文　かへ　飛脚ちん払
同百文　草履四足買上
同五百文　途中ニ而惣代九人雑用
金弐朱也　尾張屋へ菓子代払
銭壱貫弐百四十八文　同断、上酒五升代払
同三百十九文　かへ　御見送り節水神前ニ而飯料払
同壱両壱分也　かへ　十月廿五日升屋方へ飯料払
同壱分也　かへ　料理方へ四日分払
同弐百文　かへ　倉半紙代取かへ払
同五匁也　かへ　茶一斤代取かへ払
此せに五百五十八文
同四百文　三嶋宿ゟ駄荷弐駄附込ちん払
同弐朱也　枡屋方へ勘定済

同弐朱也　宇平治取かへ
同壱分ト　同断、茶代、宇平治取かへ
八百文　○御見送り節、沼津宿飯料
同弐両也　吟右衛門取かへ払
かへ　御見分様へ小田原様ゟ御機嫌
窺ニ御出役被頼候諸雑用
宇平二取かへ
○　同断、沼津様ゟ御機嫌窺ニ御
出役被成候諸入用払、伊豆島
田村
同弐両也　同断、稲葉様ゟ御機嫌伺ニ御
出役被成諸入用払
同断、松永様より御出役ニ付
諸雑用払
同壱両　○同断、内藤様ゟ御出役ニ付諸
雑用、千福村也
同壱貫文　かへ　小田原ゟ飛脚ちん払、宇平治

同壱貫六百文　かへ　小田原江飛脚ちん二度分、宇平二払取かへ　同四百文　○　同断御用、幸助行、八月一日
同弐百文　かへ　箱根迄小者人ちん払、宇平二取かへ　同四百文　○　同断御用、喜平治、十一月廿一日
同壱貫五百文　○　小田原行、十二月三日、儀右衛門出立　同八百文　○　同断御用ニ付両度分、瀬平行、十一月
同壱貫五百文　かへ　同断行、弥四郎殿同様御用行　同三百廿四文　沼津ゟ飛脚ちん両度分、御用状二ツ、瀬平
同弐百文　○　箱根まで歩人ちん大助取かへ　同三百文　○　下土狩村ゟ急書状持三度行、瀬平
同壱貫五百文　○　小田行湖水御用、大助行　同四百文　○　同断、金子持参人足四度分、瀬平
同百四拾八文　かへ　三嶋行飛脚ちん宇平二取かへ　金弐分也　沼津様へ拝借三両借入御礼、瀬平取かへ
同百四十八文　○　三島行飛脚ちん林右衛門取かへ　同六拾四文　○　沼津行、安平御用、八月一日
同百文　○　小夫壱人林右衛門取かへ　同四百文　かへ　倉半紙十状代宇平ニ取かへ
同四百文　○　沼津行御用、瀬平、八月十五日　同四百七十四文

同百六十四文　かへ　西之内廿枚　六百文　○御見分様御着之節、廿九ヶ村
弥右衛門取かへ　持廻状、伏見村人足ちん弐人
四百文　かへ　三嶋行、勝右衛門先触急用行　分
金弐両弐分　是ハ八月江戸出役雑用、壱郷　弐百文　○同断御出立之節、調印持廻ち
拾両ツヽ、三拾両り足十一月　ん、伏見村人足
まて　役人
同拾両也　是ハ御見分様御借弐人江拾両　かへ　公文名村定夫仕役ちん
遣ス、　弐貫百文　○佐野村定夫
弐分也　十月ゟ十二月迄り足、弥右衛　○深良村定夫
門取かへ元り　○久ね村定夫
同壱分ト　かへ　是ハ江戸出府、治三郎・儀右　茶畑村定夫
五百六十四文　衛門両人出立之節、用意金廿　○上土狩村定夫
両ニ遣、此り足迄去月分　○下土狩村定夫
同三分ト　かへ　小田原ニて拝借金廿両り足　○御宿村定夫
三百三十八文　仕役ちん
同断拝借御礼、宇平ニ取かへ　壱貫七百文　御見分様三島宿御着之節、惣
同弐朱也　儀右衛門方へ筆墨代遣ス　代十七人
同弐朱也

仕役　宇平二　　懸り

仲　蔵　　惣代宿、久左衛門方へ払

○瀬平　久左衛門　　金四両弐分ト　○

二日勤　林右衛門　　四百五十三文

弥右衛門　　百文

○　一日勤　吟右衛門　　かへ

幸助　安兵衛　　さかな代

御見分様御送り節　　宇平治取かへ

○久左衛門・宇平二　　拾四貫十七文　　御見分様三晩御泊り并諸人足

○弥右衛門・吟右衛門　　ちん代、庄左衛門方へ払、御

○瀬平　沼津まて　　壱人前昼夜六匁ツヽ　　壱分也

○原宿行　　同宿方へ茶代ニ遣ス　　壱分也

○治三郎・儀右衛門、一日勤　　○　　弐百文

十一月廿七日、水配・惣代拾　　惣代宿へ茶代払　　弐百文

弐人、三嶋宿迄出張、書類書　　○　　弐朱也

上一日　　水久保村源介方へ茶代払　　壱両也

同断、十一月廿八日、一日相　　震はし庄平方へ茶代払

同、庄助方へ茶代払

佐重郎へ書上節ちん遣

久左衛門出府路用

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

壱貫文

壱貫弐百文

壱貫文

壱貫弐百文

壱貫弐百文

三六　弘化三年（一八四六）一一月　国役御普請につき私領出金高書上帳

（表紙）
弘化三午年
私領出金高書上帳
十一月

御役人中様

乍恐以書付奉申上候

今般箱根山湖水懸用水国役御普請之義、酒井采女様外御給々ゟ御願立ニ相成候ニ付被成御見分候処、右御普請被仰付候節者私共村々之儀、銘々領主ゟ願者無之候得共、先前弐拾九ヶ村組合用水之儀ニ付、御定之通り高百石ニ付金拾両宛私領出金之儀、銘々役場江申立置御差支之儀無御座候、依之以書付奉申上候、以上

弘化三午年十一月

御普請御見分懸

覚

大久保加賀守領分
駿州駿東郡

一高拾五石九斗五升九合　神山村
一高弐拾三石八斗弐升八合　岩波村
一高弐拾七石三斗九升七合　石脇村
一高弐百四拾石六斗六升弐合　佐野村
一高百四拾石弐斗六升九合　公文名村
一高五拾壱石五斗弐升　稲荷村
一高百九石弐斗五合五夕　茶畑村
一高九拾五石弐斗八升壱合　平松新田
一高三石五斗七合　麦塚村
一高弐拾八石九升八合　二ツ屋新田

小以高七百三拾五石七斗弐升六合五夕

水野惣兵衛領分
同州同郡
一高弐拾四石六斗九升壱合　竹原村
一高四拾九石壱斗三升弐合五夕　下土狩村
一高八拾弐石四升三合　中土狩村
一高三拾弐石八升七合　上土狩村
一高弐拾五石八斗三升九合　納米里村
一高拾五石壱斗八升七合　富沢村
一高四石三斗六升六合　伊豆嶋田村
一高壱石壱斗弐升八合　水窪村
一高弐石六升六合　一色村
小以高弐百三拾六石五斗三升五夕

大久保長門守領分
同州同郡
一高百三石壱斗四升六合　御宿村

酒井采女知行
同州同郡
一高壱石　伏見村

一高五石七斗三升八合　葛山村
一高弐拾四石三升三合　上ヶ村
一高（四脱カ）石九斗五合　金沢村

内藤鄒之丞知行
同州同郡
一高九斗弐升弐合　定輪寺村
一高拾三石壱斗八升四合　千福村

稲葉金之丞知行
同州同郡
一高弐百五石弐斗五升弐合　深良村
一高七拾弐石四升四合　久根村

山岡対馬守知行
同州同郡
一高壱石弐斗　伏見村

松平内蔵允知行
同州同郡

安藤佐兵衛知行

同州同郡　　新宿村
一高弐拾石六斗弐升八合
一高拾壱石九斗八合　　上ヶ田村
小以高四百六拾三石九斗八升八合
用水掛
合高千四百三拾六石弐斗五升　弐拾九ヶ村組合高
右者箱根湖水掛り用水組合高、書面之通相違無御座候、
以上

（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

三三七　嘉永二（一八四九）年七月二七日　国役御普請かなわずにつき松長役所宛御普請願書

乍恐書付を以御届ヶ奉申上候
一御領分駿州駿東郡御宿村外弐拾八ヶ村組合掛り湖水用水路、新川・木瀬川通り并ニ用水路引入之堰々大破ニ相成候間、井組一流（統）相談之上、御国役御普請奉願上候処、為御見分与御普請役様御出在有之、御見分茂無滞相済、其上御国役御普請御断ニ相成り種々入用相嵩、御普請ヶ所ハ猶々及大破候処、別而御宿村之義ハ弐ヶ所之御普請ニて、年々修覆多分ニ相掛り当惑難渋仕候ニ付、尚又井組一統相談之上、惣代を以用水御掛御定年番様江奉願上候処、格別之御憐愍ヲ以、来八月三日頃御見分も可被成下置候様公文名村名主宇平治方へ御用状有之候間、何卒御立合之上御見分被成下置、御普請被仰付、御手当テ御下ヶ金被成下置候様偏ニ奉願上候、右願之通被　仰付被成下置候ハヽ、一同相助、難有仕合ニ奉存候、以上

嘉永弐己酉年七月廿七日

御領分
御宿村
百姓代　市右衛門
与頭　永　助
名主　吟右衛門
同　甚　平

松長

御役所

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三八　嘉永三年（一八五〇）正月二八日　かろうと堰御普請につき御宿村願書

（包紙）「
上　当子田方御見分願書
御断ニ付下り申候事　御宿村
」

乍恐以書付奉願上候

一御領分駿東郡御宿村并御知行所千福村・上ヶ田村・葛山村・金沢村、右五ヶ村組合掛字かろと（うカ）堰用水路之義、去ル文化二丑年御割合御手当金御下ヶ被成下置御普請被　仰付候処、連々及破損右五ヶ村ニ而年々修覆仕来用水引取候得共、年来相立候得者、自然与土手細り藪根通り洗流し、御普請場数ヶ所ニ相成、別而大破仕大口ニ而分水ヲ請候水、藪根地底石垣根通ゟ多分ニ洩通シ、夥敷捨水ニ相成、年増用水不足仕、流末江者届兼年々旱損仕、難渋至極仕候間、五ヶ年以前井組弐拾九ヶ村一同相談之上、湖水表字四ツ留水門ゟ堀割石垣下穴石垣并新川・木瀬川通り用水路迄、御国役御普請願立仕候処、御普請役様御出在有之御見分無滞相済御普請被仰付候義与難有奉存居候処、御断ニ相成一同当惑難渋仕候間、尚又村々相談之上　御領主様・御地頭様御割合御普請奉願上候得者、去酉八月用水御掛り小田原様并沼津様御立合ニ而御見分被成下置候処、右かろと堰用水路之義ハ、是迄御国役御普請所ニ無之、右村御掛り領主地頭江願立可然段被　仰聞、御除ニ相成申候、左候得者右組合困窮之村々誠ニ当惑難渋仕候間、何卒格別之御慈悲ヲ以御見分被成下置、御割合御普請被　仰付被下置候様偏ニ奉願上候、右願之通被　仰付被下置候ハヽ、堰掛り村々一同相助、難有仕合奉存候、以上

嘉永三庚戌年正月廿八日

御領分御宿村
百姓代　市左衛門印
組頭　永　助印
名主　甚　兵　衛印
同断　吟右衛門印

松長
御役所

右之通り御役所書上申候控

（裾野市御宿　湯山　博氏所蔵）

三三九　安政元年一二月　地震崩箇所見分につき上郷水配人願書

乍恐以書付奉願上候御事

一用水掛井組弐拾九ヶ村、先達而地震後御注進奉申上候、湖表水門厚盃震崩、割堀石垣両側震崩、穴口之義者上穴・下穴共子細無之様御座候、新川通土手字尾崎与申所ゟ駒形迄凡七百間余両側江不残震崩、其外御普請所佐野堰水除水門水久保堰口土手水門迄震崩、破損仕候、仍之井組ニ而取締申度奉存候得共、中々自力難及奉存候、何卒御慈悲之以御憐愍を以御見分被成下置候様奉願上候、右奉願上候通御聞済被下置候ハヽ、井組一流（統）難有仕合ニ可奉存候以上

安政元甲寅年十二月

上郷水配人
深良村
上役　仲　蔵
同村
下役　勇左衛門
麦塚村
上役　与祖右衛門
茶畑村
下役　伝　蔵
下土狩村
上役　瀬　平

中土狩村
下役　清　次　郎

用水御支配
御役人様

（裾野市麦塚　勝俣恵一朗氏所蔵）

二四〇　安政二年三月二八日（一八五五）　湖水表木品入札控帳

（表紙）

安政二乙卯年
湖水表木品入札控帳
三月廿八日

第拾番　久根村
一金八拾九両ト銀壱匁五分　惣　五　郎
内銀壱匁五分引
残而金八拾九両也
第拾三番　同村
一金八拾三両弐分　文　七
内銀壱匁五分引
残金八拾三両壱分三朱ト
銀弐匁弐分五厘
第四番　同村
一金百三両也　平　八
内銀三拾匁引
第弐番　深良村
一金百弐拾九両弐分　茂　兵　衛
内銀三拾壱匁引
第壱番　同村
一金百弐拾三両ト銭五貫文　用　左　衛　門
内銀拾五匁引
第九番　深良村
一金九拾九両三朱　平　八
第八番　同村
一金百拾五両也　忠　助

内金拾両也引
第五番　同村　治郎吉
一金百弐拾九両ト銭四百文
内銀拾八匁引
第六番　同村　勝右衛門
一金九拾九両壱分也
内銀弐拾壱匁引
残金九拾八両三分ト銀九匁也
第七番　同村　銀左衛門
一金百両ト銀弐匁
内銀弐拾匁引
第拾四番　同村　次郎兵衛
一金九拾九両ト銀弐拾匁
内拾匁引
第拾五番　同村　太右衛門
一金百両ト銭七貫文
内三拾匁引

第拾六番　同村　好左衛門
一金百五両弐分
内銀壱匁引
第拾弐番　佐野村　仙助
一金百壱両壱分也
金弐両ト七匁五分引
第拾壱番　同村　藤右衛門
一金九拾九両壱分
内銀壱匁引
第三番　御宿村　久右衛門
一金百弐拾五両也
内六拾匁引
第拾七番　上ヶ田村　庄兵衛
一金百五両也
内銀三拾匁引

（神奈川県箱根町立郷土資料館所蔵）

二四一　安政二年（一八五五）三月　湖水御普請入用木品請負証文

差上申一礼之事

一金八拾三両壱分三朱ト銀弐匁弐分五厘

内金四拾壱両三分也受取

右者此度湖水御普請ニ付、木品之儀御帳面之通り積り御直段入札仕候処、書面之御直段ヲ以私方江落札ニ被仰付忝御請仕、前書之内金奉受取候、只木品寸尺等御注文之通相改聊無相違急度御引請仕、来ル四月十三日迄ニ御普請之御場所江差出御改ヲ受、御用御差支無之様可仕候、万一木品之儀御注文ニ相違仕候ハヽ、差替被　仰付候共御普請御差支無之様ニ急度差出し可申候、尤残金之儀者木品不残差出候上ニ而御渡シ可被下候様御規定之趣奉畏候、若又当人如何様之間違出来候とも、加判之者共引請、各様方江少も御苦労相掛申間敷候、為後日引受之者共加判仕差上申処、仍如件

安政二乙卯年三月

久根村
当人　文　七㊞
引請人組合　勇　吉㊞
同　惣　五　郎㊞
組頭　源　蔵㊞

御普請
御惣代人中様

（神奈県箱根町立郷土資料館所蔵）

二四二　安政六年（一八五九）五月　千福村用水引入口改修につき水配衆宛一札

（包紙）「一札　用水路ニ付千福村ゟ差入書」

差上申一札之事

一私共村方用水路引入口堰所之儀、去午年洪水ニ而引入口芝地畔流失いたし候ニ付、右芝地為保方此度新規ニ石穴ヲ六堀石杭ヲ建普請仕候処、各様ゟ先形与違ひ候

ニよつて難差置旨御差当ニ預り候ニ付、種々御無心申上、今搬普請仕候東之端石杭より、引入口北之方出張り候自然石ゟ西之自然石之頭ヲ見通し普請仕直し、夫ニ而御用捨ニ預り申度趣願上候処、格別之以御勘弁御聞入被下難有奉存候、尤当年御ためし之上、万一用水進退御欠引御差支ニ相成候ハヽ、翌年ニ至り何れニも相談熟ヲ以御差図ニ任可申候趣是又申上候、右之次第ヲ以御聞済被下忝奉存候、為後日之仍而如件

安政六年未五月日

千福村

与頭　門左衛門㊞

同　六郎左衛門㊞

名主　友　蔵㊞

御水配衆中様

（裾野市佐野　岩崎達生氏所蔵）

二三　明治元年一〇月（一八六八）　村方用水路御尋につき富沢村他二ケ村返答書

（表紙）

上

乍恐以書附奉願上候

御領分駿東郡富沢村・一色村・定輪寺村右三ケ村村方用水路御尋ニ付奉申上候、右者元来用水路之儀者堀抜水路数百間之長丁場、其外枠出し石腹附蛇籠之取詰、年々御田地植附、以前普請仕候事ニ而村方困窮仕、自力難及元禄度ゟ安永酉年迄八十ケ年之内ハ、秋山重右衛門様御知行所中諸役御免之上、水路為御手当御米弐俵宛、水災ニ不拘年々被下置、積金ニ致し置、水災度々普請助情ニ相成、難有仕合奉存候、然ル処安永七戌年ゟ水野出羽守様

御領地ニ相成、御下ケ米ハ無御座候得共、出水度々御見
分之上、御普請被成下置御蔭を以相凌罷在候、元来私共
村方之儀ハ根附変地極難渋之村方ニ御座候、殊先御領主
代ゟ駿府加助相勤来り候処、昨年ゟ甲州海道御通行被為
在候ニ付、水窪村助役相勤居、旁々以水路普請等ハ迚茂
自力ニ難及、此段可奉歎願心組之処、御尋ニ付不奉顧恐
奉願上候、何卒格別之以　御慈悲、前顕之手続御賢慮被
成下置、水路御見分之上、村方相続相成候様、何れニ茂
御主法被成下置候ハヽ、大小之百姓相介り莫太之御仁恵
与一同難有仕合ニ奉存候、以上

明治元辰年十月

駿東郡
富沢村
役人惣代
名主　助次郎

一色村
役人惣代
名主　半右衛門

定輪寺村
与頭　弥右衛門㊞

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

第四章　用水と村々の生活



第一節　井組三郷の村々

二四　元禄元年（一六八八）一二月　箱根掘抜水掛り高反別覚

箱根堀抜水掛高反別

一高弐百九石六斗六升四合　深良村
反別拾七町七反三畝弐拾弐歩
一高八拾七石壱斗七升六合　久根村
反別七町四畝拾七歩
一高拾五石三斗　神山村
反別壱町三反五畝五歩
一高八拾弐石八斗六合七夕　岩波村
内
高五拾八石九斗七升八合七夕
反別五町七反四畝廿壱歩　古田足水ノ分
高拾九石三斗三升七合
反別壱町六反九畝八歩　御検地前畑成田
高四石四斗九升壱合
反別七反五畝拾三歩　御検地以後（ママ）畑田
一高弐拾七石七斗六升　石脇村
内
高弐拾五石七升弐合
反別壱町五反八畝六歩
高弐石六斗八升八合
反別四反四畝七歩　御検地後畑成田
一高弐百弐拾壱石五升五合　佐野村
内
高弐百拾六石三斗壱升壱合
反別拾八町弐反七畝廿四歩
高四石七斗四升弐合
反別七反八畝六歩　御検地後畑成田
一高弐拾四石七斗八升九合　新田
内

高弐拾三石八斗八升三合
反別弐町四反九畝廿五歩
高九斗六合
反別弐反拾八分　御検地後畑成田

一高百五拾壱石八斗八升六合　公文名村
内
高四拾八石七斗五升六合
反別三町六反六畝廿六歩　古田足水分
高百弐石弐斗八合
(別)反七町九反三畝廿八歩
高九斗弐升弐合
反別壱反三畝五歩　御検地後畑成田

一高百拾四石六斗壱升三合　稲荷村
内
高百拾三石三斗九升八合
反別九町六反六畝九歩
高壱石弐斗三升五合
反別三反壱畝拾四歩　御検地後畑成田

一高百八拾石壱升九合　茶畑村
内
高百七拾八石八斗三升七合
反別拾四町七反壱畝四歩
高壱石壱斗八升弐合
反別弐反弐拾五歩　御検地後畑成田

一高百五拾石五斗九升八合　平松新田
内
高百四拾九石壱斗五升七合
反別拾四町壱反八畝廿壱歩
高壱石四斗四升壱合
反別四反九畝三歩　御検地後畑成田

一高三拾六石壱斗九升三合　麦塚村
此反別弐町八反四畝拾五歩

一高六拾八石四升八合　伊豆嶋田村
内
高六拾六石八斗七升五合
反別六町五反拾四歩

高壱石壱斗七升三合
　反別弐反八畝弐拾三歩　御検地後畑成田
一高三拾六石弐升八合　二つ屋新田
　此反別三町壱反歩
一高壱石壱斗弐升八合九夕　水窪村
　此反別壱反四畝廿歩　御検地後畑成田
一高弐拾壱石四升六合　上土狩村
　内
高弐拾石壱斗七升八合
　反別壱町八反五畝拾歩
高八斗六升八合
　反別壱反七畝拾壱歩　御検地後畑成田
一高拾弐石壱斗八升九合　惣ヶ原新田
　内
高五石壱斗弐升七合
　反別五反壱畝八歩
高七石六升弐合
　反別弐町三反五畝拾弐歩　御検地後畑成田

一高七百弐拾八石六斗四升五合　下土狩村
　内
高六百五拾壱石八斗四升五合
　反別五拾三町九畝弐拾九歩　古田足水分
高七拾五石弐斗三合
　反別六町七反壱畝拾六歩
高壱石五斗九升七合
　反別三反弐拾三歩　御検地後畑成田
一高四石三斗六升　同所新田
　内
高三石壱斗三升
　此反別三反壱畝九歩
高壱石弐斗三升
　此反別四反壱畝歩　御検地後畑成田
一高三百五拾七石八斗弐升三合　竹原村
　内
高三百弐拾四石三合
　反別弐拾五町七反七畝廿壱歩　古田足水分

高三拾三石八斗弐升
　反別三町九反四歩
一高百三石壱斗四升六合
　内
高四拾九石四斗壱升七合
　反別四町九反四畝五歩
高五拾三石七斗弐升九合　畑成り田
　反別八町四反弐畝拾九歩
一高七拾弐石九斗三升
　内
高弐拾弐石三斗六升九合
　反別壱町八反六畝拾六歩
高五拾石五斗六升壱合
　反別六町六反壱畝七歩　畑成り田
一高四石九斗五合
　反別六反八畝廿九歩　畑成り田
一高五石七斗三升八合
　内

御宿村

上ヶ田村

金沢村

葛山村

高五石六斗弐升六合
　反別四反壱畝五歩
高壱斗壱升弐合
　反別弐畝七歩　畑成り田
一高百九拾石壱斗弐升五合
　内
高百七拾壱石弐斗六升八合
　反別拾三町四反五畝拾九歩
高拾八石八斗五升七合
　反別弐町七反弐拾九歩　畑成り田
一高拾弐石弐斗六升弐合
　内
高拾壱石三斗壱升
　反別壱町壱反三畝三歩
高九斗五升弐合
　反別壱反三畝拾九歩　畑成り田
一高弐拾五石弐斗弐升壱合
　内

千福村

定輪寺

富沢村

高拾石三升四合
　反別七反六畝拾三歩
高拾五石壱斗八升七合
　反別弐町三反壱畝五歩　畑成り田
一高四石八斗三升弐合　同所新田
　内
高四石三斗五升七合
　反別五反四畝拾四歩
高弐斗七升五合
　反別七畝歩　畑成り田
一高三拾三石六斗壱升五合　一色村
　内
高弐拾七石九斗七升九合
　反別弐町弐反三畝廿五歩
高五石六斗三升六合
　反別九反八畝五歩　畑成り田
一高五斗三升三合　右ノ村之内新畑成田
　反別壱反三畝拾歩

一高弐百三拾弐石九斗五升三合　納米里村
　内
高弐百五石四斗四升四合
　反別拾八町七畝拾四歩
高弐拾七石五斗九合
　反別四町六反壱畝拾七歩　畑成り田
一高拾七石六斗九升弐合　同所新田
　内
高拾壱石八斗六升
　反別壱町壱反八畝拾八歩
高五石八斗三升弐合
　反別壱町壱反六畝拾九歩　畑成り田
一高五百八拾弐石六斗五升五合　中土狩村
　内
高五百七拾弐石四斗八升六合
　反別四拾五町四反弐畝廿九歩
高拾石壱斗六升九合
　反別壱町八反四畝拾弐歩　畑成り田

一高百三拾壱石九升弐合　本宿村
内
高百弐拾七石四斗六升八合　伏見村
反別拾町七反弐拾壱歩
高三石六斗弐升四合　新宿村
反別五反四畝弐拾七歩　畑成り田
一高弐百九拾七石四斗四升三合
反別弐拾四町七反四畝拾歩
一高七拾八石三斗九升四合
反別六町七反壱畝廿弐歩
高合四千三百弐拾四石四斗六升三合六夕
反別合三百七拾九町四反拾壱歩

覚

一箱根湖堀抜当秋申付候普請入用之儀、御領・私領共箱根水掛り村々へ高割を以可申付候事
一右之場所、以来年々普請入用并水番人給扶持是又箱根水掛り村々へ高割を以可申付候事
一日損及渇水ニ候時分ハ箱根水掛り之村々高割を以番水ニ為引之可申候事
一箱根水掛村々ニ而自今以後畑を田ニいたし候事、一切停止ニ可申付候事
右之通御勘定所ゟ御差図ニ候間、箱根水掛り村々へ可被仰付候、以上
元禄元年　小長谷勘左衛門
辰ノ十二月
小田原御役人中

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

二四　元禄八年一二月　富沢村・定輪寺村箱根水掛反別帳

（一六九五）

（表紙）
元禄八年亥十二月改之
箱根水掛反別帳
富　沢　村
定輪寺村

平八郎

上田壱反五畝拾壱歩
　分米弐石壱斗五升壱合
中田七畝拾壱歩
　分米八斗八升四合
下田弐畝廿七歩
　分米弐斗九升
見取弐反壱畝弐歩
　分米壱石六斗八升六合
上畑成壱反三畝拾三歩
　分米壱石七升四合
中畑成弐反四畝六歩
　分米壱石六斗八升四合
下畑成壱反八畝廿三歩
　分米九斗三升八合
高〆八石七斗壱升七合

茂兵衛

上田壱反壱畝廿八歩
　分米壱石六斗七升壱合
見取四畝拾六歩
　分米三斗六升三合
中畑成五畝拾歩
　分米三斗七升三合
（付箋）「中畑成五畝拾歩　助左衛門分
　分米三斗七升三合

宝暦元年未ノ暮ゟ　清左衛門ニ入」

下畑成弐畝拾八歩
　分米壱斗三升
高〆弐石五斗七升三合
　外ニ七斗七升九合入
惣〆三石三斗五升弐合

文右衛門

上田壱反八畝廿壱歩

分米弐石六斗壱升八合
申ノ年ゟ喜与八分入
見取八畝廿三歩
分米七斗壱合
上畑成五畝拾五歩
分米四斗四升
中畑成三反三畝廿六歩
分米弐石三斗七升壱合
下畑成壱反六畝拾八歩
分米八斗三升
内
壱反壱歩分米五斗壱合　助左衛門ニ入
残而六畝拾七歩三斗弐升八合
新下畑成六畝拾四歩　仙右衛門分ニ入
分米弐斗五升九合
高〆七石弐斗壱升九合
外ニ弐石四斗弐升　久太郎分入

〆九石六斗三升九合　市郎兵衛分ニ入
三右衛門
中田弐反五歩
寅ノ年ゟ　源　七　分ニ入
分米弐石四斗弐升
中畑成壱反壱畝四歩
分米七斗七升九合
下畑成廿四歩
分米四升
新下々畑成拾六歩
分米壱升六合
高〆三石弐斗五升五合
内弐石四斗八升　寅ノ年ゟ　源　七ニ入
残而八斗三升五合　久太郎分
内七斗七升九合　助左衛門分ニ入
残而五升六合
な　へ

見取弐畝廿歩
分米弐斗壱升三合

中畑成九畝廿弐歩
分米六斗八升壱合

巳年内高壱斗五升九合定八分ニ入

下畑成四畝四歩
分米弐斗七合

高〆壱石壱斗壱合
仁右衛門

見取八畝三歩
分米六斗四升八合

上畑成九畝拾六歩
分米七斗六升三合

中畑成壱反九畝拾五歩
分米壱石三斗六升五合

下畑成壱反六畝六歩

巳ノ年ゟ　半　兵　衛分ニ入

分米八斗壱升
高〆三石五斗八升六合
八石七斗壱升七合入
都合拾弐石三斗三合
外壱斗六升六合

はつ

上畑成三畝拾五歩
分米弐斗八升

〆
（付箋）
「高弐石四斗弐升
源右衛門

見取弐畝拾四歩
分米壱斗九升七合

上畑成四畝廿四歩
分米三斗八升四合

中畑成六畝拾弐歩
分米四斗四升八合

小左衛門分

半左衛門成ル

市郎兵衛」

下畑成壱畝拾三歩
分米七升弐合
高〆壱石壱斗壱合
八郎兵衛

兵左衛門ニ入
見取四畝六歩
分米三斗三升六合
〆
小左衛門

上畑成三畝廿五歩
分米三斗七合
中畑成弐畝拾壱歩
分米壱斗六升五合
下畑成三畝拾四歩
分米壱斗七升三合
高〆六斗四升五合
内壱斗六升六合

与平次

下畑成四畝拾七歩
分米弐斗弐升八合
三斗三升六合
〆五斗六升四合
半左衛門

下畑成壱畝拾四歩
分米七升四合
弐斗八升
は
つ分入

〆三斗五升四合
伊兵衛

中畑成八畝歩
分米五斗六升
六斗八升壱合入
市郎兵衛分

〆〇壱石弐斗四升壱合
養光
見取弐畝廿歩

半兵衛ニ入

分米弐斗壱升三合
〆
下々畑成壱反壱歩
分米五斗壱合
惣高合弐拾九石八斗五升弐合
内わけ
高拾石三升四合
此本田七反六畝拾三歩
高四石三斗五升七合
此見取下田五反四畝拾四歩
高拾五石四斗六升壱合
此畑成弐町三反八畝五歩
定輪寺
下田四反廿壱歩
分米四石六升九合
上畑成五畝五歩

又四郎分入
助左衛門
分米四斗壱升三合
中畑成弐畝拾四歩
分米壱斗七升弐合
下畑成弐畝廿三歩
分米壱斗三升八合
高〆四石七斗九升弐合
新兵衛
下田壱反七畝歩
分米壱石七斗
〆
与右衛門
下田六畝拾弐歩
分米六斗四升
〆
半四郎
下田壱反壱畝廿壱歩
分米壱石壱斗七升

〆　平　六
下田壱畝八歩
分米壱斗弐升七合
〆　な　へ
下田弐反三畝廿歩
分米弐石三斗六升七合
〆　甚兵衛
下田五畝拾七歩
分米五斗五升七合
〆　仁右衛門
下田六畝廿四歩
分米六斗八升
中畑成三畝八歩
分米弐斗弐升九合
高〆九斗九合
惣高合拾弐石弐斗六升弐合
内わけ
高拾壱石三斗壱升
此下田壱町壱反三畝三歩
高九斗五升弐合
高九斗五升弐合
此畑成壱反三畝拾九歩

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二四　元禄一二年一二月　富沢村役米銭・箱根水入用帳

（一六九九）

（表紙）

元禄拾弐年　富沢村
卯御役米銭并箱根水入用
十二月日　名主　仁右衛門

一米壱石　給分　六左衛門

但シ升取・定夫共ニ

一三斗五升　火廻番給　一米八合　四郎兵衛㊞
一金壱分壱貫拾文　小物成　一同四拾四文　同人㊞
一六百七拾弐文　御蔵地代　一米四升三合　助左衛門㊞
一六百文　帳紙之代　一同四百廿五文　同人㊞
一三貫八百拾文　諸入用　内百六拾壱文箱根水入用
一壱貫文　飛脚賃　一米弐合　平六㊞
一壱貫九百廿八文　箱根水入用　一拾壱文　同人㊞
〆米合壱石三斗五升　一米弐合　文四郎㊞
但シ高壱石ニ付（マヽ）　一同拾六文　同人㊞
銭合八貫九拾三文　一米弐合三夕　養光㊞
但シ高壱石ニ付四拾八文七分二リン　一同廿六文　同人㊞
銭合壱貫九百廿八文　箱根水懸り諸入用　内拾三文箱根水入用
但シ高壱石ニ付六拾弐文三リン　一米四合　喜兵衛㊞
右之訳　一弐拾壱文　同人㊞
一米三升弐合　源兵衛㊞　一米五升五合　源右衛門㊞
一銭百八拾六文　同人㊞　一同三百八十八文　同人㊞
内六拾八文箱根水入用

一米四升四合
一同弐百九拾五文
　内三十五文箱根水入用
一米七升五合
一四百八拾九文
　内四拾文箱根水入用
一米壱合
一同五文
一米三合
一同拾八文
一米五升三合
一同三百　四十八文
　内廿八文箱根水入用
一米壱升弐合
一同八拾八文
　内十四文箱根水入用
一米壱升

伊　兵　衛㊞
同　　人㊞

小左衛門
同　　人

与　兵　衛㊞
同　　人㊞
清　兵　衛㊞
同　　人㊞
八郎兵衛㊞
同　　人㊞

与　平　次㊞
同　　人㊞

平左衛門㊞

一同六拾五文
　内五文箱根水入用
一米弐斗三升五合
一同壱貫八百七拾五文
　内四百六拾四文箱根水入用
一米五合
一同三拾文
一米壱合
一同八文
一米壱斗壱升
一同八百五拾弐文
　内弐百拾文箱根水入用
一米三升三合
一同弐百七拾文
　内拾九文箱根水入用
一米弐斗壱升六合
一同壱貫八百六拾三文

同　　人㊞

加　兵　衛㊞
同　　人㊞

吉　太　夫㊞
同　　人㊞
武　兵　衛㊞
同　　人㊞
庄右衛門㊞
同　　人㊞

市郎兵衛㊞
同　　人㊞

勘　兵　衛㊞
同　　人㊞

内五百六拾壱文箱根水入用
一米三斗五升　仁右衛門㊞
一同弐貫三百三拾八文　同　人㊞
内弐百三拾文箱根水入用
一米五升四合　は　つ㊞
一同三百三拾七文　同　人㊞
内拾七文箱根水入用
右之寄
米合壱石三斗五升
銭合拾貫三拾七文
右之通役割帳指上申候、此外何にても割合と申儀無御座候、為後日名主・組頭・百性代判形仕指上申候、以上
元禄十二年
卯ノ極月
富沢村
名主　仁右衛門㊞
組頭　加兵衛㊞
同　小左衛門
百姓代　庄右衛門㊞
（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二四七　宝永四年六月二四日　箱根水懸り村々高帳

（一七〇七）

（表紙）
宝永四年　駿東郡御宿村㊞
箱根水懸り村々高帳　此村数三拾ヶ村
亥ノ六月廿四日　安右衛門㊞

（表紙裏）
「元禄弐年巳ノ二月高改帳ニ而写申候間、壱万千三百四拾三石七斗八升壱合ニ候得共、今宝永四年ニハ村々高増候村々可有之候、箱根水懸高ハ相違無之候、村々御代官・御地頭替御座候間、此度改申候」

能勢権兵衛様御支配
惣高弐百八十八石壱升三合
沼津御領
一高三拾四石壱斗四升八合
一色村

惣高三百拾九石五斗六升六合
一高弐百五拾石六斗四升五合　同断　納米里村

惣高六百八十四石五斗六升五合
一高五百八拾弐石六斗五升五合　同断　中土狩村

惣高六百九十石五斗壱升壱合
一高弐百九拾七石四斗四升三合　同断　伏見村

惣高〆千九百八十弐石六斗五升五合
高合千百六拾四石八斗九升壱合

大久保加賀守様御知行
小田原御領

惣高三百八十八石九斗七升□合
一高三百五拾七石□斗弐升三合　竹原村

惣高九百六十九石四斗五合
一高七百三拾三石五合　同断　下土狩村

惣高三百三十弐石壱斗壱升四合
一高三拾三石弐斗三升五合　同断　上土狩村

惣高百八十四石六斗三升三合
一高壱石壱斗弐升九合　同断　水窪村

惣高三百五十八石五斗九升
一高百四石七升六合　同断　伊豆嶋田村　并ニ弐つ屋共ニ

惣高弐百十三石壱斗壱升六合
一高三拾六石壱斗九升三合　同断　麦塚村

惣高七百五十七石六斗三合
一高百八拾石壱升九合　同断　茶畑村

惣高百九十七石六斗七升七合
一高百五拾石五斗九升八合　同断　平松新田

惣高四百□拾九石三斗四升壱合
一高弐百六拾六石四斗九升九合　同断　公文名村　并ニ稲荷村共ニ

惣高五百七拾石四合
一高弐百四拾五石八斗四升四合　同断　佐野村

大久保加賀守様御知行
小田原御領

惣高百五十七石弐斗壱升□合
一高廿七石七斗六□　石脇村

惣高百三十九石弐斗弐合
一高八拾弐石八斗七合
惣高六百廿三石壱斗七合
一高拾五石三斗
惣高五千三百七拾石九斗八升五合
高合弐千弐百三拾四石弐斗八升八合

同断　岩波村
同断　神山村

惣高三百八十六石四斗五升
一高百三石壱斗四升六合

大久保長門守様御知行
松長御領　御宿村

惣高千四百七拾三石壱斗五升九合
一高弐百九石六斗六升四合
惣高四百廿五石弐升五合
一高八拾七石壱斗七升六合
惣高千八百九拾八石壱斗八升四合
高合弐百九拾六石八斗四升

稲葉紀伊守様御知行所
深良村
同断　久根村

惣高四百三十七石弐斗九升壱合
一高百九拾石壱斗弐升五合
内拾八石三斗弐升三合かろうと堰かゝり

内藤筑後守様御知行所
千福村

惣高廿弐石余
一高拾弐石弐斗六升弐合
惣高四百五十九石□□九升壱合
高合弐百弐石三斗八升七合

同断　定輪寺村

惣高七拾六石九斗三升
一高三拾五石□□六合

松平数馬様御知行所
上ヶ田村分ヶ村

惣高百壱石壱合
一高四石九斗五合
惣高三百九拾弐石弐斗五升三合
一高五石七斗三升八合
惣高弐百七拾九石六斗五升八合
一高三拾五石三升
惣高八百四拾九石八斗四升弐合
高合八拾石七斗九合

同断　金沢村
同断　葛山村
同断　本宿村

惣高八拾石六斗三升七合　　安藤治三郎様御知行所
一高三拾七石八斗九升四合　　上ヶ田村

惣高百三十四石九斗六合
一高七拾八石三斗九升四合　　同断　新宿村

惣高弐百十五石五斗四升三合
高合百拾六石弐斗八升八合

惣高百八十石八斗三升壱合　　秋山重右衛門様御知行所
一高廿九石八斗五升三合　　富沢村

惣高弐百七拾九石六斗五升八合　　渥美源五郎様御知行所
一高四拾八石三升壱合　　本宿村

惣高弐百七拾九石六斗五升八合　　丹羽金十郎様御知行所
一高四拾八石三升壱合　　本宿村

惣高〆壱万千三百四拾三石七斗八升壱合之内元禄二巳ノ
二月高帳辻

惣高合四千三百廿四石四斗六升四合

内　千百六拾四石八斗九升壱合　御料所
　三千百五十九石五斗七升三合　御給領

高〆四千三百廿四石四斗六升四合

箱根掘抜水懸り辻

内　千百六拾四石八斗九升壱合　御領所
　三千百五拾九石五斗七升三合　御給領

深良村箱根水懸り堰々之覚

但シ神山堰共ニ八堰

一豊後堰　此反別六町余
一山ノ神堰　此反別壱反余
一神山堰　此反別壱町三反五セ五歩
一長三郎堰　此反別六反余
一尾崎堰　此反別五反計り
一水門堰　此反別九町三反余
一高田堰　此反別五反計り
一橋場堰　此反別壱町□(塗抹)り

七堰〆十七町七反三せ廿弐歩　深良堰分外ニ神山村
□堰有ル
かろうと新堰箱根水懸り五ヶ村高反別

一反別合拾三町三反六畝弐拾四歩　御宿村
高百三石壱斗四升六合
一反別合八町四反七畝弐拾三歩　上ヶ田村弐領共
高七拾弐石九斗三升
一反別合六反八畝廿九歩　金沢村
高四石九斗五合
一反別合四反三畝拾弐歩　葛山村
高五石七斗三升八合
一反別合弐町六反五畝壱歩　千福村
高拾八石三斗弐升三合
惣反別弐拾五町六反壱ヶ廿九歩
高弐百五石四升弐合　右五ヶ村分
一八町壱反九ヶ十弐歩　岩波堰
一拾三町五反壱畝拾□歩　千福堰
（裏表紙）「宝永四年　此主　源右衛門
大久保長門守様御知行所　御宿村　安右衛門㊞
亥ノ六月廿四日ニ認」

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二四　宝永四年（一七〇七）一二月　箱根水村々用水諸入用割帳

亥年箱根水村々用水諸入用割
一米拾四石壱斗六升　甚右衛門　半右衛門　扶持方
此金拾六両壱分京四百廿四文
但シ金壱両ニ付斗立八斗六升六合六夕
但年中相場ならし
銭八両ニ四貫八百文替
一金八両者　水番四人給金
但壱人ニ弐両づゝ
一金弐拾三両壱分銭四拾八文
村々ゟ出人足千八百拾六人半
但壱人代百文づゝ
一銭六百四拾八文　帳紙墨筆代
〆四拾七両弐分銭壱貫百廿四文
此銭弐百弐拾九貫百廿四文
高壱石ニ付五拾弐文四分五厘五毛かけ

一銭四貫五百廿三文　岩波村
　内壱貫八百文　出人足ニ引
　残金弐分銭三百廿三文　未進
一銭壱貫五百拾六文　石脇村
　内七百文　出人足ニ引
　残而八百拾六文　未進
一銭拾三貫四百三拾壱文　佐野村
　内四貫弐百文　出人足ニ引
　残金壱両三分銭八百三十壱文　未進
一銭九貫八百三拾五文　茶畑村
　内六貫四百四拾八文　出人足ニ引
　残金弐分銭九百八拾三文　未進
一銭八貫弐百九拾五文　公文名村
一銭六貫弐百五拾弐文　稲荷村
　二口〆拾四貫五百五拾壱文
　内三貫四百文　出人足ニ引
　残金弐両壱分銭三百弐拾壱文　未進

一銭五拾九文　水久保村
　差引百三拾七文　過
一銭壱貫八百拾五文　上土狩村
　内五百文　出人足ニ引
　残金壱分銭百十五文　未進
一銭三拾壱貫八百三拾四文　中土狩村
　内四貫五百文　出人足ニ引
　残金五両弐分銭九百三拾四文　未進
一銭拾三貫六百九拾弐文　納米里村
　内弐貫六百文　出人足ニ引
　残金弐両壱分銭弐百九拾弐文　未進
一銭壱貫八百六拾三文　一色村
　内三百文　出人足ニ引
　残金壱分銭三百六拾三文　未進
一銭壱貫六百三拾文　富沢村
　内六百文　出人足ニ引
　残壱貫三拾文　未進

一銭六百六拾七文　　定輪寺村
　内三百文　出人足ニ引
　残三百六十七文　未進
一銭拾貫三百八拾四文　　千福村
　内六貫七百四拾八文　出人足ニ引
　残金三分銭三拾六文
一銭三百拾三文　　葛山村
　差引百八拾三文　過
一銭弐百六拾五文　　金沢村
　差引三拾壱文　過
一銭弐貫六拾八文　　上ヶ田村
一銭壱貫九百拾三文　　同村
〆三貫九百八拾壱文
　内壱貫三百文　出人足ニ引
　残金弐分銭弐百八拾壱文　未進
一銭五貫六百三拾四文　　御宿村
　差引金壱両三分銭五百六拾弐文　過

一銭四貫七百六拾文　　久根村
　内壱貫八百文　出人足ニ引
　残金弐分銭五百六拾文　未進
一銭拾壱貫四百五拾壱文　　深良村
　内三貫四百文　出人足ニ引
　残金壱両弐分銭八百五拾四文　未進
一銭八百三拾五文　　神山村
　指引金壱両壱分銭九百六拾壱文　過
未進〆金弐拾七両三分銭五百六拾四文
右之通箱根湖水村々用水当亥之年諸入用割符仕り差上ケ申候、少茂相違無御座候、以上
　宝永四年いの十二月
　　茶畑村　甚右衛門
　　御宿村　半右衛門
能勢権兵衛様御手代
　和田幸右衛門殿

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二四九　明和八年八月　深良村湖高反別并土手通地水高反別帳

（表紙）
明和八年
深良村
湖高反別并土手通地水高反別
卯ノ八月
上原
志村源蔵
相改

一明和七年寅年御田地仕付時分照続、依之中筋・下筋湖水仕付成兼候ニ付水配御注進申上候処、御支配小田原御役人其外給所御役人御越堰々并田場御見分被遊所、深良村之義者水元故前々ゟ日損等無之、殊ニ見分請候義も無之段申上候得者尤ニ御聞被遊、殊其村御役人茂御立合無之故、見分致間敷被申見分無之候

一からうと地水堰十給御立合ニ而見分可致被仰聞候処、地水御見分被成候義難成申上候得者、大干損故十給御立合まれ之義ニ付見分候而茂可然候被仰聞候へ共、地水御見分ハ前各（格）無之故難成申上候得者、然ハ前度茂渇水ニ及御役人立合も遂之候哉、其節茂御覧ニ入不申哉御尋ニ付、此以前三嶋御代官様御支配之節渇水ニ付、三嶋御役人前田重蔵様堰々御見分被遊候得共、其節茂御見分無之段申上候得者、其通りニ而御見分無之候

一明和八年卯年春ゟ湖水水門口三尺堀下可申由ニ而、小田原御役人ゟ御地頭様ニ被仰聞候由ニ而、堀下致候而も其村障りニも不相成候哉、有無之訳早速可申上被仰聞候ニ付、堀下之義致候而ハ深良村至極難義ニ及候ニ付、何分不得心之段書付致、長百性連印を以御地頭御役人様迄相願候得者、右之訳ヲ以小田原へ被仰遣候、依之其以後一向御沙汰無之相止申候

一明和八年卯八月湖水水配御用之由ニ而三筋水配小田原へ御召寄被遊御尋之訳、湖水地水入交候（衍）得者地水茂

水配支配ニ不成義無之由、并夜水相之水之訳御尋被遊候由、地水之義者水配としてハ何分御返答不申上候趣ニ申談候ニ付、公辺ニ及候共、委細不申上候筈ニ御座候

一湖高反別并地水共ニ書上候様ニ被仰付候、依之湖高并堰々掛り反別高改書付可被下と甚兵衛殿御頼ニ付仕訳致、小田原へ新七殿ゟ為持遣候由

右反別堰々仕訳

湖水掛り貫水川掛り其外堰々

上田五町九反五畝九歩　卯年改候反別寄

内五町七反五畝廿七歩　本反別

残壱反九畝十弐歩　中田ニ成

此訳　壱反歩　新田　弥平治

九畝十弐歩　同村　喜右衛門分

〆

残五町七反五畝廿七歩

此高

中田五町壱反三畝拾弐歩　右同断

内五町四反九畝十八歩　本反別

差引壱反九畝十弐歩　通ス

内　壱反九畝十弐歩　上田ゟ入
　　壱反歩下田ゟ入上丹与惣右衛門ゟ入

残五町壱反三畝十弐歩

此高

下田六町弐反九畝廿三歩　右同断

内六町壱畝十弐歩　本反別

差引弐反八畝拾壱歩

内壱反歩　中田ニ成
八畝七歩　下々田ニ成

残六町弐反九畝廿三歩

此高

下々田弐反八畝拾八歩　右同断

内三反六畝廿五歩　本反別

差引八畝七歩　不足　下田ゟ成

合三反六畝廿五歩

此高

五反田水門掛り
拾壱町壱畝拾四歩
此訳
上田四町八畝廿九歩
中田三町四反八畝廿五歩
下田三町弐反壱畝廿弐歩
下々田弐畝拾六歩

〆
豊後堰掛り
四町弐反七畝九歩
此訳
上田壱(町)反六反六畝廿八歩
中田九反三畝壱歩
下田壱町弐反三畝七歩
下々田弐反廿七歩
下地下田弐反三畝六歩

〆
新田橋場堰
壱町九反八畝廿九歩
此訳
中田五反六畝拾七歩
下田壱町壱反八畝七歩
下々田五畝五歩
下地中田四畝廿三歩
下地下田壱反四畝七歩

〆
高田弥平治堰
三反五畝歩
此訳
中田六畝廿四歩　定右衛門
下田壱反八畝六歩　定右衛門　弥七郎　勇右衛門

〆三反五畝歩
惣反別合
拾七町拾(衍)七町六反三畝

内　下田三セ四歩　五反田ニ廿弐歩不足故且入申候
　下々田弐セ十六歩　右同断
上田五町七反五畝廿七歩　本反分
　高八拾石六斗弐升六合　十四森(盛)
中田五町四反九畝拾八歩　十弐盛り
　高六十五石九斗五升弐合
下田六町壱畝十弐歩　十ツ
　高六拾石壱斗四升
下々田三反六畝廿五歩　八ツ
　高弐石九斗四升七合
高〆
弐百九石六斗六升五合　湖水高也
高田弥平治堰地水
下地
中田四畝廿三歩　上丹　定　七
からうと
下田七畝廿壱歩　地水
高田
下田壱反七歩　上丹　定　七
からうと
下田七畝歩　須　与左衛門
同
下田壱反六畝廿歩　同　権右衛門

同
下田壱畝十八歩
同
下田五畝弐歩
高田
下田七畝五歩
〆六反六歩
向田吉右衛門堰
向田
中田壱反七歩
同
下田三畝八歩
同
中田壱反三畝廿壱歩
向田
下田四畝五歩
同
中田六畝九歩
同
下田三畝廿九歩
同
上田七畝廿八歩
同
下田壱反壱畝十四歩
中田七畝十八歩
下田三畝十弐歩
下田六畝十九歩
中田四畝六歩

新　九郎衛門
同　勇右衛門
同　人
持水
須　新　八
同　同　人
八左衛門
須　八左衛門
原　喜兵衛
同　人
竹右衛門
同　人
新　喜兵衛
同　人
須　定右衛門
同　松右衛門

〆八反弐畝廿六歩　　須　利　兵　衛
　須釜利兵衛堰　　同　定右衛門
向田下田三畝歩　　同　人
同中田八畝拾四歩　　平　八
同下田七畝廿四歩　　同　人
同中田六畝歩　　上丹　十郎右衛門
同下田壱反六畝歩　　同　与曾右衛門
下田六畝歩　　須　与左衛門
下田五畝十五歩
下田九畝廿七歩
〆六反弐畝廿歩
　本反歩ニ、但シ拾九歩不足
　古川并池掛り地水
久保田中田六畝十八歩　　上丹　次　三　郎
同下田九畝四歩　　同　人
同中田五畝拾七歩　　同　定　七
同下田九畝廿弐歩　　須　同　人

池下下地中田壱反五畝十弐歩　　同　権右衛門
同同中田三畝廿五歩　　須　松右衛門
同同下田壱反五畝十九歩　　同　人
同下田壱反弐歩　　須　甚　兵　衛
同下地中田弐畝廿七歩　　同　人
小林下々田廿五歩　　上丹　善　七
池下下地下壱反弐畝歩　　同　人
同下地下九畝廿九歩　　須　九郎兵衛
同下地中四畝十弐歩　　権左衛門
同下地下弐畝十八歩　　須　定右衛門
前田中田五畝弐歩　　同　幸　助
同下田四畝十五歩　　同　人
同下田五畝十八歩　　原　善　六
角鳥中田壱反壱畝八歩　　須　権右衛門
同下田五畝廿七歩　　同　人
角鳥下々田弐畝歩　　須　権右衛門
下原下々田十四歩　　上原　源　兵　衛

同下田壱反弐畝廿歩　　同　人
〆壱町六反三畝七歩
六セ十三歩不足
明和八年卯ノ八月廿八日
持主　源　蔵

水配下役伊六、八月十一日ニ小田原へ罷出候、同月十六日上役甚兵衛小田原へ罷出候

（裾野市深良　志村守雄氏所蔵）

二三〇　天明六年（一七八六）五月　佐野村請免につき水引方等百姓連印口上書

口上之覚

一先達而御代官様御手代富田与次左衛門様ゟ御配府ニ而、村組村々江被仰越候者、其村々当年ゟ五三ヶ年茂御請免相願候様ニ可致候段被仰越候、尤旱損・風損ニ而少々宛甲乙有之及難渋候節者御上様ゟ茂御了簡可有御座由有之候、右ニ付御請免御願之儀何分ニ致候哉、尤村組一統之事ニ候ハヽ、是悲（非）御請免相願候筋と者被存候、且又流末之田面旱損年柄ニ者惣百姓立合致見分、立毛ニ応シ御用捨米を以平均可申候、勿論見分之上少々宛之見違ハ可有御座候得共、村役人惣百姓立合之上相定候上者少茂違乱可申筋無之候、格別之風損・旱損等有之候得者五分以上者破免ニ相願候義ニ有之候、且又御年貢御上納之儀者例年之通御日限通無相違急度御上納致候義ニ有之候、併水掛り宜敷平年ニ者不作致候者有之候共、御用捨米助合之儀者堅不致候間左様ニ相心得可申候、其節惣町歩江割合致候義ニ付此段申述置候

一流末旱損年ニ者御用捨米旱損田面江割合、残米有之候得者旱損田面之外御田地へ割合候間、左様ニ相心得可申候

一水引方之儀者弐拾九ヶ村一統之儀ニ付、用水組合村々ニ准シ水引可申候、決而無作法成儀致間敷候

右之趣被仰聞一々承知仕候上者何にても違乱申間敷候、

依之惣百姓連印仕差出申候、為後日仍而如件

天明六丙午年五月

佐野村百姓

市郎左衛門㊞　藤　吉㊞
伊左衛門㊞　平　七㊞
次郎右衛門㊞　源　蔵㊞
宗左衛門㊞　幸右衛門㊞
与祖右衛門㊞　安　兵　衛㊞
儀右衛門㊞　弥左衛門㊞
久右衛門㊞　藤　助
文　次　郎㊞　勘　四　郎㊞
重左衛門㊞　儀　助㊞
久　八㊞　幸　八㊞
幾右衛門㊞　藤右衛門後家㊞
常　八㊞　勘　兵　衛㊞
平　内㊞　理　兵　衛㊞
永　助㊞　半　七㊞
幾　八㊞
伊　兵　衛㊞
用　助㊞

次兵衛㊞
市右衛門㊞
久七後家㊞
繁　八㊞
与右衛門㊞
仁平次
新　八㊞
半兵衛㊞
佐右衛門
永左衛門㊞
助四郎㊞
玄　意㊞
六右衛門㊞
権　八㊞
仁右衛門㊞
藤　七㊞
吉兵衛㊞

甚　蔵㊞
藤左衛門㊞
清　八㊞
孫右衛門後家㊞
清　七㊞
新　蔵㊞
仁兵衛㊞
勘右衛門㊞
与惣次㊞

新田
忠左衛門後家㊞
市右衛門㊞
権右衛門㊞
文左衛門㊞
勘兵衛㊞
平　蔵㊞
友右衛門㊞

長右衛門㊞
新　七㊞
千代　枩㊞
甚左衛門㊞
儀右衛門㊞
弥左衛門㊞
嘉左衛門㊞
弥四郎㊞
（裾野市佐野　佐野区有文書）

二五一　文政三年九月（一八二〇）　井組二九ケ村高反別控

当用水井組弐拾九ケ村高反別言上控

一高三百八拾八石九斗七升四合　水野出羽守領分
駿東郡竹原村
此反別三拾三町六反八畝弐十八歩
内
高三百五拾七石八斗弐升三合　当用水掛り
此反別弐拾八町八反六畝弐十五歩
高弐拾八石六斗五升五合　堀抜出来ニ付畑方田ニ成之分
此反別弐町六反四畝歩
右之内
高三石九斗六升四合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別三反弐畝拾五歩
同領分
一高九百七拾石弐斗八升五合　同州同郡
下土狩村
此反別百拾町三反七畝弐十八歩
高七百三拾三石五合　当用水掛り
此反別六拾壱町弐反三畝弐十六歩
内
高八拾壱石五斗五升四合五夕　堀抜出来ニ付畑方田ニ成之分
此反別六町五反六畝十三歩
右之内
高三拾弐石四斗弐升弐合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分

此反別
（記載なし）

同領分
一高六百八拾七石壱斗九升七合　同州同郡
中土狩村

此反別六拾七町四反弐十壱歩
内
高五百八拾弐石六斗五升五合　当用水掛り
此反別四拾七町三反四畝弐十八歩
高九拾壱石七斗八升四合　堀抜出来ニ付畑方田成候分
此反別八町八反弐畝廿六歩
右之内
高九石七斗四升壱合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別九反四畝拾壱歩

同領分
一高三百三拾弐石三斗八升壱合　同州同郡
上土狩村

此反別三拾七町四反九畝拾八歩
内
高弐百七拾弐石四斗壱升六合　当用水掛り
此反別弐拾六町壱反八畝弐十壱歩
高三拾三石弐斗壱升五合　堀抜出来ニ付畑方田成候分
此反別四町八反九畝拾壱歩
右之内
高壱石壱斗弐升八合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別壱反壱畝八歩

同領分
一高三百弐拾壱石七斗九升九合　同州同郡
納米里村

此反別三拾七町九反九畝拾四歩
内
高弐百五拾弐石弐斗四升壱合　当用水掛り
此反別弐拾五町弐反三畝十八歩
高三拾五石弐斗七升五合　堀抜出来ニ付畑方田成候分

此反別五町七反八畝六歩
右之内
高九石四斗三升六合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別壱町五反五畝廿六歩

同領分
一高弐百九拾石七斗九升九合　同州同郡　一色村
此反別三拾四町六反六畝弐十壱歩
内
高三拾四石壱斗四升八合　当用水掛り
此反別三町弐反九畝十七歩
右之内
高七石八升五合　堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
此反別壱町三反拾五歩
内
高五石弐升三合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別壱町拾五歩

同領分
一高百八拾石八斗三升壱合　同州同郡　富沢村
此反別拾九町四反三畝弐十五歩
内
高弐拾九石八斗五升三合　当用水掛り
此反別三町六反九畝弐歩
右之内
高拾五石壱斗八升七合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分
此反別弐町三反壱畝壱歩

同領分
一高三百七石六斗八升　同州同郡　伊豆嶋田村
此反別三拾四町四反弐畝弐十壱歩
内
高弐百三拾八石壱升三合　当用水掛り
此反別弐拾町弐反八畝壱歩

高六拾八石四升八合　堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
此反別六町五反拾四歩
右之内
高六拾三石六斗八升弐合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別六町六反弐十四歩

同領分
同州同郡
水窪村

一高百八拾四石六斗三升三合
此反別拾五町五反六畝弐十弐歩
内
高百七拾弐石壱斗壱升三合　当用水掛り
此反別拾三町八反六畝九歩
高壱石壱斗弐升八合　堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
此反別壱反四畝弐十歩

大久保加賀守領分
同州同郡
神山村

一高六百弐拾三石壱斗七合
此反別七拾九町壱畝七歩
内
高拾五石九斗五升九合　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
此反別壱町四反弐十九歩

同領分
同州同郡
岩波村

一高百三拾九石弐升弐合
此反別拾壱町六反五畝壱歩
内
高九拾六石三斗九升壱合　当用水掛り
此反別八町十九歩
高弐拾七石八斗四升　堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
此反別三町壱反四畝四歩
右之内
高四石壱升弐合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別六反九畝拾三歩

一高百五拾七石弐斗壱升九合　同領分
同州同郡
石脇村
此反別拾壱町六反五畝壱歩
内
高百弐拾九石八斗四升五合　当用水掛り
此反別拾町六反八畝弐歩
高弐拾七石三斗九升七合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分
此反別弐町弐反七畝九歩

同領分
一高五百六拾三石弐斗五升弐合
同州同郡
佐野村
此反別六拾五町四反七畝廿五歩
内
高四百三拾石五斗四升四合　当用水掛り
此反別三拾六町三反三畝拾弐歩
高弐百四拾六石壱斗九升壱合　堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
此反別弐拾壱町七反六畝拾三歩

右之内
高五石五斗弐升九合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成分
此反別五反九畝拾三歩

同領分
一高三百三拾七石弐升弐合
同州同郡
公文名村
此反別三拾町六反五畝拾八歩
内
高百五拾壱石八斗八升六合　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
此反別拾壱町七反三畝弐十八歩

右之内
高拾壱石六斗壱升七合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成分
此反別八反七畝六歩

同領分
一高百四拾弐石三斗壱升九合
同州同郡
稲荷村
此反別拾六町五畝壱歩

内
高百拾四石六斗壱升三合　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分共
此反別九町九反七畝弐十三歩
右之内
高六拾三石九升三合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成分
此反別五町三反七畝弐歩

同領分
一高七百五拾七石六斗三合　同州同郡　茶畑村
此反別七拾九町七反壱畝拾六歩
内
高百八拾石六合五勺　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
此反別拾四町四反五畝十八歩
右之内
高七拾石八斗壱升　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別五町八反七畝四歩

同領分
一高百九拾七石六斗七升七合　同州同郡　平松新田
此反別三拾町三反三畝拾三歩
内
高百五拾石弐斗七升八合　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分共
此反別拾四町壱反八畝弐十壱歩
右之内
高五拾四石九斗九升七合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成分
此反別五町三反壱畝拾五歩

同領分
一高弐百拾三石壱斗壱升六合　同州同郡　麦塚村
此反別弐拾壱町八反三畝拾弐歩
内
高三拾六石壱斗九升三合　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分共
此反別弐町八反四畝十五歩
右之内

高三拾弐石六斗八升六合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別弐町五反拾六歩

同領分
同州同郡
二ツ屋新田

一高五拾石九斗壱升
此反別六町九反六畝十三歩
内
高三拾六石弐升八合　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ相成り候分
此反別三町壱反歩
右之内
高七石九斗三升　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成分
此反別六反八畝歩

大久保長門守領分
同州同郡
御宿村

一高三百八拾六石四斗五升
此反別五拾九町三反廿四歩
内
高弐百五拾三石壱斗八升七合　当用水掛り
此反別拾六町弐反八畝廿九歩
右之内
高百三石壱斗四升六合　堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
此反別拾三町七畝六歩

稲葉金之丞知行所
深良村

一高千四百七拾三石壱斗五升九合
此反別百五拾町三反三畝拾五歩
内
高八百八拾石五斗壱升六合　当用水掛り
此反別七拾壱町七反九畝廿六歩
高弐百九石六斗六升四合　堀抜出来ニ付畑方田ニ成相分
此反別拾七町七反三畝弐十弐歩
右之内
高四石四斗壱升弐合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別四反三畝拾壱歩

同知行所
同州同郡
久根村

一高四百弐拾五石弐升五合
此反別三拾八町五反壱畝四歩
内
高弐百四拾七石九斗三升弐合　当用水掛り
此反別拾九町五反壱畝拾歩
高八拾七石壱斗七升六合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分
此反別七町四反拾七歩
右之内
高拾五石壱斗三升弐合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別壱町八反九畝五歩

内藤駒之丞知行所
同州同郡
千福村

一高四百四拾四石六斗五升三合
此反別四拾七町七反八畝拾歩
内
高弐百弐拾弐石四斗三升弐合　当用水掛り
此反別拾八町八反三畝廿歩
高拾八石八斗五升七合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分
此反別弐町七反弐十九歩
右之内
高五石六斗七升三合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分
此反別七反九畝拾壱歩

同知行所
同州同郡
定輪寺村

一高弐拾弐石四升四合
此反別三町五畝三歩
内
高拾弐石弐斗六升弐合　当用水掛り
此反別壱町弐反六畝廿弐歩
高九斗五升弐合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分
此反別壱反三畝拾九歩

酒井采女知行所

一高三百六拾五石七斗九升六合　同州同郡　伏見村

此反別三拾六町壱反七畝五歩

内

高百五拾六石四斗四升三合　当用水掛り

此反別拾三町壱反壱畝拾九歩

高弐拾壱石七斗三升五合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分

此反別壱町六反八畝廿六歩

右之内

高弐拾石七斗三升五合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分

此反別壱町九反三畝弐十歩

安藤伝右衛門知行所

一高百三拾四石九斗六合　同州同郡　新宿村

此反別拾弐町三反四歩

内

高七拾八石三斗九升四合　当用水掛り

此反別六町七反壱畝七歩

高弐拾六石八斗四升弐合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分

此反別三町九反拾八歩

右之内

高六石弐斗壱升四合　宝暦年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分

此反別五反弐畝拾九歩

同知行所

一高八拾壱石壱斗八升八合　同州同郡　上ヶ田村

此反別九町六反三畝廿八歩

内

高三拾七石八斗九升四合　当用水掛り

此反別四町四反弐畝歩

高弐拾五石七斗七升六合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分

此反別三町四反壱畝廿八歩

右之内

高拾三石八斗六升八合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成分

此反別壱町七反三畝拾壱歩

山岡五郎作知行所
同州同郡
伏見村

一高三百弐拾七石弐斗三升七合

此反別三拾弐町弐反六畝拾三歩

内

高百四拾壱石　当用水掛り

此反別拾壱町七反三畝拾壱歩

高弐拾石壱斗三升八合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分

此反別壱町五反五畝廿弐歩

右之内

高拾八石九斗三升八合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成分

此反別壱町七反弐畝弐十弐歩

松平斧太郎知行所
同州同郡
上ヶ田村

一高七拾七石四斗弐升九合

此反別八町七反九畝十三歩

内

高三拾五石三升六合　当用水掛り

此反別四町五畝拾歩

高弐拾四石七斗六升七合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分

此反別三町壱反九畝弐十歩

右之内

高七斗三升六合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑相成分

此反別九畝弐歩

同知行所
同州同郡
葛山村

一高四百弐拾壱石四升四合

此反別六拾四町三反弐十八歩

内

高五石七斗三升八合　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ成分共

此反別四反弐畝九歩

同知行所
同州同郡

一高百九石四斗九升七合

金沢村

此反別拾三町八反弐畝歩

内

高四石九斗五合　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ成分共

此反別六反八畝弐十五歩

高合壱万千百拾四石四斗三升四合　弐拾九ヶ村田畑惣高

内

高六千八拾九石七斗四升五合弐勺　当用水掛り

高千八百九拾八石壱升九合　堀抜出来ニ付畑方田ニ相成候分

右之内

高四百六拾壱石七斗六升九合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成分

右之通井組弐拾九ヶ村高反別相改奉書上候、以上

文政三庚辰年九月

駿州駿東郡井組弐拾九ヶ村

深良村

水配人　平　八印

同　村

下役　林右衛門印

佐野村

水配人　常　蔵印

茶畑村

下役　又　四　郎印

下土狩村

水配人　幸右衛門印

竹原村

下役　与　兵　衛印

御宿村

惣代人与頭　半　七印

千福村

同名主　文左衛門印

佐野村

同名主　政右衛門印

平松新田

同与頭　幸　蔵印

上土狩村
同与頭　五郎右衛門　印
中土狩村
同与頭　善　蔵　印

御普請御役
米倉武助様
有坂勝三郎様

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三五三　文政三年一二月　御宿村諸役銭割付帳

（一八二〇）

（表紙）
文政三年十二月　組頭　栄助
辰年御宿村諸役銭割附帳　半七
長百姓立会

覚

一　人足〆九拾人
　両堰修覆
　但し壱人ニ付七拾弐文ツヽ
　内四拾人　水呑引
　残而五拾人
　此賃銭三貫七百五十文

一　金壱両三分弐朱ト永三拾六文八分　村足御給金
　此銭拾弐貫八百。九文

一　永七貫四百九文三分八厘　松永郡中惣割掛り
　此銭四拾九貫六百。九文

一　金弐分　箱根山水初穂
　此銭三貫三百四拾八文

一　人足弐拾五人　渡口猪除人足才共
　此銭壱貫六百文
　但し壱人ニ付六十四文宛

一　大竹廿五本　同所入用
　百文ニ付六本かへ
　此代弐百四十八文

一　木戸柱四本　同所入用
　百文ニ六本かへ
　此代六十四文

一縄廿三房　　同所入用
　此代九十弐文　　壱房四文ツヽ
一銭五百文　　同所木戸番賃
一本堰芝代　　拾人
　此賃銭九百文　　外壱人才料
　但し壱人付七十弐文ツヽ
一同芝附馬　　弐拾疋
　此賃銭弐貫文
　但し壱疋弐百文ツヽ
一新堰芝代　　八人才共
　此賃銭六百文
　但し壱人七十弐文ツヽ
一同芝附馬　　拾弐匹
　此賃銭弐貫四百文
　但し壱疋弐百文ツヽ
一和田堰人足　　六人
　此賃銭四百四十八文
　但し壱人七十弐文ツヽ
一本堰石取　　弐拾壱人五分才共
　此賃銭壱貫六百拾弐文
　但し壱人七十弐文ツヽ
一新堰しから　　拾八人
　此賃銭壱貫三百四十八文
　但し壱人七十弐文ツヽ
一葉房竹三十本　　同所入用
　此代百十弐文
　百文ニ付廿五本かへ
一へき竹壱わ　　同所入用
　此代百文
一籠竹廿本　　同所入用
　此代三百三十弐文
　但し百文ニ付六本かへ
一松壱寸板弐枚　　同所入用
　　壱枚壱匁かへ
　此代弐百廿三文

一同弐寸房弐本　　同所入用
　此代六十四文
一銭弐百文　　大工手間壱人分
一郷蔵久根詰　　五人才共
　此賃銭三百三十弐文
　但し壱人六十四文ツヽ
一縄三房　　郷蔵入用
　此代三十文
一大竹弐拾本　　同所入用
　此代三百三十弐文
　但し百文ニ付六本かへ
一銭七百四拾八文　　三ヶ所水門戸抜ちん
一同壱貫百八拾九文　　年中諸勧化浪人泊り
一同百三十弐文　　同半七方取かへ分
一金壱分　　京都愛宕山御百味料
　此銭壱貫六百七十弐文
一金弐分ト永百拾八文三分弐厘　例年御国役出金
　此銭四貫百六十四文
一金三分弐朱　　水配給料内入仕候
　此銭五貫。八拾六文
一金壱分　　来巳年正月御年始入用入
　此銭壱貫六百七十弐文
一銭弐百文　　足高山御初穂
一金壱分ト銭三百五十八文　　深良村助合金利
　此銭弐貫。三十四文
一銭弐百三十八文　　宗門帳納御礼蕎麦六升代
一同五貫六十文　　牧馬人足廿弐人才共
　但し壱人ニ付弐百廿四文ツヽ
　才領百十弐文まし
一同壱貫六百六十文　　同馬引賃銭
一同五百文　　御役所歳暮入用
一同七百四拾八文　　年中松永・古奈小歩十人分
　但し壱人七十弐文ツヽ
一同三貫文　　上野原役料
一同弐貫六百八十文　　村役人年中御役所行廿三人

但し壱人百十六文ツヽ

一同壱貫五百三十壱文

但し壱人百十六文ツヽ
〃〃〃〃〃〃〃〃

一同壱貫三百文

一同三貫文　湖水諸掛暮割

一同七貫三百廿六文

一同壱貫弐百四拾九文　風祭酒代壱斗三升代

一同拾七貫六百六拾三文　年中筆墨代

一同壱貫七百八十八文　湖水御普請所立会御見分諸掛廿九ヶ村割

一銭三百文　盆前分湖水御普請ニ付惣代出会諸掛り廿九村割

一同五百廿八文　右御普請役様御見分節和田弘様両度御見舞諸掛り

一同五百文　御普請諸役様当村御普請所御見分節御菓子代

一同壱貫四百三十三文　右御普請所三ヶ所苅払御案内節人足共

一同三百文　右御普請役様御見分節入用酒其外掛り

一同八百八文　野方棒杭四本代大工手間共

一同三百六拾四文　式右衛門方江年中色々らうそく代共

一同七百八拾八文　おそて庄左衛門へ色々払方半七方江年中酒代

同人方へ年中らうそく代払

和田弘様・斉藤兎毛様へ御祝儀入用

一同七百文　高札板弐枚代

一同四百八拾四文　村灯ちん弐はり張かへ

一同四百四十四文　比奈行小遣い、麦違注進分明表代

一同弐百文　暮割中炭代

一同九百文　松永宿雑用役人外飛脚分入

一金壱分　同所村役人雑用

此銭壱貫六百七十弐文

一銭壱貫三百廿六文　年中松永へ酒札並ニ暑中見舞共

一同弐百文　箱根山　月護摩料

但し四ヶ年目金壱分ニ成迄差上申候

一同三貫七百壱文　年中取替金利足入

一金壱分　夫役善右衛門へ増金遣ス

右ハ夫役首尾よく相勤申候ハヽ、来暮為法(褒)美として金壱分可渡筈也

此銭壱貫六百七十弐文

一銭六百。九文　去卯年帳落物分入

一同百三十七文　文五郎方深ら新田らうそく代共

一同壱貫文　割後入用
一同弐百四拾八文　番人屋敷年貢
一同七百文　番人夜廻り酒代遣ス
一同五百文　役割之節酒肴代
惣〆銭百六拾七貫三百壱文
内
銭壱貫六百七拾壱文　牧馬扶持米人足廿弐人分
差引〆銭百六拾五貫六百廿六文
高三百八拾六石四斗五升　惣高辻
内
高四拾石　名主役料高引
高五石五斗四升　上野原上ヶ地高分
残而三百四拾石九斗壱升　役割高
高壱石ニ付
銭四百八拾五文八分四厘三毛　掛り
但シ四百八拾六文懸ケ
帳落有之ニ付三文増ニ掛り
銭六貫七百文割

一銭九貫八百六文
一同百七拾八文
一同壱貫九百弐拾四文
一同廿弐貫三百七拾五文
一同五貫五百文
一同拾四貫九百六文
一同壱貫百四拾七文
一同弐貫三拾八文
一同壱貫五百四拾七文
一同拾三貫九百三拾三文
一同弐百三拾九文
一同拾八貫五百三文
一同弐百七拾弐文
一同八貫七百拾弐文
一同弐百五拾弐文
一同六百八拾五文
一弐百五拾八文

式右衛門
同人　とめ跡
栄　助㊞
半右衛門
賄分
同　人
半　七
同人
す　山分
彦九郎
彦兵衛㊞
利　助㊞
治左衛門㊞
甚兵衛㊞
同人賄分
六左衛門㊞
玄　寿㊞
良右衛門㊞
栄　蔵㊞
庄左衛門㊞

一弐百四拾九文
一八拾文
一六拾三文
一三百廿六文
一九百六文
一百六拾五文
一七百五拾七文
一壱貫四百七拾文
一百三拾文
一三百四文
一三百五拾五文
一三百十五拾(ご)文
一三百弐拾九文
一壱貫百六拾九文
一弐百七拾八文
一三百八拾三文
一壱貫三百四拾五文

文右衛門㊞
藤左衛門
八左衛門㊞
仁右衛門㊞
清右衛門㊞
甚四郎
源右衛門㊞
権左衛門㊞
岡右衛門㊞
伝右衛門㊞
佐右衛門㊞
定七㊞
五郎兵衛㊞
勘右衛門㊞
伝三郎㊞
忠兵衛㊞
弥兵衛㊞

一四百拾九文
一三百弐拾八文
一八百弐拾四文
一四百九文
一百六拾九文
一八百九拾弐文
一弐百壱文
一三百五拾弐文
一弐貫百五拾八文
一三拾九文
一四百四拾弐文
一四拾文
一四百弐拾九文
一六拾九文
一弐百六拾七文
一四百文
一七貫六百拾四文

要左衛門㊞
宗兵衛㊞
与右衛門
五右衛門
七右衛門㊞
平左衛門㊞
伝三郎賄甚三良
与左衛門㊞
忠七㊞
仁右衛門賄定助㊞
清十㊞
忠右衛門㊞
重左衛門㊞
弥兵衛賄藤右衛門㊞
磯右衛門㊞
又右衛門㊞

庄園寺

一弐貫九百八拾三文　向西寺印
一弐百七拾八文　源蔵㊞
一弐百五拾八文　弁右衛門㊞
一五百拾八文　源兵衛㊞
一弐貫五拾四文　平八㊞
一四百五拾六文　利八
一弐百四拾四文　彦右衛門㊞
一壱貫九百五拾四文　平右衛門
一六百拾九文　光照庵
一三百廿八文　権助㊞
一壱貫弐百八拾三文　権左衛門賄　市左衛門㊞
一百六拾壱文　平右衛門
一壱貫拾三文　甚左衛門㊞
一九貫弐百四拾四文　半右衛門賄　平治
一弐貫七百九文　新内
一六百八文　宇平治㊞
一壱貫弐百拾九文　三光院

一四百六拾五文　上ケ田村　助左衛門㊞
一四百三拾五文　同　源六㊞
一百四拾八文　かつら山　太郎右衛門㊞
一百四拾八文　同　由五郎㊞
一壱貫六拾四文　同　仙年寺
一六貫四百拾五文　同　喜重良
一壱貫三百五拾三文　同　勝左衛門㊞
一八百五拾三文　千福村　普明寺
一八百拾壱文　栄助賄分㊞
一九百三拾三文　新田　彦兵衛㊞

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三三　文政一三年二月吉日　井組二九ケ村高反別等書上（一八三〇）

井組弐拾九ケ村者

酒井大内記様　伏見村

一高百五拾六石四斗四升三合

山岡五郎作様　同村

一同百四拾六石也
　此反別弐拾四町七反四畝拾歩
安藤堅物様　新宿村
一高七拾八石三斗九升四合
　此反別六町七反壱畝廿三歩
水野出羽守様　竹原村
一高三百五拾七石八斗弐升三合
　反別弐拾八町八反六畝廿五歩
右同断　下土狩村
一同七百三拾三石五合
　反別五拾九町八反壱畝拾五歩
右同断　中土狩村
一同五百八拾弐石六斗五升五合
　反別四拾五町四反弐畝廿九歩
　外ニ壱町壱反六畝六歩　畑田成
　不分
右同断　上土狩村
一同弐百七拾弐石四斗壱升六合
　反別廿三町六反五畝廿八歩
　内高弐百三拾九石壱斗八升壱合　地水高
右同断　納米里村
一同弐百五拾弐石弐斗四升壱合
　九町九反八畝歩　穴堰
　拾四町九歩　三俣
右同断　一色村
一同三拾四石壱斗四升八合
　弐町九反六畝三歩
右同断　富沢村
一同弐拾九石八斗五升三合
　三町六反九畝弐歩
右同断　伊豆嶋田
一同弐百三拾八石壱升三合
　拾三町七反七畝廿弐歩　大堰
　六町五反拾四分　三間堰
　内

高百六拾九石九斗六升五合　　地水高
右同断　　水窪村
一同百七拾弐石壱斗壱升三合
　拾四町四畝拾六歩
　内高百七拾石九斗八升四合　　地水高
内藤駒之丞様　　定輪寺村
一同拾弐石弐斗六升弐合
　壱町弐反六畝廿弐歩
右同断　　千福村
一高弐百廿弐石四斗三升八合
　拾六町壱反六畝拾八歩
　弐町七反弐拾九歩　　新堰
　壱反四畝廿三歩　　古堰
　内高
大久保出雲守様　　御宿村
一同弐百五拾三石壱斗八升七合
　八町四反弐畝廿九歩　　新堰
　拾六町五反八畝廿三歩　　古堰
　内高百五拾石四升壱合　　地水高
安藤堅物様　　上ヶ田村
一高三拾七石八斗九升四合
　四町四反三畝八歩
松平斧太郎様　　同村
一高三拾五石三升四合
　四町五畝拾歩
同断　　金沢村
一同四石五斗五合
　六反八畝廿九歩
同断　　葛山村
一同五石七斗三升八合
　四反弐畝九歩
稲葉主水様　　深良村
一同八百八拾石五斗壱升六合
　七拾五町六反七畝廿弐歩

内高六百七拾石八斗五升弐合　地水高
右同断　久根村
一同弐百四拾七石九斗三升弐合
壱町三反四畝九歩　大洞堰
拾八町八反弐畝廿六歩　さの堰
内高百六拾石七斗五升六合　地水高
大久保加賀守様　神山村
一高拾五石九斗五升九合弐夕
壱町四反弐拾九歩
内高六斗五升九合弐夕　地水高
右同断　麦塚村
一同三拾六石壱斗九升壱合
弐町八反四畝五歩
右同断　二ツ屋新田
一同三拾六石弐斗八合
三丁(町)壱反歩　堰四ヶ所
右同断　岩波村

一同九拾六石三斗九升壱合
壱町壱反壱畝廿五歩　大洞堰
七町三反九畝廿弐歩　カハせ水
内高拾三石五斗八升四合　地水高
右同断　石脇村
一同百廿九石八斗四升五合
三丁(町)六反四畝七歩　大洞堰
七町六反五畝五歩　佐野堰
内百弐石八升　地水高
右同断　佐野村
一同四百三拾石五斗四升四合
三拾六町三反三畝弐歩　二本松共
内高百八拾四石七斗　地水高
右同断　公文名村
一高百五拾壱石八斗八升六合
拾五町三反四畝六歩
右同断　稲荷村

一同百拾四石六斗三升三合
　九町壱反壱畝拾壱歩　　畑田成
　外ニ壱反四畝拾六歩　　茶畑村
右同断　　堰八ヶ所
一高百八拾石六合弐タ
　拾四町八反九畝廿三歩　　平松新田
右同断
一同百五拾石弐斗七升八合
　拾四町壱反八畝壱歩　　堰廿一口
　外ニ四反弐畝廿弐歩　　前々ゟ畑成

〆弐拾九ヶ村、但シ九給
　右領主高分ヶ

小田原領
一高千三百四拾壱石壱斗三升八合

沼津領
一同弐千六百七拾弐石弐斗六升七合

稲葉
一高千百廿八石四斗四升八合

大久保
一同弐百五拾三石壱斗八升七合

内藤
一同弐百三拾四石六斗九升四合

酒井
一同百五拾六石四斗四升三合

山岡
一同百四拾六石

安藤
一同百拾六石弐斗八升八合

松平
一同四拾五石六斗七升九合

〆○御添年番順
稲葉　申・辰・子
山岡　酉・巳・丑

酒井　戌・午・寅
水野　亥・未・卯
内藤　子・申・辰
松平　丑・酉・巳
安藤　寅・戌・午
大久保　卯・亥・未

（「地方諸事控」　裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二五　弘化三年（一八四六）一一月　井組二九ヶ村高明細帳

（表紙）

弘化三丙午年　　久根村

湖水掛り井組廿九ヶ村高明細帳
井組本高不残
地水湖水高村々畑高
家数人別男女取調　勝又弥右衛門控置
私領出金高明細有之

乍恐以書付奉申上候

今般箱根山湖水懸用水国役御普請之儀、酒井采女様外御給々ゟ御願上ニ相成候付、被成御見分候付、右御普請被仰付候節者、私共村々之儀銘々領主ゟ願者無之候得共、先前弐拾九ヶ村組合用水之儀ニ付、御定之通高百石に付金拾両宛私領出金之儀銘々役場江申立置、御差支之儀無

御座候、依之以書付奉申上候、以上

弘化三午年十一月

御普請御見分懸
御役人中様

覚

一高拾五石九斗五升九合　大久保加賀守領分　駿州駿東郡　神山村
一高弐拾三石八斗弐升八合　岩波村
一高弐拾七石三斗九升七合　石脇村
一高弐百四拾石六斗六升弐合　佐野村
一高百四拾石弐斗六升九合　公文名村
一高五拾六石五斗弐升　稲荷村
一高百九石弐斗五合五夕　茶畑村
一高九拾五石弐斗八升壱合　平松新田
一高三石五斗七合　麦塚村
一高弐拾八石九升八合　二ツ谷新田

小以高七百三拾五石七斗弐升六合五夕

一高弐拾四石六斗九升壱合　水野惣兵衛領分　同州同郡　竹原村
一高四拾九石壱斗三升弐合五夕　下土狩村
一高八拾弐石四升三合　中下狩村
一高三拾弐石八升七合　上下狩村
一高弐拾五石八斗三升九合　納米里村
一高拾五石壱斗八升七合　富沢村
一高四石三斗六升六合　伊豆嶋田村
一高壱石壱斗弐升八合　水窪村
一高弐石六升弐合　一色村

小以高弐百三拾六石五斗三升五合五夕

一高百三石壱斗四升六合　大久保長門守領分　同州同郡　御宿村

一高壱石　　酒井采女知行
　　同州同郡　伏見村

一高五石七斗三升八合　　松平内蔵允知行
一高弐拾四石三升三合　　同州同郡　葛山村
一高四石九斗五合　　上ヶ田村
　　金沢村

一高九斗弐升弐合　　内藤鄒之丞知行
　　同州同郡　定輪寺村
一高拾三石壱斗八升四合　　千福村

一高弐百五石弐斗五升弐合　　稲葉金之丞知行
　　同州同郡　深良村
一高七拾弐石四升四合　　久根村

一高壱石弐斗　　山岡対馬守知行
　　同州同郡　伏見村

一高弐拾石六斗弐升八合　　安藤左兵衛知行
　　同州同郡　新宿村
一高拾壱石九斗八合　　上ヶ田村
　小以高四百六拾三石九斗八升八合
合高千四百三拾六石弐斗五升　用水掛弐拾九ヶ村組合高
右者箱根湖水懸用水組合高、書面之通相違無御座候、以上

　　御普請御見分
　　御役人中様

十月廿三日

御見分御役人様御出役被成下候

　　佐藤睦三郎様
　　渡辺松三郎様

　　三嶋宿御泊り
　　相模屋利兵衛方へ御泊

小者御壱人ツヽ、

駄荷壱駄ツヽ、御持参、佐藤様計御駕籠、渡部様御歩行ニテ御出役被下候

三嶋御出立朝正五ツ時、深良村町田庄左衛門方へ宿相頼着九ツ時御出

御出迎
水配惣代人
不残三嶋宿迄罷越候

廿四日直様湖水表御見分被遊、御案内人仲蔵・弥右衛門・林右衛門・久左衛門・瀬平・安平、外ニ宿源兵衛殿、弁当才領寿さ、小屋昼食

惣代宿　久左衛門隠宅

翌廿五日雨天ニ而御見分御休ミ被遊、廿六日豊後堰ゟ新川通り御宿堰・佐野堰・富沢堰并堰原大堰迄不残御見分被下其儘御出立、沼津宿御泊り、宿とらや方へ御旅宿被成、為御送りト惣代宇平治・弥右衛門・久左衛門・瀬平・吟右衛門外ニ宿源兵衛御送り申候

御見分様御出役之前

稲葉様御内

児玉辰蔵様御用ニ而御出役被成、御見分様へ御機嫌窺ニ御出被成候

為御進物与

金弐分ツヽ、御遣江被成候

小田原御代官

川添勘助様御機嫌伺ニ御越被成候

御手代
山崎金治様
小者御壱人

御進物

金三分ツヽ、御遣シ被成候

十月廿五日御出役

十月廿五日出役

水野様

御代官
森下格之助様　御機嫌窺ニ御出役被成候
御手代
田所八五郎様
郷方
成岡源治郎様
若当　御壱人
小者　弐人
御進物
金三分ツヽ差上候
大久保長門守様御代官
和田善太夫様　御機嫌伺ニ御出役被成候
御手代　山内伴平様
小者　壱人
御進物
金三分ツヽ差上申候
十月廿五日御出役
内藤鄒之丞様御用人代
御進物金弐分ツヽ差上申候
比奈陣屋御出役被成候
十一月廿六日御機嫌窺ニ御出役被成候
芦川増造（ぞう）　是ハ大野村牧士也
御見分様内小者弐人江
前内金五両ツヽ遣シ候
同拾両金入用仕候
江戸表ニ而御普請役様手続相願申上度石川長蔵様江為御
菓子料与
金五両ニ遣申上候
神無月（十月）廿日出府人　治三郎儀右衛門両人ニ而
石川氏へ参り申候
右御見分様江其節差出し申候書願之わけ
井組廿九ケ村ニ而村々
私領出金高帳銘細書上申候、尤小田原様御領分一
冊、水野様御領分一冊、御給々村々一冊ツヽ書上

申候

外ニ廿九ヶ村高之内畑高・湖水高・地水高、家数
人別男女仕分ヶ高反別銘細帳村々書上申候
御普請御見分役様へ差上候書面向ニ書記シ申候

私領出金高　水野惣兵衛様御領分

私領出金高之訳ヶ

高弐拾四石六斗九升壱合　竹原村
高四拾九石壱斗三升弐合五夕　下土狩村
高八拾弐石四升三合　中土狩村
高三拾弐石八升七合　上土狩村
高弐拾五石八斗三升九合　納米里村
高拾五石壱斗八升七合　富沢村
高四石三斗六升六合　伊豆嶋田村
高壱石壱斗弐升八合　水窪村
高弐石六升弐合　一色村

九ヶ村組

(小)
こ以〆弐百三拾六石五斗三升五合五夕

大久保加賀守様御領分

私領出金高之訳ヶ

高拾五石九斗五升九合　神山村
高弐拾三石八斗弐升八合　岩波村
高弐拾七石三斗九升七合　石脇村
高弐百四拾石六斗六升弐合　佐野村
高百四拾石弐斗六升九合　公文名村
高五拾壱石五斗弐升　稲荷村
高百九石弐斗五合五夕　茶畑村
高九拾五石弐斗八升壱合　平松新田村
高三石五斗七合　麦塚村
高弐拾八石九升八合　二ツ屋新田

拾ヶ村組

(小)
こ以七百三拾五石七斗弐升六合五夕

大久保長門守領分

高百三石壱斗四升六合　御宿村

稲葉金之丞知行所

高弐百五石弐斗五升弐合　深良村
高七拾弐石四升四合　同断　久根村
高九斗弐升弐合　内藤鄜之丞知行所　定輪寺村
高拾三石壱斗八升四合　同知行所　千福村
高壱石　酒井采女知行所　伏見村
高弐拾石六斗弐升八合　安藤左兵衛知行所　新宿村
高拾壱石九斗弐升壱合　同知行所　上ヶ田村
高壱石弐斗　山岡対馬守知行所　伏見村
高五石七斗三升八合　松平内蔵允知行所　葛山村
高弐拾四石四斗八合　同知行所　上ヶ田村
高四石九斗五合　同知行所　金沢村
（小）
こ以〆四百六拾三石九斗八升八合　拾ヶ村組
此内三百六十石八斗四升弐合　給取高
合高千四百三拾六石弐斗五升

右此私領出金之儀ハ、湖水ニ而開候田地之高江掛り、当井組之義ハ享保年中之頃ゟ水不足ニ相成、右開ヶ候田地之内元之畑ニ相成村方ニ有之候間、其畑ニ相成候分之高ヲ右開候高之内ニ而引取、千四百三拾六石弐斗五升ニ成り、是ハ天明年中之私領出金之高也、是ニ合候様ニ仕可差上旨被仰付候間、所々ゆすらゐ合右之高ニ拵差上申候、尤国役御普請之節計取用申候高故、後年ニ至何之差構無御座候よし被仰付候、後学之ため書残置もの也

井組廿九ヶ村本高控

高百三拾四石九斗六合　新宿村
同弐百九拾石七斗九升九合　一色村
同百三拾九石弐升弐合　岩波村
同千四百七拾三石壱斗五升九合　深良村
同四百廿五石弐升五合　久根村
同七拾七石四斗弐升九合　（上ヶ田村
同八拾壱石壱斗八升九合　（松平内蔵允様分）同村
同三百八拾六石四斗五升　（安藤左兵衛様分）御宿村
同百九石四斗九升七合　金沢村
高七百五拾七石六斗三合　茶畑村
同弐百拾三石壱斗壱升六合　麦塚村
同五拾石九斗壱升　二ツ屋新田
同六百廿三石壱斗七合　神山村
同百五拾七石弐斗壱升九合　石脇村
同四百廿壱石四升四合　葛山村（山岡対馬守様分）
同三百廿七石弐斗三升七合　伏見村

同三百六拾五石七斗九升六合　酒井采女様分）同村
同三百廿壱石七斗九升九合　納米里村
同百八拾石八斗三升壱合　富沢村
高六百八拾七石壱斗九升七合　中土狩村
同三百三拾七石弐升弐合　公文名村
同百四拾弐石三斗壱升九合　稲荷村
同百九拾七石六斗七升七合　平松新田
同四百四拾四石六斗五升三合　千福村
同弐拾弐石四升四合　定輪寺村
同三百三拾弐石三斗八升壱合　上土狩村
同九百七拾石弐斗八升五合　下土狩村
同三百八拾八石九斗七升四合　竹原村
同五百六拾三石弐斗五升弐合　佐野村
同百八拾四石六斗三升三合　水窪村
同三百七石八斗八升四合　鳴田村

〆（マヽ）

弘化三丙午年
高反別書上帳
十一月　日　倉半蔵認
高四百弐拾五石弐升五合　久根村
内
高九拾石九斗六升三合九夕　畑方
此反別拾壱町五反八畝十三歩
高八拾六石三斗弐升九合壱夕　出水掛り
此反別七町九反弐セ廿七歩
高弐百四拾七石九斗三升弐合　湖水掛り
此反別拾八町六反三畝廿八歩
家数六拾八軒
人数三百七人　内男百五拾三人 女百五拾四人
右之通りニ御座候、以上
弘化三午年十一月日
稲葉金之丞知行所
駿州久根村
名主　弥右衛門印
組頭　忠　蔵印
同　甚右衛門印
百姓代　嘉　助印

湖水御普請御見分
御掛り
御役人中様書面之通り御見分様へ井組村々銘々奉書上候
用水御支配
御役人中様
右之通り小田原表へ井組廿九ヶ村銘々書上差出申候
井組廿九ヶ村地水湖水掛り畑分ケ
高反別家数人別
男女内訳ケ銘細控
左之通り
高三百三拾七石弐升弐合　公文名村
内
高六拾九石三斗九升　畑方

此反別八町四反四畝八歩
高弐百六拾七石六斗三升弐合　田方
此反別弐拾弐町弐反壱畝拾歩
高百五拾壱石八斗八升六合　湖水掛り
此反別拾壱町六反七畝三歩
残而高百拾五石七斗四升六合　出水掛り
此反別拾町五反四畝七歩
高百四拾弐石三斗壱升九合　稲荷村
内
高弐拾七石七斗六合　畑方
此反別　六町八反八畝廿弐歩
高百拾四石六斗壱升三合　田方湖水掛り
此反別九町六反六畝九歩
家数六拾三軒
人別弐百四十八人　内男百三十三人女百十五人
右之通り御座候、以上

公文名村

名主　宇平治印
組頭　市右衛門印
同　弥四郎印
百姓代　平吉印

高百九拾七石六斗七升七合　平松新田
内
高四拾七石三斗九升九合　畑方
此反別拾六町壱反四畝廿弐歩
高百五拾石弐斗七升八合　湖水掛り田方
此反別拾四町壱反八畝廿壱歩
家数弐拾五軒
人数八十壱人　内男三十五人女四十六人
右之通り御座候、以上

茶畑新田
名主　甚太郎印
組頭　大助印

高七百五拾七石六斗三合　茶畑村

内
高百七拾三石弐斗五升三合　畑方
　此反別弐拾七町八反八畝拾六歩
高五百八拾四石三斗四升三合五夕　田方
　此反別五拾壱町九反壱畝歩
内
高百八拾石六合五夕　湖水掛り
　此反別拾四町八反九畝廿三歩
高四百四石三斗四升三合五夕　出水掛り
　此反別三拾七町壱反五畝弐歩
家数百三拾六軒
人数五百四拾壱人　内男弐百七十壱人 女弐百七十人
右之通り御座候、以上

茶畑村
名主　甚　太　郎印
組頭　惣右衛門印
同　伝　蔵印

百姓代　伊左衛門印
神山村
高六百廿三石壱斗七合
内
高弐百六十九石三斗九升八合六夕六才　畑方
　此反別五拾町四反六畝拾弐歩
高三百五拾三石七斗八合三夕四才　田方
　此反別弐拾八町五反四畝弐拾五歩
内
高拾五石九斗五升九合二夕　湖水懸り
　此反別壱町四反廿九歩
高三百三拾七石七斗五升三夕六才　上郷二子村ゟ出水懸り分
家数百三拾軒
人数五百廿五人　内男弐百七十六人 女弐百四十九人
右之通り御座候、以上

神山村
名主　源　治　郎印
組頭　九　平　治印

同　平右衛門印
同　銀左衛門印
同　忠治郎印
百姓代　忠右衛門印
同　太郎左衛門印

麦塚村

高弐百拾三石壱斗壱升六合
内
高五拾弐石壱斗四升壱合　畑方
此反別八町九反三畝壱歩
高百六拾石九斗七升五合　田方
此反別拾弐町九反拾壱歩
内
高三拾六石壱斗九升三合　湖水懸り
此反別弐町八反四畝十五歩
家数三拾軒
人数百三拾四人　内男六十四人 女七十人
右之通り御座候、以上

麦塚村
名主　与祖右衛門印
組頭　要右衛門印
役人代　太　吉印
百姓代　三右衛門印

二ツ屋新田

高五拾石九斗壱升
内
高拾四石八斗八升弐合　畑方
此反別三町八反六畝十三歩
高三十六石弐升八合　田方 湖水掛り
此反別三町壱反歩
家数拾四軒
人数六拾三人　内男三十五人 女廿八人
右之通り御座候、以上

二ツ屋新田
名主　佐兵衛
百姓代　永　吉印

高百三拾九石弐升弐合　　岩波村
　内
高四拾弐石六斗三升壱合　畑方
　此反別七町七反七畝三歩
高九拾六石三斗九升壱合　湖水懸り
　此反別八町拾九歩
家数弐拾壱軒
人数百四人　内男六十壱人 女四十三人
右之通御座候、以上
岩波村
名主　伴右衛門印
組頭　太兵衛印
百姓代　助右衛門印

高六百八拾七石壱斗九升七合　　中土狩村
　内
高百四石五斗四升弐合　畑方
　此反別弐拾町三反弐畝拾九歩五厘
高五百八拾弐石六斗五升五合　田方 湖水懸り
　此反別四十七町七畝廿八歩五厘
家数五拾九軒
人数弐百七拾九人　内男百三十八人 女百四十壱人
右之通り御座候、以上
百姓代　祐蔵印
組頭　儀左衛門印
同帳元　清治郎印

高百三拾四石九斗六合　　新宿村
　内
高七拾八石三斗九升四合　湖水掛り
　此反別六町八反壱畝廿七歩
高三十三石八斗六升弐合　地水掛り
　此反別弐町七反六セ廿九歩
高拾三石弐斗五升　畑方
　此反別壱町七反七セ八歩
高九斗四升　屋敷畑

此反別九反四畝歩
家数六拾八軒
人数三百九人　内男百五十六人 女百五十三人
右之通り御座候、以上

新宿村
名主　源左衛門印
与頭　茂惣治印
百姓代　又市印

高弐百九拾石七斗九升九合　一色村

内
高九拾弐石弐斗五升九合壱夕　畑方
此反別拾六町壱反拾五歩
高百九拾八石五斗三升九合九夕　田方
此反別拾七町壱反五畝十三歩
此内
高三拾四石壱斗四升八合　湖水懸り
此反別三町弐反九畝十八歩

高百六拾四石三斗九升壱合九夕　地水懸り
此反別拾三町八反六畝三歩
家数五拾七軒
人数弐百五拾六人　内男百廿四人 女百三十弐人
右之通御座候、以上

一色村
組頭　丈右衛門
同　勘蔵
帳元 組頭　半右衛門

山岡様分
伏見村

高三百廿七石弐斗三升七合
内
高六十弐石八斗三升　畑方
此反別拾町五反弐セ歩
高百四十壱石　湖水掛り
此反別拾壱町七反弐畝七歩
高三拾弐石八升六合七夕　田畑成り

此反別弐町七反弐セ廿三歩
高百廿三石四斗七合　千貫樋用水懸り
但シ組合村之義ハ玉川村・伏見村・八幡村・長沢村・
柿田村右五ヶ村組合ニ御座候、水元之義ハ豆州三嶋
宿小浜と申所ニ御座候
家数弐拾七軒
人数七十八人　内男三十七人
女四十壱人
百姓代　仲右衛門印
組頭　松右衛門印
名主　五　平印
酒井様分
伏見村

高三百六十五石七斗九升六合
内
高七拾壱石四斗三合　畑方
此反別拾壱町七反五畝廿八歩
高百五拾六石四斗四升三合　湖水懸り
此反別拾三町弐反拾九歩

内
高三拾五石八斗六升七合　田畑成り
此反別三町四畝廿六歩
高百三拾七石九斗五升　千貫樋用水懸り
右組合同断ニ御座候
下家数百四拾六人　内男七十八人
(人)　女六十八人
上人数弐拾七軒
(家)
右之通り御座候、以上
伏見村
百姓代　祐右衛門印
組頭　治　兵　衛印
名主　八右衛門印
富沢村

高百八拾石八斗三升壱合
内
高四十四石五斗七升五合　畑方
此反別七町壱反壱畝六歩
高百三拾六石弐斗五升六合　田方

此反別拾弐町弐反八畝五歩
内
高廿九石八斗五升三合　湖水掛り
此反別三町六反九畝弐歩
高百六石四斗三合　出水掛り
此反別八町六反九畝三歩
家数三十七軒
人数百六十九人　内男八十壱人 女八十八人
右之通り御座候、以上

富沢村
名主　太　七印
組頭　文　助印
百姓代　祐　治　郎印

納米里村
高三百廿壱石七斗九升九合
内
高六拾九石五斗五升八合　畑方
此反別拾四町三反壱畝拾弐歩

高弐百五拾弐石弐斗四升壱合　湖水掛り
此反別弐拾三町六反八畝弐歩
家数五拾八軒
人数弐百六十弐人　内男百廿八人 女百三十四人
右之通り御座候

名主　幸　七印
組頭　民　蔵印
百姓代　栄左衛門印

松平様分
上ヶ田村
高七拾七石四斗弐升九合
内
高弐拾四石五斗八升六合　畑方
此反別三町三反壱セ拾歩
高五拾弐石八斗四升三合　田方
此反別五町四反八畝四歩
内
高三拾五石三升六合　湖水掛り

此反別四町七セ廿九歩
高拾七石八斗壱合　出水掛り
此反別壱町四反五歩
家数拾五軒
人数七十壱人　内男三十六人 女三十五人
右之通り御座候、以上

百姓代　庄左衛門印
組頭　伊右衛門印
名主　忠左衛門印

金沢村

高百九石四斗九升七合
内
高七拾七石六斗弐升三合　畑方
此反別拾三町四畝三歩
高三拾壱石八斗七升四合　田方
此反別三町四反五畝弐歩
内
高四石九斗五合　湖水掛り

此反別六反七畝五歩
高弐拾六石九斗六升八合　出水懸り
此反別弐町七反八セ七歩
家数拾六軒
人数六十五人　内男三十六人 女廿九人
右之通り御座候、以上

組頭　新太郎印
名主　忠左衛門印

御宿村

高三百八拾六石四斗五升
内
高百三拾三石弐斗六升三合　畑方
此反別四拾五町四反三畝廿弐歩
高弐百五拾三石壱斗八升七合　湖水掛り
此反別弐拾五町壱畝拾弐歩
家数七拾軒
人数弐百五拾三人　内男百三十弐人 女百弐十壱人
右之通り御座候、以上

高八拾壱石壱斗八升九合

内

高弐拾五石八斗弐升八合　畑方
　此反別三町八反廿壱歩
高拾七石四斗六升七合　地水掛り
　此反別壱町四反九畝廿三歩
高三拾七石八斗九升四合　湖水掛り
　此反別四町四反四畝十弐歩

家数八軒
人数三拾人　内男拾三人 女拾七人

右之通り御座候、以上

百姓代　友左衛門印
組頭　庄兵衛印

百姓代　仁右衛門印
組頭　栄助印
名主　吟右衛門印
安藤様分
上ヶ田村

高四百廿壱石四升四合

内

高三百三拾壱石八斗六升七合七夕　畑方
　此反別七拾壱町八反八畝弐歩
高八拾九石壱斗七升六合三夕　田方
　此反別六町八反壱畝廿七歩

内

高五石七斗三升八合　湖水掛り
　此反別四反壱畝五歩
高八拾三石四斗三升八合三夕　出水懸り
　此反別六町四反弐セ廿弐歩

家数六十八軒
人数三百九拾壱人　内男百八十弐人 女弐百九人

右之通り御座候

百姓代　忠右衛門印
組頭　勝右衛門印
名主　儀右衛門印

葛山村

高四百四十四石六斗五升三合　　千福村

内　弐石壱斗　小物成高

高百四拾三石壱斗九升三合　畑方

此反別弐拾五町弐反八セ四歩

高七拾六石九斗弐升八合　地水懸り

此反別六町三反七畝十五歩

高弐百廿弐石四斗三升弐合　湖水懸り

此反別拾弐町八反三畝廿歩

家数六拾三軒

人数三百拾弐人　内男百四拾九人 女百六十三人

高弐拾弐石四升四合　　定輪寺村

内

高九石七斗八升弐合　畑方

此反別壱町五反壱セ拾弐歩

高拾弐石弐斗六升弐合　湖水懸り

此反別壱町壱反三畝三歩

家数七軒

人数四拾三人　内男十四人 女廿九人

右之通り御座候、以上

名主　太　　平印

組頭　助左衛門印

百姓代　六郎左衛門印

高千四百七拾三石壱斗五升九合　　深良村

内

高三百七拾石六斗七升六合　畑高

此反別五拾四町七畝拾歩

高弐百弐拾壱石九斗六升七合　地水掛り

此反別拾九町九反六畝歩

高八百八拾石五斗壱升六合　湖水掛り

此反別七拾壱町六反九畝四歩

家数弐百三拾壱軒

人別九百九拾人　内男五百拾三人 女四百七拾七人

右之通りニ御座候

深良村

名主　治兵衛
同　源兵衛
同後見　仲蔵
与頭　清左衛門
百姓代　源蔵

高五百六拾三石弐斗五升弐合　佐野村
内
高百三拾弐石七斗八合　畑高
此反別弐拾七町壱反五畝拾六歩
高四百三拾石五斗四升四合　湖水掛り
此反別三拾七町三反弐畝九歩
家数百拾四軒
人別五百五人　内男弐百五拾四人 女弐百五拾壱人
右之通りニ御座候

佐野村
名主　源五郎
同　儀左衛門

与頭　順蔵
同　源右衛門
百姓代　嘉六

高三百三拾弐石三斗八升壱合　上土狩村
内
高五拾九石九斗六升五合　畑高
此反別拾壱町四反七畝弐拾六歩
高弐百七拾弐石四斗壱升六合　田高 湖水掛り
此反別弐拾六町壱反八畝廿壱歩
家数五拾壱軒
人数弐百三拾九人　内男百弐拾六人 女百拾三人
右之通りニ御座候

上土狩村
百姓代　安右衛門
与頭　林右衛門
名主　源吉

高九百七拾石弐斗八升五合　下土狩村

内
高弐百四拾石壱斗八合　畑高
此反別五拾町六反六畝拾六歩
高七百三拾石壱斗七升七合　田高
此反別六拾町壱反弐畝弐拾四歩
内
高弐石五斗六升九合　木瀬川地水掛り本宿村掛ケ合
此反別弐反七畝拾六歩
高七百廿七石六斗八合　湖水掛り田高
此反別五拾九町八反五畝八歩
外ニ
高五石三斗九升七合　湖水掛り御除地高村高之外
此反別四反壱畝八歩
二口合高七百三拾三石五合
反別六拾町弐反六畝拾六歩
家数百弐拾八軒
人別五百七拾五人　内男弐百七拾七人 女弐百九拾八人

右之通りニ御座候
下土狩村
百姓代　仙右衛門
与頭　喜平治
名主　瀬平
伊豆嶋田村
高三百七石八斗八升四合
内
高六拾石八斗五升壱合　畑高
此反別拾弐町壱反九畝壱歩
此わけ
高弐百四拾七石三升三合
此反別弐拾壱町九反弐畝六歩　田方
高弐百三拾八石壱升三合　湖水掛り
此反別廿壱町弐畝歩
高九石弐升　地水掛り
此反別九反六歩
家数五拾壱軒

人別弐百拾五人　内男百拾壱人 女百四人
右之通奉書上候処相違無御座候、以上
弘化三午年十一月

伊豆嶋田村
百姓代　長左衛門
組頭　喜久八
同　善右衛門
名主　茂太郎

用水御支配
御役人中様

高三百八拾八石九斗七升四合　竹原村本高
此反別三拾三町六反八畝八歩
此わけ
高三百五拾四石七斗五升九合　田高
此反別弐拾八町六反壱畝拾歩
高三石六升壱合　田畑成
此反別弐反五畝拾五歩

小以〆高三百五拾七石八斗弐升三合　湖水掛り
此反別廿八町八反七畝歩
高三拾壱石壱斗五升四合　畑高
此反別四町八反壱畝八歩
合高三百八拾八石九斗七升四合
此反別三拾三町六反八畝廿八歩
家数三拾八軒
人数百七拾弐人　内百六人男 六拾六人女
右之通相違無御座候、以上

竹原村
名主　茂兵衛
与頭　伝左衛門
百姓代　丈右衛門

湖水御普請
御役人中様

高百八拾四石六斗三升三合　（水窪村）
内

高拾弐石五斗弐升　畑高
　此反別壱町五反壱畝十弐歩
高百七拾弐石壱斗壱升三合　湖水掛り
　此反別拾四町五畝拾歩
家数廿七軒
人数百廿壱人　内男五拾六人 女六拾五人
右之通奉書上候処相違無御座候、以上
弘化三午年十一月　水窪村
　名主　治三郎
　与頭　茂八
　百姓代　吉兵衛

湖水御普請御見分
御役人中様

西之内継紙

差上申御請書之事

水掛高千四百三拾六石弐斗五升之内
水掛高三百六拾石八斗四升弐合

高拾三石壱斗八升四合　酒井采女知行
高九斗弐升弐合　駿州駿東郡
　伏見村
高壱石　松平内蔵允知行
　同州同郡
　葛山村
高五石七斗三升八合　上ヶ田村
高弐拾四石四升八合　金沢村
高四石九斗五合　内藤鄒之丞知行
　同州同郡
　定輪寺村
　千福村
高弐百五石弐斗五升弐合　稲葉金之丞知行
高七拾弐石四升四合　同州同郡
　深良村
　久根村

高壱石弐斗

山岡対馬守知行
同州同郡　伏見村
安藤左兵衛知行
同州同郡　新宿村

高弐拾石六斗弐升八合
高拾壱石九斗弐升壱合　上ヶ田村

右者箱根山湖水掛用水国役御普請銘々地頭ゟ奉願候ニ付、今般被成御見分候処、右御普請被仰付候節者、私共村々之儀銘々地頭ゟ御定之通高百石ニ付金拾両宛私領出金差出候儀被仰渡、其段銘々役場江申立置御差支之儀無御座候、依之以書付御請奉申上候、以上

弘化三丙午年十一月

酒井采女知行
駿州駿東郡
伏見村
名主　八右衛門　印

松平内蔵允知行
――郡
葛山村
名主　儀右衛門　印

内藤鄜之丞知行
――郡
千福村
名主　太兵衛　印

稲葉金之丞知行
――郡
深良村
名主　治三郎　印
久根村
名主　弥右衛門　印

山岡対馬守知行
――郡
伏見村

名主　五　兵　衛　印

安藤左兵衛知行
――郡
新宿村

名主　源　左　衛　門　印

御普請御見分
御役人中様

差上申御請出之事　　西之内継紙

水掛高千四百三十六石弐斗五升之内
水掛高千七拾五石四斗八合
内

大久保加賀守領分
駿州駿東郡
高――神山村
同――岩波村
同――石脇村
同――さの村
同――公文名村

同――いなり村
同――茶畑村
同――平松新田
同――麦塚村
同――二ツ屋新田

水野惣兵衛領分
同州同郡
高――竹原村
同――下土狩村
同――中土狩村
同――上土狩村
高――水窪村
同――納米里村
同――一色村
同――富沢村
同――伊豆嶋田村

大久保長門守領分
高――御宿村

右者今般箱根山湖水掛用水国役御普請之儀、酒井采女様外御給々ゟ御願立ニ相成候ニ付被成御見分候、右御普請被仰付候節者、私共村々之儀銘々領主ゟ願者無之候得共、

先前廿九ヶ村組合用水之儀ニ付、御定之通高百石ニ付金
拾両ツヽ、私領出金之儀銘々役場江申立置、御差支之儀無
御座候、依之以書付奉申上候、以上

弘化三丙午年十一月

大久保加賀守領分
拾ヶ村惣代
駿州駿東郡
公文名村
名主　宇平治印

佐野村
名主　儀右衛門印

水野惣兵衛領分
同州同郡
上土狩村
名主　安兵衛印

下土狩村
名主　瀬平印

大久保長門守領分
同州同郡
御宿村
名主　吟右衛門印

御普請御見分
御役人中様

十一月廿七日三嶋宿松村屋へ御泊、同廿八日御逗留書類
差上申候、廿九日朝暁御出立被遊候

佐藤睦三郎様へ金弐拾両也　献上

御供へ金壱両也遣ス、是ハ最初御見分之時御供
両人江五両ツヽ遣シ申候処、御出頭ノ御供ニ付
察当有之候ニ付、又候遣シ申候、後ニハ御出頭
と御相役ニハ差別有之候様可致事

惣代人一同三嶋宿へ罷出申候、止宿升屋源助方
諸品直段付之儀西之内紙ヲ継認メ差上申候

差上申御請書之事

一槻壱本長　　末口

高百五拾七石弐斗壱升九合　　石脇村

内

高弐拾七石三斗七升八合五夕　畑高

此反別四町七反弐畝弐拾弐歩

高百弐拾九石八斗四升五夕　田高湖水掛り

此反別拾壱町弐反弐畝拾三歩

家数三拾四軒

人別百五拾弐人　内男八拾四人 女六拾八人

右之通りニ御座候、以上

石脇村

与頭　善吉

同　清左衛門

百姓代　与右衛門

普請御見分御掛り

御役人中様

丸木尺〆法未口壱尺長弐間ならば、壱間ニ壱寸ツヽ太り加へ、元口ハ壱尺弐寸也、元ニ末ヲかけ合、図法七九ヲ懸ケ長ヲかけ弐間ニ而割、尺〆何本とか何分とか成、丸木ハ壱間ニ付壱寸ツヽ太りを加へる也、長壱丈と八尺ならば、弐間にて割てハ違ふ也、尺ニ直し壱丈弐尺ニ而割なり

角尺〆　是ハ八寸角ニ而も壱尺角ニ而も角ヲ懸ケ合、長ヲかけ弐間ニ而割也、是ハ長壱丈ニ而八尺ならハ壱丈弐尺ニ而割也

尺〆一本と申ハ、長弐間壱尺角是ヲ尺〆壱本と云也

弘化四正月、弥右衛門江戸御屋敷へ御年始出府其節金弐分ツヽ、御普請役元〆様方へ石川長蔵様ゟ御内通有之ニ付御挨拶申上候、取計御三人方江同壱両弐分也、入用

外ニ拾弐匁、石川様江持参物入用其節桑原様御道(同道)同ニ而迚(途)中ニ而休足入用
弐朱ト百文
同弐拾四匁　是ハ佐藤睦三郎様へ年礼旁々かつうふし弐連持参仕候
〆
臨時入用也
覚
金弐両也
内壱両者慥ニ請取申候、午十二月十日　深良　治三郎
（裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

第二節　水配人・水番

三五　元文三年（一七三八）五月一〇日　湖水水配役につき申達

湖水井掛水配役其村助左衛門退役ニ付、後役之儀自分井掛弐拾九ヶ村ゟ先達而願指出候ニ付、当御年番曾我主水様御役人中其村御地頭様御役人中江茂及相談ニ候処、弐拾九ヶ村願之通相済候間、水配上役可被相勤候、此間此方江相控可申談筋ニ有之候得共、水時分ニ付書面ヲ以如此候、甚五兵衛・十五郎被申合前格之通被得相心尤ニ存候、役義請書之儀者追而是ゟ可申奉候、以上

（元文三年）
五月十日

小倉七右衛門　印

深良村

名主　源　　蔵殿

（「源蔵覚書」　裾野市深良　志村守雄氏所蔵）

三六　天明五年（一七八五）六月一四日　中郷水配人助役宥免の願書

乍恐以書付奉願上候御事

一中郷水配人公文名村重左衛門儀、昨日ゟ病気ニ付当分為助役私相勤候様ニ今日被仰付承知奉畏候、依之松田常左衛門様と御一所ニ下手江罷越候様ニ被仰付候ニ付、宿江罷帰り仕度仕、夫ゟ伊豆嶋田迄罷出候処、俄ニ暑当りニ御座候哉相煩、何分参候儀難成、右場所ゟ無是悲罷帰り申候、依之為御届ケ組頭儀右衛門ヲ以下土狩村迄差遣シ、常左衛門様ニ御目ニ懸り右之趣申上候、只今迄之様子ニ而ハ明日之処も相勤り申間敷と奉存候間、何卒右助役之儀御勘弁ヲ以御免被下置候様ニ奉願上候、右奉願上候通被仰付被下置候ハヽ、難有仕合可奉存候、以上

天明五乙巳年六月十四日

茶畑村
名主　林　蔵㊞

塚部仁右衛門様
松田常左衛門様
小　関　文　助様
松熊栄左衛門様

右林蔵申上候通相違無御座候、以上

組頭　儀右衛門㊞
同　覚左衛門㊞

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

三七　文政九年三月　中郷水配人交替につき願書

（一八二六）

乍恐以書付奉願上候御事

一中郷水配上役佐野村名主常蔵相勤罷在候処、先達而欠落仕候ニ付、水配之儀御免被成下置候様ニ奉願上候、右後役之義組合村々相談之上、石脇村名主甚右衛門水配上役為相勤度御願奉申上候、御慈悲ヲ以右奉願上候通被　仰付被下置候ハヽ、井組一同難有仕合ニ可奉存候、以上

文政九丙戌年三月

深良村
名主　仲　蔵
同　次郎左衛門

岩波村
名主　伴　蔵㊞〻

神山村
名主　源　次　郎㊞〻
同　嘉　兵　衛㊞〻

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

三六　文政一〇年（一八二七）五月　水配上役交替一件

（表紙）

文政十丁亥年　　中郷水配
駿州駿東郡井組弐拾九ヶ村用水入用書附
五月日　　公文名村
宇　平　治

（内表紙）「

文政十丁亥年　　中郷公文名村
駿州駿東郡井組弐拾九ヶ村用水入用書附扣
五月日　　水配上役　宇　平　治

」

定年番　大久保加賀守様
添年番　水野出羽守様
大久保出雲守様
稲葉金之丞様
内藤駒之丞様
松平斧太郎様
酒井大内記様
山岡五郎作様
安藤図書様

乍恐以書付奉願上候

一中郷水配上役之儀、石脇村名主甚右衛門相勤メ罷在候処病身ニ罷成り候ニ付、水配之儀御免被成下置候様奉願上候、右後役之義者組合村々相談之上公文名村名主宇平治□水配上役為相勤度御願奉申上候、以御慈悲右奉願上候通り被仰付被下置候ハヽ、井組一同難有仕合ニ奉存候、以上

文政九丙戌年九月

深良村
名主　仲　蔵
同　半　□
岩波村

名主　伴　蔵
神山村
名主　源治郎
同　嘉兵衛
金沢村
名主　六左衛門
上ヶ田村
名主　伊左衛門
同　庄左衛門
葛山村
名主　徳右衛門
御宿村
名主　半　七
千福村
名主　文左衛門
定輪寺村
名主　文左衛門

富沢村
名主　勇　蔵
一色村
名主　治兵衛
納米里村
名主　源　蔵
水窪村
名主　茂兵衛
上土狩村
名主　林右衛門
中土狩村
名主　善　蔵
下土狩村
名主　権左衛門
同　平右衛門
竹原村
組頭　茂兵衛

伏見村
　名主　治兵衛
　同　平六
新宿村
　名主　定八
久根村
　名主　源蔵
石脇村
　組頭　良蔵
佐野村
　組頭　源五郎
公文名村
稲荷村
　組頭　平右衛門
　同　伝左衛門
茶畑村
平松新田
　名主　甚蔵
麦塚村
　名主　与祖右衛門
二ツ屋新田
　名主　佐兵衛
伊豆嶋田
　組頭　弘八

用水御支配
御役人中様

文政十丁亥年四月十五日

小田原御役所江被召出、中郷水配上役被仰付候
公文名村
　名主　宇平治
神山村差添人
　組頭　九兵衛

乍恐以書付奉願上候

一駿州駿東郡井組弐拾九ヶ村当用水御支配御役人中様例年御出在被成下置候処、当年之儀者雨継宜敷、只今迄之形ニ而者箇成りニ茂私共差略を以相届可申与奉存候間、御出在之儀御延引奉願上候、若シ又渇水仕行届不申候ハヽ早束(速)御注進可申上候、其節御出在被成下置候様奉願上候、右奉願上候通り被仰付被下置候ハヽ難有仕合ニ奉存候、以上

文政十丁亥年五月十九日

上郷深良村
水配上役　仲　蔵
同下役　林右衛門
中郷公文名村
水配上役　宇　平　治
茶畑村
同下役　文　四　郎
下郷下土狩村
水配上役　幸右衛門
竹原村
同下役　与　兵　衛

用水御支配
御役人中様

乍恐以書□(付)御注進奉申上候

一駿州駿東郡井組弐拾九ヶ村用水、例年之通湖水壱番戸昨十八日抜申候、依之右之段御注進奉申上候、以上

文政十丁亥□月十九日

水配六人印

用水御支配
御役人中

乍恐以□□(書付)御注進奉申上候

一□□用水井組弐拾九ヶ村田方植附之儀、最初之内者水不足ニ付湖水三番戸迄抜申候処、此節ニ至り候而者雨

継宜敷□月植附相済申候、依之右之段御注進奉申上候、
以上
文政十丁亥年六月十日　　水配六人印
用水御支配
御役人中様

乍恐以書付御注進奉申上候
一井組弐拾九ヶ村当用水之儀、雨継宜敷水沢山ニ而湖水
門戸先達而指候後抜不申候而、当十四日迄水配無滞り
相済申候、尤堰々魚猟不仕様建札仕置候、右之段乍恐
以書付御注進奉申上候、以上
文政十丁亥年六月十六日
水配六人印
用水御支配
御役人中様

定
一此川筋井組村々用水路ニ付、魚猟等決而致間敷候、若
シ心得違之もの於有之者咎可申付候、以上
文政十丁(亥)□年閏六月日　　用水配役人

乍恐以書付奉願上候
一下郷水配下役竹原村与兵衛相勤罷在候処、病身ニ罷成
り候ニ付水配之儀御免被下置候様奉願上候、後役之儀
者一統申談之上中土狩村組頭善蔵江右水配下役被　仰
付被　下置候様奉願上候、右奉願上候通被　仰付被
下置候ハヽ、難有可奉存候、以上
文政十三庚寅年四月
上郷深良村
水配上役　仲　蔵
中郷公文名村
同　宇平治

下郷下土狩村
同　幸右衛門
上郷深良村
水配下役　林右衛門
中郷茶畑村
同　又四郎
下郷竹原村
同　与兵衛

用水御支配
御役人中様

座候、為後日仍而如件

天保七申年十二月

三郷水配惣代
公文名村
水配　宇平治印

森為右衛門様
入江万五郎様
川口漉右衛門様
村田沖右衛門様

（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

水配給請取覚

一金三拾弐両壱分永九拾五文壱分三厘壱毛九糸

三郷□給

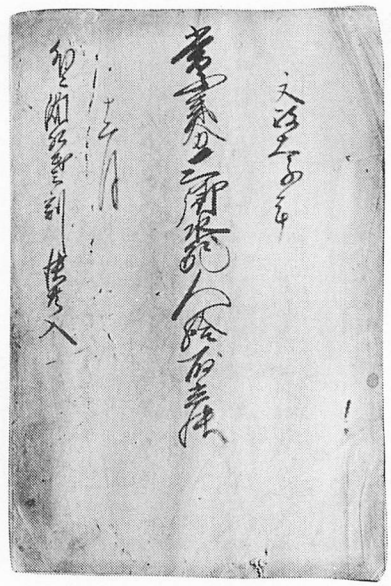
一金六両

三郷下役給料

〆金三拾八両壱分永九拾五文壱分三厘壱毛九糸

右者当申年三郷水配給被　下置難有奉頂戴候処実正ニ御

三五九　文政一一年一二月　井組三郷水配人給取立帳



（表紙）
文政十一子年
当子年分三郷水配人給取立帳
十二月
外ニ湖水暮割帳共入

一金拾八両弐分永七拾五文五分八厘壱毛四糸
此三分割
金六両永百九拾壱文八分六厘四糸
此金三朱銭廿八文
〆金六両三朱銭廿八文　壱人分
一米拾五石九斗七升五合
水配上役三人、壱人ニ付三人扶持日数勘定十二月分
此掛金拾八両弐分永七拾五文五分八厘壱毛四糸
但　金壱両ニ付平均八斗六升かへ
金壱両ニ付銭直六貫五百四拾八文かへ
一金六両　下役三人給金壱人弐両ツヽ
二口〆金弐拾四両弐分永七拾五文壱分六厘六毛七糸
此割高壱石ニ付永四文三厘五毛五糸
高合六千八拾九石七斗四升五合弐夕
一金弐分弐朱銭四拾文　伏見村
一同弐分壱朱銭四拾壱文　同村

一同壱分壱朱銭弐拾五文　新宿村
一同壱両壱分三朱銭四拾壱文　竹原村
一同弐両三分銭百三拾三文　下土狩村
一同弐両壱分壱朱銭弐百五拾二文　中土狩村
一同壱両銭百拾七文　納米里村
一同壱両壱朱銭弐百四拾文　上土狩村
一同弐朱銭八拾壱文　一色村
一同壱朱銭三百七拾七文　富沢村
一同三分三朱銭百四拾九文　伊豆嶋田
一同弐分三朱銭四拾五文　水窪村
一同銭三百弐拾三文　定輪寺村
一同三分弐朱銭百四拾七文　千福村
一銭百五拾文　葛山村
一同壱両銭百四拾壱文　御宿村
一同弐朱銭百八拾文　上ケ田村
一同弐朱銭百七文　同村
一同銭百弐拾九文　金沢村

一同三両弐分銭三百四拾八文　深良村
一同壱両銭三文　久根村
一同壱朱銭拾弐文　神山村
一同壱分弐朱銭八拾八文　岩波村
一同弐分銭百五拾五文　石脇村
一同壱両弐分三朱銭三百廿六文　佐野村
一同弐分壱朱銭三百三十七文　公文名村（ママ）
一同壱分三朱銭百六拾壱文　茶畑村
一同弐分三朱銭弐百五拾四文　平松新田
一同弐分壱朱銭弐百八十五文　麦塚村
一同弐朱銭百三拾七文　二ツ屋新田
一同弐朱銭百三拾弐文

右之通水配上役・下役給金当子年割合候間、十二月廿日
小田原役所江惣代ニ而可被相納候、尤帳面村下江致印形
早々相廻シ、留村ゟ無遅滞前広返却可有之候、以上

子十二月

松井恭助

深水程右衛門
森　為右衛門
塚部伊衛右衛門
川口漉右衛門

金弐両　　此訳ヶ　又四郎殿給金

銭壱貫八百六拾文、是ハ湖水割過茶畑村分
〆金弐両壱貫八百六拾文
差引
金三分銭九百六拾三文　過也
十二月廿六日使武右衛門ニ遣ス、相渡也

一金七両壱分銭弐貫弐百弐拾四文　上郷取集メ分
弐分六百八拾六文不足　中郷・下郷過遣ス
壱月廿五日使武右衛門ニ遣ス

一同八両壱分弐朱銭弐貫弐百六拾八文　中郷取集メ分
壱分三朱銭六百文　過　此分上郷江遣ス

一同八両三朱五百四拾文　下郷取集メ分
壱朱九拾文　過　此分上郷江遣ス

一金弐分三朱銭弐百五拾四文　茶畑村
一同弐分壱朱銭弐百八拾五文　平松新田
〆壱両壱分銭五百四拾三文
外ニ三百五拾文平松新田湖水割可出分
二口〆壱両壱分八百九拾三文

湖水暮割可出分
一銭八百九拾五文　竹原村
一同壱貫八百五拾四文　伏見村
一同四百八拾七文　新宿村
一同壱貫弐百六文　下土狩村
一同三貫弐百九拾壱文　中土狩村
一同壱貫七百文　上土狩村
一同壱貫七拾壱文　水窪村
一同百拾六文過　二ツ屋新田

一同三百五拾文　平松新田　一同百文　神山村
一同九百七拾壱文過　麦塚村　一同弐百九文　岩波村
一同壱貫八百六拾文過　茶畑村　一同拾弐貫拾四文過　深良村
一同六貫四百五拾六文過　公文名村　覚
一同壱貫九文　久根村　一銭壱貫弐百六文　下土狩村
一同壱貫八百七拾文　佐野村　一同四百八拾七文　新宿村
一同八百拾文　石脇村　一同壱貫八百五拾四文　伏見村
一同壱貫四百八拾弐文　伊豆嶋田　一同八百九拾五文　竹原村
一同壱貫五百七拾壱文　納米里村　一同壱貫七拾弐文　水窪村
一同弐百拾三文　一色村　五口〆　幸右衛門様取集〆被遣候分
一同百八拾三文　富沢村　〆五貫五百廿五文
一同七拾四文　定輪寺村　一同三貫弐百九拾壱文　中土狩村
一同壱貫百五拾九文　千福村　一同壱貫七百文　上土狩村
一同壱貫三百五拾壱文　御宿村　一同三百五拾文　平松新田
一同四百五拾四文　上ヶ田村　一同壱貫八百七拾文　佐野村
一同三拾五文　葛山村　一同八百拾文　石脇村
一同三拾文　金沢村　一同壱貫九文　久根村

一同壱貫四百八拾弐文　伊豆嶋田
七口〆拾貫五百弐拾四文宇平治方江取集〆候分
此訳ケ
一同百拾六文過　二ツ屋新田
一同九百七拾壱文過　麦塚村
一同壱貫八百六拾文過　茶畑村
一同六貫四百五拾六文　公文名村
四口〆九貫四百拾壱文引
残而壱貫百拾三文　宇平治方取集〆差引過分
五貫五百廿五文　幸右衛門様取集〆被遣候分
二口〆六貫六百三拾八文　仲蔵様江使富右衛門ニ遣ス
十二月十六日
（後欠）
（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

二六〇　安政三年（一八五六）七月七日　三郷水配人より用水潤沢につき注進書

乍恐以書付御注進奉申上候
一井組弐拾九ケ村当用水之儀、湖水門戸追々抜払ニ相成候時節ゟ雨継宜敷水沢山ニ而昨六日迄水配無滞相済申候、尤堰々魚猟等不仕候様申付建札仕置候、右之段乍恐以書付御注進奉申上候、以上
安政三辰年七月七日
上郷水配人上役　深良村　仲蔵
同下役同村　祐左衛門
中郷水配人上役　佐野村　佐十郎

同下役石脇村
弥四郎
下郷水配人上役
下土狩村
瀬平
同下役中土狩村
清次郎

用水御支配
御役人中様

（裾野市深良　大庭重一氏所蔵）

第三節　用水の施設（水門・掘抜・堰・堀）

二六一　元禄七年五月（一六九四）　水門の開扉の記録

一五月八日ニ、水門中ノ戸壱尺五寸明
一五月廿四日、右之上ケ残戸壱本上ケ申候
（中略）
一水門戸
五月廿七日ニ、御宿村ゟ人足八人甚左衛門召つれ参候

（元禄七年『戌年覚書』　沼津市　柏木正男氏所蔵）

二六二　元禄一一年七月（一六九八）　平松新田新堀方角覚

覚
一平松新田新堀、茶畑村境ゟ伊豆嶋田村迄よこ三間長五百七拾五間、但居村ゟ西ノ方ニ流御座候
一居村ゟ茶畑村境子ノ方、但村ゟ道法四百七拾五間
一居村ゟいつ嶋田村境未申方、但村ゟ道法弐百七拾□間
右ハ弐拾八年以前亥ノ年はこね堀貫本〆新堀仕候、□（平）松新田何年以前御朱印村ニ罷成候哉不奉存候
□少も相違無御座候、以上
（元禄十一年）寅七月

平松新田
徳□

大西吉太夫様
小形兵太夫様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

二六三　元禄一一年七月（一六九八）　茶畑村新堀方角覚

覚
一箱根堀抜水参候ニ付、弐拾八年以前亥ノ年新堀普請被仰付候、当村近所ハ三間堀、居村ゟ方角戌方、此道法居村ゟ三間堀迄七百拾四間御座候、川上戌亥ノ方稲荷

村分ゟ参候、当村分よこ三間長弐百弐拾八間御座候、
下ハ平松新田へ流申候
茶畑村之内平松新田何年以前御朱印村に罷成候儀存候
者書付差上ケ候様ニと被仰付候へ共、前々御沙汰無御
座候故不奉存候
右之通相改書付差上ケ申候、以上
元禄十一年寅七月
茶畑村
甚右衛門
佐右衛門
平右衛門
太郎兵衛
庄左衛門
七郎左衛門
大西吉太夫様
小形兵太夫様
（沼津市　柏木正男氏所蔵）

二六四　元禄一一年（一六九八）　国絵図作成のため箱根湖水新川取調

一此度日本国中御国絵図被遊候由、只今藤枝之御城ニ御
座候大田摂津守様、掛川之御城ニ御座候井伊兵部少輔
御両人様ゟ小田原へ御状参候ニ付、小田原御役人衆ゟ
御配符廻、御知行中新川新道之御せんき被成候、爰元
神山村ゟ下土狩村迄、川筋大立（重カ）候所計大ずノ絵図致差
上ケ申候、以前ノ御国絵図御座候而新季（ママ）之事計御改ニ
候哉と存候、五拾弐年以前正保二酉ノ年ゟ当年迄之新
紀（ママ）成ル事、新川・新道・新村之様成儀御改有之候元禄
十一年寅八月、小田原ゟ御代官大西吉太夫殿小形兵太夫殿此度絵図
被成、御公儀様へ御上ケ被成候　新堀川久根村ゟ伊豆
嶋田分堰原迄三間堀一、久根村川尻ゟ稲荷村迄ノ九尺
一、公文名村・いなり村・茶畑村・麦塚村迄弐間堀并
八まん脇水門口三間堀わけ場ゟミね通麦塚村分迄九尺
堀一、麦塚村ゟ平松新田へ出しよこ堀り、水窪穴堰ゟ
惣ケ原筋本宿村分迄ノ堀、此外古川も付候東川・木瀬

川并箱根掘抜水参候深良村之内須かま新堀、但神山村分も少有之候、此絵被成候節、小田原御郡代所へ両度御召寄様子御尋被成候、郡代所ニ三日逗留致候、其節御郡代衆ハ梅原九郎左衛門様・杉山小右衛門様、御厨御代官ハ大西吉大夫殿・小形兵大夫殿

元禄十一年寅ノ六月、七月、八月迄小田原ニ而御絵図被成候ニ付、所々御絵図仕候様ニと、我等儀小田原御郡代所へ御よび、四五日逗留致、御絵図ニ付御用有之罷有候

（「柏木甚右衛門覚書帳」　沼津市　柏木正男氏所蔵）

二六五　元禄一二年正月二八日　国絵図作成につき茶畑村畑成田等書上

一三間堀当村分長弐百弐拾八間川上、戌亥ノ方稲荷村ゟ参候、下ハ午未方平松新田へ流申候、

是ハ弐拾九年以前、亥年箱根掘貫水参候ニ付、畑成田被仰付、新堀川普請御座候

一弐間堀、当村分長八百四拾間、川上子丑方稲荷村ゟ参候、下ハ午未ノ方、麦塚村へ流申候、右同断

一九尺堀、当村分長五百九拾四間、川上当村之内三間堀ゟ参候、下ハ申酉ノ方、麦塚村へ流申候

一新堤長三拾間・よこ弐拾間、村ゟ丑寅ノ方道法弐拾九丁弐拾四間御座候

是ハ貞享四年卯ノ二月被仰付候人足、中山八ヶ村并下郷村々ゟ人足出申候

一当村ゟ午未方麦塚村へ道法七丁拾六間御座候

一同酉ノ方平松新田へ道法六丁四拾四間御座候

一同戌亥ノ方佐野村へ道法拾九丁五拾六間御座候

一同子丑方公文名村へ道法拾弐丁弐拾弐間御座候

右之通相違無御座書付差上ヶ申候、以上

元禄十二年卯ノ正月廿八日

茶畑村

名主　甚右衛門

組頭　佐右衛門

同　平右衛門
同　太　兵　衛
同　庄左衛門
同　七郎左衛門

御郡代所へ上ケ申候
是ハ此度御国絵図御公儀様ゟ御改
被成候ニ付、如此書付差上申候
（「柏木甚右衛門覚書帳」　沼津市　柏木正男氏所蔵）

二六六　宝永五年正月一二日　新川・木瀬川諸堰書上覚（一七〇八）

覚

正月十二日
一岩波堰水上ケ口、卯辰江上ル
木瀬川通水之流ハ戌亥ゟ辰巳之方へ也
同所せき口東川落合迄弐百七拾間、東川落合ゟ箱根水
落合迄三百四十間
一箱根水卯より酉ニ落合申候
同所ニ而木瀬川丑より未江流
同所ゟ深良本堰迄百五十四間
一深良本せき水上ケ口、巳ノ方江上ル
木瀬川水子ゟ午之方江流
同所堰より御宿上ケせき迄五十四間
一御宿上ケ堰水申之方江上ル
同所ニ而木瀬川丑ゟ未之方江流行申候
新せき口ゟ二タ瀬おまた自水分ケまて弐百八十間
二タ瀬西河申酉江流れ申候、御宿自水也
同所東又巳午之方江分り申候
石脇・佐野・久根・千福之自水也
同所自水分ケ口より御宿本堰迄百五十弐間
一御宿本堰水上ケ口、午ノ方江上ル
同所ニ而木瀬川水酉戌より卯江流
本せきゟさ野堰迄三百五十間
岩波堰より佐野せき迄弐十六町四十間有
一さ野堰水上ケ口、巳午之方江上ル
同所ニ而木瀬川水子丑ゟ未之方江流

佐野堰より千福せき迄三百四十間

同十三日

一千福堰水上ケ口、申之方江上ル

同所ニ而木瀬川水、子之方ゟ午方へ流

千ふくせきより繋橋迄弐百六十間

一繋橋より大滝迄三百弐拾間

大滝子ゟ午ノ方江流

大滝より女滝落合迄弐十間

一女滝落合より瀬名沢落合迄十四間

瀬名沢戌亥より辰江流れ

一瀬名沢落合より定輪寺富沢堰まて弐百八十間

一富沢堰水上ケ口未申ノ方江上ル

同所ニ而木瀬川子ゟ午江流れ申候

富沢せきゟ堰原堰迄千六十間

木瀬川通り間数是迄也

一堰原せき水上ケ口、子より午江上ル

同所ニ而木瀬川丑寅より未申江流

堰原堰より三間堀水末落合まて三十六間

一三間堀同落合丑寅ゟ未申ノ方江

三間堀同落合ゟせき原橋場迄九十六間

同橋場ニ而水之流亥ゟ巳江流れ申候

橋場より三又迄弐十弐間

三又より水窪共ニていぬませき迄六十六間

水窪せきゟたかせき迄百十弐間

高堰ゟ五反田堰まて八十六間

五反田堰より惣ケ原穴堰迄九十四間

穴堰より富岡迄三十六間

富岡ゟきぬた迄弐百六間

きぬ田堰水上ケ口子ゟ午ノ方江上ル

本州通り卯江流れ東山之川是と落合

きぬ田せきゟ二又（マタ）迄五十間

ふたまた東川卯ノ方江流

西川辰ノ方江流れ

二又西川口よりたつちうせき迄百七十八間

たつ中堰よりあきつぎ迄百四十四間
中土狩セキ共ニて
あきつぎ水上ケ口未申江上ル
本川通り辰巳江流
秋つきゟふた松田迄弐拾五間
ふた松田ゟはさま迄三十弐間
　如来寺前也
はさまより池田堰迄五百十間

同十四日中土狩村
一池田堰より高柳堰迄百弐十間
　下土狩村
　高柳水上ケ口巳ノ方江上ル
高柳よりおまい堰迄百六十六間
おまいセき堰ゟふたい堰迄七十八間
水上ケ亥ノ方
ふたい堰水上ケ口巳午ノ間タ江上ル
ふたいよりみたけ堂迄百四十弐間
みたけ堂ゟたいわり堰迄三十八間
たいわりゟ弥くら堰迄五十八間

弥久らゟひらきセき迄百三間
　是より竹原之内
ひらきゟ西かいと堰迄七十弐間
西かいとゟ八反田堰迄七十六間
む久の木セき共ニて
八反田ゟ富ふか川セき迄八十六間
本川申江流候水上ケ丑ノ方ゟ
伏見竹原掛ケ合セき也
富ふか川セき水上ケ口辰巳ノ方江上ル
とみふか川セきゟ橋場迄四十間
む久の木より
同所より中堰まて六十間
中セきゟ竹原門ノ川橋迄六十間
門ノ川橋ゟ下深田堰迄四十四間
下深田ゟ殿田セき迄三十四間
殿田より塚（ツカ）田セき迄十弐間
塚田より上野坪堰迄四十壱間
上ノ坪ゟ谷戸セき迄五十間
谷戸よりセきままで弐百四十間

せきまゟ木瀬川落合迄十六間
堰原せきゟ木瀬川落合迄
三千百弐拾九間　壱里十六町九間
岩波堰ゟ瀬名沢落合まて
弐千五百五十四間　但壱里六町三十四間有
瀬名沢落合より堰原堰迄
千三百四十間　但弐十弐町弐拾間
岩波堰より堰原せき迄
壱里廿八丁五十四間
岩波せきゟ木瀬川落合
申候小関之下迄三里九町三間有

御宿新堰みけん木、長サ三間四尺余
一せき口ゟ分石まて拾間
一分石より洗い迄弐拾間
一洗いより庚申前穴迄百四間
一穴之口ゟ大河添田尻迄七拾間
四口〆弐百七間之内大河添也
一田尻より姥子沢橋場迄六拾間
是迄之内年ニ拠り水有之、普請ニ可入念処也
一橋場より上堀口迄弐間
上ケ田之内より上　是ゟ金沢葛山江水引申候
上ケ田分も有ル
一上堀口よりまちや堰迄弐拾間
上ケ田分
一まちやせきゟ横道橋迄百六十間
同断
一橋ゟ御宿まちや堰迄弐間
御宿分
一まちやせきゟ久保屋敷せき迄五拾弐間
みしく
同断
一久保屋敷堰ゟかなや堰迄八間
上ケ田分
一かなや堰より村境迄八拾八間
御宿分
一村境ゟ水窪堰まて七拾弐間
同断
一水窪堰より横道迄六十八間
同断
一横道より駒形堰迄五拾弐間
同断
一駒形せきゟ月屋敷堰迄七十八間
同断
一月屋敷口ゟかり又横道迄百十八間
同断
一横道ゟ横堀落合寺ノ上橋迄六十弐間

同断
一寺ノ上橋より寺中南境迄四十弐間
同断
一境めよりかす森道迄五拾間
同断
一道ゟ村境橋場用水尻落合迄六十八間
同断
一水尻橋場ゟ千福堰之上落合迄九十間
御宿村之内
一新堰口ゟ千福堰上落合江千弐百九拾八間

一〆金六千両拝借　右元〆五人ニ而
　内　四千両　七ヶ年之内上穀を以返納
　　弐千両　江戸ニ可納
右請負方江水代米
日損田ハ壱反ニ付壱斗五升宛
畑田成ハ壱反ニ付米壱斗七升宛
七ヶ年中上穀出し申候定〆
元禄元年迄拾八ヶ年之間、右元〆五人ニ而湖水掛り堰
支配致候
此内段々水不足有之候
元禄二巳年より水配役人四人、御宿村平二郎・茶畑村
甚右衛門両人江被仰付候
是より御代官小長谷勘左衛門様御支配被遊候、働之者
弐人宛壱人ニ付給金弐両、正月七日迄

一高三千五百四拾六石四斗八合　沼津領
　内
千三百四拾九石八升九合　まきセき懸り
一高弐千五百三拾九石八斗九升八合　小田原領
弐口合高六千八拾六石三斗五合　三十ヶ村高辻
拾五ヶ村高まき堰掛り引
残高四千三百弐拾四石七斗壱升一合
惣高壱万千三百四拾三石七升八合
一御宿姥子沢上ヶ田境ゟかなや境め迄三百五間之内上ヶ
　上ヶ田村之内
田村ゟ書出し申候
一同所上堀口より金沢・葛山・御宿・かなや厄ヶ窪境迄
千五百壱間
御(ママ)のよし上ヶ田ゟ書出し申候

箱根水門口江弐里弐拾三町
同所海尻江三里
一苗代溝ハ地山也　只今之水門口つき出しとぶ也
かねほり甚左衛門口上聞取
一堀割水門口より四つ留まて四十七間
一東四つ留口ゟはらみ石迄百間
一壱番かたかり迄百弐拾間
　長弐間之かたかり也
此間タ百三拾間程長ろうか
一弐番かたかり迄弐百五拾間
　長四間程かたかり也
一三番かたかり迄弐百七拾間
　長弐尺かたかり也、是ハ右弐ケ所ゟセまく御座候
一堀合迄三百三拾間余
一堀合より西之長ろうか弐百間程
　此内ニ弐拾八七間程ハ弐尺高し
　長ろうかノ跡
一くり上ケ八拾六間、此所四尺高し
一大石長九尺程
一たうぢか岩屋長拾弐間程之岩也
一三数棚長三間あり
一西けむり迄六百弐拾六間
　此間タ六十間余とめ
　西之方
一四ツ留メ迄七百弐拾六間
堀抜間数七百廿六間
　内　三百三十間余東
　　三百九十間余西
東より西迄かうばい四丈四尺也

高三百八拾六石四斗五升　駿州駿東郡御宿村
此反別五拾九町三反廿四歩
　内
高弐百五拾三石壱斗八升七合当用水掛り
此反別十六町弐反八畝廿九歩
　右之内

高百三石壱斗四升六合　堀抜出来ニ付
畑方田ニ成候分
此反別拾三町七畝六歩

一高四百四拾四石六斗五升三合　千福村
此反別四拾七町七反八畝拾歩
内
高弐百弐拾弐石四斗三升弐合　当用水掛り
此反別十八丁八反三畝弐拾歩
高拾八石八斗五升七合　堀抜出来ニ付
畑方田ニ成候分
此反別弐町七反弐拾九歩
右之内
高五石六斗七升三合　享保年中ゟ水不足ニ付
連々畑ニ相成申候分
此反別七反九畝拾壱歩

高八拾壱石壱斗八升八合　上ヶ田村西分
此反別九町六反三畝弐拾八歩
内
高三拾七石八斗九升四合　当用水掛り
此反別四町四反弐畝歩
高弐拾五石七斗七升六合　堀抜出来ニ付
畑方田ニ成候分
此反別三町四反壱畝廿八歩
右之内
高拾三石八斗六升八合　享保年中ゟ水不足ニ付
連々畑ニ相成申候分
此反別壱町七反三畝壱歩

一高七拾七石四斗弐升九合　上ヶ田村東分
此反別八町七反九畝拾三歩
内
高三拾五石三升六合　当用水掛り
此反別四町五畝拾歩
高弐拾四石七斗六升七合　堀抜出来ニ付
畑方田ニ相成候分
此反別三町壱反九畝廿歩
右之内
高七斗三升六合　享保年中より水不足ニ付
連々畑ニ相成候分

此反別九畝弐分

上ヶ田村東西共合

高百五拾八石六斗壱升七合

此反別拾八町四反三畝拾壱歩

内

高七拾弐石九斗三升　当用水掛り

此反別八町四反七畝拾歩

高五拾石五斗四升三合　堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分

此反別六町六反壱畝拾八歩

右之内

高拾四石六斗。四合　享保年中より水不足ニ付連々畑ニ相成候分

此反別壱町八反弐セ十三歩

一高四百弐拾壱石四升四合　葛山村

此反別六拾四町三反廿八歩

内

高五石七斗三升八合　当用水掛堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分

此反別四反弐畝九歩

高百九石四斗九升七合　金沢村

此反別拾三町八反廿歩

内

高四石九斗五合　当用水掛り堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分

此反別六反八畝廿五歩

右五ヶ村高合

千五百弐拾石弐斗六升壱合

此反別合弐百三町六反四畝三歩

内

高六百弐拾八石五斗九升弐合　当用水掛り

此反別五十四町三セ廿歩

右之内

高弐百五十六石壱斗一升九合　かろうとセき掛り

此反別三拾壱町九反八畝。七歩

高合壱万千百拾四石四斗三升四合　井組廿九ケ村田畑惣高辻

内

高六千八拾九石七斗四升五合弐夕　当用水掛り
高千八百九拾八石壱升九合　堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分
弐口合
高七千九百八拾七石七斗六升四合弐夕
右之内
高四百六拾壱石七斗六升九合　享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分

（宝永五年「湖水新河木瀬河通り堰々方角改帳」裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二六七　明和三年（一七六六）四月　佐野村宿堀口一件済口証文

一札

一佐野村井筋震橋下宿堀分レ口小から沢通り入口、去ル七月満水ニ而堰口堀埋候場所、此度公文名村・茶畑村・久根村より人足差出堰埋仕候ニ付、佐野村ゟ小田原表江御願申上候ニ付、為御見分御越被遊場所御見分之上、前々有り来り候通、可被　仰付旨奉承知候、然所ニ下土狩村名主九左衛門・上土狩村名主藤三郎・佐野堰井組之内石脇村組頭甚右衛門・麦塚村名主与惣次右四人之衆御見分御日延御願申上、御取噯之上双方共堰口敷キ対座ニ仕、小から沢堰通ハ堰口ゟ三間下ニ而敷六寸下ケニ居石相究、宿堀之儀者有来り之侭ニ而御取噯被成候、右之通相究候得者向後共佐野村・久根村・公文名村・茶畑村右四ヶ村ハ勿論、井組村々共ニ少茂申分無御座候、為後日井組連印証文差上申所、仍而如件

明和三丙戌年四月

下土狩村　九左衛門
上土狩村　藤三郎
麦塚村　与惣次

石脇村
甚右衛門

御見分御奉行所様
小川甚内様

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

二六　文化六年二月　茶畑村用水樋掛替につき伺書

乍恐以書付奉御伺候御事

一当村用水樋之義、天明元丑年掛替之義御願申上神山村御林ニ而槻被下置、引人足之義ハ組合村々へ被仰付掛合仕候、然ル所十九年程相立寛政十一未ノ年朽損候ニ付御願可申上と奉存、組合村々へも相掛合候処、其節神山村横橋掛替御願申上、村方大双之引人足相懸り甚タ難義仕候ニ付、御伺之上組合熟談仕、少々助合ニ而松木を以取繕置申候、然ル所又候朽損当用水引方相成兼可申と奉存候ニ付、神山・深山・下和田御林之内ニ而槻御願之上、引人足之義ハ先例之通組合村々へ被仰付被下置候様ニ御願仕度存奉候得共、去辰年田畑大不作ニ而組合一統大困窮之時節ニも御座候得者、又々申談組合ゟ少々助合受候而松杉之類を以取繕置可申哉と奉存候、此段乍恐以書付奉御伺候、以上

文化六巳年二月

茶畑村
惣役人

松尾佐久太様
斉藤門太様

（沼津市　柏木正男氏所蔵）

二六九　文政二年（一八一九）八月一三日　新川土手破損所并湖水門伏替見積下帳

（表紙）

文政二卯年
新川土手破損所并湖水門伏替見積下帳
八月十三日　三郷
水配人
惣代人

壱番南湖表角
一石垣築直し　五間
弐番南水門袖脇
一石垣築直し　弐間
三番北之角
一石垣築直し　六間
四番
一石垣上置　八間余
但シ高弐尺地形
五番同所
一石垣築直し　弐間半
湖表
〆拾五間半
外ニ地形上置八間半余
但シ高弐尺石垣とも
六番南箱下
一石垣築直シ　八間
七番同所
一石垣築直し　七間
八番同所
一石垣築直し　拾五間
南の方
〆三拾間

九番穴口ゟ北之方
一石垣築直し　弐拾間
十番同所
一石垣築直し　拾間
十一番同所
一石垣築直し　五間
北之方
〆三拾間
三口
〆石垣八拾間三尺
一□石三拾余　崩落
但石壱ツ五人持懸り程ニ相見申候
一箱下砂浚　五拾弐間
但穴口迄平均壱尺五寸積り
一上穴　百八拾間
但平均深サ壱尺積り
一下穴　七拾五間
床下ケ
一下穴外　三拾間
但深サ平均壱尺五寸砂浚積り

須釜新川通り
壱番　藤七上
一石垣繕イ　長九間
弐番　七郎兵衛分北例
一同築直し　同廿三間
三番　藤七上
一同繕ひ　同拾三間弐尺
四番
一同繕ひ　同拾六間
五番
一同繕ひ　同七間

六番　耳石上
一同築直し　同拾三間

七番　同所
一同築直し　同四拾五間

八番　五反田水門
一同内外築直シ　同四間

九番　同所水門上
一石垣築直シ　同拾三間

拾番　尾崎
一石垣築直シ　同拾九間

拾壱番　同所
一同繕ひ　同拾六間

拾弐番　須釜
一同繕ひ　同廿弐間

拾三番　同所
一同築直し　同拾七間

拾四番　同所
一同繕ひ　同拾六間

拾五番　同所
一同繕ひ　同四間三尺

拾六番五　助後
一同繕ひ　同廿弐間

拾七番　同所
一同築直し　同五間

十八番
一石垣築直し　長三間

十九番　神山村分
一同築直シ　同四間

同所川向同所
一同繕ひ　拾壱間三尺

廿番　同所
一新石垣　同七間

廿壱番　同所
一新石垣　同三拾弐間

廿弐番　同所橋上
一石垣築直シ　同三拾弐間
弐拾三番　太郎右衛門堰
一同繕ひ　同拾六間
此所内外平均高六尺築直し
弐拾四番　定右衛門畑添
一同築直シ　同拾六間
廿六番　文吾堰口
一同築直シ　同四間
此所北際打廻し
廿七番　同所
一石垣高六尺　同五間
但南山際打廻し
此所弐ヶ所石倉繕
廿八番
一豊後堰橋壱ヶ所
中須石倉高六尺四方
巾壱尺厚七寸
一同所橋木　長弐間半四本
一同所杉丸太　長弐間半四本
末口五寸
一枠木栗　長五尺四本
末口五寸
一栗四寸貫　厚壱寸五分
長七尺八寸
〆四百弐間弐尺
外ニ
一廿五番付落　定右衛門畑頭
石垣築直し　四間
下腹付場所
壱番場所駒形
一下腹付　長六間
弐番神山分橋上
一同断　長五間
三番　同所
一同断　同拾弐間

四番　五助上
一同断　同拾間
五番　同所
一同断　同五間
六番　同人後
一同断　同拾間
七番　甚左衛門後
一同断　同八間
八番　同所
一同断　同六間
九番　新左衛門
一同断　同拾間
十番
一同断　同四間
十壱番　川向岩波分
一石垣繕ひ　三拾間
十弐番　川向岩波分出口ゟ
一同繕ひ　同弐拾七間
十三番　川向深良村分
一同繕ひ　同拾弐間
十五番　土手下耳石上
一同断　同拾三間
〆百六拾八間
弐口
〆五百七拾間弐尺
此訳ヶ
弐百四拾壱間弐尺　石垣繕ひ
百九拾五間　石垣築直し
三拾九間　新垣
拾弐間　豊後堰
石垣築直し
八拾三間　下腹附
土手上置
一土手六百四拾壱間
但平均高壱尺通り上置

一川敷砂浚平均深壱尺
　但延長六百四拾壱間
一縁芝　但延長七百弐拾間
　土手両(側)例ニ而千四百四十間也
一土石取之事

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二七〇　文政五年（一八二二）一〇月　中郷六ケ村と佐野村、佐野堰口石居につき取替証文

為取替申一札之事

一駿東郡木瀬川筋字佐野堰之内宿堀口小から沢通三間堀口、先年双方石居いたし相済来り候処、近来石居猥ニ相成候ニ付、当午年中郷六ケ村ゟ前々之通宿堀口石居候様佐野村欠合候処、承知無之ニ付、則佐野村相手取及争論ニ、小田原御定年番様江致出訴候処、双方御吟味之上　御支配様御代官松井恭助様・村上繁次郎様ゟ噯人共被召出被仰付候節、其方共双方江能々利解申聞内済可致旨被仰付候ニ付、再三我等共立入取噯之趣意者、宿堀口小柄沢通り三間堀口双方川敷致対府ニ、土石ゟ弐間壱尺但し土石壱尺鋪石弐間川下末壱尺弐寸之かふはひを以礎仕、川巾之義ハ宿堀口八尺九寸小から沢通り三間堀口弐間壱寸ニ相定訴答江及欠合ニ候処、双方納得仕内済熟談仕候、尤小から沢之儀ハ元禄年中御裁許之通り双方相守可申候、用水之義ハ是迄之通り水配人致分水、田面町分之以分量分水急度相守可申候、勿論毎年春堰之節川浚之義ハ普請所江双方差障無之様永相守可申候、右議定相守候処依之御支配様江右之趣御届ケ奉申上候、一同連印仕候上者以来聊申分無御座候、為後日為取替之一札、仍而如件

文政五午壬年十月

（裾野市石脇　大庭和彦氏所蔵）

二七一　文政六年（一八二三）七月　二本松新田嘉左衛門湖水懸用水路取調目録

（表紙）

文政六未年七月写之

湖水懸用水路取調目録

駿州駿東郡二本松新田

嘉左衛門

湖水掛用水路取調

一四町弐反七畝九歩　豊後堰
一壱町六反三畝七歩　古川
一三反五畝拾五歩　太郎右衛門堰
一壱町四反廿九歩　神山村埋樋
一三反五畝拾五歩　太右衛門堰同断
一六反弐畝廿歩　利兵衛堰同断
一拾壱町壱畝拾四歩　五反田水門
一九反三畝廿八歩　弥平次埋樋
一壱町九反八畝廿九歩　橋場せき
一六拾町六反四畝廿歩　大洞堰
訳五拾四町四反八畝壱歩　深良村
壱町壱反七畝廿五歩　岩波村
三町六反四畝七歩　石脇村
壱町三反四畝九歩　久根村
右九ヶ所深良村分
一七町三反九畝廿弐歩　岩波村
一弐拾町七反三畝十四歩　新堰
訳四町四反三畝八歩　安藤様　上ヶ田村
四町五畝拾歩　内蔵允様　同村
六反八畝廿九歩　金沢村
八町四反弐畝十九歩　御宿村
弐町七反弐拾九歩　千福村
四反弐畝九歩　葛山村

〆

一拾六町五反八畝拾三歩　古堰御宿村分
外ニ壱反四畝廿三歩　千福村
一拾六町壱反六畝拾八歩　千福村
一七町九反壱畝廿七歩　富沢穴堰
訳壱町弐反六畝廿弐歩　定輪寺村
三町六反九畝廿歩　富沢村
弐町九反六畝三歩　一色村
〆
佐野堰懸り　中郷
一七町六反五畝五歩　石脇村
〆
一九反四畝弐拾歩　加籠田堰
一八反六畝拾歩　上野田堰
一弐町弐反九畝廿四歩　下野田堰
一六反七畝六歩　薪下堰
外ニ四反六畝拾八歩　佐野村分
合

一弐反四畝拾弐歩　本川
一四町九反廿八歩　横堀
一拾五町六反弐畝七歩　古川堰
訳弐町壱反七畝三歩　久根村
八町九反弐畝廿七歩　公文名村
弐町四反四畝拾四歩　稲荷村
弐町七畝弐拾弐歩　茶畑村
〆
一壱反弐畝七歩　剣間堰
一五町五反五畝弐歩　九尺堀
訳五反壱畝拾六歩　久根村
弐町弐反五畝廿六歩　公文名村
内壱反三畝五歩　当時畑成田
弐町七反弐拾歩　稲荷村
〆
一三町四反四歩　本川
一壱反七畝拾歩　本川

一六反八畝拾六歩　定仙田
一二反六畝五歩　西ぶたひ
一四反拾壱歩　東ぶたひ
〆拾四ヶ所　久根村分
三拾六町三反三畝拾弐歩
訳
一五町六反三畝廿八歩　佐野村
外ニ三反五畝弐歩　二本松共
一弐拾壱町三畝弐壱歩　大柄沢
外ニ四反弐畝拾七歩　畑成田二本松共
一六町弐畝拾四歩　宿堀堰
外ニ弐反廿弐歩　畑成田
一四反六畝拾八歩　小から沢
一壱町七反四畝拾弐歩　畑成田
一八反三畝九歩　薪下堰
外ニ七反五畝廿壱歩　氏か窪
合壱町五反九畝歩　剣間堰
公文名村

一壱反拾四歩　稲荷小水口
一弐反六畝廿五歩　中丸後小水口
一弐反弐畝四歩　同所小水口
〆九ヶ所　佐野村
同村畑成田
壱反六畝拾弐歩　宿堀筋
壱反七畝弐五歩　宿堀大から沢欠合
四反八畝拾八歩　大柄沢小柄沢宿堀中丸後
壱反五畝廿二歩　同断
〆
一八町九反弐畝廿弐歩　公文名村古川懸り久根村欠合
一弐反五畝九歩　赤目堰
外ニ七反壱畝廿四歩　稲荷懸合
一
公文名村分
〆三ヶ所　稲荷村古川懸り久根合
一弐町四反四畝拾九歩　九尺掛り同村懸合
一弐町七反七畝廿歩

一七反五畝廿壱歩
一七反壱畝廿四歩
一四反弐畝弐歩
一壱反壱畝三歩
一壱反六畝廿三歩
一三畝弐歩
一八反弐畝廿四歩
外ニ八反五畝拾五歩
合壱町六反八畝九歩
一七反七畝拾八歩
一三反八畝八歩
一弐反四畝弐拾四歩
〆拾弐ヶ所
壱反三畝拾六歩
七畝拾歩
一拾四町八反九畝廿三歩
外ニ弐町七畝廿二歩

釣蔵懸り佐野懸合
赤目堰公文名懸合
形部
小水口
橋場
同所小水口
中曾根
平松懸合

稲荷村
ノハなり
橋下
中丸上

稲荷村分
同村畑成田
同断九尺懸リ
茶畑村
久根村地内古川懸り
四ヶ村懸合

訳
五町四反六畝歩
六町弐反三畝拾六歩
外ニ弐町八反四畝拾五歩
壱反壱畝廿三歩
六畝拾六歩
弐反弐畝三歩
三反四畝廿歩
弐反三畝廿歩
〆八ヶ所
一拾四町壱反八畝壱歩
訳
五反弐畝弐歩
四反歩
八反四畝七歩
三反六畝十歩
弐反三畝拾弐歩

稲荷堰
八幡堀
麦塚村
中丸橋場
八幡堀小堰
同所小堰
桑畑小セき
だらセぎ

平松新田

西ノ久保
上釜
下釜
伊左衛門口
半左衛門口

弐反三畝壱歩　源之助口　外ニ四反弐畝廿弐歩　前々ゟ畑田成
三反廿八歩　同人口　一弐町八反四畝拾五歩　麦塚村
三反九畝廿九歩　忠兵衛口　八幡堀茶畑懸合
弐反弐畝壱歩　東口　〆　伊豆嶋田
弐反八畝廿壱歩　浅右衛門口　一弐拾町弐反八畝六歩　三間堀懸り
三町九反六畝廿七歩　用水堀懸り　訳　大堰三俣東口
弐反拾六歩　同所堰　六町五反拾四歩　上釜せき
八反五畝拾五歩　中ぞね　六町四反四畝七歩　同高堰
七反四畝廿四歩　宇つ木　五町壱反弐畝四歩　五反田堰
八反歩　平せき　弐町弐反壱畝拾弐歩　二ツ屋新田
四反五畝拾歩　東口堰　〆
九反拾三歩　村下三口　外ニ壱畝六歩　あらひ下洩水
九反九畝十八歩　横道北堰　七反三畝廿四歩　東境川懸り
四反壱畝七歩　同下堰　一三町壱反歩　小から沢懸り八反畑
壱反五畝歩　同小水口　訳　向せき
九反歩　横堀堰　壱町弐反弐拾三歩
〆　七反七畝弐歩

八反壱畝拾七歩　　前せき　　壱町壱反六畝拾八歩　　中土狩村
四反八畝拾歩　　中堀　　六反五畝三歩　　下土狩村新田
〆　　三反弐歩　　同村新田畑成田
大堰懸り下郷　　〆　　上土狩村
一弐拾六町弐反六畝拾五歩　　水窪村　　一弐拾三町六反五畝十八歩　　三俣懸り
訳　　三俣西川　　わけ　　穴堰
拾壱町五反四畝廿弐歩　　水窪村　　七反壱畝拾四歩　　野田せき
拾四町九歩　　納米里村　　六町壱反三畝拾八歩　　絹田堰
七反壱畝拾四歩　　上土狩村　　四町五畝廿七歩　　秋継堰
〆　　水窪村　　六町六反五畝九歩　　中土狩村懸合
一弐町四反九畝廿四歩　　向堰犬間共言　　外ニ壱町四反廿八歩　　西川入口
〆　　三畝十三歩　　主水堰
一拾八町六反三畝九歩　　穴堰　　六反九畝七歩　　中土狩懸合
訳　　壱町七反二せ廿九歩　　川崎入口
九町九反八畝歩　　納米里村　　外ニ拾壱町六反五畝拾六歩　　合
四町八反九畝歩　　上土狩村　　弐反八畝廿六歩
壱町弐反四畝七歩　　同村用水三俣引かへ

三反弐歩　同入口
弐町五反五畝五歩　七反田堰
外ニ弐町弐畝拾歩　中土狩欠合
　壱町五畝廿一歩　下土狩欠合
合
壱町五畝廿四歩　中丸堰
外ニ六町壱反五畝歩　中土狩欠合
合
壱町七反八畝拾六歩　平垣堰
〆拾三ヶ所
一四拾五町四反弐畝廿九歩　中土狩村
　訳
壱町四反弐拾八歩　きぬ田堰
拾町六反五畝六歩　秋継
三町七畝廿七歩　二松田（はきま）
壱町三反九畝廿六歩　上土狩欠合
壱反廿四歩　せがき免

三町五反四畝三歩　池田堰
七反八畝七歩　高柳
外ニ壱町五反弐畝廿歩　下土狩かけ合
合
九畝廿歩　おまへ
外ニ弐町壱反弐畝廿四歩　下土狩かけ合
五反四畝歩　上北橋
五反拾弐歩　下北橋
　上土狩かけ合
六町壱反五畝歩　中丸
四町壱反五畝六歩　ひらき
外ニ七反余
幸原村ニ有、井組高ニも不入堰役等も不致程心得所也、
是ハ正敷安永年中水論之節、幸原村ハ韮山御支配故、
下郷之者共差除シ故地水場故也
八町四反七畝廿歩　八ツ溝
三町弐反九畝七歩　六反田堰
外ニ壱反拾四歩　下土狩欠合

合　七反田堰
弐町弐畝拾歩
外ニ壱町五畝廿一歩　下土狩かけ合
壱町壱反六畝廿八歩　穴堰四ヶ村懸合

〆十六ヶ所
外ニ壱町壱反六畝六歩　所之堰懸り
畑成田分
一五拾九町八反壱畝拾五歩　下土狩村

わけ
壱町五反弐畝廿歩　中土狩かけ合　高柳
弐町壱反弐畝廿四歩　同断　おまへ
拾四町八反五畝廿六歩　ぶたひ
外ニ八反弐畝九歩　高田懸り　竹原村分
五町壱反六畝廿五歩　久保田懸り
合廿町八反五畝歩　同村

訳
弐畝廿歩　小水口
弐反弐畝八歩　東光寺除地

壱町九反四畝拾八歩　宮脇
壱反九畝歩　八幡免
三町弐反弐畝拾三歩　巾川
四反五畝廿弐歩　川水口
五町六反五畝拾弐歩　高田懸り
外ニ八反弐畝九歩　竹原村欠合
合六町四反七畝廿壱歩
三町壱反三畝廿三歩　久保田懸り
外ニ五町壱反六畝廿五歩　竹原村欠合
合八町壱反拾八歩
四畝廿四歩　川水口
弐町九畝弐歩　大割
拾町三畝六歩　弥次郎
三町四反九畝壱歩　御嶽堂
弐町壱反四畝拾九歩　ひらき
壱町壱反弐畝廿五歩　西海道
外ニ七町七畝四歩　竹原かけ合

合
三反九畝五歩
外ニ弐町壱反四畝壱歩
合
壱反四畝拾四歩
壱町五畝廿壱歩
三町弐畝廿四歩
九町弐反五畝歩
弐町七反弐畝廿歩
四反弐畝七歩
九反弐畝拾弐歩
六反八畝十六歩
壱町五反拾五歩
壱町三反八畝歩
六反三畝七歩
弐反九畝廿壱歩
四反弐歩

八反田
竹原かけ合
中土狩かけ合
六反田
同断
七反田
仲田
ゑご田
たつちう
川水口三ヶ所
経塚堰
東川水口二ヶ所
久ね之内
長カ田
から在け
川水口
ナメり
穴堰

〆三拾壱ヶ所
外ニ三反弐歩
六畝廿歩
六反五畝三歩
一弐拾八町八反六畝廿五歩

訳
七町七畝四歩
弐町壱反四畝壱歩
五町壱反四畝六歩
四反拾三歩
三町弐反八畝拾壱歩
弐町弐反五畝拾四歩
五町壱反六畝廿五歩
八反弐畝九歩
七反三歩
外ニ四町七反八畝四歩
九反七畝歩

新田
畑成田穴懸り
同大川堰懸り
同穴懸り
竹原村

下土狩かけ合
西海道
同断
八反田
善口
むくの木
堂免
雨降田
下土狩かけ合
久保田
同断
高田
東川
一町田堰
新宿かけ合
伏見かけ合

合
五反廿八歩　松ノ木田
外ニ八反三畝拾歩　伏見かけ合
〆拾ヶ所
一六町七反壱畝廿二歩　新宿村
外ニ弐町八反七畝三歩　千貫樋地水懸り
一弐拾四町四畝拾歩　伏見村
西川東川所々懸合堰々あり
但シ両給ニ而
外ニ廿壱町弐反壱歩　千貫樋地水懸り

箱根湖水堀抜願始

一寛文六丙午年同七年相願申候、右入用六千両与申事也、午年ゟ戌年迄相懸り、其後四人之内湖水掛りより十七年之内上穀ヲ取申候

一寛文十一亥年五月四日堀抜水少々出ル、同十二年五月廿八日水多分下り畑成田始り此水掛高
一高四千三百廿四石八斗九升壱合、此反別三百七拾九町四反九歩、右廿九ヶ村湖水高ニ候得共、安永五年出入ニ付済口証文之義御掛り牧野越中守様ゟ被仰付、木瀬川・瀬名沢無差別一同無甲乙分水可仕、御裁許ニ而相済惣高ニ成当時
一高六千八拾九石七斗四升五合弐夕
一湖水門口ゟ割堀口迄五拾弐間
一堀抜之内七百廿六間箱根山より深良村ニ落合、須釜新川通り五百間、水門幅弐間半五尺戸
須釜新川巾四間水落合迄十二丁也、

佐野堰

一弐間木廻り七尺六寸之処五尺七寸ニ成ル、西挟わく杭無之筈ニ成ル、東北西樋壱尺八寸弐分東わくより挟わくの背幅壱丈壱尺壱寸
一湖水門戸横三尺三寸八分・上戸高サ弐尺五寸・下戸四尺五寸・上下合七尺戸、文化五年辰三月水門改下戸四尺、上戸三尺合七尺也

駿州二本（ママ）新田

嘉左衛門㊞

（裾野市佐野二本松新田　中西保男氏所蔵）

二七三　文政七年五月（一八二四）　上・中郷水配人、佐野堰眉木につき下郷水配人と取替一札

為取替一札之事

一佐野堰眉木去ル未年八月出水ニ而流失仕候ニ付、是迄有形寸尺相分兼候間、今般旧記相尋候得とも、聢与証拠無之手控而已ニ而取用ニ難相成、依之三郷控寸尺平均仕、三郷水配人立会相談之上丸五尺六寸八分長壱丈八尺、但落口幅壱丈七尺九寸ニ相定、右寸尺ヲ以向後双方無申分相用可申候事、尤重而取替有之候節者三郷水配人立会之上取計可申候、為後証為取替一札仍而如件

文政七年申五月

佐野村　　水配上役　常　蔵㊞

茶畑村　　同　下役　又　四　郎㊞

深良村　　同　上役　仲　蔵㊞

同村　　同　下役　林右衛門㊞

下郷

御水配人衆中

（箱根用水下郷古文書）

（注）上郷水配人宛の同文の為取替一札あり

佐堅村　　水配上役　恒　蔵㊞

茶畑村　　同　下役　又　四　郎㊞

下土狩村

同　上役　幸右衛門㊞
竹原村
同　下役　与　兵　衛㊞

上郷
御水配人衆中

（裾野市深良　大庭重一氏所蔵）

二七三　文政一〇年四月一五日　湖水掛堰々水配帳

（表紙）
文政十丁亥年　公文名村
湖水掛堰々水配帳
中郷水配人
四月十五日　此主　宇　平　治

一豊後堰　深良村
反別　四町弐反七畝九歩
一太郎右衛門堰
同　三反五畝拾五歩
一太右衛門堰
同　八反弐畝廿六歩
一利兵衛堰
同　六反弐畝廿歩
一弥平治堰
同　九反四畝拾八歩
一五反田堰
同　拾壱町壱畝拾四歩
一橋場堰
同　壱町九反八畝廿九歩
一かろうと堰
同　六拾壱町六反六畝十八歩
一須釜堰　神山村
同　壱町四反廿九歩
一岩波堰　岩波村
同　七町拾九歩

一　新堰　　御宿村
同　弐拾壱町八畝拾三歩
一　古堰
同　拾壱町七反九畝拾壱歩
一　石脇堰　　石脇村
同　七町四反五畝拾弐歩
一　大柄沢　　佐野村
同　五町六反三畝廿八歩
一　宿堀り
同　弐拾壱町三畝拾壱歩
一　小柄沢
同　六町弐畝拾壱歩
一　上野田　　久根村
同　八反六畝拾歩
一　下野田
同　弐町弐反九畝廿九歩
一　藪下
同　壱町壱反三畝廿四歩
一　小水口
同　弐反四畝拾弐歩
一　横堀り
同　四町九反廿八歩
一　古川
同　拾四町九反弐畝七歩
一　瀬戸川　　公文名村
同　壱反弐畝廿七歩
一　けんま　　同村
同　五反壱畝拾六歩
一　九尺堀り
同　七町九反三畝四歩
一　大瀬戸
同　三反弐畝拾七歩
一　小水口
同　壱反七畝拾歩

一定泉田
同　六反八畝拾四歩
一西ぶたい　弐反六畝五歩
同　四反拾壱歩　〃〃〃
一東ぶたい
同　四反拾壱歩
一赤目
同　壱町弐反七畝三歩
一けん蔵
同　壱町五反九畝歩
一形部
同　四反弐畝弐歩
一三間堀小水口西
同　三反三畝七歩
一同所橋上小堰
同　三反拾歩
一中曾根堰
同　壱町九畝拾九歩
一稲荷堰
同　六町弐反三畝廿七歩
一三間堀り橋下小水口
同　三反八畝八歩
一中丸上小水口
同　三反六畝拾五歩
一中丸後小水口
同　弐反六畝廿五歩
一同所小水口
同　弐反弐畝四歩
一同所小水口
同　六畝拾六歩
一八幡堀り
同　六町弐反三畝拾六歩
一同所小水口
同　弐反弐畝三歩

公文名村
稲荷村
さの村分
同村分
茶畑村

一桑木堰
同　六反四畝廿歩
一たゝら田小水口
同　弐反三畝廿歩
一西之久保堰
同　五反弐畝弐歩
一上釜堰
同　四反歩
一下釜堰
同　八反四畝七歩
一伊左衛門堰
同　三反六畝拾歩
一半左衛門堰
同　弐反三畝拾弐歩
一源之助堰
同　五反三畝廿九歩
一忠兵衛堰

平松新田

同　三反九畝廿九歩
一東小水口
同　弐反弐畝壱歩
一浅右衛門堰
同　弐反八畝廿壱歩
一用水堀り懸り
同　三町九反六畝廿七歩
一同所堰
同　弐反拾六歩
一中會根堰
同　八反四畝拾五歩
一うつき堰
同　七反四畝廿四歩
一寺堰
同　八反歩
一東小水口
同　四反五畝拾歩

一村下堰二口
同　九反拾三歩
一横道水通
同　九反九畝拾八歩
一同所下堰
同　四反壱畝七歩
一同所小水口
同　壱反五畝歩
一横堀堰
同　九反歩
一八まん堀懸り　麦塚村
同　弐町八反四畝拾五歩
一三間堀懸り　伊豆嶋田
同　六町五反拾四歩
一千福堰　千福村
同　拾六町五反八畝廿三歩
一富沢穴堰
同　八町弐反五畝拾壱歩
是ゟ堰原大堰懸り
一三俣之内上谷堰　伊豆嶋田
同　六町四反四畝七歩
〆弐百六拾八町弐反七畝拾九歩
一高堰
同　五町壱反弐畝四歩
一五反田堰
同　弐町弐反壱畝拾壱歩
一あらい下桶水
同　壱畝六歩
一東境川
同　七反三畝廿四歩
一向田堰　水窪村
同　弐町四反九畝拾壱歩
一三俣堰　水・上・納三ヶ村懸合
同　弐拾七町壱反八畝三歩

一穴堰　　上・中・下土狩三ヶ村懸合
同　拾七町六反五畝拾六歩
一野田堰　　上土狩村
同　四町五畝廿七歩
一絹田堰　　上土狩村
同　七町六反六畝七歩　　中土狩村
一西川入口　　上土狩村
同　三畝拾五歩
一主水堰　　同　村
同　六反九畝七歩
一秋沢堰　　上・中懸合
同　拾弐町三反八畝拾五歩
一はさま堰　　上・中懸合
同　壱町五反三畝拾五歩
一東川川崎入口　　上土狩村
同　五反八畝廿三歩
一七反田堰　　同　村
同　弐町五反五畝五歩
一中丸堰　　上・中懸合
同　七町三反廿四歩
一平垣　　上土狩村
同　壱町七反八畝拾八歩
一二タ松田　　中土狩村
同　三町三反七畝廿七歩
一セかき面　　中・下懸合
同　壱反廿七歩
一池田
同　三町五反四畝三歩
一高柳
同　弐町九反壱畝壱歩
一おまい堰　　中・下懸合
同　弐町弐反弐畝拾四歩
一上北橋
同　五反四畝歩

一下北橋
同　五反拾弐歩
一壱町田
同　壱町九反七歩
一柊木
同　四町壱反五畝六歩
一八ツ溝
同　八町四反七畝廿歩
一六反田
同　三町三反九畝廿壱歩
一七反田
同　壱町弐反八畝三歩
一ふたい堰小水口
同　弐畝廿歩
除地本向寺分
一小水口
同　弐反弐畝八歩

中・下懸合
中・下懸合
下土狩村

一宮わき
同　壱町九反四畝拾八歩
外
一八満免（幡）
同　壱反九畝歩
一内川懸り
同　三町弐反七畝拾三歩
一川水口
同　弐反七畝九歩
一同水口
同　壱反八畝拾三歩
一高田
同　六町四反七畝廿壱歩
一久保田懸り
同　拾四町四反三畝六歩
一大わり
同　弐町九反弐歩

下・竹・伏三ヶ村懸合

一川水口
同　四畝廿四歩
一三竹堂
同　三町四反壱畝壱歩
一弥四郎堰
同　拾町三畝六歩
一ひいら木
同　弐町壱反四畝拾九歩
一西海道
同　八町弐反三歩
一八反田
同　弐町四反三畝拾歩
一仲田
同　三町弐畝廿四歩
一ゑご田
同　九町弐反五畝歩
一太仲堰
同　弐町七反弐畝廿歩
一川水口
同　三畝歩
一同水口
同　壱反五畝歩
一同水口
同　弐反四畝七歩
一経塚堰
同　九反弐畝拾四歩
一川水口
同　壱反壱畝六歩
一同水口
同　五反七畝拾歩
一久根之内
同　壱町五反拾五歩
一長ヶ田
同　壱町三畝八歩

下・竹懸合

下・竹懸合

一からざいけ
同　六反三畝七歩
一川水口
同　弐反九畝廿壱歩
一谷口　竹原村
同　五町壱反四畝六歩
一もくの木小水口
同　四反拾三歩
一どうめん
同　三町弐反八畝拾壱歩
一右近田堰
同　壱町三反七畝壱歩
一雨降川
同　弐町弐反五畝拾四歩
一壱町田
同　七反三歩
一松の木田
同　五反弐畝八歩
一東川大水口懸り　新宿村
同　六町七反壱畝廿三歩
一本川懸り　伏見村
同　弐町六反五畝五歩
一久保田川
同　六町壱反弐畝廿四歩
一本川懸り
同　拾町弐反九畝廿三歩

〆弐百四拾九町壱反弐畝五歩
一高百五拾六石四斗四升三合　伏見村
一同百四拾壱石　同村
一同七拾八石三斗九升四合　新宿村
一同三百五拾七石八斗二升三合　竹原村
一同七百三拾三石五合　下土狩村
一同五百八拾弐石六斗五升五合　中土狩村

一同弐百七拾弐石四斗一升六合　上土狩村
一同弐百五拾弐石弐斗四升一合　納米里村
一同三拾四石壱斗四升八合　一色村
一同弐拾九石八斗五升三合　富沢村
一同拾弐石弐斗六升弐合　定輪寺村
一同弐百弐拾弐石四斗三升二合　千福村
一同五石七斗三升八合　葛山村
一同弐百五拾三石壱斗八升七合　御宿村
一同三拾七石八斗九升四合　上ヶ田村
一同三拾五石三升六合　同村
一同四石九斗五合　金沢村
一同拾五石九斗五升九合二夕　神山村
一同九拾六石三斗九升壱合　岩波村
一同八百八拾石五斗一升六合　深良村
一同百弐拾九石八斗四升五夕　石脇村
一同四百三拾石五斗四升四合　佐野村
一同弐百四拾七石九斗三升二合　久根村
一同百五拾壱石八斗八升六合　公文名村
一同百拾四石六斗一升三合　稲荷村
一同百八拾石六合五夕　茶畑村
一同百五拾石弐斗七升八合　平松新田
一同三拾六石弐升八合　二ツ屋新田
一同弐百三拾八石壱升三合　伊豆島田
一同百七拾弐石壱斗一升三合　水窪村

〆六千八拾九石七斗四升五合弐夕

湖水人足壱人ニ付
代銭八拾八文つゝ

（裾野市公文名　市川逸朗氏所蔵）

二七四　文政一三年（一八三〇）二月吉日　富沢堰用水掛合・掘抜間数組覚

富沢堰

是ハ往古ゟ富沢堰与相唱来申候

掛合覚

一高七拾六石弐斗六升三合
　此反別七町九反壱畝廿七歩
　　内わけ
一高弐拾九石八斗五升三合　　富沢村
　此反別三町六反九畝弐歩
　　内わけ
高拾石三升四合　古田上石
　此反別七反六畝拾三歩
高拾五石壱斗八升七合　畑田成
　此反弐(別)町三反壱畝五歩
高四石三斗五升七合　見取
　此反別五反四畝拾四歩
高弐斗七升五合　新田
　此反別七畝歩
一高三拾四石壱斗四斗八合　一色村
　此反別弐町九反六畝三歩
　　内わけ
高廿七石九斗七升九合　古田上石
　此反別弐町弐反三畝廿五歩
高六石壱斗四升四合　畑田成
　此反別七反弐畝八歩
一高拾弐石弐斗六升弐合　定輪寺村
　此反別壱町弐反六畝廿弐歩
　　内わけ
高拾壱石三斗壱升　古田上石
　此反別壱町壱反三畝三歩
高九斗五升弐合　畑田成
　此反別壱反三畝拾九歩

右堀抜間数覚

大口割堀　長弐拾間
上堀抜　同百弐拾間

赤松割堀　　八拾六間
下堀抜　　百三拾六間
大門先分場迄　六　拾　間
小以四百四拾弐間
分場ゟ八兵衛前迄百九拾間
富沢村上ゟ一色境迄三百八拾間

惣間数合九百九拾弐間
　但シ拾六町三拾弐間也
　　但シ掘抜　幅四尺
　　高(マヽ)
古田地水山沢懸り
一高百拾六石七斗壱升弐合
上堰長三百六間
下堰長弐百五拾間
河内堰

（「地方諸事控」　裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

三七五　文政一三年（一八三〇）二月吉日　富沢村堰・穴堰芝打、浚扶持人足、手当米金覚

富沢村堰目録
上堰長三百六間　此人足廿人
　損候場所芝打浚共
下堰長弐百五拾間　此人足拾七人
堰壱ヶ所　此人足拾五人
三口合五拾弐人

三ヶ村掛合穴堰覚
大口五間籠五ツ　此人足八人
　此竹百本
三間半籠四ツ　此人足三人
　此竹五拾本
弐間半籠六ツ　此人足五人
　此竹五拾本

大口浚籠詰共　　此人足五拾七人
穴之内浚　　同人足拾七人
窓三ヶ所浚面共　　同人足弐拾人
上割堀浚　　同断弐拾七人
下割堀浚　　同断三拾五人
芝二坪　　同断拾六人
〆人足百八拾人
竹弐百本
右割高壱石ニ付人足四人ツヽ
高三石　　一色村
人足拾弐人
竹八拾五本
高廿九石八斗五升三合　　富沢村
人足百拾九人
竹八拾弐本
高拾弐石弐斗六升弐合　　定輪寺村
人足四拾九人
竹三拾三本
右三ヶ村堰懸合如此御座候
富沢村分
都合百七拾壱人
内四拾五人　村役引
残而百弐拾六人
此御扶持米六斗三升
竹八拾弐本
此御米三斗弐升
〆御米弐俵壱斗五升
右之通小長谷勘左衛門様御支配之節ゟ頂戴致来申候処、
安永七年沼津領ニ相成御潰ニ成
当御領主様ニ相成堰普請奉願上候処、大破之砌御見分
之上被仰付候ハ
寛政二戌年　金五両被下
同十一未年　同五両被下
文化四卯年　同五両被下
同十五寅年　同五両被下

文政八酉年　同五両被下

文政十二丑年格別大破ニ付御見分之上金拾両被下候

（「地方諸事控」　裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二七六　文政一三年二月吉日　湖水門書上覚

（一八三〇）

湖水堀抜井口

幅弐間長五尺

割堀五拾四間　弐間共

堀抜七百弐拾間

須釜新川土手五百間

水門巾弐間半五尺戸

一湖水門戸横三尺三寸八分・上戸弐尺五寸・下戸四尺五寸・上下合高ヶ七尺戸、辰三月水門改下戸四尺上戸三尺合七尺也

一右湖水ハ寛文六丙午年六月

〆同十戌年迄五ヶ年相懸り、其後四人之内湖水掛り〆拾七年之内上穀ヲ取申候、寛文十一亥年五月四日ニ掘抜水少々出ル、同十二年五月廿八日水大分下り、畑成田始り

一高四千三百弐拾四石八斗九升壱合

此反別三百七拾九町四反九歩

右高弐拾九ヶ村湖水高ニ候得共、安永五年出入ニ付済口証文之儀御掛り牧野越中守様〆被仰付、木瀬川瀬名沢無差別一同無甲乙分水可仕御裁許相済候上者、惣高ニ相成当時取用

（「地方諸事控」　裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二七七　天保二年一一月　井組組合村請普請につき諸色値段書上写

（一八三一）

（表紙）

天保二年

諸色直段御請書上写

卯十一月

覚

一槻木長弐間　壱尺角
　代永壱貫文
一松木長弐間　同断
　代永四百文
一杉木長弐間　壱尺角
　代永五百文
一栗木長弐間　同断
　代永五百八拾文
一栗丸太長弐間　末口九寸
　代永三百五十文
一同丸太長八尺　末口七寸
　代永百八文
一同丸太長九尺　末口六寸
　代永八拾八文
一同丸太長九尺　末口八寸
　代永百拾八文
一同丸太長六尺五寸　末口七寸
　代永八拾七文
一同木長九尺　末口三寸
　代永弐拾八文
一栗丸太長七尺　末口四寸
　代永三拾八文
一同丸太長壱丈壱尺　末口五寸
　代永七拾四文五分
一同丸太長壱丈三尺　末口六寸
　代永百弐拾七文
一同丸太長壱丈　末口六寸
　代永九拾七文七分
一同丸太長壱丈三尺　末口五寸
　代永百六文
一同丸太長九尺　末口四寸
　代永五拾弐文
一同丸太長弐間　末口四寸

代永六拾四文

一松丸太長壱丈三尺　末口三寸
代永弐拾文

一松丸太長六尺　末口八寸
代永弐拾八文

一同丸太長壱丈壱尺七寸　末口四寸
代永弐拾四文三分

一同丸太長壱丈壱尺　末口四寸
代永拾九文三分

一同丸太長壱丈　末口三寸
代永拾壱文九分

一同丸太長六尺　末口弐寸
代永三文

一唐竹壱本　目通口五寸通り
代永七文弐分

一鉄目壱貫目ニ付　但銘類ニ打立
代永百四十弐文

一明俵　四斗入　桟表共　同拾俵ニ付
代永三拾文

一縄弐拾尋曲　但拾俵ニ付
代永七文八分

一大工壱人ニ付
賃永四拾文

一木挽壱人ニ付
賃永三拾弐文

一石切壱人ニ付
賃永五拾文

一油壱升ニ付
代永五拾七文弐分

右ハ駿州駿東郡私共村々組合新川・木瀬川・堺川・逆川通国役御普請御見分為御目論見被成御越御普請御遣方ニ相成候、諸色直段御吟味御座候ニ付、所直段奉書上候処、高直ニ付精々引方仕候様被　仰渡、然ル処一躰諸色払底

之村方殊ニ最寄沼津宿・三嶋宿共出火已来別而木品高直ニ罷成候ニ付、何卒書上直段ヲ以被仰付被下置候様再応奉願候処、天明之度并文政年中御国役御普請被　仰付被下置候直段見合高直ニ相当候ニ付難相済筋ニ付何れニも引方仕候様被　仰聞御利解之段難黙止、右直段引方仕候、此上引方被　仰付候而ハ村請御免奉願候外無御座候間、前書直段ヲ以組合村請ニ被　仰付被下置候様奉願上候、然ル上ハ諸色之義ハ寸間目通相違無之品相改無御差支差出可申候、依之組合村々惣代連印証文仍而如件

天保二卯年十一月

駿州駿東郡弐拾九ケ村
上郷中郷下郷
惣　代
稲葉金之丞知行
同州同郡深良村
名主　仲　蔵
組頭　林右衛門
大久保出雲守領分
同州同郡御宿村
名主　仙　蔵
大久保加賀守領分
同州同郡公文名村
名主　宇　平　治
同領分茶畑村
名主　甚　蔵
同領分石脇村
名主　良　蔵
水野出羽守領分下郷
同州同郡下土狩村
名主　幸右衛門
同領分中土狩村
組頭　善　蔵
同領分下土狩村
組頭　忠　助

御普請御見分
御役人中様

覚

一杉木　藤井圓四郎様　曾根慎之丞様　御両人江上ル
長壱丈六尺　末口六寸
代銀拾五匁

一同木　長壱丈六尺　末口五寸　右ハ天保三辰三月七日書上
代銀拾弐匁

一同木　長壱丈　末口六寸
代銀三匁七分五厘　七匁五分

（神奈川県箱根町立郷土資料館所蔵）

二七　天保三年三月（一八三二）　湖水門木口控

（表紙）
天保三年辰ノ正月
湖水門木口控
井組弐拾九ヶ村
上郷惣代人

一槻壱本長壱丈四尺　幅壱尺壱寸　厚九寸
代銀百弐拾匁
湖表迄届人足ちん共

一同柱四本長壱丈四尺　壱尺角
代銀四百五十匁

一杉柱四拾本長八尺　六寸角
代銀弐百十五匁

一杉角拾本長サ壱丈三尺　六寸角
代弐百三十匁

一同拾挺長壱丈三尺　幅六寸ニ　厚三寸

代百十五匁
一同横木弐拾挺長壱丈三尺　幅五寸 厚弐寸
代百八十五匁
一松板六拾枚長七尺　幅壱尺 厚弐寸五分
代銀六百匁
一松板三十枚長壱丈弐尺　幅壱尺 厚弐寸五分
代
一同戸板廿壱枚長三尺三寸　幅壱尺壱寸 厚三寸
代
一松戸さん拾弐本長四尺　三寸五分角 割物
一杉おさへ木四本長壱丈　四寸角
一同柱八本長九尺　五寸ニ 六寸之角
一同横木四挺長壱丈弐尺　幅五寸 厚弐寸
一同板廿四枚長九尺　幅壱尺 厚弐寸
一樫ろくろ木弐本長三尺三寸　五寸の 八角

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二七九　天保三年五月　御普請諸道具損料并払物類諸色控帳

（一八三二）

（表紙）
天保三辰年
御普請 諸道具損料 并ニ払物類 諸色控帳
五月
会所 惣代人

覚

石脇村　甚右衛門

一げんのう
一唐鍬
一女蓮
一鶴角
〆四品
此損料金弐朱也

公文名村

一けんのう
一鶴角
一女蓮
〆三品
此損料八百文

一唐鍬
一鶴角
一女蓮
〆三品
此損料八百文

一鶴角
一女蓮
〆弐品
此損料四百文

宇平治

一げんのう
一金手木
一女蓮
〆三品
此損料壱貫百文
右げんのう大いたみニ付損料増申候

御宿村

仙蔵

一唐鍬
一女蓮
〆三品（ママ）
此損料四百文

深良村

治三郎

一女蓮弐枚
一鶴角
一印二ヶ
〆三品

茶畑村

甚蔵

下土狩村

忠助

此損料九百四拾八文改

一鶴角　　切久保　甚兵衛
此損料弐百文

一女蓮　　深良村　仲蔵
一算
〆弐品
此損料三百六拾四文

一綱　　佐野村　佐兵衛
此損料五百文
是ハしょろ綱故損料相増申候

一水風呂桶　　深良村　辰右衛門
此損料七百四拾八文

一茶釜　　同村　吉兵衛
此損料三百文

一飯台　　深良村　藤兵衛
此損料七拾弐文
二口〆三百七拾弐文

一卓　　同　伊左衛門
此損料三拾弐文

一同　　同　吉兵衛
此損料三拾弐文

一銭箱　　平松新田　幸蔵
此損料六拾四文

一重箱

此損料百文

一膳　湖水小家ニ而扱

此損料百文

一女蓮

此損料弐百文

一平桶

此損料四拾八文　左衛門ニ入

一碁鑑

此損料百文

〆金弐朱ト

七貫三百弐拾四文

払物

一莚三拾七枚

代壱貫三百文

深良村　林右衛門

一流きう五枚

代弐百弐拾四文

一五升鍋壱ツ

代壱貫文

平松　幸蔵

一弐升鍋壱ツ

代三百四拾八文

深良村　辰右衛門

一弐升鍋壱ツ

代五百四拾八文

一壱升半

代三百弐拾四文

同　弁蔵

一茶釜壱ツ

代四百文

一油壱升

代弐百文

一茶浜茶(ママ)碗七ツ

代四百六拾四文

林右衛門

宇平治

林右衛門

林右衛門

林右衛門

おそよ

吉兵衛

一茶碗四ツ
　代百文
一摺鉢弐ツ
　代　七十弐文
　　六十四文
一片口弐ツ
　代四拾八文
一　松本桶四ツ
　　ざる壱ツ
　　鍋ぶた壱ツ
　代百文
一すゞ弐ツ
　代六拾四文
一壱升樽三ツ　直ニ出ス
　代百四拾八文
一弐升樽壱ツ
　代七拾弐文
一金弐朱ト
　百五拾六文

辰右衛門
宇平治
林右衛門ニ入
嘉兵衛
林右衛門
宇平治
良蔵壱ツ
およそ一ツ
勝右衛門
林右衛門
魚油代
林右衛門

一同壱分三朱
　是ハ御普請残り木代
〆金弐分壱朱ト
　五貫六百拾六文
仙蔵

（神奈川県箱根町立郷土資料館所蔵）

二八〇　（一八六〇）万延元年三月　上土狩村と水窪村、富沢村用水堀通路新橋につき取替規定書

（表紙）
規定書
水窪村
上土狩村

為取替申規定書之事

一富沢村用水堀入馬通路極難之場所ニ付、此度熟談ヲ以新橋弐ヶ所掛申候、尤年限之儀者弐拾ヶ年与相定申候処実正ニ御座候、然ル上者右年季中故障筋無之候ハヽ、年明之節永続仕候様其節御相談可仕候、右趣意与して

水窪村・上土狩村両村ゟ年季中馬持之者籾壱升、歩行之者五合ツヽ年々富沢村ゟ差出し可申候、右之通御相談之規定仕候処少しも相違無御座候、以上

万延元年申三月

上土狩村
帳元組頭　直右衛門㊞
組頭　俊蔵㊞
百姓代　伝兵衛㊞

水窪村
帳元　与惣治㊞
同　与兵衛㊞
百姓代　栄助㊞

富沢村
御役人衆中

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

第四節　用水と信仰

二六一　寛文一〇年九月六日　深良村町田庚申供養塔（一六七〇）



（正　面）

誓願信心徹上天三尸穏正得安全

卍

庚申妙相端然現騰古輝今渡世縁

（左側面）

大日本国東海道駿州駿河之郡鮎沢庄深良江
大場次郎左衛門
南堀町田両村之居住三宝弟子道俗男信女
松井甚兵衛
竊以等為二世安楽励善心累年一歳六度奉待
井草平十郎
庚申矣加之今月今日企石塔造立志放出屋稟
藤井惣左衛門
財糧設大斎会以請清浄緇祇修諸経咒乎
同　四郎左衛門

（右側面）

這爾依願力諸天加守護三戸矣途如是庚申

小沢市左衛門
信心之輩現世除貧苦為吉祥来度転罪業得
大場三左衛門
解脱必然況願主之人々内除七難外生七福人身
同　次郎衛門
堅固而子孫繁栄矣
放下筆頭　同　権左衛門
良久而已逆行順行忽相当戸門門成大吉
大場源　之丞

（裏　面）
願主等　植松太郎兵衛
鈴木五郎兵衛
岩元久左衛門
同　作兵衛
敬　白　井草徳右衛門
渡部九　兵衛
維時寛文拾庚戌天晩秋六日

（裾野市深良二五〇九番地）

二八三　寛文一〇年（一六七〇）九月六日　深良村切久保庚申供養塔



（正　面）
庚申供養塔
（左側面）
寛文十暦　戌九月六日造立之願主二十五人
（右側面）
寛政十二年　庚申八月廿五日再開之願主九人
（背　面）



（正面）
箱根湖水堀抜元〆水仁

（左側面）
南無阿弥陀仏

（右側面）
辛正徳元年
三界万霊等

施主　惣ヶ原
友野與右衛門
浅井□□右衛門
須崎源右衛門
長浜半兵衛
天崎加右衛門
（長泉町　惣ヶ原芦湖水神社）

二六三　正徳元年（一七一一）　惣ヶ原箱根湖水掘抜元〆水仁碑

呻石建立　円道原　切久保中　二村若者中
（裾野市深良六一五番地）

二八四　（一七一一）正徳元年　納米里村地蔵尊



（正面）
筥根湖水発願人

為六人立俗名前田喜左ヱ門

（右側面）
正徳元年

（長泉町納米里　柏木千畝氏宅内）

二八五　（一七四〇）（元文五年）正月二五日　御供米上納につき箱根山金剛王院大岡越前守宛願書

乍恐書付以奉願候御事

一箱根権現領境之儀旧冬御絵図御裏書以御裁許被仰付、右御裏書之御文言、駿豆両州ヱ用水ニ引候権現之湖水、右用水無滞様ニ可致之旨御裁許之通奉畏候、就夫先年湖水堀抜初而用水ニ仕候節、駿豆両州水懸り候村々之者共、箱根権現ヱ願書相納、猶又別当方ヱ相願候節、右湖水之儀は権現御洗手之池ニ御座候得は湖水堀抜成就仕、用水ニ申請候上は、水掛り之村々ゟ権現ヱ御供米永々相備申筈之願望ニ而勿論別当方ヱモ証文差出、普請成就仕用水引来申候、然共只今ニ而は御供米相備不申候、且亦用水之儀春中ゟ堤上置仕水高ニ仕候故湖水自然と満水仕、権現大内通其外坊中寺内門前町屋之居屋敷迄水揚り通路相留り申候、尤菜園等迄皆損難儀

至極仕候、従往古水高を積り分石を相定、右分石ゟ高ク水包候節は元箱根ゟ人足指出分石之通水切落申候定格御座候、然共用水障りニ少モ罷成不申候、扨又風立候節は従御公儀御修覆被成下候、権現大門石垣其外道端相崩レ彼是難儀奉存候間、右水掛り之村々願書并証文之通権現ニ御供米相納并水貯候儀は分石之通ニ被仰付被下候様ニ奉願候、以上

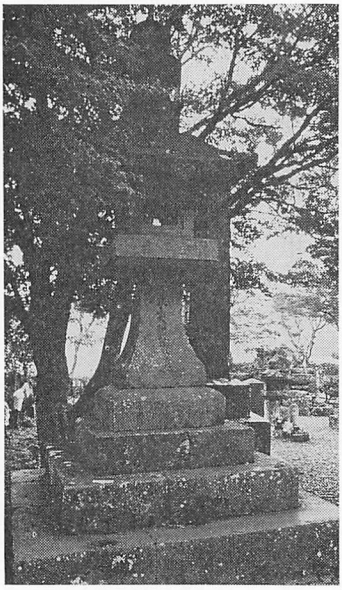
申
正月廿五日　　箱根山
金剛王院㊞

大岡越前守様

御役人中

（箱根神社々務所『箱根神社大系』上巻所収「万福寺文書」）

二六六　寛政三年（一七九一）五月　井組二九カ村奉納箱根神社常夜燈



（塔身　正面）
（常）□夜燈

（塔身　右側面）
宮根山大権現御神前

（塔身　左側面）

□□大権現者神徳輝天霊光遍地□□霊嶽何減叡閣山
上太湖誰下筆焉□□東之要路扶桑之鎮護豈可不謂神□□
乎千歳矣哉是故通達之貴賤士著□緇素毎盤桓乎茲霊境也
患無燈棚也蓋有年矣伏以此山貫首瑩隆和上内修密乗而照
徳外化衆縁而塞違実以徳鎮山也又既尚矣故欲使勧誘山側
里人造立石燈於神前也其成速矣於是乎可不□□（神功地カ）霊由
於有道人之置郵而頓逮

（塔身　裏面）

□歳矣哉貧道随喜之余忘固陋叨作□冀海内無為三
有四恩倶霊利益□識永脱根鹿
□函嶽　霊神維居　山湖在邇
□有余　言志白業　山側里閭
□力神炬　凝誠権与　恰似愍女
□燈光誉　□智頓現　三業忽除
殊勲赫赫　照破太虚　献燈常夜
万年如初鎌倉沙門隆照粛泰筆記

（三）
寛政貳年竜集辛亥夏五月吉祥旦建之

（台座　左側面）

大願主
当所
安藤幸右衛門

（台座　裏面）

時役人
菅沼伊織
横山久□
大場□
石工
又左衛門
繁八

（基礎三段目　右側面）

世話人

駿州駿東郡

深良村

勝万田太治右衛門

小林治兵衛

石脇村

大庭□

下土狩村

室伏平右衛門

佐野村

植松文蔵

中土狩村

鈴木儀兵衛

（基礎三段目　左側面）

石工

高遠

北原椗四郎

同　孫八

同　直左衛門

石方世話人

当所

小林善蔵

（基礎三段目　裏面）

願主

新宿村

伏見村

竹原村

下土狩村

中土狩村

上土狩村

納米里村

一色村
水久保村
富沢村
定輪寺村
千福村
御宿村
葛山村
上田村
金沢村
神山村
岩波村
深良村
石脇村
佐野村
久根村
稲荷村
公文名村
平松新田
茶畑村
麦塚村
二屋新田
伊豆嶋田村

（神奈川県箱根町　賽の河原）

二六七　弘化四年（一八四七）　法喜庵賀歌

法喜庵長久を賀して
若みつの此源を
　たつぬれハ齢久しき
箱根路の池乃なかれの
　なか〳〵とわたりくるを
　　思ひ侍りて
若水の古の源ハ
　箱根路の
池乃なかれを万代や

貴重ノ湖用水依然山中ニ溜廃無用ニ属スルヲ深ク慨歎シ、非常之戮力誠神以テ後世ニ良名ヲ伝エシ成跡ハ、別楮由来書ニ名記上申スル所ナリ、而リ然シテ此ノ功人延宝五年ニ至リ所在上土狩村惣ケ原ヨリ他エ移転シ、遂ニ其踪跡ヲ覓ムル事能ハサラシム、今日ニ至ルマテ絶テ苗裔ヲ尋索スルニ至ラス、亦霊ヲ吊祭シ魂ヲ慰スルノ縁人在ル事ナク空然星霜ヲ経過シタリ、実ニ無情無思ノ事ト謂フ可キナリ、斯ノ如キ殊徳ノ恩人タリ土地ノ衆庶何ソ其功労ニ報セサランヤ、茲ニ於テ有志ノ数輩奮然四大人霊祭ノ念ヲ起シ肯メテ一社ヲ設立シ一ハ聊カ以テ万分ノ一ヲ報酬シ、一ハ衆人ヲシテ先人ノ功業ヲ忘レサラシメン事ヲ冀ヒ、因テ後来社祭ノ維持方法社名及ヒ地名祭日等楮末ニ之ヲ記載シテ一社設建之義ヲ左ノ人名之者等連署懇願ス、庶希ハ輩等ノ徴志御同察被成下趣旨御採用之義奉願候也

神社設置維持法及祭日

右　　重寿

弘化四未年
五月吉日書之もの也

豆州君沢郡堀之内村
堀内彦次郎重寿印

（弘化四年「富沢村絵図」裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二六　明治一二年七月　惣ケ原水分神社創立願書（一八七九）

神社創立之義ニ付願書

駿東郡井組弐拾九ケ村ノ養水根元箱根湖隧道ヲ開鑿、以テ該村エ永世ノ洪益ヲ附与シタル工業創起人ヲ推尋スルニ、今ヲ泝ル弐百余年前寛文年中ニ於テ東都浅草ノ町人友野与右衛門・同都本船町浅井佐治兵衛・尼崎嘉右衛門・同都四ツ谷ノ人長浜半兵衛之四銘、函根山嶺湖水辺及ヒ駿東郡御厨村々ヲ逍遥シ、地形水利ノ如何ヲ視定シ、

位置社地反別書

字惣ヶ原
一水分神社
故友野与右衛門　故浅井佐次兵衛
故尼ヶ崎嘉右衛門　故長浜半兵衛
本社　東西一間半　南北一間
祭日年々八月十三日
社地段別弐畝弐歩
位置　民有地第一種　上土狩村々持
駿河国駿東郡上土狩村之内
字惣ヶ原
維持法
有志者ヨリ寄附金三拾円ヲ募リ、年内一割五分ノ利子年々金四円五十銭宛之ニ加フルニ、賽銭月々金十五銭年々金一円六十銭ヲ収入シ、以テ祭典及ヒ修繕費ニ充ツル者トス

函根湖水堀貫起発人由来書

駿河国駿東郡深良村外弐拾八ケ村ノ洪益ヲ起セル函根湖水道堀貫起発人タル誰人ニ係ル哉ヲ推尋スルニ、今ヲ距ル弐百拾九暦寛文元辛丑ノ年ニ於テ、東都浅草ノ町人友野与右衛門、同都本船町浅井佐次兵衛、尼ヶ崎嘉右衛門、同都四ツ谷之人長浜半兵衛ノ四銘トス、当時治平無事衆庶一般（パン）小康ニ偸安ヲ冀ヒ進取励毘ノ気慨ニ乏シク、人民結社公益ヲ画策シ、民議ヲ採ル等ノ事ニ於テハ稀ニモ視聴セサルノ形勢タリ、此時ニ際シ其躬武州ニ在テ我産土ニ非サルモ、遠ク函根ノ湖水ニ着眼シ、貴重ノ用水ヲ偶然山中ニ堤留シテ何等ノ用法ニ供セサルヲ深ク歎息シ、寛文元年土地熟知ノ人則チ駿東郡御厨深良村之農民大庭源之丞ナル者ヲ誘導者ト為シテ函根之山嶽ニ攀登リ時維梅天風雨無度四面之青樹翠蔓蒙絡揺綴環合寂寥無人神ヲ凄シ骨ヲ寒ラシム、眼ヲ転シテ一方ヲ顧ミレハ駒ケ嶽神無山ハ玲瓏タル湖上ニ聳ヘ、深藍染ルカ如ク全肌粟ヲ生スルニ至ル、実ニ神仙之棲屈ト云フモ亦誣言ニハ非サル

可キノ深林ヲ逍遥スル事幾数回トナク、岸勢犬牙差亘、其源ヲ知ル可カラサルノ湖辺ヲ周繞シ、以テ地理ヲ暁リ漸クニシテ寛文五乙巳之年五月水道ノ喉口ヲ擘定シ、関泮ノ村民ヱ協議ニ及ヒ、通水ノ便利開田ノ公益費用ノ難易消却之法方等懇懃教諭、其愛国心ノ厚キ感セサラン一揖甘諾結約ス、因テ寛文丙午六年四月十三日時ノ領主ヲ経テ公辺ニ発願シ、同年八月十三日湖水面字駿河戸山咽喉口ニ工業ヲ起シ、同年十一月東口ニ着手シ、日夜不懈艱難之結果空シカラス、寛文十庚戌ノ年二月廿五日両口全ク連合シ、同四月廿五日水初テ通利シ、此ノ大偉業ヲ成頓シ了レリ、依テ井組廿九ケ村ノ草田畑六千八拾九石余ヲ養用スル所ノ水源トハナレリ、爾後斯ノ四大人井組之内上土狩村字惣ケ原ニ居ヲ構ヱ、七ケ年限リ田一段当リ米一斗五升ノ水益米開田之地ヨリ収メタリ、同人邸地ハ今ノ年他ニ土工起スノ志望ヲ発シ移転シタリ、而シテ四家共ニ遂ニ踪跡ヲ失スルニ至レリ、星霜三十七年ヲ経テ正徳元年土人其徳義ヲ称讃シテ該地ニ二小堂（地蔵尊ヲ安置ス）一石碑ヲ建立シ記録ヲ収メ、其芳志ヲ忘却セサルヲ表シタリ、文化五戊辰年偶々丙丁童子之逞毒ニ罹リ堂宇書籍揚ケテ烏有ニ属シ、友野与右衛門・浅井佐次兵衛・尼ケ崎嘉右衛門・長浜半兵衛正徳元年六月吉祥日数文字ヲ僅ニ焼碑ニ遺存セリ、該事業ニ於ル通庸人物之能ク企及スル所ナラント思惟ス、而リ然シテ事業之形蹟ハ千歳傷損セサルノ賜ト雖モ、起発人之事蹟ニ至テハ、業ニ既ニ廃絶スルカ如シ、豈ニ慨歎ノ至リナラスヤ、世潮隆盛之今日昔時ヲ追懐シ痛惜ニ耐エス、之ニ憑テ一ハ旧家ノ記録ニ徴シ、一ハ是ヲ実際ニ尋ネ敢テ以テ正確ヲ記ス

明治十二年第七月

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

二九　明治四三年四月　芦湖四留水門碑

（一九一〇）

（右面）

芦　　四留水門者寛文十年之創設也、明治四十二年以

湖　　永久建築之目的改木造於石造、同年十二月起工

四　四十三年四月竣工

留　静岡県駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合管理

水　者泉村長

門　設計者　勝俣邦俊

水配人惣代サノ

工事監督　杉山角平

工事請負人

橘吉蔵

（左面）

工事参典者

深良村長　井上伴学

富岡村長　芹沢孝三

小泉村長　飯田友吉

明　長泉村長　鈴木博夫

治　清水村長　平井喜十郎

四　富士岡村長　土屋辰三郎

拾　委　員　永井嘉六郎

参　同　松井譲治

年　同　横山健吾

四　同　山本浅次郎

月　石工　泉村茶畑　杉山佐十

成　同　イヅミシマ　コナカシマ　渡辺松太郎

同　相刕マナツル　青木栄太郎

土工サノ　三谷代埋

同　保土ケ谷　梅原長吉

同　三谷清八

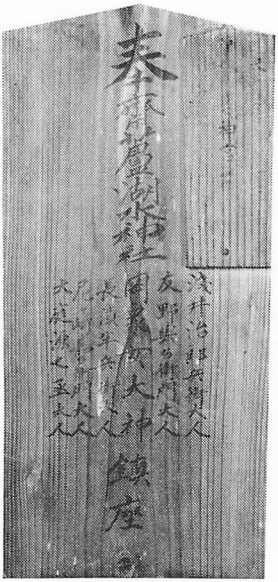
世話係フカラ村　勝又弥太郎

同　橘留作

鳶　藤原徳次郎

（神奈川県箱根町湖尻）

二九〇　大正一三年一月二六日　惣ケ原芦湖水神社棟札



（表）

奉斎芦湖水神社

浅井治郎兵衛大人
友野与右衛門大人
岡　象　女　大神　鎮座
長浜半兵衛大人
尼　崎　衛　門大人
大庭源之丞大人

（右上板の裏書）

祭神
岡　象　女　命
友野与右衛門
大庭源之丞
外三神

（裏）

大正十三年一月廿六日　神名帳御編入認下

神　岩崎元功
職　池田高次郎

崇敬者惣代人

長泉村長　鈴木新作
深良村長　松井謙保
富岡村長　西島親則
小泉村長　渡辺孫三郎
泉　村長　芹沢倉次郎

清水村長　高田譲八郎
納米里　永井寛太郎
下土狩　室伏平右衛門
上土狩　秋山村治郎
同　上杉宇吉
同　上杉若三郎
同　渡辺直太郎

出願発企人
秋山村治郎
同　上杉宇吉
同　上杉若三郎
同　渡辺直太郎

（長泉町　惣ヶ原芦湖水神社）

二九一　昭和五〇年（一九七五）一二月一五日　芦ノ湖水神社建設資金決算報告について

昭和五〇年一二月一五日

様

芦ノ湖水神社建設委員会
委員長　富岡一朗

芦ノ湖水神社建設資金決算報告について

寒冷の候、益々御清栄の事とお慶び申し上げます。水神社建設資金につきましては、多大なる御尽力を頂き厚く御礼申し上げます。おかげをもちまして本年三月二八日着工した水神社は、七月二九日、無事完成いたしました。

資金面についても一時借入金の返済が終り、別記決算報告のとおり、すべてその事業を完了いたしました。皆様方の御協力を感謝するとともに、今後の芦ノ湖水神社

の運営につきましても、種々御指導、御鞭撻の程、お願い申し上げます。

なお、本委員会は本日をもって解散いたします。

収入	
一、寄附金	一三、四六四、〇六二円
○裾野市農一般家	五、七七九、三九二
○裾野市事業所	二、二八一、一四二
○裾野市有志	一、三二二、二五〇
○裾野市特別寄附	八四七、〇〇〇
○長泉町	一二九、〇〇〇
○清水町	一、二〇〇、〇〇〇
○御殿場市	六、八二五、〇二〇
	八五七、七五〇
	一、九〇〇
二、関係団体	一、〇八〇、〇〇〇（農協等）
三、預金利子	四九、一七四
四、雑入	五八、五〇〇
収入合計	一四、六五一、七三六

支出	
一、工事費	一二、六一六、〇〇〇円
拝殿新築八坪木造銅葺	一一、七六六、〇〇〇
本殿屋根葺替工事外	八五〇、〇〇〇
二、設計監理費	五〇〇、〇〇〇
三、事務費	八二三、六三二
印刷費	一九九、一九七
竣工式・祭典	三〇三、六〇五
記念品費	一七四、〇五〇
会議費	四〇、五五〇
起工式等	三〇、四〇〇
登記料	五三、四〇〇
備品費	一五、二〇〇
通信費	七、二三〇
四、一時借入金利子	六九、〇三五
支出合計	一四、〇〇八、六六七

収入支出差引残高六四三、〇六九円は今後の水神社管理運営諸費に充当する。

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

二九二　午一〇月　箱根大権現御神水御初穂取集役僧廻村につき廻状

封印

箱根山

水掛村々

先　触

箱根大権現御神水御初穂為取集、例年之通来ル十一月上旬役僧役人ノ内被致廻村、依之此段申入置候、以上

午十月

箱根山
代官兼
和田大炊㊞(写)

新宿村㊞請印
伏見村○
下土狩村○
竹原村
中土狩村
上土狩村
納米里村
一色村
水久保村
富沢村
定輪寺村
千福村
御宿村

葛山村
上ヶ田村
金沢村
神山村
岩波村
深良村
石脇村
佐の村
久根村○
稲荷村○
公文名村○
平松新田村○
茶畑村○
麦塚村○
二屋新田村○
伊豆島田村○
右村々

御名主中

追而
右廻村之節例年之通人足壱人并ニ昼休泊り共差支無之様乍御世話頼入置候、且又此廻状留り村江御留置被成、右廻村之節請取可申候、以上

（裾野市上ヶ田　柏木新吾氏所蔵）

二九三　年未詳　惣ケ原芦湖水神社念仏供養塔

（正面）
□無阿弥□□

（右側面）
友野与右衛門
浅井佐次右衛門
尼崎加右衛門
長濱半□□



（裏面）

□卯仲秋彼岸

駿東郡惣ヶ原　施主

当新田
「　」

（長泉町　惣ヶ原芦湖水神社）

第五章　近代の用水



第一節　明治初年の井組三郷

二四　明治七年五月　箱根湖水向後取扱規定書

（一八七四）

箱根湖水向後取扱規定書

一向後水掛リ反別之義者、三郷共今般取調候別紙反別ヲ以相定置、自今如何様之都合有之候共、一郷一村之勝手ヲ以猥ニ増田反別致シ申間敷事

但無拠事情有之歟、又者用水連年潤沢致シ余水有之歟、全適実之見留相付増反別致シ可然時勢ニ相至リ候ハヽ、三郷村々一同厚熟談ヲ以　御管轄庁江願出、旧約水掛田反別之内公免之上取計可申事

一堰々分水口之義者為見様従前之通据置水配人分水堅ク相守可申事

但向後水配方壱ケ村タリ共用水中多分之甲乙相成不都合相生シ候堰有之候ハヽ、水配人江申談事大区長江伺之上、法方（方法）御管轄庁江申立御指令ヲ受改正可致事

一堰番之義者是迄不取締之堰々多ク自然分水不潤沢ニ相成候ニ付、今後更ニ改正致シ別紙堰番帖之通堅相勤め可申候、尤用水多少ニ随ヒ其時々番人員増減可有之候者勿論之事

但用水減水之節者中郷引入口并ニ千福四堰へ下郷ヨリ添番差出シ上郷堰々江者中郷ヨリ添番相付ケ可申、万一堰番人不取締歟又者堰掛リ村々之者心得違取働キ水配人分水ヲ不相守堰々相破候者有之候ハヽ、水配人ヨリ小区惣代江及談事ニ大区長江伺出之上、御管轄庁へ願出御処分可申受事

一堰々其他用水掛引障ニ相成候箇所有之候ハヽ、水配人適宜之取計ラヒ可致事

一用水中水配人分水之節、堰々水操上ケ操下ケ進退致候ニ付而者、其時々至急差支無之タメ堰々之模様ニ寄入

用之機械平生取設備置惣而水下之人足ヲ遣ヒ水配人取計可申候、尤水進退之模様歩合等水配人ヨリ其所堰掛村々正副戸長之内江相断可申候、然ル上者村々異論故障等不申立速ニ適宜之分水受可申事

但水配人ニオヒテ茂上中下甲乙無之様入念取計可申候

一用水大減少ニ相成水配人計リニ而分水掛引不行届候節ニ至リ候ハヽ、増水配人相立可申事

但給料之義者時宜ニ随ヒ取究メ可申事

一水配人給并ニ諸入用之義者、自今三郷共水掛リ改反別ニ割合無相違速ニ出金致シ差支無之様可致事

一分水中堰入用草笹麁朶等之義者、田畑畔又者川縁リ溝縁リ林地下草等苅取其他有合之品相用候義勝手タルヘキ事

一水配人之義者用水中田面見廻リ分水等ニオヒテハヽ、耕地田畑畦者不及申其時宜ニ寄候而屋敷内ナリ共通リ抜(不苦)ケ可苦候、尤其節一応相断通行可申事

一水配人分水之節者其堰掛村正副戸長之外其他一切立会申間敷事

一今般取調候田反別向後混雑異論無之タメ村々地券地引絵図ニ引当田畑并ニ引用水掛リ共判然相成候様、反畝歩書入詳細色別ケ絵図面相仕立置水配人方江預ケ置後證ニ備可申事

但シ水配人役替之節者、必後役へ絵図面付渡シニイタシ置紛失無之様イタスヘキ事

一三郷分水反別之義今般御改正之通リ水配人手帳共三郷惣代人令加印水配人江相渡シ置同断附渡シニイタシ可申事

一箱根湖水并ニ木瀬川瀬名沢今堰トモ合水ヲ見込分水可致事

一分水之儀者芒種之節ヨリ相始熟穂見届候迄差配可致事

一箱根湖水洪水之節者三郷水配人一同昼夜ヲイトワズ人足引連湖水表始メ新川堤通リニモ水防キ方尽力可(つと)事

一旱魃之年柄ニ至リ疑情無之タメ三郷申合正副戸長并ニ

長百姓之内一郷両三名宛甲乙田面之否見届可申事
一堅規定仕候上者不条理無之筈ニ候得共、万一用水不潤沢之年柄者、水配人一同ヨリ小区惣代人江遂談事大区長江伺出之上御県庁江奉願上御法方（方法）改正可相願事
右者箱根湖用水掛リ井組合深良村外弐拾七ヶ村連年旱損引続困苦難渋致シ候ニ付、出格御憐恤　今般御県庁権中属橋本清典殿・少属内田富俶殿御派出之上用水源箱根湖表始三郷水路堰々御見分被成下、村々旧約田反別并ニ向後水掛リ反別共詳細御取調相成、其上村々江懇々御説諭被成下、三郷一同難有奉拝承候、依之弐拾八ヶ村正副戸長一同睦ミ合厚相談之上、向後用水取扱規定前書之通相定め候処実正也、然ル上者右規定之廉々一同屹度相守可申候、為後証三郷惣代人水配人正副戸長連印之規定書郷々壱冊宛備へ置候処相違無之候也

静岡県管轄第一大区
駿東郡
第三小区深良村
戸長　勝又平八

四小区神山村　戸長　小林太治郎
三小区岩波村　副戸長　井上伴蔵
同　上ヶ田村　戸長　柏木新七郎
同　金沢村　戸長　永田源七
同　葛山村　戸長　岩佐久四郎
同　御宿村　副戸長　勝又丈八
同　千福村　戸長　中野友蔵
同　定輪寺村　副戸長　大石角平
同　富沢村　戸長　渡辺嘉平
同　南一色村　戸長　上杉驍蔵
同　石脇村　戸長　大庭信治郎
同　佐野村　戸長　杉山角平
同　久根村　副戸長　勝又彌平治
同　公文名村　稲荷村　戸長　高村新平
同　茶畑村　戸長　芹沢伊三郎
同　平松新田　副戸長　市川良八

同二ツ屋新田　副戸長　菅沼良吉
同　伊豆島田　戸長　水口傳平
同　水窪村　戸長　邊辺甚平
同　納米里村　戸長　吉川吉作
同　上土狩　戸長　秋山村治郎
中土狩村　戸長　神山善右衛門
下土狩村　戸長　鈴木伴右衛門
竹原村　戸長　大沼要右衛門
伏見村　戸長　土屋松五郎
新宿村　副戸長　村上甚平

上郷組合水配人
深良村　大庭新七

中郷組合水配人
久根村　勝又平七

下郷組合水配人
下土狩村　木村彌七

弐小区惣代人

下土狩村　室伏収平
納米里村　永井嘉六郎

三小区惣代人
佐野村　岩崎佐十郎
御宿村　湯山平二郎
湯山半七郎

箱根湖用水掛上郷下郷弐拾八ヶ村向後水掛リ
一反別四百六拾弐町四反弐畝廿壱歩

内訳

反別百四拾七町三反四畝拾九歩　上郷拾壱ヶ村分
反別百拾五町弐反壱畝七歩　中郷八ヶ村分
反別百九拾九町八反六畝廿五歩　下郷九ヶ村分

箱根湖用水掛上郷拾壱ヶ村向後水掛
一反別百四拾七町三反四畝拾九歩

内訳

字岩波堰
田反別七町八反八畝廿歩

此訳

反別七町六反五畝七歩　岩波村
反別弐反三畝十三歩　深良村

字豊後堰分水掛
田反別四町四反八畝五歩　深良村

字古川口分水掛
田反別壱町三反八畝拾六歩　同村

字太郎右衛門堰分水掛
田反別三反五畝拾四歩　同村

字神山埋樋分水掛
田反別壱町三反九畝五歩　神山村

字太右衛門埋樋分水掛
田反別八反三畝歩　深良村

字利平埋樋分水掛
田反別五反三畝七歩　同村

字五反田水門分水掛
田反別拾町八反三畝廿分（ママ）　同村

字弥平治埋樋分水掛
田反別九反四畝拾七歩　同村

字橋場堰分水掛
田反別弐町五畝歩　同村

字大洞堰分水掛
田反別五拾五町五反九畝拾九歩

此訳

反別四拾九町五反六畝拾歩　深良村
反別壱町壱反三畝拾四歩　岩波村
反別三町七反弐畝五歩　石脇村
反別壱町壱反七畝廿歩　久根村

字カロウト堰分水掛
田反別弐拾五町壱反九畝廿四歩

此訳

反別拾四町三畝七歩　御宿村
反別八町八反九畝壱歩　上ヶ田村
反別七反弐畝拾歩　金沢村

反別四反壱畝五歩　葛山村
反別壱町壱反四畝壱歩　千福村

字古堰（通称本堰）
田反別拾弐町五反三畝拾五歩
此訳
反別拾弐町三反八畝廿弐歩　御宿村
反別壱反四畝廿三歩　千福村

字千福堰
田反別拾七町七反壱畝廿七歩　千福村

字穴堰
田反別五町六反拾歩
此訳
反別壱町三反四畝弐歩　定輪寺村
反別四町九畝九歩　富沢村
反別壱反六畝廿九歩　南一色村

箱根湖用水掛中郷八ヶ村向後水掛リ
一反別百拾五町弐反壱畝七歩

内訳
字石脇堰分水掛
田反別八町三反六畝拾弐歩　石脇村
字サイカチ堀分水掛
田反別六反八畝廿弐歩　深良村
字大柄沢堰分水掛
田反別六町五反九畝弐歩　佐野村
字宿堀堰分水掛
田反別弐拾弐町壱畝九歩
此訳
反別弐拾壱町九反三畝壱歩　佐野村
反別八畝八歩　深良村
字小柄沢堰分水掛
田反別拾四町五反弐畝廿六歩
此訳
反別七町六反壱畝弐歩　佐野村
反別壱町三畝七歩　久根村

反別三町壱反八畝廿歩　二ツ屋新田
反別弐町六反九畝廿七歩　平松新田
内訳
字籠田堰分水掛
田反別弐町壱畝六歩
内
反別壱町三畝七歩　久根村
反別壱町壱反七畝廿九歩　佐野村
字向田堰分水掛
田反別三町弐反七畝八歩　佐野村
字藪堰分水掛
田反別九反七畝三歩　同村
字小水口分水掛
田反別三畝廿三歩　佐野村
字若狭堰分水掛
田反別壱町七反廿七歩　佐野村
字小水口分水掛
田反別六畝廿九歩　同村
字用水口六口分水掛
田反別壱反六畝拾八歩　同村
字赤石堰分水掛
田反別壱町七反壱畝拾歩　平松新田
字本川掛
田反別四町三反七畝廿四歩
内訳
反別弐反拾七歩　佐野村
反別三町壱反八畝廿歩　二ツ屋新田
反別九反八畝拾七歩　平松新田
字上野田堰分水掛
田反別壱町八畝拾弐歩　久根村
字下野田堰分水掛
田反別弐町五反九畝壱歩　同村
字中島小水口分水掛
田反別壱反弐畝拾弐歩　同村

字藪下堰分水掛
田反別壱町壱反七畝廿壱歩
此訳
反別六反九畝壱歩　久根村
反別四反八畝廿歩　佐野村
字藪下小水口分水掛
田反別壱反弐畝壱歩　久根村
字横堀分水掛
田反別四町六反三畝廿六歩　反別壱町弐反弐畝拾参歩　稲荷村
内
反別三町九反壱畝廿歩　久根村
反別七反弐畝六歩　深良村
字古川堰分水掛
田反別拾三町弐反三畝拾七歩
内
反別弐町三反四畝廿四歩　久根村
反別九町六反六畝拾歩　公文名村

字大瀬戸小水口
田反別壱反弐畝廿七歩　久根村
字宇治窪堰分水掛
田反別壱町八反四畝拾六歩　佐野村
字玄番堰分水掛
田反別五反壱畝拾六歩　久根村
字九尺堀堰分水掛
田反別七町六反九畝拾八歩
内訳
反別三町八反六歩　久根村
反別三町九反拾弐歩　公文名村
反別八反歩　稲荷村
字大瀬戸小水口
田反別三反四畝廿五歩　久根村
字小水口
田反別壱反八畝七歩　同村

字定泉田堰分水掛
　田反別八反壱畝廿四歩　同　村
字西舞台堰分水掛
　田反別三反拾弐歩　同　村
字東舞台堰分水掛
　田反別四反弐畝廿弐歩　同　村
字けんぞう堰分水掛
　田反別壱町弐反五畝八歩
　　内
　反別七反壱畝廿七歩　佐野村
　反別五反三畝拾壱歩　稲荷村
字赤目堰分水掛
　田反別壱町参反七畝拾八歩
　　内
　反別八反弐畝九歩　稲荷村
　反別五反五畝九歩　公文名村
字刑部堰分水掛
　田反別四反七畝拾弐歩　稲荷村
字小水口
　田反別壱反四畝九歩　稲荷村
字中曽根堰分水掛
　田反別弐町弐反八畝四歩
　　内
　反別三反三畝廿歩　佐野村
　反別壱町九反四畝拾四歩　稲荷村
字稲荷堰分水掛
　田反別五町五反八畝廿三歩
　　内
　反別壱町弐反弐畝五歩　稲荷村
　反別四町三反八畝拾八歩　茶畑村
字橋下小水口
　田反別三反壱畝八歩　稲荷村
字中丸上東小水口
　田反別弐反七畝廿歩　同　村

字中丸堰分水掛　佐野村
田反別六反四畝廿八歩
字中丸辻分水掛　茶畑村
田反別壱反五畝廿壱歩
字西之窪堰　平松新田
田反別壱町弐畝廿六歩
字同所小水口　茶畑村
田反別弐畝拾壱歩
字八幡堰分水掛　茶畑村
田反別四町六反壱畝壱歩
字小水口分水掛　同村
田反別六畝拾六歩
字小水口分水掛　同村
田反別弐反三畝拾壱歩
字上釜口分水掛　平松新田
田反別四反五畝三歩
字だたら堰分水掛　茶畑村
田反別三反八畝拾五歩
字下釜口分水掛　平松新田
田反別六反七畝廿四歩
字桑之木堰分水掛　茶畑村
田反別四反五畝五歩
字伊左衛門口分水掛　平松新田
田反別九畝拾七歩
字同人下口分水掛　同村
田反別壱反六畝八歩
字半左衛門口分水掛　同村
田反別三反七畝廿三歩
字源之助口分水掛　平松新田
田反別弐反八畝廿六歩
字源之助下口分水掛　同村
田反別壱反壱畝廿六歩
字小水口分水掛　同村
田反別壱畝拾弐歩

字東小水口分水掛
　田反別三反九畝三歩　同　村
字用水口分水掛
　田反別三町弐反七畝廿三歩　同　村
字用水西口分水掛
　田反別弐反三歩　平松新田
字中曽根堰分水掛
　田反別六反七畝廿七歩　平松新田
字宇津木堰分水掛
　田反別五反弐畝廿六歩　同　村
字寺堰分水掛
　田反別壱反八堰廿壱歩　同　村
字東口分水掛
　田反別三反六畝拾三歩　同　村
字横堀分水掛
　田反別六反四畝廿四歩　平松新田
箱根湖用水掛下郷九ヶ村向後水掛

一反別百九拾九町八反六畝廿五歩
　内訳
字上谷堰分水掛
　田反別六町弐反八畝廿三歩　伊豆島田
字三俣堰西口分水掛
　田反別弐拾四町七反四畝九歩　伊豆島田
　此訳
　反別拾壱町九畝拾八歩　水窪村
　反別拾三町六反四畝廿壱歩　納米里村
字井沼堰分水掛
　田反別壱町七反九畝拾七歩　水窪村
字高堰分水掛
　田反別五町八畝四歩　伊豆島田
字五反田堰分水掛
　田反別弐町弐反壱畝拾壱歩　同　村
字穴堰分水掛リ
　田反別拾四町三反壱畝廿九歩

此訳		
反別九町七畝拾歩	納米里村	上土狩村
反別五町壱反六畝拾九歩	上土狩村	中土狩村
反別八畝歩	下土狩村	
字野田堰分水掛		
田反別四町弐反四畝廿六歩	上土狩村	同　村
字絹田堰分水掛		
田反別六町七畝廿六歩	同　村	
字絹田川水口		
田反別三畝拾八歩	同　村	
字樋掛ヶ分水掛リ		
田反別八反四畝廿八歩	中土狩村	
本川西川通		
字主水堰分水掛		
田反別六反七畝拾七歩	上土狩村	
字秋継堰分水掛		
田反別拾壱町壱反五畝拾七歩		

此訳		
反別壱町六反八畝拾八歩	上土狩村	
反別九町四反六畝廿九歩	中土狩村	
字二タ松田堰分水掛		
田弐町三反八畝拾七歩	同　村	
字狭間堰分水掛		
田反別壱町六反七畝拾九歩		
此訳		
反別壱反三畝五歩	上土狩村	
反別壱町五反四畝拾四歩	中土狩村	
字施餓鬼免分水掛		
田反別壱反廿四歩	同　村	
字池田堰分水掛		
田反別三町壱畝壱歩	同　村	
字高柳堰分水掛		
田反別弐町弐反七畝拾弐歩		
此訳		

反別七反四畝廿弐歩　同　村
反別壱町五反弐畝廿歩　下土狩村
字御前堰分水掛
田反別弐町三畝拾四歩
此訳
反別九畝廿歩　中土狩村
反別壱町九反三畝廿四歩　下土狩村
字舞台堰分水掛
田反別弐拾町七反六畝拾弐歩
此訳
字川水口分水掛リ
反別弐畝廿歩　下土狩村
字川水口分水掛リ　元除地
反別弐反弐畝八歩　同　村
字川水口分水掛リ
反別壱反壱畝六歩　同　村
字宮脇堰分水掛

反別壱町八反三畝拾弐歩　同　村
字内川堰分水掛
反別壱町九反六畝拾三歩　同　村
字川水口分水掛
反別弐反七畝九歩　同　村
字川水口分水掛
反別壱反八畝拾三歩　同　村
舞台堰ノ内
字高田堰分水掛
反別四町五反七畝拾六歩
内訳
反別三町九反八畝廿弐歩　下土狩村
反別五反八畝廿四歩　竹原村
舞台堰之内
字久保田川分水掛
反別拾壱町五反七畝五歩
内訳

反別三町壱反三畝廿三歩　下土狩村
反別四町九反四畝四歩　竹原村
反別三町四反九畝八歩　伏見村
字御嶽堂堰分水掛
田反別弐町九反七畝拾五歩　下土狩村
字大割堰分水掛
田反別壱町九反六畝廿歩　下土狩村
字彌次郎堰分水掛
田反別八町八反四畝廿壱歩　同村
字開キ堰分水掛
田反別壱町七反六畝八歩　同村
字西海道堰分水掛
田反別五町四反五畝廿六歩
此訳
反別壱町壱反弐廿(歟欠カ)五歩　同村
反別四町三反三畝壱歩　竹原村
字八反田堰分水掛リ
田反別弐町四反六畝拾九歩
此訳
反別三反九畝五歩　下土狩村
反別弐町七畝拾四歩　竹原村
字椋木川水口分水掛
田反別三反四畝拾壱歩　同村
字谷口堰分水掛
田反別三町八反九畝拾弐歩　同村
字堂免分水掛
田反別弐町九反九畝廿五歩　同村
字雨降川分水掛
田反別九町六畝廿九歩
此訳
字右近田堰掛
反別壱町三反七畝壱歩　竹原村
字雨降川掛
反別弐町弐反五畝拾四歩　同村

字西川掛		
反別五町四反四畝拾四歩	伏見村	上土狩村
本川東川通		
字上北橋堰分水掛		
田反別四反壱畝拾五歩	中土狩村	
字川水口分水掛		
田反別弐反四畝八歩	上土狩村	
字下北橋堰分水掛		
田反別五反三畝八歩	下土狩村	
字川寄川水口分水掛		
田反別壱反壱畝五歩	上土狩村	
字川水口分水掛		
田反別三反弐歩	同村	
字平垣堰分水掛		
田反別壱町四反八畝拾五歩	同村	
字壱町田堰分水掛		
田反別壱町七反八畝九歩	中土狩村	

字七反田堰分水掛		
田反別弐町四反拾四歩	上土狩村	
字中丸堰分水掛		
田反別弐町四反拾四歩	上土狩村	
字中丸堰分水掛		
田反別六町壱反弐畝廿八歩		
此訳		
反別八反五畝拾三歩	同村	
反別五町弐反七畝拾五歩	中土狩村	
字柊堰分水掛		
田反別三町五反三畝五歩	同村	
字八ツ溝堰分水掛		
田反別七町壱反壱畝廿壱歩	同村	
字六反田堰分水掛		
田反別三町弐反三畝廿壱歩		
此訳		
反別三町壱反三畝七歩	中土狩村	

反別壱反拾四歩	下土狩村
字七反田堰分水掛	
田反別壱町弐反壱畝廿五歩	
此訳	
反別弐反弐畝拾歩	中土狩村
反別九反九畝拾五歩	下土狩村
字仲田堰分水掛	
田反別弐町四反九畝壱歩	同　村
字峠田堰分水掛	
田反別五町五反三畝四歩	同　村
字塔中堰分水掛	
田反別弐町弐反壱畝廿五歩	下土狩村
字川水口分水掛	
田反別三畝歩	同　村
字川水口分水掛	
田反別壱反五畝歩	同　村
字経塚堰分水掛	

田反別九反弐畝拾四歩	同　村
字川水口分水掛	
田反別弐反四畝七歩	同　村
字川水口分水掛	
田反別壱反四畝拾弐歩	同　村
字川水口分水掛	
田反別四反四畝廿三歩	下土狩村
字久根之内分水掛	
田反別七反八畝拾歩	同　村
字長田堰分水掛	
田反別七反弐畝拾九歩	
此訳	
反別六反六畝拾弐歩	下土狩村
反別六畝七歩	伏　見　村
東川流末	
田反別八町壱反五畝四歩	
此訳	

反別弐反九畝廿壱歩　下土狩村
反別六反三畝五歩　竹原村
反別弐町七畝五歩　伏見村
反別五町壱反五畝三歩　新宿村

右者今般箱根湖用水掛リ御改正ニ付、井組廿八ヶ村向後用水掛反別取調奉書上候処相違無御座候也

明治七戌年五月

静岡県管轄第一大区
駿東郡
三ノ小区深良村　副戸長　大庭庄治郎
四ノ小区神山村　戸長　小林太治郎
三ノ小区岩波村　副戸長　加藤友蔵
同　上ヶ田村　戸長　柏木新七郎
同　金沢村　戸長　永田源七
同　葛山村　戸長　岩佐久四郎
同　御宿村　副戸長　勝又丈八
同　千福村　戸長　中野友蔵
同　定輪寺村　副戸長　大石角平
同　富沢村　戸長　渡辺嘉平
二ノ小区南一色村　副戸長　上杉半平
三ノ小区石脇村　副戸長　大庭信治郎
同　佐野村　戸長　杉山角平
同　久根村　副戸長　勝又彌平次
同　公文名村　戸長　高村新平
同　稲荷村　副戸長　茶畑村　柏木瀧十郎
同　平松新田　副戸長　市川良八
同　二ツ屋新田　副戸長　菅沼良吉
三小区伊豆島田　戸長　水口傳平
二ノ小区水窪村　戸長　渡邊甚平
同　納米里村　副戸長　吉川吉作
同　上土狩村　戸長　秋山村次郎
同　中土狩村　戸長　神山善左衛門
同　下土狩村　戸長　鈴木伴右衛門

同　竹原村　戸長　大沼要右衛門
同　新宿村　副戸長　村山甚平
同　伏見村　戸長　相沢文太郎

堰番割

一豊後堰　神山村
一古川　上ケ田村
一太郎右衛門堰　上ケ田村　外二ケ村
一神山井口　深良村
一太郎右衛門埋樋　岩波村
一利兵衛埋樋　同　村
一五反田堰　御宿村
一弥平治埋樋　同　村
一橋場堰　同　村
一岩波堰　深良村
一大洞堰　佐野村　金沢村
一かろうと　石脇村
一古堰　佐野村
一佐野堰　千福村
一千福堰　伊豆島田

上郷組合水配人　深良村　大庭新七
中郷組合水配人　久根村　勝又平七
下郷組合水配人　下土狩村　木村彌七
二小区惣代　下土狩村　室伏収平
同　納米里村　永井嘉六郎
三ノ小区惣代　佐野村　岩崎佐十郎
同　御宿村　湯山平次郎　湯山半七郎

一富沢穴堰　水窪村
一石脇堰　久根村　佐野村
一さいかち　久根村
一大から沢　同　村
一宿堀　同　村
一小から沢　公文名村
一篭田堰　小から沢ノ内　二ツ屋新田
一向田堰　右同断　同　村
一藪堰　右同断　同　村
一若狭堰　右同断　同　村
一赤石堰　右同断　同　村
外川水口八ケ村
一上野田　公文名村
一下野田　同　村
一藪下堰　茶畑村

一横堀	同	村	一小水口（はした）	同	村
一古川	同	村	一小水口（中丸上）	同	村
一小水口	同	村	一小水口（中丸）	同	村
一宇治ヶ窪	同	村	一小水口（中丸辻）	同	村
一けんま	同	村	一西ノ窪堰	無	番
一九尺堀	同	村	一八幡堰	平松新田	
一小水口	同	村	一小水口	同	村
一小水口	同	村	一小水口	同	村
一定せん多	同	村	一上釜堰	無	番
一西舞台	同	村	一たゝら	平松新田	
一東舞台	同	村	一下かま	無	番
一赤目	同	村	一桑の木	平松新田	
一けんそう	同	村	一伊左衛門口	無	番
一きやうふ	同	村	一源之助口	同	
一小水口	平松新田		一半兵衛口	同	
一橋場	同	村	一源之助口	同	
一稲荷堰	同	村	一右衛門口	同	

一半左衛門口	同		一川水口	中土狩村	
一浅右衛門口	無	番	一主水堰	同	村
一平松用水	同		一秋継堰	下土狩村	
一同所西口	同		一二タ松田堰	同	村
一中曽堰	同		一狭間堰	同	村
一寺堰	同		一池田堰	同	村
一三俣西堰	上土狩村		一高柳堰	竹原村	
一犬間堰	上土狩村		一舞台堰	同	村
一高堰	納米里村		一宮脇堰	同	村
一五反田堰	同	村	一内川堰	同	村
一納米里穴堰	上土狩村		一高田堰	同	村
一野田堰	中土狩村		一大割堰	竹原村	
一絹田堰	同	村	一御嶽堂堰	同	村
一樋掛	同	村	一彌治郎堰	同	村
二俣西川通			一ひらき堰	同	村

一西海道堰	伏見村	一中丸堰	下土狩村	一経塚堰	同　村	一久根之内	同　村
一八反田堰	同　村	一柊木堰	同　村	一川水口	同　村	一長田堰	同　村
一谷口堰	同　村	一八ツ溝堰	同　村	一川水口	同　村		
一むくの木堰	同　村	一六反田堰	同　村				
一堂免堰	同　村	一七反田堰	伏見村				
東　川		一仲田堰	同　村				
一上北橋堰	下土狩村	一峠田堰	伏見村				
一下北橋堰	同　村	一塔中堰	新宿村				
一壱町田堰	同　村	一川水口	同　村				
一平田堰	中土狩村	一川水口	同　村				
一七反田堰	同　村	一川水口	同　村				

右者箱根湖用水掛堰番割奉書上候処相違無御座候也

明治七年五月

右反別水配手帳堰番割二冊本帳共水配人へ壱郷壱冊ツヽ

本役三人へ附渡預リ之事

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三五　明治一二年（一八七九）一一月　芦ノ湖用水堀堰分水掛反別調

表

明治十二年十一月　組合協定惣反別　五三一町、五四二〇

村名	反別	組合大字名	反別
富士岡	一町 一七七一五歩	神山	一町 一七七一五歩

内訳

	村名	反別	組合大字名	反別
上郷分計反別			富澤	一七二町 六三一二歩
中郷分計反別				一三八 六二二三
下郷分計反別				二二〇 二八一五
				六町 四九二九歩

芦ノ湖用水堀堰分水掛反別調表

上

符号	堰名	反別	使用字名	反別	符号	堰名	反別	使用字名	反別	符号	堰名	反別	使用字名	反別	符号	堰名	反別	使用字名	反別
イ	岩波	八町三四三	深良	町 二五六 八〇八七	チ	五反田水門	卜	利平埋	町 六〇六 三五四六				深良	町 六〇八	オ	大洞	六三町三一〇三	深良	町 五六 一四〇六 一三八五

一覧表

泉	深良	富岡
七三一五〇二	九一五四一〇	六八 〇二一七

平松	茶畑	稲荷	公文名	久根	岩波	深良	定輪寺	千福	御宿	葛山	金澤	上ケ田
一四 八八〇〇	一二 七六二六	九 〇九一四	一四 六二〇四	二一 七八一八	九 四七二〇	八二 〇六二〇	一 七七一五	二一 八四一八	三三 七二〇二	五一二四	七八一八	九三七〇〇

清水	長泉	小泉
一六三二八	一七四〇九一九	一〇六六二一七

新宿	伏見	竹原	下土狩	中土狩	上土狩	納米里	南一色	伊豆島田	水窪	二ッ屋	佐野	石脇
五二五一九	一一〇七〇九	二六 一三〇四	四九 九六一九	四二 六八二七	二七 九一二三	二六 九三二四	四五一二	一六 〇〇一五	一四 三〇二五	四 〇二一〇	五〇 四五〇〇	一五 三三二八

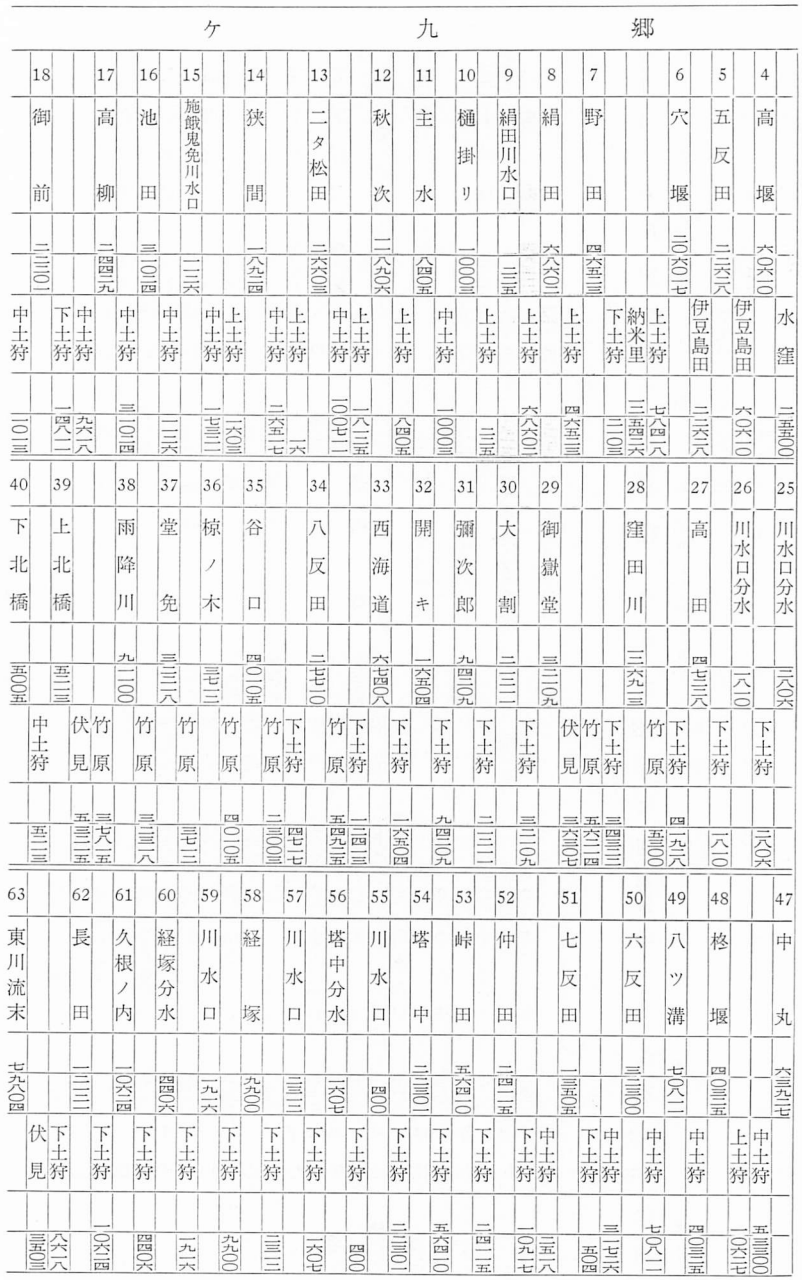
| 郷 | 十一ケ区 | | |

八ケ区

符号	堰名	反別	使用字名	反別
一〇	藪堰	九五〇七	佐野	四〇一
一一	小水口	五〇一	佐野	九五〇七
一二	若狭	一九六〇九	佐野	五〇一
一三	小水口	九二九	佐野	一九六〇九
一四	川水口	二三一一	佐野	九二九
一五	赤石	二二二〇三	佐野	二三一一
一六	上野田	一三一一五	平松	二二二〇三
一七	下野田	三〇〇〇三	久根	一三一一五
一八	中島小水口	一三〇六	久根	三〇〇〇三
一九	藪下	一四〇二四	久根	一三〇六
二〇	小水口	一三一七	久根	七一二二
二一	横堀	四九五一三	佐野	六九〇二
二二			久根	一三一七
二三			深良	七七〇三
二四			久根	四一八〇九
三一	西舞台	四三二五	久根	四三二五
三二	ケンゾウ	一三九一七	佐野	一〇三二四
三三	赤目	一七〇二三	稲荷	三五二三
三四	刑部	六八二三	稲荷	一〇八〇三
三五	小水口	四〇〇	公文明（ママ）	六二二〇
三六	中曾根	二三一二六	稲荷	六八二三
三七	稲荷	六九二三	稲荷	四〇〇
三八	橋下小水口	五三二二	稲荷	三一〇六
三九	橋下分水	二二〇四	佐野	一八二三
四〇	中丸上東水口	三七一六	稲荷	一八〇二七
四一	中丸上西水口	二二九	稲荷	一七七〇八
四二			茶畑	五一五一五
四三			稲荷	五三二二
四四			佐野	二二〇四
四五			稲荷	三七一六
四六			稲荷	二二九
四七			稲荷	三二〇六
四八			佐野	一八二三
四九			稲荷	一八〇二七
五〇			稲荷	一七七〇八
五一			茶畑	五一五一五
五二			稲荷	五三二二
五三			佐野	二二〇四
五四			稲荷	三七一六
五五			稲荷	二二九
五六			稲荷	三二〇六
五七			佐野	一八二三
五八			稲荷	一八〇二七
五九			稲荷	一七七〇八
六〇			茶畑	五一五一五
六一			稲荷	五三二二
六二			茶畑	五一五一五
六三			稲荷	五三二二
六四			佐野	二二〇四
六五			稲荷	三七一六
六六			稲荷	二二九
六七			茶畑	六九〇三
六八			平松	一五二一
六九			平松	二二〇五
七〇			平松	五二一八
七一			平松	三六一二
七二			平松	二二一七
七三			平松	三一九
七四			平松	四七一〇
七五			平松	四一〇一八
七六			平松	三四一六
七七			平松	八〇〇一
七八			平松	六一一六
七九			平松	一五二一
八〇			平松	四〇一三

下区

符号	堰名	反別	使用字名	反別
1	三ツ俣	二六町四四二三	水窪	一三〇五二五
2	上谷	七六七〇七	納米里	一四三八二八
3	井沼	二五五〇〇	伊豆島田	七六七〇七
22	川水口分水	町一二二三	宮脇	一九五一八
23	宮脇	一九五一八	内川口	一九七一九
24	内川口	一九七一九	下土狩	一九七一九
44	平垣	一町四三二九	一丁田	二〇一〇六
45	一丁田	二〇一〇六	七反田	二五〇一五
46	七反田	二五〇一五	上土狩	二五〇一五


郷
九
ケ
水窪
川水口分水
中丸
東川流末



沼津市城内字条内四五〇番地　印刷所　芦川印刷所　沼津市城内西條町一〇七　著作兼発行人　城　晋一

（裾野市役所深良支所所蔵）

二九六　明治二〇年（一八八七）　函根湖用水組合深良村外弐拾七ヶ村水利土工協議会議案

明治二十年度
函根湖用水組合深良村外弐拾七ヶ村水利土工協議
会議案
甲第壱号
一金弐拾円拾五銭　会議費
内訳
金拾壱円弐拾銭　議員弐拾八人弁当料
但一日一人金弐拾銭二日分

金七円五拾銭　議場諸費
内
金五円五拾銭　原案決議書印刷費
金壱円　議場借家料
金壱円　雑費
金壱円四拾五銭　給与
内
金壱円　書記弐人日給

但二日分給与方ハ議長(会)ノ意見ニヨル

金四拾五銭　小使壱人日給

但一日金拾五銭三日分

甲第弐号

一金百九拾五円六拾三銭　川水費

内訳

金百五拾八円　給与

内

金四拾五円　水配人俸給

但年俸拾五円宛三人分

金三拾六円　副水配人俸給

但年俸拾弐円宛三人分

金三円　水配人長年手当

金六拾円　正副水配人分水日給

但分水延日数三百日壱日一人金弐拾銭

金五円　正副水配人登山日給

但登山凡十回ト見積一同金五拾銭

金四円五拾銭　登山人足賃

但登山凡九回ト見積壱回弐人延人員拾八人一日壱人金弐拾五銭

金壱円五拾銭　同上増賃金

但降雨夜中等増賃金一回壱人金拾五銭延人員拾人分

金三円　小歩人足賃

但一日一人金拾銭宛三拾人分

金弐拾六円三拾三銭　営繕費

内

金四円五拾銭　逆川〆切諸費

金壱円八拾三銭　新川苅掃費

但宰領壱人金三拾銭人足壱人金拾七銭宛九人分

金弐拾円　水門戸及新川筋堤防修繕費

金拾壱円三拾銭　雑費

内

金五円　箱根神社水初穂料
金三拾銭　同上回送費
金三円　水配人事務取扱費
但筆墨用紙代壱人金五拾銭
金三円　湖用水担任戸長役場補助費
但用紙代使賃金等見積

甲第三号
一金弐拾壱円　借用金利息及補助費
内訳
金六円　深良村エ借用金利息
金拾円　深良村エ補助金
金五円　伐木代金
但十八年ニ於テ伐採セシ分

乙第壱号
一金弐拾円拾五銭　甲第壱号支出金高

一金百九拾五円六拾三銭　甲第弐号支出金高
合計金弐百拾五円七拾八銭　徴集高
此賦課法
田反別五百三拾壱町五反四畝廿歩ニ賦課シ田壱反歩ニ付金四銭〇五九五
徴集期六月二十日

乙第弐号
一金弐拾壱円　甲第三号支出金高
但深良村ヲ除キ田反別四百拾九町四反八畝歩ニ賦
課シ田壱反歩ニ付金四厘六七弐
徴集期六月二十日

諮問第壱号
従来ノ規約ニヨリ深良村外弐拾六ケ村ヨリ岩波堤ニ対シ毎年金弐拾円宛ノ助合金ヲ支出シ来リタリキ、右ハ自他諸水ヲ併合シテ平等ニ灌漑スルノ趣意ニ基クト雖モ該湖

水ニ関係ナキ同堰ヲ組合ニ入レ置キ且ツ助合金ヲ与フルガ如キハ最モ謂レナキニ似タリ、依テ右助合金ヲ全廃シ其半額ヲ転ジテ深良村ヲ補ハントス、其深良村ヲ補助スルノ精神ハ他ニアラズ、寛政度ヨリ毎年金六円ヲ深良村ニ支給シ来リシハ単ニ四拾円金ノ利子タルニ非スシテ又他意ヲ含有セルコトハ各議員諸氏ノ熟知セラルヽ所ナリ、且ツ同村ガ従来金六円ヲ収入シ湖用水費ヲ支出セバ幾分ノ剰余ヲ見タルコトナラン今ハ然ラズ、乞フ熟慮セヨ敢ヘテ是ヲ本会ニ問フ

諮問第弐号

若シ各議員ニシテ諮第壱号ノ問ヲ可ナリ決セバ深良村ヨリ左ノ契約書ヲ徴サントス

契約書

従来之規約ニ依リ弊村外弐拾六ヶ村ヨリ岩波堰助合金トシテ毎年金弐拾円ヅヽ支出致来候処、右ハ頗ル道理ニ反シ候義ト相心得右助合金廃止之件発議致候処、各村之同意ヲ得本年ヨリ廃止相成候、就テハ右廃止之上ハ弊村ニ於テ或ハ同堰ノ水ヲ引用シ新田開発可致歟ノ御疑有之趣ニ候得共、決シテ右等之故心ヲ有シ右廃止論提出致候義ニハ無之候、依テ発議賛成之報酬トシテ其無之ヲ茲ニ盟約致候也

函根湖用水組合
駿東郡深良村人民惣代
何　某　㊞
何　某　㊞
何　某　㊞

年　月　日

函根湖用水組合
何村人民惣代
何　某　殿

以下皆倣之

所轄戸長証明奥書

人民惣代委任状写添附

（裾野市富沢　渡辺武彦氏所蔵）

第二節　逆川事件

二九七　明治一四年九月三日（一八八一）　湖水逆川口確証保護方規定

湖水逆川口確証保護方規定

確証之写

確證

当湖之儀者寛文度駿河国駿東郡深良村外廿八ケ村ニテ工業ヲ起シ水門口堀抜開鑿成功、以来右村組之耕田用水本源確定水門口及ヒ逆川口共右廿九ケ村ニ而堰所御進退被成逆川両口土俵ニ而〆切該村組ニ用水ニ引来ル仕来リニ候、然ル処洪水之節自然土俵押流シ或ハ漁業之為メ破壊候儀等有之用水妨害相成候趣右逆川両口従前之通水底甲ラフセヨリ土俵三俵積重ネ候、〆切ハ如何様之暴雨ニ而水溢候共向後破壊無之様保護相心得可申候、依之確証如

件

明治十四年第九月三日

神奈川県下相模国
足柄下郡元箱根村
人民総代

大庭小三郎
安藤幸吉
杉山鉄次郎

議員　川井右吉
同　青山伊之助

副議長　飯田大吉

議長　大場房次郎

戸長　小林善次郎

駿河国駿東郡用水掛

深良村　岩波村　神山村　上ケ田村　金沢村
葛山村　御宿村　千福村　定輪寺村　富沢村
南一色村　石脇村　佐野村　久根村　公文名村

稲荷村　茶畑村　二ツ屋新田　平松新田　水久保村
伊豆島田村　納米里村　上土狩村　下土狩村　竹原村
新宿村　中土狩村　伏見村

右村々人民総代
小林由太郎殿
服部大八殿
水口傳平殿
土屋松五郎殿

水配人
大庭新七殿
杉山角平殿
富岡良蔵殿

一金百円之同村ヨリ受取証壱通
右確証之儀ハ井組緊用之書類ニ付永遠保護方一同協議ノ上三郷年番ニ引継可申候、尤預リ主任者ヨリ預リ証書両郷エ差出シ可申依之預リ年番順序左之通リ

一明治十四年中郷　一同　十五年下郷
一同　十六年上郷
以下年番順序倣之

右保護方規定急度相守後年違変無之為メ一同連印三郷エ壱通ツヽ備置候也

井組
深良村
戸長　小林由太郎
岩波村
戸長　井上太右衛門
神山村
戸長　武藤三平
上ヶ田村
戸長　土屋市八郎
金沢村
戸長　小野定吉　代理
真田清吉

葛山村
戸長　芹沢政五郎
代理　芥沢孝三
御宿村
戸長　湯川関太郎
千福村
戸長　西島準平
定輪寺村
戸長　大石角平
富沢村
戸長　渡邊恵作
南一色村
戸長　上杉驌造
石脇村
戸長　大庭慎平
佐野村
戸長　杉山角平

久根村
戸長　勝又甚五郎
公文名村
戸長　高村治平
稲荷村兼
戸長　同　人
茶畑村
戸長　加藤知之
二ッ屋新田
戸長　菅沼佐太郎
平松新田
戸長　服部大八
水久保村
戸長　渡邊甚平
伊豆島田村
戸長　水口傳平
納米里村

戸長　土屋彌三郎
上土狩村
戸長　米山藤三郎
中土狩村
戸長　渡邊常三郎
下土狩村
戸長　高野義長
竹原村
戸長　大沼要右衛門
新宿村
戸長　石垣政平
伏見村
戸長　土屋松五郎
上郷水配人
重立　大庭新七
下役　林傳四郎
中郷水配人
重立　杉山角平
下役　勝又甚七
下郷水配人
重立　富岡良蔵
下役　遠藤常吉

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二六　明治二二年四月一五日　箱根湖水門修繕御願

箱根湖水門修繕御願

静岡県駿東郡元深良村外弐拾七ケ村ノ義ハ去ル寛文年度以来箱根湖用水掛ニシテ田地函養罷在候処、湖水門及ヒ宇逆川等破損ノ箇所年々修繕仕来リ候処、今般御料局地内ニ御編入相成候ニ付而右水門及逆川等破損之箇所従前成リ形チ之儘ニ手入仕度、尤モ湖水淵岸共風害無之様可致右修繕ニ就テハ他ヨリ故障等更ニ無之候間、御検査之上願意御採用被成下度略図相添此段奉願上候也

静岡県駿東郡箱根湖水掛

元深良村外弐拾七ヶ村総代
長泉村元下土狩村
室伏平右衛門　印
小泉村久根
勝又弥平治　印
静岡県駿東郡小泉村
戸長　岩崎佐十郎　印
同県　同郡　深良村
戸長　岩崎佐十郎　印
同県　同郡　長泉村
戸長　高野義長　印
同県　同郡　富岡村　須山村
戸長　芹沢孝三　印
同県　同郡　清水村
戸長　太田茂十郎　印
神奈川県足柄下郡元箱根駅外弐ヶ村
地元戸長　立木帰一　印

御料局長官肥田濱五郎殿

書面願之趣聞届候条工事着手之節ハ前以テ下足柄御料地監守石内為次郎へ届出同監守ノ検査ヲ可受事

明治弐拾弐年四月十五日

御料局長　肥田濱五郎　印

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

二九　明治二六年（一八九三）四月六日　芦之湖用水新規使用差留につき深良村他願書

相模国箱根湖用水使用之義ニ付願書

神奈川県相模国足柄下郡仙石原村ニ於テ、今般不法ニモ同国箱根湖水ヲ引用シテ水路ヲ起シ新田ヲ開拓ナサント既ニ基準備ヲナシ数拾町歩ノ地面ヲ開墾セントセリ、其実況ヲ目撃且ツ伝承スルニ足柄下郡仙石原村ノ義ハ箱根山中之一村落ニシテ、箱根湖之北部ニ位シ同湖ヨリ幾分之抵（ママ）地ニシテ従来多少之畠地ト数百町之原野ヲ有シ、右原野中ニ近来耕牧社ト称シ有力ノ牧場アリテ数百頭ノ牛

馬ヲ飼養セリ、該原野ハ広漠ニシテ平地多ク湖面ニ接続シテ労力ノ如何ニ因リ幾多之水田ヲ開ク事ヲ得ヘク、然レトモ該地タル海面ヲ抜ク事数等ノ高地其気候タル寒冷殊ニ強ク稲穂成熟セサルモノト想像致居候処、二三年以来耕牧社主タルモノ牛馬ノ排泄物ヲ肥料トシ箱根沢水及湖水ヲ無断使用シテ数段ノ稲種植附候趣、然ルニ季候宜キヲ得テ相応ノ収穫アリタルト申事ニ有之、茲ニ於テ今回水田開拓之意思ヲ懐キ非望ノ企ヲ為シタルモノト確認セリ、右等ノ所置ハ失当極マル而已ナラス一方利害ヲ毫モ顧ミザル義ニシテ少モ猶予スル事能ハス、其事由ヲ左ニ開陳仕候、抑吾ニ村落ハ寛文度湖水堀貫以来箱根湖用水掛駿東郡井組二十九ケ村ト称ス(明治七年組合村ノ内駿東郡麦塚村用水欠乏ノ為メ組合ヲ退キ該村ニ係田地ハ圃地トナル故ニ以来二十八ケ村組合ト称シ来レリ、而ルニ明治二十二年町村制施行以来各村併合シテ深良村・小泉村・泉村・長泉村・富岡村・清水村・富士岡村ノ七ケ村ト改マル是現今ノ制ナリ)、既業ニ箱根湖水使用権ヲ有シ居レリ、其要領ハ別紙湖水使用権証拠物トシテ提供セシ通寛文六午年政府ノ許可ヲ得テ箱根湖水ヲ以テ駿河国駿東郡井組二十九ケ村田地高六千八拾九石七斗四升五合ノ地面(改租以来高ヲ廃シ田反別五百二十二町四反三畝拾五歩ト改ム)ヘ使用スル事トナレリ、其工事タル実ニ莫大之費用ヲ以テ寛文六午年ヨリ同十戌年迄五ケ年ノ事業ヲ以テ成就シタリ、湖水門開設水路堀貫之起原及使用方ノ事ハ第一号ヨリ第三号証ニ於テ明確ナリ、其後該用水使用上之義ニ付組合村々争論ヲ生シ種々論議之末第四号証宝永五子年五月六日政府評定所之裁許状及第五号証安永五申年三月二日評定所ヘ充タル済口証文第九号証ヲ以テ第九号・第十二号証等記載有之候、逆川ト称スルハ箱根湖雨水等ヨリ充満シタルトキ湖水門一方ニテハ疏水ノ速ナルニ至ラス、因テ逆川ト称スル裏水門即チ悪水咄水路ヲ設ケ水抵甲(ママ)ラ伏ヲ為シ強雨ノ急ヲ救フ為メニ備ヘタルモノ此水流ハ相州早川ニ合流スルナリ、湖面平水ノ節ハ更ニ流水之レナシ、明治十四年九月三日神奈川

県足柄下郡元箱根人民総代村会議員戸長ヨリ井組二十八ケ村へ受領シタル確証保護方規定書及第拾二号証明治二十二年三月三十日御料局長官ノ指令其他六号・七号・八号・拾号・拾壱号ノ等ノ維新前后之確証ニ拠リ、既ニ湖水使用権ヲ有スル而已ナラス御料局長官及地籍元村即元箱根村ト合意ノ契約等成立致シ居レリ、之レ年々旱害ヲ蒙ムルカ為メ貯水ノ最モ必用ナルハ基ヨリ論ヲ俟サル故ナリ（箱根湖水ハ旧箱根神社領ニシテ之ヲ箱根権現領ト称セリ地籍ハ神奈川県足柄下郡元箱根ニ属シ目今ハ御料地ニ編入ス）、蓋井組二十八ケ村地勢タル箱根・愛鷹両山ノ間ニシテ漸次南ニ傾斜シ且土質タル熟地モ有之候得共、土地半ハ礫碻地且ツハ軽鬆地ニシテ養水湛方宜カラサルノミナラズ、穀雨立夏ノ季節ニ至リ降雨軽量ナルトキハ湖水面貯水減少往々用水欠乏田方干損ノ害ヲ被ル事少ナカラズ、地租改正以前ニ於テハ干損ノ為メ田方御検見相願年々幾多ノ減租セラレタル事ハ皆済目録免状等ニ徴スルモ亦組合村中ニ於テ数度用水論ヲ生シタルモ畢竟用水欠乏ヨリ基因スル事ハ明諒ノ事実ニ御座候（証拠一号ヨリ十二号ノ外ニ数多証文有之候得共復雑ニ渉ルヲ以テ之ヲ略ス）、前陳ノ如ク明確ナル証文及慣行アリ亦事実上ヨリ論スルモ井組旧二十八ケ村ニ於テ湖用水ノ産業上ニ必要ナル事実ニ村民性命ト其位ヲ同フスルモノナリ、万々ノ一ニモ相州地方ニ一新水路開鑿セハ湖水堀貫以来数百ノ町歩ヲ養育セシ流水モ一朝ニシテ廃絶シ吾駿東郡旧二十八ケ村ノ田地変シテ圃地トナリ自治区ノ体面ヲ保ツ能ハサルハ勿論、其他流域ニ関係スル処ノ君澤郡北上村ノ用水同三島町小浜池用水掛町村・駿東郡清水村千貫樋掛村々・同木瀬川筋牧堰用水掛町村・沼津町ニ至ル迄、田方養水減水ノ影響ヲ被ル事ハ顕著ナル歴証ニテ最モ憂苦スベキ人民ノ休戚ニ係ル一大事件焼（ママ）眉ノ急ニ御座候間、神奈川県足柄下郡仙石原村及牧場其他願入ニ於テ計画ナシタル湖水引用ヨリ起ル水路新設及新田開墾之儀、速ニ差留相成候様神奈川県知事へ御照会相成度地主総代連署及村長証明ヲ以テ此段奉願候也

明治二十六年四月六日

地主総代

湯山半七郎㊞

勝又彌平治㊞

高野義長㊞

助役　杉山利十郎㊞

静岡県知事小松原英太郎殿

証明書

静岡県駿東郡富岡村御宿

湯山半七郎

静岡県駿東郡泉村久根

弥又彌平治

静岡県駿東郡長泉村下土狩

高野義長

前書之通願出ニ付進達候也

明治二十六年四月七日

静岡県駿東郡小泉村長　菅沼佐太郎㊞

静岡県駿東郡深良村長　小林由太郎㊞

静岡県駿東郡泉村長　柏木甚蔵㊞

静岡県駿東郡長泉村長　永井嘉六郎㊞

静岡県駿東郡清水村長　高田譲八郎㊞

静岡県駿東郡富岡村須山村組合村長

芥澤孝三㊞

静岡県駿東郡富士岡村長　土屋正佶代理

右者箱根湖用水組合深良村外六ケ村地主一同ヨリ同地主総代ノ委任ヲ受タルモノニ相違無之依テ證明候也

明治二十六年四月七日

静岡県駿東郡小泉村長　菅沼佐太郎㊞

静岡県駿東郡深良村長　小林由太郎㊞

静岡県駿東郡泉村長　柏木甚蔵㊞

静岡県駿東郡長泉村長　永井嘉六郎㊞

静岡県駿東郡清水村長　高田譲八郎㊞

静岡県駿東郡富岡村須山村組合村長
芥澤孝三印
静岡県駿東郡富士岡村長　土屋正佶代理
助役　杉山利十郎印
（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三〇〇　明治二六年一〇月二〇日　仙石原村長河水引用及川敷切下之義御認願

「仙石原村ヨリ出頭書之写（朱字）　明治弐拾六年拾月弐拾日付ケ」

河水引用及川敷切下之義御承認願

足柄下郡仙石原村地内

一早川々敷切下工事

右足柄下郡仙石原村之義ハ地形周囲険岨之山丘屹立シ其中凸ニ停立セル一小村ニシテ、戸数五拾余戸人口三百拾余人常ニ農事ヲ専業ス、然ルニ田反別ハ僅ニ拾七町余歩ナラテ無之、加フルニ意威凛烈及極メテ痩地ノ為メ収穫モ些ニ人口ニ対シ其権衡ヲ不得連年夫食ニ差支他郷ヨリ購求ナサヽレハ口糊不足ヲ生シ、之ヲ要スルニ四位就レモ向フニ弐里以上ノ峻坂ヲ経人馬之背ヲ労セサレハ米麦塩噌其他日用ノ諸品ニ至迄整フル事不能甚不便ノ辺陬、随テ諸品ノ価額モ貴重収支不相償ヨリ住民ノ情況挙テ細民且農間余業無之為メ積年漸次困窮ニ陥リ、細烟継続ナシカタキ輩数戸ニ及其情態見ルニ不忍、目下瞬息モ放任ナシカタク種々熟慮（リヨ）候処幸ニ去ル慶応年間旧小田原藩ノ奨励ニ依リ一ト度水田開拓シ数拾町歩一村共有ノ原野有之該用水ハ函根湖水ヲ早川ヘ落シ、之ヲ引用シ全力ヲ尽シ開拓セルモ水不足ノ為メ川敷堀下工事企望スルモ資力ニ欠乏ヲ告ケ竟ニ成功ヲ奏セス、宜敷荏苒シ未タ田形ヲ存シ居リ開墾ノ容易ナルハ勿論ナルモ此儘ニ傍視セルハ一村ノ不利益ノミナラス、切下事業ノ落成ヲ告レハ水上ニ水害ノ憂ヲ除キ流末ニ於テハ余流ヲ以テ各村ノ内若干ノ開墾モ出来一挙両全ノ策ト存候、目下聊資産ノ道ヲ得ルニヨリ函根湖水ヨリ流失セル水路早川ヲ利用シ開墾ノ実功ヲ

奏シ度、就テハ川敷切下ノ義許可願書ヲ本県庁ニモ差
出シ置候間別紙設計仕訳書及図面相添進達仕候条ハ承
認被成下度相願候也

明治弐拾六年拾月弐拾日

足柄下郡仙石原村長　勝俣澤次郎

御料局長岩村通俊殿

早川切下ケ工事設計仕沢書

一早川々敷切下
　長五拾間
　幅　壱間
　深　壱間
　此立坪五拾坪

内訳

名称	数量	寸尺	単価	代価	備考
早川々敷切下	五拾坪	壱坪	弐円	百円	人夫百弐十人一人ニ付金弐拾銭廿五日間成功候見込

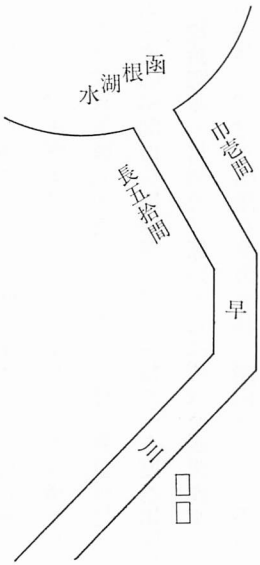
右之通候也

明治弐拾六年拾月弐拾日

足柄下郡仙石原村長　勝俣澤次郎

御料局長岩村通俊殿

仙石原村早川々敷切下地図



（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三〇一　明治二九年（一八九六）四月一四日　逆川事件につき小泉村書記実地検分復命書

復命書

箱根湖用水字逆川口破壊ノケ所実地検分ヲ遂ケ左ニ復命仕候

一明治廿九年四月十三日当組合水配人杉山角平及鈴木新平ト共ニ午前七時三十分小泉村役場出発該湖水門場ヲ経テ字逆川口ニ着、篤ト実検スルニ同所東口（巾九尺長五間）甲ラ伏セ（野面石ヲ以テ畳ミタルモノ）ヲ悉ク破壊シ水底土台石ヨリ凡ソ深サ三尺余発堀シ又大石等ハ器機ヲ以テ割破シタルモアリ、及トウゴ淵ト称スル処ヨリ漸次南ノ方湖中凡巾四尺長五拾間位ニ堀割通水ヲ為シアリ、又同所西口（巾九尺長五間）甲ラ伏セ（野面石ヲ以テ畳ミタルモノ）ヲ破壊スルノミナラズ、該石ヲ以テ在来ノ端口石垣ト均シク石垣ヲ築立其上面ハ土砂利及芝等ヲ以テ引均シ居ルモノ拾名各唐鍬鶴嘴鋤簾金手木其他ノ器具ヲ携アルヲ認メ、夫々姓名ヲ問糺シ候処該氏名ハ左ノ如シ

神奈川県足柄下郡仙石原村長　勝俣澤次郎
同　県同　郡大窪　村長　市川文次郎
同　県同　郡仙石原村耕牧舎　須永傳蔵

右ノ如ク氏名ヲ申述ルヲ以テ、猶人足体ノモノニ向ヒ姓名ヲ尋ネタルニ彼等ハ勝俣澤次郎外弐名ノ使用スル人夫タルヲ以テ氏名ヲ答フルノ必用（ママ）ナシトテ其問ヒニ応ゼザリシ、又我等三名ヨリ勝俣澤次郎外弐名ニ対シ質問応答ノ大要左ノ如シ

問　何故ニ当静岡県駿東郡箱根湖用水組合深良村組合深良村外六ケ村ノ用水源ニシテ古来専有権タル堰止メ工事ノ場所ヲ破壊セシカ

答　我々三名ハ早川筋小田原町外七ケ村ノ協議ヲ以テ委員トナリ早川筋ノ水路之通水ヲ速カナラシムル為メ人夫ヲ使用シ破壊シタルナリ

問　斯ク乱暴ニ破壊シタル以所（ママ）ハ如何

答　ナシ

問　重テ問フニ御答ナキハ果シテ非利ナルコトト信認ス然ラハ速カニ元形チニ復スベシ

答　元形ニ復ス事ハ出来ヌ

問　西口ヲ悉ク破壊シテ其石財ヲ用ヒ新タニ石垣ヲ築キシ如何

答　両口ニテハ水量大キニ過クル故ナリ

問　本地籍ハ元箱根村ニシテ御料局ノ地タルニ付夫々ヘ手続キヲナシタルヤ

答　該手続キナサズ

問　本日斯ク質問応答ナシタル以上ハ他日ノ證トナスヘキヲ以テ名刺を取換ハスベシ如何

答　勝俣澤次郎・須永傳蔵名刺ヲ差出シマス市川文次郎ハ名刺ヲ所持セサルヲ以テ御記名ヲ願ヒタシトテ姓名ヲ述ベタリ

右現場ニ於テナシタル談判ハ概略如斯ニシテ更ニ要領ヲ不得、尤モ乱暴ナル所業ニ付厳談スルト雖事ヲ左右ニ托シ集力ヲ頼ミトシテ暴言乱口ヲ極メ其求メニ応セサルニ付、不得止午后四時頃同所出発箱根町御料地監守石内為次郎殿へ不取敢口頭ヲ以テ届置キ翌十四日午后五時帰着仕候、且ツ書面ニ洩レタル廉ハ口頭ヲ以テ開陣可仕候別紙名刺弐枚相添へ此段復命候也

明治廿九年四月十四日

駿東郡小泉村書記堀内保蔵

駿東郡小泉村長菅沼佐太郎殿

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三〇三　明治二九年四月　箱根湖用水逆川其他事件諸筆記

（一八九六）

（表紙）

明治廿九年
四月ヨリ
箱根湖用水逆川
其他事件
諸筆記

記

明治廿九年四月十二日㊞湖用水字逆川甲伏及川筋堀割早川通り一宿七ヶ村人民惣代人夫引連罷在候旨急報ニ付、当組合小泉村より堀内保蔵・水配人杉山角平・鈴木新平・人足三人引連差止メ出頭候儀、才領トシテ仙石原村長勝又沢二郎・牧場支配人須長伝蔵・大窪村長市川文次郎三名不当被尽義差止メニ不応右事件ニ付

四月十八日小泉村役場ニ於テ関係村長地主惣代協議会議員一同出席し協議之上出訴手配致し上京、惣代村長菅沼佐太郎・地主惣代勝又彌平治二名

四月廿一日出発夜ゟ雨、同日十時五十分佐野発車大磯御料局静岡出張所出頭、沖田万喜蔵出張所長・小田原分担区御技士（ギシ）大山安貞ノ両氏ニ面会種々申述午后四時三十五分東行汽車ニテ上京、京橋区竹川町廿二番地駿州館秋元幸太郎方客人湯山柳雄氏ノ宅ナリ、午后七時頃着

四月廿二日雨

静岡県知事小松原殿止宿京橋区惣十郎町桃李館ニ問折柄御不在午后六時ニ至出頭、八時ニ至リ県属田中孝太郎尓面会御談話被成同県警部長桐原殿出京属官高野（コウ）警部ヲ知事新館ニ招キ逆川一件協議アリ、翌日内務省へ出頭ノ上警保科（ママ）長有松書記官ニ具伸候事決定㊞

四月廿三日晴

京橋区鈴木屋止宿警部長桐原殿及河野警部同伴午后八時内務省出頭、十一時三十分警保課長書記官有松殿ニ応接巨細上申十二時半退席し帰宿、午后ヨリ芝区並木高輪三好氏へ出頭

四月廿四日天

午前七時桐原殿へ面接事件之方針ヲ伺ヱ又岸弁護士ノ意見ヲ聞十時ゟすきやばし内警視庁監獄平松与一郎ノ在監ノ有無ヲ問差入物ヲナシ、夫ゟ用足シ日本橋和田氏へ出頭午后二時三十分新橋発ノ汽車ニテ沼津へ直行、杉本屋ニ至リ県参事郡長静岡多太瀬警部沼津井上警部等ニ面会、午后㊞十一時半夕飯

四月廿五日雨

皇太子殿下御還御奉送午前十時沼津御出発同列車ニテ佐野駅下車泉・小泉両村重立諸氏ニ面会、服部氏ヨリ上京ノ模様ヲ告ク夫ゟ帰宅

四月廿六日曇り雨

沼津警察井上署長及巡査二名・菅沼村長・杉山水配人・拙者外人足一名都合七名登山、湖水門より逆川見分同所東口甲伏悉皆取除キ堰下廿五間計り凡五尺幅深サ凡三尺余堀貫当時流水〆切口ニテ水深サ中三尺七寸及ハジニテ三尺五寸足力急ナリ、西口ハ甲伏ヲ除キ下位ヲ積立テ芝或ハ土ニテ堤坊(ママ)ノ姿トナシ旧形ヲ失シタリ、午后六時帰宅須釜ヨリ雨降(回)

四月廿八日

小泉村役場ヨリ上京中及沼津又湖水登山ノ模様夫々報告ノタメ各字協議会議員招集将来ノ方針確定刑事告訴ニ決ス、当担者

小泉村長

菅沼佐太郎

長泉村長

米山藤三郎

深良(深良)村長

小林由太郎

四月廿九日

小泉役場ニテ同証書取調訴願手続打合セ岩崎氏ゟ旧証三冊出テ其内明治八年床下ケ仕様帳御指令付アリ午后七時帰宅、同日参会者菅沼・米山・小林・稲葉・勝又五名

四月三十日

小泉村長迄廿二年度水門及逆川修繕願書御指令書送ル、

同日十二時サノ発汽車ニテ訴願人三名出沼

（裾野市久根　勝又重俊氏所蔵）

三〇三　明治二九年五月一日（一八九六）　逆川事件につき箱根湖水利組合告訴状

（表紙）

明治廿九年五月一日

告訴状

告訴人

菅沼佐太郎

米山藤三郎

小林由太郎

告訴状

箱根湖用水掛深良村外六ケ村水利組合

静岡県駿東郡小泉村長

告訴人　菅沼佐太郎

同県同郡長泉村長

告訴人　米山藤三郎

同県同郡深良村長

告訴人　小林由太郎

神奈川県足柄下郡仙石原村長

被告訴人　勝俣澤次郎

同県同郡大窪村長

被告訴人　市川文次郎

同県同郡仙石原村耕牧舎

被告訴人　須永傳蔵

右告訴人ハ被告訴人ニ対スル告訴之要領左ニ開陳仕候

一　被告訴人ハ箱根湖用水掛リ静岡県駿東郡深良村外六ケ村ニ於テ共用スル箱根湖用水字逆川口エ貯水ノ為メ設ケアル堰留メ場所甲ラ伏セ（野面石ヲ以テ畳ミタルモノナリ）ノ石堰ヲ自己ノ利益ヲ図ル目的ヲ以テ明治廿九年四月十二日破壊致候趣キ、常ニ本組合ニ於テ該湖水監守ノ為メ設ケアル見廻人駿東郡深良村深良勝又勇蔵ヨリ届出タルヲ以テ、同月十三日小泉村書記堀内保蔵及当組合水配人杉山角平・鈴木新平ノ三名ヲ現場ニ出張実見セシメ候処、全ク水利ヲ妨害シタルコトハ則チ別紙復命書ノ如ク、

仙石原村長勝俣澤次郎外二名ハ相州早川筋仙石原村外数ケ村ノ協議会ニ於テ委員ニ選ハレ此ノ行為ヲナスニ至リタル順序ヲ探知スルニ、相州早川筋仙石原村外数ケ村ノ用水ヲ名トシテ自己ノ利益ヲ得ル為メ破壊スルノ議ヲ決シ遂ニ之レヲ決行シタルナリト、此ノ破壊事件ニ就テハ実地視察トシテ静岡県沼津警察署長警部井上善一同月廿六日出張之際小泉村長菅沼佐太郎・水配人杉山角平・地主総代勝又彌平治等同行シテ現場ニ至リ実視スルニ、去ル十三日堀内保蔵外二名ガ実見セシ当時ト敢テ異ナル所ナキモ、其后数回暴雨ノ為メ湖面ノ水量増加シ、トウゴ淵ヨリ南ニ堀割タル砂地ハ弥々平地トナリ已ニ凡巾五間深サ壱尺位ヒ一面ニ水流レ、逆川口ノ如キニ至リテハ凡巾九尺深サ二尺六七寸ノ水流ニシテ別紙略図ノ通リニ有之候、又該町村ノ住民中ニハ此ノ破壊ニ付キテハ賛成ヲ為シ居ルモノモ有之哉ハ難計候得共、其人名等判然不致候故、告訴ノ手続キニ及ヒ不申候

一此ノ逆川口ニ附テハ古来多クノ事蹟ヲ有スルモノナルヲ以テ一応陳述仕候、抑モ此ノ箱根湖用水ハ吾々村落ニ於テ寛文度湖水堀貫以来箱根湖用水駿東郡井組廿九ケ村ト称シ（明治廿二年町村制施行以来各村併合シテ深良村・小泉村・泉村・高岡村・長泉村・清水村・冨士岡村ノ七ケ村ト改マル是現今ノ制ナリ）既業ニ箱根湖水使用権ヲ有シ居レリ、寛文六午年政府ノ許可ヲ得テ該湖水ヲ以テ駿東郡井組廿九ケ村田地高六千八拾九石七斗四升五合ノ地面（改正以来高ヲ廃シテ田反別五百廿五町四反三畝拾五歩ト改ム）ヘ使用スルコトトナレリ、之レ則チ当水利組合七ケ村ノ田用水・飲料水ノ水源ニシテ逆川ト称スルハ強雨急水等ニヨリ湖水充満シタルトキ甲ラ伏セノ上ヲ乗流スルノ外常ニ流水更ニ之レナシ、殊ニ年々田用水ヲ終リタル後チハ貯水ノ為メ水門ヲ閉鎖スルハ勿論逆川口堰留場ヨリ常ニ洩水等無之為メ始終見廻人ヲ付置キ監守セシムル最モ貴重ナル場所ニシテ、該所ノ使用権ヲ有スル事ニ附テハ明治十四年九月三日第一号証ノ通リ神奈川県相模国足柄下郡元箱根村戸長并ニ村会議員人民総代等ノ連署シテ当組合ヘ差入アル

確証ニ明カナリ、寛文度以来屢々修繕ヲ加ヘタルコトアリ、近クハ明治七年五月九日第二号証ノ通リ静岡県権令ノ許可ヲ得テ官費ヲ以テ逆川等ノ修繕ヲ為シタルコトハ明治八年十二月第三号証ノ如ク御普請出来形帳ニ詳カナリ、其后政令ニヨリ箱根湖ハ御料地ニ編入セラレシ以来明治廿二年三月三十日第四号証ノ通リ当深良村外廿七ケ村総代及戸長神奈川県足柄下郡元箱根駅外弐ケ村地元戸長等ヨリ修繕ヲ出願シ御料局長官ノ許可ヲ得テ修繕工事ヲ施行シタリ、又年々施コス処ノ貯水期ニ於テ要スル堰留費及ヒ小破修繕等ノ経費ノ如キハ第五号證ノ通リ明治廿年五月廿二日当水利組合会ノ決議書ニ明記アルカ如ク、同年度ノ前后ニ於テ年々同一ノ決議書其他関係ノ書類アルモ略シテ茲ニ記載不仕候

以上ノ如ク此ノ箱根湖用水逆川口ハ貴重ナルモノナル事ハ被告訴人ニ於テモ熟知シ居ル可キ筈ナルニモ不拘ハラ、斯ク不法ノ破壊ヲ為スハ自己ノ便益ヲ博セントスルノ利欲ニ出テタルモノト存候、告訴人ハ管理者ノ位置ニアリ若シ之レヲ放置スル時ハ当組合深良村外六ケ村ノ住民及ヒ其田地ノ害ヲ蒙ルコト非常ナル事ニシテ、加フルニ田用水貯水期中最モ焦眉ノ急ニ有之ヲ以テ茲ニ告訴ニ及ヒ候間至急相当ノ御処分有之度候也

但し添付シタル証拠書類ハ渾テ謄本ナルヲ以テ本書御入用ノ節ハ何時タリトモ提供可仕候

右告訴人

明治廿九年五月一日

菅沼佐太郎
米山藤三郎
小林由太郎

静岡県沼津警察署長
警部井上善一殿

（付　絵図　二枚）

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三四　明治二九年五月二二日～七月一五日　逆川事件に関する新聞報道

静岡神奈川両県人民の大水論

箱根芦の湖にハ其の北方に二条の水路あり、一ハ静岡県駿東郡に通じて同郡深良村外廿七ヶ村の用水源となり、一ハ逆川とて神奈川県仙石原村を通じて早川に流れ込ものなるが、今ハ昔寛文六年の頃深良村外廿七ヶ村の人民ハ官に請て湖水を引用し田地五百余町を開墾せし以来歳々年々用水の貯蔵に苦心し湖水の減少に備る為め逆川口を堰止め箱根権現領より深良村山中まで堀抜を作りたる等数万円の巨費を費し、降て明治二十年に至り該地の御料地となるも旧慣の如く北門其他の工事ハ総て深良村外二十七ヶ村にて経営し来りしが、一両年来仙石原村の牧場に於てハ牛馬の飲料及び新田開拓等水利の必要を感じ従来の如く逆川の口より溢るゝ水にてハ満足せず時々石堰を切て水を引しも毎時穏かに局を結び仙石原其他数村にて復旧工事を負担したるが、先月十二日に至り多人数にて堰を破壊し水を流下せしめ深良村外廿七ヶ村の田地五百余町ハ灌漑の便を失ひ殊に稲苗の植付時も目前に迫りたるにぞ、数千の農民ハこれが為めに痛く激昂し仙石原に押し寄せんとせるを重立ちたる人々辛くもこれを慰籍し調停を試みしが纏らず、終に横浜地方裁判所へ告訴に及びしといふが若しこの事件にして遷延くことあらバ如何なる珍事を惹起さんも知れずといふ

（一八九六）

（『都新聞』明治二九年五月二二日（第三四一六号））

静岡神奈川両県下農民の葛藤

箱根芦湖の北方に二個の排水路あり、一は静岡県駿東郡に通じて同郡深良村外二十六ヶ村を灌漑し、他の一は逆川と称し神奈川県下足柄郡仙石原村を貫て早川に流下するものにして、遠く寛文の頃より深良村外二十六ヶ村の農民等其筋の認可を得て逆川を堰き五百余町の用水を得来りしが、其後種々工事を施し殊に箱根権現領より深良

山中に通ずる堀抜の如き七百余間に達し降て明治廿年該地の御料局に編入せられし後と雖も、旧の如く依然水門其他の工事費は一切深良村外二十六ヶ村の負担する所にして其用水権は歴史的に深良村外二十六ヶ村に帰し居りしが、一両年以来逆川下流の人民往々水門に防害を試み、去る四月十二日の夜に至り乱暴にも全く堰を破壊し水を逆川に引きたれば、芦湖の水は滔々日夜に減少して深良村外二十六ヶ村の農民が生命と頼む五百余町の蒼田干涸し去らんとするの勢なり、深良村の農民大に驚き奔走尽力したれども其甲斐なく遂に神奈川静岡両県の交渉となりたれども是亦捗々しからざれば已むを得ず去る十一日関係者三名の村長を総代として仙石原村々長を相手取り訴訟に及びたるも是亦未だに起訴の運に至らず、若も此儘に放棄し置かば席旗竹鎗の一揆を見るも遠きにあらざるべしと云ふ

（『国民新聞』明治二九年五月二二日（第一九〇一号））

箱根湖水の水利紛争

箱根湖水ハ古来静岡県駿東郡深良村外廿八ヶ町村と神奈川県足柄下郡仙石原村外七ヶ町村と共に配水し居たるものなるに、深良村組合ハ屢々水利土工を起し水門を掘下げし為め近来湖水の水量著しく減少せしを以て其下流を受け居る仙石原組合にてハ去る廿七年湖水の川尻を浚ひしより紛争の起因となり先年来数回衝突を起し居たるが、本年四月に至り仙石原組合ハ再び川浚を為したるより遂に工事破壊の告訴を受け仙石村村長勝俣沢二郎・大久保村長市川文次郎外一名ハ横浜地方裁判所へ拘留されたり、又該湖水ハ御料局の所管に属するを以て両県知事より同局にも交渉する所あり、神奈川県会副議長鈴本稲之輔氏其他も処分策に付専ら斡旋中なりと云ふ

（『東京朝日新聞』明治二九年七月一〇日（第三四八九号））

神奈川、静岡両県民箱根湖水の水利争ひ

（村長二名の拘留）

神奈川県相州箱根湖水の水利に就て静岡県駿東郡深良村外廿八ヶ町村と神奈川県足柄下郡仙石原村外七ヶ町村との間に水利争起り、双方とも非常の勢にて動もすれば腕力に訴へんとし既に仙石原村の村長勝俣沢次郎・大久保村々長市川文次郎の両氏外一名は横浜地方裁判所へ拘留となりしのみならず、此の争には延ひて両県々治問題にも至らんとし神奈川静岡両県知事並当時該湖水は御料局の所管なるを以て同局との間にも種々交渉ありて随分面倒に至り居る由なるが、今其所争の要領を聞くに右湖水は古来両関係町村は共に倶に配水し居りたるものにして、静岡県に属する深良村各町村は寛文五年始めて人工を施し、隧道を設け爾来数回普請を加へ湖水地元なる箱根村に設置し亦神奈川県仙石原村各町村は該湖水は天然自然の水路にして格別人工を加ふる程のことなく使用し来りたれど、深良村組合町村は屢々水利土工を起し閘を堀下げたる為め近来湖水の水量著しく減少し自然に流れ来る早川水源の水量欠乏し来りたるを以て、仙石原村組合町村は去廿七年湖水の川臀を浚しが抑水利争の基因となり先年来数回衝突を起し軋轢の結果深良村組合町村は用水不用の時迄故ら水門を開放するを以て益々仙石原村組合に不便を与へたれば、同組合は本年四月再び川浚ひをなしたるより再度の大衝突となり、川臀を堰留めある亀腹と称する工事を破壊したりとの告訴に依り今度村長二名と重立たるもの一名拘留せらるゝに至りたるを以て、村民等益々激昂し今や一大騒動を惹記せんと頗る不穏の形勢ありて専ら警戒中の由なるが今該水利に関し両組合の主張する処ろを聞くに、深良村組合は元箱根権現寺領の時より巨額の工費を投して得たる水利権にして仙石原村の如きは悪水の放流する処にして彼等は其の捨水を偶々利用するに過ぎずと云ひ、仙石原村組合は是れを駁し古来固有の水利権にして殊に配水は啻々関係町村の私有物にあらずして維新前関東の関門なる小田原城の内濠外濠の水を使用し居りたるものにて決

して彼等が唱ふる悪水の棄場にあらざりしことは此一事にても明かなりと云ひ、目下紛紜中なるが尚該事件に付神奈川県会副議長鈴木稲之輔・郡部会議長安藤安賀氏等専ら尽力し村民の惣代高橋茂興氏は横浜に出張し頻りに斡旋し居れりと聞く

（『東京新聞』明治二九年七月一〇日（第七三九号）

●●●●●●●●箱根湖水利争別報

前号に神奈川県及本県人民の間に箱根湖の水利を争ひたる事に関して記載する所ありしが、駿東郡長泉村永井嘉六郎氏より事実の相違せる所ありとの事にて其要領を明記せられて本社に投ぜられし所に拠れば、曩に本社の報じたる所と相違の点もあれど左に全文を掲げて其顚末を明にすべし

相模国足柄下郡箱根湖水の義寛文元年丑年駿河国駿東郡深良村外廿八村（自治区改正以来目今深良村外六村となる）田方へ灌漑の為め領主を経て時の政府の許可を得箱根山中七百弐拾間の隧道を穿ち莫大の費用を要して同暦庚戌年工事を終り其素志を遂げたり、爾来近来に至る二百廿有余年相模国に於て毫も故障無きのみならず明治元年以前は用水引入口水門及該川筋破損の節は政府御普請役御見聞の上御国役普請屢々有之当□の簿冊今に当組合に保存し湖用水使用権に前顕の如く歴然たり、又貯水法は湖水面水門戸上縁迄に及ぶを以て定水と極め其余増水するときは元箱根及箱根町の宅地に達するの憂あるか故に之を予防する為め箱根湖水北方に当り字逆川締切口と称する悪水吐有り、此吐口に前記定水を見極め甲羅伏（丸石にて畳みたる石堰）を以て敷詰年々駿東用水組合に於て修繕し雨水等により湖水多量に従ひ悪水を多良に吐かしめ又用水門も増水に従ひ水門の戸を引抜き流水せしめし故何様の強雨と雖も此慣法を以て数暦の間更に差支なきを得たり、彼の逆川悪水吐は足柄下郡仙石原村の原野を通過し早川へ併合するなり（逆川の称を相模国に於ては早川と仮称すれとも早川とは全く別川なり）、故に

湖水平水に在ては逆川吐出の必要無きに付該逆川筋は平素無水にして単に水路形をなすに過ぎず又相模国に於ては近来に至る迄該川の水を使用すべき田地も無く小田原近傍の田地用水は早川の水流其他山沢の流水を使用し湖水を使用せし慣例なし、而るに明治十二三年の頃より須永傳蔵なるもの主担となり仙石原芝地三百余町歩を購入し耕牧社を設け多少の新開をなし外に牛馬数十頭を飼養せり、斯かる事業を起したる為め用水の必要を感し最初は山沢の湧水を以て之に充てたるも事業は年一年と拡張し飼養の牛馬数百となるに従ひ湧水のみにては耕牧社の目的を達するに至らず（是れ本件の葛藤を生したる原因なり）、是に於て仙石原村其他の人民大に非望を懐き他の所役に属する用水の分派を企て悪水吐甲羅石を窃かに動し洩水を多量ならしめ以て新田と牧畜の用水に充つるに至る、駿東組合各村は始めて此弊害を知り厳しく此行為を仙石原村に照会せり、然るに本年四月十二日相州仙石原村長勝又沢次郎・大久保村長市川文次郎・耕牧社主須永伝蔵等不法にも数十の人夫を引率し来り暴挙以て従前の甲羅伏を悉く破壊し新規に幅九尺深四尺程堀下け組合に於て尤も貴重なる湖用水を相州地方へ分派せしめたり、恰も当日は井組合水配人鈴木新平・杉山角平・小泉村書記堀内保蔵の三人逆川締切口及び水門口等見廻りの為湖水に出張せし処、右の始末に驚き其場に於て談判に及びし処不法極まる返答に付難差置一端帰村の上更に井組合代表者たる村長三名より御料局へ上申の上横浜地方裁判所検事局へ告訴に及び、検事局に於て原被尋問の上重立たる被告人三名拘留せられたるは止を得ざる次第ならずや云々

之に依つて見る時には前号に深良村各村は深く水門を堀下けたる為と云ひ用水不用の時迄殊更に水門を開放すと云へるが如きことは従前に於て更に之なかりしことゝ知るべし

（『静岡新報』明治二九年七月一五日（第一〇〇八号）

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三〇五　明治二九年（一八九六）五月　湖水逆川破壊事件ニ付呈出セシ証拠書類目録

湖水逆川破壊事件ニ付呈出セシ証拠書類目録

一　告訴状

一　告訴ニ対スル復命書

右ハ沼津警察署ヘ進達ス

一[一号]　逆川口甲ラ伏セノ上土俵積重ネ〆切アルヲ保護可致旨元箱根村ヨリ用水掛リ組合村々ヘ差入證

・一[二]　明治七年堀貫床下ケ願許可之証

・一[三]　同八年御普請出来形精算帳

一[四]　同廿二年三月湖水門口及逆川口修繕御料局ヘ出願及許可之証

・一[五]　同廿年度用水組合費決議書

一[六]　寛文六年湖水堀抜工事願及許可之証写

一[七]　同年同工事ニ付奉行所ヘ差出タル證書写

一[八]　同年七月十八日工事発起者ヨリ深良村大庭源之丞ヘ差入タル證文

・一[九]　湖用水掛向後取扱規定之証及堀分反別取調帳

一[十]　安政五年（ママ）用水掛ニ対スル御裁許状

・一[十一]　天明二年四月湖水門口以下御国役普請出来形帳

一[十三]　安政十二年正月湖水掛り組合村々ヨリ箱根神社ヘ差入タル証文之写

一[十七]　文政九年正月箱根宿ヨリ用水掛組合村方ヘ対シ差入証書

・一[十二]　文政四年三月三日（日）同断御国役普請出来形帳

・一[十四]　嘉永二年湖水門口以下御普請目論見帳及許可之証

・一[十五]　安政三年湖水門口以下御普請目論見帳及許可之証

・一[十六]　万延元年前同断証

一[十八]　湖用水組合村々一覧地図　是レハ記載セズ

右ハ明治廿九年五月ヨリ横浜地方裁判所検事局ヘ追々呈出シタルモノナリ

・印ノ分ハ泉ニ於テ取得浄書ノ事

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三〇六　明治二九年一二月一六日　逆川事件横浜地方裁判所判決（一八九六）

判決

神奈川県足柄下郡仙石原村七十三番地
平民農　被告　勝又沢次郎　五十二年

同県同郡大窪村板橋六百廿九番地
平民農　被告　市川文次郎　五十五年

同県同郡仙石原村千二百三十七番地
平民農　被告　須永傳蔵　五十五年

右水閘毀壊事件遂審理処神奈川県足柄下郡箱根湖ヨリ自然ニ流下スル逆川口ニハ、従来凡長七十八間許ノ石垣ヲ築キ其間ニ各幅九尺許ノ二個ノ水口ヲ設ケアリタル処、被告三名ハ申合セ明治廿九年四月十二・十三ノ両日ニ亙リ多数ノ人夫ヲ転替シ該水口中其一方ハ全ク是ヲ閉塞シ他ノ一方ハ凡ソ二尺許堀リ下ケタルハ事実ナルモ、右所為ハ犯罪タリトノ証拠十分ナラサルニ付刑事訴訟法第二百三十六条・第二百廿四条ニ懸リ処分スヘキモノトス被告沢次郎・文次郎・傳蔵ハ各無罪

押収品ハ刑事訴訟法第二百二条ニ依リ各差出人ニ還付シ公訴費用ハ同法第二百一条第一項ニヨリ国庫ノ負担トス

明治廿九年十二月十六日於横浜地方裁判所（裁）刑事第一部
公選検事宮腰信次郎立会言渡
裁判長判事（裁）　丸山精三
判事　宮島鎌三郎
判事　北島傳四郎
裁判所書記（裁）　石神鎌之助

右原本ニヨリ此謄本ヲ作ル

明治廿九年十二月十六日於同部
裁判所書記　吉野美俊印

私訴判決

静岡県駿東郡小泉村村長
民事原告　菅沼佐太郎
同県同郡長泉村々長
民事原告　米山藤三郎
同県同郡深良村々長
民事原告　小林由太郎
神奈川県足柄下郡仙石原村
被告　勝俣沢次郎
同県同郡大窪村板橋
被告　市川文次郎
同県同郡仙石原村
被告　須永傳蔵

右当事者間ノ水閘毀壊公訴事件ニ附帯スル損害要償事件ニ付当地方裁判所ハ判決スル左ノ如シ

民事原告ノ訴ハ之ヲ却下ス

私訴費用ハ民事原告ノ負担トス

事実及理由

民事原告請求ノ要領ハ神奈川県足柄下郡箱根湖海尻逆川口ニ設ケアル堰止メ工事ハ静岡県駿東郡深良村・小泉村・泉村・富岡村・長泉村・清水村・富士岡村ノ七ケ村共有物ナリ、然ルニ被告ハ明治廿九年四月十二・十三日ノ両日ニ亙リ右工事中ノ二個水閘ノ内其一方ハ全ク埋メ立テ、他ノ一方ハ其甲ラ伏セヲ破壊シ深ク切リ下ケタルニ付、該七ケ村ハ各其村会ニ於テ被告ニ対シ損害要償ノ訴ヲ起スコトヲ決議シ各其村長ヲ以テ代表スルコトニ成セリ、依テ原告ハ各其所属ノ村ヲ代表シ且泉村・富岡村・清水村・富士岡村ノ各村長ヨリ訴訟委任ヲ受ケ被告ニ対シ該損所ヲ復旧スルニ要スル施用金百四拾円八拾五銭ノ賠償ヲ求ムト申立テ、被告弁護人岸清六答弁ノ要領ハ民事原告三名ハ他ノ四ケ村長ヨリ訴訟委任ヲ受ケタリト称スルモ其証明ナク、又事実其委任ヲ受ケタリトスルモ地方裁判所ニ於テハ弁護士已前ノ者ニ訴訟ノ委任ヲ与フルヲ許サス、加之被告ハ不法ニ民事原告ノ主張スル本按論所ヲ

破壊シタルコトナケレハ原告ノ請求ニ応スヘキ義務ナシト抗弁セリ

按スルニ本訴論所ハ民事原告主張ノ七ケ村ノ共有物タル事実ハ民事原告ノ自陳スル所ナリ、左レハ其共有物ヲ害セラレタルヲ理由トシ之カ救正（ママ）ヲ訴求スルニハ七ケ村ヲ適法ニ代表スル資格ヲ負セサル可ラサルハ論ヲ俟タス、然ニ本訴原告ハ各其所属村ヲ代表スル能力アリトスルモ所属外ノ他四ケ村ヲ代表スル能力ナシ、故ニ其四ケ村ノ代表能力ヲ得ルニハ適式ノ委任ナカルヘカラズ、而テ原告三名ハ他ノ四ケ村長ヨリ本件ノ訴訟ノ委任ヲ受ケタリト陳述スルモ口頭無証ノ陳述ニ過キザレハ之ヲ信スルニ由ナシ、依テ原告三名ノミニテハ七ケ村ヲ代表スル資格ナキニ付其七ケ村共有ノ財産ニ受ケタリト称スル損害賠償ノ本訴ヲ提起スルノ資格ナキモノトス、依テ当才（裁）判所ハ原告ノ訴ヲ相当ナラスト決シ主文ノ如ク判決ス、但シ右ノ理由ニ因リ本訴ヲ却下スヘク決シタル上ハ他ノ抗弁ニ対シテハ判断ヲ要セス

明治廿九年十二月十六日於横浜地方才（裁）判所刑事第一部

公選検事宮腰信次郎立会言渡

才（裁）判長判事　丸山精三

判事　宮島鎌三郎

判事　北島伝四郎

才（裁）判官書記　石神鎁之助

右原本ノまゝ此正本ヲ作ル

明治廿九年十二月十六日於同郡

裁判所書記　吉野美俊印

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三〇七　明治三〇年四月六日（一八九七）　逆川事件東京控訴院上告棄却判決書

三〇を五

判決謄本

神奈川県足柄下郡仙石原村七十三番地

平民農

勝俣沢次郎
五十三年
同県同郡大窪村板橋六百二十九番地
平民農

市川文次郎
五十六年
同県同郡仙石原村千二百三十七番地
平民農

須永傳蔵
五十六年
右水利妨害被告事件ニ付キ明治二十九年十二月十六日横浜地方裁判所カ言渡シタル無罪ノ判決ヲ失当トシテ同裁判所検事正渡辺融ハ控訴ヲ為シタリ、因テ本院ハ検事小宮三保松立会弁論ヲ経判決スルコト左ノ如シ

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

理由

被告沢次郎・文次郎・傳蔵カ協議ノ上明治二十九年四月十二・十三ノ両日多数ノ人夫ヲ使役シテ神奈川県足柄下郡箱根ノ湖水尻ナル逆川口ニ静岡県駿東郡深良村外六ケ村ニ於テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ防ク為メ、野面石ヲ以テ蒲鉾形ニ築キ置キタル甲ラ伏セ又ハ亀腹ト称スル堰留二ケ所ノ内一ハ之ヲ埋立テ一ハ之ヲ破壊シタル事実ハ明白ナルモ、抑モ箱根湖ハ早川ノ水源ニシテ早川ニ沿フ所ノ被告村ナル神奈川県足柄下郡仙石原村外七ケ町村ハ古来自然ニ早川ニ流出スル箱根湖水ノ使用権ヲ有スルモノニシテ、偶寛文年度ニ至リ深良村外二十八ケ村ニ於テ田地灌漑ノ為メ幕府ノ許可ヲ受ケ駿河津峠字四ツ留ニ隧道ヲ穿チテ湖水ヲ引キ、兼テ湖水ノ水量ヲ過度ニ減少セシメサル為メ逆川口即チ湖水ノ早川ニ落ツル所ニ堰留工事ヲ施シ且隧道ノ入口ニハ水閘ヲ設ケ平時ハ之ヲ鎖スコトヽナシ、爾来水閘ハ勿論堰留工事モ亦深良村外二十八ケ村ノ管理ニ属シ、被告等町村ニ於テハ之ニ干与シタルコトナカリシ、然レトモ是レ唯深良村外二十八ケ村ニ於テ湖水ヲ自村ニ分水シ得タルニ止マリ敢テ他ヲ排シテ湖水ノ専用権ヲ得タルモノニアラス、又被告等町村ハ深良村

等ノ為ニ古来自然ニ有スル湖水ノ使用権ヲ全ク喪失シタルモノニアラス、然ルニ近年双方共湖水ノ需要ヲ増シタルト同時ニ深良村等ニ於テハ自己ノ管理内ニ在ルヲ奇貨トシ旧慣ニ背キ平時ト雖モ水閘ノ戸一枚ヲ開放シ置キ、又ハ修繕ト称シテ漸次逆川口ノ堰留ヲ高クシ以テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタル形跡アルニ因リ、被告等ハ仙石原村外七ケ町村ノ水利委員タルヲ以テ専ラ被告等町村カ有スル湖水使用権ヲ保護スルノ意思ヲ以テ該堰留ヲ埋立テ又ハ破壊スルニ至リタルモノナルコトハ、訴訟記録及ヒ差押ヘタル書類並ニ絵図面ニ依リ認定スルニ足ルヲ以テ被告等ノ右所為ハ水利妨害ノ罪トシテ罰スヘキモノニアラス、因テ刑事訴訟法第二百二十四条ニ依リ無罪ノ言渡ヲ為シ差押ヘタル書類及ヒ絵図面ハ総テ差出人ニ還付スルヲ相当トス

然ラハ原裁判所ニ於テ犯罪ノ証憑十分ナラストノ理由ヲ以テ無罪ノ判決ヲ為シタル其理由ニ至テハ其当ヲ得サルモ、結局無罪ノ言渡ヲ為スヘキモノナルヲ以テ有罪ナリトシテノ本件控訴ハ其理由ナシ、是レ本院カ刑事訴訟法第二百六十一条第一項ニ依リ主文ノ如ク判決スル所以ナリ

明治三十年三月三十一日本院公廷ニ於テ検事小宮三保松立会言渡ス

東京控訴院刑事第二部

裁判長判事　末弘厳石
判事　菅谷正樹
判事　橋爪捨蔵
判事　馬渡俊猷
判事　常松英吉

裁判所書記　彦坂忠直

原本ニ依リ此謄本ヲ作ルモノナリ

明治三十年四月六日

東京控訴院刑事第二部

裁判所書記　彦坂忠直　印

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三〇八　明治三〇（一八九七）年四月二四日　逆川事件上告趣意書

上告趣意書

静岡県駿東郡深良村々長
上告申立人（民事原告）　小林由太郎
同県同郡小泉村々長
同　管（ママ）沼佐太郎
同県同郡富岡村須山村給合（組）村長
同　同　横山健吾
同県同郡泉村々長
同　同　服部大輔
同県同郡長泉村々長
同　同　室伏平右衛門
同県同郡清水村々長
高田譲八郎代理同村助役
同　同　平井喜十郎
同県同郡藤岡村々長
同　同　杉山利十郎
東京市京橋区西紺屋町廿五番地弁護士
右訴訟代理人　鈴木充美
神奈川県足柄下郡仙石原村
被上告申立人（民事被告）　勝俣沢次郎
同県同郡大窪村
同　同　市川文次郎
同県同郡仙石原村
同　同　須永傳蔵

明治三十年四月十九日東京控訴院刑事第二部ニ於テ原告ノ請求ハ相立タストノ言渡アリタルモ上告申立人ハ之ニ服従スルコト能ハス、去ル廿二日上告申立ヲ為シ茲ニ主趣書ヲ提出致ス

一定ノ申立

原判決ノ全部ヲ破毀セラレンコトヲ請求ス

理由

第一点原院ニ於テ被告等カ原告ノ設置シタル共有物ナル甲ラ伏ヲ破壊シタル事実ヲ認メナカラ、公訴ニ於テ其処為罪トナラザルトノ理由ヲ以テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタルハ不当ニ法律ヲ適用シタル不法ノ裁判ナリトス

右上告趣意申立候也

明治三十年四月廿四日

上告申立訴訟代理人

鈴木充美㊞

大審院刑事部御中

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三〇九　明治三〇年七月八日（一八九七）　逆川事件訴訟を名古屋控訴院へ移送判決書

明治三十年第五一七号

判決書

神奈川県足柄下郡仙石原村七十三番地平民農　公訴私訴被上告人　勝俣沢二郎　五十三年

同県同郡大窪村板橋六百廿九番地平民農　同　市川文次郎　五十六年

同県同郡仙石原村千二百三十七番地平民農　同　須永傳蔵　五十六年

静岡県駿東郡深良村長　私訴上告人　小林由太郎

同県同郡富士岡村長　同　杉山利十郎

同県同郡富岡村須山村組合村長　同　横山健吾

同県同郡小泉村長　同　管沼佐太郎

同県同郡泉村長　同　服部大輔

同県同郡長泉村長米山藤三郎
代理同村助役
同　佐久間信久
同県同郡清水村長斎田譲八郎
代理同村助役
同　平井喜十郎

右沢二郎外二名ニ対スル水利妨害被告事件及之ニ附帯スル私訴ニ付キ明治三十年三月三十一日及ヒ同年四月十九日東京控訴院ニ於テ言渡シタル公訴及私訴ノ判決ニ服セス、公訴判決ニ対シテハ原院検事長野村維章ヨリ私訴判決ニ対シテハ小林由太郎外六名代理人鈴木充美ヨリ各上告ヲ為シタルニヨリ、裁判所構成法第四十九条ニ依リ本院刑事部聯合シ刑事訴訟法第二百八十三条ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

原院検事長野村維章上告趣意ハ本按第二審判決理由ノ部ニ、「偶寛文年度ニ至リ深良村外二十八ケ村ニ於テ田地灌漑ノ為メ幕府ノ許可ヲ受ケ云々、兼テ湖水ノ水量ヲ過度ニ減少セシメサル為メ逆川口即湖水ノ早川ニ落ツル所ニ堰留工事ヲ施シ云々、爾来水閘ハ勿論堰留工事モ亦深良村外廿八ケ村ノ管理ニ属シ被告等町村ニ於テハ之ニ干与シタルコトナカリシ云々」ト掲ケ、又被告沢二郎・文次郎・伝蔵カ協議ノ上明治二十九年四月十二・十三ノ両日多数ノ人夫ヲ使役シテ神奈川県足柄下郡箱根湖水尻ナル逆川口ニ静岡県駿東郡深良村外六ケ村ニ於テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ防ク為メ、野面石ヲ以テ蒲鉾形ニ築キ置キタル甲ヲ伏セ又ハ亀腹ト称スル堰留二ケ所ノ内一ハ之ヲ埋立テ一ハ之ヲ破壊シタル事実ハ明白ナルモ」云々ト掲ケタル所ヲ正当ニ解釈スレハ、当院ハ第一逆川口ニ於テ甲ヲ伏セ水利工事ハ駿東郡深良村外六ケ村ノ築造ニ係リ同工事ニ付テノ管理権ハ即チ駿東郡深良村外六ケ村ニ専属スル事実第二被告等ニ於テ逆川口ニ於ケル甲ヲ伏セ水利工事ヲ駿東郡民ノ承諾ヲ得スシテ擅ニ破壊シタル事実ヲ認メタルモノト看做サヽルヲ得ス、而テ本院カ右ノ認定ヲ為シタルニモ拘ハラス被告等ノ所為ヲ罪トナラス

トナシ之ニ対シテ無罪ヲ言渡シタル理由ハ右ノ四項ニ帰着ス、第一項駿東郡民ハ湖水ノ専用権ヲ得タルモノニアラス即被告等町村ハ古来自然ニ有スル湖水ノ使用権ヲ全ク喪失シタルモノニアラサルコト、第二項近年ニ至リ駿東郡民ハ自己ノ管理内ニ在ルヲ奇貨トシテ旧慣ニ背キ平時ト雖トモ水閘ノ戸一枚ヲ開放シ置キ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタル形跡アルコト、第三項近年ニ至リ駿東郡民ハ自己ノ管理内ニ在ルヲ奇貨トシテ旧慣ニ背キ修繕ト称シテ漸次逆川口ノ甲ヲ伏セ水利工事ヲ高クシ以テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタル形跡アルコト、第四項被告等ハ其町村ノ水利委員トシテ其町村ノ有スル湖水使用権ヲ保護スル意思ヲ以テ本案ノ行為ニ及ヒタルコト、然ルニ右四項ノ理由ハ被告等本案ノ所為即管理権カ駿東郡民ニ専属スル逆川口甲ヲ伏セ水利工事ヲ同郡民ノ承諾ヲ得スシテ擅ニ破壊シタル被告等ノ所為ヲシテ刑法上無制裁タラシムルニ足ラス其所以左ノ如シ

右第一項ニ付」駿東郡民カ湖水ノ専用権ヲ得タルモノニアラス若シクハ被告等町村カ自然ノ湖水使用権ヲ全ク喪失シタルモノニ非ストノ認定ハ絶対的無憑拠ノ認定ナリ、何トナレバ本案ニ関スル総テノ証拠方法中絶テ此認定ヲ資クルモノナキノミナラズ、被告等町村ハ往時ハ実ニ湖水ノ需用ヲ有セサリシ処近年ニ至リ耕牧舎ノ開設等ニヨリ頓ニ其需用ヲ惹起シタルモノナルコト明白ナレバナリ、而シテ今特ニ此不当ノ認定ヲ基礎トシテ立論セン ニ被告等町村ヲ駿東郡民ト斉シク湖水使用ノ権利ヲ有スルコトハ被告等ニ駿東郡民ノ水利工事即逆川口甲ヲ伏セヲ擅ニ破壊スルヲ得ルノ権利ヲ生セス、被告等ニ於テ駿東郡民ヨリ水利上ノ損害ヲ受ケタリト信シ其救済ヲ得ント欲セハ民事裁判所若クハ刑事裁判所ニ向テ駿東郡民ニ訴追スベキ一途アルノミ、然ルニ被告等ニ於テ事此ニ出テス顧フニ民事訴訟上被告ノ位置ニ立ツノ利益ヲ占メンカ為メ、白昼多数ノ人夫ヲ指揮シ暴行ヲ以テ駿東郡民ノ甲ヲ伏セ水利工事ヲ破壊シタルハ法治国ノ秩序ヲ紊乱スルモノニシテ其無政府的所為ハ疑モナク水利防害ノ罪ヲ構成スル

モノナリ

第二項ニ付」近年ニ至リ駿東郡民カ旧慣ニ背キ平時ニ於テ水門ノ戸一枚ヲ開放シ置キ随テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタリトノ事実ハ之ヲ真実ナリト為スモ、依テ以テ被告等本案ノ所為ヲ罪トナラズト結論スルヲ得ス、今駿東郡民カ水門ヲ広メテ例ヘハ幅員数十間ノモノト為シタリト仮定センニ、其出来事ハ或ハ被告等カ同郡民ニ対シテ民事訴訟ヲ提起スル原因トナルモ被告等ノ逆川口甲ラ伏セ水利工事ニ対スル法律的関係ハ毫モ変更スルコトナシ、即被告等ハ為メニ俄カニ甲ラ伏セ水利工事ヲ破壊スルノ権利ヲ所得スルコトナシ

第三項ニ付」近年ニ至リ駿東郡民カ旧慣ニ背キ修繕ト称シテ漸次逆川口ノ甲ラ伏セ水利工事ヲ高クシ、以テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタリトノ事実ハ之ヲ真実ナリトナスモ、亦依テ以テ被告等本案ノ所為ヲ罪トナラズト断定スルヲ得ス、抑モ「修繕ト称シテ漸次逆川口ノ堰留ヲ高クシ云々形跡アルニ因リ」トノ認定ハ亦絶対的無憑拠ノ認定ナリト当院ハ其判決ヲ為ス便宜ノ為メ此ノ如キ架空ノ事項ヲ想像シタルニ過キズ、而シテ其想像サレタル事実ニ基キテ立論センニ被告等ハ暴行ニ対抗スルニ暴行ヲ以テシタルモノト論談スルノ外ナシ、若シクハ被告等ハ個人的争件ヲ私擅ニ裁判シタルモノト論断スルノ外ナシ、我法治国ニ在テ被告等ノ所為カ犯罪トナラサルニ於テハ個人ハ自ラ随意ニ其争件ヲ裁判シ自ラ随意ニ強制執行ヲ為シ司法制度カ多数ノ場合ニ無用物タルノ結果ヲ生ス可シ、故ニ被告等ノ所為ハ犯罪的所為ト見做サヽルヲ可カラサルナリ、殊ニ「云々漸次逆川口ノ堰留ヲ高クシ」ノ語ニ拠レハ当院ハ第一甲ラ伏セニ駿東郡民カ近年ニ至リ不当ニ高クシタル部分アルコトヲ認メ、第二甲ラ伏セニ旧慣ニ依ル正当ノ部分アルコトヲ認メタルヲ見ルナリ、則此認定ノ趣意ヲ推ストキハ駿東郡民カ近年ニ至リ不当ニ高クシタル甲ラ伏セノ部分ニ付テノ被告ノ破壊行為ハ罪トナラサルモ、其旧慣ニ依ル正当ノ部分ニ付テノ被告等ノ破壊行為ハ罪トナルト論断セサルヘカラサルナリ、

然ルニ当院カ被告等ノ破壊行為ヲ区別スルコトナクシテ一括罪トナラズト判決シタルハ違法ノ最モ明白ナルモノトス

第四項ニ付キ」被告等カ町村委員トシテ町村ノ利益ヲ保護スル意思ヲ以テ本業ノ所為ニ及ヒタリトテ其行為水利妨害ノ罪ヲ構成セズト断定スルヲ得サルコトハ言ヲ待タス、即惟私利ノ為メニ行動シタルモノニ比シ犯情或ハ軽シトナスモ他人ノ水利工事ヲ擅ニ破壊スルノ意思ヲ実行シタルハ明白ニ水利妨害ノ罪ヲ犯シタルモノナリ、之ヲ要スルニ被告等ハ近年ニ至リ水ノ需用ヲ感シ明治二十六年中御料局ニ逆川堀下ノ事ヲ出願シタルモ許容サレス、乃翌年意ヲ決シテ甲ラ伏セ水利工事ヲ破壊シタルモ神奈川県庁ハ静岡県庁ノ厳談ニ接シ復旧工事ヲ施シ而シテ他ノ一方ニ在テ駿東郡民ノ水利権ハ其証拠充分ニシテ侵ス可カラサルカ故ニ、先ツ駿東郡民ノ有形的水利工事ヲ破壊シタル上民事訴訟上被告ノ位置ニ立ツ利益ヲ占メンコトヲ企図シ、更ニ意ヲ決シテ本案ノ所為ニ及ヒタルモノニシテ其所為刑法第四百十三条ニ該ルコト争フヘカラサルニモ拘ラズ当院ハ強テ反対ノ判別ヲ下シタル為メ其判別ニハ到底適法ノ理由ヲ附スルヲ得ス、即チ当院ハ前段ニ論述シタル通リ適法ニ理由ヲ附セズシテ被告等ノ無罪ヲ言渡シタルモノニシテ其判決ハ違法ノ判決タルヲ免レス、依テ原判決ヲ破毀シ更ニ相当ノ判決アランコトヲ希望スト云フニアリ

民事原告人訴訟代理人鈴木充美上告趣意第一点ハ原院ニ於テ被告等カ原告ノ設置シタル共有物タル甲ラ伏セヲ破壊シタル事実ヲ認メナカラ公訴ニ於テ其処為罪トナラサルトノ理由ヲ以テ原告ノ請求ヲ排斥セラレタルハ不当ニ法律ヲ適用シタル不法ノ裁判ナリ、依テ原判決ノ全部ヲ破毀セラレンコトヲ請求スト云フニ在リ

依テ案スルニ原判決ノ理由ニ於テ「偶寛文年度ニ至リ深良村外廿八ケ村ニ於テ田地灌漑ノ為メ幕府ノ許可ヲ受ケ駿河津峠字四留ニ隧道ヲ穿チテ湖水ヲ引キ、兼テ湖水ノ水量ヲ過度ニ減少セシメサル為メ逆川口即チ湖水ノ早川

ニ落ツル所ニ堰留工事ヲ施シ云々、堰留工事モ亦深良村外廿八ケ村ノ管理ニ属シ云々、然ルニ近年双方共湖水ノ需用ヲ増シタルト同時ニ深良村等ニ於テ自己ノ管理内ニ在ルヲ奇貨トシ旧慣ニ背キ云々修繕ト称シテ漸次逆川口ノ堰留ヲ高クシ以テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタル形跡アルニ因リ」云々、トアルヲ以テ逆川口ニ於テ堰留工事ヲ施シタル旧慣ノ存セシコトハ明カニ認メラル処ナレハ、其旧慣アル丈ケハ即チ民事原告村ノ水利工事ナルコト随テ明カナリ、果シテ然ラハ被告等カ甲ヲ伏セト称スル堰留ノ破壊シタル所為ニシテ右旧慣ニ存スル部分ニ達スルニ於テハ其水利妨害ノ所為タルコト勿論ナリ、然ルニ原判決ニ於テ其前段ニ堰留二ケ所ノ内一ハ之ヲ埋立テ一ハ之ヲ破壊シタリトアリテ堰留全部ヲ破壊シタルモノト認メタルモノヽ如クナルニ、其後段ニ至リ深良村等ニ於テハ自己ノ管理内ニ在ルヲ奇貨トシ旧慣ニ背キ云々修繕ト称シ漸次逆川口ノ堰留ヲ高クシ以テ湖水ノ早川ニ流下スルヲ阻害シタル形跡アルニ因リ云々、トアリテ被告等カ破壊シタル堰留ハ右旧慣ニ背キ高クシタル部分ニ止マル如ク、結局原判決ハ有罪無罪ノ分ルヽ重要ノ事項ヲ確定セサルモノニシテ即理由不備ノ不法アルモノナレバ原院ノ言渡シタル公訴ノ判決ハ全部破毀ヲ免レサルモノトス

原院ノ言渡シタル私訴ノ判決ヲ見ルニ其理由ハ公訴ノ判決ニ拠リタルコト明カナルヲ以テ前項説明ノ如ク公訴ノ判決ノ全部破毀ヲ免カレサルモノナル以上ハ随テ私訴ノ判決モ亦全部破毀ヲ免レサルモノトス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六条ノ規定ニ従ヒ判決スル左ノ如シ

原判決ハ公訴私訴共全部之ヲ破毀シ更ニ審判セシムル為メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移送ス

明治三十年七月八日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ検事岩田武儀立会宣告ス

裁判長　判事　原田種成印

判事　栗塚省吾印

判事　筧　元　忠印
判事　長谷川　喬印
判事　島田正章印
判事　永井岩之丞印
判事　川目亨一印
判事　亀山真義印
判事　昌谷千里印
判事　柳田直平印
判事　津村　薫印
判事　伊藤悌治印
判事　十時三郎印
書記　加藤珠樹印

右原本ニ照合候処相違無之候也

明治三十年七月十五日

印

大審院書記　加藤珠樹印

（静岡県吉湖水利組合所蔵）

三〇　明治三〇年七月八日（一八九七）　逆川事件訴訟を名古屋控訴院へ移送通知の電報

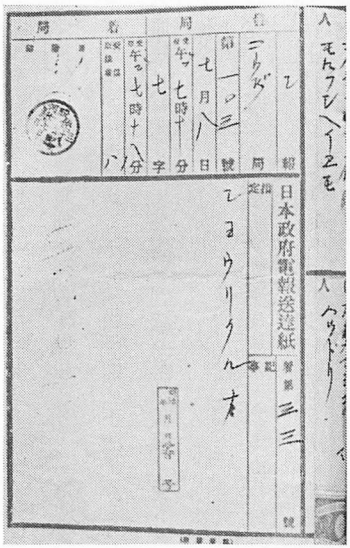
湖第一五号

箱根湖用水逆川事件兼テ大審院ニ於テ審理中之処只今在東京鈴木弁護士ヨリ左記ノ通リ電報有之候条不取敢此段御通知候也

明治三十年七月八日

駿東郡小泉村役場印

深良村長小林由太郎殿



三一　明治三〇年一〇月二〇日（一八九七）　逆川事件名古屋控訴院判決書

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

明治三〇年ヲ第三〇五号

（判）「駿河国駿東郡富岡村大字御宿　湯山半七郎」

判　決　書

神奈川県足柄下郡仙石原村七拾三番地
平民農　勝俣澤次郎　五十三年

同県同郡大窪村板橋六百二十九番地
平民農　市川文次郎　五十六年

同県同郡仙石原村千二百三十七番地
平民農　須永傳蔵　五十六年

右水閘毀壊被告事件ニ付大審院ノ移送ニ因リ明治二十九年十一月十六日横浜地方裁判所ニ於テ言渡シタル第一審判決ニ対スル検事ノ控訴審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

被告三名ハ其水源ヲ神奈川県足柄下郡箱根湖ニ発スル早川ニ沿ヘル仙石原村外七ケ町村ノ水利委員ナル処、去ル寛文年度ニ於テ現今ノ静岡県駿東郡深良村・小泉村・富岡村・須山村・泉村・長泉村・富士岡村・清水村カ当時ノ政府ノ許可ヲ受ケ箱根湖水ノ使用権ヲ得湖畔ナル駿河津峠字四ツ留ニ隧道ヲ穿チテ水閘ヲ造リ、且湖水ノ水量ヲ過度ニ減少セシメサル為メ早川ノ上流逆川口ノ東西二ケ所ニ野面石ヲ畳布シ甲ラ伏ト称スル堰留ヲ設ケ以テ湖水ヲ引用シ来リタルニ、近年ニ至リ早川沿岸ノ人民ニ於テ其河水ノ需用ヲ増加シタルヨリ被告等ハ右堰留工事ハ深良村外七ケ村カ其権利ヲ以テ設置ニ係ル事実ヲ熟知シナカラ該村ノ水利ヲ自村ノ便益ヲ図ランコトヲ共謀シ、明治二十九年四月十二・十三ノ両日多数ノ人夫ヲ督シ前

記二ケ所ノ堰留ノ内西ノ口土石ヲ以テ之ヲ塡塞シテ堤防トナシ東ノ口ハ右甲ラ伏ヲ破壊シテ之ヲ撤去シ、且河底ヲ浚渫シテ湖水ヲ多量ニ逆川筋ニ流下セシメ以テ深良村外七ケ村ノ水利ヲ妨害シタリ、以上ノ事実ハ被告三名カ当公廷ノ陳述立木帰一・石内為次郎・小林由太郎・片山由三郎・中野勇次郎・鈴木新平ノ各予審調書告訴状押収ノ書類ニ徴シ其証憑十分ナリ

右被告等ノ所為ハ刑法第四百十三条ニ該ルヲ以テ同条ニ依リテ処断スベキモノトス

然ルニ原裁判所ニ於テ犯罪ノ証憑十分ナラストシ無罪ヲ言渡シタルハ失当ニシテ本件検事ノ控訴ハ其理由アリ

因テ本院ハ刑事訴訟法第二百六十一条ニ則リ

原判決ハ之ヲ取消ス

被告澤次郎・文次郎・傳蔵ヲ各重禁錮一月附加罰金二円ニ処ス

公訴裁判費用ハ其全部ヲ被告三名ニ於テ連帯負担スヘレ

押収物件ハ各差出人ニ還付ス

検事田中秀夫本件ニ干与ス

明治三十年十月二十日於名古屋控訴院

刑事部

裁判長判事　乾　孚志

判事　村上　方

判事　北畠秀雄

判事　牛山松蔵

判事　大饗英九郎

裁判所書記　長谷川米吉

原本ニ依リ謄写ス

明治三十年十月二十日　印

名古屋控訴院

書記　長谷川米吉印

明治三十年ヲ第三〇五号

私訴判決書

静岡県駿東郡深良村々長
民事原告人　小林由太郎
同県同郡小泉村々長
同　菅沼佐太郎
同県同郡富岡村須山村組合村村長
同　横山健吾
同県同郡泉村々長
同　服部大誧（ママ）
同県同郡長泉村々長
同　室伏平右衛門
同県同郡富士岡村々長
同　杉山利十郎
同県同郡清水村々長
同　高田譲八郎
東京市京橋区西紺屋町二十五番地
弁護士
右八ケ村訴訟代理人　鈴木充美
神奈川県足柄下郡仙石原村平民
民事被告人　勝俣澤次郎
同県同郡大窪村平民
同　市川文次郎
同県同郡仙石原村平民
同　須永傳蔵
東京市神田区淡路町二丁目七番地
弁護士
右三名訴訟代理人　江木衷
神奈川県足柄下郡小田原町
新玉四丁目五百四十五番地
弁護士
同　高橋茂興

右勝俣沢次郎外二名ニ対スル水閘毀壊事件ノ公訴ニ附帯スル前記当事者間ノ損害賠償ノ私訴事件大審院ノ移送ニ依リ審理判決スルコト左ノ如シ

被告ハ連帯シテ原告ノ請求スル金百四拾円八十五銭ヲ原告ニ支払フヘシ、訴訟費用ハ被告ノ負担トス

事実及理由

原告代理人ハ箱根湖ヨリ流下スル逆川口ニ設置シアル堰

留工事ハ原告村ノ共有物ナリ、然ルニ被告等ハ自己ノ利欲ヲ図ルヲ目的トシ明治二十九年四月十二・十三ノ両日ニ亘リ右工事二個ノ内其一ハ全ク之ヲ埋メ立テ他ノ一ハ其甲ラ伏ヲ破壊シ深ク切下ケタルニヨリ、其復旧工事ニ要スル金百四十円八拾五銭ハ則チ被告等ノ犯罪ニ因テ生シタル損害ナルヲ以テ被告等連帯シテ右金額ヲ原告ニ支払フヘシ、訴訟費用ハ被告ノ負担トストノ判決アリタシト申立被告代理人ハ被告ハ嘗テ原告カ古来管理セル甲ラ伏ナルモノヲ破壊シタルコトナク、又仮リニ被告ハ破壊シタル事実アリトスルモ仙石原外七ケ町村ノ水利委員トシテ為タル行為ナルヲ以テ個人的ニ損害要償其他ノ責任ナケ□□□(原本空白)原告ノ請求ハ却下ノ判決アリタシト申立タリ、因テ審案スルニ被告等共謀ノ上原告カ其已得ノ権利ヲ以テ設置セシ堰留二ケ処ノ内一ハ之ヲ埋メ立テ他ノ一ハ其甲ラ伏ヲ破壊シ且河底ヲ浚渫シタル事実アルコトハ公訴判決ニ示シタル証憑ニ依リ判明ナレハ被告ノ第一ノ抗弁ハ其理由ナシ、既ニ以上ノ如ク事実ヲ認ムル上ハ仮令被告ノ意思ハ自己ノ利欲ノ為メノミニアラスシテ被告等居村一般ノ利益ヲ目的トシタルモノトスルモ、其所為タル被告等カ一己ノ資格ヲ以テ為シタル犯罪ニ外ナラサレハ之レヨリ生シタル損害ノ賠償ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス、又其数額ニ至テモ被告ハ之ヲ認メサレトモ被告カ埋立テ又ハ破壊シタル工事ヲ復旧スルニ於テ原告ノ請求スル金額ヲ要スルコトハ明治二十九年六月十日付渡辺新蔵ヨリ菅沼佐太郎宛工事請負見積書ニ明記アリ、而シテ之レニ記載スル処ハ総テ適当ト認ムルヲ以テ主文ノ如ク判決スル所以ナリ

検事田中秀夫本件ニ干与ス

明治三十年十月二十日於名古屋控訴院

刑事部

裁判長判事　乾　孚志

判事　村上　方

判事　北畠秀雄

判事　牛山松蔵

判事　大鐙英九郎

裁判所書記　長谷川米吉

原本ニ依リ謄写ス

明治三十年十月二十日

印

名古屋控訴院

書記　長谷川米吉印

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三三　明治三〇年一〇月二六日（一八九七）　逆川事件大審院上告答弁書

「（端書）明治三十年拾月廿六日書記印」

上告答弁書

勝俣澤次郎
市川文次郎
須永傳蔵

右水利妨害被告事件当院判決ニ対シ被告三名ヨリ上告ヲ為シタル趣意ハ原院判決ノ事実認定ノ非難ニ過キザルヲ以テ上告ノ理由トナラズ

右及答弁候也

明治三十年拾月廿六日

印

名古屋控訴院検事長　加納　謙印

大審院長男爵南部甕男殿

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三　明治三一年一月二一日（一八九八）　逆川事件大審院判決書

明治三十年第一〇九一号

判決書

神奈川県足柄下郡仙石原村七十三番地
平民農被告人

公訴私訴上告人　勝俣澤次郎
五十三年

同県同郡大窪村板橋六百二十九番地
平民農被告人
同上　市川久次郎(ママ)
五十六年
同県同郡仙石原村千二百三十七番地
平民農被告人
同上　須永傳蔵
五十六年
静岡県駿東郡深良村村長
民事原告人
私訴被上告人　小林由太郎
同県同郡小泉村村長
民事原告人
同　菅沼佐太郎
同県同郡富山(ママ)村須山村組合村村長
民事原告人
同上　横山健吉(ママ)

同県同郡泉村村長
民事原告人
同上　服部大輔
同県同郡長泉村々長
民事原告人
同　室伏平右衛門
同県同郡富士岡村々長
居事原告人
同　杉山利十郎
同県同郡清水村々長
民事原告人
同　高田譲八郎
右訴訟代理人　鈴木充美

右澤次郎外二名ヵ水閘毀壊被告事件ニ付明治三十年十月廿日名古屋控訴院カ言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ対シ、被告三名ハ上告ヲ為シ原院検事及ヒ私訴被上告人ハ答弁書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三条ノ式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

被告三名カ上告趣意ハ被告ハ原院カ認メタルカ如キ犯罪ヲ為シタルコトナキニ、原告ハ不当ニ事実ヲ認定シ有罪ノ判決ヲ与ヘ損害陪償金百四拾円八十五銭被告連帯シテ支払フヘシトノ判決ヲ与ヘラレタルハ不法ナリト言フニアリテ、原院ノ職権ニ存スル事実認定ニ対スル非難ナレハ上告ノ理由トナラス

弁護人岡崎正也カ上告趣意拡張書ノ要旨第一点ハ論所逆川ハ元来箱根湖水ニ於ケル唯一ノ疏通河川ニシテ右沿岸仙石原村外七ケ町村ハ古来右河水ヲ飲用田用ニ利用シ来リタリ、然ルニ本件告訴人静岡県駿東郡深良村外六ケ村ハ寛文六年ニ至リ記録上申手形ノ事ト題スル記録ノ如ク始メテ幅六尺高一尺ノ掘抜ヲ通シ湖水ノ水ヲ引用スルノ許可ヲ得タルモノナリ、右手形ニ湖(ヘ)水ノ水落過キ候ハヽ海尻ノ水堰キ止メ可申候」トアルモ、決シテ右逆川ノ自然河海ニ於ケル仙石原村ト七ケ町村人民カ有シ来リタル水利権ヲ制限シ若シクハ取上ケタルモノニ非ルハ勿論当時逆川ハ其川口十数間ノ広サニ亘リ、右八ケ町村ノ用水ノ外尚多量ノ余水アリシヲ以テ其余水ノ流出ヲ堰止メ古来ノ水利権ヲ妨害セサル範囲ニ於テ右逆川流水ヲ堰止メ、以テ深良村外六ケ村ノ新用水ニ充ツヘキ事ヲ規定シタルニ外ナラス、其后深良堰関係者ハ右逆川ニ於ケル余水ノ流出ヲ防キ水量ヲ貯蓄スル為メ次第ニ川口ニ堤塘ヲ築キ其堤塘ノ十間東西二ケ所ノ水口ヲ存シ、早川沿岸ノ水利関係者ノ使用ニ差支ナキヲ程度トシ其範囲ニ於テ湖水ノ水量ヲ貯ヘ、以テ自己ノ新用水ノ水量ヲ補クコトト為シ来リタリ、然ルニ近来ニ至リ深良堰関係者ハ右堤塘堰止メロノ修築ヲ名トシ数々早川水権者ノ古来ノ水権ヲ妨害スルノ傾キアリ、始メ右二ケノ水口ノ水底ニ石ヲ畳ミ以テ土砂ノ流出ニ付キ其上ニ土俵ヲ以テ水利不用ノ時ハ流出ノ水量ヲ制限スルコトヽ成リ居リタル処、去ル明治二十七年ニ至リ深良堰関係者ハ右水底ノ石塁(対手方深良堰関係者ハ之レヲ亀腹又ハ甲ラ伏ト云フ)ノ改築ヲ名ト

シ大ニ右石塁ヲ高メ、殆ント逆川ノ流水ヲ全ク閉塞スヘキ非常ノ障碍物ヲ築キタルヲ以テ該障害物ヲ取払ヒ原形ニ復シタル処、明治二十八年五月ニ至リ深良堰関係者ハ右水口ノ改築ヲ名トシ右水口内ヘ恣ニ石垣ヲ築キ殊ニ其高サヲ殆ント水平ニ等カラシメタリ（小林芳（ママ）太郎・杉山角平ノ証言ニ依リ明カナリ）、依テ仙石原村外七ケ町村ハ各々水利委員ヲ撰挙シ明治廿九年一月二十五日聯合会議ヲ開キ右早川筋ヲ杜絶スヘキ新設石塁ヲ取払ヒ同時ニ被告ヲシテ右議決ヲ実行セシムルコトヲ議決シタリ、茲ニ於テ被告等ハ明治二十九年一月二十五日人夫ヲ督シ該議決ニ基キ右石塁ヲ取払ヒ逆川ノ流水ヲ原状ニ復シタルモノナリ、依テ本件被告事件ヲ決スルニ当リテハ先ツ被告等カ取払ヒタル当時現存スル石塁即チ告訴人深良堰関係者ニ於テ明治二十八年中改造セシ其所謂甲ラ伏ナルモノハ果シテ旧慣ニ反スルモノナルヤ否ヤヲ決スヘキハ勿論ナリ、蓋シ旧慣ニ反シ水利ヲ妨害スヘキ障碍物第三者カ建設シタル場合ニ於テハ水利関係者ニ於テ進テ之ヲ排シ自己ノ水利ヲ完フシ得ヘキコトハ当然ノ筋合ニシテ本件前上告ノ判決ニ於テモ此原則ヲ認メラレタルモノナリ、抑モ本件被告事件ニ於テ被上告人等カ取払ヒタル当時現存ノ石塁ハ前記ノ如ク告訴人等自白ニ依ルモ逆川ノ流水ヲ杜絶スヘキ構造ニシテ第一審臨検調書ニ依ルモ其事実明了（ママ）ナリ、又当時逆川関係者カ之ヲ拒ミタルニ拘ハラハ深良堰関係者ニ於テ肆マニ建設シタルモノタルハ告訴人杉山芳次郎（ママ）ノ陳述ニ依リ明カナリ、是レ則チ本件第一審前第二審ニ於テハ右改造ノ石塁ハ旧慣ニ反シ大ニ其度ヲ高メ逆川ノ水利ヲ害スヘキ障碍物ナルヲ以テ之ヲ排シ自己ノ水利ヲ全フシタル所為ハ罪トナラサルモノト判示セラレタル所以ナリ、加之前上告判決ニ於テモ亦右第二審東京控訴院ノ判決ハ被告人等ノ破壊シタル石塁ハ如何ナル程度ニ於テ旧慣ニ反スルヤ、且又被告等カ破壊シタルハ旧慣ニ反シタル申分ニ止マルヤ否ヤヲ確定セラレサリシハ重要事項ヲ決セサル不法アリト云フニ外ナラス、依テ右移送裁判所名古屋控訴院ハ本件被告事件ヲ決スルニ

当リテハ必ス先ツ右被告人等ノ破壊ニ係ル石塁ハ旧慣ニ反シタルモノナリヤ否ヤ、又右破壊ノ程度ハ旧慣ニ反シタル部分ニ止マリタルモノナリヤ否ヤノ事項ヲ確定セラルヽヲ要スヘキハ当然ノ筋合ナリトス、然ルニ原裁判所ニ於テハ其判決前段ニ於テ漫然寛文年度以来ノ仕来リヲ叙シ其末段ニ被告等ハ右堰止メ工事ハ深良村外七ケ村カ其権利ヲ以テ建設ニ係ル事実ヲ熟知シナカラ云々ト記シタル、単ニ前段ニ叙シタル旧来ノ堰留工事ノ仕来リヲ指シタルニ外ナラスシテ、本件ノ重要事項タル明治二十八年ノ建設ニ係ル石塁ハ旧慣ニ適スルヤ否ヤニ至リテハ毫モ確定スル所ナキモノナリ、依テ原裁判ハ本件被告事件ノ有罪無罪及仮リニ有罪ト為スモ石塁破壊ノ行為ハ如何ナル程度ニ於テ犯罪ヲ構成スヘキモノナルヤ右重要ノ事項ヲ決セサリシハ不法ナリト云フニ在レトモ、前段ハ只其事実ナリトスル所ヲ詳述スルニ過キサレハ固ヨリ上告審ニ於テ判所ヲ与フヘキ限リニ非ス、其中段ニ於テ第一回上告判決ヲ援引シ深良村等カ旧慣ニ反スル工事ヲ為シタルハ確定ノ事実ノ如ク論スルモ、該判決ハ前第二審判決ノ其前段ニ於テハ深良村等カ逆川口ニ堰止工事ヲ為スノ旧慣タルコトヲ認メ、且ツ被告等ハ其堰留工事ノ全部ヲ破壊シタルモノヽ如ク認メタルニ拘ハラス、其后段ニ至リ右破壊シタルハ深良村等カ旧慣ニ背キ高クシタル部分ニ止マルカ如ク説明シ、結局有罪ノ分ルヽ重要ノ事項ヲ確定セサルモノニシテ即チ理由不備ノ判決ナリトシテ破毀シタルニアリテ決シテ争点事実ヲ指定シテ移送審判セシメタルモノニ非ルコトハ該判決ニヨリ明確ナリ、而シテ其移送ヲ受ケタル原裁判所ハ深良村外六ケ村ニ於テ曾テ旧慣ニ反シタル堰留工事ヲ為シタルコトヲ認メス、被告等カ破壊シタル堰止工事ハ旧慣ノモノナルコト其判文上明白ニシテ原判決（一字アキ）段所論ノ如キ不法毫モ之レアルコトナシ、同第二点ノ要旨ハ仮リニ本件事実ハ明治二十八年新造ノ石塁カ旧慣ニ反スルヤ否ヤニ関セス犯罪ヲ構成スヘキモノナリトスルモ、被告等カ右石塁ヲ取払ヒタルハ前顕ノ如クハ八ケ町村ノ水利聯合会議ニ於テ其水利

委員ノ一部タル被告等ヲシテ之ヲ取払ハシムヘキコトヲ決議シ、被告等ハ其聯合会議ノ執行シタル一ノ町村事務ノ執行ニ止リ毫モ自己意見ヲ実行シタルモノニアラス、依テ被告等ハ之ニ対シ刑法上ノ責任ヲ受クヘキモノニ非スト云フニ在レトモ原判決ニ於テハ被告等ヲ八ケ町村ノ水利聯合会議ノ執行者ナリト認メタルコトナシ、仮リニ他ニ使嗾者アリトスルモ犯罪ノ実行者タル以上ハ被告等ハ其罪責ヲ免ル能ハサル勿論ナレハ旁々本論旨ハ不相立、同第三点ノ要旨ハ控訴裁判所ノ構成ニ地方裁判所判事ヲ加ヘ得ヘキ場合ハ裁判所構成法第廿二条・第廿三条・第廿五条及第三十六条規定ノ範囲ニ限ラルヘキモノニアラス、其他ノ場合ニ於テ地方裁判所判事カ控訴裁判所ノ一部ヲ構成セハ即チ判決裁判所ヲ構成セサルヤ勿論ナリ、原公判始末書ヲ見ルニ本件列席判事ノ名古屋地方裁判所判事大饗英九郎列席シ有リト雖トモ、是レ同条規定ノ場合ニ適合シタルモノナルヤ否ヤ一件記録中之ヲ見ルニ由ナク、随テ原裁判ハ適法ナル構成裁判所ニ於テ判決セラレタルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキヲ以テ当然不法ヲ免レスト云フニ在レトモ、地方裁判所判事カ控訴院判事ノ代理ヲ為スハ裁判所構成法第三十六条第二ノ場合ナルコト勿論ナレハ、其公判始末書又ハ判決ノ署名ニ其代理タルコトヲ表示スルヲ以テ足レリトス、控訴院中ヨリ地方裁判所長ヘノ通知書ノ如キハ固ヨリ一件記録ニ存スヘキモノニ非サレハ記録中他ニ代理ノ理由ヲ見ルヘキ書類ナキコトハ当然ナリ本論旨モ不相立

弁護人高木益太郎弁明ノ趣旨ハ証人ノ意見ハ証言タルノ功カヲ有スルモノニアラス、然ルニ本件ノ証人立木帰一ノ予審調書ニハ「右水門ノ内戸一枚ハ新タニ拵ヘタルハ何年頃ノ事ナルヤ、答水門ノ戸ヲ造リタルハ廿三年頃ト存スレトモ或ハ其後水門流失ノ為メ新タニ造リタルヤヲ難斗」トノ点又同石内為次郎ノ予審調書ニ「明治廿六年十月廿四日付ヲ以テ逆川水口ノ切下願ヲ逆川沿村ヨリ差出シタルコトアリヤ答差出シタリト云フ咄ハ承ハリマシタカ自分ハ夫レハ存シマセンデス多分本局ノ方ニテモ答

ヒタト思ヒマス」トノ点ハ熟レモ証人ノ意見ヲ（一字アキ）ケタルモノニシテ、乃チ証言トシテ採用スルコト能ハサルモノアルニ原院カ之ヲ断罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ刑事上証言ニ付何等ノ制限ナキノミナラス、苟シクモ宣誓ノ上為シタル陳述アル以上ハ其陳述中何々意見ニ渉ルコトアリトモ之ヲ証言ノ功ナシト云フ可ラサルナリ、只其信憑ノ如何ハ判審官ニ存スルノミ故ニ原院カ右証人ノ予審調書ヲ断罪ノ資料ニ供シタルモ不法ト為ス可カラサルナリ

弁護人江木衷・高木益太郎連署拡張書ノ要旨第一点ハ刑事被告人カ公判廷ニ於テ事実発見ニ必要ナル証拠ヲ提出シ得ルハ明白疑ヒナキノ権利タリ、而シテ其必要ノ証拠ナルヤ否ヤハ従来事実ノ認定ニ属スヘキモノトシテ上告審ノ判定ヲ仰ク能ハサルノ慣例ナキニアラスト雖トモ、所謂必要ト否ラサルトハ立証セントスル事実ハ争点ト源因結果ノ牽聯ヲ有スルヤ否ヤニ在リテ本末論理的判定ニ属シ事実自身ノ認定ニアラサルヲ以テ其問題ノ証拠法理ノ第一義タル論ヲ俟タサルナリ、本件ハ第一・第二審共ニ無罪ノ判決ヲ受ケ殊ニ第一審ニ於テハ判事全員及ヒ検事モ亦実地臨検シテ後始メテ無罪ノ判決ヲ下シ、第二審判決ノ如キハ告訴村ヲ以テ却テ被告村ノ水利ヲ害スルモノトセラレタレトモ、唯本案被告カ破壊シタリト告訴セラレタル物件中古来存在セル部分ヲ包含シ居レリヤ否ヤヲ明定セサリシカ為メ大審院ハ此点ヲ以テ原判決ヲ破毀シ名古屋控訴院ニ移送セラレタリ、故ニ被告ハ原院ニ対シ果シテ斯ノ如キ部分ノ存在セルヤ否ヤヲ明カニセン為ノ実地ノ臨検ヲ申請シタリ、是レ実ニ有罪無罪ノ争点ヲ決スヘキ必要証拠ニシテ其事実有無ハ源因結果ノ牽連ヲ有スルモノタルコト論理上又争フ可カラサル所ニシテ、曩キニ大審院ノ下サレタル判決モ亦此点ヲ以テ有罪無罪ヲ決スヘキ争点トセラレタルコト明カナリ、然ルニ原院カ此申請ヲ却下シタルハ大審院ノ判決ヲ無視シ被告カ必要ナル証拠ヲ提起シ得ルノ権利ヲ拒絶シタル違法ノ判決ナリト確信スト云フニ在レトモ、裁判所ニ於ル臨検処分

ハ検事其他訴訟関係人ノ請求ニ因ルト否トヲ問ハス裁判所ニ於テ事実発見ノ為メ必要ナリトスルトキ之レヲ為スコトヲ得ルモノナル事ハ刑事訴訟法第二百三十八条ニ規定スル処ナレハ、原院カ弁護人ヨリ実地臨検ノ請求アリタルニ対シ之レカ必要不必要ヲ審按シテ之レカ許否ヲナスハ固ヨリ其職権ニ属ス故ニ其請求ヲ却下セントテ之レヲ不法ト為ス可カラサルナリ、同第二点ハ原院ハ刑法第四百十三条ヲ適用シテ有罪ノ判決ヲ与ヘラレタルモ被告ハ果シテ堤防ヲ決潰シタルカ将タ水閘ヲ毀壊シタルカ其犯罪事実ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ原判決事実ノ理由ニ去ル寛文年度ニ於テ現今静岡県駿東郡深良村・小泉村・富岡村・須山村・泉村・長泉村・富士岡村・清水村カ当時ノ政府ノ許可ヲ受ケ箱根湖水ノ使用権ヲ得云々、湖水ノ水量ヲ過度ニ減セシメサル為メ早川ノ上流逆川口ノ東西二ケ所ニ野面石ヲ畳布シ甲ラ伏ト称スル堰止ヲ設ケ以テ湖水ヲ引用シ来リタル処云々、被告等ハ右堰留工事ハ深良村外七ケ村カ其権利ヲ以テ設置ニ係ル事実ヲ熟知シナカラ云々、多数ノ人夫ヲ督シ前記二ケ所ノ堰止メノ内西ノ口ハ土石ヲ以テ之ヲ頃塞(ママ)シテ堤防トナシ東ノ口ハ右甲ラ伏ヲ破壊シテ之カ撤去シ且ツ河底ヲ浚渫シテ湖水ヲ多量ニ逆川筋ニ流下セシメ、以テ深良村外七ケ村ノ水利ヲ妨害シタリトアリテ被告等カ深良村外七ケ村ノ水利ヲ妨害シタルノ事実ヲ明示ハ十分ナリ本論旨ハ徒ラニ批難ヲ試ミルニ過キス、同第三点ハ早川ノ上流逆川口ハ十数間ノ長キニ渉リ之レニ全川幅ヲ横断スル堤防ヲ築キ其堤防中東西二ケ所ニ壱間余ノ切口ヲ設ケ是レヨリ湖水ヲ早川ニ流下セシムルモノニシテ、所謂堰留トハ此堤防全体十数間ヲ指シ所謂甲ラ伏一間余ナルモノハ此切口ノ川底ニ設ケタル野面石ヲ指ス是実地臨検調書ニ於テ明了(ママ)ニ認メ得ヘキ事実ナリ、然ルニ原判決ハ「甲ラ伏ト称スル堰留ヲ設ケ」云々又「前記二ケ所ノ堰留」云々ト謂ニ、所論大体ノ地勢ヲ知ラス湖水流下ノ為メニスル甲ラ伏ト湖水滞停ノ為メタル堰止ト二者全ク其性質ノ場所ヲ異ニスルモノヲ混同シテ重要ナル本件被害ノ物

体ヲ誤リタルハ不当ニ事実ヲ認定シ且ツ事実理由ニ齟齬アル判決タルヲ免カレスト云フニアレトモ、甲ラ伏ト称スル築造物カ堰留ナリヤ将タ湖水流下ノ為メニスルモノナリヤハ事実問題ニ属シ本論旨ハ原院ノ事実認定ヲ批難スルニ過キス、又原判決事実ノ理理(ママ)中前後相齟齬スル点アルヲ見ス、同第四点ハ原院ハ「前記二ケ所ノ堰止ノ内西ノ口ハ土石ヲ以テ塡塞シテ堤防トナシ(中略)深良村外七ケ村ノ水利ヲ妨害シタリ」ト判決セラレタレトモ、西ノ口ヲ塡塞シテ堤防トナストキハ湖水ヲ多量ニ告訴村ニ流下セシムルノ結果ヲ生シ却テ被告村ニ流下スルコトヲ防止スルモノナレハ毫モ告訴村ノ水利ヲ妨害スベキモノニアラス、故ニ原判決カ湖(ニ)水ヲ多量ニ逆川筋ニ流下セシメ」云々ト謂フカ如キハ事理ヲ転倒シタル甚タシキモノニシテ、原判決ハ論理ヲ誤リ理由ヲ抵触シタモ不法ナルコト亦論ヲ俟タスト云フニ在レトモ、原院ハ被告カ西ノ口ヲ塡塞シタル所為ノミヲ以テ直チニ深良村外七ケ村ノ水利ヲ妨害シタルモノト為シタルニアラサルコト其判文ニ依リ明了(ママ)ナリ、本論旨モ亦謂レナシ同第五点ハ原院ハ「告訴村ハ寛文年度ニ於テ箱根湖水ノ使用権ヲ得」云々ト明示スレトモ其使用権ハ全湖水ヲ使用スルノ権ナルヤ否ヤヲ明カニセス、又告訴村ハ逆川口即チ被告村管内ニ堰留工事ヲ為シ天然ノ河流タル逆川即チ被告人ノ水利ヲ顧ミサルノ権利ヲ得タルヤ否ヤノ事実ヲ確定セスシテ(ニ)漫然堰留工事ハ告訴村ノ権利ヲ以テ設置シタルモノトス」ト判決セラレタルハ審理不備ノ判決ニシテ事実理由ヲ明示セサルノ不法ナリト云フニ在レトモ、深良村外七ケ村ハ駿津峠字四ツ止ニ隧道ヲ穿チテ水閘ヲ設ケ又逆川口ニ二ケ所ノ堰留ヲ設ケ以テ箱根湖水ヲ使用スルノ権ヲ得タルコト原判文ニ明示シアレハ所論ノ如キ理由不備ノ点アルニ非ス、同第六点ハ東西二ケ所ノ切口ハ早川筋ニ湖水ヲ流下セシムルモノナルノミナラス原判文ニ「早川沿岸ノ人民ニ於テ其河水需用ヲ増加シタルニヨリ」云々ト謂ヒ又湖(ニ)水ヲ多量ニ逆川筋ニ流下セシメ」云々ト謂ヘルヨリ見レハ原院ハ被告村ニ湖水使用ノ権アリシコトヲ認メ

タルモノヽ如シ、果シテ然ラハ河底ヲ浚渫スルハ当然ノ所為ナリ、所謂浚渫ナルモノハ従来存セル河底ヲ変セスシテ停滞物ヲ掃除スルノ意ナレハ之レカ為メ多少湖水引用ノ量ヲ増加スルニ是レ当然ノ権利ヲ全フセルモノニシテ之ヲ他ノ水利ヲ妨害スルモノト謂フヘカラス、然ルニ原院カ「河底ヲ浚渫シテ被告村ノ水利ヲ妨害スルモノト（告訴村ノ誤リナラン）（ニ）判決セラレタルハ罪トナラサル事実ニ向フテ刑ヲ適用セル不法アルヲ免カレスト云フニ在レトモ、原判文ニハ東ノ口ハ甲ラ伏ヲ破壊シテ之ヲ撤去シ且ツ河底ヲ浚渫シテ湖水ヲ多量ニ逆川筋ニ流下セシメ以テ深良村外七ケ村ノ水利ヲ妨害シタリトアリテ、是レ亦浚渫ノ一事ヲ以テ水利ヲ妨害シタルモノト為シモノニアラサルノミナラス、深良村カ其権利ヲ以テ建設シタル堰留ヲ撤去シタル上其河底ヲ浚渫シタルニ在レハ水利妨害ノ所為ナルコト瞭然ニシテ原判決ハ罪トナラサル事実ニ対シ刑ヲ適用シタル不法アルニ非ス、要スルニ本論旨ハ拡張第四点ト均シク原判文中ノ隻句ヲ抜キ来リテ漫ニ批難ヲ試ミルニ過キス、同第七点ハ岡崎正也ノ第二点ト同趣意ニ帰スルヲ以テ右説明ニヨリ了解スヘシ、同第八点ハ原判決ハ被告村ニ多量ノ水ヲ流下シテ告訴村ノ水利ヲ妨害スルモノト認メラレタレトモ多量ノ水ヲ引用スルハ被告ノ有スル権利ニシテ被告ハ又原院ニ於テ之ヲ主張セリ、然ルニ原判決ハ此所謂多量ノ水カ被告権利ニ属スルヤ否ヤヲ定メス漫然之ヲ告訴村ノ水利ヲ害スルモノトセラレタルハ事実理由ヲ明示セサルノ不法アリト信スト云フニ在レトモ、原判文ニハ既ニ説明セシ如ク深良村外七ケ村カ逆川口ニ堰止ヲ為スノ権利ヲ有スルコトヲ認メアル以上ハ被告等ニ其堰留ヲ撤去シテ在来以外ニ多量ノ水ヲ引用スルノ権ナキコト弁ヲ俟タスシテ明カナレハ原判文之ヲ特書スルノ要ナシ、本論旨モ其理由ナシ、同第九点ニ刑法ノ明文ヲ案スルニ堤防ノ決潰水閘ノ破壊ハ水利妨害ノ結果ヲ生セサルニ仍ホ此一事ヲ以テ犯罪ヲ構成スルモノニ似タリ、然レトモ決潰破壊ノ所為ナキ場合ニ於テハ他人ノ水利ヲ妨害セル事実ナケレハ之ヲ妨害罪トスルコトナキヤ明カナリ、

然ルニ原院カ告訴村ノ水利ヲ現実ニ妨害シタル事実ヲ認メスシテ漫然水利ヲ妨害セルモノトセラレタルハ判決ニ事実及理由ヲ明示セサルノ不法アリト云フニ在レトモ、湖水ノ落口ニ一種ノ堰留ヲ設ケテ湖水ノ流出ヲ支ヘ以テ他ノ水閘ヨリ引水スルノ構造ナルニ其堰留ヲ破壊シテ之ヲ撤去シ尚ホ且ツ其河底ヲ深クスルカ如キハ現実水利ニ妨害ヲ与フルモノナルコト勿論ナリ、原判決ハ事実ノ理由ニ不備アルコトナシ

私訴上告代理人江木衷カ拡張ノ第一ハ被告等ハ仙石原村外七ケ村ノ水利委員ナリ、故ニ一私人トシテハ犯罪ノ責アリトスルモ私権利ニ付責ヲ負フヘキ理由ナシト云フニ在レトモ、原判決ハ被告等三名共謀シテ原告カ其已得ノ権利ヲ以テ建設セシ堰留二ケ所ヲ破壊シタルコトヲ認メアルモ水利委員ノ資格ヲ以テ為シタル行為ナルコトヲ認メタルコトナシ、要スルニ本論旨ハ原判決認定以外ノ事実ヲ提出シテ原判決ヲ非難スルニ過キスシテ上告ノ理由ナシ、同第二ハ原判決ハ私訴ニ付公訴判決ニ示シタル証拠ヲ引用セラレタレトモ苟シクモ私訴タル以上ハ一ノ民事上ノ請求ナルヲ以テ民事訴訟法ニ従ハサルヘカラス、然ルニ原院ハ本件ヲ決スルニ必要ナル実地臨検ノ申請ヲ斥ケ且ツ被告ヨリ提出シタル各書類ニ付何等ノ説明ヲ与ヘサルハ不当ナリト云フニ在レトモ、私訴ノ審判ハ刑事訴訟法中特ニ規定アルモノヽ外民事訴訟法ニ拠ルヘキモノニアラス、又原判決ニハ其事実ヲ認定シタル証憑ヲ明示シアレハ此他ニ被告提出ノ証拠ヲ排斥シタル理由ヲ説明スルコトヲ要セス、又臨検申請ヲ不必要ナリトシテ却ケタルコトノ不法ニアラサルコトハ公訴上告拡張第一点ノ説明ニ依リ了解スヘシ

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五条ニ従ヒ本案公訴私訴ノ二告ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴裁判費用ハ上告人ノ負担トス

明治三十一年一月二十一日大審院第一部公廷ニ於テ検事岩田武儀立会宣告ス

裁判長判事　原田種成

判事　筧　元忠
同　永井岩之丞
同　川目亨一
同　亀山貞義
同　伊藤悌治
同　十時三郎
書記　加藤誠樹囧

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三四　明治三一年三月　逆川事件顚末記録（一八九八）

事件ニ関スル顚末

一明治二十九年五月一日附ヲ以テ沼津警察署長井上善一殿ヘ該事件ノ告訴状ヲ呈出シタルニ署長ハ直チニ静岡県庁ヲ経テ訴状ヲ横浜地方裁判所ヘ送附セラレタリ、惣代人三名ハ同月十一日横浜地方裁判所検事局ニ出頭シ検事正奥宮正治殿ニ面謁ヲ乞ヒ事件ノ大要ヲ述ヘ是ヨリ追々該件ニ関スル証拠書類及逆川口工事破壊ノ箇所修理ニ要スル私訴状ヲ作リ六月十七日ニ提出セシニ、（被告三名ハ拘留セラル）漸クニシテ八月廿二日公判開廷セル旨通知アリタルニ被告等ノ願ニヨリ九月廿四日マテ延期トナリ、同日ニ至リ被告勝又澤次郎病気ノタメ願ニヨリ又三週間延期セラル、十一月廿六日開廷セシニ被告ノ願ニヨリ十二月一日逆川破壊ノ箇所実地検分ノ許可セラレ同日ニハ予審判事丸山精三殿及書記石神鉄之助・検事宮越信次殿外証人等立会実地ニ臨検セラレ双方ノ取調ヲナシタリ、同十一日開廷アリ、同十六日開廷被告ハ無罪ニシテ私訴ハ共ニ却下ストノ判決ナリ、然ルヲ宮越検事ハ之ヲ不当ノ言渡ナリトテ同十二月廿六日東京控訴院ヘ控訴セラル随テ附対（ママ）ノ私訴モ共ニ控訴セリ、同三十年三月廿二日控訴院ニ於テ開廷アリ、双方取調ヲ受ケ同三十一日前裁判ノ通ナル旨言渡シアリ、然ルヲ控訴院検事小宮三保松殿ハ之ヲ不当ナリトテ直ニ大審院ヘ上告セラル、大審院ニ於テハ同六月十日開廷ノ処被告等ヨリ延期ノ願出アリ、同院ニ於テハ惣審判ノ

結果七月八日開廷セラレ該件ハ全部ヲ破毀シ更ニ審判セラルヽタメ名古屋控訴院ヘ移送セラルヽ旨言渡シアリ、同十月十八日名古屋控訴院ニ於テ開廷双方取調昇テ同月廿日ヲ以テ被告三名ハ有罪ニシテ原告カ請求セル妨害ニ係ル修繕費及訴訟費用ハ被告ニ於テ負担スヘシトノ判決セラレタリ、被告等ハ之ヲ不当ナリトテ直ニ大審院ヘ上告セラル、同院ニ於テハ同十二月十日開廷ノ処被告等ノ願ニヨリ延期セラレ明治三十一年一月十八日開廷双方取調アリ、同二十一日大審院第一部公廷ニ於テ検事岩田武儀立会ニテ公訴私訴共之ヲ棄却ス、私訴裁判ノ費用ハ上告人ノ負担トストノ宣告セラレタリ、依之全ク駿東郡用水組合ノ勝訴トナリ、之レ実ニ官公明盛(ママ)大ノ御処分ナリト信ス、組合有志者ハ其判決文ヲ印刷シ頒タンコトヲ望マル、依テ茲ニ水利権ノ沿革ト告訴状等ヲ纏メタリト雖トモ証拠書類等ハ多数ナルニ付之ヲ省キ尚裁判ノ順序等ヲ記スルノミ

明治三十一年三月　　小林由太郎誌

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三五　明治三一年（一八九八）九月二四日　逆川事件調停案

調停委員　駿河国駿東郡富岡村（判）
大字御宿
湯山半七郎

静岡県駿東郡深良村・富士岡村・富岡村・小泉村・泉村・長泉村・清水村ノ七ケ村ハ寛文六年中官ノ許可ヲ得テ相模国足柄下郡箱根芦湖水ヲ以テ田地灌概疏通ノ為メ相駿国境駿河津峠隧道（長七百三十間）開穿、已来既ニ弐百三拾有余年間当組合ニ於テ独得ノ権利ヲ以テ使用仕来リシニ其間他ニ一ノ故障之レナカリキ、然ルニ治世ノ変遷社界ノ進歩ニ伴ヒ水利ノ貴重ナルコトヲ感シ去ル明治廿六年以来仙石原村外七ケ町村トノ間ニ屢々葛藤相生ジ終ニ法庭ヲ煩ハスノ不幸ニ立至リシ、以来幸ニ富田鉄之助君ヲシテ両者ノ為メ調停ノ労ヲ執ラレンコトヲ甘諾セラレ本年三月弐日付ヲ以テ該御意見書還符セラレタリ、依テ当

組合ハ数回協議ヲ遂ゲ御意見書ノ旨趣ヲ敬承(ママ)シ神奈川県足柄下郡仙石原村外七ヶ町村トノ間ニ以下数条ノ制限条件ヲ定メ契約ヲ締結セラレンコトヲ希望ス

第一条　富田鉄之助君ノ調停意見書中第二按ノ第一方法・第二方法共同時ニ該工事ヲ施行スル事

第二条　前条第一方法即現今ノ字四ツ留ノ水門ヲ改造シ水門口際ヨリ隧道下流口迄ノ間其水底ヲ三尺以上低下スル事

第二方法即現今ノ貯水最高点ヨリ上尚弐尺ノ貯水ヲ増サシムル為メ湖岸必要ノ個所ヘ高サ弐尺以上ノ提防又ハ防波石垣ヲ築造スル事

第三条　深良村外六ヶ村ヘ引用スベキ水路及水門ハ従前ノ通幅員拾弐尺トシ其勾配等ニ於テハ水流支持ナキ様施行スベキ事

第四条　仙石原村外七ヶ町村ヘ引用スベキ水門ノ位置ハ現今ノ字逆川口トス

水門通水ノ幅員ハ駿東郡ヘ引用ノ字四ツ留水門ノ拾分ノ一ニ築造スベキ事

水路ノ幅員ハ曲尺壱尺弐寸ニシテ其勾配及下流ヘノ延長并ニ水底等ハ駿東郡ヘ引用ノ水路ト同一タルベキ事

字逆川口水門外湖水引入ノ水底ハ該水門ト地盤ヲ平均シ湖面ニ達スル処迄開穿シ其幅員ヲ壱尺弐寸ト定メ、両側ヘ高サ貯水ノ最高水平面ニ準シ堅牢ナル石垣ヲ築造スル事

双方水門及水路底ノ高低ハ均一ニシテ其標準ハ水平面ニ依ル可キ事

第五条　流通スヘキ水量ハ深良村外六ヶ村ヘ引用スヘキ水量拾分ノ壱ヲ仙石原村外七ヶ町村ヘ字逆川口ヨリ分与流下セシムル事

第六条　水門并ニ水路其他緊要ナル個所ノハ総テ焼瓦又ハ硬石ヲ以テ築造シ其切合セ口ハ「セメンド」ヲ以テ密着セシムル事

第七条　本契約ニ係ル工事施行ニ付テハ相当ナル技師ヲ

聘用シ該設計方并工事上管理セシムル事

本工事ハ公ノ入札又ハ特別方法ヲ以テ施行セシムル事

工事中ハ双方各弐名以内ノ委員ヲ選出シ時々工場ヲ巡視セシムル事

委員ハ関係町村内ニ数年在住スル本籍者ニシテ湖水掛リ田地数町歩ノ所有者ヲ選出スベキ事

但当組合関係村長ハ工事上ノ監督ヲ為スベキ事

第八条　両組合双方ハ毎年十一月一日ヨリ翌年四月末日迄ヲ貯水期ト定メ本期間深良村外六ケ村ノ飲料用水トシテ四十立方尺以内仙石原村外七ケ町村へ四立方尺以内ノ水量ノ外流出使用セシメザル事

第九条　貯水期間ハ双方共水門ニ堅牢ナル錠ヲ以テ閉鎖シ前条期定水量ノ外通水使用ヲ禁ズル事

第拾条　両水門取締ノ為メ常ニ壱名ノ取締人ヲ置キ毎年五月一日ヨリ湖水入用ノ季節ニ至レバ其需用ニ応ジ水門ノ開閉及之レカ取締方一切ノ事ヲ掌ラシムル事

但取締人ハ深良村外六ケ村ニ於テ任免ス

第拾壱条　田地用水期間ハ両組合ニ於テ所要水量ノ緩急ニ応ジ時々水門ノ開閉ヲナサシムルト雖トモ、強雨其他ノ為メ多量ノ湖水ヲ要セサルトキハ流失水量ヲ減少スル等務メテ湖水使用ノ節約ヲ計ルベキ事

第拾弐条　前条所要ノ水量ハ時々水門ヲ開閉使用シ得ルト雖トモ仙石原村外七ケ町村ニ於テハ第五条ノ制限ヲ超ルコトヲ得ズ

第拾三条　非常用排水ノ為メ従前ノ通リ第四条ノ字逆川口水門ト平列シ第二条第二項ノ最高水平面ヲ底度ト定メ凡ソ幅拾五尺長十八尺ノ間甲ラ伏セ（蒲鉾形）ヲ築造スベキ事

第拾四条　芦湖水及両水門等ニ関スル権利義務ハ総テ従前ノ通リ深良村外六ケ村ニ専属スルモノトス

第拾五条　将来如何ナル渡世ノ変遷又ハ土地開墾其他ノ為メ湖水ヲ多量ニ使用ノ必要相生ズルコトアリト雖トモ本契約第五条ノ制限ヲ変更セザル事

第拾六条　本契約書取ノ上ハ湖水地元町村及御料局其他

関係ヲ有スル処ノ諸官省等ニ対シ、本工事ニ就テハ勿論将来修繕等ノ場合ニ於テモ故障無之旨見本契約謄本ヲ作リ双方連印ヲ以テ夫ニ差出シ置ベキ事

第拾七条　本契約ニ係ル工事ヲ第七条ニヨリ特別方法（最モ信用アル会社其他）ヲ以テ施行方特約シタル上ハ之ニ専任スル事

但工事竣成期限ヲ本年十月ヨリ来明治三十四年九月迄満三ヶ年トス

第拾八条　工事落成ノ上湖水門ヨリ数百間下流ノ地ニ於テ期定水量ノ一範囲内ヲ使用シ或ル事業ヲ起シ又ハ他ノ法人若シクハ個人ト之レガ契約ヲ為シ事業ヲ経営セシムル等双方異議ナキモノトス

第拾九条　第二条以下本工事施行方ハ最初ニ字四ツ留水門及水底掘下ケニ着手シ該工事成工（ママ）ノ渡ニ於テ字逆川口水門及水路等ニ着手スベキ事

第弐拾条　本契約ニ係ル全体ノ工事成工（ママ）ノ上ハ第五条ノ制限ニ依リ仙石原村外七ヶ町村へ水量分与ノ事

第弐拾壱条　第拾七条ニ基キ契約締結之上ハ当組合ヨリ仙石原村外七ヶ町村へ告知スベキ事

両組合ハ管理者更迭ノ都度相互該氏名ヲ報告スベキ事

第弐拾弐条　前条工事施行者ヲシテ若シ天災地変其他或ル事情之為メ期限中成工（ママ）シ能ハサル事故生シタルトキハ更ニ期限ヲ定メ延期又ハ契約解除深良村外六ケ村当組合ノ随意タルベキ事

契約解除ニ際シテハ仙石原村外七ヶ町村へ通知ヲ為スト同時ニ本契約ハ総テ無効タルベキ事

罰則

第廿三条　左ノ行為アリタルトキ二ヶ年以内水門ヲ閉鎖シ水量使用ヲ禁ス、其行為仙石原村外七ヶ町村ノ人民ニシテ再三犯シタルトキハ其組合員ト否トニ不拘逆川口水門永久遮時スルコトアルベシ

工事中技師又ハ監督人等ニ対シ暴行又ハ脅迫シタルトキ出張又ハ間接ニ判答ヲ探ル目的ノ為メ人ヲ殺傷スル

ニ足ルヘキ物品ヲ携帯シ工場ニ立入或ハ其附近ニ於テ脅迫ノ挙動ヲホシタルモノ

自己ノ判答之為メ工事中当該委員又ハ水門取締人ニ対シ金銭物品酒食遊覧等其方法及名義ノ何タルヲ問ハス授受饗応接待等ヲ為シタルモノ

本工事落成以後窃ニ仙石原村外七ヶ村ニ於テ湖水ヲ増引シ又ハ水路及水門等ヘ暴行ヲ加ヘタルモノ

工事ニ対シ往来ノ便ヲ妨ケ又ハ工事上妨害トナルヘキ行為ヲ成シタルトキ

附　則

本契約締結ニ際シ前条ノ外仙石原村外七ヶ町村トノ間ニ於テ交渉シ結果将来不用ト見認メル事項ハ号ヲ本契約中ニ挿入スヘキ事

明治三拾壱年戊戌九月弐拾四日

（判）
駿河国駿東郡富岡村
大字御宿
湯山半七郎

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三六　明治三六年九月九日（一九〇三）　芦湖紛議調停につきて

（表紙）

（判）
駿河国駿東郡富岡村
大字御宿
湯山半七郎

芦湖紛議調停につきて

福島甲子三

玉くしげ箱根の湖は、たゞに風景のすぐれたるをもて貴としとするにはあらず。誠や神のたまひし幸の源富の基にして、かの寛文の昔、友野氏ら四氏この源を尋ねて、その恵を汲まんと計りける業成りて以来、裾わの千町田実りゆたかに、茲に二百四十年、其恵にあづかれるこそこよなき宝なりけれ。あはれ神の恵はとこしへに尽る事なからんを、苗代水のひき〳〵に先つ年より駿河と相模

との人たち、相争ひて果は公に訴へ、上をさへ煩はしまつりつ。かく恨を結びて年久しくなりぬれど、其いさかひいつはつべくもあらざりしを、そを憂ふる人々、富田先生にこひて後事を計りたりき。されば富田先生はいたく力を尽して、人々らの心を空しうせじと、あるは山に上りて其源を尋ね、あるは流にそひて其利を考へ、西尾工学士の力をかりて、水の量田の形をはかり、精密残す所なし。かくてやう〳〵結ばれ(ママ)たる恨のもとをも伺ひ知りて、今や相隣れる国人どち争ふべき時ならず、人々此湖の清き心に習へかしと、懇に示されけるが、さても猶打解がたくて、既に六年に亘りぬ。しかはあれど今や時来りて、今日しも朝野の名士、はる〴〵相集ひて早川の流清き塔の沢なる環翠楼のうちに、箱根神社の遥拝所を設け、神官を招待して、これより後永久にむつびなん事を神の御前に誓ひ、此調停式を挙げぬるこそ、いとも〳〵嬉しけれ。今よりは千町田の潤ほひ致らぬ隈なく、又そを利用すべき道も出で来て、益々幸の源富の基をひらくなるべし。さるにても富田先生の心尽し、はた其徳はとこしへに伝へて忘るべきにあらねば、おのれ事のはじめよりたづさはりしちなみにより、富田先生のものせられし調停書と、西尾工学士のしるされし説明書とをすり巻として、人々に頒つにあたり、聊かおもふ所をかくなむ。

明治三十六年九月九日

福島甲子三

調停意見書

静岡県駿東郡深良村外六ヶ村水利組合
神奈川県足柄下郡仙石原村外七箇村早川水利組合

各位

各位は箱根用水に関する両組合間の紛議に就き昨年十二月中之れか調停を不肖鉄之助に依頼せられたり、不肖素とより此の重任に当るの器に非ざるを知る然れども該水利の葛藤たる明治二十六年以来結んで解けざること茲に

幾んと六ケ年終に法庭を煩はすの不幸を見るに至る両組合各位の痛心寔に察すべきなり、惟ふに訟事終るの後と雖も両者の感情果して能く相融和するを得べきや否や頗る懸念に堪へざる所とす、左れば両組合各位に於て今回不肖に之れが調停を依頼せられたるも全く此の紛争を根本より除却し以て温乎たる旧情に復せんとの美意に出でたるものと信ず、是れ蓋し数年結んで解けざる葛藤も今や陽和に伴ひ漸く氷解するの時季に近きたるを知る、余が不肖を顧みず両組合各位の依頼を甘諾し卑見を開陳して之れが調停を試みる所以なり、幸に両組合各位の聴く所となるを得ば余の光栄之に過ぎざるなり

昨冬調停の依頼を受けてより箱根湖用水に関する寛文以来の旧記を攻究し兼て紛議の顚末を調査したる上、躬親から箱根湖に到り水門口と早川堤防甲ら伏等とを実険し併て湖中の水量及び雨量に因りて生ずべき増減又は元箱根村より箱根町沿岸の延長高低に至るまで親しく之れが踏査を了したり、依て今之を両組合が数年来論争する要点に照して審案するに誠に遺憾に堪へざるものあり、其の故は一も実数上より余義なく生じたる紛議とは認め難き観あればなり、之を要するに一方の主張する所は只供用の水量に不足を告げんことを杞憂するに止り又他の一方の主張する所は我郡内の湖水而かも直接の利用を要するにも関はらず一方が漫りに旧慣を墨守して之れが分水を拒絶するは甚だ謂はれなしと言ふに在りて、双方共に湖水の水量及び分水の多寡に就き精密なる統計に準拠して論議するに非ずして空しく之れが当否を抗争するに過ぎざるものゝ如し、是れ余が遺憾に堪へずと云ふ所以なり蓋し如此は両組合に於て其の協合を缺き情達せず意通ぜざるの結果知らず識らず感情的の紛争に陥りたるものと想像せざるを得ざるなり、抑も深山高嶽の間に於て弐百拾万余坪而かも清浄無比の湖水にして之を其の沿岸町村に利用するに於ては千有余丁歩の田園にも灌漑するに足るべし、如斯貴重なる恩沢を垂るゝ芦の湖の如きは実に天然の一大宝庫と謂ふべきなり、而して之れが一大宝

庫たることを寛文年間に於て発見し千仞の山腹を開鑿し又隧道を開設したる友野與右衛門・長濱半兵衛・尼崎嘉右衛門・浅井治郎兵衛等四氏の遺業は決して忘る可からざるのみならず洵に偉大の功績として深く謝せざる可らず、亦之を継承して其の恵に浴する深良村外各村の諸氏は之れが引用及び治水の方法に就ては最も注意せざる可らさる任務を有すと謂はざる可らざるなり

何をか引用及び治水の方法と云ふ、友野氏等が前項の如き偉業を後世に遺したるの精神を継承し、益進んで水門の構造及び堤防水路溝渠等を改造し且つ修繕を厳にして堅く漏水を禁じ貯水に注意して常に早魃に備へ若し水量に余りあれば、新田開墾の用に供する等凡て遺憾なからんことを勉むる是れなり

然るに今日の現状果して如何ん、貴重なる水量を徒らに漏洩し去るの跡なきか、若し有之とすれば友野氏等の遺業に対し慙愧の次第と謂はざるを得ず、而して夏季偶々旱天に遭際する時は忽ち水量に不足を告げ周章狼狽同郷の親故互に相反目して引水を争ふの状往々にして之れあるにあらずや、夫れ弐百三拾余年以前友野氏等起業の当時と今日とに於て湖面の水量に著しき涸渇あるを聞かず唯平時護、水の法其の宜しきを得ざるが為め之れが不足を告ぐるの不幸を見るに至る豈深く察せずして可ならんや

又他の一方に於ても然りとす、若し湖水を引用して開拓灌漑の用に供せんと欲せば先づ其の灌漑水量と引用季節とを定め且つ之に必要なる一切の計書を備へ先用者に協議して以て之れが同意を求むるを第一の用意とすべし、若し然かせざらんか徒らに先用者に疑懼の念を起さしめ其局終に好結果を得ざるべきは勿論仮令如何なる必要あるも先用者の供用する水量を減殺して之れが分水を望む能はざることは賭易き道理なりとす、然るに事爰に出でず単に官庁の力にのみ之れ依頼するとせは良し其の許可を得ることありとするも苦情百出永く葛藤を招くの種子となるべきは疑を容れざるなり、況んや先用者の同意な

くして其の筋の許可を得らるべきや否や疑の存するものあるに於てをや

以上開陳したる事情に照査し茲に不肖が両組合各位に向て調停の要件を提供すること左の如し

一早川口に一の水門を新設し深良引用水の一割を分水せしむる事

一両組合間に規約を設け相互篤実に之を遵守すべき事、前顕の如く早川口に一の水門を新設せしむるの極めて妥当なることを信ずる所以のものは湖水の水量を両端に分水せしむるも決して引用に不足を告けざること、別冊説明書に記するが如きものあるに因る、而して此の説明書は湖水の水量灌漑の程度雨量の統計等に照査測定したるものにして、工学士西尾虎太郎氏をして編製せしめたるものに係り都て学理と実数とに依りたるものなれば決して杜撰ならざるを信ず、願くは各位に於て従来の実験に対照し果して誤謬なきやを了知せられんことを該説明書を分つて第一按・第二按とせり、第一按は現在の水量を以て深良口と早川口とに灌漑し及び貯水するの方法にして要は今一水門を新設するも其の水量に不足を告ぐることなしと云ふに在り、又第二按は非常旱魃の際に処する準備設計にして之を第一方法と第二方法との二段に分てり蓋し共に新設の法案なり

惟ふに両組合協同熟議の上第一按若くは第二按孰つれを実施して之れが灌漑を計るも、水門堤防溝渠等に充分慎重の注意を加へ之れが漏洩を予防して無用に放水せしめざることに勉むべきは勿論、其の水門現場に水配人を常住せしめ且つ水量標及び雨量器を設置し以て其の配水の分量又は貯水の季節を過まらざらんが為め該水配人をして常に之れが測量に従事せしむるを要す、而して其の水配人の給料及び雑費等は配水の分量に準し両組合より出金することゝ為す可し、又本按を実施する場合に於ては御料局及び地方官庁へ請願並に関係町村に協議を要すべきは勿論なれども、而かも此の設計方法たる湖面に異状を呈せず亦風致を損するが如き虞なきを以て許可を得る

の決して難からざるを信ずるなり

早川口に一水門の新設を勧告するに当て深良村外六箇村水利組合各位に対し特に一言すべきことあり、蓋し此の勧告たるや決して鉄之助の私見に非ず、友野氏等をして今日に在らしめば亦必らず両組合をして共に芦湖の恵沢に浴せしめんことの挙を賛成すべきや疑を容れずと云ふこと是れなり、何を以て之を言ふ乎、昔時同氏等が当時の政府に提出したる書類に徴して之を視れば其の目的専ら荒蕪を開拓して広く国益を起さんとするの精神に出でたること誠に明瞭なればなり、思ふに各位も亦此の精神に則らんとするの企望は業已に之れあらんも只深良口引用水に不足を告げんことを恐れて之れが決行を躊躇せられしものならん、然るに今や水量の計算に於て早川口に一割の水量を分水せしむるも従来各位の供用したる水利に影響する所なきは別冊説明書に記するが如くなるを以て各位の杞憂も亦自から氷解すべきを信ずるなり

又転じて早川水利組合各位に一言す、各位は早川口に一水門を新設し深良口引用水の一割を分水するを以て或は不足なりと言はんか、今別冊説明書に就て之を見れば其の水量に尚ほ多少の余分ありと雖も新たに開鑿疏通を設計するに当ては努めて失計なからんことを期せざる可からず、而して該説明書に於ける稲田灌漑に要する水量は駿東郡の地質に就て起算したるものなれども若し之を早川沿岸の地質に対せば或は其の二倍の稲田灌漑に充つるも可ならんか、殊に深良口は隧道を下り各所の水路溝渠に分岐して田面に灌くものなれば其の流域延長の間に蒸発し若くは吸収せられ又は漏水等にて頗る減量するを以て之を早川沿岸に灌漑するものと相比すべくもあらず、実に早川口は其の地勢上分水の割合に対する効用は極めて多かる可しと信ず是れ余が深良口水量の一割分水せしむるを以て適当なりと断定したる所以なり

終に臨み所謂天然の宝庫に就て尚ほ一言せん、各位も知らるゝ如く此の芦の湖は昔時は箱根神社の所領にして今は御料地たり、而して神社に属するも又御料地たるも臣

民より尊崇する点に於ては依然として渝らさるのみならず斯の如き湖水を引用するに旧時と今日とに寸毫の影響だも之れなきは実に無量の幸福と謂ふ可し、今此の幸福の幾部を他に分つて共に倶に其の恵沢に浴するを得るに至らは真に是れ人生の一大快事ならずや

若し夫れ各位に於て別冊説明書を審案して其の実数を識認し且つ之を本書に概陳したる卑見に対照して不肖か微意の存する所を諒察し、而して果して不肖と同感ならんには請ふ両組合各位相提携して芦湖々上箱根神社に詣ふて春風駘蕩たる祠前に於て調停融和の実を表されんことを、是れ独り不肖の栄誉のみならず所謂中和本を務むるものと思惟するなり、言疎にして敬意を欠き意溢れて言尽さゞるを恐る各位乞ふ之を恕せよ不宣

明治三十一年三月三日

富田鉄之助

説明書

第一按　現在水量の灌漑方法

一学術上所要水量に依り計算すれば左の如し

一深良口灌漑

此田地反別五百二十五町歩

稲田灌漑に要する水量は百町歩に付一秒時間七立方尺即ち一昼夜に田面上に更新すべき水層の厚五分六厘なれば新開田地に於けるも充分なりとす、故に本項田地灌漑用として一秒時間に三拾六立方尺七五を要す此四箇月間即ち百二十二日間に要する水量は三億八千七百三拾七万四千四百立方尺となる

一早川口灌漑

深良口灌漑用水の拾分の一とすれば百二十二日間に要する水量は三千八百七十三万七千四百四十立方尺にして五十二町五反歩に灌漑するに充分なりとす

一深良口及び早川口両水量の合計は一秒時間に四十立方尺四二五にして此百二十二日間のもの四億二千六

百十一万千八百四十立方尺なり、之を芦の湖に貯水すれば其水深は現今の水門底より上五尺六寸七分までにて足れりとす、然るに現今貯水し得べき高さは水門底より上七尺なれば尚余す所一尺三寸三分とす、故に余す所の水量九千九百九十六万二千八百立方尺を八箇月間即ち二百四十三日間に流出せしむるものとすれば一秒時間に四立方尺七六となる、若し之を飲料の用に供すれば裕に十万の人口に給するに足るものとす

一　今一箇年の降雨量によりて芦の湖に集合すべき水量を概算するに湖面に於て蒸発すべき者を除くも降雨最少量の年と雖も尚水深十一尺余にして、最多量の年の如きは其二倍に達することあり、故に現今貯水し得へき水量の二倍を年々使用し得べきこと決して疑なきものとす、即ち芦の湖の豊富なる所以なり

一　現在使用水量に依て計算すれば左の如し

一従来深良口に於て湖水より引用する灌漑水量を調査するに前述計算水量の殆んど二倍に近きものゝ如し、依て其理由を考ふるに(一)水門より適度の水量を流出せしむること難きか為め過量の水を流下せしむること、(二)用水路の延長大にして且其構造不完全なる箇所あるが為め水の漏洩多量なること、(三)配水方法完全ならざるが為め猥りに貴重の水を遺失するものあること、(四)田地火山質なるが為め水を吸収すること非常に多量なるやも計り難し

以上の理由によりて深良口に於ては前計算水量の二倍を要するものとすれば其一割の水を以て早川口に於ては百町歩余の新田に灌漑することを得べき理なり

一　深良口灌漑水量は学術上所要量の二倍即ち一秒時間に七十三立方尺五とし其一割即ち一秒時間七立方尺三五を早川口に分水するものとすれば合計一秒時間に八十立方尺八五にして此四箇月間即ち百二十二日

間の水量は八億五千二百二十二万三千六百八十立方尺なり、之を芦の湖に貯水すれば水深十一尺三寸四分となる、然るに夏季四箇月間に於ける降雨中芦の湖に集合すべきものは平均七尺二寸七分五里にして最旱魃の年と雖も三尺六寸一分を下らず、故に五月末日に於て水門底上七尺七寸三分の貯水あるに於ては灌漑用水に不足を告ぐるの虞なきのみならず、平年に於ては残る八箇月間即ち二百四十三日間一秒時間に平均二十一立方尺〇六を芦の湖より流出せしめ得へき計算なり、之を深良口及び早川口に於て十と一との割合に分水するときは深良口は一秒時間十九立方尺一四にして早川口は一立方尺九二となる

以上の如く学術上幷に実際上灌漑用水量を調査し尚芦の湖貯水量に依りて計算するに早川口に於て深良口水量の一割を分水するも決して水量に不足を告ぐるの虞なしとす、而して此分水を為すに於ては左の数項に注意するを要す

一　現今の深良口水門及築堤を調査するに頗る不完全なりとす、何となれば水門の開閉方法不便なるが為め一定の水量を流出せしむること能はざるのみならず適宜に流出水量を増減すること能はず、又築堤粗雑にして常に漏水すること夥く為めに貴重なる貯水を無益に放流すること極めて多量なるを以て此等は漸次改良を要すべきものとす

現今早川口築堤に於ても亦同様にして漏水あるを以て之に水門を設置し分水する場合に於ては漏水を防遏すること必要なりとす

一　両水門より分水して両県下に湖水を使用するに至れば常に一定の割合を以て水を流出せしむるを要す

一　右分水に付ては一人の水配人を常住せしめて水門の開閉を掌らしむべし

一　水配人の選択は両水利組合の協議に依るものとす

一　水配人の給料及び之に要する諸雑費は各使用の水量に応じ両組合より支弁するものとす

第二案　非常灌漑の準備

第一案は沼津町に於ける十五箇年間観測の降雨量を基礎とし計算したるものなれども非常なる旱魃なきにしもあらず、或は現今のものよりも田町歩を増加し為めに新に分水の必要を生ずることなきを保せず、故に此等準備に対する意見を便宜の為め左の二方法に分かてり

第二案　第一方法

一旱魃の準備としては降雨多量の年に於て貯水せるものを非常旱魃の年に於て流出せしむるものなれば現今の水門を改築して其底を三尺低下せしめ以て其貯水を流出せしむるにあり

一若し旱魃の際現今水門底より三尺湖水面を低下せしむるも湖岸を露出せしむること多き所と雖も僅に数間を増すに過ぎす、故に風致を害するの虞なきを以て御料局に出願し且沿岸人民に協議し其期節に限り湖水面を低下せしむるの許諾を得ること難からずと信ず

一水門底を三尺低下せしむるが為め新に貯水し得べき水量は二億二千五百四十八万立方尺にして之を四箇月間即ち百二十二日間に流出せしむるときは一秒時間に二十一立方尺三九となる

第二按　第二方法

一多額の工費を投せずして第一方法と同じく貯水を増加せんと欲せば現今の貯水高より上尚二尺の貯水を為すべし、然るときは箱根駅及び元箱根村湖岸所々に於て風波の際水害の虞あるを以て此等の箇所に於ては高二三尺の防波石垣を築造すべし

一非常大雨の際に於ては尚水面を昇騰せしむるの虞あるを以て従前の如く早川口に於て溢流口を設置すること必要なりとす

一此方法に依て増加し得べき貯水量は一億五千〇三十二万立方尺にして之を四箇月間即ち百二十二日間に流出せしむるときは一秒時間に十四立方二六となる

此の如くなるを以て後段二方法を採用せば水深五尺を増

加し総貯水高十二尺となるを以て如何なる旱魃の年と雖も灌漑水量に不足を告ぐるの虞なしとす、而して第一方法は水門改築の際施工するを得策とし第二方法は必要の場合何時たりとも施工するに妨けなしとす

右は御高按に基き実地臨検の上調製したるもの也

明治三十一年一月調査

工学士　西尾虎太郎

富田鉄之助殿

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三七　（一九〇三）（明治三六年九月）　逆川事件和解式次第書

水利両組合和解式次第書

第一、神官、儀式掛ハ箱根神社ノ祭壇及式場ノ布設ヲ作ス

第二、儀式掛ハ調停者富田鉄之助氏両組合管理者須永傳蔵・稲葉正経・加藤定通・服部大輔（年齢順）・知事其他ノ来賓以下ヲ式場ニ導キ衆員着席ス

第三、神官奉典ヲ執行シ祝詞ヲ奉読ス

第四、調停者両組合管理者神壇ニ進ミ各玉串ヲ捧げ神盃ヲ受ク

第五、知事及ヒ来賓、両組合員等着席ノマヽ順次ニ神盃ヲ受ク

第六、両組合管理者進ンデ調停応諾ノ主旨ヲ衆員ニ宣告シ和解誓約書（感謝状）ヲ調停者富田鉄之助氏ニ交付ス、富田氏之ヲ宣告シ祝辞ヲ朗読ス、次ニ福島甲子三氏祝辞ヲ陳ブ

第七、衆員拍手、両組合管理者ノ発声ニ従ヒテ水利両組合万歳ヲ一唱ス

第八、友野氏等ノ霊前ニ於テ神官祭儀ヲ行ヒ調停者両組合管理者玉串ヲ献シテ和解ノ要旨ヲ告グ

第九、知事来賓組合員等ノ祝文詞読、演説

第十、両組合管理者誓辞ヲ陳ブ

第十一、衆員拍手起立組合万歳ヲ三唱ス

以上式竟

午後五時ヨリ懇親会

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

第三節　生活と産業

三八　明治二一年（一八八八）八月三日　御宿村湯山半七郎水車建設願

水車建設願

駿東郡御宿村弐拾壱番地

湯山半七郎

駿東郡御宿村之内

三百七番　一宅地反別五反弐畝歩

字宿頭

内水車宅地反別拾五歩　挽臼壱台　春臼四台

右者今般拙者宅地之内へ新規水車建設営業仕度、尤モ該用水之関係地持且ツ水上・水下共一同協議ヲ遂ケ水害故障等無之候、依テ別紙図面相添保証人連署此段奉願候也

明治弐拾壱年七月三十日

右願人

湯山半七郎㊞

水上保証人　中川庄平㊞

水下保証人　西川清次郎㊞

静岡県駿東郡長心得同郡書記　河目俊宗殿

前書之通相違無之候也

明治廿一年七月三十一日

静岡県駿東郡御宿村外十ケ村

戸長　芹沢孝三

（朱書）「一第一四六三号ノ一

願之趣聞届ク

印　明治廿一年八月三日

静岡県駿東郡長心得駿東郡書記　河目俊宗印」

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三九　明治二四年一月　上郷水配取扱人函根湖用水分水日誌

（表紙）

明治廿四年一月　廿五年至十二月
廿六年分記載ス
函根湖用水分水日誌
井組上郷水配取扱人
柏木新七郎

一月十二日
逆川〆切約定書為取替引継之件ニ付佐野市川や参会
五月三日より四日迄
湖表普請所出来見分、小泉村長水配木村周平ヲ除ノ外不残登山、新溜青木方へ一泊ス
六月十日
壱番ノ祓ニ付豊後堰より千福堰迄分水
六月十三日　分水壱人
同十五日　六月十四日分水壱人
上戸祓払ニ付湖水登山、下郷木村同道みし（御宿）久古堰而同氏ニ分ル
六月廿五日
洪水ニ付新川通リ見廻リ、字駒形橋下石垣破損所アリ、是ハス釜（須釜）勝又佐七より小見山へ通知、同日深（深良）らより戸指ニ人足弐人ヲ遣ス、中戸ヲウツ
同七日
初分水之件照会之者小見山氏江八木源七ヲ特使
八月廿一日
湖表水門甲蓋改築等之儀ニ付市川竹四郎方集会
八月廿二日夜より同廿三日迄
洪水ニ付新川通リ堤防見廻リ出頭
廿五年一月十二日
逆川〆切約定引継之儀ニ付参会
金弐拾銭

廿五年五月廿九日新川筋苅払
金三拾銭才領
杉山角平
秋山新次郎
柏木新七郎
上郷人足壱人
杉本忠吉
外　中下郷

同七月七日村長代理ニ而湖水登山
金五拾銭
同七月廿三日雨水ニ付新川通リ見廻リ
金弐拾銭
同　同　小見山久三郎へ小前壱人
金四銭
同　廿四日湖表水門大破之趣報知有之ニ付登山
金五拾銭
同断ニ付杉本忠吉壱人
金弐拾五銭

一年内事務取扱費
金五拾銭
計金弐円四拾九銭
外金拾弐円也　年給
内金六円也八月三十一日受取
差引
残金八円四拾九銭

同九月三日洪水報知金三銭　勝又佐吉エ渡ス
九月三日ヨリ四日迄
新川通リ見廻リ之為メ深良村へ壱泊ス
合計金八円九拾弐銭
内金弐円九拾弐銭也
雑費之分九月十四日領収ス
差引金六円也
内金弐円也九月廿九日領収ス
新川通リ見廻リ

一九月廿八日
同断
一同　廿九日
湖表減水之件ニ付小泉役場行
此日当二日分金四拾銭十月廿一日領収
金四円也廿六年二月十四日領収ス
諸費日当給料共皆済也

明治廿六年分
一二月廿四日湖表割石より新川ヲ開キ仙石原及ヒ大久保村々開拓見込、右ニ付佐野停車場前伊豆や方集会
金弐拾銭
一三月一日元箱根行之件ニ付佐野杉山氏方へ杉本忠吉照会とシテ特使
金四銭
一三月十六日ヨリ同十八日迄湖用貯水之件ニ付元箱根村小林善次郎方へ出頭、下郷・永井村長・鈴木・秋山中郷・菅沼村長・柏木村長代リ（杉山・市川・柏木・水配人都合八（ママ）名
一三月廿六日逆川〆切約定書為取替之儀ニ付停車場前市川会議
立会人杉山・木村・秋山・市川・小林・柏木都合六名
三日分金壱円五拾銭
一三月三十一日掛合之件ニ付深（深良）ら小林小前壱人八木幸作行
金四銭
一四月一日逆川修繕及ヒ湖水々門戸砂浚之件ニ付担当役場出頭壱人
金弐拾銭
合計金弐円拾八銭
廿六年四月十四日小泉村助役三舟作雄殿ヨリ領収ス
外金　拾四銭　廿六年六月往復旅費領収ス
一六月十日　新川刈払才領

一同　同　人足壱人貞吉
一同　同　同　忠吉
七月三日
小林久次郎へ照会として小前壱人　古田ふじ
同　同
分水壱人出勤
堰切人足　泉村平松
同　十五日　勝又孝吉
勝又治平
一分水壱人
同十六日分水壱人平松
同十七日
分水壱人出勤
堰払人　泉村平松
跡ヲ其外壱名
（鈴木源次郎
米田与祖次郎）
同十八日
分水壱人出勤

堰祓人足（泉村茶畑
芹沢茂十郎）
同二十日
一分水壱人（平松
岡田寅蔵）
七月廿三日
一湖水登山　壱人　外人足　杉本熊吉
同　廿四日
分水壱人
堰祓人　泉村茶畑　杉山九平
同　勝又仙太郎
同廿五日
一分水壱人
同廿六日
一分水壱人一日
富岡役場へ
小前壱人　八木幸作
七月三十一日
一分水弐人　小林
柏木新七郎

堰祓人　泉村平松　後藤元次郎
同　茶畑　芹沢伊セ吉

八月二日
一小前壱人　小林久次郎氏へ照会之タメ古田ふじ
八月十六日
一小前壱人　小林久次郎へ照会之タメ八木源七遣ス
八月十九日
一洪水見廻リ壱人　新川通リ
同　廿三日
一同断見廻リ壱人
八月廿一日
一湖水登山　壱人
外人足壱人　杉本熊吉
十一月廿一日
一小夫壱人　（佐野）（さの）松屋集会之儀ニ付八木源七遣ス
一十一月廿二日壱人　廿六年度日当及給料請求之件ニ付（佐野）（サノ）松や集会

外金五拾銭　其内事務取扱費
合計金五円弐拾銭

是ハ水配別件
湖用水路へ器械新設之件ニ付六月廿三日富岡役場へ上郷地主惣代とシテ出頭

（裾野市上ヶ田　柏木新吾氏所蔵）

三〇　明治二六年（一八九三）一一月一五日　平松與市郎芦之湖用水使用契約書

（表紙）

平松與市郎ニ係ル契約證書

深良村外六ヶ村組合

第拾伍号

芦湖湖用水使用契約證書謄本

東京市日本橋区通リ壱丁目拾漆番地
平民捕鯨業
起業者　平松與市郎
弐拾玖年弐ヶ月
東京市日本橋区檜物町陸番地
士族質商
右起業者代理人　岡田篤次
肆拾壱年漆ヶ月
静岡県駿河国駿東郡泉村茶畑参拾玖番地
平民農井組合
地主総代　山本浅次郎
参拾陸年拾壱ヶ月
静岡県駿河国駿東郡泉村久根玖拾参番地
平民農井組合
地主総代　勝又彌平治
肆拾壱年伍ヶ月
静岡県駿河国駿東郡泉村平松壱番地
平民農井組合
地主総代　服部大誧(ママ)
参拾伍年参ヶ月
静岡県駿河国駿東郡小泉村佐野拾伍番地
平民農井組合
地主総代　岩崎佐十郎
陸拾伍年壱ヶ月
静岡県駿河国駿東郡長泉村下土狩伍拾番地
士族農井組合
地主総代　高野義長
肆拾肆年漆ヶ月
静岡県駿河国駿東郡長泉村中土狩肆拾肆番地
平民農井組合
地主総代　鈴木新平
参拾陸年
静岡県駿河国駿東郡清水村新宿拾壱番地
平民農井組合
地主総代　石垣専次郎
肆拾捌年拾壱ヶ月

静岡県駿河国駿東郡長泉村上土狩拾番地
平民農井組合
地主総代　米山藤三郎
肆拾肆年参ヶ月

静岡県駿河国駿東郡深良村深良弐陌捌拾番地
平民農井組合
地主総代　小林理三郎
肆拾伍年拾壱ヶ月

静岡県駿河国駿東郡深良村深良弐拾肆番地
平民農井組合
地主総代　松井謙治
参拾玖年拾壱ヶ月

静岡県駿河国駿東郡富岡村御宿弐拾壱番地ノ壱
平民農井組合
地主総代　湯山半七郎
陸拾弐年捌ヶ月

静岡県駿河国駿東郡富岡村千福拾弐番地
平民農井組合
地主総代　横山健吾
参拾伍年伍ヶ月

静岡県駿河国駿東郡沼津町城内参陌漆拾肆番地
士族官吏
立会人　河目俊宗
肆拾肆年弐ヶ月

右平松與市郎ノ委任状ヲ所持シタル代理人岡田篤次ハ、井組弐ヶ村弐拾大字地主総代山本浅次郎外拾壱名ト明治弐拾陸年拾壱月拾伍日公證人三浦恒十郎役場ニ於テ、河目俊宗ノ立会ヲ以テ左ノ契約ヲ締結ス

但シ山本浅次郎外拾壱名ノ地主総代並ニ岡田篤次ハ面識ナキヲ以テ、左記ノ通市村長ノ証明書ヲ所持シタリ

一山本浅次郎ハ駿河国駿東郡泉村々長柏木甚蔵ニ於テ証明シタリ

一勝又彌平治ハ駿河国駿東郡泉村村長柏木甚蔵之ヲ証明ス

一服部大(ママ)誧ハ駿河国駿東郡泉村々長柏木甚蔵之ヲ証明ス

一岩崎佐十郎ハ駿河国駿東郡小泉村々長菅沼佐太郎之ヲ証明ス
一高野義長ハ駿河国駿東郡長泉村々長永井嘉六郎之ヲ証明ス
一鈴木新平ハ駿河国駿東郡長泉村々長永井嘉六郎之ヲ証明ス
一石垣専次郎ハ駿河国駿東郡清水村村長高田譲八郎之ヲ証明ス
一米山藤三郎ハ駿河国駿東郡長泉村々長永井嘉六郎之ヲ証明ス
一小林理三郎ハ駿河国駿東郡深良村村長小林由太郎之ヲ証明ス
一松井謙治ハ駿河国駿東郡深良村村長小林由太郎之ヲ証明ス
一湯山半七郎ハ駿河国駿東郡富岡須山村組合村長湯山詮之ヲ証明ス
一横山健吾ハ駿河国駿東郡富岡須山村組合村長湯山詮之ヲ証明ス
一岡田篤次ハ東京市日本橋区長大胡純之ヲ証明ス

第壱条　相模国足柄下郡箱根芦湖水ハ寛文陸年官ノ許可ヲ得テ田地用水疏通ノ為メ水道開鑿以来引続キ駿河国駿東郡深良村、小泉村、富士岡村ノ内大字神山、富岡村ノ内大字御宿・千福・上ケ田・金沢・葛山・定輪寺、泉村ノ内大字久根・公文名・稲荷・茶畑・平松、長泉村ノ内大字南一色・納米里・上土狩・中土狩・下土狩・竹原、清水村ノ内大字伏見・新宿ノ弐ケ村弐拾大字ニ於テ使用権ヲ有シ、田方涵養及ヒ飲料水ニ供シ来レルヲ、今回平松與市郎ハ電気其他ノ器械設置ノ為メ、向フ伍拾ケ年間該用水使用ノ請求ニ依リ、井組合ハ以下数条之制限条件ヲ定メ、之ヲ承諾スルト雖トモ、井組弐ケ村弐拾大字ニ於ケル既得ノ権利ハ従前ノ通リ異動セザルモノトス

第弐条　契約年限ノ計算ハ電気其他器械据付工事着手ノ月ヨリ之レガ計算ス可キコト

第参条　平松與市郎ハ芦湖用水門ヲ改造シ現在ノ水底ヨリ深サ陸尺ノ床下ヲ為シ、其勾配幅員ハ大体元形ニ倣ヒ水流支障ナキ様施行ス可キコト

第肆条　水門及ヒ水門戸吐水口ノ形状位置ハ契約者双方立会図面ヲ調製シ署名捺印ノ上第壱号関係書類トシテ之レヲ公正証書原本ニ連綴ス

第伍条　水門ノ戸ハ別紙第壱号関係書類タル図面ノ通リ第壱号ヨリ第拾参号迄拾参枚ヲ調製ス可キ事

但シ用材ハ松板仕上ケ肆寸厚ニシテ筋鉄ヲ用ユ可キ事

第陸条　平松與市郎ハ器械運転ノ為メ水門上戸ヨリ弐段目即チ伍陸漆号参枚ノ肆尺戸ニ縦伍寸横陸寸ノ吐水口陸個ヲ設クルコト

但シ吐水口ノ位置寸法ハ第壱号関係書類タル図面ノ通タル可キ事

第漆条　前条器械運転用及深良村飲料水ノ為メ水門第拾弐号戸土台際ヘ縦弐寸伍分横肆寸ノ吐水口壱個ヲ設クル事

第捌条　水門戸ヘ錠ヲ設クルハ従来ノ通タル可キコト

第玖条　井組合ニ於テハ井組弐ケ村弐拾大字ヨリ選任シタル水門取締人弐名ヲ置ク可キ事、但シ平松與市郎ハ該費用トシテ本契約期限中毎年伍月弐拾日限リ金陸拾円ヲ井組合ヘ交付スルモノトス

第拾条　平松與市郎ハ用水ニ関スル雑費トシテ期限中毎年伍月弐拾日限金参拾円ヲ井組合ヘ交付ス可キコト

第拾壱条　平松與市郎ハ事業上用水ヲ使用スル為メ其水質流末ニ係ル人蓄(畜)田圃等ニ有害トナル場合アルトキハ何時タリトモ事業ヲ停止ス可キコト

第拾弐条　平松與市郎ハ井組弐ケ村弐拾大字ノ外ヨリ若シ本事業ニ付故障ヲ申出ツルモノアルトキハ総テ之ヲ処理ス可キコト

第拾参条　平松與市郎ハ隧道口ヨリ字古川口迄ノ間ニ於テ適宜ノ場所ニ器械ヲ据付クル事ヲ得ルト雖トモ井組用水及ヒ堰口ニ支障ナキ様ス可キコト

又器械使用ノ水路ハ適宜ニ之ヲ変更スルコトアル可シ

第拾肆条　平松與市郎ハ契約年限間湖水門口及墜道逆川甲伏等ノ破損個所ハ総テ之レヲ修繕ス可キコト

第拾伍条　井組合ニ於テハ湖水減少ノ際拾参枚ノ水門戸ヲ抜払ヒタル後閉鎖ス可キ場合ニ於テハ壱時ニ之ヲ閉鎖スルコトナク、第肆条ニ掲クル第壱号関係書類タル図面ノ水門南側第壱号戸ヲ除キ第拾壱号戸ヲ土台際ヨリ高サ伍寸ヲ明ケ置キ通水セシメ水量ノ増加ニ従ヒ漸次戸ヲ下シ、第陸条ニ掲クル伍・陸・漆号ノ水門戸吐水口ニ満ツル迄ハ断ヘス伍寸ノ明キ口ヨリ流出スル水量ヲ通セシム可シト雖トモ、井組用水貯水期即チ、毎年弐月末日ニ至レハ水量ノ多少ニ拘ハラス、第壱号関係書類タル図面ニヨリ製作シタル拾参枚ノ水門戸ハ悉皆之ヲ閉鎖スルモノトス

第拾陸条　平松与市郎ハ鉄管堰堤木樋等布設（ママ）ノ為メ用水ノ他ニ漏出シ又ハ仮令ヒ従来ノ水量ヲ増加スルコトアルモ決シテ減量セシメザルコトヲ保証スル事

第拾漆条　此契約締結後其年限中他ニ新事業ヲ計画スルモノアルモ平松與市郎及井組弐ケ村弐拾大字合意ノ上ニアラサレバ之ヲ承諾セサル可キ事

第拾捌条　平松與市郎ハ本契約ニ係ル工事壱切ノ費用ヲ総テ負担ス可キコト

第拾玖条　平松與市郎ハ満期後ト雖トモ更ニ期限ヲ定メ本契約ヲ継続スルコトヲ得可シ

第弐拾条　平松与市郎ニ於テ工事着手ヲ延期スルコトアルモ、明治弐拾漆年拾弐月参拾壱日迄ハ此契約ハ存続シ、若シ該期日ヲ経過スルモ尚ホ工事ニ着手セサルトキハ此契約ハ総テ無効タル可キコト

右関係人ハ読聞セタル処一同其相違ナキコトヲ認メテ左ニ署名捺印ス

起業者代理人　岡田篤次　印　　山本浅次郎　印
勝又彌平治　印
服部大（ママ）輔　印
岩崎佐十郎　印
高野義長　印

鈴木新平印
石垣専次郎印
米山藤三郎印
小林理三郎印
松井謙治印
湯山半七郎印
横山健吾印

立会人　河目俊宗印

右契約ヲ締結シタルコトヲ證スル為メニ左ニ署名捺印スル者也

明治弐拾陸年拾壱月拾伍日

公証人三浦恒十郎役場ニ於テ

沼津区裁判所管内静岡県駿河国駿東郡
沼津町上土弐拾参番地住居
公証人　三浦恒十郎

此謄本ハ関係人ノ請求ニ依リ原本ニ就キ謄写シタルモノナリ、依テ其相違ナキコトヲ證スル為メ左ニ署名捺印ス

明治弐拾陸年拾壱月拾捌日



公証人三浦恒十郎役場ニ於テ

沼津区裁判所管内静岡県駿河国駿東郡

沼津町上土弐拾参番地住居

公証人　三浦恒十郎印

明治弐拾陸年拾壱月拾伍日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ作製シタル公正証書第拾伍号第肆条ニ基キ、本契約ト同時ニ此図面ヲ調製シ第壱号関係書トシテ原本ニ連綴ス、依テ左ノ契約者双方署名捺印スル者也

岡田篤次印
山本浅次郎印
勝又彌平治印
服部大誧(ママ)印
岩崎佐十郎印
高野義長印
鈴木新平印
石垣専次郎印
米山藤三郎印
小林理三郎印
松井謙治印
湯山半七郎印
横山健吾印

合計拾参名

公正証書第拾伍号第壱号関係書類ノ謄写タルコトヲ證ス

明治弐拾陸年拾壱月拾捌日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ沼津区裁判所管内静岡県駿河国駿東郡沼津町上土弐拾参番地住居

公証人　三浦恒十郎印

第拾陸号

工事ニ就テノ契約証書謄本

東京市日本橋区通リ壱丁目拾漆番地
平民捕鯨業
起業者　平松與市郎

弐拾玖年弐ケ月

東京市日本橋区檜物町陸番地

士族質商

右起業者代理人　岡田篤次
肆拾壱年漆ヶ月

静岡県駿河国駿東郡泉村茶畑参拾玖番地
平民農井組合

地主総代　山本浅次郎
参拾陸年拾壱ヶ月

静岡県駿河国駿東郡泉村久根玖拾参番地
平民農井組合

地主総代　勝又彌平治
肆拾壱年伍ヶ月

静岡県駿河国駿東郡泉村平松壱番地
平民農井組合

地主総代　服部大誧（ママ）
参拾伍年参ヶ月

静岡県駿河国駿東郡小泉村佐野拾伍番地
平民農井組合

地主総代　岩崎佐十郎
陸拾伍年壱ヶ月

静岡県駿河国駿東郡長泉村下土狩伍拾番地
士族農井組合

地主総代　高野義長
肆拾肆年漆ヶ月

静岡県駿河国駿東郡長泉村中土狩肆拾肆番地
平民農井組合

地主総代　鈴木新平
参拾陸年

静岡県駿河国駿東郡清水村新宿拾壱番地
平民農井組合

地主総代　石垣専次郎
肆拾捌年拾壱ヶ月

静岡県駿河国駿東郡長泉村上土狩拾番地
平民農井組合

地主総代　米山藤三郎

静岡県駿河国駿東郡深良村深良弐陌捌拾番地
平民農井組合
地主総代　小林理三郎
肆拾伍年拾壱ヶ月

静岡県駿河国駿東郡深良村深良弐拾肆番地
平民農井組合
地主総代　松井謙治
参拾玖年拾壱ヶ月

静岡県駿河国駿東郡富岡村御宿弐拾壱番地ノ壱
平民農井組合
地主総代　湯山半七郎
陸拾弐年捌ヶ月

静岡県駿河国駿東郡富岡村千福拾弐番地
平民農井組合
地主総代　横山健吾
参拾伍年伍ヶ月

静岡県駿河国駿東郡深良村深良弐陌捌拾肆番地
平民農井組合
地主総代　小林理三郎
肆拾肆年参ヶ月

静岡県駿河国駿東郡沼津町城内参陌漆拾肆番地
士族官吏
立会人　河目俊宗
肆拾肆年弐ヶ月

右平松与市郎ノ委任状ヲ所持シタル代理人岡田篤次ハ井組弐ヶ村弐拾大字地主総代山本浅次郎外拾壱名ト明治弐拾陸年拾壱月拾伍日公證人三浦恒十郎役場ニ於テ河目俊宗ノ立会ヲ以テ左ノ契約ヲ締結ス

但シ平松與市郎ノ委任状ハ公正証書第拾伍号原本ノ末尾ニ転綴ス

第壱条　本契約ハ平松與市郎ト井組弐ヶ村弐拾大字総代人山本浅次郎外拾壱名ト明治弐拾陸年拾壱月拾伍日公證人三浦恒十郎役場ニ於テ第拾伍号ノ公正證書ヲ以テ締結シタル契約即チ箱根芦湖ヶ用水使用契約ニ基キ成立スル可キモノナルコト

第弐条　平松與市郎ハ駿河国駿東郡深良村地内ヘ電気其他ノ器械設置スルニ先ダチ箱根芦湖水門及ヒ床下ケ工

事ニ着手ス可キコト

第参条　平松與市郎ハ水門及ヒ水路工事中ハ井組弐ケ村弐拾大字ヨリ撰出シタル地主総代人参名ト其工事ノ順序及適否ヲ協議ス可キコト

但シ本文地主総代ニハ出張ノ都度日給トシテ壱人ニ付キ金漆拾銭ヲ平松与市郎ヨリ支払フ可キコト

第肆条　平松與市郎ハ地主総代人ト協議シ井組用水上ニ支障ヲ与ヘサルニ於テハ何時ニテモ水門及ヒ水路工事ヲ施行スルモ故障（ママ）フラサルコト

第伍条　平松與市郎ハ用水路ニ関スル総テノ工事ヲ着手ノ月ヨリ向フ拾捌ケ月ヲ限リ竣功ス可キコト

第陸条　平松與市郎ハ水門甲蓋及隧道上穴口ヲ煉瓦若クハ硬石ヲ以テ眼鏡形ニ築造ス可キコト

第漆条　平松與市郎ハ逆川甲伏其他緊要ナル石造ノ個所ハセメントヲ以テ切合セ口ヲ密着セシム可キコト

第捌条　水門ノ柱ハ槻仕上ケ壱尺参寸角長参間半ノモノ肆本笠木控柱モ同木ヲ用ヒ土台ハ松角ニテ築造ス可キコト

但シ笠木控柱及ヒ土台ノ寸法ハ水門ノ柱ニ準シ搬造ス可キコト

第玖条　平松與市郎ハ水門外湖水引入個所ノ水底土砂ハ今回床下ケノ地盤ニ準シ浚渫ス可キコト

第拾条　平松與市郎ハ自己ノ都合ニ依リ又ハ天災時変ニアラスシテ井組外ヨリ生スル事故ノ為メ工事中止ノ場合ハ関係村々ニ於テ之レカ残工事ヲ処理ス可キニ付、其担保トシテ工事着手ノ時金肆阡円若クハ之レニ相当スル有価証券ヲ井組弐ケ村弐拾大字ヘ預ケ置ク可キ事

第拾壱条　井組合ハ右金円又ハ有価証券ヲ信用アル銀行ニ預ケ置キ工事竣工ノ上ハ其元利金ヲ還付ス可シ

但シ其銀行ノ預リ券ハ駿東郡小泉村村長ニ保管ヲ委托ス

第拾弐条　平松與市郎ハ明治弐拾陸年拾壱月拾伍日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ作製シタル公正証書第拾伍号ニ記載スル契約及ヒ本契約ニ違背シタルトキハ、此契

約ハ勿論公正証書第拾伍号契約ノ全部ヲ解除シ担保物ハ井組合ノ所有ニ帰ス可キ事

右関係人ヘ読聞セタル処一同其相違ナキコトヲ認メテ左ニ署名捺印ス

起業者代理　岡田篤治　印

山本浅次郎　印
勝又彌平治　印
服部大(ママ)浦　印
岩崎佐十郎　印
高野義長　印
鈴木新平　印
石垣専次郎　印
米山藤三郎　印
小林理三郎　印
松井謙治　印
湯山半七郎　印
横山健吾　印

立会人　河目俊宗　印

右契約ヲ締結シタルコトヲ確証スル為メニ左ニ署名捺印スル者也

明治弐拾陸年拾壱月拾伍日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ

沼津区裁判所管内静岡県駿河国駿東郡
沼津町上土弐拾参番地住居

公証人　三浦恒十郎　印

此謄本ハ関係人ノ請求ニ依リ原本ニ就キ謄写シタルモノナリ、依テ其相違ナキコトヲ證スル為メ左ニ署名捺印ス

明治弐拾陸年拾壱月拾捌日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ

沼津区裁判所管内静岡県駿河国駿東郡
沼津町上土弐拾参番地住居

公証人　三浦恒十郎　印

第拾漆号

用水流通ニ就テノ契約証書

静岡県駿河国駿東郡深良村深良弐拾肆番地

平民農井組合
深良村深良地主総代　松井謙治
参拾玖年拾壱ヶ月
静岡県駿河国駿東郡深良村弐陌捌拾番地
平民農井組合
深良村深良地主総代　小林理三郎
肆拾伍年拾壱ヶ月
静岡県駿河国駿東郡泉村茶畑参拾玖番地
平民農井組合
壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　山本浅次郎
参拾陸年拾壱ヶ月
静岡県駿河国駿東郡泉村久根玖拾参番地
平民農井組合
壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　勝又彌平治
肆拾壱年伍ヶ月
静岡県駿河国駿東郡泉村平松壱番地
平民農井組合

壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　服部大誧（ママ）
参拾伍年参ヶ月
静岡県駿河国駿東郡小泉村佐野拾伍番地
平民農井組合
壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　岩崎佐十郎
陸拾伍年壱ヶ月
静岡県駿河国駿東郡長泉村下土狩伍拾番地
士族農井組合
壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　高野義長
肆拾肆年漆ヶ月
静岡県駿河国駿東郡長泉村中土狩肆拾肆番地
平民農井組合
壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　鈴木新平
参拾陸年
静岡県駿河国駿東郡清水村新宿拾壱番地
平民農井組合
壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　石垣専次郎
肆拾捌年拾壱ヶ月

静岡県駿河国駿東郡長泉村上土狩拾番地
平民農井組合
壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　米山藤三郎
肆拾肆年参ヶ月
静岡県駿河国駿東郡富岡村御宿弐拾壱番地ノ壱
平民農井組合
壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　湯山半七郎
陸拾弐年捌ヶ月
静岡県駿河国駿東郡富岡村千福拾弐番地
平民農井組合
壱ヶ村弐拾壱大字地主総代　横山健吾
参拾伍年伍ヶ月
静岡県駿河国駿東郡沼津町城内参陌漆拾肆番地
士族官吏
立会人　河目俊宗
肆拾肆年弐ヶ月

右相模国足柄下郡箱根芦湖々水掛井組深良村深良地主総代松井謙治・小林理三郎ハ、同組合富士岡村ノ内大字神山、深良村ノ内大字岩波、富岡村ノ内大字御宿・千福・上ヶ田・金沢・葛山・定輪寺、小泉村及泉村ノ内大字久根・公文名・稲荷・茶畑・平松、長泉村ノ内大字納米里・上土狩・中土狩・下土狩・南一色・竹原、清水村ノ内大字新宿・伏見壱ヶ村、弐拾壱大字地主総代山本浅次郎外玖名ト明治弐拾陸年拾壱月拾伍日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ河目俊宗ノ立会ヲ以テ左ノ契約ヲ締結ス

第壱条　相模国足柄下郡箱根芦湖用水使用等ノ件ニ関シ明治弐拾陸年拾壱月拾伍日当井組弐ヶ村弐拾大字地主総代山本浅次郎外拾壱名ト平松與市郎トノ間ニ締結シタル契約即チ公正証書第拾伍号第拾伍条ニ於テ通水ノ件ヲ定メタルニ由リ、深良村深良ニ於テハ飲料水トシテ水門中敷戸ヘ縦弐寸伍分横肆寸ノ吐水口ヲ設ケ通水セシムルニ就キ、右ノ外井組貯水期即チ毎年弐月末日ヨリ一般ノ田地用水ヲ通ズル時季ニ至ル迄ハ何等ノ事情アルモ水量ヲ増加セシメザル事

第弐条　前条ノ通定ムルニ付湖水ニ関スル経費等ハ相互

協議ノ上出金シ遅延セザル可キ事
右関係人ヘ読聞セタル処一同其相違ナキコトヲ認メテ左ニ署名捺印ス

松井謙治　印
小林理三郎　印
山本浅次郎　印
勝又彌平治　印
服部大誧（ママ）　印
岩崎佐十郎　印
高野義長　印
鈴木新平　印
石垣専次郎　印
米山藤三郎　印
湯山半七郎　印
横山健吾　印

立会人　河目俊宗　印

右契約ヲ締結シタルコトヲ確証スル為メニ左ニ署名捺印スル者也

明治弐拾陸年拾壱月拾伍日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ

沼津区裁判所管内静岡県駿河国駿東郡
沼津町上土弐拾参番地住居
公証人　三浦恒十郎　印

此謄本ハ関係人ノ請求ニ依リ原本ニ就キ謄写シタルモノナリ、依テ其相違ナキコトヲ證スル為メ左ニ署名捺印ス

明治弐拾陸年拾壱月拾捌日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ

沼津区裁判所管内静岡県駿河国駿東郡
沼津町上土弐拾参番地住居
公証人　三浦恒十郎㊞

芦湖湖用水使用契約証書

東京市日本橋区通リ壱丁目十七番地平民平松与（ママ）市郎ト箱根芦湖用水組合弐ケ村弐拾大字地主惣代トノ間ニ於テ、

明治弐十六年十一月十五日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ締結シタル第十五号芦湖々用水使用契約及同年同月同日同役場ニ於テ締結シタル第十六号工事ニ就テノ契約ヲ実施セザル以前ニ於テ平松与(ママ)市郎ヨリ湖用水ヲ使用シ工場設置ノ請求アリ、用水組合ニ於テ之レヲ承諾シ、更ニ左ノ条件ヲ米倉一平・平松与(ママ)市郎外四名ト用水組合地主惣代ト締結シ、而シテ前記第十五号契約書中第二十条契約及明治二十七年十二月廿七日契約存続期日ハ変更シテ本契約第八条ニ依ルモノトス

第壱条　毎年三月・四月・五月ノ三ケ月間ハ用水門〆切水門ニ穿チタル縦弐寸五分横四寸ノ穴四個ノ外通水セシメザル事

但本文ノ通水穴ハ上戸ニ三個下戸ニ壱個ヲ設クル事

第弐条　毎年十月ヨリ翌年二月ニ至ル五ケ月間ハ通水穴ノ外水門北方上戸壱枚ヲ抜キ通水セシムル事

第三条　毎年六月ヨリ九月ニ至ル四ケ月間ハ田地用水ノ需用ニ応シ水門ヲ開放スル事

第四条　米倉一平・平松与(ママ)市郎外四名ハ事業上用水使用スル為メ流末ニ係ル人蓄田圃等ニ有害トナル場合アル時ハ何時タリトモ事業ヲ停止スベキ事

第五条　米倉一平・平松与(ママ)市郎外四名ハ水門并ニ堰口等ニ要スル費用ハ一切之ヲ負担スル事

第六条　米倉一平・平松与(ママ)市郎外四名ハ水門取締ニ要スル費用トシテ金六拾円及用水ニ関スル雑費トシテ金参拾円合金九拾円ヲ毎年用水組合ヘ差出スベキ事

第七条　米倉一平・平松与(ママ)市郎外四名ハ工場建築着手ノ際ニ於テ水門床下費用ノ担保トシテ金壱万五千円ヲ金円又ハ有価証券ヲ以て信用アル銀行ヘ預ケ置、其預ケ券ヲ駿東郡小泉村村長ヘ委托スベキ事

但本文担保金ハ米倉一平・平松与(ママ)市郎外四名ニ於テ水門床上(下カ)工事ニ着手ノ際返還スベシト雖万一床上(下カ)工事ノ許可ヲ得ルモ該工事ヲ起工セザル場合ニ於テハ、本文担保金ヲ用水組合ヘ受取用水組合ニ於テ床上(下カ)工事ヲ実施スル事

第八条　工事許可ノ月ヨリ向フ三ケ年間ニ工事ニ着手セザルトキハ本契約ハ無効トス

右契約ハ明治二十六年十一月十五日締結シタル芦湖用水使用契約及工事ニ就テノ契約ヲ実施スル時ヲ以テ無効トスル事

明治二十八年十月二十九日

東京府東京市日本橋区通町壱丁目拾七番地
平民商起業者
平松與市郎㊞

静岡県駿河国駿東郡泉村茶畑三十九番地
平民農井組合
地主惣代　山本浅次郎㊞

同県同国同郡同村久根九十三番地
平民農井組合
地主惣代　勝又弥(ママ)平治㊞

同県同国同郡同村平松一番地
平民農井組合
地主惣代　服部大誧(ママ)㊞

同県同国同郡小泉村佐野六十七番地
平民農井組合
地主惣代　三好作雄㊞

同県同国同郡長泉村上(下カ)土狩五十番地
士族農井組合
地主惣代　高野義長㊞

同県同国同郡同村中土狩村四十四番地
平民農井組合
地主惣代　鈴木新平㊞

同県同国同郡清水村新宿十一番地
平民農井組合
地主惣代　石垣専次郎㊞

同県同国同郡長泉村上土狩十番地
平民農井組合
地主惣代　米山藤三郎㊞

同県同国同郡深良村深良二百八十番地

平民農井組合
地主惣代　小林理三郎㊞
同県同国同郡同村同二十四番地
平民農井組合
地主惣代　松井謙治㊞
同県同国同郡富岡村御宿二十一番地ノ一
平民農井組合
地主惣代　湯山半七郎㊞
同県同国同郡同村千福十二番地
平民農井組合
地主惣代　横山健吾㊞
同県同国同郡沼津町城内三百七十四番地
士族
立会人　河目俊宗㊞
東京市芝区明舟町十六番地
進　経太
東京市麹町区一番町五十四番地
米倉一平
東京市麻布区材木町五十六番地
藤岡市助
東京市赤坂区霊南坂町十四番地
岸小三郎
東京市京橋区木挽町九丁目十一番地
梅浦精一

右起業者五名部理代人
平松與市郎㊞

契約証写

箱根芦湖々用水ヲ使用シ駿東郡深良村地内ニ電気其他之工場ヲ設置スル儀ニ付、右用水組合弐箇邨二十大字地主総代ト米倉一平・平松與市郎外四名ト契約致候処、該水門床下工事ハ相互之為メ最も必要之儀ニ付、床下之認可を得ル為メ井組合地主総代ノ互選ヲ以テ三郷各壱名ノ総

代ヲ官衙ニ上申若クハ他ヘ交渉等之為メ出張スル場合ニ於テ、湖用水使用契約書立会人河目俊宗殿之証明アルモノニ限リ我々共ニ於テ相当之旅費支弁可致候事

明治廿八年十月廿九日

東京日本橋区中洲町十七号地
起業者　平松與市郎

箱根芦湖用水組合二ヶ村廿大字地主総代
高野義長殿
外十一名御中

印紙　芦湖用水使用契約及工事ニ就キ契約延期之証

明治二十六年十一月廿九日公証人三浦恒十郎役場ニ於テ締結シタル第拾五号証書芦湖用水ノ契約及同年同月同日同役場ニ於テ締結シタル第拾六号証書工事ニ就キテノ契約ハ明治廿七年十二月三十一日迄有効ノ処、尚ホ明治二十八年十二月三十一日迄延期シ有効ト為ス事、右之通平松與市郎井組合地主惣代合意ノ契約ヲ為シ署名捺印ス

東京市日本橋区通町壱丁目拾七番地
士族捕鯨業
起業者　平松與市郎㊞

明治廿七年十二月廿七日

静岡県駿河国駿東郡泉村茶畑拾九番地
平民農井組合
地主惣代　山本浅次郎㊞

同県同国同郡村久根九拾三番地
平民農井組合
地主惣代　勝又彌平治㊞

同県同国同郡同村平松拾壱番地
平民農井組合
地主惣代　服部大(ママ)誧㊞

同県同国同郡小泉村佐野拾五番地
平民農井組合
地主惣代　岩崎佐十郎㊞

同県同国同郡長泉村下土狩五十番地
平民農
地主総代　高野義長印
同県同国同郡同村中土狩四十四番地
平民農井組合
地主惣代　鈴木新平印
同県同国同郡清水村新宿拾壱番地
平民農井組合
地主惣代　石垣専次郎印
同県同国同郡長泉邨上土狩拾番地
平民農井組合
地主惣代　米山藤三郎印
同県同国同郡深良村深良二百八十番地
平民農井組合
地主総代　小林理三郎印
同県同国同郡同村深良廿四番地
平民農井組合
地主惣代　松井謙治㊞
同県同国同郡富岡村御宿廿壱番地ノ一
平民農井組合
地主惣代　湯山半七郎㊞
同県同国同郡同村千福拾二番地
平民農井組合
地主惣代　横山健吾印
同県同国同郡沼津町城内三百七拾四番地
士族官吏
立会人　河目俊宗㊞
（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三一　明治二八年（一八九五）一月　上郷水配取扱人函根湖用水掛につき諸用留

（表紙）
明治廿八年一月
函根湖用水掛水配ニ係ル諸用留
井組上郷水配取扱人
柏木新七郎

記

二月九日
一小前壱人　逆川〆切約定書引継之件ニ付小林久次郎殿方迄八木源七
一会議　右同断之件ニ付サノ（佐野）市川や方、集会員杉山・秋山・市川久次郎氏之代リ林伝四郎出頭ス
右引継之件ニ付林伝四郎出頭、日当ハ当方ニ於テ請求領収之上同氏へ可相渡約
六月七日大洞件
六月八日
一新川刈払才料　杉山・市川共三名
上ヶ田人足八木利平
同十日大洞件富岡役場　同　利吉
同十一日
一湖表壱番戸抜、上郷口ニ拵
同十一日
一上郷深良村分台口拵人足壱人
深良　勝又佐吉
廿七年度七月廿一日
一分水日当□□
同十一月廿二日
一深良分台大洞堰分水取扱之件ニ付担当役場出頭□□

廿七年七月廿一日
一上郷分水□□
同年同月廿四日
一下郷分水□□
合計金四円四拾弐銭三厘
明治廿八年八月十八日領収スベキ分
右之内
金弐拾弐銭　深良村勝又佐吉へ支払
同　四銭　上ヶ田之分八木源七へ支払之分
引残る
金四円拾八銭三厘
余自身分
（裾野市上ヶ田　柏木新吾氏所蔵）

三三　明治三一（一八九八）年七月二三日　東京水力電気株式会社芦之湖用水使用契約書

（判）「駿河国駿東郡富岡村大字御宿　湯山半七郎」

議第
東京水力電気株式会社ニ対スル契約之件
契約書
静岡県駿河国駿東郡深良村ニ於テ箱根芦湖々用水ヲ使用シ水力電気事業ヲ経営スルニ付、東京水力電気株式会社ヲ甲トシ静岡県駿河国駿東郡深良村・泉村・小泉村・長泉村・清水村・富岡村・富士岡村井組合七ヶ村ヲ乙トシ甲乙ノ間ニ契約スルコト左ノ如シ
第一条　相模国足柄下郡箱根葦（ママ）之湖水ハ寛文六年官ノ許可ヲ得テ田地用水疏通ノ為メ水道開鑿已来引続キ、駿河国駿東郡深良村、小泉村、富士岡村ノ内大字神山、富岡村之内大字御宿・千福・上ヶ田・金沢・葛山・桃園、泉村之内大字久根・公文名・稲荷・茶畑・平松、長泉村之内大字南一色・納米里・上土狩・中土狩・下土狩・竹原、清水村之内大字伏見・新宿ノ弐ヶ村弐拾大字ニ於テ使用権ヲ有シ田方涵養及飲料水ニ供シ来レルヲ、今回甲ハ電気其他ノ器械設置ノ為メ向フ五十ケ

年間該用水使用ノ請求ニ依リ井組合ハ以下数条ノ制限条件ヲ定メ之ヲ承諾スト雖トモ、井組弐ケ村弐拾大字ニ於ケル既得ノ権利ハ従前之通異動セザルモノトス

第二条　契約年限之計算ハ電気其他之器械据付工事着手之月ヨリ之ヲ計算ス可事

第三条　甲ハ芦湖用水門ヲ改造シ現在之水底ヨリ深サ三尺以上ノ床下ヲ為シ、其勾配幅員ハ大体元形ニ倣ヒ水流支障ナキ様施行スベキ事

第四条　甲ハ現今ノ貯水高ヨリ上尚ホ弐尺ノ貯水ヲ為スタメ湖岸必要ト認ムル箇所ヘ高弐尺以上ノ築堤ヲ為スベキ事

第五条　水門及水門戸之形状位置ハ契約者双方立会図面ヲ調整シ署名捺印之上之ヲ保存スベキ事

第六条　芦湖用水引入口ニ水門取締人壱名ヲ常住セシメ水門ノ開閉ヲ掌ラシムベキ事

水門取締人ノ給料及ビ之ニ要スル諸雑費ハ甲ノ負担トスベキ事

水門取締人ハ甲乙協議之上甲ハ乙ニ代リ之ヲ任免スルモノトス

第七条　甲ハ用水ニ関スル雑費トシテ期限中毎年五月廿日限金五拾円ヲ乙ニ交付スル事

第八条　甲ハ事業上用水ヲ使用スル為メ其水質流末ニ係ル人畜田圃等ニ有害トナル場合アルトキハ何時タリトモ事業ヲ停止ス可キ事

第九条　甲ハ隧道口ヨリ字古川口迄ノ間ニ於テ適宜ノ場所ニ器械ヲ据付クル事ヲ得ルト雖モ、井組合用水及堰口ニ支障ナキ様スベキ事

又器械使用ノ水路ハ適宜ニ之ヲ変更スルコトアルベシ

第拾条　甲ハ契約年限間湖水門口及隧道逆川甲伏等之破損個所ハ総テ之ヲ修繕ス可事

第拾一条　毎年用水期後ヨリ翌年二月末日迄ハ貯水三尺ヲ下ラザル限ハ毎日平均一秒時間四十立方尺ノ水ヲ流出セシメ貯水三尺ニ充タザルトキハ毎日平均一秒時間三十立方尺之水ヲ流出セシムル事

第拾弐条　毎年三月一日ヨリ用水入用期迄ハ貯水七尺ヲ下ラザル限ハ毎日平均一秒時間四十立方尺ノ水ヲ流出セシメ貯水七尺以下五尺以上ナルトキハ毎日平均一秒時間三十立方尺ノ水ヲ流出セシムル事、但シ貯水五尺以内ナルカ又ハ四月末日ニ於テ貯水六尺以内ナルトキハ深良村飲料水ニ必要ナル水量ノ外流出セシメザル事

第拾三条　此契約締結後其年限中他ニ新ニ事業ヲ計画スルモノアルモ甲乙双方合意ノ上ニアラザレハ之ヲ承諾セザル可キ事

第十四条　甲ハ本契約ニ係ル工事一切ノ費用ヲ総テ負担ス可キ事

第拾五条　甲ハ満期後ト雖モ更ニ期限ヲ定メ本契約ヲ継続スルコトヲ得可シ

第拾六条　用水期間ハ井組合二ケ村廿大字ニ於テ所要水量ノ緩急ニ応シ時々水門ノ開閉ヲ為シ、降雨其他之為メ多量ノ湖水ヲ要セサル時日ニ於テハ流出水量ヲ減少スル等務メテ貯水ノ節約ヲ為ス可キ事

第拾七条　用水期間外ハ甲ノ請求ニ依リ時々水門ノ開閉ヲ為シ第十一・第十二条ニ於ケル契約水量以内ノ水ヲ流出セシムル事、但甲ハ務メテ貯水ノ増加ヲ計リ使用ノ水量ヲ節約スヘキ事

附則

第拾八条　甲ハ駿河国駿東郡深良村地内へ電気其他ノ器械場ヲ設置スルニ先チ箱根芦湖々用水門及床下ケ工事ニ着手スベキ事

第十九条　水門及水路工事ニ際シ乙ヨリ二名以内ノ立会ヲ請求スルトキハ甲ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ立会員ノ旅費日当トシテ甲ハ一日壱名ニ付金七拾銭ヲ乙ニ支払フモノトス

第廿条　甲ハ乙ト協議シ井組合用水ニ支障ヲ与ヘサルニ於テハ何時ニテモ水門及水路工事ヲ施行スルモ故障アラザル事

第廿一条　甲ハ水門甲蓋及隧道上穴口ヲ煉瓦若クハ硬石ヲ以テ眼鏡形ニ築造スベキ事

第廿二条　甲ハ逆川甲伏其他緊要ナル石造ノ個所ハ「セメント」ヲ以テ切合セロヲ密着セシム可事

第廿三条　甲ハ水門外湖水引入個所ノ水底土砂ハ今回床下ノ地盤ニ準シ浚渫ス可事

第廿四条　甲ニ於テ工事着手ヲ延期スルコトアルモ明治三十四年六月末日迄ハ此契約ヲ存続シ該期日ヲ経過スルトキハ此契約ハ総テ無効タル可事

明治三十一年七月廿三日提出

深良村外六ケ村組合管理者
泉村長　服部大誧（ママ）
深良村長　小林由太郎

（裾野市御宿　湯山匡秀氏所蔵）

三三　明治四四年一月一七日（一九一一）　電気会社と契約につき失効意見書

拝啓寒威甚敷候処各位益々御清栄ノ段奉大賀候、陳バ曾テ貴職方組合会ニ於テ御否認相成タル芦湖深良川水面使用者ノ名義ヲ横浜電気株式会社ニ移転更正方ノ件又候昨十二月中提出受理セシ趣キ或ハ再応組合会ノ議ニ付スルヤモ難計候ヘドモ、横浜電気会社ノ内容ハ字逆川口ニ野心満々タルコトヲ探聞致候、御承知ノ如ク塔ノ沢ニ於ケル発電所ノ水量ハ晩春ヨリ夏秋ノ季ハ余水アリト雖トモ冬季ヨリ春季ニ亘リ甚タ減水セルカ故ニ所定ノタービン水車運転上至大ノ支障ヲ生スル事ハ疑ヒナキ事実ニ有之候、貴職等組合ヲ代表シ極メテ適切ナル御決定ヲ与ヘラレシニモ抱ラス深良川ニ於テ芦湖水利ノ使用権ヲ獲得セントシテ再度提出スルニ至リシハ所謂敵ハ本能寺ニアリトノ希望ナルヤノ推察スルニ難カラス、且当局トノ間昨今往復屢々ナリシトノ風聞ニモ接シ申候、神聖ナル組合会ノ否認セシ同一水利ニ問題ナルモノヲ再応受理スルニ至リテハ議会ヲ無視スルノミナラズ其裏面ニハ或ハ何等カノ魂胆伏在セルモノアラント想像セラレ候、果シテ然ラハ実以テ当組合ノ由々敷大事ニシテ古来五百三十有余町歩ノ田地灌漑上並ニ平常ノ用水等ニ関シ甚ダ憂惧ノ至

リニ不堪次第ニ御座、候就テハ若シ如何様ナル条件又ハ制限ノ下ニ本組合会ニ提出アルモ断シテ御否決相成候様被成下度ハ勿論、東京電燈株式会社カ相互契約ナルモノヲ当事者タル当組合ノ承認ヲ需メズシテ第三者(四二年八月一日箱根水力電気株式会社)ニ譲渡シタルニ付テハ該芦湖水利使用契約ナルモノハ公法上当然失効ノモノト信認仕候旁々以テ右御承諾アランコトヲ深ク希望仕候、早々敬白

明治四十四年一月十七日

駿東郡深良村深良

一ノ瀬倉次郎

同　郡小泉村佐野

星野徳三郎

同　郡泉村平松

服部大誧(ママ)

同　郡富岡村千福

湯山柳雄

深良村外六ヶ村芦湖水利組合会議員

柏木彦太郎殿

(封筒表書)

富岡村上ヶ田

柏木彦太郎殿

(封筒裏書)

湯山柳雄

服部大誧(ママ)

星野徳三郎

一ノ瀬倉次郎

(裾野市上ヶ田　柏木新吾氏所蔵)

三四　大正元年(一九一二)一二月一一日　深良用水使用ニ関スル契約ノ件

議第八号

深良用水使用ニ関スル契約ノ件

芦之湖水力電気株式会社ニ於テ電気事業経営ニ付深良用水ヲ使用スル為メ、深良用水組合正管理者芹沢多根ト芦之湖水力電気株式会社発起人総代芹沢多根トノ間ニ於テ左記ノ契約ヲ為ス

一　深良用水組合正管理者芹沢多根ヲ甲トシ芦之湖水力電気株式会社発起人総代芹沢多根ヲ乙トシ本契約書弐通ヲ作成シ双方各其壱通ヲ保有スルモノトス

二　甲ハ深良用水組合ノ決議ヲ以テ乙ト本契約ヲ為スモノトス

三　甲ハ乙ノ計画セル水力電気事業経営ノ為メ甲ノ管理セル深良用水ヲ乙ヲシテ使用セシムルコトヲ承諾ス

四　乙ノ使用スル用水区域ハ芦之湖ヨリ静岡県駿東郡深良村ヲ経テ黄瀬川ニ達スル用水路及深良村壱円トス、而シテ其使用後ノ水量ハ深良川水路ニ放出シ以テ灌漑用水ニ支障ナカラシムルモノトス

五　乙ノ使用スル水量ハ毎壱秒間ニ付九拾立方尺以上ニシテ其使用期間ハ本契約ノ日ヨリ起算シ壱百年トス

但甲乙合議ノ上右ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

六　乙ハ甲ト協議ノ上現今ノ貯水高ヨリ上尚弐尺以上貯水及風波防上ノ為メ芦之湖岸□(一字空白)必要ト認ムル場所ニ漸時高弐尺以上ノ築堤其他ノ工事ヲ施行スル事アルベシ

七　甲ハ深良用水組合「　」(原本空白)耕地灌漑ノ為メ必要ヲ生シタルトキハ第五項使用水量ヲ甲乙協議ノ上決定スルモノトス

八　用水使用料ハ壱ケ年金壱千円以内トス

但壱ケ年未満ハ月割ヲ以テ支払フモノトス

九　甲ハ乙ノ水力使用ニ関シ施ス工事ニ対シ異議ヲ唱フルコトヲ得ス

十　乙ハ水力使用工事施設ノ結果第四項ノ使用区域内用水路ニ支障ヲ生シタルトキハ乙ノ費用ヲ以テ除害ノ工事ヲ施スモノトス

十一　乙ハ用水使用上必要ヲ生シタルトキハ乙ノ費用ヲ以テ芦之湖四ツ留水門ヨリ第一発電所用水取入口迄ノ水路底ヲ現在ヨリ四尺以内ニ於テ掘下ヲ為ス「（原本空白）」得又乙ハ甲ト協議ノ上隧道引入口ヲ硬石ヲ以テ積立テ完全ナル工事ヲ執行シ其工費ハ総テ乙ノ負担トス

但工事ノ方法及着手ノ時期ハ前以テ甲ト協議シ決定スルモノトス

十二　甲ハ乙ト契約ヲ為シタル後乙ノ承諾ヲ得スシテ第四項ノ区域内ニ於テ同一事業ヲ経営シ又ハ他ノ同一事業者ト該用水ノ使用其他ニ関スル契約ヲ為スコトヲ得ス

十三　乙ニ於テ逓信大臣ヨリ深良用水ノ使用ニ依ル電気事業経営ノ許可ヲ受ケ芦之湖水力電気株式会社ヲ設立シタルトキハ本契約ニ基ク一切ノ権利義務ハ総テ同会社ニ於テ承継スルモノトス

十四　本契約ニ依ル電気事業成工ノ後乙ハ適当ノ時機ニ於テ水利組合関係村内ニ電力使用工場ヲ設立スル事ヲ得ルモノトス

十五　本契約ヲ為スタメ要セシ費用ハ乙ノ負担トス

右各項ノ主意ニ依リ本契約ヲ諦結セントス

大正元年十二月十一日

駿東郡深良村外六ケ村
芦湖水利組合管理者
泉村長　芹沢多根

（裾野市上ケ田　柏木新吾氏所蔵）

三五　大正二年（一九一三）一月二七日　芦之湖水力電気株式会社との電気事業契約書

（表紙）

大正四年以降
芦之湖水力電気株式会社関係綴
芦湖水利組合

契約書

芦之湖水力電気株式会社ニ於テ電気事業経営ニ付深良用水ヲ使用スル為メ深良用水組合松井謙治・永井嘉六郎・上杉貞次郎（ママ）ト芦湖水力電気株式会社発起人総代芹澤多根トノ間ニ於テ左記契約ヲ締結ス

一　深良用水組合松井謙治・永井嘉六郎・上杉貞治郎ヲ甲トシ芦湖水力電気株式会社発起人惣代芹澤多根ヲ乙トシ契約書弐通ヲ作成シ双方各其ノ壱通ヲ保有スルモノトス

二　甲ハ深良用水組合ノ決議ヲ以テ乙ト左ノ契約ヲ為スモノトス

三　甲ハ乙ノ計画セル水力電気事業経営ノ為メ甲ノ管理セル深良用水ヲ使用セシムルコトヲ承諾ス

一　甲ハ明治三拾八年五月拾弐日付ヲ以テ東京水力電気株式会社取締役社長大倉喜八郎ト芦之湖用水ヲ以テ電気事業経営ノ為メ使用契約ヲ締結シアリト雖モ、数年ヲ経過スル今日未ダ事業ニ着手セサルノミナラズ権利ハ転々既ニ其効ヲ失却セルモノト認ムルモ再ビ他ニ契約スル時ハ前契約ニ抵触スルノ嫌ヒアリ、故ニ万一前ノ契約承継者東京電気株式会社ヨリ違反名称其他ノ下ニ追求セラルヽ時ハ乙ニ於テ全部責任ヲ負と甲ニ損害ヲ加ヘサル已而ナラズ該関係費用等ハ乙ノ負担トス

一　契約成立ノ上乙ノ使用スル芦ノ湖用水ノ水量ハ平常流出スル水量ヲ以テ限度トス

一　貯水期間ハ従前ノ慣行ヲ確守スル事

右ノ各項ノ主意ニ依リ茲ニ契約ヲ締結スルモノトス

大正弐年壱月弐拾七日

駿東郡深良村外六ヶ村
芦之湖水利組合代表者
松井謙治　印
永井嘉六郎　印
上杉貞治郎　印

芦之湖水力電気株式会社発起人惣代
駿東郡泉村茶畑百四番地
芹澤多根　印

右謄本ハ原本ト相違無之候也

静岡県駿東郡泉村長　芹澤多根　印

契約證書

印紙

契約證書

静岡県駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合ニ於テ疏水工事ヲ施シ深良村深良・岩波、富士岡村神山、富岡村上ヶ田・金沢・葛山・御宿・千福・桃園、小泉村石脇・佐野・二ツ屋・富沢・水窪・伊豆島田、泉村久根・公文名・稲荷・茶畑・平松、長泉村南一色・納米里・上土狩・中土狩・下土狩・竹原、清水村新宿・伏見ノ七ヶ村二十八大字地内田地ノ灌漑其他ニ供用セル芦之湖用水ヲ使用シ芦之湖水力電気株式会社ニ於テ水力電気事業ヲ経営スルニ付、静岡県駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合副管理者長泉村長高田與二郎ヲ甲トシ芦之湖水力電気株式会社発起人総代静岡県駿東郡泉村茶畑百四番地芹澤多根ヲ乙トシ甲ハ組合会ノ議決ヲ以テ関係村長立会ノ上、乙トノ間ニ左記条項ノ契約ヲ締結シ證書弐通ヲ作製シテ双方其壱通ヲ保有ス

第壱条　甲ハ寛文六年官ノ許可ヲ得、長七百三十八間ノ隧道ヲ開鑿シ神奈川県足柄下郡元箱根村芦之湖ヲ引用シテ田地ノ灌漑其他ニ供用セル以来引続キ用水使用ノ特権ヲ有シ四ツ留水門及其他営造物ノ管理権ヲ保有ス、然ルニ今回乙ニ於テ水力電気事業ヲ経営スル為メ該用

水使用方申出アリタルニ依リ甲乙合意ノ上本条以下ノ制限ヲ定メテ之ヲ承諾ス、但甲ノ有スル既得ノ用水使用権ニハ消長ヲ来サヽルモノトス

第弐条　乙ノ芦之湖用水ヲ使用スル期間ハ大正四年ヨリ向フ五拾箇年トス、但満期ニ至リ甲乙合意ノ上期間ヲ伸長スルコトヲ得

第参条　乙ノ使用スル芦之湖用水ノ水量ハ平常流出スル水量ノ全部トス、此制限ヲ確実ナラシムル為メ甲乙協議ノ上乙ノ負担ヲ以テ四ツ留水門戸ニ鎖鑰ヲ設ケ且量水標ヲ建設シテ吐水ノ分量ヲ明確ナラシムルモノトス

第四条　乙ハ水力電気事業経営ノ為メ甲ノ田地灌漑上用水ノ缺乏ヲ来ス虞アルトキハ四ツ留水門ノ流出量ヲ斟酌シ甲乙協定ノ上貯水増量ノ方法ヲ講スルモノトス

第五条　芦之湖貯水期間ハ毎年弐月末日ヨリ六月拾日迄ヲ以テ従前ノ慣行トス、此契約成立ノ上ハ一層慣例ヲ確守シ当事者ニ於テ平素怠ナク注意ヲ払フモノトス

第六条　乙ノ水力電気事業経営ノ為メニ使用スル用水路ノ区域ハ芦之湖用水隧道下口ヨリ深良村ヲ経テ黄瀬川合流点ニ至ル間及深良村地先一円トス

第七条　乙ハ事業経営ノ必要上其負担ヲ以テ芦之湖用水隧道下口ヨリ字豊後堰ニ至ル間ニ於ケル用水路ヲ変更シテ使用スルコトヲ得、但新設用水路ノ流末ハ少クトモ豊後堰口数間ノ上ニ於テ旧用水路ニ復流セシムルコトヲ要ス

第八条　乙ハ甲ト協議ノ上現在貯水高ヨリ上尚弐尺以上増量ノ目的ヲ以テ芦之湖岸中必要ノ箇所ニ対シ其負担ヲ以テ弐尺以上ノ築堤其他ノ工事ヲ施スモノトス

第九条　乙ハ水力電気事業ニ関スル工事施設ノ結果芦之湖用水路ニ支障ヲ生シ又ハ破損ヲ来シタルトキハ其負担ヲ以テ速ニ復旧工事ヲ施スモノトス

第拾条　乙ニ於テ四ツ留水門ヲ改造シ又ハ水路ヲ改修スル場合ハ形状位置等設計図面ヲ調製シ甲ノ同意ヲ得テ施行スルモノトス

第拾壱条　乙ハ芦之湖貯水及四ツ留水門吐口并逆川甲羅

伏悪水吐口巡視保護監督ノ為メ其負担ヲ以テ信用アル取締人壱名ヲ選定シテ工場内ニ常住セシメ其任ニ当ラシムルモノトス、但事重要ニ渉ルモノハ芦湖水利組合ニ於テ常設セル水配人ト合議シ甲ノ指揮ヲ受クルモノトス

第拾弐条　乙ノ芦之湖用水使用料ハ壱箇年金八百円以内ト定メ毎年末甲ニ納付スルモノトス

第拾参条　本契約ニ依リ水力電気事業成工ノ上ハ乙ハ甲ノ請求ニ応シ芦之湖用水区域内関係村ニ対シ電力供給上ノ利便ヲ計ルモノトス

第拾四条　甲ハ本契約締結後何等ノ事由アルモ乙ノ承諾ヲ経ス第六条ノ区域内ニ於テ同一ノ事業ヲ経営シ又ハ第三者ヲシテ用水ノ使用ヲナサシムルコトヲ得ス

第拾五条　本契約ハ甲又ハ乙ニ於テ形式上組織名称等ヲ変更スルコトアルモ其実体及双方ノ利害ニ異動ナキ限効力ニ影響セサルモノトス

第拾六条　本契約ニ基キ工事施行ノ場合ニハ甲乙協議ノ上別ニ細則ヲ設クルモノトス

第拾七条　乙ニ於テ大正五年末迄ニ水力電気事業ニ関スル工事ニ着手セサルトキハ本契約ハ効力ヲ失フモノトス

右契約ノ締結ヲ證スル為メ当事者及立会人各自署名捺印スルモノナリ

大正四年五月八日

静岡県駿東郡深良村外六ケ村
芦湖水利組合副管理者
静岡県駿東郡長泉村長　高田與三郎㊞
芦之湖水力電気株式会社発起人惣代
静岡県駿東郡泉村茶畑百四番地
芹澤多根㊞

立会人
静岡県駿東郡
深良村長　小林久五郎㊞

同　同

会議録謄本

急施ノ事件ニ付大正四年五月六日招集告知ヲ発シ、五月八日午後壱時駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合会ヲ管理泉村役場ニ招集開会シタリ

一　議長　管理泉村長　芹澤多根

富士岡村長　土屋辰三郎印
同　同
富岡村長欠員ニ付助役　鈴木嘉吉印
同　同
小泉村長　渡辺伊三郎印
同　同
泉村長　芹澤多根印
同　同
長泉村長　高田與三郎印
同　同
清水村長　高田譲八郎印

二　出席議員　弐拾壱名

第一番　井上伴學
第三番　石垣政平
第四番　永井嘉六郎
第五番　寺田治三郎
第六番　土屋喜一
第七番　大庭幾太郎
第八番　鈴木新平
第九番　服部房太郎
第十三番　芹沢孝三
第十三番　柏木彦太郎
第十四番　芹沢多根
第十六番　秋山村治郎
第十七番　大沼儀市
第十八番　室伏幾太郎
第十九番　杉山彌太郎
第二十二番　太田近五郎
第二十三番　上杉貞次郎（ママ）
第二十四番　渡邊孫三郎
第二十五番　菅沼佐太郎
第二十六番　室伏平右衛門
第二十七番　湯山柳雄

三　缺席議員　六名（第十一番缺員）

第二番　上杉種五郎
第十番　松井謙治
第十五番　小林有次郎
第二十番　勝又憲三
第二十一番　鈴木嘉吉
第二十八番　小林僖一

四　議事件目

湖議第九号　水力電気事業ニ関スル一切ノ事項ハ副管理者ニ於テ執行ノ件

湖議第十号　明治三十八年契約水利権譲渡承諾ノ件

湖議第十一号　芦之湖用水使用承諾ノ件

五　開会　管理者開会ヲ宣告シタリ

六　会議ノ顛末

議長(管理者)提案ノ議件ハ孰レモ議長ノ一身ニ関係アル事項ニシテ議長ノ職務ヲ執行スル能ハサル旨ヲ述ヘテ退席シ副管理者長泉村長高田與三郎議長席ニ着ク、議長(副管理者)管理者ハ一身上ノ故障ニ依リ退席セラレタルモ議案ノ説明其他議事進行上関係者トシテ出席ヲ求ムルヲ便宜ト認ムルカ故ニ町村制第五十条但書ニ依リ芹澤多根ヲ会議ニ出席セシムルノ可否ヲ議場ニ諮ル、満場同意ス、依テ芹澤多根番外席ニ着ク

議長(副管理者)湖議第九号水力電気事業ニ関スル一切ノ事項ハ副管理者ニ於テ執行ノ件ヲ議題トシテ提出ノ理由ヲ説明シ第一読会ヲ開ク異議ナシ、第二読会亦異議ナシ、依テ第三読会省略可決確定セリ

議長(副管理者)湖議第十号明治三十八年契約水利権譲渡承諾ノ件ヲ議ニ附シ第一読会ヲ開ク、番外芹澤多根関係者トシテ発言ヲ求メ本案ノ内容ニ就キ説明ス、第一読会異議ナク第二読会ヲ開ク異議ナシ、第三読会亦異議ナシ依テ原案ノ通可決確定ヲ宣告シタリ

議長(副管理者)湖議第十一号芦之湖用水使用承諾ノ件ヲ議題ニ供シ番外芹澤多根ヲシテ詳細ノ説明ヲナサシメ第一読会ヲ開ク異議ナシ、直ニ第二読会ヲ開ク第十七番(大沼儀市)議員ノ動議ニ依リ契約證第三条ハ原案異議ナキモ流水量ノ決定ハ関係者ニ於テ実地視察ヲ遂ケタル上細則ヲ以テ規定スルコトニ満場同意ス、尚第二十六番(室伏平右衛門)議員ヨリ本用水使用権ハ従来数回転々シテ而モ未ダ事業ニ着手セサルカ如キ甚タ遺憾ナルヲ以テ今回本契約ヲ締結シ

タル以上ハ他ニ転スルコトナキ様特ニ規定シ置クノ必要ヲ認ムル旨発議アリ、之ニ対シ番外ハ官有水面ノ使用又ハ其ノ変更ハ関係行政団体ノ同意ヲ経ルニアラサレハ県知事ヨリ許可セラレサルノ規定ナルカ故ニ特ニ斯ノ如キ契約ヲナシ置クノ必要ナカルヘシ、万一後日斯ル場合ノ生スルコトアリトスレハ必ス組合会ノ決議ヲ要スルモノナルカ故ニ其使用者ノ変更ヲ認ムルト否トハ一ニ組合会ノ権限ニ属シ決シテ他ヨリ侵サルヽコトナシ、即今回議第十号トシテ水利権譲渡承諾ノ決議ヲ要シタルニ依ルモ明瞭ナル旨ノ弁明セリ他ニ異議ナシ依テ第二読会ノ可決ヲ告ケ第三読会ヲ開ク、第二読会決議ノ通リ異議ナキヲ以テ本案ノ確定ヲ宣告セリ

議長(副管理者)議案全部議了シタル旨ヲ述ヘテ退席シ管理者議長席ニ復ス

七　閉会　管理者閉会ヲ宣告ス、于時午後五時参拾分

右議事ノ正当ナルヲ證スル為茲ニ署名ス

大正四年五月八日

議長　管理者　泉村長　芹澤多根

同　副管理者　長泉村長　高田與三郎

議員　井上伴學

同　菅沼佐太郎

附属書類

湖議第九号

水力電気事業ニ関スル一切ノ事項ハ副管理者ニ於テ執行ノ件

本組合管理者芹澤多根ハ芦之湖用水ヲ使用シ水力電気事業経営ノ当事者ナルヲ以テ本件ニ関シテハ管理者故障アルモノトシテ一切ノ事項ハ副管理者ニ於テ執行ノ任ニ当ルモノトス

大正四年五月八日提出

同日決議

駿東郡深良村外六ケ村芦湖水利組合管理者

泉村長　芹澤多根

湖議第十号

水利権譲渡承諾ノ件

本組合ノ管理ニ属スル芦之湖用水ヲ使用シ水力電気事業ヲ経営スル為メ明治三十八年八月六日東京水力電気株式会社取締役社長大倉喜八郎ト契約シタル一切ノ権利義務ハ其契約条項ニ基キ東京電燈株式会社ニ於テ譲渡ヲ受ケ継承シ来レルヲ、更ニ同会社ヨリ之ヲ芦之湖水力電気株式会社発起人総代静岡県駿東郡泉村茶畑百四番地芹澤多根ニ譲渡シ同人ニ於テ之ヲ継承スルノ協議成立シタル旨申出アリタルトキハ本組合ハ之ヲ承認シ其申出ヲ承諾スルモノトス、但之カ譲受其他ニ関スル一切ノ費用等ハ芦之湖水力電気株式会社発起人総代芹澤多根ニ於テ負担シ本組合ハ之カ責ニ任セサルモノトス

大正四年五月八日提出

同日決議

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合副管理者

長泉村長　高田與三郎

湖議第十一号

芦之湖用水使用承諾ノ件

芦之湖水力電気株式会社発起人総代静岡県駿東郡泉村茶畑百四番地芹澤多根ト別紙契約證書ノ通リ契約ヲ締結シテ本組合ノ管理ニ属スル芦之湖用水ノ使用ヲナサシムルモノトス

大正四年五月八日提出

同日決議

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合副管理者

長泉村長　高田與三郎

工事着手届

大正四年五月八日御契約ニ基キ水力電気事業ニ関スル準備工事ニ着手致候間此段及御届候也

大正五年拾弐月弐拾七日

芦湖水力電気株式会社発起人総代
駿東郡泉村茶畑百四番地
芦澤多根

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合
管理者　泉村長　勝俣邦俊殿

追テ契約第十二条ニ依ル湖用水使用料
金壱百円納付候也

本工事着手延期願

大正四年五月八日御契約ニ基キ大正五年十二月二十七日附ヲ以テ届出候通水力電気事業ニ関スル準備工事ニ着手致候得共本工事着手ノ義ハ延期致度候間御聞済相成度此段願出候也

大正六年二月二十一日

芦湖（ママ）水力電気株式会社発起人惣代
芦澤多根印

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合
管理者　泉村長　勝俣邦俊殿

工事着手延期願

大正四年五月八日御契約ニ基キ大正五年十二月二十七日附ヲ以テ届出候通リ水力電気事業ニ関スル準備工事ニ着手致候処、本工事着手ノ義ハ来大正七年二月末日迄延期致度候間御聞済相成度此段願出候也

大正六年十二月十三日

芦之湖水力電気株式会社発起人惣代
芦澤多根印

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合
管理者　泉村長　勝俣邦俊殿

追テ契約第十二条ニ依ル大正六年度湖用水使用料金弐百円納付致候ニ付申添候也

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三六　大正二年（一九一三）四月二一日　箱根湖用水掛新田開鑿差止申請書

箱根湖用水掛新田開鑿差止申請書

駿東郡富岡村上ケ田ノ如キハ去ル明治七年中箱根湖用水掛井組弐拾八ケ村ト定約田反別五百参拾壱町五反四畝廿歩ノ外ハ如何ナル事故アルモ畑及原野山林其他ノ土地ヲ田地ニ致ス間敷定約アリ、又明治拾参年五月拾五日上ケ田村小前一同ヨリ同村戸長役場ヘ差出シタル別紙請書写ノ通リナルニ時世ノ進歩ニ従ヒ頻々トシテ諸規則ノ変更改正アリ、一方行政庁ハ地主ニ地目変換ノ自由ヲ与ヘラレ明治七年及同拾参年五月拾五日ノ規約アルヲモ顧ミズ地目変換ノ自由ヲ幸機トシ畑及原野山林其他ノ土地ヲ田地ニ変換スル勘カラズ、故ニ従来ノ田地ニ引用水ノ缺乏ヲ来タシ其損害ヲ蒙ル多大トス、現ニ上ケ田字上ケ田三〇一番田一畝十一歩ノ如キハ上部ニ新田ヲ開墾セラレシ為メ幾年モ水ニ欠缺シ収獲スル能ハズ、一朝旱魃ノ際ハ過去明治廿一年ノ如キ農民竹鎗銃器ヲ携ヘ死ヲ以テ勝敗ヲ決スルノ重大事件ヲ匿起シタルニアラズヤ、豈ニハカランヤ現今ノ如ク下流ノ旱害ヲ憂慮セズ猥リニ新田ヲ開鑿セラレテハ従来ノ古田ハ水利ノ缺乏ヲ受クルハ疑フベカラズ、何卒芦湖水利組合水配人ハ良シク組合役場ト協議ノ上実地々押調査ヲ遂ゲラレ新田ハ該規約ニ基キ速ニ旧ニ復セシメラレ度別紙図面及明治拾参年五月拾五日請書写相添此段及申請候也

参考本文ノ通リ芦湖水利管理役場駿東郡長芹澤多根殿ヘ壱通提出ス

駿東郡富岡村上ケ田

大正二年四月廿一日

勝又源吉㊞
八木茂作㊞
柏木彦太郎㊞
八木かね㊞
大沼儀市㊞
大沼要吾㊞

駿東郡長泉村竹原

駿東郡長泉村竹原

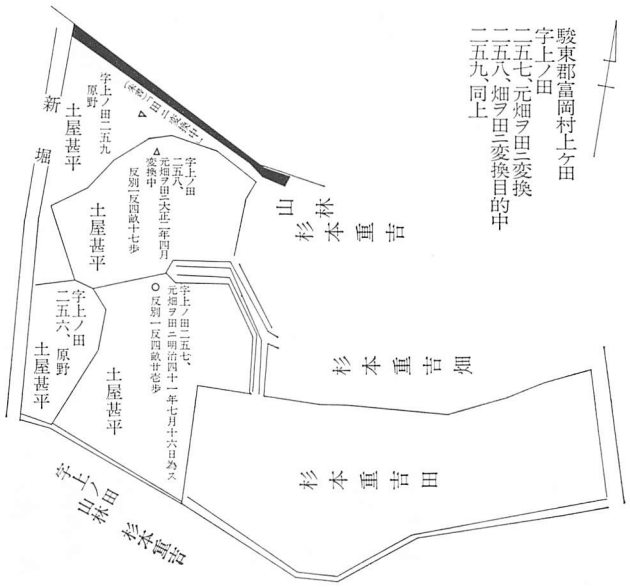
同郡同村下土狩　木村国太郎㊞
駿東郡長泉村中土　鈴木新平㊞
同郡同村同所　神山猪之作㊞
同郡同村下土狩　有賀彦太郎㊞
同郡清水村新宿　関宇吉㊞

芦湖水利組合管理役場
駿東郡泉村長　芹澤太根殿(74)

(別紙図面)
差入申請證書

駿東郡上ヶ田村

一当村之儀去ル明治七年中箱根湖用水掛リ井組弐拾八ケ村改正反別定約反別取調後増加可致筈無之ノ処、万一心得違之者有之候而ハ井組一同ニ対シ不相済儀勿論其御筋へ対シ候テハ恐入リ候義ニ付、村内一同相互ニ心付右定約ニ違約之者有之井組合ヨリ差当有之候節ハ新開多少ニ不拘雑費及村吏惣代之者へ時ニ相当ノ日当ノ日当迄悉皆其本人ヨリ差出シ可申其節彼是苦情申間敷、



為後日村中一同協議ノ上定約仕連印之請書差入レ置候
如件
明治拾参年五月拾五日
右小前

柏木文平　八木與祖市
柏木平八　荻野多吉
柏木松二郎　杉本関三郎
柏木角蔵　土屋忠作
柏木武平　荻野庄七郎
柏木甚蔵　勝又治三郎
柏木銀蔵　勝又大吉
柏木新七郎　勝又庄三郎
勝又滝蔵　土屋伝四郎
秋山欣道　土屋佐十郎
八木利平　勝又勝蔵
杉本長吉　土屋藤七
杉本忠吉　土屋甚平
土屋儀三郎　八木和吉
八木七郎平
八木亀吉
八木長吉

勝又まさ

（裾野市上ヶ田　柏木新吾氏所蔵）

三七　大正四年（一九一五）一月二五日　芦湖水利組合の成立経過

湖議第四号

駿東部深良村深良・岩波、富士岡村神山、富岡村上ヶ田・金澤・葛山・御宿・千福・桃園、小泉村石脇・佐野・二ッ屋・富澤・水窪・伊豆島田、泉村久根・公文名・稲荷・茶畑・平松、長泉村南一色・納米里・上土狩・中土狩・下土狩・竹原、清水村新宿・伏見ノ七ケ村二十八大字ニ於テ専用スル相模国足柄下部元箱根村地籍芦之湖疏水ハ今ヲ去ル二百五十有余年前寛文年間江戸ノ人友野與右衛門・長濱半兵衛・尼ケ崎嘉右衛及浅井次郎兵衛ノ四氏発起トナリ、官ノ許可ヲ得私費ヲ投シテ芦之湖字四ツ留水閘其他附属工作物ヲ設ケ駿相ノ境ナル駿河津峠ニ長七百三十八間ノ隧道ヲ堀鑿シ、且下流黄瀬川ニ至ルマテ水路ヲ穿チ又芦之湖字逆川口ニハ別ニ水閘ヲ築キテ湖水貯蔵ニ便シ、以テ前記二十八大字田地五百三十余町歩ノ灌漑用水ニ供シツヽ今日ニ及ヘリ

而シテ之カ行政上ノ組織ハ往時駿東郡井組二十九ケ村ト称シタリシモ明治七年従来用水区域タリシ泉村ノ内麦塚用水区域ヲ脱シタルヨリ以来井組二十八ケ村或ハ深良村外二十七ケ村ト称シタリキ、明治十八年水利土功会ヲ起シ駿東郡深良村外二十七ケ村水利土功協議会ト称シ町村制施行ノ後モ猶明治二十年法律第十一条ニ依リテ存続セリ、然ルニ明治三十年三月改メテ町村制ニ依ル一部事務組合ノ組織成ル、抑モ本組合ハ上記ノ如ク沿革ノ上ヨリスルモ将又事実ノ上ヨリ見ルモ純然タル水利組合ナルニ拘ハラス水利組合条例ニ依ラス町村組合ヲ設置スルニ至レルハ、明治二十九年中芦之湖字逆川口ニ本組合ノ設置セル水閘破毀事件ニ付本組合村相模国足柄下郡仙石原村外二ケ村ト紛争ヲ醸シ遂ニ公私訴ヲ提起スルノ已ムナキニ至リ、之カ処理上組合設置ノ急ナルヲ要シタルモ当時水利組合条例ハ本県ニ施行セラレス之ニ依ル能ハサリシ

ヨリ止ムヲ得ス応急ノ手段トシテ町村組合ヲ設ケテ訴訟事件ノ処理ヲ了シタリ、其ノ後水利組合条例ノ本県ニ施行セラルヽニ及ヒ速カニ組織変更ノ手続ニ出ツヘカリシヲ当時其ノ手続ヲ怠リシカ故ニ明治四十一年水利組合法発布セラルヽニ際シテモ其ノ附則ノ適用ヲ受クルコト能ハス今猶町村組合トシテ存続スル所以ナリ、仍チ此際更ニ本組合ノ区域ヲ以テ水利組合法ニ依ル普通水利組合ヲ組織シ同時ニ本組合ヲ解除スルノ手続履行スヘク準備ヲナサムトス、依テ組合規約案ヲ添ヘ本会ノ意見ヲ諮フ

大正四年一月二十五日

駿東郡深良村外六ケ村芦之湖水利組合
管理者
泉村長　芹澤多根

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三八　大正四年（一九一五）　静岡県駿東郡芦之湖普通水利組合規約

静岡県駿東郡芦之湖普通水利組合規約（二号）

第一章　総則

第一条　本組合ハ芦之湖普通水利組合ト称ス

第二条　本組合ハ灌漑ノ為メ芦之湖ヲ疏水シ神奈川県足柄下郡箱根町及元箱根村地籍芦之湖字四ツ留水門並ニ附属上作物用水堀割駿河津峠隧道新川筋ノ堤防堰堘及芦之湖字逆川口水閘ヲ修築保存スルヲ以テ目的トス

第三条　本組合ノ区域ハ旧慣ニ依リ定ムルコト別冊ノ如シ

第二章　組合会ノ組織及選挙

第四条　組合会議員ノ定数ハ二十八人トシ選挙区ノ数及区域并ニ各選挙区ヨリ選出スル議員ノ員数左ノ如ク定ム、但シ一大字一人ヲ起（ママ）ユルコトヲ得ス

第一区　駿東郡深良村　二人
第二区　同　小泉村　六人
第三区　同　冨士岡村　一人

第四区　同　冨岡村　六人
第五区　同　同　泉　村　四人
第六区　同　同　長泉村　六人
第七区　同　同　清水村　二人

第五条　組合員ニシテ満二十五年以上ノ男子区域内ニ於テ土地ヲ選挙期日前満一年以上間断ナク所有スル者ハ選挙権ヲ有ス、但シ禁治産者準禁治産者ハ此ノ限リニアラス

○家督相続ニ因リ土地ヲ収得シタル者ハ其ノ土地ニ付被相続人ノ所有シタル年限ヲ通算ス

○共有者其ノ共有ノ土地ニ付前二項ニ該当スルトキハ総代人一人ヲシテ選挙権ヲ有セシム

○六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ処セラレタルモノ及旧刑法ノ重罪ノ刑ニ処セラレ復権ヲ得サルモノハ選挙権ヲ有セス

第六条　選挙権ヲ有スルモノハ其ノ住所ニ依リ所属ノ選挙区ヲ定ム、組合ノ区域内ニ住所ナキ者ハ所有土地ノ所在ニ依リ若所有ノ土地ニシテ数選挙区ニ渉ル場合ハ所有反別最モ多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ之ヲ定ム

第七条　選挙権ヲ有スル者租税滞納処分中ハ其ノ選挙権ヲ停止ス、家資分産又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復権ノ決定確定スル迄又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

○陸海軍ノ現役ニ服スルモノハ選挙ニ参与スルコトヲ得ス、現役以外ノ兵役ニ在ルモノニシテ戦時又ハ事変ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第八条　組合員ニシテ区域内ニ於テ所有スル土地ノ反別選挙権ヲ有スルモノヽ最多ヲ所有スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第五条第一項ノ

要件ニ当ラスト雖モ選挙権ヲ有ス、但前条ノ場合ニ当ル者ハ此ノ限リニアラス

○帝国ノ法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ前項ノ場合ニ当ルトキ亦同シ

第九条　選挙権ヲ有シ組合区域内ニ住所ヲ有スル組合員ハ其ノ住所ニ於テ被選挙権ヲ有ス、但前条及第五条第三項ニ該当スルモノハ此ノ限リニアラス

○左ニ掲クル者ハ被選挙権ヲ有セス、其ノ之ヲ罷メタル後一ケ月ヲ経過セサルモノ亦同シ

一　所属県郡ノ官吏及有給吏員

二　組合ノ有給吏員

三　検事警察官吏及収税官吏

四　神官神職僧侶其他諸宗教師

五　小学校教員

○組合ニ対シ工事ノ請負物件労力其ノ他ノ供給契約ヲナシ若ハ組合ノ為メ金銭出納ノ取扱ヲナスモノ又ハ同一ノ行為ヲ為ス法人ノ役員ハ被選挙権ヲ有セス

○父子兄弟タル縁故アルモノハ同時ニ組合会議員タルコトヲ得ス、其ノ同時ニ選挙セラレタルトキハ得票ノ数ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ当選トシ若同数ナルトキハ年長者ヲ当選トス、其ノ時ヲ異ニシテ選挙セラレタルトキハ後ニ選挙セラレタルモノ議員タルコトヲ得ス、管理者又ハ其ノ代理者トノ間ニ父子兄弟タル縁故アルモノハ之ト同時ニ組合会議員タルコトヲ得ス、若議員トノ間ニ其ノ縁故アルモノ管理者ニ指定セラレ又ハ代理者トナリタルトキハ其ノ縁故アル議員ハ其ノ職ヲ失フ

第十条　組合会議員ノ任期ハ四年トス

第十一条　組合会議員中闕員ヲ生シ其ノ闕員議員定数三分ノ一以上ニ至リタルトキ、監督官庁ノ命令アリタルトキ又ハ管理者若ハ組合会ニ於テ必

要ト認ムルトキハ補闕選挙ヲ行フヘシ

○補闕議員ハ其ノ前任者ノ残任期間在任ス

○補闕議員ハ前任者ノ選挙セラレタル選挙区ニ於テ之ヲ選挙スヘシ

第十三条　管理者ハ選挙期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選挙区毎ニ選挙人ノ資格ヲ記載セル選挙人名簿ヲ調製スヘシ

○管理者ハ其ノ選挙期日前二十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ三日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄指定ノ場所ニ於テ選挙人名簿ヲ関係者ノ縦覧ニ供スヘシ、若関係者ニ於テ異議アルトキハ縦覧期間内ニ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ管理者ハ縦覧期限後三日以内ニ組合会ノ決定ニ附スヘシ、組合会ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

○前項ノ決定ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ管理者ハ其ノ確定期日迄ニ修正ヲ加フヘシ

○選挙人名簿ハ選挙期日前三日ヲ以テ確定ス、本条ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定ノ日ヨリ四年以内ニ於テ行フ選挙ニ之ヲ用ウ

○確定名簿ニ登録セラレサル者ハ選挙ニ参与スルコトヲ得ス、確定名簿ニ登録セラレタル者選挙権ヲ有セサルトキ亦同シ但名簿ハ之ヲ修正スル限リニアラス

○異議ノ決定アリタルニ依リ名簿無効ト為リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ、其ノ名簿ノ調製縦覧修正及確定ニ関スル期日及期限等ハ管理者ノ定ムル所ニ依ル天災地変等ニ依リ名簿ヲ喪失シタルトキ亦同シ

○選挙人名簿調製後ニ於テ選挙ノ期日ヲ変更スルコトアモ（ママ）其ノ名簿ヲ用井（ママ）縦覧修正及確定ニ関スル期日等ハ前選挙期日ニ依リ之ヲ算定ス

第十三条　選挙ヲ行フトキハ管理者ハ選挙ノ日ヨリ少ク

トモ七日前ニ各選挙区ニ於ケル選挙会場投票ノ日時及選挙スヘキ議員数ヲ告示スヘシ

○投票時間内ニ選挙会場ニ入リタル選挙人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲナスコトヲ得

○各選挙区ノ選挙ハ同日時ニ之ヲ行フヘシ

第十四条　各選挙区ニ於ケル選挙会ハ管理者又ハ其ノ求メニ依リ村長選挙長トナリ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス、管理者ハ選挙区毎ニ臨時ニ選挙人中ヨリ二人乃至四人ノ選挙立会人ヲ選任スヘシ

第十五条　選挙人ノ外選挙会場ニ入ルコトヲ得ス、但シ選挙会場ノ事務ニ従事スル者選挙会場ヲ監視スル職権ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限リニアラス

○選挙会場ニ於テ演説討論ヲ為シ若ハ喧擾ニ渉リ又ハ投票ニ関シ協議若ハ勧誘ヲ為シ其ノ他選挙会場ノ秩序ヲ紊ルモノアルトキハ選挙長ハ之ヲ制止シ命ニ従ハサルトキハ之ヲ会場外ニ退出セシムヘシ

○前項ニ依リ選挙会場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ為スコトヲ得、但シ選挙会場閉鎖後ハ此ノ限リニアラス

第十六条　選挙ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

○投票ハ一人一票ニ限ル

○選挙人ハ選挙ノ当日自ラ選挙会場ニ至リ選挙人名簿ノ対照ヲ経テ投票スヘシ

○選挙人ハ選挙会場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選挙人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

○投票用紙ニハ選挙人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

○自ラ被選挙人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ為スコトヲ得ス

○投票用紙ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

○選挙人名簿調製後選挙人所属選挙区ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選挙人ハ前所属ノ選挙区ニ於テ投票ヲ行フヘシ

第七条　第八条第壱項・第二項ニ依リ選挙権ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選挙ヲ行フコトヲ得、但シ満二十五年以上ノ男子ニ非サル者禁治産者及準禁治産者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

○代人ハ帝国臣民ニシテ満二十五年以上ノ男子ニ限ル

○第五条第四項及第七条ニ当ル者ハ代人タルコトヲ得ス、又一人ニシテ数人ノ代理ヲナスコトヲ得ス

○代人ハ委任状其ノ他代理ヲ証スル書面ヲ選挙長ニ示スヘシ第五条第三項ノ総代人モ亦此ノ例ニ依ル

第六条　左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一　成規ノ用紙ヲ用井(ママ)サルモノ

二　現ニ組合会議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三　一票中二人以上ノ被選挙人ヲ記載シタルモノ

四　被選挙人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五　被選挙権ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六　被選挙人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ、但爵位職業身分住所又ハ敬称ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限リニアラス

第七条　投票ノ拒否及効力ハ選挙立会人之ヲ議決ス、可否同数ナルトキハ選挙長之ヲ決スヘシ

第二十条　組合会議員ノ選挙ハ大字毎ニ有効投票ノ最多数ヲ得タル者ヲ以テ当選者トス

○前項ニ依リ当選挙者ヲ定ムルニ当リ得票ノ数同シキトキハ年長者ヲ取リ年齢同シキトキハ選挙長抽籤シテ之ヲ定ム

第二十一条　選挙長ハ選挙録ヲ調製シテ選挙ノ顛末ヲ記載シ選挙ヲ終リタル後之ヲ朗読シ選挙立会人二

人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

○選挙録ハ投票選挙人名簿其ノ他関係書類ト共ニ選挙及当選ノ効力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十三条　選挙ヲ終リタルトキハ選挙長ハ直ニ当選者ニ当選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選挙録ヲ添ヘ当選者ノ住所氏名ヲ管理者ニ報告スヘシ

○当選者ニシテ当選ヲ辞セムトスルトキハ当選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ管理者ニ申立ツヘシ

第二十三条　組合会議員ノ当選ヲ辞シタルモノアルトキハ第二十条ノ例ニ依リ之ヲ補フヘキ当選者ヲ定ム

第二十四条　得票数ノ査定ニ錯誤アリタル為メ又ハ被選挙権ヲ有セサル為メ其ノ他当選無効ト確定シタルトキハ第二十条ノ例ニ依リ更ニ当選者ヲ定ム

第二十五条　選挙又ハ当選無効ト確定シ若ハ議員ノ定数ニ足ル当選者ヲ得ル能ハサルトキハ不足ノ員数ニ対シ其ノ選挙区ニ於テ更ニ選挙ヲ行フヘシ

第二十六条　組合会議員ノ選挙人名簿及選挙録ハ市町村会議員選挙人名簿及選挙録書式ヲ準用ス

第三章　組合吏員ノ組織及選任

第二十七条　本組合ニ常設委員七人及必要ニ応シテ臨時委員若干ヲ置キ組合員中被選挙権ヲ有スル者ニ就キ管理者ノ推薦ニ依リ組合会之ヲ選任ス、但シ常設委員中一人ハ組合区域内村長タル者ヨリ前項ノ例ニ依リ選任ス

第二十八条　委員ニシテ其ノ資格ノ要件ヲ喪失シタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第二十九条　常設委員ノ任期ハ四年トス

第三十条　常設委員中闕員ヲ生シタルトキハ補闕選挙ヲ行フヘシ補闕委員ハ其ノ前任者ノ残任期間在任ス

第三十一条　本組合ニ左ノ有給吏員ヲ置ク

書記　二人

第四章　事業

第三十二条　水門戸ノ開閉及水源涵養灌漑用水ノ分配分水ノ目標悪水排除水路浚渫水門附属工作物隧道其ノ他堤防ノ修築堰塘ノ築造等ハ総テ旧慣ニ依ルモノトス

第五章　財務

第三十三条　本組合ハ必要ナル経費ヲ組合内土地ニ賦課シ其ノ段別ヲ準率トシテ均一ニ徴収ス、但賦課率ハ毎年予算ノ定ムル所ニ依ル

第三十四条　新ニ本組合ノ区域内ニ編入スル土地ニ対シテハ組合費ノ外壱段歩ニ付金拾円ノ割合ヲ以テ一時ノ加入金ヲ徴収スヘシ

第三十五条　本組合ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ組合員ノ全部又ハ一部ニ賦課スルコトヲ得、但シ学芸美術及手工ニ関スル労役ヲ課スルコトヲ得ス、夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外段別ヲ準率ト為シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

○夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ従ヒ本人自ラ之ニ当リ又ハ適当ノ代人ヲ出スコトヲ得、又夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金銭ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十六条　夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ為サス、又ハ夫役現品ニ代フル金銭ヲ納メサルトキハ管理者ハ期限ヲ指定シテ督促スヘシ、其ノ急迫ノ場合ニ賦課シタルモノニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

第三十七条　水利組合法第五十四条ニ依リ区域内村ニ於テ管現（ママ）者ノ求メニ依リ組合費其ノ他ノ収入ノ徴収ヲ為ストキハ之ニ対シテ徴収金百分ノ四ヲ其ノ村ニ交付スヘシ

附則

本規約ニ定ムルモノヽ外組合会ニ於テ議決シタル特別規程又ハ旧来ノ慣例ニ依ル、但本規約及特別ノ規定ニ定メナク又慣例ナキ事項ニ付テハ組合会ノ議決ニ依ル

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三九　大正七年六月一四日（一九一八）　深良製材製函工場との契約書

印紙　契約書

静岡県駿東郡深良村深良製材製函工場発起人代表者松井謙保ニ於テ中郷深良村深良、小泉村佐野・石脇・二ツ屋、泉村久根・公文名・茶畑・平松ノ三ケ村八ケ大字池内ノ田地灌漑及飲用水其他ニ供用スル黄瀬川支流佐野堰川流域ヲ使用シ事業ヲ経営スルニ付キ、発起人代表者松井謙保ハ中郷各関係大字人民総代ニ対シ左記ノ事項ヲ契約ス

一　起業者ハ中郷右関係大字田地灌漑並ニ飲料用水其他ニ関シ支障ナカラシムルコト

二　起業者事業経営地ハ駿東郡深良村深良若クハ小泉村、泉村地籍ニ於テ事業ヲ経営シ電力使用ノ場合ハ他ヘ動力ヲ転送セザル事

三　起業者ハ事業工事着手ノ時ヨリ向フ弐拾ケ年間中郷組合ヘ対シ用水費トシテ年額金壱百円以上ヲ毎年六月参拾日限リ中郷組合総代ヘ支払フモノトス

但シ事業ノ状況ニ依リ用水費ヲ変更スルコトヲ得

四　起業者ハ起業設計ニ係ル書類及図面ノ謄本ヲ本契約書ニ添附シ置ク事

五　起業者ニ於テ第三項ノ期限ノ継続又ハ期間内ト雖モ事業ノ変更ヲ為ス場合アル時ハ中郷ノ承諾ヲ受クル事

六　起業者ニ於テ前記各項ノ義務不履行ノ場合ハ保証人ハ総テノ責メニ任ズルモノトス

右差入契約証書依テ如件

大正七年六月拾四日

駿東部深良村深良

起業発起人代表者　松井謙保㊞

駿東郡同村同所
保証人　小林僖一印
駿東郡深良村岩波
保証人　井上伴學

芦湖水利組合中郷
駿東郡小泉村
佐野人民総代　杉山徳次郎殿
石脇人民総代　大庭幾太郎殿
二ツ屋人民総代　菅沼佐太郎殿
駿東郡泉村
久根人民総代　室伏金作殿
公文名人民総代　藤原重次殿
茶畑人民総代　山本　凸殿
平松人民総代　服部大(ママ)浦殿
駿東郡深良村
深良人民総代　大庭捨次殿

（裾野市佐野　佐野区有文書）

三三〇　大正七年（一九一八）八月二一日　国家功労者贈位詮議の通牒により完成者内申

庶第二五五号
大正七年八月廿一日　第一課長印
各町村長殿

国家功労者ニ関スル件

今秋陸軍特別大演習ニ際シ国家功労者ニ対スル贈位ノ詮議可有之筈ニ付、功労最モ顕著ナル者精選方其筋ヨリ移牒有之候ニ付本月末日迄ニ其ノ事績ヲ具シ御内申相成度依命此段及通牒候也

追テ該当見込ノ者アラハ不取敢其正名及事蹟ノ概要ヲ記シ御通報ノ上本文ニ依リ御精査相成度申添候

三一　大正八年（一九一九）　用水使用各社との契約書

（表紙）

自大正八年
至

用水使用関係

芦湖水利組合

記号番号	湖第二号	回議	大正　年　月　日
発送日付	大正七年九月七日	発送記名	深良村外六ヶ村芦湖水利組合管理者静岡県駿東郡泉村長勝俣邦俊
宛名	駿東郡長川西実三殿		

国家功労者内申ノ件

箱根芦ノ湖疏水工事完成者友野與右衛門外三名ハ国家ノ功労者トシテ最モ顕著ナルモノト相認メ、客月二十一日附庶第二五五号御通牒ニ基キ取調候条御詮議相成候様御取計相成度此段内申候也

村長	代理助役	議合	主任	（割印）
㊞			㊞	

（裾野市役所深良支所所蔵）

記号番号	第　号	回記	大正　年　月　日
発送日付	大正　年　月　日	発送記名	静岡県駿東郡泉村
宛名			

駿東郡長泉村本宿
株式会社高野製紙所
取締役　高田與三郎

大正六年九月十日附願黄瀬川用水ヲ発電用ニ使用ノ件組合会ノ議決ヲ経テ承認ス

村長	代理助役	議合

任主

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合

大正八年三月　日　管理者　駿東郡泉村長　勝俣邦俊

深良村外六ヶ村組合
大正六年九月十二日
第二一六号受付

印

承認願

駿東郡富岡村桃園字定輪寺六十七番地先ヨリ木瀬川本流ヲ取入レ同郡小泉村富沢ヲ経テ同大字　字　四百五十八番地先木瀬川本流ニ放水

今般前記地先ニ於テ水利使用致シ当会社自家用発電所設置致度候間、水利使用御承認被成下度此段相願候也

駿東郡長泉村本宿

株式会社高野製紙所取締役

工場印

高田與三郎印

熊谷平次郎印

大正六年九月十日

深良村外六ヶ村水利組合管理者

泉村長　勝又邦俊殿

長村	代理助役	議合	任主

記号番号	第　号	回議	大正　年　月　日
発送日付	大正　年　月　日	発送記名	静岡県駿東郡泉村
宛名			

駿東郡泉村久根

裾野製紙株式会社

取締役社長　小久保六郎

大正八年一月二十八日附願黄瀬川支流野田川用水ヲ製紙動力用ニ使用ノ件組合会ノ議決ヲ経テ承認ス

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合

大正八年三月　日　管理者　駿東郡泉村長　勝俣邦俊

長村	代理助役
㊞	

記号番号	湖第一六号ノ一	回議	大正　年　月　日
発送日付	大正八年四月二十五日	発送記名	管理者 静岡県駿東郡泉村長
宛名	静岡県知事		

駿河製紙株式会社発起人岡野喜太郎外十名及

合議	主任㊞
駿河電化工業株式会社発起人松井謙保外十六名出願本組合管理ニ属スル用水使用ノ件、駿東郡役所ヨリノ御照会ニ基キ深良村外六ケ村芦湖水利組合会ニ諮問シ、大正七年九月二十日其決定ヲ以テ使用差支無之旨答申致置候処、別紙清水村長回答書写ノ通リ駿河製紙株式会社ハ本年三月十日解散致候条此段及報告候也	

深良村外六ケ村組合
大正八年四月二十五日
第　三号受付
印

御照会ニ係ル本村内ニ設立之計画セル駿河製紙株式会社ハ大正八年三月十日都合上解散セシニ相違無之候、此段御廻答及候也

大正八年四月廿四日

清水村長　高田謙八郎㊞

箱根湖用水組合管理者
泉村長　勝俣邦俊殿

湖諮第一号

別記ノ通リ水利使用ニ付故障ノ有無取糺アリタルニ付本組合ノ意見ヲ諮フ

大正七年九月十三日

深良村外六ケ村芦湖水利組合管理者
泉村長　勝俣邦俊

駿河製紙株式会社発起人
岡野喜太郎　外十名

電気事業概要書

一目的並使用期間

(イ)目的　水力電気ヲ発生シ今般設立スル会社ノ製紙用動力及其工場内点燈ニ使用ス

(ロ)使用期間　事業開始ノ日満参拾ケ年間

二　供給区域又ハ鉄道若ハ軌道経過地並図面
(イ)供給区域　駿東郡小泉村佐野ヘ設立スル工場内
(ロ)鉄道経過地ナシ
(ハ)軌道経過地ナシ
三　発電力　七百拾キロワット

駿河電化工業株式会社発起人
松井謙保　外十六名

起業計画説明書

第一　起業概要
一　起業者ノ氏名
静岡県駿東郡深良村大字深良二千三百七十九番地ノ一
駿河電化工業株式会社創立発起人
二　目的
電気化学工業(主トシテ炭化石灰ノ製造販売)
三　工場ノ位置
駿東郡深良村大字深良字中沢二百二十八・二百二十九及二百三十番地
四　河川並ニ取入口放水口ノ位置
河川名　幹川　狩野川支川黄瀬川
第一水路取入口　富岡村御宿地内千百三十八番地
放水口　同　村同所地内千八十四番地
第二水路取入口　深良村深良字カラウト地先千百二十八番地
放水口　同　村同所字中島地先九百九十四番地
第三水路取入口　同　村同所字柏木田地先九百五十七番地
放水口　小泉村石脇字佐野堰地先五百八十四番地
五　使用水量
第一水路　毎秒時　百五十立方尺
第二水路　毎秒時　百二十立方尺

第三水路　毎秒時　百立方尺

六　有効落差

第一水路　七十八尺

第二水路　四十尺

第三水路　二十六尺五寸

七　理論馬力数

第一水路　千三百三十馬力

第二水路　五百四十五馬力

第三水路　三百壱馬力

計　二千百七十六馬力

八　発電力

第一水路　七百四十四「キロワット」

第二水路　三百〇五「キロワット」

第三水路　百六十八「キロワット」

計　一千二百十七「キロワット」

但シ能率ヲ七割五分トシテ計算ス

九　使用期間

許可ノ日ヨリ二十ケ年

答申

大正七年九月十三日諮問湖諮第一号水利使用ハ差支無之、但該水路ハ本組合ノ灌漑用水ニ使用スルノミナラス飲料水ニ供シツヽアルヲ以テ河水ヲ混濁シ若クハ公衆衛生ニ害アル事業ニ対シテハ組合ハ極力故障ヲ申立ツルモノトス

右答申候也

大正七年九月二十日

駿東郡深良村外六ケ村芦湖水利組合会議長

管理者　泉村長　勝俣邦俊

建議書

製紙事業ハ河水ヲ混濁シ衛生上至大ノ影響ヲ及ボスモノニ付本組合内ニ於テ該事業ヲ経営セントスル者アルモ組合ハ極力之ヲ故障スルモノトス

右急施組合会御召集御決定相成度及建議候也

大正七年九月二十日　　議員

永井嘉六郎㊞
室伏幾太郎㊞
上杉貞治郎㊞
大庭幾太郎㊞
菅沼佐太郎㊞
渡辺孫三郎㊞
杉山彌太郎㊞
小林僖一㊞
秋山村治郎㊞
服部房太郎㊞

深良村外六ヶ村水利組合管理者
泉村長　勝俣邦俊殿

記号番号	湖第一八号ノ二	回議	大正　年　月　日
発送日付	大正七年九月二十日	発送記名	静岡県駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合管理者 静岡県駿東郡泉村長　勝俣邦俊

村長	代理助役	合議	主任		
㊞			㊞		（契印）
宛名	駿東郡長川西実三殿				
	黄瀬川筋水利使用ノ件				
	標記ノ件ニ付本組合会ニ諮問シタル処別紙ノ通リ答申ノコトニ決定候条此段及御回報候也				

答申
（九〇八頁掲載答申と同文）

湖諮第一号
（九〇六掲載と同文）

駿河製紙電気事業概要書

（九〇六頁掲載と同文）

駿河電化工業起業計画説明書

（九〇七頁掲載と同文）

土第六三二号

大正七年六月二十九日　　第二課長印

深良村外六ケ村芦湖水利組合

管理者　泉村長殿

黄瀬川筋水利使用ニ関スル件

富岡村御宿地先黄瀬川筋上流河水ヲ引用シ自家用電気ヲ発生シ製紙用又ハ電気化学工業用動力ニ供セントシ左記ノ者ヨリ水利使用ノ義願書有之候ニ就テハ、右水利使用ニ関シ貴組合ニ於ケル支障ノ有無ニ付組合会ノ意見ヲ徴シ御回答相成度願書写添付此段及照会候也

土第五九〇号

大正七年六月十七日　　第二課長

村長殿

黄瀬川筋水利使用ノ件

標記ノ件ニ関シ左記ノ者ヨリ郡下富岡村御宿地先黄瀬川筋上流河水ヲ引用シ自家用電気ヲ発生シ製紙用動力トナス、水利使用ノ件願出ニ就テハ平時ニ於ケル公益上支障有無ニ付村会ノ意見ヲ徴シ御回答有之度願書写添付及照会候也

記

駿河製糸株式会社発起人

岡野喜太郎　外十名

駿河電化工業株式会社発起人

松井謙保　外十六名

願書写左ノ通リ

電気事業ノ為メ水利使用願

静岡県駿東郡富岡村御宿及同郡深良村岩波・新田ノ間ヲ貫流スル黄瀬川上流ノ河水ヲ引用シ水力電気ヲ発生シ、今般設立スル駿河製紙株式会社ノ製紙用動力及其工場内

自家用電燈ニ使用致度候間右水利使用ノ儀御許可被成下度、別紙電気起業概要書工事計画説明書及関係図面相添へ此段奉願候也

大正六年三月七日

駿河製紙株式会社創立発起人
静岡県駿東郡鷹根村青野三番地
岡野喜太郎　印
同県同郡清水村柿田五拾弐番地
関本寅吉　印
静岡市江川町七番地
望月幾平　印
庵原郡富士川町岩淵四百四拾番地
勝呂平右衛門　印
静岡市日出町二十四番地
田中太次郎　印

静岡県知事　安河内麻吉殿

右

電気起業概要書

一目的並ニ使用期間

(イ)目的　水力電気ヲ発生シ今般設立スル会社ノ製紙用動力及ビ其ノ工場内点燈ニ使用ス

(ロ)使用期間　事業開始ノ日ヨリ満三拾ケ年間

二供給区域又ハ鉄道若クハ軌道経過地並図面

(イ)供給区域　駿東郡小泉村佐野ヘ設立スル工場内

(ロ)鉄道経過地　ナシ

(ハ)軌道経過地　ナシ

三発電力　七百拾キロワット

以上

黄瀬川水利使用許可申請書追加訂正御願

大正六年七月二十五日附ヲ以テ駿河電化工業株式会社工場用原動力トシテ黄瀬川水利使用件出願致置候処、其後引続キ調査ノ結果事項書中一部訂正ヲ要スル個所相生シ

候ニ付追加訂正書提出候条、特別ノ御詮議ヲ以テ至急御許可被成下度此段及申請候也

大正七年二月九日

静岡県駿東郡深良村大字深良二千三百七拾九番地ノ壱

駿河電化工業株式会社

発起人総代　松井謙保　印

同　芹澤多根　印

静岡県知事　安河内麻吉殿

右

起業計画説明書

第壱　起業概要

一　起業者ノ氏名

静岡県駿東郡深良村大字深良二千三百七十九番地ノ壱

駿河電化工業株式会社創立発企人

二　目的

電気化学工業（主トシテ炭化石灰ノ製造販売）

三　工場ノ位置

駿東郡深良村大字深良字中沢二百二十八・二百二十九及二百三十番地

四　河川名並ニ取入口放水口ノ位置

河川名　幹川狩野川支川黄瀬川

第一水路取入口　静岡県駿東郡富岡村御宿地内千百参拾八番地

放水口　同県同郡同村御宿地内千八拾四番地

第二水路取入口　同県同郡深良村大字深良字カラウト地先千百二十八番地

放水口　同県同郡同村大字深良字中島地先九百九拾四番地

第三水路取入口　同県同郡同村大字深良字柏木田地先九百五拾七番地

放水口　同県同郡小泉村大字石脇字佐野堰

地先五百八拾四番地

五　使用水量
第一水路　毎秒時　百五十立方尺
第二水路　毎秒時　百二十立方尺
第三水路　毎秒時　百立方尺

六　有効落差
第一水路　七拾八尺
第二水路　四拾尺
第三水路　弐拾六尺五寸

七　理論馬力数
第一水路　千参百参拾馬力
第二水路　五百四拾五馬力
第三水路　参百壱馬力
計　弐千百七拾六馬力

八　発電力
第一水路　七百四拾四「キロワット」
第二水路　参百〇五「キロワット」
第三水路　百六拾八「キロワット」
計　壱千弐百拾七「キロワット」
但シ能率ヲ七割五分トシテ計算ス

九　使用期間
許可ノ日ヨリ二十ケ年

土第七七二号
大正七年八月二十日　第二課長㊞
深良村外六ケ村芦ノ湖水利組合管理者　泉村長殿
去ル六月二十九日土第六三二号及客月十日土第六六七号ヲ以テ及照会置候黄瀬川筋水利使用ノ件ハ于今何等御回答無之処理上差支候条至急支障ノ有無知事宛書面ヲ以テ御申出相成度

長村			
㊞			
記号番号	湖第一八号ノ三	回議	大正　年　月　日
発送日付	大正　年　月　日	発送記名	管理者 静岡県駿東郡泉村長
宛名	富士岡　長泉　清水村長宛		

代理助役	合議	主任	(契印)
予テ本郡第二課長ヨリ照会相成候駿河製紙株式会社及駿河電化工業株式会社発起人出願黄瀬川筋水利使用ニ関スル件ハ、組合ニ於テ支障ノ有無ヲ決スヘキ筋ニ有之敢テ村会ノ意見ヲ徴スル必要無之モノニ候間、右意味ニ依リ御回答相成度此段及照会候也		追テ参考トシテ泉村ヨリノ回答案添付致候	

創立発起人総代

深良村外六ヶ村芦湖水利組合
管理者　泉村長　勝俣邦俊殿

深良村外六ヶ村組合
大正六年八月二日
第二三号受付

印　松井謙保印
芦澤多根印

記

駿東郡深良村深良字カラウト地先千二百番
同　郡同　村同所地先千百二十八番
同　郡同　村深良字中島地先九百九十四番
同　郡同　村深良字柏木田地先九百五十七番
同　郡小泉村石脇字佐野堰地先五百八十四番

以上

湖用水使用承諾願

拙者等今般動力用発電ノ為メ深良村及小泉村地内別記地先ニ於テ貴管理芦湖用水々利使用致度候間御承諾相成度、御聞済ノ上ハ貴組合会御決議ノ主旨ニ従ヒ可申発起人総代連署ヲ以テ願上候也

大正六年八月一日

駿河電化工業株式会社

工業用発電水利使用願（抄写）

拙者共儀

今般駿河電化工業株式会社ヲ創立シ工場ノ原動力トシテ駿東郡深良村小泉村地先黄瀬川筋三ケ所ニ於テ発電用水利使用致度候間御許可相成度、大正六年七月六日静岡県令第二十六号発電用水利使用規程ニヨリ別紙関係書類並図面相添此段奉願候也

大正六年七月二十五日

駿河電化工業株式会社創立発起人

松井謙保

芹澤多根

外十一名

静岡県知事　安河内麻吉殿

第一　起業ノ概要

一　起業者ノ住所職業及氏名

駿河電化工業株式会社創立発起人

二　起業ノ目的

硫酸及塩酸加里製造ノ目的ヲ以テ工場ノ原動力ニ使用ス

三　工場ハ駿東郡深良村深良ニシテ別紙図面ノ通リ

四　取水河川名　黄瀬川

第一号取水口　駿東郡深良村大字岩波字小鍋田地先二百六十四番

放水口　同郡同村大字深良字カラウト地先千二百番

第二号取水口　同郡同村大字深良字カラウト地先千百二十八番

放水口　駿東郡駿東村深良字中島地先九百九十四番

第三号取水口　同郡同村深良字柏木田地先九百五十七番

放水口　同郡小泉村石脇字佐野堰地先五百八十四番

五　使用水量

第一号取水口ニ於テ毎秒時百二十立方尺

第二号取水口ニ於テ毎秒時百立方尺

第三号取水口ニ於テ毎秒時七十五立方尺

六　有効落差

第一号　八十三尺九寸

第二号　三十六尺二寸

第三号　三十尺六寸

七　馬力数及発電力

第一号　千百四十四馬力　六百十四「キロワット」

第二号　四百十一馬力　二百二十「キロワット」

第三号　二百六十馬力　百三十九「キロワット」

計　千八百十五馬力　九百七十三「キロワット」

八　水ノ使用期間

御許可ノ日ヨリ満二十五ケ年

第二　水路工事

一　水路一覧図及水路予測図

別紙図面ノ通リ

二　計画説明ノ大要

取水河川ノ状態及勾配

本川ハ自然状態ノ河川ニシテ川床ハ悉ク火山岩ヨリ成リ第一取水口ノ上流一千間ノ地点迄ハ勾配約四十分ノ一第三放水口ノ下流一千間ノ地点迄ハ勾配約六十分ノ一トス

取水方法ノ大要

堰堤ヲ築設湛水セシメ制水門扉ヲ附シタル取水門ヲ以テス

水車ノ種類

フランシス式タービン三ケ所

堀鑿土砂ノ数量及処理方法

水路工事ノ大部分盛築ナルヲ以テ堀鑿土砂ハ之ニ流用処理スルモノナリ

切取盛土法面ノ保護　切取法面ニハ張芝ヲ施工シ盛上ノ法面ハ石垣工ヲ施ス

第三　取水河川ノ水量

一　流域面積七、九平方里

二　流域ニ於ケル植林状態

流域内ハ箱根山及愛鷹山方面ニ於テ盛ニ植林行ハルヽモ富士山方面ハ火山灰ノ原野ナリ

第四　起業ト治水其他公益事業トノ関係

一　灌漑用水其他既設許可ノ水利事業ニ及ホス影響并之ニ関スル施設ノ大要

何等ノ関係ナシ

二　舟筏ノ通航流木及漁業ニ及ホス影響并之ニ関スル施設ノ大要

何等ノ関係ナシ

三　名勝旧蹟等ニ及ホス影響并之ニ関スル施設大要

何等ノ影響ナシ

四　取水口堰堤ノ為メ洪水時ニ於ケル水面ノ隆起ニ起因スル影響ノ程度并之ニ関スル設備ノ大要何等ノ影響ナキニヨリ設備ノ要ナシ

五　貯水池設置ニヨリ流出量ニ増減ヲ来ス結果取水河川ノ下流ニ於ケル用悪水路并舟筏ノ通行及流木ニ及ホス影響ノ程度并之ニ関スル施設ノ大要

何等ノ事由ナシ

右静岡県知事ヘ提出シタル願書ノ要点ヲ謄写シタルモノニ相違無之候也

大正六年八月一日

駿河電化工業株式会社

創立発起人総代　松井謙保㊞

芹澤多根㊞

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合

管理者　泉村長　勝俣邦俊殿

（図面省略）

大正七年三月六日
第五号受付
印

水利使用地先変更届

曩ニ御承認ヲ得候当会社発電用水利使用地先第一号取水口駿東郡深良村岩波字小鍋田二百六十四番トアルヲ同郡富岡村御宿一千百三十八番地先ニ、放水口同郡深良村深良字カラウト一千二百番トアルヲ同郡富岡村御宿一千八十四番地先ト変更致候間、此段及御届候也

大正七年三月五日

駿河電化工業株式会社

創立発起人総代　芹澤多根印

松井謙保印

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合

管理者　泉村長　勝俣邦俊殿

六年十一月十日
第二八号受付
印

湖用水使用承諾願

拙者義今般動力用発電ノ為メ深良村地内別記地先ニ於テ貴管理芦湖用水々利使用致し度候間御承諾相成度、御聞済之上ハ貴組合会御決議ノ主旨ニ従ヒ可申此段願上候也

大正六年十一月五日

静岡県駿東郡深良村深良
弐千四百拾四番地松井製材所々主

松井謙保印

深良村外六ヶ村芦湖水利組合
管理者泉村長　勝又邦俊殿

取入口駿東郡深良村深良字佐野堰四百三十四番地先
放水口同郡同村同所字舞台弐百拾五番地先

松井謙保

勝又村長殿

拝啓別紙之通リ震橋川筋水利使用承認願之義小生一人之名義ニ候得共、前承認相願ひ候口と同一之者ニ候間、何卒右御含之上可然御取計ひ被下度何レ御拝面之上万々可申上候也

木瀬川支流瀬名沢川ニ動力ヲ起ス儀ニ付承認願

駿東郡富岡村千福字前田ヨリ瀬名沢川本流ヲ取入レ同所字松ケ窪ニ放水

今般前記ノ通リ水利使用致工業用発電所設置致度候間、御承認相成度此段奉願候也

大正六年拾弐月拾六日

駿東郡富岡村御宿弐拾壱番地
湯山柳雄㊞

駿東郡富岡村千福弐番地
西島親則㊞

芦湖水利組合管理者
泉村長　勝俣邦俊殿

御承認願

拙者共儀

今般静岡県駿東郡富岡村御宿字アライ千百三拾八番地先ニ於テ黄瀬川ヲ横断シ毎秒百四十立方尺ノ流水ヲ引入レ同郡同村同字小鍋沢下千八拾四番地先ニ水槽及発電所・放水路ヲ設ケ水力電気ヲ発生シ、今回設立セントスル駿河製紙株式会社ノ動力及同工場内自家用電燈ニ使用ノ目的ヲ以テ水利使用ノ義曩ニ発電用水利使用規定ニ基キ直接其ノ筋ヘ出願致シ置キ候ニ付テハ、御組合管理芦湖用水灌漑其他ニ支障無之旨御詮議ノ上御承認相成度別紙説明図相添此段奉願候也

大正六年十二月十六日

駿河製紙株式会社設立者総代人
駿東郡鷹根村青野参番地
岡野喜太郎㊞

田方郡田中村三福六百参拾弐番地
脇田信吾㊞

駿東郡富岡村御宿弐拾壱番地
湯山柳雄㊞

駿東郡深良村外六ケ村芦湖水利組合

管理者　泉村長　勝俣邦俊殿

（図面省略）

土第七〇四号

大正七年八月六日　　第二課長

深良村外六ヶ村芦湖水利組合管理者殿

水利使用支障ニ関スル件

自家用電力発生ノ為メ黄瀬川水利使用ノ儀左記ノ者ヨリ願出ニ付、（貴組合）ニ於ケル公益上支障ノ有無御取調ノ上、（組合会）ノ決議ヲ経本県知事宛書面ヲ以テ御申出相成度

追テ願書縦覧ノ要有之場合ハ本郡ニ於テ御一覧相成度申添候

一　富士カーバイト製造株式会社発起人　内浦村三津

小沢力作　外七名

電気事業ノ為メ水利使用願

静岡県駿東郡小泉村佐野及同郡富岡村大畑ノ間ヲ貫流スル黄瀬川ノ河水ヲ引用シテ水力電気ヲ発生シカーバイト製造用ノ自家用動力ニ使用致度候間右水利使用ノ義御許可被成下度、別紙電気起業概要工事計画説明書及関係図面相添此段奉願候也

大正六年四月二十三日

駿東郡小泉村佐野千二百六十九番地

富士カーバイト製造株式会社創立発起人

田方郡内浦村三津五七

小沢力作

駿東郡深良村深良一三〇

大庭捨次

同郡小泉村佐野一六一

中西松市

東京市本所区亀沢町二ノ一六

福島信太郎

駿東郡小泉村佐野一三九
吉岡鉄太郎
田方郡田中村大仁五七
土屋喜右衛門
駿東郡富岡村御宿二一
湯山柳雄
同郡小泉村佐野一五二〇
中西関太郎
静岡県知事　安河内麻吉殿

委任状（要旨）

水力電気ヲ発生スル水利使用願ヲ拙者共ノ名義ヲ以テ静岡県ヘ出願スル出願人代理一切ノ件
代理者ノ宅ヲ創立事務所トナシ創立事務一切執務ノ件
代理者
沼津町城内四七七　小沢藤作

電気事業概要書（要旨）

使用期間　事業開始ノ日ヨリ満三十ケ年
発電力　三百三十三、二「キロワット」

工事計画説明書（要旨）

取入口　小泉村佐野字橋堺上四四一地先
水槽　同　字ビハコロハシ一、一六四内
発電所　同　同　同　番内
放水口　同　同　同　番地先

（図面省略）

（写）
静岡県指令八土第八八五号
東洋モスリン株式会社
大正十一年四月二十日付出願深良川使用水量増加ノ件許可ス
但シ別紙命令書ノ通心得ヘシ

大正十三年一月十七日

静岡県知事　道岡秀彦

命令書

東洋モスリン株式会社

大正九年一月九日交付シタル深良川ノ水ノ使用及水路開鑿並其ノ附属物ノ施設ノ許可命令書中左ノ通更正ス

大正十三年一月十七日

静岡県知事　道岡秀彦

記

第二条　使用水量ハ一秒時間六十立方尺以内トシ内三十二立方尺ハ何時送電ヲ停止若ハ制限スルモ支障ナキ特殊ノ使用ニ充ツヘシ、前項ノ使用水量ハ芦之湖水利組合カ従来ノ慣行ニ遵ヒ引用スル水量ノ範囲内ニ於テ之ヲ利用スヘキモノトス

第二条ノ二　将来芦之湖水利組合ニ於テ芦之湖ヨリ引用スル水量ニ異動ヲ生シ従テ発電用河水使用水量ニ制限ヲ加フルコトアルモ許可ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

静岡県指令土第七一〇号

譲渡人　東洋モスリン株式会社

譲受人　東京電燈株式会社

大正十四年二月十七日総監第一三〇号申請駿東郡深良村地内深良川発電用河水使用ニ関スル権利移転ノ件許可ス、但譲受人ハ譲渡人ニ交付シタル命令書ノ条項ヲ遵守スヘシ

大正十四年三月卅一日

静岡県知事　伊東喜八郎

大正十二年九月十四日

神奈川県足柄下郡

箱根町外二ケ村組合役場

印

芦湖水利
組合長　小林僖一殿

本月一日ノ震災ノ為メ当町村ノ家屋全部倒潰シ引続キ震動尚止マス、住民戦々兢々無拠湖岸若クハ山林中ヘ仮小屋ヲ設ケ被難(ママ)致シ居リ候処、已ニ降雨ノ季節ト相成昨十三日ヨリ本日ニ至ル降雨ノ為メ湖水増水シ倍々憂慮致シ候ニ付、事情御了察之上当分ノ間水門開扉相成度此段及照会候也

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三　大正九年八月九日　東京電燈株式会社との電気事業契約書

（一九二〇）

契約書

静岡県駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合に於て疎水工事を施し深良村深良・岩波、富士岡村神山、富岡村上ヶ田・金沢・葛山・御宿・千福・桃園、小泉村石脇・佐野・二ツ屋・富沢・水窪・伊豆島田、泉村久根・公文名・稲荷・茶畑・平松、長泉村南一色・納米里・上土狩・中土狩・下土狩・竹原、清水村新宿・伏見の七ヶ村二十八大字地内田地の灌漑其他に供用する芦湖用水を利用し水力電気事業を経営する為、明治三十八年八月六日深良村外六ヶ村芦湖水利組合管理者服部大誧(ママ)と東京水力電気株式会社取締役社長大倉喜八郎（現に東京電燈株式会社に於て其の権利義務を継承す）との間に締結したる契約を更改するに付、静岡県駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合管理者長泉村長井上周一郎を甲とし東京電燈株式会社取締役社長神戸挙一を乙とし甲は組合会の決議を以て関係村長立会の上左記条項の契約を締結し證書弐通を作成して双方各壱通を保有す

第一条　甲は寛文六年官の許可を得長さ七百三十八間の隧道を開鑿し神奈川県足柄下郡元箱根村芦湖水を引用して田地の灌漑其他に供用し、以来引続き湖水使用の特権を有し四ツ留水門及其「(原本空白)」権を保有す、然るに今回乙に於て水力電気事業を経営するため「(原本空白)」あり

たるにより甲乙合意の上本条以下の制限を定めて之を承諾す、但し甲の有する既得の用水使用権には消長を来さざるものとす

第二条　乙の芦湖用水を使用する期間は大正九年三月二十五日より向ふ二十五ヶ年とす

第三条　乙の使用する芦湖用水の水量は毎年十弐月壱日より翌年五月末日迄は毎秒時間参拾立方尺の水量を使用し、其他の期間は甲の田地灌漑等に要する全水量を使用するも妨けなきものとす

但し灌漑用水其他の用水に支障を来ささらしむる為、甲は乙の負担を以て在来の四ツ留水門を完全に改修し常に湖水の水位に注意し貯水増量の方法を構し、水量の調節を計り其必要に応し四ツ留水門の流出量を酌酌加減する事

第四条　乙の水力電気事業経営の為に使用する用水路の区域は芦湖用水隧道下口より深良村を経て黄瀬川合流点に至る深良村地先とす

第五条　乙は事業経営上其負担を以て芦湖用水隧道下口より字豊後堰に至る間に於ける用水路を変更して使用することを得、但し新設水路の流末は少くとも豊後堰口数間の上に於て旧用水路に復流せしむる事を要す

第六条　甲は将来芦湖用水の安全を図る為双方慎重に協議を遂け相当手続の上、乙の負担を以て現在貯水位より尚弐尺以上増量の目的を以て芦湖岸中必要の箇所に対し弐尺以上の築堤其他適当の工事を施すものとす

第七条　乙は工事着手以前に於て甲の請求次第深良川堤防中漏水の場所並洪水の際甲乙危険と認むる場所百二十間中完全に石垣を改築し且水底より五尺に達する迄石垣へ「セメント」塗工事を施し以て漏水を防止すへし

第八条　乙は水力電気事業に関する工事施行の結果芦湖用水路に支障を生し又は破損を来したる時は其負担を以て速に復旧工事を施すものとす

第九条　芦湖貯水及四ツ留水門並逆川甲羅伏悪水吐口巡

視保護の為、甲乙共信用あるもの一名を選定し字四ツ留水門の附近に常駐せしめ其取締に任す
但し本文取締人の給料及家屋建築等は乙の負担とす
右取締人は芦湖水利組合に於て常設せる水配人と合議し水門の開閉其他甲の指揮を受くるものとす

第十条　乙は芦湖用水組合の費用として壱ヶ年金壱千五百円を毎年五月弐拾日限り甲に納付するものとす

第十一条　本契約により水力電気事業成工（ママ）の上は、乙は甲の請求ある場合は芦湖用水区域内関係村に対し電力供給上の利便を図り特典を与ふるものとす

第十二条　甲は本契約締結後何等の事由あるも乙の承認を得す第四条の区域内に於て同一事業を経営し又は第三者に用水使用の承認をなす事を得す

第十三条　本契約は甲又は乙に於て形式上組織名称等を変更することあるも其実体及双方の利害に異動なき限り効力に影響なきものとす

第十四条　乙の都合により本契約を他に引継く場合も甲は本契約の全部有効たることを承認す

第十五条　乙に於て水力電気事業に関する工事施行認可の日より三ヶ月以内にその工事に着手し二ヶ年以内に竣工せさるときは本契約は無効とす
但天災不可抗力其他正当の事由ある場合は双方協議の上相当期間を延長することを得

右契約締結を證するため当事者各自署名捺印す

大正九年八月九日

静岡県駿東郡深良村外六ヶ村
芦湖水利組合管理者
同県同郡長泉村長　井上周一郎

東京市麹町区有楽町三丁目三番地
東京電燈株式会社取締役社長　神戸挙一

立会人静岡県駿東郡深良村長　小林僖一
同　富士岡村長　小沢喬作
同　富岡村長　湯山栄男
同　小泉村助役　大庭幾太郎

同　泉　村長　柏木魁太郎
同　清水村長　高田湛八郎

（参考）

大正九年八月九日　前記契約に対する
附帯契約をなす
大正十一年三月二十九日　同　修正契約をなす
大正十四年四月十七日　同　保証書を受領す
昭和八年一月十九日　同　覚書を交換す
同　日　同　保証書を受領す
昭和二十四年七月三十日　同　協定書を交換す

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三　大正一三年七月二一日（一九二四）　芦湖々水敷地占用並ニ工作物設置許可ノ申請

議第八号

芦湖々水敷地占用並ニ工作物設置ノ件

芦湖々水敷地占用並ニ工作物設置ノ件別冊ノ通リ申請ス

ルモノトス

大正十三年七月廿一日提出
同年同月同日

深良村外六ヶ村芦湖水利組合管理者
鈴木新作㊞

芦湖々水及敷地占用並ニ工作物設置許可ノ申請

一　湖水及敷地占用並ニ工作物設置ノ場所
湖水引用
神奈川県足柄下郡元箱根村百七十番雑地芦ノ湖
敷地ノ占用
㈠同県同郡仙石原村地内逆川口石垣及甲羅伏敷地
㈡同県同郡元箱根村百七十番芦ノ湖四ツ留水門敷地
工作物ノ設置
㈠同県同郡仙石原村地内逆川口
㈡同県同郡元箱根村百七十番地先四ツ留水門

二　占用並ニ工作物設置ノ目的
湖水ノ引用

灌漑、飲用、動力用其他雑用水ニ供スル為メ

敷地ノ占用

工作物設置ノ為メ

工作物設置

㈠逆川口石垣及甲羅伏(甲羅伏ニハ高サ土俵三俵積重ヌルモノトス)

芦湖水ノ貯溜及排水ヲ行フ為メ

㈡四ツ留水門

湖水ヲ調節シ灌漑、飲用、動力用其他雑用水引用ノ為メ

水量

湖面現在ノ状態ニ於テ逆川甲羅伏ノ端上土俵三俵積(ママ)ネ

湖水ヲ貯留シ従来ノ慣行ニヨリ本組合関係地灌漑及動力用並飲用雑用水等ヲ調節占用シ得ル水量トス

四　引用ノ期間

無制限

五　占用地ノ平積実測図但シ実測図ハ別紙添付

占用平積数

㈠逆川口石垣甲羅伏　参畝歩

㈡四ツ留水門　弐反四畝弐拾弐歩

六　占用料

無料

七　芦湖湖水敷地占用工作物設置等同湖水面ニ対シ権利ヲ有シタル沿革並ニ其水利使用方法慣行ノ大略

抑本組合ニ於テ此芦ノ湖水ヲ貯溜調節シテ灌漑、飲用、動力其他雑用水トシテ使用シ来リタルハ今ヲ去ル事弐百五拾有余年前即チ寛文年間ニシテ、江戸浅草ノ住人友野與右衛門偶々該湖ノ水漫々タルトモ此排水路逆川アルノミガタメ当時其ノ湖岸並ニ排水路沿岸ハ常ニ氾濫ニ苦シミ殊ニ権限社境内ニ迄浸水シ其被害又尠カラサルヲ以テ、此湖水ヲ駿河領ニ引用シ田面開発其他ノ用水ニ使用スル事ハ単ニ駿河領域ノ公益ヲハカルノミナラス惨害救済ノ企ニモ当リ一挙両得ノ事業トシテ、コヽニ同志三名(長濱半兵衛、

尼崎嘉右衛門、浅井治郎兵衛)ト相謀リ該湖ノ西方ナル駿河津峠山麓ヨリ駿東郡ニ疎水シ田地開発ノ一大事業ヲ企図ス、而シテ該事業ニ関スル駿河側ハ専ラ深良村大庭源之丞等ヲ以テ御厨領及沼津領ヲ斡旋セシム、然ルニ芦ノ湖ハ当時箱根権限領ニシテ同山金剛院ノ御朱印地(権現領二百石ノ内ナリ)ナレハトテ寛文三年二月十二日同山ニ出願許諾ヲ得、同六年四月正式幕府ニ出頭出願セシニ幕府モ亦同人等ノ公益心ニ賛シ直ニ許可ヲ与ラレ、同年八月工事ニ着手シ拮据経営其効空シカラス五星霜ノ長日月ヲ経テ同十年二月ニ至リ漸ク隧道ノ貫通ヲ見始メテ通水ヲ行ヒタルハ正ニ其年ノ四月二十五日ナリ、其長サ七百三十八間工費総額八千三百三十五両二分余ナリ、是カ設計ヲ概説スレハ芦湖字四ツ留ニ用水路ヲ設ケ湖岸ニハ双方長サ十五間高サ九尺ノ石垣ヲ築キ中間ニ幅二間長サ五間ノ水門ヲ設ケ是ヨリ隧道口迄四十六間ノ間両岸高サ八尺ノ石垣ヲ築キ隧道口ニハ長サ五間二方一丈ノ組枠ヲ建ツ、而シテ隧道ハ径六尺ノ円形ヲ以テ貫通セシメ吐水口ハ巾八尺ノ敷石ヲナシ両側高サ五尺長サ十間ノ石垣ヲ築キタリ是ヨリ四千二百十六間ヲ流下セシメ甲州街道ヲ横断シ黄瀬川ノ上流ニ合セシム、其ノ間字馬坂尻ヨリ七百二十間ノ間幅員三間ノ新川ヲ開鑿シ高サ九尺ノ提塘ヲ築キタリ是ヲ称シテ新川筋ト云フ、而シテ排水口トシテハ逆川ヲ利用シ該河口ニ長サ二十間巾九尺高サ五尺ノ石垣ヲ築キ其中間ニ巾九尺長サ五間ノ排水口二ケ所ヲ東西ニ設ケタリ是ヲ逆川甲羅伏ト称ス、之ニ高サ土俵三俵ヲ積重ネ随時貯水ヲ行ヒ又ハ豪雨氾濫ノ場合ニ於ケル排水ヲモ行フナリ、斯ノ如クニシテ築造シタル之等水門並ニ逆川排水口ハ本組合ノ尤モ貴重ナル造営財産トシテ尊重管理シ之ニヨリ湖面全部ニ互リ調節使用シ来リ、文明(マヽ)二年・文政四年・天保三年・嘉永二年・安政三年ニ行ヒタル修繕工事ハ其ノ都度幕府ノ許可ニヨリ組合ノ負担ヲ以テ国役普請ト

シテ施行シ、近クハ明治四年・明治八年・明治二十二年ニ行ヒタル改修工事も亦夫々官ノ許可ヲ得組合ニ於テ施行シタルモノナリ、殊ニ該逆川口ニ関シテハ明治十四年九月三日元箱根村人民惣代ヨリ差出シタル確証ニハ水門口及逆川口共右二十九ケ村ニテ堰所御進退被成逆川両口土俵ニテ〆切云々トアリ、尚明治二十六年十月二十日足柄下郡仙石原村長出願逆川切下工事ノ件並ニ明治二十八年七月仙石原村外七ケ町村長出願箱根湖水使用願ハ何レモ不許可ト成リ、続テ明治二十九年四月仙石原村外七ケ村ノ水利組合決議ナリト称シテ不法ニモ逆川甲羅伏ヲ破壊シタル事件ノ判決中ニモ、「甲ラ伏ト称スル堰止ハ湖水流下ノ為ニスル甲ラ伏ニ非ス、湖水滞停ノ為メタル堰留ナリ、又深良村外七ケ村ハ駿河津峠字四ツ留ニ隧道ヲ穿チテ水閘ヲ設ケ又逆川口ニ二ケ所ノ堰留ヲ設ケ以テ箱根湖水ヲ使用スルノ権ヲ得タル事原判文ニ明示シアレハ」トアリ、公訴私訴共本組合ノ勝利ニ帰シタル何レモ本組合カ芦湖水調節使用ニ絶対ナル権利ヲ有スル事実ニ確認ヲ与ヘタルモノナリ

叙上ノ如クニシテ引用シタル流水ハ深良新田ニ於テ黄瀬川ニ富岡村ニ於テ瀬名沢ノ流水ヲ合セ南方清水村其他ニ流下余水ハ尚灌漑其他用水ニ使用ス

其組合内利用区域広袤幅員一里延長五里ニ亘リ灌漑用分水大小堰数百四十一ケ所灌漑反別旧高約七千石其ノ田反別五百三十余町歩ニシテ現今ハ田約八百町歩ニ及ヒ、其飲用戸数三千五百戸人口約三万人電気動力三ケ所水車動力大小三百余箇所設置シアリテ、其利用ハ重ニ前年十月ヨリ次年五月ニ至ル間ハ前記ノ飲用、動力、其他普通用水ニ必要ナル水量ヲ流下セシメ余ハ常ニ貯水ヲ行ヒ六月ノ灌漑期ニ至リ其ノ全水量ヲ流下使用シツヽアリ、而シテ之レカ各堰ニ於ケル灌漑分水ノ取締トシテハ延宝七年ニ水配人二人ヲ置キタレ共完全ナラサルニヨリ尚元録元年ニ至リ四人ノ増員ヲ設置シタリ、然レトモ分水上常ニ紛

議絶ヘサルニヨリ安永五年三月廿九ケ村拾給定書（拾給トハ領主地頭ヨリ管轄ヲ云フ）及同年七月水配定書並ニ三郷定書等ヲ制定シ、近クハ明治七年五月取扱定書同十二年十一月三郷規約等ヲ設ケ、而シテ旧来ヨリ廿九ケ村ヲ上中下ノ三郷ニ区分シ一郷ニ正副各一名ツヽノ水配人ヲ置キ直接分水ノ職ニ従事シ配水上ニ絶対ノ権利ヲ与ヘ、古往ハ代官之ニ立会タレドモ今ハ地主其ノ立会ヲナシ小作人ハ重ニ其配水役夫ニ従事ス

而シテ本組合ニ於ケル土地ハスヘテ地層火山灰ヲ以テ構成セラレ水ノ滲透想像外ニテ田面ハ水口（ミノグチ）ニ於テ常時引水セサレハ直ニ旱田ニ陥ルノ状態ナリ、現ニ清水村柿田並ニ三島町小浜ノ李王世子殿下別邸内ニ湧出スル水量ノ当組合田面ニ灌漑スルニ依リテ数倍ヲ増加スルヲ見テモ明カナリ、故ニ往古ヨリ時々旱魃ノ被害アリテ組合内ニ於テモ数次ノ騒擾ヲ惹起シ殊ニ安永五年ノ水論ノ如キ遂ニ領主ノ裁断ヲ仰キタリ、近クハ明治七年・同十八年・同廿一年・大正八年等甚大ナル被害ヲ蒙リ、其ノ都度竹鎗筵旗ノ争ヲ生シ組合ノ住民三万ノモノカ死活問題トシテ常時該用水ヲ念頭ヨリ離ス事能ハサルモ沿革ノ証明スル処蓋シ当然ノ信念ナリト云ハサルヲ得ス

右ノ通芦湖々水敷地占用並ニ工作物設置致居リ候間御許可相成度此段申請候也

静岡県駿東郡深良村外六ケ村芦湖水利組合管理者
長泉村長　鈴木新作㊞

大正十三年七月　日

神奈川県知事　清野長太郎殿

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三四　大正一四年（一九二五）四月一七日　湖水水位維持につき東京電燈保証書

保証書

大正九年八月九日附ヲ以テ貴組合ト東京電燈株式会社ト

ノ間ニ締結シタル契約書第参条及第九条ニ基キ、灌漑用水及其ノ他ノ用水ニ支障ヲ来サシメサラシムル為貴組合トノ間ニ信用アル者壱名ヲ選定シ四ツ留水門付近ニ常住セシメ同水門並逆川甲羅伏悪水吐口ノ巡視取締ニ任シ、常ニ湖水ノ水位ニ注意シ貯水増量ノ方法ヲ講シ其ノ必要ニ応シ貴組合水配人ノ指揮ヲ受ケ水門ノ流出量ヲ斟酌加減シ水量ノ調節ヲ計ル事ニ相成候ニ就テハ、必ス毎年六月壱日前後ニ於テ水門上戸ノ上端ヨリ壱尺以上当会社責任ヲ以テ貯水致シ貴組合灌漑用水ニ欠乏ヲ生セシメサル様盟ツテ実行可仕候、若シ所定ノ期日ニ至リ貯水責任ノ水位ニ達セス之カ原因トナリ貴組合田地灌漑ニ欠乏ヲ来シ旱害ヲ蒙ラシメ候節ハ其程度ニ応シ相当ノ賠償可致候為後日保證書仍而如件

大正十四年四月拾七日

東京電燈株式会社

取締役社長　神戸挙一

静岡県駿東郡深良村外六ケ村

芦湖水利組合管理者

鈴木新作殿

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三五　大正一四年九月二日（一九二五）　芦之湖水利組合東京電燈会社ヘ田面旱魃損害賠償請求書

湖議第十号

本年度芦湖水利組合田面旱魃ニ依ル損害ニ関スル件

東京電燈株式会社ガ芦湖貯水ノ時期ヲ誤リ本年六月一日ニ於ケル水位僅カニ四尺四寸ニシテ保証書ノ示ス水位ニ達セザリシタメ、本組合ノ田面多大ノ旱害ヲ蒙リタレバ保証書ノ文面ニ依リ相当ノ賠償ヲ請求スルモノトス

大正十四年九月二日提出　同日

芦湖水利組合管理者

長泉村長　鈴木新作㊞

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三六　大正一四年（一九二五）　大正一四年度旱害東京電燈会社ニ対スル交渉関係記録

（表紙）

大正十四年度
昭和元年度　事務報告書㊞

大正十四年度旱害東京電燈会社ニ対スル
交渉関係記録

報第一号

大正拾四年自一月至十二月　駿東郡深良村外六ケ村芦湖水利組合事務報告

一　組合ノ組織

本組合ハ深良村・富士岡村・富岡村・小泉村・泉村・長泉村・清水村ノ七ケ村二拾八大字ニ渉リ田反別五百三拾一町五段四畝弐拾歩ニ灌漑スベク、相模国足柄下郡元箱根村地籍ナル芦湖ヲ疎水シ黄瀬川ニ合セ且ツ之ニ瀬名沢ヲ引キテ古来井組二十八ケ村ト称セリ、而シテ之レカ水源涵養及配水等ノ事務ヲ処弁スル為メ明治三十年三月町村組合ヲ組織シ深良村六ケ村芦湖組合ト称シ、組合ニ管理役場ヲ置キ正副管理者・収入役・書記各一名及正副水配人各三名並ニ委員拾三名ヲ置キ又議決機関トシテ組合会ヲ設ケ組合会議員二十八名アリ

二　会議

本期間中組合会ヲ開キタルコト四回其日数四日ニシテ議決又ハ報告ヲ了シタル事項左ノ如シ

1　大正十三年度本組合事務報告ノ件
2　大正十三年度本組合財産報告ノ件
3　大正十四年度本組合歳入出予算議定ノ件
4　款内流用ノ件
5　芦湖水神社へ寄附ノ件
6　歳計現金保管場所議定ノ件
7　契約継承承認並ニ第三追加修正契約締結ノ件

8大正十四年度本組歳入出追加予算議定ノ件
9芦湖貯水嘱託継続諮問ノ件
10本組合委員互選ノ件
11本組合臨時出納検査立会人互選ノ件
12大正十三年度本組合歳入出決算認定ノ件
13大正十四年度本組合歳入出追加更正予算議定ノ件
14大正十四年度芦湖水利組合田面旱魃ニ依ル損害ニ関スル件

三　処務概要

1本期間処弁シタル文書件数壱百件、内受付ニ係ルモノ弐拾六件、発送ニ係ルモノ七拾四件ナリ

2本期間委員会ヲ開キタルコト拾弐回、何レモ本組合ノ最モ憂慮セシ神奈川県問題及田地旱害問題ニツキ協議ヲナシ多大ナル奔走ヲ重ネタリ

3本期間協議会ヲ開キタルコト拾壱回、之亦本組合田面旱魃ニ関シ協議ヲ凝ラシ只管其善後策ニツキ考究スル所アリ

4河川準用ニョル芦湖用水ニ関スル件

客年五月二十三日神奈川県ガ芦湖ニ河川法ヲ準用セラレ同年八月四日該法ニ依ル湖水及敷地占用並ニ工作物設置許可申請ヲ提出シテ以来之レカ許可ヲ得可ク専心其意ヲ用ヒタルコトハ已ニ報告シタル所、遂ニ前年中ニ於テハ調査未了ノ故ヲ以テ其解決ヲ得ズシテ本年ニ至レリ、一月十七日・二月六日・三月十六日再度関係村長ト共ニ其許可ヲ速カニセラレン事ヲ陳情シタリ、然ル所三月中旬頃神奈川県ハ漸ク許可指令書案ヲ具シテ内務省ニ其可否ヲ禀申シタリ、而シ其指令書案中ニハ本組合ノ断然承服スル能ハサル条件ノ附随シアルヲ知リ驚キ、急キ三月二十三日管理者ハ副管理者ト共ニ内務省ニ出頭本組合ガ芦湖ニ有スル三百年以来ノ既得権ヲ侵害スルガ如キ事ナキ様只管懇願陳情シ、重ネテ四月十八日神奈川県ニ出頭指令交付ニツキ懇請シタル所、漸ク同日ヲ以テ本組合ノ申請シタル条項通リ何等ノ修正ヲナサズ許

可指令書ノ交付ヲ受ケタリ、申請書ヲ提出シテ以来半歳余、此間幾多ノ紆余曲折コソアレ、ココニ始メテ芦湖水利用ノ特権ハ法律的ニ確認ヲ与ヘラレタルモノニシテ組合員一同誠ニ歓喜ニ堪ヘサル所ナリ。之レ一ニ三百年前吾等ノ祖先芦湖ノ御神ガ犠牲的事業ノ賜タルコトハ論ヲ俟タズ、又一面ニ於テ上級官庁ノ最モ公平ナル所理ト関係職員ノ献身的努力ト組合員一同ガ熱誠アル後援トノ依テ以テ得タル権利ナリト信シ改メテ感謝ノ意ヲ表スル次第ナリ

5　会社トノ契約ニ関スル件

本組合ト水利使用ノ契約者タル東洋モスリン株式会社ト大正十四年二月十七日東京電燈株式会社ニ深良川水利使用権ヲ譲渡ニ付其筋ニ名義変更出願ノ処、同年三月三十一日静岡県知事ヨリ右使用権譲受ノ許可アリタルヲ以テ、之ト関聯スル大正九年八月九日附本組合ト東京電燈株式会社トノ間ニ締結シタル契約大正十一年三月七日附修正契約書及大正十二年三月七日附追加契約並ニ同年十一月二十七日附第二追加契約ヲ東京電燈株式会社ニ引継度旨契約書第十四条ニ依リ申出アリタルニ付、交渉ノ結果同会社ハ契約書第十条ノ納付金額ヲ金弐千参百円ニ増額スルコトトシテ、同年四月十六日組合会ノ決議ヲ経之ヲ承認シ更ニ相互ニ権利義務ヲ明確ナラシムル為メ東京電燈株式会社ト第三追加修正契約ヲ締結シタリ、尚同時ニ前会社ニ嘱託シタル芦湖貯水嘱託ノ件モ組合会ノ諮問ヲ経テ会社変更ニ伴ヒ東京電燈株式会社ヨリ保証書ヲ提出セシメ引続キ嘱託ヲナシタリ

6　水利灌漑ニ関スル件

本年度ハ過去数十年未曾有ノ大旱魃ニシテ殊ニ会社ガ発電事業ノ経営中ノ事トテ非常ナル紛議ヲ来シタリ、抑モ会社ガ本組合トノ契約ニヨリ発電事業ヲ開始シテヨリコヽ二・三年去ル十二・十三両年度ニ於テハ些シタル影響モナカリシガ、本年度ニ至リテ使用シタル水量ノ過多ト加フルニ降雨量ノ僅少トハ遂

ニ斯ノ如キ惨状ヲ呈スルニ至リ誠ニ遺憾ノ次第ナリ、
左ニ其大略ヲ報告セン
大正十三年十月以降次年度ノ貯水期ニ入リタル当時
ヨリ降雨量ノ僅少ヲ見越シ組合ハ再三再四湖水流出
量ヲ斟酌シ貯水ニ留意スベキ旨注意シタリ、然ルニ
会社ハ其都度貯水ニ注意スベシト回答シツヽモ増電
ヲ計リ多量ノ水ヲ流下セシメタリ
斯クテハ到底責任ノ水位ヲ得ルコト能ハサルト覚リ
四月頃ヨリ極度ノ減水ヲ行ヒシタメ、流末部落ハ苗
代田ヲ潤スコト能ハザリシハ勿論五月下旬ニ至リテ
ハ用水路ニサヘ一滴ノ水ヲ見ル能ハザルノ状態ニ至
ラシメタリ
而シテ六月一日ニ至リ委員ハ水配人立会ノ上芦湖水
位ヲ調査シタルニ漸ク四尺五寸ニシテ水量ニ於テ正
ニ予定ノ約半ニモ達セザルナリ、斯クテハ到底組合
田面ノ灌漑不能ハ勿論予定ノ苗植付サヘ行フ能ハサ
ルハ明白ノコトニ付、六月十二日関係村長ト共ニ神
奈川県庁ニ出頭其惨状ヲ訴ヘ灌漑用ポンプヲ据付湖
水ヲ利用シタキ旨懇願シタリシニ幸ニ土木課長ノ諒
解ヲ得タリ、依ツテ直ニ上京会社ニ交渉其据付方ヲ
依頼シ同時ニ会社ニ対シ此旱魃ニ対スル保証書ノ責
任ヲ糺シタルニ発電課長ハ会社トシテノ責任ハ必ズ
負フベシト言明セラレタリ
六月十四日委員会ヲ開キ会社ト交渉ノ結果ヲ報告シ
ポンプ据付ノ件並ニ四ツ留水門戸ヲ十七日・二十日
ノ両日各々三本ツヽ抜キ払フノ議ヲ協議シ、各郷共
水上ヨリ植付ヲ行フコトトセリ
六月二十一日、四十馬力並ニ七十馬力ノポンプ二台
三島町駅ニ到着、直チニ輸送ヲ開始シタルモ四里ノ
坂道ヲ運搬スルコト甚敷ク難事ニシテ馬車、牛車、
自動車等所有方法ヲ囲ラシ一時モ速ク据付ヲ了セン
コトヲ期シ、漸ク六月三十日一台ヲ、七月二日ニ第
二台目ヲ、同十一日第三台目ノ据付ヲ了シ、全力ヲ
挙ゲテ運転ヲ開始シタルモ流出水量漸ク三十個内外

ノ増加ヲ見タルノミニテ到底植付ヲ完了スルコト能ハズ、依ツテ更ニ七月七日関係村長ト神奈川県庁ニ出頭水門前ノ魚止取解シノ諒解ヲ得、八日湖内養魚ノ逃去ラサル様金網ヲ張リテ魚止ヲ撤去シ又毎日数十ノ人夫ヲ使役シテ砂浚ヲ行フ等所有人力ヲ尽シ灌漑ニ意ヲ用ヒタルモ遂ニ充分ナル効果ヲ奏スルコト能ハズ、六月二十日植付ヲ開始シテ以来上郷中郷ハ順次植付ノ法ニヨリ辛シテ同月中ニ植付ヲ了シタルモ中郷ハ如何ニシテモ植付後ノ灌漑ヲ成スコト能ハズ、熟議ノ上泉・小泉ノ両村ハ一日交替番掛ヲ以テ漸ク田面ヲ潤シタリ、下郷ニ於テハ上四ケ字ハ六月中ニ植付ヲ了シタルモ下五ケ字ハ大半植付不能ニ陥リ再三再四ノ協議ヲ成シ、遂ニハ郡長並ニ郡農会等ノ斡旋ニヨリ漸ク七月三日午後六時ヨリ一昼夜交替通水ノ協議決シ順次中土狩以南ノ植付ヲ開始シ、十一日ノ降雨ト相俟ツテ漸クニシテ挿秧ダケハ完了スルコトヲ得タリ、斯ノ如クシテ漸ク組合地内田面ノ植付コソ了シタルモ爾后ノ灌漑ハ依然トシテ困難ニシテ全面積ノ大半ハ番掛ノ方法ヲ以テ又辛ジテ潤シツヽアリシ有様ニテ、中郷並ニ下郷ノ半約百町歩ノ田面ハ極度ノ乾燥ヲナシ、タメニ稲ハ枯死セントスルノ悲況ニアリ、雑用並ニ飲用水ノ欠乏ト共ニコノ悲惨コノ苦痛実ニ言語ニ絶スルノ状態ナリ、越ヘテ八月中旬ニ至リ幸ニ大降雨アリ、全田面ニ渉ル水ノ滲潤ト湖面水位ノ上昇トニヨリ以後漸クニシテ灌漑ニ支障ナキヲ得タルモ、挿秧後一滴ノ水無クシテ既ニ結穂期ニ入リテ得タル用水ナレバ全ク其時期ヲ失シ収穫ニ対シテハ激甚ノ被害ヲ蒙リ、本県農務課並ニ郡農会技師立会調査ノ結果ニ依ルモ平年作ニ比シ減収米約七千余俵ニ上リ、加フルニ之レガタメ要シタル特殊ノ労銀等ヲ合算セシカ実ニ莫大ナル損害額ニ達スルニ至レリ

曩ニ本組合ハ六月一日水位調査ノ際水位僅カニ四尺四寸ナルヲ以テ以後特別ノ豪雨ナキ限リ到底組合田

面ノ灌漑ヲナスコト不可能ニシテ其ガタメ蒙ル被害又甚大ナルコト明カナルヲ以テ、六月八日書面ヲ以テ会社ニ対シ会社ガ提出シタル保証書ノ明文ニ依リ責任ヲ負フヘキ旨ヲ通告シ、尚関係村長ハ六月十二日会社ニ出頭前田発電課長ニ会見其責任ヲ糺シ交渉シタルニ課長ハ会社トシテノ契約上ノ責任ハ必ズ負フヘシト明答セラレタリ、尚会社ハ組合ノ請求ニヨリ七月二日及同月二十六日ノ両度ニ亘リ水路係今井祐一氏ヲ派遣シ組合ノ灌漑状況ヲ踏査セシメタリ、組合ハ前述ノ如ク被害明瞭ナルニ依リ九月二日組合ノ議ヲ経同十四日関係村長ハ損害請求ヲ会社ニ提出シ引続キ九月三十日上京其回答ヲ促シタルニ、会社ハ当年度ハ雨量僅少ナリシニ依リ遂ニ責任ノ貯水ヲ行フコト能ハズ、即チコノ被害ハ全ク天災不可抗力ニ依ルモノナリトシテ不誠意ニモ其責任ヲ回避シタリ、会社ノ使用水量報告ニ徴スルモ組合ガ最モ用水ニ必要ナク特ニ貯水ノ最好期タル前年十一月頃ヨリ当年二・三月頃ニ於ケル使用水量ノ過多ニシテ組合ガ苗場灌漑等除々（ママ）ニ用水ノ必要ヲ欲スル四月以降ニ於テ極度ノ減水ヲ行ヒタリ、若シ之ヲ本組合ニ於テ慣行ニ依ル貯水ヲ行ハンカ特ニ会社カ云為スル如ク雨量ノ少ナキヲ感シタランニハ故ラニ貯水ヲ要スル期節（ママ）ニ於テ斯ノ如ク秒時四、五十個ノ水量ヲ流下セシムルノ愚ヲナサンヤ、芦湖水ガ灌漑用水ニ支障ヲ来サシメサルヲ原則トシテ契約シタル其誠意ヲ重ンジ特ニ会社ノ利便ノタメニモ徳義的ニ貯水ノ嘱託ヲナシ会社モ亦其責任ヲ声明シ之ニ依ル損害ノ賠償ヲ盟ヒタル其当時ノ精神ニ対シ、又湖水ノ貯水期ニ於テ本組合ノ注意書ニ対スル発電所員ノ回答ニ徴スルモ、今回組合ノ請求ニ対シ斯ノ如ク全々天災不可抗力ヲ名トシテ会社ニ何等ノ責任ナシト称スル謂以那辺ニアリヤ、組合員ハ之ヲ聞キタメニ大挙シテ発電所ニ押シ寄スル等人心ノ動揺ヲ来タシ誠ニ憂慮ニ堪ヘサル状態ナリ、依ツテ組合ハ十月三日並ニ二十日

ノ両度本県庁ニ出頭シ篤ト実状ヲ陳情具申シ其円満ナル解決方ヲ懇願スルト同時ニ被害調査立会ヲ県農務課ニ出願シ、十月十一日並ニ同月廿三、四日ノ両度ニ渉リ県農務課藤原技師・本間県農会技師及各村農会技術員ハ精密ナル被害調査ヲ遂ゲタリ、尚神奈川県ニ於テモ其灌漑状況踏査ノタメ八月十六日枡井産業課技師・小塙農務課技師・濱野土木課技師ヲ派遣セラレ本県ヨリ藤原農務課技師及本郡北里郡長モ立会ノ上早害田面ヲ委サニ視察調査ヲ遂ゲ、其結果ポンプヲ以テスル芦湖揚水ハ八月二十日限リ中止スベキ旨通牒アリタルヲ以テ組合ハ直チニ魚止ヲ旧ニ復シポンプノ運転ヲ中止シ八月二十一日ヲ以テ会社ヲシテ全部ノ撤去ヲ了セシメタリ

会社ニ対スル損害賠償ニ関スル交渉ハ九月三十日ヲ以テ一時中絶ノ状態ニアリシガ已ニ収穫モ了シ且ツ又被害調査モ終了シタルヲ以テ、十一月十日中郷下郷中ヨリ三十有余名ノ有志上京シ会社ニ其解決方迫リ、翌十一日管理者モ亦上京会社ニ出頭シ再ビ損害賠償ニ関スル交渉ヲ開始シ一面ニ於テハ協議ノ上在京岩崎代議士ニ仲介斡旋ヲ依頼シ、以来数回関係村長又ハ有志ハ上京岩崎代議士ヲ通ジテ交渉シタルモ容易ニ決セズ、十二月十日会社ハ契約上ニ於ケル相方ノ疑義ヲ明瞭ナラシムル為メトテ一ツノ条件ヲ提示シ被害見舞金トシテ金五万円支払フベキ旨ノ案ヲ提出シタリ、組合ハ直チニ協議会ヲ開キ此ノ不法ナル条件ヲ容ルル能ハザルコトハ勿論見舞金五万円モ亦満足出来得ザル旨ヲ回答シ、併セテ当年ニ於ケル損害ハ損害トシテ解決シ契約ニ関スルコトハ全然別問題ニシテ且ツ組合ノ契約ニ於ケル見解ニ一ツノ疑義ナシ、宜シク一切ノ条件ヲ撤回シ損害金ノミノ解決ヲ促シ引続キ交渉中ノ処同月二十五日斡旋者岩崎代議士ヨリ会社ハ一切無条件ニテ被害見舞金五万円外ニ交渉ニ要シタル費用トシテ金弐千円トヲ支払フベキニ付解決セラレタシトノ報告ニ接シタルニ依リ、

帰村直ニ協議会ニ諮リタルニ是迄ノ経過等ニ徴シ実ハ不満足ナガラ之ニテ解決セントノ議纏マリ依ツテ管理者ハ二十八日副管理者ト共ニ上京岩崎代議士ヲ介シ金員受授ヲ成サントセシニ、況図ランヤ会社ハ急ニ前案ヲ変更シ組合ヨリノ嘱託書並ニ会社ヨリ保証書中貯水位「水門上戸ノ上端一尺以上」トアルハ学理上ニモ且ツ実際上ニモ不可能ノ事ニツキ「水門上戸ノ上端迄」ト改メラレ度シトノ条件ヲ提出サレタルヲ以テ、管理者ハ事ノ急変ニ驚キ殆ド言葉ヲ尽シテ本件ハ先ニ組合会ノ諮問ヲ経タル上ノ事ナレバ管理者単独ノ意見ヲ以テ承認スルコト能ハザルガ故ニ、協議会ノ決定通リ条件ハ全ク切放チ解決センコトヲ交渉シタルモ会社ノ容ルル所トナラズ遂ニ帰村ノ止ムナキニ至レリ

当年六月本問題ノ起リテ以来茲ニ半年其性質ヨリ見テモ年内ニ解決セザルベカラザル問題トシテ組合会ヲ開クコト一回、委員会ヲ開クコト拾弐回、関係村長会ヲ開クコト五回、協議会ヲ開クコト拾壱回ニ及ビ、其間論議多岐ニ分レ幾多ノ変化コソアリタレドモ常ニ慎重ノ審議ニヨリ一致ノ方針ヲ以テ交渉ヲ重ネタレ共遂ニ解決ヲ得ルコト能ハサリシハ誠ニ遺憾トスル所ナリ

7　灌漑後ノ水利ニ関スル件

八月中旬ニ於ケル大雨以来引続キ降雨アリタルタメ湖水ノ水位ハ益々上昇シ十月中旬ニ至リ水位八尺七寸ヲ見ルニ至リ、加フルニ風波ノタメ箱根町ニ於テハ所々ノ桟橋ヲ破壊シ宅地又ハ道路ノ石垣モタメニ洗ヒ潰ハルヽノ状況ニ立至リ箱根組合役場ヨリ故障ノ申出アリ、又神奈川県小田原土木出張所ヨリ遠和田技手出張組合立会ノ上調査シタルニ会社ハ貯水ニ名ヲカリ四ツ留水門ノ上ニ約一尺ノ増戸ヲ成シ居リタリ、要スルニ芦湖ノ増水ガ豪雨ノ如キ天災ニ依ル増水タランニハ本組合ガ有スル既得権トシテ万止ムヲ得サルモ今回ノ如ク従来ニ慣例ナキ増戸ヲ以テ人

為的ニ増水ヲ来タスコトハ公安上害アル旨ヲ以テ直ニ其減水方ヲ強要セラレタルニ付キ、組合ハ同月二十二日其増戸ヲ撤去シタルモ容易ニ減水ノ模様ナカリシヲ以テ尚水門中戸一枚ヲ開キテ減水ヲ計リタリ、越エテ十一月五日水位七尺七、八寸ニ低下シタルヲ以テ小田原土木出張所ニ通達ノ上開キタル中戸ヲ閉鎖シ引続キ貯水ニ留意シ十二月末水位七尺八寸アリタリ

右報告候也

深良村外六ヶ村芦湖水利組合管理者

長泉村長　鈴木新作

大正十五年二月二十三日提出

同年同月同日

報第三号

昭和元年自一月至十二月　駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合事務報告

（二　組合ノ組織」、「三　会議」は略す。）

三　処務概要

1本期間処弁シタル文書件数九拾壱件、内受付ニ係ルモノ四拾八件、発送ニ係ルモノ四拾参件ナリ

2本期間中委員会ヲ開キタルコト五回ニシテ、何レモ本組合ガ前年ヨリ蒙リシ田地旱害並ニ之ト関係スル東京電燈株式会社トノ諸問題ニツキ協議ヲ凝ラシ、深甚ナル憂慮ノ中ニ多大ナル奔走ヲ重ネタリ

3東京電燈株式会社ニ対スル旱魃ニヨル損害交渉ニ関スル本件ハ去ル大正十四年度事務報告書中ニ詳細報告シタル通リ同年末既ニ一切無条件ヲ以テ解決サルベク期待シタル所、会社ハ再ヒ保証書中ノ債任貯水位ヲ「水門上戸ノ上端迄」ニ改メラレタシトノ条件ヲ提出調印ヲ求メラレタルヲ以テ、管理者ハ事ノ急変ニ驚キ殆ド言葉ヲ尽シテ条件ハ全然切リ放チ解決セントヲ交渉シタルモ会社ノ容ルル所トナラズ遂ニ帰村スルノ止ムナキニ至レリ、越ヘテ十五年一月四

日管理者ハ関係村長ニ詳細ノ報告ヲナシ右条件ニ関シ各村ニ於テ協議ノ上□□(二字空白)ノ開陳ヲナサシメタルニ、将来憂慮スベキ重大問題ナリトシテ議論百出数回熟議ヲ凝ラシ交渉ニ交渉ヲ重ネツヽアル中ニ荏苒数旬ニ及ビ、漸ク二月中旬ニ至リ評議ノ結果会社ガ主張スル貯水位ノ縮少モ学理ノ上ニ於テ全然無理解ナルモノニモアラズト思惟スルヲ以テ、会社ガ提出シタル「水門上戸ノ上端迄」ヲ「水門上戸ノ上端以上」ト訂正シ貯水嘱託ヲナスト共ニ旱害見舞金五万円、交渉費用金弐千円ヲ受領スルコトニ意見ノ一致ヲ見タリ、依ツテ管理者ハ二月二十三日開会ノ通常組合会ニ右金員受領並ニ嘱託変更ノ議案提出ノ可否ヲ委員会ニ諮リタルニ、金員受領前ニ於テ篤ト分配案ヲ考究スルノ必要アラントノ事ニ決シ引続キ意見ノ交換ヲナシタレ共容易ニ決セズ、依ツテ三月十日・同十六日ノ両日関係村長ノ協議会ヲ越(ママ)シ管理者ハ分配案トシテ甲、乙、丙ノ三案ヲ提出シテ熟議ノ上漸ク乙案ニ依リ分配スルコトニ決シタリ

依ツテ三月二十四日管理者ハ関係村長ト共ニ上京仲介者タル岩崎勲氏ニ面会シ決定シタル条件ヲ以テ会社ニ交渉解決セラレタキ旨依頼シタリ、折柄恰モ議会開会中ニテ同氏ハ勿論会社代表者又非常ニ多忙ヲ極メツヽアルノ故ヲ以テ両三日中ニ面会交渉スベシトノ事ナルニツキ一時帰村シタリ

然ル所突然仲介者岩崎氏事故ニ依リ東京ヲ去ラレタル報ニ接シ管理者ハ三月三十一日急遽富岡村長ト共ニ上京岩崎邸ニ至リタル処、未タ交渉未了ナリトノコトニ止ヲ得ズ直接会社ニ出頭庶務課長並ニ発電課長ニ面接シ、昨年末以来懸案タル嘱託書中改正ノ件ハ「水門上戸ノ上端以上」ト更正スル旨ヲ述ベ損害金ニ関スル交渉ヲナシタルニ会社ハ右嘱託ニ関シテハ受諾シタルモ尚再ト契約上ノ疑義ヲ明瞭ナラシムルタメ覚書ヲ要求セラレタリ、管理者ハ会社ガ重ネ〳〵ノ急変ニ其ノ誠意ヲ疑ハサルヲ得ズ、契約上

ノ問題ハ先年来再三述ベタル如ク更ニ疑義ヲ挿ムモノナシ、当年ノ旱害問題ハ全ク切放チ解結スベキモノナルコトヲ主張シ富岡村長ト共ニ言葉ヲ尽クシ交渉シタルモ、会社ハ仲介者岩崎氏トノ申合セモ有ルコトトテ遂ニ応ズルコトナク交渉ヲ後日ニ譲ルコトシ帰村ノ上関係村長ニ報告ヲナシタリ

斯ノ如ク本問題モ既ニ解決サレントシテ又能ハザルコト数度会社ノ誠意ハ更ニ認ムルニ由ナク組合ノ憤慨其極ニ達シ、最後ノ決意ヲ示スノ止ムナキニ至リ一面仲介者岩崎氏モ又当分上京ノ模様ナキヲ以テ管理者ハ断然最後ノ交渉ヲナス可ク五月十日関係村長並ニ下郷有志ト同伴会社ニ出頭直接神戸社長ニ面会ヲ要求シタルニ、野村工務部長代リテ面会一応先年来交渉シタル顚末ヲ述ベ之ニ関スル会社ノ誠意ヲ問ヒ会社ヨリ提出シタル契約上ノ覚書ノ如キ条件ヲ一切取去リ見舞金其他金五万弐阡円ヲ支払ハレ度シト只其諾否ヲ問ヒタリ、野村部長ハ本問題ニ関スル終始ヲ了解シ居ル会社ハ決シテ誠意ナキニアラズトテ更ニ妥協的ノ案ヲ提出シ頻リニ組合ノ了解ヲ求メントシタルモ、組合ハ只タ会社ノ諾否ヲ求ムルヨリ他ニ交渉ノ余地ナシ真ニ会社トシテ誠意ヲ有スルナレハ此解決ノ出来ザルコトナカラント応酬頻リニ諒解ヲ求メタリ、部長ハ再三社長ト協議ヲ遂ゲ翌十一日ニ至リ漸ク一切ノ条件ヲ去リ会社ハ見舞金トシテ金五万円費用トシテ金弐阡円ヲ支出シ、組合ハ単ニ貯水嘱託書中ノ貯水位ヲ「水門上戸ノ上端以上」ト改メ嘱託シ、対外的ニハ将来相互ニ協力一致相当ルコトヲ申合セ此処ニ一段落ヲ告ゲ管理者ハ翌十三日現金ヲ受領シ帰村シタリ

五月二十一日管理者ハ本組合委員会・組合会旱魃委員会ヲ招集、先ヅ全員協議会ヲ開キ一月以来会社ト交渉シタル一切ノ顚末ヲ詳細ニ報告スルト共ニ見舞金分配案ヲ内示シ分配ノ根拠ヲ説明シ了解ヲ求メタルニ満場異議ナク認容シタリ、依ツテ組合本会議ヲ

開会嘱託書中変更ノ件見舞金其他受領並ニ分配ニ関スル件ヲ満場一致議了シ引続キ同日ヲ以テ全部ニ亘リ分配ヲ了シタリ

顧ルニ去ル十四年六月一日水位調査ノ結果四尺四寸ト云ル激甚ナル水位降下ニ依リ直ニ会社ヨリ提出シタル保証書ノ明文ニ依被害補償ノ責任ヲ負フベキ旨ヲ会社ニ要求シテヨリ茲ニ十有一ケ月、此間組合員ハ全力ヲ挙ゲテ灌漑ニ狂奔シ或ハ数百貫ノ水上ポンプ三台ヲ箱根山上ニ押上ゲ或ハ魚止ヲ撤去シ砂浚ヲ行ヒ或ハ各郷ノ通水交替掛等未タ類例ナキ方法ヲ講シ人力ヲ尽ス、又他面会社ニ対シ被害補償ノ交渉ヲ進メ集会ハ各所随所ニ行ハレ、時ニ多数不穏ノ行動ヲ示シ波乱重畳其□□(二字空白)当局ハ献身其衝ニ当リ管理者関係村長委員有志等数回ノ熟議ヲ凝ラシ上京交渉ヲ重ヌルコト拾数回、解決ナラントシテハ又破レ幾多ノ紆余曲折コソアレ遂ニ会社ハ一切ノ主張ヲ捨テ組合ノ要求ニ応ジ流石ノ大問題モ此処ニ漸ク解決ヲ告グルニ至レリ、之レ一ニ契約ノ明文ニ依ル威力タルコト論ヲ俟タザルモ又一面ニ於テ関係職員ノ献身的努力ト組合員一同ノ熱烈ナル後援ニ依ルモノト信シ一同謝意ヲ表スル次第ナリ

一水利灌漑ニ関スル件

本組合田地灌漑ノ水源地タル芦湖水位ハ前年大旱魃ノ際極度ノ減水ヲナセシガ其後豪雨ニ依リ一時ハ九尺ニ垂ントスル迄増水シ以後本年六月一日ニ於テ尚八尺八分ノ水量ヲ保ツコトヲ得タリ、然レトモ本年ハ梅雨期ニ於ケル極度ノ乾燥ト地面ノ滲透力過大ナルトニ依リ灌漑ニ多大ノ水量ヲ要シ水門戸ノ全部ヲ抜放チテ隊道口ニ溢ルル迄流出セシムルモ、尚下郷ハ用水ニ不足ヲ生ジ辛ジテ六月三十日ヲ以テ全田面ノ植付ヲ了シタリ、而シテ七月四日至ルヤ俄ニ豪雨アリ、深良川ハ之ガタメ甚敷汎濫シ該提防モ数ケ所ニ欠潰ヲ生ゼントスル有様ナリシガ近郷区民ノ必死ナル防禦ニ依リ漸ク災難ヲ免カレルコト得タリ、管

理者ハ降雨後直ニ此状況ヲ視察シ不取敢提防ノ応急修理ヲナサシメ猶河岸約百十五間ニコンクリートヲ以テ巾一尺高サ一尺ノ防水堤ヲ築造シ今後ノ危機ニ備ヘタリ

此豪雨ニ依ル洪水ノ為佐野堰ノ眉木ヲ流失シ翌日関係区長等之ヲ旧位置ニ復シタリ

其後旱天更ニ打続キ灌漑用水ハ日一日ト減水シ七月十五、六日ニ至ルヤ下郷中土狩以南ノ田面ハ甚敷亀裂ヲ生ジ稲ハ日増シニ枯死セントスルノ有様ナレバ、下郷間ニ於テ数回ニ亘リ通水ノ協定ヲナシ漸クニシテ同月二十四日ヨリ数回之ヲ行ヒ流末田面ヲ三日ニ一回ツヽ潤スコトヲ得タリ

而シテ七月下旬ニ至リ佐野堰ノ眉木ノ位置旧来ヨリ高カリシコトヲ発見シ管理者ハ同月三十一日関係村長ト協議ノ上八月一日中郷下郷関係区長ト現場ニ於テ実地調査協議ノ上旧位置ニ復スルコトニ決シ翌二日三郷水配人ヲシテ之ガ伏セ替ヲナサシメタリ

其後猶連日ノ旱天ニ依リ流末用水ハ全ク涸渇スルノ状態ナルヲ以テ下郷区長等ハ上中郷ニ無心シテ、八月五日ヨリ二昼夜交替ニ上郷ハ極度ノ結メ分水ヲナシ中郷ハ通水シテ流末田面ヲ四日乃至六日ニ一回ツヽ潤スコトヲ得タリ

斯クシテ八月十八日ニ至ルヤ遽カニ大豪雨アリ之ヨリ用水ノ潤沢ヲ得ルヲ得タリ

右報告候也

深良村外六ケ村芦湖水利組合管理者
長泉村長　鈴木新作

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三七　大正一五年五月一日（一九二六）　用水路より共同消火につき表彰状

表彰状

駿東郡深良村消防組

大正十五年四月二十一日駿東郡富岡村葛山字中里ニ於ケ

ル火災ニ際シ迅速出動シ、烈風且ツ水利不便ナリシニ拘ラス克ク組員一致協力鎮火ニ努メ、又小丘ヲ距ル用水路ヨリ嘗テ類例ナキ各組共同シテ喞筒ヲ継接シ通水スルヲ得、鎮火上多大ノ効果ヲ収メ以テ惨害ヲ局限シタル功労洵ニ顕著ナリ仍テ茲ニ之ヲ表彰ス

大正十五年五月一日

沼津警察署長

地方警視従七位　星出隆輔　印

（昭和八年『消防沿革誌』　裾野市役所深良支所所蔵）

三八　昭和三年二月二五日　昭和二年芦ノ湖水位減少のため大旱魃報告

水利灌漑ニ関スル件

本組合田地灌漑ノ水源地タル芦湖ノ水位ハ前年六月一日ニ於テ八尺以上ヲ有シタリシモ灌漑時期ニ於ケル雨量ノ少ナカリシタメ大正十四年ニ准ズル旱害ヲ受ケシヲ以テ、其流量ヲ極度ニ制限シ貯水ノ増量ヲ図リタリシモ降雨量亦頗ル少ナカリシタメ本年六月一日ニ於ケル水位漸クニシテ五尺六寸一分迄ニ上騰（ママ）セシメ得ルノミナリシナリ而シテ本年モ亦灌漑時期至ルヤ旱天連続シテ土壌極度ニ乾燥シ流末地方ハ通常ノ流水ニテハ倒（ママ）底植付ヲ了スル能ハザルノ情態ナルヲ以テ下郷ハ某区域内ノ通水ヲ協定シテ灌漑ヲ図リシドモ何時通水ノ行キ渉ルベキヤモ計リ難ケレバ或ハ陸稲ヲ蒔付ケ或ハ葱植ヲ決行シ、カクテ七月六日ニ至ルヤ僅カノ降雨アリタレバ之ニ通水ヲ合シテ辛ジテ七月十日ヲ以テ組合全田面ノ植付ヲ完了シタリ、然レドモ旱天再ビ経続シテ田面又極端ニ乾燥シ移植後ノ稲ハ全ク枯死ニ頻スルニ至レリ、サレバ該地方ノ農業者ハ殆ド狂気シテ上流中上郷ニ迄通水ヲ迫リ、一方瀬名沢流域ナル千福地内屏風岩下ノ湧水池ヲ穿鑿シテ其増量ヲ図リタレドモ如何ンセン七月六日リ（ママ）九月三日ニ互ル約二ケ月連続セル旱天ノタメ、間断ナキ上中郷ヨリノ通水モ瀬名沢ノ湧水モ其効果甚タ尠ク下郷、中土狩以南ノ耕地ハ植付後僅カニ二回乃至三回潤シタルノミナレバ其旱害モ

殊ニ甚シク大正十四年度ノ旱魃ニ亜グノ損害ヲ蒙リタルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ

右報告候也

昭和三年二月認定

組合管理者　長泉村長　井上周一郎㊞

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三九　昭和四年二月一九日（一九二九）　大正一四年から昭和三年までの旱害報告

水利灌漑ニ関スル件

本組合ハ過去三ケ年間連続セル未曾有ノ大旱魃ニ依リ流末村民ノ困憊其極ニ達セルノ状態ナレハ、本年ハ如何ニカシテ此危ヲ免レンモノト前年ノ灌漑特期終ルヤ湖水ノ流量ヲ極度ニ制限シ、会社ト共力シテ只管貯水ノ増量ニ腐心セシタメ貯水期ニ於ケル雨量極メテ尠ナカリシガ前年九月ニ於ケル一尺七寸ノ水位ヲ本年六月一日ニ至リ辛ジテ六尺六寸四分迄ニ上騰セシメ得タリ

然レドモ六月初旬ノ梅雨期ニ入ルモ依然トシテ連日焼クガ如キ旱天ニ東風吹キ加ハリ田面極度ノ乾燥ヲナシ本年モ亦前年ノ轍ヲ踏ムナルベシト焦慮セシモ、十三日ノ午後ヨリ十四日ニ亙ル（ママ）豪雨ノ為メ遽カニ用水潤沢トナリ爾来時々相当ノ降雨アリシヲ以テ植付モ完全ニ終了ヲ告ゲ其後ノ用水ニモ些ノ支障ナク灌漑ヲ終リ、本年始メテ組合ノ全田面数年来稀ナル豊穣ヲ見ルニ至リシハ誠ニ同慶ニ堪ヘサル次第ナリ

而シテ七月下旬ニ至ルヤ稀ニ見ル豪雨屢々ニシテ八月中旬ニハ芦湖水著シク増加シ同月二十日ニハ九尺七寸五分ノ大増水ヲ来シ四ツ留水門上ノ暗渠ヲ越水スルコト七、八寸ニ及ビシカバ、暗渠崩潰ノ虞アルヲ以テ急遽土俵ヲ以テ之ガ越水ヲ防禦シ辛シテ其安全ナルヲ得タリ、此時逆川ノ水ハ土俵三俵上約一尺ヲ乗リ越ヘ遂ニ吐口東側ノ上部土俵ヲ押シ流シ之ガタメ幾分ノ減水ヲナシタレバ八月二十九日再ビ土俵積ヲナシ原形ニ復シタリ、

右報告候也

昭和四年二月十九日

深良村外六ケ村芦湖水利組合管理者
長泉村長　井上周一郎印
（静岡県芦湖水利組合所蔵）

二四〇　昭和七年一月二〇日　東京電燈灌漑用水貯水保証書

（一九三二）

保証書

大正九年八月九日付ヲ以テ貴組合ト東京電燈株式会社トノ間ニ締結シタル契約書第参条及第九条ニ基キ灌漑用水及其ノ他ノ用水ニ支障ヲ来サシメサラシムル為メ、貴組合トノ間ニ信用アル者壱名ヲ選定シ四ツ留水門附近ニ常住セシメ同水門並ニ逆川甲羅伏悪水吐口ノ巡視取締ニ任シ常ニ湖水ノ水位ニ注意シ貯水増量ノ方法ヲ講シ其必要ニ応シ貴組合水配人ノ指揮ヲ受ケ水門ノ流出量ヲ斟酌加減シ水量ノ調節ヲ計ル事ニ相成候ニ就テハ、必ス毎年六月壱日前後ニ於ケル四ツ留水門上戸ノ上端以上当会社責任ヲ以テ貯水致シ貴組合灌漑用水ニ缺乏ヲ生セシメサル様盟ツテ実行可仕候若シ所定ノ期日至リ貯水責任ノ水位ニ達セス、之カ原因トナリ貴組合田地灌漑ニ缺乏ヲ来シ旱害ヲ蒙ラシメ候節ハ其程度ニ応シ相当ノ賠償可致候、為後日保證書仍而如件

昭和七年壱月弐拾日

東京電燈株式会社
取締役社長　郷誠之助

静岡県駿東郡深良村外六箇村
芦湖水利組合管理者
長泉村長　鈴木博夫殿
（静岡県芦湖水利組合所蔵）

二四一　昭和一二年一月二二日　芦之湖水利組合水配人服務内規

（一九三七）

湖議第壱号

水配人服務内規ニ関スル件

本組合水配人服務ニ関シ委員会審議ヲ経タル別紙芦湖水利組合水配人服務内規ニ基キ取扱ヲ為スモノトス

昭和十二年二月二十二日提出

同　年同月　日決議

駿東郡深良村外六ケ村芦湖水利組合管理者

駿東郡泉村長　藤原重治

駿東郡深良村外六ケ村芦湖水利組合水配人服務内規

総則

第一条　本組合水配ニ関シ古来ヨリ三郷間並ニ郷内ニ定メラレタル諸規定及ビ従来ノ慣行トニヨリ執行シ補則トシテ本服務内規ニ従ヒ勤務スルモノトス

第二条　本組合三郷正副水配人ハ常ニ芦湖ノ貯水々位ニ顧念シ雨量並ニ用水ノ多寡ニ依リ四ツ留水門ヲ開閉シ、逆川堰堤甲羅伏及ビ堤塘並ニ各堰所ノ破損漏水等ニ注意シ、組合田地ノ植付並ニ灌漑用水ヲ潤沢ナラシムルコトヲ計ルモノトス

管理

第三条　本組合ハ東京電燈株式会社ニ対スル契約ニ基キ毎年十月一日ヨリ翌年五月三十一日迄ノ間貯水嘱託期間中ノ間接管理ト六月一日ヨリ九月三十日迄ノ水利需用期ニ於ケル直接管理トニ区分ス

第四条　本組合ト東京電燈株式会社トハ水ノ利用期ヲ異ニシ並ニ管理様式ニ区分アリト雖ドモ、其ノ影響スル所ハ不可分ナルヲ以テ年中間断ナク直接間接注意ト管理ヲナシ、田地灌漑終了期ニ於ケル芦湖ノ湛水並ニ夏秋ノ豪雨ヲ貯水スルコトヲ専念シ東京電燈株式会社ニ対シテ本組合田地灌漑ニ支障ヲ来サザル範囲ニ於テ利用セシムルモノトス

第五条　本組合ハ毎年六月一日四ツ留水門上戸七尺以上ノ水受ケヲナシ三郷旧来ノ慣行ヲ厳守シ田地灌漑ヲ公平支障ナカラシムルモノトス

井堰

第六条　水配人ハ毎年貯水準備トシテ、三郷水配人共同

登山シ逆川堰堤甲羅伏ノ破損ヲ修理シ土俵ノ伏セ替ヲ為スベシ

第七条　水配人ハ恒例ニ依リ施行スル各郷関係堰所ニ注意シ慣例ニ違背セサル様取締ルモノトス

水利ノ調節

第八条　水配人ハ植付並ニ灌漑水ノ需用期ニ於テ其ノ必要ニ応シ三郷打合セノ上登山戸抜ヲ行フモノトス

第九条　水配人ハ水ノ需用期ニ於テハ各自郷ノ関係者ノ要求ニ依リ又ハ必要ト認メタルトキハ水ノ調節分水等ニ出仕シ公平ニ田地ニ灌漑スルモノトス

間接管理

第十条　水配人ハ四ツ留水門ヲ東京電燈株式会社ヘ嘱託期間中ト雖トモ水位流量隨時巡視ノ為メ毎月五日・十五日・二十五日前後ニ於テ三回ノ登山ヲ為スモノトス

但シ管理登山ハ交代単独潜行シ

戸抜登山ハ三郷代表三名トシ

水受又ハ逆川土俵伏替等ノ登山ハ此ノ限リニアラス

第十一条　第六条乃至第八条及前条ノ行為ハ其ノ要領ヲ管理役場備付ノ巡視簿ニ記載シ管理者ニ報告スヘシ

本内規以外ノ場合ハ管理者ノ指示ヲ受ケ登山スルモノトス

附則

本内規ハ昭和十一年四月一日ヨリ施行ス

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

第四節　地域の変貌と用水

三四　昭和二〇年（一九四五）七月一八日　芦湖水利組合事務引継書

事務引継書

駿東郡深良村外六ヶ村芦湖水利組合管理者在任中ノ事務別冊之通リ此段及引継候也

昭和二十年七月十八日

深良村外六ヶ村芦湖水利組合
前任管理者　藤原重治㊞

深良村外六ヶ村芦湖水利組合副管理者
深良村長　山本大全殿

右引継相受候也

昭和弐拾年七月廿壱日

深良村長　山本大全㊞

組合沿革ノ概要

本組合ハ深良村・富士岡村・富岡村・小泉村・泉村・長泉村・清水村ノ七ヶ村ノ内二十八大字ト田地五百三十一町五反四畝二十歩ニ灌漑スル共同事務処弁ノ為メ設置シタル水利組合ニシテ、其ノ水源ハ神奈川県足柄下郡元箱根村芦湖ヲ疏水シ深良村地先ニテ黄瀬川ニ合流シ、更ニ瀬名沢ヲ引入レ本組合用水ニ充当スルモノニシテ、三百年来渝ルコトナク其ノ起因ハ寛文六年静岡市ノ友野與右衛門・江戸浅草ノ人長濱半兵衛・尼ヶ崎嘉右衛門・浅井次郎兵衛ノ四氏発起トナリ、深良村大庭源之丞地元ノ代表トナリ、徳川幕府ノ許可ヲ得テ芦湖四ツ留ニ水閘ヲ設ケ国境駿河津峠ニ元箱根村分百八十四間、深良村分五百五十四間、延長七百三十八間ノ隧道ヲ堀鑿シ下穴口熊洞ヨリ馬坂尻、古川口ニ至ル一里二十二町十六間ヲ流下シ、其レヨリ新川ト称スル新水路延長七百二十間ヲ穿チ、尚逆川口ニハ延長二十間巾九尺高サ五尺ノ堰堤ヲ築キ、中央ニ九尺宛ノ排水口二ヶ所ヲ設ケ之ニ土俵三俵宛積ミ重

ネ水位ノ調節ヲ為シ、常時止メ関東配電会社ノ芦湖四ツ留水門ノ流量ヲ取締リ恒ニ貯水ノ増量ヲ計リ、灌漑期ニ際シテ揚水井戸ヲ有効ニ利用シ、組合全域ニ亘リ灌漑ニ支障ナキヲ期スルモノナリ

組合ノ機関

一組合吏員

組合規定ニヨリ管理役場ヲ設ケ正副管理者・収入役・書記各一名ヲ以テ全般ノ事務ヲ掌ル、組合ハ上・中・下ノ三郷ニ分チ各郷ニ正副水配人各一名ヲ置キ灌漑用水ノ水配事務ヲ処理ス

一委員会ハ委員設置規定ニ依リ委員十二名ヲ置キ、委員会ヲ組織シ管理者ノ諮問機関トス

一組合会ハ組合会議員ノ定数ヲ二十八名トシ、組合会ヲ組織シ決議機関トス

一臨時出納検査ハ臨時出納検査立会人ノ定数ヲ三名トシ、組合会ニ於テ各郷ノ議員中ヨリ各一名ヲ選挙シ臨時出納検査ニ立会セシム

規定及慣例

本組合ハ各種ノ定リタル規程ノ以外ハ凡ラ慣例ニ依ルモノニシテ、古来水門ノ開閉配給水ハ勿論大小堰取ノ位置構造灌漑地域其ノ他組合ニ関スル一切ノ事項ハ厳格ナル旧慣ヲ存シ永久不文律ニシテ尊重ス

芦湖々水使用権

一芦湖ハ元箱根神社ノ御朱印地ニシテ明治維新ト共ニ帝室ノ御所有トナリ帝室林野局ノ管理ニ属ス、大正十一年世伝御料林解除ト共ニ内務省ニ移管セラル、大正十三年神奈川県知事ハ河川法ヲ準用シ其ノ結果当時ノ管理者ハ同年八月芦湖水及敷地占用並ニ工作物設置許可申請書ヲ神奈川県知事ニ提出シ、大正十四年四月許可ノ指令ニ接シ、即チ法律的ニ使用権ヲ確保スルヲ得タリ

深良川・黄瀬川・河川敷・並工作物設置権

一昭和四年八月静岡県告示第五一〇号ヲ以テ深良川・黄瀬川ハ河川法準用河川ト認定シ、次テ県令第六三号準

用河川ニ関スル規定ニヨリ深良川関係豊後堰・古川堰以下七ヶ所、黄瀬川関係大洞堰以下六ヶ所、河川敷并ニ工作物設置権保全ノ出願ヲシタル処昭和八年八月十七日許可ノ指令アリ、之レ又法律的使用権確保ヲ得タリ

何レモ使用料期間等ハ無料・無期限ノ指令ナリ

帳簿及書類

一帳簿及書類ハ別冊帳簿書類目録台帳記載ノ通リ

財産及物件

一財産及物件目録

一水路改善積立金　壱千六百円

一神奈川県足柄下郡元箱根村一七〇番地芦湖四留水面（ママ）　一ヶ所

一同　県　同郡仙石原村地内逆川口堤防並ニ甲羅伏　二ヶ所

一備品　八二点

内訳

金庫	壱個	泉村役場保管
会議机	弐拾九個	
内	拾九個	泉村役場保管
	拾個	小泉村役場保管
椅子	四拾七脚	
内	四拾弐脚	泉村役場保管
	五脚	小泉村役場保管
書類箱	壱個	泉村役場保管
謄写版并鑢	各壱個	同断
謄写版並鑢	各壱個	小泉村役場保管
掛軸	壱個	但箱共

逆川事件調停式記念品千家尊福大倉喜八郎両氏ノ書

財務会計

昭和二十年四月一日　現在

一金四千六百七十七円九十七銭　昭和十九年度歳入高

一金四千参百弐拾円七十八銭　同年度　歳出高

差引金三百五十七円十九銭　翌年度繰越高

一金三百五十七円十九銭　昭和二十年度歳入高（前年度繰越高）
一金三百三十四円〇二銭　昭和二十年度歳出高
一金四百参拾円也　仮払
差引不足金四百六円八十三銭
右ハ別冊会計簿記載ノ通リ
処理未済事項
一関東配電会社ト契約締結ニ関スル件
本組合対関東配電会社トノ契約ハ本年三月二十五日期間満了シタルモ戦時経済ノ激変ニ依リ現時ノ経済状勢ヲ基礎ニ恒久契約ノ締結ハ困難ナル為、止ムナク本月九日本組合会ノ決議ヲ経テ組合費トシテ年額金五千円也及深良川新川堤防営繕費トシテ年額金壱千五百円也ヲ本組合ニ納付スル事ノ暫定契約ヲ為シ置キタルモ、経済平常ニ帰スルヲ俟ツテ組合将来ノ為速ニ本契約ヲ締結セラレンコトヲ望ムモノナリ
制水門工事ニ関スル件
一本組合ハ芦湖ノ貯水ヲ敏活ナラシムル目的ヲ以テ従来ノ水門ノミニテハ操作不便ナルヲ以テ現在ノ四ツ留水門下流十二尺ノ場所ニ開閉自在ノ制水門ヲ築造シ、天恵ナル降雨ヲ容易ニシテ貯水ニ替ヘ灌漑ノ憂少ナカラシムル目的ヲ以テ、昭和十二年五月神奈川県知事ニ請願シタルモ県外関係ノ為未ダニ許可ニ至ラズ、決戦下必勝ノ鍵ハ食糧増産ニアリト云フ、之レ過言ニアラザルヲ以テ此ノ機ヲ逸セズ処理上ニ附シテ絶大ナル力ヲ効サレタシ
調整貯水池建設ニ関スル件
一本組合ハ昭和十五年三月芦湖貯水期ニ於ケル必須常用水量範囲内ニ於テ関東配電会社ガ電力調節上有効適切ニ使用セントスル目的ヲ以テ、四ツ留水門ニ於ケル流量ヲ増減シタル時該調整貯水池ニ依テ、必須常用水量流下ニハ毫モ影響セザル目的ヲ以テ、深良村字馬坂尻ニ調整貯水池ヲ建設セントシタルモ時局緊迫ニ依リ資材欠乏ニ陥リ蹉跌ヲ来シタルモ経済平常ヲ俟ツテ貯水

并ニ電力経済ノ為建設セラレンコトヲ望ムモノナリ

深良川・新川堤防営繕ニ関スル件

一　深良川・新川堤防ハ、洪水ノ際ニ於ケル危険ト又漏水甚シク、其ノ缺潰ノ灌漑ノ上ニ於テ憂フル所尠カラズ、幸ヒ本月十日ノ暫定契約ニ依リ関東配電会社ヨリ年々納入セラル金額ヲ土台ニ組合費協力ト相俟ツテ継続事業トシテ施行セラレタシ

芦湖水神社基本金積立ノ件

一　長泉村上土狩惣ケ原鎮座芦湖神社ヲ本組合民ノ崇敬スル由緒アル神社ニシテ其ノ維持基本財産ノ充実ヲ計リ、荘厳ナル祭事ニ奉仕スルハ本組合員ノ義務ナリト信ズ、依ツテ本組合ハ昭和四年ヨリ若干ノ積立ヲ為シ来レルヲ以テ之レガ継続ヲ望ムモノナリ

貯水嘱託ニ関スル件

一　本組合ハ大正十二年三月ヨリ東京電燈株式会社ニ対シ三ケ年ヲ一期トシテ其ノ都度保証書并ニ覚書ヲ呈シ嘱託シ来リタルニ付、本契約締結ノ節ハ別トシテ暫定契約中ハ一ケ年毎ニ以上ノ行為ヲナスヲ妥当ト認ムルモノナリ

水位流量雨量報告ノ件

一　本組合ハ芦湖ノ水位・流量・雨量・報(ママ)ノ年次報告ハ灌漑ノ支障ヲ少ナカラシムル故ニ於テ管理上将来ト雖モ報告ノ義務アルモノナルニ付継続セラレンコトヲ望ムモノナリ

書類諸帳簿ニ関スル件

一　書類諸帳簿ハ別紙同目録・台帳記載ノ通リニ有之候

省略

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三四三　昭和三〇年二月一一日（一九五五）　駿東郡深良村外五ケ市町村芦湖水利組合規約

芦湖水利組合規約第一号

駿東郡深良村外五ケ市町村芦湖水利組合規約

（組合の名称）

第一条　本組合は、駿東郡深良村外五ヶ市町村芦湖水利組合という。

（組合を組織する市町村）

第二条　本組合は、駿東郡深良村・御殿場市・富岡村、裾野町、長泉村、清水村を以つて組織する。

（組合の共同処理する事務）

第三条　本組合は、深良村、御殿場市の内神山、富岡村の内御宿・千福・上ケ田・金沢・葛山・桃園、裾野町の内久根・公文名・稲荷・茶畑・平松・富沢・石脇・佐野・二ツ屋・伊豆島田・水窪、長泉村の内南一色・納米里・上土狩・中土狩・下土狩・竹原、清水村の内新宿・伏見に関する芦湖用水共同事務を処理するを以つて目的とする。

（組合の事務所の位置）

第四条　本組合の事務所は、管理者所属の市町村役場にこれを置く。

（組合議会の組織及び議員の選挙方法）

第五条　本組合議会議員の定数は二十八人とし、管理者の告示により組合関係の市町村議会に於いて、その市町村住民中市町村議会議員の被選挙権を有する者の中から、左記の通り選挙する。

深良村　三人　　御殿場市　一人
富岡村　六人　　裾野町　十人
長泉村　六人　　清水村　二人

第六条　組合議会の組織及び組合議会議員の選挙に関しては、前条に規定するものを除くの外は、総て旧慣並びに地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）の規定に準拠する。

（組合の執行機関の組織及び選任の方法）

第七条　本組合に管理者及び副管理者各一名を置き、関係市町村長の互選によりこれを定める。

2　管理者は、組合に係る事務を処理し、本組合を代表する。

3　副管理者は、管理者を補佐し、管理者に事故が

あるとき、又は管理者が欠けたときは、その職務を代理する。

第八条　本組合に、収入役及び書記各一名を置き、管理者所属の市町村の収入役並びに職員をもつてこれに充てる。

2　収入役及び職員に事故があるとき又は欠けたときは、それぞれその代理者がその職務を代理する。

第九条　組合吏員の組織及び任免に関しては、前二条に定めるものの外、地方自治法の規定に準拠する。

（組合の経費支弁の方法）

第十条　本組合の費用は、明治十二年決定堰分の反別を標準とし、均一課率を以つて組合各市町村に分賦する。

附則

1　この規約は、公布の日から施行し、昭和三十年二月十一日から適用する。

2　駿東郡深良村外五ヶ町村芦湖水利組合規約（昭和二十七年芦湖水利組合規約第一号）は、廃止する。

（明治三〇年『規約条例反認可書』　静岡県芦湖水利組合所蔵）

三四　昭和四二年三月二〇日（一九六七）　河川法に基づく慣行水利権の届出書

事業の沿革

本組合において芦湖水を貯水調節して灌漑・飲用・動力、その他雑用水として使用してきたのは今を去る三百年前即ち寛文年間において駿東郡深良村の名主大庭源之丞が田地開発の一大事業を企図し、江戸浅草の人友野与右衛等が開鑿したものである。当時の芦ノ湖は箱根権現領のため、寛文元年、箱根神社へ祈願状の提出、同三年二月一三日工事願書を幕府に提出し、幕府も同人等の公益心に賛し同六年五月二八日寺社奉行・勘定奉行の許可を与えられ同年八月二五日に工事着手し、五星霜の長年月を経て同一〇年二月に至り漸く隧道を貫通し、通水を

届　出　書

昭和四二年三月二〇日

神奈川県知事殿

届出人　住所　静岡県駿東郡裾野町佐野七八四番地の五
氏名（ふりがな）　静岡県芦湖水利組合
管理者　裾野町長　小林秀也（こばやししゅうや）

河川法第八八条
河川法施行法第二〇条第二項

の規定により、次のとおり届け出ます。

事業の沿革	別紙添付のとおり				
事業の現況	別紙添付のとおり				
施設名	深良用水　他一四箇所	流水の占用の目的		かんがい・飲用・動力その他雑用水	
取水口等	名称又は種類	河川名	位置		
	深良水門	芦の湖 左岸	神奈川県足柄下郡箱根町 元箱根字駿河津峠一六五番地先		
	芦湖水の保全と水門操作の必要上、本組合に湖水番人を湖畔に常住させその在に当らさせている。深良水門の操作により自由に取水できるが貯水量については毎年六月一日前後において深良水門量水標の零点を基準とし二、一二ｍを貯水目標水位と定めている。取水量については本				

取水量等	工作物及び土地の占用 名称又は種類	工作物及び土地の占用 工作物の位置又は占用の場所	工作物及び土地の占用 工作物の構造又は能力	工作物及び土地の占用 占用面積	工作物及び土地の占用 摘要	行政庁の処分	備考
組合水配人は常に相互緊密な連絡をとり、特に代掻期以降のかんがい期にはその区域内の利水状況を監視し分配水の任に当っているが、その状況によりその都度水配人会議を開き取水量を決定し水門の操作をなしている。かんがい期における流量は一定はしないが、大体一、五m^3／Sから遂次上昇し、四、〇m^3／Sであるが、特に代掻期には全開し、五、〇m^3／Sの取水をなす。旱魃期に至りては取水口の土砂を除去し増水を図っている。 尚、非かんがい期には防火用並に電力用として一、二m^2／S～一、五m^3／S程度の流水をなしている。	深良水門	神奈川県足柄下郡箱根町元箱根字駿河津峠一六五番地先（芦の湖左岸）	材質＝石 断面の形状＝長 内法の大きさ＝四、一〇m×三、三m ゲート＝スルースゲート 三門 一門の規格鋼製二、三m×〇、九一m 手動捲上機付き	七四六坪（二、四六六m^2）		一　大正一四・四・一八　神奈川県指令土第三二〇八号をもって別添写の通り許可 一　神奈川県と芦湖水利組合との間における芦湖洪水防除に対する協定書別添写の通り。 一　深良用水は水利権の問題で神奈川県と争い、明治二九年五月一日行政訴訟が行われて、明治三〇年一〇月二〇日名古屋控訴院の判決により水利権は本組合のものと確認された。	

施設名	深良用水の内訳		
流水の占用の目的	かんがい、飲用、動力その他雑用水		
取水口等			
名称又は種類	河川名	位置	
深良水門	芦の湖左岸	神奈川県足柄下郡箱根町元箱根字駿河津峠一六五番地先	
豊後堰	深良川左岸	静岡県駿東郡裾野町深良 三四三番地先	
古川堰	〃	〃	〃
〃	〃	〃	三三六番の一地先
太郎右衛門堰	〃	〃	〃
〃	〃	〃	三三五番の二地先
太郎右衛門埋樋	〃	〃	〃
〃	〃	〃	三二三番地先
利平埋樋	〃	〃	〃
〃	〃	〃	一五三番地先
五反田水門	〃	〃	〃
〃	〃	〃	一四七番地先
橋場堰	〃	〃	〃
〃	〃	〃	一三八番地先
大洞堰	黄瀬川左岸	〃	〃
〃	〃	〃	二九番地先
カロウト堰	〃 右岸	〃	〃
〃	〃	〃	御宿 四四六番地先
古堰	〃	〃	〃
〃	〃	〃	七九番地先
千福堰	〃	〃	〃
〃	〃	〃	千福 二〇番地先

行ったのは正に其の年の四月二五日である。

斯様にして深良疏水隧道は実に一三四一、八米の開鑿をなし更に現在地に深良水門の新設水門より隧道迄の水路八三、六米の新設をし湖岸は水門を保護するため、両翼に石積護岸工を施す。このようにして流下された湖水は、明神岳の麓なる字熊洞より端を発し古来よりの谷川を利用し流下を図り更に裾野町深良字馬坂尻より新たに延長一四〇〇mの堤防を築き用水路を開設した。之れを深良川と称す。

深良川からは一部の取水口、豊後堰・古川堰・太郎右衛門堰向田埋樋・五反田堰・橋場堰の各堰に給水

穴　堰(富沢堰)	〃	〃	〃	大畑　一番地先
佐野　堰	〃	左岸	〃	石脇　壱七番地先
大　堰	〃	〃	〃	水窪　三一番地先

し、その残余の殆んどの水量は裾野町深良一二四〇番地先において合流し黄瀬川に注水している。

灌漑区域・灌漑面積とも明治以後は殆んど変りなく、利水については、水稲栽培の他、発電用水・防下(火)用水として用いられ、湖水からの取水方法としては、古来よりその必要に応じ、深良水門により自由の操作し、使用しているが、然し芦の湖洪水防除については、昭和二五年八月一〇日に本組合管理者と神奈川県知事職務代理者副知事との間において締結したる協定に基き深良水門の操作を行っている。当河川法の規定により芦の湖水の引用同湖敷及び早川敷占用並既設工作物存置の許可を受け別紙の許可書を交付された。

事業の現況

本組合は明治三〇年に結成同年三月一三日組合設置を許可され組合管理役場を設け、正・副管理者及び収入役・書記各一名水配人六名並びに常設委員一〇名以内を置きその管理・運営をなしている。

会議機関として組合議会を設け議会の議員二八名をもって組織する。灌漑区域は、御殿場市・裾野町・長泉町・清水町の内二八の井組であり、灌漑面積は六八四、八ha(昭和三二年一〇月一日調査による)に及んでいる。表作は水稲であるが裏作として疎菜園芸・麦類等を栽培している。灌漑期は四月一〇日から九月三〇日までであるが、そのうち代掻期は五月一〇日より五〇日間である。七月及び八月には屢水不足をするので水取口の砂上げ作業を施し必要水の流下を図る。又水配人は旧慣に基き貯水、分水及びこれに関する一切の事務を処理している。

非灌漑期には特別の灌漑は行なわれず、非常用並に発電用として少量の水を流している。

灌漑方法としては深良川及び黄瀬川から取水した水を幹線水路とし支線水路を経て各田に送り、各田では、かけ流しかんがいを行い、残水は裾野町水窪地先大堰から黄瀬川に排水している。

神奈川県指令十一第三二〇八号

静岡県駿東郡深良村外六箇村芦湖水利組合

大正十三年八月四日附願芦ノ湖水引用同湖敷及早川敷占用並既設工作物存置ノ件許可候条別紙命令事項ヲ遵守スヘシ

大正十四年四月十八日

神奈川県知事　清野長太郎　印

この謄本は原本[回]と相違ないことを認証する

静岡県芦湖水利組合管理者

裾野町長　小林秀也　印

命令書

静岡県駿東郡深良村外六箇村芦ノ湖水利組合

右ノ者ニ対シ芦ノ湖水引用同湖敷及早川敷占用並既設工作物存置ノ件許可スルニ付本命令書ヲ下付ス。

第一条　占用並既設工作物ノ存置ヲ許可スル場所ハ神奈川県足柄下郡元箱根村百七拾番地内芦ノ湖敷七百四拾六坪及同郡仙石原村字長尾千弐百四拾参番・同村字イタリ千弐百四拾四番地先早川敷百参拾坪ノ区域トス、但シ芦ノ湖水ノ引用ニ付テハ従来ノ慣行ニ依ルヘシ。

第二条　敷地占用ノ目的ハ甲羅伏石垣及四ツ留水門存置ノ為トシ引用湖水ハ灌漑及動力・飲料其ノ他ノ雑用ニ供スルモノトス。

第三条　占用ヲ廃止シタルトキハ小田原土木出張所ヲ経テ其ノ旨知事ニ届出ツヘシ。

第四条　前各項ノ外大正九年五月神奈川県令第五十三号河川敷地及流水並河川附属物占用規程ヲ遵守スヘシ

大正十四年四月十八日

神奈川県知事　清野長太郎　印

芦の湖洪水防除に対する協定書

芦の湖洪水調節及び深良村外六ケ村芦の湖水利組合用水の取水を合理化し強化するため、逆川吐水口甲羅伏の土俵部分を水門に改築及びこれに附帯する補強工事を速かに施行するまで、不取敢芦湖洪水防除対策は左記方法を以て措置するものとする。

但し本協定の措置は深良村外六ケ村芦の湖水利組合の既得水利権を毫も侵害する意図を含まず且つ慣例とはならない。

一　毎年八月一日から十月末日に至る間洪水の慮(ママ)れある場合湖水位二米五〇以上に達したときは、逆川吐口甲羅伏の土俵上段一俵通りを取除く、なお水位刻々上昇する場合は中段一俵通り取除く。更に水位上昇する場合は残り全部を取除くものとする。

二　水位更に上昇する場合は四ツ留水門扉上段三枚更に水位上昇する場合は中段二枚を取り外すものとする。

三　第一項の期間外と雖も、特に洪水の慮ある場合は当事者協議の上、前各項の措置をなし得るものとする。

四　湖水上昇の慮れなしと認めたるときは深良村外六ケ村芦の湖水利組合側に於て土俵其の他を速かに復旧せしむるものとする。

五　洪水の慮(ママ)れありとの認定は神奈川県小田原土木出張所長がこれをなし、深良村外六ケ村芦の湖水利組合管理者に通知し、深良村外六ケ村芦の湖水利組合に於て前各項の措置を取るものとする。

六　水位の基準は四ツ留水門量水標の零点を以てする。

七　本協定に付当事者の一方から協定取消の申出をなした場合、何時にても解消する。この場合相手方は異議を申立てる権利を有しない、其の時は速かに再協議するものとする。

右の通り協定なしたるに付これを證するため当事者署名捺印の上本證壱本を所持する。

昭和二十五年八月拾日

協定人　静岡県駿東郡深良村外六ヶ村
芦の湖水利組合管理者
深良村長　小林秀也
同　神奈川県知事職務代理者
副知事　豊原道也
立会人神奈川県土木部長　早田成雄
同　静岡県土木部長　大神啓次郎

右原本と相違ありません
昭和四十二年三月二十日
静岡県芦湖水利組合
管理者　静岡県駿東郡裾野町長　小林秀也
（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三四　昭和四八年五月一一日（一九七三）　芦ノ湖の水利用について　箱根町長お願い

四八箱企第一〇一号
昭和四八年五月一一日

静岡県芦湖水利組合管理者
裾野市長　岩崎亀殿
箱根町長　亀井一郎印

芦ノ湖の水利用について（お願い）

貴組合ますますご発展の由慶賀に存じ上げます。

さて、貴組合とは平素隣接する行政体として何かとご理解、ご協力を賜わり、当町が現在のような発展を見るに至りましたことに、先づ感謝申し上げる次第です。

お陰をもちまして、今では年間二、〇〇〇万人の内外観光客を迎える観光地として発展を示してまいりました。

このような状勢（情）の中で当町は「住みよい緑の箱根」の実現を目指し、〃資源の活用と保護、生活環境の整備と福祉の向上、基幹産業の適正な発展〃の三つを柱に、総合計画を策定した次第であります。

しかしながら、これが施策推進の上には幾多の難題が山積しておりますが、中でも最も困窮しておりますものが水資源の確保のことであります。

すなわち、旧仙石原村と旧宮城野村地域は県営水道に委ね、他を町営水道とし、それぞれの地域内の地下水・湧水、または表流水を水源にして、逼迫せる水需要に漸やく対処している状況化にありますが、既存の施設もすでに老朽化しているため故障も多く、その実態ははなはだ憂慮にたえないものであります。

したがって、現時点においてすら需要に応じかねる実情でもありますので、本年度より町内各域に散在しております水道施設の統合計画を樹て、各施設の整備拡充をはかることにいたしましたものの、これが水源を何処に求めるかで町内全域にわたり調査いたしましたところ、当町に所在する「芦ノ湖」にこれを求める以外に道なしという結論に達した次第でございます。

もとより芦ノ湖の三百有余年にわたる歴史的な水利権にふれることなく、当町の水資源確保の窮状をお含み取り下さいまして、人道上の立場から当町の必要量について、特段のご高配を賜わりたく懇願申し上げる次第であります。

なお、今般国立公園としての態様を整備する必要から県においては、芦ノ湖並びに早川水系の環境保全計画を樹て、芦ノ湖周辺の汚水処理のため公共下水道を建設し、美しい芦ノ湖にしようとされておる時でもありますから、早川に対しても適量の水を放流し、渓流美を保つと共に芦ノ湖畔及び早川下流地域の災害を未然に防ぎ、町民はもとより、観光客等の生命、財産を護るために、災害予想時に湖尻水門の開閉操作が小職の責任において行なうことの出来ますよう、併せてご検討下さいますようお願い申し上げます。

（昭和四八年『箱根町よりの申し入れ』
静岡県芦湖水利組合所蔵）

三四　昭和四八年六月二九日（一九七三）　芦ノ湖の水利用について

裾野市長回答

芦湖第一三号

昭和四八年六月二九日

箱根町長　亀井一郎様

静岡県芦湖水利組合

管理者　裾野市長　岩崎　亀

芦ノ湖の水利用について(回答)

向暑の砌、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より貴職におかれましては、当組合のため種々ご配慮に預り、厚く御礼申し上げます。

さて、周知のとおり本組合を組織する御殿場市・裾野市・長泉町・清水町は、古来より水不足に苦しみ、幾多の飢饉と困窮の変遷を繰り返し、三百有余年前当時としてまさに想像を絶する画期的な大事業を遂行したことは、もとより地元民の生命の維持を考えたからであります。

その間三世紀余り、芦ノ湖の水はただ単に農業用水としてのみならず、地元民の生活に密着した極めて重要な生活必需用水として、当該地域の生命線として培われて参り、今日においても、かけがえのない生活必需用水としての意義はますます強くなってきております。

また、当該地域の水事情につきましては、年々増大する水需要に備えて、新しい水源対策が必要であり、これに対処するため水源開発方策を真剣に考え、その推進を図っておりますが、適当な対策が見出しがたく苦慮しております。

このような状態の中で、逼迫する水需要の実態は甚だ憂慮にたえないものであります。

したがって、昭和四八年五月一一日付四八箱企第一〇一号をもって申入れがありました標題の件につきまして、当組合の常設委員会及び議会におきまして様々な角度より検討させていただきましたが、現時点においてすら需要に応じかねる実情でありますので、貴町よりの申入れには応じがたいとの結論に達しました。

これらの点を充分にお含みの上、他の水源確保の手だてを積極的にご企画いただくようお願い申し上げます。

（昭和四八年『箱根町よりの申入れ』
静岡県芦湖水利組合所蔵）

三四七　昭和五三年二月（一九七八）　芦湖水利組合財産目録

第三　財産目録

一　基金

区分	金額
財政調整	三、六七七、五四五円

二　施設

名称	数量	摘要
深良水門	一	石造三門　幅三、六m
水路	八三、六m	深良水門より深良川隧道まで
湖尻水門	一	鉄筋コンクリート造幅三四、五m天幅一、八m 敷幅七m鉄門扉手動式一〇門
深良川隧道	一三四一、八m	幅一、八m高さ一、八m
護岸及び土砂流出防止施設	一式	
電話施設	一式	深良水門出張所

三　その他

区分	所在地	地積	借地料	期間
湖尻水門敷	神奈川県足柄上郡箱根町 仙石原長尾三四三番地	四二六、七五m²	無料	無期限
〃	仙石原字イタリ三四〃			
〃	元箱根駿河津峠一六五〃			
〃	元箱根旧札場一六四〃			

芦ノ湖敷、魚止より前方三六、四m	神奈川県足柄下郡箱根町元箱根一七番地内	二四六九、四一	〃	〃	〃
大洞堰敷	裾野市深良字カラウト二九七番地	一〇四、六六	〃	〃	〃
カラウト堰敷	〃　金沢　四六地番先	八五、〇三	〃	〃	〃
古堰敷	〃　御宿　七九地番先	一九四、三七	〃	〃	〃
穴堰敷	〃　大畑　一地番先	一七八、五一	〃	〃	〃
千福堰敷	〃　千福　二八〇地番先	一四六、四七	〃	〃	〃
佐野堰敷	〃　石脇　五七地番先	七四五、一八	〃	〃	〃
大堰敷	〃　水窪　三一地番先	九三四、〇一	〃	〃	〃
湖水番人住宅護岸及び土砂流止防止施設敷	神奈川県足柄下郡箱根町元箱根三国峠一六五番地	一五九一、六八	年額	四八・四・一より	〃
		二八七六	無料	五一・三・三まで	
深良用水開さく三〇〇年祭記念碑敷	裾野市深良字穴口四三三番地の二の内	二六、一九	〃	三九・一〇・三より記念碑存置期間中	〃

引継ぎをした者　静岡県芦湖水利組合
副管理者
長泉町長　高橋正三㊞

引継ぎを受けた者　静岡県芦湖水利組
合管理者
裾野市長　市川武㊞

（昭和五三年『事務引継書』静岡県芦湖水利組合所蔵）

三四八　昭和五六年九月二五日　東京電力株式会社及び姫川電力株式会社との契約書

契約書

静岡県芦湖水利組合(以下「甲」という)と東京電力株式会社(以下「乙」という)及び姫川電力株式会社(以下「丙」という)は、乙がその所有する深良川第一発電所・同第二発電所及び同第三発電所(以下「深良川発電所」という)を丙に譲渡することについて、次のとおり契約を締結する。

第一条　甲は、乙が深良川発電所を次の各号にもとづいて丙に譲渡することについて同意する。

一　譲渡物件

(一)発電所設備及び付帯設備　一式

(二)土地所有権及び土地使用権　一式

(三)発電用水利権(有効期間　昭和八〇年三月三一日まで)

二　譲渡期日　昭和五七年四月一日

第二条　乙は、本譲渡にあたって、大正九年八月九日甲と乙との間で締結した契約書、これに付随した追加契約書及び覚書等に記載された条項を、総て丙に継承する。

第三条　乙は、前条のほか甲、乙間で実施している諸行事等を現状のまま総て丙に継承する。

第四条　乙は、丙が前二条により継承した事項の業務運営が軌道にのるまでの間適宜助言し、万一丙に遺漏のある場合は、乙の責任において丙が継承事項を履行するようはかるものとし、甲に迷惑をかけないものとする。

第五条　甲は、乙が本譲渡にあたって行う発電用水利権譲渡承認申請及びその他官庁出願に対し協力する。

上記契約締結の証として本書三通を作成し、甲、乙、丙記名なつ印のうえ各一通を保有する。

昭和五六年九月二五日

甲　静岡県芦湖水利組合管理者
　　裾野市長　市川　武
乙　東京都千代田区内幸町一丁目一番三号
　　東京電力株式会社
　　代表取締役社長　平岩外四
丙　東京都千代田区有楽町一丁目五番□号
　　姫川電力株式会社
　　代表取締役社長　山崎國雄

（昭和四八年『議決書綴』静岡県芦湖水利組合所蔵）

三九　昭和五九年八月四日（一九八四）　静岡県芦湖水利組合規約

静岡県芦湖水利組合規約

昭和三二年二月五日
静岡県指令地第三二五号
改正　昭和三四年三月三〇日静岡県指令地第四六二号
　　昭和三五年九月三〇日静岡県指令地第一六六五号
　　昭和三九年一一月一三日静岡県指令地第一七八六号
　　昭和四六年四月一四日地第六八号
　　昭和五九年八月四日市第五一一号

第一章　総則

（組合の名称）

第一条　本組合は、静岡県芦湖水利組合（以下「組合」という。）という。

（組合を組織する市町）

第二条　組合は、裾野市・駿東郡長泉町及び清水町並びに御殿場市（以下「関係市町」という。）をもって組織する。

（組合の共同処理する事務）

第三条　組合は、裾野市のうち深良・岩波・久根・公文名・稲荷・茶畑・平松・富沢・石脇・佐野・二ツ屋・伊豆島田・水窪・御宿・千福・上ヶ田・金沢・葛山及

び桃園、長泉町のうち南一色・納米里・上土狩・中土狩・下土狩及び竹原、清水町のうち新宿及び伏見並びに御殿場市のうち神山に関する芦湖用水共同事務を処理する。

（組合の事務所の位置）

第四条　組合の事務所は、管理者の属する市町役場内に置く。

第二章　組合の議会

（組合の議会の組織及び議員の選挙の方法）

第五条　組合の議会の議員（以下「組合議員」という。）の定数は、二八人とし、関係市町の議会において、当該議会の議員の被選挙権を有し、かつ、芦湖用水の水掛り田地を所有し、又は耕作する者のうちから次のとおり選挙する。

裾野市	深良 岩波	三人	富沢	一人	
			石脇	一人	
久根		一人	佐野	一人	
公文名 稲荷		一人	二ツ屋	一人	
			伊豆島田	一人	
茶畑		一人	水窪	一人	
平松		一人	御宿	一人	
千福		一人	葛山	一人	
上ヶ田		一人	桃園	一人	
金沢		一人			
長泉町	南一色 下土狩	二人	上土狩	一人	
			中土狩	一人	
納米里		一人	竹原	一人	
清水町	新宿	一人	伏見	一人	
御殿場市	神山	一人			

二　組合議員に欠員が生じたときは、当該欠員となった議員を選挙した関係市町の議会は、遅滞なく、補欠選挙を行わなければならない。

三　選挙を行うべき期日は、組合の管理者が定めて、関係市町の長に通知しなければならない。

四　第一項及び第二項の選挙が終わったときは、関係市町の長は、直ちにその結果を組合の管理者に通知しなければならない。

（組合議員の任期等）

第六条　組合議員の任期は、四年とする。

二　前条第二項の規定により選挙された組合議員の任期は、前任者の残任期間とする。

三　組合議員が前条第一項に規定する者でなくなったときは、その職を失う。

第三章　執行機関

（執行機関の組織）

第七条　組合に、管理者・副管理者及び収入役各一人を置く。

二　前項に定める者を除くほか、組合に必要な吏員その他の職員を置く。

（執行機関の選任）

第八条　管理者及び副管理者は、関係市町の長の互選により定める。

二　収入役は、管理者の属する市町の収入役をもって充てる。

三　前条第二項の吏員その他の職員は、管理者が任免する。

（組合の監査委員）

第九条　組合に、監査委員二人を置く。

二　監査委員は、管理者が組合の議会の同意を得て、知識経験を有する者及び組合議員のうちからそれぞれ一人を選任する。

三　監査委員の任期は、知識経験を有する者のうちから選任される者にあっては四年とし、組合議員のうちから選任される者にあっては当該組合議員の任期による。

第四章　組合の経費

（経費の支弁方法）

第一〇条　組合の経費は、明治一二年決定堰分の反別を

標準とした均一課率による関係市町の分賦金その他の収入をもって充てる。

二　前項の分賦金は、管理者が組合の議会に諮って定める。

附則

一　この規約は、許可の日から施行し、昭和三一年九月三〇日から適用する。

二　駿東郡深良村五ヶ市町村芦湖水利組合規約（昭和三一年芦湖水利組合規約第一号）は、廃止する。

附則（昭和三四年静岡県指令地第四六二号）

この規約は、許可の日から施行し、昭和三二年九月一日から適用する。

附則（昭和三五年静岡県指令地第一六六五号）

この規約は、許可の日から施行し、昭和三五年四月一日から適用する。

附則（昭和三九年静岡県指令地第一七八六号）

この規約は、許可の日から施行し、昭和三五年一一月三日から適用する。

附則（昭和四六年地第六八号）

この規約は、許可の日から施行し、昭和四六年一月一日から適用する。

附則（昭和五九年市第五一一号）

この規約は、許可の日から施行し、昭和五九年四月一日から適用する。

（平成元年『静岡県芦湖水利組合例規集』静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三〇　昭和五九年一一月一九日　芦ノ湖取水抑制について神奈川県知事要請

（一九八四）

水資第一九号

昭和五九年一一月一九日

静岡県芦湖水利組合管理者

裾野市長　市川　武殿

神奈川県知事　長洲一二印

芦ノ湖の異常な水位低下に対する湖水取水の抑制について(要請)

貴組合のますますの御発展、誠に慶賀に存じます。

本県箱根町に所在する「芦ノ湖」は、富士箱根伊豆国立公園における箱根の顔として、国内はもとより、国外からも多数の人々が観光や保養に四季を通じて訪れ、世界的にその名を知られた景勝の地であります。また、湖周辺には多数の人々が居住し、観光・保養・水産・林業などの事業を営んでおります。この山紫水明の地箱根・芦ノ湖を神奈川県民は日本の宝物として永く後世に残していきたいと願っているものであります。

さて、御承知のとおり、本年は異常な気象状況のため降雨量が極めて少なく、芦ノ湖の水位もここ数十年に例をみないほど著しく低下し、通常の秋の平均水位に比べて本年は一メートル以上の水位低下をきたし、すでに湖周辺においてひどいところでは一〇メートルも水際線が後退し湖岸の露出も甚しいものがあります。

この異常少雨は当地域のみではなく、また、自然現象ではありますが、水位の低下により芦ノ湖及び周辺地域におきましては魚類の産卵や稚魚の保育の障害、船舶やボートの桟橋への着岸不能、更には観光・遊漁客等に対する影響がでており、湖を生業の場とする関係者や地元住民は困却し、苦悩の色を深めております。

また、長期的にも降雨は期待できず、なお水位の低下も見込まれ、このままでは今冬更には来春にかけて芦ノ湖水については、より一層厳しい状況になるものと考えられ、その影響は甚大なものが予測されます。

この様な窮状を御賢察いただき、可能な限り水位の維持をはかり芦ノ湖の水環境の保全と地元住民の生活、産業基盤の確保再建をはかるため貴組合による芦ノ湖水の取水については可能な限り抑制され貯水に御協力くださるようお願い申し上げます。

(事務担当は、水資源対策室)

(昭和五九年『静岡県芦湖水利組合関係綴』)

（静岡県芦湖水利組合所蔵）

三二　昭和六〇年（一九八五）一月一六日　深良用水断水のお知らせ

芦湖第五二号
昭和六〇年一月一六日

回覧

区長・組長・班長・水配人様
（対象地区＝深良地区と久根地区）

静岡県芦湖水利組合
管理者　裾野市長　市川　武

深良用水の断水について（お知らせ）

このことについて、深良水門の暗渠河床修復工事の為下記の期間取水を停止します。

空気が乾燥しておりますので、火の元には充分注意をお願い致します。

記

一取水停止期間　昭和六〇年一月二一日午前九時〇〇分から
昭和六〇年一月二三日午後五時〇〇分まで

（尚）1/18（金）～1/20（日）の期間に無線放送にて市内に放送する予定です。

（昭和五九年『静岡県芦湖水利組合関係綴』静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三　昭和六二年（一九八七）五月一六日　神奈川県との深良水門及び湖尻水門につき「覚書」

覚書

神奈川県知事長洲一二と静岡県芦湖水利組合管理者裾野市長市川武は静岡県知事斉藤滋与史を立会人として、二級河川早川及び芦の湖の治水安全度の向上を図るため、深良水門及び湖尻水門について下記のとおり覚書を締結する。

記

一　静岡県芦湖水利組合は、深良水門に補助水門を設置する。

補助水門の全体越流幅及び敷高は現水門と同一とする。

二　神奈川県は、河川管理上湖尻水門を改築し、管理する。

湖尻水門は、治水上必要な規模、構造とし、操作は神奈川県が行う。

三　湖水位及び水門操作状況を相互にモニターする。

四　両水門は同時期に着工する。

昭和六二年五月一六日

神奈川県知事　長洲一二印

静岡県芦湖水利組合管理者

裾野市長　市川　武印

立会人　静岡県知事　斉藤滋与史印

（昭和六二年『静岡県芦湖水利組合関係綴』静岡県芦湖水利組合所蔵）

三三　昭和六二年（一九八七）五月一六日　芦ノ湖に関する申合せ事項

芦の湖に関する申合せ事項

一　水門

一　静岡県芦湖水利組合は、深良水門に補助水門を設置する。

二　補助水門の全体越流幅及び敷高は現水門と同一とする。

三　神奈川県は、河川管理上湖尻水門を改築し、管理する。

四　湖尻水門は、全体越流幅四六ｍとし、敷高一、八八九ｍで越流幅二〇ｍと敷高一、一一一ｍで越流幅二六ｍの構成とする。（高さは現深良水門の敷高を基準とし、以下同じ。）

五　両水門は同時期に着工する。

二　水門の操作

一　計画高水位は二、九mとする。
二　常時満水位は二、三mとする。
三　神奈川県は、水位二、三m以上の場合湖尻水門の操作を行う。ただし、洪水等緊急時は芦湖水利組合の了解を得たのち二、三m未満でも操作することができる。
四　非洪水期間（一〇月一六日から翌年五月三一日）において、河川管理上支障ない場合は二・五mまで貯留することができる。
五　湖水位及び水門操作状況を相互にモニターする。
六　湖尻水門の操作規則及び深良水門の管理規程を別途定める。

昭和六二年五月一六日

神奈川県河港課長　都丸徳治㊞
静岡県芦湖水利組合管理者
裾野市長　市川　武㊞
静岡県河川課長　丹原光隆㊞
神奈川県小田原土木事務所長　中村祐忠㊞

（昭和六二年『静岡県芦湖水利組合関係綴』静岡県芦湖水利組合所蔵）

三四　昭和六二年一〇月一九日（一九八七）「覚書」及び「芦の湖に関する申合せ事項」に関する確認事項

「覚書」及び「芦の湖に関する申合せ事項」に関する確認事項

神奈川県と静岡県芦湖水利組合は、静岡県芦湖水利組合が所有し管理する現湖尻水門を神奈川県が取り除き、洪水防除及び貯留機能を有する施設である新湖尻水門を設置するにあたり、新湖尻水門について昭和六二年五月一六日に締結した「覚書」及び「芦の湖に関する申合せ事項」に基づき下記の事項について確認する。

記

一　新湖尻水門の操作規則を定め又は変更する場合におけ

る河川法第一四条にいう関係市町村長には、静岡県芦湖水利組合管理者を含むものとする。

二　新湖尻水門の洪水時の操作順位は、敷高一、八八九m（幅二〇m）のゲートから行うよう操作規則に規定する。

昭和六二年一〇月一九日

神奈川県河港課長　佐々木大造㊞

静岡県芦湖水利組合
管理者　裾野市長　市川　武㊞

静岡県河川課長　中村靖治㊞

神奈川県小田原土木事務所長　石原久也㊞

（昭和六二年『静岡県芦湖水利組合関係綴』
静岡県芦湖水利組合所蔵）

三五五　昭和六三年七月三日（一九八八）　芦ノ湖水神社祭典について

通知

芦ノ湖水神社祭典について

昭和六十三年度湖水神社例祭を左記により執り行いますので、ご多忙の折誠に恐れ入りますが、ご参列の栄を賜りたく、ご案内申し上げます。

日時　八月一日(月)午前十時

場所　芦ノ湖水神社　(上土狩)

尚、甚だお手数ですが、出欠のご都合の程を七月二十日までにご返信いただきたく、お願い申し上げます。

昭和六十三年七月三日

長泉町上土狩区長　平野寛一

祭典当番代表　小林智・二村守

（昭和六三年『静岡県芦湖水利組合関係綴』
静岡県芦湖水利組合所蔵）

三五六　昭和六三年七月一〇日（一九八八）　御裁許虫干会のお知らせ

御裁許虫干会について

昭和六十三年度御裁許虫干会を左記により開催いたしますので、公私共に御多忙のおり誠に恐れ入りますが御臨席を賜りたく御案内申し上げます。

記

一　日時　昭和六十三年八月七日（日）　午前九時

二　場所　清水町伏見公民館

三　会費　一人当たり　金　壱千六百円也

尚準備の都合が有りますので、出席人員を七月末日迄に御返信いただきたくお願い申し上げます。

昭和六十三年七月十日

清水町伏見区長　坪入　功

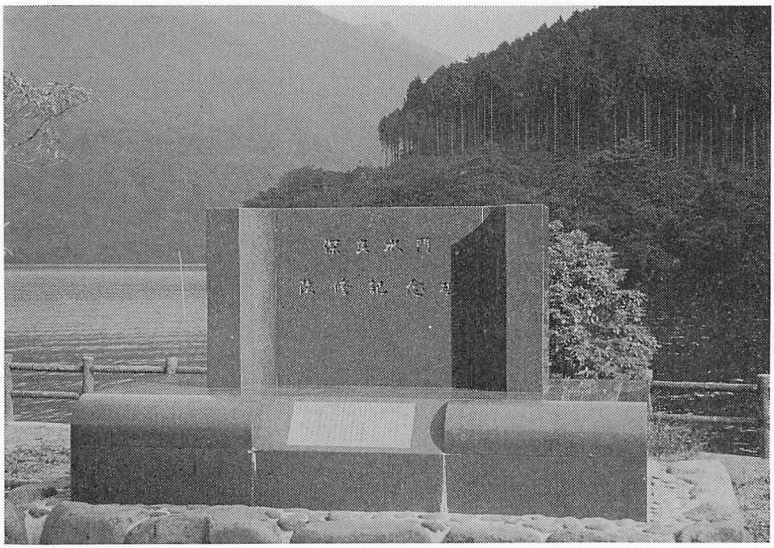
（昭和六三年『静岡県芦湖水利組合関係綴』静岡県芦湖水利組合所蔵）

三七　平成元年（一九八九）一〇月　深良用水水門改修記念碑・沿革碑銘文

（表）

碑文

本水門は明治四三年、石造り鉄扉に改造されたものであるが老朽著しく改修が急がれること、及び芦の湖の治



水安全度の向上を図るため、昭和六二年五月、神奈川県知事長洲一二と静岡県芦湖水利組合管理者裾野市長市川武は、静岡県知事斉藤滋与史を立会人として深良・湖尻両水門を相互に同時着工して整備する「覚書」を締結した。

今回新設した補助水門は、「覚書」に基づき昭和六三年一月着工し翌平成元年一〇月完成したものである。

（裏）

静岡県芦湖水利組合
管理者　裾野市長　市川　武
副管理者　長泉町長　高橋正三
関係市町　清水町長　飯田治男
前清水町長　關本文義
関係市町　御殿場市長　大庭健三
同組合議会
小林　完　吉川清治

大庭　久　山下嘉廣
小林秀一　加藤　保
中野友義　鈴木清作
柏木幸生　鈴木収一
永田房雄　大沼　茂
服部清一　上條剛次
歌崎春男　鈴木　茂
土屋誠吾　勝又　一
勝又昌芳　加藤敏春
塩川　明　西島　茂
日吉好明　永田榮次郎
植松秀男　良邊　衛
長谷川勲　水口清文
原　徳次　室伏秀雄
高村利男　山口好雄
芹澤國富　渡邉隆一
岡田　茂　木村弥太郎

水口　聖　　小坂　孝
杉山吉男　　髙橋　清
同組合水配人
諏訪部勉　　荻野徳太郎
廣瀬義一　　髙村藤雄
杉山武博　　米山宗作

深良用水の沿革

徳川四代将軍家綱の時代、小田原藩深良村(現在の静岡県裾野市深良)の名主大庭源之丞は、なんとしても芦の湖の水を引いて旱害に苦しむ村民を救いたいと考え、土木事業に経験の深い江戸浅草の商人友野与右衛門に工事を懇願しました。

与右衛門は、源之丞のふるさとを思う心に感動し工事の元締を引き受け、湖尻峠にトンネルを掘り抜き深良村以南三〇ケ村に湖水を引く大計画を立て、箱根権現の絶大な支援と庇護に支えられつつ、大変な苦労を重ね寛文六年(一六六六)ようやく幕府の許可を得、その年八月トンネル工事に着手したのです。

この難工事も優れた技術によって驚くべき正確さで成し遂げられ寛文一〇年春、三年半の歳月と七三〇〇余両の費用をかけ当時としては未曾有の、長さ一二八〇メートル余りのトンネルが貫通したのです。

爾来三〇〇有余年、灌漑・飲み水・防火用水に、また明治末期からは発電にも使用されるなど、その恩恵は計り知れず深良用水は地域一帯の発展の基と言えましょう。

この水門は明治四三年(一九一〇)木造水門を現在の石造り鉄扉のものに改造されましたが老朽著しく、このたび神奈川県の協力を得て現水門を補強して永く史蹟として保存すると共に、堅牢な補助水門を新設して利水の利便性と治水安全度の向上を図ったものです。

平成元年(一九八九)一〇月

静岡県芦湖水利組合

(平成元年『静岡県芦湖水利組合関係綴』
静岡県芦湖水利組合所蔵)

三五八　平成二年（一九九〇）一一月　神奈川県湖尻水門の由来の碑

湖尻水門の由来

芦ノ湖は、おおよそ三千年昔箱根の火山活動によって、早川がせきとめられてできた湖といわれています。

江戸時代この芦ノ湖の水を深良村（現静岡県裾野市）の灌ガイ用として導水する工事が行われ、寛文一〇年（一六七〇年）深良用水路が完成しました。同時に、湖の水位を保つため甲羅伏（こうらぶせ）と呼ばれた石張り余水吐（よすいばけ）が早川への流出口（現在地）に設置されました。この甲羅伏は、高さ五尺（約一、五m）のところに、横幅五間（九m）の排水口を設け、その上に土俵を三段に積み置き、増水時には水圧で土俵が流され排水口が開く仕組みで水害に備えていました。

やがて、石張り余水吐の破損が進み、昭和二七年（一九五二年）に甲羅伏に代わり、人力によって開閉する一〇門の水門を持った旧湖尻水門に築造されました。この水門も三五年の歳月とともに老朽化し、昭和六二年（一九八七年）から、遠隔操作により自動開閉する近代的な水門に改築する工事に着手し、平成二年（一九九〇年）に新しい湖尻水門が竣工しました。

甲羅伏は、時代とともに近代的な水門へと移り変わってきましたが、先人の努力と芦ノ湖の歴史を伝える意味で、ここに湖尻水門の由来を書き残します。

平成二年一一月

神奈川県

（神奈川県箱根町）

三五九　平成二年（一九九〇）九月一七日　芦の湖湖尻水門操作規則

芦の湖湖尻水門操作規則

目次

第一章　総　則（第一条―第四条）
第二章　水門操作の方法等（第五条―第九条）
第三章　洪水警戒体制（第一〇条―第一二条）

第四章　雑　　則（第一三条―第一七条）

付　則

第一章　総　則

趣旨

第一条　早川水系芦の湖（以下「湖」という。）湖尻水門（以下「水門」という。）の操作については、この操作規則の定めるところによる。

操作の目的

第二条　水門の操作は、早川水系早川及び湖の洪水防除並びに湖の貯留機能の維持を図ることを目的とする。

水位等

第三条　湖の水位は、水門上流に取付けた水位計（標高七二二、七メートルを水位〇、〇メートルとする。）により測定するものとする。

二　洪水期及び非洪水期は、次の各号に定める期間とする。

㈠　洪水期　六月一日から一〇月一五日まで

㈡　非洪水期　一〇月一六日から翌年の五月三一日まで

三　湖の常時満水位は、二、三〇メートルとし、第五条の規定により水門操作を行う場合及び次項の規定による場合を除き、水位をこれ以上上昇させてはならない。

四　非洪水期において河川管理上支障ない場合は、湖の水位を二、五〇メートルを上限として湖水を貯留することができる。

五　湖の計画高水位は、二、九〇メートルとする。

ゲートの名称

第四条　水門のゲートの名称は、早川水系早川の右岸に最も近いゲートから一号ゲート、二号ゲート、三号ゲートという。

第二章　水門操作の方法等

水門操作の順序及び開度

第五条　小田原土木事務所長（以下「所長」という。）は、湖の水位が次に定める状態になったときは、当該各号により水門の操作を行わなければならない。ただし、湖の水位が計画高水位に達し、なお上昇すると予測される場合は、これによらないことができる。

㈠湖の水位が二、三〇メートル未満のとき、全てのゲートは全閉とする。

㈡湖の水位が二、三〇メートルに達し、なお上昇すると予測されるとき、一号ゲートを全開する。

㈢湖の水位が二、四五メートルに達したとき、二号、三号ゲートの開度を〇、一〇メートルとする。

㈣湖の水位が二、六〇メートルに達したとき、二号、三号ゲートの開度を〇、三〇メートルとする。

㈤湖の水位が二、七〇メートルに達したとき、二号、三号ゲートの開度を〇、六〇メートルとする。

㈥湖の水位が二、三〇メートルに低下したとき、全てのゲートを全閉する。

㈦非洪水期において河川管理上支障ない場合は、湖の水位が二、五〇メートル以下のとき、全てのゲートは全閉とする。

二　所長は、第一三条の規定によりゲート等の点検又は整備を行うため必要があるときは水門の操作を行うことができる。ただし、放流は行わないものとする。

なお、ゲート動作試験において軽微な放流を伴う場合は、静岡県芦湖水利組合（以下「水利組合」という。）管理者の了解を得るものとする。

洪水等緊急時の措置

第六条　所長は、洪水等緊急を要する場合は、水利組合管理者の了解を得たのち、常時満水位未満でも洪水防除のために水門操作を行うことができる。

放流の原則

第七条　所長は、水門から放流を行う場合においては、放流により下流に急激な水位の変動を生じないよう、

かつ放流が無効放流とならないよう努めなければならない。

（放流に関する通知等）

第八条　所長は、水門から放流を行う場合は、関係機関に通知するものとする。

二　所長は、水門から放流を行う場合において、下流において危害を生ずるおそれがあると認められるときは、一般に周知させるための必要な処置をとらなければならない。

（水門操作の記録）

第九条　所長は、第五条の規定により水門操作を行ったとき及び第六条の規定により洪水等緊急時の措置として水門操作を行ったときは、次の各号に掲げる事項を記録しておかなければならない。

㈠気象及び水象の状況

㈡ゲートの操作の事由、操作したゲートの名称、ゲートの操作の開始及び終了の年月日及び時刻、ゲートの開度、ゲートの操作による放流量並びに水位の変動

㈢水門、水門の関連施設、湖及び水門下流の被害の状況

㈣放流に伴う警報及び連絡に関する事項

㈤その他特記すべき事項

二　所長は、前項に規定する場合を除き、第一三条の規定に該当する場合において水門操作を行ったときは、その状況を前項に準じて記録しておかなければならない。

三　所長は、前二項の規定に基づく記録について、水利組合管理者から申し出があったときは提出できるものとする。

第三章　洪水警戒体制

（洪水警戒体制の実施）

第一〇条　所長は、次の各号の一に該当する場合におい

ては、洪水警戒体制をとらなければならない。

(一)横浜地方気象台から降雨に関する注意報又は警報が発せられたとき。

(二)その他洪水が発生するおそれがあるとき。

洪水警戒体制時における処置

第一一条　所長は、前条の規定により洪水警戒体制をとったときには、直ちに、次の各号に定める処置をとらなければならない。

(一)神奈川県水防本部、水利組合、その他の関係機関との連絡並びに気象及び水象に関する観測及び情報の収集を密にすること。

(二)最大流入量、洪水総量、洪水継続時間及び流入量の時間的変化を予測すること。

(三)水門並びに水門の操作に必要な機械及び器具の点検、整備その他水門の操作に関し必要な処置をとること。

洪水警戒体制の解除

第一二条　所長は、洪水警戒体制を維持する必要がなくなった場合は、これを解除しなければならない。

第四章　雑則

点検及び整備

第一三条　所長は、次の各号に掲げる施設等を常に良好な状態に保つため、点検及び整備を行わなければならない。

(一)水門本体

(二)ゲート

(三)ゲートを操作するため必要な設備

(四)警報・通信連絡・観測等のため必要な設備

(五)警報のため必要な車両

(六)前各号に掲げるものの操作のため必要な資材

調査又は測定

第一四条　所長は、別表に掲げる事項に関し、同表に掲げる項目について、調査又は測定を行わなければなら

ない。

調査結果等の記録

第一五条　所長は、第一三条の規定により点検及び整備を行った結果並びに第一四条の規定により調査し、又は測定した結果を記録しておかなければならない。

管理月報及び管理年報の作成

第一六条　所長は、別に定めるところにより、水門管理月報及び水門管理年報を作成しなければならない。

その他

第一七条　この規則を実施するために必要な細則は、所長が別に定める。

付則

この規則は、平成二年九月一七日から施行する。

別表（第一四条関係）

調査又は測定事項

項目	事項	項目	事項
水位	湖	気圧	気象
流量		温度	
流入量		向	
放流量		速	
		天気	
		気湿	
		風風	
		降水量	

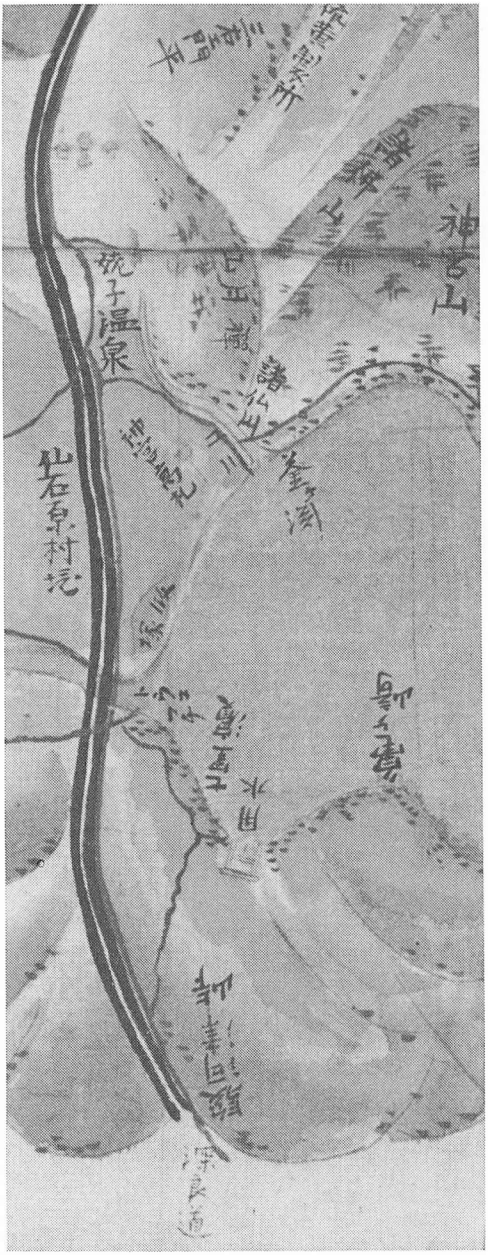
（静岡県芦湖水利組合所蔵）

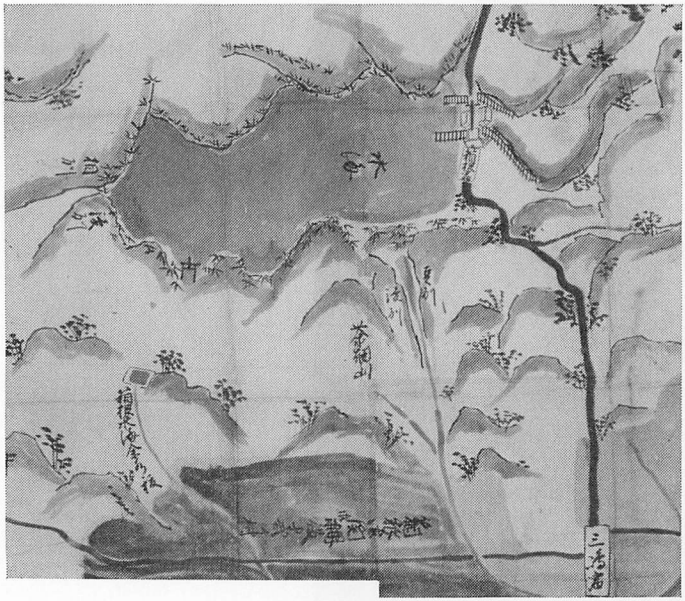
第六章　図像にみる用水



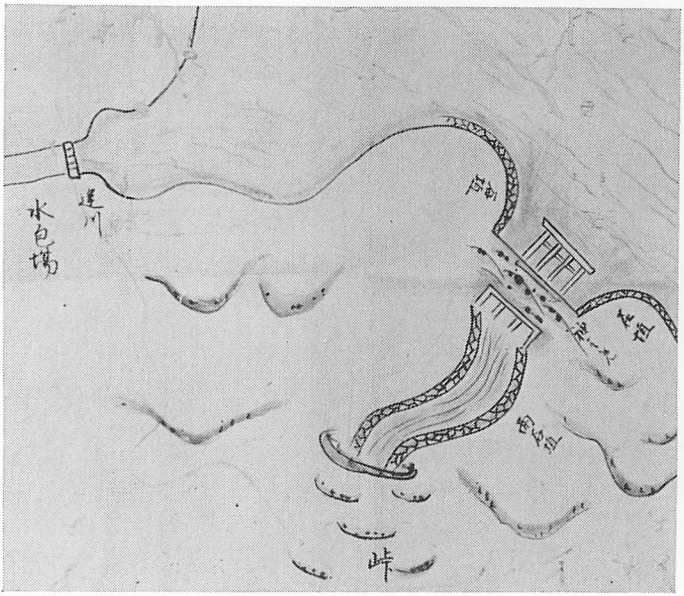
第一節　芦ノ湖と水門

三六〇　**芦ノ湖と水門(1)**
（明治六年「元箱根村絵図」部分）



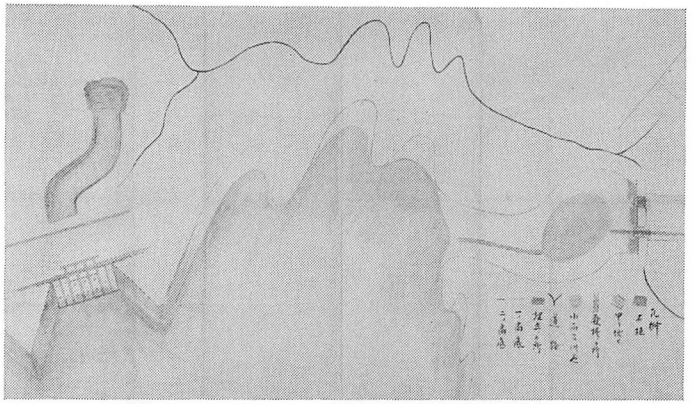


三六一　芦ノ湖と水門(2)
（年未詳「助郷関役村絵図」部分）

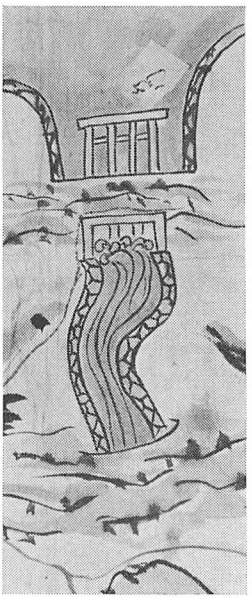


三六二　水門と逆川(1)
（年未詳「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分）

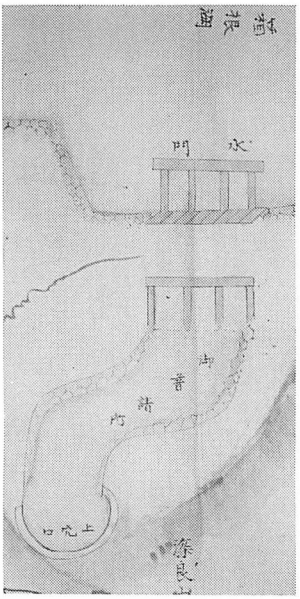
三六三　**水門と逆川(2)**
（年未詳「芦ノ湖水門及逆川絵図」部分）

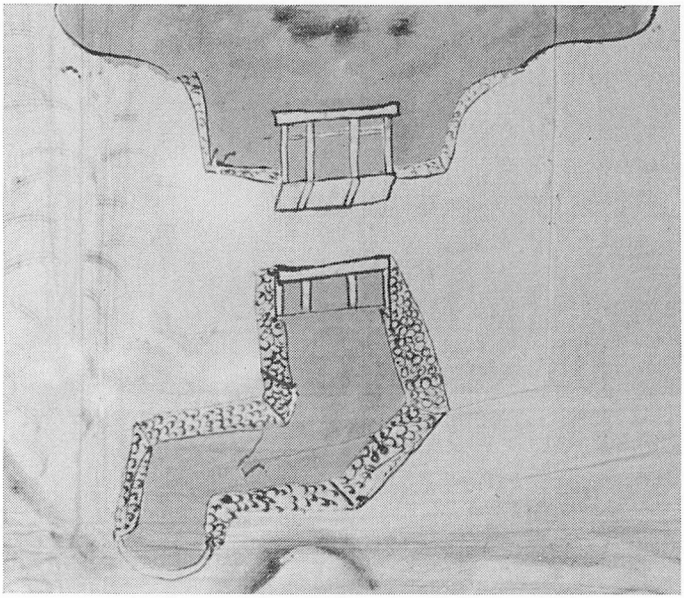


三六四　**水門(1)**
（天保二年「井組廿八ヶ村箱根湖水路村々堰々図」部分）

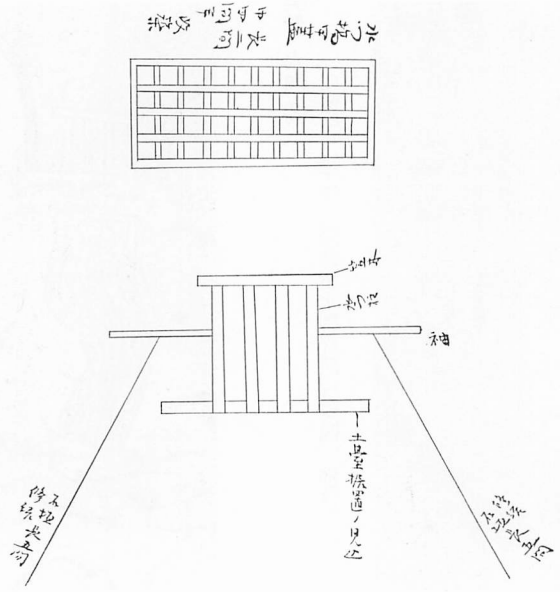


三六五　**水門(2)**
（明治三二年写「深良用水御普請所絵図」部分）



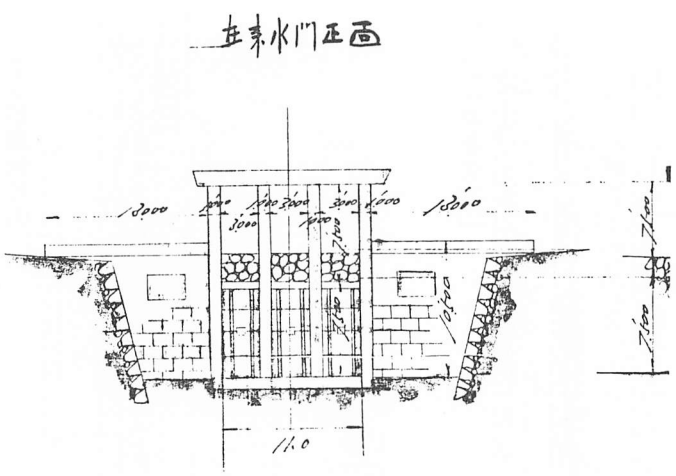


三六六　水門(3)
（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分）

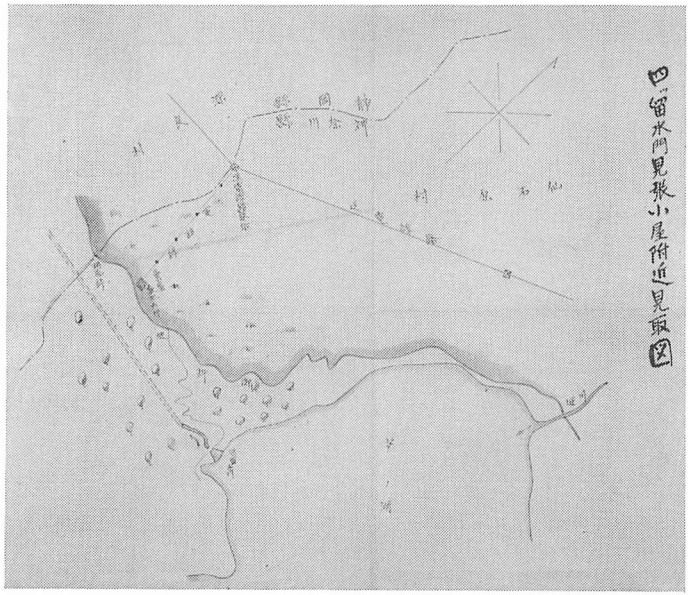


三六七　水門(4)
（年未詳「芦ノ湖水門図」）

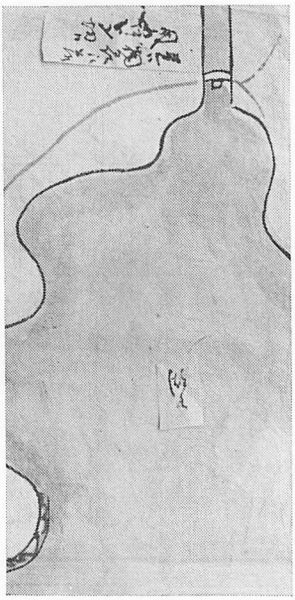
三六八　水門(5)
（年未詳「四ツ留水門新設設計図」）



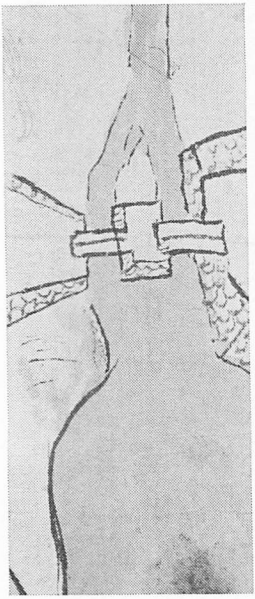
三六九　水門見張小屋
（年未詳「四ツ留水門見張小屋附近見取図」）



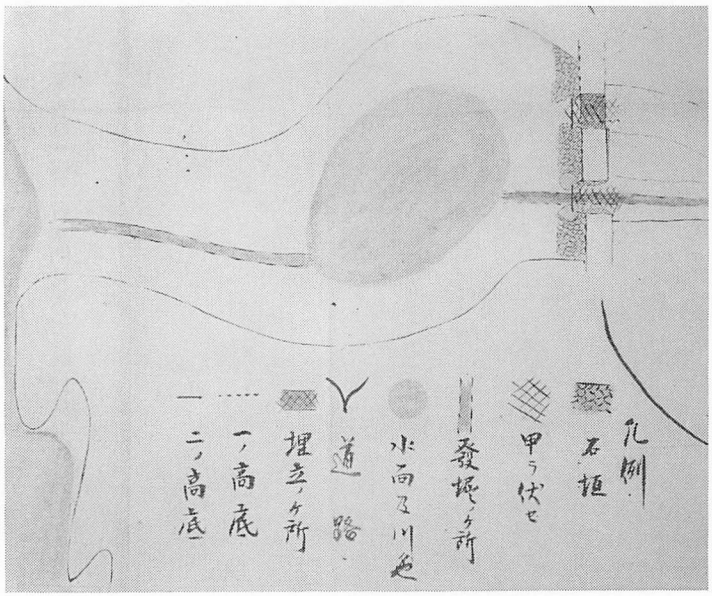
三七〇　**逆川甲羅伏せ(1)**
（天保二年「井組廿八ヶ村箱根湖水路村々堰々図」部分）

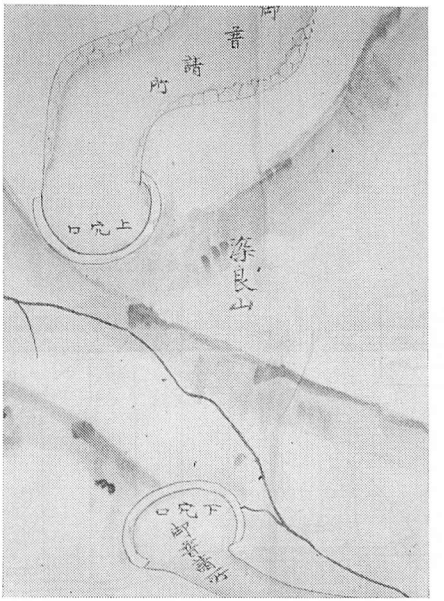


三七一　**逆川甲羅伏せ(2)**
（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分）

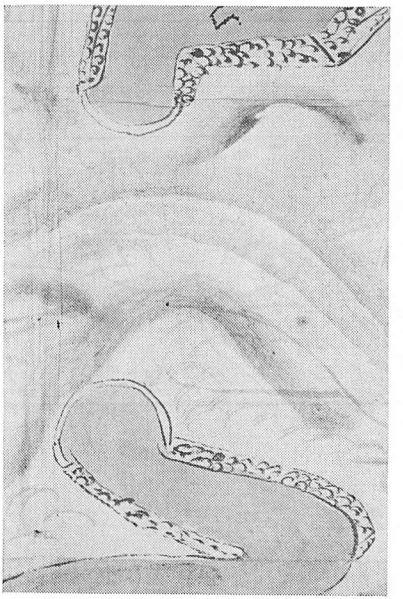


三七二　**逆川甲羅伏せ(3)**
（年未詳「芦ノ湖水門及逆川絵図」部分）





三七三　上穴口と下穴口(1)
（明治三二年写「深良用水御普請所絵図」部分）

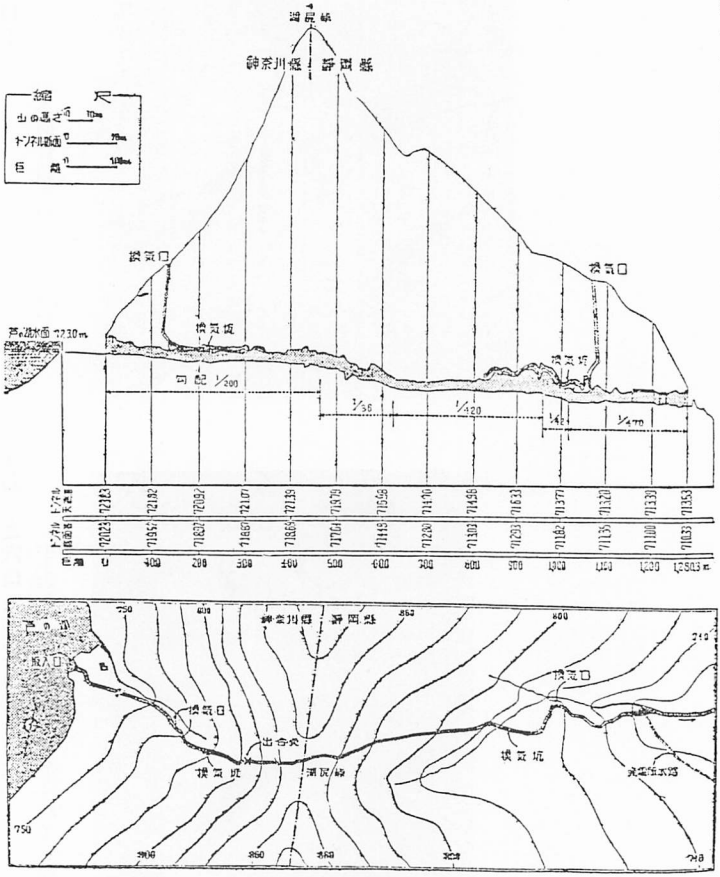


三七四　上穴口と下穴口(2)
（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分）

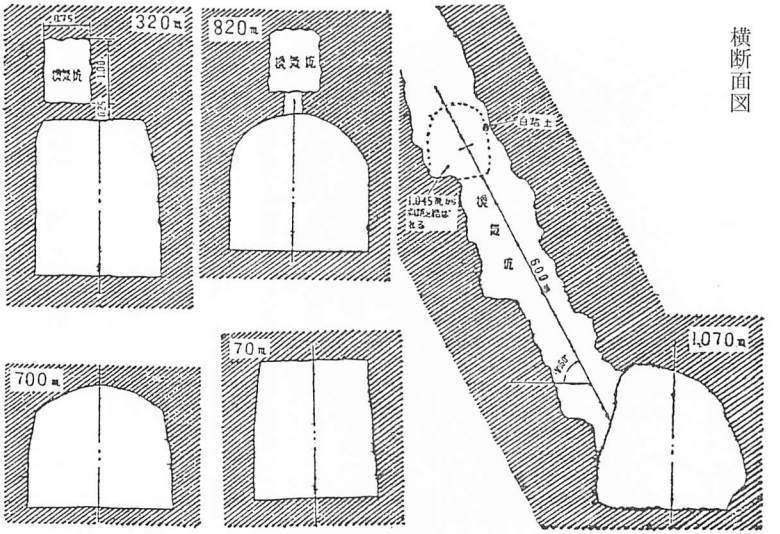
三七五　隧道内断面実測図

（昭和二五年志賀富士男「箱根用水の謎を解く」）

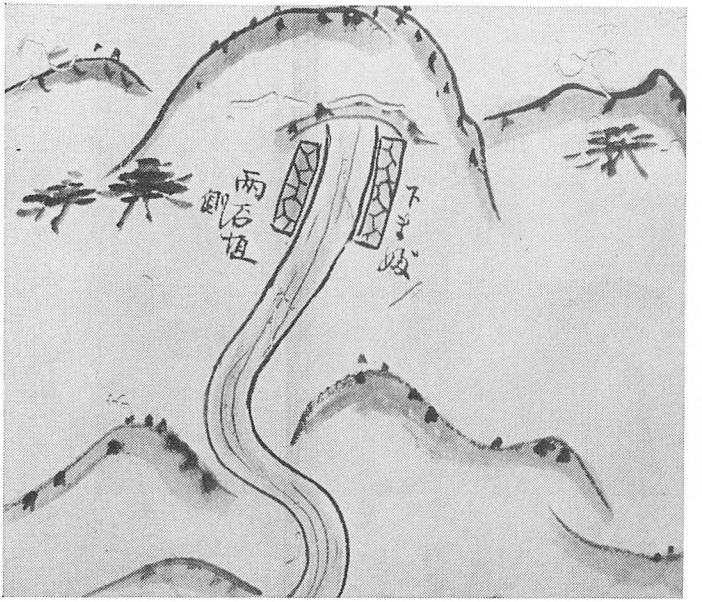
縦断面図


縮尺
山の高さ 1/5
トンネル断面 1/50
延長 1/1000
箱根山
神山
駒ヶ岳
鍛冶屋
横貫口
横貫坑
出合坑
入口
出口
1/300
1/36
1/420
1/470
1/45
1/60
1/70
1/80
1/90
1/100
1/120
1/150
1/200
1/250
1/300
1/400
1/500
1/600
1/700
1/800
1/900
1/1000
1/1200
1/1500
1/2000
1/2500
1/3000
1/4000
1/5000
1/6000
1/7000
1/8000
1/9000
1/10000
1/12000
1/15000
1/20000
1/25000
1/30000
1/40000
1/50000
1/60000
1/70000
1/80000
1/90000
1/100000
1/120000
1/150000
1/200000
1/250000
1/300000
1/400000
1/500000
1/600000
1/700000
1/800000
1/900000
1/1000000
1/1200000
1/1500000
1/2000000
1/2500000
1/3000000
1/4000000
1/5000000
1/6000000
1/7000000
1/8000000
1/9000000
1/10000000
1/12000000
1/15000000
1/20000000
1/25000000
1/30000000
1/40000000
1/50000000
1/60000000
1/70000000
1/80000000
1/90000000
1/100000000
1/120000000
1/150000000
1/200000000
1/250000000
1/300000000
1/400000000
1/500000000
1/600000000
1/700000000
1/800000000
1/900000000
1/1000000000
1/1200000000
1/1500000000
1/2000000000
1/2500000000
1/3000000000
1/4000000000
1/5000000000
1/6000000000
1/7000000000
1/8000000000
1/9000000000
1/10000000000
1/12000000000
1/15000000000
1/20000000000
1/25000000000
1/30000000000
1/40000000000
1/50000000000
1/60000000000
1/70000000000
1/80000000000
1/90000000000
1/100000000000
1/120000000000
1/150000000000
1/200000000000
1/250000000000
1/300000000000
1/400000000000
1/500000000000
1/600000000000
1/700000000000
1/800000000000
1/900000000000
1/1000000000000
1/1200000000000
1/1500000000000
1/2000000000000
1/2500000000000
1/3000000000000
1/4000000000000
1/5000000000000
1/6000000000000
1/7000000000000
1/8000000000000
1/9000000000000
1/10000000000000
1/12000000000000
1/15000000000000
1/20000000000000
1/25000000000000
1/30000000000000
1/40000000000000
1/50000000000000
1/60000000000000
1/70000000000000
1/80000000000000
1/90000000000000
1/100000000000000
1/120000000000000
1/150000000000000
1/200000000000000
1/250000000000000
1/300000000000000
1/400000000000000
1/500000000000000
1/600000000000000
1/700000000000000
1/800000000000000
1/900000000000000
1/1000000000000000
1/1200000000000000
1/1500000000000000
1/2000000000000000
1/2500000000000000
1/3000000000000000
1/4000000000000000
1/5000000000000000
1/6000000000000000
1/7000000000000000
1/8000000000000000
1/9000000000000000
1/10000000000000000
1/12000000000000000
1/15000000000000000
1/20000000000000000
1/25000000000000000
1/30000000000000000
1/40000000000000000
1/50000000000000000
1/60000000000000000
1/70000000000000000
1/80000000000000000
1/90000000000000000
1/100000000000000000
1/120000000000000000
1/150000000000000000
1/200000000000000000
1/250000000000000000
1/300000000000000000
1/400000000000000000
1/500000000000000000
1/600000000000000000
1/700000000000000000
1/800000000000000000
1/900000000000000000
1/1000000000000000000
1/1200000000000000000
1/1500000000000000000
1/2000000000000000000
1/2500000000000000000
1/3000000000000000000
1/4000000000000000000
1/5000000000000000000
1/6000000000000000000
1/7000000000000000000
1/8000000000000000000
1/9000000000000000000
1/10000000000000000000
1/12000000000000000000
1/15000000000000000000
1/20000000000000000000
1/25000000000000000000
1/30000000000000000000
1/40000000000000000000
1/50000000000000000000
1/60000000000000000000
1/70000000000000000000
1/80000000000000000000
1/90000000000000000000
1/100000000000000000000
1/120000000000000000000
1/150000000000000000000
1/200000000000000000000
1/250000000000000000000
1/300000000000000000000
1/400000000000000000000
1/500000000000000000000
1/600000000000000000000
1/700000000000000000000
1/800000000000000000000
1/900000000000000000000
1/1000000000000000000000
1/1200000000000000000000
1/1500000000000000000000
1/2000000000000000000000
1/2500000000000000000000
1/3000000000000000000000
1/4000000000000000000000
1/5000000000000000000000
1/6000000000000000000000
1/7000000000000000000000
1/8000000000000000000000
1/9000000000000000000000
1/10000000000000000000000
1/12000000000000000000000
1/15000000000000000000000
1/20000000000000000000000
1/25000000000000000000000
1/30000000000000000000000
1/40000000000000000000000
1/50000000000000000000000
1/60000000000000000000000
1/70000000000000000000000
1/80000000000000000000000
1/90000000000000000000000
1/100000000000000000000000
1/120000000000000000000000
1/150000000000000000000000
1/200000000000000000000000
1/250000000000000000000000
1/300000000000000000000000
1/400000000000000000000000
1/500000000000000000000000
1/600000000000000000000000
1/700000000000000000000000
1/800000000000000000000000
1/900000000000000000000000
1/1000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000
1/1500000000000000000000000
1/2000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000
1/3000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/15000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/20000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/25000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/30000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/40000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/50000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/60000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/70000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/80000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/90000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/100000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/120000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/150000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/250000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/300000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/400000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/600000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/700000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/800000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/900000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1200000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/1500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/2500000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/3000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/4000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/5000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/6000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/7000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/8000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/9000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/10000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000000
1/12000000000000

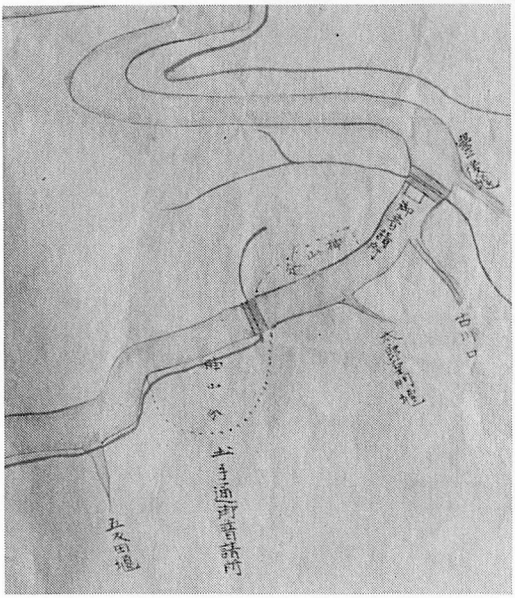
横断面図



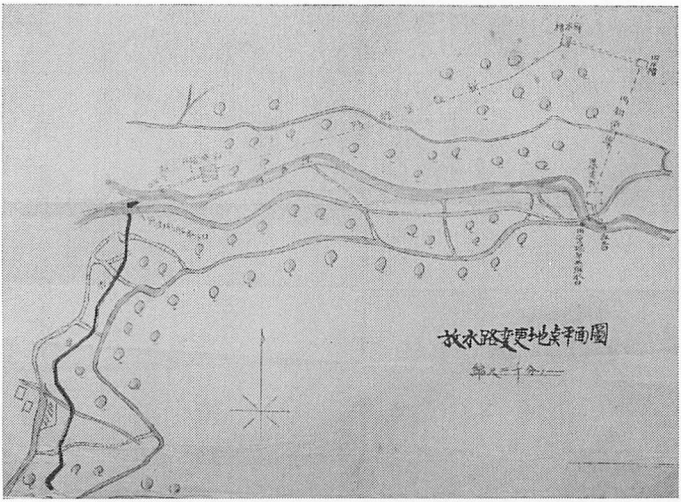
三七六　下穴口
（年未詳「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分）



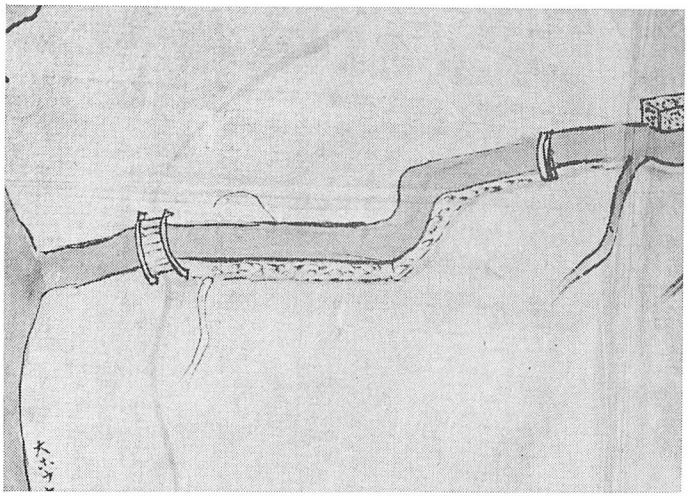
第二節　堰と用水



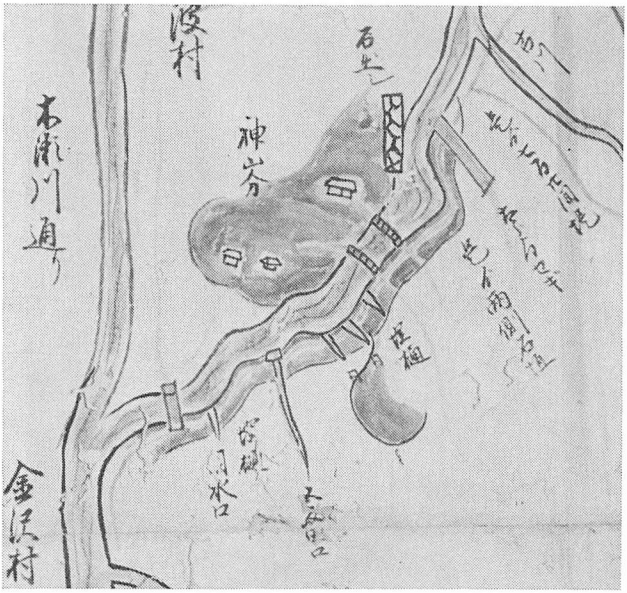
三七七　古川と新川
（明治三二年写「深良用水御普請所絵図」部分）



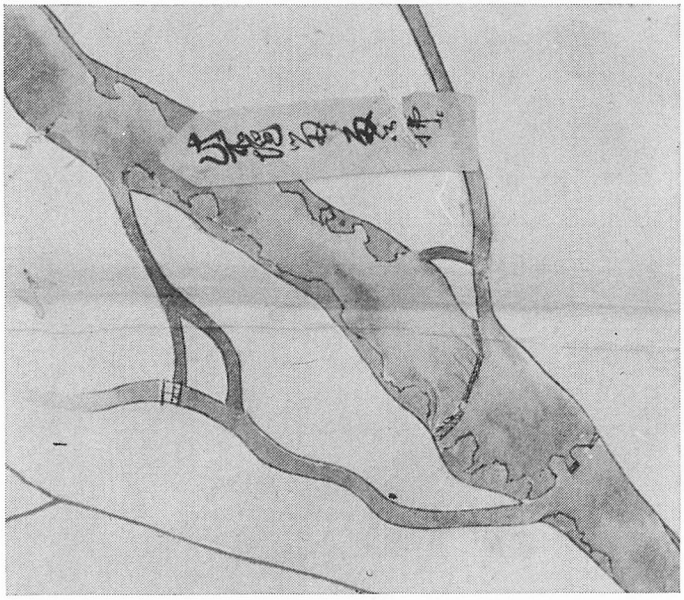
三七八　発電所の位置と堰
（年未詳「放水路変更地点平面図」）



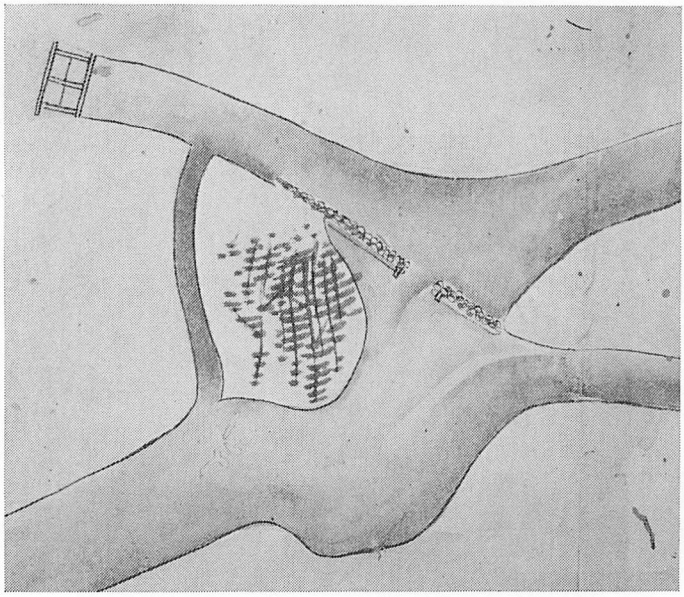
三七九　新川(1)
（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分）



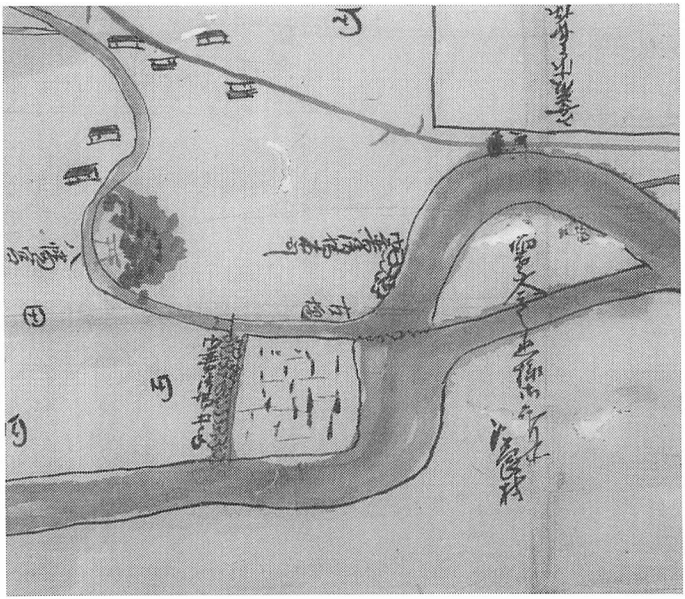
三八〇　新川(2)
（年未詳「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分）



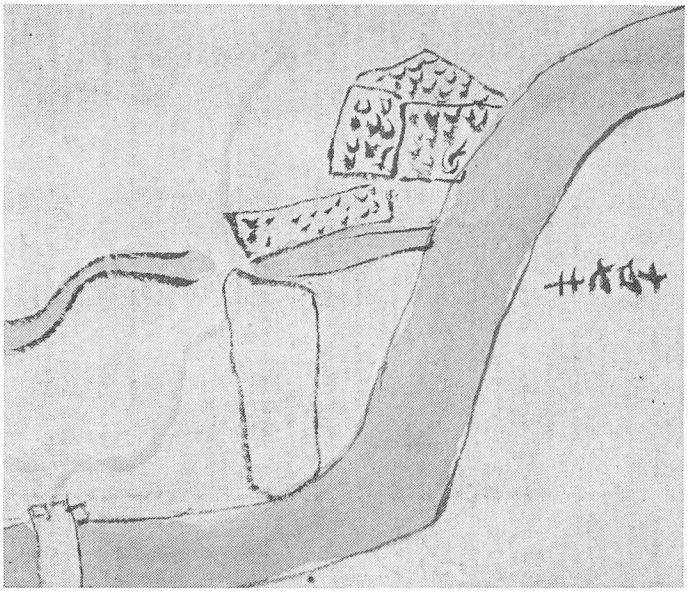
三八一　大洞堰とかろうと堰
（年未詳「箱根用水水論絵図」部分）



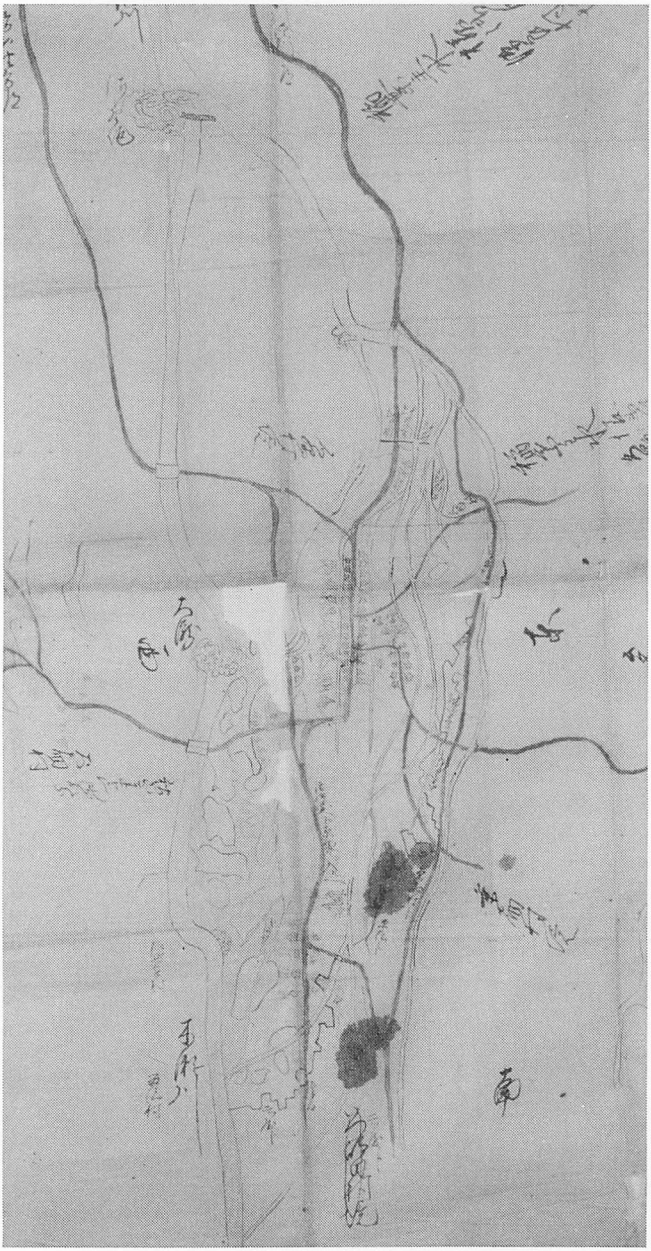
三八二　古堰(1)
（年未詳「箱根用水水論絵図」部分）



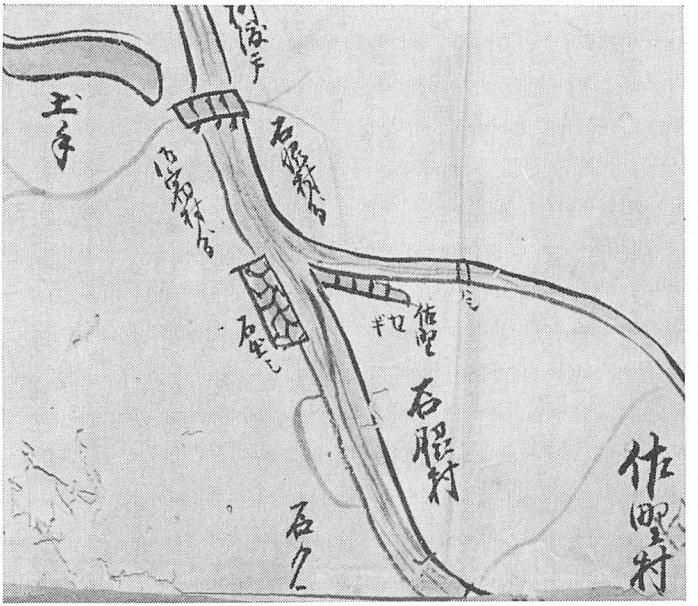
三八三　古堰(2)
（文久元年「御宿村絵図」部分）



三八四　古堰(3)
（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分）



三八五　佐野堰とその水系図
（延享元年「佐野堰水路絵図」部分）

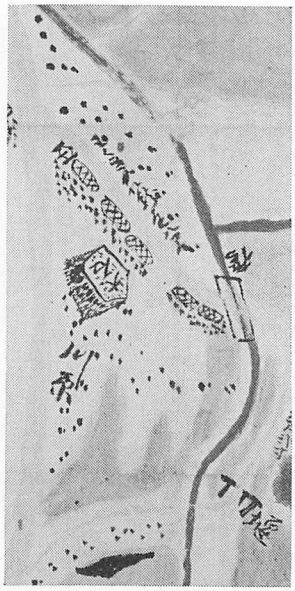


三八六　佐野堰(1)
（年未詳「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分）

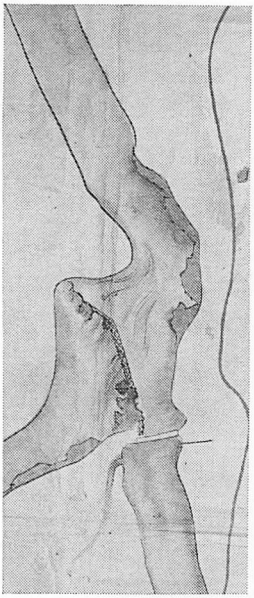


三八七　佐野堰(2)
（延享元年「佐野堰水路絵図」部分）

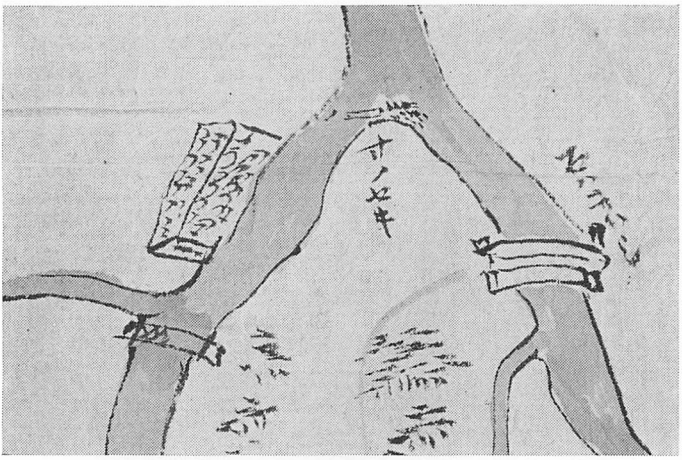
三八八　佐野堰(3)
（文政三年「石脇村湖水掛絵図」部分）

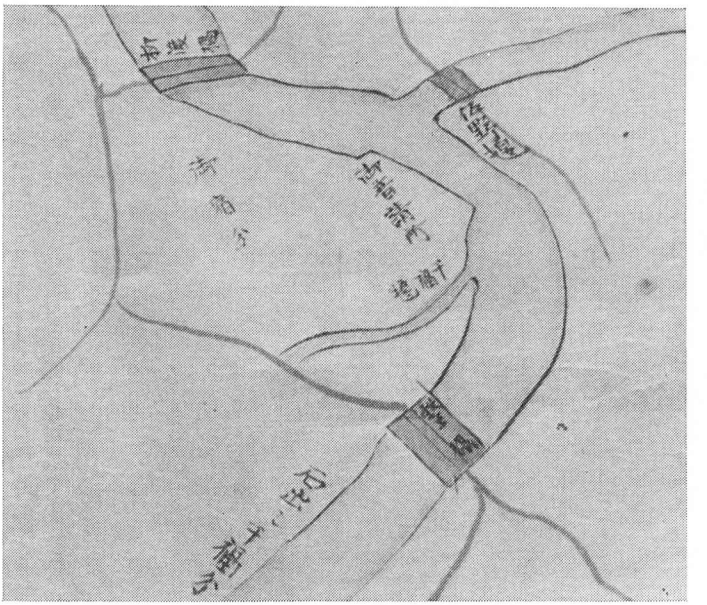


三八九　佐野堰(4)
（年未詳「箱根用水水論絵図」部分）

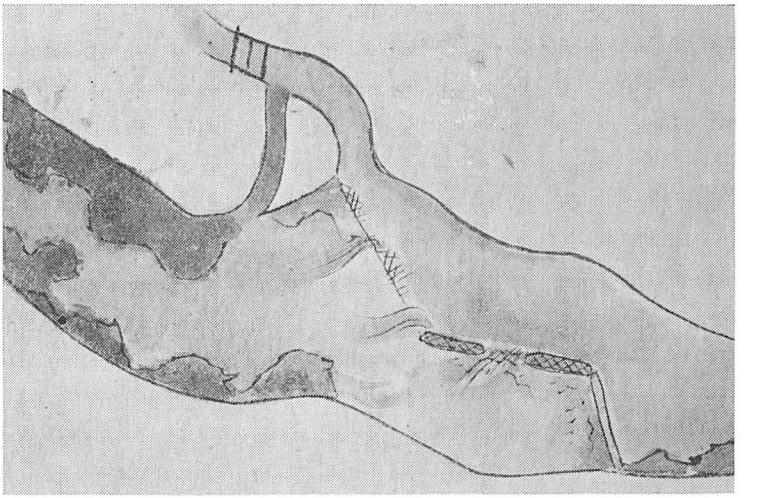


三九〇　佐野堰(5)
（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分）

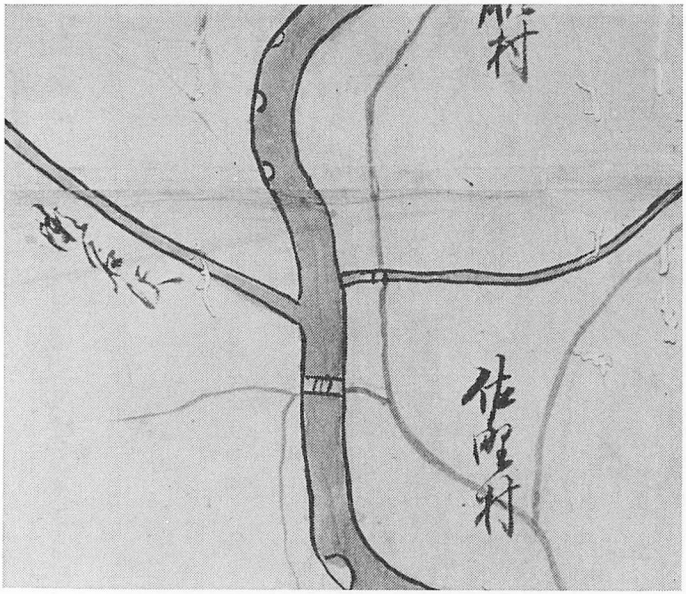




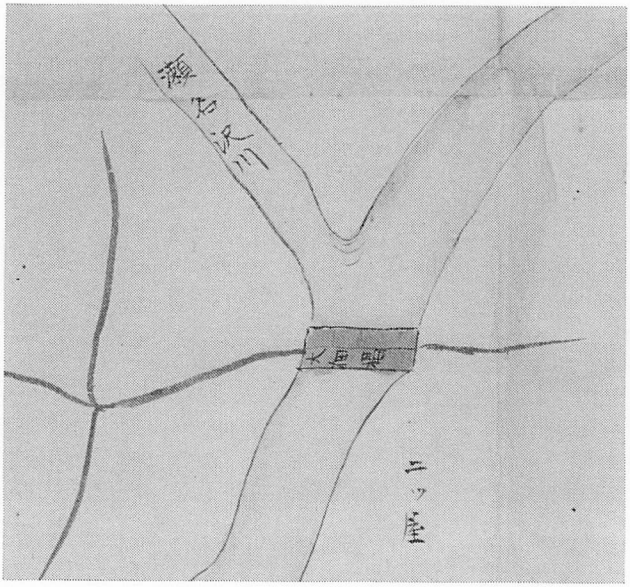
三九一　佐野堰と千福堰（明治三二年写「深良用水御普請所絵図」部分）



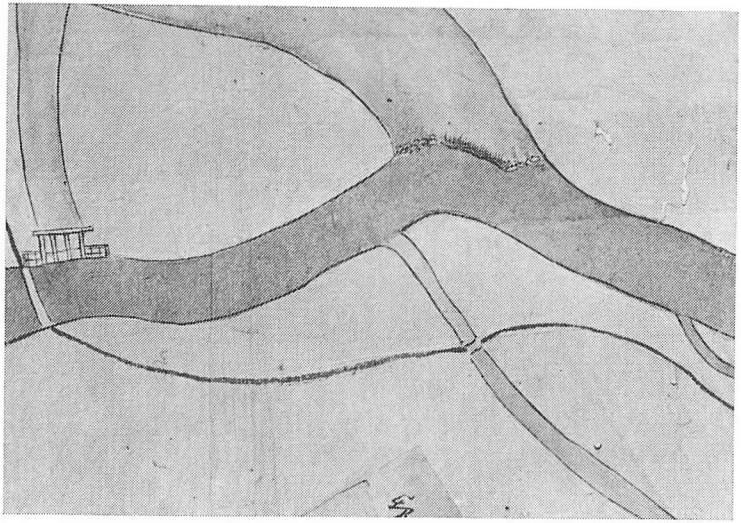
三九二　千福堰（年未詳「箱根用水水論絵図」部分）



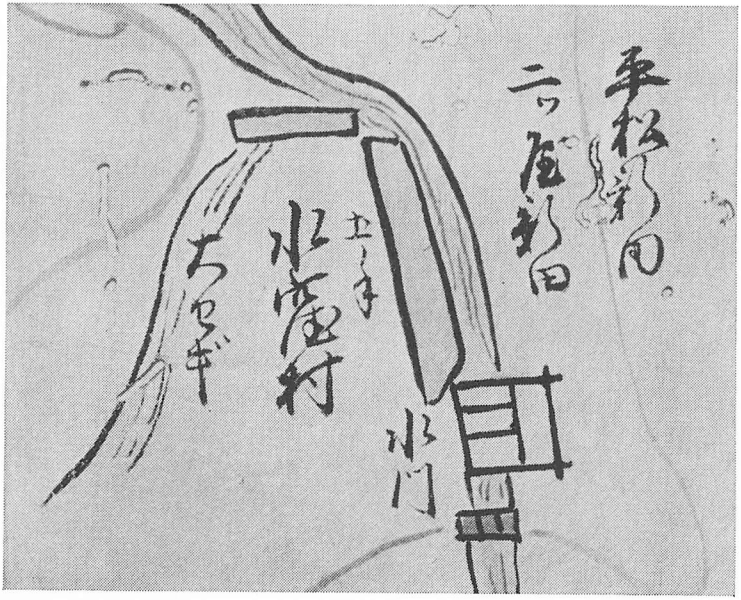
三九三　瀬名沢と黄瀬川合流地点(1)
（天保二年「井組廿八ケ村箱根湖水路村々堰々図」部分）



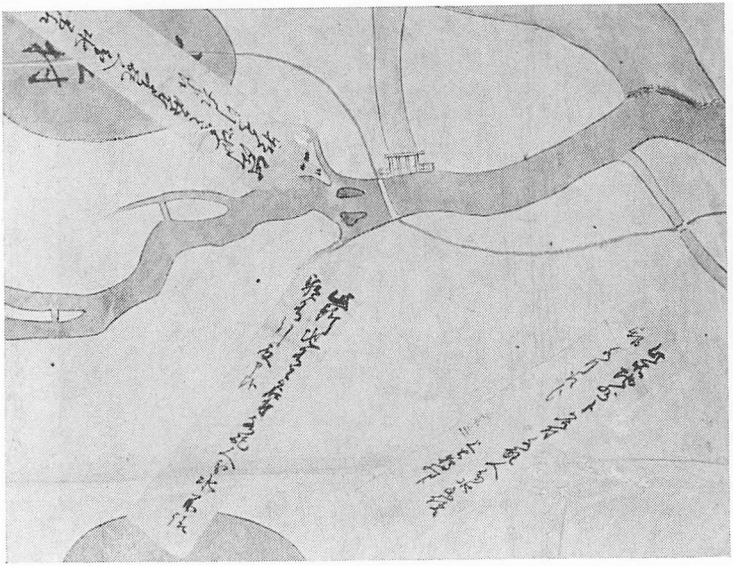
三九四　瀬名沢と黄瀬川合流地点(2)
（明治三二年写「深良用水御普請所絵図」部分）



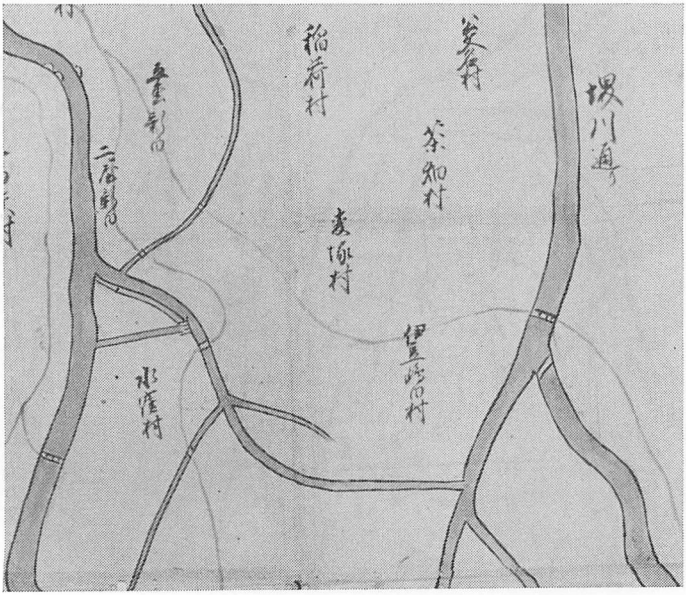
三九九　**大堰(1)**（年未詳「箱根用水水論絵図」部分）



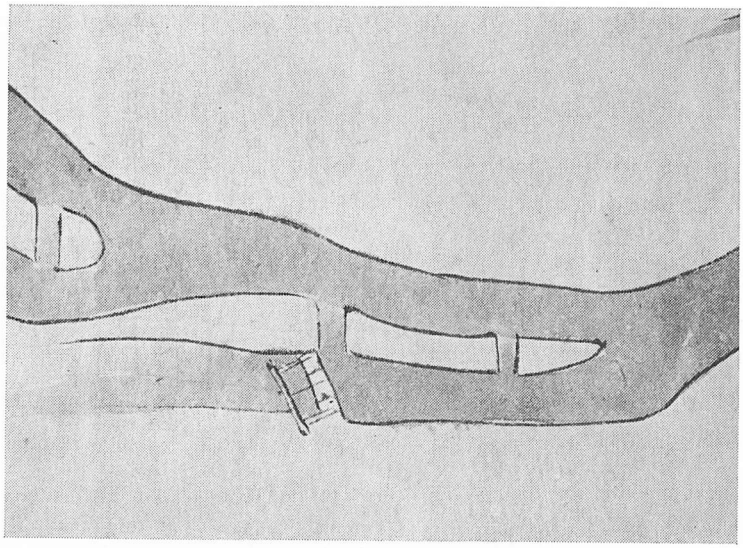
四〇〇　**大堰(2)**（年未詳「深良用水石垣・土手普請場絵図」部分）



四〇一　三俣（年未詳「箱根用水水論絵図」部分）



四〇三　大堰筋と境川
（天保二年「井組廿八ケ村箱根湖水路村々堰々図」部分）

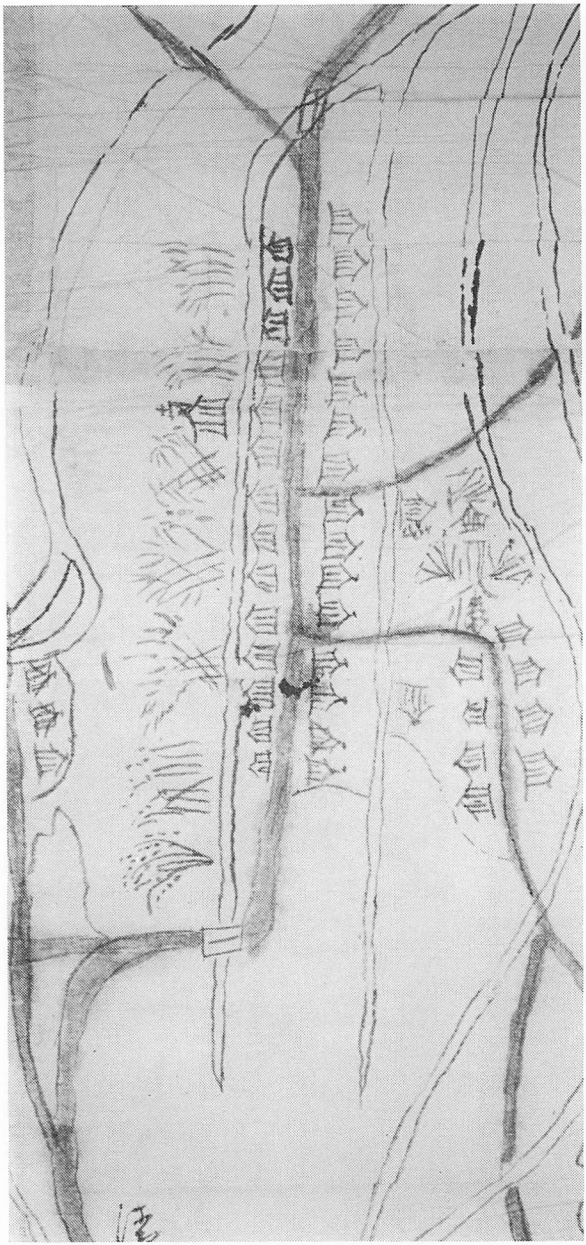


四〇三　高堰（年未詳「箱根用水水論絵図」部分）

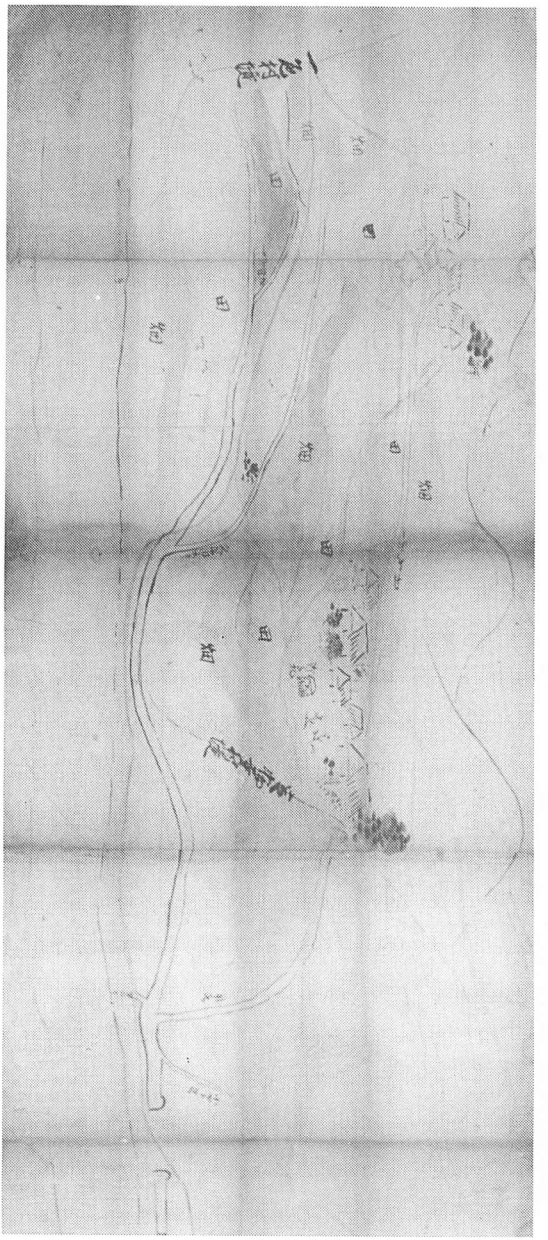


四〇四　惣ケ原（年未詳「箱根湖水井組全域絵図」部分）

第三節　用水と生活

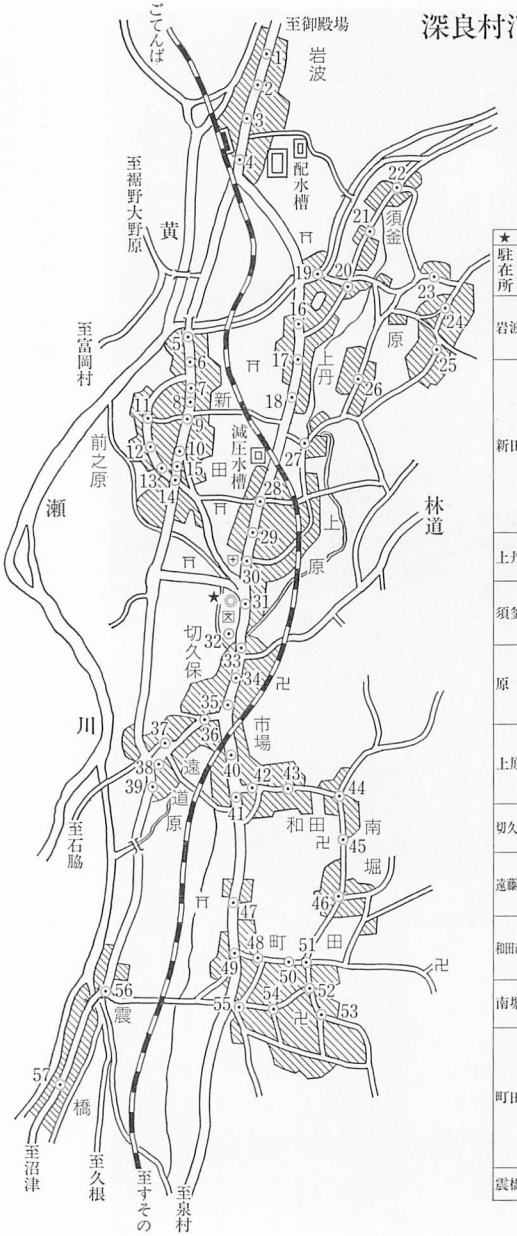


四〇五　**集落と用水**(1)
（延享元年「佐野村堰水路絵図」部分）



四〇六　集落と用水(2)
（年未詳「富沢村堰絵図」部分）

四〇七　深良村の消火栓配置（深良村消火栓位置図）



駐在所	病院	学校	役場	河川	道路	消火栓	凡例
岩波ノ部			1	加藤利作			前
			2	井上聖作			前
			3	湯山文太郎			前
			4	小野重太郎			前
新田ノ部			5	新川橋			下
			6	藤森清作			前
			7	小林聿			前
			8	小林聿			下
			9	小川屋前			十字路
			10	小林佐一			下
			11	土屋治太郎			前
			12	土屋為三郎			前
			13	勝又與三郎			前
			14	土屋平治			前
			15	志村重雄			上
上丹ノ部			16	小林工			前
			17	小林孫作			前
			18	小林貞			前
須釜ノ部			19	勝又嘉十郎			上
			20	小林茂三			前
			21	小林鳴助			前
			22	勝又竹次郎			前
原ノ部			23	勝又房太郎			前
			24	勝又重夫			前
			25	高橋治平			前
			26	勝又文作			前
			27	小林義左			前
上原ノ部			28	二本柿木下			十字路
			29	宝伏茂市			前
			30	勝又久後前			十字路
			31	役場			前
			32	学校之庭			
切久保ノ部			33	井上博			前
			34	西安寺			前
			35	杉本貞			前
遠藤原ノ部			36	作業場			前
			37	勝又金次郎			前
			38	大庭啓市			前
			39	大閔金道			前
和田市場ノ部			40	小野秀作			前
			41	横山前			十字路
			42	大庭覚長			前
			43	増田忠八			前
南堀ノ部			44	小見山光正			前
			45	興禅寺			前
			46	小見山滝二郎			前
町田ノ部			47	製材所			下
			48	大田屋前			丁字路
			49	大庭文吉			前
			50	松井謙保			前
			51	南堀線			丁字路
			52	倉沢徳次郎			三叉路
			53	文明寺			前
			54	石坂丁			字路
			55	小沢五作			前
震橋ノ部			56	橋前丁			字路
			57	大庭儀平			上

解　説

総　説

一　編さんの趣旨

寛文年間(一六六一～七二)駿河国駿東郡の東斜面をなす箱根山中にあって、満々と水を湛える芦ノ湖からトンネルをくり抜いて、水不足に悩むこの地域の村々に引水しようという一大用水工事が企図され、約八年の歳月をかけて完成した。それから三二〇年、この深良用水は流域の人々とともに生きつづけ、水の恩恵を与えている。

裾野市史では、裾野市域において過去・現在そして未来へ向かって、展開する人々のくらしの歴史と深良用水の深いかかわりに鑑みて、独立した一巻として最初に編集・刊行することにした。

ここで「深良用水」という公称について若干おことわりしておきたい。用水の名称については定かではない。「箱根湖水」、「箱根掘抜水」等水源から称したものが種々資料中に認められるが、深良用水を著名にした戦後のタカクラ・テルの著作『ハコネ用水』(一九五一年)の影響もあってか「箱根用水」が人口に膾炙し、一般化している。しかしながら、裾野市史では、用水を保守・管理してきた近世の井組の系譜にたつ芦湖水利組合の総意にもとづいて公称とされた「深良用水」の名称を採った。また、水源の湖についても、「箱根湖」、「芦湖」、「芦ノ湖」等、区々である

のでここでは国土地理院採用の「芦ノ湖」を公称として使用することにした。

深良用水編は裾野市史の一巻として編集されたが、用水を現在の裾野市域に限定する考えは毛頭持っていない。用水の恩恵を受けた近世駿東郡三〇ケ村(現在の裾野市・長泉町の一部・清水町の一部)はもとより関連する地域については意欲的に資料を収集したつもりである。深良用水編は不充分であるが流域の地域史と理解されてもよかろう。

いうまでもなく、深良用水は一貫して地域の人々の生活の歴史とともに存在した。過去・現在・未来を貫徹して農業用水としてまた飲料水・電力用水等としてさまざまな点でこの地域を潤していくであろう。

用水とは、単なる天然自然の恵みを意味しない。そこには天然の水を地域に生きる人々が自らのものにするという意味で先人の多大な犠牲が払われている。ところで自然の水を用水にすることで用水史は終わったわけではなく、むしろ用水完成時点から、維持・利用をめぐってさまざまな社会的問題が惹起されてくる。

深良用水はいかなる時代背景の下に、どのような人々によって企図・開削されたのか。開削は地域にどのような変化をもたらしたのか。開削後、用水はどのように維持・管理・利用されたのか。開削以降幾度かの争論をくりかえす中に先例を遵守する慣行が強固につくられていく。一方で、従来の慣行を無視して用水そのものを否定するような動きも外部から出てくる。これらに対して用水利用の村々はどのように対処したのであろうか。

これら深良用水に関する疑問を解明する努力は、用水を保守・管理・利用して来た井組村々の人々が用水権を明確に残さねばという身近なところから積み重ねられてきている。

この意味で深良用水史の嚆矢が逆川事件訴訟を契機として編まれた『箱根湖逆川訴訟ニ関スル書類』(明治三三年)であったことがこのことを如実に示しているといってよかろう。当事者で編さん者の一人深良村村長小林由太郎は、

組合の専有用水として公許されるに際し、編さんの趣旨を次のように述べている。

該顚末ヲ纏メントスルニ際シ、予カ家ニ蔵スル湖用水関係書類中ヨリ、其ノ沿革ヲ抜粋シ、事件ニ関スル証拠書類及ヒ再三ノ判決文トヲ玆ニ蒐集シ、斯ク綴ル事トハナリヌ

用水権を守る法的根拠として用水資料が収集・編さんされたのである。しかし、深良用水の歴史は用水権を守るためのみのものであったわけではない。そこには用水をめぐる地域の人々の生活の歴史が滔々と脈打っていることも事実である。本編は深良用水が地域の人々とともにあった歴史を総合的に取り上げ、用水の歴史を通して地域史の実像に近づこうとするものである。

本編は、用水開削という往時の大事業もさることながら、今日迄つづく用水利用の歴史を多角的に地域住民との関連にもとづいて扱いながら、流域の人々の生活における用水のもった意義を具体的な資料を通して提示することを目的としている。また、言うまでもなく本編がわが国用水史研究の一端を補うことになるものと期待している。

二　資料について

本編に収録した資料については裾野市域のみならず関連諸地域から積極的に収集するよう心がけた。収集・収録資料の地域的特色について概述しておきたい。

一　裾野市域

市史の準備室の段階から、市域内の主として近世文書の調査・整理が行われ、目録の作成がつづけられてきた。柏木家(茶畑)、上・下湯山家(御宿)、渡辺家(富沢)に代表される旧村旧名主の三六家にのぼる諸家文書、旧村の区有文

書の整理が主たるものとなった。都市化の進行するなかでは比較的資料の残存は良好といわねばならない。それにつけても、市史準備室時の収録整理の努力に負うところが大である。しかし、発企人大庭源之丞家の資料の散逸によって開削時を知る一次資料の収集が困難を極めた。また前述した逆川訴訟証拠資料として勝訴に導いた開削時の重要文書が、その後の大正四年(一九一五)、二五〇年記念の用水史編さんの過程で焼失するという不運に遇い、写や刊本からしか収録できなかったことはかえすがえすも残念なことである。

近代については市域の諸家、区有文書に依ったが逆川事件訴訟以降は用水の維持・管理にあたった芦湖水利組合所蔵資料に多く依拠した。このことは、上・中・下の井組三郷が近代的用水組合に生まれ変わるに際して逆川事件の影響の大きさを傍証するものであろう。なお、芦湖水利組合所蔵資料の閲覧・収集にあたっては、元収入役、水利組合書記を勤められた鈴木強氏のお力添えをいただいた。

二　市外

上流から下流へと順次つくられた上・中・下の三郷の用水組合にあたって、比較的水に恵まれた上・中郷が形骸化して近代の芦湖水利組合に編成しなおされる中で、今なお近世以来の井組を継承するのは下郷である。下郷は旧近世村九からなる。裾野市の伊豆島田・水窪・納米里を除けば長泉町(上土狩・中土狩・下土狩・竹原)、清水町(伏見・新宿)に属する。

下郷は三郷の流末ということもあって恒常的水不足に悩み、上・中郷との水論を争い抜いて引水し生業をつづけてきた。この意味で用水への思いは根強く引水権を獲得し、守ってきた記録であり根拠でもある「下郷文書」を襲蔵している。今日も夏季の一日、中土狩・下土狩・竹原・伏見・新宿の旧村は持ち廻りで「下郷文書」の虫干し会を催し、

先人の労苦の歴史を偲んでいる。付言すれば、開削の元〆、発企人を祭神として祀る神社も下郷の上土狩の惣ケ原神社が唯一であることも、下郷と深良用水の緊密さを示している。

「下郷文書」は、地域唯一の単独用水資料である。下郷の方々の御好意により文書はすべて調査・収集した。

その他長泉町本宿の高田家文書については、マイクロフィルムを所蔵する長泉町史編さん室、現蔵の東京大学文学部国史学研究室の御協力を得て関連資料を収集した。ただ残念なことに、元〆屋敷の実在を示す長泉町上土狩の旧米

井組三郷の資料の所在

村名			関係資料
上郷	御殿場市	神山村	
	裾野市	深良村	志村守雄氏所蔵文書 大庭重一氏所蔵文書 深良支所所蔵文書
		岩波村	
		上ケ田村	柏木新吾氏所蔵文書
		金沢村	
		葛山村	
		御宿村	湯山匡秀氏所蔵文書 湯山　博氏所蔵文書
		千福村	
		定輪寺村	
		富沢村	渡辺武彦氏所蔵文書
	長泉町	一色村	
中郷	裾野市	石脇村	大庭和彦氏所蔵文書 石脇区有文書
		佐野村	古谷善和氏所蔵文書 岩崎達生氏所蔵文書 中西保男氏所蔵文書 佐野区有文書
		二ツ屋新田	
		久根村	勝又重俊氏所蔵文書
		公文名村	市川逸朗氏所蔵文書
		稲荷村	
		茶畑村	柏木正男氏所蔵文書
		平松新田	
		麦塚村	勝俣恵一郎氏所蔵文書
下郷		伊豆島田村	
		水窪村	
	長泉町	納米里村	米山家文書
		上土狩村	箱根用水
		中土狩村	
		下土狩村	
		竹原村	高橋久雄氏所蔵文書
		本宿村	下郷高田悦子氏所蔵文書 旧高田家文書
	清水町	伏見村	古文書
		新宿村	

＊　宝永4年から本宿村が離脱

山家所蔵の「上土狩惣ヶ原検地帳」は散逸し、刊本から転載せざるを得なかった。

三　県外

イ　神奈川県箱根町

いうまでもなく、深良用水は箱根町芦ノ湖の水を引いたものであり、箱根町とのかかわりは深い。開削の守護神となった箱根神社には元〆友野與右衛門らの立願状が伝えられ、神域の湖岸の一隅には井組奉納の常夜燈が所在している。その他関係資料を所蔵する箱根町立郷土資料館、箱根町立箱根関所資料館、川井清氏の各位の暖かい御協力を得て収集・収録した。なかでも、箱根町立郷土資料館所蔵のものは本来は井組下郷に属するものを購入したものであり、大いに助けられた。深く感謝申し上げる。

ロ　神奈川県

井組三郷の村々と小田原藩とのかかわりは深い。開削時の藩主は稲葉正則であった。藩政関係については、稲葉家「永代日記」(京都市稲葉神社伝来)を京都市田辺陸夫氏、「稲葉家引送書」を小田原市岩瀬正直氏の御好意を得て収録した。これらについては、神奈川県立文化資料館にお世話になった。

一方、開削時の元〆の動向を示す吉田新田関係文書は、現物が不明のため、刊本から余儀なく転載せざるを得なかった。

ハ　東京都

深良用水の開削には、資金を調達し、工事を施行した元〆衆と呼ばれた江戸町人の存在が大きい。友野與右衛門をはじめとする元〆の江戸町人に、発企人大庭源之丞を加えた人物が用水史の興味の焦点ともなり、今日迄実証的調査

研究から信憑性に欠く憶説に至る迄種々追求されてきている。本編も新資料の発掘を願って寛文期の江戸町人の究明のため実地調査を行った。

浅草寺・国立国会図書館（旧幕引継文書）・東京都立中央図書館・国立公文書館等手がかりとなる可能性のあるところの文献調査をおこなったが、大火災・震災・戦災を受けた大災害都市の影響のためか資料の残存は厳しく、用水と元〆衆を直接結びつけるものは皆無であった。僅かに長濱半兵衛の浅草門前町の屋敷売買にからむ貼紙を国立国会図書館の旧幕引継文書中から見い出すことができた。

なお、元〆衆中の中心人物友野與右衛門については、出自その他に関し駿府友野氏説、信州佐久の伴野氏説、佐渡金山の静野氏説等、巷説が跡を絶たない。これらについては慎重に検討した結果、信憑性に疑義があり、本編からは除外した。

収録資料の特質についても、一言触れておきたい。本編では用水史を総合的に理解するために、文献資料のみに依拠するだけでなく、多様な性格の資料を収集することを試みた。

ひとつは金石文、棟札等の収集である。人物の確定や用水に寄せた人々の信仰が、これらによってより明確なものになると考えられる。

いまひとつは、第六章に集成した絵図、実測図等の図像である。文字による用水史を補うばかりか、リアルな実像を結ぶことになるのではなかろうか。それにしても、技術史からの調査研究の遅れは否めず、今後の課題として残ることになった。

三　本書の構成

本編は六章から構成される。開削を必要とした前代の社会から、トンネルの掘削や用水路の建設等の大土木工事に関する人的・物的動きを物語る資料を収録した第一章。特に開削に関与した江戸町人の元〆衆と地元発企人大庭源之丞については執拗に追求したが、三百年余の時間の壁は厚く、充分な収集には至らなかった。

第二章は、開削後用水の利用をめぐって引き起こされる争論とそれらの調停・和融を通して形成されてくる用水組合井組三郷の動向についてまとめたものである。

用水を利用するためには、日常・非日常に襲ってくる諸施設の破損等を修理し、恒常的に維持を図らなければならない。この莫大な費用を誰が賄うのか。私普請・村普請・村々用水組合普請による用水維持が行詰まるなかで公儀に費用負担を求める国役普請が登場してくる。本来年貢収取を農民支配の大前提とする以上、農業生産活動を保障する意味で用水の保守に幕藩領主は責任を持たねばならなかったのである。この間の動きをまとめたのが第三章である。

第四章は、用水史を人々の暮らしから断面的にとらえ、用水利用の実態を小は農民間、大は村々や三郷の共同により管理する側面や諸施設の建設・利用の仕方からみようとした。先例主義の原則を守りながら現状に対応しようとする農民の知恵に注目したい。また、用水の恩恵の守護を祈る人々の信仰についても注目した。ここまでが近世の深良用水ということになるが、近現代にあっても、用水の担う機能の重要性は変わっていない。

第五章は、「近代の用水」と題して用水権が初めて危機にさらされた逆川事件訴訟の経緯を押さえながら都市化・工業化の進行する現代までを素描した。

なお、近代については、編さんの方針では市制施行までを下限とすることになっていたが、今日の用水の概況を掌握する意義を考え、平成二年までとしたことをおことわりしておきたい。

第六章の「図像にみる用水」は、深良用水を具体的にモノとして理解するために、数多い文献史料の中から稀少な図像資料を摘出したものである。従来の図像研究の不備もあって悪戦苦闘の連続であったが、文字資料偏重の弊はいささかなりとも免れたのではないか、と思う。

なお、様式上本文に収載不可能な図像資料については、付録(三図)、巻末折込み(一図)として収めた。深良用水の全体を景観として立体的にも理解してもらえるのではないかと確信する。

四　編さんの経緯

本書の出版は裾野市当局にとっても、編さん担当者にとっても未曾有の体験であった。

この間の経緯のあらましを今後の編さんに生かすために書きのこしておきたいと思う。企画から出版まで三カ年余の歳月が経過したことになる。三年間の短期間で資料の収集・選択・筆耕・印刷発行といった編さんが成就できたのには、前史ともいうべき先学の努力があった。市史準備室の段階からの大庭景申・牧野駿両氏の市域資料の整理の蓄積によって、八冊の資料目録が既に公刊されていた。

また、喜多川静男『深良用水の沿革』(芦湖水利組合、一九六四)、佐藤隆『箱根用水史』(静岡県出版文化会、一九七九)にも学ばせてもらった。

裾野市史(全一〇巻)の第六巻「深良用水」が初の出版に決まったのは、昭和六三年の一月、東京での専門委員会議

でのことであった。そして担当者として専門委員　高橋がその任にあたることになった。

同年四月の市史編さん室の発足と同時に、準備作業に入り、七月、三年後の刊行をめざす近世四章近代一章の内容構成をもつ本文八〇〇頁規模の「深良用水」が了承された。

これらをもとに、市域所在の資料を重点的に、作成済の目録に準拠して用水関係史料の摘出が行われた。この作業は順次市域外資料にもおよんだ。こうして一、八一五点にもなった第一次選択目録が平成元年一月に出来上がった。もちろん、この膨大な関係資料を筆耕し印刷することは八〇〇頁規模をめざす本書からは無理であり、当然選別・絞りこみをしなくてはならない。四月・六月・八月の三次にわたる関係委員の合宿によって原文書と照合作業を伴う第二次選択が行われ、八月末三六九点に絞られた第二次目録が作られた。しかし、この中には市外所在のものや石造物・棟札等の非文献資料の収集が不十分であったので、これらの補充の作業が継続されなければならなかった。この間、また平成元年には関係委員による県外の東京・箱根の調査が三次にわたって行われた。編さん室では「筆写要項」がつくられ多くの協力者をお願いして筆耕作業がつづけられた。汚損や虫喰の上に腐蝕箇所もあって解読は並大抵の仕事ではなかった。筆耕作業と同時並行して始められた第三次目録の作成作業は筆耕済原稿を基に作成することを目指した。こうして、翌平成二年二月から第三次目録案作成に入り、近世・近代の五章については四月に出来上がった。しかし、未だ芦湖水利組合の所蔵文書が未調査であったので、六月急遽収集作業が行われ第五章近代の補充に当たった。

編さんの作業が進められる中で、用水史の研究発表も市史専門・調査委員合同会議で行われた。それらを挙げると次のようである。

福田　アジオ「深良用水の概観」
脇野　博　「深良用水開鑿と鉱山技術―『かねほり甚左衛門』をめぐって」（市史研究2号）
柴　雅房　「近世における箱根用水の井組について」（同右）
菊池　邦彦　「水配人と水利秩序の成立」（市史研究3号）

これらの深良用水の個別研究が、今後の通史編に向かって確かな出発点になることはまちがいあるまい。

平成二年六月、用水史には具体性を持った図像資料が不可欠ではないかとの提起がなされ、収集資料中より絵図・測量図等の図像資料が摘出され、第六章を構成することになった。また、用水の総体をより明確に理解してもらうために現状・過去の用水系を示す図像を巻末折込み、付録として収載することも決められた。

かくして七月、六章からなる構成案を基に本文四〇七点・付録三点・折込み一点の最終案が完成した。この夏、八月二次にわたる合宿が行われ、選択された資料の確認と筆耕原稿と原文書の校合が徹底して行われた。この作業を通して原文書に対して、誤りのない完全原稿の作成を目指した。

八月末から要項に従い、割付が九月にかけて行われ、九月二二日、すでに七月に決まっていた精興社印刷へ入稿する運びとなった。

本書が市当局をはじめ市内外の資料所蔵者、その他編さん・刊行に携わった多くの人々の共同の作業の成果であることを銘記し、関係各位に感謝申し上げる次第である。

（高橋　敏）

第一章　用水の開削

第一章は深良用水の開削に関する史・資料を、開削時にあたる寛文期(一六六一～七二)を中心に収載した。一般に一七世紀後半は、近世を通じてもっとも新田開発が進んだ時期として著名であるが、駿東地域に限っても、東山用水・小倉野用水(御殿場市)、阿多野用水(小山町)などによる新田開発、富士・駿東両郡にわたる浮島沼干拓計画がなされている。こうしたなかで、深良用水の開削も実施されたのである。

第一節開削前の村々には、のちに深良用水の恩恵をうける村々の概況を示す史料を収めたが、これらの史料より近世初期から荒地開発を中心とする積極的な勧農政策がとられていたことを窺うことができる。一・二はともに関ヶ原の役(一六〇〇)直前のもので、すでにこの段階から宮内左衛門のような有力農民を梃子に積極的な荒地開発が試みられていたことを示す。この時期の駿河国の領主は天正一八年(一五九〇)の徳川氏関東転封後入封した中村氏であり、横田内膳正村詮はその重臣である。また二の差出人「対馬守」も中村氏と関わりのある人物と推定されるが確定できなかった。ほぼ同時期に対馬守を称していた人物としては遠江国掛川城主山内一豊がいるが、花押の比較により別人であることが確認できる。今後の課題としたい。三は黄瀬川下流の本宿村(長泉町)における新田開発に関するものである。年貢・諸役の免除などを条件に新田開発を奨励している点は一・二と共通している。差出人の今宮惣左衛門は三島代官井出正次の下代として伊豆幕領支配に携り、正次の死後代官として取立てられた人物である。伊豆及び駿東地域の代官を務めた。四はのちに御宿新田とよばれた御宿村上野原の再開発に関する願書である。一般に新開地の生産力

は本田畑に比べ低いため、自然災害や領主の厳しい年貢収奪などにより再び荒地化することも多かった。この史料も一度開発された耕地が、本田並みの課税のため耕作放棄されたことを示している。そしてその再開発を領主に願っているものがこの史料で、史料中の「大納言様」とは駿府城主徳川忠長、裏書にある野村彦太夫とは沼津代官野村為重のことである。㈤は深良用水開削前夜の用水状況を知ることのできる史料で、六ケ村は全て黄瀬川西岸に立地する村落である。このうち大畑村は山からの湧水を利用しており、深良用水開削後も井組に属することはなかったが、他は御宿新堰による用水懸りとなる。㈥は開削以前の年貢収取を示す一例として収載した。㈤と対照されたい。深良用水以前に黄瀬川の水を堰ぎ用水路として利用したものに牧堰用水と本宿用水があるが、㈦は後者に関する史料である。この用水は黄瀬川下流の鮎壺下より取水し、隧道・水路によって本宿村へ引かれているが、史料にある「穴せき」とはこの隧道部をさすと思われる。「六拾年以前卯之年」は慶長八年(一六〇三)、「天野三兵様(三郎兵衛)」とは興国寺城主天野康景のことである。なお関連史料として康景が本宿村に宛てた新井堰一〇石付置手形(『静岡県史料』第一輯六三三頁)がある。

第二節開削の発願には、立願状・開発請負手形を中心に開削に至る過程を示す史料を収めた。㈧は深良用水開削計画の始点を示すもので、開削成就の暁には新田のうち二〇〇石を神領として奉納することを誓約している。箱根神社は平安期より山岳信仰の霊場として著名であり、その宗教的権威に事業の成功を託したものであろう。なお友野與右衛門らと快長との関係については㈢に記されている。寛文六年、深良用水の開削が許可されることになるが、このうち小田原藩に対して出された開発請負手形が㈩(その幕府記録が㈨)、沼津代官に出されたものが㈠・㈡である。㈩では新田の規模を七〇〇〇石としており、工事費の請負人全額負担をはじめとしてその内容は多岐にわたっている。こ

れに対し沼津代官に出された手形は約一ケ月遅れており、新田の規模も一〇〇〇石と小田原藩領と較べてかなり少ない。両手形の内容についての詳論は割愛するが、請負条件もかなり異っており、開発の主たる対象は小田原藩領にあったものと推定される。また差出人を八と比較した場合、宮崎市兵衛・松村浄真の名が消え、新たに長濱半兵衛・尼崎嘉右衛門・浅井次郎兵衛が加わっている点も注目される。全て江戸町人である。なお一は今回初めて確認された史料であるが、原本にかなり忠実に写されたものと考えられ、二は前欠なものの友野與右衛門の実印が押されており、ともに同類史料のなかでは極めて貴重なものとなっている。三は友野ら元締衆と発企人の深良村名主大庭源之丞の関係を示す史料である。これによれば、元締衆は源之丞の手引によりこの計画をたて、源之丞に種々の苦労をかけたため、事業成就の際には恩謝として毎年五石の米を差出すことを約束している。なお元締衆の氏名は開発請負手形と変らないが、浅井治郎兵衛の住所が霊岸島ではなく本舟町となっている。

第三節開削工事の施行には深良用水成立時の史料を収める。まず隧道工事関係の史料であるが、裾野市域の地方史料の悉皆調査や市外・県外調査においても発見できなかった。ただしこうした特殊技術を要する請負工事においては、その記録が意図的に残されなかった可能性も高く、今後はこうした視点からのアプローチも必要であろう。深良用水といった場合、一般には隧道工事のみが注目されがちであるが、これのみでは大規模な新田開発は不可能である。すなわち、隧道によって加水された湖水を効果的に分水する用水路の整備が不可欠なのである。こうした必要性から新川普請・三間堀開削・岩波堰普請などが施行されたのであり、これらの整備によって深良用水はその完成をみるのである。一四は七の関連史料で、隧道工事中の黄瀬川下流域の堰普請の状況を示す。一五は後述する新川普請と同時に施行された茶畑村内の用水路開削を示すもので、内堀・中堀・大堀からなっている。このうち大堀は三間堀ともいわれ、

久根村より茶畑村へ延長した水路である。これらの水路は⑰の末尾にある「茶畑村内堰」にあたるもので、寛文一一年(一六七一)の三月一九日～四月九日に小田原藩が徴発した延二二八人の人足によって開かれた。⑯～⑱は新川普請に関する史料である。寛文六年に開始された隧道工事は同一〇年に完成をみるが、その出口は深良川につなげられ、湖水はこれを流下した。しかし深良川は須釜より大きく流路を南に変えていたため、用水の恩恵をうける田地は少なかった。そこでこの問題解決のため須釜より西へ向って新たな水路を掘り、黄瀬川につなげたのである。この水路を新川という。これらの史料はその普請人足帳で、工事期間・普請間数・人足数及びその村名などが記されており、内容には異同があるものの工事期間は寛文一一年三月一九日～四月九日で一致している。人足は用水に関わりのない北駿地域の村々からも徴発され、その村数は三五ケ村に及んでいる。しかもその全てが小田原藩領の村々であり、こうした事実はこの普請の主体が同藩であったことを明確に物語っている。村毎の人足割は村高に基づいて行なわれたらしく、各村の名主が参加している点も注目される。延人足数は⑯で三一五六人、⑰で三二〇六人(本川筋のみ)、⑱で三〇八四人と異同があるが、筆録者の計算違もみられ正確な数は確定できない。新川普請間数は⑯で一九二六間、⑱で一九二五間となっており、ここにいう新川普請が新川(須釜新堀・七二〇間)のみならず「本川筋」＝黄瀬川を含むものであったことが理解できる。⑩において元締衆は下土狩村・竹原村とともに岩波村日損田の解消も請負っているが、同村は新川より高所にあるためその湖水を利用することはできない。そのため黄瀬川支流の久保川の水を堰ぎ、新たな水路を開いて黄瀬川に加水する方法がとられた。その計画書にあたるのが⑲で、年次史料であるが㉔と同時期に作成されたものと推定される。史料にある「大堰」とは、のちに岩波堰とよばれるものであり、これらの普請も新川同様小田原藩が徴発した人足によって行なわれた。このように岩波村の普請も深良用水開削事業の一環として行な

われたため、湖水を利用しない岩波村も井組に属することになったのである。

第四節元締衆と発企人には、元締衆の当地以外の動向を示す史料、上穀米手形、元締衆の年貢米金横領一件史料、発企人たる大庭源之丞関係史料を中心に収載した。二〇・三は元締衆のうち宮崎市兵衛と友野與右衛門が武蔵国吉田新田（横浜市）に関わりを持っていたことを示す史料で、特に二〇は後に元締から脱落するだけに八の前年史料として注目される。吉田新田は明暦二年（一六五六）に江戸の材木商吉田勘兵衛が開発に着手し、寛文七年に完成したもので、耕地はすべて開発者吉田家の所有に帰し、耕作は小作が中心となっていた。史料にある「北四つ目」・「南四つめ」などは新田内の区画を示し、二〇町余の田地を預小作している。三では同新田の一部所有地を友野が開発者吉田勘兵衛に売却している。友野が吉田とともに新田開発事業に参加し取得したものと思われる。二は江戸浅草田町の武家屋敷が町人に売却されたことを示す沽券帳の一部で、元締の一人長濱半兵衛の名がみえるものである。当時江戸は町屋の拡大が続いており、それに伴う地価の高騰もみられたが、長濱が不動産取得にも積極的な町人であったことを窺うことができる。長濱の居屋敷は四谷塩町にあったが、友野は浅草にあり、友野との関係を想定させるものがある。他の元締については不明の点が多いが、近隣の例では寛文一一年に吉原宿の伝次郎が富士・駿東両郡にわたる浮島沼の新田開発許可を幕府よりうけており（代官は野村彦太夫）、その金主として江戸町人尼ヶ崎屋の名がみえるという（『吉原市史』上巻）。元締の一人尼崎嘉右衛門との関連が注目されるが、詳細は不明である。いずれにしても元締衆が深良用水に止まらず各地の新田開発に参加していた点は注目されよう。三一～三五・三七・三八・三〇は本宿村の上穀米手形である。上穀米とは、深良用水によって日損田解消・畑成田（畑が用水によって田にかわること）ができた場合元締が収取できる用水使用料のことで、延宝三年（一六七五）～八年分が現存する。当時本宿村は幕領であり、沼津代官宛の開発請負手

形(二一・二二)では「一右之用水、沼津領之内水下之村々日損場へ、応其村々ニ水懸させ可被成候、日損所用水場ニ成候にも、畠之田ニ成候ニも上穀取申間敷候、一切構申間敷候事」として上穀米は一切とらないこととしているが、一〇〇〇石と予定された新田開発が思うに任せなかったため、契約内容の変更を行なったのであろうか。上穀米の納入は前年度分が翌年納められる形式になっており、その量もほぼ一定している。これら諸手形の差出人は沼津代官の手代であり、手代より村方へ納入額・期限が示され、それをうけて村方より元締衆への納入が行なわれた。期日の指定は元締衆の要請に基づいて行なわれたものと思われる。二六は元締衆が深良用水開削前後どこに居住していたかを示す唯一の史料であり、名請が個人名ではなく「掘貫元〆作」となっている点は注目される。本文には収めなかったが元締は屋敷地も名請しており、その場所は芦ノ湖水神社付近だといわれる(『深良用水の沿革』)。なおこの検地は小田原藩によって行なわれた。二九・三一〜三五は元締衆の沼津代官領年貢米金横領に関する一件史料である。延宝四年(一六七六)沼津代官領では年貢米江戸廻送にあたり多量の「御撰出米」＝不良米を生じ、二年後に再輸送したところ再び「御撰出米」が生じた。当時富沢村の勘兵衛は沼津代官領年貢米金納入の責任者であったため、これを換金し、不足分を加えて元締の一人で「納宿」＝札差であった橋本山友に四六両を預け、代入を依頼したのである。これに加え延宝五年の年貢米金六四両も「惣ヶ原」で山友に渡し、山友は都合一一〇両を勘兵衛より預った。しかしこれを元締らが使い込んだのである(三三)。金を預ったのは山友であったが、使い込みが元締衆の共犯であったことは「箱根本〆共四人ニ而不沙汰ニ分ヶ取遣申候」の文言から分る。山友は延宝四年の撰米上納を全て賄ったらしく、本文には収載しなかったが、延宝七年七月二日に勘兵衛が野村彦太夫にあてた「辰之御撰米御上納金目録」(渡辺武彦氏所蔵)によれば四三四両余が「山友手前ニ有」となっている。しかしこれらをなかなか納入しなかったらしく、二九ではその即時納入を勘兵衛

に約束している。しかし前述の理由でこれも反故となり、天和三年(一六八三)には起請文(三・四)を添え改めて返済を確約した。ところがこれもまた空手形となり、ついに元禄二年(一六八九)には勘兵衛が訴訟をおこしたのである(三)。この訴訟結果を示す史料は確認されていないが、三〜一四などの証拠文書により勘兵衛の勝訴は動かなかったものと思われる。三・三は発企人大庭源之丞の用水完成後の状況を知ることのできる史料である。源之丞については不明の点が多いが、三によれば元禄一五年二月九日に死去したことになる。

第五節開削の記録には、文書を補うものとして、後世作成された諸記録のうち用水開削関係記事を収めた。開削時の状況を示す文書の絶対量が少ない現状において、これらの記録はいずれも貴重なものである。しかし同時に二次史料としての限界性も持っており、利用するにあたっては史料批判が必要である。三七は八の関連史料で、友野與右衛門と箱根神社別当快長との関係を記す。三八〜四九は、いずれも隧道工事を中心とする記録で、元締と隧道工事期間についてまとめたものが第1表である。まず元締衆については、異同の多い記事ではあるが、開発請負手形に連署した四名以外に橋本山友・須崎源右衛門の名が三元・三〜一四などにもみえることから、両名がこれに加わっていたことは確実である。特に注目されるのは三元で、「箱根湖水掘抜之時分かせぎニ入込」んだ「箱根湖水番」甚左衛門の口述記録となっており、須崎源右衛門を橋本源右衛門、橋本山友を橋本山入と誤記するなど若干の問題はあるものの史料的価値は高い。ここでは友野らを「元〆頭」、浅井を「金元」、橋本らを「小中間」と区別して記しており、元締衆が単なる金主でなかったことを暗示している。隧道工事期間については寛文六年七月末〜八月初頭着工、寛文一〇年二月〜三月竣工が妥当であろうか。ただ用水としての利用は前述したように新川普請等を待たねばならず、翌一一年からであった。工事費用については三元で九七〇〇余両、四四で六〇〇〇両拝借、四五・四七で六〇〇〇両とある。これらの整合性を考

第1表　元締と隧道工事期間

資料No.	元　　締	着　　工	竣　　工（通　水）
38	友野与右衛門・長浜半兵衛・ 尼崎加右衛門・浅井次郎兵衛・ 大庭源之丞	寛文6年8月	寛文10年2月25日(同年4月25日)
39	元締頭(友野与右衛門・橋本源右衛門) 金元(浅井佐次右衛門) 小中間(橋本三入・天が崎加右衛門 伏見仁左衛門・長浜半兵衛) 公儀請負人(須川八郎兵衛・かざりや 四郎五郎)	寛文6年7月21日 ～22日	寛文10年3月25日
40	浅井治郎兵衛・尼崎加右衛門・長浜半兵衛 友野与右衛門・須崎源右衛門(後に入)	寛文6年7月	(寛文11年より村々用水)
41			寛文10年
42	源崎源右衛門・浅井佐次右衛門・ 友野与右衛門・園伊右衛門	寛文6年	寛文10年(同11年より村々用水)
43		寛文6年7月	寛文10年(同11年より村々用水)
44	浅井次郎兵衛・尼崎加右衛門・ 長浜半兵衛・友野与右衛門・ 須崎源右衛門(後に入)	寛文6年7月	(寛文11年より村々用水)
45	友野与右衛門・友嶋源右衛門・ 浅井佐右衛門・稲本山八 深谷八郎兵衛(小割者)	寛文6年	(寛文11年5月4日，少々水出る)
46	友野与右衛門・浅井佐次右衛門・ 橋本山入・須崎源右衛門	寛文6年8月1日	寛文11年4月20日(同年4月22日)
47	浅井佐治右衛門・洲崎源右衛門・ 山友山友	寛文6年6月	寛文10年(同11年5月4日，少々水出る)
48	浅井佐次右衛門・橋本山友・ 須崎源右衛門・友野与右衛門 須賀屋八郎兵衛・大坂屋太郎右衛門		
49	友野与右衛門・浅井佐次右衛門・ 須崎源右衛門・長浜半兵衛・ 天崎嘉右衛門 (手代，山本市左衛門)		

えれば幕府よりの借入金が六〇〇〇両、元締衆の自己資金が三七〇〇余両となろうか。いずれにしても莫大な投資額であり、その回収に困難が伴なうであろうことは容易に推察されるところである。その他注目されるものとして上穀米についての記事が多くみられ(三九・四三・四四・四六・四七)、小田原藩領では六〇〇俵ずつ七年間にわたって渡されたとある(四三)。

第六節開削後の村々では、深良用水の完成以後元締衆が用水支配から離れる貞享五年(元禄元年、一六八八)までの、開削後間もない村々の状況を示す史料を中心に収めた。五〇は用水完成直後の御宿村の概況を示したものである。御宿村は、のちに新堰(カロウト堰)がつくられることにより湖水懸りとなるが、当時はまだその恩恵に浴していない。それどころか上田が畑になっているところさえあり、水不足の深刻さを窺せる。五一・五三・五六・五八は用水の完成が年貢収取にどのように反映されたか、その推移を示す一例として収載した。当時富沢村は沼津代官領であったが、寛文一二年の穴堰完成により湖水懸りとなった。同年検地をうけたが、本田高に限っても三三石余と約二四%の打出になっており、明示はされていないものの下田の反別が大幅に増加していることから、畑成田の増加を想定できる。また五六・五八には「田ニ成」の記述が多くみられ、延宝期の畑成田増加を示している。さらに五八には下田の部分に「畑成田壱町七反弐畝八歩之上石(穀)、元〆江遣分ニ引」という文言がみえ、前述した本宿村同様富沢村からも上穀米が納入されたことが理解できる。なお五五も富沢村の関連史料で、同村の新田高の変遷を書上げたものであるが、延宝段階で新田開発が限界に達したことを示している。五三は、用水が完成し、村々の水路も整備されて畑成田がうまれ生産力が上昇したことに対し、小田原藩(大嶋らは同藩の役人である)から関係村役人へ与えられた褒賞金の請取状である。寛文一二年段階で早くも多くの畑成田ができたことを示している。深良村の大庭源之丞が筆頭に記されている点も興味深い。隧

道は完成しても潤沢な用水を確保するためには道内の浚渫が必要となる。その初見史料が㊽で、早くも隧道完成四年後の延宝二年(一六七四)に行なわれている。この工事は小田原藩が行ない、芦ノ湖側一七〇間が浚われた。⑩では「堀抜成就仕水掛り候以後破損御座候ハヽ、七年ノ内私共方ヨリ修覆可仕候」となっており、かかる工事は本来ならば元締衆が行なうべきであるが、小田原藩が施行している点も注目される。請負開発手形の条項は、沼津代官同様小田原藩に対しても遵守されたとはいい難いのである。㊾・㊿・(六)は茶畑村・平松新田、(六一)は佐野村・二本松新田、(六二)は公文名村・稲荷村の各村内の用水事情を示す史料である。特に茶畑村は六六町余の耕地のうち三〇町余が湖水懸りとなっており(六一)、深良用水への依存度は高い。そのためもあってか村明細帳における用水関係記事は頗る豊富である。また(六三)には公文名村・稲荷村の堰人足・砂浚人足の実数が記されており、工事規模を知る手掛りとなる。(六四)は天和三年(一六八三)以後七年間の上穀米納入が新たに決定されたことを記すとともに、同年四月二日には小田原藩領・沼津代官領より水門番に扶持米が支給されるようになったことも記されており注目される。畑成田の増加は用水の需要をさらに拡大させることとなったが、一旦渇水となるやその矛盾の多くは下流の村々に転嫁されることとなる。そのため下流の村々では上流の村々の畑成田増加に反対する場合が屢々みられた。こうした下流の村々の畑成田つぶし要求に反論したのが(六五)の史料である。(六四)は下郷の村々から用水不足の現状改善を訴えたもので、その原因を元締の用水管理不備と断定、これを糾弾している。このように深良用水の完成は多くの恩恵をもたらしつつも、新たな水論もうむことになったのである。

(関根　省治)

第二章　用水争論と井組の変遷

第二章では深良用水をめぐる争論に関する史料を年次的に掲載した。貞享五年(一六八八)用水開削を進めた元締にかわって用水を利用する村々からなる井組(現在の水利組合)が用水管理の主体となる。百姓自らの手による用水管理のはじまりである。この後近世全般にわたって井組内部では用水争論が頻発している。

井組内部は用水系から三分されていた。上・中・下の三郷である。上郷は新川及び黄瀬川上流より直接取水している村々である。中郷は黄瀬川中流部の佐野堰を通じて取水している村々である。下郷は黄瀬川下流部の大堰から取水している村々である。上流の村々と下流の村々は分水をめぐりしばしば対立した。各郷は分水上の利害を共有するまとまりであったため、用水争論では多くの場合各郷が対立する様相となった。用水争論は当時の井組が抱えていた問題を顕在化させ、その対応を通じて井組の組織と慣行を深化させる結果をもたらした。ゆえにこの章では用水争論の過程を詳しく取り上げることによって、近世における深良用水の管理の実態とその変遷を明らかにしていきたい。

第一節では井組による用水管理がはじまり、井組を構成する村々が固定されていく時期を扱っている。貞享五年元締の用水支配権が幕府によって取り上げられ、かわって沼津代官小長谷勘左衛門が用水支配を行うこととなった。勘左衛門は実際の用水管理を用水を利用する村々に任せる方針をとった。当時の井組村々は沼津代官領と小田原藩領に二分されていたことから、勘左衛門は用水管理の責任者である「水支配人」を沼津代官領より一名、小田原藩領より一名任命した。この「水支配人」は後の史料に「堰役」「堰役人」「水配人」などと異なった名称で登場するが、次第に「水配人」に統一されていったようである。

六六は水配人任命のいきさつを伝える史料である。六七・六八は小柄沢堰からの取水をめぐる争論についてのものである。小柄沢堰は佐野堰から取水された用水をさらに分水するために設けられている。小柄沢堰から取水された水は佐野村を経てその下流部の二ツ屋新田・二本松新田を潤している。一方小柄沢堰を通過した水は公文名・茶畑・伊豆嶋田・麦塚村によって取水されている。六七は水下の公文名・茶畑・伊豆嶋田・麦塚村が水上の佐野村・二ツ屋新田・二本松新田を相手取り小田原藩に出訴したものである。六八は小田原藩からの申渡である。争論の背景には二ツ屋新田・二本松新田などの活発な新田開発の動きがあったことが史料より明らかである。六九は茶畑村内でおこった用水争論である。開削からおよそ二〇年、用水周辺の新田開発が限界に達する中、用水の配分が村々の大きな関心となってきていたことが窺える。七〇～七三はいずれも水配人の口上書である。七〇では水末の本宿村への分水の現状について主に述べられているが、貞享五年牧堰掛り一五ケ村が井組を離脱した経緯についてもふれられている。この段階で井組は三〇ケ村となった。七一・七三はほぼ同内容で水配人給の村方負担についての主張である。その中で水配人が選ばれた経緯、水配人の仕事内容についても詳述されている。

七三～七九は深良村が、久根村を除く井組二八ケ村を相手取っておこした争論についてのものである。宝永二年（一七〇五）六月、夜間の豪雨のため新川が増水、堤防が決壊して村々に大きな被害をもたらした。新川を村内に通している深良村では復旧のため井組村々に協力を要請したが、村々はこれを拒否した。七三は茶畑村が小田原藩に宛てた水害復旧の出人足赦免願、七四は同村が同藩に宛てた人足扶持米入用の拝借願である。七五と七六はほぼ同内容で、深良村が井組村々の態度は先例にそむくものであるとして評定所に出訴したものである。七七は相手方村々からの返答書。その趣旨は深良村の主張する先例は存在しないというものであった。七八は今後の裁許についての深良村・井組村々の請書で

ある。七九は評定所の裁許状である。ここでは深良村の主張が認められながらも、水害は深良村地内の山水が流入したことも原因の一つであるとして、土砂除去のための人件費は深良村が三分の一、二九ヶ村が三分の二の割合で負担するよう命じられている。八〇は復旧にあたった富沢村の米拝借願。八一は井組の最末端に位置する本宿村の井組離脱願である。願は認められ、井組二九ヶ村が確定された。

第二節では井組が宝永・安永期の二度にわたる大規模な用水争論を経て、用水管理の慣行を原則的に確立していく時期を扱っている。深良用水の開通による水田化はすでに限界に達し分水をめぐる対立が繰り返されていたが、宝永年間の水論はその対立がついに井組全村にまで拡大したものである。この水論では上・中・下郷がそれぞれ分水上の主張を掲げて争い、評定所の裁定により、深良用水と従来の用水は区別なく公平に井組村々に分けられることとなった。しかしこの原則は上郷村々において遵守されず、上郷村々と中・下郷村々との間で再び安永年間の水論がおこった。ここで再び宝永水論の裁許の趣旨が繰り返し強調され、井組の用水慣行は制度的に確立された。八二では旱害によって水論が井組村々の間で発生している様子が窺われる。八三は中郷村々(公文名・稲荷・茶畑・平松新田・麦塚・伊豆嶋田・二ツ屋新田)から沼津代官所に対し、深良村をはじめとする水上村々が不正な取水を行っていることを訴えたものである。こうした井組村々の対立はやがて八四～八八にみられる宝永年間の大規模な争論に発展していく。この争論は下郷水末五ヶ村(中土狩・伏見・新宿・下土狩・竹原)が上郷十ヶ村(金沢・葛山・上ヶ田・深良・御宿・千福・定輪寺・一色・納米里・富沢)を相手取り、沼津代官所に訴え出たことにはじまる。訴えの内容は、上郷村々が不正な取水を行っているというものであった。八四は水論にかかわる諸経費を書き上げたもの。八五は上郷村々の返答書である。その後争論は紛糾して評定所にもちこまれる。その過程で新たに上郷の神山・岩波村、中郷の伊豆嶋田・二ツ屋

新田・麦塚・平松新田・茶畑・公文名・稲荷・佐野・石脇・久根村が争論に参入している。㈥は水配人甚右衛門が評定所の審理状況について沼津代官所に報告したものである。審理の結果、宝永五年(一七〇八)五月㈦の裁許状が下された。それによると争論の原因は分水の偏りにあるとされ、当時の水配人は責任を問われて罷免されている。そして新たな水配人は上郷・中郷・下郷より二名ずつ計六名が代官の吟味を経て任命されることとなった。さらに分水の際は深良用水とそれ以前から使用されている用水を区別なく扱い、不公平なく村々に分水することが命じられた。㈤は新しい水配人についての請書である。ところが裁許状の趣旨は実際にはあまり徹底されなかったようである。翌年には早くも㈣にみられるように水末村々(下土狩・竹原・伊豆嶋田・二ツ屋新田・茶畑・公文名・稲荷)から分水が不正であるとの訴えが出ている。史料中で水上村々が深良用水開通以前の用水を「地水」とよんで占有している様子が窺われる。㈢は中郷の公文名・稲荷・茶畑村が佐野堰からの分水に不正があるとして三島代官所に訴え出たものである。㈡も同様に中郷・下郷の水末村々(公文名・茶畑・平松新田・麦塚・伊豆嶋田・二ツ屋新田・下土狩・竹原・新宿・伏見)が分水について水上村々を訴えたものである。

元文二年(一七三七)支配替により井組村々は十名の大名・旗本による支配をうけることになった。用水支配も三島代官から新領主の担当となった。㈠は井組二九ヶ村が、用水支配は従来通り代官の担当としてほしいと願い出たものである。しかしその後中郷・下郷村々は訴えを取り下げた模様で、㈨では上郷村々のみが代官支配を願い出ている。しかしこの願いは結局聞き届けられなかった。㈧では用水管理のため、小田原藩より毎年一名、残る九人の領主より年番で一名の役人が村方へ派遣されることが申渡されている。㈦は用水管理について小田原藩の発信した廻状である。史料より役人間の意志統一の過程を知ることができる。㈥は深良村から用水支配役人にあてた文書提出の延期願であ

る。九七は深良村が用水支配担当領主の変更を願い出たものであるが、これは実現されていない。九六は領主の用水支配担当割と申し合わせ定書である。以上の史料から新領主による新たな用水支配体制はしだいに定着していったことが窺える。

一方水論についてはその後も一向に鎮静化しなかった模様である。延享四年(一七四七)には分水をめぐって下郷水末村々(下土狩・竹原・伏見・新宿)が水上村々を訴えている。九九はそれに対する返答書である。一〇〇はこの争論を背景とした用水支配役人から水配人への申渡である。一〇一は石脇村から用水支配役人にあてた、水不足のため見分役人を派遣してもらいたいとの願書である。以上のように水上・水末村々の対立の深まる中、明和七・八年(一七七〇・一七七一)の旱害をきっかけに井組村々は深刻な水不足に見舞われた。特に被害の著しかった水末村々では、水不足の真の原因は水上村々の不当な取水にあるとして用水支配役人に出訴した。ここに慢性化していた水上・水末村々の対立は頂点に達し、安永年間を中心に深刻かつ大規模な争論がはじまった。一〇三～一一三はこの争論に関するものである。一〇三・一〇四は明和七年の旱害を背景に、用水管理について用水支配役人より村方及び水配人へ申渡されたものである。一〇四は翌年水末村々から用水支配役人に提出された訴状と小田原藩が行った水配人取り調べの記録である。取り調べの中で水上村々が「地水」等の用水慣行上の既得権を主張し、分水時の水配人立会を拒んでいる実態が明らかにされている。一〇五は水上村々からの返答書である。この段階で訴訟方は下郷の下土狩・竹原・伏見・新宿、中郷の佐野・二本松新田・茶畑・平松新田・公文名・稲荷・二ツ屋新田の水末一一ヶ村、相手方は久根・深良・岩波・石脇・水窪・上土狩・伊豆嶋田・御宿・千福・富沢・納米里・定輪寺・葛山・上ヶ田・金沢・麦塚・神山・一色村の水上一八ヶ村である。一〇六は双方の主張について小田原藩役人と他の用水支配役人との間でかわされた書翰である。用水支配

役人達が今回の事態を用水支配体制の根幹にかかわるものであるとの認識をもち、事態の解明に前向きに取り組んでいる様子が窺われる。一〇七は水末村々の主張に対する水上石脇村の用水支配役人宛上申書である。取り調べはその後江戸表で行なわれた模様で、一〇八・一〇九はそれぞれ石脇村名主・水配人が江戸詮議の内容について用水支配役人に上申したものである。一一〇は江戸表における諸経費の割当帳である。その後領主側より内済の働きかけがあったが一一一より水末村々はこれを拒否したことがわかる。一一三は水上久根村の訴状である。水末村々はその後評定所に出訴している。その過程で一一三・一一四・一一五にみられるように一色・神山・麦塚村が争論から離脱している。一一六は水末村々からの評定所宛訴状、一一七・一一九は水上村々からの返答書である。審理の経過については一一八より窺うことができる。その後評定所から派遣された検使役人が実地調査に入った模様で、その動きは一二〇の日記に明らかである。こうした調査を踏まえて評定所では安永五年（一七七六）三月裁許を下した。それによると、水末村々の主張した水不足の現状は認められ、水上村々の主張する「地水」等の既得権は証明しがたいとして否定された。そして宝永五年の裁許の趣旨が再び強調されている。水配人は不手際を責められて解任された。一二三は裁決の趣旨を具現化すべく用水支配役人が水配人の任務を細かく規定したものである。これは分水の手順を詳しく伝えている点で興味深い。一二三は裁許の趣旨に対する村村の申し合わせである。一二四は用水支配役人が用水管理について申し合わせたものを村々に示したもので一二三と内容が重複する箇所が多い。

安永五年の裁許は水末村々の水田化の動きに大きな弾みを与えた。一二五～一二三にみられる富沢村と一色村の水論はその一つのあらわれといえる。史料に登場する富沢村穴堰は黄瀬川中流部に設けられ、富沢村地内を経て一色村を潤している。一二五は一色村からの用水支配役人宛訴状である。その内容は富沢村が用水を不正に取水しているため、一色

村内の田成畑の水田化が進まないというものである。一三六は同じく一色村からの願書で、用水支配役人の見分についての状況を伝えている。一三七は一色村の申し立てについての水配人より用水支配役人宛口上書。一三八は富沢村から用水支配役人への内済願。一三九は水論についての富沢村返答書である。結局争論は両者間の内済となり、安永五年の裁許に照らして分水についての規定が定められた。一四〇は済口証文。一四一は内済についての一色村請書である。一四二は用水支配役人出郷中の賄入用負担についての願書である。安永九年（一七八〇）四月深良村他十五ケ村は、富沢・一色村の争論の背景ともなった水末村々の水田化の動きについて、これ以上の水田化の進展は井組全体の分水秩序に重大な影響を与えるとして出訴。用水支配役人はこの申し立てを認めて今後水田化を停止するよう村々へ申し渡している。一四三は水田化の動きの中心にあった中郷村々の請書である。以上のような経緯で安永五年の裁許後活発化した水末村々の水田化の動きは強い拘束をうけることとなる。

一三五は箱根水門普請入用をめぐる深良村と水配人の争論についての済口証文。一三六は水配人の深良村宛内済金に関するものである。一三七・一三八は一色村と富沢村がさきの争論の処置をめぐって対立したもので、これも内済となったことがわかる。一三九は用水支配役人賄入用についての井組村々定書である。一四〇は深良村より用水支配役人にあてた分水願である。その中で深良村は旱害とともに、村内を通る新川のもたらす水害に絶えず苦しめられている状況を訴えている。一四一は水配人より深良村への詫状である。その後深良村は久根・御宿・千福村とともに水末村々を相手取り評定所に出訴した。訴状では村方の困窮した状況に触れたあと、安永五年の裁許によって否定された「地水」等の用水慣行を復活させてほしいと願っている。一四二は水末村々からの訴状。一四三は深良村他三ケ村からの返答書。一四四は水末村からの返答書である。その後一四五・一四六より用水支配役人の内済斡旋が行なわれたことがわかる。しかし斡旋は不調

に終わり、両者は出府の上評定所で対決することとなった。一四七は出府員数についての水末村々願書。一四八は争論詮議の延長についての水末村々願書である。しかし一四九より深良村他三ケ村の主張は取り上げられず、内済となったことがわかる。しかし寛政二年（一七九〇）深良村は久根村を除く二七ケ村を相手取り再び評定所に出訴した。その内容は新川土手が決壊した際の復旧費用に関するものである。深良村の主張によれば、復旧費用は井組全村の負担によって賄われるべきものなのに、他村がこれを拒んでいるというものであった。一五〇は争論の推移についての下郷村々から小田原藩宛注進書。一五一・一五三は両者の訴状及び争論の経過を示すものである。評定所では深良村の主張が認められ、内済の上二八ケ村より深良村へ金四〇両と米一五〇俵が代償として支払われることになった。この内米一五〇俵はそのまま与えられたが、金四〇両については永代預りとして年一割半の利足をもって金六両づつ深良村へ支払われることとなった。一五二・一五四は済口証文である。一五五は深良村からの受け取り。

第三節では第二節に続く時期の水論を扱っている。この時期井組全体を巻きこむような大規模な争論はなくなり、かわって井組各郷内部の対立が目につくようになる。中でも下郷では水論が頻発している。下郷の水論の多くは三俣堰の取水をめぐる水上・水下村々の対立である。三俣堰は黄瀬川下流部大堰下に設けられ、中土狩・下土狩・竹原・伏見・新宿村は堰に対して水下の村々、水窪・納米里・伊豆嶋田・上土狩村は堰に対して水上の村々である。こうした局地的な水論を通じて、近世井組の用水慣行はより整備されて近代の水利組合に継承されていく。

一五六は裁許状の年番預りと井組村々の用水入用積立についての定書である。一五七は三俣堰からの取水をめぐる下郷村村の争論についてのものである。水上・水下両者の主張に基づいて小田原藩役人と沼津藩役人が検分にあたっているが、検分の結果水上村々に非があるとされ、その判断に基づいて両者は和解した。一五八は水上村々からの詫状である。

一五九は深良村内における不法分水についての詫状。一六〇は嘉永五年（一八五二）の旱魃の際さきの下郷水下四ケ村より提出された通水願である。こうした事情を背景に一六一では水上四ケ村から水下五ケ村に対し、当年限りの分水規定が示されている。しかし一六三では規定に反して実際には分水が行なわれなかったとして水下五ケ村が沼津役所に出訴している。一六二は下郷全村からの用水支配役人宛通水願。一六四は中郷・下郷の水末村々から提出された願書で、出郷中の用水支配役人の引き揚げを延期してほしいとの内容である。

一六五～一六九は下郷水上四ケ村と水下五ケ村の対立によって引きおこされた事件に関するものである。事件の概要は、水上村々の百姓が水下村々への分水を阻止するため穴堰と三俣堰を破壊、関係者が沼津役所から手鎖村預けの処分をうけたというものであった。穴堰は三俣堰下、水下村々と納米里・上土狩村との掛合堰である。一六五は関係者の処分についての村々請書。一六六は水下村々からの処分取り止め願。一六七は水上・水下村々間の内済証文である。証文では一時的処置ながら、定例堰番の他に水上村々より一名、水下村々より一名の立会番を置いて公平な分水をはかることが申し合わされている。立会番の設置については今後両者の対立の争点となっていく。一六八は富沢・一色村からの事件関係者処分取り止め願である。

安政四年（一八五七）四月、さきの争論より二年後、再び水下五ケ村より沼津役所宛に一六九の願書が提出された。内容は立会番の常置を求めるものである。一七〇は内済証文。これによって今後三年間二ケ所の堰口に定例堰番の外に立会番を置くこととなった。立会番は納米里村より一ケ所に一名、水下五ケ村より二名派遣されることが定められた。その後立会番設置の期限切れとなった万延元年（一八六〇）、水下村々より立会番の永続願が出されている。一七一は水末村々願書に対する水上四ケ村と井組の残る一九ケ村の申し合わせである。申し合わせの内容は、水下村々の願は井

組全体の用水秩序に重大な支障をもたらすものであり、沼津役所に願書を取り上げないよう求めていくというものであった。一七三はその沼津役所宛願書である。一七三は水下村々からの立会番設置願、一七四は下郷水配人からの立会番設置願である。結局水末村々の願は聞き届けられず、一七五・一七六では水下五ヶ村惣代が用水支配役人に願を取り下げる旨を伝えている。一七七はその後水上・水下村々間で取り替わされた規定書であるが、水不足の際には水配人に申し立てた上で、水下村々より三俣堰と穴堰に一名づつの添番を立てることが認められている。一七八は小田原役所・沼津役所間の連絡で、中土狩・竹原村の分水願に関するものである。一七九は下郷水末五ヶ村より小田原役所への分水願である。一七八・一七九はいずれも近代への移行期における用水管理の実態を示すものとして興味深い。

（柴　雅房）

第三章　用水維持と普請

第三章は、元禄期より幕末までの深良用水の普請について編年に収載した。

普請とは土木工事のことであるが、用水普請はその用水に関係する村々が費用を出し合って自力で行った「自普請」と、領主が施行し普請費用を供与して行った「御普請」に分けることができる。深良用水においても、一村単位の普請や小規模な修復は自普請で行われることが多かったと思われるが、用水維持のための普請も大規模な修築が必要となるにつれ、用水組合である井組二九ヶ村より代官所や領主である小田原藩・沼津藩・旗本に願い出て、普請費用を出してもらう御普請の要求が増加していったと考えられる。特に、深良用水の中枢部である芦ノ湖からの取水口

である湖水門や隧道、新川の普請に関しては膨大な費用がかかるため、国を単位として資材・費用を徴発する「国役普請」の要求へと発展していく。国役普請の実施は江戸時代に四回行われ、さらに、深良用水の一支線である「かろうと堰」にまで国役普請を要求するようになっていく。本章は、この用水普請の要求を発展的にとらえ、天明の国役普請以前を第一節「開削後の用水維持と御普請」とし、以後を第二節「国役普請の要求」とした。また、かろうと堰の国役普請の要求以後を第三節「国役普請の拡大」とした。

第一節では開削後の用水確保と御普請の問題を取り上げた。深良用水は、芦ノ湖水門や隧道及び新川に注目されがちであるが、芦ノ湖の水がそそぎこんだ黄瀬川の水を堰上げた佐野堰やかろうと堰などを含めて深良用水という。各堰の普請は、原則的にはその堰に関係する村々が村入用より支出して行っていた。また、定期的に用水にたまった砂を取り除く砂浚普請も自普請で行なわれたが、普請の規模が大きくなると農民の負担が大きくなるため、幕府は貞享四年(一六八七)に、高百石につき五十人までは自普請で行い、これを越えた場合に扶持米を支給するように定めている。一八〇は定輪寺前堰の普請について高百石につき二十五人の割で四十五人が自普請とされ、残りの百二十八人と籠代が年貢より差し引かれている。一八三では、御普請の人足賃として一人につき扶持米五合ずつを与えており、一八四では具体的に御普請人足賃の農民への支給を確認できる。一九四は御宿村堀浚人足であるが扶持米切手を参考に載せておいた。

領主が費用を出す御普請は、農民の度重なる要求と働きかけによって達成された。一八一は隧道の三尺掘下げや水門修築の御普請要求願書で、代官所支配の十一ヶ村が代官に提出している。また、例年行っている水門の手入れや新川の浚人足賃は、百姓の負担から公儀の支出にしてほしいことなども願い出ており、水門、堀抜＝隧道、新川に関して

は、常に御普請で行うよう要求がなされている。一八三でも水役人の任命に関する願や、地震によって隧道が崩落し、大風雨によって水門が破損したため、急いで御普請してもらいたいという願とともに、水門の修理や隧道の砂浚などは、用水維持のための普請も御普請で行うように要求している。湖水門・隧道・新川は、各堰とは異なる位置づけがされていたと言えよう。

用水普請が具体的にどのように行われていたかを知る史料として一八六・一八七・一八八を載せた。一八六は一村単位の普請において、堰の維持のために「芝打」や「さらい」が行われており、一八七の十五ヶ村に及ぶ普請では、村高に応じて人足と籠竹をどれだけ出すかを書き上げたものである。この普請は実際には岩波村が多くの人足を出しており、その調整を行っていることがわかる。一八八は湖水門の普請の人足賃などを書き上げたもので、湖水門の普請に茶畑村から多くの人足や大工を出している。

開削から百年ほど経れば、深良用水も大規模な普請が必要となってくる。一九九は普請入用及び水配人の給米などの給付願いであるが、この大普請は「湖水開発以来之普請」であり、「九拾年余以来の義」と認識されるものであった。しかし、この普請は農民にとってかなりの負担となったようで、翌年、小田原藩領の村々は、藩に借金をして普請を行っていることが、二〇〇よりわかる。領主からの十分な保証がなされずに普請を行わざるを得なかったのであろう。

安永の争論の決着を待って、本格的な大普請が行われた。具体的には、湖水門の切り下げを中心とする普請である。湖水門の切り下げは、井組二九ヶ村だけの問題ではなく、芦ノ湖水面の低下につながるため、諸方面に影響を及ぼす。二〇一は小田原藩の役人が箱根関所に、普請の実施について相談したもので、水門切り下げによる湖水減少と箱根関所への影響について述べている。二〇二は井組から奉行所への御普請願書である。二〇三は深良用水の水源である芦ノ湖が

「箱根神社御手洗の池」であるため、その了解を得ると共に御普請の成就のあかつきには、これまでの運上初穂料に加え、毎年米三十俵ずつの上納を約束している。そして天明期になると、この普請は実行の段階にはいる。一九三は幕府普請役の普請所見分の実施過程が箱根関所日記に記されたものであるが、幕府の普請役の見分が行われるということは、この普請が今までの御普請とは異なることを意味している。すなわち国役普請の実施である。

安永期の御普請要求は、天明期に入ると聞き届けられ施行されることとなった。しかし、この御普請は個別領主の支出では負担が大きすぎた。そこで、この御普請は深良用水で始めての国役普請で行われることとなる。国役普請は、二〇万石以下の領主に対して、費用の負担に耐えがたい場合に、特定の国に対して費用を負担させると共に、幕府も費用の一部を負担するという制度である。まず、幕府普請役の見分をもとに普請個所を定め、普請に必要な人足賃や物品の値段が見積られる。この普請計画書を目論見帳という。そして、目論見帳にそって普請が施行され、実際にかかった費用を書き上げたものが一九五である。ゆえに、出来形帳は実際の普請の施行状況を知るのに、もっとも基本となる史料であり、普請個所ごとに必要な物品や人足の数、当時の物価までも知ることができる。

一九六は小田原藩役人への国役普請の御礼書状と普請後の後始末についての一札で、表紙の「茶林」とは、茶畑村名主林蔵のことである。この国役普請の一部として新川の土手の補強が行われているが、そのため深良村の田地が潰地となってしまった。その潰地の年貢諸役を、井組二九ケ村で負担することを定めたのが一九七で、国役普請とは言え潰地の補償まではされないのである。しかし、村請けである年貢諸役の負担も、井組二九ケ村で行うところに普請組合としての井組の重要性が指摘できる。

御普請願は、領主への文書の提出だけで執行されない。御普請が実行されるまでには、井組惣代が度々江戸に出て

行く必要があった。一九八によると、小田原藩領から一人、沼津藩領から一人、旗本知行所から一人の合計三名が出府するように指示されたが、井組村々の足並みがそろわないために、御普請願いを取り下げようか、惣代出府をどうしようかと小田原藩役人に伺いを立てている。

天明の国役普請以後も一九九に見られるように、普請は井組村々の入用（自普請）で行われていたが、水通りが悪いため井組が見分すると、隧道内部で崩落し「天明年中国役普請以前之形」になってしまっていた。翌年、小田原・沼津両藩より役人が見分し、普請費用金三十六両余りが支給されている。また、この普請が茶畑村五右衛門によって請け負われていることが二〇一からわかり、普請で使用する木の納入を二十四両余りで落札している。

一九九の隧道の崩落は御普請や自普請でとりあえず凌いできたが、文政期にはいると本格的な普請が必要となり、二〇三で再び国役普請を願い出ている。二〇四も国役普請の願書。二〇五は水門から隧道出口までの、二〇六は新川部分の目論見帳である。目論見帳作成後に、再び国役普請願書が出されているが、なかなか国役普請の要求が受け入れられなかったことを示している。二〇八は普請役の見分する個所を書き上げたもので、この帳面にそって普請役は見分を行ったのであろう。二〇九はその普請役が見分御用を勤めるため、江戸より深良用水までの伝馬手形で、二一三によると、この時の見分中の旅宿は深良村であったようである。普請役の見分が終わり国役普請で行う必要性がありと認められると普請が施行されるのであるが、二一〇は冬の寒さが来る前に普請が実施されるよう督促したものである。二一〇は御普請に取りかかるよう領主側からの申渡で、これにより正式に御普請が執行される。二一〇の願書は、このような申渡を早く出すよう願い出たものであろう。

国役普請は領主からの願いで行われた場合、百石につき十両が私領の負担分となる。そのため、二一一では国役普請

を願い出た小田原・沼津両藩の村々と同様に旗本知行所の村々からも出金することを申し出ており、私領出金高は二三で記されているように、用水によって開発された田地の高にかかるもので、深良用水の水が懸っていた田地の総高は一四三六石余であったことがわかる。二四は各村ごとの私領出金高を書き上げたもの。各村の用水懸りの田地の高がわかる。

さて、文政三年(一八二〇)の国役普請も、普請自体は計画通りに行われ水の流れもよくなった。しかし、費用の面では計画通りにできなかったようで金百五十八両余りが不足してしまった。そこで、三十両は井組村々で割り合い出金するが、残金百二十八両余りを領主から費用を出してもらいたいと願い出ているのが二五である。

三度目の国役普請の要求は、文政一三年(天保元年、一八三〇)の二六より始まる。翌年の二七は、普請役が見分を行う上での種々の取り決めの請書である。国役普請も三回目ともなると要領を得てきて、二八では普請の用意のため領主に金三十両の拝借を願い出ている。返済は御普請の費用として下付される金子をもっておこなうとしているが、この普請では、二九によると、韮山代官所よりの国役普請費用として三度に分けて合計三九三両余りを受け取っている。これを各村が木品代・人足賃として受け取るのであるが、三一は富沢村の受け取り分を記したものである。また、同村では普請役に御礼として、村でとれた川魚を献上している。三二でも富沢穴堰の御普請願書や普請請け負い証文とともに代官や郷宿の人々への御礼が記されている。結局、この国役普請は天保三年(一八三二)に実施されたが、三〇はその申渡と請書である。

深良用水の国役普請は、天明二年(一七八二)を始めとして、文政三年、そして天保三年(一八三二)と、これまで三回行われてきたが、これらの国役普請は湖水門、隧道、及び新川において実行されたものであり、各堰の普請におい

ては自普請、又は御普請で行われていた。しかし、天保期末年になると深良用水の一支線である「かろうと堰」においても国役普請の要求がなされてくる。第三節は、かろうと堰の国役普請の要求に注目しつつ、天保末年から行われる湖水門～新川の四回目の国役普請を中心に、幕末までの深良用水の普請の実態をできるだけ詳しく見ていく。

三四は新堰の普請を佐野村の「九六鍬」すなわち黒鍬の者二名が金十両で請け負っていることがわかる。小規模の普請は、工事を職業とする黒鍬が請け負い行っていたのであろう。この新堰とは三〇三によると、かろうと堰と同様のものである。そして、この新堰＝かろうと堰の普請は、寛政九年（一七九七）までは自普請で行ってきたことがわかる。

三五は三六に先だって、国役普請の要求のための手続きを井組で定めたものである。この国役普請は、今までの国役普請と同様に新川の普請に関するものであるが、この御普請の見分に、御宿村新堰＝かろうと堰も加えてもらいたいとの願書が三七である。その普請所見分に関する届が三八、そして、三九が荻野山中藩の陣屋である松長役所（沼津市）に提出される。つまり、今度の国役普請では、今までの国役御普請個所に加えて、かろうと堰も国役普請で行うよう要求しているのである。

三〇～三六は、湖水門より新川にかけての国役普請関係の史料である。三〇は小田原藩・沼津藩役人の普請個所見分費用の取り調べ書。国役普請が行われるかどうかは見分次第であり、その手間と費用はかなりのものである。三一は深良村・久根村両村から旗本用人たちへの国役普請願書。三二は、二九ヶ村より奉行所への願書である。三三はこの国役普請の実現のため、井組惣代が江戸でどのような活動を行っているか、また、どのような手続きが必要であったのかを知ることができる興味深い史料である。この惣代が勘定奉行所に提出した願書が三四である。また、この惣代の江戸出勤も含めた諸費用は三五でわかる。三六は文政三年の三四と内容的には変わりがない。

さて、一方のかろうと堰は、普請役の見分までは行われたが、結局、国役普請は行われなかったことが二三七よりわかる。そこで、せめて御普請にしてもらいたいと願い出ているのが二三八である。

深良用水はたびたび地震で破損しているが、安政元年（一八五四）にも被害が出ている。二三九では御普請になるように見分を願い出ているが、この御普請の入札過程が二四〇・二四一によりわかる。一七名の者により入札がおこなわれ、一番安い値をつけた久根村の文七が落札している。

自普請と井組の関係を示す史料として二四二を載せた。堰の修理は水下の村々への影響があるので、水配人へ届け、その指示で普請が行われた。

最後に、明治新政府への御普請願を載せた。二四三は最初に見た一六〇の定輪寺前堰＝富沢村穴堰についての尋に答えたもので、幕末期の助郷役の負担増加と関係づけて御普請を願い出ている。

（井口　俊靖）

第四章　用水と村々の生活

本章では、これまでの三章から目を転じて、深良用水が、その流域の人々の生活とどのような関わりをもって存在して来たのかを中心に一章を編んだ。第一節では深良用水がうるおす田地と村々の範囲、及びその維持・運営に要する諸負担について、第二節では在地の水利秩序の要の位置に存する水配人及び水番について、第三節では具体的に取水を行う用水施設について、第四節では深良用水に対する流域の人々の心意を示すと思われる史料を、石造物や棟札などの文献以外の史料からも採った。

第一節の井組三郷の村々では、井組二十九ヶ村（本宿村は宝永四年に離脱）の水掛り反別とそれにともなう村々の諸負担に関する史料をおさめた。

深良用水開削後の急速な畑成田（畑の水田化）の増大は、間もなく深刻な用水不足をもたらした。このため、井組は新規の畑成田を禁ずるとともに、各村の水掛り高及び反別の把握を度々試みている。本節の二四・二四七・二五一・二五三・二五四はそれらの代表的史料である。特に二四・二四七はそれらの中でも早い時期のもので、二四では「箱根堀抜水掛高反別」と書かれているが、たとえば深良村の高弐百九石六斗六升四合・反別拾七町七反三畝弐拾弐歩という数字は、天明元年（一七八一）五月の「当用水二十九ヶ村高反別書上帳」（『深良用水の沿革』所収）や文政三年（一八二〇）の二五一などと比較してみると、深良村の村高千四百七拾三石壱斗五升九合のうち「当用水掛り」とは別の「堀抜出来ニ付畑方田ニ成候分」、すなわち畑成田に相当する部分の高であることがわかる。また、本史料の末尾に付された覚から、①この史料が貞享五年＝元禄元年（一六八八）に、代官小長谷勘左衛門が元締め達から用水に関する権限をとりあげた直後のものであり、②当秋以降普請・水配人給・番水などの負担は高割りとすること、③以後一切畑成田を禁ずること、④このような指示が勘定所の指図によること、などを小田原藩側に伝えている点、たいへん重要な史料である。

二四七はほぼ同じ水掛り高を示しているが、村高を示す惣高が並記されており、村内に占める用水掛りの石高の割合を知ることができる。納米里・中土狩・竹原・下土狩など下郷の村々の割合が高い点に注目したい。また村名の右肩に記された代官名などから、これまで小田原藩領と天領のみであった当地域が、元禄の地方直し以降旗本領に細分化されていることがわかる。二五一もこれと同様の史料であるが、「享保年中ゟ水不足ニ付連々畑ニ相成候分」とあって、享保以降、折角の畑成田が畑に戻ってしまう場合がみられることがわかる。なかでも、伊豆嶋田・稲荷・茶畑・平松

新田では五拾石を越えている。二三三には取水する堰名と地水高という深良用水以外の水掛り高が記されているが、これは第二章でとりあげた水論の結果であろう。二三四は最も新しい時期に作成されただけに、湖水掛り・出水(地水)掛りの別や支配領主名は勿論、家数・男女別人数などもあって、井組村々を通覧するに有益な好史料である。また、本史料は国役普請を出願する際に作成されたものであるため、領主側の見分にあたって現金が「進物」として差上げられているなどの実態を垣間見ることができる。

この様な井組全体の高・反別に対し、各村内の水掛り反別の詳細について知ることのできる史料として二四五(富沢・定輪寺)・二四九(深良)をいれた。

一方、井組全体の運営には、各村々に相応の負担が求められた。二四六は富沢村の村入用割帳であるが、合計壱貫九百二十八文の箱根水懸り諸入用を、持高壱石につき六十二文三厘で各人が負担していることがわかる。少し時代は下るが、二三二の御宿村の史料も同じ性格のもので、村入用の中から用水関係の項目を拾うと、堰の修覆・維持費や湖水普請、水配人の給料から神社の御初穂料に至るまでバラエティに富んでいる。また、井組全体の諸入用を村ごとの水掛り高に応じて負担している様子を知る事ができるのが二四八である。用水諸入用全体を約四十八両とすると、そのうちの半分の二十四両余が人的経費(水配人二人で十六両・水番四人で八両)の支出にあてられている点が目につく。また、この宝永四年という年は未進が多く、帳末を見ると全体の過半の約二十八両が支払われていない。二人の水配人もさぞかし気苦労であった事だろう。勿論、このような背景には、同年十一月～十二月の富士山噴火が大きな影響を及ぼしていただろうことは想像にかたくない。年貢の請免にあたり、佐野村惣百姓が万一の災害時の取極めをしているのが二三〇であるが、その中でも、特に旱損の際の流末の田の扱いと水引きについて無作法をしない旨を取り極めて

いるのは、井組の村の特色であろう。この史料が作成された天明六年も、数年来続く天明の飢饉の真最中であった。

第二節では水配人・水番を取り上げた。深良用水の特色の一つは、二十九ケ村で構成される井組の中に、用水を管理・運営し、分水等の権限を有する水配人が存在していたことであった。水配人の成立及び水論における役割等については、史料㈥をはじめとして第二章を参照されたい。本節では、中後期の水配人の職務の一端を知る事のできる史料をおさめた。㈡五～㈡五八は水配人交代の際の任命願・任命書・代役等に関するものである。特に㈡五八は、先の㈡五七で任命された水配上役石脇村甚右衛門が病気がちのため、一年足らずで公文名村名主宇平治にかわり、その宇平治の役中の記録である。文政十年（一八二七）はたいへん水配のスムースにはこんだ年だったようで、出費の負担軽減の意味もあろうが、例年村々を見分して廻る領主役人の「出在」も不要であると言っている。水配の完了は六月十四日であった。この水配人への報酬は、井組村々の高に応じて割当てられ、小田原役所に納められていた。㈡五九によると、その集金は上郷・中郷・下郷の各郷ごとに集められていたことがわかる。文政十一年の場合、水配上役は一人三人扶持、時の相場で一人当り六両余、水配下役は一人二両に定められていたようである。㈡六〇は㈡五八同様の水配注進状である。両方とも堰付近での魚猟を禁ずるという文言が入っているが、「李下の冠」に類する言訳けを禁ずるものであろうか。

（菊池　邦彦）

第三節では、用水の施設を具体的に知ることができる史料を掲載した。用水施設に関する記録は、水論の際に作成された文書に多く見られるが、本節ではそれらの史料に加えて、日記類や修理の際に作成された文書を取り上げた。掲載史料に記載された施設の規格や規模については、いずれも実測のものが多いと思われるが、その史料の作成された経緯を理解した上で利用することが必要であろう。そこで、史料全体を内容に即してある程度整理・分類し、史料

の作成された背景にも簡単に触れながら解説することで、史料理解の一助としたい。

まず、用水施設の全体像を見渡せる史料を取り上げておこう。二六六は、宝永期の水論の際に作成された記録であるが、本史料は明治期に湯山半七郎が書き写したものであり、原文書は残っていない(用水施設に関する記述は、四四と一致するため、二六六の原文書は四四と同じ記録と考えてよいであろう)。「正月十二日」等の日付が書かれていることから、実地踏査をもとにした記録であると考えられる。水門から、掘抜、新川、黄瀬川の流域にある堰ごとに、用水の流れる方向と距離が具に記されている。二七一・二七三は、用水施設そのものの詳細な記録ではないが、湖水懸用水路の堰や堀の全体像をとらえる上で参考になる史料である。尚、二七一には「箱根湖水掘抜願始」という項目が最後にあり、ここには水門と佐野堰の構造に関わる記載が見られる。また水門に関しては、二七六も参考になろう。さらに二六九は、水門と新川の石垣を修繕する際の見積であり、水門と新川の土手は石垣が組まれており、その規模を知る上で参考になろう。

次に、用水の個々の施設に関する史料を取り上げる。二六一は、日記に記された記録であり、水門が実際にどのようにして利用されていたかを知ることができる貴重な記録である。水門を開ける時期、水門の開け方、そしてそれに携わったと思われる人足について書かれている。また、掘抜開削から二〇年余たっているが、開削当時の水門の構造を知る手がかりにもなろう。二六二・二六三・二六四・二六五は、いずれも全国的規模で行われた元禄期の国絵図作成に関わる茶畑村用水路の記録である。前回の国絵図作成(正保二年・一六四五)以降に深良用水ができたため、新規の用水路である「新堀」が調査され、幕府に報告された。二六七・二七〇は、佐野堰筋の宿堀口をめぐる争論の際に作成されたものである。満水時には堰口の堀を埋めることや、堰口の下流の堀底の深さが、石を置くことで明示されていたこと、さらに堰の

前後の堀底の勾配や巾が記されている等、堰の管理の様子、堰口の堀の構造が窺える。また、二七三からは、佐野堰の具体的な構造を知ることができ、眉木と呼ばれる部分があったことがわかる。尚、その眉木に関する正確な記録が残されてこなかったために、水配人が困惑している点が興味深い。二六八は、茶畑村の用水樋の掛替に関するもので、樋の材質(槻・松)によって耐久性が違うことを見いだすことができる。二七四は、富沢村堰とその先にある穴堰の記録である。穴堰は、箱根掘抜と同じ掘抜を備えており、その規模が記されている。二八〇は、用水堀にかかる橋に関するもので、水流を管理・制御する用水施設とは趣を異にする施設である。しかし、堀は人馬の通行にとっては障害となることを考えると、用水体系がこの地域の交通体系と共存するためには、橋はなくてはならないものであり、この意味から橋も用水の重要な施設として位置づけることができよう。

最後に、用水施設の維持に関する史料を取り上げておこう。二七五は先の富沢村堰・穴堰の浚に関する記録である。堀には、土砂が堆積するため、用水の機能を維持するためには、土砂を取り除く浚という作業が不可欠であった。本史料からは、浚に要した人足の数や道具などを知ることができる。二七七・二七八・二七九は、天保期の国役普請の時に作成されたもので、用水施設の修理に要した材料・道具等が書き上げられている。この三つの史料を通じて、材木、土木道具以下什器までの諸道具、大工・木挽・石切の職人等が必要とされたことを知ることができると共に、右の材料・道具は用水施設の構造を知り得る手がかりともなろう。

以上、用水施設に関する資料を概観したが、全体を通じて特徴を一つ述べるならば、用水施設に関する記録は水論や修理という、いわば非常時に作成されたものが殆どであるということである。このことは言い換えれば、二七三が示しているように、非常時に備えて平時から用水施設の全体系が詳細に記録化されているとは言い難いということであ

る。つまり、眼前の必要に迫られて調査が行われ、それが記録として残って行くのであろう。この点に、当時の用水施設の管理方法、さらに用水技術の特徴を見て取ることができるのではないだろうか。

（脇野　博）

深良用水の開削と通水からうける恩恵を、地域の人々はどのように受けとめていたのだろうか。第四節では用水と信仰を扱っている。近代以前の人々の心意を理解するのは必ずしも容易ではない。そのためには、様々な方面から、特に文献以外の史料がこの分野では大きな役割を果たす。

深良地区町田の細い道の傍に、木々に囲まれた数基の石塔が建っている神域がある。そのうちの一基が二六一の寛文十年の銘をもつ庚申供養塔である。そこに刻まれている姓を有する人々の中に、用水開削に大きな役割を果たした発企人大場(庭)源之丞の名が見える。また、同地区切久保堰近くの用水にかかる小さな橋のたもとに五基の石造物が並んでいるが、そのうち一番用水に近い場所に位置するのが二六二である。これには願主二十五人とあるのみで個々の人名は不明だが、先の二六一と同年で、しかも日付けもよく似ている（晩秋は九月の異称）。寛文十年秋といえば、その年の四月頃に開削工事が一応完成し、通水した年である（第一章）。このように考えると、寛文十年に建立されたこの二基の庚申塔は、大庭源之丞の名を残す前者は勿論、後者も用水の完成した年の人々の信仰の一端を示す史料と言ってよいだろう。寛文十年の庚申塔は、この他市内久根地区の御殿場線付近、石脇地区公民館の前、岩波地区変電所付近などに所在が確認されており、その類例は多い。

一方、正徳元年銘の石造物は、推定を含めて少なくとも三基現存している。長泉町上土狩惣ヶ原の芦湖水神社の本殿に二八三・二九三、同町納米里の柏木家敷地内に二八四がある。水神社本殿にはいくつかの石造物及びその石片が奉納され

ているが、石碑中で最も形が整っているのが二八三である。その正面に刻まれた「水仁」は水神に通ずるものと思われ、友野與右衛門を始め五人の元締たちが神として祭られているのである。また、「南無阿弥陀仏」と刻しているのは、伝えられる友野をはじめ元〆たちの開削後の悲劇を追悼する気持ちが込められていると考えてよかろう。また、同様の念仏銘を正面にすえ、元締四人の名と、「卯仲秋彼岸」の銘を有する二九三は、破損が著しく、中途で折れているのが残念だが、卯は正徳元年である可能性が高い。この他、本殿には地蔵尊及び弥勒菩薩と呼ばれる二体の石仏がある。これらの石造物については、二八八の水分神社創立願書(明治十二年)によると、正徳元年(一七一一)に元締達の徳をしのんで地蔵尊をまつった小堂二つと石碑一つを建立し記録をおさめたが、文化五年(一八〇八)に「童子之逞毒ニ羅リ堂宇書籍揚ケテ烏有ニ属シ」、現在では焼碑に僅かの文字を残すのみとなったと述べられており、それが社殿の整備によって現在に至っているものと思われる。一方、二八四納米里村地蔵尊は、黄瀬川に近い柏木家の庭先の小祠の中に有る。以前この地に住んでいた前田家のもので、同家とこの地蔵尊との関係は現在でも続いているという。正徳元年という同じ年に、いずれも下郷で元締達を祭る石造物が建立されていることに注目したい。

さて、深良用水を語る上で、芦ノ湖と箱根権現を忘れることはできない。二八五は箱根権現が水掛り村々との由緒を述べ、中断している御供米の復活と分石のこれまで通りの運用を願ったもの。宛名の大岡越前守は元文元年(一七三六)八月に町奉行から寺社奉行に栄進している。現在万福寺に該当する文書が見当らないため刊本によった。二九二はその御初穂料を役僧が廻村して取集めていた事を示す史料である。また、二八六は芦ノ湖畔の賽の河原と通称される神域にある常夜燈で、本殿からかなりはなれているが、箱根神社に属する。これは寛政三年(一七九一)に井組二十九ケ村が奉納したもので、上部に剝落のあるのが惜しいが、この地域によくみられる信州高遠の石工による作品である。

一方地元では、先に述べた上土狩地区惣ケ原に四人の元締を祭神とした神社創建の趣意書が作成されるのが明治十二年(一八七九)のことで、当初は二六にあるように水分神社と称したが、二九(大正十三年)では芦湖水神社となっている。二一は現在の社殿の完成時のものである。この他、二九には芦湖四留水門を石造にした際の竣工記念碑をおさめた。これは水門をはさんで左右の石垣の下部にはめ込まれている。

深良用水に関する江戸期の文芸作品や絵画を渉猟したが、これまでのところ確認するにいたらなかった。二七は富沢村の村絵図中に記されたもので、百姓文人が深良用水を詠んだ賀歌として貴重である。この他、用水に言及したものとして、延宝五年(一六七七)の稲葉正通『たかね日記』などが知られている。

(菊池邦彦)

第五章　近代の用水

「第五章　近代の用水」は、「第一節　明治初年の井組三郷」・「第二節　逆川事件」・「第三節　生活と産業」・「第四節　地域の変貌と用水」に分類した。

「第一節　明治初年の井組三郷」は、明治初年の田反別水掛かりを示す史料を中心に掲載した。地租改正により、近世までの用水掛かり田反別が把握され直される。地租改正法令は明治六年(一八七三)であるが、静岡県下のうち旧駿河国の地租改正事業は、明治七年一一月大迫貞清県令の布達によって明治八年三月から着手されている。実地状量、地位詮定事業を経て、地租改正事業は、耕地の主な部分を明治一二年に、市街地は明治一三年に、山林・原野は明治

一四年に終了している。二九四は、地租改正直前の明治七年の井組三郷全体の田反別水掛かりを記載しており、総計反別四百六十二町四反二畝二十一歩である。これに対し、地租改正後明治一二年の田反別水掛かりを示す二九五では、総計五百三十一町五畝四十二歩である。約六八町歩余(一八・八%増加)が増えている。また、二九四は、明治初年の用水管理・水配人の権限・堰番に関する取り決めである。

二九六は、明治二〇年の用水管理・用水維持費予算案の実例を示したものである。現存の最古のものが二九六である。なお、井組三郷の用水管理が「水利土工協議会」の名称で行なわれるようになったのは、明治一八年からである(三二七に記載あり)。「用水組合」の名称を使用するようになったのも、史料でたどり得る限りでは二九六の明治二〇年からである。但し、明治二二年市町村制施行にともなう旧用水管理組織の改組を目的とした「水利組合条令」公布は明治二三年六月二一日であり、この「用水組合」は未だなんら法的基礎に基づいていたものではなかった。また、「第三節　生活と産業」の三二九・三三〇・三三一・三三三の史料にも示されるように、明治二〇年代から明治三〇年代はじめまでは「用水組合」の名称と同時に、近世以来の「井組」の名称も併用されている。

現在の芦湖水利組合の原型である「組合」(まだ、「芦湖用水組合」の名称ではない)が、深良村・富岡村・小泉村・泉村・長泉村・清水村・富士岡村の七ケ村によって正式に組織されたのは明治三〇年三月六日である(芦湖水利組合所蔵「駿東郡深良村六ケ村外組合規定」)。これは、ちょうど逆川事件の裁判の渦中にある時期であり、裁判に対応するために七ケ村の「町村組合」の形式で、「組合」が組織されたのである。但し、当時は未だ「水利組合条令」が静岡県に施行されていなかったため、ここにおいても「組合」はこの「水利組合条令」に基づくものではなかった(三二七に記載あり)。

「第二節　逆川事件」は、逆川事件の発端から裁判の経緯、神奈川県側との和解の内容を時間的経過に沿って史料を配列した。逆川事件は、これまで、明治二九年四月の事件の発端から明治三一年一月の大審院における逆転判決までを軸にして語られることが多かった。しかし、事実関係を追うと、既に事件の起こる前から逆川事件の伏線ともみられる状況が惹起されている。また、和解調停役をつとめた人物の一人である富田鉄之助は、調停を行なうと同時に深良用水の水を利用して発電事業を企てている。突発的に起こった単なる水利権争いではなかったのである。

二九七は、明治に入ってからはじめて、神奈川県側元箱根村との間に取り交わされた、明治一四年芦ノ湖水利権の確証書である。「甲羅伏」の維持による水利権の保障が確認されている。明治二〇年五月芦ノ湖が箱根神社から御料局に編入されている。そのため、二九八では、明治二二年湖水門の修繕願いを御料局長官宛に提出している。

二九九・三〇〇は、逆川事件の背景となる神奈川県側仙石原村の動向を示す史料である。明治一三年箱根仙石原に、渋沢栄一の従弟にあたる須長伝蔵が渋沢の命を受け、牧場経営のために入植する。耕牧社と名付けられた牧場がそれであり、七五〇町歩余の土地を持ち、牛馬約三百頭を飼育していたといわれる。二九九は、明治二六年耕牧社が芦ノ湖水を利用して仙石原に水田開拓を行なったことに対する、静岡県側用水組合からの開拓差し止め願いである。同時に、用水組合は芦ノ湖水の水利権を強く主張している。三〇〇は、水田開拓のために神奈川県側仙石原村から御料局長宛に提出した芦ノ湖水使用許可願いである。

明治二九年四月一二日逆川事件が起きている。神奈川県下足柄郡仙石原村長勝俣沢次郎・大窪村長市川文次郎・耕牧社須長伝蔵の命を受けた人夫が、芦ノ湖水を深良用水に引くために設けてあった「甲羅伏」を破壊したのである。三〇一は、事件の翌日四月一三日小泉村書記堀内保蔵が実地検分を行ない、三名による「甲羅伏」破壊の事実を確認し

た書類である。[二〇二]は、事件発生から告訴前日四月三〇日までの間、上記三名を告訴するまでの経過を記した貴重な日誌である。上京のうえ、静岡県知事小松原英太郎との相談(不在のため、面会できず)、警察・弁護士などとの相談を経て、四月二八日小泉村長菅沼佐太郎・長泉村長米山藤三郎・深良村長小林由太郎の三名を告訴人とすることに決定している。なお、当時の静岡県知事小松原英太郎(一八五二～一九一九)は、山県有朋系官僚として活躍した人物であり、のちに貴族院勅撰議員(一九〇〇～一九一六)、明治四一年文部大臣兼農商務大臣(第二次桂太郎内閣)、枢密顧問官(一九一六～一九一九)をつとめている。また、文中で登場する湯山柳雄(一八五五～一九三二)は御宿の豪農湯山半七郎の長男である。明治一三年愛郷社を組織、明治一五年岳南自由党に参加するなど、駿東郡における自由民権運動の指導者であった人物である。

[二〇三]は、逆川事件の告訴状(五月一日)である。原告(告訴人)は、小泉村長菅沼佐太郎・泉村長米山藤三郎・深良村長小林由太郎の三名、被告(被告訴人)は勝俣沢次郎・市川文次郎・須長伝蔵の三名である。「甲羅伏」使用権・芦ノ湖水の水利権を、近世以来の既得権利として強く主張している。告訴状中の第一号証から第五号証は、それぞれ、[二〇五]で横浜地方裁判所へ提出した証拠書類目録のうちの第一号から第五号に対応する。[二〇四]は、芦ノ湖水利組合に保存されていた逆川事件関係新聞記事の切り抜きである。地元新聞である『静岡新報』以外に、東京の新聞である『都新聞』・『国民新聞』・『東京新聞』が収集されている。

明治二九年一二月一六日横浜地方裁判所において逆川事件の判決が下った。[二〇六]は、その判決全文である。この第一審判決では、証拠不充分による被告三名の無罪と、原告三名による「甲羅伏」破壊の賠償請求却下の判決が下されている。原告の全面敗訴である。ここで、注目すべきことがらは、被告の「甲羅伏」破壊事実を裁判所が認めている

点である。この事実認定は、第一審判決以来最後まで一貫したものである。また、この判決での原告の全面敗訴の理由として、被告の「甲羅伏」破壊がかならずしも犯罪に相当しないことが述べられているほか、逆川事件の裁判における手続き上の二つの問題が挙げられていることである。①弁護人岸清六が弁護士の資格を欠いていること。②深良用水関係行政村は七ヶ村であるにもかかわらず、原告は三ヶ村の村長にすぎず、委任者として不適切であること。以上二点である。

原告側では、横浜地裁判決全面敗訴にともない東京控訴院に上告をする。[三〇七]は、明治三〇年四月六日上告棄却判決である。棄却の理由として、被告の「甲羅伏」破壊事実を認めつつ、被告(神奈川県側)の芦ノ湖水利権の主張を認め、原告(静岡県側)が芦ノ湖水の水利権を占有するものではないことが述べられている。

この棄却判決にともない、原告は、同年四月二二日大審院に上告する。[三〇八]は、その上告趣意書(四月二四日)である。この上告から、原告は、深良用水関係七ヶ村長となっている。原告は、深良村長小林由太郎・小泉村長菅沼佐太郎・富岡村須山村組合村長横山健吾・泉村長服部大輔・長泉村長室伏平右衛門・清水村長代理助役平井喜十郎・富士岡村長杉山利十郎の七名である。また、弁護人も代わり、弁護士鈴木充美になっている。[三〇九]は、上告に対する七月八日大審院判決である。被告三名による「甲羅伏」破壊の事実認定を軸に判決が行なわれている。第一審横浜地裁判決・第二審東京控訴院棄却判決が全面的に破棄され、逆川事件の審理を名古屋控訴院に移送する旨が決定されている。この判決では、既に被告三名の「甲羅伏」破壊について「被告等ノ所為ハ犯罪的所為ト見做サヽル可カラサルナリ」の見解が示されており、明治三〇年一〇月二〇日名古屋控訴院判決と翌明治三一年一月二〇日大審院判決における被告三名の有罪判決の原型が提示されている。なお、大審院判事のうち柳田直平は、後年の民俗学者柳田国男(旧姓松

岡)を明治三四年に養嗣子とする人物である。三一〇は、この大審院判決の当日、判決内容を電報で報せたものである。「ショウリ(勝利)」という言葉からうかがわれるように、この大審院での名古屋控訴院への移送決定は、原告にとって実質上の逆転勝訴であったのである。

三一一は、明治三〇年一〇月二〇日名古屋控訴院における差し戻し審の判決である。判決は、原告の全面勝訴である。被告三名は各重禁錮一月罰金二円、「甲羅伏」破壊に対する損害賠償金四八〇円八五銭を原告へ支払うことが言い渡されている。控訴院判決を不服とした被告三名は、大審院に上告を行なう。三一二は、被告三名による上告答弁書である。

逆川事件の最終的判決である大審院判決は、翌明治三一年一月二一日に行なわれている。三一三は、その判決書である。名古屋控訴院での判決を正当とし、被告三名の上告を棄却している。同時に、この大審院判決では、「甲羅伏」設置の権利が原告(静岡県側)にあること、換言すれば、芦ノ湖の水利権が原告(静岡県側)にあることが縷々述べられている。これにより、現在に至るまでの静岡県側(静岡県芦湖水利組合)の芦ノ湖水への権利の保持が確定したのである。三一四は、逆川事件大審院判決直後、明治三一年三月原告として名を連ねた深良村長小林由太郎の記述による逆川事件顚末記録である。

逆川事件大審院判決後、富田鉄之助を仲介役として、原告(静岡県側)と被告(神奈川県側)の和解調停がなされる。富田鉄之助(一八三五～一九一六)は実業家であり、明治一五年日本銀行副総裁、明治二一年日本銀行総裁(～明治二三年)、明治二三年貴族院勅撰議員、明治二四年東京府知事、明治二九年富士紡績設立(初代取締役会長)、明治三〇年横浜火災保険設立などを行なっている人物である。

二五は、明治三一年九月二四日示された調停案である。しかし、和解はすぐには行なわれず、五年後の明治三六年九月に至り、ようやく和解調停式発会の運びとなる。二六は、その際確認された逆川事件和解調停書である。二七は、箱根塔ノ沢環翠楼で開かれたこの和解式の式次第である。なお、二五・二六・二七は、御宿の湯山半七郎が所蔵していた印刷物である。

深良用水は、単に農業用水としてのみならず、生活用水や発電事業をはじめとする産業用水にも利用されてきた。「第三節　生活と産業」は、深良用水の水を〝水資源〟として生活・産業用水として利用している史料を掲載した。

二八は、明治二一年八月三日御宿の湯山半七郎による水車建設願いである。この、水車が何に使用されたものか明確ではないが、深良用水の水を使用しての水車の利用であることは間違いない。二九は明治二四年から明治二六年までの、三一は明治二八年の、上郷水配人の用水管理の日誌である。特に、毎年六月から八月ころにかけて用水を分水している様子、新川を中心に用水の管理をしている様子がうかがわれる。

三〇は、明治二六年一一月一五日東京在住の平松与一郎外一名と井組(上郷・中郷・下郷)の電気事業契約書である。契約書「第一条」に「今回平松与一郎ハ電気其他ノ器械設置ノ為メ」と記されているように、この史料は平松与一郎が芦ノ湖の水を利用して水力発電を計画したものと考えてよいだろう。これが、芦ノ湖水を利用した水力発電計画の嚆矢といえるものである。日本における発電事業は当初火力発電中心であり、日本初の水力発電は明治二五年京都市における琵琶湖疏水発電事業である。したがって、三〇に示された水力発電の計画は、実現をみなかったものの、日本で水力発電に注目した草分け的なものと考えられる。

三三は、明治三一年七月二三日井組と東京水力電気株式会社との芦ノ湖水利用に関する契約書である。三〇の平松与

一郎に引き続き、東京水力電気株式会社が「箱根芦湖々水ヲ使用シ水力電気事業ヲ経営」しようとしたものである。当時東京水力電気株式会社社長は逆川事件の和解調停の仲介役をつとめた富田鉄之助であり、また、契約の日付も大審院において逆川事件の最終的判決が下った同年一月二一日から数えて約半年後である。この東京水力電気株式会社との契約は、逆川事件の和解調停となんらかの関連があったのではないかと推測される。その後、東京水力電気株式会社（取締役会長大倉喜八郎）とは明治三八年五月一二日芦ノ湖水利用の再契約を結ぶが（三五に記載あり）、東京水力電気株式会社は水力発電を行なうにはいたらず、のちに東京電燈株式会社に権利が譲渡されている。さらに、東京電燈株式会社も水力発電の実行にいたらないまま、芦湖水利組合に無断で明治四二年八月一日箱根水力電気株式会社に権利を譲渡している（三三に記載あり）。大倉喜八郎（一八三七～一九二八）は、実業家であり、明治一九年東京電燈株式会社設立、明治二六年大倉組設立、明治三一年大倉商業学校（大正七年大倉高等商業、現東京経済大学）設立などを行なっている人物である。

三三は、明治四四年一月一七日水力発電事業に関して、芦湖水利組合が横浜電気会社と契約を締結しようとしたことに対する失効意見書である。「横浜電気会社ノ内容ハ字逆川口ニ野心満々タルコトヲ探聞致候」と記されているように、芦湖水利組合（静岡県側）の水利権が侵害されるのではないかという危惧が、意見書の理由として表明されている。結局、横浜電気会社との契約は締結されず、大正二（一九一三）年一月二七日芦之湖水力電気株式会社と、水力発電に関する芦ノ湖水利用の契約がなされている。三四は、その契約書草案であり、三五は、その契約書である。この契約書では、芦之湖水力電気株式会社の発起人総代は泉村長芹沢多根である。それまでの水力発電計画が在京の株式会社との契約であったのに対して、芹沢多根は当時芦湖水利組合管理者であり、ここでは、事実上芦湖水利組合関係者

が水力発電を計画したことになっている。

三六は、大正二年四月二一日上ヶ田における新田開鑿差し止め願いである。新田開発によって、深良用水の水が従来からの「古田」に行き渡らなくなるため、新田開発を差し止めるよう願い出たものである。

三七は、明治四一年四月一三日公布「水利組合法」（一〇月一日施行、「水利組合条令」廃止）にともない、大正四年一月二五日芦湖水利組合を「水利組合法」に基づいた組織に再編成するよう求めた意見書である。同時に、芦湖水利組合成立の経過が要約して記されており、近世の「井組」以降の組織的変遷を知る上で貴重な史料である。そして、「水利組合法」に基づき、同大正四年はじめて法律的基盤を明確にした芦湖水利組合となる。三八は、そのときの「規約」である。

水力発電のほかにも、深良用水の水を産業用水として使用しようとする事例は多い。三九は、深良村の松井謙保が製材・製缶工場に深良用水の水を使用しようとして、大正七年芦湖水利組合のうち中郷と結んだ契約書である。三一は、芦湖水利組合が株式会社高野製紙所、裾野製紙株式会社、駿河電化工業株式会社と結んだ深良用水使用の契約書である。

三〇は、大正七年陸軍特別大演習に際しての国家功労者贈位の計画で、深良用水開削の功労者友野與右衛門の事績を調査するように命じた書類である。

深良用水の水を利用しての水力発電は、これまですべて計画倒れに終わっていたが、三三の大正八年八月九日東京電燈株式会社との再契約により、ようやく実行に移されることになる。発電所の完成は、深良川第一・二発電所が大正一一年一一月、第三発電所が大正一二年一二月である。『東京電燈株式会社開業五十年史』（昭和一一年）所収「震災

前供給設備及区域概要」によると、当初の配電地域は、静岡市方面が主であったようである。その後、大正一二年三月七日水力発電の権利は、東京電燈株式会社から芦之湖水力電気株式会社に譲渡され、さらに同年一一月二七日芦之湖水力電気株式会社が東洋モスリン株式会社に合併されたため、権利が東洋モスリン株式会社に移っている。そして、東京電燈株式会社が大正一四年四月一七日権利を東洋モスリン株式会社から買収したため、再び、水力発電の権利は東京電燈株式会社に戻っている。東京電燈株式会社は、その後、昭和一七年関東配電株式会社に合併され、戦後昭和二六年東京電力株式会社が関東配電株式会社の全事業を継承したため、深良用水を利用した水力発電事業は東京電力株式会社が行なうこととなり、さらに、昭和五六年姫川電力株式会社が東京電力株式会社から深良川第一・第二・第三発電所の権利を譲渡され、現在に至っている。

[三三]は、大正一三年七月二一日芦湖水利組合から神奈川県知事清野長太郎宛に提出した「芦湖々水敷地占用並ニ工作物設置」の願書である。工作物とは逆川口石垣・「甲羅伏」、四ツ留水門を指す。なお、この願書が神奈川県知事宛に提出されているのは、芦ノ湖の管轄が明治二〇年以来の御料局から、大正一一年内務省に移管され、具体的には翌大正一二年一月神奈川県の管轄に属することになったからである。

大正一一年深良川第一・第二発電所、大正一二年深良川第三発電所の完成とともに水力発電が本格的に行なわれるようになる。そのため、芦ノ湖水が水力発電に利用されることにより、深良用水本来の農業用水としての水が不足を来すようになる。大正一四年、大正一五年(昭和元年)、昭和二年、三年連続して干害が発生している。[三四]は、干害にならないよう芦ノ湖水の水位維持を約束するため、大正一四年四月一七日東京電燈株式会社が芦湖水利組合に提出した保証書である。しかし、この大正一四年は干害となった。[三五]は、大正一四年九月二日芦湖水利組合から東京電

燈株式会社に提出した、干害損害賠償の請求書の写である。三三六は、大正一四年と大正一五年(昭和元年)の干害状況の記録、及び損害賠償を東京電燈株式会社に求めた交渉記録である。三三八は、昭和二年の干害状況記録である。三三九は、三年連続の干害の後、昭和三年はようやく干害を免れることが出来たことを記す、事業報告である。三四〇は、今後干害が起きないよう、用水管理のため芦ノ湖四ツ留水門付近に、巡視・取締人一名を常住することを取り決めた昭和七年一月二〇日の契約書である。

深良用水の水は、防火用水として利用されることもあった。三三七は、深良村消防組が大正一五年五月一日用水の水を利用して葛山区中里の火災鎮火につとめたことに対する沼津警察署長からの表彰状である。

三四一は、干害のあと、昭和一一年四月一日から施行された芦湖水利組合水配人服務内規である。

「第四節　地域の変貌と用水」は、戦後から現代までの深良用水の様相を示す史料を掲載した。三四二は、敗戦直前昭和二〇年七月一八日芦湖水利組合事務引継書である。当時の芦湖水利組合の組織、財産(工作物・書類)、会計など全事業内容を示すものである。三四三は、昭和三〇年二月一一日芦湖水利組合規約である。

昭和三九年七月一〇日「河川法」が公布された(昭和四〇年四月一日施行)。三四四は、その「河川法」に基づく芦ノ湖水利権の届け書である。

昭和四八年神奈川県側箱根町から、公共下水道の水利用のために、芦ノ湖水の利用許可を芦湖水利組合へ申請してきた。三四五は、その申し入れ書である。三四六は、それに対する芦湖水利組合(裾野市長)からの回答(申し入れ拒否)である。

以下、三四七から三五八は、近年の深良用水管理に関する記録である。三四七は、昭和五三年時点の芦湖水利組合の財産目

録である。二四八は、昭和五六年九月二五日深良川第一・第二・第三発電所を、東京電力株式会社から姫川電力株式会社へ譲渡する旨をしるした契約書である。二四九は、昭和五九年芦湖水利組合規約である。これが、現行の規約である。二五〇は、昭和五九年異常気象による芦ノ湖水面の低下に関して、神奈川県知事(長洲一二)から芦湖水利組合(裾野市長市川武)宛に提出された水位維持のための要望書である。二五一は、深良水門工事のため、昭和六一年一月二一日から二三日まで用水断水を知らせる通知である。二五二は、深良水門と湖尻水門管理に関して昭和六二年五月一六日神奈川県知事(長洲一二)と静岡県知事(斎藤滋与史)・芦湖水利組合(裾野市長市川武)との間に結ばれた覚え書きである。二五三は、同日、神奈川県河湾課長と静岡県河川課長・芦湖水利組合(裾野市長市川武)との間に結ばれた芦ノ湖水利用に関する覚え書きである。二五四は、二五二・二五三に基づき設置された新湖尻水門の管理に関する、同昭和六二年一〇月一九日付けの再確認書である。二五五は、毎年行なわれている芦ノ湖水神社祭典の、昭和六三年の案内状である。二五六は、毎年夏下郷で行なわれている古文書虫干会の昭和六三年の案内状である。二五七は、平成元(一九八九)年一月完成した深良水門補助水門の記念碑「銘文」である。二五八は、平成二年完成した新湖尻水門由来碑である。この碑文からもうかがわれるように、ここは、近世以来「甲羅伏」が設けられていた場所であり、「甲羅伏」に代わり昭和二七年旧湖尻水門が設置され、この新湖尻水門設置により現行の状態となったのである。二五九は、平成二年九月一七日決定された芦ノ湖湖尻水門操作規則である。

(岩田　重則)

第六章　図像にみる用水

一　図像資料の意義

深良用水は具体的にどのような姿を示し、地域の人々にどのように認識され位置づけられてきたのであろうか。前章までに紹介されているように、深良用水に関する文字資料は豊富である。深良用水の開削の過程、その結果として組織された井組とその運営、あるいは井組間の争論、さらに近代に入ってからの深良用水をめぐる対立抗争と裁判等について、文字資料は多くのことを教えてくれる。前章までの文字資料を読むことによって、深良用水の全体像が分かったという思いになる人が多いであろう。

しかし、少し具体的に、芦ノ湖の水はどのように外輪山を潜って西側に出てくるのか、その水門はどのような施設があって水の調節をしてきたのか、あるいは用水路にはどのような施設が設けられて水が分けられ、個々の水田にまで配られていたのかということを知りたいと思うと、文字資料のみでは皆目見当もつかないことがすぐさま判明する。数十に及ぶ用水施設としての堰の名称は文字資料で知ることができるが、それぞれの堰の具体的な姿やその堰の維持管理の方法、水の調節方法については教えてくれない。また、用水の恩恵を受けてきた人々が、日々の生活で用水とどのように関係し、水路やそこに設けられた施設でどのような仕事をしてきたのか、あるいは流れる水をどのように利用してきたのかも文字資料からは知ることができない。

このような深良用水の具体的な姿や人々との関係を教えてくれる資料は文字以外に求めなければならない。そこで浮かび上がってくるのが、同じく紙に記され過去から伝えられた資料である図像資料である。文字資料に比較して具象的であり、姿や形を視覚に訴えるかたちで教えてくれる。本巻がわざわざ一章を立てて深良用水に関する図像を集成しようとしたのは、このためである。

ところが、深良用水に関する図像資料は決して多いとは言えない。図像資料は非常に限られたものである。ここに収録した図像が示しているように、大部分は絵図である。近世には多くの絵図が作成されている。それらには用水路の各所に設けられた施設が描かれている。しかし、絵図の多くは用水をめぐる訴訟に関連して作成されたものである。訴訟文書に添えられて提出された絵図と訴訟の判決にあたる裁許に際して作成され下付された裁許絵図が中心となる。それらは紛争の場所なり地点を描くことに目標があるので、用水全体を詳細に描くことは少ないし、また私たちが知りたいと思う用水路の具体的様相を描き込んでいることもほとんどない。位置を示すために各所の堰が描かれているに過ぎないものが多い。いわば模式図というべき粗い地図が近世作成の絵図である。縮尺はもちろん存在せず、大きさも一定しない。描き込まれた事物も当然ながら厳密なものではない。また、深良用水についての近世作成の実測図や設計図はまったく残されていない。これはなにも深良用水だけのことではなく、近世の土木工事に関連して実測図や設計図が残されている例はほとんどない。明治以降になると、各種の実測図、設計図が作成され、さらに保存されて、今日に伝えられるようになる。本章にも、明治以降のそのような図像がいくつか収録できた。それらによって、深良用水の様相はより正確に知ることができ、その多くは近世まで遡ることができる。

絵図を中心にした図像資料は平面的なものである。深良用水の様相を立体的に描いたものはほとんどない。近世の

絵図には模式的に事物を描き入れ、スケッチのような感覚でやや立体的に示している所もあるが、全体的には少ないし、また描いていても周辺の事物は平面的であるから、全体として立体的図像とはならない。その点では絵巻物のような絵画資料とは大きく異なる点であり、図像資料としての限界である。明治末以降になると、具体的な姿を示してくれるものに写真が登場する。恐らく用水に近い地域の家々には多くの写真が保存されているものと思われるが、今回その写真のなかに深良用水の様相を写したものを見ることはできなかった。

絵図中心の図像資料は、深良用水と人々の関係を示してくれない。ここには一人の人物も描かれていない。人間不在の深良用水という寂しい図像資料となっている。多くの資料群のなかには、深良用水の工事、また堰普請や用水浚え、あるいは田圃での耕起作業や田植えを描いたスケッチや絵があるのではないかと期待したが、残念ながら近世はもちろん近代についてもそのような絵画資料を得ることはできなかった。各地の奉納絵馬にはしばしば農耕の姿が描かれているものがあるが、深良用水の流域にはそのような絵馬も見られない。人々がどのように深良用水の維持、管理にあたっていたのか、その人々の労働の所作を教えてくれる図像を提示できなかった。

このような限界をもつ図像資料であるが、しかしそれでも文字資料のみから深良用水を考え、理解するよりはよほど豊かなものが得られる。堰の名称だけから理解しているのと、絵図に描かれた堰の様相を知って文字資料を読むのとでは、その理解の深さは大きく異なるであろう。それぞれの堰がどのような特色をもつ施設であるかは、絵図も教えてくれる。特別な位置や特別な構造物は、その場所を特定するための指標となるので、絵図はできるだけ詳しく描いている。それを現状と比較すれば、その用水路や用水施設を具体的に把握できるし、現在のなかに歴史を発見することが可能になる。

本章では、図像資料を年次順に配列していない。芦ノ湖から下郷の末端に到るまでの用水の流れに沿って、地点別に注目すべき図像を絵図その他の資料から該当の部分を切り取って配列している。同じ地点についての図像は年次の異なるものをまとめて示している。したがって、全体的には時間の流れによって図像を理解するというよりも、地点毎の図像上の特色を示そうとした。その同じ地点についての図像は年次順となっているので、地点毎の時間的な変化は明らかにできる。ただし、作成年代の判明する絵図や設計図はわずかであり、全体としては「年未詳」と記載せざるをえないものが多数を占めている。同一地点の年次による変化を確認することができるものは少数であることも事実である。

二　収録資料の解説

本章に収録した図像は全部で四八点であり、それに袋入りとして地図を三点、また巻末折り込みとして地図一点を加えた。用水路全体の特徴的な地点や施設、あるいは人々の生活との関係をできるだけ示そうとして、点数としては多くを収録したが、それに利用した絵図や実測図、設計図は限られている。図像としての情報が多い絵図や設計図に限定したからである。同じ絵図から多くの部分図が採用されて登場している。それらの利用した資料について、その性格や作成年代、事情等を個別に説明しておこう（〔　〕内の数字は掲載番号を示す）。

(1)明治六年「元箱根村絵図」〔三六〇〕　恐らく明治の地租改正に際してその準備過程で作成されたものと思われる。明治に入ってからのものであるが、実測に基づく地図ではなく、近世的な絵図の一種である。字名の記載はなく、顕著な地形とその地名が記されている。

(2)年未詳「助郷関役村絵図」(タテ六九cm×ヨコ六六cm)〔三六一〕　年次の記載はないが、明らかに近世のものである。沼津宿、三島宿への助郷役および箱根関役を負担する村々の図示を目的にした絵図であると判断できる。芦ノ湖を「水海」と記し、水門を描くとともに、用水については「箱根水海余水抜」としている。

(3)年未詳「深良用水石垣・土手普請場絵図」(タテ三〇cm×ヨコ三九cm)〔三六二、三七六、三八〇、三八六、四〇〇〕　芦ノ湖から用水の末端部まで描き、主として石垣、土手の箇所を記載している。普請対象の地点を示すための絵図だったと思われる。記入されている用語から判断して近世作成の絵図である。

(4)年未詳「芦ノ湖水門及逆川絵図」(タテ三八cm×ヨコ八〇cm)〔三六三、三七一〕　四ツ留水門と逆川の位置を描き、「発掘ノケ所」と「埋立ノケ所」を示す絵図である。凡例の記載方式から判断して明治に入ってからの絵図と考えられる。

(5)天保二年「井組廿八ケ村箱根湖水路村々堰々図」(タテ五九cm×ヨコ一四九cm)〔口絵一一、三六四、三七〇、三七三、四〇二〕　描いている内容は(3)年未詳「深良用水石垣・土手普請場絵図」と基本的には同一である。重要な地点や構造物には付箋を付けて地名や名称を記している。

(6)明治三二年写「深良用水御普請所絵図」(タテ三九cm×ヨコ一〇九・五cm)〔三六五、三七三、三七七、三九一、三九四、三九八、付図二〕　明治三二年の写しであるが、内容は近世の普請地点を示す絵図である。この地図には水門、上穴口、下穴口等多くの名称が記されている。

(7)年未詳「箱根湖水井組全域絵図」(タテ四五・五cm×ヨコ一五五・五cm)〔三六六、三七一、三七四、三七九、三八四、三九〇、四〇四〕　これは(6)明治三二年写「深良用水御普請所絵図」と同じ図であるが、図の描き方は全体に簡単であり、また記載されている地名や名称も少ない。

(8)年未詳「芦ノ湖水門図」(タテ二七cm×ヨコ三九cm)〔三六七〕　書かれた年次は明かでないが、明治末に造られた四ツ留水門以前の古い水門の構造を描いているものと思われる。

(9)年未詳「四ツ留水門新設設計図」(タテ四六cm×ヨコ五九cm)〔三六八〕　実測に基づく図面であり、四ツ留水門を新しく造るための設計図である。作図された年次は不明であるが、そのなかに在来水門として描かれている図面の水門の両側に明治四三年四月の水門碑の枠が描きこまれているので、新設の計画は大正以降のことと判断される。新設水門が在来の四ツ留水門の下流一二メートルの所に設置するように描かれており、可能性としては、昭和一二年に水門新設を計画して神奈川県知事に請願した〔三四三「昭和二〇年芦湖水利組合事務引継書」〕ときのものであると判断できる。これは結局神奈川県の許可がなく、この設計図に基づく水門は新設されなかった。なお、図に記入されている単位は尺である。

(10)年未詳「四ツ留水門見張小屋付近見取図」(タテ二五・五cm×ヨコ三六cm)〔三六九〕　これも作成年次不明であるが、大正一四年の「湖水水位維持につき東京電燈保証書」〔三三四〕に「貴組合トノ間ニ信用アル者壱名ヲ選定シ四ツ留水門付近ニ常住セシメ同水門並逆川甲羅伏悪水吐口ノ巡視取締ニ任シ」とあることに関連する図面と判断される。

(11)志賀富士男「箱根用水の謎を解く」〔三七五〕『科学朝日』一〇巻一二号(一九五〇年)に掲載された調査概報である。その年の夏に朝日新聞社の後援で深良用水の総合調査が行われた。その調査団長をつとめた志賀富士男氏が、成果の一端を解説したものである。

(12)年未詳「放水路変更地点平面図」(タテ三六cm×ヨコ三九・五cm)〔三七八〕　大正九年の「東京電燈株式会社との電気事業契約書」〔三三三〕の第五条において用水路の変更を認めているが、それを具体化した図面であると判断される。

(13)年未詳「箱根用水水論絵図」(タテ八五・五cm×ヨコ四七cm)〔三八一、三八二、三八九、三九二、三九五、三九九、四〇一、四〇三〕　安永五年の水論裁許に際しての絵図の写しと考えられるが、年次等を判断する記述はない。巨大な絵図であり、しかも彩色も豊かである。特に黄瀬川筋についての描写は具体的である。

(14)文久元年「御宿村絵図」(タテ六一cm×ヨコ九四cm)〔三八三〕　裏書きに「文久元辛酉年九月廿六日認、御宿村絵図面」とある。黄瀬川に深良用水の新川が合流する地点、黄瀬川から取水する古堰を描いている。

(15)延享元年「佐野堰水路絵図」(タテ八九cm×ヨコ七六cm)〔三八五、三八七、四〇五〕　黄瀬川に設けられた佐野堰とその流路を比較的詳細に描いている。下図として書かれたものらしく、墨が薄く水路その他に彩色がない。

(16)文政三年「石脇村湖水掛絵図」(タテ四六cm×ヨコ九三・五cm)〔口絵一三、三八八〕　石脇村の範域内の耕地を描き、そのなかの深良用水の水掛かりの水田を表示した絵図である。水掛かりの水田は基本的には佐野堰から取水していたことが分かる。

(17)年未詳「富沢堰用水絵図」(タテ三五cm×ヨコ一〇四・五cm)〔三九六〕　表題はなく、黄瀬川から取水する富沢堰とその流路を描いている。特に取水地点の堰の様相と隧道穴口までの描写が詳しい。堰の設置の方法や番水の際の処置についても注記しているのが特色である。記載された領主の名前から安永年間以前の作成と判断される。

(18)年未詳「富沢村堰絵図」(タテ三七cm×ヨコ一二五cm)〔三九七、四〇六〕　基本的には(17)年未詳「富沢堰用水絵図」と同じものであるが、富沢村の二つの集落の様相が家の形で具体的に描きこまれ、その間を用水路が流れていることが分かる。絵図の右上に「富沢村堰絵図控へ」として「是ハ当村堰元ニ付、大口ゟ絵図ニ致候得共、定輪寺村は別紙致差上申候故、堀筋斗リ絵図ニいたし田畑色わけ并村道家等迄定輪寺村トハ印不申候」と記している。

⑲年未詳「深良村消火栓位置図」（タテ四〇cm×ヨコ二六・五cm）〔四〇七〕　作成年代は不明だが、謄写版刷りされた図であり、記載内容から判断して昭和に入ってからのものと考えられる。

⑳安永五年「箱根湖用水水論大絵図」（タテ一八cm×ヨコ四九cm）〔付図一〕　安永三年に始まった水論は安永五年に裁許が出されたが、それをうけて関係村が立ち会って確認した絵図の写しである。表題はないが、「論所双方立会分間相改竪弐厘間ニ而壱枚絵図ニ仕立候処相違無御座候」として、関係村の村役人の名前が連署されている。図面は、彩色され、芦ノ湖から末端まで詳細に用水路を描いている。これと同様の絵図が下郷共有文書にあり、またこれらの写しが⑬年未詳「箱根用水水論絵図」であろう。

㉑年未詳「蘆湖用水掛堀分反別図」（タテ四八cm×ヨコ八八・五cm）〔付図三〕　この図は青焼きの図面であり、ここではそれを反転させた。図の下に「明治拾弐年拾壱月調蘆湖用水掛堀分反別」とあるが、これは水掛りの反別を調査した年月であり、作図された年を示すものではない。水掛りの水田面積の集計が明治町村制の村単位で行われ、また図のなかでは算用数字で各堰の水掛り面積が記されているので、恐らく明治後期以降のものであろう。青焼き図の裏面には「昭和三年九月長泉村役場有」と墨書されており、明治末から昭和初年の間に作成されたものと推定される。しかし、その青焼き図作成のもとになった原図はより古いものである。その描き方から判断して⑳安永五年の「箱根湖用水水論大絵図」に基づいている。なお、これと同種の図は、明治町村制の町村の役場や鉄道や発電所の位置を書き加えたものが『深良用水の沿革』の巻頭に収録されている。

以上の絵図、設計図から、水門、堰その他重要な施設や地点の部分を切り取って描いたのが本章収録の各図である。各図は原則として上もしくは右が上流、下もしくは左が下流となるように配置している。切り取りにあたっては、紙

面の都合で適宜縮小しており、原寸のままではないし、同じ資料から採った場合でも、図によって縮小率は異なり、一定していない。

（福田　アジオ）

掲載資料所蔵者別一覧

〔文書〕

渡辺武彦氏所蔵文書

裾野市富沢八

〔資料番号　年月日　表　題　頁〕

四七　寛文一〇年　富沢村箱根湖水掘抜記録……一二七

三二　寛文一一年一一月二一日　富沢村年貢割付状……一三三

三三　寛文一二年一一月二三日　富沢村年貢割付状……一三五

二九　延宝　七年　八月　江戸町人橋本山友他三名請負金返済約束証文……一〇六

三六　延宝　七年一一月　富沢村年貢割付状……一四一

三七　延宝　八年一〇月　富沢村年貢割付状……一四七

三三　天和　三年　四月二二日　江戸町人浅井佐次右衛門等金子預り証文……一〇八

三三　天和　三年　四月二二日　江戸町人浅井佐次右衛門等金子借用につき起請文……一〇九

二四　天和　三年一二月一四日　江戸町人浅井佐次右衛門等金子返済起請文……一一〇

六三　貞享　五年　四月二〇日　富沢村他二ヵ村畑成田につき下筋五ヶ村に対し口上書……一五二

三五　元禄　二年　江戸町人浅井佐次右衛門等年貢代金不正につき富沢村勘兵衛訴状……二二

八〇　元禄　六年　四月　六日　富沢村定輪寺前掘貫浚人足賃他書上……一八二

二四五　元禄　八年一二月　富沢村・定輪寺村箱根水掛反別帳……五九〇

一八二　元禄一一年　七月　定輪寺村前堰御普請につき富沢村願書……四三〇

二四六　元禄一二年一二月　富沢村役米銭・箱根水入用帳……五九六

一八四　元禄一三年　四月一一日　定輪寺前堰御普請につき富沢村扶持米請取状……四三二

一八六　宝永　二年　三月　富沢村堰人足書上……四三五

七六　宝永　三年　二月一四日　新川堤復旧に伴う争論につき深良村訴状……一三三

七七　宝永　三年　三月二五日　新川堤復旧に伴う争論につき井組二十八ヵ村返答書……一七七

八六　宝永　三年　六月二六日　新川堤復旧争論裁許深良村・井組二十八ヵ村

八〇　宝永　四年　三月一八日　請書……一八〇
八四　宝永　四年一二月　砂取人足難儀につき富沢村米拝借願……一八三
八五　宝永　四年　亥ノ年箱根水水論共ニ入用帳……一八六
八八　宝永　五年　六月一三日　水掛り村々争論につき上郷返答書……一九〇
九一　元文　二年　三月　水配役人仰付けらるにつき水掛り村々請書……一九五
九九　延享　四年　八月　支配替につき水掛り村々願書……二〇〇
一〇〇　延享　五年　七月　用水引方につき水上村々願書……二一〇
一〇八　宝暦　七年　七月　水配役人申合せ定書……二一一
一一九　明和　四年　九月　湖水門修築入用高割覚……四四一
一二三　明和　七年　七月　湖水門口大普請につき入用扶持米給付富沢村願書……四四三
一二三　明和　七年　九月　水配役人申合せ定書……二一四
一二四　明和　九年　三月　水配人宛拾給役人申し渡し……二一五
一二五　明和　九年　四月　二ツ屋新田と水上村々争論につき願書・水配人取調書……二一六
一〇六　安永　二年閏三月　水掛り争論につき水上村々返答書……二三四
一一〇　安永　二年一一月　用水争論につき地頭役人宛小田原藩役人返書……二三八
一一三　安永　三年　四月　湖水出入江戸路用並雑用割帳……二三六
一一六　安永　三年　五月　用水争論離脱につき富沢村名主宛一色村願書……二三九
一一九　安永　三年一一月　水掛り村々争論につき水下村々訴状……二六二
一三三　安永　五年　七月　水掛り村々争論につき水上村々返答書……二七六
一三五　安永　六年　五月二一日　争論裁許につき水掛り村々申合せ……二九三
一三六　安永　六年　五月二八日　富沢村との用水争論につき一色村訴状……三〇一
一三七　安永　六年　七月二六日　田成畑開発につき一色村注進書……三〇五
一三八　安永　六年　七月　晦日　富沢村と一色村水論につき水配人口上書……三〇六
一色村との用水争論につき富沢村請書一札……三〇九

一二九　安永　六年　七月　一色村との用水争論につき富沢村返答書……三一〇
一三〇　安永　六年　九月　一色村と富沢村との用水争論につき済口証文……三一三
一三一　安永　六年　九月　用水争論内済につき一色村請書……三一五
一三三　安永　七年　六月　用水掛り年番役人賄方につき村々願書……三一六
一三三　安永　九年　四月　田畑成起返し差留につき願書……三一七
一三七　安永一〇年　四月　富沢村と一色村の用水争論につき取噯証文……三一三
一三八　天明　二年　七月　富沢村と一色村の用水争論につき内済証文……三一五
一三九　天明　八年一一月二八日　水掛り村々争論につき沼津役所宛水下村々訴状……三一三
一四二　天明　八年一一月　水掛り村々争論につき深良村他三ケ村返答書……三一四
一四四　天明　八年一二月　水掛り村々争論につき水下村々返答書……三一八
一四五　天明　八年一二月　水掛り村々争論につき深良村他三ケ村内済願書……三一四〇
一五七　文化一一年　六月　大堰下の用水争論につき内済証文……三一九
一五八　文政一二年　八月　三俣堰分水一件につき納米里村他二ケ村詫書……三二八
二五二　文政一三年　二月　吉日　井組二九ケ村高反別等書上……六三一
二七四　文政一三年　二月　吉日　富沢堰用水掛合・掘抜間数等覚……七一七
二七五　文政一三年　二月　吉日　富沢村堰・穴堰芝打、浚扶持人足、手当米金覚……七一九
二七六　文政一三年　二月　吉日　湖水門書上覚……七二一
六五五　天保　三年　正月　富沢村寛永以降畑成田高入書上ケ覚……一五三
三一一　天保　三年　国役御普請木品代・人足賃・普請役人等書上……五三三
三一三　天保一一年　八月　富沢・一色両村掛り用水路新規掘替覚帳……五三三
三一三　天保一一年　八月　富沢村他二ケ村用水堀新規掘替助合金請取証……五三八
二八七　弘化　四年　法喜庵賀歌……七三九
一六八　安政　二年　六月　三俣堰分水等用水争論

二八〇　万延　元年　三月　内熟により手鎖赦免願書……四〇三
二四三　明治　元年一〇月　上土狩村と水窪村、富沢村用水堀通路新橋につき取替規定書……七三〇
二八八　明治一二年　七月　村方用水路御尋につき富沢村他二ヶ村返答書……五八一
二九六　明治二〇年　惣ヶ原水分神社創立願書……七四〇
二九六　年未詳　函根湖用水組合深良村外弐拾七ヶ村水利土工協議会議案……七七七
二九七　年未詳　富沢堰(2)……一〇〇七
四〇六　年未詳　富沢堰(3)……一〇八
　　集落と用水(2)……一〇三

湯山匡秀氏所文書蔵

五　慶安　三年　八月二八日　裾野市御宿三〇七　大畑村他五ヶ村山林・古跡・用水等書上……五〇
六　万治　三年～寛文　六年　御宿村年貢米金皆済目録、野村彦太夫裏書……五一
二九　寛文　六年　七月二一日　御宿村安右衛門箱根湖水掘抜元締の覚……二六
四〇　寛文　六年　御宿村箱根湖水掘抜元締名前書上……二八
四一　寛文　六年　御宿村箱根湖水掘抜水門等記録……二八
五〇　寛文一一年一〇月一四日　御宿村田畑指出状……二九
六四　貞享　五年　六月　箱根掘抜水不足に関する下郷訴状……一五三
一八一　元禄　九年一一月　箱根掘抜水年々不足につき掘下げ御宿村他一〇ヶ村願書……四二八
二四七　宝永　四年　六月二四日　箱根水懸り村々高帳……五九九
二四八　宝永　四年一二月　箱根水村々用水諸入用割帳……六〇三
二六六　宝永　五年　正月一二日　新川・木瀬川諸堰書上覚……六八一
一九一　安永　九年　七月　水不足につき水門・土手普請三一ヶ村願書……四四五
一九二　安永一〇年　正月　水門掘下げ御普請につき箱根山神領役人宛願書……四四七
一九五　天明　元年　五月　国役御普請出来形帳……四五三
二〇三　寛政　九年　三月　かろうと堰五ヶ村自普

二六九　文政　二年　八月一三日　請書付……四七九
二〇二　文政　二年　八月　新川土手破損所并湖水門伏替見積下帳……六九一
二〇三　文政　二年　八月　井組二九ヶ村新川国役御普請願書……四八〇
二〇四　文政　三年　二月　箱根湖水新川通御普請内目論見帳……四八五
二〇五　文政　三年　二月　須釜新川通御普請箇所附内目論見帳……四九二
二〇七　文政　三年　六月　井組二九ヶ村新川国役御普請願書……五〇一
二〇八　文政　三年　八月　箱根湖水新川通御国役御普請書上帳……五〇三
二〇九　文政　三年　八月　国役御普請見分につき伝馬手形……五〇九
二一〇　文政　三年　九月　二九ヶ村国役御普請取懸願書……五一〇
二一一　文政　三年　九月　国役御普請地頭出金につき書付……五一一
二一三　文政　三年　九月　国役御普請土取場見分費用につき一札……五一三
二一三　文政　三年　九月　水懸り村々私領出金高覚……五一四
二五一　文政　三年　九月　井組二九ヶ村高反別控……六一四
二五二　文政　三年一二月　御宿村諸役銭割附帳……六二五
二一五　文政　四年　六月　国役御普請につき不足金御助成二九ヶ村願書……五二〇
二七八　天保　三年　三月　湖水門木口控……七二五
二二四　天保一四年　二月二三日　新堰用水路御普請負一札及び普請所仕方覚……五二九
二二六　天保一四年一〇月　国役御普請井組村々願書……五四二
二二七　天保一五年　七月二二日　御宿村新堰大破につき普請所見分願書……五四四
二二八　天保一五年　七月二七日　御宿村用水路御普請見分届……五四五
二二九　天保一五年　七月　かろうと堰国役御普請につき御宿村願書……五四六
二三〇　天保一五年　八月　小田原・沼津藩見分中諸入用等取調勘定帳……五四六
二三五　弘化　三年一一月　湖水御普請につき江戸出府・雑用入用帳……五六六
二三七　嘉永　二年　七月二七日　国役御普請かなわずにつき松長役所宛御普請願書……五七五
二八三　文久　元年　古堰(2)……一〇〇三

二九七　明治一四年　九月　三日　湖水逆川口確認保護方規定……七八一
二九八　明治二一年　八月　三日　御宿村湯山半七郎水車建設願……八四八
二九八　明治二二年　四月一五日　箱根湖水門修繕御願……七八四
二九九　明治二六年　四月　六日　芦之湖用水新規使用差留につき深良村他願書……七八五
三〇〇　明治二六年一〇月二〇日　仙石原村長河水引用及川敷切下之義御認願……七八九
三一一　明治三〇年一〇月二〇日　逆川事件名古屋控訴院判決書……八一七
三一三　明治三一年　七月二三日　東京水力電気株式会社芦之湖用水使用契約書……八七四
三一五　明治三一年　九月二四日　逆川事件調停案……八三三
三一六　明治三六年　九月　九日　芦湖紛議調停につきて……八三七
三一七　明治三六年　九月　逆川事件和解式次第書……八四七

勝又重俊氏所蔵文書

裾野市久根三五一―一
久根村箱根山湖水掘貫元締名前書上……一三八
水掛り村々争論につき久根村訴状……二五八
四九（寛文年中）　水掛り村々争論につき上郷返答書……二六八
一一三　安永　三年　三月　水配人勤方定書……二九〇
一一七　安永　三年　八月　井組二九ヶ村宛拾給役人申合せ定書……二九七
一一三　安永　五年　七月　御普請願諸入用定書……五四〇
一一四　安永　五年　七月　天保地震による大破につき地頭所宛国役御普請願書……五五五
一二一　弘化　二年　三月　天保地震による大破につき勘定奉行所宛国役御普請願書……五六三
一二四　弘化　三年閏五月　井組二九ヶ村高明細帳……六三六
一二五　天保一四年　三月　三俣堰・穴堰立会番出入に関する規定書……四〇八
一七一　万延　元年閏三月　箱根湖用水逆川其他事件諸筆記……七九二
二〇二　明治二九年　四月　佐野堰（1）……一〇〇三
二六六　年未詳（明治三二年写）　水門と逆川（1）……九九〇
二六二　年　未　詳　下穴口……九九七
二六六　年　未　詳　新川（2）……九九九
二八〇　年　未　詳　大堰（2）……一〇〇九
四〇〇　年　未　詳

市川逸朗氏所蔵文書

裾野市公文名一二一―二

三三　寛文一二年　六月　五日　箱根掘貫畑成田出精褒美銀子請取状……一三四
六三　貞享　三年　四月一七日　「公文名村・稲荷村明細帳」堰人足等書上……一五一
付図　安永　五年　箱根湖用水水論大絵図
一四八　寛政　元年　七月　晦日　争論詮議日延につき水下村々願書……三四五
二〇四　文政　三年　二月　井組二九ヶ村新川国役御普請願書……四八三
二一四　文政　三年　九月　国役御普請につき私領出金村高書上帳写……五一五
二七三　文政一〇年　四月一五日　湖水掛堰々水配帳……七〇八
二五八　文政一〇年　五月　水配上役交替一件……六六六
二五九　文政一一年一二月　井組三郷水配人給取立帳……六七三
二八　天保　二年閏一一月　国役御普請下ケ金前借願書……五三五
二三三　弘化　三年閏五月　七日　湖水御普請願につき惣代江戸出勤覚書……五六〇
二三六　弘化　三年一一月　国役御普請につき私領出金高書上帳……五七三

大庭和彦氏所蔵文書

裾野市石脇四七〇―一

一〇一　宝暦一一年　五月一八日　用水不足につき石脇村願書……二三三
二六七　明和　三年　四月　佐野村宿堀口一件済口証文……六九九
一〇七　安永　二年　六月　水掛り村々争論につき石脇村役人請書……二四四
一〇八　安永　二年　八月　江戸表詮議につき拾給役人宛石脇村上申書……二四六
一〇九　安永　二年　九月　用水争論につき江戸表水配人取調書……二四八
二一　安永　三年　三月二六日　拾給役人内済仰渡につき村々申立……二五八
一一八　安永　三年　八月　水論江戸表公儀日記帳……二七三
一一〇　安永　三年一一月　水掛り村々争論につき検使日記覚書……二七九
二七〇　文政　五年一〇月　中郷六ヶ村と佐野村、佐野堰口石居につき取替証文……六九六
一七三　万延　元年閏三月　三俣堰・穴堰立会番出入につき、井組村々よ

り願書……四一一

志村守雄氏所蔵文書

裾野市深良一七三四

二八　寛文　五年～　深良村箱根湖水掘抜諸色覚……一一四
三一　延宝　八年一二月　晦日　深良村名主源之丞等証人田畑地替証文……一〇七
三五　宝永　三年　正月　新川堤復旧に伴う争論につき深良村訴状……一六九
三五　元文　二年　七月　支配替につき水掛り村々願書……二〇三
三五　元文　二年一二月　三日　湖水支配につき役人廻状……二〇六
三六　元文　二年一二月　湖水支配役人宛の請書につき深良村役人日延願書……二〇七
三七　元文　三年　正月　湖水支配方につき深良村役人願書……二〇七
三五　元文　三年　五月一〇日　湖水水配役につき申達……六四
三四　明和　八年　八月　深良村湖高反別并土手通地水高反別帳……六〇六

柏木新吾氏所蔵文書

裾野市上ヶ田三一九

四四　寛文　六年　上ヶ田村箱根掘抜記録……一三〇
二九三　午　一〇月　箱根大権現御神水御初穂取集役僧廻村につき廻状……七四七
三九　明治二四年　一月　上郷水配取扱人函根湖用水分水日誌……八四九
三一　明治二八年　一月　上郷水配取扱人函根湖用水掛につき諸用留……八七三
三三　明治四四年　一月一七日　電気会社と契約につき失効意見書……八七七
三四　大正　元年一二月一一日　深良用水使用ニ関スル契約ノ件……八七八
三六　大正　二年　四月二一日　箱根湖用水掛新田開鑿差止申請書……八九〇

湯山　博氏所蔵文書

裾野市御宿二二一

一　慶長　五年　正月　九日　御宿村検地外の荒地開発横田村詮手形……四七
二（慶長　六年）八月　五日　御宿村検地外の荒地開発某対馬守手形……四八

四　正保　四年一一月二三日　御宿村上野原荒地開発願書、野村彦太夫代裏書……四八
一一　寛文　六年　五月一七日　箱根湖水掘抜につき友野与右衛門他三名手形、野村彦太夫奥書……五八
二三八　嘉永　三年　正月二八日　かろうと堰御普請につき御宿村願書……五六
一九四　年未詳　御宿村人足扶持米切手……四五二

大庭重一氏所蔵文書
裾野市深良二六三〇
二五　元禄一六年　三月　八日　大庭源之丞墓碑銘……一一三
二七三　文政　七年　五月　堰眉木につき下郷水配人と取替一札……七〇七
二六四　天保　二年　水門(1)……九九一
二七〇　天保　二年　逆川甲羅伏せ(1)……九九四
二九二　天保　二年　瀬名沢と黄瀬川合流地点(1)……一〇〇六
四〇三　天保　二年　大堰筋と境川……一〇一〇
一五九　嘉永　五年　五月　堰切下につき南堀中宛へ詫書……三九〇

二六〇　安政　三年　七月　七日　三郷水配人より用水潤沢につき注進書……六七六

古谷善和氏所蔵文書
裾野市佐野四九八
四二　寛文　六年　佐野村作平箱根湖水掘抜通水記録……二九
六〇　貞享　三年　四月一六日　「佐野村明細帳」用水普請・堰書上……一五〇

勝俣恵一朗氏所蔵文書
裾野市麦塚一七九
二三九　安政　元年一二月　地震崩箇所見分につき上郷水配人願書……五七七

岩崎達生氏所蔵文書
裾野市佐野二八七
二四二　安政　六年　五月　千福村用水引入口改修につき水配衆宛一札……五八〇

中西保男氏所蔵文書
裾野市佐野一五一七
二七一　文政　六年　七月　二本松新田嘉左衛門湖

水懸用水路取調目録……六九七

裾野市役所深良支所所蔵文書

裾野市深良六五七

一三五　安永　九年　九月　深良村と水配人争論につき済口証文……三一
一三六　安永　九年　九月　水配人より深良村宛内済金受取一札……三三
一九七　天明　二年　四月　新川土手御普請につき潰地村割二九ケ村定書……四六八
一四一　天明　五年　七月　争論内済につき水配人より深良村宛詫状……三三一
二九五　明治一二年一一月　芦ノ湖用水堀堰分水掛反別調表……七七二
三二〇　大正　七年　八月二一日　国家功労者贈位詮議の通牒により深良用水完成者内申……九〇三
三二七　大正一五年　五月　一日　用水路より共同消火につき表彰状……九四四
三七八　年未詳　発電所の位置と堰……九九八
四〇七　年未詳　深良村の消火詮配置……一〇一四

佐野区有文書

八七　宝永　五年　五月　六日　裁許状……一九四
二八五　延享　元年　佐野堰とその水系図……一〇〇二
二八七　延享　元年　佐野堰(2)……一〇〇三
四〇五　延享　元年　集落と用水(1)……一〇一二
二五〇　天明　六年　五月　佐野村請免につき水引方等百姓連印口上書……六一一
一四六　天明　八年一二月　水掛り村々争論につき深良村他三ケ村内済請書……三四一
二三九　大正　七年　六月一四日　深良製材製函工場との契約書……九〇二
二六七　年未詳　水門(4)……九九二
二七一　年未詳　逆川甲羅伏せ(2)……九九四
二七四　年未詳　上穴口と下穴口(2)……九九五
二七九　年未詳　新川(1)……九九九
二八四　年未詳　古堰(3)……一〇〇一
二九〇　年未詳　佐野堰(2)……一〇〇四
四〇四　年未詳　惣ケ原……一〇一一

裾野市佐野

石脇区有文書

裾野市石脇

二八八　文政　三年　佐野堰（3）……一〇〇四

静岡県芦湖水利組合所蔵文書

裾野市佐野一〇五九

一〇　寛文　六年　四月一三日　箱根湖水掘貫につき友野与右衛門他三名手形……三五

一三　寛文　六年　七月一八日　箱根湖水掘抜につき発企人大庭源之丞への指入証文……六二

二九四　明治　七年　五月　箱根湖水向後取扱規定書……七五三

三一〇　明治二六年一一月一五日　平松与市郎芦之湖用水使用契約書……八五三

三〇一　明治二九年　四月一四日　逆川事件につき小泉村書記実地検分復命書……七九一

三〇三　明治二九年　五月　一日　逆川事件につき箱根湖水利組合告訴状……七九五

三〇四　明治二九年　五月二二日～七月一五日　逆川事件に関する新聞報道……七九八

三〇五　明治二九年　五月　湖水逆川破壊事件ニ付呈出セシ証拠書類目録……八〇三

三〇六　明治二九年一二月一六日　逆川事件横浜地方裁判所判決……八〇四

三〇七　明治二九年一二月一六日　逆川事件横浜地方裁判所判決……八〇六

三〇八　明治三〇年　四月二四日　逆川事件上告趣意書……八〇九

三〇九　明治三〇年　七月　八日　逆川事件訴訟を名古屋控訴院へ移送判決書……八一〇

三一〇　明治三〇年　七月　八日　逆川事件訴訟を名古屋控訴院へ移送通知の電報……八一六

三一三　明治三〇年一〇月二六日　逆川事件大審院上告答弁書……八二一

三一三　明治三一年　一月二一日　逆川事件大審院判決書……八二一

三一四　明治三一年　三月　逆川事件顚末記録……八三三

三六五　明治三二年写　水門（2）……九九一

三七三　明治三二年写　上穴口と下穴口（1）……九九五

三七七　明治三二年写　豊後堰・古川・太郎右衛門堰図……九九八

三九一　明治三二年写　佐野堰と千福堰……一〇〇五

三九四　明治三二年写　瀬名沢と黄瀬川合流地点（2）……一〇〇六

付図　明治三二年写　深良用水御普請所絵図

二八九　明治四三年　四月　芦湖四留水門碑……七四二

三三五　大正　二年　一月二七日　芦之湖水力電気株式会

二二七　大正　四年　一月二五日　芦湖水利組合の成立経過……八八三
二二八　大正　四年　静岡県駿東郡芦之湖普通水利組合規約……八九四
二二一　大正　八年　用水使用各社との契約書……九〇四
二二三　大正　九年　八月　九日　東京電燈株式会社との電気事業契約書……九一三
二二三　大正一三年　七月二一日　芦湖々水敷地占用並ニ工作物設置許可ノ申請……九二六
二二四　大正一四年　四月一七日　湖水水位維持につき東京電燈保証書……九三〇
二二五　大正一四年　九月　二日　芦之湖水利組合東京電燈会社へ田面旱魃損害賠償請求書……九三一
二二六　大正一四年　大正一四年度旱害東京電燈会社ニ対スル交渉関係記録……九三二
二二八　昭和　三年　二月二五日　昭和二年芦ノ湖水位減少のため大旱魃報告……九四五
二二九　昭和　四年　二月一九日　大正一四年から昭和三年までの旱害報告……九四六
二四〇　昭和　七年　一月二〇日　東京電燈灌漑用水貯水保証書……九四七
二四一　昭和一二年　二月二二日　芦之湖水利組合水配人服務内規……九四七
二四三　昭和二〇年　七月一八日　芦湖水利組合事務引継書……九五〇
二四三　昭和三〇年　二月一一日　駿東郡深良村外五ヶ市町村芦湖水利組合規約……九五四
二四四　昭和四二年　三月二〇日　河川法に基づく慣行水利権の届出書……九五六
二四五　昭和四八年　五月一一日　芦ノ湖の水利用について箱根町長お願い……九六三
二四六　昭和四八年　六月二九日　芦ノ湖の水利用について裾野市長回答……九六四
二五一　昭和五〇年一二月一五日　芦ノ湖水神社建設資金決算報告について……七四五
二四七　昭和五三年　二月　芦湖水利組合財産目録……九六六
二四八　昭和五六年　九月二五日　東京電力株式会社及び姫川電力株式会社との契約書……九六八
二四九　昭和五九年　四月　一日　静岡県芦湖水利組合規約……九六九
二五〇　昭和五九年一一月一九日　芦ノ湖取水抑制につい

三五一　昭和六〇年　一月一六日　深良用水断水のお知らせ……九七四
三五二　昭和六二年　五月一六日　神奈川県との深良水門及び湖尻水門につき「覚書」……九七四
三五三　昭和六二年　五月一六日　芦ノ湖に関する申合せ事項……九七五
三五四　昭和六二年一〇月一九日　「覚書」及び「芦の湖に関する申合せ事項」に関する確認事項……九七六
三五五　昭和六三年　七月　三日　芦ノ湖水神社祭典について通知……九七七
三五六　昭和六三年　七月一〇日　御裁許虫干会のお知らせ……九七七
三五七　平成　元年一〇月　深良用水水門改修記念碑・沿革碑銘文……九七八
三五九　平成　二年　九月一七日　芦の湖湖尻水門操作規則……九八一
三六三　年未詳　水門と逆川(2)……九九一
三六六　年未詳　水門(3)……九九二
三六八　年未詳　水門(5)……九九三
三六九　年未詳　水門見張小屋……九九三
三七三　年未詳　逆川甲羅伏せ(3)……九九四
付図　年未詳　蘆湖用水掛堀分反別図

柏木正男氏所蔵文書

沼津市添地二一三

裾野市史編さん室寄託

四三　寛文　六年　茶畑村甚右衛門箱根湖水掘貫覚……一二九
四六　寛文　七年　八月　朔日　茶畑村甚右衛門箱根掘貫記録……一三七
一五　寛文一一年　三月一七日　茶畑村新堀間数書上……六四
一六　寛文一一年　三月一九日　亥ノ年新川普請人足帳……六五
一七　寛文一一年　三月一九日　亥ノ年新川普請人足帳……八一
一八　寛文一一年　四月二五日　茶畑村新川間数人足高之帳……九八
一九　(寛文一一年)　大堰等間数書上……一〇一
三五　延宝　五年一一月　「茶畑村明細帳」畑成田・堰すじ書上……一三八
三七　延宝　八年　正月　「茶畑村明細帳」畑成田・堰すじ書上……一四四
三九　天和　三年　茶畑村上穀等記録……一四九
六一　貞享　三年　四月一六日　「茶畑村明細帳」用水普請・水掛り書上……一五〇

二四四　元禄　元年一二月　箱根掘抜水掛り高反別覚……五五
六六　元禄　二年　水支配人の創置につき書上……一七七
六七　元禄　三年　四月一六日　小柄沢堰口争論につき水下村々訴状……一七七
六八　元禄　三年　四月二八日　小柄沢堰口争論につき申渡書……一五九
二六一　元禄　七年　五月　水門の開扉の記録……六七八
六九　元禄一〇年　三月　五日　茶畑村新左衛門ら新堰一件につき口上書……一六一
二六三　元禄一一年　七月　平松新田新堀方角覚……六七八
二六三　元禄一一年　七月　茶畑村新堀方角覚……六七八
二六四　元禄一一年　国絵図作成のため箱根掘抜新川取調……六七九
二六五　元禄一二年　正月二八日　国絵図作成につき茶畑村畑成田等書上……六八〇
七〇　元禄一三年　七月一七日　箱根掘抜水につき水配人口上書……一六二
一八五　元禄一四年　七月　掘抜水門口堀下げ御普請三〇ヶ村願書……四三三
七一　宝永　元年一二月　深良用水沿革につき水配人口上書……一六三
二一　宝永　二年　四月　水掛り村々水論につき書上……一八四
七三　宝永　三年　正月　五日　茶畑村砂入田地開発のため出人足赦免願……一六八
七四　宝永　三年　正月　砂入田地開発のため茶畑村扶持米入用拝借願……一六九
二三　宝永　三年　七月　水掛村々争論につき下郷訴状……一八四
六六　宝永　五年　正月　評定所詮議につき茶畑村甚右衛門口上書……一九二
六九　宝永　六年　七月　用水引方につき水下村々願書……一九六
七〇　享保一五年　五月二九日　佐野堰分水につき公文名村他二ヶ村願書……一九八
九三　元文　二年　七月　用水引方につき水末村々願書……二〇〇
九四　元文　二年　八月　湖水支配の定につき水掛り村々請書……二〇五
一七　元文　六年　二月　下郷拾五ヶ村井堰川除人足積り帳……四三五
九八　延享　三年　七月　水配役人申合せ定書……二〇九
一三四　安永　九年　七月　田畑成起返し差留につき井組村々請書……三一八

一六六　天明　二年　四月一五日　国役御普請につき普請役宛書付写……四六五
一六八　天明　三年一〇月　湖水御普請願惣代出府につき神山村他九ヶ村伺書……四七三
一七九　天明　五年　三月　用水役人賄入用につき井組村々定書……三二六
二五六　天明　五年　六月一四日　中郷水配人助役宥免の願書……六六四
一四〇　天明　五年　六月　用水引方につき深良村願書……三三〇
一四七　寛政　元年　六月　出府員数につき水下村々願書……三四四
一四九　寛政　二年　三月二一日　水掛り村々争論につき済口証文……三四七
一五〇　寛政　二年　四月　深良村救済をめぐる争論につき小田原藩宛下郷村々注進書……三四九
一五一　寛政　二年　六月　深良村救済をめぐる争論につき深良村等訴状……三五〇
一五三　寛政　二年　九月　深良村の救済をめぐる争論次第につき一札……三六四
一五三　寛政　三年　四月　深良村救済をめぐる争論につき済口証文……三六五
一五四　寛政　三年　八月　深良村救済をめぐる争論につき内済証文……三七三
一九九　寛政　五年　九月　箱根湖水門堰樋大破につき二九ヶ村見分願書……四七四
二〇〇　寛政　五年一〇月　神山村他九ヶ村箱根湖水門普請拝借金返済につき一札……四七六
二六八　文化　六年　二月　茶畑村用水樋掛替につき伺書……六九〇
一五五　文政　元年一二月　九日　深良村助合金受取覚……三七五
二七七　文政　九年　三月　中郷水配人交替につき願書……六六五
二〇一　寛政　六年　四月　箱根湖水門普請用木請負手形……四七九
二六一　年未詳　芦ノ湖と水門(2)……九九〇
二六一　年未詳　大洞堰とかろうと堰……一〇〇〇
二六二　年未詳　古堰(1)……一〇〇〇
二六九　年未詳　佐野堰(4)……一〇〇四
二九二　年未詳　千福堰……一〇〇五
二九五　年未詳　富沢堰(1)……一〇〇七
二九九　年未詳　大堰(1)……一〇〇九
四〇一　年未詳　三俣……一〇一〇

四〇三　年未詳　高堰……一〇二

高橋久雄氏所蔵文書

四〇四　寛文　六年　駿東郡長泉町竹原二〇七　竹原村箱根湖水掘抜記録……一二六

高田悦子氏所蔵文書

三　元和　五年　九月二六日　駿東郡長泉町本宿六一九　本宿新田開発今宮惣左衛門達書……四八

旧米山家文書

二六　延宝　五年　四月　駿東郡長泉町上土狩「上土狩村惣ヶ原検地帳」箱根掘抜元締名請地書上……一〇四

箱根用水下郷古文書

一七九　宝永　四年　二月二六日　駿東郡長泉町清水町下郷　新川堤復旧に伴う争論裁許状……一八一

一一四　安永　三年　四月　用水争論離脱につき訴訟方村々宛神山村・麦塚村願書……二六〇

一一五　安永　三年　四月　用水争論離脱につき訴訟方村々宛一色村願書……二六一

一三一　安永　五年　三月　二日　評定所申渡につき水掛り村々請書……二八五

一五六　文化　四年　三月　裁許書年番預り等につき下郷五ヶ村定書……三七八

二七二　文政　七年　五月　上・中郷水配人、佐野堰眉木につき下郷水配人と取替一札……七〇七

一六〇　嘉永　五年　六月　二日　下郷四ヶ村水不足につき通水願書……三九一

一六一　嘉永　五年　六月　下郷村々分水につき規定書……三九一

一六二　嘉永　五年　六月　分水につき下筋五ヶ村取調願……三九三

一六三　嘉永　五年　六月　干損につき下郷村々通水願書……三九四

一六四　嘉永　五年　六月　分水役人につき茶畑村等七ヶ村引取延日願……三九五

一六五　嘉永　五年　七月一二日　三俣堰取払一件処分につき請書……三九六

一六六　嘉永　五年　七月　三俣堰取払一件、手鎖村預ヶ御免願……三九九
一六七　安政　二年　六月　三俣堰分水等用水争論につき立会番差出内済証文……四〇〇
一六九　安政　四年　四月　三俣堰・穴堰立会番につき水下五ヶ村願書……四〇四
一七〇　安政　四年　五月　三俣堰・穴堰立会番出入につき水下五ヶ村内済証文……四〇七
一七三　万延　元年　四月一〇日　三俣堰・穴堰永久立会番設置の願書……四一三
一七四　万延　元年　四月　下郷水配人より三俣堰・穴堰永久立会番任命願……四一四
一七五　万延　元年　五月　一日　三俣堰・穴堰立会番一件願書取下願……四一五
一七六　万延　元年　五月　三俣堰・穴堰をめぐる争論につき水下五ヶ村願書……四一五
一七七　万延　元年　五月　三俣堰・穴堰出入内済取替規定書……四一八
一七八　慶応　三年　八月二三日　下郷二ヶ村土用明分水につき小田原藩より沼津藩宛返書……四二〇
一七九　慶応　三年　八月　土用明分水につき下郷五ヶ村願書……四二一

川井　清氏所蔵文書

一三　寛文　六年　五月一七日　神奈川県足柄下郡箱根町元箱根六七　箱根湖水掘抜につき、友野与右衛門他三名手形、野村彦太夫奥書……六〇
二六〇　明治　六年　芦ノ湖と水門（1）……九九九

箱根神社所蔵文書

八　寛文　三年　二月一三日　神奈川県足柄下郡箱根町元箱根八〇　箱根湖切貫新田開発につき友野与右衛門他立願状……五五
二七　寛文　三年　快長僧正・友野与右衛門江戸出願記録……二四

箱根町立郷土資料館所蔵文書

神奈川県足柄下郡箱根町湯本二六六

二六　文政一三年一〇月　用水路大破につき国役

二一七　天保　二年一一月　御普請二九ヶ村願書 …… 五三
二一七　天保　二年一一月　国役御普請御見分につき一札 …… 五四
二一七　天保　二年一一月　井組組合村請普請につき諸色値段書上写 …… 七二
二一九　天保　三年　三月　二九ヶ村組合御普請入用金内借証文下書写 …… 五六
二三〇　天保　三年　五月　二日　箱根山湖水掛用水路御普請仕立取掛申渡請印帳写 …… 五三〇
二三九　天保　三年　五月　御普請諸道具損料并払物類諸色控帳 …… 七二六
二三二　弘化　三年　五月　天保地震による大破につき奉行所宛国役御普請願書 …… 五七
二四〇　安政　二年　三月二八日　湖水表木品入札控帳 …… 五八
二四一　安政　二年　三月　湖水御普請諸入用木品請負証文 …… 五八〇

『箱根関所日記書抜　上』
神奈川県足柄下郡箱根町箱根一
箱根町立箱根関所資料館所蔵
一九〇　安永　九年　五月　四日　水不足につき水門手入れ掛合留書 …… 四四三
一九一　天明　元年　四月二六日　海尻水門御普請留書 …… 四四五

万福寺文書（『箱根神社大系』より引用）
神奈川県足柄下郡箱根町箱根二二九
二八五　元文　五年　御供米上納につき箱根山金剛王院大岡越前守宛願書 …… 七三五

岩瀬正直氏所蔵文書
（『神奈川県史　資料編4　近世（1）』より引用）
神奈川県小田原市板橋九三三
四八（寛文年中）　小田原藩箱根湖水掘抜規模・元締等書上 …… 二七

高田家文書
東京都文京区本郷七―三―一
東京大学文学部国史学研究室所蔵
七　寛文　二年　九月　本宿村日損場開作年貢納入につき訴書 …… 五四
一四　寛文　九年一〇月　下せき普請場目録 …… 六四
三三（延宝　三年）七月　一日　本宿村箱根掘抜上穀米手形 …… 一〇三

二四　延宝　四年　五月一八日　本宿村箱根掘抜上穀米手形……一〇四
二五　延宝　五年　四月二三日　本宿村箱根掘抜上穀米手形……一〇四
二七　延宝　六年　七月一一日　本宿村箱根掘貫上穀米手形……一〇五
二八　延宝　七年　八月二〇日　本宿村箱根掘抜上穀米手形……一〇五
三〇　延宝　八年　九月二六日　本宿村箱根掘抜上穀米手形……一〇七
一八三　元禄一二年　二月　地震・大風雨につき水門修覆御普請三〇ヶ村願書……四三一
七三　宝永　二年　正月　箱根湖水掘抜につき堰役人口上書……一六六
八一　宝永　四年　本宿村箱根湖水掛り組合離脱願……一八三

太田南畝『竹橋余筆』
東京都千代田区北の丸公園三―二
国立公文書館所蔵
九　寛文　六年　四月一三日　箱根湖水掘抜願書幕府記録……五六

『旧幕引継文書』
「浅草観音領門前町武士屋敷之覚」
東京都千代田区永田町一―一〇―一
国立国会図書館所蔵
長濱半兵衛江戸浅草田町屋敷買取記録……一〇三

『小田原藩永代日記』
京都市左京区
田辺陸夫氏所蔵
一四　延宝　二年　正月一九日　小田原藩箱根堀貫穴浚奉行任命記録……一三七

石野瑛『武相叢書　横浜旧吉田新田の研究』
「吉田新田関係文書記録」
（武相考古会、昭和一一年）
一〇　寛文　二年　二月　一日　宮崎市兵衛武蔵国吉田新田内新田地小作手形……一〇三
三　延宝　二年　八月　一日　友野与右衛門武蔵国吉田新田内田地永代売渡証文……一〇三

〔金石文〕

裾野市深良六一五

二八一　寛文一〇年　九月　六日　深良村町田庚申供養塔 …… 七三一

裾野市深良二五〇九

二八三　寛文一〇年　深良村切久保庚申供養塔 …… 七三三

惣ヶ原芦湖水神社

二八三　正徳元年　惣ヶ原箱根湖水掘抜元〆水仁碑 …… 七三四

二九〇　大正一三年　一月二六日　惣ヶ原芦湖水神社棟札 …… 七四四

二九二　年　未　詳　惣ヶ原芦湖水神社念仏供養塔 …… 七四八

柏木千畝氏宅内

駿東郡長泉町納米里九―五

二八四　正徳　元年　納米里村地蔵尊 …… 七三五

賽の河原

神奈川県足柄下郡箱根町元箱根二六

興福院管理地

二八六　寛政　三年　五月　井組二九ヶ村奉納箱根神社常夜燈 …… 七三六

神奈川県足柄下郡箱根町元箱根地先

二九八　平成　二年　神奈川県湖尻水門の由来 …… 九八一

〔図版〕

志賀富士男「箱根用水の謎を解く」

（『科学朝日』一〇巻一二号　朝日新聞社　昭和二五年一二月）

二七五　昭和二五年　隧道内断面実測図 …… 九九六

新規作成

巻末折込み図　深良用水水系図

あとがき

裾野市史編さん事業は、昭和六三年度から本格的な活動に入り、着手年度から『裾野市史研究』、『資料叢書』等を刊行、三年目にして『市史』第一冊目を発刊できることとなりました。

当市の市史編さん事業は、およそ一七年前に、故牧野騄先生や大庭景申先生等が、市史準備員として旧家の所蔵古文書を研究、解読をされたのに始まります。その後、古文書を読む会の皆様のご協力により、貴重な史料の保存が徐徐に進められてきました。この間元教育長の故芹沢茂一先生が情熱をもってその基礎をつくられ、前教育長土屋明正先生や現教育長がこれを積極的に進めてまいりました。

昭和六一年には、以前より裾野市内の古文書を整理、研究し続けてこられた高橋敏先生を招聘し、市が本事業へ取り組むにあたってのご指導をいただき、同年一二月には市史編さん準備委員会が発足、昭和六二年三月に市史編さん委員会条例が制定されました。

そして、有光友學先生を代表とする五名を市史編さん専門委員として委嘱し、昭和六三年四月に市史編さん委員会が正式に発足、事業方針・刊行計画を策定、組織の確立を期しました。また、史料の調査、収集は、膨大、且つ未知数で、これを専門的に行うために歴史・考古・民俗学の先生方をさらに調査委員として委嘱、地域には地区協力員をお願いし、情報の収集や連絡調整等についてご協力をしていただくことで体制の充実を図りました。

調査・収集活動は市内巡見から始まり、旧家の所蔵資料や区有・行政・学校資料などをはじめ、市外や県外までも

調査し、その数は現在約四万点余にのぼっており、なお中世や近現代資料を中心に調査・収集を続けています。調査や資料整理作業では、市民の方々をはじめ武蔵大学・横浜国立大学・静岡大学・東京女子大学・早稲田大学・東京大学等の学生諸氏、市内の石造物所在調査では静岡県立裾野高等学校郷土研究部のご協力を得ながら進めており、調査結果は順次『裾野市史資料目録』、『資料叢書』『裾野市史調査報告書』として刊行をしています。

これら資料は、一点ごとに編年順に整理し、古文書・絵図はマイクロ撮影を行い、近現代史料の一部となる県内発行の全新聞の関係記事を、必要データ別に備えるなど、本市の歴史を理解するうえでの貴重な資料を広く、永く保存し、後々市民の皆様が活用できるようにと考えています。

このたび刊行の『市史　第六巻　資料編　深良用水』は、江戸時代の初期、江戸浅草の町人友野與右衛門等と深良村名主大庭源之丞、地元住民が箱根権現別当の協力を得て、箱根外輪山を掘り貫き、この地域一帯に芦湖の水を引いて新田の開発を計画、完成させ、その後も水掛り村々が組合を作るなどしてこれを守り、現在も農業用水・生活用水として私達の生活を潤しています。深良用水について、それが如何に作られ、守られ、使われてきたか、民衆の知恵と努力を証明する資料の集積であります。

掲載資料の編纂にあたっては、市内はもとより全国規模であたり、関係諸機関、所蔵者への確認調査も休・祭日返上で実施してきました。文書解読、筆耕では大勢の方々にご協力をいただき、校正作業に入ってからも多忙さは常軌を逸し、担当委員諸氏には日夜、寝食を忘れご尽力いただきました。

資料所蔵者をはじめ下郷関係区の皆様、箱根神社、箱根町教育委員会、県内市町村、地区協力員の皆様、芦湖水利組合など、多くの方々に格段のご配慮とご協力を賜り、心からお礼と感謝を申しあげる次第です。なお、印刷製本に

ついて㈱精興社にはご努力をいただき厚くお礼を申しあげます。

市史編さん関係者一同は、郷土の歴史について今後なお一層広い視野のもとで、事業推進をしてまいりますので、ご支援ご協力をお願い申しあげます。

平成三年三月

裾野市教育委員会　市史編さん室長

長谷川　博

裾野市史編さん関係者

市史編さん委員会

委員長	久保文和	助役
副委員長	勝又　壽	学識経験者
委　員	伊藤政秋	同
同	鈴木　強	同
同	芹沢充寛	同
同	羽田　勲	同
同	渡辺藤男	教育委員長
同	有光友學	専門委員代表
同	芹沢　仁	教育長
同	杉山政康	企画調整部長
同	渡辺　恵	総務部長
同	渡辺武彦	財政課長
同	大庭孝康	企画調整課長
同	羽田　久	学校教育課長

市史編さん専門委員

代　表	有光友學	横浜国立大学教育学部教授
	高橋　敏	国立歴史民俗博物館教授
	中野國雄	日本考古学協会会員
	福田アジオ	国立歴史民俗博物館教授
	安田常雄	電気通信大学教授
	四方一瀾	国士舘大学教授・国士舘大学付属高等学校長

市史編さん調査委員

	井口俊靖	加藤学園暁秀中・高等学校教諭
	石田義明	静岡県立韮山高等学校教諭
	岩崎信夫	都立目黒高等学校教諭
	岩田重則	早稲田大学大学院文学研究科

博士課程

菊池邦彦　都立航空工業高等専門学校助教授

斎藤弘美　明治大学大学院研究生

坂本紀子　早稲田大学大学院文学研究科修士課程

柴　雅房　静岡県立長泉高等学校教諭

新谷尚紀　山村女子短期大学国際文化科助教授

杉村　斉　三島市教育委員会三島市郷土館学芸員

関根省治　静岡県立沼津東高等学校教諭

仁藤敦史　早稲田大学文学部助手

前田耕司　国士舘大学文学部講師

松崎真吾　横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程

松田香代子　日本民俗学会会員

湯川郁子　一橋大学大学院社会学研究科博士課程

脇野　博　秋田工業高等専門学校講師

渡瀬　治　裾野市立西小学校教諭

地区協力委員

（旧村名）

西地区

植松甲子雄　石脇村

同　杉山光正　佐野村

同　加藤信雄　大畑村

同　水口清文　二ッ屋新田

同　歌崎久作　定輪寺村

同　田口勝夫　富沢村

同　水口忠栄　伊豆島田村

同　関野政雄　水窪村

同　中西保男　二本松新田

東地区

杉山寛美　茶畑村

同　杉山繁雄　久根村
同　藤原善次　稲荷村
同　渡辺　香　公文名村
同　清水四郎　茶畑村
同　飯塚正高　麦塚村
同　星野直司　平松新田
深良地区
同　井上丹令　岩波村
同　大庭三郎　深良村
同　倉沢秀雄　同
同　小林秀年　同
同　高橋利治　同
同　一ノ瀬和雄　同
同　長田　稔　同
同　藤森茂良　同
同　増田一男　同
富岡地区
同　杉本隆彦　今里村
同　西島秀雄　千福村

同　土屋誠吾　御宿村
同　勝又茂美　同
同　勝又秋男　同
同　勝又常一　葛山村
同　芹沢正巳　同
同　柏木　仁　上ヶ田村
同　小野春隆　金沢村
同　真田林蔵　下和田村
須山地区
同　野田達郎　須山村

事務局

教育長　芹沢　仁
教育次長　西川久雄

市史編さん室

室長　長谷川　博
主査　中野鈴子
主事補　今関浩子
事務員　浜田　明
同　丸山ゆかり
同　野村美穂子

本巻担当者氏名

○監修　高橋　敏
○編集・校正
第一章　高橋　敏・関根省治
第二章　柴　雅房
第三章　井口俊晴
第四章　菊池邦彦・脇野　博
第五章　岩崎信夫・岩田重則
第六章　福田アジオ・中野國雄
○編集・校正協力委員
有光友學・杉村　斉
○筆耕・校正協力者
厚地淳司　静岡県立富士宮北高等学校教諭
黒田康子　神奈川県逗子市史編集委員
米田雅子　桐朋女子学園講師
中沢恵子　千葉県史編さん室

佐伯真人　筑波大学附属中学校教諭
根本弘美　神奈川県立都岡高等学校教諭
椿　真智子　筑波大学第二学群文部技官

○筆耕協力者
鈴木　強・栗原以有子・鈴木元子・稲　智穂
安宅正寿・池上美奈子・勝又花子・渡辺三重子
高木トシ・高橋具美・持田陸太郎・鈴木佳正
井上悦子・勝又昭三

○口絵写真・史料撮影
堤　勝雄

○史料撮影
永島愛治

○扉　絵
鈴木芳子　鈴木育英図書館々長

○史料整理協力者
東島　誠・細谷保子・猪俣律子・芹沢正巳
戸塚輝彦・山入アヤ子・境野仁子

裾野市史　第六巻　資料編　深良用水

平成三年三月二十五日　発行©

編　集　裾野市史編さん専門委員会

発　行　裾　野　市
静岡県裾野市佐野一〇五九
電話　〇五五九(九二)一一一一

印　刷　株式会社　精　興　社
東京都千代田区神田錦町三丁目九番地